R6　シラバス

中国学園大学

　現代生活学部　人間栄養学科

　子ども学部　子ども学科

　国際教養学部　国際教養学科

　大学院　現代生活学研究科 人間栄養学専攻

　大学院　子ども学研究科 子ども学専攻

中国短期大学

　総合生活学科

　保育学科

　情報ビジネス学科

中国学園大学　現代生活学部　人間栄養学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
日本語表現	太田　憲孝	1
心理学	國田　祥子	3
社会学	中田　周作	5
歴史学	大山　章	7
日本国憲法	俟野　英二	9
科学の基礎 1クラス	波多江　崇	11
科学の基礎 2クラス	波多江　崇	13
基礎化学	大桑　浩孝	15
基礎生物学	楠本　晃子	17
化学	大桑　浩孝	19
生物学	坪井　誠二	21
生活と情報処理 1クラス	岸　誠一	23
生活と情報処理 2クラス	岸　誠一	25
情報処理演習Ⅰ	小築　康弘	27
情報処理演習Ⅱ	赤木　竜也	29
基礎統計演習	栄養C	31
英語Ⅰ 1クラス	佐々木　真帆美	33
英語Ⅰ 2クラス	佐々木　真帆美	35
英語Ⅱ 1クラス	ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ	37
英語Ⅱ 2クラス	ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ	39
英語Ⅲ	森年　ポール	41
韓国語	宋　娘沃	43
体育講義 全8回	溝田　知茂	45
体育実技	溝田　知茂	47
ファーストイヤーセミナー	木野山　真紀／波多江　崇／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝／坪井　誠二	49
健康管理概論	西田　典数	51
社会福祉概論	松井　圭三	53
人と環境	楠本　晃子	55
公衆衛生学Ⅰ	波多江　崇	57
公衆衛生学Ⅱ	波多江　崇	59
公衆衛生学実習 1クラス(隔週)	波多江　崇	61
公衆衛生学実習 2クラス(隔週)	波多江　崇	63
人間の科学	多田　賢代／赤木　收二／井之川　仁／森寺　勝之	65
介護・看護演習	中野　ひとみ	67
細胞生理化学実験 1クラス(隔週)	井之川　仁	69
細胞生理化学実験 2クラス(隔週)	井之川　仁	71
生化学Ⅰ	坪井　誠二	73
解剖生理学Ⅰ	井之川　仁	75
解剖生理学Ⅱ	井之川　仁	77
生化学Ⅱ	坪井　誠二	79
生化学実験 1クラス(隔週)	坪井　誠二	81
生化学実験 2クラス(隔週)	坪井　誠二	83
医学概論	赤木　收二	85
微生物学	楠本　晃子	87
人間発達学	生活B	89
解剖生理学実験 1クラス(隔週)	井之川　仁	91
解剖生理学実験 2クラス(隔週)	井之川　仁	93
病理学	赤木　收二	95
運動生理学	井之川　仁	97
食品学Ⅰ	大桑　浩孝	99
食品学基礎実験 1クラス(隔週)	大桑　浩孝	101
食品学基礎実験 2クラス(隔週)	大桑　浩孝	103
食品学実験 1クラス(隔週)	大桑　浩孝	105
食品学実験 2クラス(隔週)	大桑　浩孝	107
調理学	木野山　真紀	109
調理学実習Ⅰ 1クラス(隔週)	木野山　真紀	111
調理学実習Ⅰ 2クラス(隔週)	木野山　真紀	113
調理学実習Ⅱ 1クラス(隔週)	木野山　真紀	115
調理学実習Ⅱ 2クラス(隔週)	木野山　真紀	117
食品学Ⅱ	大桑　浩孝	119
調理学実験 1クラス(隔週)	木野山　真紀	121
調理学実験 2クラス(隔週)	木野山　真紀	123
食品衛生学	楠本　晃子	125
食品衛生学実験 1クラス(隔週)	楠本　晃子	127
食品衛生学実験 2クラス(隔週)	楠本　晃子	129
食品学Ⅲ	大桑　浩孝	131
基礎栄養学Ⅰ	坪井　誠二	133
基礎栄養学Ⅱ	坪井　誠二	135
栄養学実習 1クラス(隔週)	多田　賢代	137
栄養学実習 2クラス(隔週)	多田　賢代	139
応用栄養学Ⅰ	多田　賢代	141
応用栄養学Ⅱ	多田　賢代	143
応用栄養学実習 1クラス(隔週)	多田　賢代	145
応用栄養学実習 2クラス(隔週)	多田　賢代	147
応用栄養学Ⅲ	多田　賢代	149
栄養教育論Ⅰ	安原　幹成	151
栄養教育実習Ⅰ 1クラス(隔週)	安原　幹成	153
栄養教育実習Ⅰ 2クラス(隔週)	安原　幹成	155
栄養教育論Ⅱ	安原　幹成	157
栄養教育実習Ⅱ 1クラス(隔週)	安原　幹成	159
栄養教育実習Ⅱ 2クラス(隔週)	安原　幹成	161
カウンセリング論	平尾　太亮	163
食行動学	安原　幹成	165
臨床栄養学総論	小野　尚美	167
臨床栄養学各論Ⅰ	古川　愛子	169
臨床栄養学各論Ⅱ	小野　尚美	171
臨床栄養学実習Ⅰ 1クラス(隔週)	古川　愛子	173

臨床栄養学実習Ⅰ 2クラス(隔週)	古川 愛子	･･･････	175
臨床栄養学実習Ⅱ 1クラス(隔週)	古川 愛子	･･･････	177
臨床栄養学実習Ⅱ 2クラス(隔週)	古川 愛子	･･･････	179
栄養マネジメント	小野 尚美／森光 大／石井 恭子／市川 和子	･･･････	181
公衆栄養学Ⅰ	辻本 美由喜	･･･････	183
公衆栄養学Ⅱ	栄養A	･･･････	185
公衆栄養学実習Ⅰ 1クラス(隔週)	栄養A	･･･････	187
公衆栄養学実習Ⅰ 2クラス(隔週)	栄養A	･･･････	189
給食経営管理論Ⅰ	北島 葉子	･･･････	191
給食経営管理論Ⅱ	北島 葉子	･･･････	193
給食管理基礎実習 1クラス(隔週)	北島 葉子	･･･････	195
給食管理基礎実習 2クラス(隔週)	北島 葉子	･･･････	197
給食管理実習Ⅰ 1クラス(隔週)	北島 葉子	･･･････	199
給食管理実習Ⅰ 2クラス(隔週)	北島 葉子	･･･････	201
食品流通論	大宮 めぐみ	･･･････	203
管理栄養士実務演習	北島 葉子／木野山 真紀／古川 愛子／多田 賢代／中野 ひとみ／山﨑 真未／小野 尚美／安原 幹成／山縣 綾香／髙坂 由理／児玉 彩／鈴村 里奈	･･･････	205
総合演習	北島 葉子／木野山 真紀／古川 愛子／多田 賢代／赤木 收二／小野 尚美／安原 幹成／波多江 崇／井之川 仁／楠本 晃子／大桑 浩孝／坪井 誠二	･･･････	207
給食管理実習Ⅱ	北島 葉子／木野山 真紀／安原 幹成	･･･････	209
臨床栄養学実習Ⅲ	古川 愛子／多田 賢代／小野 尚美	･･･････	211
給食管理実習Ⅲ	北島 葉子／木野山 真紀／安原 幹成	･･･････	213
臨床栄養学実習Ⅳ	古川 愛子／多田 賢代／小野 尚美	･･･････	215
公衆栄養学実習Ⅱ	辻本 美由喜	･･･････	217
栄養セミナーⅠ	木野山 真紀／波多江 崇／井之川 仁／楠本 晃子／大桑 浩孝／坪井 誠二	･･･････	219
食生活論	岡﨑 恵子	･･･････	221
食生活演習Ⅰ 1クラス	小野 尚美	･･･････	223
食生活演習Ⅰ 2クラス	小野 尚美	･･･････	225
食生活演習Ⅱ 1クラス(隔週)	木野山 真紀	･･･････	227
食生活演習Ⅱ 2クラス(隔週)	木野山 真紀	･･･････	229
食文化調査演習	多田 賢代	･･･････	231
栄養セミナーⅡA	北島 葉子／波多江 崇／山縣 綾香／児玉 彩／楠本 晃子／福島 彩子／大桑 浩孝／坪井 誠二	･･･････	233
栄養セミナーⅡB	北島 葉子／波多江 崇／山縣 綾香／児玉 彩／楠本 晃子／福島 彩子／大桑 浩孝／坪井 誠二	･･･････	235
食料経済	大宮 めぐみ	･･･････	237
栄養セミナーⅢA	木野山 真紀／古川 愛子／多田 賢代／山﨑 真未／小野 尚美／安原 幹成／井之川 仁／髙坂 由理	･･･････	239
栄養セミナーⅢB	木野山 真紀／古川 愛子／多田 賢代／山﨑 真未／小野 尚美／安原 幹成／井之川 仁／髙坂 由理	･･･････	241
管理栄養士演習Ⅰ	北島 葉子／多田 賢代／赤木 收二／安原 幹成／波多江 崇／楠本 晃子	･･･････	243
管理栄養士演習Ⅱ	木野山 真紀／古川 愛子／多田 賢代／小野 尚美／井之川 仁／大桑 浩孝／坪井 誠二	･･･････	245
栄養セミナーⅣA	北島 葉子／木野山 真紀／古川 愛子／多田 賢代／小野 尚美／安原 幹成／波多江 崇／井之川 仁／楠本 晃子／大桑 浩孝／坪井 誠二	･･･････	247
栄養セミナーⅣB	北島 葉子／木野山 真紀／古川 愛子／多田 賢代／小野 尚美／安原 幹成／波多江 崇／井之川 仁／楠本 晃子／大桑 浩孝／坪井 誠二	･･･････	249
運動指導論	井之川 仁	･･･････	251
専門英語	赤木 收二	･･･････	253
フードコーディネート論	山﨑 真未	･･･････	255
管理栄養士専門演習	北島 葉子／木野山 真紀／古川 愛子／多田 賢代／赤木 收二／小野 尚美／安原 幹成／波多江 崇／井之川 仁／楠本 晃子／大桑 浩孝／坪井 誠二	･･･････	257
教職概論	森寺 勝之	･･･････	259
教育原理	森寺 勝之	･･･････	261
教育心理学	國田 祥子	･･･････	263
教育課程総論	森寺 勝之	･･･････	265
教育方法学	住野 好久	･･･････	267
生徒指導の理論と方法 全8回	藤井 裕士	･･･････	269
教育相談	國田 祥子	･･･････	271
特別支援教育概論	中 典子／池谷 航介	･･･････	273
総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	佐々木 弘記	･･･････	275
学校栄養教育実習研究	岡﨑 恵子／森寺 勝之	･･･････	277
学校栄養教育実習	岡﨑 恵子	･･･････	279
教職実践演習(栄養教諭)	栄養B	･･･････	281
学校栄養教育指導法Ⅰ	岡﨑 恵子	･･･････	283
学校栄養教育指導法Ⅱ	森寺 勝之／栄養B	･･･････	285

科目名	日本語表現			授業番号	NA101	サブタイトル	(音声言語と文章表現)		
教員	太田 憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，「文章表現」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	身の周りにある様々な日本語表現 「身の周りにある日本語表現を探したり分類したりすることを通して、日本語表現に対して関心をもつ」	
第2回	乳幼児の日本語獲得（１） 「満１歳頃までに行われる「クーイング」「視線」「指さし」などの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」	
第3回	乳幼児の日本語獲得（２） 「意味を伴う音声による表現の獲得に向けて、その過程や特徴等について理解する。」	
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ（１） 「絵本を取り上げ、乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」	
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ（２） 「読み聞かせの場面を取り上げ、「絵本モンタージュ」の仕組みや「母親の語り掛け」の働きについて理解する。」	
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し、「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」	
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し、読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」	
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し、作者の想を表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」	
第9回	身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 「身の周りにある広告の表現を分析し、読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第10回	身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 「身の周りにある「取り扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し、読者を説得しようとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」	
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し、読者にイメージをもたらす文学的表現の工夫を理解する。」	
第13回	言葉を味わう詩的表現 詩を読み味わい、「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」	
第14回	読者の「予測」を利用した読み物（１） 怪談の表現や仕掛けを分析し、「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」	
第15回	読者の予測を利用した読み物（２） ショート・ショート等の表現や仕掛けを分析し、「予測→タメ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」	
授業計画 備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，話し合い活動への参加を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し、学習の深まりを確認できるようにする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な学習内容の定着度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配付資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	1．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。 2．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭、中学校教諭、教育委員会主任指導主事、岐阜大学教育学部附属中学校文部教官
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	絵本，物語や説明的文章等の表現分析

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文章のジャンルにあわせて、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、多様な視点から日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を見つけることはできるが、そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を見つけることが難しい。
知識・理解	2．様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
思考・問題解決能力	1．日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に関心をもって追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における様々な特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することが難しい。
技能	1．文章のジャンルにあわせて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえ、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけること不十分である。

科目名	心理学			授業番号	NA102	サブタイトル	(心と行動の科学)		
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，心理学全般の基本的な知識，心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。								
到達目標	クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	心理学とは 「不思議」とされる現象を題材に，人の心のしくみについて長年研究を積み重ねてきた心理学の概要を紹介する。	
第2回	予知体験の不思議 「予知」「予言」と呼ばれる現象はなぜ起こるのか，推論のプロセスから解説する。	
第3回	記憶の不思議 「存在しない記憶」を確信を持って思い出してしまうのはなぜ？ 不思議な記憶のメカニズムについて解説する。	
第4回	影響されるこころ 意見や態度は変容するものである。しかし「影響されやすい」状況やその特徴を知っておくことは重要かもしれない。	
第5回	揺れうごくこころ 感情が私たちの生活の中でどのような働きをするのか，悪徳商法や，心身に良いとされるものを例に考える。	
第6回	検査で「自分」がわかるのか ネットや雑誌などで目にする「心理テスト」はあてになる？ 本物の「心理検査」「パーソナリティ測定」とは。	
第7回	占い・新宗教がもつ現代的意味 占いなどのスピリチュアルな世界に魅力を感じる人は多い。その心理を，背景にある悩みや迷いから紐解いていく。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	子どもから見た現実と想像の世界 さっきまで鬼を怖がって逃げていた子が，今度は鬼の面を付けて「鬼さん」に変身！ 子どもたちが世界をどう捉えているのか考える。	
第10回	「もしかして……」と揺れ動く心の発達 「本当はいない」と分かっていても「いるかもしれない」と思うオバケへの恐怖。想像と現実を行き来する子どもの心を考える。	
第11回	不思議現象に立ち向かう子どもたち 子どもたちは想像の世界に積極的に立ち向かうことで，現実を探求するように。「科学する心」の始まりを解説する。	
第12回	脳とこころの不思議な世界 「金縛り」や「幻覚」はなぜ起こるのか。脳神経系の生理的変化から説明できる心の活動について解説する。	
第13回	科学的に検証するとはどういうことか 目に見えない「心」の存在やその活動を科学的に捉えるには，厳密な実験計画と統計的検定が重要。	
第14回	心理学を学ぶ人のために 分かりやすくもないし簡単でもない，意外と地味な心理学だからこそ学べる「面白さ」。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
不思議現象　なぜ信じるのか　こころの科学入門	菊地　聡・谷口高士・宮元博章（編著）	北大路書房	978-4-7628-2032-8	1900円
不思議現象　子どもの心と教育	菊地　聡・木下孝司（編著）	北大路書房	978-4-7628-2089-2	1900円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し，多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの，努力は明らかである	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず，知識を獲得できていない

科目名	社会学			授業番号	NA105	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。 理解の状況の確認を行う。 提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 　文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 　具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 　テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	2．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	3．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	1．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	歴史学			授業番号	NA204	サブタイトル	(歴史家は過去の何に注目し，どうとらえてきたか)		
教員	大山 章								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	「歴史」と聞くと，書かれたものを読み，記憶する，どちらかと言えば受け身のイメージが強いが，「歴史学」は，過去の出来事を史料を用いて分析・解釈し，それをもとに歴史像・時代像を描き，叙述する主体的な営みである。この授業では，近年話題になっているものを中心に，歴史家が過去の出来事や時代をどのようにとらえ，解釈してきたかを取り上げる。授業は，特定の時期・時代を取り上げる回も多いが，一つのテーマ・視点で長い歴史をあつかう回も同程度計画している。また，歴史研究に関わる内容をあつかう授業も設けている。								
到達目標	1　歴史学の意義と歴史研究の基本を理解することができる。 2　近年の歴史研究の成果について理解することができる。 3　授業内容をもとに，現代社会の課題とも関連づけながら，歴史について積極的に考察したり，発表したりすることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	歴史と歴史学 歴史学がどのような学問であるかを理解する。 一般の人々が「歴史」を学ぶ意味，「歴史」に関わる意味を考える。	
第2回	農耕・牧畜の始まり 世界における農耕・牧畜の始まりを，西アジアでの始まりを中心に理解する。 世界における稲の栽培の始まりと日本列島への伝播について理解する。	
第3回	気候変動・災害と歴史 歴史学が気候変動や自然災害をどのようにあつかってきたかを理解する。	
第4回	モンゴル帝国 モンゴル帝国の成立とその支配の特色を理解する。 モンゴル帝国の成立がその後の歴史に与えた影響を理解する。	
第5回	東アジア海域の歴史 倭寇の活動や琉球の活発な交易が目立った１４～１６世紀頃の東アジア海域の歴史を理解する。	
第6回	歴史研究における地図の利用 国土地理院の旧版地図や古地図・絵図の歴史研究での利用について理解する。	
第7回	世界の一体化 「コロンブスの交換」の内容とそれがもたらした結果・影響を理解する。 １６～１７世紀に進んだ世界の一体化の動きへの日本の関わりを理解する。	
第8回	イギリスの工業化とフランス革命 イギリスの工業化（産業革命）とフランス革命のおおまかな研究史を理解する。	
第9回	ジェンダーと歴史 ジェンダー史の研究の始まりと現状を理解する。 ジェンダー史の事例を学ぶ。	
第10回	歴史の中で「人種主義」はどのようにうまれたか 「人種」概念の誕生や「人種」による人間の分類の始まりについて理解する。 「人種主義」と「黒人奴隷制」の関係を理解する。	
第11回	東アジアのウェスタン・インパクト 欧米列強の東アジアへの進出とそれに対する清と日本の対応を理解する。	
第12回	アメリカ合衆国とメキシコ ３０００ｋｍ以上に及ぶ国境で接するアメリカ合衆国とメキシコの関係史を，国境の変化を中心に理解する。 ２０世紀を中心に，メキシコ・アメリカ合衆国間の人の移動の変化を理解する。	
第13回	パレスチナの悲劇とウクライナの歴史 数百万もの難民を生むなどの悲劇がおきているパレスチナ地域の長く複雑な歴史を理解する。 ウクライナなど中東欧の歴史が，パレスチナの問題と深く関わっていることを理解する。	
第14回	感染症と歴史 感染症の流行が歴史に与えた影響を理解する。 コレラの流行に対する１９世紀の日本の対応を理解する。 スペイン・インフルエンザを例に，新聞が歴史研究に役立つことを理解する。	
第15回	自分なりの歴史像を描いてみよう 授業で学んだことをもとに，歴史についての自分の考えを発表したり，話し合ったりする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業での発表・発言の状況やその内容，予習復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	15	前回の授業の基本的な事項の理解度について評価する。
定期試験	60	授業で取り上げた内容の理解度，歴史的事象についての自分の考えを根拠をあげて論理的に表現する力について評価する。
その他	15	毎授業後に提出するコメントペーパーの内容によって評価する。 提出されたコメントペーパーは，記入内容についてのコメントを加えて返却する。

評価の方法：自由記載	定期試験は，論述を中心とした筆記試験とする。(持ち込み可)
受講の心得	「歴史学」は，定まった知識を覚え，蓄積するものではなく，自らが生きる時代が直面する課題などをふまえて，過去を様々な切り口から追求する学問です。一定の歴史的知識は必要ですが，より大切なのは，人の行動や社会で起きていることに対する関心や疑問です。また，授業では，可能な範囲で史料をもとに考察したり，発表したりする活動を設定します。積極的な参加を期待します。
授業外学修	予習として，高校の世界史・日本史，中学校の歴史的分野の教科書などの関係部分を読んでおく。授業後は，授業で取り上げられた時代，テーマについての歴史像，時代像などを，自分なりに文章にまとめておくようにする。 以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	レジュメ，資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	中学校教諭（２５年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での歴史教育の経験（２５年）を生かして，歴史に関する今日的な内容，テーマをわかりやすく指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．歴史学の意義と歴史研究の基本を理解している。	「言語論的転回」がつきつける問題や史実を無視した解釈の横行など、現代の歴史学がかかえている課題についても理解している。	歴史家が歴史学の意義をどのように考えているか理解している。近年の歴史研究が、従来からの考古学などだけでなく、古気候学など自然科学の成果なども積極的に活用していることを理解している。	歴史家がおこなう歴史学の基本的な営みを理解している 「歴史実践」とも言われる歴史家以外の人々の歴史への関わりについても理解している。	歴史学の基本的な営みである「認識」と「解釈」についてはおおよそ理解できているが、地図や新聞などを含むさまざまな史料を利・活用する際の留意点については理解が不十分である。	歴史書と歴史小説の一般的な違いも理解できていない。
知識・理解	２．授業で取り上げられた近年の歴史研究の成果を理解している。	同じ時代・地域、近接する時代・地域、共通の視点などつながりがある複数の授業の内容を関連づけて理解している。	各授業で取り上げられた歴史研究の進展のようすや重要な役割を果たした歴史家などについても理解している。	各授業のまとめで取り上げられた内容のほとんどを理解している。	各授業のまとめで取り上げられた内容のうち、基本的な内容についても理解できていないものが一部ある。	各授業のまとめで取り上げられた内容のうち、基本的な内容についても理解できていないものが多い。
思考・問題解決能力	１．授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめたり、発表したりしている。	歴史事象についての自分の考察を発表する授業では、現代社会の課題と関連づけたり、自学した内容などを盛り込んだりして、発表している。	多くの授業で、現代社会の課題とも関連づけながら、授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめている。	授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、その根拠をふくめて文章にまとめており、一部の授業については発表もしている。	一部の授業で、授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめることも、発表することもできていない。	多くの授業で、授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめることも、発表することもできていない。

科目名	日本国憲法			授業番号	NA206	サブタイトル	(身近な問題から憲法の役割を考える)		
教員	俣野 英二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえて概説する。Universal Passportにより章ごとに小テストの課題を課し、その基本原理の理解及び基礎知識の定着を確認する。 次に、基本原理等に関する憲法問題を発展学習として、学生が任意に選んだ課題解決に向けてグループで取り組む。そのグループで調査した内容をUniversal Passportで公開、講義でプレゼンして全体討議を行う。これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景および相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うことから，職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得とともに，体系的な思考方法を学び，多面的に分析し，自らの見解を形成する能力の修得を目的とするので，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス，憲法とは何か 1 学修の目標，評価方法などを説明する。 2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。	
第2回	国家機関としての天皇制 1 徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2 国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。	
第3回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１―― 非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。	
第4回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２―― 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。	
第5回	国民主権を実現する仕組み１ 政治と国民、国会議員について学修する。	
第6回	国民主権を実現する仕組み２ 選挙、選挙制度、政党について学修する。	
第7回	人権を守るための組織――統治機構１―― 国会、内閣について学修する。	
第8回	人権を守るための組織――統治機構２―― 地方自治、裁判所について学修する。	
第9回	良心をもつ自由、買く権利、中間試験 1 良心の意義について学修する。 2 教師の良心を買く権利について考える。 3 中間試験を実施する。	
第10回	表現の自由と書かれない権利 1 表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2 表現の自由の優越的地位について学修する。	
第11回	知る権利とマス・メディアの自由、グループワーク１ 1 知る権利とマス・メディアの自由について学修する。 2 マス・メディアと国民との利害対立の調整について考える。 3 グループワーク（課題選択）	
第12回	営業の自由と消費者の権利、グループワーク２ 1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 2 職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 3 グループワーク（課題分析）	
第13回	子どもの権利と学校における生徒の人権 1 学校における生徒、教師の人権について学ぶ。 2 グループワーク（情報収集、整理）	
第14回	働く人の権利、グループワーク４ 1 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 2 女性や非正規労働者の問題について考える。 3 グループワーク（全体討議１）	
第15回	グループワーク５ グループワーク（全体討議２）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	20	各回のグループワーク終了時に提出するワークシートに，要求されているステップに沿ったグループワークの結果が書かれていること。 不十分な点については、コメントを付して連絡する。
小テスト	20	各章の主要なポイントの理解を評価する。回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
中間テスト	20	憲法の基本原理及び基礎知識の理解及び課題に対する論理的思考を評価する。Universal Passportに解説を掲示し、全体の講評を講義で行う。
定期試験	40	中間テストの基礎に加え、異なる価値観・意見に配慮した主体的な意見の論理的思考を総合評価する。解説をUniversal Passportに掲示する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 2　第11回以降、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。講義時間中にスマートフォン、タブレットなどで法律情報をリサーチしたり、Universal Passportにワークシートや報告書をアップするので十分充電して講義に臨むこと。 3　中間（第9回）に１回中間テストがある。
授業外学修	1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 3　グループワークで選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループ報告書のまとめ、プレゼンテーションの準備に向け、共同作業のための事前準備を行う。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400円＋税
使用テキスト：自由記載	第2版の改訂作業中です。第2版が出版された場合、そちらを採用します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本判例１　憲法（第4版）	右崎正博･浦田一郎編	法学書院	978-4-587-52413-5	2500 円＋税
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権･同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権･同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー･学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考･問題解決能力	１．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考･問題解決能力	２．多様な価値観･意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観･意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観･意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観･意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観･意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観･意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
態度	１．グループワークに積極的に参加できる。	調査，質問などを積極的に行い，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し，課題内容を理解した上で，ワークシートを提出している。	グループワークに参加し，ワークシートを提出しているが，課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または，グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	科学の基礎 1クラス			授業番号	NB101A	サブタイトル	高校までの数学（計算）の総復習		
教員	波多江　崇								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	栄養士および管理栄養士は栄養士法によって定められた国家資格であり，その職務および職能についても栄養士法で定められている。4年間の学生生活を順調に送るためには，初年次からのカリキュラムに遅れることなく，内容を十分に理解し，自分の知識として身につけることにある。特に，高校までに学習した数学（計算）は，栄養価計算，食材の可食率・廃棄率，給ペルギー比率，調味%，食材の発注業務など，栄養士・管理栄養士の日常業務に必要である。そこで，本科目では，数多くの計算問題の演習を行うことで，全員が正確かつ迅速に計算ができるようになることを目的とする。。								
到達目標	・栄養に関する勉強の基礎が身につく。 ・論理的な考え方が身に付く。 ・一般教養（理系）のカがつく なお，本科目はディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	概数の理解・四捨五入・単位	
第2回	小数の計算	
第3回	分数の計算	
第4回	一次方程式　その1	
第5回	一次方程式　その2	
第6回	一次方程式（文章問題）その1	
第7回	一次方程式（文章問題）その2	
第8回	原価計算　その1	
第9回	原価計算　その2	
第10回	割合・比	
第11回	質量パーセント濃度　その1	
第12回	質量パーセント濃度　その2	
第13回	食材の可食率・廃棄率	
第14回	食材の発注量	
第15回	総まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。
授業外学修	間違えた箇所を中心に，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用せず，毎回，必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法について説明できる。	栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法を使用できる。	解説書があれば、栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法を使用できない。
知識・理解	２．食品成分の濃度の計算方法について説明できる。	食品成分の濃度の計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	食品成分の濃度の計算方法を使用できる。	解説書があれば、食品成分の濃度の計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、食品成分の濃度の計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、食品成分の濃度の計算方法を使用できない。
知識・理解	３．調理工程における食材の廃棄率の計算方法について説明できる。	調理工程における食材の廃棄率の計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	調理工程における食材の廃棄率の計算方法を使用できる。	解説書があれば、調理工程における食材の廃棄率の計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、調理工程における食材の廃棄率の計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、調理工程における食材の廃棄率の計算方法を使用できない。
知識・理解	4．調理工程における食材原価率の計算方法について説明できる。	調理工程における食材原価率の計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	調理工程における食材原価率の計算方法を使用できる。	解説書があれば、調理工程における食材原価率の計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、調理工程における食材原価率の計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、調理工程における食材原価率の計算方法にを使用できない。
知識・理解	5．食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法について説明できる。	食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法を使用できる。	解説書があれば、食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法を使用できない。

科目名	科学の基礎 2クラス			授業番号	NB101B	サブタイトル	高校までの数学（計算）の総復習		
教員	波多江　崇								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	栄養士および管理栄養士は栄養士法によって定められた国家資格であり，その職務および職能についても栄養士法で定められている。4年間の学生生活を順調に送るためには，初年次からのカリキュラムに遅れることなく，内容を十分に理解し，自分の知識として身につけることにある。特に，高校までに学習した数学（計算）は，栄養価計算，食材の可食率・廃棄率，給ペルギー比率，調味%，食材の発注業務など，栄養士・管理栄養士の日常業務に必要である。そこで，本科目では，数多くの計算問題の演習を行うことで，全員が正確かつ迅速に計算ができるようになることを目的とする。。								
到達目標	・栄養に関する勉強の基礎が身につく。 ・論理的な考え方が身に付く。 ・一般教養（理系）のカがつく なお，本科目はディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	概数の理解・四捨五入・単位	
第2回	小数の計算	
第3回	分数の計算	
第4回	一次方程式　その1	
第5回	一次方程式　その2	
第6回	一次方程式（文章問題）その1	
第7回	一次方程式（文章問題）その2	
第8回	原価計算　その1	
第9回	原価計算　その2	
第10回	割合・比	
第11回	質量パーセント濃度　その1	
第12回	質量パーセント濃度　その2	
第13回	食材の可食率・廃棄率	
第14回	食材の発注量	
第15回	総まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。
授業外学修	間違えた箇所を中心に，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用せず，毎回，必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法について説明できる。	栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法を使用できる。	解説書があれば、栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、栄養関連の計算に必要な高校までの基本的な計算方法を使用できない。
知識・理解	２．食品成分の濃度の計算方法について説明できる。	食品成分の濃度の計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	食品成分の濃度の計算方法を使用できる。	解説書があれば、食品成分の濃度の計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、食品成分の濃度の計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、食品成分の濃度の計算方法を使用できない。
知識・理解	３．調理工程における食材の廃棄率の計算方法について説明できる。	調理工程における食材の廃棄率の計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	調理工程における食材の廃棄率の計算方法を使用できる。	解説書があれば、調理工程における食材の廃棄率の計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、調理工程における食材の廃棄率の計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、調理工程における食材の廃棄率の計算方法を使用できない。
知識・理解	4．調理工程における食材原価率の計算方法について説明できる。	調理工程における食材原価率の計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	調理工程における食材原価率の計算方法を使用できる。	解説書があれば、調理工程における食材原価率の計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、調理工程における食材原価率の計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、調理工程における食材原価率の計算方法にを使用できない。
知識・理解	5．食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法について説明できる。	食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法について例を挙げながら、具体的に説明できる。	食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法を使用できる。	解説書があれば、食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法を使用できる。	教員の指導下であれば、食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法を使用できる。	教員の指導下でも、食品中の糖質・脂質・タンパク質の含有割合とそのカロリーの計算方法を使用できない。

科目名	基礎化学			授業番号	NB102	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	化学は，生化学・生命科学を理解する上で必須の学問である。 この講義では，高校卒業までに修得しておくべき基礎科学を中心に，（管理）栄養士として必須となる生化学につながる無機化学全般を取り扱う。 講義のアウトラインは参考書に従うが，独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので，講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。								
到達目標	物質を構成する元素・分子の構造と性質について説明できる。 物質のとりうる状態について、理解できる。 元素とその化合物について理解できる。 溶液の濃度計算ができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	栄養学と化学 物質と原子（1）物質の成分	
第2回	物質と原子（2）物質の構成要素（元素、同位体、原子、分子、イオン）	
第3回	物質と原子（3）原子の構造	
第4回	化学結合（1）原子間結合	
第5回	化学結合（2）（イオンのでき方、イオン結合、共有結合）	
第6回	化学結合（3）（配位結合、水素結合、分子間力）	
第7回	物質の状態変化 溶液の性質（溶液と溶解のしくみ、蒸気圧降下・沸点上昇・凝固点降下） 浸透圧	
第8回	溶液の濃度（1）パーセント濃度 物質を数える単位：モル	
第9回	溶液の濃度（2）モル濃度、規定度	
第10回	化学反応 酸と塩基 水素イオン濃度とpH	
第11回	中和 緩衝液と緩衝作用	
第12回	酸化・還元	
第13回	有機化学とは 有機化学の定義と基本	
第14回	アルカン・アルケン	
第15回	アルキン	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	10	授業中に指示する課題への取り組みと理解度によって評価する。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	選択科目であるが、今後栄養学系科目を学ぶ上で重要となるため、必ず履修すること。
授業外学修	教科書・配布資料を用いてよく復習すること。週あたり４時間以上の学修により、内容をよく理解しておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎からのやさしい化学	田島 眞 編著	建帛社	978-4-7679-4635-1	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	高校で化学をよく学んでいない学生，もう一度きちんと化学を修得したい学生，今後受講する管理栄養士の基礎科目・専門科目の理解度を深めたい学生は必ず履修すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．原子の構造・化学結合について理解できている	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理について理解し、知識を身に付けている。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理について、基本的な内容は理解している。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理に関する理解が不十分である。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	２．溶液の濃度計算について理解できている	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度について十分理解し、知識を身に着けている。	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度についてほぼ理解し、知識を身に着けている。	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度について基本的な内容は理解している。	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度に関する理解が不十分である。	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度についてほとんど理解できていない。
知識・理解	３．酸と塩基について理解できている	酸と塩基について十分理解し、知識を身に付けている。	酸と塩基についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	酸と塩基について基本的な内容は理解している。	酸と塩基に関する理解が不十分である。	酸と塩基についてほとんど理解できていない。
知識・理解	４．酸化と還元について理解できている	酸化と還元について十分理解し、知識を身に付けている。	酸化と還元についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	酸化と還元について基本的な内容は理解している。	酸化と還元に関する理解が不十分である。	酸化と還元についてほとんど理解できていない。
知識・理解	５．炭化水素の基本的な内容を理解できている	炭化水素の構造・性質について十分理解し、知識を身に付けている。	炭化水素の構造・性質についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	炭化水素の構造についてある程度理解している。	炭化水素の基本的な性質について理解が不十分である。	炭化水素の基本的な性質についてほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	１．原子の構造・化学結合について	原子の電子配置、共有結合やイオン結合等の化学結合について科学的に十分考察できる	原子の電子配置、共有結合やイオン結合等の化学結合について科学的にほぼ考察できる	簡単な原子の電子配置や化学結合について科学的に理解できている。	原子や化学結合について十分に理解できていない。	原子や化学結合についてほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	２．溶液の濃度計算について理解できている	溶液の性質について十分理解し、複雑な濃度計算について十分できるだけの知識を身に付けている。	溶液の性質についてほぼ理解し、ある程度の濃度計算について十分できるだけの知識を身に付けている。	溶液の性質に関する基本的事項を理解し、簡単な濃度計算について十分できるだけの知識を身に付けている。	溶液の濃度計算が十分にできない。	溶液の濃度計算がほとんどできない。
思考・問題解決能力	３．酸と塩基について	酸性物質と塩基性物質について十分理解し、中和滴定に関する方程式から未知試料の濃度が求められる。	酸性物質と塩基性物質についてほぼ理解し、中和滴定に関する方程式についてもほぼ理解している。	酸と塩基に関する基本的な事項を理解し、中和滴定についてある程度理解している。	酸と塩基に関する理解が不十分である。	酸と塩基に関する理解がほとんどできていない。
思考・問題解決能力	４．酸化と還元について	酸化、還元について十分理解し生活の中における酸化・還元反応に関する知識が十分である。	酸化、還元についてほぼ理解し生活の中における酸化・還元反応に関する知識がほぼある。	酸化、還元基本的な内容を理解し、生活の中における酸化・還元反応に関する知識がある程度ある。	酸化と還元に関する理解が不十分である。	酸化と還元についてほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	５．炭化水素について	炭化水素の構造・性質について十分理解し、構造式を書くことができる。	炭化水素の構造・性質についてほぼ理解し、ある程度の物質の構造式を書くことができる。	炭化水素の構造についてある程度理解し、構造式から物質名を答えることができる。	炭化水素の物質名と構造式の関係について、理解が不十分である。	物質名と構造式についてほとんど理解できていない。

科目名	基礎生物学			授業番号	NB103	サブタイトル			
教員	楠本 晃子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	生物の基本的な構成単位である細胞のつくり（構造）とはたらき（機能），遺伝情報をもとにさまざまなタンパク質がつくられていく過程，体液の循環と調節のしくみ，病原体などからからだを守るしくみ，呼吸とのかかわり，不要な物質を排出する尿生成について学ぶ。								
到達目標	管理栄養士・栄養士の専門科目（生化学，生理学，栄養学，解剖学等）を学習する上で土台となる生物学の基本的な知識を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 細胞小器官の機能 第2回 細胞膜の構造と機能 第3回 遺伝情報 第4，5回 タンパク質の合成 第6回 体細胞分裂 第7回 減数分裂 第8回 発生と分化 第9回 血液の組成 第10回 血液の循環 第11回 尿生成 第12回 リンパ系 第13～15回 免疫								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	20	レポートの内容および完成度で評価する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	興味と疑問点をもって積極的に取り組むこと。継続的に復習をすること。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，教科書および配布資料を読み，復習する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生理学・生化学につながる ていねいな生物学	白戸亮吉，小川由香里，鈴木研太	羊土社	978-4-7581-2110-1	
使用テキスト：自由記載	本テキストは「生物学」の授業でも使用。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．細胞の機能と遺伝情報を説明できる	細胞の機能と遺伝情報に関する十分な知識を身につけており、説明することができる	細胞の機能と遺伝情報に関する知識を十分に身につけ、理解している	細胞の機能と遺伝情報に関する知識を身につけており、説明することができる	細胞の機能と遺伝情報に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	細胞の機能と遺伝情報に関する知識を身につけていない
知識・理解	2．血液の循環と調節を説明できる	血液の循環と調節に関する十分な知識を身につけており、説明することができる	血液の循環と調節に関する知識を十分に身につけ、理解している	血液の循環と調節に関する知識を身につけており、説明することができる	血液の循環と調節に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	血液の循環と調節に関する知識を身につけていない

科目名	化学			授業番号	NB104	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	有機化学の基本、食品成分や生体成分の化学的性質について講義する。								
到達目標	有機化合物の基本構造と官能基について理解する。 食品成分や生体成分の化学的性質について理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	アルカン・アルケン・アルキンの復習	
第2回	アルコール	
第3回	エーテル、カルボニル化合物①	
第4回	カルボニル化合物②	
第5回	カルボン酸、アミン	
第6回	有機化合物に関するまとめ、問題演習	
第7回	炭水化物の化学①（単糖・糖アルコール）	
第8回	炭水化物の化学②（オリゴ糖類・多糖類）	
第9回	炭水化物に関する問題演習	
第10回	アミノ酸の化学	
第11回	タンパク質の化学	
第12回	アミノ酸・タンパク質に関する問題演習	
第13回	脂質の化学①（脂質・脂肪酸）	
第14回	脂質の化学②（油脂の化学的性質）	
第15回	脂質に関する問題演習	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	10	課題への取り組みと理解度によって評価する。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	選択科目であるが，食品学・生化学・栄養学・生命科学系科目の理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため，今後の講義を深く理解したいと考える学生は履修すること。 毎回の授業で資料を配布するため，専用ファイルを準備すること。
授業外学修	配布資料・テキストを用いて講義した内容について復習し，週あたり４時間以上の学修を通してをよく理解しておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎からのやさしい化学	田島　眞　編著	建帛社	978-4-7679-4635-1	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．芳香族化合物、アルコール、アルデヒド、エーテル、カルボニル化合物、アミンなどの有機化合物の性質について理解できている	有機化合物の構造と性質について深く理解し、知識を身に付けている。	有機化合物の構造と性質についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	有機化合物の構造と性質についてある程度理解し、知識を身に付けている。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理に関する理解が不十分である。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	２．炭水化物の化学について	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質について深く理解し、知識を身に付けた上、専門科目との関連性について十分理解している。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質をある程度理解し、知識を身に付けている。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質に関する理解が不十分である。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質に関する理解がほとんどできていない。
知識・理解	３．タンパク質とアミノ酸の化学について	アミノ酸・タンパク質の化学的性質、タンパク質の構造や機能について深く理解し、日常生活との関連性について理解している。	アミノ酸・タンパク質の化学的性質、タンパク質の構造や機能について理解し、知識を身に着けている。	アミノ酸・タンパク質の化学的性質、タンパク質の構造や機能についてある程度理解している。	アミノ酸・タンパク質に関する理解が不十分である。	アミノ酸・タンパク質に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	４．脂質の化学について	脂質の化学構造と性質について深く理解し、日常生活との関連性について理解している。	脂質の化学構造と性質について完全に理解し、知識を身に付けている。	脂質の化学構造と性質についてある程度理解している。	脂質に関する理解が不十分である。	脂質に関してほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	１．有機化合物について	構造と物質名、性質を深く理解し、日常生活と有機化合物とのかかわりについて理解している。	構造式を見て物質名と性質について導き出すことができる。	ある程度の構造式について理解した上で性質について導き出すことができる。	構造式や物質名の理解が不十分である。	有機化合物についてほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	２．炭水化物について	単糖、オリゴ糖、多糖について深く理解し、専門分野との関連性について科学的に導くことができる。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造を見て名称と性質について導き出すことができる。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質をある程度理解し、知識を身に付けている。	炭水化物についての理解が不十分である。	炭水化物についてほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	３．アミノ酸・タンパク質について	アミノ酸の化学構造・タンパク質の構造や性質について理解し、専門分野との関連性について科学的に導くことができる。	アミノ酸・タンパク質の化学的性質、タンパク質の構造や機能を理解し、専門分野の理解につなげることができる。	アミノ酸・タンパク質の化学的性質、タンパク質の構造や機能についてある程度理解し、知識を身に付けている。	アミノ酸・タンパク質に関する理解が不十分である。	アミノ酸・タンパク質に関してほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	４．脂質について	脂質の化学構造と性質について深く理解し、専門科目との関連性について科学的に導くことができる。	脂質の化学構造と性質について理解し、専門分野の理解につなげることができる。	脂質の構造と性質についてある程度理解し、知識を身に付けている。	脂質に関する理解が不十分である。	脂質に関してほとんど理解できていない。

科目名	生物学			授業番号	NB105	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	生命は生物そのものである。生命（生物）を探求する学問（生命科学）の一部が生物学である。 大学を卒業したものが備えておくべき（学士力）幅広い教養の一部としての生物学の講義であるが、高校卒業までに習得しておくべき基礎生物学の復習的な内容も広くカバーする。								
到達目標	栄養学に直結する生物学のごく一部ではなく、生命のミクロな領域からマクロな領域までの幅広い生物学の全容が理解できる。 生命科学の発展してきた経緯が理解でき、既知の事実から未知の事実を発見・証明していく経緯が説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	消化・吸収	
第2回	糖質の消化・吸収	
第3回	脂質の消化・吸収	
第4回	タンパク質の消化・吸収	
第5回	栄養素の利用　栄養素からエネルギーへ	
第6回	ATP合成の流れ	
第7回	糖代謝の３つのステップ　解答系	
第8回	糖代謝の３つのステップ　クエン酸回路	
第9回	糖代謝の３つのステップ　電子伝達系	
第10回	その他の糖代謝　糖新生	
第11回	その他の糖代謝　グリコーゲン代謝、ペントースリン酸回路	
第12回	脂質も合流してATPに	
第13回	タンパク質も合流してATPに	
第14回	神経の構造と機能　神経系とは	
第15回	神経の構造と機能　神経の働き	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な授業態度、状況によって評価する。
レポート	10	単元別の理解度を評価する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	基本的に自筆のノートの持ち込み可で定期試験を行うため，定期試験の成績が評価に大き(影響するが、レポート、授業態度も加味して最終評価する。
受講の心得	この講義は選択科目であるが、生化学ⅠおよびⅡの理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため，（特に高校卒業時までの）生物学の知識習得が不十分だと感じる者は履修すること。
授業外学修	講義は基本的に板書を行う。従って、記憶の新しいうちにノートをまとめておくことが望ましい。 毎回の復習が重要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生理学･生化学につながるていねいな生物学	白戸亮吉　他	羊土社	978-4-7581-2110-1	2200
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．糖質の消化吸収について理解している。	学修した糖質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した糖質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した糖質に関する知識について、大体述べることができる。	学修した糖質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した糖質に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．脂質の消化吸収について理解している。	学修した脂質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した脂質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した脂質に関する知識について、大体述べることができる。	学修した脂質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した脂質に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	３．タンパク質の消化吸収について理解している。	学修したタンパク質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．健康維持のための栄養素の消化吸収について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	生活と情報処理 1クラス			授業番号	NC101A	サブタイトル	ネットワーク時代の生活術		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	現代の情報社会においては，パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため，パソコンの基本的な使い方や仕組み，さらにはネットワークの基礎的な使用方法および，今このネットワークによってもたらされている様々な情報モラルの課題について学修する。また，管理栄養士として必要な基礎的な情報技術についても学修する。								
到達目標	本授業も具体的な目標は，次の３点である。 （１）パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 （２）ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方を学ぶ。 （３）情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I 本学のPC教室の使い方，ログインの仕方(ID，パスワード)，Gメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。	
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方，課題の提出の仕方，PC教室のプリンターの使い方等を理解し，実際に使えるようになるための操作を習得する。	
第3回	ネット利用についての基礎知識I インターネットによる検索技術の基礎について理解し，これらを活用して必要な画像等を収集するなど，ネット利用について学修する。	
第4回	ネット利用についての基礎知識II YouTube等オンライン配信プラットホームの歴史およびその活用法について理解する。また，その際に起こるセキュリティや著作権の問題について理解する。	
第5回	ワードの基礎知識I Wordの起動，終了，文字入力の基本，印刷等を学び，簡単な文章を入力し，プリントアウトできる技術を習得する。	
第6回	ワードの基礎知識II Wordによる表の作成，画像の挿入，図形の作成などWordの多様な編集機能を理解し，簡単なちらし(学校給食だより)等が作成できる技能を習得する。	
第7回	パワーポイントの基礎知識I パワーポイントの起動，終了，画像の挿入，図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。	
第8回	パワーポイントの基礎知識 II パワーポイントのアニメーションの機能を活用し，簡単な動画を作成する技術を習得する。	
第9回	パワーポイントの基礎知識 III パワーポイントのプレゼンテーションの機能を活用し，簡単な自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。	
第10回	生成系AIの活用 I 生成系AIの仕組みについて理解し，簡単な画像や動画を作成するなど，ルールを守って生成系AIが活用ができることを学修する。	
第11回	デジタルコンテンツの作成の仕方I 教育におけるデジタルコンテンツの活用の意義・活用例について理解する。	
第12回	デジタルコンテンツの作成の仕方II 授業における活用場面を想定しながら，パワーポイントにより，簡単なデジタルコンテンツの作成の仕方を理解する。	
第13回	デジタルコンテンツの作成の仕方III デジタルコンテンツを活用するための簡略化した指導案(授業レシピ)を作成して，小学校の栄養指導の模擬授業を行うための実践力を習得する。	
第14回	情報の倫理とセキュリティI 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け，パスワードを適切に設定・管理するなど，コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。	
第15回	情報の倫理とセキュリティII SNS等のネットによるコミュニケーションの特色を理解し，情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち，自他の権利を尊重して，ルールやマナーを守って情報を集めたり発信できるようになるための学修をする。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。
レポート	80	毎回の授業で学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか，提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学修目標」を具体的に提示し，その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって，その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。
受講の心得	新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県情報教育センター(6年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．パソコンに関する基礎的知識を理解する。	パソコンに関する基礎的知識を十分に理解している。	パソコンに関する基礎的知識を概ね理解している。	パソコンに関する基礎的知識を普通に理解している。	パソコンに関する基礎的知識の理解がやや不十分。	パソコンに関する基礎的知識が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1．情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解している。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて十分理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて概ね理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて普通に理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを概ね構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについての理解がやや不十分であり，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションの構築もやや不十分である。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解できておらず，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができない。
技能	1．パソコンに関する基礎的操作ができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており，これらを活用した課題を迅速・的確に作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており，これらを活用した課題を作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を普通に理解しており，これらを活用した課題を作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解がやや不十分であり，これらを活用した課題についてもやや時間がかかり，的確さに欠ける。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解がやや不十分であり，これらを活用した課題についてもやや時間がかかり，的確さに欠ける。
技能	2.ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方の基本操作ができる。	ネットの利用の知識が十分あり，これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており，これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており，これらを活用して普通に情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用についての理解がやや不十分であり，これらを活用した情報収集・情報発信も十分にできない。	ネットの利用についての理解が不十分であり，これらを活用した情報収集・情報発信もできない。
技能	3.デジタルコンテンツ(紹介ビデオ)の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，受け手の意識を想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，受け手の意識を大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し，留意点を制作に反映することができる。相手の意識を想定して作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解が不十分であり，制作物の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な政策方法の理解が不十分で，留意点を制作に全く反映していない。

科目名	生活と情報処理 2クラス			授業番号	NC101B	サブタイトル	ネットワーク時代の生活術		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	現代の情報社会においては，パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため，パソコンの基本的な使い方や仕組み，さらにはネットワークの基礎的な使用方法および，今このネットワークによってもたらされている様々な情報モラルの課題について学修する。また，管理栄養士として必要な基礎的な情報技術についても学修する。								
到達目標	本授業も具体的な目標は，次の３点である。 （１）パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 （２）ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方を学ぶ。 （３）情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I 本学のPC教室の使い方，ログインの仕方(ID，パスワード)，Gメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。	
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方，課題の提出の仕方，PC教室のプリンターの使い方等を理解し，実際に使えるようになるための操作を習得する。	
第3回	ネット利用についての基礎知識I インターネットによる検索技術の基礎について理解し，これらを活用して必要な画像等を収集するなど，ネット利用について学修する。	
第4回	ネット利用についての基礎知識II YouTube等オンライン配信プラットホームの歴史およびその活用法について理解する。また，その際に起こるセキュリティや著作権の問題について理解する。	
第5回	ワードの基礎知識I Wordの起動，終了，文字入力の基本，印刷等を学び，簡単な文章を入力し，プリントアウトできる技術を習得する。	
第6回	ワードの基礎知識II Wordによる表の作成，画像の挿入，図形の作成などWordの多様な編集機能を理解し，簡単なちらし(学校給食だより)等が作成できる技能を習得する。	
第7回	パワーポイントの基礎知識I パワーポイントの起動，終了，画像の挿入，図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。	
第8回	パワーポイントの基礎知識 II パワーポイントのアニメーションの機能を活用し，簡単な動画を作成する技術を習得する。	
第9回	パワーポイントの基礎知識 III パワーポイントのプレゼンテーションの機能を活用し，簡単な自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。	
第10回	生成系AIの活用 I 生成系AIの仕組みについて理解し，簡単な画像や動画を作成するなど，ルールを守って生成系AIが活用ができることを学修する。	
第11回	デジタルコンテンツの作成の仕方I 教育におけるデジタルコンテンツの活用の意義・活用例について理解する。	
第12回	デジタルコンテンツの作成の仕方II 授業における活用場面を想定しながら，パワーポイントにより，簡単なデジタルコンテンツの作成の仕方を理解する。	
第13回	デジタルコンテンツの作成の仕方III デジタルコンテンツを活用するための簡略化した指導案(授業レシピ)を作成して，小学校の栄養指導の模擬授業を行うための実践力を習得する。	
第14回	情報の倫理とセキュリティI 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け，パスワードを適切に設定・管理するなど，コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。	
第15回	情報の倫理とセキュリティII SNS等のネットによるコミュニケーションの特色を理解し，情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち，自他の権利を尊重して，ルールやマナーを守って情報を集めたり発信できるようになるための学修をする。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。
レポート	80	毎回の授業で学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか，提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学修目標」を具体的に提示し，その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって，その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。
受講の心得	新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県情報教育センター(6年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．パソコンに関する基礎的知識を理解する。	パソコンに関する基礎的知識を十分に理解している。	パソコンに関する基礎的知識を概ね理解している。	パソコンに関する基礎的知識を普通に理解している。	パソコンに関する基礎的知識の理解がやや不十分。	パソコンに関する基礎的知識が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1．情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解している。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて十分理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて概ね理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて普通に理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを概ね構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについての理解がやや不十分であり，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションの構築もやや不十分である。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解できておらず，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができない。
技能	1．パソコンに関する基礎的操作ができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており，これらを活用した課題を迅速・的確に作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており，これらを活用した課題を作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を普通に理解しており，これらを活用した課題を作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解がやや不十分であり，これらを活用した課題についてもやや時間がかかり，的確さに欠ける。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解がやや不十分であり，これらを活用した課題についてもやや時間がかかり，的確さに欠ける。
技能	2.ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方の基本操作ができる。	ネットの利用の知識が十分あり，これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており，これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており，これらを活用して普通に情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用についての理解がやや不十分であり，これらを活用した情報収集・情報発信も十分にできない。	ネットの利用についての理解が不十分であり，これらを活用した情報収集・情報発信もできない。
技能	3.デジタルコンテンツ(紹介ビデオ)の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，受け手の意識を想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，受け手の意識を大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し，留意点を制作に反映することができる。相手の意識を想定して作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解が不十分であり，制作物の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な政策方法の理解が不十分で，留意点を制作に全く反映していない。

科目名	情報処理演習Ⅰ			授業番号	NC102	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本演習では、文書作成ソフトウェアであるMicrosoft Wordの基本的な操作から応用技術までを網羅的に学習する。初めてWordを使用する学生から、さらなるスキルアップを目指す学生まで、幅広いニーズに応える内容となっている。文書の作成、編集、フォーマットの基礎から、テンプレートの活用、効率的な文書管理方法に至るまで、実践的なスキルを身につけることを目指す。								
到達目標	・Wordの基本操作をある程度使いこなせる ・ネット等を活用し、自分の使いたいWordの機能を調べることができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞の修得に貢献する.								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習法を探る Google，Copilot，生成AI，YouTubeを活用せよ	
第2回	Wordの基本 起動・終了、文字の入力、ポップアウトヒント、ショートカット、印刷、保存など	
第3回	Web版Word ブラウザEdgeを利用し、Web版WordとAIアシスタントを利用する	
第4回	フォント フォントの大きさと間隔／文字を飾る	
第5回	テンプレート テンプレートの活用	
第6回	レイアウトを整えよ1 「中央揃え」「右揃え」「両端揃え」「行間」	
第7回	レイアウトを整えよ2 「ルーラー」を使う：タブとインデント	
第8回	レイアウトを整えよ3 箇条書きと段落番号	
第9回	校閲 WordやCopilot・生成AIが妙しなところを見つけてくれる	
第10回	レイアウトを整えよ4 見出しと目次作成	
第11回	様々な機能を試す1 テキストボックス、グラフと表の挿入と回り込み	
第12回	様々な機能を試す2 画像・ワードアートなどの挿入	
第13回	様々な機能を試す3 差し込み印刷	
第14回	演習 チラシの作成	
第15回	まとめ 授業全体を振り返る	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業に取り組む姿勢を評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	授業毎の作成ファイルを評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，普段の生活の中で情報端末に触れ，慣れることを求める。
授業外学修	1．PCを所有していなくても，スマートホンでMicrosoft WordやGoogle Documentなどのワードプロセッサーを利用できるので、普段から利用すること。 2．PCを利用できる機会がある時は，積極的に使用し，本学を卒業した後に普通にWordを扱えるようになることを意識し親しむこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．Wordの基本操作をある程度使いこなせる	応用的な操作ができる	基本操作ができる	基本操作の大半を実行できる	基本操作を部分的に実行できる	基本操作すらできない
技能	2．ネット等を活用し、自分の使いたいWordの機能を調べることができる	有用な情報を得ることができる	情報を得ることができる	情報の大半を得ることができる	情報を部分的に得ることができる	情報を得られない

科目名	情報処理演習Ⅱ			授業番号	NC103	サブタイトル	(表計算)		
教員	赤木　竜也								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，情報リテラシーの中でも特に学生が苦手である表計算ソフトの基本的かつ応用的な操作方法について学修する。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおけるデータの扱い方について学習する。	
第2回	表計算ソフトの基礎知識 表の作成から印刷・保存について学習する。	
第3回	表計算ソフトの基礎知識 基礎的なグラフの作成方法について学習する。	
第4回	ワークシートの活用(1) 表の編集機能および書式設定について学習する。	
第5回	ワークシートの活用(2) 罫線と表のスタイルについて学習する。	
第6回	ワークシートの活用(3) セルの絶対参照と相対参照の違い，属性および表示形式について学習する。	
第7回	ワークシートの活用(4) 基本的な関数について学習する。	
第8回	ワークシートの活用(5) 基本的な関数および条件付き書式について学習する。	
第9回	グラフ(1) グラフ化による利点とその問題点，注意点および基本的なグラフ(棒グラフ)について学習する。	
第10回	グラフ(2) 基本的なグラフ(折れ線グラフ，円グラフ)について学習する。	
第11回	グラフ(3) 応用的なグラフ(複合グラフ，レーダーグラフ)について学習する。	
第12回	データベース データベース機能およびデータベース集計について学習する。	
第13回	Excelの応用(1) より高度な関数について学習する。	
第14回	Excelの応用(2) データベース関数について学習する。	
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより表計算について理解・学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	習熟達成度を評価する。
その他	10	授業中出題する演習問題について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスターExcel2019（Windows10対応）	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-34837-8	1045
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県立鳥城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．データの特性について理解している	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに，適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	２．表計算ソフトの関数および演算について理解している	絶対参照・相対参照の違いを理解し，正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用、演算、集計し，わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり，関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず，また正しく演算することができない。
知識・理解	３．グラフの特性について理解している	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し，またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し，グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが，グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	１．正しくデータ入力をすることができる	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	２．ソフトウェアを操作することができる	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	基礎統計演習			授業番号	NC204	サブタイトル			
教員	栄養C								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	統計的な考え方，統計手法は，さまざまな領域で必要となる．栄養の領域においても，統計分析を活用できる知識やスキルは求められている． 本授業では，調査，実験，観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について解説する． また実際のデータを活用して，パソコン（Excel/SPSS）を用いたデータの統計処理も行う．								
到達目標	１）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する． ２）基礎統計量，統計的検定・推定，多変量解析の考え方を理解する． ３）パソコンを用いて結果を算出し，その結果をみて考察を行う． 以上を到達目標とする． なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	データ解析における４つの尺度	
第2回	基本統計量（平均値，中央値，最頻値）	
第3回	度数分布表とヒストグラム	
第4回	さまざまな分布	
第5回	２つの変数の関係（単相関）	
第6回	統計的仮説検定の考え方	
第7回	度数の検定	
第8回	平均値の検定	
第9回	標本抽出	
第10回	重回帰分析の考え方	
第11回	重回帰分析の実践	
第12回	主成分分析の考え方	
第13回	因子分析の考え方	
第14回	主成分分析，因子分析の実践	
第15回	その他，多変量データの分析手法と多変量統計的グラフ手法	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する．
レポート	10	レポート課題を課す．
小テスト		
定期試験	50	習熟達成度を評価する．
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	まずは，データを解析して，何らかの結論を導くという，実証的な方法論に興味を持っていただきたい. そして，実際に手法を適用して，結果を導く楽しさを知ってもらいたいと考えている. 数学的な知識は必須ではないが，数値や数式を用いることがあるため，数字に興味を持ってもらいたい.
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍･プリント･ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく. 2）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う. 3）発展として，自ら課題を見つけて，分析の適用を行い，考察を行う. 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
マンガでわかるやさしい統計学	小林克彦	池田書店	978-4-262-15560-9	1400
使用テキスト：自由記載	板書を中心とするが，必要に応じてプリントを配布する.			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
初めてでもできる社会調査･アンケート調査とデータ解析	安藤明之	日本評論社		2，500円＋税
EXCELビジネス統計分析	末吉正成，末吉美喜	翔泳社	978-4-7981-48898-4	2380
参考書：自由記載	統計学図鑑　栗原伸一･丸山敦史　オーム社			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	高等学校情報（データ解析）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	実験など)から得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について習得させる.			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー･学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている

科目名	英語Ⅰ 1クラス			授業番号	ND101A	サブタイトル	(栄養英語)		
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	本演習では，英語を通して食に関する知識を深めるとともに，既習の語彙や文法事項を再確認しながら食生活や栄養をテーマにした英文を読む。								
到達目標	読解を通して，食に関する語彙や英語表現について学び，基礎的な英語力の向上を目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Unit 1 Energy-Providing Nutrients エネルギー産生栄養素 エネルギー産生栄養素に関する様々な英語表現を学ぶ	
第2回	Unit 2 Nutrition Science: A Brief History 栄養学：略史 栄養学の略史を英語で読み，関連する英語表現を学ぶ	
第3回	Unit 3 Staple Foods 主食 主食に関する様々な英語表現を学ぶ	
第4回	Unit 4 The Cultural Heritage of Food 食の文化遺産 食の文化遺産に関する様々な英語表現を学ぶ	
第5回	Unit 5 The Art of the Bento Box 弁当箱のアート 弁当に関する様々な英語表現を学ぶ	
第6回	Unit 6 Kyushoku: The Japanese School Lunch 日本の給食制度 給食に関する様々な英語表現を学ぶ	
第7回	Unit 7 Kodomo Shokudo こども食堂 こども食堂に関する様々な英語表現を学ぶ	
第8回	Unit 8 Can Foods Be Super? スーパーフード スーパーフードに関する様々な英語表現を学ぶ	
第9回	Unit 9 Halal Food ハラルフード ハラルフードに関する様々な英語表現を学ぶ	
第10回	Unit 10 How We Taste 味が肝心 味覚に関する様々な英語表現を学ぶ	
第11回	Unit 11 Airline Food 機内食 機内食に関する様々な英語表現を学ぶ	
第12回	Unit 12 Sugar: What You Need to Know 砂糖：知っておくべきこと 砂糖に関する様々な英語表現を学ぶ	
第13回	Unit 13 Sugar Tax 砂糖税 海外の砂糖税に関する様々な英語表現を学ぶ	
第14回	Unit 14 Antioxidants 抗酸化物質 抗酸化物質に関する様々な英語表現を学ぶ	
第15回	Unit 15 Genetically Modified Food 遺伝子組み換え食品 / 科目授業全体のまとめ 遺伝子組み換え食品に関する様々な英語表現を学ぶ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	30	各回の内容において英文の理解度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	各回の内容において英語の語彙・表現の理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を全訳し，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。
授業外学修	1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。 2．復習として，授業で学んだ文法事項と食や栄養に関する英語の語彙や表現を理解し，知識として定着させること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
A Matter of Taste　健康生活に見る食育と栄養<入門編>	津田晶子・クリストファー・ヴァルヴォーナ他	南雲堂	978-4-523-17896-5	1，700円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．栄養・食に関する英語の語彙や英語表現を理解している。	栄養・食に関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、応用して使用することができる。	栄養・食に関する英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	栄養・食に関する英語の語彙や英語表現の意味を覚えている。	栄養・食に関する英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	栄養・食に関する語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2．栄養・食に関する英文を読解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、栄養や食に関する英文を読んで理解し、自分の言葉で説明し、自らの意見を持つことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、栄養や食に関する英文を読んで理解し、それを自分の言葉で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、栄養や食に関する英文を読んで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、栄養や食に関する英文を理解することが難しい。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、栄養や食に関する英文を理解できない。
知識・理解	3．自分の食生活や栄養・食に関する考えを英語で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、自分の食生活や栄養・食に関する考えを英語で自由に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、自分の食生活や栄養・食に関する考えを短い文章を用いて英語で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて自分の食生活について既存の英文を参考にして説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、自分の食生活について英語で説明することができない。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、自分の食生活について英語で説明することができない。

科目名	英語Ⅰ 2クラス			授業番号	ND101B	サブタイトル	(栄養英語)		
教員	佐々木 眞帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	本演習では，英語を通して食に関する知識を深めるとともに，既習の語彙や文法事項を再確認しながら食生活や栄養をテーマにした英文を読む。								
到達目標	読解を通して，食に関する語彙や英語表現について学び，基礎的な英語力の向上を目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Unit 1 Energy-Providing Nutrients エネルギー産生栄養素 エネルギー産生栄養素に関する様々な英語表現を学ぶ	
第2回	Unit 2 Nutrition Science: A Brief History 栄養学：略史 栄養学の略史を英語で読み，関連する英語表現を学ぶ	
第3回	Unit 3 Staple Foods 主食 主食に関する様々な英語表現を学ぶ	
第4回	Unit 4 The Cultural Heritage of Food 食の文化遺産 食の文化遺産に関する様々な英語表現を学ぶ	
第5回	Unit 5 The Art of the Bento Box 弁当箱のアート 弁当に関する様々な英語表現を学ぶ	
第6回	Unit 6 Kyushoku: The Japanese School Lunch 日本の給食制度 給食に関する様々な英語表現を学ぶ	
第7回	Unit 7 Kodomo Shokudo こども食堂 こども食堂に関する様々な英語表現を学ぶ	
第8回	Unit 8 Can Foods Be Super? スーパーフード スーパーフードに関する様々な英語表現を学ぶ	
第9回	Unit 9 Halal Food ハラルフード ハラルフードに関する様々な英語表現を学ぶ	
第10回	Unit 10 How We Taste 味が肝心 味覚に関する様々な英語表現を学ぶ	
第11回	Unit 11 Airline Food 機内食 機内食に関する様々な英語表現を学ぶ	
第12回	Unit 12 Sugar: What You Need to Know 砂糖：知っておくべきこと 砂糖に関する様々な英語表現を学ぶ	
第13回	Unit 13 Sugar Tax 砂糖税 海外の砂糖税に関する様々な英語表現を学ぶ	
第14回	Unit 14 Antioxidants 抗酸化物質 抗酸化物質に関する様々な英語表現を学ぶ	
第15回	Unit 15 Genetically Modified Food 遺伝子組み換え食品 / 科目授業全体のまとめ 遺伝子組み換え食品に関する様々な英語表現を学ぶ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	30	各回の内容において英文の理解度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	各回の内容において英語の語彙・表現の理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を全訳し，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。
授業外学修	1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。 2．復習として，授業で学んだ文法事項と食や栄養に関する英語の語彙や表現を理解し，知識として定着させること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
A Matter of Taste　健康生活に見る食育と栄養<入門編>	津田晶子・クリストファー・ヴァルヴォーナ他	南雲堂	978-4-523-17896-5	1，700円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．栄養・食に関する英語の語彙や英語表現を理解している。	栄養・食に関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、応用して使用することができる。	栄養・食に関する英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	栄養・食に関する英語の語彙や英語表現の意味を覚えている。	栄養・食に関する英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	栄養・食に関する語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2．栄養・食に関する英文を読解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、栄養や食に関する英文を読んで理解し、自分の言葉で説明し、自らの意見を持つことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、栄養や食に関する英文を読んで理解し、それを自分の言葉で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、栄養や食に関する英文を読んで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、栄養や食に関する英文を理解することが難しい。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、栄養や食に関する英文を理解できない。
知識・理解	3．自分の食生活や栄養・食に関する考えを英語で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、自分の食生活や栄養・食に関する考えを英語で自由に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、自分の食生活や栄養・食に関する考えを短い文章を用いて英語で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて自分の食生活について既存の英文を参考にして説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、自分の食生活について英語で説明することができない。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、自分の食生活について英語で説明することができない。

科目名	英語Ⅱ 1クラス			授業番号	ND102A	サブタイトル	(英文読解)		
教員	ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	To learn and use nutrition-related English, and develop English listening, speaking, reading and writing skills, through a study of foreign recipes', their related culture and history, and practical experience in the kitchen. 外国海外料理のレシピ，料理に関連する文化と歴史，キッチンでの実践的な経験を通じて，栄養関連の英語を学び，使用し，英語のリスニング，スピーキング，読書，ライティングのスキルを養う。								
到達目標	Students will do three personal cooking projects. 生徒は3つの個人的な料理プロジェクトを行います。 This course will contribute to acquiring language knowledge, comprehension and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy. なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	The course has three projects to teach cooking and nutrition-related English. このコースには，料理と栄養関連の英語を教える3つのプロジェクトがあります。								

回	概要	担当
第1回	Self-introductions, Introduction to the course, Google Classrooom, Food groups, 自己紹介，コースの紹介，Google Classrooom，食品グループ	
第2回	Project 1 - Introduction to the 'Finger food' project プロジェクト1 - 「フィンガーフード」プロジェクトの紹介	
第3回	Project 1 - Vocabulary for recipes (ingredients & kitchen utensils) プロジェクト1 - レシピの語彙(食材や台所用品)	
第4回	Project 1 - Vocabulary for recipes (cooking actions and the imperative form: Boil the water) プロジェクト1 - レシピの語彙(料理の動詞と命令形: 水を沸騰させる)	
第5回	Project 1 - Short test 1, Finger food videos, critique, project feedback プロジェクト1 - 第1小テスト，フィンガーフードのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック	
第6回	Project 2 - Introduction to the Soups and salads project プロジェクト2 - 「スープとサラダ」プロジェクトの紹介	
第7回	Project 2 - Explaining a recipe's nutrition (It contains…) プロジェクト2 - レシピの栄養の説明について（を含む…）	
第8回	Project 2 - Let's check your recipes! (Ingredients, cooking utensils and cooking actions) プロジェクト2 - レシピをチェックしよう! （材料，調理器具，料理の動詞）	
第9回	Project 2 - Short test 2 & Soups and salads videos, critique, project feedback プロジェクト2 - 第2小テストとスープとサラダのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック	
第10回	Project 3 - Introduction to the 'Make a menu' project プロジェクト3？「メニューを作る」プロジェクトの紹介	
第11回	Project 3 - Make your menu: main dish, side dish(es) and dessert プロジェクト3 - メニューを作る: メインディッシュ，サイドディッシュとデザート	
第12回	Project 3 - Introduce and explain your menu in English プロジェクト3 - メニューを英語で紹介して説明する	
第13回	Project 3 - Cook your main dish, side dish(es) and dessert プロジェクト3 - メインディッシュ，サイドディッシュ，デザートを調理します。	
第14回	Project 3 - Menu videos, critique, project feedback, Course review, Student questionnaire プロジェクト3 - メニューのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック，コースレビュー，学生アンケート	
第15回	Short test 3, Menu videos, 第3小テスト，メニューのビデオ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	Active participation in English 英語で積極的な参加
レポート	30	Write a recipe card and critique form for each of the three projects (6 x 5%) 3つのプロジェクトのそれぞれについてレシピカードと批評フォームを書きます (6 x 5%)
小テスト	30	Vocabulary tests (3 x 10%) 語彙小テスト (3 x 10%)
定期試験		
その他	20	Three project videos using English sound or subtitles (5%, 5%, 10%) 英語の音声または字幕を使用した3つのプロジェクトビデオ (5%, 5%, 10%)

評価の方法：自由記載	Students will have to pay a small amount for the cooking projects' ingredients. Please pay on cooking days (on-campus) or buy yourself (distance learning). 学生は調理プロジェクトの食材に少額を支払うことになる。キャンパスで勉強する場合は調理を行う日に支払いを求めます，または遠隔教育の場合は自分で買ってください。
受講の心得	Students must attend at least 10 lessons， participate actively and try to use English during class. 学生は少なくとも10回の授業に出席し，授業に積極的に参加し，英語を使ってみる。
授業外学修	Make an English cooking video for each of the three projects. The English can be spoken or you can use English subtitles. Also， study for the three vocabulary short tests. 3つのプロジェクトのそれぞれについて英語の料理ビデオを作成します。英語を話すことも，英語の字幕を使用することもできます。また，3つの語彙の小テストのために勉強してください。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				

使用テキスト：自由記載	Students must bring all their study materials (textbook， notebook，worksheets， file， etc.) to every class. 学生はすべての教材（辞書，教科書，ノートブック，ワークシート，ファイルなど）をすべての授業に持参しなければならない。 Students are also required to bring a Japanese-English-Japanese dictionary. 学生はまた，日本語-英語-日本語の辞書を持参する必要があります。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	Handouts， worksheets，PowerPoint presentations， etc. 配布資料，ワークシート，PowerPoint プレゼンテーションなど
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．Understand the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course over a progression of three themed, dietician-related PBL projects.	Understands all of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.	Understands most of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.	Understands some of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.	Understands little of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.	Understands none of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.
知識・理解	2．Understand the information that would generally be included in a four-course menu.	Understands all of the information that would generally be included in a four-course menu.	Understand most of the information that would generally be included in a four-course menu.	Understand some of the information that would generally be included in a four-course menu.	Understands little of the information that would generally be included in a four-course menu.	Understands none of the information that would generally be included in a four-course menu.
知識・理解	3．Understand the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands all of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands most of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands some of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands little of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands none of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.
思考・問題解決能力	1．Can work with project team members to design, create and improve a poster which introduces, explains and exemplifies nutrition groups and food groups.	Can work smoothly with project team members across all aspects of the PBL poster project.	Can generally work well with project team members across most aspects of the PBL poster project but with a few minor issues.	Can work with project team members across some aspects of the PBL poster project, but not others.	Can only occasionally work with project team members across a few aspects of the PBL poster project.	Cannot / does not work with project team members at all across any aspect of the PBL poster project.
思考・問題解決能力	2．Can work with project team members to design, create and improve a themed four-course menu which describes and ilustrates not only the four courses of their choice, but also the ingredients, nutrition and food groups they contain.	Can work smoothly with project team members across all aspects of the PBL four-course menu project.	Can generally work well with project team members across most aspects of the PBL four-course menu project but with a few minor issues.	Can work with project team members across some aspects of the PBL four-course menu project, but not others.	Can only occasionally work with project team members across a few aspects of the PBL four-course menu project.	Cannot / does not work with project team members at all across any aspect of the PBL four-course menu project.
思考・問題解決能力	3．Can work with project team members to design, create and improve a budgeted, five-day food plan for a kindergarten, including a morning snack, drink, lunch, ingredients, nutrition, food groups and costings.	Can work smoothly with project team members across all aspects of the PBL kindergarten five-day food plan project.	Can generally work well with project team members across most aspects of the PBL kindergarten five-day food plan project but with a few minor issues.	Can work with project team members across some aspects of the PBL kindergarten five-day food plan project, but not others.	Can only occasionally work with project team members across a few aspects of the PBL kindergarten five-day food plan project.	Cannot / does not work with project team members at all across any aspect of the PBL kindergarten five-day food plan project.
技能	1．Can select and use appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Consistently selects and uses appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Often selects and uses appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Sometimes selects and uses appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Only occassinally selects and uses appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Does not demonstrate the ability to select and use appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.
技能	2．Can apply the English and content knowledge covered in the course to create nutrition-related documents including information about food groups, nutrition groups, menus, cooking styles, ingredients, food plans, budgets, etc.	Consistently applies the English and content knowledge covered in the course.	Often applies the English and content knowledge covered in the course.	Sometimes applies the English and content knowledge covered in the course.	Only occassionally applies the English and content knowledge covered in the course.	Does not apply the English and content knowledge covered in the course.
技能	3．Can give a short, basic technical presentation in English.	Can give a professional, well-prepared and practiced short, basic technical presentation in English, without reading from a script.	Can give a very good, short, basic technical presentation in English, without reading from a script.	Can give an adequate, short, basic technical presentation in English but with some reference to a written script.	Can give a short, basic technical presentation in English only by reading from a written script.	Cannot give a short, basic technical presentation in English at all.
態度	1．Make effort during and beyond the lessons to attain the course goals.	Effort consistent throughout, both within and beyond the lessons to attain all course goals.	Effort during most of the course, both within and beyond the lessons to attain all course goals.	Effort made during some of the course, within and/or beyond the lessons to attain some of the course goals.	Makes only the minimum effort needed to attain some of the course goals.	Makes little or no effort to attain the course goals.
態度	2．To have a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students.	Has a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students consistently throughout the course.	Has a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students during most of the course.	Has a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students during some of the course.	Demonstrates little to no evidence of a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students.	Openly demonstrates a negative attitude towards the course goals, content, activities and other students.
態度	3．To behave appropriately and respectfully during the lessons towards staff and other students.	One's behaviour Is appropriate and respectful to staff and students at all times.	One's behaviour Is appropriate and respectful to staff and students most of the time.	One's behaviour Is appropriate and respectful to staff and students some of the time.	One's behaviour towards staff and students is neither appropriate or respectful but neutral.	One's behaviour towards staff and/or students is at times inappropriate and/or disrespectful.

科目名	英語Ⅱ 2クラス			授業番号	ND102B	サブタイトル	(英文読解)		
教員	ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	To learn and use nutrition-related English, and develop English listening, speaking, reading and writing skills, through a study of foreign recipes', their related culture and history, and practical experience in the kitchen. 外国海外料理のレシピ，料理に関連する文化と歴史，キッチンでの実践的な経験を通じて，栄養関連の英語を学び，使用し，英語のリスニング，スピーキング，読書，ライティングのスキルを養う。								
到達目標	Students will do three personal cooking projects. 生徒は3つの個人的な料理プロジェクトを行います。 This course will contribute to acquiring language knowledge, comprehension and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy. なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	The course has three projects to teach cooking and nutrition-related English. このコースには，料理と栄養関連の英語を教える3つのプロジェクトがあります。								

回	概要	担当
第1回	Self-introductions, Introduction to the course, Google Classrooom, Food groups, 自己紹介，コースの紹介，Google Classrooom，食品グループ	
第2回	Project 1 - Introduction to the 'Finger food' project プロジェクト1 - 「フィンガーフード」プロジェクトの紹介	
第3回	Project 1 - Vocabulary for recipes (ingredients & kitchen utensils) プロジェクト1 - レシピの語彙(食材や台所用品)	
第4回	Project 1 - Vocabulary for recipes (cooking actions and the imperative form: Boil the water) プロジェクト1 - レシピの語彙(料理の動詞と命令形: 水を沸騰させる)	
第5回	Project 1 - Short test 1, Finger food videos, critique, project feedback プロジェクト1 - 第1小テスト，フィンガーフードのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック	
第6回	Project 2 - Introduction to the Soups and salads project プロジェクト2 - 「スープとサラダ」プロジェクトの紹介	
第7回	Project 2 - Explaining a recipe's nutrition (It contains…) プロジェクト2 - レシピの栄養の説明について（を含む…）	
第8回	Project 2 - Let's check your recipes! (Ingredients, cooking utensils and cooking actions) プロジェクト2 - レシピをチェックしよう! （材料，調理器具，料理の動詞）	
第9回	Project 2 - Short test 2 & Soups and salads videos, critique, project feedback プロジェクト2 - 第2小テストとスープとサラダのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック	
第10回	Project 3 - Introduction to the 'Make a menu' project プロジェクト3？「メニューを作る」プロジェクトの紹介	
第11回	Project 3 - Make your menu: main dish, side dish(es) and dessert プロジェクト3 - メニューを作る: メインディッシュ，サイドディッシュとデザート	
第12回	Project 3 - Introduce and explain your menu in English プロジェクト3 - メニューを英語で紹介して説明する	
第13回	Project 3 - Cook your main dish, side dish(es) and dessert プロジェクト3 - メインディッシュ，サイドディッシュ，デザートを調理します。	
第14回	Project 3 - Menu videos, critique, project feedback, Course review, Student questionnaire プロジェクト3 - メニューのビデオ，評論とプロジェクトのフィードバック，コースレビュー，学生アンケート	
第15回	Short test 3, Menu videos, 第3小テスト，メニューのビデオ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	Active participation in English 英語で積極的な参加
レポート	30	Write a recipe card and critique form for each of the three projects (6 x 5%) 3つのプロジェクトのそれぞれについてレシピカードと批評フォームを書きます (6 x 5%)
小テスト	30	Vocabulary tests (3 x 10%) 語彙小テスト (3 x 10%)
定期試験		
その他	20	Three project videos using English sound or subtitles (5%, 5%, 10%) 英語の音声または字幕を使用した3つのプロジェクトビデオ (5%, 5%, 10%)

評価の方法：自由記載	Students will have to pay a small amount for the cooking projects' ingredients. Please pay on cooking days (on-campus) or buy yourself (distance learning). 学生は調理プロジェクトの食材に少額を支払うことになる。キャンパスで勉強する場合は調理を行う日に支払いを求めます，または遠隔教育の場合は自分で買ってください。
受講の心得	Students must attend at least 10 lessons， participate actively and try to use English during class. 学生は少なくとも10回の授業に出席し，授業に積極的に参加し，英語を使ってみる。
授業外学修	Make an English cooking video for each of the three projects. The English can be spoken or you can use English subtitles. Also， study for the three vocabulary short tests. 3つのプロジェクトのそれぞれについて英語の料理ビデオを作成します。英語を話すことも，英語の字幕を使用することもできます。また，3つの語彙の小テストのために勉強してください。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				

使用テキスト：自由記載	Students must bring all their study materials (textbook， notebook，worksheets， file， etc.) to every class. 学生はすべての教材（辞書，教科書，ノートブック，ワークシート，ファイルなど）をすべての授業に持参しなければならない。 Students are also required to bring a Japanese-English-Japanese dictionary. 学生はまた，日本語-英語-日本語の辞書を持参する必要があります。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	Handouts， worksheets，PowerPoint presentations， etc. 配布資料，ワークシート，PowerPoint プレゼンテーションなど
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．Understand the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course over a progression of three themed, dietician-related PBL projects.	Understands all of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.	Understands most of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.	Understands some of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.	Understands little of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.	Understands none of the nutrition-related and general English vocabulary and grammar covered in the course.
知識・理解	2．Understand the information that would generally be included in a four-course menu.	Understands all of the information that would generally be included in a four-course menu.	Understand most of the information that would generally be included in a four-course menu.	Understand some of the information that would generally be included in a four-course menu.	Understands little of the information that would generally be included in a four-course menu.	Understands none of the information that would generally be included in a four-course menu.
知識・理解	3．Understand the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands all of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands most of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands some of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands little of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.	Understands none of the information that would generally be included in a five-day kindergarten food plan.
思考・問題解決能力	1．Can work with project team members to design, create and improve a poster which introduces, explains and exemplifies nutrition groups and food groups.	Can work smoothly with project team members across all aspects of the PBL poster project.	Can generally work well with project team members across most aspects of the PBL poster project but with a few minor issues.	Can work with project team members across some aspects of the PBL poster project, but not others.	Can only occasionally work with project team members across a few aspects of the PBL poster project.	Cannot / does not work with project team members at all across any aspect of the PBL poster project.
思考・問題解決能力	2．Can work with project team members to design, create and improve a themed four-course menu which describes and ilustrates not only the four courses of their choice, but also the ingredients, nutrition and food groups they contain.	Can work smoothly with project team members across all aspects of the PBL four-course menu project.	Can generally work well with project team members across most aspects of the PBL four-course menu project but with a few minor issues.	Can work with project team members across some aspects of the PBL four-course menu project, but not others.	Can only occasionally work with project team members across a few aspects of the PBL four-course menu project.	Cannot / does not work with project team members at all across any aspect of the PBL four-course menu project.
思考・問題解決能力	3．Can work with project team members to design, create and improve a budgeted, five-day food plan for a kindergarten, including a morning snack, drink, lunch, ingredients, nutrition, food groups and costings.	Can work smoothly with project team members across all aspects of the PBL kindergarten five-day food plan project.	Can generally work well with project team members across most aspects of the PBL kindergarten five-day food plan project but with a few minor issues.	Can work with project team members across some aspects of the PBL kindergarten five-day food plan project, but not others.	Can only occasionally work with project team members across a few aspects of the PBL kindergarten five-day food plan project.	Cannot / does not work with project team members at all across any aspect of the PBL kindergarten five-day food plan project.
技能	1．Can select and use appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Consistently selects and uses appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Often selects and uses appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Sometimes selects and uses appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Only occassinally selects and uses appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.	Does not demonstrate the ability to select and use appropriate software to create nutrition-related posters, menus and food plans.
技能	2．Can apply the English and content knowledge covered in the course to create nutrition-related documents including information about food groups, nutrition groups, menus, cooking styles, ingredients, food plans, budgets, etc.	Consistently applies the English and content knowledge covered in the course.	Often applies the English and content knowledge covered in the course.	Sometimes applies the English and content knowledge covered in the course.	Only occassionally applies the English and content knowledge covered in the course.	Does not apply the English and content knowledge covered in the course.
技能	3．Can give a short, basic technical presentation in English.	Can give a professional, well-prepared and practiced short, basic technical presentation in English, without reading from a script.	Can give a very good, short, basic technical presentation in English, without reading from a script.	Can give an adequate, short, basic technical presentation in English but with some reference to a written script.	Can give a short, basic technical presentation in English only by reading from a written script.	Cannot give a short, basic technical presentation in English at all.
態度	1．Make effort during and beyond the lessons to attain the course goals.	Effort consistent throughout, both within and beyond the lessons to attain all course goals.	Effort during most of the course, both within and beyond the lessons to attain all course goals.	Effort made during some of the course, within and/or beyond the lessons to attain some of the course goals.	Makes only the minimum effort needed to attain some of the course goals.	Makes little or no effort to attain the course goals.
態度	2．To have a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students.	Has a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students consistently throughout the course.	Has a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students during most of the course.	Has a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students during some of the course.	Demonstrates little to no evidence of a positive attitude towards the course goals, content, activities and other students.	Openly demonstrates a negative attitude towards the course goals, content, activities and other students.
態度	3．To behave appropriately and respectfully during the lessons towards staff and other students.	One's behaviour Is appropriate and respectful to staff and students at all times.	One's behaviour Is appropriate and respectful to staff and students most of the time.	One's behaviour Is appropriate and respectful to staff and students some of the time.	One's behaviour towards staff and students is neither appropriate or respectful but neutral.	One's behaviour towards staff and/or students is at times inappropriate and/or disrespectful.

科目名	英語Ⅲ			授業番号	ND203	サブタイトル			
教員	森年 ポール								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	栄養士関連の英語を学び、使用し、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルを養う職業的に関連するプロジェクトを通じて。 To learn and use dietician-related English and develop English listening, speaking, reading and writing skills through professionally related projects.								
到達目標	栄養士の仕事に関連する英語、概念、問題を理解し、使用する学生の能力を向上させるため。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。 To improve students' ability to understand and use English and concepts and issues related to the work of dieticians. This course contributes to the acquisition of knowledge and understanding of the Bachelor's skills listed in the Diplomacy Policy.								
授業計画 備考	このコースは、栄養士の仕事に関連する3つのプロジェクトに分かれています。各プロジェクトの最後に、学生は自分の作品を発表し、他の学生のプロジェクトの作品についてフィードバックを与え、短い単語テストを受けます。 The course is divided into three projects related to the work of dieticians. At the end of each project, students present their work, give feedback to other students and take a short vocabulary test.								

回	概要	担当
第1回	自己紹介、コースの紹介、食品グループ、栄養グループ Self-introductions, Introduction to the course, Food groups, Nutrition groups	
第2回	プロジェクト1の紹介 - ポスター発表「栄養グループと食品グループ」に関する。良いポスターの作り方。 Introduction to project 1 - Poster presentation 'Nutrition groups and food groups'. How to make a good poster.	
第3回	プロジェクト1 - ポスターの内容とデザインを決定します。 Project 1 - Decide your poster's contents and design.	
第4回	プロジェクト1 - PCでポスターを作成します。ポールにあなたのポスターのファイルを送信します。 Project 1 - Make your poster on a PC. Send your poster's file to Paul.	
第5回	プロジェクト1 - ポスター発表、学生のフィードバック、小テスト＃1 Project 1 - Poster presentation, Students' feedback, Vocabulary test #1	
第6回	プロジェクト2の紹介 - PowerPointプレゼンテーション「栄養価の高い4コースの食事メニューを作る」 Introduction to project 2 - PowerPoint presentation 'Make a nutritional four-course meal menu'	
第7回	プロジェクト2 - 良い栄養に基づいて食事の4つのコースを決定します。 Project 2 - Decide the meal's four courses based on good nutrition.	
第8回	プロジェクト2 - あなたの4コースの食事の料理と 栄養を紹介するPowerPointファイルを作成します。 Project 2 - Make a PowerPoint file that introduces your four-course meal's dishes and nutrition.	
第9回	プロジェクト2 - PowerPointプレゼンテーション、学生のフィードバック、小テスト＃2 Project 2 - PowerPoint presentations, Students' feedback, Vocabulary test #2	
第10回	プロジェクト3の紹介 - 短いレポートを書く「予算内で1週間の学校給食メニュー」 Introduction to project 3 - Write a short report 'A one-week school lunch menu on a budget'	
第11回	プロジェクト3 - メニューを決めて栄養を確認します。 Project 3 - Decide the menu and check the nutrition.	
第12回	プロジェクト3 - メニューをピアレビューします。テンプレートを使用してレポートの作成を開始します。 Project 3 - Peer-review your menu. Start writing your report using the template.	
第13回	プロジェクト3 - メニューを確認，修正，改善します。 Project 3 - Review, correct and improve your menu.	
第14回	プロジェクト3 - メニューを紹介し、学生のフィードバック、小テスト＃3 Project 3 - Introduce your menu, Students' feedback, Vocabulary test #3	
第15回	コースレビュー、学生アンケート Course review, Student questionnaire	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
英語を使っての授業への積極的参加	25	Actively participate in English during the lesson
3つの小テスト 3 short tests	30	語彙小テスト (3 x 10%) Vocabulary tests (3 x 10%)
プロジェクトワーク Project work	45	ポスター発表(15%)、パワーポイント発表(15%)、学校メニューレポート(15%)=45% Poster presentation (15%), PowerPoint presentation (15%), 5-day school menu (15%) = 45%

評価の方法：自由記載	
受講の心得	このコースでは、学生はプロジェクト チームに分かれますが、これは非常に時間がかかり、集中的に行われます。このため、チーム数に制限があり、参加人数も25名までとさせていただきます。英語Ⅰ、英語Ⅱの成績上位者が選出されます。学生は英語で積極的に参加し、小テストを取る、プロジェクトの作業を時間どおりに提出する必要があります。 In this course, students are divided into project teams, which is very time-consuming and intensive. For this reason, there is a limit to the number of teams, and the number of participants will be limited to 25 people. The students with the highest scores in English I and English II will be selected. Students must participate actively in English, take tests and submit project work on time.
授業外学修	授業時間の一部はプロジェクト作業に当てられますが、それだけでは十分ではありません。学生は週に 2 時間を自分の時間で宿題やプロジェクト作業に費やすことが求められます。 Although some class time is devoted to project work, it is not enough. Students are expected to spend two hours per week on homework and project work on their own time.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
使用テキスト：自由記載	学生はすべての教材（辞書、プロジェクトノート、ノートブック、ワークシート、ファイルなど）をすべての授業に持参しなければならない。 Students must bring all of their study materials (dictionary, project notes, notebooks, worksheets, files, etc.) to every class.			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	配布資料、ワークシート、PowerPoint プレゼンテーション、YouTubeビデオなど Handouts, worksheets, PowerPoint presentations, YouTube videos, etc.			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 3 つのテーマの栄養士関連 PBL プロジェクトの進行を通じて、コースでカバーされる栄養関連および一般的な英語の語彙と文法を理解します。	コースでカバーされる栄養関連および一般的な英語の語彙と文法をすべて理解します。	コースでカバーされる栄養関連および一般的な英語の語彙と文法のほとんどを理解します。	コースで取り上げられる栄養関連および一般的な英語の語彙と文法の一部を理解します。	コースで扱われる栄養関連および一般的な英語の語彙と文法はほとんど理解できません。	コースで取り上げられる栄養関連および一般的な英語の語彙や文法をまったく理解していません。
知識・理解	2. 4 コース メニューに一般的に含まれる情報を理解します。	一般的に 4 コース メニューに含まれるすべての情報を理解します。	一般的に 4 コース メニューに含まれる情報のほとんどを理解します。	一般的に 4 コース メニューに含まれる情報の一部を理解します。	一般的に 4 コースのメニューに含まれる情報をほとんど理解していません。	一般的に 4 コースのメニューに含まれる情報をまったく理解していません。
知識・理解	3. 5 日間の幼稚園の食事計画に一般的に含まれる情報を理解します。	一般的に 5 日間の幼稚園の食事計画に含まれるすべての情報を理解します。	一般的に 5 日間の幼稚園の食事計画に含まれる情報のほとんどを理解します。	一般的に 5 日間の幼稚園の食事計画に含まれる情報の一部を理解します。	一般的に 5 日間の幼稚園の食事計画に含まれる情報をほとんど理解していません。	一般的に幼稚園の 5 日間の食事計画に含まれる情報をまったく理解していません。
思考・問題解決能力	1. プロジェクト チームのメンバーと協力して、栄養グループや食品グループを紹介、説明、例示するポスターをデザイン、作成、改善することができます。	PBL ポスター プロジェクトのあらゆる面でプロジェクト チームのメンバーとスムーズに作業できる。	通常、PBL ポスター プロジェクトのほとんどの側面においてプロジェクト チームのメンバーとうまく連携できますが、いくつかの小さな問題があります。	PBL ポスター プロジェクトの一部の側面ではプロジェクト チームのメンバーと協力できますが、その他の側面では協力できません。	PBL ポスター プロジェクトのいくつかの側面において、プロジェクト チームのメンバーと協力することは時々しかありません。	PBL ポスター プロジェクトのどの側面においても、プロジェクト チームのメンバーと協力することができない、または協力しません。
思考・問題解決能力	2. プロジェクト チームのメンバーと協力して、選択した 4 つのコースだけでなく、それらに含まれる食材、栄養、および食品グループを説明および図解する、テーマ別の 4 コース メニューを設計、作成、改善することができます。	PBL 4 コース メニュー プロジェクトのあらゆる側面にわたって、プロジェクト チームのメンバーとスムーズに作業できる。	通常、PBL 4 コース メニュー プロジェクトのほとんどの側面でプロジェクト チームのメンバーとうまく連携できますが、いくつかの小さな問題があります。	PBL 4 コース メニュー プロジェクトの一部の側面ではプロジェクト チームのメンバーと協力できますが、その他の側面では協力できません。	PBL 4 コース メニュー プロジェクトのいくつかの側面にわたって、プロジェクト チームのメンバーと協力することはたまにしかありません。	PBL 4 コース メニュー プロジェクトのどの側面においても、プロジェクト チームのメンバーと協力することができない、または協力しません。
思考・問題解決能力	3. プロジェクト チームのメンバーと協力して、朝のおやつ、飲み物、昼食、食材、栄養、食品グループ、原価計算を含む、幼稚園の 5 日間の予算計画を設計、作成、改善することができます。	PBL 幼稚園の 5 日間の食事計画プロジェクトのあらゆる側面にわたって、プロジェクト チームのメンバーとスムーズに作業できる。	PBL 幼稚園の 5 日間の食事計画プロジェクトのほとんどの側面において、プロジェクト チームのメンバーと概ねうまく連携できますが、いくつかの小さな問題があります。	PBL 幼稚園の 5 日間の食事計画プロジェクトの一部の側面ではプロジェクト チームのメンバーと協力できますが、その他の側面では協力できません。	PBL 幼稚園の 5 日間の食事計画プロジェクトのいくつかの側面において、プロジェクト チームのメンバーと協力できるのはたまにだけです。	PBL 幼稚園の 5 日間の食事計画プロジェクトのあらゆる側面において、プロジェクト チームのメンバーと協力することができない、または協力しません。
技能	1. 適切なソフトウェアを選択して使用して、栄養関連のポスター、メニュー、食事計画を作成できる。	適切なソフトウェアを一貫して選択して使用し、栄養関連のポスター、メニュー、食事計画を作成します。	適切なソフトウェアを選択して使用して、栄養関連のポスター、メニュー、食事計画を作成することがよくあります。	場合によっては、適切なソフトウェアを選択して使用して、栄養関連のポスター、メニュー、食事計画を作成します。	栄養関連のポスター、メニュー、食事計画を作成するために、適切なソフトウェアを時折選択して使用するだけです。	栄養関連のポスター、メニュー、食事計画を作成するための適切なソフトウェアを選択して使用する能力を実証していません。
技能	2. コースでカバーする英語とコンテンツの知識を応用して、食品グループ、栄養グループ、メニュー、調理スタイル、食材、食事計画、予算などの情報を含む栄養関連文書を作成できる。	コースでカバーされる英語とコンテンツの知識を一貫して適用します。	多くの場合、コースでカバーされる英語とコンテンツの知識が適用されます。	場合によっては、コースでカバーする英語と内容の知識を応用します。	コースでカバーされる英語とコンテンツの知識を応用するのは時折のみです。	コースでカバーされる英語およびコンテンツの知識は適用されません。
技能	3. 英語で短く基本的な技術プレゼンテーションを行うことができる。	台本を読まなくても、十分に準備され、練習された、専門的な短い基本的な技術プレゼンテーションを英語で行うことができる。	台本を読まなくても、英語で非常に優れた、短く、基本的な技術プレゼンテーションを行うことができる。	書かれたスクリプトを参照しながら、英語で適切な、短く、基本的な技術プレゼンテーションを行うことができます。	書かれた原稿を読むだけで、英語で短く基本的な技術プレゼンテーションを行うことができる。	英語での短くて基本的な技術プレゼンテーションがまったくできない。
態度	1. コースの目標を達成するために、レッスン中およびレッスン後も努力します。	コースのすべての目標を達成するために、レッスン内外で一貫した努力を続けます。	コースのほとんどの期間、レッスン内外で、コースのすべての目標を達成するために努力します。	コースの一部の目標を達成するために、レッスン内およびまたはレッスンを超えて、コースの一部で行われた努力。	コース目標の一部を達成するために必要な最小限の努力のみを行います。	コースの目標を達成するためにほとんど、またはまったく努力しません。
態度	2. コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を持つこと。	コース全体を通じて、コースの目標、内容、アクティビティ、および他の生徒に対して一貫して前向きな姿勢を持っています。	コースのほとんどの期間において、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの一部では、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して積極的な態度を示している証拠はほとんどありません。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して否定的な態度を公然と示します。
態度	3. レッスン中はスタッフや他の生徒に対して適切かつ敬意を持って行動すること。	人の行動は常に適切であり、スタッフと学生に対して敬意を持っています。	ほとんどの場合、人の行動は適切であり、スタッフや学生に対して敬意を持っています。	場合によっては、職員や学生に対して適切かつ敬意を持った行動が行われます。	職員や学生に対する態度は適切でも敬意を払うものでもなく、中立的です。	職員や学生に対する態度が不適切であったり、無礼な場合があります。

科目名	韓国語			授業番号	ND204	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を置い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，韓国の大学生活，エンターテインメント，日常生活や社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 ・簡単な韓国語が置けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作られたのかをハングルの由来，歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学び，その仕組みを理解する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学び，その仕組みを理解する。	
第4回	激音と濃音，パッチム 基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。	
第5回	韓国語の助詞・動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞仕組みについて理解する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在，過去，未来はどのように表現されているのかを学習する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて理解する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 韓国語の指示代名詞を事例から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形・尊敬形 丁寧形や尊敬語を具体例から学び，理解する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みから短い表現を理解する。	
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を理解する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学との違い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活や食文化や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の音楽と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，予習をやって来ること。 課題を充実に行うこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	978-4-8163-5558-5	1,600円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している	韓国語の必要性をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している	韓国語は理解しているが、具体的な知識が十分でない	あまり外国語に対して興味を持たない
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	韓国語の文字体系を理解しようとしていない	外国語や他の国のことを理解していない
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない	韓国のこと、韓国語にあまり関心が少ない
思考・問題解決能力	1．今日のグローバル社会において外国語を通じて他文化が理解できる	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	韓国の社会や経済に関心があり、韓国語の基礎が十分にできている	韓国語の会話や発音の体系が理解できている	他の国のことはあまり興味が少なく、語学にも理解度をあまり持っていない	外国語や他の国のことを理解していない
思考・問題解決能力	2．外国語を学んでグローバルな視野が広げられる	他の文化に対する理解力を培うことができる	韓国語だけではなく、韓国の社会問題にも興味を持っている	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解し、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
思考・問題解決能力	3．言葉の違いがあっても、他国の人々と共同社会を模索できる姿勢を持つことができる	韓国のことを言葉を通じてまず修得している	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	なぜ語学を勉強する意味があるのかが認識できていない	他の国と日本との関わりに関心がなく、語学の必要性が理解できていない
技能	1．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる	韓国語の基礎が出来ており、自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が出来ている	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
技能	2．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる	韓国語の基礎知識は十分に備え、自ら進んで韓国の文化を勉強している	韓国語の基礎知識を備えられ、その国のことまで把握できる	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	外国語を修得し、1つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない
技能	3．外国語や海外の人や文化を通じて自国のことや自分のことを再考すること	韓国語の学習が十分にでき、今日のグローバル社会が理解できる	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる	韓国語の基礎知識が勉強でき、他の語学にも興味を持つことが可能になる	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し、勉強しようかという認識ができていない
態度	1．韓国語を学ぶ本来の意味は何かを考えられる	語学を学ぶ目的は何かを考えられる	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が十分に理解でき、その国のことに関心が高まっている出来ている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない側面がある	韓国語の発音の体系や会話の基礎が理解できていない
態度	2．日本と韓国の両方を比較し、長所、短所が発見できる	語学勉強を通じて他の国に対する認識が変化している	韓国語の学習を通して、日本と韓国の差異や共通点が発見できている	韓国語の基礎知識を通じて、日本と韓国の共通点が把握できる	語学を学ぶ目的が明確ではなく、外国に関する関心度もあまり見られない	外国の文化や言葉に興味が少なく、韓国語の基礎を理解していない
態度	3．最も近くの国である韓国語の勉強を通じて韓国への再認識ができる	韓国語を学ぶ意味は何かが考えられ、韓国社会を再認識することができている	韓国語の会話や発音体系が理解できて、韓国の社会に関しても勉強しようとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	現在、外国語の学習や韓国語の学習がなぜ必要なのかがあまり理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない

科目名	体育講義 全8回			授業番号	NE101	サブタイトル	(日常生活と健康)		
教員	溝田 知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代社会においては，技術革新に伴う機械化・情報化等が進み，日常生活における身体活動が減少するとともに，食生活のバランスの崩れも伴って，運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって，我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では，からだと心の仕組みについて，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。								
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて，日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているか考え理解する。	
第2回	「自律神経」の働きについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考え理解する。	
第3回	「ホルモン」の働きについて考える 眠りのホルモンと呼ばれている「メラトニン」について，分泌の仕組みや働きについて考え理解する。	
第4回	「睡眠障害」について考える 睡眠障害の種類を知ること，その原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第5回	「高血圧」について考える 高血圧の仕組みを知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第6回	「目の病気」について考える 目の病気の種類を知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第7回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること，健康診断で分からないことについて考える。	
第8回	「背筋力」の働きについて考える 二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら，生活に必要な背筋力を知る。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは，その時・その場で行う。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	各回の主要なポイントの理解度を評価する。 テストは，採点をして返却する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・スポーツに関わる知識と理解を深め，スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているので，自らの生活と関連付けながら受講すること。
授業外学修	・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．体育講義の基本的考え方が理解できている。	体育講義の内容が理解できている。	体育講義の内容がほぼ理解できている。	体育講義の基本的な内容が理解できている。	体育講義の基本的な内容の理解が十分ではない。	相談援助の基本的考な内容が理解できていない。
思考・問題解決能力	1．事例に基づいて、道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて，道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて、道具や簡単な方法でほぼセルフチェックできる。	事例に基づいて、簡単にセルフチェックできる。	簡単なセルフチェックの方法についての理解が十分ではない。	簡単なセルフチェックの方法を理解できていない。

科目名	体育実技			授業番号	NE102	サブタイトル	(スポーツに親しもう)		
教員	溝田 知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第2回	バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第3回	バスケットボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第4回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第5回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第6回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第8回	バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） ペアを組み，リーグ戦方式でゲームをします。	
第10回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第11回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第12回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第13回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第14回	卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第15回	卓球III（ゲームの展開） ペアを組み，リーグ戦方式でゲームをします。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは，その時その場で行う。
レポート		
小テスト	40	各競技ごとに試合を実施する。 フィードバックは，その時その場で行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。
授業外学修	・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ルールを細かく理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ほぼ基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解しているが、基本的なルールの理解が十分ではない。	運動の大切さや、ルールを理解できていない。
技能	１．運動技能が優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身についていない。

科目名	ファーストイヤーセミナー			授業番号	NF101	サブタイトル	(大学生活に慣れよう！)		
教員	波多江　崇、坪井　誠二、井之川　仁、大桑　浩孝、楠本　晃子、木野山　真紀								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	授業概要：現代社会は多くの変化に直面している。著しい高齢化やコロナウイルスによるパンデミックにより人々の健康や栄養に対する意識が高まって来ている。世界では戦争や紛争が頻発し、それらが経済や食料供給に大きな影響を与えている。また、SNSでは日々様々な、真偽の疑わしい情報が溢れ、AIなどのテクノロジーの進化はこれまでの職業や教育の概念を葬り去るにふさわしい躍進を見せている。大学で高等教育を受けそれを社会に当てはめるだけで生きていける時代はすでに過ぎ去ったのである。現代社会では溢れる情報の中から真実を見極め、社会の課題はなにかを自分で考え行動できる人材が求められる。自ら考え行動できる、現代生活に対応した管理栄養士になるための第一歩として、本セミナーを受講することで「大学での学修の仕方」、「最新のPCリテラシー」、「コミュニケーション能力」、「チームワーク」、「情報発信能力」が身につく。								
到達目標	・大学生としての学修ができる。 ・社会の一般的な常識に沿った行動ができる。 ・PCリテラシーを習得し一般的なPC操作ができる。 ・管理栄養士の職務を理解し説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業内容および日程の詳細は，前期オリエンテーション期間に資料を配布して説明する。								
授業計画 自由記載	本講義では一人ひとりがPCをを用いて受講する講義がある。PCは大学で用意するが、自身のPCはを使用することもできる。 1回目～3回目：学生手帳の活用法，シラバスの見方・授業の受け方・勉強方法，管理栄養士養成課程の理解，レポートの書き方など大学生活において必要不可欠な内容について講義する。 4回目：図書館の利用方法について 5回目～8回目：管理栄養士として現場経験のある4人の教員による管理栄養士の仕事紹介 9回目：お金・ローン・クレジットについて 10回目～14回目：テーマ「4年後の成長した姿・目標を考える」でグループディスカッションとプロダクト作成 15回目：テーマ「4年後の成長した姿・目標を考える」発表会								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業中の態度，特に，積極的に取り組む姿勢を評価する。 評価の基準はルーブリックに準ずる。
レポート	50	与えられた課題に関する内容を具体的に述べていること。 評価の基準はルーブリックに準ずる。 レポートは個人ごとのコメントや全体の講評を行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	（1）講義：人権について，交通安全講座，金融に関する講座等を行う。 （2）演習：コミュニケーション力，スケジュール管理，マナー講座等を行う。 （3）自己学習：計算力，語彙力，文章読解力等の見直しを行う。
受講の心得	大学生としての基本的姿勢に関する授業であるから，積極的な受講姿勢を求める。 授業後には当日学修したことを見直し，日々の授業に役立てる工夫を各自で行う。
授業外学修	授業内容をノート等に整理すること。 週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「知へのステップ」学習技術研究会，くろしお出版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	一次方程式の式が文章より立てることができる	一次方程式について正確に解答できる	一次方程式の式が文章より立てることができる	一次方程式について計算できる	一次方程式について理解できる	一次方程式について理解できない
知識・理解	小数・分数を含めた含んだ計算ができる	小数・分数を含めた四則演算を含んだ計算の逆算できる	小数・分数を含めた含んだ計算ができる	四則演算が間違いなくできる	四則演算がミスがあるがある程度できる	スムーズに計算が進めることができない
技能	基本的なアカデミックスキルの実践ができる	レポートなどの成果物の本文が、以下の点をすべてにおいて大変優れたレベルで考慮して書かれている ①読み手に明瞭にアイディアが伝わる文章表現・言葉遣いで書くことができる ②誤字脱字がなく書くことができる ③段落の処理や句読点の位置などの基本的な文章作法に則って書くことができる	レポートなどの成果物の本文が、以下の点をすべてではないもののいくつかにおいて優れたレベルで考慮して書かれている ①読み手に明瞭にアイディアが伝わる文章表現・言葉遣いで書くことができる ②誤字脱字がなく書くことができる ③段落の処理や句読点の位置などの基本的な文章作法に則って書くことができる	レポートなどの成果物の本文が、以下の点を概ねよく考慮して書かれている ①読み手に明瞭にアイディアが伝わる文章表現・言葉遣いで書くことができる ②誤字脱字がなく書くことができる ③段落の処理や句読点の位置などの基本的な文章作法に則って書くことができる	レポートなどの成果物の本文が、以下の点をひととおり考慮して書かれている ①読み手に明瞭にアイディアが伝わる文章表現・言葉遣いで書くことができる ②誤字脱字がなく書くことができる ③段落の処理や句読点の位置などの基本的な文章作法に則って書くことができる	レポートなどの成果物の本文が、以下の点を考慮して書かれていない。 ①読み手に明瞭にアイディアが伝わる文章表現・言葉遣いで書くことができる ②誤字脱字がなく書くことができる ③段落の処理や句読点の位置などの基本的な文章作法に則って書くことができる

科目名	健康管理概論			授業番号	NJ106	サブタイトル			
教員	西田　典数								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	(1)全ての住民の健康を維持・増進させるための考え方や社会制度を学ぶ。 (2)各種保健衛生・医療等に係る情報や統計資料の種類と収集法、及び統計資料の解読に習熟する。 (3)保健・医療・福祉制度と関係法規について学ぶ。 (4)公衆衛生行政・公衆衛生活動について学ぶ。 (5)生活習慣病、精神保健等について学習する。								
到達目標	世界と日本における健康概念の歴史的変遷を考えることで、近代の健康概念・健康管理体制に至った過程を理解する。 全ての住民の健康を維持し、向上させるための具体的な保健・医療・福祉制度を学ぶ。 各種保健医療施策等の根拠法令を理解する。 健康の概念を把握し、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	健康の概念とその歴史的変遷	
第2回	人口統計と保健医療に関する各種統計	
第3回	地域保健	
第4回	母子保健	
第5回	感染症対策	
第6回	ヘルスプロモーションの歴史と現状	
第7回	成人保健１・健康日本21　総論	
第8回	成人保健２・健康日本21　各論	
第9回	我が国の健診・検診体制	
第10回	がん対策	
第11回	医療法と医療提供体制	
第12回	高齢者医療制度と介護保険制度	
第13回	在宅介護と在宅医療体制	
第14回	精神疾患の予防と医療体制	
第15回	職場の健康管理（THPの考え方に至る歴史）・まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への出席状況と学習姿勢
レポート		
小テスト		
定期試験	80	全15回の授業の中で、試験を４回に分けて行います。試験結果は、次回の授業で返却し、課題・問題点等をフィードバックします。
その他		

評価の方法：自由記載	(1)毎回、授業で重要語句と学習範囲の国家試験過去問題を配付します。授業の予習復習に役立ててください。この中から定期試験に出題します。 (2)毎回、資料を配付しますので、ファイルでの保管管理・整理等を習慣化し工夫してください。配付資料（ファイル）は、毎回授業で使用します。
受講の心得	授業で紹介する保健・医療・福祉制度や統計資料は、年単位で定期的あるいは随時、更新されるものがほとんどです。メディアを通じて発信される様々な国内・国際情報、特に保健・医療・福祉などの情報に日頃から勤めて接するよう努力してください。
授業外学修	予習：授業毎に、教科書の次回学習内容と配付プリント(重要語句、国家試験過去問題等)を確認する。 復習：教科書を見直して配付プリントに取り組む。 （週当たり4時間以上の学修を要する。）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる 2024-2025	医療情報科学研究所	メディックメディア	978-4-89632-928-5	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	「国民衛生の動向」厚生労働統計協会			
その他	各種統計調査結果はネット上でアクセスできます。 人口統計、保健統計、感染症情報、その他多くの統計が定期的に更新され、厚生労働省等からネット上に公開されます。日ごろから保健・医療・福祉等に関する最新の公開情報へのアクセスを習慣化しましょう。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	内科医師（31年）、行政(公衆衛生)医師（4年）、健診センター医師（1年）としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	保健・医療・福祉・教育等の各分野で、実務経験に基づいて授業を行います。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	健康の維持・増進や疾病予防のための助言ができる知識を身につける。	それらの内容を理解し、明確に説明できる。	それらの内容を理解し、説明できる。	それらの内容を理解しているが、説明が少し足りない。	それらの内容の理解が不十分であり、説明が足りない。	それらの内容の理解と説明が不十分である。
思考・問題解決能力	健康を維持し向上させるため、具体的な保健・医療・福祉の提供体制や制度を活用できるように学ぶ。	それらを理解し、十分に活用できる。	それらを理解し、活用できる。	それらを理解しているが、活用が少し足りない。	それらの理解が不十分であり、活用が足りない。	それらの理解と活用が不十分である。

科目名	社会福祉概論			授業番号	NJ107	サブタイトル	広義の社会福祉とは何かについて明らかにする。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	社会福祉の歴史をふまえながら，現代社会における福祉の制度について説明する。								
到達目標	社会福祉の動向を学ぶなかで，利用者本位の支援について理解する。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	私たちの暮らしと社会福祉のポイントを抑える。 わが国の少子高齢化の現状と課題について学ぶ。	
第2回	栄養士が社会福祉を学ぶ意義のポイントを抑える。 栄養士が社会福祉を学ぶ根拠等について学ぶ。	
第3回	社会福祉のあゆみのポイントを抑える。 わが国の社会福祉の沿革について学ぶ。	
第4回	社会福祉の法律のポイントを抑える。 社会福祉関係の法律，制度について学ぶ。	
第5回	社会福祉の行財政のポイントを抑える。 厚生労働省，自治体の社会福祉担当部局や財政について学ぶ。	
第6回	社会福祉の実施体制のポイントを抑える。 児童相談所棟の関係機関，社会福祉施設等について学ぶ。	
第7回	社会福祉における直接的支援のポイントを抑える。 社会福祉における直接支援について概観する。	
第8回	社会福祉における間接的支援のポイントを抑える。 社会福祉における間接支援について概観する。	
第9回	社会福祉の担い手のポイントを抑える。 社会福祉専門職の現状と課題について学ぶ。	
第10回	公的扶助のポイントを抑える。 「生活保護法」，「生活困窮者自立支援法」の制度について学ぶ。	
第11回	児童家庭福祉のポイントを抑える。 児童家庭福祉関係の法律，制度について学ぶ。	
第12回	高齢者福祉のポイントを抑える。 「年金」，「医療」等の制度，サービスについて学ぶ。	
第13回	介護保険のポイントを抑える。 介護保険制度の内容及び課題について学ぶ。	
第14回	障害者福祉のポイントを抑える。 「障害者総合支援法」の内容，課題について学ぶ。	
第15回	社会福祉の課題のポイントを抑える。 これからの社会福祉について学ぶ。	
授業計画　備考2	山陽新聞を教材に使います。3回山陽新聞の記者が特別授業を行います。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習・復習によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	30	最終的な理解度を評価する。
その他	50	社会福祉記事ワークブックで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては，授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業が始まるまでにワークの内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキスト，ワークブックの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	新聞を教材に使用します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター3年，観音寺市福祉事務所2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会福祉制度を理解する。	社会福祉制度をすべて理解できる。	社会福祉制度を概ね理解できる。	社会福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	1．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。

科目名	人と環境			授業番号	NJ202	サブタイトル			
教員	楠本　晃子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	気候変動，外来生物，生物多様性，資源・エネルギー問題，大気・水環境汚染，化学物質汚染など，現代の環境問題は私たち現代の人類がその原因を作り，私たち自身に降りかかっている問題である。授業ではこれらの環境問題を，最新の知見，データーをもとに科学的にとらえ，その現状を説明し，改善のためにとるべき対策について考える機会を与える。各自が環境問題を日常生活レベルの問題と認識して研究調査を行い，今後の改善や行動に繋がる具体的なアイデアをスライドを用いて発表する。								
到達目標	・現代環境問題生起の基本的なメカニズムについて修得し理解している。 ・食と栄養の専門家として関わりの大きい環境問題について基礎的知識の習得している。 ・環境問題に関する時事ニュースについて関心を持ち，考えることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げる学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	気候変動	
第2回	気候変動	
第3回	気候変動	
第4回	気候変動	
第5回	気候変動	
第6回	生物多様性	
第7回	生物多様性	
第8回	気候変動で起きている身近な問題について調査発表（グループ発表）	
第9回	気候変動で起きている身近な問題について調査発表（グループ発表）	
第10回	外来生物	
第11回	外来生物	
第12回	残留性有機汚染物質	
第13回	四大公害病	
第14回	生物多様性や外来生物に関する問題について調査発表（グループ発表）	
第15回	生物多様性や外来種に関する問題について調査発表（グループ発表）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	20	グループ発表の内容および完成度によって評価する。
定期試験	80	最終的な理解度および達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日頃より環境問題や生態系に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。
授業外学修	(1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として，授業で配布した資料を読み， 理解を深める。 (3)発展学修として，環境問題や生態系に関する新聞記事やニュースを読み，地域や最新の話題に関心をもつ。 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
図解でわかる 14歳から知る気候変動	インフォビジュアル研究所	太田出版	9784778317102	1，650円
図解でわかる 14歳からの生物多様性	インフォビジュアル研究所	太田出版	9784778318321	1，650円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．気候変動、環境問題、生物多様性の問題を理解し、説明することができる	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について深く理解し、説明することができる	気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する知識を十分に身につけ、理解している	気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する知識を身につけている	気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する知識を身につけていない
思考・問題解決能力	１．気候変動、環境問題、生物多様性について、問題解決に向けて、具体的な活動を提案し、能動的に取り組むことができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、自ら問題解決策を考え、能動的に行動することができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、自ら問題解決策を考え、行動することができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、問題解決策を考えることができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、問題解決策を少し考えることができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、問題解決策を考えることができない
態度	１．気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する時事ニュースについて関心を持ち、考えることができる	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について高い関心を持ち、自分の考えを持つことができる	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について高い関心を持っている	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について関心を持っている	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について少し関心を持っている	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について関心を持っていない

科目名	公衆衛生学Ⅰ			授業番号	NJ203	サブタイトル			
教員	波多江　崇								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	公衆衛生学は，人びとを疾病から守り，健康の保持・増進をはかることを目的としており，管理栄養士などの医療・健康関連分野を専門とする人びとの基礎となる学問である。学習する内容は，母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と，地域保健，精神保健，環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで，広い範囲にわたっている。そのうちで，公衆衛生学Ⅰでは，疫学，保健統計，社会保障の分野を中心に学習する。								
到達目標	・社会あるいは家庭において，人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる保健統計，疫学，社会保障の知識を身につける。 ・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集，分析，情報管理の方法を学び活用できる。 ・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での充分な実力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	公衆衛生と健康の概念（テキスト p.2～p.9）	
第2回	疫学，疫学研究のデザイン（テキスト p.10～p.11，p.19～p.25）	
第3回	EBMの実践（テキスト p.32～p.33）	
第4回	疫学の効果指標（テキスト p.15～p.18）	
第5回	検査の指標とスクリーニング（テキスト p.26～p.29）	
第6回	疾病・死亡の指標，保健統計（テキスト p.12～14，p.38～p.39）	
第7回	保健統計；人口静態統計（テキスト p.40～p.43）	
第8回	保健統計；人口動態統計（テキスト p.44～p.53）	
第9回	保健統計；死因統計（テキスト p.54～p.61）	
第10回	保健統計；疾病統計（テキスト p.62～p.65）	
第11回	社会保障と医療経済；社会保障制度（テキスト p.152～p159）	
第12回	社会保障と医療経済；医療保障制度（テキスト p.160～p.167）	
第13回	社会保障と医療経済；国民医療費（テキスト p.168～p.171）	
第14回	地域保健（テキスト p.172～p.177）	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。
授業外学修	(1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として，授業で作成したノートを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる 2022-2023	医療情報科学研究所	メディックメディア		

使用テキスト：自由記載	「公衆衛生がみえる2024-2025」（編著：医療情報科学研究所）（出版社：メディックメディア）2024年3月発刊予定 ※公衆衛生学の内容は日々更新されているので，以前のものを中古で購入しないようにしてください。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．公衆衛生と健康の概念について説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	2．わが国の保健統計について説明できる。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の保健統計について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	3．わが国の社会保障制度について説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	4．わが国の地域保健制度について説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	5．わが国の介護保険制度について説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	6．わが国の国民健康増進施策について説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。

科目名	公衆衛生学Ⅱ			授業番号	NJ204	サブタイトル			
教員	波多江　崇								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	公衆衛生学の学習内容は，母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と，地域保健，精神保健，環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで，広い範囲に亘っている。そのうちで，公衆衛生学IIでは，環境と健康，産業保健，学校保健の分野を中心に学習する。								
到達目標	・社会あるいは家庭において，人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる環境保健，産業保健，学校保健，高齢者保健，地域保健の知識を身につける。 ・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での充分な実力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	成人保健と健康増進；健康増進法，健康日本21（テキスト p.178～p.183）	
第2回	成人保健と健康増進；健康日本21（テキスト p.184～p.191）	
第3回	成人保健と健康増進；生活習慣病対策，特定健康診査・特定保健指導，がん対策（テキスト p.192～p.197）	
第4回	母子保健，母子保健法（テキスト p.198～p.207）	
第5回	出産・育児に関わる制度，母体保護法（テキスト p.208～p.213）	
第6回	高齢者保健，老人福祉法，高齢者医療確保法（テキスト p.228～p.233）	
第7回	介護保険法（テキスト p.234～p.239）	
第8回	介護保険法（テキスト p.240～p.247）	
第9回	在宅医療（テキスト p.248～p.251）	
第10回	食品保健；食品保健に関する法律，食品の表示，食品の種類と機能（テキスト p.308～p.313）	
第11回	食品保健；食中毒（テキスト p.314～p.325）	
第12回	学校保健（テキスト p.334～p.343）	
第13回	産業保健；産業保健総論，労働基準法，労働安全衛生法（テキスト p.344～p.356）	
第14回	産業保健；健康管理（テキスト p.357～p.363）	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。
授業外学修	(1)予習として，教科書のを読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として，授業で作成したノートを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる 2024-2025	医療情報科学研究所	メディックメディア		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．わが国の飲酒に関する法律・制度について説明できる。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	２．わが国の喫煙に関する法律・制度について説明できる。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	３．わが国の学校保健制度について説明できる。	わが国の学校保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の学校保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の学校保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の学校保健制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の学校保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	4．わが国の産業保健制度について説明できる。	わが国の産業保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の産業保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の産業保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の産業保健制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の産業保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	5．疫学研究の結果について説明できる。	疫学研究の結果について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	疫学研究の結果について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	疫学研究の結果について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	疫学研究の結果について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	疫学研究の結果について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。

科目名	公衆衛生学実習 1クラス(隔週)			授業番号	NJ205A	サブタイトル			
教員	波多江　崇								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	講義（公衆衛生学I・II）で学んだ健康の保持・増進を主体とした保健活動に関する知識を，実習によってより確かなものとして活用できるようにする。								
到達目標	・保健統計に用いる主な健康指標について理解し活用できる。 ・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集，分析，情報管理の方法を学び活用できる。 ・健康情報を収集するための調査法とそのデータの解析について理解し活用できる。 なお，本科目はディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	健康日本21（第1次）の目標と最終評価の理解	
第2回	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出と発表	
第3回	健康日本21（第2次）目標と中間報告の理解	
第4回	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表	
第5回	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告の理解（岡山市と日本全体の比較）	
第6回	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表（岡山市と日本全体の比較）	
第7回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画	
第8回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画と中間発表	
第9回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画の発表と質疑応答	
第10回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画修正案の発表	
第11回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画	
第12回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画と中間発表	
第13回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画の発表と質疑応答	
第14回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画修正案の発表	
第15回	危険予知トレーニング（KYT）の実践	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	発表・討議への参加状況
レポート	50	各回の内容・ポイントの的確は文章表現力
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に，講義（公衆衛生学I･II）の内容のうち，該当部分を復習しておく。事後に復習し，習得した知識を研究や国家試験問題解答に活用できるようにする。
授業外学修	発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる 2020-2021	医療情報科学研究所	メディックメディア	4896327799	3960

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．健康日本21（第1次）の目標と最終評価について説明できる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	2．健康日本21（第2次）目標と中間報告について説明できる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	3．健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について説明できる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	4．危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について説明できる。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
思考・問題解決能力	1．健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出および改善策の立案ができる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出および改善策の立案ができる。また、その改善策は問題が発生した背景および実行可能性も考慮したものである。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景は考慮しているが、実行可能性は考慮していない。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景や実行可能性を考慮していない。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出はできるが、改善策の立案はできない。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出すらできない。
思考・問題解決能力	2．健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出およびその改善策の立案ができる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。また、その改善策は問題が発生した背景および実行可能性も考慮したものである。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景は考慮しているが、実行可能性は考慮していない。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景や実行可能性を考慮していない。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出はできるが、改善策の立案はできない。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出すらできない。
思考・問題解決能力	3．健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出およびその改善策の立案ができる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。また、その改善策は問題が発生した背景および実行可能性も考慮したものである。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景は考慮しているが、実行可能性は考慮していない。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景や実行可能性を考慮していない。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出はできるが、改善策の立案はできない。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出すらできない。
思考・問題解決能力	4．危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出およびその改善策の立案ができる。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出および改善策の立案ができる。また、その改善策は問題が発生した背景および実行可能性も考慮したものである。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景は考慮しているが、実行可能性は考慮していない。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景や実行可能性を考慮していない。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出はできるが、改善策の立案はできない。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出すらできない。

科目名	公衆衛生学実習 2クラス(隔週)			授業番号	NJ205B	サブタイトル			
教員	波多江　崇								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	講義（公衆衛生学I・II）で学んだ健康の保持・増進を主体とした保健活動に関する知識を，実習によってより確かなものとして活用できるようにする。								
到達目標	・保健統計に用いる主な健康指標について理解し活用できる。 ・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集，分析，情報管理の方法を学び活用できる。 ・健康情報を収集するための調査法とそのデータの解析について理解し活用できる。 なお，本科目はディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	健康日本21（第1次）の目標と最終評価の理解	
第2回	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出と発表	
第3回	健康日本21（第2次）目標と中間報告の理解	
第4回	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表	
第5回	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告の理解（岡山市と日本全体の比較）	
第6回	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表（岡山市と日本全体の比較）	
第7回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画	
第8回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画と中間発表	
第9回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画の発表と質疑応答	
第10回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画修正案の発表	
第11回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画	
第12回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画と中間発表	
第13回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画の発表と質疑応答	
第14回	健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画修正案の発表	
第15回	危険予知トレーニング（KYT）の実践	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	発表・討議への参加状況
レポート	50	各回の内容・ポイントの的確は文章表現力
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に，講義（公衆衛生学I･II）の内容のうち，該当部分を復習しておく。事後に復習し，習得した知識を研究や国家試験問題解答に活用できるようにする。
授業外学修	発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる 2020-2021	医療情報科学研究所	メディックメディア	4896327799	3960

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．健康日本21（第1次）の目標と最終評価について説明できる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	2．健康日本21（第2次）目標と中間報告について説明できる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	健康日本21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	3．健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について説明できる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	4．危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について説明できる。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	危険予知トレーニング（KYT）の実践方法について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
思考・問題解決能力	1．健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出およびその改善策の立案ができる。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出および改善策の立案ができる。また、その改善策は問題が発生した背景および実行可能性も考慮したものである。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景は考慮しているが、実行可能性は考慮していない。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景や実行可能性を考慮していない。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出はできるが、改善策の立案はできない。	健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出すらできない。
思考・問題解決能力	2．健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出およびその改善策の立案ができる。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。また、その改善策は問題が発生した背景および実行可能性も考慮したものである。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景は考慮しているが、実行可能性は考慮していない。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景や実行可能性を考慮していない。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出はできるが、改善策の立案はできない。	健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出すらできない。
思考・問題解決能力	3．健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出およびその改善策の立案ができる。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。また、その改善策は問題が発生した背景および実行可能性も考慮したものである。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景は考慮しているが、実行可能性は考慮していない。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景や実行可能性を考慮していない。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出はできるが、改善策の立案はできない。	健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出すらできない。
思考・問題解決能力	4．危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出およびその改善策の立案ができる。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出および改善策の立案ができる。また、その改善策は問題が発生した背景および実行可能性も考慮したものである。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景は考慮しているが、実行可能性は考慮していない。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出および改善策の立案ができる。ただし、その改善策は問題が発生した背景や実行可能性を考慮していない。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出はできるが、改善策の立案はできない。	危険予知トレーニング（KYT）において問題点の抽出すらできない。

科目名	人間の科学			授業番号	NJ301	サブタイトル			
教員	赤木　收二、多田　賢代、井之川　仁、森寺　勝之								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人間は，社会と関わりをもちつつ，家庭内や地域社会等でさまざまな営みを行なっている。本授業では，さまざまな領域の一線でご活躍の有識者による講演や各担当教員の講義あるいは視聴覚教材等を聴講することにより，生活する上で将来生じうる，さまざまな課題に対する解決力を養う，「キャリア教育」として位置付けられる。								
到達目標	1. 講義・講演や他者の発言を傾聴できる。 2. 講演・講義の内容を理解し，疑問点を整理しながら，的確に質問ができる 3. 授業の中で生じた，問題の解決法について，理論的に論じることができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1回～第14回： AIと職業 疾患と差別 宗教とボランティア活動 障害者支援の実際 胃瘻増設と終末期医療 など，オムニバス形式における各講師による，さまざまなテーマに関する講義を聴講し，その内容について討論を行いつつ，レポート作成，ディスカッションなどを行う。 授業の内容・日程については初回授業の時にあらためて連絡する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	授業中の質疑応答，課題レポートを総合的に判断する。

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては，各担当教員よりコメントを記入して返却する。
受講の心得	各講師の講演は，心を開いて聴講し，疑問点があれば積極的に質問すること。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容について文献等と共に復習すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特になし。適宜，資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	講演・講義の内容を理解し，疑問点を整理しながら，的確に質問ができる	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない
思考・問題解決能力	授業の中で生じた，問題の解決法について，理論的に論じることができる。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない
態度	講義・講演を傾聴できる。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない

科目名	介護・看護演習			授業番号	NJ409	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	障害のある方(身体・知的・精神障害)の特性や老化に伴う身体的変化の状態を理解し，必要に応じた具体的な支援方法を演習形式を中心に学ぶ。								
到達目標	(1)障害のある方(身体・知的・精神障害)の特性を理解することができる。 (2)老化に伴う身体的変化を理解することが出来る。 (3)障害のある方や高齢者への安全安楽な支援方法を身につけることができる。 なお，本講義はディプロマ・ポリシーの態度の<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。								

回	概要	担当
第1回	本講義の進め方・留意点について 障害とは何か・老化に伴う身体的変化とは何か，支援の必要性について説明し理解する。	
第2回	安全・安楽な支援方法の重要性について 対象者理解の必要性について理解する。	
第3回	コミュニケーション障害について(1) 具体的な支援方法(発達障害や知的障害)の実際を理解する。 コミュケーション障害の体験と支援者の演習を行う。	
第4回	コミュニケーション障害について(2) 具体的な支援方法(構音障害・失語・難聴)の実際を理解する。 コミュケーション障害の体験と支援者の演習を行う。	
第5回	視覚に障害がある状態について アイマスク体験及び支援方法・注意点を理解する。 視覚障害者支援の体験と支援者の演習を行う。	
第6回	移動が困難な状態について(1) 支援方法(歩行介助・杖やストレッチャー)を理解する。 移動困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第7回	移動が困難な状態について(2) 支援方法(車いす)を理解する。 移動困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第8回	食事が困難な状態について 食事介助の支援方法を理解する。 食事困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第9回	入浴が困難な状態について(1) 部分清拭(足浴)の方法を理解する。 入浴困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第10回	入浴が困難な状態について(2) 部分清拭(手浴)の方法を理解する。 入浴困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第11回	排泄が困難な状態について(1) 排泄介助の支援方法を理解する。 排泄困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第12回	排泄が困難な状態について(2) ストーマや尿路カテーテルの管理方法を理解する。 ストーマや尿路カテーテルの生活上の留意点を理解する。	
第13回	着脱が困難な状態について 衣服交換の支援方法を理解する。 着脱困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第14回	バリアフリーや共生社会の定義や概要・地域社会のなかの課題を理解する。 グループワークを行い，それぞれが考える地域共生社会のあり方を発表する。	
第15回	障害の理解・高齢者の理解を確認し，演習や講義のまとめを行う。 最終課題の説明を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業に集中して取り組むことができているかで評価を行う。
レポート	25	授業内の気づきが記述ができているかで評価を行う。 リアクションペーパーの内容は次回の講義でフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他	25	課題に対して自分の意見が的確に記述が出来ているかで評価を行う。

評価の方法：自由記載	・毎回の授業終了前に，リアクションペーパーを記述していただきます。(約10分) ・最終評価の課題レポートには，全体を振り返って自分の意見を記述していただきます。 受講態度，リアクションペーパー，最終レポートを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は，前半座学・後半実技演習を中心に進めていきます。 ・動きやすい服装と身だしなみで出席すること。 ・学生同士で演習を行うこともあります。支援対象者の気持ちを大切にすることを意識してください。
授業外学修	1.予習として，次週の講義内容に関わる内容について疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	レジュメを配布します。 各自でファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6カ月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員業務）1年，計15年6カ月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性を理解できる。	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について理解でき、特徴や留意する事項を述べることができている。	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について理解でき、特徴や留意する事項を適切に述べることができている。	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について理解できているが、特徴や留意する事項を述べることができていない。	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について一部理解できているが、特徴や留意する事項を述べることもできていない。	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について特徴や留意する事項を全く述べることができていない。
知識・理解	２．バリアフリーや地域社会における共生社会の課題を理解できる。	バリアフリーや地域共生社会の意味はその必要性や意義について具体的に説明できている。	バリアフリーや地域共生社会の意味はやその必要性や意義について説明できている。	バリアフリーや地域共生社会の意味はわかるが、その必要性や意義について説明できない。	バリアフリーや地域共生社会の意味は何となくわかるがその必要性や意義について説明できない。	バリアフリーや地域共生社会とは何か理解できていない。
思考・問題解決能力	１．支援技術が適切な方法であるか考えて実施ができる。	安全な支援方法をを実施するための危険予測や課題を見つけることができ、それに対応できる解決策を具体的に述べることができている。	安全な支援方法をを実施するための危険予測や課題を見つけることができ、それに対応できる解決策を述べることができている。	安全な支援方法をを実施するための危険予測や課題を一部見つけることができ、それに対応できる解決策を曖昧だが述べることができている。	安全な支援方法をを実施するための危険予測や課題を一部見つけることができ、それに対応できる解決策を述べることはできない。	安全な支援方法を実施するための危険予測や課題を全く理解できない。
技能	１．各支援方法の実際を手順に則り、安全安楽に留意し実施することができる。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ、対象者への心理的支援の必要性を考えることができ、適切な声かけや支援方法を見出すことができる。安全安楽への配慮が的確にできている。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ、対象者への心理的支援の必要性を考えることができ、声かけや支援方法を見出すことができる。安全安楽への配慮ができている。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ、対象者への心理的支援の必要性を考えることができるが、声かけや支援方法への内容は欠けている。安全安楽への配慮がほぼ行えている。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ、対象者への心理的支援の必要性の一部を考えることができるが、声かけや支援方法は考えることができていない。安全安楽への配慮が乏しい。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを考えることが全くできない。また、対象者への心理的支援の必要性や声かけや支援方法を考えることができない。安全安楽への配慮が全くできていない。
態度	１．介護者として他者を思いやり相手の視点に立ち、支援を行うことができる。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援を的確に理解し、必要な支援を考える力が身についている。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援を理解し必要な支援を考える力が身についている。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援を理解しているが、必要な支援を考えることはできていない。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援は、一部は理解しているが、具体的な必要な支援を考えることはできていない。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援を全く理解できていない。

科目名	細胞生理化学実験 1クラス(隔週)			授業番号	NK104A	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	人体の組織観察，手羽先の解剖を通して，器官，組織の構成と，それぞれのつながりを理解することで，人体の構造を理解する。浸透圧，たんぱく質，糖質の実験をとおして細胞で行われる反応を理解する。これらの基礎的な実験を行うことで，「解剖生理学実験」，「生化学実験」を行う上での知識と実験技術を習得する。								
到達目標	器官，組織，細胞レベルでの構造と構成，それぞれのつながりが視覚的に理解できるとともに，身体で起こる反応の一つ一つが細胞内での反応であることを理解する。 本実験を通して実験を行う上での基礎知識と技術を習得し，次年度以降に開講される解剖生理学実験，生化学実験において習得した知識と技術が生かされるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	顕微鏡の使用方法 実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。	
第2回	顕微鏡の使用方法 実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。	
第3回	動物細胞と植物細胞の観察 植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。	
第4回	動物細胞と植物細胞の観察 植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。	
第5回	細胞の観察と顕微鏡での計測 植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。	
第6回	細胞の観察と顕微鏡での計測 植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。	
第7回	手羽先の解剖 ―動物の組織観察― 器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。	
第8回	手羽先の解剖 ―動物の組織観察― 器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。	
第9回	組織を構成する細胞の観察 手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。	
第10回	組織を構成する細胞の観察 手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。	
第11回	糖質の定性反応―糖質共通の反応 単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。	
第12回	糖質の定性反応―糖質共通の反応 単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。	
第13回	たんぱく質の定性反応―凝固・沈殿反応 卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。	
第14回	たんぱく質の定性反応―凝固・沈殿反応 卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。	
第15回	定性実験のまとめ 糖質の定性，たんぱく質の定性実験を通して得られた結果から栄養素の構造的特徴を理解するとともに，判別に必要な検出方法について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	積極的な実験に関わる態度によって評価する。
レポート	70	実験の理解度をレポートで評価する。レポートには毎実験課題を設ける。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実験は実際に行って初めて修得できる科目である。正当な理由なしで実験を欠席した者は単位を取得できない。やむを得ない欠席や遅刻の場合は，後日自ら実際に実験すること。
授業外学修	時間外学修をとおして，実験で修得した内容を体系的に理解しておくことが重要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	人間栄養学科編「細胞生理化学実験テキスト」を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録	鈴木孝仁 監修	数研出版	978-4-410-28166-2	1，130円＋税

参考書：自由記載	「栄養生理・生化学実験」近藤義和ほか 編　朝倉書店 「生化学実験」林淳三 編　建帛社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．実験結果をまとめることができる。	実験結果から適切な表やグラフにまとめ、視覚的にも分かりやすい表やグラフを作成することができる。	実験結果から適切な表やグラフにまとめることができる。	実験結果から表やグラフにまとめることができる。	実験結果から何らかの表やグラフを作成することができる。	実験結果を表やグラフにまとめることができない。
思考・問題解決能力	2．実験結果から考察ができる。	実験結果をまとめた表やグラフから目的を考察することができる。また補足や追加の実験などの提案もできる。	実験結果をまとめた表やグラフから自らの意見も含めて考察することができる。	実験結果をまとめた表やグラフから目的を考察できる。	実験結果をまとめた表やグラフから結果をまとめることができる。	実験結果をまとめた表やグラフから何を考察したらよいのか分からない。
技能	1．顕微鏡を用いて実験ができる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができ、顕微鏡観察や観察しながらデータ収集もできる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができ、より鮮明な顕微鏡観察ができる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができ、顕微鏡観察もできる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成はできるが、顕微鏡の操作が困難である。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができない。
態度	1．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に発言し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	授業に参加しているが、十分に内容を理解していない。	授業の内容を理解していない。

科目名	細胞生理化学実験 2クラス(隔週)			授業番号	NK104B	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	人体の組織観察，手羽先の解剖を通して，器官，組織の構成と，それぞれのつながりを理解することで，人体の構造を理解する。浸透圧，たんぱく質，糖質の実験をとおして細胞で行われる反応を理解する。これらの基礎的な実験を行うことで，「解剖生理学実験」，「生化学実験」を行う上での知識と実験技術を習得する。								
到達目標	器官，組織，細胞レベルでの構造と構成，それぞれのつながりが視覚的に理解できるとともに，身体で起こる反応の一つ一つが細胞内での反応であることを理解する。 本実験を通して実験を行う上での基礎知識と技術を習得し，次年度以降に開講される解剖生理学実験，生化学実験において習得した知識と技術が生かされるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	顕微鏡の使用方法 実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。	
第2回	顕微鏡の使用方法 実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。	
第3回	動物細胞と植物細胞の観察 植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。	
第4回	動物細胞と植物細胞の観察 植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。	
第5回	細胞の観察と顕微鏡での計測 植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。	
第6回	細胞の観察と顕微鏡での計測 植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。	
第7回	手羽先の解剖 ―動物の組織観察― 器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。	
第8回	手羽先の解剖 ―動物の組織観察― 器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。	
第9回	組織を構成する細胞の観察 手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。	
第10回	組織を構成する細胞の観察 手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。	
第11回	糖質の定性反応―糖質共通の反応 単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。	
第12回	糖質の定性反応―糖質共通の反応 単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。	
第13回	たんぱく質の定性反応―凝固・沈殿反応 卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。	
第14回	たんぱく質の定性反応―凝固・沈殿反応 卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。	
第15回	定性実験のまとめ 糖質の定性，たんぱく質の定性実験を通して得られた結果から栄養素の構造的特徴を理解するとともに，判別に必要な検出方法について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	積極的な実験に関わる態度によって評価する。
レポート	70	実験の理解度をレポートで評価する。レポートには毎実験課題を設ける。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実験は実際に行って初めて修得できる科目である。正当な理由なしで実験を欠席した者は単位を取得できない。やむを得ない欠席や遅刻の場合は，後日自ら実際に実験すること。
授業外学修	時間外学修をとおして，実験で修得した内容を体系的に理解しておくことが重要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	人間栄養学科編「細胞生理化学実験テキスト」を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録	鈴木孝仁 監修	数研出版	978-4-410-28166-2	1，130円＋税

参考書：自由記載	「栄養生理・生化学実験」近藤義和ほか 編　朝倉書店 「生化学実験」林淳三 編　建帛社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．実験結果をまとめることができる。	実験結果から適切な表やグラフにまとめ、視覚的にも分かりやすい表やグラフを作成することができる。	実験結果から適切な表やグラフにまとめることができる。	実験結果から表やグラフにまとめることができる。	実験結果から何らかの表やグラフを作成することができる。	実験結果を表やグラフにまとめることができない。
思考・問題解決能力	2．実験結果から考察ができる。	実験結果をまとめた表やグラフから目的を考察することができる。また補足や追加の実験などの提案もできる。	実験結果をまとめた表やグラフから自らの意見も含めて考察することができる。	実験結果をまとめた表やグラフから目的を考察できる。	実験結果をまとめた表やグラフから結果をまとめることができる。	実験結果をまとめた表やグラフから何を考察したらよいのか分からない。
技能	1．顕微鏡を用いて実験ができる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができ、顕微鏡観察や観察しながらデータ収集もできる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができ、より鮮明な顕微鏡観察ができる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができ、顕微鏡観察もできる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成はできるが、顕微鏡の操作が困難である。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができない。
態度	1．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に発言し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	授業に参加しているが、十分に内容を理解していない。	授業の内容を理解していない。

科目名	生化学Ⅰ			授業番号	NK105	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	生化学とは生命現象を化学的に研究する，化学と生物学の融合した学問である。 生化学Ⅰでは，栄養学的にも非常に重要な成分である糖質，脂質，アミノ酸とタンパク質等の種類や構造・機能について学修する。 タンパク質は生細胞中最も多量に存在する高分子であり、すべての細胞中、また、細胞のすべての部分に含まれている。これらのタンパク質のアミノ酸配列及び立体構造と機能との関連、また、生理作用との関係について分子レベルから考えてみる。さらに機能タンパク質としての酵素の働きについて、構造と反応様式を中心に講述する。さらに、生体で起こっているエネルギー獲得のための糖の基本的な代謝経路についても講述する。								
到達目標	1. 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、など）の構造に基づく化学的性質を説明できる。 2.代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を栄養学の観点から説明できる。 3. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。 4. タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。 5. 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。 6. タンパク質の細胞内での分解について説明できる。 7. 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。 8. 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。 9. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。 10. エネルギー代謝の概要を説明できる。 11. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。 12.糖新生について説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	糖質の種類と分類	
第2回	糖質の構造	
第3回	脂質の種類と分類	
第4回	各種脂質の構造と性質	
第5回	アミノ酸の構造	
第6回	アミノ酸の性質	
第7回	アミノ酸とペプチド	
第8回	タンパク質の構造	
第9回	タンパク質の分類と機能	
第10回	タンパク質の成熟と分解、タンパク質解析の基本技術	
第11回	酵素の作用機序	
第12回	酵素反応の速度論	
第13回	酵素活性の阻害、酵素反応における補酵素の働き	
第14回	糖質の代謝（解糖系）	
第15回	糖質の代謝（糖新生、解糖と糖新生の協調的調節）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度、状況によって評価する。
中間テストおよび定期試験	80	中間テストおよび定期試験により、最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	必須科目であるため，管理栄養士国家試験につながる厳密な評価試験を行う。 定期試験および中間テストの成績を素点とし、授業への取り組み姿勢を加点して評価する。
受講の心得	生化学は，生命現象を化学的に研究する，化学と生物学の融合した学問である。 生化学１では，基本的栄養成分や，生体機能を担うタンパク質の基本事項を学習するため，２年次後期以降に開講される管理栄養士・栄養士のための専門科目に向けて理解が必須な科目である。 学習を先送りすることなく，毎回講義内容を身につけていくこと。
授業外学修	必須科目であり，理解には時間を要するかもしれない。 講義は基本的に板書を行う。従って、記憶の新しいうちにノートをまとめておくことが望ましい。 毎回の復習が重要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド　生化学	園田 勝　編	羊土社	978-4-7581-1354-0	2800
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で紹介する。			
その他	専門科目の理解のためには，避けて通れない必須科目である。 管理栄養士国家試験の頻出項目を多く含んでいる。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質の種類と構造について理解している。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質に関する知識について、大体述べることができる。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．酵素の作用機序について理解している。	学修した酵素の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した酵素の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した酵素に関する知識について、大体述べることができる。	学修した酵素に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した酵素に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	３．糖質の代謝について理解している。	学修した糖質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した糖質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した糖質に関する知識について、大体述べることができる。	学修した糖質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した糖質に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．健康維持のための栄養素の種類・構造・代謝経路について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	解剖生理学 I			授業番号	NK201	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	授業概要：管理栄養士として栄養指導を行うためには、栄養がどのように人体で利用されるかを知らなければならない。解剖生理学の講義は、身体の深遠な複雑性と栄養の本質について深く理解する上で不可欠であり、身体がどれほど神秘的で複雑な構造と機能を持つかを認識する手段である。身体は単なる機械ではなく、骨格、筋肉、器官、神経などが織り成す一つの芸術品とも言える。解剖生理学を学ぶことで、栄養がどのように身体全体で吸収され、代謝され、エネルギーとなっているかを理解する手助けとなる。身体の構造と栄養の交わりは、個々の細胞から全体の健康へと繋がる。身体の各部位が自然の秩序に従い、連動し、器官や組織は個別に機能するだけでなく、全体としての連携を保ちながら生命の秩序を構築している。このことを理解することは、栄養をもとに心身の全体的な健康を追求する根拠となる。本講義では人体の構造（解剖学）と機能（生理学）についての基礎を中心に講義する。								
到達目標	"本講義を受講することで、管理栄養士として身につけておくべき人体の構造と機能について各系統レベルでの基礎を学び、理解し説明できるようになる。 ・各系統レベルでの構造の特徴と名称を言える。 ・各系統レベルでの機能を説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。"								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	"概要・細胞と組織 解剖生理学は解剖学と生理学の双方を学ぶ講義である。人体の構成要素を解剖学的視点と生理学的視点の両方から理解するために それぞれの学問の概要を説明する。さらに、我々の人体を構成する要素とその体系的な働きを理解するために細胞と組織の構造と機能を理解する。"	
第2回	"情報伝達 人体は50兆以上もの多彩な細胞により構成されている。これらの細胞が適切に働くためにはお互いにコミュニケーション（情報伝達）を取る必要がある。細胞間の情報伝達は、相互に依存し合い、共鳴しあう存在の示唆である。各細胞が他の細胞とコミュニケーションをとり、信号を交換することで、生命全体が一つの調和の中で共存していると考えることができる。細胞は異なる方法で情報を共有し、受容しする。細胞膜を通じての物質の取り込みや放出、細胞内でのシグナル伝達などがこれに該当する。本講義では、化学物質を用いて情報伝達を行う基本的な仕組みを理解する。"	
第3回	"神経系 I 神経系は数多くの神経細胞とシナプスから構成され、それぞれが異なる役割を果たしている。これは統一と多様性が調和する複雑なシステムであり、個体が一体として機能しつつも多彩な経験や視点を持つことを示唆している。脳は私たちの意識の中心であり、神経活動が知覚や思考、感情などを生み出す原動力となっています。神経系を通じて私たちが自己と外部世界との関係を構築し、その意味を追求していると考えることができる。神経系は、情報を伝達し、処理し、統合する複雑なネットワークであり、信号の伝達、情報処理、そして応答の機能を持つ生体の情報処理システムと考えることができる。本講義では、人体を統合的に制御しているのは神経系を構成する神経細胞（ニューロン）と神経膠細胞（グリア細胞）について理解を深める。また、中枢神経、末梢神経の構造および脳脊髄神経の構造と機能について理解する。"	
第4回	"神経系 II 神経系は数多くの神経細胞とシナプスから構成され、それぞれが異なる役割を果たしています。これは統一と多様性が調和する複雑なシステムであり、個体が一体として機能しつつも多彩な経験や視点を持つことを示唆しています。脳は私たちの意識の中心であり、神経活動が知覚や思考、感情などを生み出す原動力となっています。神経系を通じて私たちが自己と外部世界との関係を構築し、その意味を追求していると考えることができます。神経系は、情報を伝達し、処理し、統合する複雑なネットワークであり、信号の伝達、情報処理、そして応答の機能を持つ生体の情報処理システムと考えることができます。本講義では、中枢神経特に大脳の構造と機能や脊髄の反射回路についてその構造と機能の基礎を理解する。"	
第5回	"内分泌系 内分泌細胞が分泌し、極微量でありながら細胞の機能を調節する化学物質をホルモンと呼ぶ。ホルモンは血液中に分泌され、全身を巡るが特定の細胞だけがその作用を受ける。これには受容体と呼ばれるホルモンを受け取る仕組みが関与している。つまり内分泌系は、ホルモンを介して身体の異なる部位や機能との調和を担当している。この系統が円滑に機能することで、個体は成長、発達、繁殖、エネルギー利用などの複雑なプロセスを調整できる。これはまさに生命のシンフォニーであり、内分泌系が指揮棒を振り、各器官や機能がハーモニーを奏でる様子を想像させる。本講義では内分泌の基本的な仕組みと体内の内分泌系について理解する。"	
第6回	"筋・骨格 筋と骨格は動物が自身の身体を移動させるために発達させてきた。骨は骨格として身体を支えるものであるが、働きはそれだけではない。造血やカルシウムの貯蔵庫としての働きもある。筋組織は大別すると骨格筋、心筋、平滑筋３種類があり、それぞれ特徴や役割が異なっている。骨格筋は身体中には約400種類あるといわれており様々な働きを持つ。筋と骨の基本的な構造と機能、関節とともに働く骨格筋の運動機能を理解する。"	
第7回	"消化器系 I 消化器系は1本の長い管からなる消化管とそれに付属する付属器から構成される。体内を貫く消化管の内部は体内にあっても体外と繋がっており、そこに分泌することを外分泌と呼ぶ。食べ物を消化することは、外部の世界から身体の内部への交流の一環です。食べ物は外部の環境から取り入れられ、身体はこれを内部で受け入れ、変容させていく。消化器系はまた、身体の恒常性を保つ重要な機能を果たする。栄養素やエネルギーの摂取により身体が安定した状態を維持できるように働く消化器系について、消化管とその付属器の構造と基礎的な消化・吸収の働きを理解する。"	
第8回	"消化器系 II 消化器系は1本の長い管からなる消化管とそれに付属する付属器から構成される。体内を貫く消化管の内部は体内にあっても体外と繋がっており、そこに分泌することを外分泌と呼ぶ。食べ物を消化することは、外部の世界から身体の内部への交流の一環です。食べ物は外部の環境から取り入れられ、身体はこれを内部で受け入れ、変容させていく。消化器系はまた、身体の恒常性を保つ重要な機能を果たする。栄養素やエネルギーの摂取により身体が安定した状態を維持できるように働く消化器系について、消化管とその付属器の構造と基礎的な消化・吸収の働きを理解する。"	
第9回	"血液・リンパ系 血液は血管の中を循環する液体で、多様な生理学的機能を担う重要な組織です。水分が殆どを占めるが、他には血球類、蛋白質、糖質、脂質等の栄養素や無機塩類などが含まれている。血液は栄養素や酸素の供給だけでなく、代謝産物の排出やホルモンの運搬、免疫応答のサポートなど、様々な機能を果たしています。リンパ液は血液がろ過された液体で、免疫に関連する血球類が含まれる。体内の50兆もの細胞に栄養や酸素を届ける血液、そして免疫に関係するリンパ系の構造と機能を理解する。"	
第10回	"循環器系 循環器系は身体に栄養と酸素を供給し、同時に老廃物や二酸化炭素など不要な物質を運搬排出することで、生命の継続と調和を支える重要なシステムです。循環器系は心臓と血管系からなり、血液を循環させる役割を持つ。血液を循環させる心臓および血液を流す血管系、動脈と静脈について構造と働きの基礎を理解する。"	
第11回	呼吸器系 呼吸器系は体内に酸素を取り込み、二酸化炭素を排泄する役割を持つ。酸素および二酸化炭素のガス交換は肺の内部にある肺胞とそれを取り囲む毛細血管との間で行われている。呼吸は生命の営みを象徴し、吸気と呼気の循環は個体の存在そのものを表現しています。呼吸をするために用いられる筋肉、呼吸筋を含め、呼吸器系の構造と機能の基礎を理解する。	
第12回	腎・泌尿器系 腎臓は血液をろ過して老廃物を除去するだけではなく、血圧調節やカルシウム吸収に重要な役割をもつ臓器である。つまり、腎臓は身体の浄化と調和の司令塔といえるでしょう。血液中の老廃物や余分な塩分を取り除き、体内の水分と電解質のバランスを保つことで、腎臓は身体の調和を維持しています。泌尿器系は血液をろ過して生成された尿を貯め、排泄するための臓器である。腎臓・泌尿器系の構造と機能の基礎を学び、尿生成の仕組みについて理解する。	
第13回	"生殖器系 生殖器系は、生命の連綿とした流れを担い、個々の存在が宇宙の中で自身の存在を確立し、その中で一時的なが永遠のような継続を果たす手段ともいえる。生殖は、単なる生物学的な行為だけでなく、個体が自身の存在や遺伝子を未来へと誇り高く継承していく根源的な行為である。男性と女性という性の違いについて、生殖器の構造と機能の基礎を理解する。"	
第14回	"免疫系 免疫系は身体を守り、異物や病原体から守るための防御システムです。これは、体内に侵入した細菌、ウイルス、真菌などの異物に対抗するために働く複雑な仕組みで構成されています。免疫系はまさに身体の境界線を定め、内部と外部、自己と非自己を区別する。この境界線が曖昧になると、身体は混乱し、異常な免疫応答が引き起こされる。本講義では、免疫系を構成する要素である血球類について基本的な機能を理解する。"	
第15回	"感覚系 感覚系は私たちが存在するということの証拠であり、私たちの経験が現実との交わりの中で築かれていることを示唆しています。色や音、触感などの感覚が私たちにもたらす印象や感情は、私たちが存在し、世界と繋がっていることの証明となります。感覚系は身体が外部からの情報を受け取り、それを処理して知覚や行動に変換する複雑なネットワークです。生体の情報処理システムとして機能し、外界からの刺激をデータとして取り込み、それを解釈して経験を形成する。感覚器はセンサーのようなもので、例えば目、耳、皮膚、舌、鼻などが含まれます。これらの感覚器は外部からの刺激を受け取り、その情報を神経経路を通じて中枢神経系に伝達する。ここでの情報は、電気的な信号として処理され、脳内で統合されます。本講義では、このような感覚系を構成するこの感覚器の構造と機能を理解する。"	
授業計画 備考2	生物学，基礎栄養学で学んだ内容の復習を十分行っておくこと。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	課題の得点と取り組みにより評価する。内容について講評する。
レポート		
小テスト	10	各授業での理解度を確認する小テストを行う。結果について講評する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。
受講の心得	高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。 予習，復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。
授業外学修	講義内容の復習と記憶定着のための課題を課す。 毎週最低4時間の講義内容の予習，復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫他	羊土社	978-4-7581-1362-5	2，900円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『標準生理学』,『現代の生理学』,『医科生理学展望』			
その他	図書館には解剖生理学に関する蔵書が取りそろえてあるので､復習に活用すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	知識	講義で述べた範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	講義で述べた範囲について完全に理解し説明できる。	講義で述べた範囲についておおよそ理解し説明できる。	講義で述べた範囲についていくつか理解し説明できる。	講義で述べた範囲について理解しておらず説明できない。
知識・理解	理解度	講義で述べた範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	講義で述べた範囲について完全に理解し説明できる。	講義で述べた範囲についておおよそ理解し説明できる。	講義で述べた範囲についていくつか理解し説明できる。	講義で述べた範囲について理解しておらず説明できない。
思考・問題解決能力	個体の恒常性を維持する器官の相互作用を説明できる。	恒常性を維持する器官の相互作用について完全に理解し説明でき，恒常性破綻による疾患の理解もしている。	恒常性を維持する器官の相互作用についてほぼ理解ができていて説明ができる。	恒常性を維持する器官の相互作用についておおよそ理解ができていて説明できる。	恒常性を維持する器官の相互作用について最低限度理解ができている。	恒常性を維持する器官の相互作用について理解てきていない。
態度	予習	講義の狙いを完全に理解し説明できる。	講義の狙いをほぼ理解し説明できる。	講義の狙いをおおよそ理解し説明できる。	講義の狙いを示すことができる。	講義の狙いを示すことができない。
態度	復習	復習問題を完全に解答できる。	復習問題をほぼ解答できる。	復習問題をおおよそ解答できる。	復習問題をいくつか解答できる。	復習問題を全く解答できない。

科目名	解剖生理学Ⅱ			授業番号	NK202	サブタイトル			
教員	井之川　仁								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	管理栄養士として栄養指導を行うためには、栄養がどのように人体で利用されるかを知らなければならない。解剖生理学の講義は、身体の深遠な複雑性と栄養の本質について深く理解する上で不可欠であり、身体がどれほど神秘的で複雑な構造と機能を持つかを認識する手段である。身体は単なる機械ではなく、骨格、筋肉、器官、神経などが織り成す一つの芸術品とも言える。解剖生理学を学ぶことで、栄養がどのように身体全体で吸収され、代謝され、エネルギーとなっているかを理解する手助けとなる。身体の構造と栄養の交わりは、個々の細胞から全体の健康へと繋がる。身体の各部位が自然の秩序に従い、連動し、器官や組織は個別に機能するだけでなく、全体としての連携を保ちながら生命の秩序を構築している。このことを理解することは、栄養をもとに心身の全体的な健康を追求する根拠となる。本講義では人体の構造（解剖学）と機能（生理学）についての基礎となる解剖生理学Ⅰをふまえ恒常性の維持や個体としての統合された生理機能発現の仕組みを中心に講義する。								
到達目標	本講義を受講することで、管理栄養士として身につけておくべき人体の構造と機能について各系統レベルでの基礎に加え、発展的な内容を理解し説明できるようになる。 ・各系統レベルでの機能に加え、他の器官との相互作用を説明できる。 ・個体としての統合された生理機能の仕組みを説明できる。 ・恒常性の破綻が引き起こす幾つかのメカニズムや症状を説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解>および<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	"体温 体温は私たちが生きるということの象徴とも言える。生命の本質は恒常性を保ちながらも、外部環境に柔軟に対応することである。体温は私たちが存在する限り変化し続け、その変動は生命の流れの一部として捉えられるでしょう。体温とその維持システムは、生体の重要なホメオスタシス（恒常性維持）メカニズムであり、通常は約36.5～37.5度の範囲に保たれる。この範囲を超えると生体の正常な機能が損なわれる可能性がある。体温維持のために全身には温度センサーがあり、その情報をもとにある一定範囲の体温を維持するために様々な器官を調節している。本講義では体温維持のための基本的な機構を理解する。"	
第2回	シナプス伝達 シナプス伝達は神経系において極めて重要なプロセスである。シナプス伝達は神経細胞間で情報を伝達する基本的な仕組みで、神経細胞がシナプスを通じて相互に信号を送り合うことで、感覚情報や運動指令などが効果的かつ迅速に伝達される。また、シナプス伝達は学習と記憶に深く関与している。経験による学習が生じると、シナプス結合の変化が生じ、新しい情報が取り込まれる。この神経可塑性によって、長期的な学習や記憶が可能になる。さらに、シナプス伝達は意識や感情の形成にも関連している。神経活動が感情や思考を生み出し、それがシナプス伝達を通じて他の神経細胞へ影響を与えることで、個体の心理的な側面が形成されると考えられている。本講義ではシナプス伝達の仕組みを中枢神経、神経筋接合部、自律神経系等をモデルにして理解する。またシナプス可塑性についても理解する。	
第3回	"自律神経系・脳神経系 自律神経系は生体の微妙な調和と均衡を司る無意の指揮者であり、不可視の糸で結ばれた二つの相貌、交感神経と副交感神経から成り、この二つの神経系は、体内の環境を適切に調節し、体のバランスを保つために対照的な役割を果たす。交感神経系は、身体を活性化させる役割をもち、一方、副交感神経系は、体を落ち着かせる役割を果たす。自律神経系は、生命活動を維持するための基盤となる働きをしている。 脳神経とは、脳から直接出ている神経のことで、主に頭部や首の機能を制御している。全部で12対あり、それぞれの脳神経は特異な機能を持ち、我々の日常生活の中で様々な役割を果たしている。例えば、視覚を司るのが第二脳神経である視神経で、目からの光の情報を脳に伝え、第十二脳神経である舌下神経は舌の筋肉を制御し、話すことや飲食を可能にしている。これらの脳神経は、私たちが感じ、行動し、コミュニケートするために不可欠な要素であり、頭部や首の筋肉の動きはもちろん、視覚、聴覚、嗅覚、味覚といった感覚を制御している。本講義では、自律神経および脳神経の構造と機能を理解する。"	
第4回	"視床下部・延髄による制御 視床下部の機能を学ぶことは、生命の根源的な理解と身体の調和を深め、健康や生活の質を向上させる上で極めて重要である。視床下部は生体内の調節機構を司り、ホメオスタシス（恒常性）を維持する中心的な役割を果たしている。この機能を理解することは、まず、身体がどのように外部環境と対話し、内部の安定を保つのかを理解する一歩である。食欲や摂食制御、体温調節、ホルモンの分泌など、視床下部が関与する生理学的なプロセスは、私たちの日常生活に直結している。視床下部の学習機能は、食事と栄養の理解にも深く関わります。食欲や満腹感を制御するメカニズムの理解は、栄養の適切な摂取と体重管理に寄与する。また、ホルモンの分泌を調節する視床下部は、成長、生殖、代謝など様々な生理的プロセスにも影響を与える。つまり、視床下部の機能を学ぶことは、生命の基本的なメカニズムを理解し、バランスのとれた健康な生活を築くうえで不可欠であり、より良い生活をサポートする知識が得られる。本講義では視床下部および延髄が行う制御機構について理解する。"	
第5回	"内分泌系 甲状腺ホルモンは基礎代謝率やエネルギー生産に影響を与え、体温や体重、細胞の成長と分化が制御される。腎臓はアルドステロンとレニンを分泌し、血圧と電解質バランスを調整する。副腎はコルチゾールやアドレナリンを分泌し、ストレス応答や免疫機能を調節する。精巣は男性の生殖機能に関与し、テストステロンを分泌し、精子の生産や性的特徴の発現に影響を与える。卵巣は女性の生殖機能を担い、エストロゲンとプロゲステロンを分泌し、月経周期、妊娠、骨密度の維持などに関与する。これらの内分泌器官の理解は、栄養学の分野で様々な疾患や健康問題に対処するために不可欠である。これらの器官の働きを理解することで、将来的に患者や一般の人々へのアドバイスや栄養指導において的確なアプローチが可能になる。本講義ではこれらの内分泌系の構造と機能について理解する。また正常な内分泌機能の破綻が引き起こす症状についても理解する。"	
第6回	"骨とカルシウム代謝 骨は絶えずリモデリングされており、新しい骨が生成される一方で、古い骨が分解されている。これにより、骨の形状や強度が維持され、外部の環境や身体のニーズに適応できる。骨のリモデリングは、骨の主要な構成要素であるカルシウムの代謝と強く結びついている。カルシウムは骨の強度と硬度を維持するために必要であると同時に、神経伝達、筋肉収縮、血液凝固などの生体機能にも関与している。また、骨折や骨粗しょう症などの骨の疾患は、骨の健康に関連する問題である。正しい栄養とカルシウム代謝の理解は、これらの疾患の予防や治療に不可欠である。骨とカルシウム代謝の理解は、成長期から老年期まで、生涯を通じた健康の維持に関連している。特に成長期や妊娠中の十分な栄養とカルシウムは、将来の骨の健康に影響を与える。本講義では骨のリモデリングを踏まえカルシウム代謝の仕組みや他の様々な役割を理解する。"	
第7回	"栄養素の消化吸収 食物は単なる物質ではなく、生命のエネルギーとしての軌跡を描く神秘的な存在である。消化吸収は、食物が物理的な存在から生体を構成する要素や精神を作りだす要素への変換の始まりと言えるだろう。食物の消化吸収は単なる栄養の取り込みではなく、生命の神秘的で深い融合の瞬間であると捉えられる。三大栄養素はエネルギー源として重要で、炭水化物は主にブドウ糖となり、脂質は脂肪酸とグリセロール、たんぱく質はアミノ酸に分解され、これらは代謝によってエネルギーに変換される。また、栄養素の消化吸収は、身体の成長、修復、代謝などの基本的な生理学的プロセスに不可欠である。ビタミンやミネラルも同様に重要で、これらは体内の各種酵素や代謝経路において補因子として機能する。例えば、ビタミンCはコラーゲン合成に必要で、鉄の吸収を促進する。消化吸収の理解はまた、栄養状態や健康状態の評価にも関連する。各栄養素の不足や過剰は栄養失調や慢性疾患の原因となり、例えば、鉄やビタミンDの不足は貧血や骨粗しょう症のリスクを高める。逆に、脂質の摂りすぎは動脈硬化や心臓病のリスクを増大させる。食事の質は生活習慣病や肥満、代謝症候群などの予防や管理にも影響する。栄養素の役割や相互作用を理解することは、将来の栄養指導や健康教育において適切なアドバイスができるようになるために重要である。本講義では、様々な栄養素の消化吸収の仕組みについて、分子レベルから理解する。"	
第8回	"消化器官の統合的調節 消化器官は、単なる食物の取り込みだけでなく、それを栄養素に変換し、体内で利用可能なエネルギーや成分にする複雑なプロセスに関与している。このシステムは、消化管と肝臓、膵臓などの付随する器官が協力して統合的に働くことで正常な機能を達成している。最初に、口腔内で始まる消化は食道を経て胃に到達し、ここで胃液が分泌され、タンパク質が分解され、小腸に運ばれる。小腸では、胆汁と膵液が分泌され、3大栄養素の消化吸収が起こる。栄養素は、腸管上皮細胞を通じて血液中に取り込まれる。長い消化管と付属器官の共同作業は複雑で、統合的な調節が重要となる。これらの器官は神経系やホルモン系を介して連携し、食物の種類や量に応じて適切に反応する。結果として、消化器官の統合的な働きは、栄養素の適切な取り込みと代謝、エネルギーの制御につながり、体内の調和とバランスを保つ。これによって、生命維持に必要な栄養素が供給され、健康を維持するための基盤が築かれる。本講義では神経系とホルモン系による消化器官の統合的な調節機構を理解する。"	
第9回	"水電解質の調節機構 体液の恒常性は栄養摂取や水分補給と密接に関連している。正確な栄養と水分管理は、体液のバランスをサポートし、健康な生活を維持するために不可欠である。体液のpHは生体内の酸塩基平衡を維持し、酵素の正確な機能や代謝反応の進行に影響を与える。正確なpHの維持は、細胞内外の環境が生命活動に適していることを確保し、生体内の反応が適切に調整されることを保証する。浸透圧の調節は、細胞の膨張や収縮を制御し、水分の均衡を保つ。これにより、細胞が正常な形態を維持し、効果的に機能することが可能となる。電解質（ナトリウム、カリウム、カルシウムなど）のバランスは、神経伝達、筋収縮、酵素活性などの生体機能に重要な役割をもち、正常な電解質バランスは、細胞の膜電位を維持し、細胞内外の情報伝達をにも寄与する。体液の恒常性を維持することは、生体内の安定性を確保し、病気や障害の発生を予防する。例えば、酸塩基平衡が崩れると、アシドーシスやアルカローシスなどの健康問題が生じる可能性がある。このように体液の恒常性の理解は生体の機能や健康を理解する上で不可欠であり、健康ケアにおいて非常に重要な基盤を提供する。本講義では pH、浸透圧、電解質の恒常性を維持する仕組み、またそれが破綻したときに起こる現象を理解する。"	
第10回	"循環器系 循環器系は、酸素、二酸化炭素、栄養素や老廃物を体中に運搬する役割を果たしている。これにより、細胞内の環境が清潔で健康的な状態を維持できる。この機能を実現している心筋の収縮の仕組み、例えば心筋の性質や、興奮伝導系の理解は心臓の異常なリズムや不整脈発生の仕組みの理解にも繋がる。心電図は心臓の電気的活動を視覚化して解析する事のできる優れた技術である。心電図に現れる現象を理解することで心電図を評価し、心臓の異常の早期発見につながる可能性もあり、心臓疾患の予防にも役立つ。つまり、心臓の活動電位発生機構や心電図を学ぶことは非常に重要であり、生活習慣の改善や健康の維持につながる。 胎児循環を学ぶことは、生命の初期段階における循環系の特異性や発達メカニズムを理解し、新生児および母体の健康に関する知識を深める上で非常に重要である。本講義では心筋の活動電位発生や心電図について、また胎児循環について理解する。"	
第11回	"呼吸器 呼吸器系は生命維持に不可欠な機能を理解する鍵である。肺や気道の構造と機能を知り、酸素の取り込みと二酸化炭素の排出がどのように行われるかを理解することで、体内の代謝プロセスや細胞活動に対する酸素供給の重要性が明確になる。呼吸器系の学習は、健康管理や疾患の予防にも直結する。異常な呼吸機能は多くの病気の原因となり、喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺炎などの疾患は呼吸器系に関わるものであり、これらの疾患の原因や治療法を理解することは医療や保健に従事する者にとって極めて重要である。本講義では、呼吸機能の指標である肺機能検査の意義や呼吸の調節機構について理解する。"	
第12回	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン RAASは体内の水分と血圧を制御する複雑なシステムであり、その理解は栄養学や健康において不可欠である。この系統は、低血圧や低ナトリウム状態に対処し、適切な水分量を維持するために働く。RAASが正常に機能しない場合、高血圧や浮腫などの健康問題が発生する可能性がある。RAASは腎臓において特に重要であり、腎臓の構造と機能を理解する上で欠かせない。腎臓は血液中の水分や電解質の調節、老廃物の排泄を担当している。RAASが適切に調節されないと、腎臓機能が損なわれ、慢性腎臓病などが引き起こされる可能性がある。さらに、RAASの理解は臨床的な視点からも重要である。高血圧や心不全などの疾患において、RAASを調整する薬物が一般的に使用される。RAASの仕組みを理解することで、これらの薬物の作用機序や副作用を理解し、患者の栄養指導において適切なアプローチを選択できるようになる。総じて、RAASの学習は水分バランス、血圧調節、腎臓機能に関する基本的な知識を提供し、栄養学や臨床医学において専門的なスキルを向上させる重要な一翼を担っている。本講義ではRAASの仕組みおよび腎臓の機能不全が引き起こす症状について理解する。	
第13回	生殖器系 妊娠と出産の理解は、生殖の基本的なプロセスを把握し、新しい生命の創造と成長を理解するために重要である。胎児の発育や母体の変化を学ぶことで、栄養や生活習慣が妊娠に及ぼす影響を理解し、健康な妊娠と安全な出産をサポートする知識が身につく。性の分化の理解は、生殖器の発達やホルモンの役割を通じて、男女の身体的な違いその生理学的な基盤を理解することを指す。これは個々の健康だけでなく、性に関する健康問題や性教育の提供においても不可欠である。性の分化の理解は、異なる生殖器系の構造と機能、ホルモンの役割を通じて、性と健康の密接な関係を理解する手助けとなる。社会的な観点からも、これらのトピックの理解は重要である。出産と育児は個人だけでなく、社会全体に影響を与える。妊娠と性の分化に関する知識は管理栄養士として、家庭、教育、医療など様々な分野でのプロフェッショナルの役割を果たす際に欠かせないものである。つまり、妊娠と出産、性の分化を学ぶことは、個々の健康と社会的な側面において深い理解を得ることにつながり、将来的に患者や一般の上へのサポートや教育を行う際により適切で質の高いアドバイスを提供できるようになる。本講義では妊娠と出産の仕組みや性の分化について構造と機能を理解する。	
第14回	免疫系 免疫系・アレルギーの学習は、身体が異物や感染症に対抗する防御メカニズムを理解する上で極めて重要である。アレルギーの理解は、過剰な免疫応答による過敏症のメカニズムを理解することに繋がる。アレルギー反応が免疫系の正常な機能を越えて現れる際、アレルギーの症状や治療法を理解し、患者に対するアレルギーの管理や予防策を提供するスキルを身につけられる。自己免疫疾患の学習は、免疫系が誤って自身の組織や細胞を攻撃するメカニズムを理解することになります。これは糖尿病、リウマチ、全身性エリテマトーデスなどの疾患に関連している。自己免疫疾患の基礎知識を獲得することで、これらの疾患の病態生理学を理解し、治療法や管理戦略に関する専門知識を身につけられる。総じて、免疫系・アレルギーと自己免疫疾患の学習は、健康や予防、治療における重要知識と栄養指導のスキルを提供する。本講義では、アレルギーおよび自己免疫疾患の仕組みやそれが破綻した際の症状を理解する。	
第15回	感覚系 体性感覚の理解は、身体の運動制御や空間認識に不可欠である。筋肉、関節、皮膚などの感覚器官からの情報を統合し、身体の位置や動きを把握することで、日常生活や運動において協調した動作が可能となる。これはスポーツ、ダンス、身体療法などの分野で特に重要である。温感覚と冷感覚の理解は、体温の調節や環境への適切な対応に関連している。皮膚の温度受容体が熱や寒さを検知し、適切な生理学的応答を引き起こす。これにより、体温を維持し、外部の温度変化に適応することが可能となる。寒冷環境での凍傷や暑熱環境での熱中症の予防にも貢献する。感覚の異常は様々な疾患や損傷に関連しており、これを評価し、適切なアセスメントや治療戦略を選択するためには、体性感覚や温冷感覚の知識が必要である。総じて、体性感覚、温感覚、冷感覚の学習は、身体機能の理解を通じて日常生活の質を向上させ、健康と安全に関する重要な情報を提供し、将来の栄養指導において患者やクライアントに対してより効果的かつ適切なアプローチを提供できる。本講義では、体性感覚、温度感覚の受容器の構造や感覚の生理学、感覚伝導路につい理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	課題の得点と取り組みにより評価する。課題の傾向について講評する。
レポート		
小テスト	10	各講義の理解度を評価するため小テストを行う。小テストについての解説講評を行う。
定期試験	70	最終的な理解度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。
受講の心得	高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。 予習，復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
解剖生理学	志村二三夫 他	羊土社		2900

使用テキスト：自由記載	『解剖生理学』，河田光博・三木健寿，講談社サイエンティフィック

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『標準生理学』，『現代の生理学』，『医科生理学展望』
その他	
備考	解剖生理学を独立した科目と考えず，他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。 解剖生理学Iなどの学習内容について，復習をかねて質問するので準備をしておくこと。Active Learningの一環として実施する。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	知識	講義で述べた範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	講義で述べた範囲について完全に理解し説明できる。	講義で述べた範囲についておおよそ理解し説明できる。	講義で述べた範囲についていくつか理解し説明できる。	講義で述べた範囲について理解しておらず説明できない。
知識・理解	理解度	講義で述べた範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	講義で述べた範囲について完全に理解し説明できる。	講義で述べた範囲についておおよそ理解し説明できる。	講義で述べた範囲についていくつか理解し説明できる。	講義で述べた範囲について理解しておらず説明できない。
思考・問題解決能力	個体の恒常性を維持する器官の相互作用を説明できる。	恒常性を維持する器官の相互作用について完全に理解し説明でき，恒常性破綻による疾患の理解もしている。	恒常性を維持する器官の相互作用についてほぼ理解ができていて説明ができる。	恒常性を維持する器官の相互作用についておおよそ理解ができていて説明できる。	恒常性を維持する器官の相互作用について最低限度理解ができている。	恒常性を維持する器官の相互作用について理解てきていない。
態度	予習	講義の狙いを完全に理解し説明できる。	講義の狙いをほぼ理解し説明できる。	講義の狙いをおおよそ理解し説明できる。	講義の狙いを示すことができる。	講義の狙いを示すことができない。
態度	復習	復習問題を完全に解答できる。	復習問題をほぼ解答できる。	復習問題をおおよそ解答できる。	復習問題をいくつか解答できる。	復習問題を全く解答できない。

科目名	生化学Ⅱ			授業番号	NK206	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	生化学とは生命現象を化学的に研究する化学と生物学の融合した学問である。 生化学Ⅰでは、栄養学的にも非常に重要な成分である糖質、脂質、アミノ酸とタンパク質等の種類や構造・機能、および糖質代謝の一部について学修した。 生化学 II では，生体で行われているエネルギー獲得のための代謝経路，特に、糖質、脂質及びアミノ酸等の基本的な代謝経路について講述する。更に、この様な生体物質の代謝がホルモン等によりどの様に制御されているのか、また、栄養学との関係についても理解していく。								
到達目標	1. エネルギー代謝の概要を説明できる。 2. クエン酸回路について説明できる。 3. 電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。 4. グリコーゲンの代謝について説明できる。 5. 脂肪酸の生合成とβ酸化反応について説明できる。 6. コレステロールの生合成と代謝について説明できる。 7. 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。 8. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。 9. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝（尿素回路など）について説明できる。 10. ペントースリン酸回路について説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	糖質の代謝（解糖系への供給経路）	
第2回	糖質の代謝（ペントースリン酸経路）	
第3回	糖質の代謝（代謝経路の制御機構）	
第4回	糖質の代謝（クエン酸回路）	
第5回	糖質の代謝（クエン酸回路の調節）	
第6回	糖質の代謝（酸化的リン酸化）	
第7回	糖質の代謝（酸化的リン酸化の調節）	
第8回	糖質の代謝（代謝経路の制御機構）	
第9回	脂質の代謝（脂質の消化、動員、運搬および脂肪酸の酸化）	
第10回	脂質の代謝（ケトン体生成）	
第11回	脂質の代謝（脂質の生合成）	
第12回	脂質の代謝（エイコサノイドの生合成）	
第13回	アミノ酸代謝（アミノ基の代謝運命）	
第14回	アミノ酸代謝（窒素排泄と尿素回路）	
第15回	アミノ酸代謝（アミノ酸の分解経路、アミノ酸に由来する分子）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度、状況によって評価する。
中間テストおよび定期試験	80	中間テストおよび定期試験により、最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	生化学は、生命現象を化学的に研究する化学と生物学の融合した学問である。 生化学 II では、生化学 I で学んだ基本的栄養成分・生体機能を担うタンパク質が、代謝・輸送・蓄積・エネルギー産生などを通じてどのように生体の維持に関与しているのかを学ぶ。 管理栄養士・栄養士に必須の知識であり、管理栄養士の国家試験にも多数出題される科目である。 学習を先送りすることなく、毎回講義項目を身につけていくこと。
授業外学修	講義は基本的に板書を行う。従って、記憶の新しいうちにノートをまとめておくことが望ましい。 毎回の復習が重要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生化学	園田 勝 編	羊土社	978-4-7581-1354-0	2800
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で紹介する。			
その他	専門科目の理解のためには、避けて通れない科目である。 管理栄養士国家試験の頻出項目を多く含んでいる。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．糖質の代謝について理解している。	学修した糖質代謝の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した糖質代謝の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した糖質の代謝に関する知識について、大体述べることができる。	学修した糖質の代謝に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した糖質の代謝に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	2．脂質の代謝について理解している。	学修した脂質代謝の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した脂質代謝の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した脂質の代謝に関する知識について、大体述べることができる。	学修した脂質の代謝に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した脂質の代謝に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	3．タンパク質の代謝について理解している。	学修したタンパク質代謝の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質代謝の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質の代謝に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質の代謝に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質の代謝に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1．健康維持のための栄養素の種類・構造・代謝経路について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
態度	1．演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	生化学実験 1クラス(隔週)			授業番号	NK207A	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態		必修・選択	必修
授業概要	生化学実験で汎用する器具・機器の使用法を説明し、反応実験で使用する試薬を調製する。生命科学実験時の生データとなる実験ノートの取り方、レポートのまとめ方（構成）を説明する。酵素の性質を知るための酵素反応実験を行い、生化学の講義で説明した酵素の生化学特性を実体験する。タンパク質を扱う実験では必須となるタンパク質の定量法を説明し、実際に濃度未知試料のタンパク質濃度を決定する。生体試料からのタンパク質の単離法を説明し、実際にタンパク質の単離（分離）を行い目的タンパク質の分子量を測定する。実験操作を行いながら、実験ノートに記録していく技術を身につける。								
到達目標	主にタンパク質に関する生化学の基礎実験（反応・定量・分離）を行い、汎用器具・機器を正しく使用することができる。実験開始前には、他のメンバーとともに実験の手順の手際を考えるとともに、随時変化する状況に臨機応変に対応できる。実験中には、グループの他のメンバーとコミュニケーションをとりながら変化に対応し、かつ正確に実験ノートに方法や過程（変更点）、結果やまとめを記録することができる。実験終了後には、実験ノートの記録をもとに参考文献などからの情報も交えながら結果に考察を加えてレポートにまとまることができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第 1・2回　酵素に関する基礎的な実験 – 実験概要の説明、器具・機器の使用法と試薬調製 第 3・4回　酵素に関する基礎的な実験 – オートピペッターによる定量操作 第 5・6回　酵素に関する基礎的な実験 –タンパク質定量の原理と検量線の作成 第 7・8回　イオン交換カラムを用いた生体資料からのタンパク質の分離 第 9・10回　溶出曲線の作成とタンパク質の定量 第11・12回 マイクロコッカス溶菌活性測定 第13・14回 SDS-PAGEによる分子量測定 第 15 回　　総評と解説								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な授業態度、実験への積極的な参加・取組みによって評価する。
レポート	50	毎回の実験の目的、方法、結果、考察を正確に記述できるかにより評価する。
		実験ノートの提出と，その内容によって評価する。

評価の方法：自由記載	「生化学実験評価ルーブリック」により評価する。
受講の心得	生化学実験では危険な試薬も使用するため積極的かつ真摯に取り組まなければならない。使用・提出する実験ノートは、A4版以外は受け付けないので各自A4版ノートを準備すること。
授業外学修	第１回目に全ての回の実験マニュアルを配布するので十分に予習しておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリント（各実験の目的と方法等を記した実験マニュアル）を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「生化学」園田勝　著　羊土社 自己調査で得られた文献
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．タンパク質に関する生化学の基礎実験（反応・定量・分離）について理解している。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．酵素反応実験について理解している。	学修した酵素反応の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した酵素反応の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した酵素反応に関する知識について、大体述べることができる。	学修した酵素反応に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した酵素反応に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	３．タンパク質の分子量測定について理解している。	学修したタンパク質の分子量測定の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質の分子量測定の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質の分子量測定に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質の分子量測定に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質の分子量測定に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．タンパク質の反応、定量、分離について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	１．タンパク質が定量できる。	実験の目的や全体の流れを意識しながら実験操作ができる。正確さをもって危機の操作ができる。	手順に従って実験操作ができる。機器の使用目的を理解し、使用方法を覚え操作できる。	正確に個々の操作ができる。	実験内容を理解せず実験操作をする。	実験操作をしない。
技能	２．タンパク質が分離・精製できる。	実験の目的や全体の流れを意識しながら実験操作ができる。正確さをもって危機の操作ができる。	手順に従って実験操作ができる。機器の使用目的を理解し、使用方法を覚え操作できる。	正確に個々の操作ができる。	実験内容を理解せず実験操作をする。	実験操作をしない。
技能	３．実験結果をレポートにまとめ報告できる。	実験の目的を理解したうえで、得られた結果に基づき、論理的に解釈や考察が述べられている。	実験の結果に基づき、結果が適切に処理、解析され、読み手を配慮した提示がなされている。	実験の結果に基づき、最低限の解釈や考察が述べられている。	結果の解釈や考察がなされているが、論理展開に飛躍、誤り、不明瞭な点がある。	レポートの提出無し。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	生化学実験 2クラス(隔週)			授業番号	NK207B	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態		必修・選択	必修
授業概要	生化学実験で汎用する器具・機器の使用法を説明し、反応実験で使用する試薬を調製する。生命科学実験時の生データとなる実験ノートの取り方、レポートのまとめ方（構成）を説明する。酵素の性質を知るための酵素反応実験を行い、生化学の講義で説明した酵素の生化学特性を実体験する。タンパク質を扱う実験では必須となるタンパク質の定量法を説明し、実際に濃度未知試料のタンパク質濃度を決定する。生体試料からのタンパク質の単離法を説明し、実際にタンパク質の単離（分離）を行い目的タンパク質の分子量を測定する。実験操作を行いながら、実験ノートに記録していく技術を身につける。								
到達目標	主にタンパク質に関する生化学の基礎実験（反応・定量・分離）を行い、汎用器具・機器を正しく使用することができる。実験開始前には、他のメンバーとともに実験の手順の手際を考えるとともに、随時変化する状況に臨機応変に対応できる。実験中には、グループの他のメンバーとコミュニケーションをとりながら変化に対応し、かつ正確に実験ノートに方法や過程（変更点）、結果やまとめを記録することができる。実験終了後には、実験ノートの記録をもとに参考文献などからの情報も交えながら結果に考察を加えてレポートにまとまることができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第 1・2回　酵素に関する基礎的な実験 – 実験概要の説明、器具・機器の使用法と試薬調製 第 3・4回　酵素に関する基礎的な実験 – オートピペッターによる定量操作 第 5・6回　酵素に関する基礎的な実験 –タンパク質定量の原理と検量線の作成 第 7・8回　イオン交換カラムを用いた生体資料からのタンパク質の分離 第 9・10回　溶出曲線の作成とタンパク質の定量 第11・12回 マイクロコッカス溶菌活性測定 第13・14回 SDS-PAGEによる分子量測定 第 15 回　　総評と解説								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な授業態度、実験への積極的な参加・取組みによって評価する。
レポート	50	毎回の実験の目的、方法、結果、考察を正確に記述できるかにより評価する。
		実験ノートの提出と，その内容によって評価する。

評価の方法：自由記載	「生化学実験評価ルーブリック」により評価する。
受講の心得	生化学実験では危険な試薬も使用するため積極的かつ真摯に取り組まなければならない。使用・提出する実験ノートは、A4版以外は受け付けないので各自A4版ノートを準備すること。
授業外学修	第１回目に全ての回の実験マニュアルを配布するので十分に予習しておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリント（各実験の目的と方法等を記した実験マニュアル）を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「生化学」園田勝　著　羊土社 自己調査で得られた文献
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．タンパク質に関する生化学の基礎実験（反応・定量・分離）について理解している。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．酵素反応実験について理解している。	学修した酵素反応の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した酵素反応の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した酵素反応に関する知識について、大体述べることができる。	学修した酵素反応に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した酵素反応に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	３．タンパク質の分子量測定について理解している。	学修したタンパク質の分子量測定の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質の分子量測定の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質の分子量測定に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質の分子量測定に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質の分子量測定に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．タンパク質の反応、定量、分離について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	１．タンパク質が定量できる。	実験の目的や全体の流れを意識しながら実験操作ができる。正確さをもって危機の操作ができる。	手順に従って実験操作ができる。機器の使用目的を理解し、使用方法を覚え操作できる。	正確に個々の操作ができる。	実験内容を理解せず実験操作をする。	実験操作をしない。
技能	２．タンパク質が分離・精製できる。	実験の目的や全体の流れを意識しながら実験操作ができる。正確さをもって危機の操作ができる。	手順に従って実験操作ができる。機器の使用目的を理解し、使用方法を覚え操作できる。	正確に個々の操作ができる。	実験内容を理解せず実験操作をする。	実験操作をしない。
技能	３．実験結果をレポートにまとめ報告できる。	実験の目的を理解したうえで、得られた結果に基づき、論理的に解釈や考察が述べられている。	実験の結果に基づき、結果が適切に処理、解析され、読み手を配慮した提示がなされている。	実験の結果に基づき、最低限の解釈や考察が述べられている。	結果の解釈や考察がなされているが、論理展開に飛躍、誤り、不明瞭な点がある。	レポートの提出無し。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	医学概論			授業番号	NK208	サブタイトル			
教員	赤木 收二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	傷病者の療養に食・栄養の面から深く関与する管理栄養士としての職務遂行には，解剖生理学・生化学的事項を踏まえた疾病の理解及びさまざまな疾患における各種栄養素とそれらの代謝の及ぼす影響に関する十分な知識が不可欠である。本授業は，栄養学的介入を行う上で重要とされる疾患を中心に，基礎医学的事項を踏まえつつ，栄養学的介入を行える力を養えるよう学修する。								
到達目標	1．人体の構造と機能に関連づけながら、各種疾病の成り立ちについて説明できる。 2．各種疾病診断のための検査法およびそれらに対する治療法の概要について説明できる。 3．各種疾患の病態を理解した上で、栄養管理に結び付ける能力がある。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	1 消化器疾患 消化管疾患 教科書該当箇所 p107-p132	
第2回	2 消化器疾患 肝・胆・膵疾患 教科書該当箇所 p107-p132	
第3回	3 循環器疾患1 教科書該当箇所 p133-p160	
第4回	4 循環器疾患2 教科書該当箇所 p133-p160	
第5回	5 腎・尿路系疾患1 教科書該当箇所 p161-p184	
第6回	6 腎・尿路系疾患2 教科書該当箇所 p161-p184	
第7回	7 内分泌系疾患 教科書該当箇所 p185-p198	
第8回	8 神経系疾患 教科書該当箇所 p199-p216	
第9回	9 呼吸器疾患 教科書該当箇所 p217-p234	
第10回	10 運動器疾患 教科書該当箇所 p235-p248	
第11回	11 生殖器系疾患 教科書該当箇所 p249-p267	
第12回	12 血液疾患 教科書該当箇所 p269-p287	
第13回	13 免疫・アレルギー系疾患 教科書該当箇所 p289-p300	
第14回	14 感染症 教科書該当箇所 p301-p314	
第15回	15 治療に用いられる薬剤とその作用 該当する資料を配布する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	ルーブリックに記載した評価項目がどの程度達成されているかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	定期試験終了後，正答(例)を示し，評価項目と問題との関連についても説明する。
受講の心得	本授業の内容理解には，解剖生理学，生化学，病理学で学習した内容を系統的に理解している必要があり，学習する各種疾患に応じて関連領域の知識の再確認を行うこと
授業外学修	教科書，配布資料，授業内容及び関連領域に関して週4時間以上の学習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床医学　人体の機能及び疾病の成り立ち	羽生大起・河出久弥編	南江堂	978-4-524-24619-9	3,100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	総合内科専門医，消化器専門医，肝臓専門医，臨床栄養指導医として診療に従事(35年間)。産業医として事業所の健康管理に参画(10年間).
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	管理栄養士としての職務遂行上必要となる事項を，より実臨床に即した形で，理解，学修できることに重きを置きつつ授業を進める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	人体の構造と機能に関連づけながら、各種疾病の成り立ちについて説明できる。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない
知識・理解	各種疾病診断のための検査法およびそれらに対する治療法の概要について説明できる。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない
思考・問題解決能力	各種疾患の病態を理解した上で、栄養管理に結び付ける能力がある。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない

科目名	微生物学			授業番号	NK210	サブタイトル			
教員	楠本　晃子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	我々の生活環境には，様々な微生物が存在し，人の生命や生活活動に密接に関わっている。本講義では，人の健康と微生物の相互関係について理解し，管理栄養士・栄養士として必要とされる微生物の知識，感染から発症，防御に至るしくみおよび微生物の利用について学ぶ。								
到達目標	・微生物を分類し，基礎的な特徴を説明できる。 ・微生物による主な感染症の特徴と予防法を説明できる。 ・免疫について説明できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	微生物学の概論	
第2回	微生物学の概論，微生物の制御	
第3回	病原微生物と感染症（細菌）	
第4回	病原微生物と感染症（細菌）	
第5回	病原微生物と感染症（細菌）	
第6回	病原微生物と感染症（細菌）	
第7回	病原微生物と感染症（ウイルス）	
第8回	病原微生物と感染症（ウイルス）	
第9回	病原微生物と感染症（ウイルス，プリオン）	
第10回	病原微生物と感染症（原虫，蠕虫，真菌）	
第11回	感染症の動向，人獣共通感染症，感染症の化学療法，感染症に関する法律	
第12回	免疫とアレルギー	
第13回	免疫とアレルギー	
第14回	免疫とアレルギー	
第15回	免疫とアレルギー	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	100	最終的な理解度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	世の中の微生物に関する出来事に日頃から関心を持ち，講義に臨むこと。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業内容をノートにまとめる。 3 発展学修として，微生物に関係する新聞記事を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 微生物学 改訂第2版	大橋 典男	羊土社	978-4-7581-1373-1	2900円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．微生物を分類し、基礎的な特徴を説明できる	微生物に関する十分な知識を身につけており、微生物を分類し、説明することができる	微生物に関する知識を身につけており、微生物を分類し、説明することができる	主要な微生物に関する知識を身につけており、説明することができる	微生物に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	微生物に関する知識を身につけていない
知識・理解	2．微生物による主な感染症の特徴と予防法を説明できる	微生物による主な感染症の特徴と予防法について正しく理解し、説明することができる	微生物による主な感染症の特徴と予防法に関する知識を十分に身につけ、理解している	微生物による主な感染症の特徴と予防法に関する知識を身につけている	微生物による主な感染症の特徴と予防法に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	微生物による主な感染症の特徴と予防法に関する知識を身につけていない
知識・理解	3．免疫について説明できる	免疫について正しく理解し、説明することができる	免疫に関する知識を十分に身につけ、理解している	免疫に関する知識を身につけている	免疫に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	免疫に関する知識を身につけていない

科目名	人間発達学			授業番号	NK212	サブタイトル			
教員	生活B								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人間は，時間とともに様々な側面（感覚，感情，認知，社会性など）において変化していく存在である。この講義では，人間が生まれてからどのようなプロセスをたどりながら発達していくのかについて基礎的な知識を身につける。主要な発達理論を参照しながら，胎児期から高齢期まで段階ごとに発達の様相について解説する。								
到達目標	・主要な発達理論について説明できる。 ・各発達段階の特徴について説明できる。 ・発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる ・なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	発達とは何か―発達理論 基礎的な発達理論について理解し，発達とは何かを学ぶ	
第2回	胎児期 胎児の発達の特徴と胎内環境について学ぶ	
第3回	乳児期 乳児期の身体，知覚，情緒，言語，アタッチメントの発達について学ぶ	
第4回	幼児期(1) 幼児期の自律性，他者との関係の発達について学ぶ	
第5回	幼児期(2) 幼児期の認知発達と遊びの重要性について学ぶ	
第6回	児童期(1) 児童期の認知発達と動機付けについて学ぶ	
第7回	児童期(2) 児童期の社会性と道徳性の発達について学ぶ	
第8回	青年期(1) 青年期の思考・感情と人間関係について学ぶ	
第9回	青年期(2) 青年期のアイデンティティの確立と精神的自立について学ぶ	
第10回	成人期（1） 成人期前期における発達課題について学ぶ	
第11回	成人期（2） 成人期後期における次世代育成と中年期危機について学ぶ	
第12回	高齢期 高齢期における人生の振り返りについて学ぶ	
第13回	発達の個人差，障害 発達障害を含む様々な発達の個人差について学ぶ	
第14回	人間発達に関わる現代的課題 人間発達に関わる現代的課題について紹介し，考察する	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	70	授業内容の理解度を評価する。小テスト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受け身の姿勢ではなく，問題意識をもって能動的態度で受講すること。
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること。 ・授業で紹介した本や資料を読むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
完全カラー図解 よくわかる発達心理学	渡邉弥生 監修	ナツメ社	978-4-8163-7057-1	1600円+税
使用テキスト：自由記載	講義内容の理解を深めるために，必要に応じて紹介する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義内容の理解を深めるために，適宜文献を紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	人間の発達について、これまでの様々な年代の方々との臨床経験（20年）を通し、各発達期の特性や課題について伝えることができ、実践に活かせる知識と発達課題への対応を考える力を習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解し、説明できる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解し、知覚、言語、社会性、アイデンティティなどの具体的な発達についても詳しく説明でき、過去現在未来とつながる自分について説明できる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について基礎的な知識を習得し、それらをもとに現在の自分を説明することができる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解している。	ある発達理論やある時期の発達段階の特徴について理解しているが、時期や分野が限られる。	発達理論や各発達段階の特徴について理解できていない。
思考・問題解決能力	１．発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができ、将来の職業選択や人生設計を考えられるとともに、自他の人生の発達課題への対応を考えることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができ、将来の職業選択や人生設計を考えることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる。	自分自身について考えることができるが、発達心理学の知見からの考察が乏しい。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えることができない。

科目名	解剖生理学実験 1クラス(隔週)			授業番号	NK303A	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	ヒトの構造や機能について理解を深め，解剖生理学I，IIの講義で学修したことについて実際に体験する。この実験課題を通じてヒトの構造と機能について理解を深める。特に，骨格，循環，血液，呼吸，腎機能，エネルギー代謝，肉眼的組織について観察や実際の体験を通じて，人の正常機能についての洞察を深める。疾病理解の働きかけとなる。								
到達目標	観察や測定を通じて，ヒトの正常機能について総合的に理解する。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1・2回 骨の観察：上肢，下肢，体幹，頭部 第3・4回 循環機能に関する実験：心音の聴取と心電図，コロトコフ音の聴取，負荷をかけた場合の血圧 第5・6回 腎機能に関する実験：クリアランスの測定，水分負荷と尿の濃縮 第7・8回 肺気量分画の測定，フローボリューム曲線の描画 第9・10回 最大酸素摂取量の測定：踏み台昇降，エルゴメータ使用 第11・12回 人体を構成する組織の観察 第13・14回 肉眼的病理標本の観察：川崎医科大学現代医学博物館見学 第15回 全体のまとめ								
授業計画 備考2	全て出席し，積極的に取り組むことを求める。								

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発言・討議への参加の状況にって評価する。 全体に対して講評する。
レポート	80	テーマごとのレポートを評価する。レポートの評価はルーブリックに準ずる。 レポートにコメントあるいは全体に対して講評する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実験ノートを用意し，実験経過，結果をしっかりと記録すること。レポートは締め切りまでに必ず提出すること。提出締め切りを過ぎた場合やレポート提出がない場合は欠席と見なす。
授業外学修	解剖生理学I，II の復習を十分行なっておくこと。週当たり1時間以上学習すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	専用の実習書を販売する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「解剖生理学実験」川村一男 編，建帛社 「解剖生理学実習」森田規之，河田光博，松田賢一 編，講談社
その他	体調などにより，課題を遂行できない場合は申し出ること。合理的な配慮を施します
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．実験内容の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができる。	実験内容を十分に理解し，他人に説明できる。	理解に曖昧な点があるが，予習ができている。	あるべき内容をある程度理解している。	やるべきことが理解できていない。
思考・問題解決能力	1．実験レポートの記述	自ら調べた内容を含めることができ，引用や図表の提示も適切である。	観察や結果が適切に記載され，実験から得た自らの考えを伝えることができている。	観察や結果を間違いや欠損なく記載している。自らの考えが多少は記載されている。	レポートの形式を守り，結果や観察が正しく記載されている。	レポートの形式を守れず，最低限度の観察や結果が記載されていない。
技能	1．実験器具の取り扱い	実験器具を正しく取り扱え，注意点などを他人に指摘し安全に配慮できる。	正しい実験器具の操作ができ，他人に教えることができる。	正しい実験器具の操作ができる。	取扱説明書を見ながら，正しく実験装置を取り扱うことができる。	実験装置や器具を適切に操作，使用できない。
態度	1．予習	講義の狙いを完全に理解し説明できる。	講義の狙いをほぼ理解し説明できる。	講義の狙いをおおよそ理解し説明できる。	講義の狙いを示すことができる。	講義の狙いを示すことができない。
態度	2．実験中の行動	他人をリードする態度で実験を進めることができる。	自発的に実験を進めることができる。	実習書を見れば内容を理解して実験を進めることができる。	実習書に従って正しく実験を進めることができる。	実習書に従った実験が進められない。

科目名	解剖生理学実験 2クラス(隔週)			授業番号	NK303B	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	ヒトの構造や機能について理解を深め，解剖生理学I，IIの講義で学修したことについて実際に体験する。この実験課題を通じてヒトの構造と機能について理解を深める。特に，骨格，循環，血液，呼吸，腎機能，エネルギー代謝，肉眼的組織について観察や実際の体験を通じて，人の正常機能についての洞察を深める。疾病理解の働きかけとなる。								
到達目標	観察や測定を通じて，ヒトの正常機能について総合的に理解する。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1・2回 骨の観察：上肢，下肢，体幹，頭部 第3・4回 循環機能に関する実験：心音の聴取と心電図，コロトコフ音の聴取，負荷をかけた場合の血圧 第5・6回 腎機能に関する実験：クリアランスの測定，水分負荷と尿の濃縮 第7・8回 肺気量分画の測定，フローボリューム曲線の描画 第9・10回 最大酸素摂取量の測定：踏み台昇降，エルゴメータ使用 第11・12回 人体を構成する組織の観察 第13・14回 肉眼的病理標本の観察：川崎医科大学現代医学博物館見学 第15回 全体のまとめ								
授業計画 備考2	全て出席し，積極的に取り組むことを求める。								

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発言・討議への参加の状況にって評価する。 全体に対して講評する。
レポート	80	テーマごとのレポートを評価する。レポートの評価はルーブリックに準ずる。 レポートにコメントあるいは全体に対して講評する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実験ノートを用意し，実験経過，結果をしっかりと記録すること。レポートは締め切りまでに必ず提出すること。提出締め切りを過ぎた場合やレポート提出がない場合は欠席と見なす。
授業外学修	解剖生理学I，II の復習を十分行なっておくこと。週当たり1時間以上学習すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	専用の実習書を販売する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「解剖生理学実験」川村一男 編，建帛社 「解剖生理学実習」森田規之，河田光博，松田賢一 編，講談社
その他	体調などにより，課題を遂行できない場合は申し出ること。合理的な配慮を施します
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．実験内容の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができる。	実験内容を十分に理解し，他人に説明できる。	理解に曖昧な点があるが，予習ができている。	あるべき内容をある程度理解している。	やるべきことが理解できていない。
思考・問題解決能力	1．実験レポートの記述	自ら調べた内容を含めることができ，引用や図表の提示も適切である。	観察や結果が適切に記載され，実験から得た自らの考えを伝えることができている。	観察や結果を間違いや欠損なく記載している。自らの考えが多少は記載されている。	レポートの形式を守り，結果や観察が正しく記載されている。	レポートの形式を守れず，最低限度の観察や結果が記載されていない。
技能	1．実験器具の取り扱い	実験器具を正しく取り扱え，注意点などを他人に指摘し安全に配慮できる。	正しい実験器具の操作ができ，他人に教えることができる。	正しい実験器具の操作ができる。	取扱説明書を見ながら，正しく実験装置を取り扱うことができる。	実験装置や器具を適切に操作，使用できない。
態度	1．予習	講義の狙いを完全に理解し説明できる。	講義の狙いをほぼ理解し説明できる。	講義の狙いをおおよそ理解し説明できる。	講義の狙いを示すことができる。	講義の狙いを示すことができない。
態度	2．実験中の行動	他人をリードする態度で実験を進めることができる。	自発的に実験を進めることができる。	実習書を見れば内容を理解して実験を進めることができる。	実習書に従って正しく実験を進めることができる。	実習書に従った実験が進められない。

科目名	病理学			授業番号	NK309	サブタイトル			
教員	赤木　收二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	傷病者の療養における栄養指導を行うために大切な「疾患のなりたち」を理解する上で必要となる病理学の基礎的事項をまず説明する。さらに，チーム医療の一員としての職務を行う上で重要な診断・治療の概要についても説明する。また，各種栄養素の代謝障害によってもたらされる疾患・病態についても，病理学的事項を踏まえつつ解説する。								
到達目標	1．人体の構造と機能に関連づけながら、疾病の成り立ちについて説明できる。 2．疾病診断のための検査法および各種治療法の概要について説明できる。 3．各種栄養素の代謝障害による疾病の病態生理について，その概要を説明できる。 4．栄養障害の病態を理解した上で、栄養管理に結び付ける能力がある。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	1 加齢による細胞・組織の変化（老化と個体の死）教科書該当箇所 p1-p6	
第2回	2 疾患による細胞・組織の変化1（細胞障害，細胞の死）教科書該当箇所 p.6-p10	
第3回	3 傷病による細胞・組織の変化2（炎症・創傷治癒，循環障害）教科書該当箇所 p.10-p14，	
第4回	4 疾患による細胞・組織の変化3（再生・腫瘍，遺伝子異常）教科書該当箇所 p.14-p18	
第5回	5 疾患診断の概要1（一般的診察・医療面接，全身状態の評価）教科書概要箇所 p.22-p23	
第6回	6 疾患診断の概要2（主な症候）教科書該当箇所 p.23-p39	
第7回	7 臨床検査の基本（種類と特性・基準値・一般臨床検査）教科書該当箇所 p.39-p40	
第8回	8 臨床検査の概要1（血液学検査・生化学検査・腫瘍マーカー）教科書該当箇所 p.40-p46	
第9回	9 臨床検査の概要2（免疫検査・微生物検査・生体機能検査，画像診断）教科書該当箇所 p.46-p51	
第10回	10 疾患治療の概要1（治療計画と治療評価の方法・各種治療法の概略）教科書該当箇所 p.64-p70	
第11回	11 疾患治療の概要2（移植医療・終末期患者の治療・EBM）教科書該当箇所 p.64-p70.	
第12回	12 栄養障害と代謝疾患1（飢餓・PEM・悪液質等）教科書該当箇所 p.72-p76.	
第13回	13 栄養障害と代謝疾患2（糖質・脂質代謝異常，それらに関わる生理活性物質）教科書該当箇所 p.81-p92	
第14回	14 栄養障害と代謝疾患3（アミノ酸・尿酸代謝異常）教科書該当箇所 p.92-p97	
第15回	15 栄養障害と代謝疾患4（痛風・尿酸代謝異常，先天性代謝異常）教科書該当箇所 p.98-p105	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	試験問題は，ルーブリックに示した評価項目を踏まえた設問を出題し，その達成程度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	定期試験終了後，正答(例)を示し，評価項目と問題との関連についても説明する。
受講の心得	本教科は，人体の解剖学，生理学，生化学，基礎栄養学などの基本的な知識を土台にし，疾病を細胞・組織・個体レベルで理解しようとするものである。したがって，2年生前期までに学んだ関連教科の知識を復習し，身につけておくことが重要である。
授業外学修	授業毎に授業計画で示した教科書の該当箇所を通読しておくこと。 本教科の内容を確実に理解するため，上述の予習も含め週当たり4時間以上の学修をおこなうこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床医学　人体の機能及び疾病の成り立ち	羽生大起・河出久弥編	南江堂	978-4-524-24619-9	3，100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として医療機関で診療に従事(35年)。また，産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画(10年)。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	管理栄養士としての職務遂行上必要となる事項を，より実臨床に即した形で，理解，学修できることに重きを置きつつ授業を進める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	人体の構造と機能に関連づけながら、疾病の成り立ちについて理解している	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない
知識・理解	疾病診断のために検査法について理解している	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない
知識・理解	症状者の病態を把握し、それらにに基づく治療法について理解している	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない
思考・問題解決能力	栄養障害の病態を理解した上で、栄養管理に結び付ける能力がある。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない

科目名	運動生理学			授業番号	NK411	サブタイトル			
教員	井之川　仁								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	授業概要：運動生理学は、運動や身体活動が生体内の生理学的プロセスに及ぼす影響を研究し、理解する学問である。運動中の身体の変化や反応、それに伴う生理学的なメカニズムを追求し、健康やパフォーマンス向上の観点からの洞察を提供する。運動による身体の様々な生理機能が変化、例えば、運動によって生じるエネルギー需要、酸素摂取量の変化、糖質や脂質の代謝過程、心血管系における変化、血圧、血液循環に与える影響、筋肉や神経系の構造と機能、運動に伴う筋肉の収縮メカニズム、神経系との連携、疲労の発生メカニズムなどがある。さらには、体温調節、免疫系の変化、運動によるストレス応答など、身体全体の総合的な反応に焦点が当てられている。これらの知識は、スポーツトレーニング、医学的な介入、健康管理など幅広い分野で応用され、個々の生体反応の理解に基づいた効果的なアプローチを提供する。また、「Exercise is Medicine（運動は薬である）」と言われるように、運動は健康に対して薬物療法と同様に有益であることが知られている。薬と違ってほぼ無償で心身の健康を増進する運動は現代の過剰な医療費を低減するためにも重要なアプローチである。健康は適切な「栄養・運動・睡眠」を繰り返すことで維持されるものである。本講義を受講することで、栄養のプロである栄養士・管理栄養士を目指す皆さんが、運動を理解し「健康のプロ」として社会に貢献できるようになるであろう。本講義では運動を理解するために実践的に取り組む課題もあります。								
到達目標	本講義の目標は、運動が身体に与える影響を様々な角度から学び、栄養と運動による健康の維持増進に役立てる知識と技術を身につけることである。そのために下記のような到達目標を設定している。 運動とは何か、またその種類を説明できる 運動が呼吸・循環器系に及ぼす効果を説明できる。 運動が筋肉に及ぼす効果を説明できる。 運動が健康に及ぼす効果を説明できる。 最大酸素摂取量が体力や健康に与える効果を説明できる。 運動レベルと必要な栄養について説明できる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	"運動生理学について 運動生理学は運動が身体に与える影響を様々な角度から調べる学問である。身体の機能は様々な系統の統合作用として考えることができる。例えば、呼吸循環系は有酸素運動により大きく影響を受けるし、筋はレジスタンストレーニングにより大きく影響を受ける。運動は体力の向上をもたらすが、体力とはどのように定義できるものなのか知ることが必要である。また運動、スポーツ、身体活動はそれぞれ同様なものかを理解することで目的に応じた指導が可能となる。本講義では、運動生理学の学問的な内容、体力について、そして運動・スポーツ・身体活動の違いを理解する。"	
第2回	"運動とエネルギー代謝 生体は化合物を体内に取り込み分解し、エネルギーを合成して生命機能を維持している。生命活動を維持するだけでもエネルギーが必要であるが、動物は自身の身体を移動させるために より多くのエネルギーを必要とするようになった。ヒトの消化器系は糖質、蛋白質、脂質など様々な有機化合物を消化吸収できるように発達してきた。体内で用いられるエネルギーはATP（アデノシン三リン酸）である。ATPは幾つかの回路により作り出されており、酸素を用いず作る解糖系や酸素を用いて作るクレブス回路などがある。エネルギー代謝の理解は、個々の栄養ニーズを正確に評価し、適切な栄養指導を行う上で不可欠である。講本講義ではこれらのエネルギー代謝回路と運動がどのようにむすびついいるか、また、エネルギ代謝の測定方法を理解する。"	
第3回	"最大酸素摂取量と体力 最大酸素摂取量（Maximum Oxygen Consumption、VO2max）は、個体が最大限に取り込むことができる酸素の量を示す指標で、運動中に身体が酸素を利用してエネルギーを生み出す最大の能力を反映している。一般的には全身持久力を表す。また、VO2 maxが高いと心血管疾患の罹患率や死亡率が低いことが知られている。つまり、VO2 maxにより示される酸素摂取能力は、長時間身体活動を続けることができることを意味するだけではなく、健康や寿命にも影響を与える身体能力なのである。本講義でVO2maxの原理、求め方、トレーニング効果などについて理解する。加えて、個々人が実際にVO2maxを計測しトレーニングによりVO2maxがどのように変化するかを学ぶ。今後、講義開始前にTABATA運動を行う。"	
第4回	"筋肉について知る 筋肉は体内で動きを生み出す重要な組織であり、骨と関節をつなぎ、体の機能を維持する役割を果たしている。筋肉は、骨格筋、平滑筋、および心筋の三つのタイプに分類される。運動生理学で主として扱われるのは骨格筋である。骨格筋は、骨と関節を動かすのに使われ、意識的に制御できるものでこれらの筋肉は、筋線維と呼ばれる長い細胞が束になったもので構成されている。神経刺激によって収縮し、力を発揮する。また、骨格筋はグルコースを取り込み消費するという観点から、糖尿病における血糖制御にとっても重要である。さらに、筋肉が収縮する際に発生する化学物質や信号物質も近年明らかになってきており、マイオカインと呼ばれ、炎症反応の調節や代謝の制御など、さまざまな生理的プロセスに影響を与えている。総じて、筋肉は体の運動機能だけでなく、代謝や免疫などの重要な生理学的プロセスにも関与している。当然正常な筋の発達には適切な運動と栄養が必要である。本講義では、筋肉の種類や性質、筋収縮の仕組み、興奮収縮連関、エネルギー代謝、マイオカインについて理解する。"	
第5回	"レジスタンストレーニングと栄養 レジスタンストレーニングは、身体に対して外部からの抵抗（重りや弾性バンドなど）を加えて行うトレーニングの一形態である。この種のトレーニングは主に筋力や筋持久力の向上を目指し、様々な目的に適応させることができる。レジスタンストレーニングはいくつかの利点がある。特定の筋肉や筋群に対して局所的な強化が可能であり、関節や骨の強度も向上させる効果がある。筋肉の強化はスポーツ活動のみならず日常生活においても重要である。特に高齢者では転倒の予防に大きく寄与する。本講義ではレジスタンストレーニングによる筋肥大の原理、レジスタンストレーニングの種類や方法、レジスタンストレーニングに必要な栄養補給について理解する。"	
第6回	"身体組成とウエイトコントロール 身体組成とウエイトコントロールは、健康管理やフィットネスの観点から重要な関連性を持つ概念である。身体組成は身体を構成する各要素の割合を指し、主に体脂肪率、筋肉量、骨量、水分量などを含む。一方で、ウエイトコントロールは体重を適切に管理し、健康な範囲内で維持することを目指す取り組みである。身体組成の理解は、単に体重だけでなく、体脂肪率や筋肉量などの要素を考慮することを意味しており、これにより、体重減少や増加が単に脂肪の減少や増加に起因するのか、筋肉量の変化も関与しているのかを把握できる。健康的な身体組成は、代謝の向上、運動能力の向上、骨密度の維持などに寄与する。ウエイトコントロールは、適正な体重を維持することを目指すが、それはただ単に体重を減らすことだけではなく、適正な体重管理には、バランスの取れた栄養、適度な運動、健康な生活習慣が不可欠である。身体組成の側面からアプローチすることで、単なる体重の減少だけでなく、健康的な体組織の維持や向上も考慮される。健康的な身体組成とウエイトコントロールは、慢性疾患の予防や管理、心血管疾患や糖尿病のリスクの低減、生活の質の向上などに寄与する。本講義では、主に身体組成と身体組成の測定方法、脂肪が健康に与える影響について理解する。"	
第7回	"運動と栄養Ⅰ エネルギー産生栄養素 運動とエネルギー産生栄養素を学ぶことは、健康とパフォーマンスの向上に重要な意義を持つ。運動においてエネルギー産生栄養素の理解は、トレーニングや競技において最適な栄養摂取を確保する上で不可欠であり、炭水化物、脂質、タンパク質はそれぞれ異なる役割を果たすため、運動の性質や強度に応じて摂取量やタイミングを調整することが必要である。エネルギー不足や栄養不足はトレーニングの効果を低下させ、パフォーマンスの向上を妨げる可能性がある。さらに、エネルギー産生栄養素の理解は、エネルギー利用の最適化に寄与する。トレーニング中にどの栄養素がどのように使われ、エネルギー供給がどのように調整されるかを知ることで、効果的なエネルギー補給や回復戦略を構築でき、これにより、トレーニングによる疲労の軽減やパフォーマンス向上が期待される。本講義では、炭水化物、蛋白質、脂質といったエネルギー産生栄養素の代謝や運動との関連を理解する。"	
第8回	"運動と栄養Ⅰ ビタミン・ミネラル 運動とビタミン・ミネラルの摂取は、健康の維持やパフォーマンス向上において重要である。まず、ビタミンとミネラルは運動においてエネルギーの生成や代謝、免疫機能の維持など、様々な生理的機能に不可欠な栄養素であり、例えば、ビタミンB群はエネルギー代謝に関与し、不足すると疲労感が増加したり、ビタミンや亜鉛は免疫機能をサポートし、運動中のストレスやトレーニングの影響を軽減すると考えられている。特に運動者やアスリートは、通常の人よりも多くのエネルギーを必要とし、それに伴ってビタミンやミネラルの需要も高まる。持久力スポーツや高強度のトレーニングは汗を多くかくため、十分なナトリウムやカリウムのミネラルの摂取も必要である。カルシウムは骨の健康に重要で、運動によって骨密度の低下が懸念される場合には特に意識が必要である。運動によって発生する酸化ストレスに対抗するためには、抗酸化作用を持つビタミンやセレン、カロテノイドが重要で、これらの栄養素は細胞を守り、炎症や損傷から回復を促進する。さらに、鉄の適切な摂取は酸素の運搬に欠かせず、酸素は運動中に筋肉に必要であり、鉄欠乏は貧血を引き起こし、パフォーマンスの低下に繋がる。本講義では、運動にビタミンやミネラ	
第9回	"加齢と運動機能 加齢と運動機能には密接な関係がある。加齢に伴う身体の変化は、筋肉、骨、関節、神経系に影響を与え、運動機能にさまざまな影響をもたらす。最も顕著な変化の一つは筋肉量の減少で、加齢とともに筋肉が減少し、これはサルコペニアと呼ばれる状態に陥ることがある。サルコペニアは筋力低下やバランスの悪化を招き、転倒リスクを増加させ、さらには筋肉の減少に伴い筋肉のもつ様々な生理機能の低下を引き起こすと考えられている。定期的な運動は、筋肉を維持し、強化するので効果的であり、サルコペニアの進行を遅らせることが期待できる。また、骨密度の減少も加齢に伴う問題の一つで、骨折のリスクが増加しやすくなる。重力に逆らう抵抗を提供する運動は、骨密度を向上させ、骨の健康を促進することが知られている。神経系も加齢に伴って変化し、反応速度が遅れたり、協調性が低下することがある。適度な運動は神経組織の健康を促進し、認知機能の維持にも寄与する。本講義では、加齢に伴筋、骨、神経系の変化を中心に運動の有用性を含めて理解する。"	
第10回	"運動と免疫 動は免疫機能を向上させ、健康を促進する重要な要素と考えられている。運動を行うと体温が上昇し、免疫細胞がより効果的に働く環境が整い、血液の循環が改善され、免疫細胞や酸素が身体全体に適切に供給される。さらに、運動はストレスホルモンの分泌を抑制し、心身のバランスを保つ。ストレスは免疫機能を低下させる要因の一つであり、運動によってストレスが軽減されることで免疫システムがより強化されると考えられる。適度で継続的な運動が免疫細胞の数を増加させ、働きを活性化させることが知られており、特に、有酸素運動は体内の炎症を軽減し、慢性的な疾患や感染症に対する免疫応答を向上させる。ただし、過度な運動や無理なトレーニングは逆効果となり、免疫機能を低下させることがある。本講義では運動が免疫機能に与える影響について理解する。"	
第11回	"身体活動と健康 身体活動と健康は密接に関連しており、適切な身体活動は身体との健康を促進する。身体活動には様々な形態があり、日常の生活動作、スポーツ活動や、レクレーション活動、有酸素運動やレジスタンス運動といったトレーニングなどが含まれる。特に有酸素運動は心臓や血管の健康をサポートし、全身の循環系統を強化する。ウォーキング、ジョギング、サイクリングなどが代表的で、これらの活動は体重の管理や糖尿病、高血圧の予防に寄与する。レジスタンス運動は筋力を向上させ、骨密度を増加させる効果があり、高齢者には骨折の予防や姿勢の改善に役立つ。また、身体活動は心理的な面でも効果があり、ストレス軽減や気分の向上、認知機能の向上に寄与する。定期的な運動は不眠症の緩和や抑うつ症状の改善にも関与する。さらに、運動は肥満、心臓病、がん、糖尿病などの発症リスクが低減するため、健康状態の維持に効果的である。身体活動は健康に対して総合的なメリットをもたらす重要な要素であり、全ての人々が取り入れることが推奨される。本講義では身体活動が健康に対してどのようなメリットをもつのか理解する。"	
第12回	"体温調節 運動は体温調節に重要な役割を果たしている。体温の維持は生命活動にとって重要であり、運動はそのプロセスに影響を与える。運動による体温の変動は、主に運動に要するエネルギーの生成と放出によって生じる。運動中、筋肉の収縮や代謝活動によってエネルギーが消費され、これに伴い体温が上昇する。この際、体内の発汗や呼吸によって熱を放出し、体温を適切な範囲に維持する機構が働く。特に発汗は体温調節の主要なメカニズムの一つで、運動によって発生した熱を汗となって体表に放出し、蒸発することで体温を下げます。これによって、体内の温度が適切な範囲に維持され、過熱や過冷却から身体を守る。また、運動による筋肉の活動は代謝を促進し、エネルギーの生成とともに発熱を引き起こし寒冷な環境での体温維持にとっても重要要因である。本講義では、運動が体温調節に与える影響や体温調節の仕組みついて理解する。"	
第13回	"運動と疾病 運動は健康維持や予防に大きな影響を与え、様々な疾病のリスクを低減する効果がる。まず、心臓血管疾患においては、適切な運動は心臓の強化や血管の健康維持に寄与し、高血圧や高コレステロールなどの危険因子の改善に役立つ。有酸素運動はの拍数を上げ、血液の循環を促進し、心臓への負担を減少させる。また、糖尿病の予防と管理にも運動が有益である。運動によって筋肉が活性化され、血糖の代謝が改善され、インスリンの働きが効果的になり。血糖コントロールが改善します。また、精神疾患の改善においても運動は重要で、運動によって気分の改善やストレスの軽減が期待でき、うつ病や不安症状の緩和にも寄与する。加えて、がんのリスクも運動によって低減される。運動は炎症を抑制し、免疫機能を向上させ、がんの発生リスクを低減すると考えられている。本講義では運動が心臓血管疾患、糖尿病、うつなどの精神疾患、骨粗鬆症、癌などに対して運動がどのようなメリットをもたらすか理解する。"	
第14回	"スポーツ選手の食事管理 運動中にはエネルギーの需要が急増する。食事管理はこれに応じて十分なエネルギー供給を確保し、疲労を軽減し、トレーニング効果を最大化することに寄与する。特に高強度のトレーニングや競技に従事するスポーツ選手は、効果的な炭水化物、脂質、タンパク質の摂取が必要である。筋肉の修復と成長にも食事は重要な要素である。蛋白質はこれらのプロセスに不可欠であり、トレーニング後に十分な蛋白質を摂取することで、筋肉のリカバリーが促進され、トレーニングの成果が最大限に引き出される。また、持久力スポーツや高強度の活動では、糖質やグリコーゲンの適切な補充が重要である。これにより、持続的なエネルギー供給が確保され、疲労の進行を防ぐことにつながる。栄養は免疫機能の維持にも寄与する。スポーツ選手は過密なスケジュールやトレーニングによる身体へのストレスにさらされるため、適切なビタミンやミネラルの摂取が免疫力をサポートし、怪我や疾病のリスクを低減する。 骨密度や筋肉の健康に関与する栄養素も重要で、特に鉄やカルシウムなどのミネラルは、女子のスポーツ選手の貧血、骨折や骨密度の低下を予防することに寄与する。本講義では、各スポーツ競技種目の特徴を理解し、スポーツ競技ごとで必要な栄養素をどのようなタイミングで摂取することが重要かを理解する。"	
第15回	"まとめ・VO2maxの結果 本講義のまとめとして、受講者は今後どのように自身の生活に運動を取り入れていくのか、運動を取り入れることによるメリットを発表する。 加えて、本講義で取り組んできたTABATA運動による自身のVO2MAXの変化についてレポートする。"	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	実技に積極的に参加しているか。質問に答えられるなどを総合的に判断する。
レポート	30	重要項目の理解ができているか、レポートの目的に沿った論理的展開ができているかを評価する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度により評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	復習を十分行うこと。解剖生理学，臨床栄養学など関連づけて学習するとよい。 スポーツ栄養に興味を持つ学生には特に受講を薦める 選択科目ではあるが，国家試験を受験するには受講した方が有利である。受講を強く勧める。
授業外学修	解剖生理学I，II のうち神経，筋，エネルギー代謝に関するを十分行なっておくこと。週当たり４時間以上学習すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『運動生理学』，岸恭一・上田伸男
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	知識	講義内容範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	人体の解剖・生理学的用語および，運動による変化についてもほぼ説明できる。	人体の解剖・生理学的用語についておおよそ説明でき，運動による変化についてもある程度説明できる。	人体の解剖・生理学的用語についておおよそ説明できる。	人体の解剖・生理学的用語についてほとんど説明できない。
知識・理解	理解度	授業内容を越えた自主的な学修が認められる。総合的に体の変化について説明できる。	総合的な体の変化について理解し、授業内容をほぼ100%理解している。	到達目標は理解しているが、授業内容の理解に不足がある。	到達目標に達していることが認められる。運動による機能別の生理的変化について理解している。	到達目標に達していない。からだの仕組みについて、ほとんど理解できていない。
態度	予習	講義の狙いを完全に理解し説明できる。	講義の狙いをほぼ理解し説明できる。	講義の狙いをおおよそ理解し説明できる。	講義の狙いを示すことができる。	講義の狙いを示すことができない。
態度	復習	復習問題を完全に解答できる。	復習問題をほぼ解答できる。	復習問題をおおよそ解答できる。	復習問題をいくつか解答できる。	復習問題を全く解答できない。

科目名	食品学Ⅰ			授業番号	NL101	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	食生活について食物の歴史，健康，環境などの観点から解説するとともに，食品の5大栄養素についての化学的特性について説明する。また，食品の化学的・物理的な変化と食品成分の特性，さらに食品の機能性についても説明する。								
到達目標	・食品の主要成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の化学的性質を説明できる。 ・食品成分の変化と栄養の関係について説明できる。 ・食品成分による食品の分類について説明できる。 本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回　人間と食物，食品の分類 第2回　食品成分の化学①（水分） 第3・4回　食品成分の化学②（炭水化物） 第5・6回　食品成分の化学③（アミノ酸，ペプチド，たんぱく質，たんぱく質の構造） 第7・8回　食品成分の化学④（脂質の化学的性質・物理的性質） 第9回　食品成分の化学⑤（ミネラル，ビタミン） 第10回　食品成分の化学⑥（色素成分） 第11回　食品成分の化学 ⑦(呈味成分・香気成分) 第12回　食品成分の変化と栄養①（酵素による変化） 第13回　食品成分の変化と栄養②（褐変） 第14回　食品の物性 第15回　総括								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	20	授業中に指示する課題への取り組みと理解度によって評価する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習により疑問点・不明点を明らかにし，授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし，知識の定着を図ること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる教科書の箇所を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業内容・配布資料をノートに纏める。 3　発展学修として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートに纏める。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂　マスター　食品学1	小関正道・鍋谷浩志編著	建帛社	978-4-7679-0697-3	本体2，700円＋税10%
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	化学の授業で使用している教科書			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．人間と食品について	食文化・食生活と健康、食料問題全般について深く理解し、知識を身に着けている。	食文化・食生活と健康、食料問題全般についてあるほぼ理解し、知識を身に付けている。	食文化・食生活と健康、食料問題全般の基本についてある程度理解している。	食文化・食生活と健康、食料問題に関する理解が不十分である。	食文化・食生活と健康、食料問題に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	2．食品成分について	食品成分の構造や機能、物性について深く理解し、知識を身に着けて応用分野に対応できる。	食品成分の構造や機能、物性についてほぼ理解し、知識を身に着けている	食品成分の構造や機能、物性の基本についてある程度理解し、知識を身に付けている。	食品成分の構造や機能、物性に関する理解が不十分である。	食文化・食生活と健康、食料問題に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	3. 食品成分の変化について	食品成分が起こす化学反応について深く理解し、知識を身に着けて応用分野に対応できる。	食品成分が起こす化学含農についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	食品成分が起こす基本的な化学反応についてある程度理解し、知識を身に付けている。	食品成分が起こす化学反応に関して理解が不十分である。	食品成分が起こす化学反応についてほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	1．人間と食品について	日常における食生活がどのように健康に及ぼすか、さらに環境問題と食生活との関わりについて科学的に解説できる。	日常における食生活と健康、食生活と環境問題について導き出すことができる。	日常における食生活と健康、食生活と環境問題について関心を持っている。	日常における人間と食との関係性について関心を持っている。	日常における食生活について関心が無い。

科目名	食品学基礎実験 1クラス(隔週)			授業番号	NL105A	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	試薬，器具等の取り扱い方，測定値の取り扱いなど，食品分析に必要な基礎的概念を習得する。次に，日本食品標準成分表の作成にあたって使用されている分析法を用いて，食品の一般成分の定量分析を行う。								
到達目標	自分で実験することにより，次のことを修得する。 (1) 実験による体験を通して座学で学んだ知識を確認し，食品に対するより明瞭で深い理解ができる。 (2) 化学実験を通じて科学的・数理的知識と思考方法を修得し，科学の視点で食品を理解することができる。 (3) データや情報のまとめ方を学び，実験レポートの書き方の基本を修得できる。 (4) 得られたデータから結論や仮説を立て，正解のない答えを自分で考えて導き出すことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1・2回 食品学基礎実験の概要説明 第3・4回 食品分析に必要な実験器具・理化学機器の取り扱い、試薬の調製(1)（重量パーセント濃度） 第7・8回 食品の一般分析(1)（水分，灰分の定量，脂質の定量①） 第9・10回 食品の一般分析(2)（水分，灰分の定量，脂質の定量②） 第11・12回 食品の一般分析(脂質の定量③)、パソコンを用いた実験レポートの作成法に関する学習 第13・14回 中和滴定ー市販食酢中の酢酸の定量 第15回 まとめ，総括								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	実験への意欲的な取り組み態度により評価する。
レポート	70	毎回の実験レポートについて，具体的論理的に書かれているかにより評価する。

評価の方法：自由記載	実験には意欲的に取り組む。またグループで協力して実験に取り組む。毎回実験レポートを課すので，具体的，論理的にレポートを作成する。
受講の心得	安全な服装（白衣，すべりにくい履物）を着用し，配布されたプリントは必ず持参する。
授業外学修	実験の前には，必ず前回の実験内容を確認しておく。実験後には，実験で学んだ手法，得られた結果について，自ら考察を加え，実験ノートを整理する。1時間以上の学修を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
第2版 食品学実験・実習 －食品分析・食品加工・食品鑑別・食の安全－	長澤治子	青山社	978-4-88359-361-3	本体2100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．実験器具の扱い方について	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で丁寧な扱い方ができる。	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称を覚え、用途をある程度理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称は覚えているが、丁寧な扱いができない。	実験器具の名称と用途を理解せず、適当に扱っている。
知識・理解	2．試薬の調製	必要な試薬の濃度計算が正確にできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具をほぼ準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがほぼ正確にできる。	濃度計算が十分ではないが、ある程度はできる。粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがある程度できる。	濃度計算、質量測定、定容などが全般的にできない。
知識・理解	3. 食品成分の定量	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の正確な重量測定、反応時間等を正確に理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、ある程度実行できる。	必要な実験器具・機器について理解が不十分である。実験試料の重量測定、反応時間等はおおよそに理解しているため、正確に実行できない。	実験内容について全般的に理解できない。
知識・理解	4. レポートの作成	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、深く理解した上で正確な考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ほぼ理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ある程度理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載している。しかし十分な考察ができない。	レポートの記載に必要な項目が記載されていない。

科目名	食品学基礎実験 2クラス(隔週)			授業番号	NL105B	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	試薬，器具等の取り扱い方，測定値の取り扱いなど，食品分析に必要な基礎的概念を習得する。次に，日本食品標準成分表の作成にあたって使用されている分析法を用いて，食品の一般成分の定量分析を行う。								
到達目標	自分で実験することにより，次のことを修得する。 (1) 実験による体験を通して座学で学んだ知識を確認し，食品に対するより明瞭で深い理解ができる。 (2) 化学実験を通じて科学的・数理的知識と思考方法を修得し，科学の視点で食品を理解することができる。 (3) データや情報のまとめ方を学び，実験レポートの書き方の基本を修得できる。 (4) 得られたデータから結論や仮説を立て，正解のない答えを自分で考えて導き出すことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1・2回 食品学基礎実験の概要説明 第3・4回 食品分析に必要な実験器具・理化学機器の取り扱い、試薬の調製(1)（重量パーセント濃度） 第7・8回 食品の一般分析(1)（水分，灰分の定量，脂質の定量①） 第9・10回 食品の一般分析(2)（水分，灰分の定量，脂質の定量②） 第11・12回 食品の一般分析(脂質の定量③)、パソコンを用いた実験レポートの作成法に関する学習 第13・14回 中和滴定ー市販食酢中の酢酸の定量 第15回 まとめ，総括								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	実験への意欲的な取り組み態度により評価する。
レポート	70	毎回の実験レポートについて，具体的論理的に書かれているかにより評価する。

評価の方法：自由記載	実験には意欲的に取り組む。またグループで協力して実験に取り組む。毎回実験レポートを課すので，具体的，論理的にレポートを作成する。
受講の心得	安全な服装（白衣，すべりにくい履物）を着用し，配布されたプリントは必ず持参する。
授業外学修	実験の前には，必ず前回の実験内容を確認しておく。実験後には，実験で学んだ手法，得られた結果について，自ら考察を加え，実験ノートを整理する。1時間以上の学修を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
第2版 食品学実験・実習 －食品分析・食品加工・食品鑑別・食の安全－	長澤治子	青山社	978-4-88359-361-3	本体2100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．実験器具の扱い方について	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で丁寧な扱い方ができる。	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称を覚え、用途をある程度理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称は覚えているが、丁寧な扱いができない。	実験器具の名称と用途を理解せず、適当に扱っている。
知識・理解	2．試薬の調製	必要な試薬の濃度計算が正確にできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具をほぼ準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがほぼ正確にできる。	濃度計算が十分ではないが、ある程度はできる。粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがある程度できる。	濃度計算、質量測定、定容などが全般的にできない。
知識・理解	3. 食品成分の定量	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の正確な重量測定、反応時間等を正確に理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、ある程度実行できる。	必要な実験器具・機器について理解が不十分である。実験試料の重量測定、反応時間等はおおよそに理解しているため、正確に実行できない。	実験内容について全般的に理解できない。
知識・理解	4. レポートの作成	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、深く理解した上で正確な考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ほぼ理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ある程度理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載している。しかし十分な考察ができない。	レポートの記載に必要な項目が記載されていない。

科目名	食品学実験 1クラス(隔週)			授業番号	NL106A	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	食品成分の定性・定量分析および食品の酵素的・非酵素的褐変などの変質要因の分析を行い，食品学の講義の内容と関連付けて実験を行うことで，食品の成分と分析についての相互理解を深める。								
到達目標	・安全かつ正確に実験を遂行するための基本的な操作ができ，実験操作の意味を説明できる。 ・食品成分を分析方法に基づいて定量し，食品成分表の数値を説明できる。 ・官能評価の手法を用いて，食品のおいしさを評価できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	しょうゆ・みそに含まれる塩分の定量	
第2回	しょうゆ・みそに含まれる塩分の定量	
第3回	たんぱく質の定量（ローリー法）① 検量線の作成	
第4回	たんぱく質の定量（ローリー法）① 検量線の作成	
第5回	たんぱく質の定量（ローリー法）② 卵白に含まれるたんぱく質の定量	
第6回	たんぱく質の定量（ローリー法）② 卵白に含まれるたんぱく質の定量	
第7回	野菜・果実などに含まれるビタミンCの定量	
第8回	(1) pH試験紙を用いたpHの測定 (2) たんぱく質の等電点沈殿の検討	
第9回	油脂のヨウ素価について（植物性油脂・動物性油脂を用いて検討する）	
第10回	油脂のヨウ素価について（植物性油脂・動物性油脂を用いて検討する）	
第11回	酵素的褐変について（りんごの酵素的褐変と防止法について検討する）	
第12回	非酵素的褐変について（アミノ酸・糖質の種類、pHと温度による影響について検討する）	
第13回	(1) 小麦粉からグルテンの抽出 (2) 果実からアントシアニン色素の抽出とpHによる色の変化について	
第14回	人工イクラの作製	
第15回	まとめと総合討論	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	実験への意欲的な取り組み態度により評価する。
レポート	70	毎回の実験レポートについて，具体的・論理的に書かれているかにより評価する。課題レポートはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実験手順を理解して授業に臨むこと。実験ノートに情報を集約してまとめ，それを基にレポートを作成すること。
授業外学修	1　予習として，教科書に基づいて実験内容を理解し，実験ノートに纏めること。 2　復習として，実験結果・考察を中心に，実験ノートに整理すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
第2版　食品学実験・実習　ー食品分析・食品加工・食品鑑別・食の安全ー	長澤　治子	青山社	978-4-88359-361-3	2100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考	2022年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．実験器具の扱い方について	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で丁寧な扱い方ができる。	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称を覚え、用途をある程度理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称は覚えているが、丁寧な扱いができない。	実験器具の名称と用途を理解せず、適当に扱っている。
知識・理解	２．試薬の調製	必要な試薬の濃度計算が正確にできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具をほぼ準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがほぼ正確にできる。	濃度計算が十分ではないが、ある程度はできる。粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがある程度できる。	濃度計算、質量測定、定容などが全般的にできない。
知識・理解	３．食品成分の定性・定量	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の正確な重量測定、反応時間等を正確に理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、ある程度実行できる。	必要な実験器具・機器について理解が不十分である。実験試料の重量測定、反応時間等はおおよそに理解しているため、正確に実行できない。	実験内容について全般的に理解できない。
知識・理解	４．食品成分の変化の観察	食品成分が様々な条件による化学反応により変化する過程を理解し、科学的に考察できる知識を身に付けている。また、類似の成分変化についても考察できる知識を身に付けている。	食品成分が様々な条件による化学反応により変化する過程を理解し、科学的に考察できる知識を身に付けている。	食品成分が様々な条件による化学反応により変化する過程を考察できる知識を身に付けている。	食品成分の変化について観察できる知識を身に付けている。	実験内容について全般的に理解できない。
知識・理解	５．レポートの作成	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、深く理解した上で正確な考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ほぼ理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ある程度理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載している。しかし十分な考察ができない。	レポートの記載に必要な項目が記載されていない。

科目名	食品学実験 2クラス(隔週)			授業番号	NL106B	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	食品成分の定性・定量分析および食品の酵素的・非酵素的褐変などの変質要因の分析を行い，食品学の講義の内容と関連付けて実験を行うことで，食品の成分と分析についての相互理解を深める。								
到達目標	・安全かつ正確に実験を遂行するための基本的な操作ができ，実験操作の意味を説明できる。 ・食品成分を分析方法に基づいて定量し，食品成分表の数値を説明できる。 ・官能評価の手法を用いて，食品のおいしさを評価できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	しょうゆ・みそに含まれる塩分の定量	
第2回	しょうゆ・みそに含まれる塩分の定量	
第3回	たんぱく質の定量（ローリー法）① 検量線の作成	
第4回	たんぱく質の定量（ローリー法）① 検量線の作成	
第5回	たんぱく質の定量（ローリー法）② 卵白に含まれるたんぱく質の定量	
第6回	たんぱく質の定量（ローリー法）② 卵白に含まれるたんぱく質の定量	
第7回	野菜・果実などに含まれるビタミンCの定量	
第8回	(1) pH試験紙を用いたpHの測定 (2) たんぱく質の等電点沈殿の検討	
第9回	油脂のヨウ素価について（植物性油脂・動物性油脂を用いて検討する）	
第10回	油脂のヨウ素価について（植物性油脂・動物性油脂を用いて検討する）	
第11回	酵素的褐変について（りんごの酵素的褐変と防止法について検討する）	
第12回	非酵素的褐変について（アミノ酸・糖質の種類、pHと温度による影響について検討する）	
第13回	(1) 小麦粉からグルテンの抽出 (2) 果実からアントシアニン色素の抽出とpHによる色の変化について	
第14回	人工イクラの作製	
第15回	まとめと総合討論	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	実験への意欲的な取り組み態度により評価する。
レポート	70	毎回の実験レポートについて，具体的・論理的に書かれているかにより評価する。課題レポートはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実験手順を理解して授業に臨むこと。実験ノートに情報を集約してまとめ，それを基にレポートを作成すること。
授業外学修	1　予習として，教科書に基づいて実験内容を理解し，実験ノートに纏めること。 2　復習として，実験結果・考察を中心に，実験ノートに整理すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
第2版　食品学実験・実習　ー食品分析・食品加工・食品鑑別・食の安全ー	長澤　治子	青山社	978-4-88359-361-3	2100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考	2022年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．実験器具の扱い方について	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で丁寧な扱い方ができる。	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称を覚え、用途をある程度理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称は覚えているが、丁寧な扱いができない。	実験器具の名称と用途を理解せず、適当に扱っている。
知識・理解	２．試薬の調製	必要な試薬の濃度計算が正確にできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具をほぼ準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがほぼ正確にできる。	濃度計算が十分ではないが、ある程度はできる。粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがある程度できる。	濃度計算、質量測定、定容などが全般的にできない。
知識・理解	３．食品成分の定性・定量	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の正確な重量測定、反応時間等を正確に理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、ある程度実行できる。	必要な実験器具・機器について理解が不十分である。実験試料の重量測定、反応時間等はおおよそに理解しているため、正確に実行できない。	実験内容について全般的に理解できない。
知識・理解	４．食品成分の変化の観察	食品成分が様々な条件による化学反応により変化する過程を理解し、科学的に考察できる知識を身に付けている。また、類似の成分変化についても考察できる知識を身に付けている。	食品成分が様々な条件による化学反応により変化する過程を理解し、科学的に考察できる知識を身に付けている。	食品成分が様々な条件による化学反応により変化する過程を考察できる知識を身に付けている。	食品成分の変化について観察できる知識を身に付けている。	実験内容について全般的に理解できない。
知識・理解	５．レポートの作成	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、深く理解した上で正確な考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ほぼ理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ある程度理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載している。しかし十分な考察ができない。	レポートの記載に必要な項目が記載されていない。

科目名	調理学			授業番号	NL107	サブタイトル			
教員	木野山　真紀								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	調理とは，食品材料を安全でおいしい食べ物に変えることである。調理学では，食べ物の特性を踏まえた食事設計ができるように，食材の選択，調理・供食までの工程の中での調理の役割について学修する。								
到達目標	・調理操作（非加熱操作・加熱操作）の原理と，加熱操作における熱の伝わり方を理解できる。 ・さまざまな食材の調理特性や，調理過程での食材の組織・物性・成分の変化を化学的に理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理の意義・目的，食事設計の基本 調理の意義や調理学の目的，調理を取り巻く環境について理解する。	
第2回	調理と嗜好性 おいしさの直接要因・背景要因の他，基本五味とおいしいさの客観的評価・主観的評価（官能評価）について理解する。	
第3回	非加熱調理操作 「計量」「洗浄」「浸漬」「切砕」など，基本的な非加熱調理操作の目的と仕組みについて理解する。	
第4回	加熱調理操作（伝熱の仕組み） 加熱調理操作における熱の伝わり方（放射・伝導・対流）の仕組みと，加熱操作の種類について理解する。	
第5回	加熱調理操作（加熱調理器具の仕組み） 加熱調理操作に用いられる鍋などの器具，それらの素材による特徴について理解する。	
第6回	植物性食品①　米の調理 日本人の主食である米の嗜好性や，でん粉の糊化と炊飯について理解する。	
第7回	植物性食品②　小麦粉の調理 小麦粉の分類と小麦粉生地（ドウ・バッター）の調製におけるグルテン形成の制御による調理性の違いについて理解する。また，料理によるグルテンの利用についても理解する。	
第8回	植物性食品③　いも，豆，穀実類の調理 いも類の煮熟によるペクチンの低分子化（β-脱離）と，豆類の栄養成分による分類と餡の形成について理解する。	
第9回	植物性食品④　野菜の調理 野菜の嗜好特性である色，歯ごたえを調理によって制御する方法を，化学的な視点から理解する。	
第10回	植物性食品⑤　果実，きのこ，藻類の調理 きのこ・藻類の調理性について理解する。また，果実のペクチンのゲル化条件について，化学的に理解する。	
第11回	動物性食品①　獣鳥肉類の調理 肉の調理性と，肉を軟化させる調理法について理解する。また，肉の部位による調理の違いについても理解する。	
第12回	動物性食品②　魚介類の調理 赤身魚，白身魚の筋肉の成分の違いによって，切り方や調理法が異なることを理解する。また，魚類の基本的な調理法についても理解する。	
第13回	動物性食品③　鶏卵，牛乳・乳製品の調理 卵黄・卵白の成分による調理性の違いや，卵液ゲルの性状に調味料が及ぼす影響，生クリームの泡立て条件について理解する。	
第14回	砂糖，油脂の調理 砂糖，油脂の化学的性質が調理にどのように応用されているかを理解する。	
第15回	ゲル化剤の調理 ゲル化剤（寒天・ゼラチン・カラギーナン等）の化学的性質の違いによる，ゲル化条件，ゲルの性状，ゲル取り扱いの注意点を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	他の科目や実習との関連性を把握できるように，復習を必ずしておくこと。授業の理解を深めるため，普段から調理の経験を積んでおくこと。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，授業時間に学んだ範囲の配布プリントをまとめる。 3．発展学修として，関連科目（調理学実習等）の教科書を読み，知識を結びつける。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新調理学プラス 健康を支える食事を実践するために	松本美鈴・平尾和子 編著	光生館	978-4-332-05043-8	2500
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．調理操作（非加熱操作・加熱操作）の原理を理解できている	調理操作についての高度な知識を有し、それに基づいて実際の調理へ応用できる能力を身につけている	調理操作の原理を理解し、実際の調理への応用を考えることができる	実際の調理をイメージしながら、基本的な調理操作の原理を理解できている	調理操作の原理は理解できていないが、それぞれの操作は理解できている	基本的な調理操作の原理を理解できていない
知識・理解	２．加熱操作における熱の伝わり方を理解できている	加熱操作における熱の伝わり方の特徴を十分に理解し、食材を好ましい状態に加熱するための加熱方法や条件を判断することができる	加熱操作における熱の伝わり方を理解し、実際の調理への応用を考えることができる	実際の調理をイメージしながら、加熱操作における熱の伝わり方の特徴を理解できている	加熱操作は理解できているが、熱の伝わり方を理解できていない	基本的な加熱操作や、熱の伝わり方を理解できていない
知識・理解	３．さまざまな食材の調理特性を理解できている	食材の調理特性についての高度な知識を実際の調理に応用することができる	食材のもつ調理特性を理解し、実際の調理への応用を考えることができる	実際の調理操作をイメージしながら、食材ごとの調理特性を理解できている	食材の調理特性は理解できているが、個々の食材を使用した調理操作について理解できていない	食材のもつ基本的な調理特性を理解できていない
知識・理解	４．調理過程での食材の組織・物性・成分の変化を理解できている	調理による食材の組織・物性・成分の変化について、科学的な原理を十分に理解し、食材を好ましい状態に調理するために必要な調理操作を判断することができる	調理過程で生じる科学的な変化に基づいて、食材の組織・物性・成分の変化を理解できている	科学的な原理についてな十分に理解できていないが、調理過程での食材の組織・物性・成分の変化について理解できている	調理過程により食材の組織・物性・成分が変化することは理解できているが、その原理について理解できていない	調理過程での食材の組織・物性・成分の変化について理解できていない

科目名	調理学実習Ⅰ 1クラス(隔週)			授業番号	NL108A	サブタイトル			
教員	木野山 真紀								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	調理に関する知識・技術は，給食経営管理，臨床栄養管理，応用栄養管理など管理栄養士の主要業務の基礎として重要である。調理学実習Iでは，正しい計量，材料や調理に応じた食品の切り方・扱い方，食品の性質と調理・加工法，季節による食材の特性，廃棄率・調味パーセントの意味と計算方法など，調理の基礎として必要不可欠な事項を学修する。								
到達目標	・衛生的に調理を行うための身支度や調理上の衛生管理についてを理解し，基礎的技術を修得する。 ・切る，潰す，混ぜる，計量するなどの非加熱操作の基礎的技術を修得する。 ・炊く，煮る，蒸す，焼く，揚げるなどの加熱操作の基礎的技術を修得する。 ・廃棄率・調味パーセントなど，食事設計に必要な計算方法の知識を修得する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1・2回 調理室の使用に関するガイダンス（使用上の規則，身支度，衛生管理など），調理器具の説明，計量の実際（計量器の種類と用途，調味料の計量），小麦粉の調理 【利休饅頭，煎茶】 第3・4回 包丁の正しい持ち方，乾物などの重量変化，食品の正味重量と廃棄率，パスタの調理 【スパゲティミートソース，大根サラダ，プラマンジェ】 第5・6回 献立の基本構成と献立の評価，食器のセッティング，各種調理の調味割合，炊飯の基本，魚のさばき方，焼き魚の調理，混合だしの基本 【白飯，鰆の姿焼き，ほうれん草のごま和え，かきたま汁】 第7・8回 各種調理の調味割合・調味計算，野菜の調理（煮物，和え物），寒天の調理特性，豆類の調理（あん） 【白飯，揚げだし豆腐，かぼちゃの煮物，しめじと水菜の辛し和え，水ようかん】 第9・10回 各種調理の調味割合・調味計算，煮魚の基本，希釈卵液を使った調理，蒸し物調理の基本，根菜の調理法 【とうもろこしご飯，かれいの煮つけ，筑前煮，きゅうりとわかめの酢の物，茶碗蒸し】 第11・12回 各種調理の調味割合・調味計算，煮干だしの基本，揚げ物調理の基本 【白飯，天ぷら，も貝とにらのぬた，みそ汁】 第13・14回 西洋料理の食器とセッティング，肉の焼き物料理，いも類の調理，果実中のペクチンのゼリー化について，ゼラチンの調理特性 【ロールパン，豚肉ソテー マッシュドポテト添え，ブロッコリーのミモザサラダ，ヨーグルトゼリー，ジャム，紅茶】 第15回 まとめ								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	20	毎回実習テーマに沿った課題（調べ学習）と，実習した料理を自宅で作りまとめる課題を課す。初回にレポートの書き方と，毎回調べ学習するポイントを示し，そのポイントに沿ってまとめられているかを評価する。レポートはコメントを記して返却する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他	30	実技試験として，身支度，包丁の基礎的技術，片付けまでを評価する。普段から包丁を素早く正確に使えるよう、練習をしておくこと。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回調理内容に関する課題を出すので，常日頃から調理，食品に興味関心を持って情報収集に努めること。
授業外学修	復習として， 1．実習した料理は必ず自宅で作り，食べてもらって評価してもらうこと。 2．課題のレポートを書く。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新 調理学実習 第二版	宮下朋子・村元美代 編著	同文書院	978-4-8103-1457-1	2700
調理のためのベーシックデータ 第6版	松本仲子	女子栄養大学出版部	978-4-7895-0323-5	1800
使用テキスト：自由記載	書名：新ベターホームのお料理1年生 著者名：ベターホーム協会 編 出版社：ベターホーム協会 定価：1，500 ISBN978-4865860153			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本食品大事典	杉田浩一・平宏和・田島眞・安井明美	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70716-6	9000

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	毎回の持参物が多いため，忘れ物には十分に注意すること。白衣・エプロン・帽子・手拭きを忘れた場合は，有料でレンタルあるいは購入することになる。 食物アレルギーのある場合は，事前に担当教員に申し出ること。 この実習では，調理技術の他にも衛生管理の技術も習得する。そのため，ピアスや指輪，ネックレスは外すこと。また，爪は必ず切っておくこと。ジェルネイルや付け爪等，その場で取れない場合は実習不可とする。 授業時間は3～5限であるが，片付けや掃除に時間がかかった場合は18時以降の解散となりうる。そのため，実習の日にはバイトや重要な予定はいれないこと。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．衛生的に調理を行うための身支度や、調理上の衛生管理を理解できている。	調理における衛生管理の重要性を科学的根拠と併せて十分に理解できており、具体的な衛生管理の技術を実践できている。	衛生管理の科学的根拠は十分に理解できているが、衛生管理の重要性は理解できている。	調理における衛生管理の必要性を理解できている。	身支度については理解できているが、調理上の衛生管理については理解できていない。	身支度や調理上の衛生管理を理解できていない。
知識・理解	２．廃棄率・調味パーセントなど、食事設計に必要な計算方法を理解できている。	食事設計にかかわる計算についての高度な知識を有し、それらを必要に応じて使うことができる。	食事設計に必要な、基本的な計算方法について理解できている。	食事設計に必要な計算式をたてることができる。	食事設計に必要な計算の計算式は理解できているが、計算式の立て方を理解できていない。	食事設計に必要な基本的な計算方法を理解できていない。
技能	１．衛生管理の基礎的技術を習得できている。	衛生管理の基礎的技術を十分に習得できており、学外においても自発的に実践・応用できている。	衛生管理の基礎的技術を習得できており、実習中に実践できている。	調理前後における衛生管理の基礎的技術を習得できている。	手洗い・身支度の技術は習得できているが、調理におけるまな板の使い分けなどの技術は習得できていない。	衛生管理の基礎的技術を習得できていない。
技能	２．非加熱操作の基礎的技術を習得できている。	包丁や計量器具、すり鉢など非加熱操作での使用器具を使いこなし、操作の意味を理解して調理できている。	非加熱操作の基礎的技術を習得できており、実習中に実践できている。	包丁の使い方や基本的な野菜の切り方、計量器具の使い方を習得できている。	計量の技術は習得しているが、包丁の使い方を十分に習得できていない。	非加熱操作の基礎的技術を習得できていない。
技能	３．加熱操作の基礎的技術を習得できている。	効率的な熱の伝え方や加熱調理器具の特徴を理解し、環境に配慮した加熱操作技術を習得できている。	加熱調理中の食材の様子を観察しながら、より好ましい状態になるよう、加熱することができる。	食材の量や鍋の大きさを考慮しながら、レシピの指示通りに加熱することができる。	加熱操作に必要な技術を理解できているが、実践できていない。	加熱操作の基礎的技術を習得できていない。

科目名	調理学実習Ⅰ 2クラス(隔週)			授業番号	NL108B	サブタイトル			
教員	木野山 真紀								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	調理に関する知識・技術は，給食経営管理，臨床栄養管理，応用栄養管理など管理栄養士の主要業務の基礎として重要である。調理学実習Iでは，正しい計量，材料や調理に応じた食品の切り方・扱い方，食品の性質と調理・加工法，季節による食材の特性，廃棄率・調味パーセントの意味と計算方法など，調理の基礎として必要不可欠な事項を学修する。								
到達目標	・衛生的に調理を行うための身支度や調理上の衛生管理についてを理解し，基礎的技術を修得する。 ・切る，潰す，混ぜる，計量するなどの非加熱操作の基礎的技術を修得する。 ・炊く，煮る，蒸す，焼く，揚げるなどの加熱操作の基礎的技術を修得する。 ・廃棄率・調味パーセントなど，食事設計に必要な計算方法の知識を修得する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1・2回 調理室の使用に関するガイダンス（使用上の規則，身支度，衛生管理など），調理器具の説明，計量の実際（計量器の種類と用途，調味料の計量），小麦粉の調理 【利休饅頭，煎茶】 第3・4回 包丁の正しい持ち方，乾物などの重量変化，食品の正味重量と廃棄率，パスタの調理 【スパゲティミートソース，大根サラダ，プラマンジェ】 第5・6回 献立の基本構成と献立の評価，食器のセッティング，各種調理の調味割合，炊飯の基本，魚のさばき方，焼き魚の調理，混合だしの基本 【白飯，鰆の姿焼き，ほうれん草のごま和え，かきたま汁】 第7・8回 各種調理の調味割合・調味計算，野菜の調理（煮物，和え物），寒天の調理特性，豆類の調理（あん） 【白飯，揚げだし豆腐，かぼちゃの煮物，しめじと水菜の辛し和え，水ようかん】 第9・10回 各種調理の調味割合・調味計算，煮魚の基本，希釈卵液を使った調理，蒸し物調理の基本，根菜の調理法 【とうもろこしご飯，かれいの煮つけ，筑前煮，きゅうりとわかめの酢の物，茶碗蒸し】 第11・12回 各種調理の調味割合・調味計算，煮干だしの基本，揚げ物調理の基本 【白飯，天ぷら，も貝とにらのぬた，みそ汁】 第13・14回 西洋料理の食器とセッティング，肉の焼き物料理，いも類の調理，果実中のペクチンのゼリー化について，ゼラチンの調理特性 【ロールパン，豚肉ソテー マッシュドポテト添え，ブロッコリーのミモザサラダ，ヨーグルトゼリー，ジャム，紅茶】 第15回 まとめ								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	20	毎回実習テーマに沿った課題（調べ学習）と，実習した料理を自宅で作りまとめる課題を課す。初回にレポートの書き方と，毎回調べ学習するポイントを示し，そのポイントに沿ってまとめられているかを評価する。レポートはコメントを記して返却する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他	30	実技試験として，身支度，包丁の基礎的技術，片付けまでを評価する。普段から包丁を素早く正確に使えるよう、練習をしておくこと。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回調理内容に関する課題を出すので，常日頃から調理，食品に興味関心を持って情報収集に努めること。
授業外学修	復習として， 1．実習した料理は必ず自宅で作り，食べてもらって評価してもらうこと。 2．課題のレポートを書く。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新 調理学実習 第二版	宮下朋子・村元美代 編著	同文書院	978-4-8103-1457-1	2700
調理のためのベーシックデータ 第6版	松本仲子	女子栄養大学出版部	978-4-7895-0323-5	1800
使用テキスト：自由記載	書名：新ベターホームのお料理1年生 著者名：ベターホーム協会 編 出版社：ベターホーム協会 定価：1，500 ISBN978-4865860153			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本食品大事典	杉田浩一・平宏和・田島眞・安井明美	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70716-6	9000

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	毎回の持参物が多いため，忘れ物には十分に注意すること。白衣・エプロン・帽子・手拭きを忘れた場合は，有料でレンタルあるいは購入することになる。 食物アレルギーのある場合は，事前に担当教員に申し出ること。 この実習では，調理技術の他にも衛生管理の技術も習得する。そのため，ピアスや指輪，ネックレスは外すこと。また，爪は必ず切っておくこと。ジェルネイルや付け爪等，その場で取れない場合は実習不可とする。 授業時間は3～5限であるが，片付けや掃除に時間がかかった場合は18時以降の解散となりうる。そのため，実習の日にはバイトや重要な予定はいれないこと。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．衛生的に調理を行うための身支度や、調理上の衛生管理を理解できている。	調理における衛生管理の重要性を科学的根拠と併せて十分に理解できており、具体的な衛生管理の技術を実践できている。	衛生管理の科学的根拠は十分に理解できているが、衛生管理の重要性は理解できている。	調理における衛生管理の必要性を理解できている。	身支度については理解できているが、調理上の衛生管理については理解できていない。	身支度や調理上の衛生管理を理解できていない。
知識・理解	２．廃棄率・調味パーセントなど、食事設計に必要な計算方法を理解できている。	食事設計にかかわる計算についての高度な知識を有し、それらを必要に応じて使うことができる。	食事設計に必要な、基本的な計算方法について理解できている。	食事設計に必要な計算式をたてることができる。	食事設計に必要な計算の計算式は理解できているが、計算式の立て方を理解できていない。	食事設計に必要な基本的な計算方法を理解できていない。
技能	１．衛生管理の基礎的技術を習得できている。	衛生管理の基礎的技術を十分に習得できており、学外においても自発的に実践・応用できている。	衛生管理の基礎的技術を習得できており、実習中に実践できている。	調理前後における衛生管理の基礎的技術を習得できている。	手洗い・身支度の技術は習得できているが、調理におけるまな板の使い分けなどの技術は習得できていない。	衛生管理の基礎的技術を習得できていない。
技能	２．非加熱操作の基礎的技術を習得できている。	包丁や計量器具、すり鉢など非加熱操作での使用器具を使いこなし、操作の意味を理解して調理できている。	非加熱操作の基礎的技術を習得できており、実習中に実践できている。	包丁の使い方や基本的な野菜の切り方、計量器具の使い方を習得できている。	計量の技術は習得しているが、包丁の使い方を十分に習得できていない。	非加熱操作の基礎的技術を習得できていない。
技能	３．加熱操作の基礎的技術を習得できている。	効率的な熱の伝え方や加熱調理器具の特徴を理解し、環境に配慮した加熱操作技術を習得できている。	加熱調理中の食材の様子を観察しながら、より好ましい状態になるよう、加熱することができる。	食材の量や鍋の大きさを考慮しながら、レシピの指示通りに加熱することができる。	加熱操作に必要な技術を理解できているが、実践できていない。	加熱操作の基礎的技術を習得できていない。

科目名	調理学実習Ⅱ 1クラス(隔週)			授業番号	NL109A	サブタイトル			
教員	木野山 真紀								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	調理学実習IIでは，調理学実習Iで学んだ知識と技術をさらに向上させるとともに，献立作成に関する知識・技術や，調理に関する応用力を身に付けることを目的とする。通常の調理に加え，日本の行事食や西洋料理，中国料理の調理を通じて，それらの調理上の特徴と食文化を学ぶ。								
到達目標	・栄養価計算の手法を身につける。 ・献立の基本構成と，献立立案から作成・評価・見直しまでの一連の流れを理解し，献立全体を評価・見直しする能力を身につける。 ・日本を含む諸外国の食文化や調理の特徴について理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	実習は，自作献立についての演習と調理実習の2部構成で行う。 第1，2回 自作献立のメニュー立案，栄養価計算，調味%の計算 野菜の摂取量を増やす工夫，卵液ゲルの調理 【サンドイッチ，コールスローサラダ，ミネストローネ，カスタードプディング】第3，4回 自作献立の食材と調味料重量の決定 すしの調理と食文化について 【ちらしずし，白和え，吉野鶏のすまし汁】第5，6回 自作献立の栄養価計算 3：1：2お弁当法について，おかずの詰め方の演習 【白飯，魚の照り焼き，鶏肉の竜田揚げ，卵焼き，小松菜のおかか和え，五目豆，きのこのマリネ，さつまいもの甘煮】第7，8回 自作献立の栄養価の評価と改善 中国料理の特徴と食文化 【白飯，炒肉片（肉と野菜の炒め物），芙蓉蟹（かに玉），玉米羹（とうもろこしのスープ），奶豆腐（牛乳かん）】第9，10回 自作献立のレシピ作成，作業工程表の作成，材料購入表の作成 西洋料理の特徴と食文化について 【ロールパン，若鶏ソテー マレンゴ，にんじんグラッセ，マセドアンサラダ，にんじんのポタージュ，ブッシュドノエル】第11，12回 自作献立のプレゼン資料作成，班で作成する献立の決定 日本料理およびおせち料理の特徴と，食文化について 【雑煮，筑前煮，伊達巻，菊花かぶ，手綱こんにゃく，松笠いか，栗きんとん，さやいんげんの青煮】第13，14回 自作献立のプレゼンと調理 自作献立を調理する意義と学びについて第15回 自作献立反省会およびまとめ								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	70	毎回，自作献立作成に向けた課題と，実習で作った料理を自宅で作る課題，作った料理の栄養価計算を課す。指定された課題がポイントを押さえてまとめられているかを評価し，コメントを記して返却する。
小テスト		
定期試験	30	1食分の栄養価計算や，実習で学んだ内容について，最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回献立作成についての課題を出すので，常日頃から調理，食品に興味関心を持って情報収集に努めること。
授業外学修	復習として， 1．実習した料理は必ず自宅で作り，食べてもらって評価してもらう。 2．実習で調理した料理の栄養価計算をする。 3．日頃から，食材の重量感覚を養い，1食もしくは1品の料理の分量を意識する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新 調理学実習 第二版	宮下朋子・村元美代 編著	同文書院	978-4-8103-1457-1	2700
八訂 食品成分表2023	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-1021-9	1500
使用テキスト：自由記載	書名：新ベターホームのお料理1年生 ワイド版 著者名：ベターホーム協会 編 出版社：ベターホーム協会 定価：1，500 ISBN978-4865860153			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本食品大事典	杉田浩一・平宏和・田島眞・安井明美	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70716-6	9000

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	基本的な調理技術は身につけた前提で実習を進めるため，前期の調理学実習Ⅰで修得した技能を忘れないように，調理技術の研鑽に努めること。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日本を含む諸外国の食文化や調理の特徴を理解できている。	日本や諸外国の食文化や調理の特徴について十分に理解しできており、調理実習で実践することができる。	日本や諸外国の食文化や調理の特徴に由来する風土の特徴を理解できている。	日本や諸外国の食文化や調理の特徴について概ね理解できている。	日本の食文化や調理の特徴について理解劇ているが、諸外国については十分に理解できていない。	日本の食文化について理解できていない。
技能	1．栄養価計算の手法を身につけることができている。	食品成分表の内容も十分に把握できており、計算結果の評価・見直しを前提とした、正確な栄養価計算が素早くできている。	正確で素早い栄養価計算をすることができている。	軽微なミスはみられるが、基本的な栄養価計算の手法については身につけることができている。	栄養価の算出方法は理解できているが、食品成分表における計算に使用する食品の選択について理解できていない。	栄養価計算の手法を理解できていない。
技能	2．献立作成に必要な能力を身につけることができている。	喫食者だけでなく効率よく調理ができるように配慮した献立を作成・評価する能力を身につけることができている。	喫食者へ配慮した献立作成に必要な技術を理解し、献立を作成する能力を身につけることができている。	献立の基本構成や献立立案から評価・見直しまでの一連の流れを理解できている。	献立の基本構成は理解できており、簡単な献立は立案できるが喫食者への配慮に欠けている。	献立の基本構成や配膳など、献立作成に必要な技術が理解できていない。

科目名	調理学実習Ⅱ 2クラス(隔週)			授業番号	NL109B	サブタイトル			
教員	木野山 真紀								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	調理学実習IIでは，調理学実習Iで学んだ知識と技術をさらに向上させるとともに，献立作成に関する知識・技術や，調理に関する応用力を身に付けることを目的とする。通常の調理に加え，日本の行事食や西洋料理，中国料理の調理を通じて，それらの調理上の特徴と食文化を学ぶ。								
到達目標	・栄養価計算の手法を身につける。 ・献立の基本構成と，献立立案から作成・評価・見直しまでの一連の流れを理解し，献立全体を評価・見直しする能力を身につける。 ・日本を含む諸外国の食文化や調理の特徴について理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	実習は，自作献立についての演習と調理実習の2部構成で行う。 第1，2回 自作献立のメニュー立案，栄養価計算，調味%の計算 野菜の摂取量を増やす工夫，卵液ゲルの調理 【サンドイッチ，コールスローサラダ，ミネストローネ，カスタードプディング】第3，4回 自作献立の食材と調味料重量の決定 すしの調理と食文化について 【ちらしずし，白和え，吉野鶏のすまし汁】第5，6回 自作献立の栄養価計算 3：1：2お弁当法について，おかずの詰め方の演習 【白飯，魚の照り焼き，鶏肉の竜田揚げ，卵焼き，小松菜のおかか和え，五目豆，きのこのマリネ，さつまいもの甘煮】第7，8回 自作献立の栄養価の評価と改善 中国料理の特徴と食文化 【白飯，炒肉片（肉と野菜の炒め物），芙蓉蟹（かに玉），玉米羹（とうもろこしのスープ），奶豆腐（牛乳かん）】第9，10回 自作献立のレシピ作成，作業工程表の作成，材料購入表の作成 西洋料理の特徴と食文化について 【ロールパン，若鶏ソテー マレンゴ，にんじんグラッセ，マセドアンサラダ，にんじんのポタージュ，プッシュドノエル】第11，12回 自作献立のプレゼン資料作成，班で作成する献立の決定 日本料理およびおせち料理の特徴と，食文化について 【雑煮，筑前煮，伊達巻，菊花かぶ，手綱こんにゃく，松笠いか，栗きんとん，さやいんげんの青煮】第13，14回 自作献立のプレゼンと調理 自作献立を調理する意義と学びについて第15回 自作献立反省会およびまとめ								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	70	毎回，自作献立作成に向けた課題と，実習で作った料理を自宅で作る課題，作った料理の栄養価計算を課す。指定された課題がポイントを押さえてまとめられているかを評価し，コメントを記して返却する。
小テスト		
定期試験	30	1食分の栄養価計算や，実習で学んだ内容について，最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回献立作成についての課題を出すので，常日頃から調理，食品に興味関心を持って情報収集に努めること。
授業外学修	復習として， 1．実習した料理は必ず自宅で作り，食べてもらって評価してもらう。 2．実習で調理した料理の栄養価計算をする。 3．日頃から，食材の重量感覚を養い，1食もしくは1品の料理の分量を意識する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新 調理学実習 第二版	宮下朋子・村元美代 編著	同文書院	978-4-8103-1457-1	2700
八訂 食品成分表2023	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-1021-9	1500
使用テキスト：自由記載	書名：新ベターホームのお料理1年生 ワイド版 著者名：ベターホーム協会 編 出版社：ベターホーム協会 定価：1，500 ISBN978-4865860153			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本食品大事典	杉田浩一・平宏和・田島眞・安井明美	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70716-6	9000

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	基本的な調理技術は身につけた前提で実習を進めるため，前期の調理学実習Ⅰで修得した技能を忘れないように，調理技術の研鑽に努めること。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日本を含む諸外国の食文化や調理の特徴を理解できている。	日本や諸外国の食文化や調理の特徴について十分に理解しできており、調理実習で実践することができる。	日本や諸外国の食文化や調理の特徴に由来する風土の特徴を理解できている。	日本や諸外国の食文化や調理の特徴について概ね理解できている。	日本の食文化や調理の特徴について理解劇ているが、諸外国については十分に理解できていない。	日本の食文化について理解できていない。
技能	1．栄養価計算の手法を身につけることができている。	食品成分表の内容も十分に把握できており、計算結果の評価・見直しを前提とした、正確な栄養価計算が素早くできている。	正確で素早い栄養価計算をすることができている。	軽微なミスはみられるが、基本的な栄養価計算の手法については身につけることができている。	栄養価の算出方法は理解できているが、食品成分表における計算に使用する食品の選択について理解できていない。	栄養価計算の手法を理解できていない。
技能	2．献立作成に必要な能力を身につけることができている。	喫食者だけでなく効率よく調理ができるように配慮した献立を作成・評価する能力を身につけることができている。	喫食者へ配慮した献立作成に必要な技術を理解し、献立を作成する能力を身につけることができている。	献立の基本構成や献立立案から評価・見直しまでの一連の流れを理解できている。	献立の基本構成は理解できており、簡単な献立は立案できるが喫食者への配慮に欠けている。	献立の基本構成や配膳など、献立作成に必要な技術が理解できていない。

科目名	食品学Ⅱ			授業番号	NL202	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	食品の分類，食品原料（植物性食品，動物性食品）の特性と含有する栄養成分，ならびに各種加工食品（食用油脂，調味料，香辛料，微生物利用食品等）について説明する。								
到達目標	・食品素材における主要成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の化学的性質を説明できる。 ・食品加工における成分の変化と栄養の関係について説明できる。 ・食品成分表に基づく食品の分類について説明できる。 なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 穀類 第2回 いも類 第3回 豆類 第4回 野菜・果実類 第5回 きのこ類，藻類 第6回 肉類 第7回 卵類 第8回 乳類 第9回 魚介類 第10回 食用油脂 第11回 甘味料・調味料 第13回 香辛料・嗜好飲料 第14回 微生物利用食品 第15回 総括								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	20	授業中に指示する課題への取り組みと理解度によって評価する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習により疑問点・不明点を明らかにし，授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし，知識の定着を図ること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる教科書の箇所を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業内容・配布資料をノートに纏める。 3　発展学修として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートに纏める。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂マスター食品学II	小関正道	建帛社	978-4-7679-0698-0	2,860円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．植物性食品について	穀類やいも類、その他植物性食品の成分と特徴、貯蔵法について深く理解し、知識を身に付けている。	穀類やいも類、その他植物性食品の成分と特徴、貯蔵法についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	穀類やいも類、その他植物性食品の成分と特徴、貯蔵法についてある程度理解し、知識を身に付けている。	植物性食品に関する理解が不十分である。	植物性食品に関してほとんど理解できない。

科目名	調理学実験 1クラス(隔週)			授業番号	NL210A	サブタイトル			
教員	木野山 真紀								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	調理学実験では，食品の調理性や調理中における食品の物性，組織，成分の変化についての実験を通じて，食材をより好ましく調理するために必要な調理技術と科学的メカニズムについて学修する。								
到達目標	・実験を通してさまざまな食材の特性を科学的に理解し，調理や献立作成に応用できる力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1・2回 官能評価に関する実験，嗜好の主観的評価・客観的評価 嗜好の評価方法について，それぞれの特徴や利点を理解する。また，実施に当たっての注意点を理解し，得られた結果を統計学的に評価できるようになる。 第3・4回 小麦粉に関する実験 小麦粉生地(バッター)の膨化の仕組みを理解する。また，小麦粉生地(ドウ)の混捏・ねかしの操作が生地の弾性・伸展性に及ぼす影響について理解する。 第5・6回 野菜に関する実験 調理条件が野菜の色に及ぼす影響，歯ごたえに及ぼす影響について理解し，野菜の特性を生かした調理条件について理解する。 第7・8回 肉・魚に関する実験 ハンバーグの副材料が，嗜好性に及ぼす影響について理解する。また，いかのさばき方や切り方，飾り切りの効果について理解する。 第9・10回 卵・牛乳に関する実験 卵液に加える副材料が卵液ゲルの性状に及ぼす影響を理解する。また，好ましい生クリームの泡立て条件についても理解する。 第11・12回 いも・砂糖に関する実験 さつまいもの加熱条件と糖度の関係について理解する。また，砂糖を加熱した時の調理性の変化について理解する。 第13・14回 寒天・ゼラチン・カラギーナンに関する実験 各種ゲル化剤の特徴と，ゲルの性状との関係について理解する。また，とろみ剤の種類と特徴について理解する。 第15回 まとめ これまでの実験で分かったことが，実際の調理や管理栄養士国家試験に必要な知識であることを理解する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	70	レポートは以下の3部構成とする。レポートについては評価した後，コメントを記して返却する。 １.実験：特に考察を重点的に評価する。実験の結果から得られた知見が，調理操作としてどのように応用されているか，教科書等を参考にして記述すること。 ２.調理課題：実験で扱った食品の調理性についての知識を，技術として定着させるために，実験に関連した料理を家で作成してレポートを作成する。作った料理は学生証と共に写真を撮り，レポートに添付する。 3.国家試験問題解説作成：管理栄養士国家試験の過去問題より，実験のテーマと関連したものを1問とりあげ，解説を作成する。
小テスト		
定期試験	30	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	これまでに学んだ調理学に関連する科目の復習を必ずしておくこと。 実験の前には爪を切ってくること。 また，この評価の7割はレポートであるため，簡素なレポートを書いたり，欠席したりした場合の減点は取り返せないことを念頭において臨んでほしい。
授業外学修	1．予習として，教科書の実験内容にかかわる部分を読んでおく。 2．復習として，実験のレポートを書く。 3．復習として，実験内容にかかわる料理を作り，レポートを書く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
調理科学実験　第2版	長尾慶子・香西みどり 編著	建帛社	978-4-7679-0623-2	1900
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
NEW 調理と理論	山崎清子，島田キミエ 他	同文書院	978-4-8103-1507-3	2800
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．様々な食材の特性を科学的に理解できている。	食材の科学的特性について高度な知識を有しており、調理による科学的反応についても十分に理解できている。	食材の特性を科学的に理解できており、調理操作により引き起こされる化学的変化を理解できている。	食材の科学的特性に基づいた調理操作が行われていることを理解できている。	調理操作については理解できているが、食材の科学的特性を十分に理解できていない。	実験で得られた結果と食材の科学的特性をが結びついていない。
思考・問題解決能力	1．食材の特性を調理や献立作成に応用できる能力を身につけることができている。	実験で取り扱っていない食材についても、その科学的特性を十分に理解したうえで、より好ましい状態に調理・調味する方法を理解し、献立作成に取り入れることができている。	食材の特性を利用してより好ましい状態に調理するための工夫を取り入れた献立を立てることができている。	実験で取り扱った食材の特性を、既存の献立に取り入れることができている。	実験より得られた食材の特性を簡単な調理に取り入れることはできるが、献立作成に応用できていない。	食材の特性を調理や献立に応用できていない。

科目名	調理学実験 2クラス(隔週)			授業番号	NL210B	サブタイトル			
教員	木野山　真紀								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	調理学実験では，食品の調理性や調理中における食品の物性，組織，成分の変化についての実験を通じて，食材をより好ましく調理するために必要な調理技術と科学的メカニズムについて学修する。								
到達目標	・実験を通してさまざまな食材の特性を科学的に理解し，調理や献立作成に応用できる力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1・2回　官能評価に関する実験，嗜好の主観的評価・客観的評価 嗜好の評価方法について，それぞれの特徴や利点を理解する。また，実施に当たっての注意点を理解し，得られた結果を統計学的に評価できるようになる。 第3・4回　小麦粉に関する実験 小麦粉生地(バッター)の膨化の仕組みを理解する。また，小麦粉生地(ドウ)の混捏・ねかしの操作が生地の弾性・伸展性に及ぼす影響について理解する。 第5・6回　野菜に関する実験 調理条件が野菜の色に及ぼす影響，歯ごたえに及ぼす影響について理解し，野菜の特性を生かした調理条件について理解する。 第7・8回　肉・魚に関する実験 ハンバーグの副材料が，嗜好性に及ぼす影響について理解する。また，いかのさばき方や切り方，飾り切りの効果について理解する。 第9・10回 卵・牛乳に関する実験 卵液に加える副材料が卵液ゲルの性状に及ぼす影響を理解する。また，好ましい生クリームの泡立て条件についても理解する。 第11・12回　いも・砂糖に関する実験 さつまいもの加熱条件と糖度の関係について理解する。また，砂糖を加熱した時の調理性の変化について理解する。 第13・14回　寒天・ゼラチン・カラギーナンに関する実験 各種ゲル化剤の特徴と，ゲルの性状との関係について理解する。また，とろみ剤の種類と特徴について理解する。 第15回　まとめ これまでの実験で分かったことが，実際の調理や管理栄養士国家試験に必要な知識であることを理解する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	70	レポートは以下の3部構成とする。レポートについては評価した後，コメントを記して返却する。 １.実験：特に考察を重点的に評価する。実験の結果から得られた知見が，調理操作としてどのように応用されているか，教科書等を参考にして記述すること。 ２.調理課題：実験で扱った食品の調理性についての知識を，技術として定着させるために，実験に関連した料理を家で作成してレポートを作成する。作った料理は学生証と共に写真を撮り，レポートに添付する。 3.国家試験問題解説作成：管理栄養士国家試験の過去問題より，実験のテーマと関連したものを1問とりあげ，解説を作成する。
小テスト		
定期試験	30	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	これまでに学んだ調理学に関連する科目の復習を必ずしておくこと。 実験の前には爪を切ってくること。 また，この評価の7割はレポートであるため，簡素なレポートを書いたり，欠席したりした場合の減点は取り返せないことを念頭において臨んでほしい。
授業外学修	1．予習として，教科書の実験内容にかかわる部分を読んでおく。 2．復習として，実験のレポートを書く。 3．復習として，実験内容にかかわる料理を作り，レポートを書く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
調理科学実験　第2版	長尾慶子・香西みどり 編著	建帛社	978-4-7679-0623-2	1900
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
NEW 調理と理論	山崎清子，島田キミエ 他	同文書院	978-4-8103-1507-3	2800
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．様々な食材の特性を科学的に理解できている。	食材の科学的特性について高度な知識を有しており、調理による科学的反応についても十分に理解できている。	食材の特性を科学的に理解できており、調理操作により引き起こされる化学的変化を理解できている。	食材の科学的特性に基づいた調理操作が行われていることを理解できている。	調理操作については理解できているが、食材の科学的特性を十分に理解できていない。	実験で得られた結果と食材の科学的特性をが結びついていない。
思考・問題解決能力	1．食材の特性を調理や献立作成に応用できる能力を身につけることができている。	実験で取り扱っていない食材についても、その科学的特性を十分に理解したうえで、より好ましい状態に調理・調味する方法を理解し、献立作成に取り入れることができている。	食材の特性を利用してより好ましい状態に調理するための工夫を取り入れた献立を立てることができている。	実験で取り扱った食材の特性を、既存の献立に取り入れることができている。	実験より得られた食材の特性を簡単な調理に取り入れることはできるが、献立作成に応用できていない。	食材の特性を調理や献立に応用できていない。

科目名	食品衛生学			授業番号	NL211	サブタイトル			
教員	楠本 晃子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	食品衛生学は，飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し，健康な生活を確保することを目的とした学問である。食品の生産から加工，流通，貯蔵，調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保について理解する。さらに，食品衛生の概論，食品の安全に関する関連法規，食品衛生行政，食中毒等の健康危害の種類と特徴，食品添加物の有効性と安全性および食品の表示等について学ぶ。管理栄養士，食品衛生管理者，食品衛生監視員になるためにも重要な科目である。								
到達目標	【食の安心・安全の重要性を認識し，「食べ物と健康」に関する知識と理解を深める】 ・食品を介して発生する健康危害要因を説明することができる。 ・食品添加物の種類や機能，必要性を正しく理解し，説明することができる。 ・食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法を説明することができる。 ・食品衛生法，食品安全基本法および食品表示法の概要に関心をもち内容を説明できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	食品衛生と法規（コーデックス， 食品安全基本法，食品衛生法）	
第2回	食品衛生と法規（食品衛生に関する法規）	
第3回	食品の変質（微生物による変質，化学的変質）	
第4回	食中毒と微生物（微生物の概要，微生物の食品への関与）	
第5回	食中毒（食中毒発生状況， 細菌）	
第6回	食中毒（細菌，ウイルス，寄生虫）	
第7回	食中毒（寄生虫，化学物質）	
第8回	食中毒（化学物質，動物・植物性食中毒）	
第9回	食品中の汚染物質（カビ毒，化学物質，有害元素）	
第10回	食品中の汚染物質（放射性物質，異物混入，アレルゲン）	
第11回	食品添加物および残留農薬（食品添加物とは，食品添加物の分類，ポジティブリスト制度）	
第12回	食品衛生管理（一般衛生管理プログラム，HACCPシステム）	
第13回	食品衛生管理（国際標準化機構）	
第14回	食品表示制度（食品表示法の概要，食品表示基準）	
第15回	食品表示制度（特定保健用食品，栄養機能食品，機能性表示食品）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	100	最終的な理解を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	食中毒など食品衛生に関する記事が新聞やニュースに度々出てくるので，世の中の出来事に日頃から関心を持ち，講義に臨むこと。
授業外学修	(1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として，授業で配布した資料を読み， 理解を深める。 (3)発展学修として，食品衛生に関する新聞記事やニュースを読み，地域や最新の話題に関心をもつ。 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 第３版	田崎 達明 編	羊土社	978-4-7581-1372-4	2900円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食品を介して発生する健康危害要因を説明することができる	食品を介して発生する健康危害要因について正しく理解し、説明することができる	食品を介して発生する健康危害要因に関する知識を十分に身につけ、理解している	食品を介して発生する健康危害要因に関する知識を身につけている	食品を介して発生する健康危害要因に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	食品を介して発生する健康危害要因に関する知識を身につけていない
知識・理解	２．食品添加物の種類や機能、必要性を正しく理解し、説明することができる	食品添加物について正しく理解し、説明することができる	食品添加物の知識を十分に身につけ、理解している	食品添加物に関する知識を身につけている	食品添加物に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	食品添加物に関する知識を身につけていない
知識・理解	３．食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法を説明することができる	食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法について正しく理解し、説明することができる	食品衛生と食品の安全性確保のための衛生管理方法に関する知識を十分に身につけ、理解している	食品衛生と食品の安全性確保のための衛生管理方法に関する知識を身につけている	食品衛生と食品の安全性確保のための衛生管理方法に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	食品衛生と食品の安全性確保のための衛生管理方法に関する知識を身につけていない
知識・理解	４．食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法の概要を説明できる	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法の概要について正しく理解し、説明することができる	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法に関する知識を十分に身につけ、理解している	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法に関する知識を身につけている	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法に関する知識を身につけていない

科目名	食品衛生学実験 1クラス(隔週)			授業番号	NL212A	サブタイトル			
教員	楠本　晃子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	食品衛生学あるいは微生物学の講義で得た内容をより実践的にするため，微生物に関する検査および実務的な食品衛生検査の手技を実験により習得する。								
到達目標	・食品，器具などの衛生微生物検査における基礎的な技術を説明することができる。 ・実験データおよび文献に基づいて，論理的に思考することができる ・実験データを整理し，レポートにまとめることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	実験の都合上，既定の授業時間以外にも実験を実施する。実験の日時については初回に指示する。								

回	概要	担当
第1回	食品の寄生虫（アニサキス）検査，細菌の培養	
第2回	細菌の培養，手指および体表からの菌の検出，衛生的手洗い	
第3回	衛生指標菌（生菌数，大腸菌群）の検査	
第4回	衛生指標菌（生菌数，大腸菌群）の検査	
第5回	サルモネラ属菌の検査	
第6回	サルモネラ属菌の検査，グラム染色	
第7回	拭き取り検査	
第8回	拭き取り検査	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	100	レポートの内容および完成度によって評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	細菌や化学物質など危険なものも取り扱うので，十分に説明を聞き真剣に実験に臨むこと。実習冒頭に実験の注意事項を指示するので，遅刻厳禁とする。
授業外学修	実習で配布した資料を熟読し，実験の目的および意義，実験方法，実験結果，考察を復習しながらレポートを作成すること。 復習およびレポート作成には，週当たり2時間以上の時間を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．食品微生物検査における基本的な技術を説明することができる。	食品微生物検査における基本的な技術について正しく理解し、説明することができる。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を十分に身につけ、理解している。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を身につけている。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を身につけてはいるが、不十分である。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を身につけていない。
思考・問題解決能力	1．実験結果および文献に基づいて、論理的に思考することができる。	実験結果に対して、文献を適切に引用しながら、自分の考えを入れた考察を書くことができる。	実験結果に対して、文献を引用しながら、自分の考えを入れた考察を書くことができる。	実験結果に対して、自分の考えを入れた考察を書くことができる。	実験結果に対する考察に論理の破綻が見られる。	実験結果に対した考察が書けない。
技能	1．実験結果を整理し、レポートにまとめることができる。	すべての実験において、目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従って、実験結果を分かりやすくまとめることができる。	目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従って、実験結果を分かりやすくまとめることができる。	目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従って、実験結果をまとめることができる。	一部の実験において、目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従ったレポートを書くことができる。	形式には従っていないが、実験に関するレポートを書くことができる。

科目名	食品衛生学実験 2クラス(隔週)			授業番号	NL212B	サブタイトル			
教員	楠本　晃子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実験	必修・選択	必修
授業概要	食品衛生学あるいは微生物学の講義で得た内容をより実践的にするため，微生物に関する検査および実務的な食品衛生検査の手技を実験により習得する。								
到達目標	・食品，器具などの衛生微生物検査における基礎的な技術を説明することができる。 ・実験データおよび文献に基づいて，論理的に思考することができる ・実験データを整理し，レポートにまとめることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	実験の都合上，既定の授業時間以外にも実験を実施する。実験の日時については初回に指示する。								

回	概要	担当
第1回	食品の寄生虫（アニサキス）検査，細菌の培養	
第2回	細菌の培養，手指および体表からの菌の検出，衛生的手洗い	
第3回	衛生指標菌（生菌数，大腸菌群）の検査	
第4回	衛生指標菌（生菌数，大腸菌群）の検査	
第5回	サルモネラ属菌の検査	
第6回	サルモネラ属菌の検査，グラム染色	
第7回	拭き取り検査	
第8回	拭き取り検査	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	100	レポートの内容および完成度によって評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	細菌や化学物質など危険なものも取り扱うので，十分に説明を聞き真剣に実験に臨むこと。実習冒頭に実験の注意事項を指示するので，遅刻厳禁とする。
授業外学修	実習で配布した資料を熟読し，実験の目的および意義，実験方法，実験結果，考察を復習しながらレポートを作成すること。 復習およびレポート作成には，週当たり2時間以上の時間を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．食品微生物検査における基本的な技術を説明することができる。	食品微生物検査における基本的な技術について正しく理解し、説明することができる。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を十分に身につけ、理解している。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を身につけている。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を身につけてはいるが、不十分である。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を身につけていない。
思考・問題解決能力	1．実験結果および文献に基づいて、論理的に思考することができる。	実験結果に対して、文献を適切に引用しながら、自分の考えを入れた考察を書くことができる。	実験結果に対して、文献を引用しながら、自分の考えを入れた考察を書くことができる。	実験結果に対して、自分の考えを入れた考察を書くことができる。	実験結果に対する考察に論理の破綻が見られる。	実験結果に対した考察が書けない。
技能	1．実験結果を整理し、レポートにまとめることができる。	すべての実験において、目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従って、実験結果を分かりやすくまとめることができる。	目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従って、実験結果を分かりやすくまとめることができる。	目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従って、実験結果をまとめることができる。	一部の実験において、目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従ったレポートを書くことができる。	形式には従っていないが、実験に関するレポートを書くことができる。

科目名	食品学Ⅲ			授業番号	NL403	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，農産物，畜産物，水産物の特徴と加工方法と加工適性を学ぶ。さらに，食材・食品が有する機能性（生理的役割），特別用途食品や保健機能食品の制度についても学ぶ。 また、管理栄養士国家試験との関連についても詳しく解説する。								
到達目標	・食品加工に伴う食品成分の化学的・栄養学的・物理的変化を説明できるようになることを目的とする。 ・主な加工食品について，加工原理を説明できるようになることを目的とする。 ・特別用途食品・保健機能食品の制度について理解できることを目的とする。 ・最終的には、管理栄養士国家試験における関連する問題に対応できることを目的とする。 ★この授業は選択科目であるが、"管理栄養士国家試験を受験する人は必ず履修すること"。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 食品の保存について 食品の保存方法や殺菌方法などについて解説する。 第2回 穀類について 米や小麦などの穀類の成分とそれを原料とする加工品に関する解説をする。 第3回 豆類について 主に大豆・小豆に含まれる成分とそれを原料とする加工品に関する解説をする。 第4回 いも類・海藻類について いも類・海藻類に含まれる成分とそれを原料とする加工品に関する解説をする。 第5回 野菜類・きのこ類について 野菜類・きのこ類の分類とそれぞれに含まれる成分、貯蔵法について解説する。 第6回 果実類について 果実類の分類とそれぞれに含まれる成分、貯蔵法および加工品について解説する。 第7回 肉類について 肉類に含まれる成分と特徴と食肉加工品の製法と特徴について解説する。 第8回 卵類について 主に鶏卵の特徴と含まれる成分について解説する解説する。 第9回 乳類について 主に牛乳に含まれる成分と牛乳を用いた加工品、乳等省令について解説する。 第10回 魚介類について 肉類に含まれる成分と特徴と魚介類と水産物加工品の製法と特徴について解説する。 第11 油脂について 油脂の化学的性質と油脂類加工品について解説する。 第12回 多糖類・調味料および嗜好食品 多糖類を利用した加工品の製法、しょうゆなどの調味料の旨味成分と製法について解説する 第13回 嗜好食品 アルコール飲料を含む嗜好食品の製法と特徴について解説する。 第14回 特別用途食品・保健機能食品の制度 特別用途食品・保健機能食品の制度について解説する。 第15回 保健機能食品の機能性 特定保健用食品・栄養機能食品の成分と機能性について解説する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	50	授業で毎回配布する課題プリントの内容で評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習により疑問点・不明点を明らかにし，授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし，知識の定着を図ること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる教科書の箇所を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業内容・配布資料をノートに纏める。 3　発展学修として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートに纏める。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい食品加工学（食品の保存・加工・流通と栄養）改訂第３版	高村仁知・森山達哉　編集	南江堂	978-4-524-22851-5	2，500円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
食品加工学	菅原龍幸，宮尾茂雄	建帛社	978-4-7679-0550-1	2600
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．特別用途食品・保健機能食品について	特別用途食品、特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品の制度、さらに特定保健用食品・栄養機能食品の成分と機能性について深く理解し、知識を身に付けている。	特別用途食品、特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品の制度、さらに特定保健用食品・栄養機能食品の成分と機能性についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	特別用途食品、特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品の制度、さらに特定保健用食品・栄養機能食品の成分と機能性についてある程度理解し、知識を身に付けている。	特別用途食品・保健機能食品に関する理解が全般的に不十分である。	特別用途食品・保健機能食品に関する理解が全般的にほとんどできていない。

科目名	基礎栄養学 I			授業番号	NM101	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	基礎栄養学は栄養学分野を正しく理解するために必要な基礎知識を習得する。 (1)栄養の概念，生活習慣病発症との関連性について理解する。 (2)摂食調節のしくみと主な摂食調節について理解する。 (3)栄養素の消化吸収と体内動態について理解できる。 (4)ビタミン・ミネラルの構造と機能ついて理解する。 (5)水・電解質の栄養的意義について理解する。								
到達目標	栄養とは何か。食物はどのように体内に取り込まれるのか。栄養素は体内でどのような役割があるのか。またそれらはどのように体外に出るのか。これらの事について栄養学的に理解し，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第 1 回 栄養の概念I 「栄養と栄養素」,「食品と栄養」について，栄養とは，栄養素の種類と働き，食品の定義，食品の機能性成分を通して概要を理解する。 第 2 回 栄養の概念II 「健康と栄養」,「生活習慣と健康」について，健康の概念，健康に影響を及ぼす要因，栄養素摂取と健康，生活習慣病，食習慣の問題点を通して概要を理解する。 第 3 回 栄養の歴史 現代の栄養学の基礎が築かれた18世紀後半から20世紀前半までの栄養学の歴史を概観する。 第 4 回 摂食行動 「摂食行動」について，摂食調節機構，摂食メカニズムに関わる因子について理解し，食物の特性要因，ヒトの特性要因など食を起こさせる要因についても理解する。 第 5 回 消化・吸収と栄養素の体内動態I 消化器系の基本的な構造と機能について理解する。また付属器官としての消化腺についても構造と機能，消化管へのかかわり方について理解する。 第 6 回 消化・吸収と栄養素の体内動態II 消化・吸収の基本概念を理解した上で，物理的消化，化学的消化，生物的消化，管腔内消化，膜消化など消化の種類について理解する。 第 7 回 消化・吸収と栄養素の体内動態III 糖質の消化，たんぱく質の消化，脂質の消化などの各栄養素の消化の過程について理解する。 第 8 回 消化・吸収と栄養素の体内動態IV 吸収の機構を理解した上で，糖質，たんぱく質，脂質の吸収について理解する。 第 9 回 消化・吸収と栄養素の体内動態V 水の吸収，ビタミン，ミネラルの吸収についてそれぞれの吸収機構について理解する。 第 10 回 消化・吸収と栄養素の体内動態VI 吸収された栄養素が体内で利用されるまでの体内動態について栄養素ごとにその流れを理解する。 第 11 回 ビタミンの栄養I ビタミンとは何か，ビタミンの定義，ビタミンの種類と分類，脂溶性ビタミンの構造と生理作用についてそれぞれのビタミンごとに理解する。 第 12 回 ビタミンの栄養II 水溶性ビタミンの構造と生理作用についてそれぞれのビタミンごとに理解する。 第 13 回 無機質（ミネラル）の栄養I ミネラルとは何か，ミネラルの定義，主要ミネラルの生理作用についてそれぞれのミネラルごとに理解する。 第 14 回 無機質（ミネラル）の栄養I 微量ミネラルの生理作用についてそれぞれのミネラルごとに理解する。 第 15 回 水・電解質の代謝 体内における水の分布，水の機能，水の出納とその調節機構，電解質の分布について理解する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	5	積極的に質問する等，意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	5	毎時間の確認問題を実施する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に疑問点を持ち授業に臨むこと。ただし疑問点は自己解決できるよう努めること。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業の内容をノートにまとめる。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎栄養学(第4版)	髙　早苗・柳　進・河田　哲典・山田　英明・関　周司 共著	三共出版	978-4-7827-0795-1	2，750円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学　第４版	田地陽一　編	羊土社	978-4-7581-1360-1	2，800円＋税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養とはについて説明できる	栄養とは何かについて栄養素との違いも含め具体的に説明できる。	栄養とは何かについて具体的に説明できる。	栄養とは何かについて理解できている。	栄養とは何かについて説明できる。	栄養とは何かについて理解が不十分である。
知識・理解	２．消化・吸収について説明できる。	消化・吸収について全体の流れを栄養素ごとに具体的に説明できる。	消化・吸収について全体の流れを具体的に説明できる。	消化・吸収について全体の流れを説明できる。	消化・吸収について全体の流れの理解が不十分である。	消化・吸収について理解していない。
知識・理解	３．ビタミンの栄養について説明できる。	ビタミンの栄養についてそれぞれのビタミンの働きが具体的に説明できる。	ビタミンの栄養についてそれぞれのビタミンの働きが説明できる。	ビタミンの働きについて説明できる。	ビタミンの栄養について理解が不十分である。	ビタミンの栄養について理解していない。
知識・理解	４．ミネラルの栄養について説明できる。	ﾐﾈﾗﾙの栄養についてそれぞれのミネラルの働きが具体的に説明できる。	ミネラルの栄養についてそれぞれのミネラルの働きが説明できる。	ミネラルの働きについて説明できる。	ミネラルの栄養について理解が不十分である。	ミネラルの栄養について理解していない。
態度	１．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に発言し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	授業に参加しているが、十分に内容を理解していない。	授業の内容を理解していない。

科目名	基礎栄養学Ⅱ			授業番号	NM202	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	基礎栄養学は栄養学分野を正しく理解するために必要な基礎知識を習得する。 (1)糖質，脂質，たんぱく質について理解する。 (2)機能性非栄養成分について理解する。 (3)エネルギー代謝について理解する。 (4)遺伝子発現と栄養について理解する。								
到達目標	各栄養素の代謝を中心に，エネルギー代謝，遺伝子発現調節について理解し，説明できることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第 1回 糖質（炭水化物）の栄養I 糖質とは何か，糖質の摂取と消化について確認し，糖質の代謝について概要を理解する。 第 2回 糖質（炭水化物）の栄養II 糖質の代謝について，解糖系，ピルビン酸の代謝，クエン酸回路，グリコーゲン代謝，糖新生など糖質の代謝について詳細を理解する。 第 3回 糖質（炭水化物）の栄養III 血糖値の調節について，血糖低下ホルモン，血糖上昇ホルモンを通して調節機構について理解する。 第 4回 脂質の栄養I 脂質とは何か，脂質の摂取と消化について確認し，血液中の脂質についてリポたんぱく質，脂質の臓器間輸送について理解する。 第 5回 脂質の栄養II 脂質の代謝として，脂質のβ酸化，β酸化の調節ケトン体，中性脂肪の合成について関連性を理解する。 第 6回 脂質の栄養III リン脂質，コレステロール，エイコサノイドについてそれぞれの生合成や生理作用について理解する。 第 7回 たんぱく質の栄養I たんぱく質とは何か，たんぱく質・アミノ酸の化学として構造と分類について理解しる。また，たんぱく質・アミノ酸の役割についても理解する。 第 8回 たんぱく質の栄養II たんぱく質の代謝として代謝回転，アミノ酸の代謝として尿素の生成とアミノ酸の炭素骨格の代謝について理解する。 第 9回 たんぱく質の栄養III たんぱく質の栄養として食品たんぱく質の栄養評価法について生物的評価法と化学的評価法を理解する。 第 10回 機能性非栄養成分 機能性非栄養成分として食物繊維，難消化性糖質の物質と生理作用について理解する。 第 11回 エネルギー代謝I 生体におけるエネルギーとは何か，エネルギー獲得法について糖質，脂質，たんぱく質からのエネルギー産生方法を理解する。 第 12回 エネルギー代謝II エネルギー代謝の測定方法として，物理的燃焼値と生理的燃焼値について理解する。 第 13回 エネルギー代謝III エネルギー必要量として，基礎代謝，安静時代謝，食事誘発性熱代謝，活動代謝について理解する。 第 14回 遺伝子発現と栄養I 遺伝形質と栄養の相互作用について遺伝子の構造，遺伝情報の発現および発現調節について理解する。 第 15回 遺伝子発現と栄養II 遺伝形質と栄養の相互作用について遺伝子多型と個人差，生活習慣病と遺伝子多型について理解する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	5	積極的に質問する等，意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	5	毎時間の確認問題を実施する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を行う。特に復習を必ず行うこと。また，疑問点，わからないことは教科書，参考書等でよく調べておくこと。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業の内容をノートにまとめる。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎栄養学(第4版)	髙　早苗・柳　進・河田　哲典・山田　英明・関　周司 共著	三共出版	978-4-7827-0795-1	2，750円
使用テキスト：自由記載	「基礎栄養学」，髙　早苗・柳　進・河田　哲典・山田　英明・関　周司 共著，三共出版			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド［演習版］基礎栄養学ノート第４版	田地陽一　編	羊土社	978-4-7581-1360-1	2，800円＋税
参考書：自由記載	「基礎栄養学」，林　淳三・山本　孝史・鈴木　和春・木元　幸一，建帛社 「分子栄養学」，柿原　隆三 編，建帛社			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．糖質の栄養について説明できる	糖質の栄養について代謝とその働きが具体的に説明できる。	糖質の栄養について代謝とその働きが説明できる。	糖質の栄養について働きが説明できる。	糖質の栄養について働きの理解が不十分である。	糖質の栄養について理解していない。
知識・理解	２．脂質の栄養について説明できる。	脂質の栄養について代謝とその働きが具体的に説明できる。	脂質の栄養について代謝とその働きが説明できる。	脂質の栄養について働きが説明できる。	脂質の栄養について働きの理解が不十分である。	脂質の栄養について理解していない。
知識・理解	３．たんぱく質の栄養について説明できる。	たんぱく質の栄養について代謝とその働きが具体的に説明できる。	たんぱく質の栄養について代謝とその働きが説明できる。	たんぱく質の栄養について働きが説明できる。	たんぱく質の栄養について働きの理解が不十分である。	たんぱく質の栄養について理解していない。
知識・理解	４．機能非栄養素成分について説明できる。	機能非栄養素成分についてそれぞれの働きが具体的に説明できる。	機能非栄養素成分についてそれぞれの働きが説明できる。	機能非栄養素成分について説明できる。	機能非栄養素成分とは何かについて理解が不十分である。	機能非栄養素成分について理解していない。
知識・理解	５．水・電解質について説明できる。	水・電解質のそれぞれの働きが具体的に説明できる。	水・電解質のそれぞれの働きが説明できる。	水・電解質の働きについて説明できる。	水・電解質の働きについて理解が不十分である。	水・電解質について理解していない。
技能	１．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に発言し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	授業に参加しているが、十分に内容を理解していない。	授業の内容を理解していない。

科目名	栄養学実習 1クラス(隔週)			授業番号	NM203A	サブタイトル			
教員	多田 賢代								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	食事調査や生活活動調査等のデータを用い自己分析を行う中で，基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いを自らを通して確認する。 併せて，身体測定，食事調査，活動量の測定などアセスメントに必要な技術を修得する。								
到達目標	実習を通して科学的なものの考え方を修得すると同時に，実践力を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第 1 回 栄養状態の評価判定の意義と方法 実習の目的，進め方，食事調査・生活時間調査票・生活調査の説明を行う。 第 2･3 回 身体組成等の測定 身体組成の測定（身長，体重，体脂肪率，周径囲，皮脂厚）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定を行い，評価する。 第 4･5 回 食習慣調査 食事摂取状況調査を元に，一日のエネルギー摂取量及び栄養素摂取量をもとめ，評価する。 第 6･7 回 生活活動調査 各自の生活時間調結果を元に，一日の消費エネルギー量を計算し，活動指数をもとめる。 第 8･9 回 各調査結果の整理，解析 身体組成の測定結果，食事調査結果，生活活動調査結果から関連性を解析するためにデータ整理を行い，各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣を抽出する。 第10･11回 課題の検討 各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣から改善の必要な課題を抽出し，具体的な改善策を検討する。 第12･13回 改善策の実施とプレゼン資料の作成 各自の課題改善策を実行すると同時に，これまでの調査データをまとめプレゼン資料（パワーポイント資料）を作成する。 第14･15回 プレゼン発表 各自の課題改善策実行のも含めて，発表会を行う。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習の状況によって評価する。
レポート	80	自己課題のまとめ発表資料の提出によって評価する。提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	レポート（100%）により評価する。
受講の心得	実習は実際に行って初めて修得できる科目であり，正当な理由なしの欠席は原則認めない。
授業外学修	1 予習として，各自の調査データを丁寧に集めてくること。 2 復習として，課題のレポートを書く。 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「基礎栄養学」，高 早苗，柳 進，河田哲典，山田英明，関 周司 共著，三共出版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．データ分析ができる。	得られたデータについて、項目ごとに適切な評価と、分析をすることができる。	得られたデータについて、項目ごとに評価と、分析をすることができる。	得られたデータについて、評価・分析をすることができる。	得られたデータについて、評価することができる。	得られたデータについて、評価・分析ができていない。
思考・問題解決能力	2．データ分析を元に改善計画が作成できる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切かつ具体的な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、適切な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切かつ具体的な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切かつ具体的な改善計画を考えることができていない。
技能	1．測定及び調査によりデータの収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について測定・調査方法を理解し、適切な手法でデータ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、適切な手法でデータ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、測定・調査方法を理解し、データ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、データ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、データ収集ができていない。
技能	2．データのまとめができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめ、適切な手法で表、グラフなど作成ができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめ、表、グラフなど作成ができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめ、表の作成ができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめることができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめができていない。
態度	1．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に発言し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	授業に参加しているが、十分に内容を理解していない。	授業の内容を理解していない。

科目名	栄養学実習 2クラス(隔週)			授業番号	NM203B	サブタイトル			
教員	多田 賢代								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	食事調査や生活活動調査等のデータを用い自己分析を行う中で，基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いを自らを通して確認する。 併せて，身体測定，食事調査，活動量の測定などアセスメントに必要な技術を修得する。								
到達目標	実習を通して科学的なものの考え方を修得すると同時に，実践力を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第 1 回 栄養状態の評価判定の意義と方法 実習の目的，進め方，食事調査・生活時間調査票・生活調査の説明を行う。 第 2･3 回 身体組成等の測定 身体組成の測定（身長，体重，体脂肪率，周径囲，皮脂厚）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定を行い，評価する。 第 4･5 回 食習慣調査 食事摂取状況調査を元に，一日のエネルギー摂取量及び栄養素摂取量をもとめ，評価する。 第 6･7 回 生活活動調査 各自の生活時間調結果を元に，一日の消費エネルギー量を計算し，活動指数をもとめる。 第 8･9 回 各調査結果の整理，解析 身体組成の測定結果，食事調査結果，生活活動調査結果から関連性を解析するためにデータ整理を行い，各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣を抽出する。 第10･11回 課題の検討 各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣から改善の必要な課題を抽出し，具体的な改善策を検討する。 第12･13回 改善策の実施とプレゼン資料の作成 各自の課題改善策を実行すると同時に，これまでの調査データをまとめプレゼン資料（パワーポイント資料）を作成する。 第14･15回 プレゼン発表 各自の課題改善策実行のも含めて，発表会を行う。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習の状況によって評価する。
レポート	80	自己課題のまとめ発表資料の提出によって評価する。提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	レポート（100%）により評価する。
受講の心得	実習は実際に行って初めて修得できる科目であり，正当な理由なしの欠席は原則認めない。
授業外学修	1 予習として，各自の調査データを丁寧に集めてくること。 2 復習として，課題のレポートを書く。 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「基礎栄養学」，高 早苗，柳 進，河田哲典，山田英明，関 周司 共著，三共出版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．データ分析ができる。	得られたデータについて、項目ごとに適切な評価と、分析をすることができる。	得られたデータについて、項目ごとに評価と、分析をすることができる。	得られたデータについて、評価・分析をすることができる。	得られたデータについて、評価することができる。	得られたデータについて、評価・分析ができていない。
思考・問題解決能力	2．データ分析を元に改善計画が作成できる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切かつ具体的な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、適切な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切かつ具体的な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切かつ具体的な改善計画を考えることができていない。
技能	1．測定及び調査によりデータの収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について測定・調査方法を理解し、適切な手法でデータ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、適切な手法でデータ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、測定・調査方法を理解し、データ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、データ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、データ収集ができていない。
技能	2．データのまとめができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめ、適切な手法で表、グラフなど作成ができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめ、表、グラフなど作成ができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめ、表の作成ができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめることができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめができていない。
態度	1．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に発言し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	授業に参加しているが、十分に内容を理解していない。	授業の内容を理解していない。

科目名	応用栄養学Ⅰ			授業番号	NN201	サブタイトル			
教員	多田 賢代								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	本講義は，栄養ケアプロセスの基本を学び，食事摂取基準を理解し，ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて学ぶことを目的とする。始めに，栄養ケアプロセスと栄養状態の評価判定法について講義し，次いで「日本人の食事摂取基準」の概念および策定の科学的根拠について説明する。その上で，妊娠期，授乳期，乳児期の心身の特性と栄養状態の評価・判定法，栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。								
到達目標	管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し，妊娠期・授乳期，乳児期の特性と栄養評価，栄養管理について説明できるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	栄養ケアプロセス1 栄養管理の概念と基本的事項	
第2回	栄養ケアプロセス2 栄養状態の評価・判定の意義，栄養状態に影響する要因	
第3回	栄養ケアプロセス3 栄養状態の判定方法，栄養診断と栄養ケアプランの基本	
第4回	食事摂取基準の解説1 「日本人の食事摂取基準（2020年版）」の策定主旨，概念	
第5回	食事摂取基準の解説2 エネルギー，たんぱく質について	
第6回	食事摂取基準の解説3 脂質，炭水化物について	
第7回	食事摂取基準の解説4 ビタミン，ミネラルについて	
第8回	発育・発達・加齢と栄養1 発生から死まで，成長・発達による変化と栄養	
第9回	発育・発達・加齢と栄養2 加齢に伴う身体的・精神的変化，高齢者の特異性	
第10回	母性栄養1 女性の特性と妊娠，出産，乳汁分泌の仕組み	
第11回	母性栄養2 妊娠期の栄養と評価・判定，栄養管理	
第12回	母性栄養3 授乳期の栄養と評価・判定，栄養管理	
第13回	乳児栄養1 乳児の身体状況の変化と成長・発達	
第14回	乳児栄養2 乳児期の栄養補給	
第15回	乳児栄養3 乳児期の健康障害，栄養状態の評価・判定，栄養管理	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	30	セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業が，管理栄養士になるための基礎づくりであり，国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，ノート整理を行い，小テストの見直しを行う。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『新食品・栄養科学シリーズ　応用栄養学』	福渡努，岡本秀己　編	化学同人	978-4-7598-1646-4	3000+税
『日本人の食事摂取基準（2020年版）』	伊藤貞嘉，佐々木敏　監修	第一出版	978-4-8041-1408-8	2800+税
使用テキスト：自由記載	その他適宜資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『栄養ケアプロセス用語マニュアル』	公益社団法人日本栄養士会　監訳	第一出版	978-4-8041-1270-1	3400+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養管理の概念と基本的事項を理解し、栄養評価に関して理解できている。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関してしっかりとした説明ができる。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関して概要の説明ができる。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関して概要の理解ができている。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関して概要の理解が不十分である。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関して概要の理解に至っていない。
知識・理解	２．食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方を理解し、食事摂取基準の活用の理論について理解できている。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論についてしっかりとした説明ができる。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論について概要の説明ができる。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論について概要の理解ができている。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論について概要の理解が不十分である。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論について概要の理解に至っていない。
知識・理解	３．妊娠期・授乳期の身体の特徴を理解し、妊娠期・授乳期における栄養管理について理解できている。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理について概要の説明ができる。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理について概要の理解ができている。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	４．新生児・乳児期の身体の特徴を理解し、新生児・乳児期における栄養管理について理解できている。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理について概要の説明ができる。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理について概要の理解ができている。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
思考・問題解決能力	１．対象者により適切な栄養評価項目や方法が選択できる。	対象者により適切な栄養評価項目や方法が選択でき、選択についてしっかりとした説明ができる。	対象者により適切な栄養評価項目や方法が選択でき、選択の概要の説明ができる。	対象者により適切な栄養評価項目や方法が選択できる。	対象者により適切な栄養評価項目や方法の選択が不十分である。	対象者により適切な栄養評価項目や方法の選択ができない。
知識・理解	２．対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法を選択できる。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択できる。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法の選択が不十分である。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法の選択ができない。
知識・理解	３．妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法が選択できる。	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択できる。	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法C	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。
知識・理解	４．新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）が選択でき、さらに新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）が選択でき、さらに新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）が選択でき、さらに新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）が選択でき、新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法が適切に選択できる。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）の選択、および新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）の選択、および妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。

科目名	応用栄養学Ⅱ			授業番号	NN202	サブタイトル			
教員	多田 賢代								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	本講義は応用栄養学Ⅰに引き続き，栄養ケアプロセスの基本を学び，食事摂取基準を理解し，ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて講義する。ライフステージは，幼児期から高齢期までの心身の特性と栄養状態の評価・判定，栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。また，運動・スポーツにおける栄養，様々な環境下における栄養との関係についても講義する。								
到達目標	管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し，幼児期から高齢期までの特性と栄養評価，栄養管理について説明できるようになることを目的とする。また，運動の生活習慣病予防への効果，スポーツ時の栄養管理，様々な環境下における栄養との関係などについても理解する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	幼児期の栄養1 幼児期の身体状況の変化と成長・発達	
第2回	幼児期の栄養2 栄養状態の変化，栄養状態の評価・判定	
第3回	幼児期の栄養3 幼児期の食生活と栄養管理	
第4回	学童期の栄養1 身体の成長・発達と栄養状態の特性と評価・判定	
第5回	学童期の栄養2 食習慣の変化，健康上の問題点と栄養管理	
第6回	思春期の栄養1 思春期の身体発育，栄養状態の特性と評価・判定	
第7回	思春期の栄養2 食生活，健康上の問題点と栄養管理	
第8回	成人期・更年期の栄養1 成人期・更年期の身体機能，栄養状態の変化	
第9回	成人期・更年期の栄養2 生活習慣病と栄養管理	
第10回	高齢期の栄養1 身体状況の変化	
第11回	高齢期の栄養2 栄養状態の変化，栄養状態の評価・判定	
第12回	高齢期の栄養3 食生活，健康上の問題点と栄養管理	
第13回	運動・スポーツと栄養1 健康づくりのための運動	
第14回	運動・スポーツと栄養2 スポーツと栄養	
第15回	環境と栄養	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	30	セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業が，管理栄養士になるための基礎づくりであり，国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，ノート整理を行い，小テストの見直しを行う。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『新食品・栄養科学シリーズ　応用栄養学』	福渡努，岡本秀己　編	化学同人	978-4-7598-1646-4	3000+税
『日本人の食事摂取基準（2020年版）』	伊藤貞嘉，佐々木敏　監修	第一出版	978-4-8041-1408-8	2700+税
使用テキスト：自由記載	その他適宜資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『栄養ケアプロセス用語マニュアル』	公益社団法人日本栄養士会　監訳	第一出版	978-4-8041-1270-1	3400+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について理解できている。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について概要の説明ができる。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について理解ができている。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	２．成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について理解できている。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について概要の説明ができる。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について理解ができている。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	３．更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について理解できている。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について概要の説明ができる。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について理解ができている。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	４．身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通した健康管理のための身体活動・運動について理解できている。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通した健康管理のための身体活動・運動についてしっかりとした説明ができる。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通した健康管理のための身体活動・運動について概要の説明ができる。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通した健康管理のための身体活動・運動について理解ができている。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通した健康管理のための身体活動・運動について概要の理解が不十分である。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通した健康管理のための身体活動・運動について概要の理解に至っていない。
知識・理解	５．ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について理解できている。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の説明ができる。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について理解ができている。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の理解が不十分である。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	６．特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について理解できている。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の説明ができる。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について理解ができている。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の理解が不十分である。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の理解に至っていない。
思考・問題解決能力	１．対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法を選択できる。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択できる。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法の選択が不十分である。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	２．幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法が選択できる。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法をを適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択できる。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	３．成人期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法が選択できる。	成人期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	成人期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択について説明ができる。	成人期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択できる。	成人期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	成人期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	４．更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法が選択できる。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択できる。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	５．健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針に沿って、対象に応じた身体活動・運動が選択できる。	健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針に沿って、対象に応じた身体活動・運動を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針に沿って、対象に応じた身体活動・運動を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針に沿って、対象に応じた身体活動・運動を適切に選択できる。	対象に応じた身体活動・運動の選択が不十分である。	対象に応じた身体活動・運動の選択ができない。

科目名	応用栄養学実習 1クラス(隔週)			授業番号	NN203A	サブタイトル			
教員	多田 賢代								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	応用栄養学I，IIで学んだ各ライフステージの身体上，健康・栄養上の特性と栄養アセスメントの方法を基礎知識として，乳児期から高齢期までの各ライフステージの特性に合った具体的な栄養管理方法に関する実際を学び，技能を修得する。								
到達目標	各ライフステージの対象者に対する栄養評価，適正な栄養基準量の設定及び献立作成・調理技術を身につけ，各ライフステージに応じた栄養マネジメントに必要な技術を修得することを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	発育・発達・加齢と栄養，栄養マネジメントの方法と手順	
第2回	妊娠期の栄養管理 (1)妊娠期の特性と栄養アセスメント	
第3回	妊娠期の栄養管理 (2)妊娠期の栄養ケアプラン	
第4回	乳幼児の栄養管理 (1)乳児期の特性と栄養アセスメント	
第5回	乳幼児の栄養管理 (2)乳児期の栄養ケアプラン，授乳・離乳支援の実際	
第6回	幼児期の栄養管理 (1)幼児期の特性と栄養アセスメント，子ども園における給食の実際	
第7回	幼児期の栄養管理 (2)幼児期の栄養ケアプラン，保育所給食献立作成	
第8回	幼児期の栄養管理 (3)アレルギーがある場合の栄養ケアプラン	
第9回	学童期・思春期の栄養管理 (1)学童期・思春期の特性と栄養アセスメント	
第10回	学童期・思春期の栄養管理 (2)学童期・思春期の栄養ケアプラン	
第11回	成人期の栄養管理 (1)成人期の特性と栄養アセスメント	
第12回	成人期の栄養管理 (2)生活習慣病予防の栄養ケアプラン	
第13回	高齢期の栄養管理 (1)高齢期の特性と栄養アセスメント	
第14回	高齢期の栄養管理 (2)高齢期の栄養ケアプラン，咀嚼・嚥下機能低下に対する支援	
第15回	まとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80	授業内容のまとめとして出される課題により，技能の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	対象の特性に合った献立作成ができるよう日頃から食品，調理，献立に関心を持ち取り組む。授業前に教科書を通読することと実習終了後に実習記録の記入を必ず行う。共同作業が円滑に行えるよう，班員間のコミュニケーションを密にする。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，授業外に学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学実習ーケーススタディーで学ぶマネジメントー』	五関正江，小林三智子 編	建帛社	978-4-7679-0676-8	2800+税
『日本人の食事摂取基準（2020年版）』	伊藤貞嘉，佐々木敏 監修	第一出版	978-4-8041-1408-8	2800+税
使用テキスト：自由記載	適時，資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．妊娠期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	妊娠期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	妊娠期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	妊娠期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	妊娠期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	妊娠期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	2．幼児期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	幼児期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	幼児期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	幼児期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	幼児期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	幼児期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	3．学童期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	学童期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	学童期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	学童期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	学童期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	学童期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	4．思春期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	思春期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	思春期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	思春期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	思春期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	思春期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	5．成人期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	成人期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	成人期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	成人期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	6．高齢期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	高齢期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	高齢期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	高齢期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	高齢期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	高齢期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
技能	1．授乳・離乳支援の実際を行うことができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことができ、要点の概説ができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことにおいて不十分である。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことができない。
技能	2．食物アレルギーのある場合の対応ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応が適切にでき、しっかりと説明ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応ができ、要点の概説ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応において不十分である。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応ができない。
技能	3．保育所給食の実際を行うことができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことができ、要点の概説ができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことにおいて不十分である。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことができない。
技能	4．妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立を立案し、具体的に提案をすることできる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことができ、要点の概説ができる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことができる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことにおいて不十分である。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことができない。
技能	5．咀嚼・嚥下機能低下に対する支援を行うことができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことができ、要点の概説ができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことにおいて不十分である。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことができない。

科目名	応用栄養学実習 2クラス(隔週)			授業番号	NN203B	サブタイトル			
教員	多田 賢代								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	応用栄養学I，IIで学んだ各ライフステージの身体上，健康・栄養上の特性と栄養アセスメントの方法を基礎知識として，乳児期から高齢期までの各ライフステージの特性に合った具体的な栄養管理方法に関する実際を学び，技能を修得する。								
到達目標	各ライフステージの対象者に対する栄養評価，適正な栄養基準量の設定及び献立作成・調理技術を身につけ，各ライフステージに応じた栄養マネジメントに必要な技術を修得することを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	発育・発達・加齢と栄養，栄養マネジメントの方法と手順	
第2回	妊娠期の栄養管理 (1)妊娠期の特性と栄養アセスメント	
第3回	妊娠期の栄養管理 (2)妊娠期の栄養ケアプラン	
第4回	乳幼児の栄養管理 (1)乳児期の特性と栄養アセスメント	
第5回	乳幼児の栄養管理 (2)乳児期の栄養ケアプラン，授乳・離乳支援の実際	
第6回	幼児期の栄養管理 (1)幼児期の特性と栄養アセスメント，子ども園における給食の実際	
第7回	幼児期の栄養管理 (2)幼児期の栄養ケアプラン，保育所給食献立作成	
第8回	幼児期の栄養管理 (3)アレルギーがある場合の栄養ケアプラン	
第9回	学童期・思春期の栄養管理 (1)学童期・思春期の特性と栄養アセスメント	
第10回	学童期・思春期の栄養管理 (2)学童期・思春期の栄養ケアプラン	
第11回	成人期の栄養管理 (1)成人期の特性と栄養アセスメント	
第12回	成人期の栄養管理 (2)生活習慣病予防の栄養ケアプラン	
第13回	高齢期の栄養管理 (1)高齢期の特性と栄養アセスメント	
第14回	高齢期の栄養管理 (2)高齢期の栄養ケアプラン，咀嚼・嚥下機能低下に対する支援	
第15回	まとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80	授業内容のまとめとして出される課題により，技能の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	対象の特性に合った献立作成ができるよう日頃から食品，調理，献立に関心を持ち取り組む。授業前に教科書を通読することと実習終了後に実習記録の記入を必ず行う。共同作業が円滑に行えるよう，班員間のコミュニケーションを密にする。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，授業外に学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学実習ーケーススタディーで学ぶマネジメントー』	五関正江，小林三智子 編	建帛社	978-4-7679-0676-8	2800+税
『日本人の食事摂取基準（2020年版）』	伊藤貞嘉，佐々木敏 監修	第一出版	978-4-8041-1408-8	2800+税
使用テキスト：自由記載	適時，資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．妊娠期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	妊娠期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	妊娠期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	妊娠期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	妊娠期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	妊娠期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	2．幼児期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	幼児期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	幼児期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	幼児期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	幼児期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	幼児期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	3．学童期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	学童期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	学童期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	学童期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	学童期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	学童期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	4．思春期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	思春期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	思春期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	思春期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	思春期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	思春期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	5．成人期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	成人期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	成人期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	成人期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	6．高齢期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	高齢期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	高齢期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	高齢期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	高齢期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	高齢期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
技能	1．授乳・離乳支援の実際を行うことができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことができ、要点の概説ができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことにおいて不十分である。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことができない。
技能	2．食物アレルギーのある場合の対応ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応が適切にでき、しっかりと説明ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応ができ、要点の概説ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応において不十分である。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応ができない。
技能	3．保育所給食の実際を行うことができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことができ、要点の概説ができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことにおいて不十分である。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことができない。
技能	4．妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立を立案し、具体的に提案をすることできる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことができ、要点の概説ができる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことができる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことにおいて不十分である。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことができない。
技能	5．咀嚼・嚥下機能低下に対する支援を行うことができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことができ、要点の概説ができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことにおいて不十分である。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことができない。

科目名	応用栄養学Ⅲ			授業番号	NN304	サブタイトル			
教員	多田　賢代								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義は応用栄養学ⅠおよびⅡ，応用栄養学実習で学んだ栄養ケアプロセス，食事摂取基準，ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養管理を基礎知識として，妊娠期，乳児期から高齢期までの心身の特性に応じた栄養管理に必要となる栄養状態の評価・判定に関する知識を深め，栄養診断，栄養ケア計画のための技能を養う。								
到達目標	「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の知識を活用し，妊娠期，乳児期から高齢期までの心身の特性に応じた栄養管理に必要となる栄養状態の評価・判定を行い，的確な栄養診断，栄養ケア計画が出来るようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養管理プロセス１　栄養管理の概念と進め方	
第2回	栄養管理プロセス２　食事摂取基準と栄養改善の計画と実施	
第3回	妊娠期・授乳期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定	
第4回	妊娠期・授乳期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画	
第5回	乳幼児期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定	
第6回	乳幼児期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画	
第7回	学童期・思春期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定	
第8回	学童期・思春期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画	
第9回	成人期・更年期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定	
第10回	成人期・更年期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画	
第11回	高齢期の栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定	
第12回	高齢期の栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画	
第13回	運動・スポーツと栄養1　栄養状態の特性と栄養評価・判定	
第14回	運動・スポーツと栄養2　事例による栄養診断，栄養ケア計画	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	授業内容のまとめとして出される課題により，問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。
小テスト	10	セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業が，管理栄養士になるための基礎づくりであり，国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。また，小テストの見直しを行う。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学実習ーケーススタディで学ぶマネジメントー』	五関正江，小林三智子　編	建帛社	978-4-7679-0519-8	2700+税
『新食品・栄養科学シリーズ　応用栄養学』	瀬本知憲，宮谷秀一　編	化学同人	978-4-7598-1638-9	2900+税
『日本人の食事摂取基準（2020年版）』	伊藤貞嘉，佐々木敏　監修	第一出版	978-4-8041-1408-8	2800+税
栄養科学シリーズNEXT　応用栄養学　第5版	木戸康博，小倉嘉夫，眞鍋祐之	講談社	978-4-06-155392-7	2800+税
使用テキスト：自由記載	その他適宜資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『栄養ケアプロセス用語マニュアル』，	公益社団法人日本栄養士会　監訳	第一出版	978-4-8041-1270-1	3400+税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．妊娠期・授乳期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法が説明できる。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法を選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法を選択し、選択の概要の説明ができる。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法を選択できる。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	２．乳幼児期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法が説明できる。	乳幼児期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法を選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	乳幼児期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法を選択し、選択の概要の説明ができる。	乳幼児期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法を選択できる。	乳幼児期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	乳幼児期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	３．学童期・思春期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法が説明できる。	学童期・思春期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法を選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	学童期・思春期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法を選択し、選択の概要の説明ができる。	学童期・思春期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法を選択できる。	学童期・思春期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	学童期・思春期の提示された事例に対して、発育・健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	４．成人期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善（特に生活習慣病の予防・改善）のための栄養介入方法が説明できる。	成人期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善（特に生活習慣病の予防・改善）のための栄養介入方法を選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	成人期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善（特に生活習慣病の予防・改善）のための栄養介入方法を選択し、選択の概要の説明ができる。	成人期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善（特に生活習慣病の予防・改善）のための栄養介入方法を選択できる。	成人期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善（特に生活習慣病の予防・改善）のための栄養介入方法の選択が不十分である。	成人期の提示された事例に対して、健康保持に適した食生活習慣や栄養状態の改善（特に生活習慣病の予防・改善）のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	５．更年期、高齢期の提示された事例に対して、健康保持やQOLを高めるための栄養介入や食事支援について説明できる。	更年期、高齢期の提示された事例に対して、健康保持やQOLを高めるための栄養介入や食事支援について適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	更年期、高齢期の提示された事例に対して、健康保持やQOLを高めるための栄養介入や食事支援について適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	更年期、高齢期の提示された事例について、健康保持やQOLを高めるための栄養介入や食事支援について適切に選択できる。	更年期、高齢期の提示された事例に対して、健康保持やQOLを高めるための栄養介入や食事支援についての選択が不十分である。	更年期、高齢期の提示された事例に対して、健康保持やQOLを高めるための栄養介入や食事支援についての選択ができない。
思考・問題解決能力	６．運動時の栄養管理において、年齢、運動の種類、強度、時間に応じた栄養介入について説明ができる。	年齢、運動の種類、強度、時間に応じた栄養介入について適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	年齢、運動の種類、強度、時間に応じた栄養介入について適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	年齢、運動の種類、強度、時間に応じた栄養介入について適切に選択できる。	年齢、運動の種類、強度、時間に応じた栄養介入についての選択が不十分である。	年齢、運動の種類、強度、時間に応じた栄養介入についての選択ができない。
技能	１．栄養ケアプロセスに沿って、妊娠期・授乳期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、適切な記録ができ、各項目のしっかりとした説明ができる。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録ができ、概説できる。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、各項目の記録が不十分である。	妊娠期・授乳期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、記録を行うことができない。
技能	２．栄養ケアプロセスに沿って、乳幼児期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	乳幼児期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、適切な記録ができ、各項目のしっかりとした説明ができる。	栄養ケアプロセスに沿って、乳幼児期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録ができ、概説できる。	乳幼児期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	乳幼児期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、各項目の記録が不十分である。	乳幼児期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、記録を行うことができない。
技能	３．栄養ケアプロセスに沿って、学童期・思春期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	学童期・思春期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、適切な記録ができ、各項目のしっかりとした説明ができる。	栄養ケアプロセスに沿って、学童期・思春期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録ができ、概説できる。	学童期・思春期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	学童期・思春期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、各項目の記録が不十分である。	学童期・思春期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、記録を行うことができない。
技能	４．栄養ケアプロセスに沿って、成人期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、適切な記録ができ、各項目のしっかりとした説明ができる。	栄養ケアプロセスに沿って、成人期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録ができ、概説できる。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、各項目の記録が不十分である。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、記録を行うことができない。
技能	５．栄養ケアプロセスに沿って、更年期、高齢期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	更年期、高齢期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、適切な記録ができ、各項目のしっかりとした説明ができる。	栄養ケアプロセスに沿って、更年期、高齢期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録ができ、概説できる。	更年期、高齢期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価を行い、記録を行うことができる。	更年期、高齢期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、各項目の記録が不十分である。	更年期、高齢期の提示された事例に対する栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリング・評価、記録を行うことができない。

科目名	栄養教育論Ⅰ			授業番号	NO201	サブタイトル			
教員	安原　幹成								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	栄養教育論Ⅰでは，栄養教育の大切さを多面的に理解し，対象者のパーソナリティー・食環境・食行動・問題点・理解度などの情報を得るために行動科学を学ぶ。 情報を引き出すには，コミュニケーション力・カウンセリング力・コーチング力が必要であり，この3つの力を養えるよう講義に組み込んでいく。 また，適切な栄養マネジメントの必要性を理解し，適切に行える知識と技術を学修する。								
到達目標	栄養教育の概念・理論を正しく理解した上で栄養教育における行動科学を理解できるよう学修する。 栄養教育における理論をもとに総合的な栄養マネジメントを行うための基礎力を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養教育の概念（1） 栄養教育の定義と目的，栄養教育と健康教育・ヘルスプロモーション	
第2回	栄養教育の概念（2） 栄養教育と生態学的モデル	
第3回	栄養教育と人間の行動変容に関する理論(1) 栄養教育と行動科学，行動科学の基礎となる学習理論	
第4回	栄養教育と人間の行動変容に関する理論(2) 個人要因に焦点を当てた行動変容の理論	
第5回	栄養教育と人間の行動変容に関する理論(3) 対人関係や環境要因に焦点を当てた行動変容の理論，大規模集団や地域レベルの行動変容の理論	
第6回	栄養カウンセリング(1) カウンセリングとは何か，治療者と患者の関係	
第7回	栄養カウンセリング(2) 行動カウンセリングの方法論	
第8回	栄養カウンセリング(3) カウンセリングの基礎	
第9回	栄養カウンセリング(4) 行動療法面接の実際	
第10回	行動変容のための技法 習慣変容に必要な条件，行動技法と概念	
第11回	栄養教育マネジメント(1) 栄養教育マネジメントとは，栄養教育の対象と機会	
第12回	栄養教育マネジメント(2) 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	
第13回	栄養教育のためのアセスメント 栄養教育におけるアセスメントの意義と目的，情報収集の方法，栄養アセスメントの種類と方法	
第14回	栄養教育の目標設定と計画立案(1) プログラム，目標設定 栄養教育方法の選択，学習形態の組み合わせ	
第15回	栄養教育に必要とされる教材の目的と選択	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	30	講義の理解度と取り組み姿勢を評価するため、確認テストを実施する。
定期試験	70	到達目標への理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	栄養教育論Ⅰでは、さまざまな対象者への栄養教育の根本となる。 講義の内容がより深く理解できるよう、予習・復習を欠かすことがなく受講すること。 講義中の私語やスマホ等を使用した場合、減点対象とする場合がある。
授業外学修	1．講義で学んだことや不明なキーワードは，正しい情報源によって確認し，まとめておくこと。 2．講義内容については，使用テキストおよび関連資料によって予習・復習をすること。 以上の内容に関しては，週当たり4時間以上かけて学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養教育論　改訂第5版	武見ゆかり，足達淑子，木村典代，林芙美	南江堂	978-4-524-22677-1	3520円(税込み)
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療機関における管理栄養士（23年間）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かした講義を行います。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学修内容全般における理解	学修内容全般への理解力が極めて優れている。	学修全般への理解力が優れている。	学修内容を概ね理解している。	学修内容への理解力が不十分である。	学修内容への理解ができていない。
知識・理解	2．栄養教育の目的に対する理解	栄養教育の目的を理解した上で、その説明が極めて優れている。	栄養教育の目的を理解した上で、その説明が優れている。	栄養教育の目的を理解できており、その説明が十分である。	栄養教育の目的を断片的に理解できているが不十分である。	栄養教育の目的を理解できていない。
知識・理解	3．対象者へのカウンセリングと行動変容を起こすための技法への理解	カウンセリングと対象者に適した技法の判断力が極めて優れている。	カウンセリングと対象者に適した技法の判断力が優れている。	カウンセリングと対象者に適した技法の判断力が十分なレベルである。	カウンセリングと対象者に適した技法の判断力が不十分である。	カウンセリングと対象者に適した技法の判断力が不十分である。
思考・問題解決能力	1．課題に対する思考力	対象者の課題に対して、極めて優れた思考力をもっている。	対象者の課題に対して、優れた思考力をもっている。	対象者の課題に対して、十分なレベルの思考力である。	対象者の課題に対して、思考力がやや劣っている。	対象者の課題に対して、思考力が非常に劣っている。
思考・問題解決能力	2．課題に対する問題解決能力	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力が極めて優れている。	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力が優れている。	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力が十分なレベルである。	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力がやや劣っている。	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力が非常に劣っている。
態度	1．受講の準備性	講義開始前までに教科書、ノートなど必要なものが準備されている。講義を受ける姿勢で待っている。	講義開始前までに、教科書、ノートなど必要なものが準備できている。	講義開始時には、教科書、ノートなど必要なものが準備できている。	遅刻をすることはないが、講義に必要なものが準備できていないことが度々ある。	遅刻が目立ち、講義に必要なものが準備できていない。
態度	2．受講態度	受講態度が極めて優れている。	受講態度優れている。	受講態度は、十分なレベルである。	傾眠、私語など受講に関係ない行為が時々見られる。	傾眠、私語など受講に関係ない行為が目立つ。

科目名	栄養教育実習Ⅰ 1クラス(隔週)			授業番号	NO203A	サブタイトル			
教員	安原 幹成								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。 本実習では，栄養教育におけるPDCAサイクルを組み込んで学修する。 実習を進める上で個人およびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得することを目的とする。 実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など，現実により近い状態で模擬訓練を行う。								
到達目標	・栄養教育の場で求められる知識を理解・修得し，様々な教育の場で活用することができる。 ・コミュニケーションスキルとカウンセリング技法を理解し，修得することができる。 ・状況に応じた食事調査法の判断力と栄養摂取量の把握，アンケート作成，二次データ利用とその活用法を修得する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	栄養教育のためのアセスメント 初回面接と情報収集，カウンセリング技法の基礎	
第2回	栄養教育アセスメント ストレス・マネジメント	
第3回	習慣的な栄養摂取量の把握（個人） 食事記録を用いたアセスメント	
第4回	フォーカスグループインタビュー 得られた情報のプレゼンテーションを行う。	
第5回	Googleフォームを利用したアンケートの作成と実施 得られた情報のプレゼンテーションを行う。	
第6回	コミュニケーション技法と二次データを利用したヘルスリテラシーに関する調査 得られた情報のプレゼンテーション	
第7回	栄養教育の実際（１） 栄養教育計画の立案と教室の実施	
第8回	まとめ	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	積極的な発言，発表状況，態度などから評価する。
レポート	60	レポートから理解度と達成度を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	20	グループで取り組んだ内容について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	個人とグループワークの学修方法になる。特にグループにおける協働作業では，個々の力が偏りなく，活発な意見交換を行うこと。 日頃から実習に役立つ関連情報を収集しておくと本実習で円滑な作業が期待できる。 学修した多くの情報は，臨地実習や社会人として，現場で活かすことができるため，積極的に取り組むこと。
授業外学修	実習中の内容を振り返り，修得したことや問題点と課題などの復習を行う。 また，予習として次の実習が円滑に行えるよう，関連する情報や提案材料を収集しておく。 これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改定マスター栄養教育論実習	佐藤香苗，杉村留美子	建帛社	978-4-7679-0699-7	2,530円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	実習中にスマートフォンを使用した場合は、減点対象とする。 また、実習中に許可のない退室、飲食等も常識として厳守すること。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関における管理栄養士（23年間）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．カウンセリング技法の習得	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が極めて優れている。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が優れている。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が十分である。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が理解できていない。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得がまったく理解できていない。
知識・理解	2．情報リテラシー（二次データの利用）	エビデンスのある情報を正しく収集し、活用する能力が非常に優れている。	エビデンスのある情報を正しく収集し、活用する能力が優れている。	エビデンスのある情報を正しく収集し、活用する能力が十分である。	エビデンスのない情報が混在しており、データを活用する能力が不十分である。	エビデンスのない情報が大半であり、データを正しく活用する能力がない。
知識・理解	3．栄養教育計画への理解	栄養教育計画の基本を理解し、対象者別の目的を正しく理解し立案する能力が極めて優れている。	栄養教育計画の基本を理解し、対象者別の目的を正しく理解し立案する能力が優れている。	栄養教育計画の基本を理解し、対象者別の目的を正しく理解し立案する能力が十分である。	栄養教育計画の基本が十分理解できておらず、対象者別の目的を理解し立案する能力が不十分である。	栄養教育計画の基本が理解できておらず、対象者別の目的を理解し立案する能力がない。
思考・問題解決能力	1．思考力	個々の課題に対して、極めて優れた思考力である。	個々の課題に対して、優れた思考力である。	個々の課題に対して、十分なレベルの思考力である。	個々の課題に対して、思考力がやや劣っている。	個々の課題に対して、思考力が非常に劣っている。
思考・問題解決能力	2．問題解決能力	個々の課題に対して、極めて優れた問題解決能力である。	個々の課題に対して、優れた問題解決能力である。	個々の課題に対して、十分なレベルの問題解決能力である。	個々の課題に対して、問題解決能力がやや劣っている。	個々の課題に対して、問題解決能力が非常に劣っている。
技能	1．情報の活用能力	エビデンスのある情報を正しく理解し正しく活用する能力が極めて優れている。	エビデンスのある情報を正しく理解し正しく活用できる。	エビデンスのある情報を理解し活用できる。	エビデンスのあるものとない情報が混在している。	エビデンスのない情報を利用しており、正しい活用ができない。
技能	2．プレゼンテーション資料作成	技能、完成度ともに非常に優れている。	技能、完成度ともに優れている。	技能、完成度ともに十分なレベルである。	技能、完成度ともにやや劣っている。	技能、完成度ともに非常に劣っている。
態度	1．グループでの取り組み	非常に積極的にグループワークを率先している。	積極的にグループワークを率先している。	概ねグループワークを率先している。	求められた場合に限り、発言できる。	グループワークへの参加ができていない。
態度	2．発表時の態度と姿勢	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが非常に優れている。	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが優れている。	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが十分なレベルである。	発表者としてのコミュニケーション能力がやや劣っている。	発表者としてのコミュニケーション能力が非常に劣っている。
態度	3．受講態度	受講態度は、積極的で極めて優れている。	受講態度は、前向きで優れている。	受講態度は、前向きで十分なレベルである。	実習に関係のない行動を取ることがあり、受講態度がやや悪い。	実習に関係ない行動を取り、受講態度が極めて悪い。

科目名	栄養教育実習Ⅰ 2クラス(隔週)			授業番号	NO203B	サブタイトル			
教員	安原 幹成								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。 本実習では，栄養教育におけるPDCAサイクルを組み込んで学修する。 実習を進める上で個人およびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得することを目的とする。 実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など，現実により近い状態で模擬訓練を行う。								
到達目標	・栄養教育の場で求められる知識を理解・修得し，様々な教育の場で活用することができる。 ・コミュニケーションスキルとカウンセリング技法を理解し，修得することができる。 ・状況に応じた食事調査法の判断力と栄養摂取量の把握，アンケート作成，二次データ利用とその活用法を修得する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	栄養教育のためのアセスメント 初回面接と情報収集，カウンセリング技法の基礎	
第2回	栄養教育アセスメント ストレス・マネジメント	
第3回	習慣的な栄養摂取量の把握（個人） 食事記録を用いたアセスメント	
第4回	フォーカスグループインタビュー 得られた情報のプレゼンテーションを行う。	
第5回	Googleフォームを利用したアンケートの作成と実施 得られた情報のプレゼンテーションを行う。	
第6回	コミュニケーション技法と二次データを利用したヘルスリテラシーに関する調査 得られた情報のプレゼンテーション	
第7回	栄養教育の実際（１） 栄養教育計画の立案と教室の実施	
第8回	まとめ	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	積極的な発言，発表状況，態度などから評価する。
レポート	60	レポートから理解度と達成度を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	20	グループで取り組んだ内容について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	個人とグループワークの学修方法になる。特にグループにおける協働作業では，個々の力が偏りなく，活発な意見交換を行うこと。 日頃から実習に役立つ関連情報を収集しておくと本実習で円滑な作業が期待できる。 学修した多くの情報は，臨地実習や社会人として，現場で活かすことができるため，積極的に取り組むこと。
授業外学修	実習中の内容を振り返り，修得したことや問題点と課題などの復習を行う。 また，予習として次の実習が円滑に行えるよう，関連する情報や提案材料を収集しておく。 これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改定マスター栄養教育論実習	佐藤香苗，杉村留美子	建帛社	978-4-7679-0699-7	2,530円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	実習中にスマートフォンを使用した場合は、減点対象とする。 また、実習中に許可のない退室、飲食等も常識として厳守すること。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関における管理栄養士（23年間）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．カウンセリング技法の習得	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が極めて優れている。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が優れている。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が十分である。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が理解できていない。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得がまったく理解できていない。
知識・理解	2．情報リテラシー（二次データの利用）	エビデンスのある情報を正しく収集し、活用する能力が非常に優れている。	エビデンスのある情報を正しく収集し、活用する能力が優れている。	エビデンスのある情報を正しく収集し、活用する能力が十分である。	エビデンスのない情報が混在しており、データを活用する能力が不十分である。	エビデンスのない情報が大半であり、データを正しく活用する能力がない。
知識・理解	3．栄養教育計画への理解	栄養教育計画の基本を理解し、対象者別の目的を正しく理解し立案する能力が極めて優れている。	栄養教育計画の基本を理解し、対象者別の目的を正しく理解し立案する能力が優れている。	栄養教育計画の基本を理解し、対象者別の目的を正しく理解し立案する能力が十分である。	栄養教育計画の基本が十分理解できておらず、対象者別の目的を理解し立案する能力が不十分である。	栄養教育計画の基本が理解できておらず、対象者別の目的を理解し立案する能力がない。
思考・問題解決能力	1．思考力	個々の課題に対して、極めて優れた思考力である。	個々の課題に対して、優れた思考力である。	個々の課題に対して、十分なレベルの思考力である。	個々の課題に対して、思考力がやや劣っている。	個々の課題に対して、思考力が非常に劣っている。
思考・問題解決能力	2．問題解決能力	個々の課題に対して、極めて優れた問題解決能力である。	個々の課題に対して、優れた問題解決能力である。	個々の課題に対して、十分なレベルの問題解決能力である。	個々の課題に対して、問題解決能力がやや劣っている。	個々の課題に対して、問題解決能力が非常に劣っている。
技能	1．情報の活用能力	エビデンスのある情報を正しく理解し正しく活用する能力が極めて優れている。	エビデンスのある情報を正しく理解し正しく活用できる。	エビデンスのある情報を理解し活用できる。	エビデンスのあるものとない情報が混在している。	エビデンスのない情報を利用しており、正しい活用ができない。
技能	2．プレゼンテーション資料作成	技能、完成度ともに非常に優れている。	技能、完成度ともに優れている。	技能、完成度ともに十分なレベルである。	技能、完成度ともにやや劣っている。	技能、完成度ともに非常に劣っている。
態度	1．グループでの取り組み	非常に積極的にグループワークを率先している。	積極的にグループワークを率先している。	概ねグループワークを率先している。	求められた場合に限り、発言できる。	グループワークへの参加ができていない。
態度	2．発表時の態度と姿勢	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが非常に優れている。	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが優れている。	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが十分なレベルである。	発表者としてのコミュニケーション能力がやや劣っている。	発表者としてのコミュニケーション能力が非常に劣っている。
態度	3．受講態度	受講態度は、積極的で極めて優れている。	受講態度は、前向きで優れている。	受講態度は、前向きで十分なレベルである。	実習に関係のない行動を取ることがあり、受講態度がやや悪い。	実習に関係ない行動を取り、受講態度が極めて悪い。

科目名	栄養教育論Ⅱ			授業番号	NO302	サブタイトル			
教員	安原　幹成								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	管理栄養士は授乳期から終末期までのすべてのステージにおいて「食生活」に対する教育と正しい判断力が要求される。 課題に対して正しく判断できる力を習得する。 また，栄養教育論Ⅰで学修したことを更に掘り下げ，ライフステージおよびライフスタイル別の栄養教育を学ぶ。 各段階における様々な特性を考慮した栄養教育が必要であり，個人および集団を対象とした栄養教育について学修する。								
到達目標	（1）栄養教育の実施者として必要な技術と方法を理解し，習得する。 （2）栄養教育の評価方法を理解し正しく評価する力を習得する。 （3）ライフステージ・ライフスタイル別および個人・集団での健康状態と栄養教育を理解し，習得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養教育の目標設定と計画立案 プログラムの作成	
第2回	栄養教育の実施と評価 栄養教育実施	
第3回	栄養教育の目標設定と計画立案 栄養教育の評価(1)	
第4回	ライフステージ別の栄養教育の展開 栄養教育の評価(2)	
第5回	ライフステージ別の栄養教育の展開 妊娠・授乳期	
第6回	ライフステージ別の栄養教育の展開 乳・幼児期(1)	
第7回	ライフステージ別の栄養教育の展開 乳・幼児期(2)	
第8回	ライフステージ別の栄養教育の展開 学童期(1)	
第9回	ライフステージ別の栄養教育の展開 学童期(2)	
第10回	ライフステージ別の栄養教育の展開 思春期	
第11回	ライフステージ別の栄養教育の展開 成人期	
第12回	ライフステージ別の栄養教育の展開 成人期を対象とした栄養教育の特徴と留意事項	
第13回	ライフステージ別の栄養教育の展開 職域における栄養教育	
第14回	ライフステージ別の栄養教育の展開 高齢期	
第15回	ライフステージ別の栄養教育の展開 介護保険制度と栄養教育・まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	30	講義の理解度と取り組み姿勢を評価するため、確認テストを実施する。
定期試験	70	到達目標の理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	栄養教育論IIは，ライスステージおよびライフスタイル別の対象者への栄養教育をより具体的に学修する。 講義内容がより深く理解できるよう，予習・復習を欠かすことなく受講すること。 講義中の私語やスマホ等を使用した場合、減点対象とする場合がある。
授業外学修	1.講義で学んだことや不明なキーワードは，正しい情報源によって確認し，まとめておくこと。 2.講義内容については，使用テキストおよび関連資料によって予習・復習をすること。 以上の内容に関しては，週当たり4時間以上かけて学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養教育論　改訂第5版	武見ゆかり,足達淑子,木村典代,林芙美	南江堂	978-4-524-22677-1	3,520円（税込み）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	病院における管理栄養士（23年間）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学修内容全般における理解	学修内容への理解力が極めて優れている。	学修内容への理解力が優れている。	学修内容への理解力が十分なレベルである。	学修内容への理解力がやや劣っている。	学修内容への理解力が非常に劣っている。
知識・理解	2．ライフステージにおける知識の理解度	問題点・アセスメント・課題への理解力が極めて優れている。	問題点・アセスメント・課題への理解力が優れている。	問題点・アセスメント・課題への理解力が十分なレベルである。	問題点・アセスメント・課題への理解力がやや劣っている。	問題点・アセスメント・課題への理解力が非常に劣っている。
思考・問題解決能力	1．課題に対する思考力	対象者の課題に対して、極めて優れた思考力をもっている。	対象者の課題に対して、優れた思考力をもっている。	対象者の課題に対して、十分なレベルの思考力である。	対象者の課題に対して、思考力がやや劣っている。	対象者の課題に対して、思考力が非常に劣っている。
思考・問題解決能力	2．課題に対する問題解決能力	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力が極めて優れている。	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力が優れている。	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力が十分なレベルである。	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力がやや劣っている。	対象者の問題点を正確にとらえ、解決策を導く能力が非常に劣っている。
態度	1．受講の準備性	講義開始前までに教科書、ノートなど必要なものが準備されている。講義を受ける姿勢で待っている。	講義開始前までに、教科書、ノートなど必要なものが準備できている。	講義開始時には、教科書、ノートなど必要なものが準備できている。	遅刻をすることはないが、講義に必要なものが準備できていないことが度々ある。	遅刻が目立ち、講義に必要なものが準備できていない。
態度	2．受講態度	受講態度が極めて優れている。	受講態度優れている。	受講態度は、十分なレベルである。	傾眠、私語など受講に関係ない行為が時々見られる。	傾眠、私語など受講に関係ない行為が目立つ。

科目名	栄養教育実習Ⅱ 1クラス(隔週)			授業番号	NO304A	サブタイトル			
教員	安原 幹成								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。本実習では，栄養教育におけるPDCAサイクル組み込んで学修する。 実習を進めて行く上でペアワークおよびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得する。 実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など，現実により近い状態で模擬訓練を行う。								
到達目標	ライフステージおよびライフスタイルにおける特徴を理解した上でより有効な栄養教育法を判断できる力を習得する。 その場に相応しい栄養教育方法を実践するための技術を学修する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	第１回 乳幼児期，学童期（小学生）の栄養教育，思春期（中学生・高校生）の栄養教育 第２回 成人期の栄養教育 グループダイナミクスを用いて 第３回 模擬患者を用いた面接技法（SP演習） 第４回 カウンセリング技法 第５回 高齢期の栄養支援（高齢者施設） 第６回 個人栄養食事指導のまとめ 第７回 スポーツと栄養教育，地域における栄養教育 第８回 まとめ								
授業計画 自由記載									
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	個人およびグループ内での発言，発表状況，質問などから評価する。
レポート	60	提出されたレポートから理解度，達成度等を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	20	グループで取り組んだ内容について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実践に近いライフステージ別の実習となるため，それぞれが積極的に発言する機会を得ること。 また，グループ内でも協力してチーム力が発揮できるよう努力する。 学修した多くの情報は，臨地実習や社会人として，現場で活かすことができるため，積極的に取り組むこと。
授業外学修	実習中の内容を振り返り，習得したことや問題点と課題の復習を行う。 予習として次の実習が円滑に行えるよう，関連する情報や提案材料を予め収集しておく。 これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂マスター栄養教育論実習	佐藤香苗・杉村留美子	建帛社	978-4-7679-0699-7	2,530円(税込)
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考	実習中にスマートフォンを使用した場合は、減点対象とする。 また、実習中に許可のない退室、飲食等も常識として厳守すること。			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	病院における管理栄養士（23年間）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．栄養教育に関する知識	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が極めて優れている。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が優れている。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が十分なレベルである。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が理解できていない。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得がまったく理解できていない。
知識・理解	2．ライフステージへの理解	問題点・アセスメント・課題への理解力が極めて優れている。	問題点・アセスメント・課題への理解力が優れている。	問題点・アセスメント・課題への理解力が十分なレベルである。	問題点・アセスメント・課題への理解力がやや劣っている。	問題点・アセスメント・課題への理解力が非常に劣っている。
思考・問題解決能力	1．思考力	個々の課題に対して、極めて優れた思考力である。	個々の課題に対して、優れた思考力である。	個々の課題に対して、十分なレベルの思考力である。	個々の課題に対して、思考力がやや劣っている。	個々の課題に対して、思考力が非常に劣っている。
思考・問題解決能力	2．問題解決能力	個々の課題に対して、極めて優れた問題解決能力である。	個々の課題に対して、優れた問題解決能力である。	個々の課題に対して、十分なレベルの問題解決能力である。	個々の課題に対して、問題解決能力がやや劣っている。	個々の課題に対して、問題解決能力が非常に劣っている。
技能	1．情報の活用能力	エビデンスのある情報を正しく理解し正しく活用する能力が非常に優れている。	エビデンスのある情報を正しく理解し正しく活用できる。	エビデンスのある情報を理解し活用できる。	エビデンスのあるものとない情報が混在している。	エビデンスのない情報を利用しており、正しい活用ができない。
技能	2．プレゼンテーション資料作成	技能、完成度ともに非常に優れている。	技能、完成度ともに優れている。	技能、完成度ともに十分なレベルである。	技能、完成度ともにやや劣っている。	技能、完成度ともに非常に劣っている。
態度	1．グループでの取り組み	非常に積極的にグループワークを率先している。	積極的にグループワークを率先している。	概ねグループワークを率先している。	求められた場合に限り、発言できる。	グループワークへの参加ができていない。
態度	2．発表時の態度と姿勢	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが非常に優れている。	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが優れている。	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが十分なレベルである。	発表者としてのコミュニケーション能力がやや劣っている。	発表者としてのコミュニケーション能力が非常に劣っている。
態度	3．受講態度	受講態度は、積極的で極めて優れている。	受講態度は、前向きで優れている。	受講態度は、前向きで十分なレベルである。	実習に関係のない行動を取ることがあり、受講態度がやや悪い。	実習に関係ない行動を取り、受講態度が極めて悪い。

科目名	栄養教育実習Ⅱ 2クラス(隔週)			授業番号	NO304B	サブタイトル			
教員	安原 幹成								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。本実習では，栄養教育におけるPDCAサイクル組み込んで学修する。 実習を進めて行く上でペアワークおよびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得する。 実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など，現実により近い状態で模擬訓練を行う。								
到達目標	ライフステージおよびライフスタイルにおける特徴を理解した上でより有効な栄養教育法を判断できる力を習得する。 その場に相応しい栄養教育方法を実践するための技術を学修する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	第１回 乳幼児期，学童期（小学生）の栄養教育，思春期（中学生・高校生）の栄養教育 第２回 成人期の栄養教育 グループダイナミクスを用いて 第３回 模擬患者を用いた面接技法（SP演習） 第４回 カウンセリング技法 第５回 高齢期の栄養支援（高齢者施設） 第６回 個人栄養食事指導のまとめ 第７回 スポーツと栄養教育，地域における栄養教育 第８回 まとめ								
授業計画 自由記載									
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	個人およびグループ内での発言，発表状況，質問などから評価する。
レポート	60	提出されたレポートから理解度，達成度等を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	20	グループで取り組んだ内容について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実践に近いライフステージ別の実習となるため，それぞれが積極的に発言する機会を得ること。 また，グループ内でも協力してチーム力が発揮できるよう努力する。 学修した多くの情報は，臨地実習や社会人として，現場で活かすことができるため，積極的に取り組むこと。
授業外学修	実習中の内容を振り返り，習得したことや問題点と課題の復習を行う。 予習として次の実習が円滑に行えるよう，関連する情報や提案材料を予め収集しておく。 これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂マスター栄養教育論実習	佐藤香苗・杉村留美子	建帛社	978-4-7679-0699-7	2,530円(税込)

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	実習中にスマートフォンを使用した場合は、減点対象とする。 また、実習中に許可のない退室、飲食等も常識として厳守すること。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における管理栄養士（23年間）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．栄養教育に関する知識	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が極めて優れている。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が優れている。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が十分なレベルである。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が理解できていない。	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得がまったく理解できていない。
知識・理解	2．ライフステージへの理解	問題点・アセスメント・課題への理解力が極めて優れている。	問題点・アセスメント・課題への理解力が優れている。	問題点・アセスメント・課題への理解力が十分なレベルである。	問題点・アセスメント・課題への理解力がやや劣っている。	問題点・アセスメント・課題への理解力が非常に劣っている。
思考・問題解決能力	1．思考力	個々の課題に対して、極めて優れた思考力である。	個々の課題に対して、優れた思考力である。	個々の課題に対して、十分なレベルの思考力である。	個々の課題に対して、思考力がやや劣っている。	個々の課題に対して、思考力が非常に劣っている。
思考・問題解決能力	2．問題解決能力	個々の課題に対して、極めて優れた問題解決能力である。	個々の課題に対して、優れた問題解決能力である。	個々の課題に対して、十分なレベルの問題解決能力である。	個々の課題に対して、問題解決能力がやや劣っている。	個々の課題に対して、問題解決能力が非常に劣っている。
技能	1．情報の活用能力	エビデンスのある情報を正しく理解し正しく活用する能力が非常に優れている。	エビデンスのある情報を正しく理解し正しく活用できる。	エビデンスのある情報を理解し活用できる。	エビデンスのあるものとない情報が混在している。	エビデンスのない情報を利用しており、正しい活用ができない。
技能	2．プレゼンテーション資料作成	技能、完成度ともに非常に優れている。	技能、完成度ともに優れている。	技能、完成度ともに十分なレベルである。	技能、完成度ともにやや劣っている。	技能、完成度ともに非常に劣っている。
態度	1．グループでの取り組み	非常に積極的にグループワークを率先している。	積極的にグループワークを率先している。	概ねグループワークを率先している。	求められた場合に限り、発言できる。	グループワークへの参加ができていない。
態度	2．発表時の態度と姿勢	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが非常に優れている。	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが優れている。	言語・非言語・準言語コミュニケーションのそれぞれが十分なレベルである。	発表者としてのコミュニケーション能力がやや劣っている。	発表者としてのコミュニケーション能力が非常に劣っている。
態度	3．受講態度	受講態度は、積極的で極めて優れている。	受講態度は、前向きで優れている。	受講態度は、前向きで十分なレベルである。	実習に関係のない行動を取ることがあり、受講態度がやや悪い。	実習に関係ない行動を取り、受講態度が極めて悪い。

科目名	カウンセリング論			授業番号	NO305	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	カウンセリングに関わる基礎理論を獲得するとともに，ロールプレイや事例検討を通して，カウンセリングに関する技術の修得を目的とする。								
到達目標	・カウンセリングの知識について，基礎的な知識を獲得する。 ・カウンセリングの基礎的な技法について，実際の場面で使うことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	カウンセリングとは？	
第2回	カウンセリングの理論1：精神分析療法 精神分析的な考え方について学ぶ。	
第3回	カウンセリングの理論2：認知行動療法，論理療法 行動論的な考え方について学ぶ。	
第4回	カウンセリングの理論3：自己理論 自己理論的な考え方について学ぶ。	
第5回	カウンセリング・マインドについて 専門職におけるカウンセリング・マインドとは何か？について考え、獲得できるようになる。	
第6回	カウンセリングのすすめ方1：インテーク面接 インテーク面接について学ぶ、進め方の実際を知る。	
第7回	カウンセリングのすすめ方2：アセスメント1 アセスメントについて学ぶ。	
第8回	カウンセリングのすすめ方3：アセスメント2 様々なアセスメント方法について学び、体験する。	
第9回	カウンセリングのすすめ方4：介入と終結 介入と集結方法ついて学ぶ。	
第10回	カウンセリングにおける具体的なテクニック1：相づち，反射，開いた質問，閉じた質問 実際のカウンセリングを通して、具体的なテクニックについて学びを深める。	
第11回	カウンセリングにおける具体的なテクニック2：要約，明確化 具体的なテクニックについて学びを深める。	
第12回	事例検討 1 様々な事例を通して、カウンセリングの実際を知る。	
第13回	事例検討 2 様々な事例を通して、カウンセリングの実際を知る。	
第14回	ロールプレイ 実際にカウンセリングを体験してみる。	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート	30	全講義終了後，カウンセリングにおける知識と視点をふまえて総合的に論じることができる。
小テスト		
定期試験		
その他	50	事例検討（30%）やロールプレイ（20%）に積極的に参加し，意見を出すことができる。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，カウンセリングに関わる基礎理論を復習すること。 2．事例について，様々な視点から考えられるように深く読み込むこと。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	スクールカウンセラー（12年），医療型障害児入所施設職員（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	スクールカウンセラー（12年）の経験を通して得られた様々な事例を通して、多様な困難感を抱える子どもや保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について考え実践できるようになる

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.特別支援に関する知識	特別支援に関する具体的な知識を深く習得している。	特別支援に関する具体的な知識を習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識の習得が不十分である。	特別支援に関する知識が習得できていない。
態度	1.課題への取り組み	課題の意図を理解し、カウンセリングの知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。カウンセリングの知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。 自分の意見が記述できてない。
態度	2.グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。 グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。 もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	食行動学			授業番号	NO306	サブタイトル			
教員	安原　幹成								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人にとって食行動とは，ライフステージ，ライフワーク，その他に多くの要因によって異なり，影響される。 栄養士・管理理栄養士として，重要なアセスメントの一つである食行動を学修する。								
到達目標	食行動に影響する要因の分析力，なぜ人はその行動をとるのか，健康的に望ましくない食行動を行動変容するためには何が必要か。 食行動について多面的に理解することを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考	食行動は重要なアセスメントの一つであり，栄養士・管理栄養士として十分な理解が必要である。 さまざまなライフステージおよびライフワークにおける特徴とその分析能力を養うことを目的とする。 日頃から，様々な環境下で人の食行動をモニタリングするなど，興味を持って受講すること。 講義形式ではあるが，参加型を含める。積極的な発言を期待する。 講義中の内容に準じたレポートを作成しながら進める。								

回	概要	担当
第1回	食行動とは何かを考える	
第2回	食行動と認知	
第3回	食行動と環境要因との関係	
第4回	食行動と心理との関係	
第5回	食に関する理解の発達	
第6回	ライフステージにおける食行動の特徴を考える	
第7回	ライフワークにおける食行動の特徴と考える	
第8回	行動科学に基づいた栄養教育	
第9回	行動分析学に基づく体重減量の方法	
第10回	食事療法による生活習慣病の予防	
第11回	健康寿命を延伸するために求められる食とは何か	
第12回	肥満とダイエット関連する食行動と栄養教育 事例検討（メタボリックシンドローム）	
第13回	事例検討(糖尿病)	
第14回	事例検討(CKD：慢性腎臓病)ステージ４～５D 重大性の認知が食行動へ与える影響	
第15回	食行動学のまとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／積極的な態度	10	授業と関係ない行為を減点対象とする。能動的な姿勢を評価する。
レポート※欠席回数に応じて減点を行う。	90	講義内容への理解度と取り組み姿勢をレポートの内容を評価する。 レポートは、講義と合わせて並行して進める。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	日頃から自身を含め、他者の食行動を観察しておくこと。 また、自分自身の食行動を改めて確認し、何らかの影響によって、 変化があった食行動を整理しておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	毎回の講義の内容に沿った資料を提供する。 毎回の資料は、ファイルに綴じておくこと。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における管理栄養士（23年間）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学修内容全般における理解	学修内容全般への理解力が極めて優れている。	学修全般への理解力が優れている。	学修内容を概ね理解している。	学修内容への理解力が不十分である。	学修内容への理解ができていない。その努力を怠っている。
知識・理解	2．食行動に対する理解	食行動の成り立ちを理解した上で、その説明が極めて優れている。	食行動の成り立ちを理解した上で、その説明が優れている。	食行動の成り立ちを理解できており、その説明が十分である。	食行動の成り立ちを断片的に理解できているが不十分である。	食行動の成り立ちを理解できていない。その努力を怠っている。
思考・問題解決能力	1．課題に対する思考力	課題に対して、非常に優れた思考力をもっている。	課題に対して、優れた思考力をもっている。	課題に対して、十分なレベルの思考力である。	課題に対して、思考力がやや劣っている。	課題に対して、思考力が非常に劣っている。その努力を怠っている。
思考・問題解決能力	2．食行動に対する課題への問題解決能力	食行動に対する課題を正確にとらえ、解決策を導く能力が極めて優れている。	食行動に対する課題を正確にとらえ、解決策を導く能力が優れている。	食行動に対する課題を正確にとらえ、解決策を導く能力が十分なレベルである。	食行動に対する課題を正確にとらえ、解決策を導く能力がやや劣っている。	食行動に対する課題を正確にとらえ、解決策を導くことができない。
態度	1．受講の準備性	講義開始前までに、講義に必要な資料が手元にあり、筆記用具が準備されている。講義を受ける姿勢で待っている。	講義開始前までに、講義に必要な資料が準備できている。講義開始時には、受講姿勢が整う。	講義開始時には、講義に必要な資料が準備できている。	遅刻をすることはないが、講義を受講する態度がみられないことが度々ある。	遅刻が目立ち、講義を受講する態度が全くみられない。常にスマホなどを机の上に置いている。
態度	2．受講態度	受講態度が非常に優れている。質問等には、積極的な発言がみられる。レポートへの記入が極めて優れた内容である。	受講態度優れている。 挙手による質問等には、必ず答える。レポートへの記入が優れた内容である。	受講態度は、十分なレベルである。質問等には、概ね答える。レポートへの記入は、概ね良好である。	傾眠、私語、スマホを操作するなど受講に関係ない行為が時々見られる。質問に対する反応が乏しい。レポートへの記入は、ひと通り記入している。	傾眠、私語、スマホを操作するなど受講に関係ない行為が目立つ。 質問に対する反応が乏しい。レポートへの記入ができない。

科目名	臨床栄養学総論			授業番号	NP201	サブタイトル	(傷病者の栄養管理の基礎を学ぶ)		
教員	小野　尚美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理を行うために栄養ケアマネジメントが実施される。その流れに沿って，栄養アセスメント，栄養診断，栄養ケア計画の作成・実施，モニタリング・再評価における必要な知識を説明する。さらに，栄養管理を行う上で必要となる他職種との連携（チーム医療），栄養補給（経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養），栄養教育の方法および食品と医薬品の相互作用について講義する。								
到達目標	・栄養ケアマネジメントの流れについて説明できる。 ・対象者の栄養状態を評価する方法について説明できる。 ・栄養補給法について知り，その選択ができる。 ・チーム医療について理解し，その中での管理栄養士の役割について説明できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	臨床栄養学の基礎 臨床栄養学の意義、目的について理解する。	
第2回	医療保険制度とチーム医療 医療保険制度の概要およびその制度における入院時食事療養制度や栄養管理に関連する診療報酬について理解する。	
第3回	福祉・介護と在宅医療 介護保険制度の概要および介護サービスにおける栄養管理、食事療養について理解する。	
第4回	栄養ケアマネジメントの概要 栄養ケアマネジメントの必要性やどのような過程で行われるか、また栄養管理プロセスの過程についても理解する。	
第5回	栄養アセスメント(1)栄養スクリーニング，フィジカルアセスメント 栄養スクリーニングの意義を理解する。フィジカルアセスメントによりわかる栄養状態について理解する。	
第6回	栄養アセスメント(2)臨床検査，身体計測 臨床検査の指標の意味を理解する。身体計測より身体構成成分を把握できることを理解する。	
第7回	栄養アセスメント(3)食生活状況の把握，エネルギーおよび栄養素のアセスメント 食生活状況を把握するための調査方法について理解する。	
第8回	栄養ケア計画のプロセス 必要栄養量の設定について理解する。	
第9回	栄養補給の方法(1)経口栄養補給法 病院で提供される治療食について理解する。	
第10回	栄養補給の方法(2)経腸栄養補給法 経腸栄養補給法の投与経路・投与方法について、また経腸栄養剤の種類について理解する。	
第11回	栄養補給の方法(3)経静脈栄養補給法 経静脈栄養補給法の投与方法・経路および経静脈栄養剤について理解する。	
第12回	薬と栄養・食物の相互作用 栄養・食物が医薬品に及ぼす影響について、また医薬品が栄養・食事に及ぼす影響について理解する。	
第13回	栄養ケアの記録 栄養ケアの記録の必要性、SOAP形式で記載した問題志向型診療録（POMR）について理解する。	
第14回	栄養教育の実施 栄養教育（栄養食事指導）の目的、指導方法について理解する。	
第15回	モニタリングと再評価 モニタリングの必要性や項目について理解する。また、モニタリング後の再評価について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより、評価を行う。
レポート		
小テスト	25	主要なポイントの理解度を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	医療機関における管理栄養士の役割を知る授業である。事前に講義範囲をテキストで予習しておく。
授業外学修	1　事前に講義範囲をテキストで予習しておく。 2　授業の中で指示された課題等に取り組む。 3　授業後にテキストや配布プリントを読み返し，ポイントを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　基礎編	本田佳子，土江節子，曽根博仁	羊土社	978-4-7581-0882-9	2，700円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考	令和6年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．栄養ケアマネジメントの流れについて説明できる	栄養ケアマネジメントの流れ、それぞれについて具体的に説明できる。	栄養ケアマネジメントの流れ、それぞれについて理解できている。	栄養ケアマネジメントの流れについて説明できる。	栄養ケアマネジメントについての理解ができている。	栄養ケアマネジメントについての理解が不十分である。
知識・理解	2．対象者の栄養状態を評価する方法について説明できる。	栄養状態を評価する方法についての理解が十分であり、それを用いて実際に評価できる。	対象者の栄養状態を評価する方法について具体的に説明できる。	対象者の栄養状態を評価する方法について理解できている。	栄養状態を評価する項目が分かる。	栄養状態を評価する項目がわからない。
知識・理解	3．栄養補給法について知り、その選択ができる。	栄養補給法について理解しており、なぜその選択になったかを説明できる。	栄養補給法について理解し、選択ができる。	栄養補給法それぞれを理解できている。	栄養補給法にはどのような方法があり大まかに理解できている。	栄養補給法について理解が不十分である。
知識・理解	4．チーム医療について理解し、その中で管理栄養士の役割について説明できる。	管理栄養士の参加が必要なチーム医療について理解し、そこでの管理栄養士の役割を説明できる。	管理栄養士の参加が必要なチーム医療について理解し、そこでの管理栄養士の役割がわかる。	管理栄養士が必要とされるチーム医療について理解ができている。	チーム医療について大まかに理解できている。	チーム医療についての理解が不十分である。

科目名	臨床栄養学各論 I			授業番号	NP302	サブタイトル			
教員	吉川 愛子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	各種疾患別に病態と栄養生理を把握し，栄養ケア・マネジメントを実践するために必要な項目について学ぶ。また，治療の一部となる栄養食事療法や栄養状態に合わせた栄養管理計画の考え方について講義する。								
到達目標	・疾患ごとの病態について説明できる ・栄養食事療法について説明できる ・栄養状態にあわせた栄養管理計画について説明できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	糖尿病(1)：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事基準について説明する	
第2回	糖尿病(2)：栄養評価，食品の選択，栄養介入計画の考え方について説明する	
第3回	肥満症・メタボリックシンドローム：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第4回	脂質異常症：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第5回	高尿酸血症：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第6回	高血圧：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第7回	動脈硬化症，虚血性心疾患，心不全，脳血管疾患：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第8回	上部消化肝疾患：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第9回	下部消化肝疾患：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第10回	肝疾患(ウイルス性肝炎，アルコール性肝炎，脂肪肝)：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第11回	肝疾患（肝硬変）：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第12回	膵・胆道系疾患：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第13回	腎疾患（糸球体腎炎，ネフローゼ症候群，糖尿病性腎症）：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第14回	腎疾患(慢性腎臓病)：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
第15回	腎疾患(末期腎不全、透析)：疾患の原因，病態，診断，治療法，栄養食事療法について説明する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	30	各項目におけるポイントの理解度を評価する
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	具体的な栄養管理法を把握するため，事前・事後学習を行う。特別な理由がない限り欠席・遅刻しない。この科目の学習には，人体の構造と機能および疾病の成り立ち（解剖・生化学・病理・医学概論），基礎栄養学を充分理解しておく必要がある。
授業外学修	1.授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。 2.授業の最後に，小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。 3.授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養学ｲﾗｽﾄﾚｲﾃｯﾄﾞ 臨床栄養学 疾患別編	本田佳子 編	羊土社	978-4-7581-0883-6	2，800円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床医学疾病の成り立ち	田中明 他 編	羊土社	978-4-7581-0870-6	2,800円+税
トレーニーガイド栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント	本田佳子 編	医歯薬出版	978-4-263-708439	2,800+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における栄養士（3年），管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院における実務経験を活かし，傷病者の栄養食事療法について講義を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．疾患ごとの病態について説明できる	学修した疾患ごとの病態について，正確に理解し述べることができる	学修した疾患ごとの病態について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる	学修した疾患ごとの病態について，だいたい述べることができる	学修した疾患ごとの病態について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる	学修した疾患ごとの病態について，全く理解できていない
知識・理解	２．疾患ごとの栄養食事療法について説明できる	疾患ごとの栄養食事療法について，正確に理解し述べることができる	疾患ごとの栄養食事療法について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる	疾患ごとの栄養食事療法について，述べることができる	疾患ごとの栄養食事療法について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる	疾患ごとの栄養食事療法について，全く理解できていない
知識・理解	３．栄養状態にあわせた栄養管理計画について説明できる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，正確に理解し述べることができる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，だいたい述べることができる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，全く理解できていない

科目名	臨床栄養学各論Ⅱ			授業番号	NP303	サブタイトル	(傷病者の疾病に応じた栄養管理を学ぶII)		
教員	小野　尚美								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	臨床栄養学各論Ⅱに続いて各種疾患別に病態と栄養生理を把握し，栄養ケアマネジメントを実施するために必要な項目について学ぶ。疾患の原因，症状等を把握した上で治療，特に栄養食事療法をどのように進めていくかについて講義する。								
到達目標	・疾患ごとの病状を説明できる。 ・疾患における傷病者の栄養状態を説明できる。 ・治療において，栄養食事療法の意義を説明できる。 ・疾患ごとの栄養ケア計画を考えることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	運動器（骨格）系疾患(1)骨粗鬆症，くる病，骨軟化症 骨粗鬆症、くる病、骨軟化症のそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第2回	運動器（骨格）系疾患(2)変形性関節症，サルコペニア，ロコモティブシンドローム 変形性関節症、サルコペニア、ロコモティブシンドロームのそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第3回	摂食嚥下障害 摂食嚥下障害の病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第4回	褥瘡 褥瘡の病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第5回	甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症のそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第6回	神経性やせ症，神経性過食症 神経性やせ症、神経性過食症のそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第7回	慢性閉塞性肺疾患 慢性閉塞性肺疾患の病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第8回	貧血 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、再生不良性貧血のそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第9回	アレルギー疾患 食物アレルギーの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第10回	がんとターミナルケア 消化管がんの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第11回	周術期の管理 術前・術後の病態生理と栄養ケアについて把握する。	
第12回	クリティカルケア 外傷、熱傷それぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第13回	先天性代謝異常症 フェニルケトン尿症、メープルシロップ尿症、ホモシスチン尿症、ガラクトース血症それぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第14回	妊産婦疾患 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病それぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第15回	てんかん てんかんの病態生理とケトン食療法について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	積極的な授業態度，予習，復習，質問などにより評価する。
レポート		
小テスト	30	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業をより理解するためには，人体の構造と機能および疾病の成り立ち（解剖・生化学・病理・医学概論），基礎栄養学を充分理解していることが重要であるので，復習しておくこと。
授業外学修	・事前に講義範囲をテキストで予習しておく。 ・授業の中で指示された課題等に取り組む。 ・授業後にテキストや配布プリントを読み返し，ポイントを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版	本田佳子 他 編	羊土社	978-4-7581-0883-6	2，800円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床医学疾病の成り立ち	田中 明 他 編	羊土社	978-4-7581-0870-6	2，800円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和6年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．疾患ごとの病状を説明できる。	生理機能の変化、代謝の変化についても説明できる。	なぜそのような症状がでるのか説明できる。	疾患の症状について説明できる。	疾患の概要について説明できる。	疾患の概要について理解ができていない。
知識・理解	2．疾患における傷病者の栄養状態を説明できる。	アセスメント項目の数値をみて栄養状態を具体的に説明できる。	アセスメント項目の数値をみて栄養状態が理解できる。	疾患ごとの栄養状態を把握するためのアセスメント項目がわかる。	栄養状態を把握するためのアセスメント項目がわかる。	栄養状態を把握するためのアセスメント項目の理解が不十分である。
知識・理解	3．治療において、栄養食事療法の意義を説明できる。	栄養食事療法の意義を理解した上で、栄養食事療法により改善が予測されることを説明できる。	栄養食事療法の意義を理解し、説明ができる。	栄養食事療法の意義が理解できている。	栄養食事療法の意義が大まかに理解できている。	栄養食事療法の意義に対する理解が不十分である。
知識・理解	4．疾患ごとの栄養ケア計画を考えることができる。	他職種との連携も考慮し、栄養ケア計画を考えることができる。	栄養教育を含めた栄養ケア計画を考えることができる。	栄養補給を中心とした栄養ケア計画を考えることができる。	栄養補給量の計算方法がわかる。	栄養補給量の算出方法が理解できていない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅰ 1クラス(隔週)			授業番号	NP304A	サブタイトル			
教員	吉川 愛子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	栄養ケアプロセスとその実際について理解する。すなわち、身体計測や臨床検査，臨床診査、食事調査などから得られた情報をもとに栄養アセスメントを行い，栄養診断に基づいた栄養介入計画を立案する。また，栄養管理計画書やPOSに基づいた栄養記録法を学ぶ。さらに，対象者の特徴に応じた集団指導の計画を立て実践する。								
到達目標	・ベッドサイドにおける身体計測を実施でき，結果を評価できる ・対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる ・栄養アセスメント項目から，栄養状態を評価し問題点を抽出できる ・POSに基づいた栄養記録を作成できる ・対象者の特徴に配慮した集団指導の計画立案と実践ができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1-2回　栄養スクリーニングとアセスメント 　　身体計測，血液検査，食事調査などのアセスメント項目から栄養状態の評価を行う 3-4回　栄養診断と介入計画 　　栄養補給法の選択と栄養必要量を算出する 栄養診断とPES報告，介入計画の考え方を学ぶ5-6回　糖尿病の栄養管理(1) 　　エネルギーコントロール食の食品や調理法について学ぶ 　　糖尿病交換表の使って，エネルギーコントロール食に展開する 7-8回　糖尿病の栄養管理(2) 　　糖尿病の病態や食事療法を学び，糖尿病症例の栄養ケア計画を立案する 9-10回　心疾患患者の栄養管理 　　心不全の病態や食事療法を学び，心不全患者の栄養ケア計画を立案する 　　塩分コントロール食の食品や調理方法について学び，減塩食に展開する 11-12回　肝硬変症例の栄養管理、エネルギーコントロール食の調理 　　肝硬変の病態や食事療法を学び，肝硬変症例の栄養ケア計画を立案する 　　5-6回で展開したエネルギーコントロール食を調理し，低エネルギー食品の特徴を学ぶ 13-14回　集団指導の計画立案 　　糖尿病をテーマに集団指導の計画を立てる 15回　　集団指導の発表，まとめと要点の整理								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	グループワークにおける発言や積極的な質問など意欲的な実習態度によって評価する
レポート	50	治療食や疾病を理解し，傷病者の臨床診査，検査値等から正しく栄養状態の評価を行っているか，また問題点を抽出できているかを評価する。 提出されたレポートについては，コメントを記入して返却する。
その他	30	集団指導の計画内容，発表内容が指導の目的を達成しうるものであるか評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	臨床栄養学総論，臨床栄養学各論で学んだ知識が必要である。復習を十分に行い授業に臨むこと。
授業外学修	1 予習として各疾患の特徴や食事療法について理解しておくこと 2 復習として課題レポートに取り組むこと 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
トレーニーガイド 栄養食事療法の実習	本田佳子 編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2700+税
糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会 編	文光堂	978-4-8306-6046-7	900+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床調理	玉川和子・口羽章子・木地明子 著	医歯薬出版	978-4263706527	2400+税
栄養ケアプロセス用語マニュアル	公益財団法人日本栄養士会	第一出版	978-4804112701	3400
調理のためのベーシックデータ	女子栄養大調理学研究室 監修	女子栄養大出版部	978-4789503259	2200（税込）

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における栄養士（3年），管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院における実務経験を活かし，傷病者に対する実践的な栄養食事療法について指導します。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．ベッドサイドにおける身体計測を実施でき，結果を評価できる。	身体計測から得られた結果を評価し、論理的に説明できる。	正確な方法で身体計測を実施し，結果を評価できる。	正確な方法で身体計測を実施できるが結果を評価することができない。	正確な方法で身体計測が実施できない。	身体計測を実施する目的が曖昧である。
思考・問題解決能力	２．対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。	対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。また，計画内容について説明できる。	対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。	対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。	対象者にあわせた栄養補給法は選択できるが，投与ルートや投与量は計画できない。	栄養補給法が理解できていない。
思考・問題解決能力	3．栄養アセスメント項目から，栄養状態を評価し問題点を抽出できる。	栄養アセスメント項目から栄養状態を評価し、見出した問題点について，根拠に基づいて説明できる。	栄養アセスメント項目から栄養状態を評価し，見出した問題点について述べることができる。	栄養アセスメント項目から栄養状態を評価し，問題点を抽出できる。	栄養アセスメント項目を抽出し，総合的に栄養状態を評価できる。	栄養アセスメント項目を抽出できる。
技能	1．POSに基づいた栄養記録を作成できる。	SOAPで記載した内容について説明できる。	SOAPの記載が簡潔明瞭な記録となっている。	SOAPの4項目に分類して記録できる。	POSのうちのSOAP形式について説明できる。	POSとはなにか理解できていない。
技能	２．対象者の特徴に配慮した集団指導を計画立案し，実践できる。	対象者の特徴を理解しエビデンスに基づいた集団指導計画であり，指導計画に沿って実践できている。かつ，プレゼンテーションの方法が適切である。さらに，指導内容についてエビデンスに基づいて説明できる。	対象者の特徴を理解しエビデンスに基づいた集団指導計画であり，指導計画に沿って実践できている。かつ，プレゼンテーションの方法が適切である。	対象者の特徴を理解しエビデンスに基づいた集団指導計画である。また，指導計画に沿って実践できている。	対象者の特徴を理解した集団指導計画である。	対象者の特徴を理解できていない。
態度	１．主体的に課題に取り組んでいる。	課題について十分に理解し、他人に説明できる。	自ら進んで調べながら課題に取り組むことができる。	理解にあいまいな点があるが課題に取り組むことができる。	他者から教えてもらいながら課題に取り組むことができる。	他者からのアドバイスがあっても自発的に課題に取り組むことができない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅰ 2クラス(隔週)			授業番号	NP304B	サブタイトル			
教員	吉川 愛子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	栄養ケアプロセスとその実際について理解する。すなわち、身体計測や臨床検査，臨床診査、食事調査などから得られた情報をもとに栄養アセスメントを行い，栄養診断に基づいた栄養介入計画を立案する。また，栄養管理計画書やPOSに基づいた栄養記録法を学ぶ。さらに，対象者の特徴に応じた集団指導の計画を立て実践する。								
到達目標	・ベッドサイドにおける身体計測を実施でき，結果を評価できる ・対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる ・栄養アセスメント項目から，栄養状態を評価し問題点を抽出できる ・POSに基づいた栄養記録を作成できる ・対象者の特徴に配慮した集団指導の計画立案と実践ができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1-2回　栄養スクリーニングとアセスメント 　　身体計測，血液検査，食事調査などのアセスメント項目から栄養状態の評価を行う 3-4回　栄養診断と介入計画 　　栄養補給法の選択と栄養必要量を算出する 栄養診断とPES報告，介入計画の考え方を学ぶ5-6回　糖尿病の栄養管理(1) 　　エネルギーコントロール食の食品や調理法について学ぶ 　　糖尿病交換表の使って，エネルギーコントロール食に展開する 7-8回　糖尿病の栄養管理(2) 　　糖尿病の病態や食事療法を学び，糖尿病症例の栄養ケア計画を立案する 9-10回　心疾患患者の栄養管理 　　心不全の病態や食事療法を学び，心不全患者の栄養ケア計画を立案する 　　塩分コントロール食の食品や調理方法について学び，減塩食に展開する 11-12回　肝硬変症例の栄養管理、エネルギーコントロール食の調理 　　肝硬変の病態や食事療法を学び，肝硬変症例の栄養ケア計画を立案する 　　5-6回で展開したエネルギーコントロール食を調理し，低エネルギー食品の特徴を学ぶ 13-14回　集団指導の計画立案 　　糖尿病をテーマに集団指導の計画を立てる 15回　　集団指導の発表，まとめと要点の整理								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	グループワークにおける発言や積極的な質問など意欲的な実習態度によって評価する
レポート	50	治療食や疾病を理解し，傷病者の臨床診査，検査値等から正しく栄養状態の評価を行っているか，また問題点を抽出できているかを評価する。 提出されたレポートについては，コメントを記入して返却する。
その他	30	集団指導の計画内容，発表内容が指導の目的を達成しうるものであるか評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	臨床栄養学総論，臨床栄養学各論で学んだ知識が必要である。復習を十分に行い授業に臨むこと。
授業外学修	1 予習として各疾患の特徴や食事療法について理解しておくこと 2 復習として課題レポートに取り組むこと 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
トレーニーガイド 栄養食事療法の実習	本田佳子 編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2700+税
糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会 編	文光堂	978-4-8306-6046-7	900+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床調理	玉川和子・口羽章子・木地明子 著	医歯薬出版	978-4263706527	2400+税
栄養ケアプロセス用語マニュアル	公益財団法人日本栄養士会	第一出版	978-4804112701	3400
調理のためのベーシックデータ	女子栄養大調理学研究室 監修	女子栄養大出版部	978-4789503259	2200（税込）

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における栄養士（3年），管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院における実務経験を活かし，傷病者に対する実践的な栄養食事療法について指導します。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．ベッドサイドにおける身体計測を実施でき，結果を評価できる。	身体計測から得られた結果を評価し、論理的に説明できる。	正確な方法で身体計測を実施し，結果を評価できる。	正確な方法で身体計測を実施できるが結果を評価することができない。	正確な方法で身体計測が実施できない。	身体計測を実施する目的が曖昧である。
思考・問題解決能力	２．対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。	対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。また，計画内容について説明できる。	対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。	対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。	対象者にあわせた栄養補給法は選択できるが，投与ルートや投与量は計画できない。	栄養補給法が理解できていない。
思考・問題解決能力	3．栄養アセスメント項目から，栄養状態を評価し問題点を抽出できる。	栄養アセスメント項目から栄養状態を評価し、見出した問題点について，根拠に基づいて説明できる。	栄養アセスメント項目から栄養状態を評価し，見出した問題点について述べることができる。	栄養アセスメント項目から栄養状態を評価し，問題点を抽出できる。	栄養アセスメント項目を抽出し，総合的に栄養状態を評価できる。	栄養アセスメント項目を抽出できる。
技能	1．POSに基づいた栄養記録を作成できる。	SOAPで記載した内容について説明できる。	SOAPの記載が簡潔明瞭な記録となっている。	SOAPの4項目に分類して記録できる。	POSのうちのSOAP形式について説明できる。	POSとはなにか理解できていない。
技能	２．対象者の特徴に配慮した集団指導を計画立案し，実践できる。	対象者の特徴を理解しエビデンスに基づいた集団指導計画であり，指導計画に沿って実践できている。かつ，プレゼンテーションの方法が適切である。さらに，指導内容についてエビデンスに基づいて説明できる。	対象者の特徴を理解しエビデンスに基づいた集団指導計画であり，指導計画に沿って実践できている。かつ，プレゼンテーションの方法が適切である。	対象者の特徴を理解しエビデンスに基づいた集団指導計画である。また，指導計画に沿って実践できている。	対象者の特徴を理解した集団指導計画である。	対象者の特徴を理解できていない。
態度	１．主体的に課題に取り組んでいる。	課題について十分に理解し、他人に説明できる。	自ら進んで調べながら課題に取り組むことができる。	理解にあいまいな点があるが課題に取り組むことができる。	他者から教えてもらいながら課題に取り組むことができる。	他者からのアドバイスがあっても自発的に課題に取り組むことができない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅱ 1クラス(隔週)			授業番号	NP305A	サブタイトル			
教員	吉川 愛子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	各疾患の症例に対し栄養状態の評価を行い，栄養診断に基づいた栄養ケアプランを作成する。また，ケアプランに基づいた個別指導計画を立案し，臨床の現場を想定した模擬指導を行う。								
到達目標	・栄養診断、PES報告に基づいた栄養介入計画を提案できる ・栄養介入計画に基づいた個別栄養指導を立案し，実践できる ・一般食から病態に応じた献立の展開ができる ・他専門職種との連携について説明できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1-2回 慢性腎臓病の栄養管理（1） ・たんぱく質コントロール食の食品の選択や調理法について学ぶ ・腎臓病食品交換表を使って，たんぱく質コントロール食に展開する 3-4回 慢性腎臓病の栄養管理（2） ・腎臓病の病態や食事療法を学び，慢性腎臓病症例の栄養ケア計画を立案する 5-6回 透析の栄養管理、たんぱく質コントロール食の調理 ・透析治療における食事療法を学び，透析症例の栄養ケア計画を立案する ・展開したたんぱく質コントロール食の調理を行い，低たんぱく質食品や高エネルギー食品の特徴を学ぶ 7-8回 低栄養・褥瘡の栄養管理， 個別栄養指導計画作成と準備 ・低栄養・褥瘡の病態や食事療法を学び，低栄養・褥瘡症例の栄養ケア計画を立案する ・腎臓病症例の栄養指導計画の立案と模擬指導に向けた準備を行う 9−10回 個別栄養指導の実践（模擬指導） ・模擬指導を行い，栄養指導報告書の記載方法を学ぶ 11-12回 摂食・嚥下機能障害の栄養管理 ・介護保険制度における栄養管理に基づいた摂食・嚥下機能障害の栄養ケア計画を立案する 13-14回 個別栄養指導計画作成と準備 ・対象疾患のアセスメントを行い，問題点の抽出，栄養診断，栄養介入計画を考え，計画に則った指導案を作成する ・模擬指導に向けた準備を行う 15回 模擬指導（ロールプレイング）と栄養指導報告書の記入								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	グループワークにおける積極的な発言や授業態度，発表内容，質疑などにより評価する。
レポート	40	症例の病態を理解し，適切な栄養ケア計画が立案できているかその根拠を説明できるているか評価する。 提出されたレポートについては，コメントを記入して返却する。
その他：模擬指導	40	対象者の病態や食生活を踏まえた個別栄養指導計画となっているか，また，模擬指導の内容が対象者の栄養上の問題を解決しうる内容となっているかについて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各疾患に応じた栄養管理法に基づいて，栄養アセスメント，栄養診断，栄養ケア計画を作成し，実施までを理解した上で受講すること。各事例に応じて，栄養ケアマネジメントの実践および教育媒体の作成やコミュニケーション法についてロールプレイを通じて学ぶため，栄養教育について復習が必要である。
授業外学修	1，授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。 2，授業中の記録用紙に記入し，期日までに提出する。 3，授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2,700円+税
腎臓病交換表	黒川清監修	医歯薬出版	978-4-263706749	1,500＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編	本田佳子編	羊土社	978-4-7581-0883-6	2800円+税
栄養管理プロセス	木戸康博 他 編	第一出版	978-4-8041-1385-2	3500+税
調理のためのベーシックデータ	女子栄養大調理学研究室 監修	女子栄養大出版部	978-4789503259	2,200（税込）

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における栄養士（3年），管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院における実務経験を活かし，傷病者に対する実践的な栄養食事療法および栄養食事指導について指導します。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．栄養診断，PES報告に基づいた栄養ケア計画を提案できる。	栄養診断を選択し，PES報告に基づいた栄養介入計画について根拠に基づいて述べることができる。	栄養診断を選択し，PES報告に基づいた栄養介入計画について述べることができる。	栄養診断を選択し，PES報告に基づいた栄養介入計画の提案ができる。	栄養診断は選択できるが，PES報告の記載はできない。	栄養診断を選択できない。
思考・問題解決能力	2．栄養介入計画に基づいた個別栄養指導を立案できる。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいており、エビデンスに基づく内容である。かつ，行動変容を可能にする内容である。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいており，エビデンスに基づく内容である。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいており，患者の背景に基づいた動機づけができている。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいているが，動機づけができていない。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいていない。
思考・問題解決能力	3．他専門職種との連携について説明できる。	多職種連携について理解し，どのような場面でどのような職種と連携をとるか説明できる。	多職種連携について理解し，説明できる。	多職種連携について理解し，自分の言葉で述べることができる。	多職種連携について理解している。	多職種連携がなにか理解できていない。
技能	1．一般治療食から病態に応じた献立の展開ができる。	展開食を理解し，病態に応じた栄養目標量を遵守している。また，調理従事者や喫食者に配慮した展開食となっている。	展開食を理解し，病態に応じた栄養目標量を遵守している。また，喫食者に配慮した展開食となっている。	展開食を理解し，病態に応じた栄養目標量を遵守している。	展開食を理解しているが栄養目標量が遵守できていない。	展開食が理解できていない。
技能	2．アセスメントに基づいた個別模擬栄養指導が実践できる。	患者の行動変容が期待できる内容の指導計画および模擬指導である。	患者の理解を助ける計画内容および模擬指導である。	アセスメントに基づいた計画内容および指導である。	アセスメントに基づいた指導とはいえない。	アセスメントの内容が症例に合致していない。
態度	1．主体的に課題に取り組んでいる。	課題について十分に理解し、他人に説明できる。	自ら進んで調べながら課題に取り組むことができる。	理解にあいまいな点があるが課題に取り組むことができる。	他者から教えてもらいながら課題に取り組むことができる。	他者からのアドバイスがあっても自発的に課題に取り組むことができない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅱ 2クラス(隔週)			授業番号	NP305B	サブタイトル			
教員	吉川 愛子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	各疾患の症例に対し栄養状態の評価を行い，栄養診断に基づいた栄養ケアプランを作成する。また，ケアプランに基づいた個別指導計画を立案し，臨床の現場を想定した模擬指導を行う。								
到達目標	・栄養診断、PES報告に基づいた栄養介入計画を提案できる ・栄養介入計画に基づいた個別栄養指導を立案し，実践できる ・一般食から病態に応じた献立の展開ができる ・他専門職種との連携について説明できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1-2回 慢性腎臓病の栄養管理（1） ・たんぱく質コントロール食の食品の選択や調理法について学ぶ ・腎臓病食品交換表を使って，たんぱく質コントロール食に展開する 3-4回 慢性腎臓病の栄養管理（2） ・腎臓病の病態や食事療法を学び，慢性腎臓病症例の栄養ケア計画を立案する 5-6回 透析の栄養管理、たんぱく質コントロール食の調理 ・透析治療における食事療法を学び，透析症例の栄養ケア計画を立案する ・展開したたんぱく質コントロール食の調理を行い，低たんぱく質食品や高エネルギー食品の特徴を学ぶ 7-8回 低栄養・褥瘡の栄養管理， 個別栄養指導計画作成と準備 ・低栄養・褥瘡の病態や食事療法を学び，低栄養・褥瘡症例の栄養ケア計画を立案する ・腎臓病症例の栄養指導計画の立案と模擬指導に向けた準備を行う 9−10回 個別栄養指導の実践（模擬指導） ・模擬指導を行い，栄養指導報告書の記載方法を学ぶ 11-12回 摂食・嚥下機能障害の栄養管理 ・介護保険制度における栄養管理に基づいた摂食・嚥下機能障害の栄養ケア計画を立案する 13-14回 個別栄養指導計画作成と準備 ・対象疾患のアセスメントを行い，問題点の抽出，栄養診断，栄養介入計画を考え，計画に則った指導案を作成する ・模擬指導に向けた準備を行う 15回 模擬指導（ロールプレイング）と栄養指導報告書の記入								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	グループワークにおける積極的な発言や授業態度，発表内容，質疑などにより評価する。
レポート	40	症例の病態を理解し，適切な栄養ケア計画が立案できているかその根拠を説明できるているか評価する。 提出されたレポートについては，コメントを記入して返却する。
その他：模擬指導	40	対象者の病態や食生活を踏まえた個別栄養指導計画となっているか，また，模擬指導の内容が対象者の栄養上の問題を解決しうる内容となっているかについて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各疾患に応じた栄養管理法に基づいて，栄養アセスメント，栄養診断，栄養ケア計画を作成し，実施までを理解した上で受講すること。各事例に応じて，栄養ケアマネジメントの実践および教育媒体の作成やコミュニケーション法についてロールプレイを通じて学ぶため，栄養教育について復習が必要である。
授業外学修	1，授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。 2，授業中の記録用紙に記入し，期日までに提出する。 3，授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2,700円+税
腎臓病交換表	黒川清監修	医歯薬出版	978-4-263706749	1,500＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編	本田佳子編	羊土社	978-4-7581-0883-6	2800円+税
栄養管理プロセス	木戸康博 他 編	第一出版	978-4-8041-1385-2	3500+税
調理のためのベーシックデータ	女子栄養大調理学研究室 監修	女子栄養大出版部	978-4789503259	2,200（税込）

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における栄養士（3年），管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院における実務経験を活かし，傷病者に対する実践的な栄養食事療法および栄養食事指導について指導します。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．栄養診断，PES報告に基づいた栄養ケア計画を提案できる。	栄養診断を選択し，PES報告に基づいた栄養介入計画について根拠に基づいて述べることができる。	栄養診断を選択し，PES報告に基づいた栄養介入計画について述べることができる。	栄養診断を選択し，PES報告に基づいた栄養介入計画の提案ができる。	栄養診断は選択できるが，PES報告の記載はできない。	栄養診断を選択できない。
思考・問題解決能力	2．栄養介入計画に基づいた個別栄養指導を立案できる。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいており、エビデンスに基づく内容である。かつ，行動変容を可能にする内容である。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいており，エビデンスに基づく内容である。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいており，患者の背景に基づいた動機づけができている。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいているが，動機づけができていない。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいていない。
思考・問題解決能力	3．他専門職種との連携について説明できる。	多職種連携について理解し，どのような場面でどのような職種と連携をとるか説明できる。	多職種連携について理解し，説明できる。	多職種連携について理解し，自分の言葉で述べることができる。	多職種連携について理解している。	多職種連携がなにか理解できていない。
技能	1．一般治療食から病態に応じた献立の展開ができる。	展開食を理解し，病態に応じた栄養目標量を遵守している。また，調理従事者や喫食者に配慮した展開食となっている。	展開食を理解し，病態に応じた栄養目標量を遵守している。また，喫食者に配慮した展開食となっている。	展開食を理解し，病態に応じた栄養目標量を遵守している。	展開食を理解しているが栄養目標量が遵守できていない。	展開食が理解できていない。
技能	2．アセスメントに基づいた個別模擬栄養指導が実践できる。	患者の行動変容が期待できる内容の指導計画および模擬指導である。	患者の理解を助ける計画内容および模擬指導である。	アセスメントに基づいた計画内容および指導である。	アセスメントに基づいた指導とはいえない。	アセスメントの内容が症例に合致していない。
態度	1．主体的に課題に取り組んでいる。	課題について十分に理解し、他人に説明できる。	自ら進んで調べながら課題に取り組むことができる。	理解にあいまいな点があるが課題に取り組むことができる。	他者から教えてもらいながら課題に取り組むことができる。	他者からのアドバイスがあっても自発的に課題に取り組むことができない。

科目名	栄養マネジメント			授業番号	NP306	サブタイトル			
教員	小野　尚美、森光　大、石井　恭子、市川　和子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	栄養マネジメントでは，臨床栄養学総論，臨床栄養学各論，臨床栄養学実習で学修した知識をもとに，傷病者の病態や栄養状態に基づいた適切な栄養ケアマネジメント（栄養管理プロセス）について学ぶ。前半は栄養ケアマネジメントをするために必要な知識（スクリーニングの仕方，情報の収集と評価，栄養診断，栄養素量等の設定方法等）について講義する。後半は，各疾患の症例に対する栄養ケアマネジメントについて講義する。								
到達目標	・栄養ケアマネジメント，栄養管理プロセスについて説明できる。 ・栄養スクリーニング，栄養アセスメントができる。 ・症例に対する栄養診断ができる。 ・栄養ケア計画を作成できる。 ・栄養ケア記録にSOAPに基づいた記録ができる 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養ケアマネジメント（栄養管理プロセス）の概要 「栄養ケアマネジメント」、「栄養管理プロセス」による栄養管理の一連の過程を理解する。	小野尚美
第2回	栄養スクリーニングの実際(1)栄養スクリーニング法の比較 種々のスクリーニングツールについて理解する。	小野尚美
第3回	栄養スクリーニングの実際(2)症例を用いた栄養スクリーニング 症例を用いて、種々のスクリーニングツールによる栄養状態の評価方法を理解する。	小野尚美
第4回	栄養アセスメント 栄養アセスメントの項目について知り、栄養状態の評価方法について理解する。	小野尚美
第5回	栄養状態の判定（栄養診断） 症例を通して、栄養診断の方法を理解する。	小野尚美
第6回	栄養ケア計画の作成(1)目標量の設定方法（エネルギー，たんぱく質） エネルギー量、たんぱく質量の算出方法について理解する。	小野尚美
第7回	栄養ケア計画の作成(2)目標量の設定方法（炭水化物，脂質，水分他） 炭水化物量、脂質量、水分量等の算出方法を理解する。	小野尚美
第8回	糖尿病患者の栄養ケアマネジメント 糖尿病患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	市川和子
第9回	脂質異常症患者の栄養ケアマネジメント 脂質異常症患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	市川和子
第10回	高血圧症患者の栄養ケアマネジメント 高血圧症患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	市川和子
第11回	腎疾患患者の栄養ケアマネジメント 腎疾患患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	市川和子
第12回	高齢者の栄養ケアマネジメント 高齢者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	石井恭子
第13回	低栄養患者の栄養ケアマネジメント 低栄養患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	森光　大
第14回	摂食嚥下障害患者の栄養ケアマネジメント 摂食嚥下障害患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	石井恭子
第15回	褥瘡患者の栄養ケアマネジメント 褥瘡患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	森光　大
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，レポートの提出状況によって評価する
レポート	50	課題について，正しく記載されているかを評価する
小テスト	30	理解度を評価する
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・事前に示す疾患等について十分に学習し授業に臨むこと。
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業の中で指示された課題等に取り組む。 ・授業中に配布されたプリントやテキストを読み返し，ポイントを整理しておく。 以上の内容を週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 基礎編 改訂第2版	本田佳子 他 編	羊土社	978-4-7581-0882-9	2，700円＋税
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版	本田佳子 他 編	羊土社	978-4-7581-0883-6	2，800円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和6年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	施設の実習指導者(石井 恭子)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が管理栄養士に必要な能力を身につけるため高齢者福祉施設の現場の実習指導者の指導の下，高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ，他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画及び栄養指導・支援ができる技能を修得することができる。(石井 恭子)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．栄養ケアマネジメント、栄養管理プロセスについて説明ができる。	栄養ケアマネジメント、栄養管理プロセスの違いを明らかにしながら説明できる。	栄養ケアマネジメント、栄養管理プロセスについて理解ができており、説明ができる。	栄養ケアマネジメント、栄養管理プロセスについて理解できている。	栄養ケアマネジメント、栄養管理プロセスについて大まかに理解できている。	栄養ケアマネジメント、栄養管理プロセスについて理解が不十分である。
思考・問題解決能力	２．栄養ケア計画を作成できる。	他職種との連携も考慮し、栄養ケア計画を考えることができる。	栄養教育を含めた栄養ケア計画を考えることができる。	栄養補給を中心とした栄養ケア計画を考えることができる。	栄養補給量の計算方法がわかる。	栄養補給量の算出方法が理解できていない。
技能	１．栄養スクリーニング、栄養アセスメントができる。	症例の栄養アセスメントができる。	症例の栄養スクリーニングができる。	栄養アセスメントの項目について説明ができる。	栄養スクリーニング、栄養アセスメントについて説明できる。	栄養スクリーニング、栄養アセスメントについて理解が不十分である。
技能	２．症例に対する栄養診断ができる。	栄養アセスメントを行い、適切な栄養診断ができ、その根拠についての説明ができる。	栄養アセスメントを行い、栄養診断を２，３項目まで絞ることができる。	栄養診断の項目について理解ができている。	栄養診断の項目を知っている。	栄養診断の項目が理解できていない。
技能	３．栄養ケア記録にSOAPに基づいた記録ができる。	わかりやすく適切な記録ができる。	SOAPに分け、記録ができる。	情報の内容を適切にSOAPに分類できる。	SOAPに対応する内容がわかる。	SOAPの理解が不十分である。

科目名	公衆栄養学Ⅰ			授業番号	NQ301	サブタイトル			
教員	辻本　美由喜								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	公衆栄養学は，人間集団を対象とする学問であり，公衆栄養活動という実践を伴う学問である。そこで，地域や職域での健康・栄養問題と実践されている公衆栄養活動を知り，栄養政策を知る。								
到達目標	（1）公衆栄養学の概念を知るために，健康・栄養問題の現状と課題について学び，栄養政策を理解できるようになる。 （2）現在展開されている公衆栄養活動の実際を理解するために，その根拠となっている健康増進関係の法律や地方計画について学び，健康づくりにおける行政栄養士の役割を理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	公衆栄養の概念 公衆栄養の意義と目的，生態系と食料・栄養，コミュニティ，公衆栄養活動を理解する。	
第2回	公衆栄養活動（1） 公衆栄養活動の歴，少子・高齢社会における健康増進を理解する。	
第3回	公衆栄養活動（2） 疾病予防やヘルスプロモーションのための公衆栄養活動，住民参加，ソーシャルキャピタルを理解する。	
第4回	健康・栄養問題の現状と課題（1）食事の変化 エネルギー・栄養素摂取量，食品群別摂取量，料理・食事のパターンの変化を理解する。	
第5回	健康・栄養問題の現状と課題（2）食生活の変化 食行動や食知識，食態度，食スキルの変化を理解する。	
第6回	健康・栄養問題の現状と課題（3）食環境の変化 食品生産・流通面，食情報の提供，保健・健康を目的とした食事・食環境の提供，食料需給表，食料需給率を理解する。	
第7回	健康・栄養問題の現状と課題（4）諸外国の健康・栄養問題の現状と課題 開発途上国の健康・栄養問題，先進国の健康・栄養問題を理解する。	
第8回	栄養政策（1）わが国の公衆栄養活動 健康づくり施策と公衆栄養活動の役割，公衆栄養活動と組織・人材育成を理解する。	
第9回	栄養政策（2）公衆栄養関係法規 地域保健法，健康増進法，食育基本法他の主な法律を理解する。	
第10回	栄養政策（3）管理栄養士・栄養士制度と職業倫理 栄養士法，管理栄養士・栄養士の社会的役割，管理栄養士・栄養士の沿革，職業倫理を理解する。	
第11回	栄養政策（4）国民健康・栄養調査 調査の目的，沿革，方法，内容，方法を理解する。	
第12回	栄養政策（5）実施に関連する指針・ツール 食生活指針，食事バランスガイドを理解する。	
第13回	栄養政策（6）国の健康増進の基本方針と地方計画 基本方針の推進と地方健康増進計画を理解する。	
第14回	栄養政策（6）食育推進基本計画 食育推進基本計画の目的，内容，推進方法，地方食育推進計画を理解する。	
第15回	栄養政策（7）諸外国の健康・栄養政策 国際的な栄養行政組織，諸外国の公衆栄養関連計画等を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	意欲的な学習態度や毎回行う予習と復習テストにより評価する。
レポート	10	課題を具体的に述べ，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。
小テスト	15	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	（1）「公衆衛生学」,「栄養学」,「食品学」等の基礎分野の理解を深めておく。 （2）公衆栄養に関する新聞記事等を関心を持って読む。
授業外学修	（1）授業の初めに予習に関するテストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおく。 （2）前回授業内容に関する復習テストを行うので，2時間以上復習をしておく。 （3）随時出す課題については，教科書以外の知見についても広く集め，考察したレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂カレント公衆栄養学第2版	由田克士・荒井裕介	建帛社	978-4-7679-0684-3	2，700円
使用テキスト：自由記載	『日本人の食事摂取基準』（2020年版）第1出版			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『国民栄養の現状』医学基盤・健康・栄養情報研究会編　第1出版 『国民衛生の動向』財団法人厚生労働統計協会編　発行 『栄養調理六法』栄養調理関係法令研究会編　　新日本法規			
その他				
備考	令和5年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	健康推進関係課長（2年），社会福祉協議会事務局長（1年），養護老人ホーム施設長（1年）等の管理職，行政管理栄養士（31年）と学校給食管理栄養士（3年），健康運動実践指導者（22年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	健康推進関係課長（2年）行政管理栄養士（31年）健康運動実践指導者（２２年）の職務経験から，公衆栄養活動の実際や栄養政策の進め方や地方計画の策定方法，また，社会福祉協議会事務局長（1年）と養護老人ホーム施設長（1年）学校給食（3年）の管理栄養士の経験の経験から多職種連携と協働などによる地域の健康づくりについて，具体的な事例を交えて，住民の健康・栄養問題を効果的に解決する能力を確保できるように授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．公衆栄養の概念や考え方が理解できている。	学修した公衆栄養の概念や考え方について正確に理解し述べることができる。	学修した公衆栄養の概念や考え方について、正確ではないがほぼ理解し,述べることができる。	学修した公衆栄養の概念と考え方について、大体述べることができる。	学修した公衆栄養の概念と考え方について、正確に述べることはできないが、自分の言葉で表現できる。	学修した公衆栄養の概念や考え方について、全く表現することができない。
知識・理解	"2．健康・栄養問題の現状と課題が理解できている。"	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、正確に述べることができる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、正確ではないがほぼ理解し,述べることができる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、大体述べることができる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、正確に述べることはできないが、自分の言葉で表現できる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、全く言葉で表現できない。
知識・理解	3．栄養政策が理解できている。	栄養政策について、完璧に述べることができる。	栄養政策について、完璧ではないがほぼ理解し,述べることができる。	栄養政策について、ほぼ述べることができる。	栄養政策について、正確に述べることはできないが、自分の言葉で表現できる。	栄養政策について、全く言葉で表現できない。
思考・問題解決能力	1．課題解決のための公衆栄養活動を考えることができる。	課題解決のための論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題解決のためのほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、不十分ではあるが意見を述べることができる。	課題を作成したが、意見を述べることができない。

科目名	公衆栄養学Ⅱ			授業番号	NQ302	サブタイトル			
教員	栄養A								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	栄養疫学の意義や公衆栄養マネージメントの考え方を学び，地域で展開されている公衆栄養活動の展開を理解する。								
到達目標	（1）公衆栄養マネージメントの基本的な考え方を理解するために，公衆栄養のアセスメントの目的や方法について学び，栄養疫学の意義を理解できるようになる。 （2）総合的な視野から公衆栄養活動ができる力を養うために，公衆栄養マネージメントの方法を学び、様々な公衆栄養プログラムによる展開の重要性を理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	栄養疫学（1）栄養疫学の概要 栄養疫学の学問分野，役割，公衆栄養活動への応用を理解する。	
第2回	栄養疫学（2）暴露情報としての食事摂取量 食物と栄養素，食事摂取量の個人内変動と個人間変動，日常的な食事摂取量を理解する。	
第3回	栄養疫学（3）食事摂取量の測定方法 食事記録法と24時間思い出し法，食物摂取頻度調査法と妥当性・再現性，食事摂取量を反映する身体計測値，生化学的指標を理解する。	
第4回	栄養疫学（4）食事摂取量の評価方法 食事調査と食事摂取基準，総エネルギー調整栄養素摂取量，データ処理と解析を理解する。	
第5回	公衆栄養マネージメント（1）公衆栄養マネジメントとアセスメント 地域診断，公衆栄養マネジメントの考え方と過程，公衆栄養アセスメントの目的と方法，食事摂取基準の地域集団への活用，量的調査と質的調査の意義，観察法と活用，質問調査の方法と活用，既存資料の活用と留意点，健康・栄養情報の収集と管理を理解する。	
第6回	公衆栄養マネージメント（2）公衆栄養プログラムの目標設定 改善課題の抽出，課題設定の目的と相互の関連，改善目標の設定，目標設定の優先順位を理解する。	
第7回	公衆栄養マネージメント（3）公衆栄養プログラムの計画，実施，評価 地域社会資源，運営面政策面のアセスメント，計画策定，住民参加，関係者・機関の役割，評価の意義と実際を理解する。	
第8回	公衆栄養プログラムの展開（1）地域特性に対応したプログラムの展開：健康づくりと食育 地域社会の健康づくり，企業・団体・自治体による健康づくり，食育の推進を理解する。	
第9回	公衆栄養プログラムの展開（2）地域特性に対応したプログラムの展開：在宅療養，介護支援 介護保険制度，地域支援事業，地域包括ケアシステム，栄養ケアステーションについて理解する。	
第10回	公衆栄養プログラムの展開（3）地域特性に対応したプログラムの展開：健康食生活の危機管理と食支援 自然災害における栄養・食生活支援を理解する。	
第11回	公衆栄養プログラムの展開（4）食環境づくりのためのプログラムの展開：食物・食情報へのアクセス 食物・食情報へのアクセスと食環境整備栄養成分表示の活用を理解する。	
第12回	公衆栄養プログラムの展開（5）食環境づくりのためのプログラムの展開：特別用途食品・保健機能食品の活用 特別用途食品，特定保健機能食品，栄養機能食品，「健康な食事」の普及啓発を理解する。	
第13回	公衆栄養プログラムの展開（6）地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健対策と公衆栄養プログラム 母子保健法に基づく事業，健やか親子２１を理解する。	
第14回	公衆栄養プログラムの展開（7）地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健事業と成長期の公衆栄養プログラム 市町村保健センターでの事業やボランティア，保育所との連携，学校給食・栄養教諭・学校での食育を理解する。	
第15回	公衆栄養プログラムの展開（8）地域集団の特性別プログラムの展開：成人期・高齢期の公衆栄養プログラム 成人期や高齢期の食生活の現状と課題，生活習慣病ハイリスク集団への対策，標準的な健診・保健指導プログラムを理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	意欲的な学習態度や毎回行う予習・復習テストにより評価する。
レポート	10	課題を具体的に述べ，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。
小テスト	15	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	（1）「公衆衛生学」,「栄養学」,「食品学」,「栄養教育論」,「応用栄養学の栄養マネージメント」等の理解を深めておく。 （2）公衆栄養に関する新聞記事等に関心を持ち読む。
授業外学修	（1）授業の初めに予習に関する小テストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおく。 （2）前回授業内容に関する復習テストも行うので，2時間以上復習をしておく。 （3）随時授業終了時に出す課題については，教科書以外の知見についても広く集め，考察したレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
カレント公衆栄養学　改訂	由田克士・荒井裕介	建帛社	978-4-7679-0684 -3	2，700円
使用テキスト：自由記載	『日本人の食事摂取基準』（2020年版）第1出版			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『はじめて学ぶやさしい疫学』日本疫学会監修　南江堂 『データ栄養学のすすめ』佐々木敏　著　女子栄養大学出版部			
その他				
備考	令和5年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	健康推進関係課長（2年），社会福祉協議会事務局長（1年），養護老人ホーム施設長（1年）等の管理職，行政管理栄養士（31年）と学校給食管理栄養士（3年），健康運動実践指導者（22年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	健康推進関係課長（2年），行政管理栄養士（31年），健康運動実践指導者（22年）の職務経験から、公衆栄養アセスメントの実際と栄養政策の進め方について，また，養護老人ホーム施設長（1年），社会福祉協議会事務局長（1年）と学校給食管理栄養士（3年）の経験から，地域での公衆栄養プログラムについて具体的な事例を交え、公衆栄養プログラムによるマネジメントの重要性について理解を深めることができるように授業進行する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている

科目名	公衆栄養学実習Ⅰ 1クラス(隔週)			授業番号	NQ303A	サブタイトル			
教員	栄養A								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	公衆栄養活動において，健康増進計画や食育推進計画の策定と関連プログラムの企画，立案，評価を，他職種と連携しながら取り組むことが求められている。公衆栄養活動で求められる知識や技術を実習を通して修得し，公衆栄養活動のマネージメント能力を養う。								
到達目標	（1）公衆栄養上の課題を抽出するために，ワークショップや指導媒体の作成などにより，解決方法を考えることができる。 （2）個人，集団の栄養状態の分析，評価，指導計画を作成する力をつけるために食事調査を行い，指導することができる。 （3）公衆栄養マネージメント能力を培うために，調理実習やヘルスチェックなどにより，食事・運動・休養のとり方を考え，一人一人が健康的な生活を送ることができる。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，（知識・理解）（思考・問題解決能力）（技能）の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象 (1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。 (2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。	
第2回	地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象 (1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。 (2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。	
第3回	公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理 (1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体， 非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。 (2)食事調査の重量測定と意義を理解する。	
第4回	公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理 (1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体， 非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。 (2)食事調査の重量測定と意義を理解する。	
第5回	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査 (1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。 (2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。	
第6回	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査 (1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。 (2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。	
第7回	公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査 (1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。 (2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。	
第8回	公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査 (1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。 (2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。	
第9回	健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定 (1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。 (2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。 (3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。	
第10回	健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定 (1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。 (2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。 (3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。	
第11回	公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導 (1)計画立案のプロセスを理解する。 (2)健康づり，食育，介護支援の展開を理解する。 (3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。 (4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。	
第12回	公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導 (1)計画立案のプロセスを理解する。 (2)健康づり，食育，介護支援の展開を理解する。 (3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。 (4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。	
第13回	地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策 (1)日本人の食事摂取基準（2020年版）による集団の評価と集団指導を理解する。 (2)学校保健対策の媒体活用を理解する。 (3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。	
第14回	地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策 (1)日本人の食事摂取基準（2020年版）による集団の評価と集団指導を理解する。 (2)学校保健対策の媒体活用を理解する。 (3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。	
第15回	岡山県南部健康づりセンターにてヘルスチェックの体験 (1)公衆栄養の実際を経験し，ヘルスチェックの意義を理解する。 (2)問診票を適切に記入し完成する。 (3)自らの生活を見直し，健康的な生活を実践できる。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	実習等への意欲的な学習態度とファイルの適切な活用，毎回行う予習・復習テストにより評価する。
レポート	40	課題を適切に作成し，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。
小テスト	15	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「公衆栄養学」,「公衆衛生学」,「食品学」,「栄養学」等の基礎分野の理解を深めておく。
授業外学修	（１）授業の初めに予習に関する小テストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 （２）前回授業に関する復習テストも行うので，2時間以上復習をしておくこと。 （３）随時出す課題について，レポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆栄養学実習　改訂	手島哲子，田中久子	同文書院	978-4-8103-1455-7	2，000円
使用テキスト：自由記載	『カレント公衆栄養学』改訂　由田克士・荒井裕介　編著，建帛社 『日本人の食事摂取基準』（2020年版）第1出版			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『食事調査マニュアル・はじめの第1歩から実践応用まで』日本栄養改善学会　監修　南山堂			
その他				
備考	令和5年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	健康推進関係課長，社会福祉協議会事務局長，養護老人ホーム施設長等の管理職（4年），行政（31年）と学校給食（3年）の管理栄養士，健康運動実践指導者（22年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	健康づくりセンターの栄養士（実習指導者）			
実務経験をいかした教育内容	健康推進関係課長（2年），社会福祉協議会事務局長（1年），養護老人ホーム施設長（1年）等の管理職（4年），行政管理栄養士（31年）と学校給食管理栄養士（3年），健康運動実践指導者（２２年）の職務経験と具体的な事例を通して、公衆栄養活動で求められる知識や技術を身に着けるために，様々な公衆栄養活動の実習により，授業を展開していく。（担当教員） 健康づくり能力を身に着けるために，実習指導者の下メデイカル，ヘルスチエックを行って健康づくりへの理解を深め，食に関する指導ができる技能を修得させる。（実習指導者）			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている

科目名	公衆栄養学実習Ⅰ 2クラス(隔週)			授業番号	NQ303B	サブタイトル			
教員	栄養A								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	公衆栄養活動において，健康増進計画や食育推進計画の策定と関連プログラムの企画，立案，評価を，他職種と連携しながら取り組むことが求められている。公衆栄養活動で求められる知識や技術を実習を通して修得し，公衆栄養活動のマネージメント能力を養う。								
到達目標	（1）公衆栄養上の課題を抽出するために，ワークショップや指導媒体の作成などにより，解決方法を考えることができる。 （2）個人，集団の栄養状態の分析，評価，指導計画を作成する力をつけるために食事調査を行い，指導することができる。 （3）公衆栄養マネージメント能力を培うために，調理実習やヘルスチェックなどにより，食事・運動・休養のとり方を考え，一人一人が健康的な生活を送ることができる。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，（知識・理解）（思考・問題解決能力）（技能）の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象 (1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。 (2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。	
第2回	地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象 (1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。 (2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。	
第3回	公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理 (1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体， 非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。 (2)食事調査の重量測定と意義を理解する。	
第4回	公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理 (1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体， 非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。 (2)食事調査の重量測定と意義を理解する。	
第5回	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査 (1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。 (2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。	
第6回	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査 (1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。 (2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。	
第7回	公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査 (1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。 (2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。	
第8回	公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査 (1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。 (2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。	
第9回	健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定 (1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。 (2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。 (3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。	
第10回	健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定 (1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。 (2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。 (3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。	
第11回	公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導 (1)計画立案のプロセスを理解する。 (2)健康づり，食育，介護支援の展開を理解する。 (3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。 (4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。	
第12回	公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導 (1)計画立案のプロセスを理解する。 (2)健康づり，食育，介護支援の展開を理解する。 (3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。 (4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。	
第13回	地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策 (1)日本人の食事摂取基準（2020年版）による集団の評価と集団指導を理解する。 (2)学校保健対策の媒体活用を理解する。 (3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。	
第14回	地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策 (1)日本人の食事摂取基準（2020年版）による集団の評価と集団指導を理解する。 (2)学校保健対策の媒体活用を理解する。 (3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。	
第15回	岡山県南部健康づりセンターにてヘルスチェックの体験 (1)公衆栄養の実際を経験し，ヘルスチェックの意義を理解する。 (2)問診票を適切に記入し完成する。 (3)自らの生活を見直し，健康的な生活を実践できる。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	実習等への意欲的な学習態度とファイルの適切な活用，毎回行う予習・復習テストにより評価する。
レポート	40	課題を適切に作成し，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。
小テスト	15	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「公衆栄養学」,「公衆衛生学」,「食品学」,「栄養学」等の基礎分野の理解を深めておく。
授業外学修	（１）授業の初めに予習に関する小テストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 （２）前回授業に関する復習テストも行うので，2時間以上復習をしておくこと。 （３）随時出す課題について，レポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆栄養学実習　改訂	手島哲子，田中久子	同文書院	978-4-8103-1455-7	2，000円
使用テキスト：自由記載	『カレント公衆栄養学』改訂　由田克士・荒井裕介　編著，建帛社 『日本人の食事摂取基準』（2020年版）第1出版			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『食事調査マニュアル・はじめの第1歩から実践応用まで』日本栄養改善学会　監修　南山堂			
その他				
備考	令和5年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	健康推進関係課長，社会福祉協議会事務局長，養護老人ホーム施設長等の管理職（4年），行政（31年）と学校給食（3年）の管理栄養士，健康運動実践指導者（22年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	健康づくりセンターの栄養士（実習指導者）			
実務経験をいかした教育内容	健康推進関係課長（2年），社会福祉協議会事務局長（1年），養護老人ホーム施設長（1年）等の管理職（4年），行政管理栄養士（31年）と学校給食管理栄養士（3年），健康運動実践指導者（２２年）の職務経験と具体的な事例を通して、公衆栄養活動で求められる知識や技術を身に着けるために，様々な公衆栄養活動の実習により，授業を展開していく。（担当教員） 健康づくり能力を身に着けるために，実習指導者の下メデイカル，ヘルスチエックを行って健康づくりへの理解を深め，食に関する指導ができる技能を修得させる。（実習指導者）			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている

科目名	給食経営管理論 I			授業番号	NR201	サブタイトル			
教員	北島 葉子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論では，特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために，給食運営や関連の資源を判断し，栄養面，安全面，経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また，マーケティングの原理や応用を理解するとともに，組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。 Iにおいては，基礎的な学修並びに食事の計画・生産・サービスといった献立管理，材料管理，生産管理，栄養食事管理や安全な食事を提供するための衛生管理など給食サービス提供に関する知識と技術を学ぶ。また，給食の有用性としてどのような製品をつくり，サービスするか，どのように効率的につくるかの仕組みを計画しマネジメントを行うことや安全のための労務・衛生・危機管理などトータルマネジメントを行うための知識と技術を学ぶ。								
到達目標	(1)管理栄養士業務の意義と重要性を認識し，特定給食施設における，利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる。 (2)衛生管理について十分に理解できる。 (3)マーケティングの原理や応用を理解するとともに，給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。 (4)給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し，分析しコストの計画と評価ができる。 (5)管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	給食経営管理の理論：給食の目的と役割，給食施設の種類と関連法規，給食施設の経営理念と組織	
第2回	給食システム：給食経営管理におけるシステムの概要 情報管理：給食施設で活用されてる情報管理システム，帳票の種類と管理	
第3回	給食システム：オペレーションシステムと資源の活用	
第4回	栄養・食事管理：栄養食事管理とPDCAサイクル	
第5回	献立管理：献立作成基準と食品構成，日本人の食事摂取基準，献立作成，作業指示書の役割，献立の評価	
第6回	施設・設備管理：作業動線とゾーニング，大量調理機器の種類と特徴，食器・食具	
第7回	材料管理：給食の食材料の特徴，購入業者の選定方法と契約方法，購入計画，食材料の保管方法	
第8回	衛生管理：衛生管理の意義，食中毒と感染症の特徴，食中毒発生時の対応，HACCPの概要	
第9回	衛生管理：大量調理施設衛生管理マニュアル	
第10回	生産管理：大量調理の方法と技術，配膳方法，作業管理	
第11回	給食とマーケティング：マーケティングの定義・基本プロセス・戦略	
第12回	人事管理：給食施設・部門の組織，雇用形態，能力開発	
第13回	原価管理：給食の原価，財務帳表	
第14回	原価管理：費用分析	
第15回	品質管理：設計品質と適合品質，総合品質と満足度，品質と標準化 危機管理：事故対策・自然災害対策と対応 外部委託：契約の種類と概要，施設別の委託状況と関連法規	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論のみならず，理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため，積極的に取り組み理解を深めること。また，本科目は他教科と多くの部分で重なり，応用の部分を担っているため，各教科と関連づけて学修すること。
授業外学修	(1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し，予習をしておくこと。 (2)毎回授業終了時に小テストを行い，次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。 (3)3年生の給食管理実習Ⅰで提供する給食を試食し，給食経営管理について理解を深めること。 (4)日常の出来事，給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち，幅広い視点で「食」をとらえられるように心がける。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
給食経営管理論　給食と給食経営管理における関連項目の総合的理解	市川陽子／神田知子　編	医歯薬出版		3，000円＋税
管理栄養士　栄養士　必携　2024年度版	日本栄養士会　編	第一出版		2，600円＋税
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子　他	医歯薬出版		2，100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	「給食経営管理論　改訂第3版」，石田裕美／登坂三紀夫／髙橋李子　編集，南江堂 「給食経営管理論　新しい時代のフードサービスとマネジメント　第5版」，中山玲子，小切間美保　編，化学同人 「給食経営管理論　給食のトータルマネジメント　第4版」，富岡和夫／富田教代　編著，医歯薬出版株式会社			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて十分に理解できている。	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて理解できている。	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて基本は理解できている。	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。
知識・理解	２．衛生管理について十分に理解できる	衛生管理について十分に理解できている。	衛生管理について理解できている。	衛生管理について基本は理解できている。	衛生管理についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	衛生管理についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。
知識・理解	３．マーケティングの原理や応用を理解するとともに、給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する	マーケティングの原理や応用を十分に理解することができている。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても十分に理解することができ、修得することができている。	マーケティングの原理や応用を理解することができている。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても理解することができ、修得することができている。	マーケティングの原理や応用の基本は理解することができている。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても理解することができ、修得することができている。	マーケティングの原理や応用についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても理解に努めているが、理解できていない部分があり、修得度が低い。	マーケティングの原理や応用についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても知識の獲得に取り組んでおらず、修得できていない。
知識・理解	４．給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価ができる	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価が十分にでき、実践に役立つことができるレベルである。	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価が十分にできている。	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について基本は理解し、分析しコストの計画と評価ができている。	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について知識の獲得に取り組んでいるが、理解に欠けることがあり、分析しコストの計画と評価ができていない部分がある。	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について知識の獲得に取り組んでおらず、分析しコストの計画と評価ができていない。
知識・理解	５．管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について理解できる	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について十分に理解できている。	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について理解できている。	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について基本は理解できている。	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。

科目名	給食経営管理論Ⅱ			授業番号	NR302	サブタイトル			
教員	北島 葉子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論では，特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために，給食運営や関連の資源を判断し，栄養面，安全面，経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また，マーケティングの原理や応用を理解するとともに，組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。 IIにおいては，医療施設，高齢者・介護福祉施設，児童福祉施設，障がい者福祉施設，学校，事業所等の特定給食施設ごとの利用者の特徴，給食の目的，関連法規について学修する。それによるサブシステム（献立管理，材料管理，生産管理，栄養食事管理，衛生管理，原価管理，労務管理，危機管理等）および給食のシステム等について施設の種類ごとの特徴をとらえたマネジメントの考え方や方法を学修する。								
到達目標	(1)各種特定給食施設における給食の意義と役割，経営理念と経営形態を説明できる。 (2)各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）を理解できる。 (3)利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画-実施-評価-改善のマネジメントサイクルを理解できる。 (4)各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法を修得する。 (5)各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し，分析しコストの計画と評価ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医療施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第2回	医療施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第3回	医療施設における給食経営管理：入院時食事療養制度と入院時生活療養制度と給食費，給食と栄養教育	
第4回	高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第5回	高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第6回	高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育	
第7回	児童福祉施設，障がい者福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第8回	児童福祉施設，障がい者福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第9回	児童福祉施設，障がい者福祉施設における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育	
第10回	学校における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第11回	学校における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第12回	学校における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育	
第13回	事業所における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第14回	事業所における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第15回	事業所における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験		
その他	80	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論のみならず，理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため，積極的に取り組み理解を深めること。また，本科目は他教科と多くの部分で重なり，応用の部分を担っているため，各教科と関連づけて学修すること。
授業外学修	(1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し，予習をしておくこと。 (2)毎回授業終了時に小テストを行い，次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。 (3)日常の出来事，給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち，幅広い視点で「食」をとらえられるように心がける。 (4)給食経営管理論Ⅰの復習をしておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
給食経営管理論　給食と給食経営管理論における関連項目の総合的理解	市川陽子／神田知子 編	医歯薬出版		3，000円＋税
管理栄養士 栄養士 必携 2023年度版	日本栄養士会 編	第一出版		2，600円＋税
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子 他	医歯薬出版		2，100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「給食経営管理論 改訂第3版」，石田裕美／登坂三紀夫／髙橋李子 編集，南江堂 「給食経営管理論 新しい時代のフードサービスとマネジメント 第5版」，中山玲子，小切間美保 編，化学同人 「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント 第4版」，富岡和夫／富田敦代 編著，医歯薬出版株式会社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態を説明できる	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態について十分に理解しており、説明ができる。	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態について理解しており、説明ができる。	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態について基本は理解しており、説明ができる。	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、説明できていない部分がある。	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、説明できない。
知識・理解	２．各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）を理解できる	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）について十分に理解できている。	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）について理解できている。	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）について基本は理解できている。	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。
知識・理解	３．利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて十分に理解できている。	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて理解できている。	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて基本は理解できている。	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。
知識・理解	４．各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法を修得する	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について十分に理解でき、修得することができている。	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について理解でき、修得することができている。	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について基本は理解でき、修得することができている。	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分があり、修得度が低い。	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について知識の獲得に取り組んでおらず、修得できていない。
知識・理解	５．各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価ができる	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価が十分にでき、実践に役立つことができるレベルである。	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価が十分にできている。	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について基本は理解し、分析しコストの計画と評価ができている。	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について知識の獲得に取り組んでいるが、理解に欠けるとことがあり、分析しコストの計画と評価ができていない部分がある。	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について知識の獲得に取り組んでおらず、分析しコストの計画と評価ができていない。

科目名	給食管理基礎実習 1クラス(隔週)			授業番号	NR303A	サブタイトル			
教員	北島 葉子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論I及び関連科目（栄養学，食品学，衛生学，調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして，特定給食施設の利用者を対象とした食事計画，献立管理，調理作業の計画，施設・設備管理，衛生管理等をPDCAサイクル（計画・実施・評価・改善）に沿って学修する。								
到達目標	(1)食事計画，献立，調理作業計画を作成できる。 (2)大量調理機器の取扱い，大量調理の方法，衛生管理の実際について理解できる。 (3)給食管理業務をPDCAサイクルに沿って実践できる。 (4)給食管理実習Iへ活かす基本内容を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1～2回　HACCPに準じた調理室の使い方，厨房機器の使い方，食器洗浄の仕方と食器の種類や材質の把握 第3～4回　特定給食施設での献立作成の基本，給与栄養目標量の設定，献立作成 第5～6回　献立作成，栄養価計算 第7～8回　試作 第9～10回　献立の検討と決定，栄養価計算，給食日報の作成 第11～12回 大量調理基礎実習，給食日報の作成 第13～14回 大量調理基礎実習，作業工程表の作成 第15回　評価，改善，まとめ，実習ノートを整理し，提出する								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な実習態度によって評価する。
レポート	40	各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が，具体的・理論的に書かれているか，また，実習の内容，得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。レポート等の提出物やファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各回の授業の前に，日程表を確認して，実習内容を把握し，自主学修をして臨むこと。また，この実習は，学生たちが主体となって進めるため，自主的に取り組む姿勢が必要である。
授業外学修	(1)給食経営管理論Ⅰの復習をする。特に，大量調理施設衛生管理マニュアルと日本人の食事摂取基準に則した給与栄養目標量の算出方法について復習しておくこと。 (2)食材の旬，価格，分量などを把握するために必要な情報を収集すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子　他	医歯薬出版		2，100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	「日本人の食事摂取基準（2020年版）」，菱田明／佐々木敏 監修，第一出版 「大量調理　品質管理と調理の実際」，殿塚婦美子 編著，学建書院 「給食施設のための献立作成マニュアル　第9版」，赤羽正之 他著，医歯薬出版株式会社 「給食マネジメント実習　第2班」，松月弘恵 他著，医歯薬出版株式会社 「八訂　食品成分表　2022」，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．食事計画、献立、調理作業計画を作成できる。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節等を考慮した大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画について専門的知識を用いて作成することができており、実践に役立てることができる。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節等を考慮した大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画について専門的知識を用いて作成することができている。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節などを考慮した安全で大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画について基本は理解しており、作成することができている。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節などを考慮した安全で大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画の作成について積極的に取り組んでいるが、足りない部分がある。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節などを考慮した安全で大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画の作成について取り組まず、作成することができていない。
技能	2．大型機器類を使用した大量調理ができる。	大量調理機器の性能・能力を理解しており、料理の種類ごとに、食材料の投入量、調理条件の設定ができ、効率よく時間内に計画どおりの食事を調理することができる。	大量調理機器の性能・能力を理解しており、効率よく時間内に計画どおりの食事を調理することができる。	大量調理機器の性能・能力を理解しており、時間内に計画どおりの食事を調理することができる。	大量調理機器の性能・能力、使い方の把握に努めたり、機器を使用した大量調理に積極的に取り組んでいるが、時間内に計画どおりの食事を調理することができていない。	大量調理機器の性能・能力、使い方の把握に努めず、機器を使用した大量調理にも取り組まず、時間内に計画どおりの食事を調理することができていない。
技能	3．給食に関わる衛生管理の法律と規則を理解し、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた給食の生産、提供ができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を十分に理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法の基本は理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めているが、実施することができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めず、実施することができていない。
技能	4．給食管理業務をPDCAサイクルに沿って実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて十分理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて基本は理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努めているが、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努めず、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。

科目名	給食管理基礎実習 2クラス(隔週)			授業番号	NR303B	サブタイトル			
教員	北島 葉子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論I及び関連科目（栄養学，食品学，衛生学，調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして，特定給食施設の利用者を対象とした食事計画，献立管理，調理作業の計画，施設・設備管理，衛生管理等をPDCAサイクル（計画・実施・評価・改善）に沿って学修する。								
到達目標	(1)食事計画，献立，調理作業計画を作成できる。 (2)大量調理機器の取扱い，大量調理の方法，衛生管理の実際について理解できる。 (3)給食管理業務をPDCAサイクルに沿って実践できる。 (4)給食管理実習Iへ活かす基本内容を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1～2回　HACCPに準じた調理室の使い方，厨房機器の使い方，食器洗浄の仕方と食器の種類や材質の把握 第3～4回　特定給食施設での献立作成の基本，給与栄養目標量の設定，献立作成 第5～6回　献立作成，栄養価計算 第7～8回　試作 第9～10回　献立の検討と決定，栄養価計算，給食日報の作成 第11～12回 大量調理基礎実習，給食日報の作成 第13～14回 大量調理基礎実習，作業工程表の作成 第15回　評価，改善，まとめ，実習ノートを整理し，提出する								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な実習態度によって評価する。
レポート	40	各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が，具体的・理論的に書かれているか，また，実習の内容，得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。レポート等の提出物やファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各回の授業の前に，日程表を確認して，実習内容を把握し，自主学修をして臨むこと。また，この実習は，学生たちが主体となって進めるため，自主的に取り組む姿勢が必要である。
授業外学修	(1)給食経営管理論Ⅰの復習をする。特に，大量調理施設衛生管理マニュアルと日本人の食事摂取基準に則した給与栄養目標量の算出方法について復習しておくこと。 (2)食材の旬，価格，分量などを把握するために必要な情報を収集すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子　他	医歯薬出版		2，100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「日本人の食事摂取基準（2020年版）」，菱田明／佐々木敏 監修，第一出版 「大量調理　品質管理と調理の実際」，殿塚婦美子 編著，学建書院 「給食施設のための献立作成マニュアル　第9版」，赤羽正之 他著，医歯薬出版株式会社 「給食マネジメント実習　第2班」，松月弘恵 他著，医歯薬出版株式会社 「八訂　食品成分表　2022」，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．食事計画、献立、調理作業計画を作成できる。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節等を考慮した大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画について専門的知識を用いて作成することができており、実践に役立てることができる。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節等を考慮した大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画について専門的知識を用いて作成することができている。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節などを考慮した安全で大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画について基本は理解しており、作成することができている。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節などを考慮した安全で大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画の作成について積極的に取り組んでいるが、足りない部分がある。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節などを考慮した安全で大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画の作成について取り組まず、作成することができていない。
技能	2．大型機器類を使用した大量調理ができる。	大量調理機器の性能・能力を理解しており、料理の種類ごとに、食材料の投入量、調理条件の設定ができ、効率よく時間内に計画どおりの食事を調理することができる。	大量調理機器の性能・能力を理解しており、効率よく時間内に計画どおりの食事を調理することができる。	大量調理機器の性能・能力を理解しており、時間内に計画どおりの食事を調理することができる。	大量調理機器の性能・能力、使い方の把握に努めたり、機器を使用した大量調理に積極的に取り組んでいるが、時間内に計画どおりの食事を調理することができていない。	大量調理機器の性能・能力、使い方の把握に努めず、機器を使用した大量調理にも取り組まず、時間内に計画どおりの食事を調理することができていない。
技能	3．給食に関わる衛生管理の法律と規則を理解し、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた給食の生産、提供ができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を十分に理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法の基本は理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めているが、実施することができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めず、実施することができていない。
技能	4．給食管理業務をPDCAサイクルに沿って実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて十分理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて基本は理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努めているが、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努めず、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。

科目名	給食管理実習Ⅰ 1クラス(隔週)			授業番号	NR304A	サブタイトル			
教員	北島 葉子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ，給食管理基礎実習及び関連科目（栄養学，食品学，衛生学，調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして，少人数のグループに分かれ，特定給食施設での給食を想定して学内での模擬給食を実施する。栄養・食事管理，材料管理，生産管理，衛生管理，原価管理，事務管理等，給食管理業務をマネジメントする方法を学修する。								
到達目標	(1)実習計画に基づき各自の給食管理業務を果たしながら，協力，連携，責任の重要性を理解できる。 (2)栄養食事管理，材料管理，生産管理，衛生管理，原価管理等の計画，実施，評価に関わる帳票類の作成ができ，給食業務が遂行できる。 (3)大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理ができる。 (4)給食の管理運営に関する管理栄養士としての実践力を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回　実習の進め方（冊子配布），衛生管理，実習全体の献立・料理について説明，実習室整備を行う。 第2～14回　1クラスを2グループ（4班）に分け，各グループが以下の全部の係（作業）を体験できるように編成する。 1）次回管理栄養士係：次回実施予定献立表を試作・検討し，実施献立を決定する。作業計画，発注業務，栄養教育指導媒体の作成を行う。予定献立については，対象者の給与栄養目標量，食品構成，嗜好，季節，コストを考慮し，事前に作成しておく。 2）管理栄養士係：給食全体について責任を担う。作業手順，要点を説明し，給食を実施する。大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った作業管理を行う。作業後，帳票類の整理，調査結果（喫食者アンケート，残食状況）を集計し，各種計画に対する評価・検討を行う。前日に検収，打合わせを実施する。 3）栄養士係：管理栄養士係と共に給食全体について責任を担う。水質検査，保存食の保存を行い，管理栄養士係と共に作業管理を行う。 4）調理（衛生）係：管理栄養士係の指示に従い，調理，給食サービス，後片づけ（器具の洗浄・消毒，清掃），衛生検査等の作業を行う。作業後，実際に作業した立場からその日の作業について評価を行う。 第15回　発表，まとめ，実習ノートを整理し，提出する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	65	意欲的な実習態度によって評価する。
レポート	35	各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が，具体的・理論的に書かれているか，また，実習の内容，得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。レポート等の提出物やファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習計画に基づき，各自が分担の作業を果たしながら，協力と責任の重要性を学び，給食運営の手順，方法を体得する実習である。事前準備，事後のまとめなど，時間外に実施しなければならないこともあり，意欲的に取り組む姿勢が必要である。
授業外学修	(1)給食経営管理論Ⅰ･Ⅱおよび給食管理基礎実習の復習をする。 (2)給食実施における喫食者アセスメント，給与栄養目標量の設定，献立作成，食材料管理，作業工程表の作成，大量調理，食事提供，施設設備管理，衛生管理，給食評価等のポイントの理解を深めておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営･経営管理実習のてびき第5版	西川眞子　他	医歯薬出版		2，100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	「日本人の食事摂取基準（2020年版）」，菱田明／佐々木敏監修，第一出版 「大量調理　品質管理と調理の実際」，殿塚婦美子編著，学建書院 「給食施設のための献立作成マニュアル　第9版」，赤羽正之他著，医歯薬出版株式会社 「給食マネジメント実習　第2版」，松月弘恵他著，医歯薬出版株式会社			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士･管理栄養士（3年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．実習計画に基づき各自の給食管理業務を果たしながら，協力、連携、責任の重要性を理解できる。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を専門的知識･技術を用いて果たすことができ、同時にグループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性を十分に理解できている。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を専門的知識･技術を用いて果たすことができ、同時にグループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性を理解できている。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を基本的知識･技術を用いて果たすことができ、同時にグループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性についてを理解できている。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を積極的に取り組んでいるが、果たすことができていない部分がある。また、グループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性について理解に欠けている部分がある。	実習計画に基づき各自の給食管理業務に取り組む姿勢はなく、果たすことができていない。また、グループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性について理解できていない。
技能	２．栄養食事管理、材料管理、生産管理、衛生管理、原価管理等の計画、実施、評価に関わる帳票類の作成ができ、給食業務が遂行できる。	各種帳票類について、専門的知識を用いて作成することができており、実践に役立てることができる。	各種帳票類について、専門的知識を用いて作成することができている。	各種帳票類について、基本は理解しており、作成することができている。	各種帳票類の作成について、積極的に取り組んでいるが、足りない部分がある。	各種帳票類の作成について、取り組む姿勢はなく作成することができていない。
技能	３．大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理ができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を十分に理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法の基本は理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めているが、実施することができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めず、実施することができていない。
技能	４．給食の管理運営に関する管理栄養士としての実践力を修得する。	各種管理業務について十分理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	各種管理業務について理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	各種管理業務について基本は理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	各種管理業務について理解に努めているが、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	各種管理業務について理解に努めず、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。

科目名	給食管理実習Ⅰ 2クラス(隔週)			授業番号	NR304B	サブタイトル			
教員	北島 葉子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ，給食管理基礎実習及び関連科目（栄養学，食品学，衛生学，調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして，少人数のグループに分かれ，特定給食施設での給食を想定して学内での模擬給食を実施する。栄養・食事管理，材料管理，生産管理，衛生管理，原価管理，事務管理等，給食管理業務をマネジメントする方法を学修する。								
到達目標	(1)実習計画に基づき各自の給食管理業務を果たしながら，協力，連携，責任の重要性を理解できる。 (2)栄養食事管理，材料管理，生産管理，衛生管理，原価管理等の計画，実施，評価に関わる帳票類の作成ができ，給食業務が遂行できる。 (3)大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理ができる。 (4)給食の管理運営に関する管理栄養士としての実践力を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回　実習の進め方（冊子配布），衛生管理，実習全体の献立・料理について説明，実習室整備を行う。 第2～14回　1クラスを2グループ（4班）に分け，各グループが以下の全部の係（作業）を体験できるように編成する。 1）次回管理栄養士係：次回実施予定献立表を試作・検討し，実施献立を決定する。作業計画，発注業務，栄養教育指導媒体の作成を行う。予定献立については，対象者の給与栄養目標量，食品構成，嗜好，季節，コストを考慮し，事前に作成しておく。 2）管理栄養士係：給食全体について責任を担う。作業手順，要点を説明し，給食を実施する。大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った作業管理を行う。作業後，帳票類の整理，調査結果（喫食者アンケート，残食状況）を集計し，各種計画に対する評価・検討を行う。前日に検収，打合わせを実施する。 3）栄養士係：管理栄養士係と共に給食全体について責任を担う。水質検査，保存食の保存を行い，管理栄養士係と共に作業管理を行う。 4）調理（衛生）係：管理栄養士係の指示に従い，調理，給食サービス，後片づけ（器具の洗浄・消毒，清掃），衛生検査等の作業を行う。作業後，実際に作業した立場からその日の作業について評価を行う。 第15回　発表，まとめ，実習ノートを整理し，提出する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	65	意欲的な実習態度によって評価する。
レポート	35	各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が，具体的・理論的に書かれているか，また，実習の内容，得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。レポート等の提出物やファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習計画に基づき，各自が分担の作業を果たしながら，協力と責任の重要性を学び，給食運営の手順，方法を体得する実習である。事前準備，事後のまとめなど，時間外に実施しなければならないこともあり，意欲的に取り組む姿勢が必要である。
授業外学修	(1)給食経営管理論Ⅰ・Ⅱおよび給食管理基礎実習の復習をする。 (2)給食実施における喫食者アセスメント，給与栄養目標量の設定，献立作成，食材料管理，作業工程表の作成，大量調理，食事提供，施設設備管理，衛生管理，給食評価等のポイントの理解を深めておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川眞子　他	医歯薬出版		2，100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「日本人の食事摂取基準（2020年版）」，菱田明／佐々木敏監修，第一出版 「大量調理　品質管理と調理の実際」，殿塚婦美子編著，学建書院 「給食施設のための献立作成マニュアル　第9版」，赤羽正之他著，医歯薬出版株式会社 「給食マネジメント実習　第2版」，松月弘恵他著，医歯薬出版株式会社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．実習計画に基づき各自の給食管理業務を果たしながら、協力、連携、責任の重要性を理解できる。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を専門的知識・技術を用いて果たすことができ、同時にグループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性を十分に理解できている。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を専門的知識・技術を用いて果たすことができ、同時にグループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性を理解できている。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を基本的知識・技術を用いて果たすことができ、同時にグループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性についてを理解できている。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を積極的に取り組んでいるが、果たすことができていない部分がある。また、グループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性について理解に欠けている部分がある。	実習計画に基づき各自の給食管理業務に取り組む姿勢はなく、果たすことができていない。また、グループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性について理解できていない。
技能	２．栄養食事管理、材料管理、生産管理、衛生管理、原価管理等の計画、実施、評価に関わる帳票類の作成ができ、給食業務が遂行できる。	各種帳票類について、専門的知識を用いて作成することができており、実践に役立てることができる。	各種帳票類について、専門的知識を用いて作成することができている。	各種帳票類について、基本は理解しており、作成することができている。	各種帳票類の作成について、積極的に取り組んでいるが、足りない部分がある。	各種帳票類の作成について、取り組む姿勢はなく作成することができていない。
技能	３．大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理ができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を十分に理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法の基本は理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めているが、実施することができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めず、実施することができていない。
技能	４．給食の管理運営に関する管理栄養士としての実践力を修得する。	各種管理業務について十分理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	各種管理業務について理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	各種管理業務について基本は理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	各種管理業務について理解に努めているが、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	各種管理業務について理解に努めず、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。

科目名	食品流通論			授業番号	NR305	サブタイトル			
教員	大宮 めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	本講義では食品が生産され私たち消費者に届くまでの食品流通システムについて学修する。はじめに現在の食生活の現状について理解し，食品の生産，加工，流通に関わる産業の概要，主要食品の流通システムの特徴について学ぶ。次に，わが国の食料需給の現状，流通過程で発生する課題について理解する。さらに，食品産業におけるマーケティング戦略について学ぶ。								
到達目標	（1）食品流通に関連する基礎的な専門用語を理解する。 （2）わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し，説明する力を身につける。 （3）フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し，その課題解決方法について自ら考察，説明する能力を身につける。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	食品流通論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 食品流通とは何かについて概説し，全体の流れを紹介する。	
第2回	食生活の変化と食の外部化 食品流通をめぐる環境変化や食生活の変化について理解する。	
第3回	食品流通の基礎（1） 流通の社会的役割について理解する。	
第4回	食品流通の基礎（2） 流通の仕組みと機能について理解する。	
第5回	主要食品の流通システム（1） 米の流通システム，流通規制の変遷について理解する。	
第6回	主要食品の流通システム（2） 青果物の流通システムと卸売市場について理解する。	
第7回	主要食品の流通システム（3） 水産物，食肉の流通システムについて理解する。	
第8回	前半のまとめ これまでの学習内容の確認を行う。	
第9回	食料の安全保障と食料自給率 食料自給率低下の背景と食料安全保障について理解する。	
第10回	食料消費の課題（1） 食品産業の概要と食料品アクセス問題について理解する。	
第11回	食料消費の課題（2） 食品ロスの実態について理解する。	
第12回	食料消費と安全（1） 食品表示の機能や情報管理について理解する。	
第13回	食料消費と安全（2） 食品安全行政，食品の安全性確保のための仕組みについて理解する。	
第14回	マーケティングの基礎知識/フードマーケティング マーケティングの手法と食品企業のマーケティングの実際について理解する。	
第15回	全体のまとめ 全体の学習内容の確認を行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	30	中間的な理解度を評価する。
定期試験	50	到達目標に達しているかを最終的に評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義では食料消費や食品流通，食料に関連する今日的課題等を理解し，自らのこととして考え，その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには，「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （2）発展学修として，食品流通など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	資料を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
農産物・食品の市場と流通	日本農業市場学会	筑波書房	978-4-8119-0549-5	2，500円＋税
新版　食料・農産物流通論	藤島廣二ほか	筑波書房	9784811904078	2，500円＋税
フードシステムの経済学	時子山ひろみほか	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70740-1	2，500円＋税

参考書：自由記載	適宜，指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食品流通に関連する基礎的な専門用語を理解している	食品流通に関連する専門用語を正確に理解し、述べることができる。	食品流通に関連する専門用語をほぼ理解し、述べることができる。	食品流通に関連する専門用語を一定程度理解し、大体述べることができる。	食品流通に関する専門用語について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	２．わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し、説明する能力を身につけている	食品流通の構造および食品産業の役割について正しく理解をしており詳細に説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割についてほぼ理解しており、説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割について一定程度理解しており、説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食品流通の構造および食品産業の役割について理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	３．フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し、課題解決方法について自ら考察、説明する能力を身につけている	諸課題について広範囲にわたり正しく理解し、課題解決方法について理論的に説明することができる。	諸課題についてほぼ理解し、課題解決方法について説得力のある考察することができる。	諸課題について一定程度理解し、課題解決方法について説明することができる。	諸課題について理解がやや不十分であり、課題解決方法について説明する力が乏しい。	諸課題について理解できておらず、自らの考えを提示することができない。

科目名	管理栄養士実務演習			授業番号	NS302	サブタイトル			
教員	多田　賢代、小野　尚美、北島　葉子、安原　幹成、木野山　真紀、古川　愛子、山﨑　真未、山縣　綾香、髙坂　由理、児玉　彩、鈴村　里奈、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	臨地実習の内容を十分に知るとともに実習効果を高めるために行う科目であり，事前学習と事後学習に分けて行う。 事前学習では，臨地実習先の施設の状況を十分に知るとともに，そこで実施する課題研究の検討や課題の円滑な実施に向けて事前準備について説明する。また，臨地実習先との円滑なコミュニケーションを図ることができるように心構えや態度について講義する。事後学習では，臨地実習で得た知識や技術，態度をまとめ，報告会に向けて説明する。								
到達目標	・職業人として倫理を身につけ，人権，人格を尊重し行動できるよう支援する。 ・自らが臨地実習で学ぶ課題を選定し，その目的にそった計画。実践ができるよう支援する。 ・臨地実習施設の様々な職種の人とコミュニケーションをはかり，管理栄養士の業務の内容を理解できるよう支援する。。 ・自らが学んだことをまとめ，発表することができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	【事前学習】 第1回　臨地実習の日程，目的，心構えについて 第2回　科目別担当教員による実習の目的と内容の説明 第3回　介護実習（学内） 第4～7回　各科目の実習施設より管理栄養士を招き，管理栄養士の業務について学習する。 第8回　実習先を決定し，グループごとに学習する。 第9回　実習課題の検討 第10回　事前訪問の面談練習 第11回　実習先を訪問し，必要な書類，物品を準備をする。 第12回　実習施設に応じて，献立作成 第14回　実習施設に応じて，栄養教育指導案の作成。 第15回　直前学習，必要な書類，物品を準備をする。 【事後学習】 第1～3回　実習のまとめをして，報告会の準備をする。 第4～5回　報告会								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	積極的な授業態度，発表，報告などにより評価する。
レポート	80	ファイルの内容，整理について評価する。
小テスト	10	常識・漢字テスト等により評価する
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	臨地実習は管理栄養士の働く現場での学習である。この学習を効果的なものにするために授業時間外に準備したり，復習したりすることが多い。そのためにはグループ内で協調することが必要である。コミュニケーション能力と，自主性のある授業参加と受講意識を求める。
授業外学修	1，実習に向けて，実習施設の概要を把握し，授業で学んだことを復習おく。 2，実習に向けて課題を決め，実施計画を考えておく。 3，授業の最後に，小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。 4，授業に関連した項目について記録を取り，必要に応じてレポートを作成し，提出する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨地実習のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 編			
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	あいさつ等の態度や服装等，日常の基本的作法を身に付けておくこと。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	学校，市町村，病院等の管理栄養士			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	学校，市町村，病院等実習施設の管理栄養士			
実務経験をいかした教育内容	臨地実習指導者から現場の管理栄養士業務に関する基本的知識や技術に関して修得させる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	３年前期まで学修した知識や技術をもとに課題について考えることができ、実習後に臨地実習で得られた課題に対する気づきをまとめることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
技能	実践の場である臨地実習において求められる多様な技術において準備ができ、実習後にそれを定着させることができる。	求められる技術を発揮するための準備が的確にでき、その技術を実習後にしっかりと定着させることができる。	求められる技術を発揮するための準備がほぼでき、その技術を実習後に定着させることができる。	求められる技術を発揮するための準備ができ、実習後に技術の定着も十分ではないができる。	求められる技術を発揮するための準備および実習後における技術の定着ともに十分ではない。	求められる技術を発揮するための準備、および実習後の技術の定着ともにできていない。

科目名	総合演習			授業番号	NS401	サブタイトル	(全科目の復習と模擬試験)		
教員	坪井 誠二、多田 賢代、赤木 收二、井之川 仁、小野 尚美、波多江 崇、大桑 浩孝、北島 葉子、橋本 晃子、安原 幹成、木野山 眞紀、古川 愛子								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	4年前期までに学習した全科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，さらに知識と理解を深める。自主学習をグループ別に実施し，グループでの知識の確認を行う。必要に応じて教員による講義を実施し，理解不十分な内容について解説する。模擬試験を定期的に実施し，学習到達度を測るとともに，以後の学習計画のための指標とする。								
到達目標	・管理栄養士資格の修得を目指し，知識を統合し，問題解決能力を高める。 ・自律的に学習の計画を立て継続する力を身につける。 ・課題を設定して，問題点，解決法等を文書としてまとめることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1～15回（全担当者交代） (1)自主学習：栄養ゼナ－IV等のグループ単位で目標を定め，模擬試験や過去問題の解説・見直し等を行う。 (2)自己学習：模擬試験や過去問題の振り返り，教科書や参考書の見直し等を行う。 (3)講義：各教員により，講義内容の再確認，模擬試験の解説等を行う。 (4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き，理解度の指標を得る。								
授業計画 備考2	後期オリエンテーション時に本授業での到達目標、各分野の講義スケジュール、到達目標達成のための本授業での取組などについて説明を行う。								

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
模擬試験		
定期試験	100	管理栄養士としての必要な知識・技能の最終的な理解度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	大学生活の最終年度にあたることを自覚し，目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し，学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し，確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから，欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。
授業外学修	週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
管理栄養士国家試験過去問解説集	管理栄養士国試対策研究会 [編] 著	中央法規出版		3000
管理栄養士国家試験　受験必修キーワード集	女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会	女子栄養大学出版会		3200
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
管理栄養士国家試験の要点	栄養セントラル学院編	中央法規出版		4000
管理栄養士国家試験の傾向と対策	管理栄養士教育研究会 編	南江堂		3800

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．管理栄養士資格取得に向けて、４年前期まで学修した内容について理解している。	管理栄養士資格取得に向けて、４年前期まで学修した内容について、正確に理解し述べることができる。	管理栄養士資格取得に向けて、４年前期まで学修した内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	管理栄養士資格取得に向けて、４年前期まで学修した内容について、大体述べることができる。	管理栄養士資格取得に向けて、４年前期まで学修した内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	管理栄養士資格取得に向けて、４年前期まで学修した内容について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．４年前期まで学修した知識をもとに健康維持について考えることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	給食管理実習Ⅱ			授業番号	NT401	サブタイトル			
教員	北島 葉子、安原 幹成、木野山 真紀								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	特定給食施設（病院，福祉施設，学校，事業所）における給食の運営・管理について必要な専門的知識および献立作成，材料発注，検収作業，食数管理，大量調理，配膳作業などの基本的業務を実際の管理栄養士の指導の下，学修する。								
到達目標	(1)給食運営のPDCAサイクルの実際について理解できる。 (2)実習施設の栄養・給食業務運営の実際を実践的に学ぶ。 (3)給食施設で行われている衛生管理の実際を理解できる。 (4)施設利用者の状況に応じた給食の配慮や工夫，栄養教育の在り方などから施設の特徴を理解し，対象者に対する理解も深める。 (5)給食の運営のサブシステムの管理状況を評価できる。 (6)アクシデント・インシデント管理の意義を理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	●実習施設の選択 給食管理実習IIを履修するにあたり，必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として，下記の特定給食施設のうち，1施設を選択の上，実施とする。 ・病　院　国立病院，大学病院，公立病院，その他の病院 ・福祉施設　特別養護老人ホーム，介護老人保健施設，その他の福祉施設 ・学　校　小・中学校又は給食センター ・事 業 所　工場給食やオフィス給食の社員食堂，配食サービス給食センター等 ●実習内容 具体的な実習計画と内容は，実習施設ごとに異なるが，以下の項目について40時間（5日×8時間）実習する。 ・実習施設の組織と運営の理解 ・施設別給食の特徴と給食の目的の理解 ・給食業務の基本的な流れを把握する ・献立作成について学ぶ ・食材料管理について学ぶ ・作業管理，大量調理（盛り付け，配膳を含む）について学ぶ ・衛生管理について学ぶ ・事務管理について学ぶ ・栄養教育媒体の検討および作成 ・各種調査（残食・嗜好など）実施								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度，実習態度，実習課題，実習内容に対する理解を評価する。
レポート	40	実習・実習課題の内容，得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができているか，また，事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合，修得できているか等を評価する。実習ファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	10	実習に対する取組み姿勢や態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常の業務が行われている管理栄養士・栄養士の職場で実施される実習であるため，社会的常識に則った行動を心がけ，自ら学修すべき課題を発見できる積極的な態度で実習に取り組むこと。実践現場での貴重な体験ができるという意識を維持し，実習に対する明確な目的を持って事前の準備を怠らないこと。
授業外学修	(1)受け入れ実習施設の概要等，その特徴を調べておく。 (2)実習施設での実習内容を十分に把握，認識し，実習先との連絡を行う。 (3)小グループで実習を行う場合は，同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり，十分な打ち合わせ，勉強会等，協力をして準備を進める。 (4)実習に向けて，実習課題のテーマ設定を行い，文献や資料を準備する。 以上の内容は，管理栄養士実務演習とも関連しており，授業の一環でもあるため，各自が計画的に取り組み，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	『実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『Plam-Do-Seeにそった給食管理実習のてびき』，西川眞子 他著，医歯薬出版 『給食経営管理論』，特定非営利活動法人　日本栄養改善学会監修　石田裕美／冨田教代 編，医歯薬出版株式会社 『八訂　食品成分表　2022』，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部 『日本人の食事摂取基準』2020年版，菱田明／佐々木敏　監修，第一出版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	病院，福祉施設，学校，事業所等の管理栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	特定給食施設の実習指導者からの給食経営管理業務に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．給食運営のPDCAサイクルの実際について理解できる	トータルシステムとサブシステムについて十分理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、論理的かつ多角的に考察することができる。	トータルシステムとサブシステムについて理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、ほぼ論理的に考察することができる。	トータルシステムとサブシステムについて基本は理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、自分の考えを述べることができる。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努めているが、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、自分の考えを述べることができていない部分がある。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努め、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、自分の考えを述べることができていない。
思考・問題解決能力	2．実習施設の栄養・給食業務運営の実際を実践的に学ぶ	各種管理業務について十分理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について基本は理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について理解に努めているが、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	各種管理業務について理解に努め、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。
思考・問題解決能力	3．給食施設で行われている衛生管理の実際を理解できる	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理について十分に理解できている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理について理解できている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の基本は理解できている。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の理解に努めているができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の理解に努めていない。
思考・問題解決能力	4．施設利用者の状況に応じた給食の配慮や工夫，栄養教育の在り方などから施設の特徴を理解し，対象者に対する理解も深める	各給食施設の給食の意義・役割を理解しており、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方を十分に説明することができる。	各給食施設の給食の意義・役割を理解しており、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方を説明することができる。	各給食施設の給食の意義・役割を理解しており、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方の基本的なことを説明することができる。	各給食施設の給食の意義・役割について理解に努めているが、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方について説明することができていない部分がある。	各給食施設の給食の意義・役割について理解に努めず、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方について説明することができない。
思考・問題解決能力	5．給食の運営のサブシステムの管理状況を評価できる	給食の運営のサブシステムについて十分理解しており、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要をまとめ、記録、整理し、サブシステムの管理状況を評価することができている。	給食の運営のサブシステムについて理解しており、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要をまとめ、記録、整理し、サブシステムの管理状況を評価することができている。	給食の運営のサブシステムについて基本は理解しており、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要をまとめ、記録、整理し、サブシステムの管理状況を評価することができている。	給食の運営のサブシステムの理解に努めているが、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要のまとめ、記録、整理、サブシステムの管理状況を評価することができていない部分がある。	給食の運営のサブシステムの理解に努めおらず、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要のまとめ、記録、整理、サブシステムの管理状況を評価することができていない。
思考・問題解決能力	6．アクシデント・インシデント管理の意義を理解できる	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性を理解しており、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義を十分に説明することができる。	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性を理解しており、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義を説明することができる。	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性を理解しており、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義について基本的なことを説明することができる。	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性の理解に努めてはいるが、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義について説明することができていない部分がある。	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性の理解に努めず、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義について説明することができていない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅲ			授業番号	NT402	サブタイトル			
教員	小野　尚美、多田　賢代、古川　愛子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	必修
授業概要	病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し，栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。								
到達目標	病院や福祉施設において，患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ，他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて，管理栄養士の指導により解決し，栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。 実習内容の1例 1　病院・福祉施設における管理栄養士業務の実際について把握 2　食材料管理，衛生管理，作業管理の実際 3　栄養管理の実際（栄養基準，食品構成，献立作成） 4　特別治療食実習 5　カルテの見方 6　栄養療法の実際 7　栄養評価の実際 8　個人栄養食事指導の実際 9　集団栄養食事指導の実際 10　まとめ，報告書作成								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	実習施設での実習態度，課題への取組や発表，報告を評価する。
レポート	40	実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	10	実習に対する取り組み姿勢や態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	報告・連絡・相談を実践すると共に，課題発見・問題解決を心がける。
授業外学修	1，関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。 2，日々，学習した内容をまとめておく。 3，実習に必要な媒体などの準備をし，確認しておく。 以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨地実習　実習生のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編			

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2，700円+税
糖尿病食事療法のための食品交換表|日本糖尿病学会編	日本糖尿病学会編	文光堂	978-4-8306-6046-7	900円+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院等の管理栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	病院および福祉施設の管理栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	臨床現場の実習指導者からの臨床栄養管理業務に関する実際に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	病院や福祉施設での業務に関心を持ち、研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務について調べ、十分に理解し、研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務について調べながら、研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務に関心を持ち、研究課題を設定することができる。	研究課題の設定に取り組もうとする。	研究課題を設定することができない。
思考・問題解決能力	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ、それに基づいて実習中に取り組み、まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ、それに基づいて実習中に取り組み、学んだこと、自ら調べたことから考察・まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ、それに基づいて実習中に取り組み、学んだことを活かして考察・まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ、それに基づいて実習中に取り組み、まとめができる。	研究課題を解決するための事前準備・実施計画が不十分である。	研究課題を解決するための事前準備・実施計画ができない。
技能	他職種との連携のあり方について理解できる。	他職種との連携のあり方について十分理解できており、自分の言葉で説明できる。	他職種との連携のあり方について理解できており、説明できる。	他職種との連携のあり方について理解できている。	他職種との連携のあり方についての理解が不十分である。	他職種との連携のあり方が理解できていない。
技能	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価ができる。	対象者の栄養評価をするために必要な情報収集ができ、それらに基づいて栄養評価ができる。	対象者の栄養評価をするために必要な身体計測、検査値の項目が理解できており、それらに基づいて栄養評価ができる。	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価ができる。	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価に取り組もうとする。	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価ができない。
技能	栄養ケア計画を立て、栄養指導・支援ができる。	対象者をより深く把握して栄養ケア計画を立て、栄養指導・支援ができる。	対象者を把握して栄養ケア計画を立て、栄養指導・支援ができる。	栄養ケア計画を立て、栄養指導・支援ができる。	栄養ケア計画を立て、栄養指導・支援に取り組もうとする。	栄養ケア計画を立て、栄養指導・支援することができない。
態度	興味・関心を持ち、積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち、これまで学んだことを十分理解した上で、積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち、これまで学んだことを理解した上で、積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち、積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち、実習に取り組もうとする。	興味・関心を持ち、実習に取り組む姿勢が見られない。

科目名	給食管理実習Ⅲ			授業番号	NT403	サブタイトル			
教員	北島 葉子、安原 幹成、木野山 真紀								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	特定給食施設（病院，福祉施設，事業所）における給食経営管理について必要な専門的知識および食材・人材に関する衛生管理，栄養管理，給食の安全確保，組織の管理運営，経済的視点の確保と給食経営分析の手法等の給食業務全般のマネジメントについて実際の管理栄養士の指導の下，学修する。								
到達目標	(1)給食運営や関連の資源を総合的に判断し，栄養面・安全面・経済面等を統合したマネジメントの実際を実践的に学ぶ。 (2)実習施設の栄養・給食管理業務，運営，組織管理などの実際を理解できる。 (3)利用者・対象者の状況に応じた栄養ケア，栄養指導（教育）を通して，施設の特徴や在り方について理解を深める。 (4)給食施設における衛生管理および安全管理の実際を理解できる。 (5)給食運営に関わる費用構成について理解し，経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解できる。 なお，本科科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	●実習施設の選択 給食管理実習IIIを履修するにあたり，必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として，下記の特定給食施設のうち，1施設を選択の上，実施とする。 ・病　院　国立病院，大学病院，公立病院，その他の病院 ・福祉施設　特別養護老人ホーム，介護老人保健施設，その他の福祉施設 ・事 業 所　工場給食やオフィス給食の社員食堂，配食サービス給食センター等 ・学　校　小・中学校又は給食センター ●実習内容 具体的な実習計画と内容は実習施設ごとに異なるが，以下の項目について実習する。 ・実習施設の組織の概要と見学 ・施設別給食部門業務の特徴の理解 ・給食経営管理システムの理解 経営管理，栄養・食事管理について 組織・人事管理，施設・設備管理について 食材料管理，生産管理について 衛生・安全管理，品質管理について 会計・原価管理について ・給食経営管理システムに関する研究発表及び討論 ・テーマ別研究活動及び成果報告と討論								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度，実習態度，実習課題，実習内容に対する理解を評価する。
レポート	40	実習・実習課題の内容，得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができているか，また，事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合，修得できているか等を評価する。実習ファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	10	実習に対する取組み姿勢や態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自ら実習課題を設定し，課題の発見と問題解決を経験することにより，管理栄養士の業務をより深く理解することがこの実習のねらいである。事前学習の段階から，実習への関心を深め積極的に取り組むこと。
授業外学修	(1)受け入れ実習施設の概要等，その特徴を調べておく。 (2)実習施設での実習内容を十分に把握，認識し，実習先との連絡を行う。 (3)小グループで実習を行う場合は，同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり，十分な打ち合わせ，勉強会等，協力をして準備を進める。 (4)実習に向けて，実習課題のテーマ設定を行い，文献や資料を準備する。 以上の内容は，管理栄養士実務演習とも関連しており，授業の一環でもあるため，各自が計画的に取り組み，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	『実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『八訂　食品成分表　2022』，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部 『第11巻 給食経営管理論 給食と給食経営管理における関連項目の総合的理解』，特定非営利活動法人　日本栄養改善学会監修　市川陽子／神田知子 編，医歯薬出版株式会社 『給食経営管理実務ガイドブック』，富岡和夫 編，同文書院
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	病院，福祉施設，学校，事業所等の管理栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	特定給食施設の実習指導者からの給食経営管理業務に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．給食運営や関連の資源を総合的に判断し，栄養面・安全面・経済面等を統合したマネジメントの実際を実践的に学ぶ	各種管理業務について十分理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について基本は理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について理解に努めているが、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	各種管理業務について理解に努めず、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。
思考・問題解決能力	２．実習施設の栄養・給食管理業務，運営，組織管理などの実際を理解できる	各種管理業務について十分理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができている。	各種管理業務について理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができている。	各種管理業務について基本は理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができている。	各種管理業務について理解に努めているが、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができていない部分がある。	各種管理業務について理解に努めず、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができていない。
思考・問題解決能力	３．利用者・対象者の状況に応じた栄養ケア，栄養指導（教育）を通して，施設の特徴や在り方について理解を深める	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に積極的に取り組むことで、各給食施設の特徴や在り方について十分に理解を深めることができている。	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に取り組むことで、各給食施設の特徴や在り方について理解を深めることができている。	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に取り組むことで、各給食施設の特徴や在り方について理解することができている。	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に取り組んでいるが、各給食施設の特徴や在り方について理解することができていない部分がある。	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に取り組まず、各給食施設の特徴や在り方について理解することができていない。
思考・問題解決能力	4．給食施設における衛生管理および安全管理の実際を理解できる	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理について十分に理解できている。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性を十分に理解しており、対策の提案やマニュアルを作成することができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理について理解できている。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性を理解しており、対策の提案やマニュアルを作成することができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の基本は理解できている。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性について基本は理解しており、対策の提案やマニュアルを作成することができる。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の理解に努めているができていない部分がある。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性について理解に欠けている部分があり、対策の提案やマニュアルを作成することができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の理解に努めていない。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性について理解できておらず、対策の提案やマニュアルを作成することができていない。
思考・問題解決能力	5．給食運営に関わる費用構成について理解し，経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解できる	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法を説明でき、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を十分理解することができている。	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法を説明でき、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解することができている。	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法を説明でき、経営管理の手法を用いた費用分析の方法の基本は理解することができている。	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法の理解に努めているが、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解できていない部分がある。	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法の理解に努めず、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解することができていない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅳ			授業番号	NT404	サブタイトル			
教員	小野　尚美、多田　賢代、古川　愛子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し，栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。								
到達目標	病院や福祉施設において，患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ，他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて，管理栄養士の指導により解決し，栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。 実習内容の1例 1　チーム医療・チームケアと管理栄養士の役割について把握する。 2　カルテの内容を把握する。 3　担当患者の治療方針を理解する。 4　栄養ケアプランを作成する。 5　栄養ケアの実施状況を把握する。 6　栄養ケアの経過を把握する。 7　栄養評価の実際 8　個人栄養食事指導の計画，参加 9　集団栄養食事指導の計画，参加 10　まとめ，報告書作成								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	実習施設での実習態度，発表，報告を評価する。
レポート	40	実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	10	実習に対する取り組み姿勢や態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	報告・連絡・相談を実践すると共に，課題発見・問題解決を心がける。
授業外学修	1，関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。 2，日々，学習した内容をまとめておく。 3，実習に必要な媒体などの準備をし，確認しておく。 以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨地実習　実習生のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編			

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2，700円+税
糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会編	文光堂	978-4-8306-6046-7	900円+税
栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子，森美奈子	化学同人	978-4-7598-1826-0	1，500円+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院等の管理栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	病院および福祉施設の管理栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	臨床現場の実習指導者からの臨床栄養管理業務に関する実際に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	病院や福祉施設での業務に関心を持ち、研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務について調べ、十分理解し、研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務について調べながら、研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務に関心を持ち、研究課題を設定することができる。	研究課題の設定に取り組もうとする。	研究課題を設定することができない。
思考・問題解決能力	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ、それに基づいて実習中に取り組み、まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ、それに基づいて実習中に取り組み、学んだこと、自ら調べたことから考察・まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ、それに基づいて実習中に取り組み、学んだことを活かして考察・まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ、それに基づいて実習中に取り組み、まとめができる。	研究課題を解決するための事前準備・実施計画が不十分である。	研究課題を解決するための事前準備・実施計画ができない。
技能	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が理解できている。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が十分理解できており、自分の言葉で説明できる。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が理解できており、説明できる。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が理解できている。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義の理解が不十分である。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が理解できていない。
技能	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価ができ、それに基づく栄養ケア計画を立てることができる。	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価ができ、対象者のことを十分考慮した栄養ケア計画を立てることができる。	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価ができ、対象者のことを考慮した栄養ケア計画を立てることができる。	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価ができ、それに基づく栄養ケア計画を立てることができる。	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価をし、それに基づいて栄養ケア計画を立てることが不十分である。	食事調査、身体計測、検査値などから栄養評価をし、それに基づいて栄養ケア計画を立てることができない。
技能	栄養ケア計画、栄養食事指導の効果について理解できる。	栄養ケア計画、栄養食事指導の効果について十分理解できており、自分の言葉で説明できる。	栄養ケア計画、栄養食事指導の効果について理解できており、説明できる。	栄養ケア計画、栄養食事指導の効果について理解できる。	栄養ケア計画、栄養食事指導の効果について理解が不十分である。	栄養ケア計画、栄養食事指導の効果について理解できていない。
態度	興味・関心を持ち、積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち、これまで学んだことを十分理解した上で、積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち、これまで学んだことを理解した上で、積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち、積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち、実習に取り組もうとする。	興味・関心を持ち、実習に取り組む姿勢が見られない。

科目名	公衆栄養学実習Ⅱ			授業番号	NT405	サブタイトル			
教員	辻本 美由喜								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	保健所及び市町村の公衆栄養学分野において，それぞれが果たす役割や業務内容を知る。								
到達目標	（１）公衆栄養マネージメントを理解するために，地域の健康・栄養問題に関する情報の収集・分析を行い，公衆栄養プログラムの評価・判定を行うことができる。 （２）プログラム実施から評価までのマネジメント能力を身につけるために，健康・栄養関連プログラムへの参加を通して，対象に応じた適切な保健サービスの提供プログラムの実践状況を把握することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1 事前学習 (1)実習先の健康増進計画や食育推進計画などを調べ，健康課題をアセスメントし，個人課題を決める。 (2)実習先を訪問して施設の概要，経路について情報収集し，ファイルにまとめる。 (3)公衆栄養学Ⅰ,Ⅱ，公衆栄養学実習Ⅰテキスト，国試過去問，実習生のしおりなどを学習し，クラスルームを活用したテストにより知見を整理する。 (4)自主的な勉強会により，十分な準備と事前学習をチーム内で強化する。 2 事前授業 (1)実習生のしおりにより臨地実習の臨み方について再復習 (2)公衆栄養学についての知見を再整理 (3)新聞などによる時事情報の把握 (4)準公務員としての接遇を学習 （５）実習内容と実習課題等の指示を受け準備 （６）試作やデモンストレーションにより，実習先の課題と個人課題の準備を完了 3 臨地実習 衛生行政，地域保健行政と行政栄養士の役割，保健所・市町村栄養業務および食に係わる様々なボランティア活動を理解する。 （１）保健所における実習概要 ア）保健所管内の現況と管理栄養士業務の概要 イ）公衆栄養に関連する法規の実際 ウ）地域保健における栄養体制の整備として，地域における実態把握と分析，専門的な栄養指導，食生活支援，食環境整備（食に関する情報の整備，栄養成分表示の推進等） エ）特定給食施設への栄養管理指導 オ）市町村に対する栄養改善事業支援と連絡調整 （２）市町村における実習概要 ア）市町村行政栄養士の役割と業務の概要 イ）地域保健栄養体制の整備として，地方健康増進計画や地方食育推進計画並びに地域保健医療計画等への参画，栄養改善事業の計画・評価の理解 ウ）乳幼児健康診査や栄養相談および一般的栄養指導の見学 エ）住民に対する健康教育の企画・実施・評価 オ）地区組織の育成及び支援の見学 4 事後授業 （１）礼状作成と発送 （２）報告会の準備と発表練習 （３）実習先についての情報，授業，臨地実習別のファイルを提出								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	授業への基本的態度や実習態度，実習課題への取組，授業ファイル，臨地担当者評価などにより評価する。
レポート	30	実習姿勢や実習先課題についての記録やまとめ，レポート，臨地実習ファイルなどで評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	（１）日常の業務が行われ，地域住民の方が来られている職場での実習にて，社会的な常識ある行動を心がけ，自ら学修すべき課題を発見できるよう積極的な態度で取り組む。 （２）実践現場での貴重な体験ができるという意識を持ち，実習に対する明確な目的を持ち，事前の準備を十分に行う。
授業外学修	（１）知見を整理して充実した実習を目指すために，公衆栄養学Ⅰ.Ⅱ及び公衆栄養学実習Ⅰ，地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活改善の基本指針，臨地実習のしおり等を再学修する。 （２）小グループで学修を行う場合は，十分な打ち合わせと勉強会を行いながら，実習施設の概要，特徴を調べる。 （３）日本と実習施設等の概況や健康増進計画，食育推進計画，子育て支援計画，介護保険計画等で健康課題を調べておく。 （４）各自の実習課題のテーマを決め，文献や資料の準備をする。 （５）実習施設での実習内容を十分に把握し，実習先との連絡を行う。 （６）実習施設から指定された課題の準備や用具・媒体，資料等を用意する。 以上の内容を含め，週１時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆栄養学実習テキスト	岡山県保健福祉部健康対策課 監修	岡山県栄養士養成施設協議会 発行		

使用テキスト：自由記載	『臨地実習　実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 編

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 編集・発行 『栄養・健康データハンドブック』藤沢良知 編　同文書院
その他	
備考	令和5年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	健康推進関係課長，社会福祉協議会事務局長，養護老人ホーム施設長等の管理職（4年），行政（31年）と学校給食（3年）の管理栄養士，健康運動実践指導者（２２年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	保健所及び市町村の行政栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	健康推進関係課長（2年），社会福祉協議会事務局長（1年），養護老人ホーム施設長（1年）等の管理職（4年），行政管理栄養士（31年）と学校給食管理栄養士（3年），健康運動実践指導者（２２年）の職務経験と具体的な事例を通して、行政栄養士活動についての課題発見や問題解決方法，公衆栄養マネージメントの進め方が理解できるように授業を展開していく。（担当教員） 行政栄養士業務の実際に関する指導の下，公衆栄養活動への理解を深め，健康づくりや食育に関する指導ができる技能を修得させる。（実習指導者）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．臨地実習の基本的態度ができている。	時間を守り、実習生からの挨拶や実習生らしい身だしなみ、行動ができている。	時間を守り、実習生からの挨拶や実習生らしい身だしなみができている。	実習生らしい身だしなみができている。	実習生らしい身だしなみに注意を要する。	実習生らしい身だしなみができていない。
知識・理解	２．栄養行政に対する理解ができている。	行政栄養士の役割や公衆栄養活動の意義を深く学ぶことができている。	行政栄養士の役割や公衆栄養活動の意義を学ぶことができている。	行政栄養士の役割や公衆栄養活動を学ぶことができている。	行政栄養士の役割を学ぶことができている。	行政栄養士の役割や公衆栄養活動を学ぶことができない。
思考・問題解決能力	１．事前課題の作成ができている。	事前課題に積極的に取り組み、改善に取り組んでいる。	事前課題に積極的に取り組み、改善に取り組んでいる。	事前課題に取り組み、改善に取り組んでいる。	事前課題に取り組んでいる。	事前課題に取り組めない。
思考・問題解決能力	２．個人課題の作成と考察ができている。	個人課題に積極的に取り組み、解決するように取り組んでいる。	個人課題に積極的に取り組み、解決するように取り組んでいる。	個人課題に取り組み、解決するように取り組んでいる。	個人課題に取り組んでいる。	個人課題に取り組めない。
技能	１．事前準備として、情報把握が十分にができている。	実習前にチーム内にも声かけあって、入念な準備を行うことができている。	実習前に入念な準備を行うことができている。	準備を行うことができている。	注意をしないと準備ができない。	実習前の準備ができない。
技能	２．言葉遣いや礼儀をわきまえた行動ができている。	"電話やメールなどの挨拶が礼儀をわきまえて、的確にできている。"	"電話やメールなどの挨拶が的確にできている。"	"電話やメールなどの挨拶ができている。"	電話やメールなどの挨拶に指摘が多い。	"電話やメールなどの挨拶ができない。"
技能	３．報告会に向けての準備ができている。	報告会に向けての準備を協力しながら、施設のご指導をいただき、進行できている。	報告会に向けての準備を施設のご指導をいただきながら遂行できている。	報告会に向けての準備が遅れている。	報告会に向けての準備を施設のご指導をいただきながら遂行できている。	報告会に向けての準備ができない。
態度	１．臨地実習に積極的に臨むことができる。	興味と関心を持ち、積極的な態度で、感謝の心を持ち、謙虚な態度で実習ができている。	実習に臨み、実習内容を理解したうえで、考察と意見を述べることができる。	実習に臨み、考察と意見を述べている。	実習に臨んではいるが、理解が十分ではない。	意見を述べることができない。
態度	２．コミュニケーションをとりながら、責任感を持って、自分の役割を担当することができている。	コミュニケーションがとれて協調性があり、責任感を持って、自分の役割を担当することができている。	コミュニケーションがとれて協調性があり、自分の役割を担当することができている。	コミュニケーションをとりながら自分の役割を担当することができている。	自分の役割を担当することができている。	コミュニケーションや協調性がない。

科目名	栄養セミナーⅠ			授業番号	NU101	サブタイトル			
教員	波多江　崇、坪井　誠二、井之川　仁、大桑　浩孝、楠本　晃子、木野山　真紀								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	この授業では受講者を少人数のグループに分け，各々のグループに担当教員を置く。各グループの日程にしたがい，近隣の施設（犬養木堂記念館，福祉施設等）を訪問することで，地域の歴史を学び，高齢者とのコミュニケーションを体験する。さらに，各グループにあらかじめ設定された課題について，文献・資料を収集，精読し，グループ内討論を行いつつ結論を導き出すことで，他者に配慮しつつ討論を行うことができ，論理的に思考できる能力を養う。								
到達目標	・文献の読み方，調べ方，整理の仕方，情報の収集法と整理の仕方，まとめ方，レポート・論文の書き方，プレゼンテーションの方法などを具体的に経験しながら身につける。 ・グループ学習のスキルを身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業内容および日程の詳細は，後期オリエンテーション期間に資料を配布して説明する。								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション。授業の進め方および課題設定等	
第2回	第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問（ボランティア活動）2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	
第3回	第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）および事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	
第4回	第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	
第5回	第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	
第6回	第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	
第7回	第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	
第8回	第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	
第9回	第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	
第10回	課題研究　文献精読およびグループ内討論	
第11回	課題研究　文献精読およびグループ内討論	
第12回	プレゼンテーションの方法	
第13回	課題研究　文献精読およびグループ内討論	
第14回	課題研究　発表の準備	
第15回	課題発表会	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業への取り組みや，課題発表について評価する
レポート	40	指示されたレポートを作成し提出し，その内容について評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で，他者の意見を聞き，受け入れ，積極的に発言することが求められる。 積極的な姿勢で参加すること。また，学外訪問の前には事前準備，訪問後には事後学習が求められる。
授業外学修	1.次回授業に用いる関連資料を準備・理解しておく。 2.授業中において学んだことなどを，記録用紙に記入し提出する。 3.課題についてまとめ，プレゼンテーションを行う。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	指定しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．近隣の施設を訪問することで、地域の歴史を学び高齢者とのコミュニケーションを体験する。設定された課題について、文献・資料を収集、精読し論理的に思考できる能力を養う。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読し、あらゆる方面から観察し論理的に思考できる。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読し論理的に思考できる。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読し、部分的ではあるが論理的に思考できる。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読するが、論理的に思考できない。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読できない。
態度	１．セミナーに積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、セミナーの内容を十分理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、セミナーの内容をほぼ理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、セミナーの内容を理解している。	セミナーに参加しているが、セミナーの内容を十分に理解していない。	セミナーの内容を理解していない。

科目名	食生活論			授業番号	NU108	サブタイトル			
教員	岡﨑　恵子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	栄養・食に関わる専門職(管理栄養士・栄養士・栄養教諭　等)になるための専門教科を学修するに先立ち，人間にとって「食生活」とは何かを包括的に捉え考えるための入門編の科目である。食の成り立ち，食と環境の関わり，食文化，健康的な食生活，食育の推進について等を講義する。								
到達目標	・食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できるようになる。 ・食育の推進を担う食の専門家として，今後の食文化の形成に関わっていることを理解できるようになる。 ・自身の食生活に興味・関心をもち見直し，より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けることができるようになる。 ・食の専門家を目指す学生として，食育の推進について理解し考えることができるようになる。 　なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食生活の概念 食生活の概念を知り，理解する。	
第2回	食生活と健康を考える　（１） 幼児期・成長期の特徴と食生活について理解する。	
第3回	食生活と健康を考える　（２） 食生活と生活習慣病について理解し，健康的な食生活とは何かを考えることができるようにする。	
第4回	世界の食生活史　（１）大陸文化・南蛮文化・欧米文化・多国籍の食 世界の食生活史について知り，理解する。	
第5回	世界の食生活史　（２）DVD「日本と世界の食文化」 日本と世界の食文化について知り，理解する。	
第6回	日本の食生活史　（１）　DVD「おいしさの科学　味覚研究の最先端」 味覚・おいしさについて知り，理解する。	
第7回	日本の食生活史　（２）DVD「かつおだし」 和食のうま味について知り，理解する。	
第8回	日本の食文化 日本の食文化，和食について理解を深め，良さを再認識する。	
第9回	食生活と安全　（１）食生活データ　総合統計年報2022 環境と食の安全について知り，理解する。	
第10回	食生活と安全　（２） 食の現代的な諸課題を知り，理解を深め考えることができる。	
第11回	健全な食生活の展望　（１） 日本の学校給食の歴史，世界の学校給食，栄養教諭の創設と学校給食法について知り，理解する。	
第12回	健全な食生活の展望　（２） 健康日本２１，健康長寿，生活習慣，栄養等について知り，食生活を考えることができる。	
第13回	食育の推進（１）　DVD「アクティブに学ぼうVol.1 身近な食生活」 身近な食生活について理解を深め考えることができる。	
第14回	食育の推進（２）家庭・地域・学校・社会における食育 食育基本法は，深刻化している種々の食生活の課題を解決するために制定され，食育推進基本計画が策定された。その意味について深く理解し，食の専門家として考えることができる。	
第15回	食育の推進（３）情報化社会における食育　まとめ 食の専門家である栄養士を目指す者として，これからの食育の推進について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表
レポート		
小テスト		
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	30	提出物

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストを事前に読んでくること。健康・栄養・料理や食文化など幅広く食生活に関することに関心をもつよう心がけること。
授業外学修	食生活や食育に関心をもち予習・復習をすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
食育・食生活論　社会・環境と健康	山本茂・奥田豊子・瀬口郁枝　編	講談社サイエンティフィク		2400円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。DVD「おいしさの科学　味覚研究の最先端」,「かつおだし」,「日本と世界の食文化」 DVD「アクティブに学ぼうVol.1 身近な食生活」 食生活データ　総合統計年報2022 日本の食文化「和食」の継承と食育
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士：地方自治体(公立小学校・中学校・学校給食センター，教育行政，高齢者福祉）35年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	１年次の学生が栄養士・管理栄養士を目指して学修するにあたり、担当教員の実務経験を活かし、食生活の歴史や文化とともに現代の諸課題について理解を深めさせる。また、自身の食生活にも興味関心をもち、より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けさせ、食育の推進を担う食の専門家として考えることができるようにさせる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について広範かつ詳細に理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について広範に理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について基礎的事項を十分に理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について基礎的事項を十分に理解していない。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解していない。
知識・理解	２．食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを広範かつ詳細に理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを広範に理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを基礎的事項を十分に理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを基礎的事項を十分に理解していない。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを理解できている。
思考・問題解決能力	１．自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を広範かつ詳細に身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を広範に身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を基礎的事項を十分に身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を十分に身に付けていない。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けていない。
思考・問題解決能力	２．食の専門家を目指す学生として、食育の推進について考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について広範かつ詳細に考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について広範に考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について基礎的事項を十分に考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について基礎的事項を十分に考えることができない。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について考えることができない。

科目名	食生活演習Ⅰ 1クラス			授業番号	NU109A	サブタイトル			
教員	小野 尚美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	食事はいろいろな食品を用いて作られ，それらにはさまざまな栄養素が含まれている。摂取した食事について，栄養バランスがとれているかどうかを評価する方法や，食品成分表を用いて栄養価計算をする方法について習得する。また，献立を作成　するために必要となる食品の目安量やおいしく感じる基本濃度について学修する。								
到達目標	・栄養バランスがとれているかどうか評価できる。 ・食品成分表を用いて栄養価計算できる。 ・献立作成に必要な基礎知識を理解し，活用することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜技能＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	五大栄養素とその働きを知ろう（1)炭水化物，脂質，たんぱく質 身近な食品に含まれる栄養素について知る。	
第2回	五大栄養素とその働きを知ろう（2)ビタミン，ミネラル 身近な食品に含まれる栄養素について知る。	
第3回	献立に使う食品を知ろう 食品に含まれる栄養素によりグループ分けをした食品群について理解する。	
第4回	一食分の献立を考えよう 献立作成の手順を理解し、作成する。	
第5回	食品の表示について知ろう 「食品表示法」による食品表示について理解する。	
第6回	食品成分表を使ってみよう（1)食品の分類，食品成分表の項目 食品成分表における食品の分類、収載順について理解する。	
第7回	食品成分表を使ってみよう（2)数値の見方，使い方 食品成分表に収載されている成分値の単位や桁数について理解する。また、「廃棄率」を用いた計算について理解する。	
第8回	食品成分表を使ってみよう（3)食品の成分値 食品成分表の成分項目について理解する。	
第9回	食品成分表を使って栄養価計算をしよう（1)計算の仕方 容量を重量に換算する方法を理解する。 栄養価計算の仕方を理解する。	
第10回	食品成分表を使って栄養価計算をしよう（2)食品の選び方 食品成分表から適切な食品の選び方を理解する。	
第11回	献立作成のための基礎知識（1)食品の目安量と数え方 献立作成が適正な量でできるよう食品の目安量を理解する。	
第12回	献立作成のための基礎知識（2)おいしさの基本濃度 おいしいと感じる適正な濃度について理解する。	
第13回	食生活の移り変わり（1)台所の変化 日本人の食生活がどのように変わってきたかを知る。	
第14回	食生活の移り変わり（2)料理（味付け）の変化 料理の食塩相当量を計算し、味付けが変化した背景について考える。	
第15回	食品成分表を使って栄養価計算をしよう（3)まとめ 食品成分表に収載されている数値を用いた計算の再確認と1食分の栄養価計算をして理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な授業態度・ファイルによって評価する。
レポート	30	課題の内容を正しく理解し記載されているかを評価する。 課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	20	理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	食生活に関する情報に関心をもつこと。常日頃から自分の食事を意識し，何をどれくらい食べたらよいかを考えながら食事を摂るよう心がけること。
授業外学修	1 テーマに沿った内容について自分で調べる 2 演習内容を振り返りノートにまとめる 3 日常生活の中で食べた食品について栄養量を調べる 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子，森美奈子	化学同人	978-4-7598-1826-0	1，500円＋税
八訂　食品成分表2021	香川明夫／監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-1021-9	1，500円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
調理のためのベーシックデータ第6版	松本仲子／監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-0323-5	1，800円＋税
参考書：自由記載				
その他	栄養価計算には電卓を使用する。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．栄養バランスがとれているかどうか評価できる。	栄養バランスを評価でき、その説明が適切にできる。	複数の方法で栄養バランスを評価できる。	栄養バランスがとれているかどうか評価できる。	栄養バランスを評価する方法が理解できている。	栄養バランスを評価する方法が理解できていない。
技能	２．食品成分表を用いて栄養価計算ができる。	正しい食品の選択ができ、正確に栄養価計算ができる。	食品成分表のどの食品を選択すればよいか正しく理解できており、その数値を用いて栄養価計算できる。	食品成分表のどの食品を選択すればよいかほぼ分かり、その数値を用いて栄養価計算できる。	食品成分表のどの食品を選択すればよいかの理解が不十分であるが、栄養価計算はできる。	食品成分表の分類が理解できておらず、食品を探し出すことが困難である。
技能	３．献立作成に必要な基礎知識を理解し、活用することができる。	献立作成に必要な知識を用いて、献立作成ができる。	献立作成に必要な知識を理解し、食材や調味料の適切な量を把握できている。	献立作成に必要な知識を理解し、調味料の計算等ができる。	献立作成をするため必要な基礎知識については理解できている。	献立作成に必要な基礎知識の理解が不十分である。

科目名	食生活演習Ⅰ 2クラス			授業番号	NU109B	サブタイトル			
教員	小野 尚美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	食事はいろいろな食品を用いて作られ，それらにはさまざまな栄養素が含まれている。摂取した食事について，栄養バランスがとれているかどうかを評価する方法や，食品成分表を用いて栄養価計算をする方法について習得する。また，献立を作成　するために必要となる食品の目安量やおいしく感じる基本濃度について学修する。								
到達目標	・栄養バランスがとれているかどうか評価できる。 ・食品成分表を用いて栄養価計算できる。 ・献立作成に必要な基礎知識を理解し，活用することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜技能＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	五大栄養素とその働きを知ろう（1)炭水化物，脂質，たんぱく質 身近な食品に含まれる栄養素について知る。	
第2回	五大栄養素とその働きを知ろう（2)ビタミン，ミネラル 身近な食品に含まれる栄養素について知る。	
第3回	献立に使う食品を知ろう 食品に含まれる栄養素によりグループ分けをした食品群について理解する。	
第4回	一食分の献立を考えよう 献立作成の手順を理解し、作成する。	
第5回	食品の表示について知ろう 「食品表示法」による食品表示について理解する。	
第6回	食品成分表を使ってみよう（1)食品の分類，食品成分表の項目 食品成分表における食品の分類、収載順について理解する。	
第7回	食品成分表を使ってみよう（2)数値の見方，使い方 食品成分表に収載されている成分値の単位や桁数について理解する。また、「廃棄率」を用いた計算について理解する。	
第8回	食品成分表を使ってみよう（3)食品の成分値 食品成分表の成分項目について理解する。	
第9回	食品成分表を使って栄養価計算をしよう（1)計算の仕方 容量を重量に換算する方法を理解する。 栄養価計算の仕方を理解する。	
第10回	食品成分表を使って栄養価計算をしよう（2)食品の選び方 食品成分表から適切な食品の選び方を理解する。	
第11回	献立作成のための基礎知識（1)食品の目安量と数え方 献立作成が適正な量でできるよう食品の目安量を理解する。	
第12回	献立作成のための基礎知識（2)おいしさの基本濃度 おいしいと感じる適正な濃度について理解する。	
第13回	食生活の移り変わり（1)台所の変化 日本人の食生活がどのように変わってきたかを知る。	
第14回	食生活の移り変わり（2)料理（味付け）の変化 料理の食塩相当量を計算し、味付けが変化した背景について考える。	
第15回	食品成分表を使って栄養価計算をしよう（3)まとめ 食品成分表に収載されている数値を用いた計算の再確認と1食分の栄養価計算をして理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な授業態度・ファイルによって評価する。
レポート	30	課題の内容を正しく理解し記載されているかを評価する。 課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	20	理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	食生活に関する情報に関心をもつこと。常日頃から自分の食事を意識し，何をどれくらい食べたらよいかを考えながら食事を摂るよう心がけること。
授業外学修	1 テーマに沿った内容について自分で調べる 2 演習内容を振り返りノートにまとめる 3 日常生活の中で食べた食品について栄養量を調べる 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子，森美奈子	化学同人	978-4-7598-1826-0	1，500円＋税
八訂　食品成分表2021	香川明夫／監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-1021-9	1，500円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
調理のためのベーシックデータ第6版	松本仲子／監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-0323-5	1，800円＋税
参考書：自由記載				
その他	栄養価計算には電卓を使用する。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．栄養バランスがとれているかどうか評価できる。	栄養バランスを評価でき、その説明が適切にできる。	複数の方法で栄養バランスを評価できる。	栄養バランスがとれているかどうか評価できる。	栄養バランスを評価する方法が理解できている。	栄養バランスを評価する方法が理解できていない。
技能	２．食品成分表を用いて栄養価計算ができる。	正しい食品の選択ができ、正確に栄養価計算ができる。	食品成分表のどの食品を選択すればよいか正しく理解できており、その数値を用いて栄養価計算できる。	食品成分表のどの食品を選択すればよいかほぼ分かり、その数値を用いて栄養価計算できる。	食品成分表のどの食品を選択すればよいかの理解が不十分であるが、栄養価計算はできる。	食品成分表の分類が理解できておらず、食品を探し出すことが困難である。
技能	３．献立作成に必要な基礎知識を理解し、活用することができる。	献立作成に必要な知識を用いて、献立作成ができる。	献立作成に必要な知識を理解し、食材や調味料の適切な量を把握できている。	献立作成に必要な知識を理解し、調味料の計算等ができる。	献立作成をするため必要な基礎知識については理解できている。	献立作成に必要な基礎知識の理解が不十分である。

科目名	食生活演習Ⅱ 1クラス(隔週)			授業番号	NU110A	サブタイトル			
教員	木野山　真紀								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	演習を中心とした授業になる。食生活演習Ⅰで学んだ知識・理解を深め，技能をさらに向上させるとともに，基本的な食事構成を理解し献立作成を行う。また作成した献立を栄養計算，食事バランスガイドを用いて評価し，改善する。								
到達目標	○料理のレシピについて知識・理解を深め，作成できるようになる。 ○日常食の献立作成の基本を学び，連続した1週間の食事設計ができるようになる。 ○食事バランスガイドを理解し，これを用いた献立の評価ができるようになる。 ○栄養計算に必要な知識・理解を深め，技能を身に付けることができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	レシピの基礎知識，レシピの作成 レシピの基礎を知り，作成する。	
第2回	レシピの基礎知識，レシピの作成 レシピの基礎を知り，作成する。	
第3回	食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価 食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。	
第4回	食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価 食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。	
第5回	献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食 献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。	
第6回	献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食 献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。	
第7回	1週間の連続した献立の作成，評価，修正 連続した１週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。	
第8回	1週間の連続した献立の作成，評価，修正 連続した１週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。	
第9回	食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正 食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。	
第10回	食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正 食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。	
第11回	１日分の献立作成・栄養計算・評価・修正 １日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。	
第12回	１日分の献立作成・栄養計算・評価・修正 １日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。	
第13回	発表献立の作成，レシピの作成 プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。	
第14回	発表献立の作成，レシピの作成 プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。	
第15回	作成した献立の発表，まとめ 作成した献立資料をプレゼンテーションして，ディスカッションする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度
レポート	80	課題の完成度(ワークシート，授業ファイル　等)によって評価する
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	健康・栄養，調理や料理など幅広く食生活に関することに関心をもつこと。
授業外学修	1 食生活演習Ⅰの内容について復習する 2 講義の内容について自分の言葉でノートに整理する 3 授業で取り上げたほかにもどんな料理があるか調べたり，実際に調理をする。 以上の内容を週1時間以上，学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
八訂食品成分表(2023)	香川明夫/監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-1021-9	1500円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・調理学実習	宮下朋子・村本美代編著	同文書院	978-4-8103-1457-1	2700円＋税
参考書：自由記載	自宅にある料理本等も参考図書として使用します			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	管理栄養士：地方自治体（公立小学校・中学校・学校給食センター・教育行政・高齢者福祉）35年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学生が栄養士・管理栄養士を目指すために基礎となる献立について学修させる。 担当教員の実務経験を活かし、献立作成の基本・郷土料理・行事食・栄養計算・食事バランス・料理レシピに必要な知識を学び理解を深め考察するなど基礎となる技能を修得させる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．献立作成の基本を理解している。	献立作成の基本を広範かつ詳細に理解している。	献立作成の基本を広範に理解している。	献立作成の基本をおおむね理解している。	献立作成の基本をあまり理解していない。	献立作成の基本を理解していない。
知識・理解	２．郷土料理、行事食を知り、理解している。	郷土料理、行事食を知り、広範かつ詳細に理解している。	郷土料理、行事食を知り、広範に理解している。	郷土料理、行事食を知り、おおむね理解している。	郷土料理、行事食を知り、あまり理解していない。	郷土料理、行事食を知り、理解していない。
知識・理解	３．栄養計算に必要な知識・理解を深める。	栄養計算に必要な知識・理解を広範かつ詳細に深める。	栄養計算に必要な知識・理解を広範に深める。	栄養計算に必要な知識・理解を十分に深める。	栄養計算に必要な知識・理解をあまり深めない。	栄養計算に必要な知識・理解を深めない。
知識・理解	４．食事バランスガイドの基礎・基本を理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本を広範かつ詳細に理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本を広範に理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本をおおむね理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本をあまり理解していない。	食事バランスガイドの基礎・基本を理解していない。
思考・問題解決能力	１．食事バランスガイドを用いて献立を評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立を広範かつ詳細に評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立を広範に評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立を十分に評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立をあまり評価することができない。	食事バランスガイドを用いて献立を評価することができない。
思考・問題解決能力	２．１週間の献立を評価し、より良いものにするよう工夫する。	１週間の献立を評価し、より良いものにするように、より一層の工夫をする。	１週間の献立を評価し、より良いものにするよう一層の工夫をする。	１週間の献立を評価し、より良いものにするよう、十分に工夫する。	１週間の献立を評価し、より良いものにするよう、あまり工夫しない。	１週間の献立を評価し、より良いものにするよう工夫しない。
思考・問題解決能力	３．１日分の栄養計算を評価・修正できる。	１日分の栄養計算を広範かつ詳細に評価・修正できる。	１日分の栄養計算を広範に評価・修正できる。	１日分の栄養計算を十分に評価・修正できる。	１日分の栄養計算をあまり評価・修正できない。	１日分の栄養計算を評価・修正できない。
技能	１．料理のレシピの基礎を知り、作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、よりよく作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、よく作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、おおむね作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、あまり作成することができない。	料理のレシピの基礎を知り、作成することができない。
技能	２．１週間の献立を工夫し作成することができる。	１週間の献立をより一層工夫し作成することができる。	１週間の献立を一層工夫し作成することができる。	１週間の献立を工夫しおおむね作成することができる。	１週間の献立を工夫しあまり作成することができない。	１週間の献立を工夫し作成することができない。
技能	３．栄養計算の基本的・基礎的な知識を身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識をより一層身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識を一層身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識をおおむね身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識をあまり身に付けることができない。	栄養計算の基本的・基礎的な知識を身に付けることができない。

科目名	食生活演習Ⅱ 2クラス(隔週)			授業番号	NU110B	サブタイトル			
教員	木野山　真紀								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	演習を中心とした授業になる。食生活演習Ⅰで学んだ知識・理解を深め，技能をさらに向上させるとともに，基本的な食事構成を理解し献立作成を行う。また作成した献立を栄養計算，食事バランスガイドを用いて評価し，改善する。								
到達目標	○料理のレシピについて知識・理解を深め，作成できるようになる。 ○日常食の献立作成の基本を学び，連続した1週間の食事設計ができるようになる。 ○食事バランスガイドを理解し，これを用いた献立の評価ができるようになる。 ○栄養計算に必要な知識・理解を深め，技能を身に付けることができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	レシピの基礎知識，レシピの作成 レシピの基礎を知り，作成する。	
第2回	レシピの基礎知識，レシピの作成 レシピの基礎を知り，作成する。	
第3回	食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価 食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。	
第4回	食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価 食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。	
第5回	献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食 献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。	
第6回	献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食 献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。	
第7回	1週間の連続した献立の作成，評価，修正 連続した１週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。	
第8回	1週間の連続した献立の作成，評価，修正 連続した１週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。	
第9回	食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正 食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。	
第10回	食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正 食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。	
第11回	１日分の献立作成・栄養計算・評価・修正 １日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。	
第12回	１日分の献立作成・栄養計算・評価・修正 １日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。	
第13回	発表献立の作成，レシピの作成 プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。	
第14回	発表献立の作成，レシピの作成 プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。	
第15回	作成した献立の発表，まとめ 作成した献立資料をプレゼンテーションして，ディスカッションする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度
レポート	80	課題の完成度(ワークシート，授業ファイル　等)によって評価する
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	健康・栄養，調理や料理など幅広く食生活に関することに関心をもつこと。
授業外学修	1 食生活演習Ⅰの内容について復習する 2 講義の内容について自分の言葉でノートに整理する 3 授業で取り上げたほかにもどんな料理があるか調べたり，実際に調理をする。 以上の内容を週1時間以上，学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
八訂食品成分表(2023)	香川明夫/監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-1021-9	1500円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・調理学実習	宮下朋子・村本美代編著	同文書院	978-4-8103-1457-1	2700円+税

参考書：自由記載	自宅にある料理本等も参考図書として使用します
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士：地方自治体（公立小学校・中学校・学校給食センター・教育行政・高齢者福祉）35年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が栄養士・管理栄養士を目指すために基礎となる献立について学修させる。 担当教員の実務経験を活かし、献立作成の基本・郷土料理・行事食・栄養計算・食事バランス・料理レシピに必要な知識を学び理解を深め考察するなど基礎となる技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．献立作成の基本を理解している。	献立作成の基本を広範かつ詳細に理解している。	献立作成の基本を広範に理解している。	献立作成の基本をおおむね理解している。	献立作成の基本をあまり理解していない。	献立作成の基本を理解していない。
知識・理解	２．郷土料理、行事食を知り、理解している。	郷土料理、行事食を知り、広範かつ詳細に理解している。	郷土料理、行事食を知り、広範に理解している。	郷土料理、行事食を知り、おおむね理解している。	郷土料理、行事食を知り、あまり理解していない。	郷土料理、行事食を知り、理解していない。
知識・理解	３．栄養計算に必要な知識・理解を深める。	栄養計算に必要な知識・理解を広範かつ詳細に深める。	栄養計算に必要な知識・理解を広範に深める。	栄養計算に必要な知識・理解を十分に深める。	栄養計算に必要な知識・理解をあまり深めない。	栄養計算に必要な知識・理解を深めない。
知識・理解	４．食事バランスガイドの基礎・基本を理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本を広範かつ詳細に理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本を広範に理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本をおおむね理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本をあまり理解していない。	食事バランスガイドの基礎・基本を理解していない。
思考・問題解決能力	１．食事バランスガイドを用いて献立を評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立を広範かつ詳細に評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立を広範に評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立を十分に評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立をあまり評価することができない。	食事バランスガイドを用いて献立を評価することができない。
思考・問題解決能力	２．１週間の献立を評価し、より良いものにするよう工夫する。	１週間の献立を評価し、より良いものにするように、より一層の工夫をする。	１週間の献立を評価し、より良いものにするよう一層の工夫をする。	１週間の献立を評価し、より良いものにするよう、十分に工夫する。	１週間の献立を評価し、より良いものにするよう、あまり工夫しない。	１週間の献立を評価し、より良いものにするよう工夫しない。
思考・問題解決能力	３．１日分の栄養計算を評価・修正できる。	１日分の栄養計算を広範かつ詳細に評価・修正できる。	１日分の栄養計算を広範に評価・修正できる。	１日分の栄養計算を十分に評価・修正できる。	１日分の栄養計算をあまり評価・修正できない。	１日分の栄養計算を評価・修正できない。
技能	１．料理のレシピの基礎を知り、作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、よりよく作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、よく作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、おおむね作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、あまり作成することができない。	料理のレシピの基礎を知り、作成することができない。
技能	２．１週間の献立を工夫し作成することができる。	１週間の献立をより一層工夫し作成することができる。	１週間の献立を一層工夫し作成することができる。	１週間の献立を工夫しおおむね作成することができる。	１週間の献立を工夫しあまり作成することができない。	１週間の献立を工夫し作成することができない。
技能	３．栄養計算の基本的・基礎的な知識を身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識をより一層身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識を一層身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識をおおむね身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識をあまり身に付けることができない。	栄養計算の基本的・基礎的な知識を身に付けることができない。

科目名	食文化調査演習			授業番号	NU115	サブタイトル			
教員	多田　賢代								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	人の栄養に関する幅広い知識を身に付けるためには，食に関する視野の広い学習が必要である。そこで，各自が国内外を問わず，その地の食文化に関する見聞をまとめ，提出することでこの科目の履修とする。ただし，事前にテーマ，訪問地域，期間，方法等について担当教員に相談・報告すること。								
到達目標	各自が決めたテーマにそって，地域の食文化を知り，理解することができる。また，一年後期に実施する工場見学，同時に行う研修をまとめて食文化調査演習の一部とすることができる。 自ら主体的に選んだ課題に沿って学習を進めることができる。 なお，本科目はディプロマーポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	履修説明	
第2回	各自が方法や期間を決定	
第3回	各自が方法や期間を決定	
第4回	各自が方法や期間を決定	
第5回	各自が方法や期間を決定	
第6回	各自が方法や期間を決定	
第7回	各自が方法や期間を決定	
第8回	各自が方法や期間を決定	
第9回	各自が方法や期間を決定	
第10回	各自が方法や期間を決定	
第11回	各自が方法や期間を決定	
第12回	各自が方法や期間を決定	
第13回	各自が方法や期間を決定	
第14回	各自が方法や期間を決定	
第15回	各自が方法や期間を決定	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	100	最終的な到達度を計画書，レポートで評価する。レポートはコメントを記入後，返却する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	何を学習するか，事前に関係文献や書物を検索し，よく読んで，計画，実行すること。
授業外学修	週当たり4時間は学習が必要

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	なし			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	計画に沿って紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学修した食文化について理解している。	学修した食文化について、正確に理解し述べることができる。	学修した食文化について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した食文化について、大体述べることができる。	学修した食文化について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した食文化について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	学修した食文化に関する知識をもとに課題について考えることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。

科目名	栄養セミナーⅡA			授業番号	NU202	サブタイトル			
教員	波多江　崇、坪井　誠二、大桑　浩孝、北島　葉子、楠本　晃子、児玉　彩、山縣　綾香、福島　彩子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	授業は3つの課題で構成される。 ・野菜を栽培し，農作業による食料の生産を体験し，生産から消費までの一連の過程を体験する。 ・グループ単位で，自らが育てた野菜を用いたレシピを考案し，調理を行い提供する。 ・多様な職域の管理栄養士から話を聞く。								
到達目標	・野菜の旬，食物生産の楽しさ，生育過程を理解する。 ・グループで協力して作業を進め，意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。 ・管理栄養士業務および職域についての理解を深める。 なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業の概要・目的の解説，授業の進め方，菜園の紹介	(全担当者)
第2回	施肥作業	(全担当者)
第3回	夏野菜の植え付け(1)	(全担当者)
第4回	夏野菜の植え付け(2)	(全担当者)
第5回	料理コンテストのメニュー考案・菜園作業	(全担当者)
第6回	菜園作業	(全担当者)
第7回	菜園作業	(全担当者)
第8回	菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(1)	(全担当者)
第9回	菜園作業	(全担当者)
第10回	菜園作業	(全担当者)
第11回	菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(2)	(全担当者)
第12回	菜園作業	(全担当者)
第13回	菜園作業	(全担当者)
第14回	料理コンテスト	(全担当者)
第15回	菜園の片付けおよびグループ別反省会	(全担当者)
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	菜園作業，メニュー試作，料理コンテスト，講和への意欲的な参加態度によって評価する。全体に講評を行う。
レポート	20	菜園日誌，各提出物が，テーマに沿って具体的，論理的に書かれているかによって評価する。個別に、あるいは全体への講評を行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・グループ内で他者と協力し，積極的に行動すること。 ・日頃の食生活を振り返り，食べ物への関心を深めること。 ・日頃から広く社会に目を向け，多様な職域に関心を持つこと。
授業外学修	1　予習として，夏野菜の栽培について調べ，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，料理の考案・試作，多様な職域の調査を行う。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	指定しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	野菜を栽培を通して野菜の旬，食物生産の楽しさ，生育過程を理解する	グループで自ら調べ、野菜の品種の特性に応じた栽培が適切にできる	農業指導員の指導の下、野菜の品種の特性に応じた栽培が適切にできる	農業指導員の指導および援助の下、野菜の品種の特性に応じた栽培ができる	野菜の品種の特性に応じた栽培には、農業指導員による多くの指導・援助が必要である	農業指導員の指導下でも、野菜の品種の特性に応じた栽培が困難である
思考・問題解決能力	自らの学びに対して正しく振り返ることができる	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる	自分が何を学んだのか説明することができる	自分が何を学んだのか説明することができない
思考・問題解決能力	他者に対して自らの考えを表現することができる	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それが相手にとってどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それらを客観的に分かりやすく伝えることができる	他者に対して自らの考えや取り組みを、相手が理解しやすいように整理して伝えることができる	他者に対して自らの考えや取り組みをそのまま伝えている	他者に対して自らの考えや取り組みを伝えない
思考・問題解決能力	他者と一つの課題について協力して取り組むことができる	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる	必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。良グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる	自分に与えられた役割を果たすことができる	自分に与えられた役割を果たすことができない
技能	自らが育てた野菜を用いたレシピを考案し，調理を行い提供する	自らが育てた野菜を用いたレシピについて訂正する箇所がほとんどなかった上、独創性のあるものであった	自らが育てた野菜を用いたレシピについて訂正する箇所がほとんどなかった	自らが育てた野菜を用いたレシピについて訂正する箇所が少なかった	自らが育てた野菜を用いたレシピについて訂正する箇所が多かった	自らが育てた野菜を用いたレシピの作成がほとんどできなかった

科目名	栄養セミナーⅡB			授業番号	NU203	サブタイトル			
教員	波多江　崇、坪井　誠二、大桑　浩孝、北島　葉子、楠本　晃子、児玉　彩、山縣　綾香、福島　彩子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	この授業は以下の課題で構成される。 ・野菜を栽培し，農作業による食料の生産を体験し，生産から消費までの一連の過程を体験する。 ・自らが育てた野菜の配布，加工を行う。 ・多様な職域の管理栄養士にインタビューを行う。								
到達目標	・野菜の旬，食物生産の楽しさ，難しさを理解する。 ・グループで協力して作業を進め，意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。 ・管理栄養士業務および職域についての理解を深める。 なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業の概要・目的の解説，授業の進め方について	(全担当者)
第2回	施肥作業・冬野菜の植え付け(1)	(全担当者)
第3回	冬野菜の植え付け(2)	(全担当者)
第4回	菜園作業	(全担当者)
第5回	菜園作業	(全担当者)
第6回	菜園作業	(全担当者)
第7回	菜園作業	(全担当者)
第8回	菜園作業	(全担当者)
第9回	菜園作業・インタビューの内容説明	(全担当者)
第10回	菜園作業・インタビューの準備(1)	(全担当者)
第11回	菜園作業・インタビューの準備(2)	(全担当者)
第12回	菜園作業・インタビューの準備(3)	(全担当者)
第13回	菜園の片付け・インタビューの内容確認	(全担当者)
第14回	職域別管理栄養士へのインタビュー	(全担当者)
第15回	インタビュー結果のまとめ	(全担当者)
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	菜園作業，インタビュー活動への意欲的な取り組み姿勢により評価する。
レポート	20	菜園日誌，各提出物が，テーマに沿って具体的，論理的に書かれているかによって評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・グループ内で他者と協力し，積極的に行動すること。 ・日頃の食生活を振り返り，食べ物への関心を深めること。 ・日頃から広く社会に目を向け，多様な職域に関心を持つこと。
授業外学修	1　予習として，冬野菜の栽培について調べ，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，多様な職域の調査，料理の考案を行う。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	指定しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
態度	1．グループで協力して菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域について理解を深める。	積極的に菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域について十分理解している。	積極的に菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域についてほぼ理解している。	菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域について理解している。	菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域について理解していない。	菜園作業・調理に対して消極的であり、管理栄養士業務及び職域について理解していない。

科目名	食料経済			授業番号	NU212	サブタイトル			
教員	大宮 めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，まず食料消費の経済理論と食料の流れ，それらに関わる経済主体の連鎖であるフードシステムの概念について学ぶ。その上で，わが国の食料消費構造の変化について経済理論を通じて理解する。さらに我が国の食料安全保障の実態と今後の展開について，食料輸入と食料自給率，世界の食料需給などの今日的課題を題材に考察する。								
到達目標	（1）食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ（フードシステム）を理解し，全体像を説明する力を身につける。 （2）食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いて説明する力を身につける。 （3）食料需給に関連する社会問題について，経済学を基盤とした観点から考察，説明する力を身につける。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の取得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	食料経済の対象領域と課題－フードシステムとは何か？何を学ぶのか？－ フードシステムとは何かについて概説し，全体の流れを紹介する。	
第2回	食料経済の理論（1） 食品の商品としての特徴，食品選択の理論について理解する。	
第3回	食料経済の理論（2） 食料需要の価格弾力性，所得弾力性とエンゲル係数について理解する。	
第4回	食生活の成熟(1) 食料消費の変化，高級化，高付加価値化について理解する。	
第5回	食生活の成熟（2） 食料消費の時期と特徴について理解する。	
第6回	食料消費パターンの変化 食料消費構造の変化やその誘因について理解する。	
第7回	食料の安全保障と自給率(1) 食料需給表と食料自給率について理解する。	
第8回	食料の安全保障と自給率（2） 食料自給率の変化と食料安全保障について理解する。	
第9回	前半のまとめ これまでの学習内容の確認を行う。	
第10回	食品工業の構造と特徴 食品工業の現状と特徴を理解する。	
第11回	食品流通業の構造と特徴（1） 卸売市場の機能を理解する。	
第12回	食品流通業の構造と特徴（2） 食品小売業の機能と特徴を理解する。	
第13回	外食産業の構造と特徴 外食産業・中食産業の現状と特徴を理解する。	
第14回	中食産業の構造と特徴 中食産業の現状と特徴を理解する。	
第15回	世界の人口と食料/食生活と政府の役割 世界の食料問題について理解する。市場メカニズムの限界と政府の役割，外部不経済について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	30	中間的な理解度を評価する。
定期試験	50	到達目標に達しているかを最終的に評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義では食料消費の変遷，関連産業の動向，食料に関連する今日的課題等を理解し，自らのこととして考え，その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには，「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）予習として，テキストを読み，疑問点を明らかにしておくこと。 （2）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （3）発展学修として，食料自給率や食品産業など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
フードシステムの経済学 第6版	時子山 ひろみ ， 荏開津 典生 ， 中嶋 康博	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70740-1	2,750

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ（フードシステム）を理解し、全体像を説明することができる	フードシステムについて正確な理解を持ち、理論的かつ詳細に説明ができる。	フードシステムについてほぼ理解しており、説明ができる。	フードシステムについて一定程度理解があり、大体の説明ができる。	フードシステムについて理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	フードシステムについて理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	２．食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いた理解ができてり、これらを説明することができる	食料消費とその変化について経済学的な論理やデータを用いて、詳細に説明することができる。	食料消費とその変化について、関連する経済学の知識を用いて、説明することができる。	食料消費とその変化について、関連する経済学の知識の一部を用いて、一定程度の説明ができる。	食料消費とその変化について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食料消費とその変化について理解できておらず、説明する力がない。
知識・理解	３．食料需給に関連する社会問題について、経済学を基盤とした観点から考察、説明することができる	食料需給に関する社会問題を正しく理解しており、経済学的視点から論理的に説明することができる。	食料需給に関する社会問題についてほぼ理解しており、経済学的視点から説明することができる。	食料需給に関する社会問題について一定程度理解しており、説明をすることができる。	食料需給に関する社会問題について経済学的視点からの理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食料需給に関する社会問題について理解しておらず、説明する力がない。

科目名	栄養セミナーⅢA			授業番号	NU304	サブタイトル			
教員	多田　賢代、井之川　仁、小野　尚美、安原　幹成、古川　愛子、木野山　真紀、山﨑　真未、髙坂　由理								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	この授業は２人の教員と数人の学生がグループを構成し，地域の人々を対象とした健康・栄養・食生活の講座を企画，準備，実施するという実践的な学習形態の授業である。各グループは3年前期までに修得した知識・技能を活用して，所定の課題に沿って講座を企画し，内容について自主的に学習を進めるとともに，実施に必要な調理，実験等の手技を身につける。この間担当教員は学生の自主性を尊重しつつ，適宜助言を与える。 また，地域住民など外部と関わる際に求められる社会人としてのマナーを身につけるため，マナー講座を実施する。								
到達目標	・課題について理解し，必要な技術が身につく。 ・自主的な学習態度が身につく。 ・グループで協力し，計画的に企画を進める力が身につく。 ・目的を達成することの意義を理解し，実践できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1回　授業の概要・目的の解説，授業の進め方，各グループの課題について　　（全担当者） 第2～14回　各グループでの企画，準備，実施，マナー講座受講　　（全担当者） 想定されるテーマ ・公民館での健康教室など，地域と連携した健康増進啓発活動 ・幼少児に対する食育活動 ・JA全農おかやまとの連携事業 ・岡山市保健所健康づくり課との連携事業 など 第15回　各グループの活動のまとめ　　（全担当者）								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	意欲的，協力的な受講態度，グループ活動への貢献，発表・討議への参加によって評価する。
レポート	30	授業内容のまとめとして学修記録を作成し，グループ内での意見・活動を踏まえた上で，自分はどのように考えるか，活動するかを記録する。レポートについては，確認し返却をする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。 授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。
授業外学修	1　予習として，活動内容に関連する参考文献を読み，活動目的や課題を明らかにする。 2　復習として，活動記録を整理し，記録ノートを書く。 3　発展学修として，後期に開催される公開講座での発表に向け準備を行う。 以上の内容を，授業外に週当たり１時間以上取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	3年前期までに使用した全ての教科書
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	市町村，病院等の管理栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	市町村の管理栄養士
実務経験をいかした教育内容	地域における管理栄養士の活動に関する基本的知識や技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	２年生後期までに学修した知識や技術をもとに課題について考えることができ、企画、実施することができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察し、しっかりと企画、実施ができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
技能	課題についてグループ内の学生と協力して企画、実行することができる。地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題の目的にしっかりと沿って企画、実行することができ、良好なコミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題の目的に沿って企画、実行することができ、コミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題について企画、実行することができ、コミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、ほぼ活動することができる。	十分ではないが、グループ内で課題についての企画、実行することができるものの、地域など学外団体とは活動し難い。	グループ内で課題についての企画、実行することが難しく、地域など学外団体と活動できない。
態度	演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	栄養セミナーⅢB			授業番号	NU305	サブタイトル			
教員	多田　賢代、井之川　仁、小野　尚美、安原　幹成、古川　愛子、木野山　真紀、山﨑　真未、髙坂　由理								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	この授業は２人の教員と数人の学生がグループを構成し，地域の人々を対象とした健康・栄養・食生活の講座を企画，準備，実施するという実践的な学習形態の授業である。各グループは3年前期までに修得した知識・技能を活用して，所定の課題に沿って講座を企画し，内容について自主的に学習を進めるとともに，実施に必要な調理，実験等の手技を身につける。この間担当教員は学生の自主性を尊重しつつ，適宜助言を与える。 また，地域住民など外部と関わる際に求められる社会人としてのマナーを身につけるため，マナー講座を実施する。								
到達目標	・課題について理解し，必要な技術が身につく。 ・自主的な学習態度が身につく。 ・グループで協力し，計画的に企画を進める力が身につく。 ・目的を達成することの意義を理解し，実践できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1回　授業の概要・目的の解説，授業の進め方，各グループの課題について　　（全担当者） 第2～14回　各グループでの企画，準備，実施，マナー講座受講　　（全担当者） 想定されるテーマ ・公民館での健康教室など，地域と連携した健康増進啓発活動 ・幼少児に対する食育活動 ・JA全農おかやまとの連携事業 ・岡山市保健所健康づくり課との連携事業 など 第15回　各グループの活動のまとめ　　（全担当者）								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	意欲的，協力的な受講態度，グループ活動への貢献，発表・討議への参加によって評価する。
レポート	30	授業内容のまとめとして学修記録を作成し，グループ内での意見・活動を踏まえた上で，自分はどのように考えるか，活動するかを記録する。レポートについては，確認し返却をする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。 授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。
授業外学修	1　予習として，活動内容に関連する参考文献を読み，活動目的や課題を明らかにする。 2　復習として，活動記録を整理し，記録ノートを書く。 3　発展学修として，後期に開催される公開講座での発表に向け準備を行う。 以上の内容を，授業外に週当たり１時間以上取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	3年前期までに使用した全ての教科書
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	市町村，病院等の管理栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	市町村の管理栄養士
実務経験をいかした教育内容	地域における管理栄養士の活動に関する基本的知識や技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	３年生前期までに学修した知識や技術をもとに課題について考えることができ、企画、実施することができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察し、しっかりと企画、実施ができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
技能	課題についてグループ内の学生と協力して企画、実行することができる。地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題の目的にしっかりと沿って企画、実行することができ、良好なコミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題の目的に沿って企画、実行することができ、コミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題について企画、実行することができ、コミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、ほぼ活動することができる。	十分ではないが、グループ内で課題についての企画、実行することができるものの、地域など学外団体とは活動し難い。	グループ内で課題についての企画、実行することが難しく、地域など学外団体と活動できない。
態度	演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	管理栄養士演習Ⅰ			授業番号	NU316	サブタイトル	(習得科目の振り返り)		
教員	多田　賢代、赤木　收二、波多江　崇、北島　葉子、楠本　晃子、安原　幹成								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	2年後期までに学修した科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，知識と理解を深める。								
到達目標	これまでに学修した事項を復習し，理解と知識を集積する。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	1　自主学習：テキスト，教科書で復習し，その内容に関する試験で知識の確認を行う。 2　講義：各教員により，講義内容の再確認・試験を行う。 1，2の内容について週間スケジュールを作成し，授業を進める。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	40	
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	管理栄養士国家試験合格を目指し，自ら学修し理解を深めること。理解が不十分な分野については，教員に積極的に質問し，確実に理解すること。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容に沿った学習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、２年後期まで学修した内容について理解している。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、２年後期まで学修した内容について、正確に理解し述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、２年後期まで学修した内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、２年後期まで学修した内容について、大体述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、２年後期まで学修した内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、２年後期まで学修した内容について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	２年後期まで学修した知識をもとに課題について考えることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。

科目名	管理栄養士演習Ⅱ			授業番号	NU317	サブタイトル	(習得科目の振り返り)		
教員	多田 賢代、井之川 仁、坪井 誠二、小野 尚美、大桑 浩孝、木野山 真紀、古川 愛子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	2年後期までに学修した科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，知識と理解を深める。								
到達目標	これまでに学修した事項を復習し，理解と知識を集積する。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1 自主学習：テキスト，教科書で復習し，その内容に関する試験で知識の確認を行う。 2 講義：各教員により，講義内容の再確認・試験を行う。 1，2の内容について週間スケジュールを作成し，授業を進める。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	40	
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	管理栄養士国家試験合格を目指し，自ら学修し理解を深めること。理解が不十分な分野については，教員に積極的に質問し，確実に理解すること。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容に沿った学習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、３年前期まで学修した内容について理解している。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、３年前期まで学修した内容について、正確に理解し述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、３年前期まで学修した内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、３年前期まで学修した内容について、大体述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、３年前期まで学修した内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、３年前期まで学修した内容について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	３年前期まで学修した知識をもとに課題について考えることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。

科目名	栄養セミナーⅣA			授業番号	NU406	サブタイトル			
教員	坪井 誠二、多田 賢代、井之川 仁、小野 尚美、波多江 崇、大桑 浩孝、北島 葉子、楠本 晃子、安原 幹成、古川 愛子、木野山 眞紀								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	担当教員のもとで教員と共に選んだ課題について課題研究を進める。研究の方法と問題解決方法を学び，自ら学ぶ。 調査・研究成果をまとめて発表する。								
到達目標	・興味あるテーマを深く掘り下げ，仮説を検証する作業を通じて，科学研究の手法を獲得し，研究の意義を理解する。 ・調査・研究した成果についてまとめ，文書・媒体等を用いて発表する力を身につける。 ・本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1～15回 各卒業研究ゼミでの活動　（全担当者） 想定されるテーマ ・感染性胃腸炎の発生動向に関する解析 ・食品の機能性 ・微生物利用食品の機能性 ・健康に影響を及ぼす生活習慣と食習慣や栄養素摂取の関連 ・栄養・エネルギーセンサーと生体反応 ・保健統計データの解析 ・広汎性発達障害（自閉症）青年の自立を目指した健康料理教室の開催 ・食文化の継承 ・地域のおける健康推進活動 ・米粉の調理性・米粉を利用した料理 ・女子高校生における隠れ肥満と血中脂肪酸組成との関連 ・真空調理								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	学習態度（意欲的か，行動が伴っているかなどを評価する）
レポート	50	課題の理解度（ディスカッション，レポート等から評価する）
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。 授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。
授業外学修	毎週最低4時間は授業外学習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．興味あるテーマを深く掘り下げ、仮説を検証する作業を通じて科学研究の手法を獲得し、研究の意義を理解する。	課題に対して、論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
技能	1．調査・研究した成果についてまとめ、文書・媒体等を用いて発表する力を身につける。	調査・研究した結果を十分理解し、わかりやすく説明できる。	調査・研究した結果を十分理解し、概略を説明できる。	調査・研究した結果を十分理解し、部分的に説明できる。	調査・研究した結果の理解が不十分なため、説明が不十分である。	調査・研究した結果が理解できず、説明ができない。
態度	1．セミナーに積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分に理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	栄養セミナーⅣB			授業番号	NU407	サブタイトル			
教員	坪井 誠二、多田 賢代、井之川 仁、小野 尚美、波多江 崇、大桑 浩孝、北島 葉子、楠本 晃子、安原 幹成、古川 愛子、木野山 真紀								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	この授業は次のテーマからなる ・担当教員のもとで進めた調査・研究成果を文書・媒体にまとめて発表する。発表内容を説明し，質疑に応じる。 ・担当教員のもとで進めた調査・研究成果を最終的に文章として纏め，卒業論文を作成する。 ・卒業後の進路に応じた学習を進め，４年間の学びの集大成を図る。								
到達目標	・調査・研究した成果についてまとめ，文書・媒体等を用いて発表する力と論文作成能力を身につける。 ・自らの将来に対応する学力，知力，技能をまとめ，社会に貢献する人材となる。 ・本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1～４回 各卒業研究グループでの活動 （全担当者） 第５～15回 各自の進路に応じた学習 （全担当者） (1)自主学習：卒業研究等のグループ単位で学習を進める。 (2)自己学習：卒業後の進路に応じた学習を進め，教科書の見直し等を行い，４年間の学びの集大成を行う。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	卒業研究への取り組み態度で評価する
レポート	50	卒業研究の提出論文で評価する
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	大学生活の集大成であることを自覚し，目的達成のために万全の体制で臨むことが求められる。 中長期の計画を立て，それに従い学習・行動することが必要となる。 グループ学習以外での自己学習により，学力・知力・技能は効率的に集積される。自主学習を強く推奨する。
授業外学修	毎週最低4時間は予習復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．興味あるテーマを深く掘り下げ、仮説を検証する作業を通して研究の意義を理解する。	課題に対して、論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
技能	1．調査・研究した成果についてまとめ、文書・媒体等を用いて発表する力を身につける。	調査・研究した結果を十分理解し、わかりやすく説明できる。	調査・研究した結果を十分理解し、概略を説明できる。	調査・研究した結果を十分理解し、部分的に説明できる。	調査・研究した結果の理解が不十分なため、説明が不十分である。	調査・研究した結果が理解できず、説明ができない。
態度	1．セミナーに積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分に理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	運動指導論			授業番号	NU411	サブタイトル			
教員	井之川　仁								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	運動の重要性は，生活習慣病対策のみならず，認知症対策においても見直されている。そして，2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え，スポーツや運動への関心は非常に高まっている。そうした中，健康を増進するための栄養と運動，介護予防と運動，そして，スポーツ栄養などについての指導は，かつてないほど重要になっている。 本講義は，管理栄養士としても運動指導を適切に担える力を培うために，スポーツ栄養学と健康運動実践指導の視点から学ぶ。								
到達目標	健康づくりの指導の一環として，現場で簡単な運動指導ができる力をつけるために，ライフステージ別健康づくりと運動指導について学び，安全で簡単な運動指導法を習得することができる。 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	健康づくりと運動（健康日本21（第二次），ヘルスプロモーション）	
第2回	スポーツと栄養（スポーツ栄養の基本）	
第3回	子どもの運動と栄養（食育，ジュニアスポーツ選手の食事）	
第4回	競技力向上と栄養管理　（スポーツ選手の食事，水分摂取）	
第5回	女性の健康管理と運動（貧血予防，腰痛と肩痛予防の運動）	
第6回	生活習慣病と運動（メタボリックシンドローム，特定保健指導）	
第7回	高齢者の運動（介護予防運動）	
第8回	運動基準とエクササイズ（体力と運動強度，心拍数，運動プログラム）	
第9回	体操の目的と方法（ラジオ体操，ご当地体操，認知症予防体操）	
第10回	効果的なウォーキング方法（ノルディックウォーキング，有酸素運動）	
第11回	ストレッチングの基礎と実際（地域での運動の取組）	
第12回	日常生活の中での筋力トレーニング，ウォーミングアップとクーリングダウン（貯筋運動）	
第13回	スポーツと外食，市販食品（賢い選び方，食べ方）	
第14回	健康管理と運動指導（運動障害と予防，応急措置）	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	意欲的な学習態度や予・復習の状況などをアンケート調査によっても評価する。
レポート	10	課題について具体的に作成できていること。コメントを記入後，返却する。
小テスト	15	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	具体的な運動手法を習得するために，実践を学ぶという意識を持って受講すること。
授業外学修	（１）授業の初めに予習に関するテストを行うので，テキストや参考文献を次回学習までに読む。 （２）前回授業内容に関するテストも行うので，１時間以上復習する。 （３）随時に出す課題について取り組む。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
戦う身体をつくるアスリートの食事と栄養	田口素子	ナツメ社	978-4-8163-4323-0	1，300円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「健康運動実践指導者用テキスト」公益財団法人 健康・体力づくり事業財団事業団発行 「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平・樋口満 編著者 第一出版
その他	授業内容に応じて，教室を変更する場合がある。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．健康づくりと運動について説明できる。	健康づくりと運動について具体的に説明できる。	健康づくりと運動について説明できる。	健康づくりと運動について理解している。	健康づくりと運動について理解が不十分である。	健康づくりと運動について理解していない。
知識・理解	２．運動と栄養について説明できる。	運動と栄養について対象者別に具体的に説明できる。	運動と栄養について対象者別に説明できる。	運動と栄養について対象者別に理解している。	運動と栄養について対象者別の理解が不十分である。	運動と栄養について理解していない。
知識・理解	３．運動指導について説明できる。	運動指導について具体的に説明できる。	運動指導について説明できる。	運動指導について理解している。	運動指導について理解が不十分である。	運動指導について理解していない。
態度	１．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に発言し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	授業に参加しているが、十分に内容を理解していない。	授業の内容を理解していない。

科目名	専門英語			授業番号	NU413	サブタイトル			
教員	赤木 收二								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	管理栄養士に期待される、傷病者の療養に関する栄養の指導・管理を行うためには，食・栄養と各種疾患に関わる最新の知見をふまえた職務遂行が求められるが，現状では，大半の最新情報は英語を用いて発信されている。さらに，実臨床の現場でもそのコミュニケーションを行うために，英語表記の専門用語が用いられる機会が多い。本授業では，栄養学に関する成書・論文を輪読，講読することにより，英文の正確な読解力を養い，同時に，専門用語，医学的表現法および引用論文の活用などについて理解を深めることを目的とする。								
到達目標	1. 食・栄養に関連する文献でよくみられる専門用語，表現について説明できる。 2. 英語文献を確実に読解でき，その内容を理論的に説明できる。 3. 文献に示された引用文献の活用しながら，その内容を説明できる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考	第1回 各回に用いられる資料配布と授業の進め方等の説明 第2 ～15回 資料について担当学生による説明，発表を行い，その内容について全員で議論する。								
授業計画 自由記載									
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	授業中の質疑応答，課題レポートを総合的に判断する。

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては，コメントを記入して返却する。
受講の心得	
授業外学修	毎週最低1時間は講義内容の予習復習に充てること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は指定しないが，辞書を授業に持参すること(高校で用いていたレベルでかまわない)。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Modern Nutrition in Health and Disease, 11th ed.	C Ross, B Caballero, RJ Cousine, et al. eds.	JONES & BARTLETT LEARNING	978-1-6054-7461-8	33，060円(税込)

参考書：自由記載	購入の必要なし。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として医療機関で診療に従事(35年)。また，産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画(10年)。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	管理栄養士の実務に即し，実臨床上有用な内容に重点を置きながら，授業を進める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	食・栄養に関連する文献でよくみられる専門用語，表現について説明できる。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない
知識・理解	英語文献を確実に読解でき，その内容を理論的に説明できる。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない
思考・問題解決能力	文献に示された引用文献の活用しながら，その内容を説明できる。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいづれも目標到達していない

科目名	フードコーディネート論			授業番号	NU414	サブタイトル			
教員	山﨑 真未								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	フードコーディネーターとは，『新しい食の「ブランド」「トレンド」を作る，食の「開発」「出演」「運営」のクリエイター』と定義されている。 そこで本講義では，料理を提供する場面で快適な食事ができるための料理・メニュー・食卓・食空間を含めた食（フード）のコーディネートについて講義する。								
到達目標	本講義では，レストランやファストフードをはじめとする外食産業のオープニングからメニュープランニング，ビジネス展開の計画まで，さらに，料理を盛り付ける食器や，テーブルクロス，照明や色彩など快適な食空間をトータルにコーディネートできる力を身につける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	フードコーディネートとは	
第2回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～日本料理～	
第3回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～歴と旬～	
第4回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～外国の食事～	
第5回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～食品・食材の知識～	
第6回	科学（健康と栄養と安全）～厨房の基礎知識～	
第7回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間のあり方と内装デザイン～	
第8回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～照明計画～	
第9回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（洋食）～	
第10回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（和食）～	
第11回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（中国料理）～	
第12回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～カラーコーディネート～	
第13回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～テーブルマナーとサービス～	
第14回	経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）～フードマネジメント～	
第15回	経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）～食の企画・構成・演出の流れ～	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	出席率、授業態度を評価する。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	これまでに学んできた専門教育科目の基本的事項の理解と復習を行うこと。また，食に関する新聞記事等に関心をもち，読むなど積極的に学修すること。
授業外学修	(1)予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 (2)復習として，小テストの見直しをする。 (3)発展学修として，食に関する新聞記事等を読み，まとめる。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新･フードコーディネーター教本	特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会	柴田書店		3000
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」の知識を身につけている	食の歴史と文化と風土について、授業内容を超えて自主的な学修が認められる。	食の歴史と文化と風土についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	食の歴史と文化と風土について十分な知識を身につけている。	食の歴史と文化と風土についての知識が不十分である。	食の歴史と文化と風土についての知識が身についていない。
知識・理解	2．科学（健康と栄養と安全）「厨房の基礎知識」を身につけている	健康と栄養と安全について、授業内容を超えて自主的な学修が認められる。	健康と栄養と安全についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	健康と栄養と安全について十分な知識が身についている。	健康と栄養と安全についての知識が不十分である。	健康と栄養と安全についての知識が身についていない。
知識・理解	3．デザイン･アート（食環境デザインと芸術的創造性）の知識を身につけている	食環境デザインと芸術的創造性について、授業を超えて自主的な学修が認められる。	食環境デザインと芸術的創造性についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	食環境デザインと芸術的創造性について十分な知識が身についている。	食環境デザインと芸術的創造性についての知識が不十分である。	食環境デザインと芸術的創造性についての知識が身についていない。
知識・理解	4．経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）の知識を身につけている	経済的概念と食関連事業経営実務について、授業内容を超えて自主的な学修が認められる。	経済的概念と食関連事業経営実務についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	経済的概念と食関連事業経営実務について十分な知識が身についている。	経済的概念と食関連事業経営実務についての知識が不十分である。	経済的概念と食関連事業経営実務についての知識が身についていない。
態度	1．授業に積極的に取り組むことができている	授業や課題へ積極的に取り組むことができている。さらに、予習・復習に自主的に取り組み、疑問点を明らかにし、質問ができている。	授業や課題へ積極的に取り組むことができている。	授業に出席し、課題にも取り組めている。	授業には出席しているが、課題に十分に取り組めていない。	授業を休み、課題にも取り組めていない。

科目名	管理栄養士専門演習			授業番号	NU418	サブタイトル	(全科目の復習と模擬試験)		
教員	坪井 誠二、多田 賢代、赤木 收二、井之川 仁、小野 尚美、波多江 崇、大桑 浩孝、北島 葉子、橋本 晃子、安原 幹成、木野山 眞紀、古川 愛子								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	３年後期までに学習した全科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，さらに知識と理解を深める。自主学習をグループ別に実施し，グループでの知識の確認を行う。必要に応じて教員による講義を実施し，理解不十分な内容について解説する。模擬試験を定期的に実施し，学習到達度を測るとともに，以後の学習計画のための指標とする。								
到達目標	・管理栄養士資格の取得を目指し，知識を統合し，問題解決能力を高める。 ・専門職として，生涯を通して自律的に学習を継続する力を身につける。 ・本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	前期オリエンテーション時に本授業での到達目標、各分野の講義スケジュール、到達目標達成のための本授業での取組などについて説明を行う。								
授業計画 自由記載	第1～15回（全担当者交代） (1)自主学習：栄養セミナーIV等のグループ単位で目標を定め，模擬試験の解説・見直し等を行う。 (2)自己学習：模擬試験の振り返り，教科書の見直し等を行う。 (3)講義：各教員により，講義内容の再確認，模擬試験の解説等を行う。 (4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き，理解度の指標を得る。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
模擬試験		
定期試験	100	最終的な理解度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	大学生活の最終年度にあたることを自覚し，目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し，学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し，確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから，欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	『管理栄養士国家試験問題集』，日本給食管理専門学院 編，中央法規 『クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説』，医療情報科学研究所 編，MEDIC MEDIA 『受験必修キーワード集』，女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編，女子栄養大学出版部

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『管理栄養士国家試験の要点』，栄養セントラル学院 編，中央法規 『国試の麗人』，RDC管理栄養士センター 監修，RDC管理栄養士センター札幌校 『管理栄養士国家試験の傾向と対策』，管理栄養士教育研究会 編，南江堂
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．３年間で学修した内容を理解している。	３年間で学修した内容について、正確に理解し述べることができる。	３年間で学修した内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	３年間で学修した内容について、大体述べることができる。	３年間で学修した内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	３年間で学修した内容について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1．３年間で学修した知識をもとに健康維持について考えることができる。	課題に対して、論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
態度	1．演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	教職概論			授業番号	NV101	サブタイトル			
教員	森寺　勝之								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教職概論では，教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。栄養教諭の免許取得のための最低限の職業論（教職の全体像をつかむとともに，教職に関する基礎的な知識）を学習する。								
到達目標	教育公務員・栄養教諭の役割や職務内容等について，制度的，実体的側面から理解するとともに，必要な法令遵守，社会規範や教職・教育に対する使命，モラル，マナー等を自覚し，実践する態度を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの生活と学校 現代の子どもの現状を考えよう	
第2回	学習指導 さまざまな学習指導の内容について知ろう	
第3回	生徒指導・進路指導 新生徒指導提要等から生徒指導の内容を知ろう	
第4回	教育相談 指導に生かす教育相談の手法について知ろう	
第5回	学級経営 子どもが輝く学級経営について知ろう	
第6回	教師に何を求めてきたか考えよう いま何が求められているか考えよう	
第7回	児童生徒と教師 学ぶことと教えることについて考えよう	
第8回	教員養成の制度 教員養成や栄養教諭について考えよう	
第9回	教職課程 教職課程の仕組みと内容について知ろう	
第10回	教員の採用 教員採用の仕組みについて知ろう	
第11回	教員の研修 教員研修の種類と法的根拠等について知ろう	
第12回	教員の地位と身分 地位と身分に関係する法令を知ろう	
第13回	教員の待遇と勤務条件 教員の勤務等について知ろう	
第14回	学校制度 さまざまな学校制度について知ろう	
第15回	学校管理・運営体制 学校の管理体制や運営体制について知ろう	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表の有無，ノート整理，予習復習の状況によって評価する。
レポート	30	課題に対して意欲的に取り組めているか，自分の考えでまとめられているか等で評価する
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教育公務員(栄養教諭)の教員免許取得の基礎単位であることから，受講に際しては，教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに，現在の学校教育の課題や教育職員の社会的使命について真剣に考えること。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点をあらかじめ調べたりしておく。 ２．復習として，課題のレポートやノート整理をする。 ３．発展的学習として，教育に関するニュース収集をし，自分の見解を述べられるようにする。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教職入門　教師への道	藤本典裕	図書文化	978-4-8100-9720-7	1800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年，岡山県教育委員会専門的教育職員16年，小学校校長7年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教職に関する基礎的な事柄について，教員や学校長，県教育教育委員会専門的教育職員としての実践をもとに，より具体的な講義を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育公務員の役割や職務内容等について、制度的、実体的側面から理解している	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、講義内容を超え、自主的な学修が認められ、幅広くかつ深く理解している	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、講義内容をほぼ１００%理解している	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、講義内容をおおむね理解している	教育公務員・栄養教諭の役割や職務内容等について、理解しているが十分ではない	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、基本的な考え方が理解できていない
態度	１．教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を自覚し、実践しようとしている	講義内容を超え、教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を自覚し、求められる教師像を生活や学修に実践しようとしている	講義内容のほぼ１００%を自覚し、教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等について常に実践しようとしている	講義内容をおおむね自覚し、教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等について実践しようとする態度が見られる	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等について、他のアドバイスやよきモデルがれば、が実践しようとしている。	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等について、他のアドバイスやよきモデルがあってもなかなか実践できない。

科目名	教育原理			授業番号	NV102	サブタイトル			
教員	森寺 勝之								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で，現代社会における教育課題を踏まえ，これらの問題解決の一助となるよう，今一度，教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため，将来，教育に携わる者が，最低限，知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学修する。 また，教育の基本的な事項について学修していく。特に，教育とは何かという根源的な問いと，教育行政や学校教育制度といった，児童・生徒の立場からは捉し得ない事象に重点を置いて講義する。								
到達目標	教育の基本的な事項について学び，将来，教育に携わる者が，最低限，知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について理解できるようになる。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。 教育の目的や教育の歴史，教職という仕事，日本の教育問題等について問題を見出し，解決方法を探究し，次の問題の発見・解決につなげることができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの発達と教育の目的 子どもの発達・教育の目的を理解する	
第2回	教育とは何か 教育の目的の歴史を理解する	
第3回	教育の歴史(1) 学校の歴史 学校の歴史をを理解する	
第4回	教育の歴史(2) 海外の教育 海外の教育を理解する	
第5回	教育の歴史(3) 海外の教育史(近代の教育思想) 海外の教育思想を理解する	
第6回	教育の歴史(4) 海外の教育史(近代教育学の成立) 海外の近代の教育史を理解する	
第7回	教育の歴史(5) 日本の教育史 日本の教育史を理解する	
第8回	「教える」という仕事(1) 教育課程と授業の計画 教育課程・授業計画を理解する	
第9回	「教える」という仕事(2) 教育課程と授業実践 教育課程・授業実践のあらましを理解する	
第10回	「教える」という仕事(3) 教育評価 教育評価の歴史や現代の評価を理解する	
第11回	「教える」という仕事(4) 学校・学級経営 学校経営や学級経営について概要を理解する	
第12回	学び続ける教員となるために 教員としての不可欠な資質を考える	
第13回	社会教育と生涯学習 社会教育や生涯学習の概要を理解する	
第14回	地域社会と学校 学校と地域社会の連携について理解する	
第15回	現代日本の教育問題 現代の教育に関係する様々な課題を理解する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表の有無，ノート整理，予習復習の状況等によって評価する。
レポート	30	課題に対して，意欲的に取り組めているか，自分の考えがまとめられているか等で評価する。
小テスト		
大テスト	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教育公務員・栄養教諭の教員免許取得の基礎単位であることから，受講にに際しては，教育公務員を志願するにふさわしい，言動の在り方を常に考えるとともに，現在の学校教育の課題と教育公務員(栄養教諭)の社会的使命について真剣に考えること。 テキストを事前に読み，疑問点をあらかじめ調べたりすること。また，学修したことをノートに整理したりすること。
授業外学修	週当たり4時間以上，テキストを読むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育原理	島田和幸・高宮正貴	ミネルヴァ書房	978-4-623-08176-9	2200
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年,岡山県教育委員会専門的教育職員16年,校長7年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校や教育行政，小学校長としての経験をもとに，教育の歴史や制度等の基本的な事項について，具体例をもとに，できるだけわかりやすい講座としたい。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について理解している	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、講義内容を超えた自主的な学修が認められ、幅広くかつ深く理解している	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、講義内容をほぼ100%理解している	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、。講義内容をおおむね理解している	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について理解しているが、十分ではない。	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、基本的な事項が理解できていない。
思考・問題解決能力	１．教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができる	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、講義内容を超え、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができる	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることが、ほぼ100%できる	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることがおおむねできる	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができるが、十分でない	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができない

科目名	教育心理学			授業番号	NV103	サブタイトル			
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。 この授業では，子どもの学びと適応の支援という視点から，教育に関する心理学的知見を広く扱う。								
到達目標	実際に教育現場に立つ際，児童・生徒の理解を助けるために必要となる，心理学的な視点の基礎を，講義を通じて身につけることを目指す。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育心理学とは 教育心理学とはどのような学問で，教職のための何について学ぶのかを理解する。	
第2回	心身の発達① 乳幼児期の発達 乳幼児期の心身の発達の姿と，発達を支援する教師や保育者のかかわりについて理解する。	
第3回	心身の発達② 児童期・青年期の発達 児童期・青年期の発達の特徴やその個人差，またその背景にあるものを理解し，教師としてかかわることの意味を考える。	
第4回	学びのメカニズム① 学習と知識獲得 心理学で言う「学習」の意味を理解したうえで，どのようなときに学習が生じるのかを考える。	
第5回	学びのメカニズム② 認知情報処理と記憶 人間の心の働きを情報処理になぞらえて捉える認知心理学の視点から，学校における学びを考える。	
第6回	学びのメカニズム③ 動機づけと学習 学びにおいて重要な役割を果たす動機付けの理論や機能，また動機づけの高め方について考える。	
第7回	認知発達と学習支援 知識獲得のプロセスを踏まえ，子どもの学びと効果的な学習指導や授業づくりを考える。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	学級集団と学習支援 学級をはじめとする子どもたちの集団の特徴や人間関係がどのように学習効果に影響するかを理解する。	
第10回	個性や個人差と学習支援 性格や認知特性に関する理論を踏まえて子どもの個性や個人差の捉え方を理解し，学びとの関係を考える。	
第11回	教育評価 教育評価の理論と方法について，また子どもの学力や知能について，考え方や測定方法を理解する。	
第12回	特別な支援と教育心理学① 障害の基本的理解 発達障害の特性のある子どもに対する適切な理解と，それに基づいた配慮のあり方について理解する。	
第13回	特別な支援と教育心理学② 障害児への教育的支援 発達障害の特性のある子どもの苦手なものごとの把握と，適切な手立ての実際について理解する。	
第14回	学校教育を取り巻く諸問題 個々の子どもに起きる学びや適応などについて，第13回までとは異なる視点から取り上げ，紹介する。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前にテキストを読み，4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！教職エクササイズ2　教育心理学	田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	978-4-623-08177-6	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	教育課程総論			授業番号	NV204	サブタイトル			
教員	森寺　勝之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに，教育課程に関する法令や学習指導要領総則等について学修する。								
到達目標	・教育課程関係の法令や学習指導要領総則について学び，求められる教育課程について理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。 ・教育課程の意義・編成の方法について問題を見出し，解決方法を探究し，解決につなげることができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育課程について 意義と定義，教育課程の法的根拠を考える	
第2回	学習指導要領 「前文」について理解する	
第3回	学習指導要領の変遷 変遷についてその特徴を理解しよう	
第4回	学習指導要領の改訂 改訂の経緯を理解しよう	
第5回	学習指導要領の総則1 総則の前半の内容を理解しよう	
第6回	カリキュラム・マネジメント 意義と定義を理解しよう	
第7回	学習指導要領の総則2 学習指導要領の総則の中盤の内容を理解しよう	
第8回	学校経営のサイクルとカリキュラム・マネジメント カリキュラム・マネジメントの各プロセスを理解しよう	
第9回	学習指導要領の総則3 学習指導要領の後半の内容を理解しよう	
第10回	カリキュラムの評価 カリキュラムマネジメントの活性化や重点目標について考える	
第11回	学習指導要領の解説1 解説の前半を理解しよう	
第12回	アクティブ・ラーニングの定義と導入の教育行政的経緯 アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントの連動について	
第13回	学習指導要領の解説2 解説の後半の内容を理解しよう	
第14回	社会に開かれた教育課程 理念とその背景,カリキュラム・マネジメントについて	
第15回	社会に開かれた教育課程 食育による実践を考えよう	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表の有無，ノート整理，予習復習の状況等によって評価する。
レポート	30	課題に対して，意欲的に取り組めているか，自分の考えでまとめられているか等で評価する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	これからの時代に求められる新たな教育環境を創るために，教育課程からカリキュラム・マネジメントまで学びます。 教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。 配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理すること。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートやノートを整理する。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領	文部科学省	東洋出版	978-4-491-03460-7	201
小学校指導要領解説総則編	文部科学省	東洋出版	978-4-491-03461-4	155
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年　岡山県教育委員会専門的教育職員16年　小学校校長7年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校教育における教育課程の編成やカリキュラムマネジメントについて，教員や学校長，専門的教育職員としての実践をもとにした講義を行うこなう			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育課程関係の法令や学習指導要領等について学修し、求められる教育課程について理解している。	教育課程関係の法令や学習指導要領等について学修し、求められる教育課程について、講義内容を超えた自主的な学修が認められ、幅広くかつ深く理解している。	教育課程関係の法令や学習指導要領等について学修し、求められ教育課程について、ほぼ100%理解している。	教育課程関係の法令や学習指導要領等について学修し、求められ教育課程について、おおむね理解している。	教育課程関係の法令や学習指導要領等について学修し、求められ教育課程について理解しているが、十分でない。	教育課程関係の法令や学習指導要領等について学修し、求められ教育課程について、基本的な事項が理解できていない。
思考・問題解決能力	１．教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることについて、講義内容を超えた自主的な学修が認められ、幅広くかつ深くできる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることが、ほぼ100%できる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることが、おおむねできる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができるが、十分でない。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができない。

科目名	教育方法学			授業番号	NV205	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法，技術を教授するとともに，情報機器及び教材の活用について教授する。								
到達目標	・子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。 ・教育の目的に適した指導技術を理解し，身につける。 ・情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，（知識・理解）（技能）の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育の方法(1)　これまで受けてきた教育の方法 これまで受けてきた教育はどのような教育方法であったかを振り返る。	
第2回	教育の方法(2)　教育的な教育の方法とは 教育的に教育するための方法とはどのようなものかを考える。	
第3回	教育の方法(3)　教育方法の歴史(1)ソクラテス 古代から教育の方法は工夫されてきた。ソクラテスが編み出した「産婆術」とはどのような教育方法か？	
第4回	教育の方法(4)　教育方法の歴史(2)ヘルバルト 近代を代表するヘルバルトによる「４段階教授法」とその弟子たちが編み出した「５段階教授法」を学ぶ。	
第5回	教育の方法(5)　教育方法の歴史(3)デューイ 戦後日本の教育方法に大きな影響を及ぼしたデューイの「問題解決学習」を学ぶ。	
第6回	教育の方法(6)　今求められている教育方法 今、求められている教育方法を「学習指導要領」等から学ぶ。	
第7回	情報機器及び教材の活用(1)　プログラム学習からICT活用授業へ 1960年代後半に登場した、コンピュータを活用した教育方法の出発点となった「プログラム学習」から今日のICT活用授業活用授業までの変遷を学ぶ。	
第8回	情報機器及び教材の活用(2)　ICT活用授業と個別最適な学び・協働的な学び 中央教育審議会が提起した「個別最適な学び」「協働的な学び1」の実現に対してICTの活用が有効であることを学ぶ。	
第9回	教育の技術（1）　相互主体的な授業のための技術（1） 今求められる相互主体的な授業を実践するためのポイントを理解する。	
第10回	教育の技術（2）　相互主体的な授業のための技術（2） 今求められる相互主体的な授業を実践するための教育内容の設定の仕方について理解する。	
第11回	教育の技術（3）　相互主体的な授業のための技術（3） 今求められる相互主体的な授業を実践するための教材開発の仕方について理解する。	
第12回	教育の技術（4）　相互主体的な授業のための技術（4） 今求められる相互主体的な授業を実践するための教授行為の工夫の仕方について理解する。	
第13回	教育の技術(5)　指導プランの作成(1) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。	
第14回	教育の技術(6)　指導プランの作成(2) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。	
第15回	教育の技術(7)　指導プランの作成(3) これまで学習してきたことを踏まえて作成した指導プランを発表する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	本科目で学習したことを理解し，論理的に叙述すること
小テスト	40	各回の授業に提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。
定期試験		
指導プラン	30	授業で作成する指導プランの面白さ、緻密さ、妥当性

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業の最後に小テストを行うので，授業内容をしっかりと理解しようとし，不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配付している資料をあらかじめ読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業の中でプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，授業の中で紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を説明できる。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展も視野に入れて今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展は理解していないが、今日求められる教育方法は理解している。	歴史的な教育方法の発展も今日求められる教育方法も理解していない。
知識・理解	２．教育の目的に適した指導技術を理解する。	教育の目的に適した指導技術を深く理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解している。	教育の目的に適した指導技術の基本を理解している。	教育の目的に適した指導技術をだいたい理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解していない。
技能	１．情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を十分身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力をだいたい身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を少し身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につけようとしている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につけようとしていない。

科目名	生徒指導の理論と方法 全8回			授業番号	NV206	サブタイトル			
教員	藤井 裕士								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，生徒指導上の諸問題への対応について講義し，演習を通して理解を深め問題解決能力を高める。								
到達目標	一人一人の児童生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し，全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，問題行動等への対応について理解することができる。また，個別の課題に対する問題解決能力を高める。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第１回：生徒指導の基礎（１） 　生徒指導の意義や目的等について理解を深める。 第２回：生徒指導の基礎（２） 　集団指導と個別指導，カウンセリング等について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。 　学校における栄養教諭の立場を知り,生徒指導上の児童生徒への関わり方を考える。 第３回：生徒指導と教育課程 　教育課程上の生徒指導の位置づけや各教科等との関連について理解する。 第４回：チーム学校による生徒指導体制 　生徒指導体制や法制度等について理解する。 第５回：個別の課題に対する生徒指導（１） 　いじめ，暴力行為，少年非行について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。 第６回：個別の課題に対する生徒指導（２） 　児童虐待，自殺について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。 第７回：個別の課題に対する生徒指導（３） 　不登校,インターネットに関わる問題への対応について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。 第８回：生徒指導上の問題への対応 　性に関する課題，多様な背景を持つ児童生徒への対応について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度，発表・討議への参加によって評価する。
レポート		
小テスト	15	各回の主要なポイントの理解を，授業後に行う小テストにより評価する。
定期試験	55	最終的な理解度を評価する。
その他	15	発表や演習に対する意欲・態度によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2　発表や討議に積極的に取り組むこと。 3　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，テキストを読み授業内容の理解を深める。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社	9784491051758	990円（税込み）
使用テキスト：自由記載	同名の書籍が存在するが，令和4年12月に改訂された最新のものを準備すること。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校教諭（14年）の経験から,生徒指導に関する理解を深めることができるように，学校現場における事例を紹介する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．生徒指導の目的,重要性,及びそれに関連する法制度に関して理解している。	生徒指導の基本理念と関連する法制度について深い理解を持ち,具体的な事例を用いて詳細に説明できる。	生徒指導の基本理念と法制度について正確な理解があり,事例を用いて説明できるが,Aレベルほどの深さはない。	生徒指導の基本的な理念と法制度を理解しているが,詳細な説明や事例の適用に若干の不足がある。	生徒指導の理念と法制度の理解が不完全で,誤解を含む可能性がある。	生徒指導の基本理念や法制度についての理解がほとんどなく,重要な点を見落としている。
思考・問題解決能力	１．児童・生徒の問題行動や個別の課題に対する具体的な対応策の考案することができる。	児童・生徒の問題行動に対する深い理解を基に,効果的かつ独創的な対応策を立案し,実践できる。	児童・生徒の問題行動に対して適切な対応策を立案し,実践する能力があるが,Aレベルの独創性や深い理解はやや欠ける。	児童・生徒の一般的な問題行動への基本的な対応策を知っており,実践できるが,複雑な問題への対応には限界がある。	児童・生徒の基本的な対応策は知っているが,効果的な実践への適用が不十分である。	児童・生徒の問題行動への対応策の理解や実践能力が著しく不足している。

科目名	教育相談			授業番号	NV207	サブタイトル	(カウンセリングを含む)		
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。								
到達目標	教育相談で扱うさまざまな問題に対し，不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し，カウンセリング・マインドを身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育相談とは 教育相談の必要性と意義について理解し，これからの時代の教師に求められる心理的援助の資質について理解を深める。	
第2回	カウンセリングの理論 子どもや保護者の相談対応を行う上で重要となる，カウンセリングの考え方を解説する。	
第3回	カウンセリングの技法 クライエントとのコミュニケーションに有効となる，カウンセリングの基本的な技法を解説する。	
第4回	いじめ・不登校への対応 いじめおよび不登校の現状と構造を理解し，教育相談や支援としてどのようなことができるかを考える力を身につける。	
第5回	学級崩壊・学級経営の問題への対応 学級崩壊の実情と回復ポイントを理解し，学級崩壊にならないための学級経営を考える力を身につける。	
第6回	虐待・いのちの教育への対応 保護者やそれ以外の者によって子どもの命が奪われる事件の現状を知り，必要な対応や支援を考える力を身につける。	
第7回	非行・学校不適応への対応 「問題行動」という言葉が何を指すのか，その概念を紐解きながら非行や学校不適応への理解と対応を考える。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	発達障害への対応 個別性が非常に高い発達障害について，その対応を共生社会に向けたインクルーシブ教育の観点から解説する。	
第10回	心の病への対応 児童期から青年期にみられる心の病気についてその概要を解説し，教師として何ができるか考える力を身につける。	
第11回	校内・他機関との連携 スクールカウンセラーを始めとする校内のさまざまな立場の職員との連携および他機関との連携について学ぶ。	
第12回	アセスメント：観察・面接 子どもの状態を適切に把握し，支援するアセスメントについて，ここでは行動観察および面接の方法について学ぶ。	
第13回	アセスメント：心理検査 専門機関やスクールカウンセラーなどとの連携を踏まえ，心理検査についての概論および留意点を学ぶ。	
第14回	家庭の理解と保護者への支援 今の親が置かれている状況を理解したうえで，ともに子どもを育てていく方法を考える。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前に，テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！教職エクササイズ3　教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	978-4-623-08178-3	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	特別支援教育概論			授業番号	NV208	サブタイトル			
教員	中 典子、池谷 航介								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で，特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に，特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解，教育課程，支援の方法を学ぶ中で，学校と関係機関との連携のあり方について講義する。								
到達目標	保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では，幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。	池谷航介
第2回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。	池谷航介
第3回	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法，発達障害者総合支援法，障害者の権利に関する条約の内容を理解する。	池谷航介
第4回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活への配慮 授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。	池谷航介
第5回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。	池谷航介
第6回	発達障害をはじめとする障害のある子どもへの配慮 合理的配慮について理解する。	中 典子
第7回	「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。	池谷航介
第8回	「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別指導計画」と「個別教育支援計画」を実際に記載し，その意義と方法を理解する。	池谷航介
第9回	学校と家庭との連携のあり方 個別の教育支援計画を作り，暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。	中 典子
第10回	学校と地域の関係機関との連携のあり方 学校をとりまく社会資源についての情報を収集し，連携の方法を理解する。	中 典子
第11回	多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。	中 典子
第12回	多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。	中 典子
第13回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活 子どもの貧困対策について理解する。	中 典子
第14回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方 学習環境を整えるための支援について理解する。	中 典子
第15回	多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要が理解する。	中 典子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、発表への参加、予・復習の状況によって評価する。
小テスト	45	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	45	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業開始前までに事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
無				

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭，特別支援学校教諭(池谷航介)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし，様々な障がいを有する児童・生徒への対応について指導する。(池谷航介)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方が理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方の理解が十分でない	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方が理解できない
思考・問題解決能力	１．幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の基礎を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることが十分でない	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができない

科目名	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法			授業番号	NV209	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校・中学校の教育課程の編成について概観し，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標，内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに，小学校・中学校校における学習活動としての道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め，各内容の実践的課題を整理する。								
到達目標	学習指導要領に示された道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。＜知識・理解＞ 小学校・中学校の教師として，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。＜思考・問題解決能力＞ なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	道徳教育の意義と目標・内容 学習指導要領に示された道徳教育の意義と目標・内容について理解する。	
第2回	道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題 戦前の修身から戦後の「道徳の時間」の設置，更に「道徳科」への教科化に至る道徳教育の歴史的変遷と現代社会における道徳教育の課題について理解する。	
第3回	道徳性の発達 コールバーグの道徳性発達段階やセルマンの役割取得能力の発達段階について道徳教育の観点から理解する。	
第4回	総合的な学習の時間の意義と目標・内容 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の意義と目標・内容について理解する。	
第5回	総合的な学習の時間の指導計画 各学校の実情に応じた総合的な学習の時間の目標や内容の設定の仕方，指導計画について理解する。	
第6回	総合的な学習の時間の学習指導案 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから示された学習指導案の様式に沿って総合的な学習の時間の学習指導案の書き方を習得する。	
第7回	総合的な学習の時間の指導と各教科等との関連 各教科や特別活動と総合的な学習の時間との関連について理解する。	
第8回	総合的な学習の時間の評価 設定した目標に対して，パフォーマンスやポートフォリオを用いて評価する方法を習得する。	
第9回	特別活動の意義と目標 学習指導要領に示された特別活動の意義と目標について理解する。	
第10回	特別活動と各教科等との関連 各教科や総合的な学習の時間と特別活動との関係について理解する。	
第11回	特別活動の内容 学習指導要領に示された，学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事の内容について理解する。	
第12回	特別活動の指導と評価 学級活動における集団指導や個別指導及び設定した目標に対する，パフォーマンスやポートフォリオを用いて評価する方法を習得する。	
第13回	特別活動の学習指導案 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから示された様式に沿って学習指導案を記述する方法を習得する。	
第14回	模擬授業 学級活動において食育の題材について教材研究を行い，模擬授業を通して実践的指導力を身に付ける。	
第15回	特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携 学級活動や学校行事において家庭・地域住民や関係機関と連携する方法について習得する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	10	課題について，要点や自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し解説する。
定期試験	60	最終的な知識や理解の度合いを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　道徳編	文部科学省			
小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編	文部科学省			
小学校学習指導要領解説　特別活動編	文部科学省			
中学校学習指導要領解説　特別活動編	文部科学省			
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『新しい特別活動指導論』，高旗正人・倉田侃司　編著，ミネルヴァ書房，2004年			
その他	毎回，授業ノートを提出するので，ルーズリーフのノートを用意すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭（15年），県教育ｾﾝﾀｰ（９年）（佐々木弘記）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学習指導要領に示された道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解できる。	学習指導要領に示された道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範に理解している。	学習指導要領に示された道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分理解している。	学習指導要領に示された道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分理解していない。	学習指導要領に示された道徳，総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を理解していない。
思考・問題解決能力	１．中学校，高等学校の教師として，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。	中学校，高等学校の教師として，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を広範かつ詳細に身に付けている。	中学校，高等学校の教師として，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を広範に身に付けている。	中学校，高等学校の教師として，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分身に付けている。	中学校，高等学校の教師として，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分身に付けていない。	中学校，高等学校の教師として，道徳，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を身に付けていない。

科目名	学校栄養教育実習研究			授業番号	NV410	サブタイトル			
教員	岡﨑 恵子、森寺 勝之								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校・中学校で行う学校栄養教育実習を有意義かつ充実した学習とするための演習を中心とした科目である。教育実習の実際について学び栄養教諭としての意識を高めるとともに，教材研究・模擬授業などの授業を通し教育実習に向けて実習課題の検討，準備を行う。								
到達目標	・実際の教育現場に入るにあたって心構えができるようになる。 ・教育実習に向けて指導案・指導媒体の作成，授業の進め方等の技能を身に付け，準備することができるようになる。 ・より良い教育実習になるよう模擬授業を通して検討し考え，相互評価ができるようになる。 ・学校栄養教育実習に向けて，ふさわしい態度を養うことができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 学校栄養教育実習の意義 〇プロとしての栄養教諭について，より理解を深める。 第2回 学校栄養教育実習の事前指導 〇教育実習の概要・実習課題の検討・実習日誌の書き方・教育実習校との打合せ・連絡 〇教育実習に向けて，前向きに取り組む心構えや具体的な準備をする。 第3回～4回 個別的な相談指導，クラス経営，学校経営 〇個人差への配慮・食物アレルギー，偏食，肥満・痩身傾向 等・教師の援助の仕方・考え方・小中学校教育・指導の特質 〇栄養教諭として，子ども理解をするための基本的なことを再確認する。 第5～9回 学校栄養教育実習の実際 〇教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究，学習指導案の作成)，検討，ディスカッション 第10～15回 実習校との打合せ，模擬授業，相互評価，媒体作り 〇栄養教諭一種 教育実習に向けて，大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。								
授業計画 備考2	授業形態は演習がメインになるが，教育実習に向けて講義もある。								

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。
定期試験		
その他	70	指導案，課題等の提出物の内容を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・栄養教諭を目指す者としての自覚に立ち，それぞれの状況を想定しながら積極的に授業に臨むこと。 ・学校栄養教育実習および学校栄養教育指導法IIと深く関連する科目であることを意識して授業に臨むこと。 ・教材研究においては，専門的な様々な知識を活かして臨むこと。 ・学校教育の様々な課題に関心をもち，栄養教諭の社会的使命について考えること。
授業外学修	・教育に関する時事問題に関心をもち，新聞やニュース等を把握しておくこと。 ・小中学校の教育現場を想定して，授業を進めるので課題やテキスト等の予習・復習を必ずしておくこと。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	「学校栄養教育実習書」， 学校栄養教育指導法I，IIで使用したテキスト

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	担当教員が提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	○管理栄養士：地方自治体（公立小学校・中学校・学校給食センター・教育行政・高齢者福祉）35年 ○小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長　（39年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	担当教員の実務経験を活かし、学生が教育実習に向けて心構え・態度を身に付けることができるようにする。また、教育実習での食に関する指導の実践に向けて指導案・媒体等を準備し授業ができる技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を広範かつ詳細に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を広範に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解していない。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を理解していない。
思考・問題解決能力	１．より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、広範かつ詳細に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、広範に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、十分に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、十分に相互評価ができない。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができない。
技能	１．食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を広範かつ適切に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を広範に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を十分に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を十分に身に付け準備することができない。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を身に付け準備することができない。
態度	１．教育実習に向けて心構えができるようになる。	教育実習に向けて心構えがより一層できるようになる。	教育実習に向けて心構えが一層できるようになる。	教育実習に向けて心構えが十分にできるようになる。	教育実習に向けて心構えがあまりできない。	教育実習に向けて心構えができない。

科目名	学校栄養教育実習			授業番号	NV411	サブタイトル			
教員	岡﨑 恵子								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	学校栄養教育実習は，大学等で学んだ理論を実践的な検証を通して，栄養教諭の職務の実際を知り理解を深める。教育実習校の現場で生徒指導，教育内容，指導方法を体験・研究する。教育実習中は，実習校の指導のもと食に関する指導について，特別活動や他教科との関連の実際を深く理解すると共に，実際に授業を展開し実践的指導力を身に付ける。大学は実習校と連携して学生の指導にあたる。原則，実習校は出身校とし，１週間（５授業日）以上の教育実習に取り組む。学校栄養教育実習後は，報告会を行う。								
到達目標	・教育現場の実際を知り，教育活動全般について理解を深めることができるようになる。 ・栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。 ・子ども理解を深めることができるようになる。 ・学習の基盤となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。 ・自他の授業を検討し，食に関する指導に生かすことができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1 校長，教頭，教務主任による実習受入校での指導(学校経営，校務分掌の理解，服務) 2 給食主任，学級担任，栄養教諭（学校栄養職員）による実習受入校での指導 3 養護教諭による実習受け入れ校での指導 4 校内における連携，調整（校内研修会，職員会議等）の参観，補助 5 配属学級での授業観察を通して，(1)子どもの実態把握・子ども理解を深める，(2)指導案・授業での実際，(3)教師と子どもの関わりの実際を観察する。 6 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習 （１）学級活動及び給食時間における指導の参観，補助 （２）食に関する指導の実践（学級活動・給食時間など） （３）児童生徒集会，委員会活動等における指導の参観，補助 7 家庭・地域社会との連携・調整の実際 8 学校栄養教育実習後に報告会，ディスカッション								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	学校栄養教育実習書 他
レポート	70	教育実習校での評価
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　教育実習生は，教育者としての責任の重大さを自覚し，使命感・責任感と情熱をもって実習に臨むこと。 2　意欲的，積極的な実習に取り組む。 教育実習は，いわば教育上のインターンシップともいうべき色彩をもっている。様々なことに意欲と積極的な姿勢をもって取り組むこと。 3　研究的な実習に徹し，事前・事後学習に励む。 4　健康と安全に留意し，実りの多い実習となるように努力する。 5　本実習を受ける前には，必ず事前に実習受入校を訪問し，指導教諭等と打ち合わせをしておくこと。 6　教育実習生としての当然のエチケットとして，実習期間中お世話になった指導教諭や校長宛に礼状を出すことを忘れないようにすること。
授業外学修	・事前に実習受入校を訪問し学校長・指導担当者等との打ち合わせができるように準備すること。 ・実習校の指導に従って，教材研究等を行うこと。 ・指導案の作成や教材研究にあたっては，年間の授業計画も視野に入れ，他教科との関連についても考慮し準備を入念にしておく。 ・実習校がある県市町村教育振興基本計画等を調べておくこと。 以上の内容を，週当たり５時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	学校栄養教育実習書，学校栄養教育指導法Ⅰで使用したテキスト，必要に応じて資料等を用意する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	特になし
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士：地方自治体（公立小学校・中学校・学校給食センター・教育行政）35年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	○担当教員の実務経験を活かし、学生が食に関する指導について，現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応等について実践できる技能を修得させる。 ○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため，教育実習指導者の指導の下，学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について広範かつ詳細に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について広範に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について十分に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について十分に理解を深めることができない。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができない。
知識・理解	２．子ども理解を深めることができるようになる。	子ども理解を広範かつ詳細に深めることができるようになる。	子ども理解を広範に深めることができるようになる。	子ども理解を十分に深めることができるようになる。	子ども理解を十分に深めることができない。	子ども理解を深めることができない。
知識・理解	３．栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、広範かつ詳細に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、広範に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、十分に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、十分に理解を深めることができない。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、理解を深めることができない。
思考・問題解決能力	１．自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができるようになる。	自他の授業を広範かつ詳細に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を広範に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を十分に検討し、食に関する指導に適切生かすことができるようになる。	自他の授業を十分に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができない。	自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができない。
技能	１．学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を適切にスムーズに進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をスムーズに進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をおおむね進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をあまり進めることができない。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を進めることができない。
思考・問題解決能力	２．実践的指導ができるようになる。	実践的指導が適切にスムーズにできるようになる。	実践的指導がスムーズにできるようになる。	実践的指導がおおむねできるようになる。	実践的指導があまりできない。	実践的指導ができない。
態度	１．栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をよりいっそう身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をいっそう身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をおおむね身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をあまり身に付けることができない。	栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができない。

科目名	教職実践演習（栄養教諭）			授業番号	NV412	サブタイトル	（栄養教諭）		
教員	栄養B								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	栄養教諭として求められる資質・能力（使命感や責任感・教育的愛情，社会性や対人関係能力，児童生徒理解，食に関する指導力）が形成されたかを確認する教職課程最終科目である。主として教育実習のまとめを中心に相互検討及び評価し，課題解決のための演習・ディスカッション等を行い深めていく。また，栄養教諭の専門性に関することを再確認する。								
到達目標	・大学での講義で知り得た教養的および専門的知識と教育実習を通して得られた教育現場での知識・技能を融合し，教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めることができるようになる。 ・教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ，社会人としての優れた識見や対人能力が培われ，豊かな人間性と思いやりを身に付けようとすることができるようになる。 ・栄養教諭の専門性に関すること（給食管理・食に関する指導等）について考え，理解を深めることができるようになる。 ・学習指導の基本的事項(知識・技能など)，板書，話し方，表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する								
授業計画 備考	演習を中心とするが，講義もある。								

回	概要	担当
第1回	教職実践演習の目的 「教職実践演習」の目的を知り，栄養教諭に求められる資質・能力について履修カルテを使用し自己評価を行う。	
第2回	学校栄養教育実習での研究報告　ディスカッション 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し，ディスカッションする。	
第3回	学校栄養教育実習での研究報告　ディスカッション 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し，ディスカッションする。	
第4回	栄養教諭に求められる資質能力　ディスカッション グループ討論等で栄養教諭に必要な必要最小限の資質・能力に関する課題について話し合うことで，自己の課題の解決方法等を明らかにする。	
第5回	学校における食育の推進について 学校における食育の推進のためには，具体的になにが必要なのか考える。	
第6回	「学校栄養教育の現状とこれから」（特別講師） 外部講師の講話「栄養教諭の現状とこれから」から，より具体的に自己の課題を考える。	
第7回	指導案・ワークシート・細案の作成 栄養教育実習の経験をもとに，児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案，ワークシート，板書計画，細案を作成する。	
第8回	指導案・ワークシート・細案の作成 栄養教育実習の経験をもとに，児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案，ワークシート，板書計画，細案を作成する。	
第9回	模擬授業　ディスカッション 作成した指導案等を用いて模擬授業，ディスカッションをすることで，教員としての表現力や授業力，児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり，効果的な指導法を確認する。	
第10回	模擬授業　ディスカッション 作成した指導案等を用いて模擬授業，ディスカッションをすることで，教員としての表現力や授業力，児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり，効果的な指導法を確認する。	
第11回	指導料等の作成（授業，掲示物，家庭や地域への配布　など） 家庭や地域への配付物（給食だより）・掲示物等を作成することで，具体的に連携の意義を再確認する。	
第12回	学校現場で求められる家庭・地域との連携のあり方　ディスカッション 栄養教諭は，専門性を活かして学校内外を通じ，食に関する教育のコーディネータとしての役割があることを再確認する。	
第13回	社会性や対人関係能力について　ディスカッション 食に関する指導の全体計画，食物アレルギーを有する児童生徒が安全に楽しく学校生活を送るために必要なことについて討論する。	
第14回	栄養教諭の専門性，学校給食における危機管理 学校給食実施基準を理解し，児童生徒の成長及び実態を把握した栄養管理ができることを再確認する。 学校給食衛生管理基準の内容を理解し，衛生管理の基本を身に付けていることを再確認する。	
第15回	総合的まとめ 大学で学んだこと・教育実習で学んだことを活かして栄養教諭の職務，資質・能力について再確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	40	教育実習から見えてきた課題と解決策について，自分の考えを具体的に表現することができるかを評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	40	学習指導案，模擬授業，提出物 の内容を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習校で学んだ学校・学級経営の中での児童生徒に対する深い理解などを包含した報告や相互検討を行い，各自が将来に栄養教諭となるべく，お互いに高め合うような姿勢で事前・事後学習を十分に行い取り組むこと。
授業外学修	大学で修得した知識技能と教育実習での学びを関連づけて，実践的な演習に臨めるように予習・復習をすること。 以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	学校栄養教育指導法Ⅰで使用したテキスト，必要に応じて資料を用意する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和５年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士：地方自治体（公立小学校・中学校，学校給食センター，教育行政，福祉）35年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	担当教員の実務経験を活かし、学生が教育実習を通して得られた知識技能を融合し栄養教諭の専門性や果たすべき職務について理解を深め、栄養教諭に必要な技能を身に付けることができるようにする。また、教員免許保持者としての資質をより高め豊かな人間性と思いやりを身に付けようとする態度をもたせる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養教諭の専門性に関することについて理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関することについて広範かつ詳細に理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関することについて広範に理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関することについて十分に理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関することについて十分に理解を深めることができない。	栄養教諭の専門性に関することについて理解を深めることができない。
思考・問題解決能力	１．大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通して得られた教育現場での知識・技能を融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通して得られた教育現場での知識・技能を広範かつ詳細に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を広範に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を十分に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を十分に融合することができない。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合することができない。
技能	１．学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を広範かつ詳細に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を広範に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を十分に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を十分に身に付けていることができない。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができない。
態度	１．教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをより一層身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを一層身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをおおむね身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをあまり身に付けようとしない。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを身に付けようとすることができない。
態度	２．教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質を一層、高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質をおおむね高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質をあまり高めようと努力しない。	教員免許保有者としての望ましい資質を高めようと努力しない。

科目名	学校栄養教育指導法Ⅰ			授業番号	NW301	サブタイトル			
教員	岡崎　恵子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握した上で，法制度や栄養教諭の職務内容について講義する。児童生徒の発達段階に応じた給食時の指導案の立案・資料等を作成し，模擬授業を実践する。学校・家庭・地域との連携や協働・調整の具体を説明する。栄養教諭として必要な食に関する指導および給食管理について総合的に学修する。								
到達目標	・栄養教諭制度の創設の経緯を把握し，栄養教諭としての社会的使命や職務内容を理解することができるようにする。 ・児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導について理解し，考えることができるようにする。 ・学校給食を教材とし，給食時の食に関する指導の指導案等を作成することができるようにする。 ・学校給食の管理・運営ができる能力を養うことができるようにする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業形態は講義，演習になる								

回	概要	担当
第1回	栄養教諭の制度と役割 学校栄養職員の歴史，栄養教諭創設の経緯，栄養教諭の職務内容を正しく理解し，果たすべき役割をとらえる。	
第2回	学校組織と栄養教諭 学校組織と栄養教諭の位置づけについて理解し，学校組織の中で栄養教諭が具体的にどのような働きをしていくかについて理解する。	
第3回	学校給食と日本人の食生活 学校給食は地場産物を活用し，郷土料理や行事食を提供するなど，地域の文化や伝統に対する理解と関心を深めることで教育的効果をもつ教材としての役割を担っていることを理解する。また，学校給食の歴史を理解する。	
第4回	子どもの発達と食生活 児童生徒の体位，体力，健康状態，栄養摂取状況，食生活の実態を把握し，成人期までの成長を見通した食育を実施できるように，学校における給食の位置づけと食育の重要性を理解する。	
第5回	学習指導要領の意義と食育の在り方 学校において食育を推進するにあたっては，学修指導要領の趣旨や内容などをよく理解した上で，教育課程に位置付け，組織的・計画的な取り組みを行う大切さを理解する。	
第6回	食に関する指導の全体計画 食に関する指導の全体計画の必要性や考え方，そして，計画に盛り込むべき内容の作成の手順について理解する。	
第7回	食に関する指導の展開 食に関する指導の全体計画を踏まえて子どもの実態に応じてどのように指導計画を作成すればよいか，教科や特別活動などと関連付けた指導をどのように行えばよいかについて理解を深める。	
第8回	食に関する指導と小学生用食育教材 文部科学省「食育教材」を教材に，発達段階の合わせた食に関する指導の具体的な内容を把握し，食に関する指導について理解する。	
第9回	給食の時間における食に関する指導 学校給食を教材として，給食の時間のおける食に関する指導の特徴や進め方，指導の留意点について理解する。	
第10回	給食の時間における食に関する指導案・板書計画・細案作成・実践 給食の時間の「食に関する指導」の指導案，板書計画，細案の作成を行う。	
第11回	給食の時間における食に関する指導の実践，ディスカッション アクティブラーニングを取り入れ，給食時間の「食に関する指導」を実践する。	
第12回	教科等における食に関する指導（小学校「家庭科」・中学校「技術・家庭科」，生活科，総合的な学習の時間，体育科・保健体育科，道徳，特別活動，総合的な学習時間） 食に関する指導に関連付けられている教科等について学習内容や指導の考えかたを知り，理解を深める。	
第13回	個別栄養相談指導の意義と方法 肥満，痩せ，食物アレルギー，生活習慣の予防，さらに食品や料理の選択，食べ方などが著しく偏っている児童生徒への個別栄養相談指導について理解し考える。	
第14回	家庭・地域との連携，給食だよりの作成・説明 学校と家庭・地域社会との連携を図ることは，児童生徒が地域の良さを理解するとともに，食事の重油性やsh九時を大切にする心を育てる上で効果があることを理解する。	
第15回	学校給食の管理・運営，まとめ，ディスカッション 学校給食の管理・運営，特に衛生管理についてより理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	10	給食時の指導案，給食だより等，提出物により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各回が独立して，15回で１つの流れとなってつながる授業であることから，毎回しっかり学修する態度で事前・事後学修に励み出席すること。栄養教諭を目指す気持ちを確立させてほしい。
授業外学修	・授業予定一覧に沿って，使用テキストを利用した予習・復習をすること。 ・指導案や資料等の作成，教材の準備をすること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
四訂　栄養教諭論－理論と実際－	金田雅代　編著	建帛社	978-4-7679-2116-7	2，800＋税
食に関する指導の手引　第二次改訂版	文部科学省	健学社	978-4-7797-0496-3	1，300＋税
小学校教科書「私たちの家庭科５・６」		開隆堂		
学校給食調理従事者研修マニュアル	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康課	株式会社　学建書院	978-4-7624-0884-7	1，800+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「食育教材」文部科学省
その他	適宜紹介する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士：地方自治体（公立小学校・中学校・学校給食センター・教育行政・高齢者福祉）35年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教育現場での実践的な経験を活かし、学生が栄養教諭に必要な知識をもち理解を深め、思考し問題解決能力を養い必要な技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を広範かつ詳細に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を広範に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容の基礎的事項を十分に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容の基礎的事項をあまり理解していない。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を理解していない。
知識・理解	２．児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範かつ詳細に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を十分に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を基礎的事項をあまり理解していない。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を理解していない。
知識・理解	３．学校給食の管理についての基礎知識を理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を広範かつ詳細に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を広範に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を十分に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識をあまり理解することができない。	学校給食の管理についての基礎知識を理解することができない。
思考・問題解決能力	１．児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範かつ詳細に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を十分に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導をあまり工夫することができない。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を工夫することができない。
思考・問題解決能力	２．学校給食の管理・運営ができる能力を養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を広範かつ詳細に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を広範に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を十分に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を十分に養おうとすることができない。	学校給食の管理・運営ができる能力を養おうとすることができない。
技能	１．学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究・展開を考慮した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について教材研究・展開を考慮した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究した指導案の作成や模擬授業をすることができない。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について指導案の作成や模擬授業をすることができない。

科目名	学校栄養教育指導法Ⅱ			授業番号	NW302	サブタイトル			
教員	栄養B、森寺　勝之								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	学校栄養教育指導法Ⅰで学んだ内容について，実践演習を行う。栄養教諭としての効果的な食に関する指導の学習指導案の作成，模擬授業，ロールプレイング，アクティブラーニングを取り入れ，実践的指導力のスキルの育成を行う。								
到達目標	・児童生徒の心身の発達段階に応じた1単位時間の「食に関する指導」の内容を理解することができるようにする。 ・食に関する指導の指導案の立案，模擬授業等を行うことができるようにする。 ・栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキル等を身に付けることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第１回　　学校栄養教育指導法Ⅰを踏まえて（食に関する指導，給食管理） ○特別活動，給食時間，学級活動における食に関する指導について，発達段階に合わせた題材を知り，自ら考え理解を深める。 第２回　　学校給食の衛生管理基準 ○食に関する指導の題材となる学校給食の衛生管理(学校給食衛生管理基準，食物アレルギー，危機管理)について，具体的な例を知ることで，より一層理解を深める。 第３回～４回　実践演習（１）　1単位時間の学習指導案の作成の基本 ○学級活動　１単位時間の学習指導案の作成の基礎を知り，理解を深め作成する。 第５回　　教育現場に勤務するプロとしての栄養教諭 ○現場で働く栄養教諭について理解を深める。(特別講師) 第６～８回　　実践演習（２）　食に関する指導の学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 ○学級活動での食に関する指導案等(指導案，板書計画，ワークシート，事前事後の調査)を作成し，模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。 第９～14回　　実践演習（３）　学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 ○ 給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し，模擬授業を行いディスカッションすることで，改善することで，よりよい指導案に仕上げる。 第15回　　学校栄養教育実習の説明，全体のまとめ ○学校栄養教育実習に向けて，事前訪問・学校栄養教育実習書等について理解を深める。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	演習内容，課題への取組を評価する。意欲的な受講態度，ディスカッションへの参加状況によって評価する。
レポート	10	食に関する指導についての理解度を評価する。
小テスト	20	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループでの活動が多いので，この機会をとらえてコミュニケーション能力を養うよう意欲的な態度で臨むこと。学習指導案の立案の際，各自で事前・事後学習に励むこと。
授業外学修	・学校栄養教育指導法Ⅰで使用したテキストを熟読して，予習・復習をすること。 ・教材研究をしておくこと。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。 ・小中学校の公開時を捉え，授業を参観する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	学校栄養教育指導法Ⅰで使用したテキスト，必要に応じて資料を用意する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	担当教員が提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	○管理栄養士：地方自治体（公立小学校・中学校，学校給食センター，教育行政，福祉）35年　　○小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長　（39年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	担当教員の教育現場での経験を活かし、学生自ら栄養教諭の職務である学校給食の管理・食に関する指導について知識・理解を深め、子どもの発達段階を考え学級活動・給食時間で行う食に関する指導を進めるための実践的スキル・技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．児童生徒の発達段階に合わせた１単位時間の食に関する指導の内容を理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた１単位時間の食に関する指導の内容を広範かつ詳細に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた２単位時間の食に関する指導の内容を広範に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた３単位時間の食に関する指導の内容を十分に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた４単位時間の食に関する指導の内容を十分に理解することができない。	児童生徒の発達段階に合わせた５単位時間の食に関する指導の内容を理解することができない。
知識・理解	２．学校給食衛生管理基準について理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について広範かつ詳細に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について広範に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について十分に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について十分に理解することができない。	学校給食衛生管理基準について理解することができない。
思考・問題解決能力	１．学級活動で行う食に関する指導の指導案等を工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を広範かつ詳細に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を広範に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を十分に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を十分に工夫することができない。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を工夫することができない。
思考・問題解決能力	２．１単位時間の食に関する指導を進めることができる。	１単位時間の食に関する指導をよりよく適切に進めることができる。	１単位時間の食に関する指導を適切に進めることができる。	１単位時間の食に関する指導をおおむね進めることができる。	４単位時間の食に関する指導をあまり進めることができない。	５単位時間の食に関する指導を進めることができない。
思考・問題解決能力	３．意欲的にディスカッションすることができる。	より一層、意欲的にディスカッションすることができる。	より意欲的にディスカッションすることができる。	おおむね意欲的にディスカッションすることができる。	あまり意欲的にディスカッションすることができない。	意欲的にディスカッションすることができない。
技能	１．栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを広範かつ詳細身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを広範に身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを十分に身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを十分に身に付けることができない。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを身に付けることができない。

中国学園大学　子ども学部　子ども学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
日本語表現	太田　憲孝	1
芸術	牛島　光太郎	3
心理学	國田　祥子	5
倫理学	小谷　彰吾	7
歴史学	大山　章	9
社会学	中田　周作	11
日本国憲法	俟野　英二	13
数学概論	森寺　勝之	15
現代環境論	岸　誠一	17
自然科学概論	岸　誠一	19
生活と情報処理 1クラス	岸　誠一	21
生活と情報処理 2クラス	岸　誠一	23
情報処理演習	岸　誠一	25
英語Ⅰ 1クラス	西田　寛子	27
英語Ⅰ 2クラス	西田　寛子	29
英語Ⅱ 1クラス	西田　寛子	31
英語Ⅱ 2クラス	西田　寛子	33
韓国語	宋　娘沃	35
英語Ⅲ 1クラス	西田　寛子	37
英語Ⅲ 2クラス	西田　寛子	39
体育講義 全8回	溝田　知茂	41
体育実技 1クラス	梶谷　信之	43
体育実技 2クラス	梶谷　信之	45
ファーストイヤーセミナー	中田　周作／中　典子／岸　誠一／齊藤　佳子／森寺　勝之／岡崎　三鈴／大橋　由佳	47
現代子ども学入門	中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／岸　誠一／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／牛島　光太郎／岡崎　三鈴／太田　憲孝／山田　恵子	49
子ども研究法Ⅰ	中田　周作／中　典子／佐々木　弘記／岸　誠一／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／森寺　勝之／西田　寛子／牛島　光太郎／太田　憲孝／山田　恵子	51
子ども研究法Ⅱ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／溝田　知茂／岸　誠一／土師　範子／齊藤　佳子／廣畑　まゆ美／森寺　勝之／川崎　泰子／岡崎　三鈴／太田　憲孝／山田　恵子	53
課題研究Ⅰ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／牛島　光太郎／太田　憲孝	55
課題研究Ⅱ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／牛島　光太郎／太田　憲孝	57
卒業研究Ⅰ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／岸　誠一／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／牛島　光太郎	59
卒業研究Ⅱ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／溝田　知茂／岸　誠一／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／牛島　光太郎	61
基礎学力養成セミナーⅠ 1クラス	佐々木　弘記／西田　寛子／牛島　光太郎／太田　憲孝	63
基礎学力養成セミナーⅠ 2クラス	佐々木　弘記／西田　寛子／牛島　光太郎／太田　憲孝	65
基礎学力養成セミナーⅡ 1クラス	佐々木　弘記／西田　寛子／牛島　光太郎／太田　憲孝	67
基礎学力養成セミナーⅡ 2クラス	佐々木　弘記／西田　寛子／牛島　光太郎／太田　憲孝	69
総合教養養成セミナーⅠ	太田　憲孝／山田　恵子	71
総合教養養成セミナーⅡ	太田　憲孝／山田　恵子	73
キャリア教育論	溝田　知茂／西田　寛子／牛島　光太郎／岡崎　三鈴／太田　憲孝	75
キャリア教育演習	佐々木　弘記／溝田　知茂／齊藤　佳子／伊藤　智里／森寺　勝之／西田　寛子／牛島　光太郎／岡崎　三鈴／太田　憲孝	77
人権教育論	森寺　勝之	79
子どもとおやつ	加賀田　江里	81
子どもと楽器 1クラス	土師　範子／岡崎　三鈴	83
子どもと楽器 2クラス	土師　範子／岡崎　三鈴	85
子どもと手芸	齊藤　佳子	87
子どもとダンス	佐々木　弘記／溝田　知茂／大田原　愛美	89
子どもとゲーム	牛島　光太郎	91
障害児援助論	佐藤　伸隆	93
子ども家庭支援の心理学	國田　祥子	95
子どもの理解と援助 1クラス	土師　範子	97
子どもの理解と援助 2クラス	土師　範子	99
幼児理解の理論と方法	國田　祥子	101
教育社会学	中田　周作	103
教育相談	國田　祥子	105
発達心理学	國田　祥子	107
教育社会学演習	中田　周作	109
国語	太田　憲孝	111
算数	森寺　勝之	113
生活	池原　繁延	115
音楽	川崎　泰子	117
図画工作	牛島　光太郎	119
体育	溝田　知茂	121
基礎音楽A 2限	河田　健二／土師　範子／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／多田　悦子／嶋田　泉／織田　典恵	123
基礎音楽A 3限	河田　健二／土師　範子／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／多田　悦子／嶋田　泉／織田　典恵	125
基礎音楽A 4限	河田　健二／土師　範子／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／多田　悦子／嶋田　泉／織田　典恵	127
社会	山田　凪紗	129
理科	佐々木　弘記	131
家庭	齊藤　佳子	133
英語	西田　寛子	135
児童英語演習	西田　寛子	137
基礎音楽B 2限	河田　健二／土師　範子／廣畑　まゆ美／川崎　泰子	139
基礎音楽B 3限	河田　健二／土師　範子／廣畑　まゆ美／川崎　泰子	141
国語科教育法	太田　憲孝	143
社会科教育法	山田　凪紗	145
算数科教育法	森寺　勝之	147
理科教育法	佐々木　弘記	149
生活科教育法	池原　繁延	151
音楽科教育法	川崎　泰子	153
図画工作科教育法	牛島　光太郎	155
体育科教育法	溝田　知茂	157
家庭科教育法	齊藤　佳子	159
英語科教育法	西田　寛子	161
道徳教育指導論	重松　恵子	163
小学校教育研究Ⅰ	佐々木　弘記／溝田　知茂／森寺　勝之／牛島　光太郎／太田　憲孝／山田　恵子	165
小学校教育研究Ⅱ	佐々木　弘記／溝田　知茂／齊藤　佳子／森寺　勝之／牛島　光太郎／太田　憲孝／山田　恵子	167
小学校教育研究Ⅲ	溝田　知茂／森寺　勝之／牛島　光太郎／太田　憲孝／山田　恵子	169
保育実践研究Ⅰ α	國田　祥子／佐々木　弘記／齊藤　佳子／伊藤　智里／岡崎　三鈴／山田　恵子／大田原　愛美	171
保育実践研究Ⅰ β	國田　祥子／佐々木　弘記／齊藤　佳子／伊藤　智里／岡崎　三鈴／山田　恵子／大田原　愛美	173
保育実践研究Ⅱ α	國田　祥子／佐々木　弘記／齊藤　佳子／伊藤　智里／岡崎　三鈴／大田原　愛美	175
保育実践研究Ⅱ β	國田　祥子／佐々木　弘記／齊藤　佳子／伊藤　智里／岡崎　三鈴／大田原　愛美	177
小学校教育基礎演習	溝田　知茂／森寺　勝之／山田　恵子	179
教育原理	中田　周作	181
教育史	梶井　一暁	183
教育方法学	住野　好久	185
保育者論	岡崎　三鈴	187
教育心理学	國田　祥子	189
教育・保育課程総論	佐々木　弘記／岡崎　三鈴	191
保育内容総論 1クラス	岡崎　三鈴	193
保育内容総論 2クラス	岡崎　三鈴	195
特別支援教育	中　典子	197
教職概論	太田　憲孝	199
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	佐々木　弘記	201
生徒指導・進路指導の理論と方法	住野　好久	203
子どもと健康 1クラス	岡崎　三鈴	205
子どもと健康 2クラス	岡崎　三鈴	207
子どもと人間関係 1クラス	廣畑　まゆ美	209
子どもと人間関係 2クラス	廣畑　まゆ美	211
子どもと環境 1クラス	齊藤　佳子	213
子どもと環境 2クラス	齊藤　佳子	215
子どもと言葉 1クラス	伊藤　智里	217
子どもと言葉 2クラス	伊藤　智里	219

子どもと表現 1クラス	土師　範子／牛島　光太郎／織田　典恵	………	221
子どもと表現 2クラス	土師　範子／牛島　光太郎／織田　典恵	………	223
子どもと音楽	河田　健二／土師　範子／川崎　泰子	………	225
子どもと造形 1クラス	伊藤　智里／牛島　光太郎	………	227
子どもと造形 2クラス	伊藤　智里／牛島　光太郎	………	229
ICT活用の理論と実践	岸　誠一	………	231
メディア教育演習	岸　誠一	………	233
小学校教育基礎研究	溝田　知茂／森寺　勝之／山田　恵子	………	235
子どもと健康指導法	岡崎　三鈴	………	237
子どもと人間関係指導法	廣畑　まゆ美	………	239
子どもと環境指導法	齊藤　佳子	………	241
子どもと言葉指導法	伊藤　智里	………	243
子どもと表現指導法	土師　範子／牛島　光太郎／織田　典恵	………	245
子どもと音楽研究	土師　範子	………	247
教育実習研究A 1クラス	齊藤　佳子／岡崎　三鈴	………	249
教育実習研究A 2クラス	齊藤　佳子／岡崎　三鈴	………	251
教育実習研究B	溝田　知茂／森寺　勝之／太田　憲孝／山田　恵子	………	253
保育・教職実践演習（幼・小）	溝田　知茂／岸　誠一／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／森寺　勝之／岡崎　三鈴／太田　憲孝	………	255
教育実習A	齊藤　佳子／岡崎　三鈴	………	257
教育実習B	溝田　知茂／森寺　勝之／太田　憲孝／山田　恵子	………	259
社会福祉	中　典子	………	261
子ども家庭支援論	中　典子	………	263
子育て支援 1クラス	中　典子	………	265
子育て支援 2クラス	中　典子	………	267
子ども家庭福祉	中　典子	………	269
保育原理	伊藤　智里	………	271
社会的養護Ⅰ	中　典子	………	273
子どもの保健	藤原　敏恵	………	275
子どもの食と栄養Ⅰ 1クラス	高坂　由理／児玉　彩	………	277
子どもの食と栄養Ⅰ 2クラス	高坂　由理／児玉　彩	………	279
障害児保育 1クラス	佐藤　伸隆	………	281
障害児保育 2クラス	佐藤　伸隆	………	283
地域福祉論	佐藤　伸隆	………	285
保育計画Ⅰ 1クラス	岡崎　三鈴	………	287
保育計画Ⅰ 2クラス	岡崎　三鈴	………	289
学童保育論	中田　周作／伊藤　智里	………	291
学童保育方法論	住野　好久	………	293
社会的養護Ⅱ 1クラス	青木　幹生	………	295
社会的養護Ⅱ 2クラス	青木　幹生	………	297
子どもの健康と安全 1クラス	梶谷　信之	………	299
子どもの健康と安全 2クラス	梶谷　信之	………	301
子どもの食と栄養Ⅱ 1クラス(隔週)	下田　裕惠	………	303
子どもの食と栄養Ⅱ 2クラス(隔週)	下田　裕惠	………	305
保育計画Ⅱ 1クラス	岡崎　三鈴	………	307
保育計画Ⅱ 2クラス	岡崎　三鈴	………	309
保育実習研究Ⅰ 1クラス	土師　範子／廣畑　まゆ美	………	311
保育実習研究Ⅰ 2クラス	土師　範子／廣畑　まゆ美	………	313
施設実習研究 1クラス	中　典子／牛島　光太郎	………	315
施設実習研究 2クラス	中　典子／牛島　光太郎	………	317
保育実習研究Ⅱ	中田　周作	………	319
学童保育実習研究	中田　周作／伊藤　智里	………	321
保育所実習Ⅰ	土師　範子／廣畑　まゆ美	………	323
保育所実習Ⅱ	土師　範子／廣畑　まゆ美	………	325
施設実習	中　典子／牛島　光太郎	………	327
保育実習Ⅲ	中田　周作	………	329
学童保育実習Ⅰ	中田　周作／伊藤　智里	………	331
学童保育実習Ⅱ	中田　周作	………	333

科目名	日本語表現			授業番号	CA201	サブタイトル	(音声言語と文章表現)		
教員	太田 憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，「文章表現」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	身の周りにある様々な日本語表現 「身の周りにある日本語表現を探したり分類したりすることを通して、日本語表現に対して関心をもつ」	
第2回	乳幼児の日本語獲得（１） 「満１歳頃までに行われる「クーイング」「視線」「指さし」などの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」	
第3回	乳幼児の日本語獲得（２） 「意味を伴う音声による表現の獲得に向けて、その過程や特徴等について理解する。」	
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ（１） 「絵本を取り上げ、乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」	
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ（２） 「読み聞かせの場面を取り上げ、「絵本モンタージュ」の仕組みや「母親の語り掛け」の働きについて理解する。」	
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し、「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」	
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し、読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」	
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し、作者の想を表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」	
第9回	身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 「身の周りにある広告の表現を分析し、読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第10回	身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 「身の周りにある「取り扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し、読者を説得しようとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」	
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し、読者にイメージをもたらす文学的表現の工夫を理解する。」	
第13回	言葉を味わう詩的表現 詩を読み味わい、「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」	
第14回	読者の「予測」を利用した読み物（１） 怪談の表現や仕掛けを分析し、「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」	
第15回	読者の予測を利用した読み物（２） ショート・ショート等の表現や仕掛けを分析し、「予測→タメ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」	
授業計画 備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，話し合い活動への参加を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し、学習の深まりを確認できるようにする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な学習内容の定着度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配付資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	1．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。 2．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭、中学校教諭、教育委員会主任指導主事、岐阜大学教育学部附属中学校文部教官
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	絵本，物語や説明的文章等の表現分析

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文章のジャンルに合せて、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、多様な視点から日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を見つけることはできるが、そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を見つけることが難しい。
知識・理解	2．様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
思考・問題解決能力	1．日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している	・日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に関心をもって追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における様々な特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することが難しい。
技能	1．文章のジャンルに合せて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえ、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけること不十分である。

科目名	芸術			授業番号	CA202	サブタイトル	(アートとデザイン)		
教員	牛島 光太郎								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，アート及びデザインとは何かについて考える。そのために，これまで世界各地で制作されたアートやデザインについて触れ，それらが制作された歴史的,文化的な背景や手法等について学ぶ。 また、近隣の美術館に行き，作品鑑賞を通して、美術作品に対する自分なりに考えを深め、多様な価値観や考え方に出会い，創造的な感性を広げる。								
到達目標	1.幅広い分野の作品に触れ，自分なりの考えを述べることができる。 2. アートやデザインについて基礎的な用語を理解し，それを用いて作品を説明することができる。 3. 自身の好きなアート作品やデザインを取り上げた上で，図書館やインターネット等を利用し調査し,自分なりの解釈をまとめ,他者に説明することができる。 4.県内外にある芸術作品に触れ，自分なりの視点で作品を批評することができる。 なお,本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考	令和6年度改訂								

回	概要	担当
第1回	芸術の定義とその役割について アート作品の社会的影響について	
第2回	西洋を中心とした芸術の歴史的な発展 時代背景と文化的な脈絡	
第3回	様々な芸術について 絵画,彫刻,写真,建築,写真などについて	
第4回	身近なアート作品について1 パブリックアートとは	
第5回	身近なアート作品について2 絵画の歴史と技法について	
第6回	身近なアート作品について1 彫刻の歴史と技法について	
第7回	身近なアート作品について1 現代美術について	
第8回	身近なアート作品について2 インスタレーションやグラフィティ	
第9回	デザインとは デザインの歴史と展開	
第10回	アート作品に触れる1 美術館に出かける	
第11回	アート作品に触れる2 美術館に出かける	
第12回	作家・作品研究1 好きな作家やアート作品,デザインなどを取り上げ調べる	
第13回	作家・作品研究2 自身の選択した作家やアート作品,デザインなどについて分析し自分なりの解釈をまとめる	
第14回	プレゼンテーション1 自身の選択した作家やアート作品、デザインなどについて発表 発表内容についてのディスカッション	
第15回	プレゼンテーション2 自身の選択した作家やアート作品、デザインなどについて発表 発表内容についてのディスカッション	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	60	各回の主要なポイントの理解を提出された課題やレポート等によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
その他	20	ディスカッション等への積極的な参加,発表,提出物（コメントペーパー）により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教員の引率の元,美術館で鑑賞活動を行う。その際の交通費や入館料（企画展のみ）は自費となる。
授業外学修	1 予習として，授業内容にかかわる文献等を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜，提示する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜，提示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．アートやデザインについて,それらがつくられた時代背景や文化的な文脈を理解している	アートやデザインについて十分な知識を身につけ,それらがつくられた時代背景や文化的な文脈を十分に理解し説明することができる	アートやデザインについて十分な知識を身につけ,それらがつくられた時代背景や文化的な文脈を理解している	アートやデザインについて一般的な知識を身につけ,それらがつくられた時代背景や文化的な文脈を理解している	アートやデザインについて一般的な知識を身につけているが,それらがつくられた時代背景や文化的な文脈の理解が十分ではない	アートやデザインについて一般的な知識や理解が十分ではない
知識・理解	2．アートやデザインに関連する基礎的な用語を理解している	アートやデザインに関連する基礎的な用語を十分に理解し,説明することができる	アートやデザインに関連する基礎的な用語を理解し,説明することができる	アートやデザインに関連する基礎的な用語を理解している	アートやデザインに関連する基礎的な用語の理解が十分ではない	アートやデザインに関連する基礎的な用語を理解していない
知識・理解	3．アートやデザインについて,自分なりの視点で作品を批評することができる	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ,それらがつくられた歴史的,文化的な背景を調べてパワーポイントで十分にまとめ,発表とディスカッションを通して自分なりの視点で批評することができる	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ,それらがつくられた歴史的,文化的な背景を調べてパワーポイントで適切にまとめ,発表を通して自分なりの視点で批評することができる	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ,それらがつくられた歴史的,文化的な背景を調べてパワーポイントでまとめ,発表を通して批評することができる	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ,それらがつくられた歴史的,文化的な背景を調べてパワーポイントでまとめられているが,批評することが不十分である	アーティストやデザイナーの作品を取り上げ,それらがつくられた歴史的,文化的な背景について調べられておらず,発表を通して批評することができない

科目名	心理学			授業番号	CA203	サブタイトル	(心と行動の科学)		
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，心理学全般の基本的な知識，心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。								
到達目標	クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	心理学とは 「不思議」とされる現象を題材に，人の心のしくみについて長年研究を積み重ねてきた心理学の概要を紹介する。	
第2回	予知体験の不思議 「予知」「予言」と呼ばれる現象はなぜ起こるのか，推論のプロセスから解説する。	
第3回	記憶の不思議 「存在しない記憶」を確信を持って思い出してしまうのはなぜ？ 不思議な記憶のメカニズムについて解説する。	
第4回	影響されるこころ 意見や態度は変容するものである。しかし「影響されやすい」状況やその特徴を知っておくことは重要かもしれない。	
第5回	揺れうごくこころ 感情が私たちの生活の中でどのような働きをするのか，悪徳商法や，心身に良いとされるものを例に考える。	
第6回	検査で「自分」がわかるのか ネットや雑誌などで目にする「心理テスト」はあてになる？ 本物の「心理検査」「パーソナリティ測定」とは。	
第7回	占い・新宗教がもつ現代的意味 占いなどのスピリチュアルな世界に魅力を感じる人は多い。その心理を，背景にある悩みや迷いから紐解いていく。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	子どもから見た現実と想像の世界 さっきまで鬼を怖がって逃げていた子が，今度は鬼の面を付けて「鬼さん」に変身！ 子どもたちが世界をどう捉えているのか考える。	
第10回	「もしかして……」と揺れ動く心の発達 「本当はいない」と分かっていても「いるかもしれない」と思うオバケへの恐怖。想像と現実を行き来する子どもの心を考える。	
第11回	不思議現象に立ち向かう子どもたち 子どもたちは想像の世界に積極的に立ち向かうことで，現実を探求するように。「科学する心」の始まりを解説する。	
第12回	脳とこころの不思議な世界 「金縛り」や「幻覚」はなぜ起こるのか。脳神経系の生理的変化から説明できる心の活動について解説する。	
第13回	科学的に検証するとはどういうことか 目に見えない「心」の存在やその活動を科学的に捉えるには，厳密な実験計画と統計的検定が重要。	
第14回	心理学を学ぶ人のために 分かりやすくもないし簡単でもない，意外と地味な心理学だからこそ学べる「面白さ」。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
不思議現象　なぜ信じるのか　こころの科学入門	菊地　聡・谷口高士・宮元博章（編著）	北大路書房	978-4-7628-2032-8	1900円
不思議現象　子どもの心と教育	菊地　聡・木下孝司（編著）	北大路書房	978-4-7628-2089-2	1900円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し，多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの，努力は明らかである	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず，知識を獲得できていない

科目名	倫理学			授業番号	CA204	サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)		
教員	小谷　彰吾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	激変する時代の中で，偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで，先哲の思想，中でも儒教の視点を一つの柱としたり，現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとらえていく。								
到達目標	東洋，西洋，それぞれの時代の中で，人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに，我が国には，神道，仏教，儒教が融合する独特の精神文化があり，それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	『倫理学』の概念を知り，『善悪』の判断とその背景，その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。								

回	概要	担当
第1回	倫理の基盤(1)　ガイダンス 「倫理学」を概観するとともに、授業の展開、授業上の注意事項についてのガイダンス	
第2回	倫理の基盤(2)　倫理観と社会的背景 現代社会の現状、社会的病理など踏まえ、倫理観の低下の原因となる共同体意識の低下などの根拠に触れる	
第3回	倫理の基盤(3)　倫理観の形成と体験の欠如 現代社会が便利になればなるほど、「よりよく生きる」という概念が軽視され、自己中心的発想によって他者に対する思いやりが欠如してくる。幼少期の大自然との関わり、他者との関わりの欠如がますます客観的に自己を見つめることを理解する。	
第4回	倫理の思想(1)　倫理と道徳 「倫理」と「道徳」のルーツから、その違いや同じ「習慣」という考え方に行きつくことを理解するとともに、「知行合一」頭での理解と実践を重ねていくことに課題がある事を理解する。	
第5回	倫理と思想(2)　知識基盤社会と倫理 文明が進化しても、人間の倫理観が追いついていかない現実を昨今の社会的事象や事件などから考える	
第6回	倫理学の基礎(1)　倫理と思考実験 著名なトロッコ実験を例にとり、「安楽死」をどうとらえるかにつなげてく。	
第7回	倫理学の基礎(2)　義務論と功利主義 「タラソフの事例」を基にカントの考え方を理解したり、自殺について考える。	
第8回	現代社会の倫理(1)　死刑制度 日本は死刑の有る少数の国の一つであることを資料から理解すると共に、死刑が必要かどうか議論しながら考えを深める	
第9回	現代社会の倫理(2)　老いと安楽死 これまでの「死生観」をさらに深めるとともに「老いる」ことについて考察を深める	
第10回	現代社会の倫理(3)　いじめと自殺 日本のいじめの現状を理解すると共に、その特徴を知り、特に子供を取り巻く大人の一人として必要なことを考える	
第11回	現代社会の倫理(4)　徳の教育と学校 日本の千五の道徳教育の変遷といじめ打開のための道徳の教科化について知る	
第12回	現代社会の倫理(5)　伝統文化と食の倫理 輸入に頼る日本の食の危機と子どもを取り巻くファストフードについて考える	
第13回	日本倫理の思想(1)　江戸時代の徳の教育 「江戸しぐさ」を理解し、品位品格を求めた当時の教育、また、家庭、寺子屋、地域ともに同じベクトルで子どもに向き合った教育を考える	
第14回	日本倫理の思想(2)　『論語』 著名なものの中から、現代の『倫理観』を向上させるにふさわしい章句を取り上げその意味を知る	
第15回	『倫理学』のまとめ　総括レポート これまでの学習から、自分が今何を為すべきか、また、一人の大人として我が国の倫理観の低下に歯止めをかける策を考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	ディスカッション等授業における意欲・態度，各授業のコメントペーパー
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	15回目の論文で評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義内で随時，紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭15年，私立高等学校教諭18年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	現在，学校教育現場では，アクティブラーニングの研究が進められており，「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし，特に小学校においては，遥か前から実践されていた学びであり，特に「道徳」は教科化されて以降，「議論する道徳」「思考する道徳」，すなわち自らの意見を持って，仲間と意見をぶつけ合い，新しい価値を見出していく学習が展開されている。『倫理学』とて同様の学習を展開すれば，「主体的な学び」が展開できるものと考えている。 グループワーク，ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気を醸成したい。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学問としての倫理学を概観するとともに、現代日本社会の倫理観の現状、原因等について理解する	学問としての倫理学を概観するとともに、現代日本社会の倫理観の現状、原因等について十分理解できている	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解は優れている	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解は十分なレベルである	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解が今一つである	学問としての倫理学を概観すること、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解が非常に劣っている。
態度	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において非常に優れている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において優れている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において十分なレベルである。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点においてやや劣っている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において非常に劣っている。

科目名	歴史学			授業番号	CA205	サブタイトル	(歴史家は過去の何に注目し，どうとらえてきたか)		
教員	大山 章								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	「歴史」と聞くと，書かれたものを読み，記憶する，どちらかと言えば受け身のイメージが強いが，「歴史学」は，過去の出来事を史料を用いて分析・解釈し，それをもとに歴史像・時代像を描き，叙述する主体的な営みである。この授業では，近年話題になっているものを中心に，歴史家が過去の出来事や時代をどのようにとらえ，解釈してきたかを取り上げる。授業は，特定の時期・時代を取り上げる回も多いが，一つのテーマ・視点で長い歴史をあつかう回も同程度計画している。また，歴史研究に関わる内容をあつかう授業も設けている。								
到達目標	1　歴史学の意義と歴史研究の基本を理解することができる。 2　近年の歴史研究の成果について理解することができる。 3　授業内容をもとに，現代社会の課題とも関連づけながら，歴史について積極的に考察したり，発表したりすることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	歴史と歴史学 歴史学がどのような学問であるかを理解する。 一般の人々が「歴史」を学ぶ意味，「歴史」に関わる意味を考える。	
第2回	農耕・牧畜の始まり 世界における農耕・牧畜の始まりを，西アジアでの始まりを中心に理解する。 世界における稲の栽培の始まりと日本列島への伝播について理解する。	
第3回	気候変動・災害と歴史 歴史学が気候変動や自然災害をどのようにあつかってきたかを理解する。	
第4回	モンゴル帝国 モンゴル帝国の成立とその支配の特色を理解する。 モンゴル帝国の成立がその後の歴史に与えた影響を理解する。	
第5回	東アジア海域の歴史 倭寇の活動や琉球の活発な交易が目立った１４～１６世紀頃の東アジア海域の歴史を理解する。	
第6回	歴史研究における地図の利用 国土地理院の旧版地図や古地図・絵図の歴史研究での利用について理解する。	
第7回	世界の一体化 「コロンブスの交換」の内容とそれがもたらした結果・影響を理解する。 １６～１７世紀に進んだ世界の一体化の動きへの日本の関わりを理解する。	
第8回	イギリスの工業化とフランス革命 イギリスの工業化（産業革命）とフランス革命のおおまかな研究史を理解する。	
第9回	ジェンダーと歴史 ジェンダー史の研究の始まりと現状を理解する。 ジェンダー史の事例を学ぶ。	
第10回	歴史の中で「人種主義」はどのようにうまれたか 「人種」概念の誕生や「人種」による人間の分類の始まりについて理解する。 「人種主義」と「黒人奴隷制」の関係を理解する。	
第11回	東アジアのウェスタン・インパクト 欧米列強の東アジアへの進出とそれに対する清と日本の対応を理解する。	
第12回	アメリカ合衆国とメキシコ ３０００ｋｍ以上に及ぶ国境で接するアメリカ合衆国とメキシコの関係史を，国境の変化を中心に理解する。 ２０世紀を中心に，メキシコ・アメリカ合衆国間の人の移動の変化を理解する。	
第13回	パレスチナの悲劇とウクライナの歴史 数百万もの難民を生むなどの悲劇がおきているパレスチナ地域の長く複雑な歴史を理解する。 ウクライナなど中東欧の歴史が，パレスチナの問題と深く関わっていることを理解する。	
第14回	感染症と歴史 感染症の流行が歴史に与えた影響を理解する。 コレラの流行に対する１９世紀の日本の対応を理解する。 スペイン・インフルエンザを例に，新聞が歴史研究に役立つことを理解する。	
第15回	自分なりの歴史像を描いてみよう 授業で学んだことをもとに，歴史についての自分の考えを発表したり，話し合ったりする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業での発表・発言の状況やその内容，予習復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	15	前回の授業の基本的な事項の理解度について評価する。
定期試験	60	授業で取り上げた内容の理解度，歴史的事象についての自分の考えを根拠をあげて論理的に表現する力について評価する。
その他	15	毎授業後に提出するコメントペーパーの内容によって評価する。 提出されたコメントペーパーは，記入内容についてのコメントを加えて返却する。

評価の方法：自由記載	定期試験は，論述を中心とした筆記試験とする。(持ち込み可)
受講の心得	「歴史学」は，定まった知識を覚え，蓄積するものではなく，自らが生きる時代が直面する課題などをふまえて，過去を様々な切り口から追求する学問です。一定の歴史的知識は必要ですが，より大切なのは，人の行動や社会で起きていることに対する関心や疑問です。また，授業では，可能な範囲で史料をもとに考察したり，発表したりする活動を設定します。積極的な参加を期待します。
授業外学修	予習として，高校の世界史・日本史，中学校の歴史的分野の教科書などの関係部分を読んでおく。授業後は，授業で取り上げられた時代，テーマについての歴史像，時代像などを，自分なりに文章にまとめておくようにする。 以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	レジュメ，資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	中学校教諭（２５年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での歴史教育の経験（２５年）を生かして，歴史に関する今日的な内容，テーマをわかりやすく指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．歴史学の意義と歴史研究の基本を理解している。	「言語論的転回」がつきつける問題や史実を無視した解釈の横行など、現代の歴史学がかかえている課題についても理解している。	歴史家が歴史学の意義をどのように考えているか理解している。近年の歴史研究が、従来からの考古学などだけでなく、古気候学など自然科学の成果なども積極的に活用していることを理解している。	歴史家がおこなう歴史学の基本的な営みを理解している 「歴史実践」とも言われる歴史家以外の人々の歴史への関わりについても理解している。	歴史学の基本的な営みである「認識」と「解釈」についてはおおよそ理解できているが、地図や新聞などを含むさまざまな史料を利・活用する際の留意点については理解が不十分である。	歴史書と歴史小説の一般的な違いも理解できていない。
知識・理解	２．授業で取り上げられた近年の歴史研究の成果を理解している。	同じ時代・地域、近接する時代・地域、共通の視点などつながりがある複数の授業の内容を関連づけて理解している。	各授業で取り上げられた歴史研究の進展のようすや重要な役割を果たした歴史家などについても理解している。	各授業のまとめで取り上げられた内容のほとんどを理解している。	各授業のまとめで取り上げられた内容のうち、基本的な内容についても理解できていないものが一部ある。	各授業のまとめで取り上げられた内容のうち、基本的な内容についても理解できていないものが多い。
思考・問題解決能力	１．授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめたり、発表したりしている。	歴史事象についての自分の考察を発表する授業では、現代社会の課題と関連づけたり、自学した内容などを盛り込んだりして、発表している。	多くの授業で、現代社会の課題とも関連づけながら、授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめている。	授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、その根拠をふくめて文章にまとめており、一部の授業については発表もしている。	一部の授業で、授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめることも、発表することもできていない。	多くの授業で、授業で取り上げられた歴史事象についての自分の考察を、文章にまとめることも、発表することもできていない。

科目名	社会学			授業番号	CA206	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。 理解の状況の確認を行う。 提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	2．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	3．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	1．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	日本国憲法			授業番号	CA207	サブタイトル	（身近な問題から憲法の役割を考える）		
教員	俣野　英二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえて概説する。Universal Passportにより章ごとに小テストの課題を課し、その基本原理の理解及び基礎知識の定着を確認する。 次に、基本原理等に関する憲法問題を発展学習として、学生が任意に選んだ課題解決に向けてグループで取り組む。そのグループで調査した内容をUniversal Passportで公開、講義でプレゼンして全体討議を行う。これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら，主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景および相互関係を知り，深い認識と理解など幅広い教養の修得とともに，子どもに関わる場面など様々な場面から主体的に憲法の視点から問題解決の方法を思考する力の修得を目的とすることから，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス，憲法とは何か 1　学修の目標，評価方法などを説明する。 2　法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。	
第2回	国家機関としての天皇制 1　徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2　国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。	
第3回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１―― 非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。	
第4回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２―― 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。	
第5回	国民主権を実現する仕組み１ 政治と国民、国会議員について学修する。	
第6回	国民主権を実現する仕組み２ 選挙、選挙制度、政党について学修する。	
第7回	人権を守るための組織――統治機構１―― 国会、内閣について学修する。	
第8回	人権を守るための組織――統治機構２―― 地方自治、裁判所について学修する。	
第9回	良心をもつ自由、買く権利、中間試験 1　良心の意義について学修する。 2　教師の良心を買く権利について考える。 3　中間試験を実施する。	
第10回	表現の自由と書かれない権利 1　表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2　表現の自由の優越的地位について学修する。	
第11回	知る権利とマス・メディアの自由、グループワーク１ 1　知る権利とマス・メディアの自由について学修する。 2　マス・メディアと国民との利害対立の調整について考える。 3　グループワーク（課題選択）	
第12回	営業の自由と消費者の権利、グループワーク２ 1　職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 2　職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 3　グループワーク（課題分析）	
第13回	子どもの権利と学校における生徒の人権 1　学校における生徒、教師の人権について学ぶ。 2　グループワーク（情報収集、整理）	
第14回	働く人の権利、グループワーク４ 1　勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 2　女性や非正規労働者の問題について考える。 3　グループワーク（全体討議１）	
第15回	グループワーク５ グループワーク（全体討議２）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	20	各回のグループワーク終了時に提出するワークシートに，要求されているステップに沿ったグループワークの結果が書かれていること。 不十分な点については、コメントを付して連絡する。
小テスト	20	各章の主要なポイントの理解を評価する。回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
中間テスト	20	憲法の基本原理及び基礎知識の理解及び課題に対する論理的思考を評価する。Universal Passportに解説を掲示し、全体の講評を講義で行う。
定期試験	40	中間テストの基礎に加え、異なる価値観・意見に配慮した主体的な意見の論理的思考を総合評価する。解説をUniversal Passportに掲示する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 2　第11回以降、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。講義時間中にスマートフォン、タブレットなどで法律情報をリサーチしたり、Universal Passportにワークシートや報告書をアップするので十分充電して講義に臨むこと。 3　中間（第9回）に１回中間テストがある。
授業外学修	1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 3　グループワークで選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループ報告書のまとめ、プレゼンテーションの準備に向け、共同作業のための事前準備を行う。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400円＋税
使用テキスト：自由記載	第2版の改訂作業中です。第2版が出版された場合、そちらを採用します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本判例１　憲法（第4版）	右崎正博･浦田一郎編	法学書院	978-4-587-52413-5	2500 円＋税
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権･同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権･同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，大体述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，全く表現することができない。
知識・理解	２．国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し，理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確にではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	２．多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観・意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観・意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。

科目名	数学概論			授業番号	CB201	サブタイトル			
教員	森寺 勝之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	古代エジプトや古代ギリシアの時代から「数学」は常に人類の生活に変化を与えてきた。人々の認識を変化させ，歴史を動かしてきたともいえる。そういう意味で「数学」は人類が受け継いできた「叡智の結晶」である。日常生活の様々な事象だけでなく，自然の事象や芸術でさえ数学的な裏付けが存在している。こうした「数学」の価値と魅力を，歴史的に多角的に豊かに学び，「数学」そのものに親しみや楽しみを見い出していく。								
到達目標	「数学」にかかわる基礎的基本的な知識を理解するとともに，様々な事象について，「数学」を活用し，論理的に問題解決することの価値と魅力を実感できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	代数・解析・幾何	
第2回	ローマ数字からアラビア数字　0の発見	
第3回	古代エジプト縄張師 ピタゴラスの定理	
第4回	正多面体　半正多面体　星型多面体	
第5回	分数　小数	
第6回	アボガドロ定数　指数	
第7回	対数　計算尺	
第8回	フェルミ推計	
第9回	曲線	
第10回	統計	
第11回	円周率	
第12回	魔方陣	
第13回	ハノイの塔	
第14回	数学パズル	
第15回	何のために数学を学ぶのか	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。
レポート・ノート整理	30	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。
小テスト・大テスト	50	前回の授業や15回の内容の理解度を評価する。
定期試験		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小テストを行うので，復習をして授業に臨むこと。
授業外学修	1　配付資料や小テスト等を整理し貼付して，本時の講義内容をノートにまとめ，復習する。 2　発展学習として，授業で興味をもった内容について調べ深める。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	なし（資料配布）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年，岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	教育委員会や実務現場での経験を生かして，数学概論について指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．「数学」にかかわる基礎的基本的な知識について理解する。	「数学」にかかわる基礎的基本的な知識について十分に理解できている。	「数学」にかかわる基礎的基本的な知識について概ね理解できている。	「数学」にかかわる基礎的基本的な知識について普通に理解できている。	「数学」にかかわる基礎的基本的な知識についてやや理解が不十分。	「数学」にかかわる基礎的基本的な知識について全く理解ができていない。
思考・問題解決能力	1．社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することができる。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することに優れている。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することに優れている。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することが普通にできる。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することがやや苦手である。	社会で実際に起こりうるさまざまな事象について「数学」を活用し論理的に問題解決することは全くできない。
態度	1．提出物	演習課題は迅速・かつ課題をよく理解して的確に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題を概ね理解してほぼ的確に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題をよく理解して普通に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題の題意の理解がやや不十分のまま処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題の題意が全く理解できていない成果物を提出したり、成果物の提出が期限内にできない。

科目名	現代環境論			授業番号	CB202	サブタイトル	現代の身近な環境を「実感」する		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から，現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて，現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。								
到達目標	「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点をおき，環境問題という現代的，社会的な課題に対して地球的な視野で考え，自らの問題として捉え，身近なところから取り組むことができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞と＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	授業概要の説明，環境に関する基礎講座I 地球温暖化等、今世界が直面している様々な環境問題について学修することについて理解する。	
第2回	環境に関する基礎講座II 喫緊の課題である「カーボンニュートラル」の各国の取り組みについて理解する。	
第3回	地球温暖化について 地球温暖化のしくみについて実際に実験を通して理解する。	
第4回	吉備の中山フィールドワーク(ドングリとイノシシに学ぶ?!) 吉備の中山でのフィールドワークを通して，身近な環境問題を実感する。	
第5回	中国学園近辺の用水の水は大丈夫か？ 中国学園近辺の水質検査と用水の清掃活動を通して，身近な水の環境問題について理解を深める。	
第6回	SDGs（エス・ディー・ジーズ）って何だ? SDGsの17の目標を理解し，自分たちでできる具体的な取組みについて考える。	
第7回	中国学園近辺に降る雨は大丈夫か？ 酸性雨のできる仕組みについて理解し，大気汚染と酸性雨にの関係について学修する。	
第8回	発電と節電について 火力発電，原子力発電等様々な発電の仕組みを理解し、CO2削減のための節電について学修する。	
第9回	「シーベルト」「ベクレル」って何だ？ 放射能についての正しい知識を中国学園の放射線量測定から学ぶ	
第10回	循環型社会へ向けて 環境問題と国際的な取り組みについて理解を深める。	
第11回	環境問題解決のための新技術I 脱化石エネルギー，リサイクルなど環境問題解決の取り組みを理解する。	
第12回	環境問題解決のための新技術II 水素エネルギーや燃料電池他，太陽光発電など環境問題解決のための新技術にについて理解する。	
第13回	太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを！(再生可能エネルギーの実践を通して) 太陽光発電について実際の発電装置を稼働してイルミネーションを点灯させることを試み，太陽光発電についての理解を深める。	
第14回	環境問題について特別講義 環境についての専門家を招聘して，環境問題の理解を深める。	
第15回	まとめ 環境問題について討論会を実施し，自分の考えを発表し環境問題の理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，グループワーク等への参加度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	野外学修等の後はレポートを提出してもらう。何に気づき，何を得たのかなど，書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は，その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。
小テスト	20	小テストを実施し，個々の内容について理解度を評価する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は，野外学修も行うため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。野外学修等の後はレポートを提出してもらう。レポートはコメントをつけて返却する。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。なお，学修のための情報提供をclassroomで行うので，よく見ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．環境問題という現代的，社会的な課題の理解	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について十分に理解し、この環境問題をどのように解決していくかその対策についてもよく理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について概ね理解し、この環境問題をどのように解決していくかその対策についても概ね理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について普通に理解し、この環境問題をどのように解決していくかその対策についても理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について理解が不十分であり、この環境問題をどのように解決していくかの理解も不十分である。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について全く理解できておらず、この環境問題をどのように解決していくかについても説明できない。
思考・問題解決能力	1．環境問題を地球的な視野で考え，自らの問題として捉え，身近なところから環境問題を改善することができる。	環境問題を十分自らの問題ととらえており、どのようにして環境問題に取り組んでいくか、他の事例をあげながら(自分がする意識はやや薄い)詳しく説明することができる。	環境問題を十分自らの問題ととらえており、どのようにして環境問題に取り組んでいくか、自分の考えを詳しく説明することができる。	環境問題を普通に自らの問題ととらえているが、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについては、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	環境問題を自らの問題ととらえていることはやや不十分であり、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについても、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	環境問題を自らの問題ととらえていることは全くなく、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについても、全く自分から進んで実践する態度は見受けられない。
態度	1．提出物	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。
態度	2．授業で行う環境美化活動	川の清掃などの授業で実施する活動に自分でやり方を工夫して積極的に参加することができる。	川の清掃などの授業で実施する活動に積極的に参加することができる。	川の清掃などの授業で実施する活動に普通に参加することができる。	川の清掃などの授業で実施する活動の参加は不十分。	川の清掃などの授業で実施する活動の参加は全くない。

科目名	自然科学概論			授業番号	CB203	サブタイトル	体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から，自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて，自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また，科学工作も行い，科学のおもしろさと不思議さを実感する。								
到達目標	私たちの身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識，科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	授業の中では，様々な測定装置，電気関係の測定機器や実験器具などを用いて，私たちの身のまわりの環境，自然科学について実測，体感しながら学びを深めていく。								

回	概要	担当
第1回	中国学園の庭で「幸せ」を探そう!? 四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさを体験し，自然の不思議さに気づくことの大切さを実感する。	
第2回	科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ 空き缶を斜めに立てる科学マジックを通して，力学の法則を理解する。	
第3回	楽しいフィールドワーク 吉備の中山をグループで協力しながら歩き，自然に生息する動植物について理解を深める。	
第4回	コンピュータについて学ぶ 生成系AIによる画像の生成などの体験を通して，ネット社会の未来について理解を深める。	
第5回	地球温暖化のしくみ 二酸化炭素により，地表温度が上昇するしくみが分かる実験装置を活用して，地球温暖化のしくみを理解する。	
第6回	君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！ 高電圧の実験を通して，電気の性質を理解する。また，高電圧を使うイオンエンジンの模型を用いて飛行実験を行い，イオンエンジンの原理について理解する。	
第7回	電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 はんだ付けをしながら，電子オルゴールを製作し，半導体の構造・性質について理解する。	
第8回	高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック) 音を電気信号に変換するオシロスコープという測定器を使い，音を「見える化」しながら「音の3要素」の性質について理解を深める。	
第9回	スライムで遊ぼう!! 「光るスライム」づくりを通して，物質の分子構造について理解する。	
第10回	糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習 べっこう飴づくりを通して物質の分子構造について学ぶ。	
第11回	天然色素と酸アルカリの実験と実習 ムラサキキャベツから作る液体の色の反応から酸性・アルカリ性の水溶液の性質を理解する。また，最後に緑色の焼きそばを作る。	
第12回	光に関する基礎講座ならびに実験と実習 偏光フィルターを使った光の回折実験やレンズを使った光学実験を行いながら，光の性質について理解を深める。	
第13回	楽しい数学 微分や積分などの難しい数学にチャレンジし，数学の問題をを解く楽しさを実感する。	
第14回	流しそうめんの加速度を測定しよう！ 実際に流しそうめんをしながら，運動の法則の理解を深める。	
第15回	まとめ 授業全体の振り返りと自然科学全般のトピックスについて解説。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，実験・実習・討議等への参加度等によって評価する。
レポート	20	野外学習等授業によっては、レポートを提出し、その内容について評価する。提出されたレポートについてはコメントをつけて返却する。
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について十分に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について概ね理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について普通に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解がやや不十分である。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解できていない。
態度	1．身のまわりの自然現象に関心を持ち，科学的なものの考え方ができるようになる。	身のまわりの自然現象に強い関心を持ち，自ら自然に触れたりするなど積極的に自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち，自ら自然に触れたりするなど自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち，自然のことを調べるなどして科学的な考え方を身に着けている。	身のまわりの自然現象にあまり関心がなく，科学的なものの考え方も十分にできない。	身のまわりの自然現象に全く関心がなく，科学的なものの考え方も全く身についていない。

科目名	生活と情報処理 1クラス			授業番号	CC201A	サブタイトル	ネットワーク時代の生活術		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代の情報社会においては，パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため，パソコンの基本的な使い方や仕組み，さらにはネットワークの基礎的な使用方法および，今このネットワークによってもたらされている様々な情報モラルの課題について学修する。								
到達目標	本授業も具体的な目標は，次の３点である。 （１）パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 （２）ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方を学ぶ。 （３）情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I 本学のPC教室の使い方，ログインの仕方(ID，パスワード)，Gメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。	
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方，課題の提出の仕方，PC教室のプリンターの使い方等を理解し，実際に使えるようになるための操作を習得する。	
第3回	ネット利用についての基礎知識I インターネットによる検索技術の基礎について理解し，これらを活用して必要な画像等を収集するなど，ネット利用について学修する。	
第4回	ネット利用についての基礎知識II YouTube等オンライン配信プラットホームの歴史およびその活用法について理解する。また，その際に起こるセキュリティや著作権の問題について理解する。	
第5回	ワードの基礎知識I Wordの起動，終了，文字入力の基本，印刷等を学び，簡単な文章を入力し，プリントアウトできる技術を習得する。	
第6回	ワードの基礎知識II Wordによる表の作成，画像の挿入，図形の作成などWordの多様な編集機能を理解し，簡単なちらし等が作成できる技能を習得する。	
第7回	パワーポイントの基礎知識I パワーポイントの起動，終了，画像の挿入，図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。	
第8回	パワーポイントの基礎知識 II パワーポイントのアニメーションの機能を活用し，簡単な動画を作成する技術を習得する。	
第9回	パワーポイントの基礎知識III パワーポイントのプレゼンテーションの機能を活用し，簡単な自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。	
第10回	生成系AIの活用 I 生成系AIの仕組みについて理解し，簡単な画像や動画を作成するなど，ルールを守って生成系AIが活用ができることを学修する。	
第11回	デジタルコンテンツの作成の仕方I 教育におけるデジタルコンテンツの活用の意義・活用例について理解する。	
第12回	デジタルコンテンツの作成の仕方II 授業における活用場面を想定しながら，パワーポイントにより，簡単なデジタルコンテンツの作成の仕方を理解する。	
第13回	デジタルコンテンツの作成の仕方III デジタルコンテンツを活用するための簡略化した指導案(授業レシピ)を作成して，模擬授業を行うための実践力を習得する。	
第14回	情報の倫理とセキュリティI 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け，パスワードを適切に設定・管理するなど，コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。	
第15回	情報の倫理とセキュリティII SNS等のネットによるコミュニケーションの特色を理解し，情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち，自他の権利を尊重して，ルールやマナーを守って情報を集めたり発信できるようになるための学修をする。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。
レポート	80	毎回の授業で学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか，提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学修目標」を具体的に提示し，その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって，その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。
受講の心得	新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県情報教育センター(6年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．パソコンに関する基礎的知識を理解する。	パソコンに関する基礎的知識を十分に理解している。	パソコンに関する基礎的知識を概ね理解している。	パソコンに関する基礎的知識を普通に理解している。	パソコンに関する基礎的知識の理解がやや不十分。	パソコンに関する基礎的知識が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1．情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解している。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて十分理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて概ね理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて普通に理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを概ね構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについての理解がやや不十分であり，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションの構築もやや不十分である。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解できておらず，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができない。
技能	1．パソコンに関する基礎的操作ができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており，これらを活用した課題を迅速・的確に作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており，これらを活用した課題を作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を普通に理解しており，これらを活用した課題を作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解がやや不十分であり，これらを活用した課題についてもやや時間がかかり，的確さに欠ける。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解が不十分であり，これらを活用した課題についても時間がかかり，的確さに欠ける。
技能	2．ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方の基本操作ができる。	ネットの利用の知識が十分あり，これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており，これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており，これらを活用して普通に情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用についての理解がやや不十分であり，これらを活用した情報収集・情報発信も十分にできない。	ネットの利用についての理解が不十分であり，これらを活用した情報収集・情報発信もできない。
技能	3．デジタルコンテンツ（紹介ビデオ）の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，受け手の意識を想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，受け手の意識を大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し，留意点を制作に反映することができる。相手の意識を想定して作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解が不十分であり，制作物の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な政策方法の理解が不十分で，留意点を制作に全く反映していない。

科目名	生活と情報処理 2クラス			授業番号	CC201B	サブタイトル	ネットワーク時代の生活術		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代の情報社会においては，パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため，パソコンの基本的な使い方や仕組み，さらにはネットワークの基礎的な使用方法および，今このネットワークによってもたらされている様々な情報モラルの課題について学修する。								
到達目標	本授業も具体的な目標は，次の３点である。 （１）パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 （２）ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方を学ぶ。 （３）情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス・パソコン操作についての基礎知識I 本学のPC教室の使い方，ログインの仕方(ID，パスワード)，Gメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。	
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方，課題の提出の仕方，PC教室のプリンターの使い方等を理解し，実際に使えるようになるための操作を習得する。	
第3回	ネット利用についての基礎知識I インターネットによる検索技術の基礎について理解し，これらを活用して必要な画像等を収集するなど，ネット利用について学修する。	
第4回	ネット利用についての基礎知識II YouTube等オンライン配信プラットホームの歴史およびその活用法について理解する。また，その際に起こるセキュリティや著作権の問題について理解する。	
第5回	ワードの基礎知識I Wordの起動，終了，文字入力の基本，印刷等を学び，簡単な文章を入力し，プリントアウトできる技術を習得する。	
第6回	ワードの基礎知識II Wordによる表の作成，画像の挿入，図形の作成などWordの多様な編集機能を理解し，簡単なちらし等が作成できる技能を習得する。	
第7回	パワーポイントの基礎知識I パワーポイントの起動，終了，画像の挿入，図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。	
第8回	パワーポイントの基礎知識 II パワーポイントのアニメーションの機能を活用し，簡単な動画を作成する技術を習得する。	
第9回	パワーポイントの基礎知識 III パワーポイントのプレゼンテーションの機能を活用し，簡単な自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。	
第10回	生成系AIの活用 I 生成系AIの仕組みについて理解し，簡単な画像や動画を作成するなど，ルールを守って生成系AIが活用ができることを学修する。	
第11回	デジタルコンテンツの作成の仕方I 教育におけるデジタルコンテンツの活用の意義・活用例について理解する。	
第12回	デジタルコンテンツの作成の仕方II 授業における活用場面を想定しながら，パワーポイントにより，簡単なデジタルコンテンツの作成の仕方を理解する。	
第13回	デジタルコンテンツの作成の仕方III デジタルコンテンツを活用するための簡略化した指導案(授業レシピ)を作成して，模擬授業を行うための実践力を習得する。	
第14回	情報の倫理とセキュリティI 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け，パスワードを適切に設定・管理するなど，コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。	
第15回	情報の倫理とセキュリティII SNS等のネットによるコミュニケーションの特色を理解し，情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち，自他の権利を尊重して，ルールやマナーを守って情報を集めたり発信できるようになるための学修をする。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。
レポート	80	毎回の授業で学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか，提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学修目標」を具体的に提示し，その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって，その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。
受講の心得	新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県情報教育センター(6年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．パソコンに関する基礎的知識を理解する。	パソコンに関する基礎的知識を十分に理解している。	パソコンに関する基礎的知識を概ね理解している。	パソコンに関する基礎的知識を普通に理解している。	パソコンに関する基礎的知識の理解がやや不十分。	パソコンに関する基礎的知識が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1．情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解している。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて十分理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて概ね理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて普通に理解しており，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを概ね構築することができる。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについての理解がやや不十分であり，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションの構築もやや不十分である。	情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて理解できておらず，これらを知識を活用して，安全な情報管理や正しいネットワークコミュニケーションを構築することができない。
技能	1．パソコンに関する基礎的操作ができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており，これらを活用した課題を迅速・的確に作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を十分理解しており，これらを活用した課題を作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法を普通に理解しており，これらを活用した課題を作ることができる。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解がやや不十分であり，これらを活用した課題についてもやや時間がかかり，的確さに欠ける。	ワード・エクセル・パワーポイントなどのソフトの使用方法の理解が不十分であり，これらを活用した課題についても時間がかかり，的確さに欠ける。
技能	2．ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方の基本操作ができる。	ネットの利用の知識が十分あり，これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており，これらを活用して十分な情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用について概ね理解しており，これらを活用して普通に情報収集・情報発信ができる。	ネットの利用についての理解がやや不十分であり，これらを活用した情報収集・情報発信も十分にできない。	ネットの利用についての理解が不十分であり，これらを活用した情報収集・情報発信もできない。
技能	3．デジタルコンテンツ（紹介ビデオ）の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，受け手の意識を想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，受け手の意識を大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し，留意点を制作に反映することができる。相手の意識を想定して作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解が不十分であり，制作物の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な政策方法の理解が不十分で，留意点を制作に全く反映していない。

科目名	情報処理演習			授業番号	CC202	サブタイトル	サイバー空間の歩き方		
教員	岸 誠一								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代の情報社会においては，パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため，パソコンの基本的な使い方や仕組み，さらにはネットワークの基礎的な使用方法および，今このネットワークによってもたらされている様々な情報モラルの課題について学修する。また，実際の教育現場における園児・児童に対するICTの活用技術を学び，またそれらを活用した教材作成も体験し，教員としてのICT活用の実践力を体得する。								
到達目標	本授業も具体的な目標は，次の３点である。 （１）パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 （２）ネットを利用した情報収集，加工，発信の仕方を学ぶ。 （３）情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス・教育の情報化，現代社会におけるICTの役割と導入 教育の方法・技術，ICT教育に関する基本的内容に関して説明すると共に「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのICTの活用について学ぶ。	
第2回	エクセルの基礎知識Ⅰ 表計算等のエクセルの基礎知識を演習を通して理解する。また，基本的な関数などについても理解し，簡単な校務処理ができるようにする。実際に学校で使用する児童(園児)名簿の作成をしながら，ソート，検索といったエクセルの基本的な機能を体得する。また，保存時のパスワードの設定など個人情報保護についても学ぶ。	
第3回	エクセルの基礎知識Ⅱ エクセルのグラフ機能の基礎的な内容について学修する。小学校の児童の保健データ(ダミー)を用いて，グラフ化し，そのデータをもとに分析を行う。分析の際に平均とか標準偏差など基本的な統計処理をエクセルの関数で行うことも学ぶ。	
第4回	ネット利用についての基礎知識 YouTube等オンライン配信プラットホームの歴史およびその活用法について理解する。また，その際に起こるセキュリティや著作権の問題についても理解する。	
第5回	ワードの基礎知識Ⅰ Wordの起動，終了，文字入力の基本，印刷等を学び，簡単な文章を入力し，プリントアウトできる技術を習得する。また，最終課題として簡単なちらしを作成し印刷する。	
第6回	ワードの基礎知識II Wordによる表の作成，画像の挿入，図形の作成などWordの多様な編集機能を理解し，簡単なちらし(学級通信)等が作成できる技能を習得する。	
第7回	パワーポイントの基礎知識Ⅰ パワーポイントの起動，終了，画像の挿入，図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。また，この機能を活用して学校行事を広報するチラシを作成する。	
第8回	パワーポイントの基礎知識Ⅱ パワーポイントのアニメーションの機能を活用し，簡単な動画を作成する技術を習得する。また，学校現場で活用できる動画教材を作成し，学生同士で相互評価する。	
第9回	パワーポイントの基礎知識Ⅲ パワーポイントのプレゼンテーションの機能を活用し，簡単な自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。また，教育現場で活用できそうな学習教材を作成し，学生同士で相互評価する。	
第10回	生成系AIの活用 生成系AIの仕組みについて理解し，簡単な画像や動画を作成するなど，ルールを守って生成系AIが活用ができることを学修する。	
第11回	パソコンと音楽 音楽ソフト(ボカロイド)を活用した創作を体験する。また，音楽教育におけるICTの活用について学修する。情報教育センターの録音スタジオを用いた音楽の録音についても紹介する。	
第12回	デジタルコンテンツの作成の仕方Ⅰ 授業における活用場面を想定しながら，パワーポイントにより，簡単なデジタルコンテンツの作成の仕方を理解する。また，保育現場・小学校現場での活用事例を示したビデオを視聴しながら，こういった場合のICT活用の仕方を学ぶ。	
第13回	デジタルコンテンツの作成の仕方Ⅱ デジタルコンテンツを活用するための簡略化した指導案(授業レシピ)を作成し，保育園・幼稚園・小学校における園児・児童を対象にした模擬授業を行う。この体験を通し，教育現場でのICT活用の実践力を体得する。	
第14回	情報の倫理とセキュリティI 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け，パスワードを適切に設定・管理するなど，コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。	
第15回	情報の倫理とセキュリティII SNS等のネットによるコミュニケーションの特色を理解し，情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち，自他の権利を尊重して，ルールやマナーを守って情報を集めたり発信できるようになるための学修をする。また，園児・児童にどのような指導したらよいか模擬授業の実践を通して学ぶ。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。
レポート	80	毎回の授業で学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか，提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学修目標」を具体的に提示し，その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって，その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。
受講の心得	新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県情報教育センター(6年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ネットワークの利用の仕方，データの処理の仕方，電子メール，情報セキュリティの基本について理解する。	ネットワークの利用の仕方，データの処理の仕方，電子メール，情報セキュリティの基本について十分に理解できている。	ネットワークの利用の仕方，データの処理の仕方，電子メール，情報セキュリティの基本について概ね理解できている。	ネットワークの利用の仕方，データの処理の仕方，電子メール，情報セキュリティの基本について普通に理解できている。	ネットワークの利用の仕方，データの処理の仕方，電子メール，情報セキュリティの基本についてやや理解が不十分。	ネットワークの利用の仕方，データの処理の仕方，電子メール，情報セキュリティの基本について全く理解ができていない。
技能	1．文書入力(Word)の基本操作ができる	文書入力(Word)の基本操作が十分できる。	文書入力(Word)の基本操作が概ねできる。	文書入力(Word)の基本操作が最低限できる。	文書入力(Word)の基本操作がやや不十分。	文書入力(Word)の基本操作が全くできない。
技能	2.プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作ができる。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作が十分できる。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作が概ねできる。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作が最低限できる。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作がやや不十分。	プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本操作が全くできない。
技能	3.表計算ソフト(Excel)の基本操作ができる。	表計算ソフト(Excel)の基本操作が十分できる。	表計算ソフト(Excel)の基本操作が概ねできる。	表計算ソフト(Excel)の基本操作が最低限できる。	表計算ソフト(Excel)の基本操作がやや不十分。	表計算ソフト(Excel)の基本操作が全くできない。
態度	1．提出物	演習課題は迅速・かつ課題をよく理解して的確に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題を概ね理解してほぼ的確に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題をよく理解して普通に処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題の題意の理解がやや不十分のまま処理された成果物を期限内に提出できる。	演習課題は課題の題意が全く理解できていない成果物を提出したり，成果物の提出が期限内にできない。

科目名	英語Ⅰ 1クラス			授業番号	CD201A	サブタイトル	実践英語Ⅰ		
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて外国人に紹介する対話文を扱い，英語の読解力を高めるとともに岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで岡山の紹介文を書き，英語で発表できる力を育成する。また，各自の英語の能力に応じた実用英語技能検定あるいは幼保英語検定の取得を目指す。								
到達目標	・英語の基本的な語彙，文法，文構造を理解できる。 ・英語の対話文を読んだり聞いたりして，その内容を理解できる。 ・日常的な話題や社会的な話題について，適切な表現を用いて伝え合うことができる。 ・地元岡山の文化や生活習慣等についての知識を身に付けている。 ・岡山の紹介文を作成し，Show and Tellの形で発表できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，(知識・理解)(技能)(態度)の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Introduction: 講座の目標，内容，評価方法を確認する。 1-1-2 Welcome to Okayama : 空港でALTを迎える場面での対話の内容を理解する。	
第2回	1-1-4 At Korakuen : 後楽園を案内する場面での対話の内容を理解する。	
第3回	1-2-1 Hofukuji and Sesshu : 宝福寺と雪舟に関する対話の内容を理解する。	
第4回	1-2-2 Kibiji District : 吉備路に関する対話の内容を理解する。	
第5回	1-2-4 Ohara Museum of Art : 大原美術館に関する対話の内容を理解する。	
第6回	1-3-1 Hiruzen Height : 蒜山高原に関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第7回	1-3-2 A Trip to Inujima : 犬島への旅行に関する対話の内容を理解する。	
第8回	1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine : 吉備津神社への日帰り旅行に関する対話の内容を理解する。	
第9回	1-3-5 Yunogo Hot Springs : 湯郷温泉に関する対話の内容を理解する。	
第10回	2-1-3 Gift Wrapping : 贈り物の包装に関する対話の内容を理解する。	
第11回	2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags : 白桃の袋かけに関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第12回	Introduction Report of Okayama:岡山紹介のレポートを作成する。 Interview and Reading Test①:教員からの英語の質問に答えるとともに，テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。	
第13回	Okayama Introduction Practice:岡山紹介の練習をする。 Interview and Reading Test②:教員からの英語の質問に答えるとともに，テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。	
第14回	Show and Tell of Okayama Introduction : 岡山紹介のShow and Tellをする。視聴する学生は聞き取り内容のメモをとり，発表者への質問をする。	
第15回	Future Goals: 将来の夢に関する対話文の内容を理解し，各自の将来の夢について英語で書く。 Summary and Reflection of the Entire Lecture : 講義全体のまとめと省察	
授業計画 備考2	・毎時間の最初に，ペアでTopic Talk等のコミュニケーション活動を行い，英語によるコミュニケーション能力を高める。 ・テキストの内容理解後は，毎回ペアやグループで音読練習を行う。 ＊R6年度改定	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	・意欲的な受講態度（ペアやグループワークを含む），ノート点検による予習・復習の状況を評価する。＜態度＞
レポート	10	・テーマについて調査・整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。（岡山の紹介）＜技能＞ ＊レポートについてはコメントを記入して返却するとともに，良い例はクラス全体に紹介する。
小テスト	50	・既習事項の中から有用な語彙・表現の理解度を評価する。（到達度確認テスト）＜知識・理解＞ ・授業中のコミュニケーション活動や音読の到達度を確認する。（Interview and Reading Test）＜技能＞

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，自らの学びの状況を把握し向上できるよう，自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動をするので積極的に参加すること。 ・実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し，検定合格を目指して学修すること。
授業外学修	・テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 ・前時の授業内容については２時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
岡山からハロー	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	978-4-88197-759-0c00	1，000円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（３８年）を生かし，小学校や乳幼児教育施設等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し，問いに対して９割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し，問いに対して８割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し，問いに対して７割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，やや理解できていないところもあるが，問いに対して６割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，あまり理解できておらず，問いに対して６割未満の回答である。
知識・理解	２．対話文の内容理解（Reading）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して読み，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に読み取ることができない。
知識・理解	３．対話文の内容理解（Listening）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して聞き，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に聞き取ることができない。
知識・理解	４．地元岡山の文化や習慣等についての知識	地元岡山の文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み，その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を十分かつ正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識をほぼ身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが，その知識が身に付いていない。
技能	１．英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができない。
技能	２．英文の音読	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で，感情を込めながら相手に伝わる工夫をして音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で，感情を込めて音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できる。	ほぼ正確な発音・イントネーションとほぼ適切なポーズ・声量で音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できない。
技能	３．発表原稿の作成（書くこと）	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ，事実や自分の考え，気持ちを入れる等して，相手に伝わりやすい英文を書くことができる。	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ，事実や自分の考え，気持ちを入れる等して書くことができる。	既習の語彙・表現を用いて，事実や自分の考え，気持ちを入れる等して書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いて，事実について書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いても，事実について書くことができない。
技能	４．Show and Tell（岡山紹介の発表）	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で，原稿を見ずに実物や写真を示しながら，聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で，あまり原稿を見ずに，実物や写真を示しながら，聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で，実物や写真を示しながら，聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で，実物や写真を示しながら，聞き手に伝えることができる。	聞き手にわかりやすく伝えることができない。
態度	１．ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話をしたり，分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し，必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	英語Ⅰ 2クラス			授業番号	CD201B	サブタイトル	実践英語Ⅰ		
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて外国人に紹介する対話文を扱い，英語の読解力を高めるとともに岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで岡山の紹介文を書き，英語で発表できる力を育成する。また，各自の英語の能力に応じた実用英語技能検定あるいは幼保英語検定の取得を目指す。								
到達目標	・英語の基本的な語彙，文法，文構造を理解できる。 ・英語の対話文を読んだり聞いたりして，その内容を理解できる。 ・日常的な話題や社会的な話題について，適切な表現を用いて伝え合うことができる。 ・地元岡山の文化や生活習慣等についての知識を身に付けている。 ・岡山の紹介文を作成し，Show and Tellの形で発表できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，(知識・理解)(技能)(態度)の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Introduction: 講座の目標，内容，評価方法を確認する。 1-1-2 Welcome to Okayama : 空港でALTを迎える場面での対話の内容を理解する。	
第2回	1-1-4 At Korakuen : 後楽園を案内する場面での対話の内容を理解する。	
第3回	1-2-1 Hofukuji and Sesshu : 宝福寺と雪舟に関する対話の内容を理解する。	
第4回	1-2-2 Kibiji District : 吉備路に関する対話の内容を理解する。	
第5回	1-2-4 Ohara Museum of Art : 大原美術館に関する対話の内容を理解する。	
第6回	1-3-1 Hiruzen Height : 蒜山高原に関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第7回	1-3-2 A Trip to Inujima : 犬島への旅行に関する対話の内容を理解する。	
第8回	1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine : 吉備津神社への日帰り旅行に関する対話の内容を理解する。	
第9回	1-3-5 Yunogo Hot Springs : 湯郷温泉に関する対話の内容を理解する。	
第10回	2-1-3 Gift Wrapping : 贈り物の包装に関する対話の内容を理解する。	
第11回	2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags : 白桃の袋かけに関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第12回	Introduction Report of Okayama:岡山紹介のレポートを作成する。 Interview and Reading Test①:教員からの英語の質問に答えるとともに，テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。	
第13回	Okayama Introduction Practice:岡山紹介の練習をする。 Interview and Reading Test②:教員からの英語の質問に答えるとともに，テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。	
第14回	Show and Tell of Okayama Introduction : 岡山紹介のShow and Tellをする。視聴する学生は聞き取り内容のメモをとり，発表者への質問をする。	
第15回	Future Goals: 将来の夢に関する対話文の内容を理解し，各自の将来の夢について英語で書く。 Summary and Reflection of the Entire Lecture : 講義全体のまとめと省察	
授業計画 備考2	・毎時間の最初に，ペアでTopic Talk等のコミュニケーション活動を行い，英語によるコミュニケーション能力を高める。 ・テキストの内容理解後は，毎回ペアやグループで音読練習を行う。 ＊R6年度改定	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	・意欲的な受講態度（ペアやグループワークを含む），ノート点検による予習・復習の状況を評価する。＜態度＞
レポート	10	・テーマについて調査・整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。（岡山の紹介）＜技能＞ ＊レポートについてはコメントを記入して返却するとともに，良い例はクラス全体に紹介する。
小テスト	50	・既習事項の中から有用な語彙・表現の理解度を評価する。（到達度確認テスト）＜知識・理解＞ ・授業中のコミュニケーション活動や音読の到達度を確認する。（Interview and Reading Test）＜技能＞

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，自らの学びの状況を把握し向上できるよう，自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動をするので積極的に参加すること。 ・実用英語検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し，検定合格を目指して学修すること。
授業外学修	・テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 ・前時の授業内容については２時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
岡山からハロー	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	978-4-88197-759-0c00	1，000円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（３８年）を生かし，小学校や乳幼児教育施設等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し，問いに対して９割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し，問いに対して８割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し，問いに対して７割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，やや理解できていないところもあるが，問いに対して６割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，あまり理解できておらず，問いに対して６割未満の回答である。
知識・理解	２．対話文の内容理解（Reading）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して読み，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に読み取ることができない。
知識・理解	３．対話文の内容理解（Listening）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して聞き，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に聞き取ることができない。
知識・理解	４．地元岡山の文化や習慣等についての知識	地元岡山の文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み，その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を十分かつ正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識をほぼ身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが，その知識が身に付いていない。
技能	１．英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができない。
技能	２．英文の音読	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で，感情を込めながら相手に伝わる工夫をして音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で，感情を込めて音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できる。	ほぼ正確な発音・イントネーションとほぼ適切なポーズ・声量で音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できない。
技能	３．発表原稿の作成（書くこと）	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ，事実や自分の考え，気持ちを入れる等して，相手に伝わりやすい英文を書くことができる。	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ，事実や自分の考え，気持ちを入れる等して書くことができる。	既習の語彙・表現を用いて，事実や自分の考え，気持ちを入れる等して書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いて，事実について書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いても，事実について書くことができない。
技能	４．Show and Tell（岡山紹介の発表）	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で，原稿を見ずに実物や写真を示しながら，聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で，あまり原稿を見ずに，実物や写真を示しながら，聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で，実物や写真を示しながら，聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で，実物や写真を示しながら，聞き手に伝えることができる。	聞き手にわかりやすく伝えることができない。
態度	１．ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話をしたり，分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し，必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	英語Ⅱ 1クラス			授業番号	CD202A	サブタイトル	実践英語Ⅱ		
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	最新かつ身近で興味深いテーマが取り上げられている文章を読解し，基本的な文法・語彙・表現を復習するとともに，各テーマに沿ったペアでのコミュニケーション活動を行う。また，スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能を統合的に学ぶことにより，乳幼児教育施設における実践英語や，小学校での英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。								
到達目標	・基本的な語彙や文法・文構造を理解し，テーマに沿った文章の内容を正確に読解したり，リスニングにおいて正確に聞き取ったりできる。 ・ペアワークでのスピーキングやインタビューにおいて，自分の考えを的確に表現したり，相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 ・予習もして意欲的に授業に臨み，授業後は疑問に思った点や練習すべき事項について復習する等，自律的に学ぶことができる。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	・Introduction：講座の目標，内容，評価方法について確認する。 ・UNIT１：Resellers - Good or Bad? 転売ヤーに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第2回	・UNIT２：About Earphones 昨今のイヤホン事情に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第3回	・UNIT３：Cash Registers 有人/無人のレジに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第4回	・UNIT４：Funny Happenings During Online Lessons オンライン授業で起きたハプニングに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第5回	・UNIT５：Loose-Fitting Clothing 流行りのオーバーサイズの服に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第6回	・UNIT６：Shrinkflation シュリンクフレーションに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・Unit１～６のまとめをする。	
第7回	・UNIT７：Living in the Countryside 田舎暮らしに憧れる若者に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・Achievement Test：既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第8回	・UNIT８：Hanging Out in Streets and Parks 外で友人と過ごす大学生に 関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第9回	・UNIT９：Plant Burgers Are Popular in America 植物ベースの代替肉ハンバーガーに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第10回	・UNIT10：South Korean Culture Is Popular Worldwide 韓国文化に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第11回	・UNIT11：Doxing ドキシングに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第12回	・UNIT12：Fast Movies ファスト映画に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・UNIT７～１２のまとめをする。	
第13回	・UNIT13：Do We Need "Dislike" Button on Social Media? 「嫌いボタンは必要かどうかに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・Achievement Test：既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第14回	・UNIT14：Ramen Subscription サブスクに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第15回	・UNIT15：Which Video-Sharing App Is Best？ おすすめの動画共有アプリに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・講座全体のまとめと省察をする。	
授業計画 備考2	各回のUNITにおいて，語彙の確認→文章読解・要約→文法→リスニング→スピーキング（ペアワーク）を行う。 ＊R６年度改定	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，ノート点検による予習・復習の内容を評価する。＜態度＞
スピーキング・インタビュー	10	ペアワークにおけるスピーキングやインタビューについて，自分の考えを的確に表現したり，相手の意見を正確に理解できているかを評価する。＜技能＞
小テスト	50	到達度確認テストにおいて，語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。＜知識・理解＞

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を必ず行い，自らの学びの状況を把握し向上できるよう，自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動を実施するので積極的に取り組むこと。
授業外学修	・テキストの内容については授業までに２時間以上予習すること。 ・授業内容について定着が図られるよう，２時間以上復習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Trend Scope	Jonathan Lynch, 委文光太郎	成美堂	978-4-7919-7265-4	2,640円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる実践的な英語力を育成する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し，問いに対して９割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し，問いに対して８割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し，問いに対して７割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，やや理解できていないところもあるが，問いに対して６割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，あまり理解できておらず，問いに対して６割未満の回答である。
知識・理解	２．対話文の内容理解（Reading）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して読み，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に読み取ることができない。
知識・理解	３．対話文の内容理解（Listening）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して聞き，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に聞き取ることができない。
技能	１．英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができない。
態度	１．ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話をしたり，分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し，必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	英語Ⅱ 2クラス			授業番号	CD202B	サブタイトル	実践英語Ⅱ		
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	最新かつ身近で興味深いテーマが取り上げられている文章を読解し，基本的な文法・語彙・表現を復習するとともに，各テーマに沿ったペアでのコミュニケーション活動を行う。また，スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能を統合的に学ぶことにより，乳幼児教育施設における実践英語や，小学校での英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。								
到達目標	・基本的な語彙や文法・文構造を理解し，テーマに沿った文章の内容を正確に読解したり，リスニングにおいて正確に聞き取ったりできる。 ・ペアワークでのスピーキングやインタビューにおいて，自分の考えを的確に表現したり，相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 ・予習もして意欲的に授業に臨み，授業後は疑問に思った点や練習すべき事項について復習する等，自律的に学ぶことができる。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	・Introduction：講座の目標，内容，評価方法について確認する。 ・UNIT１：Resellers - Good or Bad? 転売ヤーに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第2回	・UNIT２：About Earphones 昨今のイヤホン事情に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第3回	・UNIT３：Cash Registers 有人/無人のレジに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第4回	・UNIT４：Funny Happenings During Online Lessons オンライン授業で起きたハプニングに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第5回	・UNIT５：Loose-Fitting Clothing 流行りのオーバーサイズの服に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第6回	・UNIT６：Shrinkflation シュリンクフレーションに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・Unit１～６のまとめをする。	
第7回	・UNIT７：Living in the Countryside 田舎暮らしに憧れる若者に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・Achievement Test：既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第8回	・UNIT８：Hanging Out in Streets and Parks 外で友人と過ごす大学生に 関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第9回	・UNIT９：Plant Burgers Are Popular in America 植物ベースの代替肉ハンバーガーに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第10回	・UNIT10：South Korean Culture Is Popular Worldwide 韓国文化に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第11回	・UNIT11：Doxing ドキシングに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第12回	・UNIT12：Fast Movies ファスト映画に関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・UNIT７～１２のまとめをする。	
第13回	・UNIT13：Do We Need "Dislike" Button on Social Media? 「嫌いボタンは必要かどうかに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・Achievement Test：既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第14回	・UNIT14：Ramen Subscription サブスクに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。	
第15回	・UNIT15：Which Video-Sharing App Is Best？ おすすめの動画共有アプリに関する文章を読解し，その内容に関するリスニングとペアでの対話を行う。 ・講座全体のまとめと省察をする。	
授業計画 備考2	各回のUNITにおいて，語彙の確認→文章読解・要約→文法→リスニング→スピーキング（ペアワーク）を行う。 ＊R６年度改定	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，ノート点検による予習・復習の内容を評価する。＜態度＞
スピーキング・インタビュー	10	ペアワークにおけるスピーキングやインタビューについて，自分の考えを的確に表現したり，相手の意見を正確に理解できているかを評価する。＜技能＞
小テスト	50	到達度確認テストにおいて，語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。＜知識・理解＞

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を必ず行い，自らの学びの状況を把握し向上できるよう，自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動を実施するので積極的に取り組むこと。
授業外学修	・テキストの内容については授業までに２時間以上予習すること。 ・授業内容について定着が図られるよう，２時間以上復習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Trend Scope	Jonathan Lynch, 委文光太郎	成美堂	978-4-7919-7265-4	2,640円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる実践的な英語力を育成する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し，問いに対して９割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し，問いに対して８割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し，問いに対して７割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，やや理解できていないところもあるが，問いに対して６割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，あまり理解できておらず，問いに対して６割未満の回答である。
知識・理解	２．対話文の内容理解（Reading）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して読み，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に読み取ることができない。
知識・理解	３．対話文の内容理解（Listening）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して聞き，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に聞き取ることができない。
技能	１．英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができない。
態度	１．ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話をしたり，分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し，必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	韓国語			授業番号	CD204	サブタイトル	[韓国語の基礎を学ぶ]		
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を置い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，大学生活，エンターテインメント，社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文法，発音を理解して活用できる。 ・簡単な韓国語の読み書きができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作られたかのかをハングルの由来，韓国語の歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学び，その仕組みを理解する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学び，その仕組みを理解する。	
第4回	激音と濃音，パッチム 韓国語の基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。 終声子音字のパッチムについて理解する。	
第5回	韓国語の助詞，動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞の仕組みについて学習する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在から過去，未来はどのように表現されているのかを学習する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文や疑問文を簡単な言葉を用いて理解する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 韓国語の指示代名詞を事例から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形・尊敬形 韓国語の丁寧形や尊敬形を具体例から学び，理解する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みから短い表見を学習する。	
第11回	挨拶・訪問のことば 韓国語の基本的な挨拶の言葉を学習する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学との違い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の音楽と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいたかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，疑問点をチェックして来ること。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	978-4-8163-5558-5	1,600円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している	韓国語の必要性をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している	韓国語は理解しているが、具体的な知識が十分でない	あまり外国語に対して興味を持たない
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	韓国語の文字体系を理解しようとしていない	外国語や他の国のことを理解していない
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない	韓国のこと、韓国語にあまり関心が少ない
思考・問題解決能力	１．今日のグローバル社会において外国語を通じて他文化が理解できる	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	韓国の社会や経済に関心があり、韓国語の基礎が十分にできている	韓国語の会話や発音の体系が理解できている	他の国のことはあまり興味が少なく、語学にも理解度をあまり持っていない	外国語や他の国のことを理解していない
思考・問題解決能力	２．外国語を学んでグローバルな視野が広げられる	他の文化に対する理解力を培うことができる	韓国語だけではなく、韓国の社会問題にも興味を持っている	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解し、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
思考・問題解決能力	３．言葉の違いがあっても、他国の人々と共同社会を模索できる姿勢を持つことができる	韓国のことを言葉を通じてまず修得している	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	なぜ語学を勉強する意味があるのがが認識できていない	他の国と日本との関わりに関心がなく、語学の必要性が理解できていない
技能	１．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる	韓国語の基礎が出来ており、自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が出来ている	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
技能	２．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる	韓国語の基礎知識は十分に備え、自ら進んで韓国の文化を勉強している	韓国語の基礎知識を備えられ、その国のことまで把握できる	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	外国語を修得し、１つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない
技能	３．外国語や海外の人や文化を通じて自国のことや自分のことを再考することになるが	韓国語の学習が十分にでき、今日のグローバル社会が理解できる	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる	韓国語の基礎知識が勉強でき、他の語学にも興味を持つことが可能になる	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し、勉強しようかという認識ができていない
態度	１．韓国語を学ぶ本来の意味は何かを考えられる	語学を学ぶ目的は何かを考えられる	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が十分に理解でき、その国のことに関心が高まっている出来ている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない側面がある	韓国語の発音の体系や会話の基礎が理解できていない
態度	２．日本と韓国の両方を比較し、長所、短所が発見できる	語学勉強を通じて他の国に対する認識が変化している	韓国語の学習を通して、日本と韓国の差異や共通点が発見できている	韓国語の基礎知識を通じて、日本と韓国の共通点が把握できる	語学を学ぶ目的が明確ではなく、外国に関する関心度もあまり見られない	外国の文化や言葉に興味が少なく、韓国語の基礎を理解していない
態度	３．最も近くの国である韓国語の勉強を通じて韓国への再認識ができる	韓国語を学ぶ意味は何かが考えられ、韓国社会を再認識することができている	韓国語の会話や発音体系が理解できて、韓国の社会に関しても勉強しようとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	現在、外国語の学習や韓国語の学習がなぜ必要なのかがあまり理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない

科目名	英語Ⅲ 1クラス			授業番号	CD303A	サブタイトル	実践英語Ⅲ		
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	アメリカの日常生活を描いた映像資料を題材にして，英語の４技能をバランスよく使いながら言語活動に取り組む中で，英語運用能力の向上を図るとともに，アメリカ文化についても学修する。具体的には，各回においてまず，映像資料を視聴してその内容について確認し，抜粋したシーンを使って会話表現を練習する。次に，文法項目を確認し，練習問題に取り組む。そして，スライドショーによりロサンゼルスやアメリカ文化について深く学んだ後，ターゲットセンテンスを用いたライティング活動を行う。以上のように，様々な言語活動を行うことを通して，乳幼児教育施設や小学校における英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。								
到達目標	・基本的な語彙，文法，文構造を理解し，テーマに沿った文章の内容を正確に読解したり，リスニングにおいて正確に聞き取ったりできる。 ・映像資料を活用しながら異文化理解を深める。 ・ペアやグループでのコミュニケーション活動において，自分の考えを的確に表現したり，相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 ・予習をして意欲的に授業に臨み，授業後は疑問に思った点や練習すべき事項について復習する等，自律的に学ぶことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	・Introduction: 本講座の目標，内容，評価方法について理解する。 ・Unit 1 Welcome to L.A. 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第2回	・Unit2 I Love Fruit! 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第3回	・Unit 3 Campus Life 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第4回	・Unit 4 Lunchtime 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第5回	・Unit 5 First Date 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第6回	・Unit 6 Where's Linda? 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・Unit1～６のまとめをする。	
第7回	・Unit 7 Andy's News 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第8回	・Unit 8 Shopping in Santa Monica 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第9回	・Unit 9 Moving Day 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第10回	・Unit10 A Beautiful View 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第11回	・Unit11 Sunday Fun 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第12回	・Unit 12 Seeing Stars 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・Unit7～１２のまとめをする。	
第13回	・Unit 13 Buying Food for a BBQ 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第14回	・Unit 14 Putting on a New Face 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第15回	・Unit 15 Nice Surprises 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・講座全体のまとめと省察をする。	
授業計画 備考2	＊R6年度改定	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，言語活動への積極的な取り組み，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。＜態度＞
言語活動における技能	10	言語活動において，自分の考えを的確に表現できているかどうかを評価する。＜技能＞
小テスト	50	到達度確認テストにおける語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。＜知識・理解＞ ＊テスト返却時に，全体的な傾向や今後の学修のポイントを解説する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・言語活動に積極的に取り組むこと。 ・予習・復習において，音声ファイルをダウンロードして自主的に学修すること。
授業外学修	・予習として，授業で指示された箇所を読み，その問題をしておくこと。 ・復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現をノートに書いて練習し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
We Love L.A.! ～映像で学ぶ大学基礎英語～	Robert Hickling 臼倉美里	金星堂	978-4-7647-4049-5	2，500円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語運用能力を育成する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し，問いに対して９割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し，問いに対して８割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し，問いに対して７割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，やや理解できていないところもあるが，問いに対して６割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，あまり理解できておらず，問いに対して６割未満の回答である。
知識・理解	2．英文の内容理解（Reading）	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して読み，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いても，正確に読み取ることができない。
知識・理解	３．英文の内容理解（Listening）	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して聞き，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いても，正確に聞き取ることができない。
知識・理解	４．異文化理解（アメリカ文化や生活習慣等）	アメリカの文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み，その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や生活習慣に関するテキストの英文を読み，その知識を十分かつ正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識をほぼ身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが，その知識が身に付いていない。
技能	１．英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができない。
態度	１．ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話をしたり，分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し，必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	英語Ⅲ 2クラス			授業番号	CD303B	サブタイトル	実践英語Ⅲ		
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	アメリカの日常生活を描いた映像資料を題材にして，英語の４技能をバランスよく使いながら言語活動に取り組む中で，英語運用能力の向上を図るとともに，アメリカ文化についても学修する。具体的には，各回においてまず，映像資料を視聴してその内容について確認し，抜粋したシーンを使って会話表現を練習する。次に，文法項目を確認し，練習問題に取り組む。そして，スライドショーによりロサンゼルスやアメリカ文化について深く学んだ後，ターゲットセンテンスを用いたライティング活動を行う。以上のように，様々な言語活動を行うことを通して，乳幼児教育施設や小学校における英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。								
到達目標	・基本的な語彙，文法，文構造を理解し，テーマに沿った文章の内容を正確に読解したり，リスニングにおいて正確に聞き取ったりできる。 ・映像資料を活用しながら異文化理解を深める。 ・ペアやグループでのコミュニケーション活動において，自分の考えを的確に表現したり，相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 ・予習をして意欲的に授業に臨み，授業後は疑問に思った点や練習すべき事項について復習する等，自律的に学ぶことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	・Introduction: 本講座の目標，内容，評価方法について理解する。 ・Unit 1 Welcome to L.A. 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第2回	・Unit2 I Love Fruit! 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第3回	・Unit 3 Campus Life 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第4回	・Unit 4 Lunchtime 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第5回	・Unit 5 First Date 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第6回	・Unit 6 Where's Linda? 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・Unit1～６のまとめをする。	
第7回	・Unit 7 Andy's News 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第8回	・Unit 8 Shopping in Santa Monica 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第9回	・Unit 9 Moving Day 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第10回	・Unit10 A Beautiful View 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第11回	・Unit11 Sunday Fun 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第12回	・Unit 12 Seeing Stars 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・Unit7～１２のまとめをする。	
第13回	・Unit 13 Buying Food for a BBQ 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第14回	・Unit 14 Putting on a New Face 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。	
第15回	・Unit 15 Nice Surprises 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の４技能を用いて取り組む。 ・講座全体のまとめと省察をする。	
授業計画 備考2	＊R6年度改定	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，言語活動への積極的な取り組み，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。＜態度＞
言語活動における技能	10	言語活動において，自分の考えを的確に表現できているかどうかを評価する。＜技能＞
小テスト	50	到達度確認テストにおける語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。＜知識・理解＞ ＊テスト返却時に，全体的な傾向や今後の学修のポイントを解説する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・言語活動に積極的に取り組むこと。 ・予習・復習において，音声ファイルをダウンロードして自主的に学修すること。
授業外学修	・予習として，授業で指示された箇所を読み，その問題をしておくこと。 ・復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現をノートに書いて練習し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
We Love L.A.! ～映像で学ぶ大学基礎英語～	Robert Hickling 臼倉美里	金星堂	978-4-7647-4049-5	2，500円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語運用能力を育成する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し，問いに対して９割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し，問いに対して８割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し，問いに対して７割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，やや理解できていないところもあるが，問いに対して６割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，あまり理解できておらず，問いに対して６割未満の回答である。
知識・理解	2．英文の内容理解（Reading）	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して読み，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いても，正確に読み取ることができない。
知識・理解	３．英文の内容理解（Listening）	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して聞き，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いても，正確に聞き取ることができない。
知識・理解	４．異文化理解（アメリカ文化や生活習慣等）	アメリカの文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み，その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や生活習慣に関するテキストの英文を読み，その知識を十分かつ正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識をほぼ身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが，その知識が身に付いていない。
技能	１．英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができない。
態度	１．ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話をしたり，分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し，必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	体育講義 全8回			授業番号	CE201	サブタイトル	(日常生活と健康)		
教員	溝田 知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代社会においては，技術革新に伴う機械化・情報化等が進み，日常生活における身体活動が減少するとともに，食生活のバランスの崩れも伴って，運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって，我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では，からだと心の仕組みについて，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。								
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて，日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているかを考え理解する。	
第2回	「自律神経」の働きについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考え理解する。	
第3回	「ホルモン」の働きについて考える 眠りのホルモンと呼ばれる「メラトニン」について，分泌の仕組みや働きについて考え理解する。	
第4回	「睡眠障害」について考える 睡眠障害の種類を知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第5回	「高血圧」について考える 高血圧の仕組みを知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第6回	「目の病気」について考える。 目の病気の種類を知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第7回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること，健康診断で分からないことについて考える。	
第8回	「背筋力」の働きについて考える 二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら，生活に必要な背筋力を知る。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは，その時その場で行う。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	各回の主要なポイントの理解度を評価する。 テストは，採点をして返却する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・スポーツに関わる知識と理解を深め，スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているので，自らの生活と関連付けながら受講すること。
授業外学修	・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．体育講義の基本的考え方が理解できている。	体育講義の内容が理解できている。	体育講義の内容がほぼ理解できている。	体育講義の基本的な内容が理解できている。	体育講義の基本的な内容の理解が十分ではない。	相談援助の基本的考な内容が理解できていない。
思考・問題解決能力	1．事例に基づいて、道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて，道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて、道具や簡単な方法でほぼセルフチェックできる。	事例に基づいて、簡単にセルフチェックできる。	簡単なセルフチェックの方法についての理解が十分ではない。	簡単なセルフチェックの方法を理解できていない。

科目名	体育実技 1クラス			授業番号	CE202A	サブタイトル	(スポーツに親しもう)		
教員	梶谷 信之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第2回	バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第3回	バスケットボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第4回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第5回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第6回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第8回	バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） ペアを組み，リーグ戦方式でゲームをします。	
第10回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第11回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第12回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第13回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第14回	卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第15回	卓球III（ゲームの展開） ペアを組み，リーグ戦方式でゲームをします。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは，その時その場で行う。
レポート		
小テスト	40	各競技ごとに試合を実施する。 フィードバックは，その時その場で行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。
授業外学修	・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるのに加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができている。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	2．各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
技能	1．各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。

科目名	体育実技 2クラス			授業番号	CE202B	サブタイトル	(スポーツに親しもう)		
教員	梶谷 信之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第2回	バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第3回	バスケットボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第4回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第5回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第6回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第8回	バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） ペアを組み，リーグ戦方式でゲームをします。	
第10回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第11回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第12回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第13回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第14回	卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第15回	卓球III（ゲームの展開） ペアを組み，リーグ戦方式でゲームをします。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは，その時その場で行う。
レポート		
小テスト	40	各競技ごとに試合を実施する。 フィードバックは，その時その場で行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。
授業外学修	・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるのに加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができている。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	2．各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
技能	1．各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。

科目名	ファーストイヤーセミナー			授業番号	CF101	サブタイトル	(大学生活に慣れよう！)		
教員	齊藤 佳子、中 典子、中田 周作、岸 誠一、森寺 勝之、岡崎 三鈴、大橋 由佳								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子ども学部子ども学科の理念・目標，学びの姿勢，図書館の活用，情報倫理，「子ども学」の基礎，社会人としての素養など，将来への展望も含めて，オムニバス形式で講義を行う。								
到達目標	大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など，大学活を充実したものとしていくための基礎的な知識や技能を身に付ける。<知識・理解> <技能> また，将来，保育者・教育者として，子どもの最善の利益を実現できる努力を続ける態度を形成するための素地を養う。<態度> なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	感染予防講習会 図書館オリエンテーション 学校保健安全法に定める感染症等予防対策や大学図書館の使い方について学ぶ。	齊藤，波多江（人間栄養），図書館スタッフ
第2回	子ども学部 学部長講義 演題：これからの大学生活	中
第3回	ボランティアとは何か ボランティアとは何か，ボランティア活動の今日的意義について理解する。また，本学部でのボランティア活動について理解する。	担当講師，齊藤
第4回	スタディスキルズ(1) 大学生のノートのとり方の基本やテキストの読み方について学ぶ。	齊藤
第5回	白鷗ｅラーニング(1) 白鷗ｅラーニングとは，学習内容や学習の進め方について学ぶ。	岸
第6回	スタディスキルズ(2) レポートの書き方や資料の探し方について学ぶ。	森寺
第7回	人権について 人権教育の全体像について学ぶ。	森寺
第8回	マナーに関する講座 大学生が身に付けたいマナーについて考える。	大橋，齊藤
第9回	地域清掃 地域貢献の一環として，創立記念日（6月16日）に合わせて実施する。	齊藤，子ども学科教員
第10回	金融に関する講座 大学生が理解しておくべき「人生とお金」に関する知恵，金融リテラシーについて学ぶ。	外部講師，岡崎
第11回	生と性について 大学生の生と性について考える。	岡本，岡崎
第12回	インターネットやスマホの安全な活用について SNSの使い方を見直し，インターネットやスマホの安全な活用について考える。	岸
第13回	取得できる免許・資格・大学院進学について 取得できる免許・資格について確認し，将来の進路について考える。	中田
第14回	子ども学部のカリキュラムとコース制について 子ども学部のカリキュラムとコースについて自分の将来像とつなげて考える。	中田
第15回	白鷗eラーニング(2) 白鷗ｅラーニングを活用する。	岸
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーやレポートによって評価する。 レポートやコメントペーパーについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。 最終回にコメントペーパーや資料を綴じたファイルを提出する。
受講の心得	大学生の基礎的素養として大切な内容であるため，積極的な態度で受講すること。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，随時，配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	外部講師等を招聘する場合は，一部，開講時間の変更を行うことがあるので注意すること。 本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭（13年）・校長（8年），県生涯学習センター（3年），県情報教育センター（6年）（岸誠一） 公立小学校教諭・教頭（16年）・校長（７年），県教育委員会（16年）（森寺勝之）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．大学生活に必要な基礎的な知識を身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な知識について，正確に理解し説明できる。	大学生活に必要な基礎的な知識について，正確ではないがほぼ理解し説明できる。	大学生活に必要な基礎的な知識について，大体述べることができる。	大学生活に必要な基礎的な知識について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	大学生活に必要な基礎的な知識について，まったく表現することができない。
技能	１．大学生活に必要な基礎的な技能を身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能をきわめて身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能を身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能を大体身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能をほとんど身に付けていない。	大学生活に必要な基礎的な技能が全く身に付けていない。
態度	１．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し，コメントシートを提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントシートの提出をしていない。

科目名	現代子ども学入門			授業番号	CL101	サブタイトル			
教員	中田 周作、中 典子、佐々木 弘記、岸 誠一、斉藤 佳子、山田 恵子、西田 寛子、溝田 知茂、伊藤 智里、牛島 光太郎、太田 憲孝、國田 祥子、廣畑 まゆ美、川崎 泰子、岡﨑 三鈴、土師 範子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子ども学とは，子どもを対象とする学際的な学問である。子どものあり方と子どもを取り巻く問題を，学校教育学，幼児教育学，保育学，社会学，心理学，社会福祉など様々な学問分野から，広い視点で見直していく。 本講義では，オムニバス形式によって，各学問領域から多角的に子どもにアプローチすることにより，総合的に子ども研究を進めていくための基礎を培う。								
到達目標	学校教育学，幼児教育学，保育学，社会学，心理学，社会福祉など様々な学問分野から子ども学にアプローチをすることにより，総合的に子ども研究を進めていくための基礎となる知識や技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	第2回から第15回の授業では、小グループに分かれ、各回ごとに、子ども学の多様な研究領域を学修する。								

回	概要	担当
第1回	子ども学の基礎概念	中田
第2回	子ども学の研究I−(1) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学	中、岸、斉藤、西田、溝田、國田、廣畑・土師
第3回	子ども学の研究I−(2) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学	中、岸、斉藤、西田、溝田、國田、廣畑・土師
第4回	子ども学の研究I−(3) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学	中、岸、斉藤、西田、溝田、國田、廣畑・土師
第5回	子ども学の研究I−(4) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学	中、岸、斉藤、西田、溝田、國田、廣畑・土師
第6回	子ども学の研究I−(5) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学	中、岸、斉藤、西田、溝田、國田、廣畑・土師
第7回	子ども学の研究I−(6) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学	中、岸、斉藤、西田、溝田、國田、廣畑・土師
第8回	子ども学の研究I−(7) 児童福祉学、情報教育学、幼児生活学、英語教育学、体育教育学、基礎心理学、幼児教育学、幼児表現学	中、岸、斉藤、西田、溝田、國田、廣畑・土師
第9回	子ども学の研究II−(1) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学	佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡﨑
第10回	子ども学の研究II−(2) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学	佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡﨑
第11回	子ども学の研究II−(3) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学	佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡﨑
第12回	子ども学の研究II−(4) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学	佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡﨑
第13回	子ども学の研究II−(5) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学	佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡﨑
第14回	子ども学の研究II−(6) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学	佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡﨑
第15回	子ども学の研究II−(7) 教育実践学、教育社会学、学校教育学、国語科教育学、保育文化学、図画工作教育学、歌唱演奏学	佐々木、中田、山田、太田、伊藤、牛島、川崎・岡﨑
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	毎回作成するレポートで評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	毎回，授業の内容をコメントペーパーにまとめて，提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参すること。
受講の心得	原則として「ファーストイヤーセミナー」を履修していること。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，指示する。
その他	本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記），公立小学校教諭・校長，県生涯学習ｾﾝﾀｰ，県情報教育ｾﾝﾀｰ（岸誠一）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	子どもについて、多角的な観点から理解することができる。	子ども学について、学際的な学問分野であることを理解し、学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉学などの多角的な観点からのアプローチが理解できる。	子ども学について、学際的な学問分野であることを理解し、学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉学などのなかから3つ以上の学問分野からのアプローチが理解できる。	子ども学について、学際的な学問分野であることを理解し、学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉学などのなかから１つ以上の学問分野からのアプローチが理解できる。	子ども学が学際的な学問分野であることが理解できている。	子ども学が学際的な学問分野であることが理解できていない。

科目名	子ども研究法 I			授業番号	CL202	サブタイトル			
教員	中 典子、佐々木 弘記、中田 周作、岸 誠一、齊藤 佳子、山田 恵子、西田 寛子、伊藤 智里、牛島 光太郎、太田 憲孝、森寺 勝之、廣畑 まゆ美、土師 範子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では， 1 年次の「現代子ども学入門」を踏まえ，子ども学を構成する学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学について追究するための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。								
到達目標	子ども学を探求していくために学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学に関する基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科学的に考えるには 児童福祉学の研究内容・方法	中
第2回	教育社会学の研究内容・方法	中田
第3回	教育実践学の研究内容・方法	佐々木
第4回	情報教育学の研究内容・方法	岸
第5回	算数教育学の研究内容・方法	森寺
第6回	国語教育学の研究内容・方法	太田
第7回	幼児生活学の研究内容・方法	齊藤
第8回	英語教育学の研究内容と方法	西田
第9回	保育文化学の研究内容・方法	伊藤
第10回	図画工作教育学の研究内容・方法	牛島
第11回	幼稚園・小学校教育実習の意義と方法	森寺・齊藤
第12回	施設実習（介護等体験含む）の意義と方法	中
第13回	保育の実際（１）	廣畑・土師
第14回	保育の実際（２）	廣畑・土師
第15回	幼稚園・小学校教育実習の実際	森寺・齋藤
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。
受講の心得	原則として「現代子ども学入門」を履修していること。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，指示する。
その他	本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木），公立小学校教諭・校長・県情報教育ｾﾝﾀｰ（岸）、公立小学校教諭・校長（森寺）、公立小学校教諭・教委（太田）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を習得する。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範かつ詳細に習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範に習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分習得していない。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を習得していない。
技能	１．子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を習得する。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範かつ詳細に習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範に習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に習得していない。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を習得していない。

科目名	子ども研究法Ⅱ			授業番号	CL203	サブタイトル			
教員	中 典子、中田 周作、岸 誠一、齊藤 佳子、山田 恵子、太田 憲孝、溝田 知茂、森寺 勝之、園田 祥子、廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，「子ども研究法Ⅰ」を踏まえ，子ども学を構成する学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学について追究するための知識や技能を一層深く習得する。								
到達目標	子ども学を探求していくために，学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学に関する知識や技能を一層深く習得することを目的とする。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	体育科教育学の研究内容・方法	溝田
第2回	基礎心理学の研究内容・方法	園田
第3回	幼児教育学の研究内容・方法	廣畑
第4回	歌唱演奏学の研究内容・方法	川崎
第5回	幼児音楽の研究内容と方法	土師
第6回	研究倫理	太田
第7回	小学校教育実習の実際（１） 幼稚園教育実習の実際（１）	森寺・溝田 齊藤・岡崎
第8回	小学校教育実習の実際（２） 幼稚園教育実習の実際（２）	森寺・溝田 齊藤・岡崎
第9回	小学校教育の実際（１） 幼児教育の実際（１）	岸・太田 齊藤・岡崎
第10回	小学校教育の実際（２） 幼児教育の実際（２）	岸・太田 齊藤・岡崎
第11回	施設実習の実際	中
第12回	小学校・幼稚園教育実習へ向けて	森寺・齋藤
第13回	子ども研究の成果（１）	溝田
第14回	子ども研究の成果（２）	中
第15回	子ども研究のまとめ	中田
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。
受講の心得	原則として「子ども研究法Ⅰ」を履修していること。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，指示する。
その他	本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭・校長・県情報教育ｾﾝﾀｰ（岸），公立小学校教諭・校長・教委（森寺），公立小学校教諭・教委（太田）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を一層深く習得する。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範かつ詳細に一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範に一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分一層深く習得していない。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を一層深く習得していない。
技能	１．子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を一層深く習得する。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範かつ詳細に一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範に一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に一層深く習得していない。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を一層深く習得していない。

科目名	課題研究 I			授業番号	CL304	サブタイトル			
教員	中　典子、佐々木　弘記、中田　周作、斉藤　佳子、西田　寛子、溝田　知茂、伊藤　智里、牛島　光太郎、太田　恵孝、國田　祥子、廣畑　まゆ美、川崎　泰子、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	課題研究は，卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため，当該領域の基礎的知識の獲得や，データの収集方法等を学ぶ。本学科において「子ども学」は，学校教育学，情報教育学，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学から成り，それぞれに担当教員がいる。学生は，その指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。								
到達目標	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し，学生自身が自らの研究課題を明確にすることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考	第1回　授業の概要・目的の解説，授業の進め方について。各領域の特性について理解する。 第2回　各領域においての研究課題。 第3回～第15回　指導教員のもとで各領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める。								
授業計画 自由記載	領域（キーワード） 教育実践学，情報教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，英語教育学，歌唱演奏学，幼児教育学								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	課題の理解度と定着度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「子ども研究法II」を履修していること。
授業外学修	授業で提示された課題を実施し，週当たり2時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，随時，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）　公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸　誠一）　公立小学校教諭・教委（太田　恵孝）　公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田　寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し理解することができる。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し広範かつ詳細に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し広範に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し十分に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し十分に理解していない。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し理解していない。
思考・問題解決能力	１．学生自身が自らの研究課題を明確にすることができる。	学生自身が自らの研究課題を広範かつ詳細に整理し，明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を広範に明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に明確にしていない。	学生自身が自らの研究課題を明確にしていない。
技能	１．卒業研究の基礎となる研究手法を身に付けることができる。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範かつ詳細に身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範に身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に身に付けていない。	卒業研究の基礎となる研究手法を身に付けていない。

科目名	課題研究Ⅱ			授業番号	CL305	サブタイトル			
教員	中　典子、佐々木　弘記、中田　周作、斎藤　佳子、西田　寛子、溝田　知茂、伊藤　智里、牛島　光太郎、太田　恵孝、國田　祥子、廣畑　まゆ美、川崎　泰子、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	課題研究IIでは，課題研究Iで整理された先行研究をもとに，どのような研究課題があるのか，またどのような研究方法があるのかについて学習していく。 課題研究では，卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため，当該領域の基礎的知識の獲得や，データの収集方法等を学ぶ。本学科において「子ども学」は，学校教育学，教科教育学，情報教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学，基礎心理学から成り，それぞれに担当教員がいる。学生は，その指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。								
到達目標	卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行い，卒業研究I・IIへと繋がっていくように研究課題を明らかにすることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考	第1回～第15回　指導教員のもとで領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める。								
授業計画 自由記載	領域（キーワード） 教育実践学，情報教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，英語教育学，歌唱演奏学，幼児教育学								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	課題の理解度・定着度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「課題研究Ⅰ」と「キャリア教育論」を履修していること。 授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。
授業外学修	授業で提示された課題を実施し，週当たり2時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，随時，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）　公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸　誠一）　公立小学校教諭・教委（太田　恵孝）　公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田　寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し理解することができる。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し広範かつ詳細に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し広範に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し十分に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し十分に理解していない。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し理解していない。
思考・問題解決能力	１．学生自身が自らの研究課題を一層深く明確にすることができる。	学生自身が自らの研究課題を広範かつ詳細に整理し，一層深く明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を広範に一層深く明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に一層深く明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に一層深く明確にしていない。	学生自身が自らの研究課題を一層深く明確にしていない。
技能	１．卒業研究の基礎となる研究手法を一層深く身に付けることができる。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範かつ詳細に一層深く身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範に一層深く身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に一層深く身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に一層深く身に付けていない。	卒業研究の基礎となる研究手法を一層深く身に付けていない。

科目名	卒業研究 I			授業番号	CL406	サブタイトル			
教員	中　典子、佐々木　弘記、中田　周作、岸　誠一、斉藤　佳子、西田　寛子、満田　知茂、伊藤　智里、牛島　光太郎、園田　祥子、廣畑　まゆ美、川崎　泰子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	卒業研究Iは，課題研究で到達した卒業研究の課題に対して研究をどのように進めるのかを具体的に学修する。課題の設定や研究への着手に先立って，先行研究をレビューし，リサーチクエスチョンを明らかにする。 子ども学には，様々な領域や方法が存在するので，領域の特色に応じた質的研究や量的研究等の研究方法が用いられる。各指導教員の指導計画に沿って計画的に卒業研究がまとめられるように進めていく。								
到達目標	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	領域（キーワード） 教育実践学，情報教育学，児童福祉学，教育社会学，美術教育学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，英語教育学，幼児音楽学								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	卒業研究の内容を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「課題研究II」を履修していること。
授業外学修	中期計画及び長期計画の目標に沿った行動をする。授業で提示された課題を実施し，週当たり5時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，随時，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）　　公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸　誠一）　　公立小学校教諭，教育委員会（太田　恵孝）　　公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田　寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．卒業論文のテーマに関する先行研究を理解することができる。	卒業論文のテーマに関する先行研究を広範かつ詳細に理解している。	卒業論文のテーマに関する先行研究を広範に理解している。	卒業論文のテーマに関する先行研究を十分に理解している。	卒業論文のテーマに関する先行研究を十分に理解していない。	卒業論文のテーマに関する先行研究理解していない。
思考・問題解決能力	１．卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，広範かつ詳細に研究を具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，広範に研究を具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を十分具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を十分具体的に進めることができない。	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることができない。
技能	１．卒業研究の研究手法を身に付けることができる。	卒業研究の研究手法を広範かつ詳細に身に付けている。	卒業研究の研究手法を広範に身に付けている。	卒業研究の研究手法を十分に身に付けている。	卒業研究の研究手法を十分に身に付けていない。	卒業研究の研究手法を身に付けていない。

科目名	卒業研究Ⅱ			授業番号	CL407	サブタイトル			
教員	中　典子、佐々木　弘記、中田　周作、岸　誠一、斉藤　佳子、西田　寛子、満田　知茂、伊藤　智里、牛島　光太郎、園田　祥子、廣畑　まゆ美、川崎　泰子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	卒業研究IIは，これまで受けてきた卒業研究Iでの指導をもとに，卒業論文の提出を目指して，各自，計画的に研究活動を進めていく。演習形式と個別指導とを適宜，組み合わせて，各自の論文の構想について報告し合いながら具体的な指導を行う。 また，学生が4年間の学びの集大成として，将来への自信を持つことができるように卒業研究の指導を行う。								
到達目標	卒業研究を卒業論文あるいは作品として完成させることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考	領域（キーワード） 教育実践学，情報教育学，児童福祉学，教育社会学，美術教育学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，英語教育学，幼児音楽学，幼児教育学								
授業計画 自由記載									
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	卒業研究の成果と発表内容

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「卒業研究I」を履修していること。
授業外学修	各自が卒業論文を完成させるために，授業で提示された課題を実施し，週当たり5時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，随時，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）　公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸　誠一）　公立小学校教諭，教育委員会（太田　恵孝）　公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田　寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を理解することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範かつ詳細に理解している。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範に理解している。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に理解している。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に理解していない。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を理解していない。
思考・問題解決能力	１．卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を問題解決に役立てることができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範かつ詳細に問題解決に役立てている。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範に問題解決に役立てている。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に問題解決に役立てている。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に問題解決に役立てていない。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を問題解決に役立てていない。
技能	１．卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容をわかりやすく発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範かつ詳細にわかりやすく発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範にわかりやすく発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分にわかりやすく発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分にわかりやすく発表することができない。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容をわかりやすく発表することができない。

科目名	基礎学力養成セミナーⅠ 1クラス			授業番号	CM101A	サブタイトル			
教員	佐々木 弘記、西田 寛子、牛島 光太郎、太田 憲孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	専門知識を修得するために必要となる教養や学修方法を身に付ける。内容としては，学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。								
到達目標	専門知識を修得するために必要となる教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	国語（１） 専門的知識の修得に係る国語の教養について学修する。	(太田)
第2回	国語（２） 専門的知識の修得に係る国語の教養について演習する。	(太田)
第3回	国語（３） 専門的知識の修得に係る国語の学修方法について学修する。	(太田)
第4回	国語（４） 専門的知識の修得に係る国語の学修方法について演習する。	(太田)
第5回	国語（５） 専門知識の修得に係る国語の教養や学修方法に関する問題を解く。	(太田)
第6回	社会（１） 専門的知識の修得に係る社会の教養について学修する。	(牛島)
第7回	社会（２） 専門的知識の修得に係る社会の学修方法について学修する。	(牛島)
第8回	社会（３） 専門知識の修得に係る社会の教養や学修方法に関する問題を解く。	(牛島)
第9回	英語（１） 専門的知識の修得に係る英語の教養について学修する。	(西田)
第10回	英語（２） 専門的知識の修得に係る英語の学修方法について学修する。	(西田)
第11回	数学（１） 専門的知識の修得に係る数学の教養について学修する。	(佐々木)
第12回	数学（２） 専門的知識の修得に係る数学の学修方法について学修する。	(佐々木)
第13回	理科（１） 専門的知識の修得に係る理科の教養について学修する。	(佐々木)
第14回	理科（２） 専門的知識の修得に係る理科の学修方法について学修する。	(佐々木)
第15回	数学（３）・理科（３） 専門知識の修得に係る数学・理科の教養や学修方法に関する問題を解く。	(佐々木)
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	10	授業時に行なう小テストによって評価する。小テストは採点して返却し，解説する。
定期試験	70	期末の５教科テストによって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学修した内容については，授業内での確認テストによって修得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに各担当教員に質問したり，eラーニング教材を活用したりしながら，専門知識修得の基礎となる教養の向上に努めること。
授業外学修	1．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 2．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。 3．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。 4．分からない問題や領域については，オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。 5．自習eラーニングを活用し学力向上に努めること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。 特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)，県教育ｾﾝﾀｰ(9年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年），県教育委員会指導主事（４年），公立中高一貫校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年）（西田寛子）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木弘記） 英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎的学力を養成する。（西田寛子）			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範かつ詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解いていない。

科目名	基礎学力養成セミナーⅠ 2クラス			授業番号	CM101B	サブタイトル			
教員	佐々木 弘記、西田 寛子、牛島 光太郎、太田 憲孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	専門知識を修得するために必要となる教養や学修方法を身に付ける。内容としては，学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。								
到達目標	専門知識を修得するために必要となる教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	国語（１） 専門的知識の修得に係る国語の教養について学修する。	(太田)
第2回	国語（２） 専門的知識の修得に係る国語の教養について演習する。	(太田)
第3回	国語（３） 専門的知識の修得に係る国語の学修方法について学修する。	(太田)
第4回	国語（４） 専門的知識の修得に係る国語の学修方法について演習する。	(太田)
第5回	国語（５） 専門知識の修得に係る国語の教養や学修方法に関する問題を解く。	(太田)
第6回	社会（１） 専門的知識の修得に係る社会の教養について学修する。	(牛島)
第7回	社会（２） 専門的知識の修得に係る社会の学修方法について学修する。	(牛島)
第8回	社会（３） 専門知識の修得に係る社会の教養や学修方法に関する問題を解く。	(牛島)
第9回	英語（１） 専門的知識の修得に係る英語の教養について学修する。	(西田)
第10回	英語（２） 専門的知識の修得に係る英語の学修方法について学修する。	(西田)
第11回	数学（１） 専門的知識の修得に係る数学の教養について学修する。	(佐々木)
第12回	数学（２） 専門的知識の修得に係る数学の学修方法について学修する。	(佐々木)
第13回	理科（１） 専門的知識の修得に係る理科の教養について学修する。	(佐々木)
第14回	理科（２） 専門的知識の修得に係る理科の学修方法について学修する。	(佐々木)
第15回	数学（３）・理科（３） 専門知識の修得に係る数学・理科の教養や学修方法に関する問題を解く。	(佐々木)
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	10	授業時に行なう小テストによって評価する。小テストは採点して返却し，解説する。
定期試験	70	期末の５教科テストによって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学修した内容については，授業内での確認テストによって修得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに各担当教員に質問したり，eラーニング教材を活用したりしながら，専門知識修得の基礎となる教養の向上に努めること。
授業外学修	1．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 2．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。 3．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。 4．分からない問題や領域については，オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。 5．白鷗eラーニングを活用し学力向上に努めること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。 特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)，県教育ｾﾝﾀｰ(9年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年），県教育委員会指導主事（４年），公立中高一貫校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年）（西田寛子）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木弘記） 英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎的学力を養成する。（西田寛子）			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範かつ詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解いていない。

科目名	基礎学力養成セミナーⅡ 1クラス			授業番号	CM102A	サブタイトル			
教員	佐々木 弘記、西田 寛子、牛島 光太郎、太田 憲孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法を身に付ける。内容としては，学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。								
到達目標	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	数学（１） 専門的知識の修得に係る数学の発展的な教養について学修する。	（佐々木）
第2回	数学（２） 専門的知識の修得に係る数学の発展的な学修方法について学修する。	（佐々木）
第3回	理科（１） 専門的知識の修得に係る理科の発展的な教養について学修する。	（佐々木）
第4回	理科（２） 専門的知識の修得に係る理科の発展的な学修方法について学修する。	（佐々木）
第5回	数学（３）・理科（３） 専門知識の修得に係る数学・理科の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（佐々木）
第6回	国語（１） 専門的知識の修得に係る国語の発展的な教養について学修する。	（太田）
第7回	国語（２） 専門的知識の修得に係る国語の発展的な学修方法について学修する。	（太田）
第8回	国語（３） 専門知識の修得に係る国語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（太田）
第9回	社会（１） 専門的知識の修得に係る社会の発展的な教養について学修する。	（牛島）
第10回	社会（２） 専門的知識の修得に係る社会の発展的な学修方法について学修する。	（牛島）
第11回	社会（３） 専門知識の修得に係る社会の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（牛島）
第12回	英語（１） 専門的知識の修得に係る英語の発展的な教養について学修する。	（西田）
第13回	英語（２） 知識の修得に係る英語の発展的な学修方法について学修する。	（西田）
第14回	英語（３） 専門知識の修得に係る英語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（西田）
第15回	５教科のまとめ 専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法の定着状況を白鷗eラーニングを用いて確認する。	（佐々木）
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	20	授業時に行なう小テストによって評価する。小テストは採点して返却し，解説する。
定期試験	50	期末の５教科テストによって評価する。
その他	10	白鷗eラーニングの学修状況・復習テスト

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での確認テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに各担当教員に質問したり，オンデマンド教材を活用したりしながら，基礎学力の向上に努めること。
授業外学修	１．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 ２．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。 ３．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。 ４．分からない問題や領域については，オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。 特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)，県教育ｾﾝﾀｰ(9年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年），県教育委員会指導主事（４年），公立中高一貫校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年）（西田寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。(佐々木弘記） 英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎的学力を養成する。（西田寛子）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範かつ詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解いていない。

科目名	基礎学力養成セミナーⅡ 2クラス			授業番号	CM102B	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、西田　寛子、牛島　光太郎、太田　憲孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法を身に付ける。内容としては，学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。								
到達目標	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	数学（１） 専門的知識の修得に係る数学の発展的な教養について学修する。	（佐々木）
第2回	数学（２） 専門的知識の修得に係る数学の発展的な学修方法について学修する。	（佐々木）
第3回	理科（１） 専門的知識の修得に係る理科の発展的な教養について学修する。	（佐々木）
第4回	理科（２） 専門的知識の修得に係る理科の発展的な学修方法について学修する。	（佐々木）
第5回	数学（３）・理科（３） 専門知識の修得に係る数学・理科の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（佐々木）
第6回	国語（１） 専門的知識の修得に係る国語の発展的な教養について学修する。	（太田）
第7回	国語（２） 専門的知識の修得に係る国語の発展的な学修方法について学修する。	（太田）
第8回	国語（３） 専門知識の修得に係る国語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（太田）
第9回	社会（１） 専門的知識の修得に係る社会の発展的な教養について学修する。	（牛島）
第10回	社会（２） 専門的知識の修得に係る社会の発展的な学修方法について学修する。	（牛島）
第11回	社会（３） 専門知識の修得に係る社会の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（牛島）
第12回	英語（１） 専門的知識の修得に係る英語の発展的な教養について学修する。	（西田）
第13回	英語（２） 知識の修得に係る英語の発展的な学修方法について学修する。	（西田）
第14回	英語（３） 専門知識の修得に係る英語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（西田）
第15回	５教科のまとめ 専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法の定着状況を白鷗eラーニングを用いて確認する。	（佐々木）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	20	授業時に行なう小テストによって評価する。小テストは採点して返却し，解説する。
定期試験	50	期末の５教科テストによって評価する。
その他	10	白鷗eラーニングの学修状況・復習テスト

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での確認テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに各担当教員に質問したり，オンデマンド教材を活用したりしながら，基礎学力の向上に努めること。
授業外学修	１．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 ２．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。 ３．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。 ４．分からない問題や領域については，オンデマンド教材（課題として課す場合もあり）を活用すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。 特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)，県教育ｾﾝﾀｰ(9年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年），県教育委員会指導主事（４年），公立中高一貫校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年）（西田寛子）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。(佐々木弘記） 英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎的学力を養成する。（西田寛子）			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範かつ詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解いていない。

科目名	総合教養養成セミナーⅠ			授業番号	CM203	サブタイトル			
教員	山田 恵子、太田 憲孝								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	1年次に実施した「基礎学力セミナーⅠ・Ⅱ」を深化・統合させる講座である。前半は，小学校コース，保幼コースともに，現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する内容を学修し，幅広い教養を身に付ける。								
到達目標	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション，自己課題の分析と確認	太田
第2回	一般教養：文学	太田
第3回	一般教養：古典	太田
第4回	一般教養：数的推理	山田
第5回	一般教養：判断推理	山田
第6回	一般教養：平面図形と立体図形	山田
第7回	一般教養：地理	太田
第8回	一般教養：歴史	太田
第9回	一般教養：公民	太田
第10回	一般教養：物理	山田
第11回	一般教養：化学	山田
第12回	一般教養：生物・地学	山田
第13回	一般教養：英語の読み方	太田
第14回	一般教養：英語の書き方	太田
第15回	総合評価テスト	山田
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	レポートの内容と提出状況によって評価する。
小テスト		授業時に行なう小テストによって評価する。
定期試験	50	まとめとなるテストによって評価する。
その他		白鷗eラーニングの学修状況・復習テスト

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに担当教員に質問すること。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で示された課題等のレポートやオンデマンド教材の学修をする。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は随時配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	3年次に教育実習Bを履修する学生，及び，公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場や教育委員会での教職経験から、総合的な教養が培われるよう指導します。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を解くことができる。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を広範かつ詳細に解いている。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を広範に解いている。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を十分に解いている。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を十分に解いていない。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を解いていない。

科目名	総合教養養成セミナーⅡ			授業番号	CM204	サブタイトル			
教員	太田 憲孝、山田 恵子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	1年次に実施した「基礎学力セミナーI・II」を深化・統合させる講座である。前半は，小学校コース，保幼コースともに，現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する内容を学修し，幅広い教養を身に付ける。後半は，特に社会・理科・英語に重点をおいて学修を深める。								
到達目標	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション，自己課題の確認と分析	太田
第2回	一般教養：文学	太田
第3回	一般教養：古典	太田
第4回	一般教養：数的推理	山田
第5回	一般教養：判断推理	山田
第6回	一般教養：数学	山田
第7回	一般教養：地理	太田
第8回	一般教養：歴史	太田
第9回	一般教養：公民	太田
第10回	一般教養：物理	山田
第11回	一般教養：化学	山田
第12回	一般教養：生物・地学	山田
第13回	一般教養：英語の読み方	太田
第14回	一般教養：英語の書き方	太田
第15回	総合評価テスト	山田
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	10	ノート資料整理・レポート等の内容と提出状況によって評価する。
小テスト		
定期試験	50	まとめとなるテストによって評価する。
その他	10	白鷗eラーニングの学修状況・復習テスト

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での小テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに担当教員に質問したり，オンデマンド教材を活用したりして学力の向上に努める。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で示された課題等のレポートやオンデマンド教材の学修をする。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は随時配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	3年次に教育実習Bを履修する学生，及び，公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年(山田) 小学校教諭、中学校教諭、教育委員会主任指導主事、岐阜大学教育学部附属中学校文部教官(太田)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教育委員会や学校現場での経験をいかした、総合教養の育成になるよう努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を解くことができる。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を広範かつ詳細に解いている。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を広範に解いている。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を十分に解いている。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を十分に解いていない。	現代文や古文，自然科学，数学，地理歴史・公民，外国語など一般教養に関する知識を習得するために必要な学修方法を学び，一般教養にかかわる問題を解いていない。

科目名	キャリア教育論			授業番号	CM305	サブタイトル			
教員	溝田　知茂、西田　寛子、牛島　光太郎、太田　憲孝、岡崎　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	卒業後，保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として進路に向かうために，これらの職業・職業人に関する基礎知識を学習するとともに，望ましい職業観・勤労観を考える。また，進路選択に必要な能力及び心構えを学ぶ。								
到達目標	職業・職業人に関する基礎知識を習得するとともに，望ましい職業観・勤労観を醸成し，社会人基礎力を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	一生涯のキャリアを考える 一生涯のキャリア計画を年代別に考える。	
第2回	キャリア形成について キャリア計画に必要なスキルを考える。	
第3回	敬語について，自己分析について 社会人として必要な敬語を理解し，自分の人生を振り返り，特徴を発見しながら自己分析を行う。	
第4回	エントリーシートの作り方 想い が伝わるエントリーシートを完成させる。	
第5回	自己PRを作成する 学生時代に力を入れたことと自己PRのテンプレートを作成する。	
第6回	進路目標の明確化・具体化 コーチングによる進路目標の明確化・具体化していく。	
第7回	就職活動の基本 就職活動の基本的な流れを理解する。	
第8回	就職情報サイトについて 個人個人に合わせた就職情報サイトの利用の仕方について理解する。	
第9回	仕事研究について やりたくないことを見直し，自分にとっての優良企業を見つける。	
第10回	インターンシップについて インターンシップの基礎知識を理解し，インターン生の心得を学ぶ。	
第11回	保育士・幼稚園教諭の勤務の実際 「公立園，私立園の違いについて」，「保育者の仕事の魅力」，「園での仕事の流れ」，「同僚，先輩とスムーズに仕事をするためには」，「保護者との関わり」等について理解を深める。社会	
第12回	小学校教諭の勤務の実際 「小学校教諭の仕事の魅力」，「小学校教諭での仕事の流れ」，「保護者との関わり」等について理解を深める。	
第13回	保育士・幼稚園教諭への道 「保育士・幼稚園教諭としてのキャリアプランの考え方」，「具体的な目標とそれを実現するための方法」，「自分だけの特技を作ろう」，「保育者が持っていると便利な資格」，「就職までにできる準備」等について理解を深める。	
第14回	小学校教諭への道 「小学校教諭としてのキャリアプランの考え方」，「具体的な目標とそれを実現するための方法」，「就職までにできる準備」等について理解を深める。	
第15回	就職試験・採用試験に向けて 就職試験・採用試験に向けて必要な知識を深め，必要な試験対策を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは，その時その場で行う。
レポート	20	課題内容について十分に理解した上で自分なりの考察を述べること。 レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの将来について真摯に考え，取り組むこと。
授業外学修	毎回の授業について，4時間以上を予習復習に充てること。 模擬試験に向けて2時間以上の予習して臨み，その結果を受けて2時間以上復習すること。 また，レポート課題が与えられた際は4時間以上をその作成に充てること。 更に，就職支援センターを1度は訪れ，就職活動の具体を体験すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業の中で適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務現場での経験を生かして，キャリアの形成について指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることができている。	職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることができている。	職業・職業人に関する基礎知識をほぼ身に付けることができている。	職業・職業人に関する基本的な基礎知識を身に付けることができている。	職業・職業人に関する基礎知識を身につけることが十分ではない。	職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることができていない。
思考・問題解決能力	１．望ましい職業観・勤労観を理解することができている。	望ましい職業観・勤労観を理解することができている。	望ましい職業観・勤労観をほぼ理解することができている。	望ましい職業観・勤労観を基本的に理解することができている。	望ましい職業観・勤労観を理解が十分ではない。	望ましい職業観・勤労観を理解することができていない。
態度	１．社会人基礎力を身に付けることができている。	社会人基礎力を身に付けることができている。	社会人基礎力をほぼ身に付けることができている。	社会人基礎力を基本的に身に付けることができている。	社会人基礎力が十分ではない。	社会人基礎力を身に付けることができていない。

科目名	キャリア教育演習			授業番号	CM306	サブタイトル			
教員	溝田　知茂、佐々木　弘記、齊藤　佳子、西田　寛子、伊藤　智里、牛島　光太郎、太田　憲孝、森寺　勝之、岡﨑　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	将来の仕事と生き方を考えるための情報提供をし，具体的な準備と行動について学ぶ。就職活動に先駆けて自己分析・職種研究を行い，自分にあったキャリアプランを作成する。								
到達目標	採用試験・就職試験で行われる面接，筆記試験，実技などに対応できる知識・技能を身に付ける。 上記のように，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	就職活動の流れ 就職活動スタートに向けて，今から何を始めていくか理解する。	
第2回	身だしなみについて 身だしなみを意識して第一印象をアップする。好印象を与えるスーツの着こなし方のポイントを理解する。	
第3回	メイクセミナー ビジネスメイクの必要性を知る。就活メイクのポイントを理解する。	
第4回	履歴書・エントリーシートの作成 履歴書・エントリーシートの基礎・作成のポイントを理解する。	
第5回	面接の受け方 自分の強みを知り，面接の基本や面接官が見ているポイントを知る。面接で，伝える・伝わる話し方を理解する。	
第6回	企業研究 企業研究がなぜ必要なのかその大切さを理解する。世の中の仕事について興味関心を深める。	
第7回	先輩からのメッセージ 先輩の話を聞いて，今から何を始めていくべきか理解する。	
第8回	インターンシップの重要性 インターンシップの基本的な流れを知り，知識を深め，重要性について理解する。	
第9回	企業研究の進め方 企業研究の進め方を知って，幅広く仕事について興味関心を深める。	
第10回	求人票の見方 求人票の見方を知り，就職活動の準備について理解する。	
第11回	一般教養の理解 一般教養の知識を深める。	
第12回	専門教養の理解 専門教養の理解を深める。	
第13回	SPIの理解 SPIの様々な形式・特徴を理解する。	
第14回	市町村が望む保育士・教師像 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭としてどのような準備をするべきか理解する。	
第15回	進路決定へ向けて 改めてキャリアプランを考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。 フィードバックは，その時その場で行う。
レポート	30	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。 レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト	40	各回の主要なポイントの理解度を評価する。 小テストは，採点をして返却する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	卒業後の進路を見据えて，積極的な態度で授業に参加することが望ましい。
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員採用試験対策セサミノート１教職教養	東京アカデミー	七賢出版		1500
教員採用試験対策セサミノート３専門教科小学校全科	東京アカデミー	七賢出版		1500
使用テキスト：自由記載	「保育所指導指針・解説」「幼稚園教育要領・解説」 「就活グリーンBOOK」中国学園大学・中国短期大学就職支援委員会			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業中に適宜紹介する。
その他	プリント等を整理するためクリアファイルを持参すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭，県教育ｾﾝﾀｰ（佐々木弘記）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．将来の仕事と生き方を考えるための情報を理解することができている。	将来の仕事と生き方を考えるための情報を理解することができている。	将来の仕事と生き方を考えるための情報をほぼ理解することができている。	将来の仕事と生き方を考えるための基本的な情報を理解することができている。	将来の仕事と生き方を考えるための情報の理解が十分ではない。	将来の仕事と生き方を考えるための情報を理解することができていない。
知識・理解	２．自己分析・職業研究ができている。	自己分析・職業研究ができている。	自己分析・職業研究がほぼできている。	基本的な自己分析・職業研究ができている。	自己分析・職業研究が十分ではない。	自己分析・職業研究ができていない。
技能	１．自分にあったキャリアプランを作成することができている。	自分にあったキャリアプランを作成することができている。	自分にあったキャリアプランをほぼ作成することができている。	自分にあった基本的なキャリアプランを作成することができている。	自分にあったキャリアプランの作成が十分ではない。	自分にあったキャリアプランを作成することができていない。

科目名	人権教育論			授業番号	CN201	サブタイトル			
教員	森寺　勝之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人権問題の現状と課題についての考察を通し，人権の正しい理解を深めるとともに，差別や偏見をなくする手立てとしての人権教育の在り方について考え，人権課題の解決につながる実践力を高める。								
到達目標	課題解決の実践力向上に向け，人権問題について認識を深め，人権教育の重要性を理解する。 あわせて，現代の子どもをとりま<多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け，適切な対応ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	人権とは，人権問題とは 身近な生活の中にある人権問題から	
第2回	人権問題の現状と課題(子どもについて) いじめ、いじめ対策法等について考える	
第3回	人権問題の現状と課題(児童虐待ついて) 児童虐待の種類や対応の仕方について考える	
第4回	人権問題の現状と課題(障がい者について) 心のバリア、関係法令、サポートの仕方について考える	
第5回	人権問題の現状と課題(女性について) 男女共同参画,デートDV等について考える	
第6回	人権問題の現状と課題(ハンセン病元患者について) ハンセン病元患者の人権について考える	
第7回	人権問題の現状と課題(同和問題について) 同和問題等について考える	
第8回	人権問題の現状と課題(LGBTについて) 性的マイノリティ等について考える	
第9回	人権ワークショップ 人権カードを作成しよう	
第10回	人権問題の現状と課題(高齢者について) 高齢者虐待等について考える	
第11回	公務員,保母,教員採用試験における人権関係の問題を解いてみよう 憲法,教育基本法等を理解しよう	
第12回	人権ワークショップ 人権カードの発表をしよう	
第13回	人権教育の国際潮流 国連憲章、児童憲章等を理解しよう	
第14回	学校における人権教育 進め方や指導内容,指導方法を理解しよう	
第15回	SDGsと人権 学修のまとめをしよう	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表，ノート整理，予習復習等によって評価する。
レポート	30	リポートや学習シートによる考察や記述，意欲的，具体的，自分なりに取り組めているか。
小テスト		
小テスト・大テスト	50	講義で学んだ人権課題及び人権教育の現状や取組について具体的に理解できていること。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	人権問題への関心を高め，自らの課題として人権問題の解決に取り組むことができる意欲や実践力を高めようとする前向きで，謙虚な態度で受講してください。
授業外学修	ノート整理や配付する資料や紹介する参考文献やネットでの検索等を次回までにしておくこと。 毎回，学習シートの提出等を実施するので，復習を十分にしておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業用資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年　岡山県教育委員会専門的教育職員16年　小学校校長7年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小中高の教員や小学校教頭・校長，教育委員会専門的教育職員として人権教育に取り組んできた経験を活かし， 学校現場に直結した人権教育計画や授業構想などの講義を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を講義内容を超えて幅広くかつ深く理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性をほぼ100%理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性をおおむね理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を理解しているが十分でない。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性をについて、基本的な事項が理解できていない。
態度	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を講義内容を超えて身に付け、より適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、ほぼ100%、適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、おおむね適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切な対応ができるようこともあるが、十分でない。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切な対応ができない。

科目名	子どもとおやつ			授業番号	CN202	サブタイトル			
教員	加賀田　江里								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼児期の食事は健康な発達において重要である。その中でも間食は幼児期において不足しがちな栄養素を補うという意義をもち，欠かすことのできないものである。 そこで，この授業では幼児期における補食としてのおやつを作るために必要な基礎知識と基本操作を学ぶ。								
到達目標	・幼児期の栄養の基礎知識を習得する ・幼児期における間食の必要性について理解する ・間食を調理する上での基礎的な知識と技術を習得する なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考	この授業は全8回の授業である。 履修人数によっては２クラスで隔週開講となる場合がある。								

回	概要	担当
第1回	【第1回】幼児期の間食の意義 子どもにとっておやつとはどんな存在かについて理解する。	
第2回	【第2回】子どものおやつ（１） 子どものおやつを作る上で必要な事項（エネルギー，形態など）を理解する。	
第3回	【第3回】子どものおやつ（２） 子どものおやつとアレルギー（アレルギーの多いもの，食品表示の見方）について理解する。	
第4回	【第4回】子どものおやつ（３） 子どものおやつの作り方を理解する。	
第5回	【第5回】子どものおやつ（４） 子どものおやつの作り方を理解する。	
第6回	【第6回】子どものおやつ（５） 子どものおやつの作り方を理解する。	
第7回	【第7回】アレルギー対応のおやつ アレルギーをもつ子どものおやつの作り方を理解する。	
第8回	【第8回】子どもと一緒に作るおやつ 子どもと一緒に作れるおやつについて理解する。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	授業の内容の最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	幼児の栄養や，調理の基本操作について自ら積極的に学ぶ姿勢をもって臨むこと。 髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	1．授業で出てきたポイントを復習すること 2．日頃から子どもと食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．幼児期の栄養の基礎知識を修得できている	幼児期の栄養の基礎知識を十分に修得できており、不足しがちな栄養素を補うための工夫をすることができる	幼児期の栄養の基礎知識を十分に修得できており、不足しがちな栄養素を補うための工夫を考えることができる	幼児期の栄養の基礎知識を修得できている	幼児期の栄養の基礎知識をやや修得できている	幼児期の栄養の基礎知識を修得できていない
知識・理解	2．幼児期における間食の必要性について理解できている	幼児期における間食の必要性について十分理解でき、子どもに応じたおやつの選択ができる	幼児期における間食の必要性について理解でき、子どもに応じたおやつの選択ができる	幼児期における間食の必要性について理解できている	幼児期における間食の必要性についてやや理解できている	幼児期における間食の必要性について理解できていない
技能	1．間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が十分に修得できており、自分で間食を作ることができる	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できており、自分で間食を作ることができる	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術がやや修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できていない

科目名	子どもと楽器 1クラス			授業番号	CN204A	サブタイトル			
教員	土師　範子、岡﨑　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解をする。また，楽器の扱いや奏法，応用の仕方について学ぶ。 子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて，楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。								
到達目標	子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。 子どもに「表現の楽しさ」を教えるには，指導者（保育者）自身がまず，集中して音に耳を傾ける事ができ，子どもの気持ちになって，生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして，それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，（知識・理解）の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「表現」と楽器の関係	
第2回	様々な楽器の演奏と指導法	
第3回	子どもが使用する楽器	
第4回	子どもが使用する楽器と楽曲（３，４歳児）	
第5回	子どもが使用する楽器と楽曲（５，６歳児）	
第6回	楽器と合奏	
第7回	合奏法とその留意点	
第8回	日本の楽器（１）	
第9回	日本の楽器（２）	
第10回	日本の楽器と指導法（１）	
第11回	日本の楽器と指導法（２）	
第12回	世界の楽器（１）	
第13回	世界の楽器（２）	
第14回	生活と楽器（１）	
第15回	生活と楽器（２）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・グループ課題への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	出された課題で問われている事の意味が理解でき，それに合った内容を述べているかを評価する。
小テスト	30	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子ども，指導者の，教育（保育）現場での気持ちを想像する事。 音を出す時，出さない時のメリハリを大切にする事。 学ぶ者同士，お互いに，良い所を認め合う事。 日常生活の中でも，さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し，実践できるようにする事。
授業外学修	1．予習として，子どもの楽器について調べる。 2．復習として，授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または，授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。 3．発展学習として，ピアノなどの楽器や，リズムの練習をする。または，単発の授業ではなく，それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ，授業の内容を理解，発展させていく。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修する事。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講義ごとに必要なプリントを配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ジュニアオーケストラ講師(岡崎)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．子どもが豊かな音楽表現をするための，楽器の種類を知ることができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために，積極的に楽器の種類を知り，それらをの特性を理解し発展することができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために，楽器の種類を十分に知ることができている。	子どもが豊かな音楽表現をするために，必要な楽器の種類を理解できている。	子どもが豊かな音楽表現をするために，必要な楽器の種類を理解しようと努力している。	子どもが豊かな音楽表現をするために，必要な楽器の種類を理解しようとしている。
知識・理解	2．教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解をする。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解が十分にでき，発展することができる。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解が十分にできている。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解ができている。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解しようと努力している。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解しようとしている。
思考・問題解決能力	1．子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教えようとすることができる。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を十分に教えようとすることができ，具体的な内容を考察したり，発展することができる。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を十分に教えようとすることができている。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教えようとすることができている。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教えようと努力している。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教えようとしている。
技能	1．楽器の扱いや奏法，応用の仕方について習得している。	楽器の扱いや奏法を十分に理解し、応用することができ，子どもたちへの指導について考察することができている。	楽器の扱いや奏法を十分に理解し、応用することができている。	楽器の扱いや奏法を理解し、応用することができている。	楽器の扱いや奏法を理解し、応用できるよう努力している。	楽器の扱いや奏法を理解している。
技能	2．子どもの発達段階に応じて楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を習得している。	子どもの発達段階に応じた望ましい楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を十分に習得し，演奏や指導を行うことができる。	子どもの発達段階に応じた望ましい楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を十分に習得している。	子どもの発達段階に応じた楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を習得している。	子どもの発達段階に応じた楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を習得しようと努力している。	子どもの発達段階に応じた楽器の理解は不十分であるが，表現の幅を広げる指導の方法を習得しようとしている。
態度	1．出された課題で問われている事の意味が理解でき，それに合った内容を予・復習を含め取り組むことができている。	主要なポイントを十分に理解し，課題に即した内容について予・復習を十分に行い取り組めている。	主要なポイントを理解し，課題に即した内容を行うことができ，予・復習を行って取り組めている。	課題に即した内容を行うことができている，予・復習を行って取り組めている。	課題に即した内容を行おうと努力しているが，予・復習の取り組みが乏しく内容が不十分である。	課題への理解ができておらず，予・復習への取り組みが見受けらず，内容が不十分である。
態度	2．意欲的な受講態度や発表・グループ課題への参加ができている。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリを大切にすることができ，お互いの良いところを認め合いながら積極的に発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリを大切にすることができ，お互いの良いところを認め合いながら発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリを理解することができ，発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリが不十分であり，発表やグループ課題への参加が消極的である。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリがつかず，発表やグループ課題への参加が不十分である。

科目名	子どもと楽器 2クラス			授業番号	CN204B	サブタイトル			
教員	土師　範子、岡﨑　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解をする。また，楽器の扱いや奏法，応用の仕方について学ぶ。 子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて，楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。								
到達目標	子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。 子どもに「表現の楽しさ」を教えるには，指導者（保育者）自身がまず，集中して音に耳を傾ける事ができ，子どもの気持ちになって，生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして，それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「表現」と楽器の関係	
第2回	様々な楽器の演奏と指導法	
第3回	子どもが使用する楽器	
第4回	子どもが使用する楽器と楽曲（３，４歳児）	
第5回	子どもが使用する楽器と楽曲（５，６歳児）	
第6回	楽器と合奏	
第7回	合奏法とその留意点	
第8回	日本の楽器（１）	
第9回	日本の楽器（２）	
第10回	日本の楽器と指導法（１）	
第11回	日本の楽器と指導法（２）	
第12回	世界の楽器（１）	
第13回	世界の楽器（２）	
第14回	生活と楽器（１）	
第15回	生活と楽器（２）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・グループ課題への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	出された課題で問われている事の意味が理解でき，それに合った内容を述べているかを評価する。
小テスト	30	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子ども，指導者の，教育（保育）現場での気持ちを想像する事。 音を出す時，出さない時のメリハリを大切にする事。 学ぶ者同士，お互いに，良い所を認め合う事。 日常生活の中でも，さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し，実践できるようにする事。
授業外学修	1．予習として，子どもの楽器について調べる。 2．復習として，授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または，授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。 3．発展学習として，ピアノなどの楽器や，リズムの練習をする。または，単発の授業ではなく，それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ，授業の内容を理解，発展させていく。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修する事。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講義ごとに必要なプリントを配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ジュニアオーケストラ講師(岡崎)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．子どもが豊かな音楽表現をするための，楽器の種類を知ることができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために，積極的に楽器の種類を知り，それらをの特性を理解し発展することができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために，楽器の種類を十分に知ることができている。	子どもが豊かな音楽表現をするために，必要な楽器の種類を理解できている。	子どもが豊かな音楽表現をするために，必要な楽器の種類を理解しようと努力している。	子どもが豊かな音楽表現をするために，必要な楽器の種類を理解しようとしている。
知識・理解	2．教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解をする。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解が十分にでき，発展することができる。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解が十分にできている。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解ができている。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解しようと努力している。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解しようとしている。
思考・問題解決能力	1．子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教えようとすることができる。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を十分に教えようとすることができ，具体的な内容を考察したり，発展することができる。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を十分に教えようとすることができている。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教えようとすることができている。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教えようと努力している。	子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教えようとしている。
技能	1．楽器の扱いや奏法，応用の仕方について習得している。	楽器の扱いや奏法を十分に理解し、応用することができ，子どもたちへの指導について考察することができている。	楽器の扱いや奏法を十分に理解し、応用することができている。	楽器の扱いや奏法を理解し、応用することができている。	楽器の扱いや奏法を理解し、応用できるよう努力している。	楽器の扱いや奏法を理解している。
技能	2．子どもの発達段階に応じて楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を習得している。	子どもの発達段階に応じた望ましい楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を十分に習得し，演奏や指導を行うことができる。	子どもの発達段階に応じた望ましい楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を十分に習得している。	子どもの発達段階に応じた楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を習得している。	子どもの発達段階に応じた楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を習得しようと努力している。	子どもの発達段階に応じた楽器の理解は不十分であるが，表現の幅を広げる指導の方法を習得しようとしている。
態度	1．出された課題で問われている事の意味が理解でき，それに合った内容を予・復習を含め取り組むことができている。	主要なポイントを十分に理解し，課題に即した内容について予・復習を十分に行い取り組めている。	主要なポイントを理解し，課題に即した内容を行うことができ，予・復習を行って取り組めている。	課題に即した内容を行うことができている，予・復習を行って取り組めている。	課題に即した内容を行おうと努力しているが，予・復習の取り組みが乏しく内容が不十分である。	課題への理解ができておらず，予・復習への取り組みが見受けらず，内容が不十分である。
態度	2．意欲的な受講態度や発表・グループ課題への参加ができている。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリを大切にすることができ，お互いの良いところを認め合いながら積極的に発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリを大切にすることができ，お互いの良いところを認め合いながら発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリを理解することができ，発表やグループ課題へ参加できている。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリが不十分であり，発表やグループ課題への参加が消極的である。	楽器の扱いや，音を出すときなどのメリハリがつかず，発表やグループ課題への参加が不十分である。

科目名	子どもと手芸			授業番号	CN205	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の年齢と発達に応じた布おもちゃの製作に関する知識と技能について講義する。また，製作した布おもちゃの特性を生かした保育への取り入れ方や具体的な保育場面を想定した布おもちゃの活用方法の考察を通して保育実践力を育成する。								
到達目標	・乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解し，製作することができる。 ・製作した布おもちゃの遊び方を工夫することができる。 ・保育現場で役立つ裁縫に関する知識と技能を身に付ける。 ・製作を通して，計画的，能動的に作業する態度を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	人形，布製ボール，フェルトのボタン・フォック・スナップ・ファスナー・ひも通し，指人形，フェルトの絵本など，さまざまな布おもちゃが考案されている。製作する布おもちゃに関しては，受講者の要望に柔軟に応じる。								

回	概要	担当
第1回	布おもちゃの魅力を探る ・布おもちゃの乳幼児にとっての意義について，現在，保育現場において，どのような布おもちゃが存在しているのか，現状を調べるなどして把握する。 ・乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解する。 ・製作手順として，計画，製作の準備，製作，仕上げ，片付けとった作業の流れがあり，効率や安全のために作業の順番を決める必要があることを理解する。	
第2回	布おもちゃに関する教材研究 ・布おもちゃ作りの資料収集，題材の選定，製作に必要な材料と用具を準備する。 ・製作に必要な材料として，布の性質に適した糸や製作する物に応じて準備するものが必要であることを理解する。	
第3回	フェルトを用いた指人形の製作，素材の知識 ・布を用いて製作する際，目的や使い方に応じて布の丈夫さや縫いやすさなどの性質を考え，適したものを選ぶことを理解する。	
第4回	布（フエルトなど）を用いた名札・ワッペンづり(1) ・製作の準備作業として布を裁ち，縫う線にしるしをつけたり，まち針で布と布をとめたりして縫い合わせる。 ・手縫いには，縫い針に糸を通したり，糸端を玉結びや玉どめにしたり，布を合わせて縫ったりすることなどがあることを理解する。	
第5回	布（フエルトなど）を用いた名札・ワッペンづり(2) ・手縫いとして，なみ縫い，返し縫い，かがり縫い，ブランケットステッチなどの縫い方と特徴を理解し，縫う部分や目的に応じて，適した手縫いを選ぶ必要 があることを理解し，できるようにする。 ・縫った後に縫い目を整えたり，糸の始末をしたりする。	
第6回	布おもちゃ作り(1) 布おもちゃ製作の手順，製作計画，型紙の作り方，型紙の写し方 ・製作に必要な材料や手順が分かり，製作計画について理解する。	
第7回	布おもちゃ作り(2) 布の切り方， 基本的な縫い方 ・布の裁ち方や手縫いの仕方，目的に応じた縫い方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を理解する。	
第8回	布おもちゃ作り(3) 手芸綿の入れ方 ・綿を入れる際は，かがり縫いやブランケットステッチをして布端をかがることによって綿が出ないように布と布を綴じることを理解する。	
第9回	布おもちゃ作り(4) 顔・体・手・足のつけ方 ・挟み縫いの知識及び技能を習得する。	
第10回	布おもちゃ作り(5) 手芸用ボンド，接着剤の特性 ・手芸用ボンドと接着剤の特性を理解し，使用するメリットとデメリットを考える。	
第11回	布おもちゃ作り(6) 面ファスナー・マジックテープ，ひも，安全ピン，キーホルダーのつけ方 ・面ファスナー・マジックテープの名称を確認し，縫い付け方の知識及び技能を習得する。	
第12回	布おもちゃ作り(7) 製作の工夫，表情のつけ方 ・自分の作品を仕上げるために，授業で身に付けた製作手順や手縫いの技能をより上手く活用できるようにする。	
第13回	布おもちゃ作り(8) 仕上げ ・縫い始めや縫い終わり，角の縫い方を考えた処理の仕方などを確認する。	
第14回	年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(1) ・製作した作品を活用した保育実践について考える。	
第15回	年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(2) ・製作した作品を活用した保育実践について発表する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。 ・布おもちゃの製作に意欲をもって取り組むことができる。 ・製作計画に沿って，製作することができる。 ・布おもちゃを作る楽しさや使う喜びを感じることができる。
レポート	20	布おもちゃ製作の立案から遊び方への展開に関して授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	60	以下の製作物について，丈夫さや美しさ，保育での使用目的の視点から考え，工夫して製作に取り組むことができたかを評価する。 指人形：15%，名札・ワッペン：15%，布おもちゃ：30%

評価の方法：自由記載	授業ごとに自分で感じたこと，工夫したこと，考えたことについてのレポートを作成して提出する。
受講の心得	・演習中心の授業なので，毎回出席することが大切である。作品だけが評価されるのではなく，授業に取り組む姿勢や態度も重要である。 ・製作において必要となる参考資料や材料等は，各自が必要に応じ自主的に準備するものとする。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解している。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，正確に理解し述べることができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，ほぼ正確に理解し述べることができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，大体述べることができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，まったく表現することができない。
知識・理解	２．保育現場で役立つ裁縫に関する知識を理解している。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，正確に理解し述べることができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，ほぼ正確に理解し述べることができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，概ね述べることができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	製作した布おもちゃの遊び方を考え工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を多角的に考え工夫することができている。	製作した布おもちゃの遊び方を考え工夫することができている。	製作した布おもちゃの遊び方を考えある程度工夫することができている。	製作した布おもちゃの遊び方を十分に考え工夫することができていない。	製作した布おもちゃの遊び方をまったく考えることができていない。
技能	１．乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを大変よく製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃをある程度製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを十分に製作することができていない。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃをまったく製作することができていない。
技能	２．保育現場で役立つ裁縫に関する技能を身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を大変よく身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能をある程度身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を十分に身につけていない。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能をまったく身につけていない。
態度	１．授業への取り組みの姿勢や態度は意欲的である。	授業への取り組みに非常に意欲的な姿勢や態度がみられ，適切なコメントシートを提出している。	授業への取り組みに意欲的な姿勢や態度がみられ，コメントシートを提出している。	授業への取り組みにある程度意欲的な姿勢や態度がみられ，コメントシートを提出している。	授業への取り組みに十分な意欲的な姿勢や態度がみられず，十分ではないコメントシートを提出している。	授業への取り組みに意欲的な姿勢や態度がみられず，コメントシートの提出をしていない。
態度	２．製作を通して，計画的，能動的に作業する態度を身につけている。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度をしっかり身につけている。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度を身につけている。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度をある程度身につけている。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度を十分に身につけていない。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度をまったく身につけていない。

科目名	子どもとダンス			授業番号	CN206	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、溝田　知茂、大田原　愛美								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼児期（児童期）で扱うダンス，踊り，パフォーマンス等を工夫し，それらの適切な指導方法を工夫する。また，幼児（児童）のダンス等について適切に分析する方法を考案し，ダンス等を分析する。その結果から保育・授業を分析・評価する方法を修得する。								
到達目標	（知識・理解） １．幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて理解できている。 ２．幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容を理解できている。 ３．幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を理解できている。 （思考・問題解決能力） １．幼児（児童期）のダンス等の保育・授業の発案、また有効性を考えることができる。 （技能） １．幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスができる。 ２．幼児（児童）のダンス等 について各種の分析ができる。 ３．幼児（児童）のダンス等について計画できる。 （態度） １．授業に積極的に参加できる。 なお本科目はディプロマ・ポリシーの＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	幼児期（児童期）の子どもの身体的発達の過程とその発達過程に沿ったダンス等 幼児期から児童期にかけての身体的発達の特徴と認知的発達段階との関連を考察し，それぞれの時期にふさわしいダンスの在り方について検討する。	溝田
第2回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(1) 幼児期から児童期にかけての身体的・認知的発達段階を考慮したダンスについて幼児期に育てたい１０の姿や児童期に育成する資質・能力の３つの柱と対応させながら考察する。	溝田
第3回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(2) 幼児期から児童期にかけてのダンスの歴史的変遷を教育課程の変遷と関連付けながら教育的意義について考察する。	溝田
第4回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と指導法についての演習(1) 提示したダンス（第４回目とは異なるダンス）を踊りながら、指導する上での配慮や留意点を理解にし、現場での実際の姿や指導するための準備について明かにする。 また、各グループでダンスを創作し発表する。	大田原
第5回	児童期におけるダンス等の実際と指導法についての演習(2) 提示したダンス（第４回目とは異なるダンス）を踊りながら、指導する上での配慮や留意点を理解にし、現場での実際の姿や指導するための準備について明かにする。 また、各グループでダンスを創作し発表する。	大田原
第6回	デジタルテクノロジーの活用法(1)ニンテンドースイッチの活用法と演習(1) ダンスソフトを実際に体験し、現場での活用法を明らかにする。（準備、設定、使用方法を含む） また、各グループでテーマを決め創作をする。	大田原・佐々木
第7回	デジタルテクノロジーの活用法(2)ニンテンドースイッチの活用法と演習(2) ダンスソフトを実際に体験し、現場での活用法を明らかにする。（準備、設定、使用方法を含む） また、各グループでテーマを決め創作をする。	大田原・佐々木
第8回	デジタルテクノロジーの活用法(3)メタクエストの活用法と演習(1) メタクエスト実際に体験する。（準備、設定、使用方法を含む） また、各グループで現場での活用方法を模索し発表する。	大田原・佐々木
第9回	デジタルテクノロジーの活用法(4)メタクエストの活用法と演習(2) メタクエスト実際に体験する。（準備、設定、使用方法を含む） また、各グループで現場での活用方法を模索し発表する。	大田原
第10回	幼児期・児童期に適切なダンス，踊り，パフォーマンスを行うための設定・計画等について グループに分かれ、年齢や用いる場面、場所などを設定し、選曲、創作をする。 また、必要に応じて衣装や小道具の準備の計画を行う。	大田原
第11回	グループ演習(1) 発表に向けて準備を行う。 （創作ダンス、衣装、音楽準備等）	大田原
第12回	グループ演習(2) 発表に向けて準備を行う。 （創作ダンス、衣装、音楽準備等）	大田原
第13回	グループ演習(3) 発表に向けて準備を行う。 （創作ダンス、衣装、音楽準備等）	大田原
第14回	グループ創作ダンス発表会 質疑応答を交えながら、各グループの発表をする。	大田原
第15回	グループ創作ダンス発表会のフィードバック・ディスカッション（結果の発表：質疑応答） 各グループで分析をする。	大田原
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	レポートについてはコメントを記入して返却する。
その他	50	ダンス，踊り，パフォーマンス等、それに伴った準備過程を含めて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で修得した内容が次回の授業で表現・発揮できるよう，努力すること。本科目の性質上，開講教室が変動することがあるので，確認をすること。また，欠席・遅刻がないように体調管理等に注意すること。
授業外学修	1　予習として、幼児期（児童期）向けの音楽、ダンスを調べる。 2　復習として、授業内容をレポートにまとめ、身体を動かし授業内容の確認をする。 3　発展学習として、授業内容に関連した音楽を聴きながらリズムをとること、幼児期（児童期）が好むダンスを踊る。 以上の内容を、週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)，県教育ｾﾝﾀｰ(９年)（佐々木弘記）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて理解できている。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて理解し、正確に述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて大体述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて、全く表現することができない。
知識・理解	２．幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容を理解できている。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確に述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、大体述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、全く表現することができない。
知識・理解	３．幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を理解できている。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、正確に述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、大体述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．幼児（児童期）のダンス等の保育・授業の発案、また有効性を考えることができる。	課題に対し、論理的融合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的融合性を持った考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	１．幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスができる。	正確に身体をコントロールして豊かに表現することができる。	ほぼ正確に身体をコントロールして表現することができる。	身体をコントロールして表現することができる。	正確ではないが身体で表現することができる。	課題とは異なるが表現をしている。
技能	２．幼児（児童）のダンス等について各種の分析ができる。	ダンス等について分析でき、正確に再現できる。	ダンス等について分析でき、ほぼ正確に再現できる。	ダンス等について分析でき、自分なりに表現できる。	ダンス等について概ね分析でき、自分なりに表現できる。	ダンス等について概ね分析できる。
技能	３．幼児（児童）のダンス等について計画できる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画が正確にできる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画がほぼ正確にできる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画ができる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画が概ねできる。	ダンス等の保育・授業計画はできるが課題に沿っていない。
態度	１．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切な表現ができている。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、表現ができている。	授業に出席し、内容を理解した上で、表現できている。	授業に出席し、表現しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、表現をしない。

科目名	子どもとゲーム			授業番号	CN207	サブタイトル			
教員	牛島　光太郎								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本授業では,「ゲーム」を何かしらの規則や守るべきルールのもと行い勝敗を決める活動だと定義し,ごっこ遊びのように競争や明確な勝敗のない活動を「遊び」と定義する。「ゲーム」も「遊び」も幼児や児童の成長や発達において教育的価値の高い重要な活動である。本授業では,現存する様々な「ゲーム」や「遊び」の実践と分析を通して,それらを支えているルールや必要な環境などの特性について考え,対象を明確にした上で,オリジナルの「ゲーム」や「遊び」の開発を行う。								
到達目標	1.幼児期,児童期で扱うゲームや遊びなどの有効性について理解することができる。 2.ゲームや遊びの特性に応じて指導方法を検討し,対象に応じて適切な支援をすることができる。 3.ゲームや遊びの特性を理解し,オリジナルのゲームあるいは遊びを考案し,それらのゲームや遊びを通して,幼児や児童の学びを促進させるための環境を設定することできる。 なお,本科目はディプロマポリシーの＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	令和6年度改訂								

回	概要	担当
第1回	「ゲーム」と「遊び」について 幼児期,児童期の子どもの身体的発達の過程と発達過程に沿ったゲームと遊びについて	
第2回	伝承遊びの実践と分析1 鬼遊び,缶けり,かくれんぼなど	
第3回	伝承遊びの実践と分析2 けん玉,だるま落とし,めんこなど	
第4回	デジタルメディアを活用した「ゲーム」と「遊び」 スマートフォン,パソコン,Nintendo Switchなどの活用	
第5回	ゲームの研究 幼児期,児童期の子どもを対象にしたゲームの種類と分類について	
第6回	遊びの研究 幼児期,児童期の子どもを対象にした遊びの種類と分類について	
第7回	幼児期におけるゲームや遊びの実践 教育的意義について	
第8回	児童期におけるゲームや遊びの実践 教育的意義について	
第9回	幼児期,児童期の子どもを対象にしたカードゲームの実践1 グループワークを通したゲームの分析	
第10回	幼児期,児童期の子どもを対象にしたカードゲームの実践2 グループワークを通したゲーム分析の発表	
第11回	身体を使った「ゲーム」や「遊び」1 幼児期,児童期の子どもを対象にした身体を動かす「ゲーム」や「遊び」のリサーチ,ディスカッション	
第12回	身体を使った「ゲーム」や「遊び」2 幼児期,児童期の子どもを対象にした身体を動かす「ゲーム」や「遊び」の実践,振り返り	
第13回	オリジナルのゲームや遊びの開発1 ゲームや遊びで使用する教材のリサーチ,考案	
第14回	オリジナルのゲームや遊びの開発2 ゲームや遊びで使用する教材などの制作	
第15回	オリジナルのゲームや遊びの開発3 オリジナルのゲームや遊びの発表,実践,振り返り	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート・課題	80	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1 予習として，授業内容にかかわる文献等を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．幼児期,児童期で扱うゲームや遊びの有用性を理解している	ゲームや遊びの要素について十分に理解し,教育的意義を十分に説明することができる	ゲームや遊びの要素について理解し,教育的意義について説明することができる	ゲームや遊びの要素,教育的意義などを理解している	ゲームや遊びの要素について理解しているが,教育的意義についての説明が不十分である	ゲームや遊びの要素,教育的意義などを理解していない
思考・問題解決能力	1．ゲームや遊びの特性に応じて指導方法を検討し,オリジナルのゲームや遊びを提案できる	考案したゲームや遊びの特性を十分に理解し,適切な教材や環境をつくり,遊びの機会を具体的に提案し,改善することができる	考案したゲームや遊びの特性を十分に理解し,適切な教材や環境をつくり,遊びの機会を具体的に提案することができる	考案したゲームや遊びの特性を理解し,教材や環境をつくり,遊びの機会を提案することができる	考案したゲームや遊びの特性を理解し,教材をつくり,遊びの機会を提案することはできるが,環境の設定が不十分である	考案したゲームや遊びの特性の理解が不十分で,教材制作や環境の設定ができていない

科目名	障害児援助論			授業番号	CN208	サブタイトル			
教員	佐藤　伸隆								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	2年生後期の「障害児保育」を踏まえ，障害のある子どもとその家庭（保護者）への支援，配慮をより具体的に学修する。 特に，知的障害や発達障害のある子どもの特性をや支援を，単なる直感ではなく客観的な思考をもって理解し，根拠立てて支援できるようになることをめざす。								
到達目標	1．障害のある子どもの障害特性を理解し，それを説明することができる。 2．障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し，それを実践することができる。 3．障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため，客観的な見立てを行うことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害児保育の理念 ⇒障害者（児）をめぐる３つの理念を理解する。／障害者権利条約・児童権利条約と今日の障害児保育（支援）の関係性を理解する。	
第2回	障害児保育の視点 ⇒統合（生活）モデルとICFについて理解する。／障害のとらえ方を学修する。／障がいのある子どもの生活を理解する。／合理的配慮の視点と実際を修得する。／インクルーシブ保育（支援）を理解する。	
第3回	障害の理解 ⇒身体障害（視覚障害／聴覚・平衡機能障害／音声・言語・そしゃく機能障害／肢体不自由）の特性を理解する。／精神障害の特性を理解する／その他の障害の種類と特性を理解する。	
第4回	知的障害の理解と支援・配慮 ⇒知的障害の障害特性を理解する。／知的障害のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。	
第5回	発達障害の理解と支援・配慮① ⇒自閉スペクトラム症の理解と障害特性を理解する。／自閉スペクトラム症のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。	
第6回	発達障害の理解と支援・配慮② ⇒注意欠陥（如）多動性障害の理解と障害特性を理解する。／注意欠陥（如）多動性障害のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。	
第7回	発達障害の理解と支援・配慮③ ⇒学習障害の理解と障害特性を理解する。／学習障害のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。 ⇒その他の発達障害の理解と特性を理解する。／その他の発達障害のある子どもに対する支援・配慮の方法を理解する。	
第8回	場面別の支援・配慮方法① ⇒感覚・運動，ルール理解，遊び・学び・行事，おともだちとの関係性などの場面における支援・配慮方法を理解する。	
第9回	場面別の支援・配慮方法 ⇒登園（所）時・日課・給食・行事・外出・降園（所）時などにおける支援・配慮方法を理解する。	
第10回	障害へのアプローチ① ⇒知的障害・発達障害のある子どもの行動を理解する。／発達障害の行動特性とそのパターンを理解する。／行動特性の背景をとらえる。／背景から支援・配慮の方法を考察する。	
第11回	支援・配慮の技法① ⇒専門技法（ABAアプローチ・SST・ソーシャルストーリー・TEACHプログラムなど）の概要を学修する。	
第12回	支援・配慮の技法② ⇒スモールステップの展開方法を理解する。／コミュニケーション技法を知る。	
第13回	個別支援（指導）計画 ⇒個別支援（指導）計画の意義と作成方法を学修する。／個別支援（指導）計画作成を模擬的に経験する。	
第14回	クラスづくり・集団づくり ⇒クラスづくり・集団づくりの方法、ポイントを学修する。／クラス運営・集団あそびなどを模擬的に経験する。	
第15回	関係機関・団体の活動 ⇒障害児通所支援（放課後等デイサービス・児童発達支援・保育所等訪問支援），障害児入所支援施設，放課後児童クラブ（学童保育所），療育センター，学校などの機能と支援方法を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習・復習の取り組み状況を評価する。
演習への取り組み姿勢／態度	20	ワークへの取り組み姿勢や発表内容を，授業理解度，目標達成度を基準に評価する。
定期試験	60	授業全体の理解度，目標達成度を筆記試験で評価する。

評価の方法：自由記載	〈フィードバック〉 ○レポート等については，授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。 ○定期試験等についてフィードバックが必要な場合は，担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。 ※授業時間外は学内にいないため。
受講の心得	科目「障害児保育」の時にも伝えたとおり，まずは「しょうがい」に関心をもち，障害のある子どもの「生活」を知ることからはじめることが何よりも重要である。そして，もしも自分自身に障害があったら？ 障害にある子どもに必要な配慮は？ 障害のない子に伝えるべきことは？ クラス全体ではどのような配慮や工夫が必要か？などの視点をもち授業に臨んでほしい。
授業外学修	〈予習〉※90分／週 ○授業内容に該当する教科書の箇を読み込み，基本的なことを理解する。授業中，任意に説明を求めることがある。 また，不明点や疑問点をまとめ，質問できるように準備をして授業に臨むこと。 ⇒授業は教科書を一読していることを前提に行う。 〈復習〉※120分／週 (1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す（どのような授業内容だったのか，自分の言葉で整理する）。 (2)事前学修（予習）内容と授業の内容を照り合わせ，「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」を明らかにする。 (3)「分からなかったこと」「新たな疑問点」を，参考書籍や図書館の書誌，インターネット等で調べ，自分自身で明らかにする。 ⇒自身で調べても不明な場合，真偽を確認したい場合等は，オフィスアワーを活用して担当教員に質問すること。 〈発展〉※30分／週 ○授業中に関心をもったことやさらに知りたいと思ったことを書籍，インターネット等で調べ，学びを深める。 ※学修方法が分からない場合や参考図書を知りたい場合は，翌週の授業前後に質問すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田寿美男	岩波書店	9784006031794	
発達障害のある子との関わり方	安藤忠・藤訪田克彦	Ｇａｋｋｅｎ	9784058011232	
「背景」から考える気になる子の保育サポートブック	清瀬市子どもの発達支援・交流センターととこ・木村一優	新星出版社	9784405072947	
よくわかる障害児保育第2版	尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子	ミネルヴァ書房	9784623081240	
よくわかるインクルーシブ保育	尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和	ミネルヴァ書房	9784623087341	

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和6年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	障害児者やその家族への相談支援、合理的配慮の提供支援（５年）。障害者虐待・障害者差別対応（２年）。障害児者の権利擁護支援，障害理解の普及啓発，障害児支援・保護者支援の助言・指導等（15年）。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	障害児者やその家族への相談支援，合理的配慮の経験等を生かして，障害のある子どもの支援の基礎を養う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．障害のある子どもの障害特性を理解し，それを説明することができる。	障害特性を，根拠立てて説明することができる。	障害特性を，自分の言葉で一通り説明することができる。	障害特性を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害特性の一部を説明することができる。	障害特性を，ほとんど説明することができない。
知識・理解	２．障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し，それを実践することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，根拠立てて説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，自分の言葉で一通り説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法の一部を説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，ほとんど説明することができない。
知識・理解	３．障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため，客観的な見立てを行うことができる。	客観的な見立てを，根拠立てて説明することができる。	客観的な見立てを，自分なりに説明することができる。	客観的な見立てを，教員の説明通りに一通り説明することができる。	見立ての方法の一部を説明することができる。	見立ての方法を，ほとんど説明することができない。
思考・問題解決能力	１．障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し，それを実践することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，根拠立てて考察することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，自分なりに考察することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，教員の助言や友人からの助言を得て，一緒に考察することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を考察できるとき，できないときがある。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，ほとんど考察することができない。
思考・問題解決能力	２．障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため，客観的な見立てを行うことができる。	客観的な見立てを，根拠立てて考察，応用することができる。	客観的な見立てを，考察，応用することができる。	客観的な見立てを，教員や友人からの助言を得て，一緒に行うことができる。	見立てを考察，応用することができるとき，できないときがある。	見立てを，ほとんど考察ことができない。
技能	１．障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し，それを実践することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，根拠立てて行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，自分なりに一通り行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，教員の説明通りに一通り行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を行うことができるとき，できないときがある。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，ほとんど行うことができない。
技能	２．障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため，客観的な見立てを行うことができる。	客観的な見立てを，根拠立てて行うことができる。	客観的な見立てを，行うことができる。	見立てを，行うことができる。	見立てを行なうことができるとき，できないときがある。	見立てを，ほとんど行うことができない。
態度	１．障害のある子どもに対する支援・配慮の理念と方法を理解し，それを実践することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，根拠立てて説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，自分の言葉で一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値の一部を説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則った，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，ほとんど説明することができない。

科目名	子ども家庭支援の心理学			授業番号	CN210	サブタイトル			
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，生涯発達の視点から人の一生を捉え，特に発達変化の著しい乳幼児期を中心に，人の生理的・心理的発達について，家族・家庭の影響を踏まえて解説する。								
到達目標	子どもの発達についての基礎知識を身につけ，子どもを取り巻く家族・家庭の意義や機能を理解する。さらに，子どもの心の健康とその課題について理解する なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，<知識・理解>の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子ども家庭支援の心理学とは 子どもの育ちとそれに大きな影響を及ぼす家庭環境について，発達段階，保護者の育ちといった視点から解説する。	
第2回	乳幼児期における発達 生涯にわたる心身の土台を形成する重要な時期である乳幼児期について，愛着，応答的な関わり，基本的信頼といったキーワードから解説する。	
第3回	学童期における発達 学童期(いわゆる小学生の時期)の子どもの発達にみられる基本的な特徴と課題について，大きく前期と後期に分けて解説する。	
第4回	青年期における発達 生涯の中で乳幼児期に次いで心身が激しく変化する青年期について，心理的離乳やアイデンティティの獲得といった観点から解説する。	
第5回	成人期・老年期における発達 親としての世代である成人期および老年期において達成されるべき発達課題について理解を深め，家庭支援の視点を養う。	
第6回	家族・家庭の意義と機能 現代の子育て家庭について，家族や家庭の形態の種類や時代や社会による変化，またそれが子どもの育ちにどのように影響するかを解説する。	
第7回	親子関係・家族関係の理解 親子関係や家族関係が子どもに，また子どもの将来にどのように影響するのかを解説し，保育者としての支援について理解する。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容(生涯発達および家族・家庭の理解)を振り返り，学習者の理解を確認する。理解が不十分だった点についてはその場でフィードバックし，復習を促す。	
第9回	子育て家庭に関する現状と課題 少子化，さらには父親・母親の子育ての現状について，ワンオペ育児や父親の育休取得における課題などから解説する。	
第10回	ライフコースと仕事・子育て それぞれの人生の道筋について，その考え方や時代の特徴を理解し，性別役割分業および家庭と仕事のバランスについて保護者支援の視点から解説する。	
第11回	多様な家庭とその理解 子どもの貧困，ひとり親家庭，ステップファミリーといったさまざまな事情をもつ家庭の支援ニーズと子どもに及ぼす影響について解説する。	
第12回	特別な配慮を要する家庭 発達的な課題を有する子どもの家庭，保護者が障害や心の病気を有する家庭，外国にルーツを持つ家庭などの特別な配慮を要する家庭について解説する。	
第13回	子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの発達に及ぼす環境の影響について，その理論的背景を理解するとともに，時代的・社会的変化が子どもにもたらす影響について解説する。	
第14回	子どもの心の健康に関わる問題 乳幼児期の子どもに起こりやすい心の健康に関する問題について，心身症および障害を中心に解説する。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容(子育て家庭・子どもの精神保健に関する現状と課題)を振り返り，学習者の理解を確認する。理解が不十分だった点についてはその場でフィードバックし，復習を促す。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援の心理学」	立花直樹・津田尚子(監修)	晃洋書房	978-4-7710-3606-2	2000
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．講義内容を多面的かつ十分に理解し，自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し，多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの，努力は明らかである	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず，知識を獲得できていない

科目名	子どもの理解と援助 1クラス			授業番号	CN211A	サブタイトル			
教員	土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育実践において実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についてや，子どもを理解するための具体的な方法，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できるよう解説する。								
到達目標	1，保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。 2，子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。 3，子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。 4，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育における子どもの理解	
第2回	子どもに対するかかわりと共感的理解	
第3回	子どもの生活や遊び	
第4回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	
第5回	子ども相互のかかわりと関係づくり	
第6回	集団における経験と育ち	
第7回	発達による葛藤やつまずき	
第8回	保育の環境の理解と構成	
第9回	環境の変化や移行	
第10回	子ども理解のための観察・記録と省察・評価	
第11回	子ども理解のための職員間の対話	
第12回	子ども理解のための保護者との情報共有	
第13回	発達の課題に応じた援助とかかわり	
第14回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	
第15回	発達の連続性と就学への支援	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	授業内容を理解し、課題に即して(計画・考察など)取り組めているかを評価する。 また、課題やレポートについてはコメントを記入して返却、または、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験	20	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に自分自身の見方や援助の方法を問いながら，子ども理解に努めること。
授業外学修	予・復習を行い，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について十分に理解でき、発展することができている。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について十分に理解できている。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できている。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解をしようと努力している。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解しようとしている。
知識・理解	２．子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解でき、発展することができている。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解できている。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できている。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようと努力している。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようとしている。
知識・理解	３．子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解でき、発展することができている。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようと努力している。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようとしている。
知識・理解	４．子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解でき、発展することができている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようと努力している。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようとしている。
態度	１．授業内容を理解し，課題に即した積極的な態度や，取り組みについて評価する。	保育現場で役立たせるために，授業内容や意義を十分に理解し，積極的に授業に参加することができる。	保育現場で役立たせるために，授業内容や意義を理解し，授業に参加できている。	授業には参加するが、発表や課題について取り組みが消極的である。	授業内容の理解や、発表などへの参加が不十分である。	授業の欠席や，課題の未提出がある。

科目名	子どもの理解と援助 2クラス			授業番号	CN211B	サブタイトル			
教員	土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育実践において実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についてや，子どもを理解するための具体的な方法，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できるよう解説する。								
到達目標	1，保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。 2，子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。 3，子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。 4，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育における子どもの理解	
第2回	子どもに対するかかわりと共感的理解	
第3回	子どもの生活や遊び	
第4回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	
第5回	子ども相互のかかわりと関係づくり	
第6回	集団における経験と育ち	
第7回	発達による葛藤やつまずき	
第8回	保育の環境の理解と構成	
第9回	環境の変化や移行	
第10回	子ども理解のための観察・記録と省察・評価	
第11回	子ども理解のための職員間の対話	
第12回	子ども理解のための保護者との情報共有	
第13回	発達の課題に応じた援助とかかわり	
第14回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	
第15回	発達の連続性と就学への支援	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	授業内容を理解し、課題に即して(計画・考察など)取り組めているかを評価する。 また、課題やレポートについてはコメントを記入して返却、または、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験	20	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に自分自身の見方や援助の方法を問いながら，子ども理解に努めること。
授業外学修	予・復習を行い，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について十分に理解でき、発展することができている。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について十分に理解できている。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できている。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解をしようと努力している。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解しようとしている。
知識・理解	２．子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解でき、発展することができている。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解できている。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できている。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようと努力している。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようとしている。
知識・理解	３．子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解でき、発展することができている。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようと努力している。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようとしている。
知識・理解	４．子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解でき、発展することができている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようと努力している。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようとしている。
態度	１．授業内容を理解し，課題に即した積極的な態度や，取り組みについて評価する。	保育現場で役立たせるために，授業内容や意義を十分に理解し，積極的に授業に参加することができる。	保育現場で役立たせるために，授業内容や意義を理解し，授業に参加できている。	授業には参加するが、発表や課題について取り組みが消極的である。	授業内容の理解や、発表などへの参加が不十分である。	授業の欠席や，課題の未提出がある。

科目名	幼児理解の理論と方法			授業番号	CN212	サブタイトル			
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，特に乳幼児期における子ども達の発達支援に必要な理論および技法について，発達心理学および臨床心理学の観点から解説する。								
到達目標	乳幼児期の子ども達の発達支援に必要な知識および技能を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，<知識・理解>の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育における「子ども理解」とは 子どもの見ている世界を共に見て，子どもの側からその「意味」を探る，保育者の子どもを理解する「まなざし」の意味や意義を学ぶ。	
第2回	子どもを取り巻く環境の理解 子どもたちの身を置く周囲の環境との関係の中で，子どもの姿や育ちをとらえていく視点について学ぶ。	
第3回	子ども理解における発達的視点 乳幼児期の発達段階に沿った仲間入りやいざこざ，言葉での伝え合いや協同的な活動について学ぶ。	
第4回	保育カウンセリング(キンダーカウンセリング) 2021年，学校教育法施行規則が改定され，幼稚園にスクールカウンセラーが配置できるように。保育現場におけるカウンセラーの役割とは。	
第5回	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド 保育者が子どもの気持ちに共感し温かく寄り添うことで，子どもは自分の世界を広げていくことができる。	
第6回	保育における観察と記録の実際 保育の観察や記録においては，正確さや具体性に加え，子どもの気持ちや育ちを読み取ることも必要となる。	
第7回	保育カンファレンス 子どもの姿や自分自身の関りについて自分以外の他者と語り合うことで，新しい視点や手掛かりを得られる。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	保育における個と集団の関係の理解と援助 1人の子どもが「みんな」と関り合っていくなかで，どのように「個」と「集団」が育ちあっていくのか，その育ち合いを支える保育のあり方について学ぶ。	
第10回	1人1人の子どもの特別なニーズの理解と援助 多様なニーズをもつ子どもたちにとって，それぞれの育ちを支えていくために必要とされる保育のありようを探る。	
第11回	発達臨床の現場 子どもの発達を支える現場として，保育所や幼稚園，認定こども園以外にどのような現場があるのかを解説する。	
第12回	発達臨床にかかわる人々 発達臨床の現場ではどのような人々が働いているのか，保育者以外の主な専門職を紹介する。	
第13回	保護者理解と援助の基本 保護者が子育ての喜びを感じられるよう，子育て中の不安や戸惑いに寄り添い支えることも保育者の重要な役割である。	
第14回	「子ども理解」を深めるための保育共同体 子ども理解を深めていくために求められる保育者間の関係構造について探る。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい保育講座(3) 子ども理解と援助	髙嶋景子・砂上史子（編著）	ミネルヴァ書房	9784623085316	2200円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる臨床発達心理学 第4版	麻生 武・浜田寿美男（編）	ミネルヴァ書房	978-4-623-06326-0	2800円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	教育社会学			授業番号	CN213	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達は，これまで主として，心理学的アプローチにより解明が進められてきたといっても過言ではないだろう。 しかし，大きな社会変動と多元的価値観が錯綜する現代社会において，子どもの発達を解明するためには，子どもを取り巻く社会的環境を注視する必要がある。 そのため，特に社会化エージェントに焦点をあてて講義する。								
到達目標	子どもの発達を社会学的アプローチにより理解できる基礎的素養を習得する。 特に，学校教育に関する社会的事項，学校と地域との連携，学校安全への対応に関する基礎的知識を修得し，子どもに関する問題を自ら分析し，解決に寄与できる能力を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの発達に対する研究 社会学的アプローチとは	
第2回	教育社会学の研究対象と研究方法 何が学問を規定するのか	
第3回	教育社会学の研究対象としての教育政策 我が国における教育政策の展開と現状	
第4回	教育社会学の研究対象としての諸国の教育事情 国際比較から分かること	
第5回	家族集団と子どもの社会化 家族集団における子どもの社会化の特徴	
第6回	仲間集団と子どもの社会化 仲間集団における子どもの社会化の特徴 遊戯集団と活動集団	
第7回	地域社会と学校教育 地域社会と学校の関係	
第8回	地域社会と子どもの教育 近隣集団と地域集団	
第9回	学校集団の構造と組織 学校とは何か 学校の特徴とは	
第10回	学校集団の社会化機能 学校集団における子どもの社会化の特徴	
第11回	学校の安全に関する現状と課題 学校の安全とは	
第12回	学校の安全と危機管理 学校の危機管理とは	
第13回	子どもの社会化と逸脱行動 逸脱行動とは何か	
第14回	子どもの逸脱行動の現実 逸脱行動と子どもの社会化	
第15回	少年非行 少年非行とは 少年非行をめぐる現状と法令	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	講義のとき，毎回，コメントペーパーを提出する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1）テキスト及び配付資料を事前に読んでくること。 2）最終試験レポートの課題を探しながら受講すること。
授業外学修	事前にテキスト及び配付資料を読んでくることを，週当たり4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
変動社会と子どもの発達	住田正樹･高島秀樹	北樹出版	978-4-7793-0469-9	2100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	酒井朗･多賀太･中村高康編著『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもの発達に関する社会学的アプローチが理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、自分の言葉で説明することができる。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、周辺領域の知識とも関連付けて理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、概要を理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、キーワードを覚えている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点についてのキーワードを覚えていない。
知識・理解	２．具体的な社会化エージェントと子どもの社会化について理解できている。	家族集団、仲間集団、近隣集団、地域集団、学校集団と子どもの社会化について理解できている。	学校集団を含むいくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	いくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	社会化エージェントと子どもの社会化についてキーワードを覚えている。	社会化エージェントと子どもの社会化に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	３．学校集団の構造について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織もしくは、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能の概略を理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えていない。
知識・理解	４．学校の安全について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状もしくは、危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理の概略を理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	５．子どもの社会化と逸脱行動について理解できている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点のうちのいずれかについて、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点の概要を理解している。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えていない。
思考・問題解決能力	１．社会集団を通した子どもの発達について、考察することができる。	社会集団を通した子どもの発達を考察することにより、自らの実践の質を向上させることができる。	社会集団を通した子どもの発達について、学修内容に照らして考察することができる。	社会集団を通した子どもの発達について、自分の経験に基づき語ることができる。	社会集団を通した子どもの発達について語ることができる。	社会集団を通した子どもの発達について理解することができない。

科目名	教育相談			授業番号	CN215	サブタイトル	(カウンセリングを含む)		
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。								
到達目標	教育相談で扱うさまざまな問題に対し，不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し，カウンセリング・マインドを身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育相談とは 教育相談の必要性と意義について理解し，これからの時代の教師に求められる心理的援助の資質について理解を深める。	
第2回	カウンセリングの理論 子どもや保護者の相談対応を行う上で重要となる，カウンセリングの考え方を解説する。	
第3回	カウンセリングの技法 クライエントとのコミュニケーションに有効となる，カウンセリングの基本的な技法を解説する。	
第4回	いじめ・不登校への対応 いじめおよび不登校の現状と構造を理解し，教育相談や支援としてどのようなことができるかを考える力を身につける。	
第5回	学級崩壊・学級経営の問題への対応 学級崩壊の実情と回復ポイントを理解し，学級崩壊にならないための学級経営を考える力を身につける。	
第6回	虐待・いのちの教育への対応 保護者やそれ以外の者によって子どもの命が奪われる事件の現状を知り，必要な対応や支援を考える力を身につける。	
第7回	非行・学校不適応への対応 「問題行動」という言葉が何を指すのか，その概念を紐解きながら非行や学校不適応への理解と対応を考える。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	発達障害への対応 個別性が非常に高い発達障害について，その対応を共生社会に向けたインクルーシブ教育の観点から解説する。	
第10回	心の病への対応 児童期から青年期にみられる心の病気についてその概要を解説し，教師として何ができるか考える力を身につける。	
第11回	校内・他機関との連携 スクールカウンセラーを始めとする校内のさまざまな立場の職員との連携および他機関との連携について学ぶ。	
第12回	アセスメント：観察・面接 子どもの状態を適切に把握し，支援するアセスメントについて，ここでは行動観察および面接の方法について学ぶ。	
第13回	アセスメント：心理検査 専門機関やスクールカウンセラーなどとの連携を踏まえ，心理検査についての概論および留意点を学ぶ。	
第14回	家庭の理解と保護者への支援 今の親が置かれている状況を理解したうえで，ともに子どもを育てていく方法を考える。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前に，テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！教職エクササイズ3　教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	978-4-623-08178-3	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	発達心理学			授業番号	CN216	サブタイトル			
教員	園田 祥子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，生涯発達の視点から人の一生を捉え，特に誕生から乳幼児期にかけての生理的・心理的発達について解説する。								
到達目標	子どもと接する上で必要な行動理解の基礎を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	発達心理学とは 20世紀の終わりから21世紀にかけて飛躍的に進歩した乳幼児研究で得られた知見を解説する。	
第2回	赤ちゃんはいかに有能か 新生児期の子どもが持っている能力を，知覚や情動の観点から紹介する。	
第3回	人間発達の可塑性 幼いころに経験したネガティブな経験の影響は，どのようにして補償できるのか。	
第4回	母子相互作用の不思議 言葉が使えない乳児でも，生まれたばかりの新生児ですら，母親とコミュニケーションしている。	
第5回	世界認識の始まりと個性の育ち 「物の永続性」の理解はどのように進むのか，他者の反応を参考に行動を決定する「社会的参照」に見られる個性とは。	
第6回	象徴機能の成立と言語発達 頭の中に作られる表象と「ことば」の結びつきはどのように成立していくのか。	
第7回	言語の機能と会話の発達 誰かに伝えるための「ことば」と，頭の中で考える「ことば」の発達。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	記憶し想像する心の発達 乳幼児が持つ記憶力の限界と，こどもが「思い出す」ときの特徴。	
第10回	心の理論の成立 自己と他者のそれぞれにある「心」を理解することが，思いやる心の発達につながる。	
第11回	遊びの発達と遊びからの学び 友達とかかわり遊びの世界を楽しむ中で，子どもたちが身につける多くのこと。	
第12回	思考と語りの成立過程 「物語る」ことの機能と，想像する心の発達が創造につながるまで。	
第13回	科学する心の芽生え 数を数えること，計算すること，生物学や物理学，論理的思考はどのように発達していくのか。	
第14回	生活世界から学びの世界へ 読み書き，デジタルメディア，英語学習……早期教育に効果はあるのだろうか。	
第15回	期末のまとめ 第9回から第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる乳幼児心理学	内田伸子（編）	ミネルヴァ書房	978-4-623-05000-0	2400円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	教育社会学演習			授業番号	CN314	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもを研究対象とした社会学系統の学術論文を題材とし，社会学の専門用語を確認しながら精読していく。 同時に，子ども学としてコンセンサスの得られる研究対象や研究方法，子ども学の役割についても検討する。								
到達目標	子ども学は未だ発展の途上である。 子ども学の確立を目指すためには，まず，様々な学問分野からのアプローチが必要である。 本演習は，その一助として，社会学系統の学術論文を読むことができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育社会学の研究対象と方法 授業の目的と方法	
第2回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子ども社会学の位置付け）	
第3回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どもの遊びとは）	
第4回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：実証的アプローチとは）	
第5回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：民間の子育て支援活動）	
第6回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どもの仲間集団）	
第7回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どもの放課後）	
第8回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：自然体験活動の意義）	
第9回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：マンガと子ども）	
第10回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どものイメージ）	
第11回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：地域社会と子ども）	
第12回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：家庭と子ども）	
第13回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：少年非行と子どもの発達）	
第14回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：学歴社会と受験戦争）	
第15回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どもの発達と新しいメディア）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
作成したレジュメに基づく発表と発表後の修正	70	作成したレジュメ、発表時の内容・態度・姿勢を評価する。 発表時に質問形式でフィードバックする。
他者の発表時の質問	30	他者の発表時に必ず質問する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	課題論文を読んでくること。討論に積極的に参加すること。
授業外学修	1．自分の発表前は，レジメの作成をすること。 2．発表後は，発表中に指摘を受けた事項を踏まえて，レジメを修正し、提出すること。 3．他者の発表の前に，テキストの該当箇所を読んで，質問を考えておくこと。 以上，週当たり4時間以上取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
変動社会と子どもの発達	住田正樹･高島秀樹編	北樹出版	978-4-7793-0469-9	2，100円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．子ども社会学の観点からの考察と、自らの実践力の向上ができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を考察することを通して、自らの実践の質を向上させることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を考察することができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題について、自分の経験に基づき語ることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題について語ることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を捕捉することができない。

科目名	国語			授業番号	CO201	サブタイトル			
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校教員免許の取得に関係して，『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編』に示されている小学校国語科教育の目標及び内容について，小学校国語教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材をもとに具体的に理解し，授業力の基礎を身に付ける。 グループによる話し合い等を通して，各教材及び教科の特質を理解するとともに，教材の見方や教材研究の素地を養う。								
到達目標	教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材等を分析することを通して，各教材の特質を理解するとともに，小学校学習指導要領（平成29年告示）に示されている小学校国語科の目標及び内容を具体的に理解できるようにする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決力〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考	一斉学習と小グループでの活動により授業を行う。								

回	概要	担当
第1回	言葉の働き（本科目を学ぶ目的） 「４つの言語活動を確認するとともに、先行研究をもとに言葉の力について理解する。」	
第2回	国語科教育と国語教育 「国語科教育と国語教育について知るとともに、両者の関係を理解する。」	
第3回	文学的文章の指導（１） 「教科書に掲載されている物語を読み、虚構性や物語文法等について物語の特質を理解する。」	
第4回	文学的文章の指導（２） 「前時に取り上げた物語を再度読み、物語の表現や仕掛けと読者との関係を理解する。」	
第5回	文学的文章の指導（３） 「前時に取り上げた物語を再度読み、物語の構造と作者との関係について理解する。」	
第6回	「書くこと」の指導（１） 「教科書に掲載されている教材や小学校学習指導要領を読み、表現過程について理解する。」	
第7回	「書くこと」の指導（２） 「教科書に掲載されている教材を読み、現行の学習指導要領の特徴について具体的に理解する。」	
第8回	「書くこと」の指導（３） 「児童の生活作文を読み、人間形成を促す作文指導について理解する。」	
第9回	「話すこと・聞くこと」の指導（１） 「教科書に掲載されている教材を読み、話し合う活動の目的や方法等について理解する。」	
第10回	「話すこと・聞くこと」の指導（２） 「教科書に取り上げられている教材を読み、スピーチの特質について理解する。」	
第11回	説明的文章の指導（１） 「教科書に掲載されている教材や資料を読み、説明的文章の特質について理解する。」	
第12回	説明的文章の指導（２） 「前時に使用した説明的文章を再度読み、説明的文章の構造について理解する。」	
第13回	説明的文章の指導（３） 「前時に使用した説明的文章を再度読み、説得性や関色的表現等について理解する。」	
第14回	「主体的・対話的で深い学び」の趣旨と学習過程 「現行の小学校学習指導要領や資料を読み、趣旨や具体的な学習過程のあり方について理解する。」	
第15回	読書指導 「小学校学習指導要領に述べられている指導事項や教科書に掲載されている指導事例を読み、読書指導の意義について理解する。」	
授業計画　備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更したりする場合がある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	予習への取り組み，意欲的な学習態度や話し合い活動への参加を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートはコメントを付けて返却し、学習の深まりが理解できるようにする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な学習内容の定着度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	レポートは，予習した内容や資料を写すのではなく，その授業において深まった内容や考えたことを記述するよう努力する。
受講の心得	配布資料及びレポートは，整理してファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	1．予習として，資料や課題に示された教科書の部分を読み，レポートにまとめ提出すること。 2．使用した教材をきっかけに，関連する教科書教材に関心を広げること。 3．日常的に読書に親しむこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校国語科授業研究 第五版	田近洵一・中村和弘他	教育出版	978-4-316-80465-1	2000円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校学習指導要領の理解，教材分析

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教材を分析して、特徴的な表現や仕掛け、内容を捉え、その教材の特質を理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容等を捉え、その教材の特質や指導内容を構造的に理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容等を捉え、その教材の特質や指導内容を理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容の大体を捉え、その教材の特質や指導内容を理解している。	・教材を分析して、関心のある教材について特徴的な表現や仕掛け、内容を捉え、その教材の特質を理解している。	・教材を分析することが難しく、 特徴的な表現や仕掛け、内容を捉えることが難しく、教材の特質を理解することが難しい。
思考・問題解決能力	1.教材分析の方法を身に付け、教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにしている。	・多様な教材分析の方法を身に付け、それを駆使して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法を身に付け、効果的に活用して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法を身に付け、それを活用して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法が十分に身に付いていないため、教材の特質を捉えることが難しい。	・教材分析の方法が身に付いていないため、教材の特質を捉えることが難しい。

科目名	算数			授業番号	CO202	サブタイトル			
教員	森寺 勝之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域，各学年の内容，系統性について理解するとともに，具体的な授業場面において，どのように指導するのか，どのように評価するのかについても考えていく。								
到達目標	１）小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容について理解する。 ２）算数科の各領域，各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。 ３）算数科の学習評価の考え方を理解する。 ４）算数科の背景となる数学とのつながりを理解し，教材研究に活用しようとする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科目を学ぶ意義，算数を学ぶ意味	
第2回	数と計算領域（１）数の概念と表記，自然数	
第3回	数と計算領域（２）数の把握，数の表記	
第4回	数と計算領域（３）たし算，ひき算，かけ算，わり算	
第5回	数と計算領域（４）小数，分数	
第6回	数と計算領域（５）各学年における数の学び	
第7回	図形領域（１）基本的な平面図形，立体図形，垂直や平行の関係	
第8回	図形領域（２）面積，体積	
第9回	測定領域（１）量と測定	
第10回	測定領域（２）量と測定の指導	
第11回	変化と関係領域（１）異種の量の割合	
第12回	変化と関係領域（２）関数の考え	
第13回	データの活用領域（１）統計と確率	
第14回	文章題，問題解決	
第15回	学習評価，数学的活動，数学的な見方・考え方，数学的リテラシー	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な学習態度，発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。
レポート	30	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。
小テスト・大テスト	50	前回の授業や主要な内容の理解を評価する。
定期試験		
その他	10	ノートのまとめ方・算数図形作品を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。 自分が小学校で経験した算数科の授業を想起しながら，実際に問題を解いたり，教え方を考えたりすること。
授業外学修	1　配付資料や小テスト等を整理して，本時の講義内容をノートにまとめ復習する。 2　発展学習として，授業で興味を持った内容について調べ深める。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省	文部科学省	9784491015507	242円
小学校算数科教科書1年～6年		啓林館		
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	公立小学校，教育委員会事務局等での実務経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校算数の目標及び主な内容について理解する。	小学校算数の目標及び主な内容について十分に理解できている。	小学校算数の目標及び主な内容について概ね理解できている。	小学校算数の目標及び主な内容について普通に理解できている。	小学校算数の目標及び主な内容について理解が不十分。	小学校算数の目標及び主な内容について全く理解できていない。
知識・理解	２．算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について十分に理解できている。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について概ね理解できている。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について普通に理解できている。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解が不十分。	算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について全く理解できていない。
知識・理解	３．算数科の学習評価の考え方を理解する	算数科の学習評価の考え方について十分に理解できている。	算数科の学習評価の考え方について概ね理解できている。	算数科の学習評価の考え方について普通に理解できている。	算数科の学習評価の考え方について理解が不十分。	算数科の学習評価の考え方について全く理解できていない。
技能	１．算数科の学習評価の分析手法を習得している。	算数科の学習評価の分析手法を十分に理解し、積極的に活用することができる。	算数科の学習評価の分析手法を概ね理解し、活用することができる。	算数科の学習評価の分析手法のいくつかを理解し、活用することができる。	いくつかの算数科の学習評価の分析手法を理解することができたが、やや十分に活用することができない。	いくつかの算数科の学習評価の分析手法を理解することができず、活用もできない。
態度	１．提出物	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられてており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。

科目名	生活			授業番号	CO203	サブタイトル	(生活科の基本的内容)		
教員	池原 繁延								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら，他の学生と協力し，積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得するとともに，具体的にイメージしながらそれらを作り上げる。 (2)「児童の気づきの質」を高めるための具体的内容を学習する。								
到達目標	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら，小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得することができる。 この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の習得に貢献する。 (2)「児童の気づきの質」を高めるための具体的な内容を理解することができる。 この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の習得に貢献する。 (3)学習指導要領の内容を踏まえながら，小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を具体的な授業をイメージしながら作り上げる。 この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の習得に貢献する。 (4)他の学生と協力しながら積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を作り上げる。 この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	第1回 学習指導要領改善のポイント 「教育課程の示し方の改善」「具体的な教育内容の改善・充実」「学習指導改善・充実や教育環境の充実」「観察カードへのコメント」について	
第2回	第2回 生活科が目指すこと 「思いや願いの実現に向けた学習主体の学び」「生活科における資質・能力の育成とその構造」「教育課程の結節点としての生活科」小単元における目標設定等について	
第3回	第3回 生活科の内容１ 9項目の内容構成 内容の階層化 「学校と生活」について 関連小単元の目標設定等	
第4回	第4回 生活科の内容2 飼育・栽培活動を進めるうえでの具体的な注意点 「家庭と生活」について 関連小単元目標設定等	
第5回	第5回 生活科の内容3 安全について「地域と生活」について 関連小単元目標設定等	
第6回	第6回 生活科の内容4 内容構成の具体的な視点 「公共物や公共施設の利用」について 関連小単元目標設定等	
第7回	第7回 生活科の内容5 児童の気づきの質を高めるために 「季節の変化と生活」について 関連小単元目標設定等	
第8回	第8回 生活科の内容6 比較について「自然や物を使った遊び」について 関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて	
第9回	第9回 生活科の内容7 「動物の飼育・栽培」について 関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて	
第10回	第10回 生活科の内容8 保護者，地域人材の活用について「生活や出来事の伝え合い」について 関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて	
第11回	第11回 生活科の内容9 「自分の成長」について 関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて	
第12回	第12回 評価について 評価について 評価規準 評価基準 評価の手段等 小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて	
第13回	第13回 指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項 小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて	
第14回	第14回 生活科の授業について 生活科と自然環境 小単元目標設定・詳しい授業の流れ・指導法等	
第15回	第15回 中学年の各教科への接続 基本的な考え方 社会科との接続 理科との接続 総合的な学習の時間との接続 小単元目標設定・詳しい授業の流れ・指導法等	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	発表内容，意欲的な授業態度
レポート	40	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお，レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校で実際に授業ができるよう，より具体的なイメージをもって授業に臨むこと。
授業外学修	(1)身近な自然に親しみ，植物や動物を観察しながら，地域を散策すること。 (2)身近な生活から，生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。 (3)予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，積極的に授業に参加できる準備をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領(平成29年告示)解説　生活科編	文部科学省	株式会社東洋館出版社	9784491034645	
新しい生活　下	田村学ほか84名	東京書籍株式会社	9784487216598	新刊が出る予定
使用テキスト：自由記載	教材用プリント			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	小学校教諭・管理職(35年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	実際の小学校の授業に生かせるポイントを押さえた教育内容			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習指導要領の内容を踏まえながら，小単元ごとの目標設定・授業の流れ・ 指導法などの基本を習得することができる。	指導要領の内容を十分踏まえて基本を習得できている。	内容を大まかに踏まえて基本を習得できている、	内容を一部踏まえて基本を習得できている。	一部分基本を習得できている。	習得することができない。
知識・理解	「児童の気づきの質」を高めるための具体的内容を理解することができる。	具体的内容が十分理解できている。	全てではないが，多くの具体的内容が理解できている。	具体的内容は多くはないが理解できている。	具体的ではないが一部分理解できている。	理解できない。
思考・問題解決能力	学習指導要領の内容を踏まえながら，小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を具体的な授業をイメージしながら作り上げる。	十分具体的である。	全てではないが，多くの部分が具体的である。	具体的内容は多くはないが，作り上げることができる。	具体的ではないが作り上げることができる。	作り上げることができない
態度	他の学生と協力しながら積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を作り上げる。	他の学生と協力しながら積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながら多くの単元で積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で作り上げることができる。	作り上げることができない。

科目名	音楽			授業番号	CO204	サブタイトル	小学校音楽１～６年		
教員	川崎　泰子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校音楽科における音楽科教育の意義を理解するとともに， 授業を構成するために 必要な知識や基礎的な技能等について学ぶ。								
到達目標	小学校音楽科の授業を行うために必要な，基礎的な知識や技能を身に付ける。そのために「器楽・歌唱・創作」における基礎的要素を確認し，それらを応用する知識を身につけ，各人の技能に応じた伴奏法の工夫が出来るようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校における音楽科教育の目標と内容 ①「小学校学習指導要領　第2章　音楽」の読み取りと理解 ②小学校音楽科の意義を理解する	
第2回	表現－歌唱、器楽、創作－　１年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校１年生共通教材弾き歌いについて理解・習得する	
第3回	表現－歌唱、器楽、創作－　２年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校２年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める	
第4回	表現－歌唱、器楽、創作－　３年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校３年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第5回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ １～３年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第6回	表現－歌唱、器楽、創作－　４年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校４年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第7回	表現－歌唱、器楽、創作－　５年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校５年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第8回	表現－歌唱、器楽、創作－　６年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校５年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第9回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ ３～６年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第10回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表準備	
第11回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表、評価について考察する	
第12回	「鑑賞」および「共通教材」１，２，３年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第13回	「鑑賞」および「共通教材」４，５，６年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第14回	共通事項　音楽理論の確認 ①「音楽を形づくっている要素」と「それらに関わる音符、休符、記号や用語」 ②楽譜の読み書きに用いる音楽用語を理解し、音階、移調について理解を深める ③小テスト	
第15回	まとめ「表現」および「共通教材」－歌唱、器楽、創作－ １～６年生までの共通教材弾き歌い、ソプラノリコーダー（課題曲２曲（重唱含む））成果発表 評価について考察する 筆記試験についての説明	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，予習及び復習の状況によって評価する。
小テスト	50	各回の主要なポイントの理解を評価する。グループ発表,歌唱成果発表（弾き歌いを含む）などの実技を含む。 実技発表の後、次の授業で全体的なコメントをする。
定期試験	30	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	小テストでは実技も伴うため，授業中に行われる実技ポイントを理解しておくこと。
受講の心得	小学校教員への教職意識を持つこと。 授業内で週宜小テスト（実技を含む）を行うので，前時間の復習をして授業に臨むこと。 配布されたプリントや資料を整理しておくこと。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 課題を実施すること。 上記を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校音楽科教育法		教育芸術社		

使用テキスト：自由記載	小学校音楽１～６年（教育芸術社）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	【楽器の準備】 ソプラノリコーダー（ジャーマン式 ドイツ式、GやDと記されている)を使用する為、授業が始まるまでに準備しておくこと。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年)、数々の学校にて歌唱指導（20年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし，学校現場の体験（20年）を通して得た知識を伝えると共に，小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．楽譜を読む力がある	問題なく音符を理解している	積極的に楽譜を理解しようとしている	時間はかかるが理解しようとしている	楽譜を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	２．歌唱法が理解できている	小学校歌唱共通教材を通して発声法が理解できている	積極的に発声法を理解しようとする姿勢がみられる	歌唱は苦手ながらも発声法を学ぼうとする姿勢がみられる	発声法を理解しようとする姿勢があまりみられない	歌唱する姿勢が感じられない
知識・理解	３，楽器の特性を理解している	問題なく楽器の特性を理解している	積極的に楽器の特性を理解しようとしている	楽器の特性を学ぼうとする姿勢がみられる	楽器の特性を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
技能	１．積極的に歌唱することができる	小学校歌唱共通教材を通して歌う力が備わっている	積極的に歌唱しようとする姿勢がみられる	歌唱しようとする姿勢があり、苦手ながらも参加している	苦手意識が高く、声を出すのに補助がいる	歌唱する姿勢が感じられない
技能	２．積極的に弾き歌いすることができる	小学校歌唱共通教材を通して弾き歌いする能力が備わっている	積極的にピアノに触れ、弾き歌いする姿勢がみられる	ピアノが苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高くピアノに触れる時間が少ない	弾き歌いする姿勢がみられない
技能	３．積極的に器楽演奏に参加することができる	小学校器楽教材を通して楽器を演奏する能力が備わっている	積極的に楽器に触れ、演奏する姿勢がみられる	楽器が苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高く楽器に触れる時間が少ない	器楽演奏する姿勢がみられない
態度	１．グループ発表時に積極的に参加できている	積極的にグループで協働して創作ができ、発表することができる	積極的にグループ演習に参加し、協働する姿勢がみられる	グループ演習に参加し、自分の役割分担を責任を持ってできている	グループ演習には参加するものの協働する姿勢がみられない	グループ発表する姿勢がみられない

科目名	図画工作			授業番号	CO205	サブタイトル			
教員	牛島　光太郎								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この講義では，小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら，「造形的な見方・考え方」について講義する。実際の活動を通して，図画工作科で取り扱う様々な素材や技法に触れ,造形活動における基本的な技術を修得し,「造形的な見方・考え方」を身につけることを目的とする。								
到達目標	(1)「造形的な見方・考え方」を身につけることができる。 1)表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」に関して深く理解できる。 2)「感性」や「想像力」をもとに思考することができる。 3)自分にとって新しいものやことをつくりだすように「発想」や「構想」することができる。 (2)表現及び鑑賞の活動を通して，創造的に表現活動ができる。 1)基本的な画材や材料や用具の特性を理解することができる。 2)基本的な画材や材料や用具を適切に取り扱うことができる。 3)題材に対して,「造形的な見方・考え方」を働かせ,表し方などを工夫することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	表現と鑑賞とは 図画工作科の目的と内容	
第2回	図画工作科におけるICT活用 ICTを活用した作品の制作と鑑賞	
第3回	低学年における表現と鑑賞1 造形あそびを通して	
第4回	低学年における表現と鑑賞2 絵にあらわす活動を通して	
第5回	低学年における表現と鑑賞3 立体にあらわす活動を通して	
第6回	低学年における表現と鑑賞4 工作にあらわす活動を通して	
第7回	中学年における表現と鑑賞1 造形あそびを通して	
第8回	中学年における表現と鑑賞2 絵にあらわす活動を通して	
第9回	中学年における表現と鑑賞3 立体にあらわす活動を通して	
第10回	中学年における表現と鑑賞4 工作にあらわす活動を通して	
第11回	高学年における表現と鑑賞1 造形あそびを通して	
第12回	高学年における表現と鑑賞2 絵にあらわす活動を通して	
第13回	高学年における表現と鑑賞3 立体にあらわす活動を通して	
第14回	高学年における表現と鑑賞4 工作にあらわす活動を通して	
第15回	鑑賞と講評 作品の発表・鑑賞と意見交換	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート・課題	70	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この講義を通して「造形的な見方・考え方」について探求してほしい。
授業外学修	1 復習として，課題を課すことがある。 2 予習として，資料を配布することがある。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，提示する。
その他	はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい準備物は適宜授業の中で提示する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学習指導要領で示された「造形的な見方・考え方」を理解している	「造形的な見方・考え方」について十分に理解し,図画工作科で育成する資質・能力を具体的に説明することができる	「造形的な見方・考え方」について十分に理解し,図画工作科で育成する資質・能力を説明することができる	「造形的な見方・考え方」について理解し,図画工作科で育成する資質・能力も理解している	「造形的な見方・考え方」について理解しているが,図画工作科で育成する資質・能力の理解は不十分である	「造形的な見方・考え方」や図画工作科で育成する資質・能力を理解していない
思考・問題解決能力	1．各題材について理解している	各題材における自分なりの問題意識を持ち,表現及び鑑賞活動を通して,その解決方法を検討し,改善したり,児童への指導に活かすことができる	各題材における自分なりの問題意識を持ち,表現及び鑑賞活動を通して,その解決方法を検討し,改善することができる	各題材における自分なりの問題意識を持ち,表現及び鑑賞活動を通して,その解決方法を検討することができる	各題材における自分なりの問題意識を持つが,その解決方法の検討が不十分である	各題材に対して,自分なりの問題意識や改善する視点を持っていない
技能	1．教育現場で活用できる実践的な技能を身につけている	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を十分に理解し,それらを適切に取り扱い,表したいことを十分に表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を十分に理解し,それらを取り扱い,表したいことを十分に表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を理解し,それらを取り扱い,表したいことを表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法は理解しているが,それらの取り扱い方が不十分である	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を理解しておらず,それらの取り扱い方も不十分である

科目名	体育			授業番号	CO206	サブタイトル			
教員	溝田 知茂								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域について，子どもの「教育的系統」に立脚する立場からその内容について追及する。まず，各種運動領域のそれぞれについて，領域の特性と教材の内容についての理解を図る。次に，運動自体の理解とともに，学習者の側に立ってそれぞれの内容を追求し理解することを企図して授業を行う。								
到達目標	それぞれの教材の技能的特性を理解するとともに，自らも示範することができるようになる。 なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	戦後学習指導要領にみる学習内容の変遷 体育における学習内容の改善点について理解する。	
第2回	ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の理解と内容 各学年のゴール型（バスケットボール）の行い方を理解するとともに，投げる，受ける，ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときの動き方を考える。	
第3回	ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，投げる，受ける，ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときのより良い動き方を考える。	
第4回	ボール運動：ネット型（バドミントン）の理解と内容 ネット型（バトミントン）の行い方を理解するとともに，用具の正しい操作の仕方や動き方を考える。	
第5回	ボール運動：ネット型（バドミントン）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，どのように動いたら取りやすく，どこを狙えば決まるかを考える。	
第6回	ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の理解と内容 ネット型（ソフトバレーボール）の行い方を理解するとともに，ボール操作の仕方と位置取りを考える。	
第7回	ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，ボール操作の仕方や位置取り・ボールを触らない人の動き方を考える。	
第8回	体つくり運動の理解と内容 体つくりの行い方を理解するとともに，それぞれの構成内容とその動き方を考える。	
第9回	体つくりの運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，どう動いたら楽しさや喜びを味わうことができるか考える。	
第10回	器械運動：マット運動の理解と内容 マット運動の行い方を理解するとともに，各学年の内容の動き方を考える。	
第11回	器械運動：マット運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，どう動いたら，それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるか考える。	
第12回	器械運動：跳び箱運動の理解と内容 跳び箱運動の行い方を理解するとともに，各学年の内容の動き方を考える。	
第13回	器械運動：跳び箱運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，どう動いたら，それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるか考える。	
第14回	陸上運動：短距離走の理解と内容 短距離走の行い方を理解するとともに，各学年の内容と手・足の動かし方を考える。	
第15回	陸上運動：短距離走の動作の仕方とその実践 実際に走り，手・足の動きを確認しながら、速く走れるか考える。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表や予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは，その場でその場で行う。
レポート	30	各領域ごとに学んだことを具体的に述べていること。 レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト	30	全15回の授業を踏まえ，レポートを作成する。 レポートは，コメントを記入して返却する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技を伴うので，各運動領域に対して積極的に取り組むこと。
授業外学修	・各領域ごとで取り上げる内容をしっかり教材研究をする。 ・運動に対する興味関心を高め，運動する習慣づくりを心がける。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、ほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、基本的なところは理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できていない。
技能	1．運動技能の習得に優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身についていない。

科目名	基礎音楽A 2限			授業番号	CO20701	サブタイトル			
教員	廣畑 まゆ美、川﨑 泰子、土師 範子、河田 健二、嶋田 泉、織田 典恵、多田 悦子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達と表現を理解し，音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより，確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。								
到達目標	楽曲を構成する基本的な知識を理解し，既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。 練習を習慣化し，レパートリーを10曲作ることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽環境について…保育者に必要な音楽の知識・技能とは何か	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 1	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 2	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 3	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第5回	表現法とまとめ 1	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 4	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 5	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第8回	表現法とまとめ 2	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 6	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する7	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 8	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第12回	表現法とまとめ 3	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 9	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 基本的な楽典の知識を習得する 10	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第15回	表現法とまとめ 4 楽典	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	90	実技やペーパーテストにより，学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は，指導教員から講評を行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 指導時，授業担当教員から指導された内容は，次回に改善・工夫できるよう適宜メモをとること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，毎日予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。授業終了後は，各自，復習を行うこと。 上記の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける遊曲こどものうた100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	各公立中学校・高等学校，音楽教室での講師(嶋田泉)，公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(織田典恵)，ピアノ教室講師(多田悦子)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	鑑賞を通じて音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉) ピアノ初心者から経験者まで，様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(織田典恵) 実務経験をいかし，ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．読譜	音符・休符の長さや意味を十分理解し，正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味を理解し，ほぼ正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味をおおむね理解しているが，いくつか演奏に間違いやミスが見られる。	音符・休符の長さや意味は十分ではなく，演奏の間違いやミスが目立つ。	音符・休符の長さや意味をほとんど理解できておらず，演奏が成り立たない。
技能	1．弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で，流れをとめることなく演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができているが，旋律を歌う声が小さかったり，時々ミスが生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまるミスが多々生じる。
技能	2．表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解し，曲全体のイメージを丁寧に構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し，曲全体のイメージを構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し，書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分理解できていないが，指摘をすれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず，指摘しても意識することができない。
技能	3．レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1．演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時，ステージマナーをおおむね理解しているが，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをあまり理解しておらず，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っておらず不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをほとんど理解しておらず，不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	基礎音楽A 3限			授業番号	CO20702	サブタイトル			
教員	廣畑 まゆ美、川﨑 泰子、土師 範子、河田 健二、嶋田 泉、織田 典恵、多田 悦子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達と表現を理解し，音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより，確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。								
到達目標	楽曲を構成する基本的な知識を理解し，既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。 練習を習慣化し，レパートリーを10曲作ることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽環境について…保育者に必要な音楽の知識・技能とは何か	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 1	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 2	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 3	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第5回	表現法とまとめ 1	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 4	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 5	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第8回	表現法とまとめ 2	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 6	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する7	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 8	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第12回	表現法とまとめ 3	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 9	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 基本的な楽典の知識を習得する 10	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第15回	表現法とまとめ 4 楽典	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	90	実技やペーパーテストにより，学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は，指導教員から講評を行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 指導時，授業担当教員から指導された内容は，次回に改善・工夫できるよう適宜メモをとること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，毎日予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。授業終了後は，各自，復習を行うこと。 上記の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける遊曲こどものうた100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	各公立中学校・高等学校，音楽教室での講師(嶋田泉)，公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(織田典恵)，ピアノ教室講師(多田悦子)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	鑑賞を通じて音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉) ピアノ初心者から経験者まで，様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(織田典恵) 実務経験をいかし，ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．読譜	音符・休符の長さや意味を十分理解し，正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味を理解し，ほぼ正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味をおおむね理解しているが，いくつか演奏に間違いやミスが見られる。	音符・休符の長さや意味は十分ではなく，演奏の間違いやミスが目立つ。	音符・休符の長さや意味をほとんど理解できておらず，演奏が成り立たない。
技能	1．弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で，流れをとめることなく演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができているが，旋律を歌う声が小さかったり，時々ミスが生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまるミスが多々生じる。
技能	2．表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解し，曲全体のイメージを丁寧に構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し，曲全体のイメージを構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し，書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分理解できていないが，指摘をすれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず，指摘しても意識することができない。
技能	3．レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1．演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時，ステージマナーをおおむね理解しているが，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをあまり理解しておらず，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っておらず不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをほとんど理解しておらず，不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	基礎音楽A 4限			授業番号	CO20703	サブタイトル			
教員	廣畑 まゆ美、川﨑 泰子、土師 範子、河田 健二、嶋田 泉、織田 典恵、多田 悦子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達と表現を理解し，音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより，確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。								
到達目標	楽曲を構成する基本的な知識を理解し，既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。 練習を習慣化し，レパートリーを10曲作ることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽環境について…保育者に必要な音楽の知識・技能とは何か	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 1	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 2	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 3	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第5回	表現法とまとめ 1	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 4	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 5	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第8回	表現法とまとめ 2	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 6	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する7	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 8	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第12回	表現法とまとめ 3	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 9	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 基本的な楽典の知識を習得する 10	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
第15回	表現法とまとめ 4 楽典	廣畑 まゆ美 川﨑泰子 土師範子 河田健二 嶋田 泉 織田典恵 多田悦子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	90	実技やペーパーテストにより，学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は，指導教員から講評を行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 指導時，授業担当教員から指導された内容は，次回に改善・工夫できるよう適宜メモをとること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，毎日予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。授業終了後は，各自，復習を行うこと。 上記の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける遊曲こどものうた100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	各公立中学校・高等学校，音楽教室での講師(嶋田泉)，公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(織田典恵)，ピアノ教室講師(多田悦子)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	鑑賞を通じて音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉) ピアノ初心者から経験者まで，様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(織田典恵) 実務経験をいかし，ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．読譜	音符・休符の長さや意味を十分理解し，正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味を理解し，ほぼ正確に演奏できる。	音符・休符の長さや意味をおおむね理解しているが，いくつか演奏に間違いやミスが見られる。	音符・休符の長さや意味は十分ではなく，演奏の間違いやミスが目立つ。	音符・休符の長さや意味をほとんど理解できておらず，演奏が成り立たない。
技能	1．弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で，流れをとめることなく演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができているが，旋律を歌う声が小さかったり，時々ミスが生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまるミスが多々生じる。
技能	2．表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解し，曲全体のイメージを丁寧に構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し，曲全体のイメージを構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し，書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分理解できていないが，指摘をすれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず，指摘しても意識することができない。
技能	3．レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1．演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時，ステージマナーをおおむね理解しているが，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをあまり理解しておらず，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っておらず不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをほとんど理解しておらず，不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	社会			授業番号	CO209	サブタイトル			
教員	山田 凪紗								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校社会科は，社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして，市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際，身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を概説する。								
到達目標	小学校社会科を指導する際に必要な基礎的な学力・知識を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，（知識・理解）の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	小学校社会科の目標と内容	
第2回	小学校社会科の特色と関連専門諸科学	
第3回	地理的分野の基本的事項(1)	
第4回	地理的分野の基本的事項(2)	
第5回	地理的分野の基本的事項(3)	
第6回	地理的分野の演習問題	
第7回	歴史的分野の基本的事項(1)	
第8回	歴史的分野の基本的事項(2)	
第9回	歴史的分野の基本的事項(3)	
第10回	歴史的分野の演習問題	
第11回	公民的分野の基本的事項(1)	
第12回	公民的分野の基本的事項(2)	
第13回	公民的分野の基本的事項(3)	
第14回	公民的分野の演習問題	
第15回	社会認識について	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業への参加態度，グループワーク等の参加状況，毎回のミニレポートによって評価する。ミニレポートは次回にコメントをつけて必ず返却する
レポート	30	社会科の目標，内容，方法について自分なりに理解し，具体的な事例を挙げながら説明できているかについて評価する。課題やレポートについてはコメントをつけて返却する。レポートにはコメントをつけて返却する。
小テスト		
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	社会科は社会的事象を教材とする教科である。日常から新聞，ニュース，雑誌，書籍等の情報に留意することが必要である。
授業外学修	1．予習として，次時の授業内容の教科書を読み，それに関わる情報を新聞，ニュース，雑誌等から集めておく。 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学習として，地域で社会科教育に関連すると思われる活動に参加して，自分の見解を述べられるようにする。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社	4491031606	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解がほぼできている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の基本が理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが、地理的分野の学習の基本が理解できている。	地理的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。
知識・理解	2．学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解がほぼできている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の基本が理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが、歴史的分野の学習の基本が理解できている。	歴史的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。
知識・理解	3．学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解がほぼできている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の基本が理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが、公民的分野の学習の基本が理解できている。	公民的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。

科目名	理科			授業番号	CO210	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について概括するとともに，中学・高校での物理・化学・生物・地学領域の学習内容との関連について学修する。また，小学校理科の授業運営に必要な教材研究の方法について修得する。								
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について，関連した物理・化学・生物・地学領域の知識を身に付ける。また，小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を修得する。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	光の反射・屈折 光の反射や屈折の実験を行い，光が水やガラスなどの物質の境界面で反射，屈折するときの規則性を見いだして理解する。	
第2回	凸レンズの働き 凸レンズの働きについての実験を行い，物体の位置と像のでき方との関係を見いだして理解する。	
第3回	植物の栽培（１） 学校園を整備し，植物の栽培を通して植物の葉，茎，根のつくりについての観察を行い，それらのつくりを理解する。	
第4回	電流と電圧 回路をつくり，回路の電流や電圧を測定する実験を行い，回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだして理解する。	
第5回	電流と電圧と抵抗 金属線に加わる電圧と電流を測定する実験を行い，電圧と電流の関係を見いだして理解するとともに，金属線には電気抵抗があることを理解する。	
第6回	植物の栽培（２） 学校園を整備し，身近な植物の外部形態の観察を行い，その観察記録などを行う。その記録に基づいて，共通点や相違点があることを見いだして，植物の体の基本的なつくりを理解する。また，その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解する。	
第7回	電流とエネルギー 電流によって熱や光などを発生させる実験を行い，熱や光などが取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだして理解する。	
第8回	力のつりあい 物体に働く２力，３力についての実験を行い，力がつり合うときの条件を見いだして理解する。	
第9回	仕事とエネルギー 仕事に関する実験を行い，仕事と仕事率について理解する。また，衝突の実験を行い，物体のもつ力学的エネルギーは物体が他の物体になしうる仕事で測れることを理解する。	
第10回	植物の細胞 生物の組織などの観察を行い，生物の体が細胞からできていること及び植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだして理解するとともに，観察器具の操作，観察記録の仕方などの技能を身に付ける。	
第11回	植物の体のつくり 植物の葉，茎，根のつくりについての観察を行い，それらのつくりと，光合成，呼吸，蒸散の働きに関する実験の結果とを関連付けて理解する。	
第12回	遺伝のしくみ 交配実験の結果などに基づいて，親の形質が子に伝わるときの規則性を見いだして理解する。	
第13回	酸・アルカリ・塩 酸とアルカリの性質を調べる実験を行い，酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知ること。また，中和反応の実験を行い，酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解する。	
第14回	火山岩と深成岩 火山の形，活動の様子及びその噴出物を調べ，それらを地下のマグマの性質と関連付けて理解するとともに，火山岩と深成岩の観察を行い，それらの組織の違いを成因と関連付けて理解する。	
第15回	地震の伝わり方 地震の体験や記録を基に，その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに，地震の原因を地球内部の働きと関連付けて理解し，地震に伴う土地の変化の様子を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，実験・観察に取り組む態度，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し，解説する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　理科編	文部科学省	東洋館出版		111
使用テキスト：自由記載	小学校理科教科書３～６年，「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年），県教育ｾﾝﾀｰ(９年）（佐々木弘記）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について，関連した物理・化学・生物・地学領域の内容を理解できる	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について，関連した物理・化学・生物・地学領域の内容を広範かつ詳細に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について，関連した物理・化学・生物・地学領域の内容を広範に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について，関連した物理・化学・生物・地学領域の基礎的な内容を十分に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について，関連した物理・化学・生物・地学領域の基礎的な内容を十分に理解していない。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について，関連した物理・化学・生物・地学領域の基礎的な内容が理解していない。
技能	１．小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を身に付ける。	小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を広範に身に付けている。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を十分身に付けている。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を十分身に付けていない。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を身に付けていない。

科目名	家庭			授業番号	CO211	サブタイトル	家族や家庭，衣食住，消費や環境など生活事象の理解		
教員	齊藤 佳子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	家庭科教育で児童に何を指導し，何を学ばせ，どんな資質・能力を育むのかについて，衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して明らかにする。また，小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識及び技能を実習・実験等を通して身に付ける。								
到達目標	家庭科教育の意義を理解し，家庭生活を中心とした人間の生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科力を身に付ける。また，家庭科に関心をもち，学んだことを生活に生かし，自分の生き方や生活改善に役立てる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	最初の授業日に，学年暦で定められた授業日と回数を示し，各回のテーマや具体的な内容，教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。								

回	概要	担当
第1回	小学校家庭科において育成を目指す資質・能力，小学校家庭科の内容構成 小学校家庭科の学習指導要領を読み，目標や内容について理解する。	
第2回	「A家族・家庭生活」 自分の成長と家族・家庭生活，生活時間，家庭生活と仕事，地域の人々との関わりの指導内容を理解する。	
第3回	「B衣食住の生活」：ねらいと内容構成，基礎縫いとボタンの付け方 「B衣食住の生活」のねらいと内容構成を理解する。 「衣生活」の指導内容を理解し，手縫いの基礎縫いとボタンの付け方における基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。	
第4回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための製作／フェルトを使った小物作り 「衣生活」の指導内容である手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な使い方の知識及び技能を習得する。	
第5回	「B衣食住の生活」：緑黄色野菜の調理実験とじゃがいも，ゆで卵のゆで時間による変化 「食生活」の指導内容を理解し，「調理の基礎」の指定題材の青菜やじゃがいものゆで加熱における基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。	
第6回	「B衣食住の生活」：材料に適した炒め方 「食生活」の「調理の基礎」の指導内容である材料に適したいため方に関する知識及び技能を習得する。	
第7回	「B衣食住の生活」：米飯及びみそ汁の調理 「食生活」の「調理の基礎」の内容の取扱いを理解し，伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理，和食の基本となるだしの役割に関する知識及び技能を習得する。	
第8回	「B衣食住の生活」：栄養を考えた食事，１食分の献立作成 「食生活」の「栄養を考えた食事」の指導内容を理解し，栄養素の種類と働き，食品の栄養的な特徴と組み合わせに関する基礎的・基本的な知識を習得する。 献立を構成する要素，１食分の献立作成の方法について理解する。	
第9回	「B衣食住の生活」：衣服の着用と手入れ ・「衣生活」の指導内容である衣服の主な働きや季節や状況に応じた日常着の快適な着方，手入れの仕方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。	
第10回	「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」：快適な住まい方，環境に配慮した生活，実験・実習（通風・換気実験） 「住生活」と「環境に配慮した生活」の指導内容を関連付けて理解し，自然の力を活用した季節の変化に合わせた快適な住まい方について考える。 通風・換気についての実験を行う。	
第11回	「C消費生活・環境」：物や金銭の使い方と買物 「買物の仕組みや消費者の役割」「購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること」に関する知識及び技能を習得する。	
第12回	「B衣食住の生活」：子どもの学びを高めるICTの活用 小・中・高等学校家庭科でのICT教育の指導上の配慮事項について理解し，ICTを活用した学習活動は，どのような学習内容に取り入れると効果が上がるのか考える。	
第13回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(1)（エコバッグ・手提げバッグ等） 布の特徴について理解し，製作計画や製作に関する知識及び技能を習得する。	
第14回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(2)（エコバッグ・手提げバッグ等） ミシン縫いの基本やミシンの安全な取り扱い方について知識及び技能を習得する。	
第15回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(3)（エコバッグ・手提げバッグ等） ミシン縫いによる生活を豊かにするための布を用いた物の製作についての知識及び技能を習得する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。
レポート	20	授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他	20	以下の製作した作品について評価する。作品についてはコメントを記入して返却する。 基礎縫い：5%，フェルトの小物：5%，エコバッグ・手提げバッグ等：10%

評価の方法：自由記載	
受講の心得	家庭科は，家庭生活を主な学習対象としている。講義で学んだことを日常生活でも実践するとともに，常に「自分が授業するなら，どの題材を用いて，どのような授業をしたいか」を考えながら受講する。
授業外学修	シラバスで計画的な学修を促すため，授業予定表に，具体的な内容とその内容に該当する小学校家庭科の教科書のページと，中学校家庭科の教科書のページを明記しているので，予習として授業前に読んでおくこと。 授業後に復習として習った箇所のページを再度読んで確認する。この活動を毎回実施すること。 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	9784304080647	274円
小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	9784491023748	103円
使用テキスト：自由記載	「私たちの家庭科」と小学校学習指導要領解説家庭編は絶対必要なテキストである。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新編　新しい技術・家庭　（家庭分野）	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	9784487122820	646円
平成29年改訂小学校教育課程実践講座　家庭	岡　陽子・鈴木明子編著	ぎょうせい	9784324103104	1944円
参考書：自由記載	中学校の家庭科教科書「新編　新しい技術・家庭　家庭分野」は，受講者全員に購入させる必要はないが，採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には，中学校の内容からも出題されているからである。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．家庭科教育の意義と目標を理解している。	家庭科教育の意義と目標を正確に理解し述べることができる。	家庭科教育の意義と目的をほぼ理解し述べることができる。	家庭科教育の意義と目的を大体述べることができる。	家庭科教育の意義と目的を正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	家庭科教育の意義や目的をまったく理解できていない。
知識・理解	２．小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確に理解し述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について大体述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識についてまったく表現することができない。
思考・問題解決能力	１．家庭科に関心をもち，学んだことを生活に生かし，自分の生き方や生活改善に役立てることについて考えたり，自分なりに工夫したりしている。	生活について見直し，身近な生活の課題を見付け，その解決を目指して多角的に考察をし工夫している。	生活について見直し，身近な生活の課題を見付け，その解決を目指して考察を加え工夫している。	生活について見直し，身近な生活の課題を見付け，自分の考えを述べることができる。	生活について見直し，身近な生活の課題を見付けることができる。	課題の提出をしていない。
技能	１．小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して大変よく身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通してある程度身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して十分に身につけていない。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能をまったく身につけていない。
技能	２．布を用いた生活を豊かにする小物の製作に関する基礎的な技能を身につけている。	生活を豊かにする布を用いた作品を正確にきれいに製作できる。	生活を豊かにする布を用いた作品を製作できる。	生活を豊かにする布を用いた作品を大体製作できている。	生活を豊かにする布を用いた作品を十分に製作できていない。	生活を豊かにする布を用いた作品をまったく製作できていない。
態度	１．授業に意欲的に参加できる	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し，コメント尾シートを提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントシートの提出をしていない。

科目名	英語			授業番号	CO212	サブタイトル			
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講座の全体目標は，小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な「英語運用力」と英語に関する「背景的な知識を」身に付けることである。まず，「英語運用力」を身に付けるために，毎回の講座のペアやグループワークで，言語活動を継続的に行う。その中で，授業実践に必要なClassroom English, Teacher Talk等も，授業場面を想定して練習する。また，講座内で行う言語活動については，小学校の授業での応用について考察する。次に，「背景的な知識」については，事前課題でテキストを読み，そのポイントをレポートにまとめた上で，授業中のグループディスカッションで共有・質疑応答をする。そして，指導者による講義を聞き，理解を深める。さらに，小学校の授業への応用についてグループ討議・考察を行う。								
到達目標	○英語に関する背景的な知識の修得 ・英語に関する基本的な事柄（音声，語彙，文構造，文法，正書法等）について理解している。 ・第二言語習得に関する基本的な事柄を理解している。 ・児童文学（絵本，子供向けの歌や詩等）について理解している。 ・異文化理解に関する事柄について理解している。 ○授業実践に必要な英語力の向上 ・授業実践に必要な英語の４技能（聞く力，話す力（やりとり・発表），読む力，書く力）を身に付けている。 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	○イントロダクション ・本講座の目的，内容，評価方法等について確認する。 ・小学校英語教育の変遷を理解し，その成果と課題を考察する。 ○授業実践に必要な英語運用力の向上 ・ペアやグループで言語活動をするとともに，小学校の授業への応用について考察する。	
第2回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「聞く力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第3回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「話す力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第4回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「読む力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第5回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「書く力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第6回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な英語の「４技能」を身に付けるために，「領域統合型の言語活動」を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第7回	○背景的な知識の修得 ・英語の「音声」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 ＊これ以降の講座では，「背景的な知識の修得」を主活動とし，「英語運用力の向上」に係る活動は講座のウォームアップとして短時間で行う。	
第8回	○背景的な知識の修得 ・英語の「文構造・文法」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第9回	○背景的な知識の修得 ・英語の「語彙」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第10回	○背景的な知識の修得 ・英語の「正書法」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第11回	○背景的な知識の修得 ・第二言語習得に関する基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第12回	○背景的な知識の修得 ・児童文学（絵本）について理解する。 ・上記理解に基づき，絵本の選定，ペアで絵本の読み聞かせを行う。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第13回	○背景的な知識の修得 ・児童文学（子供向けの歌・詩）について理解する。 ・上記理解に基づき，児童向けの歌を歌ったり，詩の朗読を行ったりする。 ○英語力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第14回	○背景的な知識の修得 ・異文化理解に関する基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第15回	○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 ○講座全体のまとめ・省察 ・講座全体を振り返って省察し，今後の授業実践への応用について討議・考察する。	
授業計画 備考2	＊R６年度改定	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	授業中の言語活動への取組やグループディスカッションでの発表等の意欲・態度ならびに自律的な学びの姿勢（予習・復習の状況）によって評価する。＜態度＞
レポート	40	レポートに記述された学びの状況を評価する。＜知識・理解＞ ＊レポートはコメントを記入して返却する。また，優れたレポートをモデル例として全体に示し，受講者の今後の学びのポイントを解説する。
その他（英語運用力）	20	授業実践に必要な英語運用力について評価する。＜技能＞

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・授業中のペアやグループでの言語活動に意欲的に取り組むこと。 ・グループディスカッションでは，積極的に意見を述べたり，質問したりすること。
授業外学修	・事前にテキストを必ず読み，そのポイントや自分の意見をレポートにまとめて授業に臨むこと。 ・英語運用力向上のために，授業前後において，テキストの二次元バーコードで音声や動画を視聴して英語の音声を聞き，繰り返し声に出して練習すること。 ・テキストによる専門的な知識の修得については，小学校の授業への応用を考えレポートに記述すること。 以上の学修を，週4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書（改訂版）外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-782-9	2,420円
Here We Go!5	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0076-7	354円
Here We Go!6	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0077-4	354円
Let's Tray!1	文部科学省	東京書籍	988-4-487-25870-3	255円
Let's Tray!2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	128円＋税
使用テキスト：自由記載	・後期の「英語科教育法」「児童英語演習」は，上記と同じテキストを使用するので，後期に改めて購入の必要はない。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用力を育成するとともに，英語に関する背景的な知識の修得を図る。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語に関する背景的な知識の修得	小・中学校の接続も踏まえながら，小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を十分かつ正確に身に付けている。	小・中学校の接続も踏まえながら，小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を十分に身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識の修得についてやや不十分なところがある。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識が身に付いていない。
技能	１．授業実践に必要な英語運用力の修得	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を，授業場面を意識しながら十分身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を，授業場面を意識しながら身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力についてやや不十分なところがある。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力が身に付いていない。
態度	１．授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば，自分の考えを発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが，クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し，必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	児童英語演習			授業番号	CO226	サブタイトル			
教員	西田 寛子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	授業実践に必要な英語教育の理論的側面を概観し，その理論の実践面への応用を目指す。そのために，小学校の授業観察・分析や受講生による模擬授業・ディスカッションを通して指導の改善を行う。また，幼児英語教育との接続の観点から，こども園での英語の模擬保育も実施する。将来学校現場において，理論に裏打ちされた実践力を備え，自律的に学び続けるリフレクティブな教師となる基本を身に付ける。								
到達目標	（全体目標）小学校英語教育の実態・課題を踏まえて解決策を思考し，実践において解決しようとする態度・能力を身に付ける。 （到達目標）・小学校英語や子どもに関する学修内容について，授業実践に応用する具体策をわかりやすく説明できる。 ・現状の課題解決に向け，対象児童に適した模擬授業の立案，実践，省察，改善ができる。 ・授業内容や，関連する事柄に興味・関心をもち，自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに貢献できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	・イントロダクション：講座の目標，内容，評価方法を確認する。 ・実践に必要な理論を概観する。（小学校英語教育導入の背景・変遷，外国語活動・外国語科の目標，言語使用を通した言語活動・音声によるインプット，異校（園）種との連携・接続等）	
第2回	・実践に必要な理論を概観する。（学習指導要領の内容とその具現化に向けて等）	
第3回	・実践に必要な理論を概観する。（目的や場面・状況を明確にした言語活動，学習評価，ALTとのTTによる指導の在り方等） ・実践に向けての演習をする。（小学校英語の授業体験）	
第4回	・小学校英語の授業（映像資料）を観察・分析をする。 ・指導の改善に向けたディスカッションを行い，改善案を考察する。	
第5回	・英語による保育（映像資料）を観察・分析する。 ・指導の改善に向けたディスカッションを行い，改善策を考察する。	
第6回	・学習指導案を作成する。	
第7回	・学習指導案の修正・改善を行う。	
第8回	・模擬授業の準備をする。（教材研究・作成，指導・評価の計画作成，授業練習）①	
第9回	・模擬授業の準備をする。（教材研究・作成，指導・評価の計画作成，授業練習）②	
第10回	・模擬授業・振り返り・指導の改善案作成を行う。①	
第11回	・模擬授業・振り返り・指導の改善案作成を行う。②	
第12回	・学外授業（小学校での授業実践）と省察を行う。	
第13回	・学外授業（子ども園での英語保育実践）と省察を行う。	
第14回	・小学校・こども園での指導の省察を行い，指導の改善案を作成する。	
第15回	・講座全体の振り返りとまとめを行い，今後の改善案について討議する。	
授業計画 備考2	＊学外授業については，受け入れ先との日程調整により，実施時期が前後する可能性がある。 上記予定が変更になる場合は，Google ClassroomかG-mailで連絡する。 ＊R6年度改定	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業への貢献度（ディスカッション等），自律的な学び（予習・復習の状況），実践的な取組への態度を評価する。＜態度＞
レポート	40	小学校英語や子どもに関する学修内容についての考察や，指導・評価計画（学習指導案等）・省察の内容を評価する。＜思考・問題解決能力＞ ＊レポートはコメントを記入して返却するとともに，良い例をクラス全体に紹介する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	学外授業では，児童・園児に対して思いやりをもって接し，授業参観・授業参加では，教師を目指している学生としての自覚のもと，言動に責任をもつこと。
授業外学修	・授業に向けて，指導・評価計画作成や教室英語の練習等の自己研鑽を30時間以上積むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Here We Go! 5	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0076-7	354円
Here We Go! 6	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0077-4	354円
Let's Try 1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円
Let's Try 2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	128円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書（改訂版）外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-782-9	2,420円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を活かし，小学校・乳幼児教育施設の英語教育に携わる指導者に求められる英語運用力ならびに指導実践力を育成する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．小学校英語や子どもに関する学修内容についての考察	小学校英語や子どもに関する学修内容について，授業実践に応用する具体策や，現状における課題の解決策を考察し，自分の言葉でわかりやすく説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について，授業実践に応用する具体策を考察し，自分の言葉でわかりやすく説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について，自分の言葉でわかりやすく説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について，説明できない。
思考・問題解決能力	２．課題解決に向けた指導技能	現状の課題解決に向け，対象児童に適した模擬授業を計画し，十分に実施できる。	現状の課題解決に向け，対象児童に適した模擬授業を計画し，一定程度実施できる。	現状の課題解決に向けて模擬授業を計画し，一定程度実施できる。	現状の課題解決に向けて模擬授業を計画したが，対象児童に適した指導内容になっていない。	現状の課題解決に向けて模擬授業を計画したり，実施したりできない。
態度	１．授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば，自分の考えを発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが，クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。
態度	２．実践的な取組への態度	学んだ知識や技術を活用して，模擬授業の具体的な立案，実践，省察，改善に意欲的に取り組もうとする。	学んだ知識や技術を活用して，模擬授業の立案，実践，省察，改善に取り組もうとする。	指示やヒントがあれば，模擬授業の立案，実践，省察，改善に一定程度，取り組もうとする。	指示やヒントがあれば，模擬授業の立案，実践，省察，改善に取り組もうとするが，その内容は十分でない。	指示やヒントがあっても，模擬授業の立案，実践，省察，改善に取り組もうとしない。
態度	3. 自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し，必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	基礎音楽B 2限			授業番号	CO30802	サブタイトル			
教員	廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達と表現を理解し，音楽に関する知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより，確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。								
到達目標	コード進行の基礎知識を学び，既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。練習を習慣化し，レパートリー10曲を目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽について…発展的な学修に向けた準備	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 応用的な楽典の知識を習得する 1	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 応用的な楽典の知識を習得する 2	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 応用的な楽典の知識を習得する 3	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第5回	表現法とまとめ 1	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 応用的な楽典の知識を習得する 4	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 応用的な楽典の知識を習得する 5	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第8回	表現法とまとめ 2	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 応用的な楽典の知識を習得する 6	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 応用的な楽典の知識を習得する7	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 応用的な楽典の知識を習得する 8	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第12回	表現法とまとめ 3	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 応用的な楽典の知識を習得する 9	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 応用的な楽典の知識を習得する 10	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第15回	表現法とまとめ 4 楽典	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	90	実技やペーパーテストにより，学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は，指導教員から講評を行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 担当教員から指導された内容は，次回授業までに工夫・改善できるよう，適宜メモをとること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。 授業終了後は，各自復習を行うこと。 上記の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける遊曲こどものうた100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
続こどものうた200	小林美実	チャイルド社	978-4805400029	1800
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．楽典の知識	音楽の専門的知識を十分理解し，説明することができる。	音楽の専門的知識を理解し，説明することができる。	音楽の専門的知識をおおむね理解している。	音楽の専門的知識を十分に理解できておらず，間違いがいくつか見られる。	音楽の専門的知識をほとんど理解していない。
思考・問題解決能力	1．知識の実技への応用	音楽の専門的知識を十分に理解し，譜面を見て自分なりの演奏表現を考えようと工夫し，実践できる。	音楽の専門的知識を理解し，譜面を見て自分なりの演奏表現を考えようと工夫し，実践できる。	音楽の専門的知識をおおむね理解し，教員の指示を聞いて，自分なりの演奏表現を工夫し，実践しようとしている。	音楽の専門的知識を十分に理解できていないが，教員の指示を聞き，実践しようとしている。	音楽の専門的知識をほとんど理解できておらず，教員の指示があっても，実践できない。
技能	1．弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で，流れをとめることなく演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができているが，旋律を歌う声が小さかったり，時々ミスが生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまるミスが多々生じる。
技能	2．表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し，曲全体のイメージを構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し，曲全体のイメージを構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し，書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分理解できていないが，指摘をすれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず，指摘しても意識することができない。
技能	3．伴奏法	ほとんどの楽曲を本格伴奏で演奏できる。コード奏法を理解し，状況に応じて伴奏をアレンジすることができる。	ほとんどの楽曲を本格伴奏で演奏できる。コード奏法を理解し，使用できる。	自分の技能に合わせた伴奏法で演奏できる。コード奏法は使用できるが，理解が十分ではない。	自分の技能に合わせた伴奏法で演奏するが，十分ではない。	伴奏をつけて演奏できない。
技能	4．レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1．演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時，ステージマナーをおおむね理解しているが，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをあまり理解しておらず，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っておらず不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをほとんど理解しておらず，不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	基礎音楽B 3限			授業番号	CO30803	サブタイトル			
教員	廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達と表現を理解し，音楽に関する知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより，確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。								
到達目標	コード進行の基礎知識を学び，既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。練習を習慣化し，レパートリー10曲を目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽について…発展的な学修に向けた準備	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 応用的な楽典の知識を習得する 1	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 応用的な楽典の知識を習得する 2	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 応用的な楽典の知識を習得する 3	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第5回	表現法とまとめ 1	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 応用的な楽典の知識を習得する 4	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 応用的な楽典の知識を習得する 5	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第8回	表現法とまとめ 2	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 応用的な楽典の知識を習得する 6	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 応用的な楽典の知識を習得する7	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 応用的な楽典の知識を習得する 8	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第12回	表現法とまとめ 3	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 応用的な楽典の知識を習得する 9	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 応用的な楽典の知識を習得する 10	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
第15回	表現法とまとめ 4 楽典	廣畑 まゆ美，川崎 泰子，土師 範子，河田 健二
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	90	実技やペーパーテストにより，学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は，指導教員から講評を行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 担当教員から指導された内容は，次回授業までに工夫・改善できるよう，適宜メモをとること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。 授業終了後は，各自復習を行うこと。 上記の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける遊曲こどものうた100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
続こどものうた200	小林美実	チャイルド社	978-4805400029	1800

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．楽典の知識	音楽の専門的知識を十分理解し，説明することができる。	音楽の専門的知識を理解し，説明することができる。	音楽の専門的知識をおおむね理解している。	音楽の専門的知識を十分に理解できておらず，間違いがいくつか見られる。	音楽の専門的知識をほとんど理解していない。
思考・問題解決能力	1．知識の実技への応用	音楽の専門的知識を十分に理解し，譜面を見て自分なりの演奏表現を考えようと工夫し，実践できる。	音楽の専門的知識を理解し，譜面を見て自分なりの演奏表現を考えようと工夫し，実践できる。	音楽の専門的知識をおおむね理解し，教員の指示を聞いて，自分なりの演奏表現を工夫し，実践しようとしている。	音楽の専門的知識を十分に理解できていないが，教員の指示を聞き，実践しようとしている。	音楽の専門的知識をほとんど理解できておらず，教員の指示があっても，実践できない。
技能	1．弾き歌いの実践	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で，流れをとめることなく演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	楽曲にふさわしいテンポ・伴奏法で演奏することができるとともに，よく響く声で旋律を歌うことができている。	自分の技能に合わせたテンポ・伴奏法で演奏することができているが，旋律を歌う声が小さかったり，時々ミスが生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまってしまうミスが時々生じる。	旋律を歌う声が小さかったり，演奏の流れがとまるミスが多々生じる。
技能	2．表現	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し，曲全体のイメージを構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し，曲全体のイメージを構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し，書かれてあることを演奏に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分理解できていないが，指摘をすれば意識を向けることができる。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をほとんど理解できておらず，指摘しても意識することができない。
技能	3．伴奏法	ほとんどの楽曲を本格伴奏で演奏できる。コード奏法を理解し，状況に応じて伴奏をアレンジすることができる。	ほとんどの楽曲を本格伴奏で演奏できる。コード奏法を理解し，使用できる。	自分の技能に合わせた伴奏法で演奏できる。コード奏法は使用できるが，理解が十分ではない。	自分の技能に合わせた伴奏法で演奏するが，十分ではない。	伴奏をつけて演奏できない。
技能	4．レパートリー数	半期で12曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で8曲以上のレパートリーを完成させている。	半期で6曲以上のレパートリーを完成させている。	半期でレパートリーが6曲以下である。
態度	1．演奏に向かう態度	予習復習を十分に行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	予習復習を行って授業に参加している。演奏時は，ステージマナーを十分理解し，基本的な礼儀作法をわきまえている。	復習を行って授業に参加している。演奏時，ステージマナーをおおむね理解しているが，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っているが不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをあまり理解しておらず，いくつか不十分な点が見られる。改善しようとする姿が見られる。	復習を行っておらず不十分な状態で授業に参加している。演奏時，ステージマナーをほとんど理解しておらず，不十分な点が多々見られる。改善しようとする姿がない。

科目名	国語科教育法			授業番号	CO313	サブタイトル			
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材分析を具体的に行い，それぞれの教材の特質及び指導内容を理解するとともに，それをもとに学習指導案を作成し，模擬授業をするという一連の経験を通して，授業力の基礎を身に付ける。								
到達目標	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材を具体的に分析し，理解した教材の特質及び指導内容をもとに学習指導案を作成することができるようにする。このことにより，教材を分析する力，単元構想力や単位時間の学習指導案を作成する力を身に付ける。さらに，模擬授業を通して，学習過程に沿って授業を展開する力や学習者に対応する力等の基礎を身に付けることができるようにする。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業を支える要素 「授業を支える３要素について知り、授業を構成する教師、教材、子どもの関係を理解する。」	
第2回	基本的な学習過程 「基本的な学習過程について知り、学習過程を構成する導入、展開、終末の役割やつながりを理解する。」	
第3回	学びの深まりと教師の支援 「授業記録を分析し、児童の学びの深まりと教師の支援との関係を理解する。」	
第4回	説明的文章の教材研究（１） 「教科書に掲載されている説明的文章について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」	
第5回	説明的文章の教材研究（２） 「模擬授業を行う段落の文章を分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」	
第6回	説明的文章の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」	
第7回	「話すこと・聞くこと」の教材研究（１） 「教科書に掲載されているインタビュー教材について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」	
第8回	「話すこと・聞くこと」の教材研究（２） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」	
第9回	「話すこと・聞くこと」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」	
第10回	物語の教材研究（１） 「教科書に掲載されている物語について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」	
第11回	物語の教材研究（２） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」	
第12回	物語の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」	
第13回	「言葉の特徴」の教材研究（１） 「教科書に掲載されている「漢字の組み立て」について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」	
第14回	「言葉の特徴」の教材研究（２） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容や本時の学習の流れ等について構想する。」	
第15回	「漢字の組み立て」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	予習課題の提出，模擬授業への積極的な参加・協力等を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートはコメントを記載して返却し、理解の深まりを確認できるようにする。
小テスト		
定期試験	40	最終的な学習内容の定着度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	グループによる教材分析や授業構想，模擬授業等に積極的に参加する姿勢を評価する。これが，授業力及び教師力の向上と深く関係する。
受講の心得	グループの学生と協力して，教材分析，授業の構想，授業準備，模擬授業に積極的に取り組むこと。 教材を繰り返し読み込み，教材の特質を理解するように努めること。 模擬授業を1回は行うこと。
授業外学修	1．事前に配布された資料や指定された教材などをしっかり読み込み，授業に臨むこと。 2．予習課題は，資料をしっかり読み込み，丁寧に仕上げ必ず提出すること。 3．模擬授業のリハーサルや準備に積極的に参加すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教材研究の方法を理解している。	・学習指導要領の指導事項を踏まえ、教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を理解している。	・教材の特性理解が弱く、教材分析の方法理解も乏しい。	・教材の特性理解及び教材分析の方法理解も不十分である。
知識・理解	2.学習指導案の書き方を理解している。	・単元及び本時案の構想、学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等を踏まえた学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を深く理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を理解している。	・学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等の理解が不十分であり、学習指導案の書き方理解に課題がある。	・学習指導案作成に関係する様々な要素の理解が不十分であり、学習指導案を作成する段階に至っていない。
知識・理解	3.授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った効果的な授業の進め方を十分理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫して位置づけた授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿っているが、授業の進め方の理解が浅く、学習活動と教師の支援のつながり等に課題がある。	・学習指導案の作成と授業の進め方理解につながりが弱く、学習活動のつながり等に課題がある。
思考・問題解決能力	1.発問や補助資料を工夫して学習指導案を作成し、模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、課題意識を持って模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、自分の考えを持って模擬授業に取り組んでいる。	・教材研究をもとに、発問や補助教材、学習形態等を工夫した学習指導案を作成し、時間配分に留意しながら模擬授業に取り組んでいる。	・時間配分に留意し模擬授業に取り組んでいるが、教材研究や支援の工夫に自分らしい追究の姿勢が見られない。	・学習指導案の作成、模擬授業への取り組みに、自分らしい追究の姿勢が見られない。
思考・問題解決能力	2.学習過程の意味を理解し、模擬授業の展開を工夫している。	・学習活動や教師の支援を適切に工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易い模擬授業を展開している。	・教師の支援に工夫が乏しく、学習者にとって学習の流れが捉えにくい状況で模擬授業を展開している。	・学習指導案への記述を十分理解していないまま模擬授業を展開している。
技能	1.教材の特性を見抜き、学習者の立場に立った学習指導案（単元構想及び本事案）を作成している。	・中心教材を深く分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標を明確にした学習者の立場に立った学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習活動と教師の支援の関係等が不明確なまま学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習過程の意味も理解されないまま、学習指導案を作成している。
技能	2.学習者のめあて解決の流れに沿って、適切に教師の支援を工夫し、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、適切に支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れに対する意識が弱いまま、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを意識することなく、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。
態度	1． 教材分析→授業実践→授業反省というサイクルを意識し、教材分析力及び基礎的授業力の向上を図ろうとする。	・教材分析→授業実践→授業反省というサイクルを十分意識し、積極的に教材分析力及び基礎的授業力の向上に努めている。	・教材分析→授業実践→授業反省というサイクルを大切に、教材分析力及び基礎的授業力の向上に努めている。	・教材分析→授業実践→授業反省というサイクルをもとに、教材分析力及び基礎的授業力の向上に努めている。	・模擬授業について省察する力が乏しく、基礎的授業力及び教材分析力の向上が達成されにくい。	・模擬授業の工夫、模擬授業について省察する力が乏しく、基礎的授業力の向上が達成されにくい。

科目名	社会科教育法			授業番号	CO314	サブタイトル			
教員	山田 凪紗								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校社会科は，社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして，市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容や指導法及び学習指導案の作成について，模擬授業をとおして基礎的な理解を深め，指導技術を身につけさせる。								
到達目標	小学校社会科の目標・内容・指導法及び学習指導案の作成について理解し，授業展開に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，（知識・理解）の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	小学校社会科の意義と役割	
第2回	小学校社会科の目標と内容（小学校学習指導要領 社会）	
第3回	第3学年及び第4学年の目標と内容（地域の社会的事象）	
第4回	第5学年の目標と内容（我が国の産業や国土）	
第5回	第6学年の目標と内容（我が国の歴史，政治，国際理解）	
第6回	問題解決的な学習過程	
第7回	社会科の評価の観点と評価規準	
第8回	小学校社会科学習指導案の作成	
第9回	社会科の多様な学習活動	
第10回	模擬授業	
第11回	模擬授業	
第12回	模擬授業	
第13回	模擬授業	
第14回	模擬授業	
第15回	社会科学習指導法の課題とまとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業への参加態度，グループワーク等の参加状況等を毎回のミニレポートで評価する。ミニレポートは毎回コメントをつけて返却する
レポート	30	社会科教育に関わる理論を理解できているか，それを科学的な根拠に基づき評価する。レポートについてはコメントをつけて返却する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「なぜ社会科を学ぶのか」「なぜ学校教育に社会科が必要か」という問いをもって毎時間の授業に臨むこと
授業外学修	1．予習として，課題に必ず取り組むこと。（各自が取り組んだ課題をもとにグループワークを行う） 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学習として，社会科授業の指導案を読んだり自分で指導案を作成したりすることが望ましい。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　社会編	文部科学省	東洋館出版社	4491031606	
小学社会3，4年上		日本文教出版		
小学社会5年上		日本文教出版		
小学社会6年上		日本文教出版		
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学習指導要領の目標・内容・方法を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法をほぼ理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法の基本的な内容を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法を一部しか理解できていない。	学習指導要領の目標・内容・方法をほぼ理解できていない。
知識・理解	2．指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識をほぼ身につけている。	指導案を作成するための知識を簡単に身につけている。	指導案を作成するための知識を一部しか身につけられていない。	指導案を作成するための知識をほぼ身につけられていない。

科目名	算数科教育法			授業番号	CO315	サブタイトル			
教員	森寺 勝之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために，小学校算数科の目標や指導内容，教材研究や指導計画，学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。								
到達目標	１）算数科の指導方法や目標，内容，評価等に関する基礎的な事項を理解する。 ２）算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り，授業実践に活かそうとする。 ３）算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	算数教育の意義，目標，内容，略案の書き方	
第2回	算数指導の心構え，教材研究，模擬授業（１）	
第3回	準備物，時間の使い方，机間指導，効果的な発問，模擬授業（２）	
第4回	板書の仕方，発表，習熟，模擬授業（３）	
第5回	学習指導案の書き方，模擬授業（４）	
第6回	ノート指導，家庭学習，模擬授業（５）	
第7回	指導と評価の一体化，模擬授業（６）	
第8回	授業改革の二大論点について，模擬授業（７）	
第9回	教材・教具の準備と作成，ICTの活用，模擬授業（８）	
第10回	数学的活動，数学的な見方・考え方，模擬授業（９）	
第11回	授業実践力・授業評価力，授業を支える基礎技術，模擬授業（１０）	
第12回	授業改革の二大論点についての提案と協議（１）	
第13回	授業改革の二大論点についての提案と協議（２）	
第14回	授業改革の二大論点についての提案と協議（３）	
第15回	授業改革の二大論点についての提案と協議（４）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	10	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。
小テスト	20	主要なポイントの理解を評価する。
定期試験		
その他	50	模擬授業とグループ提案，協議のパフォーマンスを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校の教員として，子どもたちに算数科の学習を仕組むときに，どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解し実践する意志をもって授業に臨むこと。
授業外学修	1　配布資料や小テストを整理して，本時の講義内容をノートにまとめて復習する。 2　教材研究等，模擬授業の準備を積極的に行うこと。また，他学生の模擬授業の単元についても教科書を確認する等の予習を行うこと。 3　「７つの提言」についてグループで読み込み，検討・議論し，提案できるように協力して取り組むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　算数編	文部科学省			
小学校算数科教科書1年～6年		啓林館		
使用テキスト：自由記載	小学校学習指導要領解説　算数編，小学校算数科教科書1年～6年は，ともに，「算数」で使用したものである。下巻等，所有してない教科書のみ購入すること。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年，岡山県教育委員会専門的教育職員16年，校長7年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場や教育委員会事務局等での実務経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を理解する	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項をよく理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を概ね理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を普通に理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項の理解がやや不十分である。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を全く理解していない。
思考・問題解決能力	１．個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え実践することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え積極的に実践することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え説明することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることはできるが、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることはやや不十分であり、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることは全くできない。また、自分から進んで実践する態度も見受けられない。
技能	１．算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法をよく理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を概ね理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を普通に理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法の理解がやや不十分である。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を全く理解していない。

科目名	理科教育法			授業番号	CO316	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された目標を分析し，育成すべき資質能力について概括する。また，理科の学習内容について教科書に沿って説明する。いくつかの単元を採り上げて，観察・実験の方法を習得し，教材研究の技能を身に付ける。その上で，学習指導案の作成に取りかかり，観察・実験を取り入れた模擬授業を行う。								
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また，学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校理科の目標 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた理科の目標の示し方について理解する。	
第2回	小学校理科の内容 理科で育成する三つの資質・能力の柱に応じた理科の内容の配列について理解する。	
第3回	理科で育成する資質・能力 学習指導要領改訂の方針に示された三つの資質・能力の柱について理解する。	
第4回	理科の学習理論 理科の学習指導に影響を与えた行動主義，認知主義，構成主義の各学習理論について理解する。	
第5回	理科の学習指導法 各学年の発達段階に応じた学習内容の配列やそれに応じた学習指導法について理解する。	
第6回	問題解決能力の育成 各学年に応じた理科の問題解決の能力が各学年の目標や内容にどのように位置づけられているか理解する。	
第7回	理科教科書での題材の配列 学習指導要領の各学年の内容に示された項目と，理科教科書の各単元の対応について理解する。	
第8回	教材研究の仕方 理科教科書に掲載されている教材について分かりやすい指導のための方法を習得する。	
第9回	学習指導案の作成 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから出された学習指導要領の書き方の様式に沿って学習指導案を記述する技能を習得する。	
第10回	物質・エネルギーにかかわる教材研究 理科教科書に掲載されている物質・エネルギーにかかわる教材について分かりやすい指導の方法を習得する。	
第11回	生命・地球にかかわる教材研究 理科教科書に掲載されている生命・地球にかかわる教材について分かりやすい指導の方法を習得する。	
第12回	模擬授業 1 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また，自己評価，相互評価を通して授業を振り返る。	
第13回	模擬授業 2 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また，自己評価，相互評価を通して授業を振り返る。	
第14回	模擬授業 3 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また，自己評価，相互評価を通して授業を振り返る。	
第15回	模擬授業 4 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また，自己評価，相互評価を通して授業を振り返る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，模擬授業，実験・観察に取り組む態度，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し，解説する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　理科編	文部科学省	東洋館出版		111
使用テキスト：自由記載	小学校理科教科書３～６年，「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭（15年），県教育ｾﾝﾀｰ（９年）（佐々木弘記）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について理解できる。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について広範かつ詳細に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について広範に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を十分理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を十分に理解していない。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を理解していない。
知識・理解	２．学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解できる。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて広範に理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を十分理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を十分に理解していない。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を理解していない。
技能	１．様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を広範かつ詳細に身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を広範に身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を十分身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を十分身に付けていない。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を身に付けていない。

科目名	生活科教育法			授業番号	CO317	サブタイトル	(学習指導要領を大切にした指導案の作成)		
教員	池原　繁延								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら，生活科の教科書に沿って，単元ごとに授業の具体的な内容・事例を検討し，指導案が作成できるようにする。								
到達目標	(1)指導要領解説生活科編を参考に生活科の内容について理解を深めることができるとともに，資質能力の育成についても理解を深めることができる。さらに単元ごとに具体的な指導のポイントを把握することができる。 この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の習得に貢献する。 (2)生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージすることができ，内容を理解し具体的にイメージしたうえで各小単元の目標を立てることができる。そして，授業についてイメージし目標にそって具体的な指導案を作成することができる。 この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の習得に貢献する。 (3)上記の内容を踏まえ生活科の教科書に沿って具体的な授業についてイメージし他の学生と協力しながら積極的に単元目標の設定や具体的な指導案の作成を行うことができる。 この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	第１回　学習指導要領　生活科の目標 第２章　教科の目標 第１節　教科目標 教科目標の構成　教科目標の趣旨　資質・能力の三つの柱としての目標の趣旨 観察カードの内容に対するコメントの書き方	
第2回	第２回　学年の目標 第２節　学年の目標 学年の目標の設定　学年の目標の趣旨 単元「きれいにさいてね」 小単元「たねをまこう」目標設定等 生活科の栽培活動について	
第3回	第３回　第３章　生活科の内容 第３章　生活科の内容 第１節　内容構成の考え方 内容構成の具体的な視点 内容を構成する具体的な学習活動や学習対象 内容の構成要素と階層性 小単元「はなのようすをつたえよう」 「たねをとろう」目標設定，指導案の検討等	
第4回	第４回　第２節　生活科の内容 第２節　生活科の内容 生活科の内容（１）～（３）について 単元「なつがやってきた」 小単元「こうていでくさばなやむしをさがそう」目標設定，指導案の検討等 「評価規準」について	
第5回	第５回　第２節　生活科の内容 第２節　生活科の内容 生活科の内容（４）～（６） 単元「なつがやってきた」 小単元「みんなのこうえんであそぼう」 「みずであそぼう」目標設定，指導案の検討等	
第6回	第６回　第２節　生活科の内容 第２節　生活科の内容 生活科の内容（７）～（９） 単元「なつがやってきた」 小単元「たのしかったことをつたえよう」目標設定，指導案の検討等 「振り返りの活動，交流活動」について	
第7回	第７回　第２章　指導計画の作成と内容の取扱い 第２章　指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項その１ 単元「いきものとなかよし」 小単元「むしをさがそう」目標設定，指導案の検討等 「動物飼育」について	
第8回	第８回　第２章　指導計画の作成と内容の取扱い 第２章　指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項その２ 単元「いきものとなかよし」 小単元「みんなでどうぶつをかおう」目標設定，指導案の検討等 「気づきの質を高めるための板置の構造化」について	
第9回	第９回　第２章　指導計画の作成と内容の取扱 第２章　指導計画の作成と内容の取扱 指導計画作成上の配慮事項その３ 単元「たのしいあきいっぱい」 小単元「こうていであきをさがそう」目標設定，指導案の検討等 気づきの質を高めるために	
第10回	第１０回　第５章　指導計画の作成と学習指導 第５章　指導計画の作成と学習指導 第１節　生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方 単元「たのしいあきいっぱい」 小単元「こうえんであきをさがそう」 「はっぱやみであそぼう」 「いっしょにあそぼう」目標設定，指導案の検討等 「比較」について	
第11回	第１１回　第５章　指導計画の作成と学習指導 第５章　指導計画の作成と学習指導 第２節　生活科における年間指導計画の作成 単元「じぶんでできるよ」 小単元「じぶんのいちにちをみつめよう」 「じぶんでできることをしよう」目標設定，指導案の検討等 「実態把握，家庭との連携，家庭環境への配慮」について	
第12回	第１２回　第５章　指導計画の作成と学習指導 第５章　指導計画の作成と学習指導 第３節　単元計画の作成 「新しい学習指導が期待するもの」について	
第13回	第１３回　第５章　指導計画の作成と学習指導 第５章　指導計画の作成と学習指導 第４節　学習指導の進め方 「スタートカリュキュラム」について１	
第14回	第１４回　スタートカリュキュラム スタートカリュキュラム 単元「どきどきわくわく１ねんせい」 小単元「がっこうのこと知りたいな」 「みんなとなかよくなりたいな」目標設定，指導案検討等 「スタートカリュキュラム」について２	
第15回	第１５回　生活科のまとめ 生活科のまとめ 学習内容を振り返るとともに重要なポイントを再度確認する。 単元「もうすぐ２ねんせい」 小単元「あたらしい１ねんせいをしようたいしよう」 「しようたいしたことをはなしあおう」 「１ねんかんをふりかえろう」について目標設定，指導案の検討等	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な授業態度
レポート	40	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお，レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校で実際に授業ができるよう，より具体的なイメージをもって授業を受けること。
授業外学修	(1)身近な自然に親しみ，植物や動物を観察しながら，地域を散策すること。 (2)身近な生活から，生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。 (3)予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，積極的に授業に参加できる準備をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領（平成29年告示）解説　生活科編	文部科学省	株式会社東洋館出版社	9784491034645	
新しい生活　上	田村学ほか84名	東京書籍株式会社	9784487105618	新版が出る予定

使用テキスト：自由記載	教材用のプリントを用意する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭・管理職(35年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校における授業で実際に生かすことができるポイントを押さえた教育内容

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 指導要領において生活科の内容について理解を深めることができる。	具体的に理解することができる。	理解することができる。	大まかに理解することができる。	いくつかの内容について理解することができる。	理解することができない。
知識・理解	2. 資質能力の育成について理解を深めることができる。	具体的に理解することができる。	理解することができる。	大まかに理解することができる。	少し理解することができる。	理解できない。
知識・理解	3. 単元ごとに具体的な指導のポイントを把握することができる。	具体的な指導のポイントを把握することができる。	指導のポイントを把握することができる。	大まかな指導のポイントを把握することができる。	いくつかの単元で大まかな指導のポイントを把握することができる。	把握することができない。
思考・問題解決能力	1. 生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージすることができる。	具体的な授業内容をイメージすることができる。	授業内容をイメージすることができる。	大まかに授業内容をイメージすることができる。	いくつかの単元で大まかに授業内容をイメージすることができる。	イメージすることができない。
思考・問題解決能力	2. 内容を理解し具体的にイメージしたうえで各小単元の目標を立てる。	具体的な目標を立てることができる。	目標を立てることができる。	大まかな目標を立てることができる。	いくつかの単元で大まかな目標を立てることができる。	目標を立てることができない。
思考・問題解決能力	3. 授業についてイメージし目標にそって具体的な指導案を作成することができる。	具体的な指導案を作成することができる。	指導案を作成することができる。	大まかな指導案を作成することができる。	いくつかの単元で大まかな指導案を作成することができる。	指導案を作成することができない。
態度	1. 他の学生と協力しながら積極的に単元目標の設定や具体的な指導案の作成を行うことができる。	他の学生と協力しながら積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながら多くの単元で積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で行うことができる。	行うことができない。

科目名	音楽科教育法			授業番号	CO318	サブタイトル	小学校音楽１～６年		
教員	川崎　泰子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領，小学校における音楽科教育の意義，目標，指導内容について理解を深め，小学校音楽科で育成すべき資質や能力，そのために取り扱う内容，題材の構成(指導計画の作成)，教材の選択と配列及び指導法・評価法について理解する。学習指導案を作成し模擬授業を行う。								
到達目標	小学校学習指導要領の目標を理解した上で，教材研究から指導案・模擬授業への指導の流れを理解する。 (1)小学校学習指導要領について説明することができる。 (2)第1～6学年の系統性を踏まえ，発達段階に対応した教科指導の在り方を検討することができる。 (3)小学校音楽科における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し，児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させるための学習指導案を作成することができる。 (4)上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習指導要領に示された小学校音楽科の目的と目標 歌唱演習の発声、声の出し方などを理解する	
第2回	研究教材と指導法　低学年・中学年の歌唱共通教材の歌唱法 歌唱・弾き歌いについて理解を深め演習する	
第3回	研究教材と指導法　中学年・高学年の歌唱共通教材の歌唱法 歌唱・弾き歌いについて理解を深め演習する	
第4回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ １年生～６年生までの歌唱共通教材において指導する立場での演習（小テストあり） 評価・コメントは演習後個人伝える	
第5回	研究教材と指導法　鑑賞教材の返還と低学年、中学年、高学年の鑑賞曲 鑑賞教材の歴史について理解を深め、鑑賞指導法の考察 ICTを活用した音楽学習の検討	
第6回	リコーダーの扱い方と指導法　課題協の習得と各曲の指導法に理解を深める リコーダーアンサンブルの指導法とリコーダーアンサンブルの教材研究	
第7回	リコーダーアンサンブルの指導法とリコーダーアンサンブルの教材研究 グループでの研究発表と考察（小テストあり）	
第8回	音楽科学習指導案作成にあたって留意点 指導案作成の理解を深める グループに分かれ模擬授業の準備	
第9回	模擬授業準備 弾き歌い・楽器演奏・鑑賞教材についてグループでの検討　協働する力を身に付ける。	
第10回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅠ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第11回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅡ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第12回	模擬授業の実践 模擬授業の実践とディスカッション：グループⅢ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第13回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅣ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第14回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅤ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第15回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 今までの演習を活かして弾き歌い実技試験１年生～６年生までの歌唱共通教材において課題曲と任意の曲を演奏する 評価・コメントは演習後個人伝える 筆記試験のついての説明	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	弾き歌い・グループ発表などの実技系の小テスト
レポート	10	課題・レポート・指導案の，理解度・定着度。添削後，返却する。
模擬授業発表	40	課題の到達度を評価する。実技を含む。
定期試験	10	知識の理解度・定着度。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教員への教職意識を持つこと。 使用教科書の『小学校学習指導要領解説 音楽編』に目を通しておくこと。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり4時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領平成29年公示解説　音楽編		平成29年6月，文部科学省		
小学校音楽1～6年		教育芸術社		
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校音楽科教育法		教育芸術社		
参考書：自由記載				
その他	ソプラノリコーダーを持参すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年）、数々の学校にて歌唱指導（20年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	音楽科学習指導案の基礎的な内容を理解している	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材を理解するともに、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身につく。	音楽科学習指導案い書き方および歌唱共通教材、器楽教材をおおむね理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開するための技能が身につきつつある	音楽科学習指導案の書き方および表したい音楽表現を授業で展開するための技能の必要性を理解しているが、歌唱共通教材、器楽教材について半分程度理解していない。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材は半分くらい理解できるものの、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身についていない。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材は半分くらい理解できておらず、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身についていない。
思考・問題解決能力	１．音楽表現を考えながら模擬授業を行うことができる	音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業として実地することができる。	音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業としておおむね実地することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について考え、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業としてつまずきがあるものの実地することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について考えられないものの、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業として他者の補助を借りながら実地することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について判断することができず、歌唱指導や器楽演奏指導の模擬授業が成立しない。
技能	１．歌唱表現を行うことができる	楽譜を理解し歌唱表現として申し分ない声で歌えている。	楽譜を理解し歌唱表現として声がでている。	楽譜を理解し歌唱表現として積極的に声を出そうとしている。	楽譜は理解しているが歌唱表現として積極的に声を出せていない。	楽譜を読み取ることができず歌唱表現として声が出せていない。
思考・問題解決能力	２．弾き歌いを行うことができる。	楽譜を理解し、ピアノ演奏技法、歌唱表現が申し分ないレベルでできている。	楽譜を理解し、ピアノ演奏技法、歌唱表現ができている。	楽譜を理解し、積極的にピアノ演奏技法、歌唱表現を行おうとしている。	楽譜は理解しているが積極的にピアノ演奏技法、歌唱表現ができていない。	楽譜を読み取ることができずピアノ演奏技法、歌唱表現ができていない。
思考・問題解決能力	３．楽器演奏を行うことができる	楽器の特性を理解し演奏技法が申し分ないレベルでできている。	楽器の特性を理解し、止まることなく演奏ができている。	楽器の特性を理解し、止まりながらも積極的に演奏ができている。	楽器の特性を理解しているが、積極的に演奏ができていない。	楽器の特性を理解しているが、演奏ができない。
態度	１．模擬授業に積極的に参加できる。	協働して音楽活動をする 楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	様々な音楽に親しむとともに主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	様々な音楽に親しみながら、歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	協働して音楽活動をする 楽しさをあまり感じることができないものの、様々な音楽を聞きながら、歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加しようとする様子が見られる。	協働して音楽活動をする 楽しさを感じるなどの親近感がなく、主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができない。

科目名	図画工作科教育法			授業番号	CO319	サブタイトル			
教員	牛島 光太郎								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この講義では，小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら，「造形的な見方・考え方」を働かせ，生活や社会の中の形や色 などと豊かに関わる資質能力を育成する指導のあり方について講義する。								
到達目標	(1)学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解できる。 1)図画工作科の学習指導要領における目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。 2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。 3)図画工作科における学習評価の考え方を理解できる。 (2)基礎的な学習理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。 1)子どもの認識や思考，学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解できる。 2)情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し，授業設計に活用することができる。 3)学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4)模擬授業の実施と振り返りを通して，授業改善の視点を持つことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	図画工作科の学習指導要領 教科の目標と内容	
第2回	図画工作科の授業構造 図画工作科の活動領域と教科の構造	
第3回	図画工作科における教師の支援 指導上の留意点	
第4回	図画工作科における評価 学習評価の考え方	
第5回	図画工作科における安全指導 題材別の安全指導上の留意点	
第6回	「造形あそび」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点	
第7回	「絵にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点	
第8回	「立体にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点	
第9回	「工作にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点	
第10回	「鑑賞」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点	
第11回	図画工作科の学習指導案 1 学習指導案の構成の理解	
第12回	図画工作科の学習指導案 2 学習指導案の作成	
第13回	模擬授業の実施と振り返り1 A班とB班の実践と振り返り,意見交換を行う	
第14回	模擬授業の実施と振り返り2 C班とD班の実践と振り返り,意見交換を行う	
第15回	「鑑賞」活動の方法について ICTを活用した「鑑賞」活動の実践と振り返り	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート・課題	60	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
その他	10	模擬授業の準備・発表,ディスカッション等への参加状況等により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「造形的な見方・考え方」が活きた授業はいかにして実現することができるかについて探求してほしい。
授業外学修	1 復習として，課題を課すことがある。 2 予習として，資料を配布することがある。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　図画工作編		日本文教出版		
小学校図画工作科教科書1年～6年		日本文教出版		

参考書：自由記載	適宜，提示する。
その他	はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学習指導要領を理解している	学習指導要領に示された図画工作科の全体構造を十分に理解した上で,目標,内容,指導上の留意点,学習評価の考え方について説明することができる	学習指導要領に示された図画工作科の目標,内容,指導上の留意点,学習評価の考え方について理解し,説明することができる	学習指導要領に示された図画工作科の目標,内容,指導上の留意点,学習評価の考え方について理解している	学習指導要領に示された図画工作科の目標,内容は理解できているが,指導上の留意点,学習評価の考え方についての理解が不十分である	学習指導要領に示された図画工作科の目標,内容,指導上の留意点,学習評価の考え方についての理解ができていない
技能	1．図画工作科の授業を設計し実践することができる	学習指導案の構成を十分に理解し，具体的な授業を想定した学習指導案を作成し,実践と振り返りを通して，授業を改善することができる	学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した学習指導案を作成し実践し，実践と振り返りを通して，授業改善の視点を持つことができる	学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した学習指導案を作成し実践することができる	学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した学習指導案を作成できるが,実践することが不十分である	学習指導案の構成を理解しておらず，具体的な授業を想定した学習指導案の作成や実践ができない

科目名	体育科教育法			授業番号	CO320	サブタイトル			
教員	溝田 知茂								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法の変遷を踏まえた上で，現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について体育科が果たすべき役割と責任性について理解する。 また，低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解し，指導案の作成並びに模擬授業，授業評価と授業を展開するうえでの一連の過程を実践する能力を身に付ける。								
到達目標	体育科における，「目標−内容−方法」について理解するとともに，子ども一人ひとりが意欲的に学ぶことのできる授業展開を計画・立案することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	学習指導要領の変遷（総則） 学習指導要領（総則）における改善点について理解する。	
第2回	学習指導要領の変遷（体育科の目標） 学習指導要領（体育科の目標）の改善点について理解する。	
第3回	学習指導要領1・2年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領1・2年生の内容と目標を理解し，各運動領域の例示を理解できるようにする。	
第4回	学習指導要領3・4年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3・4年生の内容と目標を理解し，各運動領域の例示を理解できるようにする。	
第5回	学習指導要領5・6年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領5・6年生の内容と目標を理解し，各運動領域の例示を理解できるようにする。	
第6回	学習指導要領3〜6年生の保健の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3〜6年生の保健の内容と目標を理解し，各運動領域の例示を理解できるようにする。	
第7回	体育科の年間計画及び指導案作成について 体育科の年間計画を理解するとともに，指導案の作成について学ぶ。	
第8回	指導案の作成 体育教員の立場に立って，配慮事項も踏まえた指導案を作成する。	
第9回	模擬授業打ち合わせ グループに分かれて，体育教員の立場に立った授業の進め方を話し合う。	
第10回	模擬授業（1）1・2年生について 体育教員の立場に立って，配慮事項を踏まえて，模擬授業を行う。	
第11回	模擬授業（2）3・4年生について 体育教員の立場に立って，配慮事項を踏まえて，模擬授業を行う。	
第12回	模擬授業（3）5・6年生について 体育教員の立場に立って，配慮事項を踏まえて，模擬授業を行う。	
第13回	模擬授業（4）3〜6年生の保健について 体育教員の立場に立って，配慮事項を踏まえて，模擬授業を行う。	
第14回	模擬授業の授業評価・修正 それぞれの模擬授業に対して，意見交換をして評価・修正する。	
第15回	授業評価を加味した指導案の作成 修正したことを踏まえて、指導案を作成する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表や予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは，その時その場で行う。
レポート	60	指導案の理解・指導要領の理解。 レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	20	模擬授業の教師としての授業態度を評価する。 フィードバックは，模擬授業の後にコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校体育科において，教師が運動の知識を有していることはもちろん，からだと心の仕組み対する理解を深めていくことも重要である。これらの点を踏まえつつ，将来の子どものからだと心を育てていくという強い意欲をもって受講すること。
授業外学修	・授業で行われる領域について「学習指導要領解説　体育編」を授業前に読んでおくこと。 ・事前に模擬授業で取り上げている内容をしっかり教材研究する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説体育編	文部科学省	東洋館出版社		
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解ができていない。
知識・理解	２．低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性をほぼ理解することができている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を簡単に理解できている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性の理解が十分ではない。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解できていない。
知識・理解	３．指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識を身につけている	指導案を作成するための知識をほぼ身につけている	指導案を作成するための簡単な知識を身につけている	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識が身についていない。
思考・問題解決能力	１．配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して理解することができる。	配慮が必要な子どもに対して情報収集することができる。	配慮が必要な子どもに対しての理解が十分ではない。	配慮が必要な子どもに対して考えることができていない。
態度	１．教師の立場としての振る舞い。	教師の立場としての振る舞いができている。	教師の立場としての振る舞いがほぼできている。	教師の立場としての基本的な振る舞いができている。	教師の立場としての理解が十分ではない。	教師の立場として考えることができていない。

科目名	家庭科教育法			授業番号	CO321	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校家庭科の授業を通して，「生きる力」や「確かな学力」を育成するという強い理念をもって，学習指導要領に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」等，学ぶ意欲を児童に身に付けさせる授業を構想することができるようにする。 授業構想を具体化するために学習指導案を作成して模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。								
到達目標	小学校家庭科の授業開発を通して，児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するためには，どのような学習の工夫が必要かしっかり検討し，効果的な家庭科の授業を模擬授業を通して創造することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考	最初の授業日に，学年歴で定められた授業日と回数を示し，各回のテーマや具体的な内容，教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。模擬授業の実施・分析・評価については，模擬授業の実施日が決定した時点で，実施日と授業者の名前を記載したプリントを改めて配付する。								

回	概要	担当
第1回	学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱い 小学校家庭科において育成を目指す資質・能力，小学校家庭科の内容構成のポイント，目標や内容について理解する。	
第2回	年間指導計画と題材指導計画，学習指導案の内容 2学年間を見通した指導計画作成のポイントと指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目について理解する。	
第3回	既成の家庭科指導案を基に細案を作成 細案を作成し，教師としてどのように指示を出すか，授業の流れをどのようにつくるかを考察する。	
第4回	細案を基に模擬授業を実施1・2 「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。	
第5回	細案を基に模擬授業を実施3・4 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。	
第6回	細案を基に模擬授業を実施5・6 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。	
第7回	細案を基に模擬授業を実施7・8「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」（5・6年生） 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(5・6年生)に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。	
第8回	指導案の作成(1) 「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」領域の内容（5・6年生）を理解し，教材と指導案を考える。	
第9回	指導案の作成(2) 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」領域の内容（5・6年生）を理解し，教材と指導案を考える。	
第10回	模擬授業の実施・分析・評価1・2 「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。	
第11回	模擬授業の実施・分析・評価3・4 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。	
第12回	模擬授業の実施・分析・評価5・6 「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」(6年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。	
第13回	模擬授業の実施・分析・評価7・8 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(6年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。	
第14回	模擬授業の実施・分析・評価9・10 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身に付ける。	
第15回	模擬授業の総括：模擬授業全体の振り返りと授業改善 模擬授業を振り返り，適切な教材を用いたか，よりよい指導法はなかったのかなどその要因を考察し，授業改善を図る。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。
レポート	20	作成した指導案，模擬授業の振り返りなどの記述を評価する。
小テスト	10	小学校家庭科の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度について評価する。
その他	10	模擬授業：教師としての授業態度，発問，板書の字，声の大きさ等について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教材研究の深さが学習指導案と密接に関連し，更に児童の学習意欲とも深く関係していることを理解する。また，授業開始時に配付する授業予定表に，授業内容に該当する小学校と中学校の教科書のページを明記しているので，授業の事前・事後に必ず目を通して授業に臨む。
授業外学修	1　事前に，模擬授業で取り上げる内容についてしっかり教材研究をする。 2　模擬授業についての感想を，授業後に数人発表する。 3　模擬授業について，学生に迅速で建設的なフィードバックを行い，次の模擬授業に活かす。 4　模擬授業についての感想を毎時間書かせ，授業者に一言コメントとして，良かった所や改善して欲しい所を書いたプリントを渡す。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	9784304080647	274円
小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	9784491023748	103円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新訂　新しい技術・家庭　（家庭分野）	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	9784487122820	646円

参考書：自由記載	中学校の家庭科教科書「新編　新しい技術・家庭　家庭分野」は，採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には，中学校の内容からも出題されている。
その他	採用試験には，具体的な指導方法を問う問題が出題される。模擬授業には，「自分ならどうするか」と考えながら参加する。小学校家庭科の内容は，全て実践して身に付けておくことが望ましい。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識を理解している。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について，正確に理解し述べることができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識を身について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について，大体述べることができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1．学習指導要領に求められる学ぶ意欲を児童に身につけさせる授業を構想することができる。	課題に対し，論理的整合性を持ち，多角的に考察している。	課題に対し，ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，自分の考えを十分に述べることができない。	課題を考察することができていない。
思考・問題解決能力	2．どのような学習の工夫が必要か検討することができる。	課題に対し，論理的整合性を持ち，多角的に検討している。	課題に対し，ほぼ論理的整合性を持った検討をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，自分の考えを十分に述べることができない。	課題を検討することができていない。
思考・問題解決能力	3．効果的な授業を模擬授業を通して考え創造することができる。	模擬授業を通して課題に見つけ，その解決を目指して論理的整合性を持ち，多角的に考察し工夫している。	模擬授業を通して課題にを見つけ，その解決を目指してほぼ論理的整合性を持った考察を加え工夫している。	模擬授業を通して課題を見つけ，その解決を目指して自分の考えを述べることができる。	模擬授業を通して課題を見つけることができるが，自分の考えを述べることができない。	課題を見つけることができていない。
技能	1．児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を大変よく身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能をある程度身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を十分に身につけていない。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能をまったく身につけていない。
技能	2．学習指導案を作成できる。	学習指導案を正確に作成できている。	学習指導案をほぼ作成できている。	学習指導案をある程度作成できている。	学習指導案を十分に作成できていない。	学習指導案をまったく作成できていない。
技能	3．模擬授業を実施できる。	模擬授業を大変よく行うことができている。	模擬授業を行うことができている。	模擬授業をある程度行うことができている。	模擬授業十分に行うことができていない。	模擬授業をまったく行うことができていない。
技能	4．模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を大変よく身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力をある程度身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を十分に身につけていない。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力をまったく身につけていない。
態度	1．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し，コメント尾シートを提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントシートの提出をしていない。

科目名	英語科教育法			授業番号	CO322	サブタイトル			
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	授業実践に必要な知識・技術を習得するために，事前にテキストを熟読してそのポイントについてまとめ，授業ではそれを指導に生かす具体的な方法についてディスカッションを通して考案する。また，授業づくりに必要な基本的な指導技術を身に付けるために，実際の授業観察や分析を行ったり，指導教員による授業をを児童の立場で体験したりする。さらに，教師の立場で模擬授業を行い，省察・指導の改善を行うことにより，理論と実践の往還・統合を図る。								
到達目標	・小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境について理解する。 ・児童期の第二言語習得の特徴を理解し，模擬授業における指導に生かすことができる。 ・実践に必要な基本的な指導技術と実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	・イントロダクション：講座の目標・内容・評価方法を確認する。 ・小学校外国語教育導入の背景・変遷，外国語活動・外国語科，小・中・高等学校の外国語科の目標，内容について理解する。 ・小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解する。 （授業ビデオ視聴とグループディスカッション）	
第2回	・主教材の趣旨，構成，特徴について理解する。 （グループディスカッションで互いの気づきを共有する。） ・様々な指導環境に柔軟に対応するため，児童や学校の多様性について，基礎的な事柄を理解する。	
第3回	・言語使用を通して言語を習得することについて，授業体験を通して理解する。 ・音声によるインプットの内容の類推から理解への進むプロセスを経ることを，授業体験を通して理解する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第4回	・児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方について理解する。 ・コミュニケーションの目的や場面，状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性について，授業体験を通して理解する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第5回	・受信から発信，音声から文字へ進むプロセスを理解する。 ・国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解する。 ・文字言語との出合わせ方，読む活動・書く活動への導き方について理解する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第6回	・児童の発話につながるよう，効果的に英語で語りかける。 ・児童の英語での発話を引き出し，児童とのやり取りを進める。 （授業場面を設定し，マイクロティーチングで上記の活動を行う。 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。）	
第7回	・ALT/JTE等とのティームティーチングによる指導の在り方について授業体験の中で理解する。 （授業場面を設定し，マイクロティーチングで上記の活動を行う。 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。）	
第8回	・ICT等の効果的な活用の仕方について理解し，活用法を考案する。また，デジタル教科書を指導に活用する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第9回	・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）について理解する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第10回	・小学校での授業参観・分析や児童支援を通して，自身の授業構想・教材作成につなげる。	
第11回	・題材選定，教材研究の仕方について理解する。 ・模擬授業に向けて，適切に題材選定，教材研究を行う。	
第12回	・学習到達目標に基づいた指導計画（年間指導計画，単元計画，学習指導案，短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等）について理解する。 ・模擬授業に向けた学習指導案を立案する。	
第13回	・マイクロティーチング①：これまでの授業における知識・理解に基づき，模擬授業，省察，指導の改善を行う。	
第14回	・マイクロティーチング②：これまでの授業における知識・理解に基づき，模擬授業，省察，指導の改善を行う。	
第15回	・講座全体のまとめ，省察を行い，今後の指導の改善に向けて協議する。	
授業計画 備考2	（講座前半の回）①ウォームアップ：Classroom English, 授業で使えるゲームや歌等のアクティビティ ②事前学習としてテキストを読みポイントをまとめたレポートをもとに，トピックに沿ったグループディスカッション ③指導教員による解説 ＊授業テーマに沿った授業映像の視聴，指導教員による授業の体験を適宜実施 （講座後半の回）①指導計画の作成（学習指導案の作成 等） ②教材研究 ③模擬授業・相互参観（全員）→リフレクション・指導教員によるコメント →授業改善 ＊R6年度改定	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	・授業中のディスカッション，模擬授業実践・省察・指導の改善における意欲的な態度ならびに自律的な学びの姿勢（予習・復習）を評価する。＜態度＞
レポート	40	・理論と実践の往還を図りながら考えたことの記述内容や，指導計画（学習指導案等），指導実践の省察を評価する。＜知識・理解＞ ＊レポートについてはコメントを記入して返却するとともに，良い例はクラス全体に紹介する。
授業実践の技能	20	授業づくり，模擬授業実践における技能を評価する。＜技能＞

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・教師になる自覚と意欲をもって参加すること。 ・事前学習を前提に授業を進めるので，予習を必ずすること。また，授業中のディスカッションでは積極的に発言し，知識・理論を踏まえた指導・実践の具体案を提案すること。 ・授業後は，その日のうちに疑問に思ったことをリサーチしたり，模擬授業に必要となる英語力の増強や具体的な指導方法の考案・記述を行うこと。
授業外学修	・事前にテキストを必ず読み，そのポイントや自分の意見をレポートにまとめて授業に臨むこと。 ・指導案・指導細案の作成や，模擬授業の練習を行うこと。 ・テキストによる専門的な知識や指導法の知識を模擬授業に生かし，テキストの二次元バーコードで音声や動画を視聴して，英語の音声を繰り返し声に出して練習すること。 以上の学修を，週4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書（改訂版）外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-782-9	2,420円
Here We Go! 5	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0076-7	354円
Here We Go!6	小泉 仁 ほか	光村図書	978-4-8138-0077-4	354円
Let's Try!1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円
Let's Try!2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	128円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（３８年）を生かし，小学校の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語運用力なら び に指導実践力を育成する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校外国語教育についての基本的な知識・理解	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境について十分理解しており，自分の言葉で分かりやすく説明できる。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境について十分理解している。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境について一定程度理解している。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境についての理解にやや不十分なところがある。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境についての理解が不十分である。
知識・理解	２．子供の第二言語修得についての知識と活用	児童期の第二言語修得の特徴について十分理解し，指導に生かす具体的な方法について考察して実践できる。	児童期の第二言語修得の特徴について十分理解し，指導に生かす具体的な方法について考察できる。	児童期の第二言語修得の特徴について十分理解している。	児童期の第二言語修得の特徴についての理解にやや不十分なところがある。	児童期の第二言語修得の特徴についての理解が不十分である。
技能	１．実践に必要な基本的な指導技術の修得	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術を十分身に付け，指導に生かすことができる。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術を身に付け，指導に生かすことができる。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術の習得がやや不十分である。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術の習得が不十分である。
技能	２．授業づくりに必要な知識・技術の修得	実際の授業づくりに必要な知識を十分身に付け，指導計画の作成，模擬授業の実施，省察と指導の改善ができる。	実際の授業づくりに必要な知識を身に付け，指導計画の作成，模擬授業の実施，省察と指導の改善ができる。	実際の授業づくりに必要な知識を身に付け，指導計画の作成，模擬授業の実施ができる。	実際の授業づくりに必要な知識をある程度身に付け，指導計画の作成，模擬授業の実施ができるが，その内容が不十分である。	実際の授業づくりに必要な知識の修得が不十分で，指導計画の作成，模擬授業が実施できない。
態度	１．授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば，自分の考えを発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが，クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。
態度	１．授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに常に貢献している。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	道徳教育指導論			授業番号	CO323	サブタイトル			
教員	重松 恵子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	道徳教育は大きな転換期を迎えた。道徳教育の改善・充実を図るため，小学校は平成30年度，中学校は令和元年度から，特別の教科　道徳(「道徳科」)が教科化された。この改訂の内容を踏まえ，道徳教育の意義について全講義を通して明らかにしていく。道徳教育と道徳科の目標や内容・指導について講義する。また，学習指導案作成と模擬授業の演習を通して，指導方法の要点や道徳科の授業について講義し，授業実践力を身に付けることを目的とする。								
到達目標	道徳教育の改訂の要点について理解し，道徳教育の意義について考えることができるようになる。 道徳教育と道徳科の目標・内容・指導について学び，道徳教育指導全般について理解できるようになる。 道徳科の学習指導の在り方や工夫について演習を通して身に付け，授業実践ができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	道徳とは何か　自分と道徳（1）　道徳教育の歴史　道徳教育の改訂の基本方針・要点 「特別の教科 道徳(道徳科)」への改訂の基本方針・要点・「考え議論する道徳」について理解する。	
第2回	道徳教育と道徳科の関係・つながり　道徳教育の目標　道徳科の目標 学校における道徳教育は道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであるということと，「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育・道徳科の目標について理解する。	
第3回	道徳科の内容　内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点（１） 内容項目「善悪の判断，自律，自由と責任」「正直，誠実」等（内容項目１～１２）の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して，道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。	
第4回	道徳科の内容　内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点（２） 内容項目「公正，公平，社会正義」「勤労，公共の精神」等（内容項目１３～２２）の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して，道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。	
第5回	道徳科の授業 示範授業に参加し授業を体験することを通して，道徳科学習指導案・一般的な学習指導過程・発問の工夫・板書の工夫など，道徳科の学習指導について理解する。	
第6回	指導計画の作成　指導方法の工夫　道徳科の授業のつくりかた（1） 指導計画作成の意義，道徳科に生かす指導方法の多様な工夫の具体例，学習指導案作成の手順について理解する。	
第7回	道徳科の授業のつくりかた（2） 内容項目の分析・児童の実態・教材分析・ねらい・主題名などについて理解し，学習指導案を作成する。	
第8回	道徳科の授業のつくりかた（3） 学習指導過程の導入・展開前段・展開後段・終末について理解し，学習指導案を作成する。	
第9回	道徳科の評価　道徳性の発達　指導の配慮事項 道徳科における評価の意義や評価の基本的な考え方について理解する。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための指導の配慮事項について理解する。	
第10回	授業実践　模擬授業（1）　模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(指導方法の工夫など)について理解する。	
第11回	授業実践　模擬授業（2）　模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(多様な学習指導など)について理解する。	
第12回	授業実践　模擬授業（3）　模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(教材・教具の活用など)について理解する。	
第13回	授業実践　模擬授業（4）　模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(個に応じた指導・教態など)について理解する。	
第14回	教材に求められる内容の観点 教材づくりの演習を通して，教材の開発と活用の創意工夫について，教材に求められる内容の観点について理解する。	
第15回	よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成　自分と道徳（2） 全講義内容をKJ法でまとめる活動を通して，道徳教育の意義や道徳教育指導の理解，授業実践力の変容について明らかにする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加態度によって評価する。
レポート	50	各回の講義の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。レポートはコメントを記入して返却し，次の講義で記述内容を紹介したり補足説明をしたりして活用する。
小テスト		
定期試験		
その他	40	模擬授業の学習指導案の内容・工夫や模擬授業実践態度で評価する。模擬授業内容については一人一人にコメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち，授業実践とつないで考え，真剣に受講する。
授業外学修	1　予習として，「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」「4年小学どうとく　生きる力」のうち，次回の授業内容に関わる部分を読み，課題を把握しておくこと。 2　授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので，復習をしておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
4年小学どうとく　生きる力		日本文教出版株式会社		

使用テキスト：自由記載	小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　平成29年7月　（文部科学省）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和６年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭・教頭・校長，公立幼稚園園長　岡山市教育委員会研修指導員（指導事務嘱託）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	道徳科の授業実践や教職員研修の講師等のこれまでの経験を，講義内容（道徳科授業の指導の在り方，指導方法の工夫，学習指導案作成，模擬授業改善の視点等）に生かして指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解ができていない。
知識・理解	2.学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解することができている。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法をほぼ理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の基本的なことを理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の理解が十分ではない。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解できていない。
知識・理解	３．指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識をほぼ身に付けている。	指導案を作成するための基本的な知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識を身に付いていない。
技能	１．教材研究や学習指導案の作成ができる。	教材研究や学習指導案の作成が十分できる。	教材研究や学習指導案の作成がほぼできる。	教材研究や学習指導案の作成が基本的にできる。	教材研究や学習指導案の作成が十分ではない。	教材研究や学習指導案の作成ができない。
技能	２．内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力を十分身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力をほぼ身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して基本的な指導力，授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力が十分身についていない。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力を身に付いていない。

科目名	小学校教育研究Ⅰ			授業番号	CO328	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、山田　恵子、満田　知茂、牛島　光太郎、太田　憲孝、森寺　勝之								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	総合教養養成セミナーⅠ・Ⅱで身につけた学士力を基盤にして，小学校教員として求められる各教科等の内容に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。								
到達目標	教材の研究や学習指導案の作成等を行い，小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養と実践的指導力を身に付けることができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	理科教材研究 理科に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	佐々木
第2回	算数教材研究（1） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	森寺
第3回	算数教材研究（2） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	森寺
第4回	算数教材研究（3） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	森寺
第5回	算数教材研究研究（4） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う	森寺
第6回	国語教材研究研究（1） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第7回	国語教材研究研究（2） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第8回	国語教材研究研究（3） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第9回	国語教材研究研究（4） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第10回	英語教材研究（1） 英語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	西田
第11回	英語教材研究（2） 英語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	西田
第12回	英語教材研究（3） 英語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	西田
第13回	図画工作教材研究 図画工作に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	牛島
第14回	体育教材研究 体育に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	満田
第15回	プログラミング教育教材研究 プログラミング教育に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	佐々木
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
レポート	30	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し，解説する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員採用試験対策参考書専門教科小学校全科	東京アカデミー	七賢出版		1800
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校教諭(15年)，県教育センター(９年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年），県教育委員会指導主事（４年），公立中高一貫校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年）（西田寛子） 小中高教員16年(教頭を含む)、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年（森寺勝之 ）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。（佐々木弘記） 英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，教育現場の実態を踏まえて，その課題を解決するための実践的な指導を行う。（西田寛子） 小中高教員及び校長23年、岡山県教育委員会専門的教育職員16年の実務経験を生かし、より具体的で即戦力になる指導を行う。（森寺勝之 ）			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けていない。
技能	１．小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けていない。

科目名	小学校教育研究Ⅱ			授業番号	CO329	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、齊藤　佳子、山田　恵子、溝田　知茂、牛島　光太郎、太田　憲孝、森寺　勝之								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育研究IIで身につけた学士力を基盤にして，小学校教員として求められる各教科等の内容に関する確かな教養と実践的指導力を身につける。								
到達目標	学習指導案の作成や教材研究等を行い，小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養と実践的指導力を身に付けることができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校学習指導要領　理科（１） 小学校学習指導要領理科に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	佐々木
第2回	小学校学習指導要領　理科（２） 小学校学習指導要領理科に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	佐々木
第3回	小学校学習指導要領　国語（１） 小学校学習指導要領国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	太田
第4回	小学校学習指導要領　国語（２） 小学校学習指導要領国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	太田
第5回	小学校学習指導要領　算数（１） 小学校学習指導要領算数に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	森寺
第6回	小学校学習指導要領　算数（２） 小学校学習指導要領算数に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	森寺
第7回	小学校学習指導要領　体育（１） 小学校学習指導要領体育に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	溝田
第8回	小学校学習指導要領　体育（２） 小学校学習指導要領体育に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	溝田
第9回	小学校学習指導要領　外国語（１） 小学校学習指導要領外国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	西田
第10回	小学校学習指導要領　外国語（２） 小学校学習指導要領外国語に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	西田
第11回	小学校学習指導要領　道徳 小学校学習指導要領道徳に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	西田
第12回	小学校学習指導要領　家庭（１） 小学校学習指導要領家庭に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	齊藤
第13回	小学校学習指導要領　家庭（２） 小学校学習指導要領家庭に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	齊藤
第14回	小学校学習指導要領　図画工作（１） 小学校学習指導要領図画工作に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	牛島
第15回	小学校学習指導要領　図画工作(２) 小学校学習指導要領図画工作に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	牛島
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
レポート	30	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し，解説する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭(15年)，県教育センター(9年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年），県教育委員会指導主事（４年），公立中高一貫校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年）（西田寛子） 小中高教員16年(教頭を含む)、岡山県教育委員会専門的教育職員16年、校長7年（森寺勝之）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)等の勤務を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。（佐々木弘記） 英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，教育現場の実態を踏まえて，その課題を解決するための実践的な指導を行う。（西田寛子） 小中高教員及び校長23年，岡山県教育委員会専門的教育職員16年の実務経験を生かし，より具体的で即戦力になる指導を行う。（森寺勝之）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けていない。
技能	１．小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けていない。

科目名	小学校教育研究Ⅲ			授業番号	CO430	サブタイトル			
教員	溝田 知茂、山田 恵子、牛島 光太郎、太田 憲孝、森寺 勝之								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育研究IIで身につけた学士力を基盤にして，小学校教員として求められる教職に関する知識や技能を身につけるための学習をする。								
到達目標	新任教員として求められるレベルの専門的な知識や技能を確実に身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	小学校における教科指導（算数１） 算数科教育法での総括をして知識を深める。	
第2回	小学校における教科指導（算数２） 算数科教育法での実践に向けての指導法を理解する。	
第3回	小学校における教科指導（国語１） 国語科教育法での総括をして知識を深める。。	
第4回	小学校における教科指導（国語２） 国語科教育法での実践に向けての指導法を理解する。	
第5回	小学校における教科指導（社会１） 社会科教育法での総括をして知識を深める。	
第6回	小学校における教科指導（社会２） 社会科教育法での実践に向けての指導法を理解する。	
第7回	小学校における教科指導（理科１） 理科教育法での総括をして知識を深める。	
第8回	小学校における教科指導（理科２） 理数科教育法での実践に向けての指導法を理解する。	
第9回	小学校における教科指導（音楽） 音楽科教育法での総括をして知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	
第10回	小学校における教育法規 小学校における教育法規に関する知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	
第11回	小学校における教科指導（図画工作） 図画工作科教育法での総括をして知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	
第12回	小学校における危機管理 小学校における危機管理に関する知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	
第13回	小学校における教科指導（家庭） 家庭科教育法での総括をして知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	
第14回	小学校における教科指導（体育） 体育科教育法での総括をして知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	
第15回	小学校における現代の教育問題 小学校における現代の教育問題に関する知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。 フィードバックは，その時その場で行う。
レポート	30	各回の終盤で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。 レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。 小テストは，採点をして返却する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。
備考	R4.4.1改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることができている。	小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることができている。	小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることがほぼできている。	小学校教員として求められる基本的な知識を身につけることができている。	小学校教員として求められる知識を身につけることが十分ではない。	小学校教員として求められる知識を身につけることができていない。
技能	1．小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができている。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができている。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることがほぼできている。	小学校教員として求められる教職に関する基本的な技能を身につけることができている。	小学校教員として求められる教職に関する技能が十分ではない。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができていない。

科目名	保育実践研究Ⅰ α			授業番号	CO431a	サブタイトル			
教員	伊藤 智里、佐々木 弘記、齊藤 佳子、山田 恵子、國田 祥子、岡﨑 三鈴、大田原 愛美								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育の本質・目的，子ども理解の在り方，保育の内容・方法，保育の表現技術等，子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。								
到達目標	1，保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 2，保育に関する現代的課題についての現状分析，考察，検討を行う。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育の理念と概念について 保育職に就くにあたって必須となる保育の理念についての知識を再確認し、社会人・保育者として必要な知識と視点について確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	佐々木，伊藤
第2回	身体表現(1)幼児と身体表現 幼児の発達過程に合わせた身体表現についての知識を再確認しながら、実際に幼児の身体表現活動を追体験する。	大田原
第3回	身体表現(2)リズム表現 リズムに着目した身体表現の指導法について確認し、子どもと行うことができるリズム表現を実践する。	大田原
第4回	身体表現(3)音楽と身体表現 子どもの表現は総合的に行われることを理解し、音楽に合わせた身体表現活動について検討し、実践する。	大田原
第5回	教育法規 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領等における教育法規の中にみる幼児教育の基本的事項について再確認し、保育者に求められる資質について検討する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	伊藤，佐々木
第6回	子どもに関する福祉の制度・施策と法令 保育者として必要な子どもに関する福祉の制度・施策や法令等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	齋藤，佐々木
第7回	子どもの食と栄養 保育者として必要な子どもの食生活や栄養に関する知識の習得を確認し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	齋藤，佐々木
第8回	子どもの感染症と疾病への対応 保育者として必要な子どもの感染症と疾病等への適切な対応についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	齋藤，佐々木
第9回	保育者の教養(1) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (1)では，数的処理をともなう論理的思考が獲得されているかを確認する。	國田
第10回	保育者の教養(2) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (2)では，数的処理以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。	國田
第11回	保育の心理学 特に乳幼児期において，実践の場でみられる子どもの行動が，認知発達とどのように結びついているのかを理解する。	國田
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (1)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した運動遊びの紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (2)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適したリトミックの紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (3)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した児童文化財を用いた活動の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第15回	保育者として働くことに関する事項 就職後の自己研鑽等、実習では実践できない内容を知識として再確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	伊藤，佐々木
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題に対して適切な内容であること。コメントして返却、または授業内でフードバックを行う。
小テスト	40	各テストのテーマの理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ，４年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育に関する科目横断的な知識を習得する。	保育に関する科目の内容を横断的に見て関係性を理解し、生涯学習を鑑みて俯瞰した保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解し、小学校との接続に向けた保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的に観る視点が不十分である。
知識・理解	２．保育に関する知識を確認する。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的・発展的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就くことを想定した内容を理解することができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し内容を理解することができる。	保育に関する知識の再確認をしたが知識として定着が不十分である。
思考・問題解決能力	１．保育に関する現代的課題について現状分析、考察、検討を行う。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行い、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての調査、現状分析が不十分である。
技能	１．保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識をもとに、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	１．主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究Ⅰβ			授業番号	CO431b	サブタイトル			
教員	伊藤 智里、佐々木 弘記、齊藤 佳子、山田 恵子、國田 祥子、岡﨑 三鈴、大田原 愛美								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育の本質・目的，子ども理解の在り方，保育の内容・方法，保育の表現技術等，子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。								
到達目標	１，保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 ２，保育に関する現代的課題についての現状分析，考察，検討を行う。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育の理念と概念について 保育職に就くにあたって必須となる保育の理念についての知識を再確認し、社会人・保育者として必要な知識と視点について確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	佐々木，伊藤
第2回	身体表現(1)幼児と身体表現 幼児の発達過程に合わせた身体表現についての知識を再確認しながら、実際に幼児の身体表現活動を追体験する。	大田原
第3回	身体表現(2)リズム表現 リズムに着目した身体表現の指導法について確認し、子どもと行うことができるリズム表現を実践する。	大田原
第4回	身体表現(3)音楽と身体表現 子どもの表現は総合的に行われることを理解し、音楽に合わせた身体表現活動について検討し、実践する。	大田原
第5回	教育法規 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領等における教育法規の中にみる幼児教育の基本的事項について再確認し、保育者に求められる資質について検討する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	伊藤，佐々木
第6回	子どもに関する福祉の制度・施策と法令 保育者として必要な子どもに関する福祉の制度・施策や法令等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	齋藤，佐々木
第7回	子どもの食と栄養 保育者として必要な子どもの食生活や栄養に関する知識の習得を確認し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	齋藤，佐々木
第8回	子どもの感染症と疾病への対応 保育者として必要な子どもの感染症と疾病等への適切な対応についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	齋藤，佐々木
第9回	保育者の教養(1) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (1)では，数的処理をともなう論理的思考が獲得されているかを確認する。	國田
第10回	保育者の教養(2) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (2)では，数的処理以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。	國田
第11回	保育の心理学 特に乳幼児期において，実践の場でみられる子どもの行動が，認知発達とどのように結びついているのかを理解する。	國田
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (1)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した運動遊びの紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (2)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適したリトミックの紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (3)では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した児童文化財を用いた活動の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第15回	保育者として働くことに関する事項 就職後の自己研鑽等、実習では実践できない内容を知識として再確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する 。	伊藤，佐々木
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題に対して適切な内容であること。コメントして返却、または授業内でフードバックを行う。
小テスト	40	各テストのテーマの理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ，４年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育に関する科目横断的な知識を習得する。	保育に関する科目の内容を横断的に見て関係性を理解し、生涯学習を鑑みて俯瞰した保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解し、小学校との接続に向けた保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的に観る視点が不十分である。
知識・理解	２．保育に関する知識を確認する。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的・発展的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就くことを想定した内容を理解することができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し内容を理解することができる。	保育に関する知識の再確認をしたが知識として定着が不十分である。
思考・問題解決能力	１．保育に関する現代的課題について現状分析、考察、検討を行う。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行い、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての調査、現状分析が不十分である。
技能	１．保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識をもとに、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	１．主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究Ⅱ α			授業番号	CO432a	サブタイトル			
教員	伊藤　智里、佐々木　弘記、齊藤　佳子、國田　祥子、岡崎　三鈴、大田原　愛美								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談，育児相談，園及びクラス運営の在り方，専門機関との連携等について，実践的に研究する。								
到達目標	１，問題解決のための対応，判断方法等について学びを深める。 ２，必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ，自らの学びを振り返り，保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	造形実技について(1) 保育活動を指導する際に必要な基礎的な描画材の扱い方について再確認し、造形遊びを行う。	伊藤
第2回	造形実技について(2) 保育現場で使用する、廃材、粘土などを使った立体造形についての知識を確認し、造形遊びを行う。	伊藤
第3回	子どもと身体表現について 保育実践研究Ⅰで行った身体表現活動を評価・改善し、発展的に身体表現活動を行う。	大田原
第4回	子どもとわらべ歌について わらべ歌の意義と保育での役割について再確認し、模擬保育を行う。	大田原
第5回	手遊びと保育について 手遊びについての知識や実践した内容を再確認し、保育における手遊びについて発展的に実践する。	大田原
第6回	食育の計画と保育実践 幼児にまつわる現代的課題の一つである食育について、幼児の食への興味や関心を高めるための様々な指導方法を学ぶ。	齊藤
第7回	幼児のおやつ調理(1)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。	齊藤
第8回	幼児のおやつ調理(2)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。	齊藤
第9回	保育相談について 基本的なカウンセリング技法を用いた演習を行い，保育者として保護者や他の保育者の相談に乗るうえで必要となるカウンセリングマインドを理解する。	國田
第10回	外部機関との連携について 実際に自らが将来勤務するだろう地域における福祉施設や行政によるサービスなどを調べ，連携するために知っておくべき基本的知識を確認する。	國田
第11回	保育の総合的支援について 保育現場において問題となりやすいことがらについてモデルケースを用いて検討し，これまで得てきた知識の活用を意識する。	國田
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (1)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した春・夏の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡崎
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (2)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した秋・冬の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡崎
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (3)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した通年の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡崎
第15回	資質能力の確認 実習等の学びを踏まえ、保育者として必要な知識技能を習得したことを確認し、保育者になる際の自らの課題について検討する。	佐々木，伊藤
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題に適切な内容で作成していることについて評価する。コメントを記入して返却、または授業でのフィードバックを行う。
小テスト	30	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ，４年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	１．予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨む。 ２．発表の担当の際には，準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	・幼児のおやつ調理では，材料代として300円程度徴収します。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを自分なりにまとめ説明することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認し自分なりにまとめることができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返ることが不十分である。
思考・問題解決能力	１．問題解決のための対応、判断方法について学びを深める。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法を元に、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について理解することができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容の問題解決の対応について理解する事ができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての対応、判断方法への理解が不十分である。
技能	１．保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	１．主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究Ⅱβ			授業番号	CO432b	サブタイトル			
教員	伊藤　智里、佐々木　弘記、齊藤　佳子、國田　祥子、岡崎　三鈴、大田原　愛美								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談，育児相談，園及びクラス運営の在り方，専門機関との連携等について，実践的に研究する。								
到達目標	１，問題解決のための対応，判断方法等について学びを深める。 ２，必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ，自らの学びを振り返り，保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	造形実技について(1) 保育活動を指導する際に必要な基礎的な描画材の扱い方について再確認し、造形遊びを行う。	伊藤
第2回	造形実技について(2) 保育現場で使用する、廃材、粘土などを使った立体造形についての知識を確認し、造形遊びを行う。	伊藤
第3回	子どもと身体表現について 保育実践研究Ⅰで行った身体表現活動を評価・改善し、発展的に身体表現活動を行う。	大田原
第4回	子どもとわらべ歌について わらべ歌の意義と保育での役割について再確認し、模擬保育を行う。	大田原
第5回	手遊びと保育について 手遊びについての知識や実践した内容を再確認し、保育における手遊びについて発展的に実践する。	大田原
第6回	食育の計画と保育実践 幼児にまつわる現代的課題の一つである食育について、幼児の食への興味や関心を高めるための様々な指導方法を学ぶ。	齊藤
第7回	幼児のおやつ調理(1)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。	齊藤
第8回	幼児のおやつ調理(2)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。	齊藤
第9回	保育相談について 基本的なカウンセリング技法を用いた演習を行い，保育者として保護者や他の保育者の相談に乗るうえで必要となるカウンセリングマインドを理解する。	國田
第10回	外部機関との連携について 実際に自らが将来勤務するだろう地域における福祉施設や行政によるサービスなどを調べ，連携するために知っておくべき基本的知識を確認する。	國田
第11回	保育の総合的支援について 保育現場において問題となりやすいことがらについてモデルケースを用いて検討し，これまで得てきた知識の活用を意識する。	國田
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (1)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した春・夏の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡崎
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (2)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した秋・冬の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡崎
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 (3)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した通年の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡崎
第15回	資質能力の確認 実習等の学びを踏まえ、保育者として必要な知識技能を習得したことを確認し、保育者になる際の自らの課題について検討する。	佐々木，伊藤
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題に適切な内容で作成していることについて評価する。コメントを記入して返却、または授業でのフィードバックを行う。
小テスト	30	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ，４年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	１．予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨む。 ２．発表の担当の際には，準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	・幼児のおやつ調理では，材料代として300円程度徴収します。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを自分なりにまとめ説明することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認し自分なりにまとめることができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返ることが不十分である。
思考・問題解決能力	１．問題解決のための対応、判断方法について学びを深める。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法を元に、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について理解することができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容の問題解決の対応について理解する事ができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての対応、判断方法への理解が不十分である。
技能	１．保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、保育現場で活動することが可能な状態で実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	１．主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	小学校教育基礎演習			授業番号	CP126	サブタイトル			
教員	森寺 勝之、山田 恵子、溝田 知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校教員を養成するための基礎科目として，教職に関する基礎的な理解を深めることを目的とする。								
到達目標	基礎的な小学校教員の職務内容について理解し，自分自身の適性について考える。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	小学校の教師になるとはどのようなことなのか考える	森寺
第2回	どんな小学校教師になりたいのか考える	森寺
第3回	教員免許状はどのように授与されるのかを知る	森寺
第4回	教員採用試験について 大学探検(生活科・体験活動)活動の準備	森寺
第5回	大学探検　大学の施設を調査する(生活科・体験活動)	森寺
第6回	大学探検　報告会	森寺
第7回	教師と法律について考える	森寺
第8回	授業ボランティアについて考える(1)	森寺
第9回	授業ボランティアについて考える(2)	森寺
第10回	授業ボランティアのまとめ(感想発表)	森寺
第11回	教師と子どもの関係について考える	森寺
第12回	教師の仕事について考える	森寺
第13回	小学校体育体験(低学年「体ほぐしの運動遊び」「多様な動きをつくる運動遊び」、中学年「体ほぐしの運動」及び「多様な動きをつくる運動」（体験）	溝田
第14回	子どもがつながる・子どもが楽しむ 学級ゲームを体験する（体験活動）	森寺
第15回	授業のまとめと最終レポートを作成する	森寺
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	発表や係など意欲的な受講態度，課題提出の完成度、予習・復習の状況等によって評価する。
レポート	50	レポートの記述内容と提出状況または小テストで評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。
授業外学修	1　予習として，事前に配布された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業内容・配布資料をノートにまとめる。 3　発展学習として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートにまとめる。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年・岡山県教育委員会専門的教育職員16年・校長7年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場や教育委員会での体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．基礎的な小学校教員の職務内容について理解し、自分自身の適性について考えることができる。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性について十分に理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性について概ね理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性ついて普通に理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性について理解がやや不十分である。	基礎的な小学校教員の職務内容および、自分自身の適性について全く理解できていない。
態度	1．提出物や学習態度	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられてており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。

科目名	教育原理			授業番号	CP201	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で，教育の基本的な事項について学習していく。 特に，教育とは何かという根源的な問いと，教育行政や学校教育制度といった，児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。								
到達目標	現代社会における教育問題は，極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし，教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。 本講義では，こうした社会状況を踏まえつつ，これらの問題解決の一助となるよう，今一度，教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため，将来，教育に携わる者が，最低限，知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	現代の教育をめぐる諸問題 「正しい」教育の在り方をめぐる考察	
第2回	教育とは何か 教育の定義・人間と教育	
第3回	教育の思想 西洋にみる教育の思想と実践	
第4回	教育の思想 幼児教育の思想と実践	
第5回	学校教育と学力，家庭 学校教育における学力と家庭の関係	
第6回	教員の養成とは 養成，採用，研修	
第7回	子どもの日常生活 学校，放課後，家庭における教育	
第8回	家族と社会による教育 江戸期以前	
第9回	公教育とは 制度の成立とその思想	
第10回	学制とは 明治期の学校教育制度の成立と展開	
第11回	学校教育制度の成立と展開 明治期から大正期	
第12回	学校教育制度の成立と展開 昭和期から現在	
第13回	教育に関係する主な法律 教育基本法,学校教育法,教育公務員特例法など	
第14回	教育に関係する法令 教育職員免許法,地方教育行政の組織及び運営に関する法律,地方公務員法,いじめ防止対策推進法など	
第15回	現代社会における教育課題 生涯学習社会,令和の日本型学校教育	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験	70	通常のペーパーテスト。基礎的な事項の学修達成を確認する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。 理解の状況の確認を行う。 提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	追試の評価は試験のみとする。
受講の心得	テキストを事前に読んでくること。基本的な事項は暗記すること。
授業外学修	週当たり4時間以上，テキストを読むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンパス　教育原理	古賀一博ほか編著	建帛社	978-4-7679-5130-0	2090

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育の思想を理解できている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点について、自分の言葉で説明することができる。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点について、周辺領域の知識とも関連付けて理解できている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点について、概要を理解できている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点について、キーワードを覚えている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点についてのキーワードを覚えていない。
知識・理解	２．教育の歴史を理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	３．学校教育の制度について理解できている。	学校教育の制度について、その展開の歴史と根拠となる法令を理解している。	学校教育の制度について、その展開の歴史、もしくは根拠となる法令を理解している。	学校教育の制度に関する重要事項について理解している。	学校教育の制度に関するキーワードを覚えている。	学校教育の制度に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	４．教育に関する法令について理解できている。	教育に関する主要な法令と条文を多数、覚えているとともに、その条文がどのように解釈されているのかを理解している。	教育に関する主要な法令と条文を多数、覚えている。	教育に関する主要な法令と条文をいくつか覚えている。	教育に関する主要な法令の名称を覚えている。	教育に関する主要な法令の名称を覚えていない。
思考・問題解決能力	１．身近な教育問題について考察することができる。	身近な教育問題を考察することを通して、自らの実践の質を向上させることができる。	身近な教育問題について学修内容に照らして考察することができる。	身近な教育問題について、自分の経験に基づき語ることができる。	身近な教育問題について語ることができる。	身近な教育問題を補足することができない。

科目名	教育史			授業番号	CP202	サブタイトル			
教員	梶井　一暁								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，教職に関する科目のうちの「教育の基礎理論に関する科目」の「教育に関する歴史及び思想」に関する事項を含むものである。現代の教育（目的，制度，内容および方法）へと続く歴史の過程と変化について，主に講義形式により教授する。基本的に前半は西洋の教育史，後半は日本の教育史とその西洋との影響関係について考察する。								
到達目標	以下の3つを到達目標とする。1.教育の歴史についての基本的な事項に関する知識を獲得する，2.獲得した知識にもとづいて教育の歴史に関する事象を説明する，3.獲得した知識にもとづいて現代の教育の課題について考察する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育への歴史的視点 授業の目的，概要，計画などを理解する。	
第2回	歴史のなかの教育 人間形成としての教育の意味について理解する。	
第3回	歴史のなかの学校 コメニウスと教科書の歴史的意義について理解する。	
第4回	歴史のなかの子ども ルソーと「子ども」の発見について理解する。	
第5回	教育対象としての子ども ヘルバルトと教授学の成立について理解する。	
第6回	子どもを理解し，教育する ペスタロッチーとフレーベルの思想と実践について理解する。	
第7回	社会・経験・子ども デューイの教育理論を考察し，その示唆するところを理解する。	
第8回	教育の発達の動向と回顧 課題の探求と発表を行う。中間レポートを作成する。	
第9回	教育の方法の変化（1） 19世紀における教育の変化として，個別型から一斉型に移行したことの意味と課題ついて理解する。	
第10回	教育の方法の変化（2） 20世紀における教育の方法の変化として，教師中心と子ども中心の相克があったことについて理解する。	
第11回	教育の内容の変化 19-20世紀における教育の内容の変化として，全般主義と実用主義の相克があったことについて理解する。	
第12回	教育改革の歴史と課題（1） 戦前から戦後への教育の変化として，教育における権利と義務の関係について理解する。	
第13回	教育改革の歴史と課題（2） 戦後の教育改革におけるジレンマとして，教育における平等と自由の関係の問題があることを理解する。	
第14回	教員養成の歴史と課題 戦後の教育改革の到達のひとつとして，専門職としての教員のありかたについて理解する。	
第15回	まとめ 教育の過去と現在について，自分の教育経験もふまえて振り返る。期末レポートを作成し，発表する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な授業態度，発表・協議への参加，コメント・シートにより評価する。
レポート（中間レポート）	30	主要点の理解度を評価する。 教育の思想家や実践家の特色と意義を考察できる。 課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト		
定期試験（期末レポート）	30	最終的な理解度を評価する。 教育の歴史について総合的な理解を得ることができる。 課題発表を行う授業（最終回）で全体的な傾向についてコメントする。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	適宜，コメント･シート（感想，意見，関心など）を使い，授業を進める。自ら学ぶ姿勢を保持し，授業に臨んでほしい。
授業外学修	予習として，授業内容にかかわる人物や事項を調べる。 復習として，授業で配布したプリントを読み直す。 発展学修として，授業で紹介される参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じ，授業でプリント資料を配布する。 なお，参考書を下記に示すので，読んで関心を広げることを推奨する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	1.尾上雅信他編『新･教職課程演習』教育史（第2巻），協同出版，2022年。 2.田中卓也他編『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等･幼児教育』晃文書林，2022年。 3.尾上雅信編『西洋教育史』ミネルヴァ書房，2018年。 4.梶井一暁『映画のなかの学びのヒント』岐阜新聞社，2014年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー･学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識･理解	１．西洋における教育の歴史について理解している。	学修した内容について，正確に理解し，述べることができる。	学修した内容について，ほぼ理解し，述べることができる。	学修した内容について，大体述べることができる。	学修した内容について，正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	学修した内容について，まったく表現できない。
知識･理解	２．日本における教育の歴史について理解している。	学修した内容について，正確に理解し，述べることができる。	学修した内容について，ほぼ理解し，述べることができる。	学修した内容について，大体述べることができる。	学修した内容について，正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	学修した内容について，まったく表現できない。
知識･理解	３．教育の歴史における西洋と日本の関係について理解している。	学修した内容について，正確に理解し，述べることができる。	学修した内容について，ほぼ理解し，述べることができる。	学修した内容について，大体述べることができる。	学修した内容について，正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	学修した内容について，まったく表現できない。
思考･問題解決能力	１．現在の教育の状況や問題について，歴史の視点をふまえ，その背景や原因を考えることができる。	課題に対し，論理的的整合性をもち，多角的に考察している。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが，指示事項にそっていない。
態度	１．レポートの発表･質問を積極的に行うことができる。	発表･質問を積極的に行い，疑問を解決し，講義内容を理解したうえで，適切なレポートやコメントシートを提出している。	発表･質問に前向きに臨む姿勢が見受けられ，講義内容を理解したうえで，レポートやコメントシートを提出している。	発表･質問に参加し，講義内容を理解したうえで，レポートやコメントシートを提出している。	発表･質問に参加し，レポートやコメントシートを提出しているが，理解が十分ではない。	発表･質問に参加しているが，レポートやコメントシートを提出していない。

科目名	教育方法学			授業番号	CP203	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法，技術を教授するとともに，情報機器及び教材の活用について教授する。								
到達目標	・子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。 ・教育の目的に適した指導技術を理解し，身につける。 ・情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，（知識・理解）（技能）の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育の方法(1)　これまで受けてきた教育の方法 これまで受けてきた教育はどのような教育方法であったかを振り返る。	住野
第2回	教育の方法(2)　教育的な教育の方法とは 教育的に教育するための方法とはどのようなものかを考える。	住野
第3回	教育の方法(3)　教育方法の歴史(1)ソクラテス 古代から教育の方法は工夫されてきた。ソクラテスが編み出した「産婆術」とはどのような教育方法か？	住野
第4回	教育の方法(4)　教育方法の歴史(2)ヘルバルト 近代を代表するヘルバルトによる「４段階教授法」とその弟子たちが編み出した「５段階教授法」を学ぶ。	住野
第5回	教育の方法(5)　教育方法の歴史(3)デューイ 戦後日本の教育方法に大きな影響を及ぼしたデューイの「問題解決学習」を学ぶ。	住野
第6回	教育の方法(6)　今求められている教育方法 今、求められている教育方法を「学習指導要領」等から学ぶ。	住野
第7回	情報機器及び教材の活用(1)　プログラム学習からICT活用授業へ 1960年代後半に登場した、コンピュータを活用した教育方法の出発点となった「プログラム学習」から今日のICT活用授業活用授業までの変遷を学ぶ。	住野
第8回	情報機器及び教材の活用(2)　ICT活用授業と個別最適な学び・協働的な学び 中央教育審議会が提起した「個別最適な学び」「協働的な学び1」の実現に対してICTの活用が有効であることを学ぶ。	住野
第9回	教育の技術（1）　相互主体的な授業のための技術（1） 今求められる相互主体的な授業を実践するためのポイントを理解する。	住野
第10回	教育の技術（2）　相互主体的な授業のための技術（2） 今求められる相互主体的な授業を実践するための教育内容の設定の仕方について理解する。	住野
第11回	教育の技術（3）　相互主体的な授業のための技術（3） 今求められる相互主体的な授業を実践するための教材開発の仕方について理解する。	住野
第12回	教育の技術（4）　相互主体的な授業のための技術（4） 今求められる相互主体的な授業を実践するための教授行為の工夫の仕方について理解する。	住野
第13回	教育の技術(5)　指導プランの作成(1) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。	住野
第14回	教育の技術(6)　指導プランの作成(2) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。	住野
第15回	教育の技術(7)　指導プランの作成(3) これまで学習してきたことを踏まえて作成した指導プランを発表する。	住野
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	30	本科目で学習したことを理解し，論理的に叙述すること
小テスト	40	各回の授業に提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。
定期試験		
指導プラン	30	授業で作成する指導プランの面白さ、緻密さ、妥当性

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業の最後に小テストを行うので，授業内容をしっかりと理解しようとし，不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配付している資料をあらかじめ読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業の中でプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，授業の中で紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を説明できる。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展も視野に入れて今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展は理解していないが、今日求められる教育方法は理解している。	歴史的な教育方法の発展も今日求められる教育方法も理解していない。
知識・理解	２．教育の目的に適した指導技術を理解する。	教育の目的に適した指導技術を深く理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解している。	教育の目的に適した指導技術の基本を理解している。	教育の目的に適した指導技術をだいたい理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解していない。
技能	１．情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を十分身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力をだいたい身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を少し身につけている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につけようとしている。	情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につけようとしていない。

科目名	保育者論			授業番号	CP204	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	保育者は日々の保育実践に関し，主体的且つ同僚と対話的に深い学びをしつつ自らの資質向上に努めなければならない。このことを踏まえ，保育者の基本的な資質と役割について学び，自らの専門性を向上させる意欲の涵養を目指す学習をする。特に保育の本質，保育者になる構えといった学び続ける保育者としての事項を学習する。								
到達目標	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領は学習指導要領に記されている学習内容に比べ抽象的且つ曖昧である。すなわち，保育者は，この法令を踏まえ教育・保育課程の作成と日々の保育を工夫し，自らよりよい実践のために学び続ける意欲と資質向上を目指す意思の基礎を培うことを目的とする。 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえ，日々の保育を子どものために工夫することのできる実践を探る力と，それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させることができる。なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解説能力>に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育者になるということは 事例を基にグループワークを行い，考えを深め理解すること。	
第2回	保育の本質 「保育の本質とは何か」，保育者の子ども観・保育観」について理解する。	
第3回	保育者の子ども観（対象：0歳～3歳未満） 「保育所における子どもとの関わり」，「幼保連携型認定こども園における子どもと保育者」について理解する。	
第4回	保育者の子ども観（対象：3歳以上～就学前） 「幼稚園における子どもとの関わり」について理解する。	
第5回	豊かな環境をつくる保育者 「環境と保育」，「子どもの生活を支える環境」，「豊かな環境をつくるために」について理解する。	
第6回	保育の展開と評価 「全体的な計画に基づく保育の展開」，「保育記録と自己評価」，「保育カンファレンス」について理解する。	
第7回	保育の展開と評価 「教育課程の役割と編成」等について理解する。	
第8回	保育者の協働 「求められる保護者支援」「保護者との協働の実際」，「専門職間の連携・協働」について理解する。	
第9回	小学校と連携する保育者 「幼稚園・保育所等から小学校への段差とは」，「子どもの交流活動」について理解する。	
第10回	小学校との連携 「連携の様々な形」，「見守る大人たちのつながり」について理解する。	
第11回	専門職，他の機関との連携 「他の機関・専門職との連携」について理解する。	
第12回	保育者のキャリア形成と生涯発達 「幼稚園における保育者」，「保育所における保育者」，「幼保連携型認定こども園における保育者」，「児童福祉施設における保育者」について理解する。	
第13回	法令で定められた保育者の責務 法令で定められた，免許状・資格・職責等，保育者のあり方に関することについて理解すること。	
第14回	歴史から学ぶ保育者の在り方 「保育者の誕生から平成における保育制度や保育者像等」について理解すること。	
第15回	子育て環境と保育者の役割 「少子化と保育」，「地域の子育て家庭と保育」及び「家庭・地域との連携，支援」について理解すること。	
授業計画　備考2	事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れて，学生自身の保育観の自覚を促していく方法をとる。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	授業で提示される課題について，授業内容に関連させ自分の考えを具体的に述べているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	本科目の総合的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	提出物（レポートを含む）30%，授業への取組20%，試験50%
受講の心得	講義の前に本日のテーマを学習しておくこと。 保育者としての自分の在り方を探求するために，自分の考えを発表し他の意見を吸収するなど積極的な受講態度を望む。
授業外学修	・テキスト以外の各テーマに関連した情報を収集すること。 ・授業時には自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり，討議したりする。 ・できるだけ幼児と触れ合う経験を積み重ね，社会における保育の課題や保育者の資質について自主的に調べること。 以上の内容を週あたり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
シードブック改訂『保育者論』	榎田二三子・大沼良子・増田時枝	建帛社	978-4-7679-3295	2000円＋税
使用テキスト：自由記載	シードブック改訂『保育者論』榎田二三子・大沼良子・増田時枝 編著，建帛社			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説，「新しい保育講座２　保育者論」他適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、教育・保育過程の作成と日々の保育を工夫し、自らよりよい実践のために学び続ける意欲と資質向上をめざす意思の基礎を培う。	自己課題について他者の意見も受け入れ、協働からの学びを積極的に活かし、自己の人間性と専門性の向上を図っている。	自分の課題を認識し、その課題改善に向けて努力すべきことを的確に実践できる。	授業で得た保育に関する知識と現代における保育の問題に関連づけて考察し、自分の考えが言える。	実習での自分の課題を大学の授業でにつなげ、疑問点について考察ができる。	保育に関する情報や問題に関して基本的菜知識を得る努力をし、疑問点につて考察できるように努力している。
思考・問題解決能力	１．保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、日々の保育を子どものために工夫することのできる実践を探る力と、それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させる。	保育の場で生じる様々な問題を的確に解決するための計画を立案できる。	保育に関する問題について基本知識をもち、課題解決を図るための情報を取り入れ、自らスキルアップのための意欲がある。	保育について探求心をもち、問題解決に向けて、理解を深めている。	保育について問題解決に向けて、自分なりに理解をしようと取り組んでいる。	保育に対する情報や問題に関して基本的な知識を得たり、疑問点について考察できるよう努力している。
態度	１．事前学修・意見発表・グループ討議などを取り入れ、意欲的な学修態度を評価する。	保育者としての自分のあり方を探求するために、自分の考えを発表し他者の意見を吸収したり社会における保育の課題や資質について学んだりするなど、意欲的に参加する。	保育者としての自分のあり方を探求するために、自分の考えを発表し他者の意見を吸収するなど、積極的に参加する。	授業時には、自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり課題に取り組んだりする。	授業時には、自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したりする。	授業時には、自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したりすることが消極的である。

科目名	教育心理学			授業番号	CP205	サブタイトル			
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。 この授業では，子どもの学びと適応の支援という視点から，教育に関する心理学的知見を広く扱う。								
到達目標	実際に教育現場に立つ際，児童・生徒の理解を助けるために必要となる，心理学的な視点の基礎を，講義を通じて身につけることを目指す。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育心理学とは 教育心理学とはどのような学問で，教職のための何について学ぶのかを理解する。	
第2回	心身の発達① 乳幼児期の発達 乳幼児期の心身の発達の姿と，発達を支援する教師や保育者のかかわりについて理解する。	
第3回	心身の発達② 児童期・青年期の発達 児童期・青年期の発達の特徴やその個人差，またその背景にあるものを理解し，教師としてかかわることの意味を考える。	
第4回	学びのメカニズム① 学習と知識獲得 心理学で言う「学習」の意味を理解したうえで，どのようなときに学習が生じるのかを考える。	
第5回	学びのメカニズム② 認知情報処理と記憶 人間の心の働きを情報処理になぞらえて捉える認知心理学の視点から，学校における学びを考える。	
第6回	学びのメカニズム③ 動機づけと学習 学びにおいて重要な役割を果たす動機付けの理論や機能，また動機づけの高め方について考える。	
第7回	認知発達と学習支援 知識獲得のプロセスを踏まえ，子どもの学びと効果的な学習指導や授業づくりを考える。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	学級集団と学習支援 学級をはじめとする子どもたちの集団の特徴や人間関係がどのように学習効果に影響するかを理解する。	
第10回	個性や個人差と学習支援 性格や認知特性に関する理論を踏まえて子どもの個性や個人差の捉え方を理解し，学びとの関係を考える。	
第11回	教育評価 教育評価の理論と方法について，また子どもの学力や知能について，考え方や測定方法を理解する。	
第12回	特別な支援と教育心理学① 障害の基本的理解 発達障害の特性のある子どもに対する適切な理解と，それに基づいた配慮のあり方について理解する。	
第13回	特別な支援と教育心理学② 障害児への教育的支援 発達障害の特性のある子どもの苦手なものごとの把握と，適切な手立ての実際について理解する。	
第14回	学校教育を取り巻く諸問題 個々の子どもに起きる学びや適応などについて，第13回までとは異なる視点から取り上げ，紹介する。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前にテキストを読み，4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！教職エクササイズ2　教育心理学	田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	978-4-623-08177-6	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	教育・保育課程総論			授業番号	CP206	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、岡﨑　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	第１～７回においては，幼児期の子どもの発達段階に沿った保育・教育課程の在り方について，基本的理念や具体的展開にふれながら講義する。 第８～15回においては，小学校期における学習指導とカリキュラムについて，歴史的展開をたどりながら教育的意義について講義する。								
到達目標	・幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。<知識・理解> ・児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質を説明することができる。<知識・理解> なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育・保育について 「保育の基本原理」,「養護および教育を一体的に行うこと」について理解する。	(岡﨑)
第2回	教育課程とは 「教育課程の役割」,「教育課程編成のときに押さえるべき基本」,「教育課程編成で留意しておきたいこと」について理解する。	(岡﨑)
第3回	保育におけるカリキュラム 「教育課程の役割」,「教育課程編成のときに押さえるべき基本」,「教育課程編成で留意しておきたいこと」について理解する。	(岡﨑)
第4回	保育における記録 「教育課程の役割」,「教育課程編成のときに押さえるべき基本」,「教育課程編成で留意しておきたいこと」について理解する。	(岡﨑)
第5回	保育における省察 「保育の省察」,「保育評価の意義」,「保育の評価と反省」について理解する。	(岡﨑)
第6回	保育カンファレンス 「保育カンファレンス」,「保育のファシリテーション」,「働きやすい職場にするために」について理解する。	(岡﨑)
第7回	保育におけるカリキュラム・マネジメント 「園が何を目指すか」,「カリキュラムマネジメントのPDCAサイクル」について理解する。	(岡﨑)
第8回	学習指導とカリキュラム(1) 伝達観と助成観 学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱について，学習指導の様式である伝達観と助成観の観点から分析し，理解する。	(佐々木)
第9回	学習指導とカリキュラム(2) 形式陶冶と実質陶冶 学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱について，学習指導の様式である形式陶冶と実質陶冶の観点から分析し，理解する。	(佐々木)
第10回	学習指導とカリキュラム(3) 経験主義と系統主義 学習指導要領に示された三つの資質・能力の柱について，学習指導の様式である経験主義と系統主義の観点から分析し，理解する。	(佐々木)
第11回	教育課程の変遷（1） 戦後の学習指導要領の変遷について，当時の学校教育の状況や歴史事象と対応させながらその特質を理解する。	(佐々木)
第12回	教育課程の変遷（1） 平成以降の学習指導要領の変遷について，当時の学校教育の状況や歴史事象と対応させながらその特質を理解する。	(佐々木)
第13回	カリキュラムを支える学習指導法 戦後の学習指導要領の特質に応じた学習指導法の変遷について，「主体的・対話的で深い学び」との対応させながらその特質を理解する。	(佐々木)
第14回	学習評価からカリキュラム評価へ 学校の特色に応じたカリキュラムの評価方法（パフォーマンス評価，ポートフォリオ評価等）について習得する。	(佐々木)
第15回	小学校におけるカリキュラム・マネジメント 特色あるカリキュラム作りのための地域との連携の仕方について理解する。	(佐々木)
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	10	各回の終盤で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し,解説する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	第１～７回においては，毎回復習として授業時に提示したレポートに取り組み，次の授業時に提出すること。レポートについては，コメントを記入して返却する。 第８～15回においては，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　総則編	文部科学省			
幼稚園教育要領解説	文部科学省			
保育所保育指針	厚生労働省			
使用テキスト：自由記載	「小学校学習指導要領解説　総則編」文部科学省 「保育所指導指針・解説」厚生労働省 「幼稚園教育要領・解説」文部科学省			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	毎回，授業ノートを回収するので，ルーズリーフのノートを用意すること。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭（15年），県教育ｾﾝﾀｰ（９年）（佐々木弘記）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)等での経験を生かして，教育・保育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して広範かつ詳細に理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して広範に理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して基礎的な内容を十分に理解している。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して基礎的な内容を十分に理解していない。	幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して基礎的な内容を理解していない。
知識・理解	２．児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質を説明することができる	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質を広範かつ詳細に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質を広範に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できていない。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質の基礎的な内容を説明できていない。

科目名	保育内容総論 1クラス			授業番号	CP207A	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け，５領域のねらい及び内容を理解するとともに，保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また，指導計画について理解し，園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し，幼児の姿と関連付けて考えることができる。								
到達目標	1．子どもの発達と保育の目標とを関連付けたうえで，保育内容を理解するとともに，保育の全体的な構造を理解する。 2．保育内容の歴史的変遷について学び，保育内容について理解する。 3．保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムとの接続について，具体的な保育実践と関連付けて理解する。 4．保育の多彩な展開について具体的に学ぶ。 なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決＞の習得に貢献する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに，保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的内容についてワークシート等の利用により，グループ討議を実施する。								

回	概要	担当
第1回	保育の基本及び保育内容（5領域）の理解 「保育の基本」,「保育の目的・目標及び内容」について理解する。	
第2回	保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連 「養護に関わる保育の内容」,「教育に関わる保育の内容」を理解する。	
第3回	保育内容の歴史的変遷 「戦前の保育の内容」,「戦後の保育の内容」及び「現行の保育の内容」について理解する。	
第4回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－乳幼児保育，満1歳以上3歳未満児－ 各年齢に応じた「子どもの発達の特性」,「発達過程に応じた保育」について理解する。	
第5回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－3歳以上児，異年齢－ 各年齢に応じた「子どもの発達の特性」,「発達過程に応じた保育」について理解する。	
第6回	個と集団の発達と保育内容（5領域） 「個の発達と保育内容」,「集団の発達と保育内容」及び「個と集団の発達を踏まえた保育内容」について理解する。	
第7回	保育における観察と記録 「観察の観点と方法」,「記録の観点と方法」について理解する。	
第8回	養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 「養護と教育」,「3歳未満児における養護と教育が一体的に展開する保育」,「３歳以上児における養護と教育が一体的に展開する保育」について理解する。	
第9回	環境を通して行う保育の在り方 「子どもにとっての身近な環境環境を通した保育の大切さ」,「保育の内容としての環境，環境の種類」及び「計画的な環境構成」について理解する。	
第10回	生活や遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連） 「子どもにとっての本来の遊びと遊び的活動」,「ねらいが総合的に達成されること」について理解する。	
第11回	遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 「生活の連続性」,「発達と学びの連続性」及び「体験の多様性・関連性」について理解する。	
第12回	家庭，地域との連携をふまえた保育－長時間保育含む－ 「保護者との連携」,「保育所・幼稚園・認定こども園と地域とその社会資源との連携」及び「長時間保育における職員間の連携」について理解する。	
第13回	小学校との連携をふまえた保育の在り方 「乳幼児期の保育・教育と児童期以降の教育の違い」,「小学校等との相互理解」について理解する。	
第14回	特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 「特別な配慮を要する子どもの保育の基本」,「家庭との連携」及び「専門機関との連携」について理解する。	
第15回	多文化共生の保育 「国籍や文化の違い」,「性差や個人差」,「共生の保育」について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	事前学習，テキストの理解，意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。
レポート	30	自主的にワークシートを提出したかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	期末試験・レポート（80%），受講態度（20%）により総合的に評価する。
受講の心得	発表やグループ討議など，主体的に参加すること。そのための予習，復習を欠かさないこと。
授業外学修	事前学習をして授業に臨む。 授業後は必ず振り返りシートを記入する。 以上の内容を週あたり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改定新版マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論	開 仁志 編著	保育出版社	987-4-909378-60-6	2270円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもの発達と保育内容の目標を関連づけたうえで、保育内容を理解するとともに保育の全体的な構造を理解する。	保育内容論について、子どもの生活・遊びの中で総合的にとらえる視点をもつことができる。	多様な領域からの見解を深く理解できる。	多様な領域からの見解を一定程度理解できる。	多様な領域からの見解をあまり理解できていない。	多様な領域からの見解を理解できていない。
知識・理解	２．保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解する。	現代社会の諸問題について積極的に取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定的程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定的程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について積極的に取り組めない。	現代社会の諸問題についてまったく取り組めていない。
思考・問題解決能力	１．保育の基本を踏まえた保育内容の展開と５歳児後半から小学校のカリキュラムの接続について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。	保育者の役割と指導など、保育者の専門性を理解する。	適切で明確な問題を設定して積極的に取り組んでいる。	適切で明確な問題を設定して取り組んでいる。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	ある程度、明確で適切な問題を設定しているが、適切な問題であるといえない。
態度	１．事前学習、テキストの理解、意見交換できる。	予習復習をして授業に臨み、発表やグループ討議など、主体的に参加する。	事前学習、テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	発表やグループ討議など、自分の意見を述べる。	発表やグループ討議などには、参加するが消極的である。

科目名	保育内容総論 2クラス			授業番号	CP207B	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け，５領域のねらい及び内容を理解するとともに，保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また，指導計画について理解し，園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し，幼児の姿と関連付けて考えることができる。								
到達目標	1．子どもの発達と保育の目標とを関連付けたうえで，保育内容を理解するとともに，保育の全体的な構造を理解する。 2．保育内容の歴史的変遷について学び，保育内容について理解する。 3．保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムとの接続について，具体的な保育実践と関連付けて理解する。 4．保育の多彩な展開について具体的に学ぶ。 なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決＞の習得に貢献する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに，保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的内容についてワークシート等の利用により，グループ討議を実施する。								

回	概要	担当
第1回	保育の基本及び保育内容（5領域）の理解 「保育の基本」,「保育の目的・目標及び内容」について理解する。	
第2回	保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連 「養護に関わる保育の内容」,「教育に関わる保育の内容」を理解する。	
第3回	保育内容の歴史的変遷 「戦前の保育の内容」,「戦後の保育の内容」及び「現行の保育の内容」について理解する。	
第4回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－乳幼児保育，満1歳以上3歳未満児－ 各年齢に応じた「子どもの発達の特性」,「発達過程に応じた保育」について理解する。	
第5回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－3歳以上児，異年齢－ 各年齢に応じた「子どもの発達の特性」,「発達過程に応じた保育」について理解する。	
第6回	個と集団の発達と保育内容（5領域） 「個の発達と保育内容」,「集団の発達と保育内容」及び「個と集団の発達を踏まえた保育内容」について理解する。	
第7回	保育における観察と記録 「観察の観点と方法」,「記録の観点と方法」について理解する。	
第8回	養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 「養護と教育」,「3歳未満児における養護と教育が一体的に展開する保育」,「３歳以上児における養護と教育が一体的に展開する保育」について理解する。	
第9回	環境を通して行う保育の在り方 「子どもにとっての身近な環境環境を通した保育の大切さ」,「保育の内容としての環境，環境の種類」及び「計画的な環境構成」について理解する。	
第10回	生活や遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連） 「子どもにとっての本来の遊びと遊び的活動」,「ねらいが総合的に達成されること」について理解する。	
第11回	遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 「生活の連続性」,「発達と学びの連続性」及び「体験の多様性・関連性」について理解する。	
第12回	家庭，地域との連携をふまえた保育－長時間保育含む－ 「保護者との連携」,「保育所・幼稚園・認定こども園と地域とその社会資源との連携」及び「長時間保育における職員間の連携」について理解する。	
第13回	小学校との連携をふまえた保育の在り方 「乳幼児期の保育・教育と児童期以降の教育の違い」,「小学校等との相互理解」について理解する。	
第14回	特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 「特別な配慮を要する子どもの保育の基本」,「家庭との連携」及び「専門機関との連携」について理解する。	
第15回	多文化共生の保育 「国籍や文化の違い」,「性差や個人差」,「共生の保育」について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	事前学習，テキストの理解，意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。
レポート	30	自主的にワークシートを提出したかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	期末試験・レポート（80%），受講態度（20%）により総合的に評価する。
受講の心得	発表やグループ討議など，主体的に参加すること。そのための予習，復習を欠かさないこと。
授業外学修	事前学習をして授業に臨む。 授業後は必ず振り返りシートを記入する。 以上の内容を週あたり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改定新版マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論	開 仁志 編著	保育出版社	987-4-909378-60-6	2270円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもの発達と保育内容の目標を関連づけたうえで、保育内容を理解するとともに保育の全体的な構造を理解する。	保育内容論について、子どもの生活・遊びの中で総合的にとらえる視点をもつことができる。	多様な領域からの見解を深く理解できる。	多様な領域からの見解を一定程度理解できる。	多様な領域からの見解をあまり理解できていない。	多様な領域からの見解を理解できていない。
知識・理解	２．保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解する。	現代社会の諸問題について積極的に取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定的程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について一定的程度取り組んでいる。	現代社会の諸問題について積極的に取り組めない。	現代社会の諸問題についてまったく取り組めていない。
思考・問題解決能力	１．保育の基本を踏まえた保育内容の展開と５歳児後半から小学校のカリキュラムの接続について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。	保育者の役割と指導など、保育者の専門性を理解する。	適切で明確な問題を設定して積極的に取り組んでいる。	適切で明確な問題を設定して取り組んでいる。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	ある程度、明確で適切な問題を設定しているが、適切な問題であるといえない。
態度	１．事前学習、テキストの理解、意見交換できる。	予習復習をして授業に臨み、発表やグループ討議など、主体的に参加する。	事前学習、テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	テキストの理解、意見交換など、積極的に取り組む。	発表やグループ討議など、自分の意見を述べる。	発表やグループ討議などには、参加するが消極的である。

科目名	特別支援教育			授業番号	CP208	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で，特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に，特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解，教育課程，支援の方法を学ぶ中で，学校と関係機関との連携のあり方について講義する。								
到達目標	保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では，幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。	
第2回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。	
第3回	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法，発達障害者総合支援法，障害者の権利に関する条約の内容を理解する。	
第4回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活 授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。	
第5回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。	
第6回	発達障害をはじめとする障害のある子どもへの合理的配慮 合理的配慮について理解する。	
第7回	「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。	
第8回	「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別指導計画」と「個別教育支援計画」を実際に記載し，その意義と方法を理解する。	
第9回	学校と家庭との連携のあり方 個別の教育支援計画を作り，暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。	
第10回	学校と地域の関係機関との連携のあり方 学校をとりまく社会資源についての情報を収集し，連携の方法を理解する。	
第11回	多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。	
第12回	多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。	
第13回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 子どもの貧困対策について理解する。	
第14回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒への教育保障 学習環境を整えるための支援について理解する。	
第15回	多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要が理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、発表への参加、予・復習の状況によって評価する
授業ごとに示す課題	90	毎回の授業で示す課題に対して具体的に述べていること。 課題についてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにテキストを読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙間のない支援と配慮	立花直樹他編	ミネルヴァ書房	978-4-623-09570-4	定価 2800＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無			
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方が理解できる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方の理解が十分でない	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方が理解できない
思考・問題解決能力	１．幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の基礎を考えることができる	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることが十分でない	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができない

科目名	教職概論			授業番号	CP209	サブタイトル			
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教職概論は，子どもの生活と学校、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について、使用するテキスト及び関係する資料をもとに理解する。教職を目指す学生が、職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を身に付け、教職に対する意欲を喚起し、専門職としての基礎を身に付ける。								
到達目標	子どもの生活と学校、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等の視点から、教職に対する理解を深めるとともに、教師としての使命や責任を知り、教職に対する自らの意欲や適性を見つめ直すことを到達目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	本科目を学ぶ目的 「教師に対する保護者の意識を取り上げた配布資料を読み、教師の道を志すための構えを持つ。」	
第2回	最近の子どもの生活 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、最近の子どもの生活の現状や問題点、課題解決の取り組みについて考えをもつ。」	
第3回	学校の中での子ども（１） 「使用テストの中の関係する頁や配布資料を読み、いじめの現状と問題点、防止の取り組みについて考えをもつ。」	
第4回	学校の中での子ども（２） 「いじめの出現と学級集団のあり方に関係する資料を読み、いじめの出現傾向と防止の方法について考えをもつ。」	
第5回	学習指導の役割と方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、学習指導とレディネス、家庭の文化資本等との関係について考えをもつ。」	
第6回	学習指導と指導過程 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、目標設定や学習過程に働く様々な内発的動機付けについて考えをもつ。」	
第7回	学習指導と学習形態 「使用するテキストの中の関係する頁や配布資料を読み、一斉学習や小集団学習等の活用の仕方について考えをもつ。」	
第8回	生徒指導の意義や目的、機能 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、生徒指導の教育的意義や様々な教育活動における機能等について考えをもつ。」	
第9回	生徒指導の方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、児童生徒理解の重要さ、集団指導・個別指導を有効に機能させる３つのモデルについて考えをもつ。」	
第10回	キャリア教育の目的と内容 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、キャリア教育の目的や今までに経験した具体的な取り組みについて考えをもつ。」	
第11回	教育相談の目的と方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、教育相談の意義や目的、実際に教育相談を行うときの配慮について考えをもつ。」	
第12回	学級経営の内容と方法 「使用テキストの中の関係する頁と配布資料を読み、学級経営の概念や学級経営のあり方について考えをもつ。」	
第13回	学級経営と特別活動 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、小学校特別活動の目的や内容を理解するとともに、よりよい学級づくりについて考えをもつ。」	
第14回	教師に求められる資質・能力 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、子どもと向き合う教師の姿や教師に求められる資質・能力について考えをもつ。」	
第15回	学び続ける教師 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、教育の本質を求め続ける教師の生き方について考えをもつ。」	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度や予習に対する取り組みを評価する
レポート	30	授業毎の学習内容の理解を評価する。提出されたレポートはコメントを付けて返却し、学びの深まりを理解できるようにする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストを読んだり，グループで話し合ったりすることを通して，教職や教師のあり方等について考えを深めること。
授業外学修	1．予習として，使用テキストの授業内容にかかわる部分を読み，課題をレポートにまとめる。 2．教育に関するニュースに関心をもち，自分の考えや感想を話すことができるようにする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版（改訂二版）教職入門教師への道	藤本典裕	図書文化	978-4-8100-9720-7	1980円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について、教師の立場に立って深く理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師の求められる資質・能力等について、深く理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力についての理解がやや不十分である。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力の理解が不十分である。
態度	1．教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する自らの志や適性を見つめ直そうとしている。	・教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性等を見つめ直し、自らの進路を総合的に熟考し判断しようとしている。	・教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性等を見つめ直し、自らの進路を総合的に判断しようとしている。	・教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性を見つめ直し、自らの進路を判断しようとしている。	・教職に対する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性を見つめ直すことがやや不十分であり、進路の判断に迷いがある。	・教職に対する基礎的な知識・理解が不十分であり、教職に対する自らの志や適正を見つめ直すことが難しい。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法			授業番号	CP210	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義，目標，内容，学習過程，指導計画，家庭・地域等との連携，評価について演習を通して講義する。								
到達目標	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義，目標，内容，学習過程，指導計画，家庭・地域等との連携，評価について理解することができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育課程としての特別活動の領域 教育課程における特別活動の内容である学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事の位置づけについて理解する。	
第2回	特別活動の目標と内容 学習指導要領に示された３つの資質・能力の柱と特別活動の目標と内容の関連について理解する。	
第3回	特別活動の特質と教育的意義 特別活動を構成する学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事それぞれの特質と教育上の意義について理解する。	
第4回	特別活動と各教科等との関連 各教科や総合的な学習の時間と特別活動で育成する資質・能力の特徴について理解する。	
第5回	学級活動の目標と内容 学習指導要領に示された学級活動の目標や内容の特質を理解し，指導する方法を習得する。	
第6回	学級活動の指導計画と指導過程 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから示された様式に沿って学習指導案を作成する方法を習得する。	
第7回	学級活動の模擬授業 作成した学習指導案に基づいて教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して実践的指導力を身に付ける。また，自己評価及び相互評価を通して実践を振り返る。	
第8回	児童会活動，クラブ活動，学校行事の目標と内容，家庭・地域等との連携 学習指導要領の児童会活動，クラブ活動，学校行事の目標と内容に示された活動の特質について理解する。	
第9回	特別活動における評価 特別活動において設定した目標に応じた評価方法（パフォーマンス評価やポートフォリオ評価等）について理解する。	
第10回	総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割 総合的な学習の時間の歴史的変遷と教育的意義について理解する。	
第11回	総合的な学習の時間の目標と内容 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標と内容の特徴について理解する。	
第12回	総合的な学習の時間と各教科等との関連 各教科や特別活動と総合的な学習の時間の関連について理解する。	
第13回	総合的な学習の時間の学習過程 総合的な学習の時間の探究の過程に応じた学習指導法を習得する。	
第14回	総合的な学習の時間の単元計画と年間指導計画 各学校の特質に応じた総合的な学習の時間の目標の設定方法ついて取得すると共に，単元計画や年間指導計画の立て方について理解する。	
第15回	総合的な学習の時間における評価 各学校において設定した総合的な学習の時間の活動の特質に応じた評価の方法を習得する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	10	学習指導案作成の適切さを評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し解説する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2　学修したことや自分の考えなどをまとめ，振り返りシートを書くこと。 3　発表や討議に積極的に取り組むこと。 4　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，テキストやノート，資料を読む。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説特別活動編	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03469-0	141円＋税
小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03468-3	126円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03468-3	126円＋税

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭（15年），県教育ｾﾝﾀｰ（９年）（佐々木弘記）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解できる。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容につい広範に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分に理解していない。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を理解していない。
思考・問題解決能力	１．小学校の教師として，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。	小学校の教師として，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校の教師として，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を広範に身に付けている。	小学校の教師として，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動や学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分身に付けている。	小学校の教師として，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動や学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分身に付けていない。	小学校の教師として，総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動や学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を身に付けていない。

科目名	生徒指導・進路指導の理論と方法			授業番号	CP211	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを『生徒指導提要』等を用いて学習するとともに，他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を組織的に進めていくために必要な知識・技能を具体的な実践事例を通して学習する。								
到達目標	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを理解するとともに，他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を，組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	生徒指導の意義と課題 「生徒指導」とはどのような指導のことかを、自らの体験を踏まえて考える。	
第2回	生徒指導の定義 『生徒指導提要』による生徒指導の定義づけを学ぶ。「進路指導」「キャリア教育」との関係性も学ぶ。	
第3回	生徒指導の実践上の視点 生徒指導実践の４つの視点について学ぶ。	
第4回	生徒指導の構造 『生徒指導提要』が提案する生徒指導の「２軸３類４層構造」を理解する。	
第5回	生徒指導の方法(1) 生徒指導の基本的な方法である「子ども理解」の方法について学ぶ。	
第6回	生徒指導の方法(2) 生徒指導の基本的な方法である「集団指導」「個別指導」について学ぶ。	
第7回	生徒指導の基盤 生徒指導の基盤となる「教職員集団の同僚性」「生徒指導マネジメント」「家庭や地域の参画」を学ぶ。	
第8回	生徒指導と教育課程(1) 生徒指導と教科指導との関係について理解する。	
第9回	生徒指導と教育課程(2) 生徒指導と道徳教育・総合的な学習の時間との関係について理解する。	
第10回	生徒指導と教育課程(3) 生徒指導と特別活動との関係について理解する。	
第11回	チーム学校による生徒指導体制 生徒指導に取り組む体制、関係機関との連携・協働等について学ぶ。	
第12回	個別の課題に対する生徒指導(1)いじめ いじめ問題の現状といじめに関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ、	
第13回	個別の課題に対する生徒指導(2)暴力行為 暴力問題の現状と暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ、	
第14回	個別の課題に対する生徒指導(3)不登校 不登校問題の現状と不登校に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ、	
第15回	生徒指導と進路指導を通じた子どもの「生き方指導」 生徒指導は進路指導と結びつき、進路指導は生徒指導と結びつくことで、子どもの生き方い影響を及ぼす効果的なものになることを学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	50	生徒指導を正しく理解し、生徒指導の内容・方法について適切に論述する。
確認テスト	50	毎回の授業の最後に，授業内容に関する小テストを行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1）事前・事後にテキストや参考資料を読むこと。 2）発表や討論に積極的に取り組むこと。 3）配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生徒指導提要－令和4年12月－	文部科学省	東洋館出版社	9784491051758	990円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．生徒指導・進路指導の意義を理解する。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等を説明できる。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等を理解している。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等をだいたい理解している。	生徒指導・進路指導の意義や目的は理解している。	生徒指導・進路指導の意義や目的を理解していない。
知識・理解	２．生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを理解する。	生徒指導・進路指導の教育課程の全領域における位置づけを説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程の全領域における位置づけをだいたい説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを部分的に説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを部分的に理解している。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを理解していない。
知識・理解	３．他の教職員や関係機関と連携することの重要性を理解する。	他の教職員や関係機関とどのように連携すべきかについて説明できる。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を説明できる。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を理解している。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を十分理解していない。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を全く理解していない。
技能	１．集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を身につける。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を状況に応じて実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の基本技能について実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導のいくつかの技能を実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を理解している。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を理解していない。
技能	２．生徒指導を組織的に進めていく技能を身につける。	組織的な生徒指導に求められる技能を実践できる。	組織的な生徒指導に求められる技能のいくつかを実践できる。	組織的な生徒指導に求められる技能を理解している。	組織的な生徒指導に求められる技能のいくつかを理解している。	組織的な生徒指導に求められる技能を理解していない。

科目名	子どもと健康 1クラス			授業番号	CP212A	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき，領域「健康」の意図する目標，ねらい及び内容についての理解を深め，保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また，遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や，家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて，幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし，保育者としてどのような健康観をもち，子どもたちに接するべきか常に考え，実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 1．乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。 2．子どもの健康と生活の関連性を理解できる。 3．子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し，発表できる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「健康」とは何か 保育内容「健康」の授業概要，健康の定義について理解する。	
第2回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(1)乳幼児期の発達と心の安定 乳幼児期の身体発達の基礎，発育・発達を促進させる環境，情緒・パーソナリティの発達について理解する。	
第3回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(2)生活リズム 基本的生活習慣の概念，形成について理解する。	
第4回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(3) 安全と食を営む力 幼児のけがや事故の現状把握と安全教育・安全管理について理解する。	
第5回	領域「健康」の指導計画の立案 幼児の発達に合わせた指導計画の作成について理解する。	
第6回	領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について 具体例についてグループで検討し理解を深める。	
第7回	領域「健康」における保育者の役割について 場面に応じた関わり方の検討をグループで行い理解を深める。	
第8回	領域「健康」と保育の実際(1)子どもが安定感をもつための保育の工夫 実際の場面から子どもが安定感をもつための保育者の関わりを理解する。	
第9回	領域「健康」と保育の実際(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫 実際の場面から戸外遊びの環境構成と保育者の関わりを模擬保育を通して理解する。	
第10回	領域「健康」と保育の実際(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫 実際の場面から基本的生活習慣の自立における保育者の関わりについて理解する。	
第11回	領域「健康」と保育の実際(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心 実際の場面から病気やアレルギー対応について理解する。	
第12回	食育活動による健康指導 食に関わる法規の理解と実践について理解する。	
第13回	特別に支援の必要な子どもの健康指導 特別に支援の必要な子どもの健康指導の原則の理解，実践の具体例を理解する。	
第14回	事故防止と安全管理 園生活における安全管理と事故の防止について理解する。	
第15回	領域「健康」の計画と評価 指導計画の概要と実際，保育の評価について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業への積極的な態度や取組について評価する。
レポート	20	レポートのテーマに応じた内容や構成について評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	領域「健康」に関する知識・理解について評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはぐくむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり，実際に子どもに接する機会を意図的にもち，子ども理解を深めたりしていく。そして，理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。
授業外学修	1.毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。 2.授業後に，講義内容の整理をしておくこと。 3.興味を持てた部分を更に自分自身で調べること。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンパクト版 保育内容シリーズ健康	谷田貝公章・髙橋弥生	株式会社　一藝社	978-４-86359-150-９	2000円＋税

使用テキスト：自由記載	コンパクト版 保育内容シリーズ健康

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『保育所保育指針解説』厚生労働省　発行所　フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　発行所　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府　発行所　フレーベル館
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１． 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。	乳幼児の実態に合わせ、的確に配慮しながら説明できる。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態に合わせて計画を述べる。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態を工夫し関係づける。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態を関係づける。	援助・指導の基本的な知識について理解している。
知識・理解	２． 子どもの健康と生活の関連性を理解できる。	乳幼児の主体性を伸ばし、ねらいを達成しするための効果的な展開ができる。	乳幼児の主体性を伸ばすための臨機応変な展開ができる。	個々の乳幼児の実態に合わせて援助や指導の工夫ができる。	個々の実態に合わせて援助・指導ができる。	理解はしているが、援助や指導に努力している。
思考・問題解決能力	１．子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し、発表できる。	課題の探求、解決というプロセスを達成する能力を身につけている。	課題の探求から解決に向けた能力が身についている。	課題の探求から解決に向けた能力がある程度身についている。	課題の探求から解決に向けた能力が必ずしも身についていない。	課題の探求から解決に向けた能力が全く身についていない。
態度	１．授業への積極的な態度や取組について評価する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、積極的に授業に参加する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、授業に参加する。	授業には参加するが、発表、討論、活動に消極的である。	授業を振り返り理解したことや反省点など、表現が乏しい。	受講態度や欠席、未提出があり、授業への意欲が見られない。

科目名	子どもと健康 2クラス			授業番号	CP212B	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき，領域「健康」の意図する目標，ねらい及び内容についての理解を深め，保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また，遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や，家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて，幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし，保育者としてどのような健康観をもち，子どもたちに接するべきか常に考え，実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。 1．乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。 2．子どもの健康と生活の関連性を理解できる。 3．子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し，発表できる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「健康」とは何か 保育内容「健康」の授業概要，健康の定義について理解する。	
第2回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(1)乳幼児期の発達と心の安定 乳幼児期の身体発達の基礎，発育・発達を促進させる環境，情緒・パーソナリティの発達について理解する。	
第3回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(2)生活リズム 基本的生活習慣の概念，形成について理解する。	
第4回	子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(3) 安全と食を営む力 幼児のけがや事故の現状把握と安全教育・安全管理について理解する。	
第5回	領域「健康」の指導計画の立案 幼児の発達に合わせた指導計画の作成について理解する。	
第6回	領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について 具体例についてグループで検討し理解を深める。	
第7回	領域「健康」における保育者の役割について 場面に応じた関わり方の検討をグループで行い理解を深める。	
第8回	領域「健康」と保育の実際(1)子どもが安定感をもつための保育の工夫 実際の場面から子どもが安定感をもつための保育者の関わりを理解する。	
第9回	領域「健康」と保育の実際(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫 実際の場面から戸外遊びの環境構成と保育者の関わりを模擬保育を通して理解する。	
第10回	領域「健康」と保育の実際(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫 実際の場面から基本的生活習慣の自立における保育者の関わりについて理解する。	
第11回	領域「健康」と保育の実際(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心 実際の場面から病気やアレルギー対応について理解する。	
第12回	食育活動による健康指導 食に関わる法規の理解と実践について理解する。	
第13回	特別に支援の必要な子どもの健康指導 特別に支援の必要な子どもの健康指導の原則の理解，実践の具体例を理解する。	
第14回	事故防止と安全管理 園生活における安全管理と事故の防止について理解する。	
第15回	領域「健康」の計画と評価 指導計画の概要と実際，保育の評価について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業への積極的な態度や取組について評価する。
レポート	20	レポートのテーマに応じた内容や構成について評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	領域「健康」に関する知識・理解について評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはぐくむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり，実際に子どもに接する機会を意図的にもち，子ども理解を深めたりしていく。そして，理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。
授業外学修	1.毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。 2.授業後に，講義内容の整理をしておくこと。 3.興味を持てた部分を更に自分自身で調べること。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンパクト版 保育内容シリーズ健康	谷田貝公章・髙橋弥生	株式会社　一藝社	978-４-86359-150-９	2000円＋税

使用テキスト：自由記載	コンパクト版 保育内容シリーズ健康

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『保育所保育指針解説』厚生労働省　発行所　フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　発行所　フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府　発行所　フレーベル館
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１． 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。	乳幼児の実態に合わせ、的確に配慮しながら説明できる。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態に合わせて計画を述べる。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態を工夫し関係づける。	ねらいと内容を理解し、個々の乳幼児の実態を関係づける。	援助・指導の基本的な知識について理解している。
知識・理解	２． 子どもの健康と生活の関連性を理解できる。	乳幼児の主体性を伸ばし、ねらいを達成しするための効果的な展開ができる。	乳幼児の主体性を伸ばすための臨機応変な展開ができる。	個々の乳幼児の実態に合わせて援助や指導の工夫ができる。	個々の実態に合わせて援助・指導ができる。	理解はしているが、援助や指導に努力している。
思考・問題解決能力	１．子どもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し、発表できる。	課題の探求、解決というプロセスを達成する能力を身につけている。	課題の探求から解決に向けた能力が身についている。	課題の探求から解決に向けた能力がある程度身についている。	課題の探求から解決に向けた能力が必ずしも身についていない。	課題の探求から解決に向けた能力が全く身についていない。
態度	１．授業への積極的な態度や取組について評価する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、積極的に授業に参加する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、授業に参加する。	授業には参加するが、発表、討論、活動に消極的である。	授業を振り返り理解したことや反省点など、表現が乏しい。	受講態度や欠席、未提出があり、授業への意欲が見られない。

科目名	子どもと人間関係 1クラス			授業番号	CP214A	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育内容「人間関係」は，人とかかわる力を養う観点から示されている。 この授業では，保育所保育指針等に示された「人間関係」のねらい及び内容について理解し，子どもを取り囲む様々な人間関係を考察するとともに，保育者自身の役割や援助の在り方を実践的に学ぶ。								
到達目標	子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ，「人とかかわる力の基礎」を理解する。 保育者・教育者に求められる幅広い教養と，保育・教育に関する専門的知識を習得していく。 保育者・教育者として，子どものよきモデルとなることができるよう，明るく・前向きで誠実な態度を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する	
第2回	「人間関係」の変遷・・・子どもを取り巻く人的環境の変化	
第3回	子どもの人間関係の発達課題（１）…愛着関係の形成，情緒の形成，自我の発達	
第4回	子どもの人間関係の発達課題（２）…いざこざを通した育ち，いざこざに対する保育者の援助	
第5回	子どもの人間関係の発達課題（３）…道徳性と規範意識の芽生え	
第6回	幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く	
第7回	遊びの発達と人間関係	
第8回	保育者に求められる援助の視点	
第9回	子どもの協同性を育む保育者の援助…「遊んでぼくらは人間になる」を視聴，グループワーク	
第10回	人間関係を結ぶ保育のあり方…遊びでつなぐ友だち作り	
第11回	保育場面での気になる子どもとのかかわり…気になる子の人間関係と保育者の援助	
第12回	子どもの人間関係をめぐる現代的課題	
第13回	子ども理解；子ども理解の視点，グループワーク	
第14回	親の思いと家庭との関わり…保護者との信頼関係，子育て支援の今後の課題	
第15回	定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り，試験のポイント解説，質疑応答	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への取組の積極性，発表，予習・復習の状況などによって評価する。
レポート	30	テーマに沿って具体的に述べられているかを評価する。レポートはコメントをつけて返却する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「しっかりと話を聞く」「自分の考えを話す」「記録の整理」を大切にして保育者としての基礎を体得してほしい。 また，演習ではグループワーク等をおこなう。積極的に取り組み，意見交換等から知見を広げてほしい。
授業外学修	復習を欠かさないこと。授業後は授業内容の整理を行い，ノートにまとめておく。配付したプリントは順番にファイリングすること。 授業では，人とかかわる「遊び」の計画を行う。事前の準備や事後の省察を行い，丁寧に記録すること。 このことについて，１時間以上の授業外学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育内容「人間関係」第2版	濱名浩 編	株式会社みらい	9784860154455	2100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程の理解	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程を十分理解できており，得た知識を様々な場面で生かすことができる。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程を十分理解できている。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程をおおむね理解することができている。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程があることを知り，理解しようと努力している。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程について理解できていない。
知識・理解	２．保育者・教育者に求められる幅広い教養と知識の習熟	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を十分理解できており，得た知識を様々な場面で応用できる。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を十分理解できている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識をおおむね理解することができている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を知り，理解しようと努力している。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識について理解できていない。
思考・問題解決能力	１．事例検討	学んだ基礎的な知識を柔軟に活用しながら，子どもを取り囲む物的環境，人的環境，場の環境を踏まえた援助を検討することができている。	学んだ基礎的な知識を活用しながら，子どもを取り囲む物的環境，人的環境，場の環境を踏まえた援助を検討することができている。	学んだ基礎的な知識を活用しながら，子どもを取り囲む物的環境，人的環境，場の環境を踏まえた援助を自分なりに検討することができている。	子どもを取り囲む物的環境，人的環境，場の環境を踏まえた援助を自分なりに検討することができているが，学んだ知識との関連に気づくことができない。	学んだ知識を活用できておらず，事例においても自分なりの検討ができない。
技能	１．保育の構想	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを十分把握し，それぞれの能力が存分に発揮できる具体的な保育の構想や方法を計画・実践することができている。	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握し，それぞれの能力が存分に発揮できる具体的な保育の構想や方法を計画・実践しようとしている。	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握しようとし，具体的な保育の構想や方法を計画・実践しようとしている。	子どもを把握しようとし，具体的な保育の構想や方法を計画しようとしているが実践面においては不十分である。	具体的な保育構想ができておらず，実践もできていない。
態度	１．授業への参加	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，学んだ知識や他者の意見をよく聴いて論理的な自分の意見を構築することができる。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，学んだ知識や他者の意見をよく聴いて，自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに取り組む過程で，自分なりに意見を構築しようとしている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに対し積極的に参加しておらず，自分の意見を持つことができていない。

科目名	子どもと人間関係 2クラス			授業番号	CP214B	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育内容「人間関係」は，人とかかわる力を養う観点から示されている。 この授業では，保育所保育指針等に示された「人間関係」のねらい及び内容について理解し，子どもを取り囲む様々な人間関係を考察するとともに，保育者自身の役割や援助の在り方を実践的に学ぶ。								
到達目標	子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ，「人とかかわる力の基礎」を理解する。 保育者・教育者に求められる幅広い教養と，保育・教育に関する専門的知識を習得していく。 保育者・教育者として，子どものよきモデルとなることができるよう，明るく・前向きで誠実な態度を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する	
第2回	「人間関係」の変遷・・・子どもを取り巻く人的環境の変化	
第3回	子どもの人間関係の発達課題（１）…愛着関係の形成，情緒の形成，自我の発達	
第4回	子どもの人間関係の発達課題（２）…いざこざを通した育ち，いざこざに対する保育者の援助	
第5回	子どもの人間関係の発達課題（３）…道徳性と規範意識の芽生え	
第6回	幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く	
第7回	遊びの発達と人間関係	
第8回	保育者に求められる援助の視点	
第9回	子どもの協同性を育む保育者の援助…「遊んでぼくらは人間になる」を視聴，グループワーク	
第10回	人間関係を結ぶ保育のあり方…遊びでつなぐ友だち作り	
第11回	保育場面での気になる子どもとのかかわり…気になる子の人間関係と保育者の援助	
第12回	子どもの人間関係をめぐる現代的課題	
第13回	子ども理解；子ども理解の視点，グループワーク	
第14回	親の思いと家庭との関わり…保護者との信頼関係，子育て支援の今後の課題	
第15回	定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り，試験のポイント解説，質疑応答	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への取組の積極性，発表，予習・復習の状況などによって評価する。
レポート	30	テーマに沿って具体的に述べられているかを評価する。レポートはコメントをつけて返却する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「しっかりと話を聞く」「自分の考えを話す」「記録の整理」を大切にして保育者としての基礎を体得してほしい。 また，演習ではグループワーク等をおこなう。積極的に取り組み，意見交換等から知見を広げてほしい。
授業外学修	復習を欠かさないこと。授業後は授業内容の整理を行い，ノートにまとめておく。配付したプリントは順番にファイリングすること。 授業では，人とかかわる「遊び」の計画を行う。事前の準備や事後の省察を行い，丁寧に記録すること。 このことについて，１時間以上の授業外学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育内容「人間関係」第2版	濱名浩 編	株式会社みらい	9784860154455	2100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程の理解	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程を十分理解できており，得た知識を様々な場面で生かすことができる。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程を十分理解できている。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程をおおむね理解することができている。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程があることを知り，理解しようと努力している。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程について理解できていない。
知識・理解	２．保育者・教育者に求められる幅広い教養と知識の習熟	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を十分理解できており，得た知識を様々な場面で応用できる。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を十分理解できている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識をおおむね理解することができている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識を知り，理解しようと努力している。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識について理解できていない。
思考・問題解決能力	１．事例検討	学んだ基礎的な知識を柔軟に活用しながら，子どもを取り囲む物的環境，人的環境，場の環境を踏まえた援助を検討することができている。	学んだ基礎的な知識を活用しながら，子どもを取り囲む物的環境，人的環境，場の環境を踏まえた援助を検討することができている。	学んだ基礎的な知識を活用しながら，子どもを取り囲む物的環境，人的環境，場の環境を踏まえた援助を自分なりに検討することができている。	子どもを取り囲む物的環境，人的環境，場の環境を踏まえた援助を自分なりに検討することができているが，学んだ知識との関連に気づくことができない。	学んだ知識を活用できておらず，事例においても自分なりの検討ができない。
技能	１．保育の構想	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを十分把握し，それぞれの能力が存分に発揮できる具体的な保育の構想や方法を計画・実践することができている。	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握し，それぞれの能力が存分に発揮できる具体的な保育の構想や方法を計画・実践しようとしている。	学んだ知識をもとに個別的・集団的に子どもを把握しようとし，具体的な保育の構想や方法を計画・実践しようとしている。	子どもを把握しようとし，具体的な保育の構想や方法を計画しようとしているが実践面においては不十分である。	具体的な保育構想ができておらず，実践もできていない。
態度	１．授業への参加	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，学んだ知識や他者の意見をよく聴いて論理的な自分の意見を構築することができる。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，学んだ知識や他者の意見をよく聴いて，自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに取り組む過程で，自分なりに意見を構築しようとしている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに対し積極的に参加しておらず，自分の意見を持つことができていない。

科目名	子どもと環境 1クラス			授業番号	CP216A	サブタイトル			
教員	斉藤 佳子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	領域「環境」の指導で必要となる保育内容に関する基礎的な知識・技能について講義する。特に領域「環境」の指導の基盤となる，幼児を取り巻く環境とその現代的課題，幼児と身近な環境との関わりの発達等について説明する。また保育内容について体験的に理解するために，具体的な活動を行い指導のための基礎力を養成する。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。 1．「環境」のねらいについて，自分の言葉で語ることができる。 2．環境の内容について，多様な視点から述べることができる。 3．環境に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身に付ける。 4．子ども が好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	(1)領域「環境」についての保育内容，(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」，(3)実際の体験としての「工作」・「実技」の３項目を授業で行う。								

回	概要	担当
第1回	幼児教育・保育の基本と「環境」，幼児を取り巻く環境，幼児教育で育みたい資質・能力 ・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」 環境を通して行う教育・保育の重要性，幼児を取り巻く環境，幼児教育において育みたい資質・能力について理解する。	
第2回	領域「環境」のねらいと内容，幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿） ・理科ソング「七草」・工作など「紙鉄砲」 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満３歳以上の子どもと満１歳以上満３歳未満の子どもの領域「環境」のねらいと内容及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を理解する。	
第3回	領域「環境」の内容の取り扱い ・理科ソング「野菜の歌」・工作など「兜」 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満３以上と満１歳以上満３歳未満の子どもの領域「環境」の内容の取り扱いを理解する。	
第4回	領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容 ・理科ソング「セミの歌」・工作など「紙テープコマ」 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の乳児期の園児の保育及び保育所保育指針の乳児保育に関わる精神的発達に対する視点「身近なものと関わり感性が育つ」について理解する。	
第5回	植物との関わり ・理科ソング「甲虫類」・工作など「紙飛行機」 身近な植物と遊べる草花や木の実，草花や野菜の栽培及び保育者の援助について理解する。	
第6回	植物採集と標本（押し葉）づくり ・理科ソング「むせきつい動物」・栽培「クロッカス」「ヒヤシンス」 草花，落ち葉や木の実等の自然物を使用した遊びについて理解する。標本づくりと花の水栽培を体験的に学ぶ。	
第7回	自然・季節とのかかわり，自然現象，季節をとらえる遊び ・理科ソング「空の雲」 各季節の特徴となる動植物・自然現象や季節を感じる保育の実践について理解する。	
第8回	生き物（小動物・昆虫）との関わり ・理科ソング（復習） ・工作「押し葉絵」 乳幼児の身近な生き物に親しみをもって関わるということ，飼育の意義や目的を理解する。	
第9回	物「素材・道具」との関わり ・理科ソング（復習） ・工作「秋の自然物を使って(1)」 乳幼児の身近な物や道具とのかかわりの意義と実践について理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用しての製作をする。	
第10回	数量や図形との関わり ・理科ソング（復習） ・工作「秋の自然物を使って(2)」 乳幼児の日常の園環境を通して数量や図形に親しんでいく保育の実践を理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用しての製作をする。	
第11回	標識や文字との関わり ・理科ソング（復習） ・実技「お手玉」 乳幼児の日常の園環境を通して標識や文字に親しんでいく保育の実践を理解する。お手玉など伝統的な遊びを体験する。	
第12回	文化や伝統，行事などに親しむ ・理科ソング（復習） ・実技「けん玉」 日本の文化や伝統・行事や園生活における行事の意義や活動について理解する。けん玉など伝統的な遊びを体験する。	
第13回	園と地域社会・施設との関わり ・実技「あやとり」 地域社会における園の存在意義及び園・家庭・地域社会との連携・交流について理解する。幼児の生活と身近な施設との関わり方について理解する。 あやとりなど伝統的な遊びを体験する。	
第14回	情報との関わり，幼児教育・保育におけるＩＣＴ機器の活用 ・理科ソング（復習） ・工作「節分(1)」 近年の幼児を取り巻く情報環境と幼児教育・保育におけるＩＣＴ等の情報機器の活用について理解する。節分など伝承行事への理解とそれにまつわる製作をする。	
第15回	他の領域や小学校教育とのつながり，領域「環境」全体のまとめ ・理科ソング（復習）・工作「節分(2)」 保幼小の連携・接続の必要性及び小１プロブレム，アプローチカリキュラム，スタートカリキュラム，小学校低学年の学校生活や生活科の具体的な内容との関連について理解する。節分など伝承行事への理解とそれにまつわる製作を行う。	
授業計画 備考2	(1)テキスト (2)ノート (3)ハサミ (4)セロテープ (5)色マジック (6)授業時間に指示した物	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。
レポート	20	授業で学修した内容を深めることができたか，要点を押さえているか，自分の考えを記述しているかを評価する。
植物標本，工作物	15	自然物の収集や工作物の出来ばえについて総合的に評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。 領域「環境」の内容を楽しく体験しながら，子どもの興味・関心，主体性について考えてもらいたい。
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業後に講義内容の整理や課題へ取り組む。 ・身近な動植物を意識的に探し，子どもがどのような反応をするか，遊びに使えるかなどを考える。 ・身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみる。 ・季節の変化に注意し言葉で表現する。 ・地域の伝統・文化を探り体験してみる。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　環境	無藤隆　監修	萌文書林	978-4-89347-258-8	本体2200円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．領域「環境」のねらいと内容を理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容について，概ね述べることができる。	領域「環境」のねらいと内容について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について，まったく表現することができない。
知識・理解	２．幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義を理解している。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義を正確に理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義について，概ね説明できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義について，まったく表現することができない。
知識・理解	３．乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達を理解している。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達を正確に理解し説明できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について，概ね説明できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について，まったく表現することができない。
知識・理解	４．乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方を理解している。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方を正確に理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，概ね説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，まったく表現することができない。
知識・理解	５．乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について理解している。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について正確に理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，概ね説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	１．「環境」の内容について多様な視点から考えることができる。	課題に対し，多様な視点から考察をし，他者にわかりやすく述べることができる。	課題に対し，多様な視点から考察を加えている。	課題に対し，自分の考えを概ね述べることができる。	課題に対する自分の考えを十分に述べることができていない。	課題の提出をしていない。
思考・問題解決能力	２．「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を大変よく身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を概ね身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しているが，指導のための基礎力を十分に身に付けていない。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験していない。
思考・問題解決能力	３．子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを明確かつ十分に体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントをある程度体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に十分に会得できていない。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導を体験していない。
技能	１．植物標本を作成できる。	植物標本を大変よく作成できる。	植物標本を作成できている。	植物標本をある程度作成できている。	植物標本を作成したが，提出をしていない。	植物標本を作成していない。
技能	２．工作物を作成できる。	工作物が大変よく作成できている。	工作物を作成できている。	工作物をある程度作成できている。	工作物を作成したが，提出をしていない。	工作物を作成していない。
態度	１．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し，コメントシートを提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントシートの提出をしていない。

科目名	子どもと環境 2クラス			授業番号	CP216B	サブタイトル			
教員	斉藤 佳子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	領域「環境」の指導で必要となる保育内容に関する基礎的な知識・技能について講義する。特に領域「環境」の指導の基盤となる，幼児を取り巻く環境とその現代的課題，幼児と身近な環境との関わりの発達等について説明する。また保育内容について体験的に理解するために，具体的な活動を行い指導のための基礎力を養成する。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。 1．「環境」のねらいについて，自分の言葉で語ることができる。 2．環境の内容について，多様な視点から述べることができる。 3．環境に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身に付ける。 4．子ども好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	(1)領域「環境」についての保育内容，(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」，(3)実際の体験としての「工作」・「実技」の３項目を授業で行う。								

回	概要	担当
第1回	幼児教育・保育の基本と「環境」，幼児を取り巻く環境，幼児教育で育みたい資質・能力 ・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」 環境を通して行う教育・保育・保育の重要性，幼児を取り巻く環境，幼児教育において育みたい資質・能力について理解する。	
第2回	領域「環境」のねらいと内容，幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿） ・理科ソング「七草」・工作など「紙鉄砲」 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満３歳以上の子どもと満１歳以上満３歳未満の子どもの領域「環境」のねらいと内容及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を理解する。	
第3回	領域「環境」の内容の取り扱い ・理科ソング「野菜の歌」・工作など「兜」 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満３以上と満１歳以上満３歳未満の子どもの領域「環境」の内容の取り扱いを理解する。	
第4回	領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容 ・理科ソング「セミの歌」・工作など「紙テープコマ」 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の乳児期の園児の保育及び保育所保育指針の乳児保育に関わる精神的発達に対する視点「身近なものと関わり感性が育つ」について理解する。	
第5回	植物との関わり ・理科ソング「甲虫類」・工作など「紙飛行機」 身近な植物と遊べる草花や木の実，草花や野菜の栽培及び保育者の援助について理解する。	
第6回	植物採集と標本（押し葉）づくり ・理科ソング「むせきつい動物」・栽培「クロッカス」「ヒヤシンス」 草花，落ち葉や木の実等の自然物を使用した遊びについて理解する。標本づくりと花の水栽培を体験的に学ぶ。	
第7回	自然・季節とのかかわり，自然現象，季節をとらえる遊び ・理科ソング「空の雲」 各季節の特徴となる動植物・自然現象や季節を感じる保育の実践について理解する。	
第8回	生き物（小動物・昆虫）との関わり ・理科ソング（復習） ・工作「押し葉絵」 乳幼児の身近な生き物に親しみをもって関わるということ，飼育の意義や目的を理解する。	
第9回	物「素材・道具」との関わり ・理科ソング（復習） ・工作「秋の自然物を使って(1)」 乳幼児の身近な物や道具とのかかわりの意義と実践について理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用しての製作をする。	
第10回	数量や図形との関わり ・理科ソング（復習） ・工作「秋の自然物を使って(2)」 乳幼児の日常の園環境を通して数量や図形に親しんでいく保育の実践を理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用しての製作をする。	
第11回	標識や文字との関わり ・理科ソング（復習） ・実技「お手玉」 乳幼児の日常の園環境を通して標識や文字に親しんでいく保育の実践を理解する。お手玉など伝統的な遊びを体験する。	
第12回	文化や伝統，行事などに親しむ ・理科ソング（復習） ・実技「けん玉」 日本の文化や伝統・行事や園生活における行事の意義や活動について理解する。けん玉など伝統的な遊びを体験する。	
第13回	園と地域社会・施設との関わり ・実技「あやとり」 地域社会における園の存在意義及び園・家庭・地域社会との連携・交流について理解する。幼児の生活と身近な施設との関わり方について理解する。 あやとりなど伝統的な遊びを体験する。	
第14回	情報との関わり，幼児教育・保育におけるＩＣＴ機器の活用 ・理科ソング（復習） ・工作「節分(1)」 近年の幼児を取り巻く情報環境と幼児教育・保育におけるＩＣＴ等の情報機器の活用について理解する。節分など伝承行事への理解とそれにまつわる製作をする。	
第15回	他の領域や小学校教育とのつながり，領域「環境」全体のまとめ ・理科ソング（復習）・工作「節分(2)」 保幼小の連携・接続の必要性及び小１プロブレム，アプローチカリキュラム，スタートカリキュラム，小学校低学年の学校生活や生活科の具体的な内容との関連について理解する。節分など伝承行事への理解とそれにまつわる製作を行う。	
授業計画 備考2	(1)テキスト (2)ノート (3)ハサミ (4)セロテープ (5)色マジック (6)授業時間に指示した物	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。
レポート	20	授業で学修した内容を深めることができたか，要点を押さえているか，自分の考えを記述しているかを評価する。
植物標本，工作物	15	自然物の収集や工作物の出来ばえについて総合的に評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。 領域「環境」の内容を楽しく体験しながら，子どもの興味・関心，主体性について考えてもらいたい。
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業後に講義内容の整理や課題へ取り組む。 ・身近な動植物を意識的に探し，子どもがどのような反応をするか，遊びに使えるかなどを考える。 ・身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみる。 ・季節の変化に注意し言葉で表現する。 ・地域の伝統・文化を探り体験してみる。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　環境	無藤隆　監修	萌文書林	978-4-89347-258-8	本体2200円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．領域「環境」のねらいと内容を理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容について，概ね述べることができる。	領域「環境」のねらいと内容について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について，まったく表現することができない。
知識・理解	２．幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義を理解している。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義を正確に理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義について，概ね説明できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義について，まったく表現することができない。
知識・理解	３．乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達を理解している。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達を正確に理解し説明できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について，概ね説明できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について，まったく表現することができない。
知識・理解	４．乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方を理解している。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方を正確に理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，概ね説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，まったく表現することができない。
知識・理解	５．乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について理解している。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について正確に理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，概ね説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	１．「環境」の内容について多様な視点から考えることができる。	課題に対し，多様な視点から考察をし，他者にわかりやすく述べることができる。	課題に対し，多様な視点から考察を加えている。	課題に対し，自分の考えを概ね述べることができる。	課題に対する自分の考えを十分に述べることができていない。	課題の提出をしていない。
思考・問題解決能力	２．「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を大変よく身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を概ね身に付けている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しているが，指導のための基礎力を十分に身に付けていない。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験していない。
思考・問題解決能力	３．子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを明確かつ十分に体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントをある程度体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に十分に会得できていない。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導を体験していない。
技能	１．植物標本を作成できる。	植物標本を大変よく作成できる。	植物標本を作成できている。	植物標本をある程度作成できている。	植物標本を作成したが，提出をしていない。	植物標本を作成していない。
技能	２．工作物を作成できる。	工作物が大変よく作成できている。	工作物を作成できている。	工作物をある程度作成できている。	工作物を作成したが，提出をしていない。	工作物を作成していない。
態度	１．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し，コメントシートを提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントシートの提出をしていない。

科目名	子どもと言葉 1クラス			授業番号	CP218A	サブタイトル			
教員	伊藤 智里								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	発達にともなう子どもの「言葉」の世界の拡がりについて，テキストから詳しく学び，理解を深める。また，言葉を通して，豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。								
到達目標	保育内容 領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け，想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。 人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について，基礎的な知識を身に付ける。 児童文化財について基礎的知識を身に付け，実践することができる。 これらは，ディプロマ・ポリシーに挙げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育と保育内容領域「言葉」 -人間と言葉- 言葉とは何かについて考え、「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する	
第2回	乳幼児期の言葉の獲得 子どもには言葉を獲得する力があることを理解し、乳幼児が言葉の仕組みを理解する過程を概観する。	
第3回	乳幼児の発達と言葉 母語である日本語の特徴を理解し、乳幼児が言葉を獲得する手がかりとなる点について知る。	
第4回	言葉の豊かさ-言葉遊び- 日本語の美しさ、豊かさ、美しさを感じ、子どもに伝えたい日本語を言葉遊びで体感する	
第5回	児童文化財-お話- 素話の特徴を知り、保育に取り入れる際の配慮について理解する	
第6回	児童文化財-お話の実際- 素話の模擬保育を行い、評価する	
第7回	児童文化財-紙芝居- 紙芝居の歴史、特徴、演じ方の知識を習得し、実際に紙芝居を使って確認する	
第8回	児童文化財-紙芝居の実際- 紙芝居の特徴を生かし、演じ方を工夫しながら模擬保育を行い、評価する	
第9回	児童文化財-ペープサート- ペープサートの特徴を知り、言葉を育てる視点からねらいを設定してペープサートを制作する	
第10回	児童文化財-ペープサートの実際- 制作したペープサートを用いた模擬保育を行い、評価する	
第11回	児童文化財-パネルシアター- パネルシアターの特徴を理解し、言葉を育てる視点からねらいを設定して指導できるように工夫して制作する	
第12回	児童文化財-パネルシアターの実際- 制作したパネルシアターを用いて模擬保育を行い、評価する	
第13回	児童文化財-文字あそび-かるた- かるたの歴史、特徴を理解し、文字を育てる視点で工夫してかるたを制作する	
第14回	児童文化財-かるたの実際- 周囲の人と関わりながら遊ぶことを意識して制作したかるた遊びを実践する	
第15回	児童文化財-絵本と子ども- 絵本の歴史、特徴、保育での取り入れ方について理解を深め、読み聞かせ実践を行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への積極的な取組（休験，発表など）の状況によって評価する。
定期試験	50	最終的な理解度について評価する。
制作物	30	児童文化財の制作物について，保育で使用するものとして適切か評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに，保育者・教育者として子どものよきモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。
授業外学修	テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を予習をして，課題を把握し，授業に出席する。授業後は振り返りをし，記録の整理をする。 様々な児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。 このことについて，１時間以上の学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」	馬見塚昭久/小倉直子	ミネルヴァ書房	978-4-623-09251-2	2400＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
その他	
備考	令和４年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育内容領域「言葉」の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。さらに、育てたい資質・能力、他領域との関係、保幼小接続と合わせて理解することができている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。さらに、幼児期に育てたい資質・能力の繋がりと合わせて理解することができている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のいずれかの保育内容「言葉」について、ねらい及び内容を知識として習得できる。	保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	２．子どもが言葉を獲得するまでの発達過程の理解	子どもの発達過程について知識を修得し、発達にあわせた環境、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動を発展的に考えることができている。	子どもの発達過程について知識を修得し、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動について具体的に考えることができている。	子どもの発達過程について知識を修得し、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動について考えることができている。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程を理解し、保育活動について知識を修得することができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程について理解が不十分である。
知識・理解	３．児童文化財の基礎的知識	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を十分に深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れることについて知識を習得することができる。	それぞれの児童文化財の特徴を理解し、児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れることについて知識を習得することができる。	児童文化財の特徴、使い方等の理解が不十分である。
技能	１．言葉を育てる児童文化財の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもと使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもと使うことを大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができ、言葉を育てる視点から子どもと使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な児童文化財の製作方法の理解が不十分であり、留意点を製作に反映していない。
技能	２．言葉を育てる児童文化財の活動実践	学修したすべての児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	8割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	6割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	子どもの活動を想定した、年齢、場面に適切な児童文化財を選択し、実践することができる。	子どもとの活動を想定した、年齢、場面に適切な児童文化財を選択し、実践することが不十分である。
態度	１．グループ活動の取り組み	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、積極的に話し合いや実践に参加することで、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが、他人の話を聞き、グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず、個人活動となっている。
態度	２．提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ。提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	子どもと言葉 2クラス			授業番号	CP218B	サブタイトル			
教員	伊藤 智里								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	発達にともなう子どもの「言葉」の世界の拡がりについて，テキストから詳しく学び，理解を深める。また，言葉を通して，豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。								
到達目標	保育内容 領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け，想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。 人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について，基礎的な知識を身に付ける。 児童文化財について基礎的知識を身に付け，実践することができる。 これらは，ディプロマ・ポリシーに挙げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育と保育内容領域「言葉」 -人間と言葉- 言葉とは何かについて考え、「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する	
第2回	乳幼児期の言葉の獲得 子どもには言葉を獲得する力があることを理解し、乳幼児が言葉の仕組みを理解する過程を概観する。	
第3回	乳幼児の発達と言葉 母語である日本語の特徴を理解し、乳幼児が言葉を獲得する手がかりとなる点について知る。	
第4回	言葉の豊かさ-言葉遊び- 日本語の美しさ、豊かさ、美しさを感じ、子どもに伝えたい日本語を言葉遊びで体感する	
第5回	児童文化財-お話- 素話の特徴を知り、保育に取り入れる際の配慮について理解する	
第6回	児童文化財-お話の実際- 素話の模擬保育を行い、評価する	
第7回	児童文化財-紙芝居- 紙芝居の歴史、特徴、演じ方の知識を習得し、実際に紙芝居を使って確認する	
第8回	児童文化財-紙芝居の実際- 紙芝居の特徴を生かし、演じ方を工夫しながら模擬保育を行い、評価する	
第9回	児童文化財-ペープサート- ペープサートの特徴を知り、言葉を育てる視点からねらいを設定してペープサートを制作する	
第10回	児童文化財-ペープサートの実際- 制作したペープサートを用いた模擬保育を行い、評価する	
第11回	児童文化財-パネルシアター- パネルシアターの特徴を理解し、言葉を育てる視点からねらいを設定して指導できるように工夫して制作する	
第12回	児童文化財-パネルシアターの実際- 制作したパネルシアターを用いて模擬保育を行い、評価する	
第13回	児童文化財-文字あそび-かるた- かるたの歴史、特徴を理解し、文字を育てる視点で工夫してかるたを制作する	
第14回	児童文化財-かるたの実際- 周囲の人と関わりながら遊ぶことを意識して制作したかるた遊びを実践する	
第15回	児童文化財-絵本と子ども- 絵本の歴史、特徴、保育での取り入れ方について理解を深め、読み聞かせ実践を行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への積極的な取組（休験，発表など）の状況によって評価する。
定期試験	50	最終的な理解度について評価する。
制作物	30	児童文化財の制作物について，保育で使用するものとして適切か評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに，保育者・教育者として子どものよきモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。
授業外学修	テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を予習をして，課題を把握し，授業に出席する。授業後は振り返りをし，記録の整理をする。 様々な児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。 このことについて，１時間以上の学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」	馬見塚昭久/小倉直子	ミネルヴァ書房	978-4-623-09251-2	2400＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
その他	
備考	令和４年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育内容領域「言葉」の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。さらに、育てたい資質・能力、他領域との関係、保幼小接続と合わせて理解することができている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。さらに、幼児期に育てたい資質・能力の繋がりと合わせて理解することができている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のいずれかの保育内容「言葉」について、ねらい及び内容を知識として習得できる。	保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	２．子どもが言葉を獲得するまでの発達過程の理解	子どもの発達過程について知識を修得し、発達にあわせた環境、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動を発展的に考えることができている。	子どもの発達過程について知識を修得し、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動について具体的に考えることができている。	子どもの発達過程について知識を修得し、言葉を獲得することに焦点を当てた保育活動について考えることができている。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程を理解し、保育活動について知識を修得することができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程について理解が不十分である。
知識・理解	３．児童文化財の基礎的知識	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を十分に深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、自分でさらに調べるなどして児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れることについて知識を習得することができる。	それぞれの児童文化財の特徴を理解し、児童文化財の種類や、年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れることについて知識を習得することができる。	児童文化財の特徴、使い方等の理解が不十分である。
技能	１．言葉を育てる児童文化財の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもと使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもと使うことを大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができ、言葉を育てる視点から子どもと使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的な児童文化財の製作方法の理解が不十分であり、留意点を製作に反映していない。
技能	２．言葉を育てる児童文化財の活動実践	学修したすべての児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	8割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	6割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した、年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	子どもの活動を想定した、年齢、場面に適切な児童文化財を選択し、実践することができる。	子どもとの活動を想定した、年齢、場面に適切な児童文化財を選択し、実践することが不十分である。
態度	１．グループ活動の取り組み	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、積極的に話し合いや実践に参加することで、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが、他人の話を聞き、グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず、個人活動となっている。
態度	２．提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ。提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	子どもと表現 1クラス			授業番号	CP220A	サブタイトル			
教員	牛島 光太郎、土師 範子、織田 典恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする」ことが領域「表現」の目指すものである。領域「表現」に関する，幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因，幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。								
到達目標	(1)幼児の表現の姿や，その発達について理解できる。 1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2)幼児の発達段階を理解した上で,表現を生成する過程について理解できる。 3)幼児の素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。 (2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な技能を学ぶことを通し，幼児の表現活動を支援することができる。 1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。 3）表現することの楽しさを実感するとともに，楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4）協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。 5）様々な表現の基礎的な技能を生かし，幼児の表現活動に展開させることができる。 なお，本講義はディプロマ・ポリシーの＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	令和6年度改訂								

回	概要	担当
第1回	領域「表現」のねらいと内容 伝える・受け止める行為を通した表現の生成過程と発達との関連性について	土師範子
第2回	「表現」と身体 生活と動きの気づきについて	織田典恵
第3回	「表現」と音楽 自然の音を感じ楽器で表現する	土師範子
第4回	「表現」と色・形 様々な素材の特性を活かした表現	牛島光太郎
第5回	「表現」と身体 言葉と動きの工夫について	織田典恵
第6回	「表現」と音楽 身近な音を楽器で表現する	土師範子
第7回	「表現」と色・形 身近な自然との関わりを活かした表現	牛島光太郎
第8回	「表現」と身体 音と動きの楽しみについて	織田典恵
第9回	「表現」と音楽 リズム遊びを展開する	土師範子
第10回	「表現」と色・形 様々な描画材を活用した表現	牛島光太郎
第11回	幼児表現の特徴 みて，感じて，よみとる方法について	織田典恵
第12回	「表現」と身体 イメージと動きの味わいについて	織田典恵
第13回	「表現」と音楽 楽器を使ったアンサンブル	土師範子
第14回	「表現」と色・形 言葉や物語との関わりを活かした表現	牛島光太郎
第15回	ICTの活用方法 保育現場におけるICT活用事例の紹介と実践	牛島光太郎
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な授業態度,予・復習の状況等によって評価する。
レポート・課題	50	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	20	身体・造形・音楽表現の各領域のポイントの理解を評価する。
その他	20	毎授業後に提出するコメントペーパーによって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。
授業外学修	1 復習として，課題を課すことがある。 2 予習として，資料を配布することがある。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	音楽教室主宰(16年)・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(10年)(織田典恵)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼児におけるリトミックレッスン等の経験より，子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．領域「表現」について理解している。	幼児の表現と発達の過程との関連性を十分に理解し,領域「表現」のねらいと内容を理解し,説明することができる。	幼児の表現と発達の過程の関連性を理解し,領域「表現」のねらいと内容を理解している。	領域「表現」のねらいと内容を理解している。	領域「表現」のねらいは理解できているが,内容についての理解が不十分である。	領域「表現」のねらいと内容を理解していない。
知識・理解	2．乳幼児期の音楽表現・造形表現・身体表現の特性について理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解し,説明することができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性の理解が不十分である。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解していない。
技能	1．基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して,基礎的な表現の技能を十分に修得し,幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して,基礎的な表現の技能を修得し,幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して,基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通した基礎的な表現の技能の修得が不十分である。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通した基礎的な表現の技能を修得できていない。

科目名	子どもと表現 2クラス			授業番号	CP220B	サブタイトル			
教員	牛島 光太郎、土師 範子、織田 典恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする」ことが領域「表現」の目指すものである。領域「表現」に関する，幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因，幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。								
到達目標	(1)幼児の表現の姿や，その発達について理解できる。 1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2)幼児の発達段階を理解した上で,表現を生成する過程について理解できる。 3)幼児の素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。 (2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な技能を学ぶことを通し，幼児の表現活動を支援することができる。 1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。 3）表現することの楽しさを実感するとともに，楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4）協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。 5）様々な表現の基礎的な技能を生かし，幼児の表現活動に展開させることができる。 なお，本講義はディプロマ・ポリシーの＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	令和6年度改訂								

回	概要	担当
第1回	領域「表現」のねらいと内容 伝える・受け止める行為を通した表現の生成過程と発達との関連性について	土師範子
第2回	「表現」と身体 生活と動きの気づきについて	織田典恵
第3回	「表現」と音楽 自然の音を感じ楽器で表現する	土師範子
第4回	「表現」と色・形 様々な素材の特性を活かした表現	牛島光太郎
第5回	「表現」と身体 言葉と動きの工夫について	織田典恵
第6回	「表現」と音楽 身近な音を楽器で表現する	土師範子
第7回	「表現」と色・形 身近な自然との関わりを活かした表現	牛島光太郎
第8回	「表現」と身体 音と動きの楽しみについて	織田典恵
第9回	「表現」と音楽 リズム遊びを展開する	土師範子
第10回	「表現」と色・形 様々な描画材を活用した表現	牛島光太郎
第11回	幼児表現の特徴 みて，感じて，よみとる方法について	織田典恵
第12回	「表現」と身体 イメージと動きの味わいについて	織田典恵
第13回	「表現」と音楽 楽器を使ったアンサンブル	土師範子
第14回	「表現」と色・形 言葉や物語との関わりを活かした表現	牛島光太郎
第15回	ICTの活用方法 保育現場におけるICT活用事例の紹介と実践	牛島光太郎
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な授業態度,予・復習の状況等によって評価する。
レポート・課題	50	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	20	身体・造形・音楽表現の各領域のポイントの理解を評価する。
その他	20	毎授業後に提出するコメントペーパーによって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。
授業外学修	1 復習として，課題を課すことがある。 2 予習として，資料を配布することがある。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	音楽教室主宰(16年)・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(10年)(織田典恵)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼児におけるリトミックレッスン等の経験より，子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．領域「表現」について理解している。	幼児の表現と発達の過程との関連性を十分に理解し,領域「表現」のねらいと内容を理解し,説明することができる。	幼児の表現と発達の過程の関連性を理解し,領域「表現」のねらいと内容を理解している。	領域「表現」のねらいと内容を理解している。	領域「表現」のねらいは理解できているが,内容についての理解が不十分である。	領域「表現」のねらいと内容を理解していない。
知識・理解	2．乳幼児期の音楽表現・造形表現・身体表現の特性について理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解し,説明することができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解している。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性の理解が不十分である。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解していない。
技能	1．基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して,基礎的な表現の技能を十分に修得し,幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して,基礎的な表現の技能を修得し,幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して,基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通した基礎的な表現の技能の修得が不十分である。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通した基礎的な表現の技能を修得できていない。

科目名	子どもと音楽			授業番号	CP222	サブタイトル			
教員	川崎　泰子、河田　健二、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼児にとって音を通した遊びは本来，楽しく有意義なものである。その中で，拍節的な活動は身体的，知的な発達を促進させ，無拍節的な活動は叙情的な活動を助長する。そこで楽器遊び，描写的な音楽作りを実体験しながら，保育の実践者としての表現法と指導法を探っていく。また弾き歌いを習得することで保育・教育現場での活用方法を学修する。								
到達目標	・子どもの発達を理解し，発達に応じた音楽表現に必要な理論及び音楽的技法を修得する。 ・弾き歌いの必要な知識を習得し，現場で実践できる技能を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業説明、発声指導、音楽理論の基礎 授業の説明。楽典の基礎知識を確認する。発声の基礎を習得する。	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第2回	弾き歌い・楽典の復習(１) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第3回	弾き歌い・楽典の復習(２) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第4回	弾き歌い・楽典の復習(３) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第5回	弾き歌い・楽典の復習(４) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第6回	弾き歌い・楽典の復習(５) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第7回	弾き歌い・楽典の復習(６) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第8回	小テスト これまで学習した弾き歌い曲の試験を行う	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第9回	グループに分かれて演習（１） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第10回	グループに分かれて演習（２） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第11回	グループに分かれて演習（３） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第12回	グループに分かれて演習（４） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第13回	グループに分かれて演習（５） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第14回	グループに分かれて演習（６） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第15回	楽器①、器楽②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解し、練習の成果を発表する 終わり次第、それぞれのグループに対して好評を行う	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	弾き歌いなどの課題への取り組み。
音楽理論課題解答提出	30	添削後，返却する。
小テスト（弾き歌い/グループ発表）	40	弾き歌いはそれぞれの課題をクリアしている。グループ発表では協働してそれぞれのグループの目標を達成できている。

評価の方法：自由記載	【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。
受講の心得	保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため，積極的であること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり1時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	こどものうた100　（小林美実編著，チャイルド本社） 大人のための音楽ワーク・ドリル（ヤマハ出版）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業中に適宜資料を配布する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年）、数々の学校にて歌唱指導（20年）　川崎泰子
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．楽譜を読む力がある	問題なく音符を理解している	積極的に楽譜を理解しようとしている	時間はかかるが理解しようとしている	楽譜を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	２．歌唱法が理解できている	小学校歌唱共通教材を通して発声法が理解できている	積極的に発声法を理解しようとする姿勢がみられる	歌唱は苦手ながらも発声法を学ぼうとする姿勢がみられる	発声法を理解しようとする姿勢があまりみられない	歌唱する姿勢が感じられない
知識・理解	３，楽器の特性を理解している	問題なく楽器の特性を理解している	積極的に楽器の特性を理解しようとしている	楽器の特性を学ぼうとする姿勢がみられる	楽器の特性を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	４．楽典の内容を理解している	質問するなど楽典の問題に積極的に取り組んでいる	楽典の問題に時間はかかるが積極的に問題を解こうとする姿勢がみられる	時間はかかるが理解しよとしている	苦手ながらも楽典の問題に取り組もうとしている	理解する姿勢が感じられない
技能	１．歌唱	歌う力が備わっている	積極的に歌唱しようとする姿勢がみられる	歌唱しようとする姿勢があり、苦手ながらも参加している	苦手意識が高く、声を出すのに補助がいる	歌唱する姿勢が感じられない
技能	２．弾き歌い	教育現場で必要なレパートリーが増え弾き歌いできている	積極的にピアノに触れ、弾き歌いする姿勢がみられる	ピアノが苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高くピアノに触れる時間が少ない	弾き歌いする姿勢がみられない
技能	３．器楽演奏	楽器を演奏する能力が備わっている	積極的に楽器に触れ、演奏する姿勢がみられる	楽器が苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高く楽器に触れる時間が少ない	器楽演奏する姿勢がみられない
態度	１．グループ発表時に積極的に参加できている	積極的にグループで協働して創作ができ、発表することができる	積極的にグループ演習に参加し、協働する姿勢がみられる	グループ演習に参加し、自分の役割分担を責任を持ってできている	グループ演習には参加するものの協働する姿勢がみられない	グループ発表する姿勢がみられない
態度	２．積極的に授業に参加できる	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、次授業までに課題を主体的にしてくる	授業目標を意識して積極的に課題をしてくる	授業目標を意識してある程度授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加することができない

科目名	子どもと造形 1クラス			授業番号	CP224A	サブタイトル			
教員	伊藤 智里、牛島 光太郎								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	この講義では，幼児の「表現とその発達」について理解するとともに，幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。								
到達目標	(1)幼児の表現の姿や，その発達について理解する。 1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 1-2)子どもの素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。 (2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2-2)身の周りのものを諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。 2-3)協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め，共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。 2-4)様々な表現の基礎的な知識技能を活かし，子どもの表現活動を展開させることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「表現」に出会う －乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のこと－ 乳幼児の表現とはどのようなものかについて理解する。	伊藤
第2回	表現活動におけるICTの活用－造形の視点からICT活用について知る－ ドキュメンテーションについての理解、新聞を使った造形遊びを体験する。	伊藤
第3回	表現活動と子どもの発達－乳児の発達と造形あそび－ ０，１，２歳の発達過程を理解し、手の感触で味わう造形遊びを体験する。	伊藤
第4回	生活での出会いとイメージ－幼児の発達と造形遊び－ ３，４，５歳の発達過程と造形遊びの関係、描画の発達段階について理解する。	伊藤
第5回	素材との出会い－紙を知る－ 画用紙、折り紙、和紙など様々な紙の特徴を理解する。	伊藤
第6回	描画材との出会い1－クレパスを使った造形遊び－ クレパスの特徴を生かした造形活動を体験する。	伊藤
第7回	描画材との出会い２－絵の具を使った造形遊び－ ドリッピング、デカルコマニーなど絵の具を使った技法遊びを体験する。	伊藤
第8回	描画材との出会い3－様々な描画材を使った造形遊び－ 水性ペン、色鉛筆、絵の具、クレパスなどそれぞれの描画材の特徴を生かした造形遊びを体験する。	伊藤
第9回	道具との出会い－はさみとのりを使って－ 子どもと一緒にはさみとのりを使う際の配慮を理解する。	伊藤
第10回	シンボルとの出会い－いろいろな形をつくり出す－ 身近なもので行うスタンプ遊びを体験する。	伊藤
第11回	物語との出会い－伝統と造形遊び－ 行事と結びついた造形遊びを体験する。	伊藤
第12回	見立てて遊ぶ－SGDｓの視点で考える、廃材を使った造形遊び－ 身近な廃材で遊ぶことができることを理解し、工夫して子どもにあった遊びを作り出す。	伊藤
第13回	総合的な表現 1－壁面装飾企画－ 壁面装飾の保育での役割を理解し、製作物の企画を行う。	伊藤
第14回	総合的な表現 2－壁面装飾制作－ 今までに習得した知識を使って、壁面装飾を制作する。	伊藤
第15回	表現活動の振り返り－表現することと鑑賞すること－ 子どもが表現することと、他者の表現に触れることの意味を理解する。	牛島
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	ポイントの理解を記述内容によって評価する。コメントをつけてスケッチブック返却時に一緒に返却する。
小テスト	20	知識の理解により評価する。授業内で全体的に解説する。
その他	50	制作するスケッチブックの内容により評価する。採点後、コメントをつけて返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて、実際にやってみるなかで探求してほしい。 図工・造形セットは、毎時間持参すること。
授業外学修	1. 予習として，資料を配布することがある。 2.復習として，課題を課すことがある。 3.授業内で完成しなかった造形遊び、技法について課外で行うこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修することが望ましい。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜，提示する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜，提示する。			
その他	造形遊びで体験してきた作品は、指定のスケッチブックに整理して提出する。 はさみ、のり、水彩絵の具、筆洗、筆、クレパス、色鉛筆、定規、テープなどの描画材や道具を使用する。 詳しい授業の準備物は、授業の中で提示する。準備物が多くあるため、忘れ物がないよう注意して受講すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．幼児の表現の視点から捉えた発達について理解する。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じてどのような表現方法を用いるかについて根拠ある推測、考察ができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、過程に応じてどのような表現方法を用いるかについて説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じた適切な表現方法があることを理解し、部分的に説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、幼児なりの表現方法があることを理解することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程についての理解と、適切な表現方法があることへの理解が不十分である。
知識・理解	2．子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活においての表現の位置づけを十分に説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活においての表現の位置づけを説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活においての表現の位置づけについて考えることができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通した理解が不十分である。
思考・問題解決能力	1．子どもの造形遊びに対する適切な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、年齢に合わせて適切に各活動に必要な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、特定の年齢に合わせて適切に活動に必要菜環境構成を設定することができる。	学生視点で活動にあわせて各活動に必要な環境構成を設定することができ、子どもと活動する際に改善する点を考えることができる。	学生視点で活動にあわせて活動に必要な環境構成を設定することができる。	活動に必要な環境構成の設定が不十分である。
技能	1．造形表現の基礎的な技能を身に付ける。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身につけることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を自分で調べたり考えたりして展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身につけることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を調べて展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身につけることができ、子どもと活動、鑑賞するために授業で提示した造形表現活動を展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身につけることができる。	造形表現の基礎的な技能の修得が不十分である。
技能	2．素材の活用方法を知り、使えるようになる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、活動にあわせて子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知ることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法の知識習得について不十分である。
態度	1．積極的に造形活動を行う。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法についても実践してみることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法について調べることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動について、積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動の取り組みが消極的である。
態度	2．提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	子どもと造形 2クラス			授業番号	CP224B	サブタイトル			
教員	伊藤 智里、牛島 光太郎								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	この講義では，幼児の「表現とその発達」について理解するとともに，幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。								
到達目標	(1)幼児の表現の姿や，その発達について理解する。 1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 1-2)子どもの素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。 (2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2-2)身の周りのものを諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。 2-3)協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め，共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。 2-4)様々な表現の基礎的な知識技能を活かし，子どもの表現活動を展開させることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「表現」に出会う －乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のこと－ 乳幼児の表現とはどのようなものかについて理解する。	伊藤
第2回	表現活動におけるICTの活用－造形の視点からICT活用について知る－ ドキュメンテーションについての理解、新聞を使った造形遊びを体験する。	伊藤
第3回	表現活動と子どもの発達－乳児の発達と造形あそび－ ０，１，２歳の発達過程を理解し、手の感触で味わう造形遊びを体験する。	伊藤
第4回	生活での出会いとイメージ－幼児の発達と造形遊び－ ３，４，５歳の発達過程と造形遊びの関係、描画の発達段階について理解する。	伊藤
第5回	素材との出会い－紙を知る－ 画用紙、折り紙、和紙など様々な紙の特徴を理解する。	伊藤
第6回	描画材との出会い1－クレパスを使った造形遊び－ クレパスの特徴を生かした造形活動を体験する。	伊藤
第7回	描画材との出会い２－絵の具を使った造形遊び－ ドリッピング、デカルコマニーなど絵の具を使った技法遊びを体験する。	伊藤
第8回	描画材との出会い3－様々な描画材を使った造形遊び－ 水性ペン、色鉛筆、絵の具、クレパスなどそれぞれの描画材の特徴を生かした造形遊びを体験する。	伊藤
第9回	道具との出会い－はさみとのりを使って－ 子どもと一緒にはさみとのりを使う際の配慮を理解する。	伊藤
第10回	シンボルとの出会い－いろいろな形をつくり出す－ 身近なもので行うスタンプ遊びを体験する。	伊藤
第11回	物語との出会い－伝統と造形遊び－ 行事と結びついた造形遊びを体験する。	伊藤
第12回	見立てて遊ぶ－SGDｓの視点で考える、廃材を使った造形遊び－ 身近な廃材で遊ぶことができることを理解し、工夫して子どもにあった遊びを作り出す。	伊藤
第13回	総合的な表現 1－壁面装飾企画－ 壁面装飾の保育での役割を理解し、製作物の企画を行う。	伊藤
第14回	総合的な表現 2－壁面装飾制作－ 今までに習得した知識を使って、壁面装飾を制作する。	伊藤
第15回	表現活動の振り返り－表現することと鑑賞すること－ 子どもが表現することと、他者の表現に触れることの意味を理解する。	牛島
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	ポイントの理解を記述内容によって評価する。コメントをつけてスケッチブック返却時に一緒に返却する。
小テスト	20	知識の理解により評価する。授業内で全体的に解説する。
その他	50	制作するスケッチブックの内容により評価する。採点後、コメントをつけて返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて、実際にやってみるなかで探求してほしい。 図工・造形セットは、毎時間持参すること。
授業外学修	1. 予習として，資料を配布することがある。 2.復習として，課題を課すことがある。 3.授業内で完成しなかった造形遊び、技法について課外で行うこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修することが望ましい。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，提示する。
その他	造形遊びで体験してきた作品は、指定のスケッチブックに整理して提出する。 はさみ、のり、水彩絵の具、筆洗、筆、クレパス、色鉛筆、定規、テープなどの描画材や道具を使用する。 詳しい授業の準備物は、授業の中で提示する。準備物が多くあるため、忘れ物がないよう注意して受講すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．幼児の表現の視点から捉えた発達について理解する。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じてどのような表現方法を用いるかについて根拠ある推測、考察ができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、過程に応じてどのような表現方法を用いるかについて説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じた適切な表現方法があることを理解し、部分的に説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、幼児なりの表現方法があることを理解することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程についての理解と、適切な表現方法があることへの理解が不十分である。
知識・理解	2．子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活においての表現の位置づけを十分に説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活においての表現の位置づけを説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活においての表現の位置づけについて考えることができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通した理解が不十分である。
思考・問題解決能力	1．子どもの造形遊びに対する適切な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、年齢に合わせて適切に各活動に必要な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、特定の年齢に合わせて適切に活動に必要菜環境構成を設定することができる。	学生視点で活動にあわせて各活動に必要な環境構成を設定することができ、子どもと活動する際に改善する点を考えることができる。	学生視点で活動にあわせて活動に必要な環境構成を設定することができる。	活動に必要な環境構成の設定が不十分である。
技能	1．造形表現の基礎的な技能を身に付ける。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身につけることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を自分で調べたり考えたりして展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身につけることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を調べて展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身につけることができ、子どもと活動、鑑賞するために授業で提示した造形表現活動を展開することができる。	モダンテクニックを中心に、造形表現の基礎的な技能を身につけることができる。	造形表現の基礎的な技能の修得が不十分である。
技能	2．素材の活用方法を知り、使えるようになる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、活動にあわせて子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、素材の活用方法を考えることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知ることができる。	紙など、子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法の知識習得について不十分である。
態度	1．積極的に造形活動を行う。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法についても実践してみることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法について調べることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動について、積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動の取り組みが消極的である。
態度	2．提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	ＩＣＴ活用の理論と実践			授業番号	CP225	サブタイトル	未来の教室「ICTを活用した学習の進化」		
教員	岸　誠一								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，情報通信技術の意義と基礎的な理論を学ぶとともに，GIGAスクール構想における令和 の日本型学校教育を展開するために必要となる社会的背景や学習指導要領との関連について，具体的な活用事例や演習等を通して学習する。すなわち教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について，その「背景や歴史」「これを活用して育成しようとする資質・能力」，現状および今後の方向性について学修する。授業における児童や教員によるICT活用のほか，授業の準備，学習評価に関する活用，校務の情報化における活用について解説する。 　また，情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力(情報モラルを含む)について，その構成要素および具体的な指導法，教育課程上の位置付けについて体験的に学修する 。								
到達目標	・情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 ・情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 ・児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 ・教育メディアの特性を理解し，教育や保育の現場に応じて，有効なメディアを選択し，活用できる技能を修得する。 　なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞と＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス，現代社会におけるICTの役割 高度情報化社会を生き抜く子どもたちにどのような教育が必要であるか?子どもたちの未来の教室がどのようなものであるか?ICTを活用した学習の進化について学修する。そして，この授業は，ICTの効果的な活用の経験を通して「自分が受けたいと思う理想の授業」を「自分でデザインしていく」授業であり，そういう態度で授業に臨むことを各自理解する。	
第2回	教育方法の基礎的理論と歴史 教育方法の歴史について以下の3つの視点で学修する。 ・変貌する教室，授業の様式（一斉指導から子ども中心のアクティブラーニングへ） ・授業の歴史（コメニウスの「世界図絵」からデジタル教科書まで） ・個別学習やグループ学習の理論と方法	
第3回	教育方法に関わる４つの学習理論（行動・認知・構成・社会的構成主義）と授業設計 それぞれの学習理論を確立した代表的な人物と実践事例について解説し，各学習理論の長所・課題等について考察する。この授業終了後ミニレポートを提出する。	
第4回	教育メディアと著作権 様々な学校での著作権の事例をクイズ形式で考えながら学修する。特にSNS等で発信する際に起こりそうな実例を挙げ，著作権の問題を自分の起こりうる問題として認識する。	
第5回	対話的な学びを深めるICTの活用 新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の在り方と，その実現に必要な教師の役割について学ぶ。	
第6回	個別最適な学びを支えるICTの活用 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力とは何かを検討した上で，主体的・対話的で深い学びを実現するための教育方法を考える。また，個別最適な学びと協働的な学びの実現などICT活用についての意義と在り方について検討する。	
第7回	遠隔授業・遠隔学習と学びの保障 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについて学ぶ。学習履歴などの教育データを、指導や学習評価に活用することや校務処理と教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。	
第8回	特別支援・幼児教育におけるICT活用 特別の支援を必要とする園児・児童・生徒に対する話法や板書の仕方などの技術を学ぶと共に，ICT活用の意義と活用に当たっての留意点を考える。	
第9回	校務の情報化とICT環境の整備 統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について学ぶ。	
第10回	情報モラル・情報セキュリティ教育について インターネットの基本構造と、ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探る。また，SNS等オンラインコミュニティの形成とその文化的意味につい学修する。後半の講義では，学校現場における情報モラルの指導をどうするか事例をもとに各自考える。自分で模擬授業をするための授業設計を行い，指導案を作成する。	
第11回	プログラミング教育がめざすこと 子ども用プログラミング学習「スクラッチ」体験等を通して，プログラミングを取り入れた教科学習について理解する。また，本学で開発したプログラミング教材「おしゃれなCAT」も体験する。	
第12回	学校の「外」でのICTの活用(学びの場としての美術館) 「大原美術館の見学」という授業の設計を行う。その際授業にICTの活用として盛り込む以下のポイントについて考える。 ・見学前の事前指導でICTをどう活用するか ・見学時に児童はタブレット端末を各自持っているという想定で，美術館の絵の説明や，児童の間での情報の共有等にどう活用するか ・見学したあとの事後指導にどうICTを活用するか そして，実際に児童になりきって大原美術館を見学し，自分が設計した授業について反省する。	
第13回	児童生徒によるICT活用 学習場面に応じたICTを効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)から，基礎的な指導方法を学ぶ。また，各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間（以下「各教科等」という。）において，横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）についてもその指導技術・指導法を理解する。	
第14回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価I 模擬授業のための教育メディア教材作成およびＩＣＴ活用のための指導案（ＩＣＴ活用レシピ）作成について学修し，次の時間に行うICTを活用した模擬授業の企画を行い，ＩＣＴ活用レシピを作成する。	
第15回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価II 前回計画したＩＣＴ活用レシピにより模擬授業を行う。その模擬授業演習において，「情報機器を効果的に活用する場面が見られたかどうか 」について学生の相互評価を実施する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
ミニレポート	30	随時それぞれの受講内容に応じて，ミニレポートの課題を数回出し，授業内容の理解の程度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
模擬授業	20	模擬授業演習において，情報機器を効果的に活用する場面が見られるかどうか評価する。評価内容については模擬授業終了後，口頭でコメントする。
最終レポート	30	この授業の総括として，授業内容の総合的な理解度を評価するために最終レポートを提出する。レポートの具体的な様式・評価項目については授業内で説明する。最終レポートについては，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	（1）履修者には，授業の進行に応じて出題するミニレポートに取り組んでもらう。(30%)（2）毎時間の発言や取り組み姿勢なども成績評価に加味する。(20%)（3）期末に全員に課す最終レポート（30%）と，模擬授業（20%）を踏まえて総合的に評価する。
受講の心得	本授業では，講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と，学生自身が各種ICT機器，環境を活用し，体験的に学修する機会を設けることを基本とする。毎回出席し，課題をきちんと提出すること。分からないことは，質問すること。
授業外学修	1．授業ごとに紹介する参考資料や，eラーニング教材（予習用の動画教材）を次回授業までに熟読したり，しっかり視聴したりして，よく予習をしておくこと。 2．ＰＣの操作技能等を身につけるために，随時復習をすること。 3．模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。 １および２の内容については週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	稲垣忠，佐藤和紀 (編著)（2021）ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして，北大路書房 ロバートガニェほか（著）鈴木克明（訳）(2007) インストラクショナルデザインの原理，北大路書房 堀田龍也，佐藤和紀（2019）教職課程コアカリキュラム対応 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術，三省堂 稲垣忠（編著）（2019）教育の方法と技術: 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン，北大路書房
その他	パソコンを大切に使用すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校長(8年)，公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)，公立小学校教諭(13年)，岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年)，岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	ICT教育の推進に学校長(幼稚園長)のリーダーシップは欠かせない。自分の校長(園長)時代の具体的な経験をもとにそれについて解説をしていく。また，教諭時代，授業の中でのICTの活用をした経験や，生涯学習センターで各学校のメディア教育担当の教員に対して行っていた研修および情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用について行った研修の経験など，様々な内容について指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する	教育現場におけるICT活用の意義や理論について十分に理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について概ね理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について最低限理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論についてやや理解が不十分。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について全く理解していない。
知識・理解	2．ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について十分理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について概ね理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について普通に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解がやや不十分。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について全く理解していない。
知識・理解	3. 情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を十分理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を概ね理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を普通に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について理解が不十分である。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く理解していない。
思考・問題解決能力	1．情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付けている。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を複数見つけ、調査し、自分なりの解決策を考え提案することができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を見つけ、調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について提示された多数ある課題について調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて解決策とされていることを調べ、それについて意見を言うことができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて考えることが不十分である。
技能	1．ICTを活用した授業のための教材制作ができる	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができる。そして子どもと使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法の理解が不十分であり、留意点を制作に反映していない。
技能	2.児童・生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導技術を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を多様な視点で考え，実際に積極的に試行しようとする。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を考えることができるが，試行はしない。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法について少しは考えることができる。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法についてあまり考えない。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く考えない。
態度	1．提出物	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなど工夫して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	制作物、レポートなどの提出物について、授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。

科目名	メディア教育演習			授業番号	CP2254	サブタイトル	未来の教室「ICTを活用した学習の進化」		
教員	岸　誠一								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，情報通信技術の意義と基礎的な理論を学ぶとともに，GIGAスクール構想における令和 の日本型学校教育を展開するために必要となる社会的背景や学習指導要領との関連について，具体的な活用事例や演習等を通して学習する。すなわち教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について，その「背景や歴史」「これを活用して育成しようとする資質・能力」，現状および今後の方向性について学修する。授業における児童や教員によるICT活用のほか，授業の準備，学習評価に関する活用，校務の情報化における活用について解説する。 　また，情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力(情報モラルを含む)について，その構成要素および具体的な指導法，教育課程上の位置付けについて体験的に学修する 。								
到達目標	・情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 ・情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 ・児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 ・教育メディアの特性を理解し，教育や保育の現場に応じて，有効なメディアを選択し，活用できる技能を修得する。 　なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞と＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス，現代社会におけるICTの役割 高度情報化社会を生き抜く子どもたちにどのような教育が必要であるか?子どもたちの未来の教室がどのようなものであるか?ICTを活用した学習の進化について学修する。そして，この授業は，ICTの効果的な活用の経験を通して「自分が受けたいと思う理想の授業」を「自分でデザインしていく」授業であり，そういう態度で授業に臨むことを各自理解する。	
第2回	教育方法の基礎的理論と歴史 教育方法の歴史について以下の3つの視点で学修する。 ・変貌する教室，授業の様式（一斉指導から子ども中心のアクティブラーニングへ） ・授業の歴史（コメニウスの「世界図絵」からデジタル教科書まで） ・個別学習やグループ学習の理論と方法	
第3回	教育方法に関わる４つの学習理論（行動・認知・構成・社会的構成主義）と授業設計 それぞれの学習理論を確立した代表的な人物と実践事例について解説し，各学習理論の長所・課題等について考察する。この授業終了後ミニレポートを提出する。	
第4回	教育メディアと著作権 様々な学校での著作権の事例をクイズ形式で考えながら学修する。特にSNS等で発信する際に起こりそうな実例を挙げ，著作権の問題を自分の起こりうる問題として認識する。	
第5回	対話的な学びを深めるICTの活用 新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の在り方と，その実現に必要な教師の役割について学ぶ。	
第6回	個別最適な学びを支えるICTの活用 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力とは何かを検討した上で，主体的・対話的で深い学びを実現するための教育方法を考える。また，個別最適な学びと協働的な学びの実現などICT活用についての意義と在り方について検討する。	
第7回	遠隔授業・遠隔学習と学びの保障 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについて学ぶ。学習履歴などの教育データを、指導や学習評価に活用することや校務処理と教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。	
第8回	特別支援・幼児教育におけるICT活用 特別の支援を必要とする園児・児童・生徒に対する話法や板書の仕方などの技術を学ぶと共に，ICT活用の意義と活用に当たっての留意点を考える。	
第9回	校務の情報化とICT環境の整備 統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について学ぶ。	
第10回	情報モラル・情報セキュリティ教育について インターネットの基本構造と、ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探る。また，SNS等オンラインコミュニティの形成とその文化的意味につい学修する。後半の講義では，学校現場における情報モラルの指導をどうするか事例をもとに各自考える。自分で模擬授業をするための授業設計を行い，指導案を作成する。	
第11回	プログラミング教育がめざすこと 子ども用プログラミング学習「スクラッチ」体験等を通して，プログラミングを取り入れた教科学習について理解する。また，本学で開発したプログラミング教材「おしゃれなCAT」も体験する。	
第12回	学校の「外」でのICTの活用(学びの場としての美術館) 「大原美術館の見学」という授業の設計を行う。その際授業にICTの活用として盛り込む以下のポイントについて考える。 ・見学前の事前指導でICTをどう活用するか ・見学時に児童はタブレット端末を各自持っているという想定で，美術館の絵の説明や，児童の間での情報の共有等にどう活用するか ・見学したあとの事後指導にどうICTを活用するか そして，実際に児童になりきって大原美術館を見学し，自分が設計した授業について反省する。	
第13回	児童生徒によるICT活用 学習場面に応じたICTを効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)から，基礎的な指導方法を学ぶ。また，各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間（以下「各教科等」という。）において，横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）についてもその指導技術・指導法を理解する。	
第14回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価I 模擬授業のための教育メディア教材作成およびＩＣＴ活用のための指導案（ＩＣＴ活用レシピ）作成について学修し，次の時間に行うICTを活用した模擬授業の企画を行い，ＩＣＴ活用レシピを作成する。	
第15回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価II 前回計画したＩＣＴ活用レシピにより模擬授業を行う。その模擬授業演習において，「情報機器を効果的に活用する場面が見られたかどうか 」について学生の相互評価を実施する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
ミニレポート	30	随時それぞれの受講内容に応じて，ミニレポートの課題を数回出し，授業内容の理解の程度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
模擬授業	20	模擬授業演習において，情報機器を効果的に活用する場面が見られるかどうか評価する。評価内容については模擬授業終了後，口頭でコメントする。
最終レポート	30	この授業の総括として，授業内容の総合的な理解度を評価するために最終レポートを提出する。レポートの具体的な様式・評価項目については授業内で説明する。最終レポートについては，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	（1）履修者には，授業の進行に応じて出題するミニレポートに取り組んでもらう。(30%)（2）毎時間の発言や取り組み姿勢なども成績評価に加味する。(20%)（3）期末に全員に課す最終レポート（30%）と，模擬授業（20%）を踏まえて総合的に評価する。
受講の心得	本授業では，講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と，学生自身が各種ICT機器，環境を活用し，体験的に学修する機会を設けることを基本とする。毎回出席し，課題をきちんと提出すること。分からないことは，質問すること。
授業外学修	1．授業ごとに紹介する参考資料や，eラーニング教材（予習用の動画教材）を次回授業までに熟読したり，しっかり視聴したりして，よく予習をしておくこと。 2．ＰＣの操作技能等を身につけるために，随時復習をすること。 3．模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。 １および２の内容については週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	稲垣忠，佐藤和紀 (編著)（2021）ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして，北大路書房 ロバートガニェほか（著）鈴木克明（訳）(2007) インストラクショナルデザインの原理，北大路書房 堀田龍也，佐藤和紀（2019）教職課程コアカリキュラム対応 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術，三省堂 稲垣忠（編著）（2019）教育の方法と技術: 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン，北大路書房
その他	パソコンを大切に使用すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校長(8年)，公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)，公立小学校教諭(13年)，岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年)，岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	ICT教育の推進に学校長(幼稚園長)のリーダーシップは欠かせない。自分の校長(園長)時代の具体的な経験をもとにそれについて解説をしていく。また，教諭時代，授業の中でのICTの活用をした経験や，生涯学習センターで各学校のメディア教育担当の教員に対して行っていた研修および情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用について行った研修の経験など，様々な内容について指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する	教育現場におけるICT活用の意義や理論について十分に理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について概ね理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について最低限理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論についてやや理解が不十分。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について全く理解していない。
知識・理解	2．ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について十分理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について概ね理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について普通に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解がやや不十分。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について全く理解していない。
知識・理解	3. 情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を十分理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を概ね理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を普通に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について理解が不十分である。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く理解していない。
思考・問題解決能力	1．情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付けている。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を複数見つけ、調査し、自分なりの解決策を考え提案することができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を見つけ、調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について提示された多数ある課題について調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて解決策とされていることを調べ、それについて意見を言うことができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて考えることが不十分である。
技能	1．ICTを活用した授業のための教材制作ができる	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができる。そして子どもと使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法の理解が不十分であり、留意点を制作に反映していない。
技能	2.児童・生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導技術を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を多様な視点で考え，実際に積極的に試行しようとする。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を考えることができるが，試行はしない。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法について少しは考えることができる。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法についてあまり考えない。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く考えない。
態度	1．提出物	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示以外に自分で調べるなど工夫して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	制作物、レポートなどの提出物について、授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	製作物、レポートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。

科目名	小学校教育基礎研究			授業番号	CP227	サブタイトル			
教員	森寺 勝之、山田 恵子、溝田 知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校教員を養成するための基礎科目として，教職に関する基礎的な理解を深めることで，教師になりたいという気持ちを確かなものにする。								
到達目標	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解し，教師を目指す思いを高める。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	小学校の教師になるために必要なことを考える	森寺
第2回	小学校で働く人（教職員）について理解する	森寺
第3回	特別活動について理解する	森寺
第4回	絵画鑑賞ワークショップを体験する(1)	森寺
第5回	絵画鑑賞ワークショップを体験する(1)	森寺
第6回	遠足・宿泊的行事について考える	森寺
第7回	遠足・宿泊的行事の実践(1)	森寺
第8回	遠足・宿泊的行事の実践(2)	森寺
第9回	遠足・宿泊的行事の実践(3)	森寺
第10回	小学校の体育の時間(ラジオ体操、マット、跳び箱、バスケットボール等)を体験する	溝田
第11回	小学校教員の方々の話を聞く	森寺
第12回	授業におけるICT活用について考える(1)	森寺
第13回	授業におけるICT活用について考える(2)	森寺
第14回	SDG sと南極観測について考える	森寺
第15回	教員採用試験の問題に挑戦する。(図画工作等)	森寺
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，活動や討議への積極的な取り組みの状況によって評価する。
レポート	50	レポートの内容と提出状況を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。
授業外学修	1．授業ごとに配付したり，紹介したりする参考資料等をよく読み込み，次時の予習とする。 2．授業内容について興味をもった事柄について，自ら深く調べることで復習とする。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野俊幸）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解する。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して十分に理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して概ね理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して普通に理解している。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解がやや不十分である。	基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して全く理解できていない。
態度	1．提出物	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。
態度	1．現場体験における児童への関わり方	児童に非常に積極的に関わろうとする。	児童に進んで関わろうとする。	児童に普通に関わろうとする	児童の関わり方がやや消極的である。	児童に全く関わろうとしない。

科目名	子どもと健康指導法			授業番号	CP313	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	演習形式で，領域「健康」に関する具体的な指導法や指導計画について学習する。 また，遊びに関わるだけでなく，安全教育，食育，小学校との接続を踏まえた指導について考えていく。								
到達目標	幼児期の身体に関する問題は，多様化，複雑化している。保育所・幼稚園・認定こども園における幼児期の領域健康に関する具体的な指導内容について，方法とその具体的内容について理解することを目的とする。 子どもと健康の内容を踏まえ，ねらい及び内容に沿った指導方法と指導内容について学習する。また，実践における評価について学習する。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「健康」のねらい及び内容の基本的な理解 「幼稚園教育解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を基に領域「健康」のねらい及び内容を理解する。	
第2回	領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導法の留意点 内容の取り扱いに対応した事例を用いて指導法の留意点を理解する。	
第3回	領域「健康」の具体的指導場面（基本的生活習慣）の指導と幼児理解（ICT） ICTを用いて児童文化財を使った基本的生活習慣の指導法の紹介を行い，その実践におけるポイントを理解する。	
第4回	領域「健康」の具体的指導場面（集団遊び）の指導と幼児理解（ICT） ICTを用いて発達に応じた集団遊びの紹介を行い，その遊びにおける指導法を理解する。	
第5回	領域「健康」の具体的指導場面（ルールのある遊び）の指導と幼児理解 発達に応じたルールのある遊びの紹介を行い，指導法及びその遊びにおける幼児について理解する。	
第6回	領域「健康」の具体的指導場面（身体を動かして遊ぶ遊び）の指導と幼児理解 発達に応じた身体を動かして遊ぶ遊びの紹介を行い，指導法及びその遊びにおける幼児について理解する。	
第7回	領域「健康」の具体的指導場面（身体ふれあい遊び）の指導と幼児理解 発達に応じた身体ふれあい遊びの紹介を行い，指導法及びその遊びにおける幼児について理解する。	
第8回	領域「健康」の具体的指導場面（用具を使用した遊び）の指導と幼児理解 発達に応じた用具を用いた遊びの紹介を行い，指導法及びその遊びにおける幼児について理解する。	
第9回	領域「健康」に関する安全指導と保健指導 幼児のけがや事故の現状及び安全管理と安全教育の必要性について理解する。	
第10回	食育に関する指導（３歳未満児を対象として） 発達に応じた環境構成と援助について理解する。	
第11回	食育に関する指導（３歳以上児を対象として） 日々の生活で「食」を楽しいと思えるような環境構成や連携について理解する。	
第12回	乳幼児の病気とアレルギーに対する指導 乳幼児の病気やアレルギーに関する専門用語の理解と対処法について理解する。	
第13回	特別な支援の必要な幼児における領域「健康」の指導 発達障害の理解と具体的な指導方法とそれを活かした教材作りのポイントを理解する。	
第14回	小学校を見通した領域「健康」における指導 領域「健康」と小学校教育のつながりについて理解する。	
第15回	領域「健康」における指導計画の作成と評価 指導計画の基本的な作成方法と保育のPDCAサイクルを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への積極的な態度や取組について評価する。
レポート	30	講義内容の適確な把握状況を評価し，コメントして返却する。
小テスト		
定期試験	50	領域「健康」の指導法に関する知識・理解について評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・乳幼児の健康に関する課題や問題について興味関心をもつこと。 ・保育における領域「健康」を踏まえた指導内容と指導方法について考えること。
授業外学修	1．毎回，授業に使用するテキストを読み，授業内容の概要を理解すること。 2．受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し，分からないところを明確にしておくこと。 以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新時代の保育双書保育内容健康［第2版］	春日晃章	株式会社みらい		2100円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．領域「健康」のねらいや内容について具体的な指導内容について理解する。	領域「健康」のねらいと内容を設定し、個々の乳幼児やクラス全体の実態に合わせ、配慮ができる。	領域「健康」のねらいや内容を設定し、指導内容について理解した計画が立てられる。	領域「健康」のねらいや内容について指導内容について理解している。	領域「健康」のねらいや内容について指導内容について理解しようと努力している。	領域「健康」のねらいや内容について指導内容について理解しようとしている。
思考・問題解決能力	1．子どもと健康を踏まえ、指導方法と指導内容について学修する。	効果的に援助・指導できる保育指導計画を作成・評価することができる。	発達を見通して、保育計画を立て、実践して自分で省察・評価できる。	発達を見通して、保育計画を立て、連携して自分で省察・評価できる。	発達を見通して、保育計画を立て、指導を受けながら評価することができる。	保育計画の意義と立て方、評価について理解している。
技能	1．実践における保育の環境のあり方についての知識を習得する。	幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育の環境のあり方について理解を深めている。	幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育の環境のあり方について理解している。	幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育の環境のあり方について興味関心をもって取り組んでいる。	幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育の環境のあり方について興味関心をもっている。	基本的な対応や知識について理解はしている。
態度	1．乳幼児の健康に関する課題や問題について興味関心をもって参加する。	実践に役立たせるために、それぞれの視点から健康を考えることができ、積極的に授業に参加する。	現場で役立たせるために、それぞれの視点から健康に興味関心をもって授業に参加している。	興味や関心をもって授業には参加するが、発表、討論、活動にやや消極的である。	授業を振り返り理解したことや反省点など、表現が乏しい。	受講態度や欠席、未提出があり、授業への意欲が見られない。

科目名	子どもと人間関係指導法			授業番号	CP315	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，幼稚園教育要領に基づき，領域「人間関係」の意図する目標，ねらい及び内容についての理解を深め，子どもが「人とかかわる力」を身に付けていくための保育者の援助・指導あり方および保育者の位置づけを明確にする。								
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し，幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「人間関係」とは（1）・・・領域成立の変遷	
第2回	領域「人間関係」とは（2）・・・子どもを取り巻く人的環境の変化	
第3回	人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(1)…愛着形成・感情の分化・自我の育ち	
第4回	人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(2)…他者意識の形成	
第5回	遊びの中の人とのかかわりの育ち(1)…遊びとは何か	
第6回	遊びの中の人とのかかわりの育ち(2)…遊びの中で生じるいざこざについて	
第7回	人とのかかわりを支える「保育者の役割」(1)…就学前教育における教育課程のとらえかた	
第8回	人とのかかわりを支える「保育者の役割」(2)…指導計画の作成における留意点	
第9回	人とのかかわりを支える「保育者の役割」(3)…指導計画実践における留意点	
第10回	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(1)…事例分析から出発する子ども理解	
第11回	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(2)…子どもを「みる」視点を考察する	
第12回	人とのかかわりを支え広げる実践(1)…子どもと子どもをつなぐために	
第13回	人とのかかわりを支え広げる実践(2)…子どもとその保護者に対する援助について	
第14回	領域「人間関係」における今日的課題(1)…多文化保育について	
第15回	領域「人間関係」における今日的課題(2)…社会情動的スキルとその育成について	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に対する積極性，予習・復習への取り組みなどにより評価する。
レポート	30	テーマに沿って根拠とともに具体的に述べられているかを評価する。採点後は全体に向けてフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	テキストの授業内容にかかわる予習をして授業に出席する。 授業終了後は，授業中に記録した内容をノートにまとめるなどして復習する。 このことについて，４時間以上の学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
人間関係の指導法 改訂第2版 (保育・幼児教育シリーズ)	若月芳浩・岩田恵子編著	玉川大学出版部	4472405644	2400+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育課程の理解	就学前教育における教育課程を十分理解し，正しく説明でき，計画作成にも十分生かすことができる。	就学前教育における教育課程を理解し，ほぼ正しく説明でき，計画作成にも反映させようとしている。	就学前教育における教育課程を理解し，自分なりに応用しようとしている。	就学前教育における教育課程をおおむね理解している。	就学前教育における教育課程をほとんど理解していない。
知識・理解	２．幼児の人間関係構築における発達の基礎知識	子どもが人間関係を構築していく過程を十分理解できており，知識を様々な場面で応用できる。	子どもが人間関係を構築していく過程を十分理解できている。	子どもが人間関係を構築していく過程をおおむね理解できている。	子どもが人間関係を構築していく過程があることを知り，理解しようとしている。	子どもが人間関係を構築していく過程についてほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	１．専門領域と関連させて事例の理解を深める力	学んだ基礎的な知識を十分活用しながら，子どもに対する保育者の援助を具体的に検討し，自分の意見として説明できる。	学んだ基礎的な知識を活用しながら，子どもに対する保育者の援助を具体的に検討し，自分の意見を説明できる。	学んだ基礎的な知識をいくつか用いて，子どもに対する保育者の援助を検討し，自分の意見をまとめることができる。	学んだ基礎的な知識を十分に活用できていないが，子どもに対する保育者の援助を，自分なりに意見としてまとめることができる。	学んだ基礎的な知識を活用できておらず，子どもに対する保育者の援助を，考えとしてまとめることができない。
技能	１．保育を構想する方法	子どもの人間関係の育ちを十分理解し，教育課程と関連させながら，具体的な計画を作成し，イメージ通りの模擬実践ができる。	子どもの人間関係の育ちを理解し，教育課程と関連させようとしながら計画を作成し，模擬実践ができる。	子どもの人間関係の育ちを理解し，自分なりの計画を作成し，模擬実践ができる。	子どもの人間関係の育ちをあまり理解できておらず，自分なりの計画を作成しているものの不十分である。	子どもの人間関係の育ちをほとんど理解できておらず，計画することができない。
態度	１．授業準備	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，学んだ知識を引用したり，他者の意見をよく聴いて論理的な自分の意見を構築することができる。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，学んだ知識を引用したり，他者の意見をよく聴いて，自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，自分なりに意見を構築することができる。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに取り組む過程で，自分なりに意見を構築しようとしている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに対し消極的で，自分の意見をのべることができない。

科目名	子どもと環境指導法			授業番号	CP317	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼児は身近な環境や自然に好奇心や探求心をもって関わり，発見を楽しんだり考えたり，生活に取り入れる。本授業では，幼児を取り巻く環境についての専門的事項を踏まえ，保育者としての指導に必要な基礎的な知識と技能について講義する。また事例を取り上げ，幼児の発達に即した興味・関心，遊びへの展開を踏まえた環境構成の仕方と保育者の指導上の留意点を理解し，その環境で幼児がどのような活動をするか領域「環境」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想，指導方法について説明する。			
到達目標	・領域「環境」のねらいと内容についてポイントを押さえて解説することができる。 ・領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，幼児の活動をイメージすることができる。 ・幼児に考えさせたり，工夫させたりするポイントを明確に指摘することができる。 ・対象物の特性や使用する道具の使い方などの基礎知識を身につけ，どのように指導すればよいかを説明することができる。 ・領域「環境」の活動の楽しさを実感し，幼児にどのように接すればよいかを話すことができる。 ・具体的な指導計画を作成することができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	【1】領域「環境」の基礎知識の整理 (1)幼児を取り巻く環境 (2)ねらいと内容 (3)園の環境 (4)幼児の発達と環境 【2】実際に体験する活動 【3】工夫したり，調べる活動 【4】考える活動 【5】指導計画を作成する								

回	概要	担当
第1回	・幼児教育・保育の基本と環境　・幼児を取り巻く環境 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された環境を通しての教育・保育の捉え方，遊びを通しての学び，幼児教育の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を理解する。 幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境，人的環境，社会的環境，安全等）と，幼児の発達におけるそれらの重要性について理解する。	
第2回	・領域「環境」のねらい，内容及び内容の取扱い　・自然とふれあい感動する：春の生活と遊び　（体験する活動） 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」のねらい，内容及び内容の取扱い並びに全体構造を理解する。 自然の特性や種類を理解し，幼児と自然との関わりの実践について学ぶ。散歩，春の草花探し，フィールドビンゴを体験的な活動として行う。	
第3回	・子どもの発達と領域「環境」・園の環境　・保育の過程と保育計画 幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際について学ぶ。園内で行われる幼児の遊びの事例から，領域「環境」のねらい，内容の展開の実際，保育計画について理解する。	
第4回	・植物との関わり　（体験する活動）（調べる）（考える） 幼児と植物との関わり，有毒な植物，花や野菜の植物栽培について理解する。保育の実際として野菜（カイワレダイコン，ハツカダイコン等）の栽培計画を立案する。	
第5回	・物事の法則性に気づく　・植物の栽培　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児期の認知的発達の特徴と筋道，幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。 植物にふれる保育の実際として野菜（カイワレダイコン，ハツカダイコン等）の栽培活動を行う。	
第6回	・季節感を味わう　・植物栽培の省察　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の夏の生活と遊びについてしゃぼん玉遊びなど具体的な活動から体験的に学ぶ。 植物にふれる保育の実際として野菜（カイワレダイコン，ハツカダイコン等）の栽培活動を行い，実践の振り返りをする。	
第7回	・自然を取り入れて遊ぶ　（体験する活動）（調べる）（考える） 自然に親しみ，季節を生かす保育に関して乳幼児の秋・冬の生活と遊びを中心に理解する。	
第8回	・生き物との関わり　・生命の営みに触れる　・ダンゴムシ探しと飼育　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の生物との関わり，学校園における動物飼育が果たす役割を理解し，具体的な活動として簡単な飼育を体験する。ダンゴムシの飼育計画を立案する。	
第9回	・身のまわりの物に愛着をもつ　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の物や道具と出会い関わる姿からその意味と学びの姿を捉え，園に整えられている物や道具の乳幼児の発達に必要な経験を得るための保育者の意図を理解する。 具体的な活動としてダンゴムシの飼育を体験する。	
第10回	・科学を体感する　・泥だんご，色水遊び　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の思考・科学的概念の発達，自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について理解する。 ダンゴムシの飼育活動を行い，実践の振り返りをする。	
第11回	・数量・図形に親しむ　（体験する活動）（調べる）（考える） 園生活や遊びの中で，数量・図形への関心・感覚を豊かにする活動を考える。 図形にふれる活動並びに保育の場における文化や伝統，行事などに親しめる活動として七夕飾りを作る。	
第12回	・標識や文字の必要性を育む　（体験する活動）（調べる）（考える） 園生活や活動，遊びの中で標識・文字にふれる活動を考える。	
第13回	・園外の活動　・身近な情報や施設を生かし，生活を豊かにする　・ITC活用方法　（体験する活動）（調べる）（考える） 園生活や遊びの中で情報にふれる活動を考える。乳幼児の生活に関係の深い施設とそれに関わる具体的な活動を考える。 幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し，保育構想への活用について考える。	
第14回	・指導計画をつくる(1)　・指導形態とカリキュラム　・指導計画作成手順 指導案の構造を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成する。	
第15回	・指導計画をつくる(2) 模擬保育とその振り返りを通して，保育を改善する視点を身に付ける。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。
レポート	30	・授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。 ・ダンゴムシ飼育，カイワレダイコン等の栽培は観察日記の記述内容を評価する。 ・指導計画（指導案）の記述内容を評価する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	・授業ごとに自分で感じたこと，工夫したこと，考えたことについてのレポートを作成して提出する。 ・課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。 ・基礎概念の理解度についての試験を実施する。
受講の心得	・事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。 ・授業に前向きに取り組み，考えたり，工夫しようとしている姿勢を重視する。
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業後に講義内容の整理や課題に取り組む。 ・日常的に環境を意識し，子どもの視点で美しいものや興味を引きそうなものを探し，ノートに記録する。 ・身近なものを使い，子どもが喜びそうな工作を考える。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法	小櫃 智子 編著	わかば社	9784907270339	1760円（本体1600+税）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．領域「環境」のねらいと内容について理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し，わかりやすくポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し，ポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容を概ね理解し，ある程度ポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容について，正確に解説できないが，自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について，まったく表現することができない。
知識・理解	２．領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動をイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動を大変よくイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動をイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動をある程度イメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動を十分にイメージすることができない。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動をまったくイメージすることができない。
思考・問題解決能力	１．領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り，保育構想の向上に取り組むことができる。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ，保育構想の向上について多角的に考察している。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ，保育構想の向上について考察している。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ，自分の考えを述べることができる。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べることができているが，自分の考えを述べることができない。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べることができていない。
技能	１．具体的な保育を想定した指導計画を作成できる	具体的な保育を想定した指導計画を正確に作成できている。	具体的な保育を想定した指導計画をほぼ作成できている。	指導計画をある程度作成することができている。	指導計画を十分に作成することができていない。	指導計画を提出していない。
技能	２．動植物の飼育・栽培に関する活動ができる	課題に対し，写真を貼付する等の工夫をしつつ観察結果と考察を述べることができている。	課題に対し，観察結果と考察を述べることができている。	課題に対し，観察結果と考察をある程度述べることができている。	課題に対し，観察結果と考察を十分に述べることができていない。	課題を提出していない。
態度	１．授業に意欲的に参加できる	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し，コメント尾シートを提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントシートの提出をしていない。

科目名	子どもと言葉指導法			授業番号	CP319	サブタイトル			
教員	伊藤 智里								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	模擬保育・事例などを基に，体験したり，協議したりして領域「言葉」の視点から，幼児を理解したり，環境構成，指導上の留意点及び，保育の構想などを理解する。								
到達目標	授業の到達目標及びテーマ ・幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育の基本，領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ，幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・指導案の構造を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育とその振り返りを通して，保育を改善する視点を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーにあげた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育内容領域「言葉」と指導法について 幼児教育の基本を踏まえ、保育内容領域「言葉」のねらい及び内容について理解する	
第2回	子どもの発達と言葉（１） 乳児期の言葉の発達について理解する	
第3回	子どもの発達と言葉（２） 幼児期の言葉の発達について理解する	
第4回	前言語期のコミュニケーションと保育 言葉を話す前の乳児の発達と関わり方について理解する	
第5回	言葉を育てる保育活動を考える 遊びを通した幼児教育実践のための、環境構成、保育者の援助、幼児理解について考えながら日誌・指導案を作成することを理解する	
第6回	児童文化財の活用１ パネルシアターを活用した保育活動を例とした指導案作成について	
第7回	児童文化財の活用2 パネルシアターを活用した保育活動の指導案をもとにした模擬保育について	
第8回	児童文化財の活用3 模擬保育の評価・改善を行い、幼児理解と指導の援助、評価について理解する	
第9回	言葉を育てる児童文化財 様々な児童文化財について知り、領域「言葉」の視点から保育教材としての価値を理解する	
第10回	話し言葉の機能と発達 「話す」ということを理解し、話す力を育てる遊びの視点を持つ	
第11回	書き言葉の発達と保育 文字の読み書きの発達過程を理解し、書き言葉を育てる環境構成を考える	
第12回	配慮を必要とする子どもへの支援について 言語障害の基礎的知識を習得し、必要な支援や配慮について考える	
第13回	多文化共生時代における子どもの支援 外国にルーツのある子どもの現状理解と、その支援について考える	
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「言葉」 「遊びを通しての総合的な指導」と領域「言葉」の在り方について理解する	
第15回	保幼小接続と領域「言葉」 領域「言葉」の視点から保育・幼児教育と小学校との円滑な接続について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への積極的な取組，発表などによる評価
レポート	20	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり，整理されていたりすること。課題提出後の授業で全体的な傾向や内容の補足等についてコメントする。
定期試験	70	最終的な理解度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに，具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付けることできるよう主体的に受講する。
授業外学修	1．予習としてテキストを読み、疑問点等を自分なりに整理する。 2．復習として授業の内容をまとめ、課題を作成する。 3．発展学修として、言葉を育てる子どもの遊びについて文献等で調べる。 以上の内容を、週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは、演習「子どもと言葉」で使用した『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』（馬見塚昭久/小倉直子編著、ミネルヴァ書店、ISBN：798-4-623-09251-2）　を使用する。 「子どもと言葉」の未受講者は、準備すること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を適宜使用する。
その他	
備考	令和4年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育内容領域「言葉」の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。さらに、育てたい資質・能力、他領域との関係、保幼小接続と合わせて理解することができている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。さらに、幼児期に育てたい資質・能力の繋がりと合わせて理解することができている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のいずれかの保育内容「言葉」について、ねらい及び内容を知識として習得できる。	保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	2．言葉の獲得に関する 子どもの発達過程の理解	保育所保育指針における3つの視点、１歳以上３歳未満児および３歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程をとらえ、子どもに対する理解を深め、児童文化財の使用および発達にあわせた環境も含めて保育内容を検討することができている。	保育所保育指針における3つの視点、１歳以上３歳未満児および３歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程に関する知識を修得し、言葉を獲得するために必要な援助と児童文化財を用いた保育について考えることができている。	保育所保育指針における3つの視点、１歳以上３歳未満児および３歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程に関する知識を修得し、言葉を獲得するために必要な援助について理解することができる。	保育所保育指針における3つの視点、１歳以上３歳未満児および３歳以上児の領域「言葉」を通して、子どもが言葉の獲得する発達過程について理解することができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程について理解が不十分である。
知識・理解	3．指導計画に関する知識及び理解	言葉に関する指導計画を全体計画から日案まで通して計画する必要性を理解し、年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用と工夫、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程について十分理解することができる。	言葉に関する指導計画を月案から見通して計画する流れを理解し、年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程について理解することができる。	言葉に関する日案を計画する必要性を理解し、年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程についておおむね理解することができる。	言葉に関する日案を計画する必要性を理解し、活動に基づいた日案を計画することや、計画、実践、記録、省察、評価、改善の一連の保育の過程について理解することができる。	言葉に関する日案を計画することについて理解、計画作成が不十分である。
思考・問題解決能力	1．子どもの発達過程に合わせた活動を考える。	同一の児童文化財を用いた活動において場面や年齢に応じて活動を変化させ、展開した遊びを考えることができる。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項を十分検討することができる。	同一の児童文化財を用いた活動を年齢に応じた変化を付けて考えることができる。その児童文化財が複数ある。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	複数の児童文化財において年齢に応じた活動を考えることができる。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	特定の児童文化財において年齢、場面を設定して活動を考えることでる。遊びの中で、子どもが体験していることを想定することができ、保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	保育活動において年齢、児童文化財の特性を考える視点が不十分であり、子どもが体験していることへの想定や保育者の配慮すべき事項についての検討ができていない。
思考・問題解決能力	2．具体的な保育場面を想定した指導計画を作成する。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ、その計画の評価・改善について、年齢、事前準備、環境構成などを意識して適切なねらいと配慮の整合性の取れた改善策を考えることができる。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ、立案した計画の評価・改善について、ねらい、内容、年齢、準備、環境構成、時間、配慮などの問題点を意識して改善策を考えることができる。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ、立案した計画の評価・改善について、子どもの発達過程を意識した適切なねらいと配慮を再考して改善点を見つけることができる。	具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ、立案した計画について実践することが難しい点を見つけることができる。	計画した内容を振り返る力が不十分である。
思考・問題解決能力	3．言葉の獲得に関する思考力	言葉の獲得に関する諸問題について主体的な視点で問題点を明らかにし、自分なりの意見や考えを持ち、表現することができる。	言葉の獲得に関する諸問題について主体的な視点でとらえ、自分の考えを持つことができる。	言葉の獲得に関する諸問題について理解し、自分なりの意見や考えを持つことができる。	言葉の獲得に関する諸問題について理解し、授業で提示した一般的な意見や考えを知る。	言葉の獲得に関する諸問題について一般的な情報を知る努力が不十分である。
技能	1．言葉の獲得を中心とした指導案作成	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身に潤えていく内容と指導上の留意点の関係を理解し、整合性を取ることができている。	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身に潤えていく内容と指導上の留意点の関係を理解することができている。	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。	環境構成、時間、配慮など活動に必要な情報が不足しているが幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、一連の活動の最初から最後まで通した指導案を作成することができる。	指導案の内容が全体的に希薄で実践するために不十分である。
技能	2．児童文化財指導の実践	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。また、年齢に応じた声掛け等、実際の保育を十分に想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。また、年齢に応じた声掛け等、実際の保育をある程度想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。	それぞれの児童文化財の特性を理解し、必要な準備を行って実践することができる。	児童文化財を使用した実践の準備が不十分である。
技能	3．レポート作成技術	レポート、指導案などの提出物について、授業提示以外に自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	レポート、指導案などの提出物について、授業提示以外に自分で調べるなど工夫して表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分である。
態度	1．グループ活動の主体的な参加	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、積極的に話し合いや実践に参加することで、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが、他人の話を聞き、グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず、個人活動となっている。
態度	2．提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができ、期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ。提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	子どもと表現指導法			授業番号	CP321	サブタイトル			
教員	牛島　光太郎、土師　範子、織田　典恵								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼児教育において育みたい資質・能力や領域「表現」のねらい及び内容について，関連する領域に触れながら講義する。その上で，幼児の発達段階に即して,深い学びが実現するよう,具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や環境の設定などについて説明する。								
到達目標	(1)幼児教育の基本を踏まえ，領域「表現」のねらい及び内容を理解できる。 1)幼児教育の基本，各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2)領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ，幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼児教育における評価の考え方を理解している。 4)領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し，領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。 1)幼児の心情，認識，思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2)領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し，保育構想に活用することができる。 3)指導案の構造を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振返りを通して，保育を改善する視点を身につけている。 5)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り，保育構想の向上に取り組むことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	令和6年度改訂								

回	概要	担当
第1回	領域「表現」のねらい及び内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針をもとに	土師範子
第2回	「表現」の具体的な内容（2歳児未満） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（形，色，手触り）	牛島光太郎
第3回	「表現」の具体的な内容（2歳児未満） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（音）	土師範子
第4回	「表現」の具体的な内容（2歳児未満） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（動き）	織田典恵
第5回	「表現」の具体的な内容（3歳児～6歳児） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（形，色，手触り） 指導案の作成（造形表現）	牛島光太郎
第6回	「表現」の具体的な内容（3歳児～6歳児） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（音）	土師範子
第7回	「表現」の具体的な内容（3歳児～6歳児） 幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点（動き）	織田典恵
第8回	具体的な指導場面について 保育構想と造形表現	牛島光太郎
第9回	具体的な指導場面について 保育構想と音楽表現	土師範子
第10回	具体的な指導場面について 保育構想と身体表現	織田典恵
第11回	指導案の構造について 指導案の作成（音楽表現）	織田典恵
第12回	模擬保育（形，色，手触り） 振り返りとグループ討議	牛島光太郎
第13回	模擬保育（音楽表現） 振り返りとグループ討議	土師範子
第14回	模擬保育（身体表現） 振り返りとグループ討議	織田典恵
第15回	発達段階に応じたICTの活用について 小学校との関連	牛島光太郎
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート・課題	50	各回の主要なポイントの理解を提出されたレポートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
その他	20	模擬保育の準備・発表,ディスカッション等への参加状況等により評価する。
その他	20	毎授業後に提出するコメントペーパーによって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。
授業外学修	1 復習として，課題を課すことがある。 2 予習として，資料を配布することがある。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	音楽教室主宰(16年)・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(10年)(織田典恵)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼児におけるリトミックレッスン等の経験より，子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．領域「表現」に関わる内容（音楽・造形・身体）の指導上の留意点を理解し，指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を十分に理解した上で,具体的な指導場面を想定し指導案を作成し,指導上の留意点を説明することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で,具体的な指導場面を想定し指導案を作成し,保育を構想し,指導上の留意点を理解している	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で,具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性は理解しているが,具体的な指導場面を想定し指導案を作成することが不十分である	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解できておらず,具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができない
思考・問題解決能力	１．実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,課題を見つけ,保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,個別の課題を見つけ,保育内容や環境を十分に改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,保育内容や環境を改善する視点を持つことができる	実施した模擬保育に対して,保育内容や環境についての省察が不十分である	実施した模擬保育に対して,課題を発見したり改善する視点を持っていない
技能	１．適切な環境を整え模擬保育を実践することができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を具体的に想定し,十分な環境設定ができ,幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助や表現活動を促す活動ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し,環境設定ができ,幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し,環境設定ができ,幼児の表現意欲を引き出すための援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定はできるが,幼児の表現意欲を引き出すための援助が不十分である	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定ができず,幼児の表現意欲を引き出すための援助をすることができない

科目名	子どもと音楽研究			授業番号	CP323	サブタイトル			
教員	土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	「基礎音楽A・B」で培った技能・経験をもとに，保育や現場で要求される「表現」と「弾き歌い」の技術と知識を系統的に学習する。また，表現活動に係る教材の活用と具体的な展開を理解する。								
到達目標	・保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・身体表現，音楽表現，の表現活動に関する知識や技術を習得する。 ・表現活動に係る教材等の活用及び作成と，具体的展開のための技術を習得する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの成長と身体表現	
第2回	子どもの成長と音楽－遊びをとおして	
第3回	表現活動と身体表現－音・音色・音楽	
第4回	子どもの歌とピアノ・リズム　1	
第5回	子どもの歌とピアノ・リズム　2	
第6回	ピアノによる簡易伴奏の作り方	
第7回	弾き歌いの表現法　1	
第8回	弾き歌いの表現法　2	
第9回	音楽表現　－歌唱　1	
第10回	音楽表現　－歌唱　2	
第11回	音楽表現　－器楽　1	
第12回	音楽表現　－器楽　2	
第13回	音楽表現　－弾き歌い　1	
第14回	音楽表現　－弾き歌い　2	
第15回	表現法のまとめと考察	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，姿勢，発表。
レポート	30	課題・レポートの，理解度・定着度。添削後，返却する。
小テスト	20	授業内の筆記・実技等の小テスト
定期試験	20	理解度，定着度。

評価の方法：自由記載	【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。
受講の心得	毎回の授業で提案される課題への取り組みが肝要。音楽の理論を理解し，毎日課題を演習することで，子どもと関わるために必要な音楽技法と進歩します。 保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため，積極的であること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり2時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	大人のための音楽ワーク「テキスト」及び「ドリル」，『続こどもの歌200』，「楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック」

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，その都度紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識を習得できる。	保育の内容を十分に理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を十分に習得し，発展することができる。	保育の内容を十分に理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を十分に習得している。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を習得している。	保育の内容を理解しようと努力し，知識を習得しようと努力している。	保育の内容は理解しようとし，知識を習得しようとしている。
知識・理解	２．身体表現，音楽表現，の表現活動に関する知識を習得できる。	身体・音楽表現活動に関する知識を十分に習得し，発展することができる。	身体・音楽表現活動に関する知識を十分に習得している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得しようと努力している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得しようとしている。
思考・問題解決能力	１．表現活動に係る教材等の活用及び作成することができる。	子どもの姿や，保育現場での取り組みを想定することができ，表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができる。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができる。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をすることができる。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をしようと努力している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をしようとしている。
技能	１．保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な技術を習得することができる。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を十分に習得し，発展することができる。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を十分に習得している。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得している。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得しようと努力している。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得しようとしている。
技能	２．身体表現，音楽表現，の表現活動に関する技術を習得できる。	身体・音楽表現活動に関する技術を十分に習得し，発展させることができる。	身体・音楽表現活動に関する技術を十分に習得している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得しようと努力している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得しようとしている。
技能	３．表現活動に係る教材等の活用及び作成することができ，具体的展開のための技術を習得できる。	子どもの姿や，保育現場での取り組みを想定することができ，表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができ，具体的展開のための技術を十分に習得している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができ，具体的展開のための技術を十分に習得している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができ，具体的展開のための技術を習得している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができ，具体的展開のための技術を習得しようと努力している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができ，具体的展開のための技術を習得しようとしている。
態度	１．授業の積極的な態度や意欲を，発表への取り組みなどを評価する。	自己課題を明確にし，授業内容が定着するように取り組むことができる。積極的に発表やグループ活動を行い，課題に十分取り組むことができる。	授業内容が定着するように取り組むことができる。積極的に発表やグループ活動を行い，課題に十分取り組むことができる。	授業内容が定着するように取り組むことができる。発表やグループ活動を行い，課題に取り組むことができる。	授業内容が定着するよう努力している。発表やグループ活動に消極的である。	課題の未提出がある。発表やグループ活動へ参加していない。

科目名	教育実習研究A 1クラス			授業番号	CP329A	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子、岡﨑 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	本科目では，教育実習（幼稚園実習）への自己課題を明確にし，教育実習の意義，実習計画と事前準備，心構え，指導案立案，実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また，大学で学んだ様々な実践的知識及び技能を応用し，現場の実践と結びつけて考察し，実践へつなげる力を身に付ける。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 1．幼稚園教育の実際の場に入るにあたって，責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2．実習のために必要で有効な知識・技能を学び，それを生かして実習できるよう準備する。 3．実習の学習課題を明確にする。 4．実習の体験を踏まえて，将来への希望と今後の学習への意欲を高める。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育実習の計画と準備 ・事前訪問（実習園オリエンテーション）について理解し，学生個人票（下書き）を作成する。 ・実習園への通勤方法の確認（学割の手続き）をする。	
第2回	実習日誌の書き方(1)，実習の目的と意義，目標，実習の心得 教育実習に参加し学ぶ者としての態度と心得について理解する。実習園からの調査票を確認する。	
第3回	教育実習の実際，指導計画（案）の書き方(1) 幼稚園生活の流れと教師の役割，実習生の活動，指導計画（案）作成の手順と内容について確認する。 学生個人票（清書）を作成する。	
第4回	教材研究，指導計画（案）の書き方(2) 絵本を見る活動，自ら選んだ遊び，製作遊び，造形遊び，運動遊び，登園・降園，弁当（給食）等，部分実習（部分指導）の指導案の立て方について確認し，指導案を作成する。	
第5回	教育実習の進め方，実習の自己課題作成 観察・参加・部分・全日実習についての詳細を理解する。実習へ向けての自己課題を明確にする。	
第6回	実習日誌の書き方(2) 実習の自己課題を実習日誌に記入する。 教育実習計画，実習園の概要，園庭・園舎を平面図を記入する。	
第7回	附属園見学前説明，実習に係る提出書類 見学記録の書き方，誓約書清書，提出書類（休園届、遅刻・早退・欠勤届等），実習における異常気象時の対応，お礼状の書き方を確認する。	
第8回	特別支援教育 特別な配慮を必要とする幼児「気になる子ども」への指導について理解する。	
第9回	幼稚園における教師の役割（援助と環境構成） 現場における保育の実際を見学し，こども園での子どもたちの様子や保育教諭の生活の一端を知り，教職についての意義を知る。	
第10回	幼稚園の役割（学級経営・園生活全般） 保育の場における保育教諭と幼児のかかわり方及び１日の生活の流れを中心に見学をし，幼児教育の目的や総合的な指導について学ぶとともに，具体的な保育教諭の指導を観察し，幼児教育の特徴を捉える。 実習日誌の見学記録を記入する。	
第11回	教育実習の振り返り(1)，お礼状の作成 振り返りのワークシートに取り組み，自己評価を行い，改善の手掛かりをつかむ。 実習中のエピソードや学んだこと，感動したことを整理する。	
第12回	教育実習の振り返り(2)，お礼状の作成 実習終了後，10日以内を目安に実習園へお礼の手紙を書く。	
第13回	教育実習のまとめ(1) 各自が体験した実習内容をもとにグループワーク討議に取り組み，分かりやすく説明する力，他者の体験を聞き取る力や共感する力を身に付けるとともに，様々な園の実態を知り，実習の学びを深める。	
第14回	教育実習のまとめ(2) 教育実習について振り返り，学んだことをグループごとにまとめ，発表準備を行う。	
第15回	教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 教育実習について振り返り，学んだことをグループごとにまとめて報告会で発表する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業で説明する実習の目的，意義について説明できる。また，実習に向けて健康管理と心構えをする。
レポート	70	事前及び事前指導時における実習生の学習の内容や程度に関する下記の諸点について評価する。 ・実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。 ・幼児の具体的な姿をイメージしながら部分指導の指導案を作成する。 ・附属園を訪問して実際の保育場面を観察・記録し，整理することで，理論で理解したことを確認する。 ・実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。 ・実習における幼児の姿や活動，環境構成，教師の援助の事例について分析・考察し，グループ討議を行い，その結果についてまとめ報告会で発表する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し，人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況，食生活，生活リズム等）を考えて生活する。また，人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ，生活の中で様々な事柄を感じて過ごし，幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。
授業外学修	1．授業で事前学習する内容（実習の目的，意義，実習の内容）について事前学習ページに記載する。 2．実習に必要な教材準備を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携　幼稚園教育実習	監修・著：森本寛紀子、編著：小野順子	ふくろう出版	978-4-861-86-880-1	本体価：2,100円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携　幼稚園教育実習	監修・著　森本寛紀子	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．実習の目的，意義について理解している。	実習の目的，意義について，正確に理解し，述べることができる。	実習の目的，意義について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	実習の目的，意義について，概ね述べることができる。	実習の目的，意義について，正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	実習の目的，意義について，まったく表現することができない。
知識・理解	2．事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページをしっかりまとめることができている。	事前学習ページをまとめることができている。	事前学習ページを概ねまとめることができている。	事前学習ページを十分にまとめることができていない。	事前学習ページをまったくまとめることができていない。
知識・理解	3．実習日誌の書き方を理解している。	実習日誌の書き方を大変よく理解できている。	実習日誌の書き方を理解できている。	実習日誌の書き方を概ね理解できている。	実習日誌の書き方を十分に理解できていない。	実習日誌の書き方をまったく理解できていない。
思考・問題解決能力	1．実習に向けて自己課題を明確にできている。	実習に向けて自己課題をきわめて明確にした上で適切に記述できる。	実習に向けて自己課題を明確にした上で記述できる。	実習に向けて自己課題を概ね明確にした上で記述できている。	実習に向けて自己課題を十分に明確にできていない上に，十分に記述できていない。	実習に向けて自己課題をまったく明確にできていない。
思考・問題解決能力	2．自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について大変よくまとめることができている。	自己課題の達成度についてまとめることができている。	自己課題の達成度について概ねまとめることができている。	自己課題の達成度について十分にまとめることができていない。	自己課題の達成度についてまったくまとめることができていない。
思考・問題解決能力	3．担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考えることができる。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について多角的に考察をしている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考察している。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について概ね考えている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について十分に考えられていない。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容についてまったく考えていない。
技能	1．指導計画を作成できる。	指導計画を正確に作成できる。	指導計画を作成できる。	指導計画を概ね作成できる。	指導計画を十分に作成できない。	指導計画をまったく作成できない。
技能	2．学んだ知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した知識を現場で実践できるようまったく準備ができていない。
技能	3．学んだ技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した技術を現場で実践できるようまったく準備ができていない。
態度	1．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切に課題を提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，課題を提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上で課題を提出している。	授業に出席し，課題を提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，課題の提出をしていない。

科目名	教育実習研究A 2クラス			授業番号	CP329B	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子、岡﨑 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	本科目では，教育実習（幼稚園実習）への自己課題を明確にし，教育実習の意義，実習計画と事前準備，心構え，指導案立案，実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また，大学で学んだ様々な実践的知識及び技能を応用し，現場の実践と結びつけて考察し，実践へつなげる力を身に付ける。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。 1．幼稚園教育の実際の場に入るにあたって，責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2．実習のために必要で有効な知識・技能を学び，それを生かして実習できるよう準備する。 3．実習の学習課題を明確にする。 4．実習の体験を踏まえて，将来への希望と今後の学習への意欲を高める。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育実習の計画と準備 ・事前訪問（実習園オリエンテーション）について理解し，学生個人票（下書き）を作成する。 ・実習園への通勤方法の確認（学割の手続き）をする。	
第2回	実習日誌の書き方(1)，実習の目的と意義，目標，実習の心得 教育実習に参加し学ぶ者としての態度と心得について理解する。実習園からの調査票を確認する。	
第3回	教育実習の実際，指導計画（案）の書き方(1) 幼稚園生活の流れと教師の役割，実習生の活動，指導計画（案）作成の手順と内容について確認する。 学生個人票（清書）を作成する。	
第4回	教材研究，指導計画（案）の書き方(2) 絵本を見る活動，自ら選んだ遊び，製作遊び，造形遊び，運動遊び，登園・降園，弁当（給食）等，部分実習（部分指導）の指導案の立て方について確認し，指導案を作成する。	
第5回	教育実習の進め方，実習の自己課題作成 観察・参加・部分・全日実習についての詳細を理解する。実習へ向けての自己課題を明確にする。	
第6回	実習日誌の書き方(2) 実習の自己課題を実習日誌に記入する。 教育実習計画，実習園の概要，園庭・園舎を平面図を記入する。	
第7回	附属園見学前説明，実習に係る提出書類 見学記録の書き方，誓約書清書，提出書類（休園届、遅刻・早退・欠勤届等），実習における異常気象時の対応，お礼状の書き方を確認する。	
第8回	特別支援教育 特別な配慮を必要とする幼児「気になる子ども」への指導について理解する。	
第9回	幼稚園における教師の役割（援助と環境構成） 現場における保育の実際を見学し，こども園での子どもたちの様子や保育教諭の生活の一端を知り，教職についての意義を知る。	
第10回	幼稚園の役割（学級経営・園生活全般） 保育の場における保育教諭と幼児のかかわり方及び１日の生活の流れを中心に見学をし，幼児教育の目的や総合的な指導について学ぶとともに，具体的な保育教諭の指導を観察し，幼児教育の特徴を捉える。 実習日誌の見学記録を記入する。	
第11回	教育実習の振り返り(1)，お礼状の作成 振り返りのワークシートに取り組み，自己評価を行い，改善の手掛かりをつかむ。 実習中のエピソードや学んだこと，感動したことを整理する。	
第12回	教育実習の振り返り(2)，お礼状の作成 実習終了後，10日以内を目安に実習園へお礼の手紙を書く。	
第13回	教育実習のまとめ(1) 各自が体験した実習内容をもとにグループワーク討議に取り組み，分かりやすく説明する力，他者の体験を聞き取る力や共感する力を身に付けるとともに，様々な園の実態を知り，実習の学びを深める。	
第14回	教育実習のまとめ(2) 教育実習について振り返り，学んだことをグループごとにまとめ，発表準備を行う。	
第15回	教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 教育実習について振り返り，学んだことをグループごとにまとめて報告会で発表する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業で説明する実習の目的，意義について説明できる。また，実習に向けて健康管理と心構えをする。
レポート	70	事前及び事前指導時における実習生の学習の内容や程度に関する下記の諸点について評価する。 ・実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。 ・幼児の具体的な姿をイメージしながら部分指導の指導案を作成する。 ・附属園を訪問して実際の保育場面を観察・記録し，整理することで，理論で理解したことを確認する。 ・実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。 ・実習における幼児の姿や活動，環境構成，教師の援助の事例について分析・考察し，グループ討議を行い，その結果についてまとめ報告会で発表する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し，人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況，食生活，生活リズム等）を考えて生活する。また，人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ，生活の中で様々な事柄を感じて過ごし，幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。
授業外学修	1．授業で事前学習する内容（実習の目的，意義，実習の内容）について事前学習ページに記載する。 2．実習に必要な教材準備を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携　幼稚園教育実習	監修・著：森本寛紀子、編著：小野順子	ふくろう出版	978-4-861-86-880-1	本体価：2,100円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携　幼稚園教育実習	監修・著　森本寛紀子	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．実習の目的，意義について理解している。	実習の目的，意義について，正確に理解し，述べることができる。	実習の目的，意義について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	実習の目的，意義について，概ね述べることができる。	実習の目的，意義について，正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	実習の目的，意義について，まったく表現することができない。
知識・理解	2．事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページをしっかりまとめることができている。	事前学習ページをまとめることができている。	事前学習ページを概ねまとめることができている。	事前学習ページを十分にまとめることができていない。	事前学習ページをまったくまとめることができていない。
知識・理解	3．実習日誌の書き方を理解している。	実習日誌の書き方を大変よく理解できている。	実習日誌の書き方を理解できている。	実習日誌の書き方を概ね理解できている。	実習日誌の書き方を十分に理解できていない。	実習日誌の書き方をまったく理解できていない。
思考・問題解決能力	1．実習に向けて自己課題を明確にできている。	実習に向けて自己課題をきわめて明確にした上で適切に記述できる。	実習に向けて自己課題を明確にした上で記述できる。	実習に向けて自己課題を概ね明確にした上で記述できている。	実習に向けて自己課題を十分に明確にできていない上に，十分に記述できていない。	実習に向けて自己課題をまったく明確にできていない。
思考・問題解決能力	2．自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について大変よくまとめることができている。	自己課題の達成度についてまとめることができている。	自己課題の達成度について概ねまとめることができている。	自己課題の達成度について十分にまとめることができていない。	自己課題の達成度についてまったくまとめることができていない。
思考・問題解決能力	3．担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考えることができる。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について多角的に考察をしている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考察している。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について概ね考えている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について十分に考えられていない。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容についてまったく考えていない。
技能	1．指導計画を作成できる。	指導計画を正確に作成できる。	指導計画を作成できる。	指導計画を概ね作成できる。	指導計画を十分に作成できない。	指導計画をまったく作成できない。
技能	2．学んだ知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した知識を現場で実践できるようまったく準備ができていない。
技能	3．学んだ技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した技術を現場で実践できるようまったく準備ができていない。
態度	1．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切に課題を提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，課題を提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上で課題を提出している。	授業に出席し，課題を提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，課題の提出をしていない。

科目名	教育実習研究Ｂ			授業番号	CP331	サブタイトル			
教員	森寺　勝之、山田　恵子、溝田　知茂、太田　憲孝								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育実習における中心的内容である授業の「設計－実施－評価」のサイクルの中で，授業設計にかかわる学習指導案を作成できるようになることを目標とする。そのための基礎的・基本的事項として，教育実習の意義と目的，計画と準備，心構え，実習記録簿の作成の仕方についての理解を図る。また，教材研究や児童理解に基づいた確かな学習指導案の立案を繰り返すとともに，立案した学習指導案を基に模擬授業を実施する。								
到達目標	学習指導案や板書計画等を作成し，模擬授業を適切に行うことができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育実習の意義と目的　制度的側面	森寺
第2回	「教師の資質」とは何か	森寺
第3回	「教職専門性」の基礎とは何か	森寺
第4回	学習指導案の作成と授業展開の技術I	太田、森寺
第5回	学習指導案の作成と授業展開の技術II	太田、森寺
第6回	学習指導案の作成と授業展開の技術III	太田
第7回	「教職専門性」の総合的な向上I	森寺
第8回	「教職専門性」の総合的な向上II	森寺
第9回	「教職専門性」の総合的な向上III	森寺
第10回	学校現場における喫緊の課題	森寺
第11回	学校と子どもたちの実態と実習の課題	太田
第12回	教育実習に向けての抱負・決意	太田
第13回	実習後の成果と課題（ふりかえり） 実習後の礼状の書き方	溝田
第14回	小学校教育実習発表会の準備	溝田
第15回	小学校教育実習発表会	溝田，森寺
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な態度・模擬授業の準備・実習の準備の状況によって評価する。
レポート	40	教材研究，学習指導案づくりの記載内容・到達度、模擬授業等によって評価する。
その他	30	教育実習日誌への記入・整理等によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで授業に参加すること
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	小学校教育実習日誌

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	4月当初から実習前までの期間に，補講を行う。一人一人が力を付けて自信をもって実習に臨めるようにする。
備考	R4.1改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校、中学校(数学)、高等学校(数学)教員，教頭，校長，岡山県教育委員会事務局専門的教育職員(森寺勝之)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校，教育委員会事務局等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について基本的なことを理解する。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について十分に理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について概ね理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について最低限理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等についてやや理解が不十分。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について全く理解していない。
技能	１．学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが大変良くできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことがよくできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが普通にできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが全くできない。

科目名	保育・教職実践演習（幼・小）			授業番号	CP428	サブタイトル	（幼・小）		
教員	齊藤 佳子、岸 誠一、溝田 知茂、伊藤 智里、太田 憲孝、森寺 勝之、岡﨑 三鈴、土師 範子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	4年間における個々の科目の履修ならびに各種の実習において修得した専門的な知識・技能を基礎として，教員としての使命感や責任感，教育的愛情等を持って，教育活動の具体的場面で生きて働く知への総合・統合を図る。この過程でのグループ討議の中で対人的なコミュニケーション能力の向上と同僚性の涵養を図っていきたい。また，履修カルテを参照し，個別的に補完指導を行う。								
到達目標	保育士，幼稚園教諭，小学校教諭のいずれにも共通して， (1)子どもを理解する力，(2)保育（授業）をデザインする力，(3)保育（授業）を実践する力，(4)保育（授業）を省察する力の4点を身につけることができる。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション：「教職実践演習」の目的と授業内容。 「保育者・教師への歩みと足跡」 各自，保育者・教職を目指してきた思いや，履修カルテをもとに これまでの学校生活の振り返りをワークシートにまとめる。	齊藤
第2回	グループワーク：「保育者・教師への歩みと足跡」について，合同グループで発表し，話し合い，自分自身の思いや覚悟を確かめる。	太田・溝田・土師
第3回	グループワーク：「子どもの理解の方法と実際」 保育者として，教師として，子ども理解することについて改めて考え，保育の事例，幼稚園の事例，小学校での事例について，合同グループで話し合い，自分自身の対応について考える。	太田・溝田・土師
第4回	グループワーク：「問題行動の理解と対応」 子どもの問題行動に関して，保育の事例，幼稚園の事例，小学校での事例について，合同グループで話し合い，自分自身の対応について考える。	太田・溝田・土師
第5回	ロールプレイング：「保護者対応」 保護者から苦情電話がかかってきたとの想定で，それぞれの立場でロールプレイングを行い，保護者の思いを共感的に受け止め，問題を整理し，誠実な態度で対応することについて考える。	太田・溝田・土師
第6回	模擬保育・模擬授業(1) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために，模擬保育・模擬授業を行い，保育実践・教育実践を通して学び合う。	森寺・岡﨑・伊藤
第7回	模擬保育・模擬授業(2) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために，模擬保育・模擬授業を行い，保育実践・教育実践を通して学び合う。	森寺・岡﨑・伊藤
第8回	模擬保育・模擬授業(3) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために，模擬保育・模擬授業を行い，保育実践・教育実践を通して学び合う。	森寺・岡﨑・伊藤
第9回	ループワーク：「幼保小の接続」 幼保小の相違点，幼保小の接続の在り方，課題，接続期のカリキュラム，接続期の実践の工夫などについて，合同グループで話し合い，保育者・教師として必要な支援について考える。	岡﨑・溝田・伊藤
第10回	グループワーク：喫緊の課題(1) 保育・教育の現代的課題を見出し，調べ，報告し，討論する	森寺・齊藤・土師
第11回	グループワーク：喫緊の課題(2) 保育・教育の現代的課題を見出し，調べ，報告し，討論する	森寺・齊藤・土師
第12回	グループワーク：喫緊の課題(3) 保育・教育の現代的課題を見出し，調べ，報告し，討論する。	森寺・齊藤・土師
第13回	「これからの情報教育～保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に向けて」 情報教育，ICT教育・プログラミング教育について，今後，保育士，幼稚園教諭，小学校教諭が主体となって取り組んでいかなければならない事柄について考える。	岸
第14回	ロールプレイング：「初めて子どもに出会う日」 初めて子どもたちと出会う日という想定で，子どもたちに，また，子どもと保護者を前に，それぞれの立場でロールプレイングを行い，学級の担当者また，学級担任としての思いをどのように伝えるかについて考え，気持ちを新たにする。	岡﨑・溝田・伊藤
第15回	「私のめざす保育者・教師像と今の自分，これからの自分」 私のめざす保育者・教師像について，教員の講話を聴講し，最終レポートに向けて，自分の夢や決意を固める。	子ども園園長(齊藤)・森寺
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	免許取得者としての意識をもった意欲的な受講態度であるか否かを評価する。
レポート	30	毎回の授業内容レポートの適確な把握状況について，コメントして返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	40	模擬保育・模擬授業等の実践力の達成状況を評価する。

評価の方法：自由記載	グループ討論，実技指導，補完指導などの結果を踏まえ，教員及び保育者として最小限必要な資質能力が身に付いていることを確認し，単位認定を行う。
受講の心得	全講義への出席を基本とする。やむを得ず欠席の場合は，その状況・内容を必ず連絡すること。四月から社会人として勤務することを念頭に，向上心を持って授業に臨むこと。
授業外学修	1 予習として，事前に配布された資料を読み，自分の考えを書きまとめておく。 2 復習として，授業内容を通して学んだことを振り返って書きまとめ，提出する。 3 発展学習として，授業に関連した参考資料や書籍を読み，記録に残す。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時，必要な資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校長(8年)，公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)，公立小学校教諭(13年)，岡山県生涯学習センター(3年)，岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。(岸誠一) 教員16年・岡山県教育委員会専門的教育職員16年・校長7年（森寺勝之） 小中学校教員31年・岐阜県教育委員会文部教官5年（太田憲孝）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	公立小学校長(8年)，公立幼稚園長(3年)，小学校教諭(13年)，県生涯学習センター(3年)，県情報教育センター(6年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（岸誠一） 教育委員会や学校現場での体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。（森寺勝之）

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもについて理解している。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，正確に理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，まったく表現することができない。
知識・理解	２．保育・授業を想定した保育・教科内容・教育課程に関する基礎的な知識を習得している。	保育・授業を想定した保育・教科内容に関する基礎的な知識について，正確に理解し説明できる。	保育・授業を想定した保育・教科内容に関する基礎的な知識について，正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な基礎的な知識について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な基礎的な知識について，まったく表現することができない。
知識・理解	３．教職に求められる教養を身に付けている。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について，正確に理解し，説明できる。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について，ほぼ理解し，説明できる。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について大体述べることができる。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について，まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	１．これまでの学修（履修カルテ）を振り返り，各自の課題を明確にし，その解決策について考えることができる。	自分の到達点と課題を的確に自覚し，課題を克服するための自己研鑽に努めている。	自分の到達点と課題を的確に自覚し，課題を克服するための努力をしている。	自分の到達点と課題を自覚し，課題を克服するための努力を始めている。	自分の到達点と課題を自覚している。	履修カルテに記入している。
思考・問題解決能力	２．保育・授業のデザイン・実施・省察の実践的な問題解決全過程において探究を進めていくことができる。	自己の課題を的確に認識し，その解決に向けて，学びつづける姿勢を持ち，自己研鑽に努めている。自分の資質・能力を活かすような，優れた創造力を発揮している。	自己の課題を認識し，その解決に向けて，努力をしている。	自己の課題を認識し，その解決に向けて，努力を始めている。	自己の課題は認識できている。	自己の課題を十分に認識できていない。
思考・問題解決能力	３．保育・教育時事問題についてに関心を持ち，意見を持つことができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち，正確に理解し意見を持ち，それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち，正確ではないがほぼ理解し意見を持ち，それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち，自分の意見を持ち，大体述べることができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち，正確に説明できないが，自分なりに意見を持つことができている。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持てず，意見を持つことができない。
技能	１．保育・授業の実践的・実務的な技能を身に付けている。	子どもの特徴を把握し，それに対応できる様々な指導上の工夫を行って，すべての子どもに効果的な学びを促すような魅力的な保育・授業を実践することができる。	子どもの特徴を把握し，それに対応できる様々な指導法を用いて，多くの子どもが学べるような保育・授業を実践することができる。	基本的な指導技術を使って，筋の通った１時間の保育・授業を実践することができる。	様々な人に対して，自分の思いや意見を，わかりやすく伝えることができる。	身近な人に対して，自分の思いや意見を伝えることができる。
技能	２．保育者・教師に必要不可欠な子ども，同僚教師などとの適切なコミュニケーション能力，つまり人間関係構築力が身に付いている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し，客観的，計画的，かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し，人と関わることができる。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し，客観的，計画的，かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し，人と関わる努力をしている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し，客観的，計画的，かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し，人と関わる努力を始めている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚している。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等を分析しようとしている。
態度	１．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し，コメントシートを提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントシートの提出をしていない。

科目名	教育実習A			授業番号	CP430	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子、岡﨑 三鈴								
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園での幼児の主体的な活動を基本とし，幼児がよりよい方向へ向かい発達していくことを援助する実際を体験し，幼児と心と心を通わせ，幼児の興味・関心・要求などを汲み取りながら「援助」の意味を実践・体験を通して学び，「自らの意志で学ぶこと」の重要性に気づく力を身に付ける。また，観察実習・参加実習・部分実習・責任実習で幼児の観察記録と指導案を詳細に記述することができ，実践における教師の役割と環境構成の重要性に気付ける感性を養う。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。本科目はディプロマ・ポリシーの＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 1．幼稚園教育の実際の場を経験し，責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2．これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより，その後の学習課題を明確にする。 3．教員としての将来に希望をもち，その職務への自覚を深め，自己を陶冶する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1週 観察実習 （1）実習園について理解する。 教育の基本方針，学級の人員構成・担当教諭の学級経営，環境（物的：敷地，建物の構造，配置及び施設設備・人的：職員構成，勤務形態等）を把握する。 （2）観察の仕方を学ぶ。 第2～3週 参加実習 （1）幼児の発達の概要を知る。 （2）幼稚園教育の一日の流れを把握する。 （3）基本的生活習慣の援助や遊びの指導について学び，担当教諭の補助をする。 第3～4週 指導実習（部分実習・責任実習） （1）3歳児から5歳児の各年齢の保育形態を理解する。 （2）幼児の実態と指導計画に準じた環境の構成をする。 （3）様々な環境にかかわって遊ぶ幼児の姿と教師の援助を予想して指導案を立てる。 （4）指導上の技術を生活の指導・遊びの指導の両面から学ぶ。 （5）指導の反省と評価の方法について学ぶ。 （6）幼児の安全への配慮について理解する。（安全指導） （7）保護者とのコミュニケーションの方法について学び，家庭・地域社会との連携について理解する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	実習園からの評価（評価表の内容）を基準にする。4週間の教育実習における次の8項目の評価により成績をつける。意欲，責任感，研究的態度，協調性，指導計画，指導技術，事務処理，総合評価。
レポート	30	実習日誌の内容，指導案立案（指導案の作成・実施・評価）の資料を基に評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	教育実習における実習園の評価表，実習日誌，指導案立案，指導実習の準備や成果などを総合的に判断し，実習園での評価点60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	現場での実践に積極的に臨み，自己課題・目標を達成できるよう取り組む。また，今後，社会人として役立つこととして，何を大切にすべきか，互いに協同し合うこととはどのようなことかを学ぶ。
授業外学修	1．幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の活動を日誌に記入する。 2．その日の実習のねらいについて一日を振り返り，実習日誌に記入する。 3．指導案等の実習指導計画を作成し，指導にあたっての教材研究をする。 以上の内容を，毎日2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼稚園及び認定こども園等の実習指導者
実務経験をいかした教育内容	学生が幼稚園教諭の職務を体験し必要な知識及び技能を習得できるように，実際の幼児との生活の中で指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．指導計画を作成できる。	指導計画を大変よく作成できている。	指導計画を作成できている。	指導計画を概ね作成できている。	指導計画をほぼ作成できていない。	指導計画をまったく作成できていない。
技能	2．指導技術を身につけている。	指導技術を大変よく身につけている。	指導技術を身につけている。	指導技術を概ね身につけている。	指導技術をほとんど身につけていない。	指導技術をまったく身につけていない。
技能	3．事務処理ができる。	事務処理が大変よくできている。	事務処理ができている。	事務処理が概ねできている。	事務処理がほぼできていない。	事務処理がまったくできていない。
態度	1．実習において意欲がみられる。	実習においてひときわ意欲がみられる。	実習において意欲がみられる。	実習において概ね意欲がみられる。	実習において十分な意欲がみられない。	実習においてまったく意欲がみられない。

科目名	教育実習B			授業番号	CP432	サブタイトル			
教員	森寺　勝之、山田　恵子、溝田　知茂、太田　憲孝								
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	大学の授業で学んだ理論や身に付けた知識や技能を基にして，実践的指導力（学習指導力」「生徒指導力」「マネジメント力」）を身に付ける。実際に児童の前で授業を展開し，実践を評価・分析することを通して，改善点を見付け，工夫・改善していく。つまりＰＤＣＡサイクルを教育実習の中で繰り返しながら，小学校教師としての実践的指導力を総合的に高めていく。4週間の教育実習の中で，第1週には，観察実習，第2.3週には，授業実践実習，第4週には一日経営実習を行う。また，4週間を貫く教育実習課題を個々に設定し，課題意識を明確にして教育実習に取り組む。								
到達目標	1 「学習指導力」として，学習指導案の作成や教材・教具の工夫の仕方，分かりやすい授業のために指導技術などを修得する。 2 「生徒指導力」として，授業規律や生活規律の徹底を図るための指導方法，児童の人間関係づくりの構築方法を修得する。 3 「マネジメント力」として，学級担任になったことを想定して，学級経営の計画を立て，学習活動の組織の仕方を取得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1週　観察実習 ・配属学級での授業観察を通して次のことを中心に観察する。 （1)指導案と実際の授業との対応。 （2)「教師－児童」の相互作用の実際。 （3)学級経営の具体的な取り組み。 第2～3週　授業実践実習 ・授業の「設計－展開－評価－（改善）」を各教科等の授業実践を通して実習する。 ＜各段階で求められると想定する技術＞ 設計：指導案を書く技術 展開：児童に学習内容を理解させる技術 評価：授業を観察・記録する技術 ・第3週目に研究授業を実施する。 第4週　一日経営実習 ・一日学級担任として，学級経営を中心に授業（2時間）を実施する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	教育実習校での評価（80%），教育実習日誌（20%）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで教育実習に参加すること
授業外学修	1　予習として，実習校で配付される資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　授業を実践する際に，十分な教材研究を行い，指導計画を立てる。 3　授業後には，授業実践を振り返る。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	小学校教育実習日誌

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)16年，校長7年，岡山県教育委員会専門的教育職員16年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	山田恵子、溝田知茂、太田憲孝
実務経験をいかした教育内容	学校，教育委員会事務局等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が十分にできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価がおおむねできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が不十分である。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができない。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価できるようになる。
技能	1．学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが大変良くできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことがよくできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが普通にできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが全くできない。
態度	1．小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務等について実践しようとする。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について十分に実践しようとしている態度が見られる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとしている態度がおおむねうかがえる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとしている態度が最低限。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務についてやや実践しようとする態度が不十分。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について全く実践しようとする態度がない。

科目名	社会福祉			授業番号	CQ201	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	社会福祉の歴史をふまえながら，保育士資格に必要な社会福祉の制度・支援方法について学習する。								
到達目標	利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を学び，利用者本位の支援とは何かについて理解を深める。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会福祉とは 人権尊重と社会正義を理解する。	
第2回	欧米における社会福祉のあゆみ イギリス，アメリカの社会福祉の変遷を理解する。	
第3回	日本における社会福祉のあゆみ 日本における社会福祉の変遷を理解する。	
第4回	社会福祉の法律 社会福祉法を理解する。	
第5回	社会福祉の行財政 社会福祉で用いられる財源について理解する。	
第6回	社会福祉の実施体制 社会福祉の仕組みを理解する。	
第7回	社会福祉の担い手 社会福祉関連の専門職の職種を理解する。	
第8回	社会福祉における相談援助 対人援助において求められる姿勢を理解する。	
第9回	利用者の保護に関わる仕組み 利用者の人権を守るための取り組みを理解する。	
第10回	公的扶助 生活保護法を理解する。	
第11回	子ども家庭福祉 児童福祉法を理解する。	
第12回	母子父子寡婦福祉 母子及び父子並びに寡婦福祉法を理解する。	
第13回	高齢者福祉 介護保険を理解する。	
第14回	障害者福祉 障害者総合支援法を理解する。	
第15回	社会福祉の課題 利用者本位の支援とは何かを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習によって評価する。
ワーク	90	各回の主要なポイントの理解を評価する。 ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。 ワークについては，授業終了後に学びの度合いを発表によって確認するとともに7回目と15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育士・看護師・介護福祉士が学ぶ社会福祉	小宅理沙他	現代図書	978-4-434-26582-2	2,500＋税
NIE社会福祉演習	松井圭三他	大学教育出版	978-4-86692-247-8	2,400＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を理解できる	利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を理解できる	利用者主体の制度について理解できる	利用者主体の社会福祉の動向を理解できる	利用者主体の社会福祉の動向の理解が十分でない	利用者主体の社会福祉の動向が理解できていない
思考・問題解決能力	１．利用者本位の支援とは何かについて考えることができる	利用者本位の支援のあり方ついて考えることができる	利用者本位の支援について理解することができる	利用者本位の支援について情報収集することができる	利用者本位の支援についての理解が十分でない	利用者本位の支援について考えることができていない

科目名	子ども家庭支援論			授業番号	CQ202	サブタイトル			
教員	中 典子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	事例を通して人間が生活するうえで直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び，保育現場における子ども家庭支援の意義を明らかにする。								
到達目標	子ども家庭支援の意義と目的を理解し，支援の方法と内容，専門職倫理について理解を深める。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子ども家庭支援の意義 子ども家庭支援に力を入れなければならない理由を理解する。	
第2回	子ども家庭支援の目的と機能 子ども家庭支援の目的と機能を学び，現代的課題を理解する。	
第3回	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 保育者としての子ども・保護者への支援姿勢や技術を学び，子ども家庭支援の意義を理解する。	
第4回	保育者に求められる基本的態度 保育者と保護者が子どもの育ちを共有する意義と留意点を理解する。	
第5回	保護者とのコミュニケーションのとり方 保護者が子育てを自ら実践するための支援を理解する。	
第6回	保育者に求められる基本的態度 受容的関わり，自己決定の尊重，秘密保持について理解する。	
第7回	多様な家庭の状況に応じた支援 アセスメントの重要性について理解する。	
第8回	子育て家庭をとりまく社会資源 地域にある様々な社会資源の機能と運営について理解する。	
第9回	事例研究1 保育所等を利用する子どもの家庭への支援のあり方を理解する。	
第10回	事例研究2 地域の子育て家庭への支援のあり方を理解する。	
第11回	事例研究3 要保護児童及びその家庭に対する支援のあり方を理解する。	
第12回	事例研究4 低所得世帯の児童や家庭に対する支援のあり方を理解する。	
第13回	事例研究5 障がい，医療的ケア等の特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援のあり方を理解する。	
第14回	事例研究6 アレルギー，外国籍等により，特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援のあり方を理解する。	
第15回	事例研究7 いじめの現状と子どもや家庭に対する支援のあり方を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表への参加，予・復習の状況によって評価する。
ワーク	90	各回の主要なポイントの理解を評価する。 子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。 ワークについては，授業終了後に学びの度合いを発表によって確認するとともに7回目と15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにワークの内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，ワークブックの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援論」	立花直樹・安田誠人監修	晃洋書房	978-4-7710-3604-8	2,000＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．子ども家庭支援の意義と目的が理解できる	子ども家庭支援の意義と目的が理解できる	子ども家庭支援の目的が理解できる	子ども家庭支援のの基礎が理解できる	子ども家庭支援の意義と目的の理解が十分でない	子ども家庭支援の意義と目的の理解ができない
思考・問題解決能力	1．支援の方法と内容，専門職倫理について考えることができる	支援の方法と内容，専門職倫理について考えることができる	専門職倫理について考えることができる	専門職倫理について把握している	専門職倫理についての把握が十分でない	専門職倫理について理解できない

科目名	子育て支援 1クラス			授業番号	CQ203A	サブタイトル			
教員	中 典子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子ども家庭支援論で学んだ内容をもとに事例研究を行い，保育現場において必要な相談支援について明らかにする。								
到達目標	相談支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につける。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育者が行う子育て支援 保育の特性や保育者の専門性を基盤としながら展開される子育て支援の基本的な考え方を理解する。	
第2回	保護者との相互理解と信頼関係の形成 相互理解と信頼関係を形成するためのポイントを理解する。	
第3回	保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解 保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解する視点が持てるようになる。	
第4回	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 保護者同士をつなぐための技術について理解する。	
第5回	子どもと保護者に対する状況把握 保育相談支援を行うために必要な情報収集や情報活用の方法を理解する。	
第6回	支援計画と環境構成 子育て支援計画の立て方とそれに基づく環境構成の方法を理解する。	
第7回	地域における社会資源の活用 子育て支援をする際に連携することが考えられる社会資源について理解する。	
第8回	子育て支援における職員連携の方法 職員間の連携の重要性を理解する。	
第9回	社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働 地域にある多様な社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働の方法を理解する。	
第10回	事例研究1 保育所における支援を理解する。	
第11回	事例研究2 地域の子育て家庭に対する支援を理解する。	
第12回	事例研究3 障がいのある子どもとその家庭に対する支援を理解する。	
第13回	事例研究4 特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援を理解する。	
第14回	事例研究5 子ども虐待の予防と対応を理解する。	
第15回	事例研究6 要保護児童とその家庭に対する支援を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	受講中の議論により評価する。講義ごとに，自分が理解したことを整理できているか，疑問点を解決することができているか，それを表現できているか，他者の意見に対して批判的に議論ができているか，という点で評価する。
ワーク	90	子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては，授業終了後に学びの度合いを確認するとともに授業7回目15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（1時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもと保護者に寄り添う「子育て支援」	立花直樹･安田誠人監修	晃洋書房	978-4-7710-3605-5	2,000＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．相談支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につける。	相談支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につけることができる。	相談支援の方法についてロールプレイに参加することができる。	相談支援の方法についてロールプレイを通して支援方法が習得できる。	相談支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能習得が不十分である。	相談支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能が習得できない。
態度	1．子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方が理解できる。	法制度に基づく子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方の基礎が理解できる。	子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方の理解が十分でない。	子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方が理解できない。

科目名	子育て支援 2クラス			授業番号	CQ203B	サブタイトル			
教員	中 典子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子ども家庭支援論で学んだ内容をもとに事例研究を行い，保育現場において必要な相談支援について明らかにする。								
到達目標	相談支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につける。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育者が行う子育て支援 保育の特性や保育者の専門性を基盤としながら展開される子育て支援の基本的な考え方を理解する。	
第2回	保護者との相互理解と信頼関係の形成 相互理解と信頼関係を形成するためのポイントを理解する。	
第3回	保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解 保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解する視点が持てるようになる。	
第4回	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 保護者同士をつなぐための技術について理解する。	
第5回	子どもと保護者に対する状況把握 保育相談支援を行うために必要な情報収集や情報活用の方法を理解する。	
第6回	支援計画と環境構成 子育て支援計画の立て方とそれに基づく環境構成の方法を理解する。	
第7回	地域における社会資源の活用 子育て支援をする際に連携することが考えられる社会資源について理解する。	
第8回	子育て支援における職員連携の方法 職員間の連携の重要性を理解する。	
第9回	社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働 地域にある多様な社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働の方法を理解する。	
第10回	事例研究1 保育所における支援を理解する。	
第11回	事例研究2 地域の子育て家庭に対する支援を理解する。	
第12回	事例研究3 障がいのある子どもとその家庭に対する支援を理解する。	
第13回	事例研究4 特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援を理解する。	
第14回	事例研究5 子ども虐待の予防と対応を理解する。	
第15回	事例研究6 要保護児童とその家庭に対する支援を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	受講中の議論により評価する。講義ごとに，自分が理解したことを整理できているか，疑問点を解決することができているか，それを表現できているか，他者の意見に対して批判的に議論ができているか，という点で評価する。
ワーク	90	子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては，授業終了後に学びの度合いを確認するとともに授業7回目15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（1時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもと保護者に寄り添う「子育て支援」	立花直樹･安田誠人監修	晃洋書房	978-4-7710-3605-5	2,000＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．相談支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につける。	相談支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につけることができる。	相談支援の方法についてロールプレイに参加することができる。	相談支援の方法についてロールプレイを通して支援方法が習得できる。	相談支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能習得が不十分である。	相談支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能が習得できない。
態度	1．子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方が理解できる。	法制度に基づく子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方の基礎が理解できる。	子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方の理解が十分でない。	子ども本位の支援にを考えた子育て支援の在り方が理解できない。

科目名	子ども家庭福祉			授業番号	CQ204	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもを発達する生活者として理解し，子どものニーズや権利を知り，その充足のために子どもと環境との関係を望ましいものに整えていくにあたり，必要なことを学ぶ。子どもの福祉の意味と目的，子どもを理解する視点，子どもの成長と発達，子どもの福祉の歴史，少子・高齢社会の子どもの福祉課題，社会的養護と自立支援，子どもと家庭福祉にかかわる公私の組織と施策（母子保健，保育施設，健全育成，障がい児対策，母子福祉対策，子育て支援等），子ども家庭福祉を担う人々，専門職と機関・施設の役割，相談支援活動，地域支援活動等について多面的に学習する。								
到達目標	子ども家庭福祉の制度と実際について理解できるようになる。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念 子どもにとっての最善の利益とは何かについて理解する。	
第2回	子どもの人権擁護と現代における子ども家庭福祉の課題 子どもの育ちを支援するために必要なことを理解する。	
第3回	子ども家庭福祉の沿革 日本及び海外の子ども家庭福祉の歴史を理解する。	
第4回	児童福祉法にいちづけられる施設や機関・財政 児童福祉法の内容を理解する。	
第5回	児童福祉法以外の子ども家庭福祉に関連する法律 子ども・子育て支援法，子どもの貧困対策の推進に関する法律，児童虐待の防止等に関する法律について理解する。	
第6回	子ども家庭福祉の専門性 子育て家庭が求める支援を把握し，専門性の向上に向けて必要なことを理解する。	
第7回	地域の子ども・子育て支援の対策 地域子ども・子育て支援事業を理解する。	
第8回	養育環境に問題のある子どもとその家庭への対策 子どもと保護者に必要な支援を理解する。	
第9回	障がいのある子どもとその家庭への対策 障がい福祉サービスの種類を理解する。	
第10回	ひとり親家庭の子どもとその家庭への対策 ひとり親家庭に対する支援の種類を理解する。	
第11回	貧困家庭の子どもとその家庭への対策 子どもが安定した暮らしをするために保育者に求められることを理解する。	
第12回	外国籍の子どもとその家庭への対策 子どもが安定した暮らしをするために保育者に求められることを理解する。	
第13回	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)防止への対策 子どもへの虐待やDVが起こったときにどのような支援機関があるかを理解する。	
第14回	非行問題・情緒障がいのある子どもとその家庭への対策 少年法と児童福祉法での対応の違いを理解する。	
第15回	子ども家庭福祉専門職の在り方 子ども家庭福祉専門職の基本的要件，子ども家庭福祉に携わる専門職の職種を理解する。 児童福祉施設・機関の専門職の職務と資格，専門職に求められる資格を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習によって評価する。
小テスト	90	各回の主要なポイントの理解を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業に備えて予習を行っておくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
第4版 子ども家庭福祉論	小崎恭弘他編	晃洋書房	978-4-7710-3608-4	2,400＋税
保育福祉小六法 2024年版	保育福祉小六法編集委員会編	みらい		
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．子ども家庭福祉の制度について理解できる	子ども家庭福祉の制度について理解できる	児童福祉法について理解できる	児童福祉法の主な内容について理解できる	児童福祉法についての理解が十分でない	子ども家庭福祉の制度が理解できない
思考・問題解決能力	1．子ども家庭福祉の実際について考えることができる	子ども家庭福祉の実際について考えることができる	子ども家庭福祉について考えることができる	児童福祉法に基づく支援について考えることができる	子ども家庭福祉の実際について考えること十分でない	子ども家庭福祉の実際についてイメージできない

科目名	保育原理			授業番号	CQ205	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	保育の基本と歴史的変遷の理解を目指した講義および保育の現状と課題の検討から，保育における基本的概念の修得を図る。								
到達目標	1．保育の歴史を踏まえて，乳幼児観と保育の意義について理解する。 2．乳幼児の発達を踏まえた子ども理解と保育の基本を学び，子どもと向き合う自分の在り方を養う。 3．家庭・地域社会・保育施設の三者による総合的な乳幼児教育・保育の在り方について理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育とは何か，を考える 「保育」という言葉の意味と法律における保育の意義について理解する。	
第2回	現代社会と保育の関係性 少子化・核家族化が進行する現代社会の状況と保育について理解する。	
第3回	保育の制度的位置づけ 保育に関する法令および制度を概観して理解する。	
第4回	保育の特性を理解する 子どもの最善の利益を考慮する保育について理解する。	
第5回	環境を通して行う保育 保育・幼児教育の基本である環境を通して行う保育の意味を理解する。	
第6回	子どもの発達と保育方法 子どもの発達過程に応じた保育の重要性について理解する。	
第7回	保育所保育指針の理解 保育所保育指針の第１章を中心に概観し、内容を理解する。	
第8回	幼稚園教育要領の理解 幼稚園教育要領の第１章を中心に概観し、内容を理解する。	
第9回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の第１章、３章、４章を中心に概観し、内容を理解する。	
第10回	保育の計画と実践 養護と教育（乳児における３つの視点、１歳以上３歳未満児及び３歳以上児の保育内容５領域）の関連性と保育計画について理解する。	
第11回	保育実践の振り返り カリキュラムマネジメントについて理解する。	
第12回	諸外国における保育の思想・保育施設の歴史 主に西洋の保育・幼児教育の歴史と代表的な人物および施設について理解する。	
第13回	日本における保育の思想・保育施設の歴史 日本の保育・幼児教育の歴史と代表的な人物、施設、法令の変遷について理解する。	
第14回	保育の現状と課題 近年の子育て支援制度の変遷と保育の課題について理解する。	
第15回	幼児期に育てたい資質・能力と保育の未来 アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム、モデルになり得る現在の世界の保育について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への積極的な参加、予習復習の状況によって評価する。
定期試験	90	授業全体を通した理解を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育の基礎知識の理解に努めること。授業に主体的に参加すること。内容が多岐にわたるため、予習，復習を欠かさないこと。
授業外学修	1．授業前にテキストを読み、内容を概観すること。 2．授業後にテキスト、参考書などを読み、講義内容を理解できるようにすること。 3．発展的に授業で紹介された参照資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
シードブック三訂　保育原理	大沼良子・榎沢良彦編著	建帛社	978-4-7679-5066-2	2090
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	9784577814475	240
保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	9784577814482	320
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	9784577814499	350
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育の基本原理の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の意義、目的、方法、保育計画、実践について十分理解し、自ら調べ知識を深めている。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の意義、目的、方法、保育計画、実践について繋がりを含め理解している。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の意義、目的、方法、保育計画、実践について個々に理解している。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の目的、方法、保育計画、実践について部分的に理解している。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の目的、方法、保育計画、実践について授業の内容の理解が不十分である。
知識・理解	2．現代社会と保育に関する 理解	子どもの最善の利益と保育について、子どもをとりまく社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について十分理解し、保育の社会的役割と責任について、自ら調べ知識を深めている。	子どもの最善の利益と保育について、子どもをとりまく社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について繋がりを含めて十分理解していている。	子どもの最善の利益と保育について、子どもをとりまく社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について授業で提示した内容を理解していている。	子どもの最善の利益と保育について、社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について授業で提示した内容を部分的に理解していている。	子どもの最善の利益と保育について、社会の現状と課題、子育て支援に関する法規や制度について授業で提示した内容の理解が不十分である。
知識・理解	3．保育思想、保育施設の歴史の理解	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を理解し、さらに自分で調べて知識を深め広げることができる。	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を理解し、さらに自分で調べてみることができる。	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を理解することができる。	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を部分的に理解することができる。	国内、海外の保育思想、保育施設の歴史、保育に関わる主要人物等について授業で示した内容の理解が不十分である。
態度	1．予習復習など自己学習が できる	課外に予習、復習の時間を取り、授業を真摯に受講し、ノートなどに授業提示の内容を十分にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	課外に予習、復習の時間を取り、授業を真摯に受講しノートなどに授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	課外に予習、復習の時間を取り、授業を真摯に受講し、ノートなどに授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が充足している。	授業を真摯に受講し、ノートなどに授業提示の内容を適切にまとめることができている。	授業提示の内容を自分なりにまとめる学習が不十分である。

科目名	社会的養護Ⅰ			授業番号	CQ206	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	社会的養護の意味と目的，子どもの権利擁護と社会的養護との関連，社会的養護の制度と実施体系（制度と法体系，仕組みと実施体系，家庭的養護，施設養護等），社会的養護の歴史，施設養護の基本原理と実際，社会的養護の現状と課題（施設等の運営管理，倫理の確立，施設内虐待の防止対策，社会的養護と地域福祉の関係等），社会的養護の専門職について講義する。								
到達目標	社会的養護の原理や内容について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもを社会的存在として理解し，養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できるようになる。なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会的養護の理念と概念 社会的養護が目指すものについて理解する。	
第2回	社会的養護の歴史的変遷 日本と海外における社会的養護の変遷について理解する。	
第3回	子どもの人権擁護と社会的養護 子どもの最善の利益について理解する。	
第4回	社会的養護の基本原則 自立に向けた支援のあり方について理解する。	
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務 施設保育士としての専門性を理解する。	
第6回	社会的養護の制度と法体系 児童福祉法を理解する。	
第7回	社会的養護のしくみと実施体系 社会的養護を利用するまでの手続きを理解する。	
第8回	社会的養護とファミリーソーシャルワーク 親子関係の尊重のあり方について理解する。	
第9回	社会的養護の対象と支援のあり方 社会的養護の対象となる子ども生活環境について理解し，支援のあり方を理解する。	
第10回	家庭養護と施設養護 家庭養護と施設養護におけるケアについて理解する。	
第11回	社会的養護にかかわる専門職 社会的養護の施設で働く専門職について理解する。	
第12回	社会的養護における援助の展開 自立支援計画の立て方を理解する。	
第13回	施設等の運営管理の現状と課題 児童福祉施設の設備及び運営基準における社会的養護に関する運営管理の内容を理解する。	
第14回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題 虐待を受けた子どもに対するケアについて理解する。	
第15回	社会的養護と地域福祉の現状と課題 他の機関と連携ができるようにするために，地域における社会資源について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
小テスト	90	課題に対して，適切な理解ができているかを評価する。課題については，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業において，ノートを取り，学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないことは積極的に質問をすること。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的養護I・II	小宅理沙監修	翔雲社	978-4-434-30257-2	2,780＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて提示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会的養護の原理や内容について学び，自ら説明できる	社会的養護の原理や内容について学び，自ら説明できる	社会的養護の原理や内容について理解できる	社会的養護の原理や内容の基礎について理解できる	社会的養護の原理や内容の基礎についての理解が十分でない	社会的養護の原理や内容の基礎が理解できない
知識・理解	２．子どもを社会的存在として理解し，養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できる	子どもを社会的存在として理解し，養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できる	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できる	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観についての基礎が理解できる	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観についての理解が十分でない	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観についての理解ができない

科目名	子どもの保健			授業番号	CQ208	サブタイトル			
教員	藤原　敏恵								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健全な発育を支援するために必要な基礎的知識が修得できるように，子どもの発育・発達と保健について講義する。さらに，さまざまな状況の子どもに適切な対応ができるように，子どもの病気の特徴や主な症状とその対応について講義する。								
到達目標	１．子どもの健康増進を図る保健活動の意義が理解できる。 ２．子どもの発育・発達と保健について理解できる。 ３．子どもの健康状態とその把握の方法について理解できる。 ４．子どもの病気の特徴と適切な対応について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの健康と保健	
第2回	地域における保健活動	
第3回	子どもの発育・発達と保健（1）身体発育と運動機能の発達	
第4回	子どもの発育・発達と保健（2）生理機能の発達	
第5回	子どもの健康状態の観察と体調不良時によくある症状の把握	
第6回	子どもの病気の特徴と対応　（1）感染症	
第7回	感染症の予防	
第8回	子どもの病気の特徴と対応　（2）救急疾患	
第9回	子どもの病気の特徴と対応　（3）先天性疾患	
第10回	子どもの病気の特徴と対応　（4）アレルギー疾患	
第11回	子どもの病気の特徴と対応　（5）慢性疾患①	
第12回	子どもの病気の特徴と対応　（5）慢性疾患②	
第13回	子育て支援	
第14回	子どもの健康診断	
第15回	まとめ（知識の確認）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的に授業に取り組んでいるか，予習復習，意見発表，課題提出で評価する
レポート		
小テスト		
定期試験	80	本科目の理解度を確認する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義形式の授業形態が中心になります。幅広く専門的な知識を修得しなければならないため，既習の知識と合わせて復習を行い，主体的に講義に参加してください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，授業プリントや教科書を読みなおし，理解を深める。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの保健テキスト	小林美由紀　編著	診断と治療社	978-4-7878-2531-5	本体2200円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	授業の進行度により授業内容を変更することがある。
備考	令和６年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師（16年）としての実務経験の中で小児病棟勤務（13年）・看護専門学校の専任教員として小児看護学担当（21年）の実務経験を有する
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小児病棟勤務（13年）での看護の経験と看護専門学校（21年）での講義および実習指導の経験から、保育現場に必要な基礎的知識を教授する。また，子どもに起こりやすい症状とその対応について，具体的にわかりやすく教授する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもの健康増進を図る保健活動の意義についての理解	母子保健に関する統計や実際の保健活動について正しい知識をもち、保育者としての保健活動の意義を理解している。その上で現状の問題点と課題を具体的に述べることができる。	母子保健に関する統計や実際の保健活動について正しい知識をもち、保育者としての保健活動の意義を理解している。また、現状の問題点と課題を大まかに述べることができる。	母子保健に関する統計や実際の保健活動の知識を持ち、保育者としての保健活動の意義を理解している。	母子保健に関する統計や実際の保健活動の知識はあるが、保育者としての保健活動の意義の理解が十分ではない。	母子保健に関する統計や実際の保健活動の知識がなく、保育者としての保健活動の意義の理解ができていない。
知識・理解	２．子どもの発育・発達と保健についての理解	各月齢・年齢の発育・発達についてすべて正確な知識がある。また発達に応じた生活習慣について理解している。	各月齢・年齢の発育・発達について正確な知識がある。また発達に応じた生活習慣について理解している。	各月齢・年齢の発育・発達について知識がある。また発達に応じた生活習慣についてほぼ理解している。	各月齢・年齢の発育・発達について知識が十分ではない。	各月齢・年齢の発育・発達について知識がない。
知識・理解	３．子どもの健康状態とその把握の方法についての理解	子どもの健康状態の把握の方法について正確な知識がある。また、体調不良時にみられる症状とその対処方法について実践できるレベルまで理解している。	子どもの健康状態の把握の方法について正確な知識がある。また、体調不良時にみられる主な症状とその対処方法について理解している。	子どもの健康状態の把握の方法について知識がある。また、体調不良時にみられる主な症状とその対処方法についてほぼ理解している。	子どもの健康状態の把握の方法について知識が十分ではない。また、体調不良時にみられる主な症状とその対処方法の理解が乏しい。	子どもの健康状態とその把握の方法について知識がない。また体調不良時の症状と対処方法を理解していない。
知識・理解	４．子どもの病気の特徴と適切な対応についての理解	子ども特有の病気の特徴についてすべて正確な知識がある。また、適切な対応について正確に理解している。	子ども特有の病気の特徴について正確な知識がある。また、適切な対応について理解している。	子どもの主要な病気の特徴について知識がある。また、適切な対応についてほぼ理解している。	子どもの主要な病気の特徴についての知識が十分ではない。また、適切な対応についての理解が乏しい。	子どもの病気の特徴と適切な対応について理解していない
態度	１．授業への取り組みの姿勢	予習・復習を行い、講義に集中して参加している。また、テーマに沿った内容で正当な意見を積極的に述べることができ、課題にも真摯に取り組むことができる。	復習を行い、講義に集中して参加している。また、テーマに沿った内容で意見や感想を述べることができ、課題にも取り組むことができる。	講義に集中して参加している。また、テーマに対し自分なりの意見や感想を述べることができ、課題にも取り組むことができる。	講義に集中していない時間がある。また、求められたら自分なりの感想を述べることができるが、課題への取り組みも適切でない。	講義に集中していない。求められても感想を述べることができず、課題にも取り組めていない。

科目名	子どもの食と栄養Ⅰ 1クラス			授業番号	CQ210A	サブタイトル			
教員	児玉 彩、髙坂 由理								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもない。しかし，子どもたちを取り巻く食環境には子どもたちの健やかな発育・発達に影響を及ぼすことが多く存在する。子どもの食と栄養Ⅰでは，栄養の基本的な知識とともに，子どもの発育・発達と食生活の関連について講義する。また，家庭や保育所等で推進が求められている食育についても説明する。								
到達目標	・栄養の基本的な内容を理解し，保育場面に活用できる。 ・小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることが理解できる。 ・発育・発達に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，保育場面に活用できる。 ・小児期における食育の重要性が理解できる。 ・健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの心身の健康と食生活	
第2回	子どもの食生活の現状と課題	
第3回	栄養の基本的概念，栄養に関する基本的知識（１）炭水化物	
第4回	栄養に関する基本的知識（２）脂質	
第5回	栄養に関する基本的知識（３）たんぱく質	
第6回	栄養に関する基本的知識（４）ミネラル，ビタミン，水	
第7回	食べ物の消化と吸収（１）食べ物の消化過程	
第8回	食べ物の消化と吸収（２）栄養素の吸収と未消化物の排泄	
第9回	妊娠期と授乳期の食生活	
第10回	乳児期・幼児期の発育・発達と食生活	
第11回	学童期・思春期の発育・発達と食生活	
第12回	生涯発達と食生活	
第13回	食育の基本と内容	
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	
第15回	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。
レポート	15	授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。
小テスト	10	主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業後に，講義内容の整理や確認問題へ取り組む。 ・興味を持てた部分をさらに自分自身で調べる。 ・自分自身の食生活に関心を持ち，講義で学んだことを各自の食生活で実践する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	太田百合子，堤ちはる	羊土社	978-4-7581-0911-6	2，400円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて講義中指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養の基本的な内容を理解している。	学修した栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、大体述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した栄養に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連を理解している。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、大体述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	３．小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性ついて、完璧に述べることができる。	小児期における食育の重要性ついて、完璧ではないがほぼ理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性ついて、ほぼ述べることができる。	小児期における食育の重要性ついて、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	小児期における食育の重要性ついて、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、演習内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	演習に前向きに臨む姿勢が見受けられ、演習内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	演習に出席し、演習の内容を理解した上でコメントシートを提出している。	演習に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	演習に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	子どもの食と栄養Ⅰ 2クラス			授業番号	CQ210B	サブタイトル			
教員	児玉 彩、髙坂 由理								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもない。しかし，子どもたちを取り巻く食環境には子どもたちの健やかな発育・発達に影響を及ぼすことが多く存在する。子どもの食と栄養Ⅰでは，栄養の基本的な知識とともに，子どもの発育・発達と食生活の関連について講義する。また，家庭や保育所等で推進が求められている食育についても説明する。								
到達目標	・栄養の基本的な内容を理解し，保育場面に活用できる。 ・小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることが理解できる。 ・発育・発達に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，保育場面に活用できる。 ・小児期における食育の重要性が理解できる。 ・健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの心身の健康と食生活	
第2回	子どもの食生活の現状と課題	
第3回	栄養の基本的概念，栄養に関する基本的知識（１）炭水化物	
第4回	栄養に関する基本的知識（２）脂質	
第5回	栄養に関する基本的知識（３）たんぱく質	
第6回	栄養に関する基本的知識（４）ミネラル，ビタミン，水	
第7回	食べ物の消化と吸収（１）食べ物の消化過程	
第8回	食べ物の消化と吸収（２）栄養素の吸収と未消化物の排泄	
第9回	妊娠期と授乳期の食生活	
第10回	乳児期・幼児期の発育・発達と食生活	
第11回	学童期・思春期の発育・発達と食生活	
第12回	生涯発達と食生活	
第13回	食育の基本と内容	
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	
第15回	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。
レポート	15	授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。
小テスト	10	主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業後に，講義内容の整理や確認問題へ取り組む。 ・興味を持てた部分をさらに自分自身で調べる。 ・自分自身の食生活に関心を持ち，講義で学んだことを各自の食生活で実践する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	太田百合子，堤ちはる	羊土社	978-4-7581-0911-6	2，400円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて講義中指示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．栄養の基本的な内容を理解している。	学修した栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、大体述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した栄養に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	2．健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連を理解している。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、大体述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	3．小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性ついて、完璧に述べることができる。	小児期における食育の重要性ついて、完璧ではないがほぼ理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性ついて、ほぼ述べることができる。	小児期における食育の重要性ついて、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	小児期における食育の重要性ついて、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1．健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
態度	1．演習に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、演習内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	演習に前向きに臨む姿勢が見受けられ、演習内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	演習に出席し、演習の内容を理解した上でコメントシートを提出している。	演習に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	演習に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	障害児保育 1クラス			授業番号	CQ214A	サブタイトル			
教員	佐藤 伸隆								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	障害者権利条約や児童権利条約によって，障害児保育の重要性は益々高まっている。 本講義は，何よりもまずインクルーシブ保育に連なる障害児保育の理念を押さえた上で，「障害」「障害児の生活」について理解し，個々の保育場面に応じた支援・配慮の技術を修得する。 さらに，障害のある子どもに対する個別支援（指導）計画や関係機関・地域社会との連携，ひいては家庭（保護者）支援等に至る，障害児保育の全体像を学修する。								
到達目標	１．障害児保育の今日的な理念や意義，視点を学び，それを説明することができる。 ２．障害の特性や心身の発達等に応じた支援，合理的配慮の基礎を修得して，実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。 ３．個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を知り，その流れを展開することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	障害児保育を支える理念 ⇒障害の概念とその歴史的変遷を理解する。／障害者権利擁護条約・児童の権利に関する条約とそこから連なる今日の障害児保育の理念について，ＩＣＦモデル・インクルーシブ保育等をキーワードに理解する。	
第2回	視覚障害・聴覚障害のある子どもの理解と支援 ⇒身体障害の全体像を理解する。／視覚障害の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを理解する。／視覚障害のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第3回	音声言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援 ⇒音声言語障害・場面緘黙の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／音声言語障害や場面緘黙のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第4回	肢体不自由・重症心身障害のある子どもと医療的ケアが必要な子どもの理解と支援 ⇒肢体不自由・重症心身障害・医療的ケアの定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／肢体不自由・重症心身障害のある子ども、医療的ケアが必要な子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。／病児保育を理解する。	
第5回	知的障害のある子どもの理解と支援 ⇒知的障害の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／知的障害のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第6回	発達障害（自閉スペクトラム症）のある子どもの理解と支援 ⇒発達障害の全体像を理解する。／自閉症スペクトラムの定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／自閉スペクトラム症のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第7回	発達障害（注意欠陥（如）多動性障害・学習障害など）のある子どもの理解と支援 ⇒注意欠陥（如）多動性障害・学習障害の定義と種類，障害特性を理解する。／感覚過敏・鈍麻を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／注意欠陥（如）多動性障害・学習障害・感覚過敏や鈍麻のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第8回	特に配慮が必要な子ども，家族の理解と支援 ⇒てんかん発作と発作時の対応方法を理解する。／高次脳機能障害を理解する。／気分障害（うつ・そううつ等）を理解する。／行動障害・強度行動障害を理解する。／ストレス関連障害，統合失調症その他の精神障害を理解する。／いわゆる「気になる子」「気になる保護者」「気になる家庭」について理解する。／二次障害を理解する。 ※施設保育や保護者（理解）支援を念頭におき，乳幼児の他，広く児童や保護者等（成人）に生じる障害，疾病を理解する。	
第9回	子ども同士の関わり，育ち合いと子どもをみる視点 ⇒子ども同士の関わりと育ち合い，媒介者としての保育者の役割を理解する。／子どもたちのとらえ方と関わり方，アセスメント方法を修得する。	
第10回	個別支援（指導）計画の作成，職員間の連携・協働 ⇒計画的な保育の必要性を理解する。／個別支援（指導）計画の意義と関係性を理解する。／記録と評価の必要性，ポイントを理解する。／職員間の連携・協働の必要性をを理解した上で，カンファレンスの方法を修得する。	
第11回	保護者や家族に対する理解と支援 ⇒保護者・家族の障害受容と保育者の役割を理解する。／保護者・家族連携の意義と方法を修得する。／保護者同士の交流や支え合いの必要性と保育所，保育者の役割を理解する。	
第12回	障害児支援の制度理解と地域における連携・協働 ⇒障害者権利条約・障害者基本法を踏まえ，今日の障害者児福祉サービスの考え方を理解する。／障害者総合支援法・児童福祉法における障害児支援サービスの概要を理解する。／障害のある子どもの支援機関（窓口）・団体を把握する。／障害のある子どもの支援時における地域連携のしくみと方法を理解する。	
第13回	小学校との連携，就学支援 ⇒障害のある子どもなどの修学の流れを理解する。／障害のある子どもなどが学ぶ場（学校等）と学習の概要を理解する。／就学支援における保育所，保育者の役割を理解する。	
第14回	配慮が必要な子どもの保育に関わる現状と課題 ⇒障害の早期発見・早期支援の必要性を理解する。／療育活動・児童発達支援について理解する。／障害のある子どもの支援技術を理解する。／インクルーシブ保育の実現に向けての展望を理解する。	
第15回	事例検討 ⇒障害児保育における実践事例を通して，シュミレーショントレーニングを行う。/保育者として障害のある子どもや支援を必要とする子どもに保育を行うことの意味を総括する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度，予習・復習の取り組み状況を評価する。
演習への取り組み姿勢／態度	20	ワークへの取り組み姿勢や発表内容を授業理解度、目標達成度を基準に評価する。
定期試験	60	授業全体の理解度，目標達成度を筆記試験で評価する。

評価の方法：自由記載	〈フィードバック〉 ○レポート等については，授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。 ○定期試験等についてフィードバックが必要な場合は，担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。 ※授業時間外は学内にいないため。
受講の心得	○この授業では，まず「しょうがい」を知ることから始める。そして，障害のある子どもや保護者の「暮らし」を理解し，その育ちを「支える」ことの意味へと深めていきたいと思う。 ○まずは障害や障害のある子ども，保護者の生活に関心をもつこと。そして，もしも自分自身に障害があったら？ 障害のある子どもに必要な配慮は？ 障害のない子どもやその保護者に伝えるべきことは？ クラス全体ではどのような配慮や工夫が必要か？などの視点をもち授業に臨むこと。
授業外学修	〈予習〉※90分／週 ○授業内容に該当する教科書の節を読み込み，基本的なことを理解する。授業中，任意に説明を求めることがある。 また，不明点や疑問点をまとめ，質問できるように準備をして授業に臨むこと。 ⇒授業は教科書を一読していることを前提に行う。 〈復習〉※120分／週 (1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す（どのような授業内容だったのか，自分の言葉で整理する）。 (2)事前学修（予習）内容と授業の内容を擦り合わせ，「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」を明らかにする。 (3)「分からなかったこと」「新たな疑問点」を，参考書籍や図書館の書誌，インターネット等で調べ，自分自身で明らかにする。 ⇒自身で調べても不明な場合，真偽を確認したい場合等は，オフィスアワーを活用して担当教員に質問すること。 〈発展〉※30分／週 ○授業中に関心をもったことやさらに知りたいと思ったことを書籍，インターネット等で調べ，学びを深める。 ※学修方法が分からない場合や参考図書を知りたい場合は，翌週の授業前後に質問すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害児保育演習ブック	松本峰雄編	ミネルヴァ書房	9784623090686	2640
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田寿美男著	岩波現代文庫	978-4-00-603179-4	880
障害児保育キーワード100	小川英彦編	福村出版	9784571121319	2200
よく分かる障害児保育第2版	尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子	ミネルヴァ書房	9784623081240	2750
よくわかるインクルーシブ保育	尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和	ミネルヴァ書房	9784623087341	2750
わが子は発達障害 心に響く３３編の子育て物語	内山登紀夫・明石洋子・高山恵子	ミネルヴァ書房	9784623070077	2200

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和５年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	障害児者やその家族への相談支援，合理的配慮の提供支援（５年）。障害者虐待・障害者差別対応（２年）。障害児者の権利擁護支援，障害理解の普及啓発，障害児支援・保護者支援の助言・指導等（15年）。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	障害児者やその家族に対する相談支援，合理的配慮の経験等を生かして，障害児保育の基礎を養う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．障害児保育の今日的な理念や意義，視点を学び，それを説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点を，根拠立てて説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点を，自分の言葉で一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点の一部を説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点をほとんど説明することができない。
知識・理解	２．障害の特性や心身の発達等に応じた支援，合理的配慮の基礎を修得して，実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，根拠立てて説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，自分の言葉で一通り説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法の一部を説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を説明することはほとんどできない。
知識・理解	３．個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を知り，その流れを展開することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開を，根拠立てて説明することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開を，自分なりに説明することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開を，教員の説明通りに説明することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開を，一部のみ説明できる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開をほとんど説明できない。
技能	１．障害児保育の今日的な理念や意義，視点を学び，それを説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点をもって，障害のある子どもやその保護者を，個別にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点をもって，障害のある子どもやその保護者を包括的にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点をもって，障害のある子どもやその保護者をイメージでとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点で，障害のある子どもやその保護者をとらえることができるとき，できないときがある。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点で，障害のある子どもやその保護者を，とらえることがほとんどできない。
技能	２．障害の特性や心身の発達等に応じた支援，合理的配慮の基礎を修得して，実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，根拠立てて行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，自分なりに一通り行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，教員の説明通りに一通り行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を行うことができるとき，できないときがある。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を行うことがほとんどできない。
技能	３．個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を知り，その流れを展開することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を，その流れを根拠立てて展開することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を，自分なりに展開することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，教員の説明通りに展開することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を，展開できるとき，できないときがある。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法をほとんど展開できない。
態度	１．障害児保育の今日的な理念や意義，視点を学び，それを説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，根拠立てて説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，自分の言葉で一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値の一部を説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則った，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，ほとんど説明することができない。

科目名	障害児保育 2クラス			授業番号	CQ214B	サブタイトル			
教員	佐藤　伸隆								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	障害者権利条約や児童権利条約によって，障害児保育の重要性は益々高まっている。 本講義は，何よりもまずインクルーシブ保育に連なる障害児保育の理念を押さえた上で，「障害」「障害児の生活」について理解し，個々の保育場面に応じた支援・配慮の技術を修得する。 さらに，障害のある子どもに対する個別支援（指導）計画や関係機関・地域社会との連携，ひいては家庭（保護者）支援等に至る，障害児保育の全体像を学修する。								
到達目標	１．障害児保育の今日的な理念や意義，視点を学び，それを説明することができる。 ２．障害の特性や心身の発達等に応じた支援，合理的配慮の基礎を修得して，実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。 ３．個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を知り，その流れを展開することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害児保育を支える理念 ⇒障害の概念とその歴史的変遷を理解する。／障害者権利擁護条約・児童の権利に関する条約とそこから連なる今日の障害児保育の理念について，ＩＣＦモデル・インクルーシブ保育等をキーワードに理解する。	
第2回	視覚障害・聴覚障害のある子どもの理解と支援 ⇒身体障害の全体像を理解する。／視覚障害の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを理解する。／視覚障害のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第3回	音声言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援 ⇒音声言語障害・場面緘黙の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／音声言語障害や場面緘黙のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第4回	肢体不自由・重症心身障害のある子どもと医療的ケアが必要な子どもの理解と支援 ⇒肢体不自由・重症心身障害・医療的ケアの定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／肢体不自由・重症心身障害のある子ども、医療的ケアが必要な子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。／病児保育を理解する。	
第5回	知的障害のある子どもの理解と支援 ⇒知的障害の定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／知的障害のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第6回	発達障害（自閉スペクトラム症）のある子どもの理解と支援 ⇒発達障害の全体像を理解する。／自閉症スペクトラムの定義と種類，障害特性を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／自閉スペクトラム症のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第7回	発達障害（注意欠陥（如）多動性障害・学習障害など）のある子どもの理解と支援 ⇒注意欠陥（如）多動性障害・学習障害の定義と種類，障害特性を理解する。／感覚過敏・鈍麻を理解する。／気づきのポイントを押さえる。／注意欠陥（如）多動性障害・学習障害・感覚過敏や鈍麻のある子どもに対する支援の基本を押さえた上で，保育時の援助，配慮を修得する。	
第8回	特に配慮が必要な子ども，家族の理解と支援 ⇒てんかん発作と発作時の対応方法を理解する。／高次脳機能障害を理解する。／気分障害（うつ・そううつ等）を理解する。／行動障害・強度行動障害を理解する。／ストレス関連障害，統合失調症その他の精神障害を理解する。／いわゆる「気になる子」「気になる保護者」「気になる家庭」について理解する。／二次障害を理解する。 ※施設保育や保護者（理解）支援を念頭におき，乳幼児の他，広く児童や保護者等（成人）に生じる障害，疾病を理解する。	
第9回	子ども同士の関わり，育ち合いと子どもをみる視点 ⇒子ども同士の関わりと育ち合い，媒介者としての保育者の役割を理解する。／子どもたちのとらえ方と関わり方，アセスメント方法を修得する。	
第10回	個別支援（指導）計画の作成，職員間の連携・協働 ⇒計画的な保育の必要性を理解する。／個別支援（指導）計画の意義と関係性を理解する。／記録と評価の必要性，ポイントを理解する。／職員間の連携・協働の必要性をを理解した上で，カンファレンスの方法を修得する。	
第11回	保護者や家族に対する理解と支援 ⇒保護者・家族の障害受容と保育者の役割を理解する。／保護者・家族連携の意義と方法を修得する。／保護者同士の交流や支え合いの必要性と保育所，保育者の役割を理解する。	
第12回	障害児支援の制度理解と地域における連携・協働 ⇒障害者権利条約・障害者基本法を踏まえ，今日の障害者児福祉サービスの考え方を理解する。／障害者総合支援法・児童福祉法における障害児支援サービスの概要を理解する。／障害のある子どもの支援機関（窓口）・団体を把握する。／障害のある子どもの支援時における地域連携のしくみと方法を理解する。	
第13回	小学校との連携，就学支援 ⇒障害のある子どもなどの修学の流れを理解する。／障害のある子どもなどが学ぶ場（学校等）と学習の概要を理解する。／就学支援における保育所，保育者の役割を理解する。	
第14回	配慮が必要な子どもの保育に関わる現状と課題 ⇒障害の早期発見・早期支援の必要性を理解する。／療育活動・児童発達支援について理解する。／障害のある子どもの支援技術を理解する。／インクルーシブ保育の実現に向けての展望を理解する。	
第15回	事例検討 ⇒障害児保育における実践事例を通して，シュミレーショントレーニングを行う。/保育者として障害のある子どもや支援を必要とする子どもに保育を行うことの意味を総括する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度，予習・復習の取り組み状況を評価する。
演習への取り組み姿勢／態度	20	ワークへの取り組み姿勢や発表内容を授業理解度、目標達成度を基準に評価する。
定期試験	60	授業全体の理解度，目標達成度を筆記試験で評価する。

評価の方法：自由記載	〈フィードバック〉 ○レポート等については，授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。 ○定期試験等についてフィードバックが必要な場合は，担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。 ※授業時間外は学内にいないため。
受講の心得	○この授業では，まず「しょうがい」を知ることから始める。そして，障害のある子どもや保護者の「暮らし」を理解し，その育ちを「支える」ことの意味へと深めていきたいと思う。 ○まずは障害や障害のある子ども，保護者の生活に関心をもつこと。そして，もしも自分自身に障害があったら？ 障害のある子どもに必要な配慮は？ 障害のない子どもやその保護者に伝えるべきことは？ クラス全体ではどのような配慮や工夫が必要か？などの視点をもち授業に臨むこと。
授業外学修	〈予習〉※90分／週 ○授業内容に該当する教科書の節を読み込み，基本的なことを理解する。授業中，任意に説明を求めることがある。 また，不明点や疑問点をまとめ，質問できるように準備をして授業に臨むこと。 ⇒授業は教科書を一読していることを前提に行う。 〈復習〉※120分／週 (1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す（どのような授業内容だったのか，自分の言葉で整理する）。 (2)事前学修（予習）内容と授業の内容を照り合わせ，「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」を明らかにする。 (3)「分からなかったこと」「新たな疑問点」を，参考書籍や図書館の書誌，インターネット等で調べ，自分自身で明らかにする。 ⇒自身で調べても不明な場合，真偽を確認したい場合等は，オフィスアワーを活用して担当教員に質問すること。 〈発展〉※30分／週 ○授業中に関心をもったことやさらに知りたいと思ったことを書籍，インターネット等で調べ，学びを深める。 ※学修方法が分からない場合や参考図書を知りたい場合は，翌週の授業前後に質問すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害児保育演習ブック	松本峰雄編	ミネルヴァ書房	9784623090686	2640
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田寿美男著	岩波現代文庫	978-4-00-603179-4	880
障害児保育キーワード100	小川英彦編	福村出版	9784571121319	2200
よく分かる障害児保育第2版	尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子	ミネルヴァ書房	9784623081240	2750
よくわかるインクルーシブ保育	尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和	ミネルヴァ書房	9784623087341	2750
わが子は発達障害 心に響く３３編の子育て物語	内山登紀夫・明石洋子・高山恵子	ミネルヴァ書房	9784623070077	2200
参考書：自由記載				

その他	
備考	令和５年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	障害児者やその家族への相談支援，合理的配慮の提供支援（５年）。障害者虐待・障害者差別対応（２年）。障害児者の権利擁護支援，障害理解の普及啓発，障害児支援・保護者支援の助言・指導等（15年）。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	障害児者やその家族に対する相談支援，合理的配慮の経験等を生かして，障害児保育の基礎を養う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．障害児保育の今日的な理念や意義，視点を学び，それを説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点を，根拠立てて説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点を，自分の言葉で一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点の一部を説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点をほとんど説明することができない。
知識・理解	２．障害の特性や心身の発達等に応じた支援，合理的配慮の基礎を修得して，実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，根拠立てて説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，自分の言葉で一通り説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法の一部を説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を説明することはほとんどできない。
知識・理解	３．個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を知り，その流れを展開することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開を，根拠立てて説明することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開を，自分なりに説明することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開を，教員の説明通りに説明することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開を，一部のみ説明できる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働方法の展開をほとんど説明できない。
技能	１．障害児保育の今日的な理念や意義，視点を学び，それを説明することができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点をもって，障害のある子どもやその保護者を，個別にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点をもって，障害のある子どもやその保護者を包括的にとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点をもって，障害のある子どもやその保護者をイメージでとらえることができる。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点で，障害のある子どもやその保護者をとらえることができるとき，できないときがある。	障害児保育の今日的な理念，意義，視点で，障害のある子どもやその保護者を，とらえることがほとんどできない。
技能	２．障害の特性や心身の発達等に応じた支援，合理的配慮の基礎を修得して，実践に向けた第一歩を進みはじめることができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，根拠立てて行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，自分なりに一通り行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，教員の説明通りに一通り行うことができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を行うことができるとき，できないときがある。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を行うことがほとんどできない。
技能	３．個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を知り，その流れを展開することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を，その流れを根拠立てて展開することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を，自分なりに展開することができる。	障害特性や発達に応じた支援，配慮方法を，教員の説明通りに展開することができる。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法を，展開できるとき，できないときがある。	個別支援（指導）計画や家庭(保護者)支援，関係機関との連携・協働の方法をほとんど展開できない。
態度	１．障害児保育の今日的な理念や意義，視点を学び，それを説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，根拠立てて説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，自分の言葉で一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則り，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値の一部を説明することができる。	児童の権利条約・障害者権利条約に則った，障害のある子どもに対する今日的な支援者の価値を，ほとんど説明することができない。

科目名	地域福祉論			授業番号	CQ215	サブタイトル			
教員	佐藤　伸隆								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	保育を含む今日の社会福祉は「地域福祉の推進」を目的として実施されている。 本授業では，地域福祉の今日的意義と理念を理解するとともに，受講する学生諸氏が将来，放課後児童クラブの支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者として活動するために必要な知識，技術を講義する。								
到達目標	１．子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。 ２．地域連携・協働を実現するため，地域の社会資源を調べ，それをまとめることができる。 ３．子ども家庭福祉の専門職をめざすものとして，地域援助技術（コミュニティワーク）を活用し，子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決，緩和することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	今日の地域社会とその課題 ⇒「地域」「地域社会」の意味を理解する。／地域社会の機能を理解する。／地域関係の崩壊と地域社会の機能喪失によって構造的に生じている「地域課題」を理解する。	
第2回	地域福祉の推進(1) ⇒地域福祉の概念と歴史的展開を理解する。／社会福祉法における「地域福祉の推進」の意義と理念を理解する。	
第3回	地域福祉の推進(2) ⇒「地域共生社会」の実現，「地域包括ケアシステム」の構築の意味と住民を主体とした地域福祉推進の関係性を考察する。／今日における地域福祉の機能と役割を理解する。	
第4回	地域福祉に関わる法令 ⇒社会福祉法における地域福祉の詳細を理解する。／保育所保育指針等と地域・地域社会の関係性を理解する／放課後児童クラブ運営指針と地域・地域社会の関係性を理解する。／障害（児）関係法令と地域・地域社会の関係性を理解する。	
第5回	ボランティア活動と福祉教育 ⇒ボランティア活動の歴史と阪神淡路大震災「ボランティア元年」を理解する。／今日のボランティア活動の特徴を整理する。／福祉教育の意義と現状を理解する。	
第6回	地域課題を探る ⇒子ども家庭に関わる地域（生活）課題を探る。／地域（生活）課題の特徴，傾向を明らかにする。	
第7回	地域福祉の推進機関・団体（社会福祉協議会） ⇒社会福祉協議会の歴史と今日的意義を理解する。／社会福祉協議会の活動原則，機能を理解する。／現在の社会福祉協議会の体制を理解する。／社会福祉協議会の活動と放課後児童クラブ，保育所等の関係性を理解する。	
第8回	地域福祉の推進機関・団体（国・都道府県・市町村と関係団体） ⇒地域福祉に関わる国の機関の機能を理解する。／地域福祉に関わる都道府県・政令指定都市の機関を理解する。／地域福祉に関わる市町村の機関を理解する。／要保護児童対策地域協議会・障害者自立支援協議会の役割を理解する。	
第9回	地域福祉の推進機関・団体（民生委員児童委員・福祉委員） ⇒民生委員児童委員の歴史を遡る。／民生委員児童委員の役割を理解する。／主任児童委員の役割と活動を理解する。／福祉委員の役割と活動を理解する。／民生委員児童委員・福祉委員の活動と放課後児童クラブ・保育所等の関係性を理解する。	
第10回	地域福祉の推進機関・団体（ＮＰＯ法人・自治会・中間支援団体・民間企業） ⇒特定非営利活動（ＮＰＯ）法人の機能と活動を理解する。／自治会（町内会）の機能と活動を理解する。／ボランティアセンター・市民活動支援センターの機能と活動を理解する。／民間企業におけるＣＳＲの現状を理解し，可能性を検討する。	
第11回	地域福祉を推進する専門職 ⇒コミュニティワーカーの役割と専門性を理解する。／地域支援コーディネーターの役割と専門性を理解する。／ボランティアコーディネーターの役割と専門性を理解する。	
第12回	地域福祉援助技術（コミュニティワーク） ⇒コミュニティオーガニゼーションからコミュニティワーク・コミュニティソーシャルワークに至る歴史的展開と，それぞれの意義，機能を理解する。／コミュニティワークの展開方法を理解する。	
第13回	地域福祉演習(1) ⇒第６回で抽出，整理した地域（生活）課題の解決方法を検討する。	
第14回	地域福祉演習(2) ⇒演習事例に基づき，「きび町」の地域課題の解決方法を検討する。	
第15回	地域福祉演習(3) ⇒演習事例に基づき，放課後児童クラブ，保育所等における地域(生活)課題を解決する。／放課後児童クラブの支援員，保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者等として地域福祉を推進する意味を総括する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習・復習の取り組み状況を評価する。
課題への取り組みの状況／態度	20	ワーク課題に対する発表態度やその内容を授業理解度，目標達成度を基準に評価する。
定期試験	60	授業全体の理解度、目標達成度を筆記試験で評価する。

評価の方法：自由記載	〔フィードバック〕 ○レポート等については，授業中にコメントする。個別の質問等については授業時間の前後に申し出ること。 ○定期試験等についてフィードバックが必要な場合は，担当教員のメールアドレスに個別に申し出ること。 ※授業時間外は学内にいないため。
受講の心得	学生の皆さんにとって「地域社会」との関わりは縁遠く，分かりづらいものかも知れない。本科目の受講を機に地域を意識し「地域（社会）とは何か？」また「地域社会にはどのような働きがあるのか？」を探求してほしい。 そして，地域社会が子どもや保護者の生活にどのような影響を与え得るか，放課後児童支援員・保育者等として地域社会にどう関わり，協働していくのかを考察してほしい。 なによりも，地域福祉論の現場は「地域（社会）」にある。
授業外学修	〈予習〉※90分／週 ○授業内容に関わる部分を参考図書，図書館の書誌，インターネット等で調べ，自らの関心事と疑問点を明らかにする。 〈復習〉※120分／週 (1)毎回の授業内容を自分なりにまとめ直す（どのような授業内容だったのか，自分の言葉で整理する）。 (2)事前学修（予習）内容と授業の内容を照り合わせ，「理解できたこと」「理解しづらかったこと」「新たな疑問点」に整理する。 (3)「分からなかったこと」「新たな疑問点」を，参考書籍や図書館の書誌，インターネット等で調べ，自分自身で明らかにする。 ⇒自分自身で調べても不明な場合，真偽を確認したい場合等は，次の授業で担当教員に質問すること。 〈発展〉※30分／週 ○授業中に関心をもったことやさらに知りたいと思ったことを書籍，インターネット等で調べ，学びを深めること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版　よくわかる地域福祉	上野谷加代子・松端克文・永田祐編	フレーベル館	9784623085927	2640
地域福祉援助をつかむ	岩間伸之・原田正樹	有斐閣	9784641177147	2310
保育をひらく「コーディネーター」の視点	まちの保育園・こども園／東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター	フレーベル館	9.78457781502197E+25	1980
「地域に信頼される保育園になるための調査」～保育園と地域とのかかわり状況を把握する～調査報告書	東京都社会福祉協議会保育部会調査研究委員会	東京都社会福祉協議会	9784863532793	770

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和５年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	社会福祉協議会の職員として地域福祉推進に従事（15年）。NPO法人の役員として地域福祉推進に関わる（５年）。団体を主宰して地域（福祉）創生とコミュニティ・ソーシャル・ワークを進めている（13年）。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	これまで，さまざまな形で地域福祉推進に関わり続けてきた経験を生かし，受講する学生諸氏が将来，放課後児童クラブの支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者等として現場に出ることを前提に，具体的，実践的な授業を提供する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的な意義，理念を，根拠立てて説明することができる。	地域福祉の今日的な意義，理念を，自分の言葉で一通り説明することができる。	地域福祉の今日的な意義，理念を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	地域福祉の今日的な意義，理念の一部を説明することができる。	地域福祉の今日的な意義，理念を，ほとんど説明することができない。
知識・理解	２．地域連携・協働を実現するため，地域の社会資源を調べ，それをまとめることができる。	地域の社会資源を調べ，まとめる方法を合理的に説明することができる。	地域の社会資源を自分自身で調べ，まとめる方法を自分なりに説明することができる。	地域の社会資源を調べ，まとめる方法を教員の説明通りに説明することができる。	地域の社会資源を調べ，まとめる方法を，一部のみ説明することができる。	地域の社会資源を調べ，まとめる方法をほとんど説明することができない。
知識・理解	３．子ども家庭福祉の専門職として，地域援助技術（コミュニティ・ワーク）を活用し，子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決，緩和することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決，緩和方法を，根拠立てて説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決，緩和する方法を，自分なりに説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決，緩和方法を，教員の説明通りに説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決，緩和方法を，一部のみ説明することができる。	子ども家庭に関わる地域（生活）課題の解決，緩和方法を，ほとんど説明することができない。
思考・問題解決能力	１．子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を，実際の地域社会を例に，根拠立てて考察することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を，実際の地域社会を例に，自分なりに考察することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を，実際の地域社会を例に，グループで考察することができる。	地域福祉の今日的意義と理念を，実際の地域社会を例に考察することができるときと，できないときがある。	地域福祉の今日的意義と理念を，実際の地域社会を例に考察することがほとんどできない。
思考・問題解決能力	２．地域連携・協働を実現するため，地域の社会資源を調べ，それをまとめることができる。	地域の社会資源の活用，創造方法を考察し，合理的にまとめることができる。	地域の社会資源の活用，創造方法を考察し，自分なりにまとめることができる。	地域の社会資源の活用，創造方法をグループで考察し，まとめることができる。	地域の社会資源の活用，創造方法を考察し，まとめることができるときと，できないときがある。	地域の社会資源の活用，創造方法を考察し，まとめることがほとんどできない。
思考・問題解決能力	３．子ども家庭福祉の専門職として，地域援助技術（コミュニティ・ワーク）を活用し，子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決，緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を，根拠立てて考察することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を，自分なりに考察することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を，グループで考察することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を，考察することができるときと，できないときがある。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を，考察するすることがほとんどできない。
技能	１．子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的な理念，意義，視点をもって，地域社会や地域住民，地域（生活）課題を個別にとらえることができる。	地域福祉の今日的な理念，意義，視点をもって，地域社会や地域住民，地域（生活）課題を包括的にとらえることができる。	地域福祉の今日的な理念，意義，視点をもって，地域社会や地域住民，地域（生活）課題をイメージでとらえることができる。	地域福祉の今日的な理念，意義，視点で，地域社会や地域住民，地域（生活）課題をとらえることができるときと，できないときがある。	地域福祉の今日的な理念，意義，視点で，地域社会や地域住民，地域（生活）課題を，とらえることがほとんどできない。
技能	２．地域連携・協働を実現するため，地域の社会資源を調べ，それをまとめることができる。	地域の社会資源の活用，創造方法を自分自身で調べ，合理的にまとめることができる。	地域の社会資源の活用，創造方法を自分自身で調べ，自分なりにまとめることができる。	地域の社会資源の活用，創造方法を自分自身で調べ，グループでまとめることができる。	地域の社会資源の活用，創造方法を調べ，まとめることができるときと，できないときがある。	地域の社会資源の活用，創造方法を調べ，まとめることがほとんどできない。
技能	３．子ども家庭福祉の専門職として，地域援助技術（コミュニティ・ワーク）を活用し，子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決，緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を，根拠立てて解決・緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を，自分なりに解決・緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を，教員や友人からの助言を得て解決・緩和することができる。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を，解決・緩和することができるときと，できないときがある。	子ども家庭に関わる生活（地域）課題を解決・緩和することがほとんどできない。
態度	１．子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	児童の権利条約に則り，子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を，根拠立てて説明することができる。	児童の権利条約に則り，子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を，自分の言葉で一通り説明することができる。	児童の権利条約に則り，子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	児童の権利条約に則り，子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値の一部を説明することができる。	児童の権利条約に則った，子ども家庭福祉における地域福祉実践者としての価値を，ほとんど説明することができない。

科目名	保育計画Ⅰ 1クラス			授業番号	CQ216A	サブタイトル			
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園，保育所，認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて，その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達的特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに，理論的な知識をもとに，実践的な保育技術についての具体的な手法を知り，実践発表を通してスキルを身につけられるよう，保育の計画との関係性を明らかにする。								
到達目標	1，乳幼児の発達的特徴を理解し，各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。 2，保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。 3，乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し，具体的な遊びや生活習慣について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育における計画の意義 「保育において計画を立てる意義」，及び「保育の計画の種類と意識化すべき点」を理解する。	
第2回	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 3つのタイプの保育の場，それぞれの機能等について理解する。	
第3回	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領で指導計画の編成に関わることについて，どのように示されているかを確認し理解する。	
第4回	指導計画の全体構造について 「保育の計画の種類」，及び「指導計画作成の手続き」や「指導計画作成の前に保育者が理解すべきこと」について理解する。	
第5回	部分指導案の考え方と作成(1) 「短期指導計画の種類」，「短期指導計画の作成原理」について理解する。	
第6回	部分指導案の考え方と作成(2) 「短期指導計画作成におけるねらいの設定」及び「短期指導計画における内容の設定」について理解する。	
第7回	乳児の指導計画作成事例と展開 「０歳児の在籍児童と発達の概要」，「０歳児の指導計画作成の基本的な考え方」，「１・２歳児の在籍児童と発達の概要」及び「１・２歳児の指導計画作成の基本的な考え方」について理解する。	
第8回	乳児の指導計画作成事例と作成 「乳児の指導計画作成事例」に基づき，乳児の指導計画の作成を行う。	
第9回	乳児の指導計画作成事例と作成 「１・２歳児の指導計画作成事例」に基づき，１・２歳児の指導計画の作成を行う。	
第10回	幼児の指導計画作成事例と展開と幼児の指導計画作成事例と作成(1) 「幼児の指導計画作成の基本的な考え方」について理解する。 「３歳児の指導計画作成事例」に基づき，３歳児の指導計画の作成を行う。	
第11回	幼児の指導計画作成事例と作成(2) 「４歳児の指導計画作成事例」に基づき，４歳児の指導計画の作成を行う。	
第12回	幼児の指導計画作成事例と作成(3) 「５歳児の指導計画作成事例」に基づき，５歳児の指導計画の作成を行う。	
第13回	長期指導計画の作成 「長期指導計画の種類」，「長期指導計画作成の視点と原理」について理解する。	
第14回	小学校との接続について 小学校との接続を意識した指導計画や小学校におけるスタートカリキュラムについて理解する。	
第15回	まとめと小テスト まとめと内容の理解度をはかるための小テストを行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	乳幼児の発達的特徴や，各年齢に応じた保育計画を理解し，幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	保育計画に関わる知識・理解について評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子ども理解に努め，柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心がけ，練習を怠らないこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。
授業外学修	1，次回授業までに，毎回授業終了時に出す課題を行い，練習すること。 2，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	チャイルド本社	9784805402283	本体500円＋税
保育の計画と評価	卜田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500円＋税
使用テキスト：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．乳幼児の発達的特徴を理解し、各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、実践と保育を関連させ、説明できる。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、実践と保育を関連させている。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得していて、自分の保育観をもっている。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得している。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について理解している。
思考・問題解決能力	1．乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し、具体的な遊びや生活習慣について理解できる。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して様々な角度から検討していく。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して幅広い視野で行う。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して課題に取り組む。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解している。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画の基本的事項については理解している。
技能	1．保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身に付けられる。	子ども理解に努め、柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるよう心掛け、また、指導案作成について積極的に行う。	子ども理解に努め、遊びのレパートリーを増やせるようにしたり指導案作成について取り組んだりする。	子ども理解に努め、遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して指導案に取り組む。	子ども理解に努め、指導案作成に取り組む。	指導案作成はできるが、指導内容に十分な理解できていない。
態度	1．意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加、予習復習をする。	積極的な発表や討議、指導案作成、教材研究など、自ら学ぶ姿勢で意欲的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、教材研究など、積極的に行う。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、教材研究などに取り組む。	グループ内で発言や発表、指導案作成、教材づくりなどに参加する。	グループ内での話し合い、指導案作成、教材作りなどに参加するが、消極的である。

科目名	保育計画Ⅰ 2クラス			授業番号	CQ216B	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園，保育所，認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて，その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達的特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに，理論的な知識をもとに，実践的な保育技術についての具体的な手法を知り，実践発表を通してスキルを身につけられるよう，保育の計画との関係性を明らかにする。								
到達目標	１，乳幼児の発達的特徴を理解し，各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。 ２，保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。 ３，乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し，具体的な遊びや生活習慣について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育における計画の意義 「保育において計画を立てる意義」，及び「保育の計画の種類と意識化すべき点」を理解する。	
第2回	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 3つのタイプの保育の場，それぞれの機能等について理解する。	
第3回	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領で指導計画の編成に関わることについて，どのように示されているかを確認し理解する。	
第4回	指導計画の全体構造について 「保育の計画の種類」，及び「指導計画作成の手続き」や「指導計画作成の前に保育者が理解すべきこと」について理解する。	
第5回	部分指導案の考え方と作成(1) 「短期指導計画の種類」，「短期指導計画の作成原理」について理解する。	
第6回	部分指導案の考え方と作成(2) 「短期指導計画作成におけるねらいの設定」及び「短期指導計画における内容の設定」について理解する。	
第7回	乳児の指導計画作成事例と展開 「０歳児の在籍児童と発達の概要」，「０歳児の指導計画作成の基本的な考え方」，「１・２歳児の在籍児童と発達の概要」及び「１・２歳児の指導計画作成の基本的な考え方」について理解する。	
第8回	乳児の指導計画作成事例と作成 「乳児の指導計画作成事例」に基づき，乳児の指導計画の作成を行う。	
第9回	乳児の指導計画作成事例と作成 「１・２歳児の指導計画作成事例」に基づき，１・２歳児の指導計画の作成を行う。	
第10回	幼児の指導計画作成事例と展開と幼児の指導計画作成事例と作成(1) 「幼児の指導計画作成の基本的な考え方」について理解する。 「３歳児の指導計画作成事例」に基づき，３歳児の指導計画の作成を行う。	
第11回	幼児の指導計画作成事例と作成(2) 「４歳児の指導計画作成事例」に基づき，４歳児の指導計画の作成を行う。	
第12回	幼児の指導計画作成事例と作成(3) 「５歳児の指導計画作成事例」に基づき，５歳児の指導計画の作成を行う。	
第13回	長期指導計画の作成 「長期指導計画の種類」，「長期指導計画作成の視点と原理」について理解する。	
第14回	小学校との接続について 小学校との接続を意識した指導計画や小学校におけるスタートカリキュラムについて理解する。	
第15回	まとめと小テスト まとめと内容の理解度をはかるための小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	乳幼児の発達的特徴や，各年齢に応じた保育計画を理解し，幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	保育計画に関わる知識・理解について評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子ども理解に努め，柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心がけ，練習を怠らないこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。
授業外学修	1，次回授業までに，毎回授業終了時に出す課題を行い，練習すること。 2，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	チャイルド本社	9784805402283	本体500円＋税
保育の計画と評価	卜田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500円＋税

使用テキスト：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．乳幼児の発達的特徴を理解し、各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、実践と保育を関連させ、説明できる。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について深く理解しており、実践と保育を関連させている。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得していて、自分の保育観をもっている。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について基本的な知識を修得している。	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について理解している。
思考・問題解決能力	1．乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し、具体的な遊びや生活習慣について理解できる。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して様々な角度から検討していく。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して幅広い視野で行う。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して課題に取り組む。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画を理解している。	乳幼児の発達や遊びについて年齢に応じた指導計画の基本的事項については理解している。
技能	1．保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身に付けられる。	子ども理解に努め、柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるよう心掛け、また、指導案作成について積極的に行う。	子ども理解に努め、遊びのレパートリーを増やせるようにしたり指導案作成について取り組んだりする。	子ども理解に努め、遊びについて年齢に応じた指導計画を理解して指導案に取り組む。	子ども理解に努め、指導案作成に取り組む。	指導案作成はできるが、指導内容に十分な理解できていない。
態度	1．意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加、予習復習をする。	積極的な発表や討議、指導案作成、教材研究など、自ら学ぶ姿勢で意欲的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、教材研究など、積極的に行う。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、教材研究などに取り組む。	グループ内で発言や発表、指導案作成、教材づくりなどに参加する。	グループ内での話し合い、指導案作成、教材作りなどに参加するが、消極的である。

科目名	学童保育論			授業番号	CQ229	サブタイトル			
教員	中田 周作、伊藤 智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代の日本社会における子育て支援に関する重要な問題のうちの1つは，子育て家庭の保護者の就労支援である。 これを実現するためには，保育所や放課後児童クラブ（学童保育）などの充実が必須である。 しかしながら，これまで政策面からも学術的観点からも学童保育は等閑視されてきた。 そこで学童保育に関する現状や政策，指導員の役割，学童保育の運営について講義する。								
到達目標	本講義では，まず，学童保育の現状と役割を理解することを目標とする（第1～10回）。 次に，学童保育の運営の実態と地域社会との関わりについて理解することを目標とする（第11～15回）。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	学童保育と指導員の資格 放課後児童指導員資格と放課後児童支援員認定資格研修	中田周作
第2回	現代社会における子どもを取り巻く社会状況 子どもが育つ社会環境の現状	中田周作
第3回	子どもたちの放課後の実態 子どもたちの生活時間	中田周作
第4回	学童保育の現状 学童保育と放課後児童健全育成事業は、どのように異なるのか	中田周作
第5回	学童保育の役割 子どもが育つ環境とは 放課後児童支援員の役割 育成支援とは	中田周作
第6回	学童保育に関する法令 児童福祉法 放課後児童健全育成事業の設備と運営に関する基準 放課後児童クラブ運営指針	中田周作
第7回	学童保育に関する制度 放課後児童クラブの運営主体	中田周作
第8回	学童保育の歴史 学童保育から放課後児童健全育成事業へ	中田周作
第9回	指導員の職務と倫理1 放課後児童クラブの社会的責任と職場倫理	中田周作
第10回	指導員の職務と倫理2 要望及び苦情への対応 事業内容向上への取り組み	中田周作
第11回	学童保育の運営方式 行政の役割と放課後児童クラブの運営主体	中田周作・伊藤智里
第12回	指導員の連携と研修 職員体制	中田周作・伊藤智里
第13回	学童保育と保護者との関わり 保護者との連携	中田周作・伊藤智里
第14回	学童保育と地域との関わり 学校・保育所・幼稚園等との連携 地域、関係機関との連携 学校、児童館を活用して実施する放課後児童クラブ .	中田周作・伊藤智里
第15回	学童保育と子育て支援 子ども家庭福祉のなかの放課後児童クラブ	中田周作・伊藤智里
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	100	レポート作成の途次に適宜、アドバイスをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	児童期の子どもの放課後はどのような実態にあるのか。 他の講義なども参考にしながら，考察を深めること。
授業外学修	本講義は集中講義である。 そのため，集中講義が始まる前までに「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」を読んでおくこと。 事前の総学修時間は，30時間以上とする。 集中講義終了後の復習総学修時間も，30時間以上とする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　放課後児童クラブ運営指針解説書	厚生労働省編	フレーベル館	978-4-577-60017-7	440

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学童保育の制度について理解できている。	学童保育の制度について、その展開の歴史と根拠となる法令を理解している。	学童保育の制度について、その展開の歴史、もしくは根拠となる法令を理解している。	学童保育の制度に関する重要事項について理解している。	学童保育の制度に関するキーワードを覚えている。	学童保育の制度に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	２．学童保育に関する法令について理解できている。	学童保育に関する主要な法令と条文を多数、覚えているとともに、その条文がどのように解釈されているのかを理解している。	学童保育に関する主要な法令と条文を多数、覚えている。	学童保育に関する主要な法令と条文をいくつか覚えている。	学童保育に関する主要な法令の名称を覚えている。	学童保育に関する主要な法令の名称を覚えていない。

科目名	学童保育方法論			授業番号	CQ230	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	学童保育方法として，「実践の構造」「実践の内容」「実践の方法」「実践の実際」について学習する。これらについて理論的な枠組みに加えて，実際のエピソードも適宜紹介しながら授業を進めていく。 講義を中心としながら，随時グループワーク等も織り交ぜながら取り組んでいく。								
到達目標	学童保育実践の構造，内容，方法を理解するとともに，これらについて実際に活用することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学童保育実践の構造(1)ー学童保育の目的 「学童保育」は、何のために、何を目指して支援するのかを学ぶ。	
第2回	学童保育実践の構造(2)ー学童保育（育成支援）の要素 学童保育実践を構成する3つの要素「養護」「ケア」「教育」について学ぶ。	
第3回	学童保育実践の内容(1)ー「運営指針」における育成支援の内容 「放課後児童クラブ運営指針」は学童保育では何をすることを求めているのかを学ぶ。	
第4回	学童保育実践の内容(2)ー「運営指針」における育成支援に含まれる内容 「放課後児童クラブ運営指針」が求めている学童保育における育成支援に含まれる内容を学ぶ。	
第5回	学童保育実践の内容(3)ー学童保育と保護者連携 「放課後児童クラブ運営指針」が求めている学童保育と保護者連携について学ぶ。	
第6回	学童保育の対象である児童期の子ども(1)ー児童期の発達の特徴 学童保育の対象である児童期の子どもの発達的特徴について学ぶ。	
第7回	学童保育の対象である児童期の子ども(2)ー小学校低学年の発達の特徴と学童保育 小学校低学年の子どもの発達的特徴を学んだ上で、低学年の学童保育実践について学ぶ。	
第8回	学童保育の対象である児童期の子ども(3)ー小学校中学年の発達の特徴と学童保育 小学校中学年の子どもの発達的特徴を学んだ上で、中学年の学童保育実践について学ぶ。	
第9回	学童保育の対象である児童期の子ども(4)ー小学校高学年の発達の特徴と学童保育 小学校高学年の子どもの発達的特徴を学んだ上で、高学年の学童保育実践について学ぶ。	
第10回	学童保育の対象である児童期の子ども(5)ー異年齢集団における学童保育実践 様々な発達段階の子どもたちが一緒になって遊び・生活する過程を支援する方法を学ぶ。	
第11回	「遊び」を通した学童保育実践(1)ー子どもにとっての「遊び」 子どもの発達における「遊び」の意義、及び、子どもの「遊ぶ権利」について学ぶ。	
第12回	「遊び」を通した学童保育実践(2)ー子どもの遊びと学童保育の環境づくり 子どもの自主的な遊びを引き出し、豊かにする学童保育の環境づくりを学ぶ。	
第13回	「遊び」を通した学童保育実践(3)ー子どもの遊びへの支援の方法 子どもの遊びへの指導員の関わり方について、実践事例を通して考える。	
第14回	健康管理・安全対策・緊急時対応(1)ー健康管理・安全対策 子どもたちの生命と健康を守る学童保育について学ぶ。	
第15回	健康管理・安全対策・緊急時対応(2)ー緊急時対応 学童保育における緊急時の対応について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	50	最後に提出するレポートに，学修した内容を的確にまとめられているとともに，自身の見解や経験についても記述できていること
確認テスト	50	授業で学習したことを理解し，課題に対して適切に回答すること
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	学童保育実践を理解するということは，学童保育指導員を目指す方だけでなく，保育士や小学校教員を目指す方にとっても大いに役立つものである。教職教養を広げるためにも受講してほしい。
授業外学修	テキストを熟読すること。 学童保育に関する情報を，新聞・テレビ・インターネット等を通じて収集すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　放課後児童クラブ運営指針解説書	厚生労働省	フレーベル館	457760017X	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学童保育実践の構造，内容，方法を理解する。	法令に基づき、実践をふまえて、学童保育実践の構造，内容，方法を説明できる。	法令に基づいて、学童保育実践の構造，内容，方法を説明できる。	学童保育実践の構造，内容，方法を十分理解している。	学童保育実践の構造，内容，方法をだいたい理解している。	学童保育実践の構造，内容，方法を全く理解していない。
思考・問題解決能力	1．学童保育実践を構想できる。	学童保育の目的・目標と子どもの状況をふまえた学童保育実践をどのように構想すればよいか考えられる。	子どもの状況をふまえた学童保育実践をどのように構想すればよいか考えられる。	学童保育実践をどのように構想すればよいか十分考えられる。	学童保育実践をどのように構想すればよいかおおよそ考えられる。	学童保育実践を全く構想できない。

科目名	社会的養護Ⅱ 1クラス			授業番号	CQ307A	サブタイトル			
教員	青木 幹生								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	社会的養護を必要とする子どもたちの実態を伝えるとともに，現在抱えている課題について明らかにする。また，子どもの権利保障の立場に立った実践の具体も伝え，実践に役立つ講義をする。								
到達目標	社会的養護を必要とする子ども達が入所している（あるいは利用している）施設において，日常的に展開されている子どもの生活と職員の支援方法について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもの心身の成長や発達を保障し，支援するために必要な知識や技術を習得し，児童観や施設養護観について理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	導入：子どもの権利擁護	
第2回	社会的養護における子どもの理解	
第3回	社会的養護の内容(1) 日常生活支援	
第4回	社会的養護の内容(2) 心理的支援	
第5回	社会的養護の内容(3) 自立支援	
第6回	施設養護の生活特性および実際(1) 乳児院等	
第7回	施設養護の生活特性および実際(2) 障害児施設等	
第8回	家庭養護の生活特性および実際	
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成	
第10回	記録および自己評価	
第11回	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践	
第12回	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践	
第13回	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）	
第14回	社会的養護における家庭支援	
第15回	まとめ：今後の社会的養護の課題と展望	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
レポート	30	課題に対して適切な理解を得ているかについて評価する。
小テスト		
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回の授業においてしっかりとノートを取り，目的を持って意欲的に取り組むこと。 ・グループワークでは，積極的に自分の意見を述べること。また，他学生の意見について肯定的，あるいは否定的な考え方をもち，根拠ある説明をすること。
授業外学修	・授業中に取った内容を見直し，復習すること。その際，必ず教科書と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よりそい支える社会的養護II	中山正雄(監修)，浦田雅夫(編著)	教育情報出版	978-4-909378-07-1	1，810円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的養護I・II	小宅理沙(監修)，中典子，潮谷光人，今井慶宗(編著)	翔雲社	978-4-434-26701-7	2，780円＋税
参考書：自由記載	明日の子供たち（幻冬舎） ぶどうの木（幻冬舎） 図解で学ぶ保育 社会的養護I，II（萌文書林）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	児童養護施設職員（20年） ・主任児童指導員，基幹的職員，里親支援専門相談員，自立支援担当職員，社会的養育支援室 室長，児童養護施設 学園長，児童家庭支援センター及び児童養護施設 統括施設長			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	児童福祉施設等での実務経験（20年）を生かし，現場での支援に近い形での解説を行っていく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会的養護の概要を理解している。	社会的養護の概要に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	社会的養護の概要に関する知識について、ほぼ正確に理解し述べることができる。	社会的養護の概要に関する知識について、大体理解し述べることができる。	社会的養護の概要に関する知識について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の概要に関する知識について、全く理解できていない。
知識・理解	2．社会的養護の支援内容を理解している。	社会的養護の支援内容について、正確に理解し述べることができる。	社会的養護の支援内容について、ほぼ正確に理解し述べることができる。	社会的養護の支援内容について、大体理解し述べることができる。	社会的養護の支援内容について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の支援内容について、全く理解できていない。
技能	1．子どもの権利保障に基づいた支援を展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、ほぼ正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、大体展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、十分に展開することができない。	子どもの権利保障に基づいた支援について、全く展開することができない。
態度	1．演習に積極的に参加し、学習内容をアウトプットすることができる。	演習内容を、正確にアウトプットできる。	演習内容を、ほぼ正確にアウトプットできる。	演習内容を、大体にアウトプットできる。	演習内容を、十分にアウトプットすることができない。	演習内容を、全くアウトプットすることができない。

科目名	社会的養護Ⅱ 2クラス			授業番号	CQ307B	サブタイトル			
教員	青木 幹生								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	社会的養護を必要とする子どもたちの実態を伝えるとともに，現在抱えている課題について明らかにする。また，子どもの権利保障の立場に立った実践の具体も伝え，実践に役立つ講義をする。								
到達目標	社会的養護を必要とする子ども達が入所している（あるいは利用している）施設において，日常的に展開されている子どもの生活と職員の支援方法について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもの心身の成長や発達を保障し，支援するために必要な知識や技術を習得し，児童観や施設養護観について理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	導入：子どもの権利擁護	
第2回	社会的養護における子どもの理解	
第3回	社会的養護の内容(1) 日常生活支援	
第4回	社会的養護の内容(2) 心理的支援	
第5回	社会的養護の内容(3) 自立支援	
第6回	施設養護の生活特性および実際(1) 乳児院等	
第7回	施設養護の生活特性および実際(2) 障害児施設等	
第8回	家庭養護の生活特性および実際	
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成	
第10回	記録および自己評価	
第11回	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践	
第12回	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践	
第13回	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）	
第14回	社会的養護における家庭支援	
第15回	まとめ：今後の社会的養護の課題と展望	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
レポート	30	課題に対して適切な理解を得ているかについて評価する。
小テスト		
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回の授業においてしっかりとノートを取り，目的を持って意欲的に取り組むこと。 ・グループワークでは，積極的に自分の意見を述べること。また，他学生の意見について肯定的，あるいは否定的な考え方をもち，根拠ある説明をすること。
授業外学修	・授業中に取った内容を見直し，復習すること。その際，必ず教科書と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よりそい支える社会的養護II	中山正雄(監修)，浦田雅夫(編著)	教育情報出版	978-4-909378-07-1	1，810円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的養護I・II	小宅理沙(監修)，中典子，潮谷光人，今井慶宗(編著)	翔雲社	978-4-434-26701-7	2，780円＋税
参考書：自由記載	明日の子供たち（幻冬舎） ぶどうの木（幻冬舎） 図解で学ぶ保育 社会的養護I，II（萌文書林）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	児童養護施設職員（20年） ・主任児童指導員，基幹的職員，里親支援専門相談員，自立支援担当職員，社会的養育支援室 室長，児童養護施設 学園長，児童家庭支援センター及び児童養護施設 統括施設長			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	児童福祉施設等での実務経験（20年）を生かし，現場での支援に近い形での解説を行っていく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会的養護の概要を理解している。	社会的養護の概要に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	社会的養護の概要に関する知識について、ほぼ正確に理解し述べることができる。	社会的養護の概要に関する知識について、大体理解し述べることができる。	社会的養護の概要に関する知識について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の概要に関する知識について、全く理解できていない。
知識・理解	2．社会的養護の支援内容を理解している。	社会的養護の支援内容について、正確に理解し述べることができる。	社会的養護の支援内容について、ほぼ正確に理解し述べることができる。	社会的養護の支援内容について、大体理解し述べることができる。	社会的養護の支援内容について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の支援内容について、全く理解できていない。
技能	1．子どもの権利保障に基づいた支援を展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、ほぼ正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、大体展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、十分に展開することができない。	子どもの権利保障に基づいた支援について、全く展開することができない。
態度	1．演習に積極的に参加し、学習内容をアウトプットすることができる。	演習内容を、正確にアウトプットできる。	演習内容を、ほぼ正確にアウトプットできる。	演習内容を、大体にアウトプットできる。	演習内容を、十分にアウトプットすることができない。	演習内容を、全くアウトプットすることができない。

科目名	子どもの健康と安全 1クラス			授業番号	CQ309A	サブタイトル			
教員	梶谷 儁之								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えられるようにする。緊急時の対応や事故防止，安全管理について具体的に学べるように，できる限り体験的に学習するよう計画している。								
到達目標	1．子どもと関わる全ての実践の場において，子どもの発達段階にあわせた環境構成・援助ができるようになるとともに，基礎的な技術を身につけることができる。 2．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ，衛生管理・感染症対策・事故防止・安全対策・災害対策について，具体的に理解できる。 3．子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や，保健活動の計画及び評価等について，具体的に理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保健的な観点を踏まえた保育の在り方について…子どもの健康と安全管理	
第2回	子どもの事故とその予防	
第3回	子どもの健康と発育(1)…成長発達の一般原則，形態的発達	
第4回	子どもの健康と発育(2)…運動・精神・生理機能の発達，発育評価	
第5回	子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけについて…年齢・発達にあわせた安全教育の重要性	
第6回	日常に必要な養護…特に3歳未満児について	
第7回	子どもの体調不良や傷害発生時の対応と応急処置について	
第8回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その１ 感染症について	
第9回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その２ 感染予防について	
第10回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その３ 急性・慢性疾患，アレルギー性疾患とその対処	
第11回	乳幼児の救急蘇生法に関する理解と実践	
第12回	個別的な配慮を必要とする子どもと家族へのかかわり方	
第13回	子どもの健康と安全を管理する実施体制について…児童虐待の予防と対処	
第14回	保育における保健計画の考え方…計画と実践	
第15回	災害時における保育者の対応について…子どもの心のケア，地域とのかかわり，日常の備え	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度を評価する。
レポート	20	学修したことを活かしながら，テーマに沿って，自分の意見を論理的に説明できているかを評価する。レポートはコメントを入れて返却する。
小テスト	10	各回の主要なポイントが十分に理解できているかを評価する。採点後，返却する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ毎に行われる演習では，お互いに評価し合って技術を向上させること。 活動が伴う際は，動きやすい服装・身だしなみで出席すること。 授業終了後，各自で学修内容をノートにまとめて復習しておくこと。
授業外学修	１．予習として，教科書の授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 ２．学修したことを復習し，記録をノートにまとめること。関連内容を主体的に探し，学修を深掘りすること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの健康と安全	大西文子	中山書店	978-4-521-74777-4	2，200＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
病気がみえるvol.6 免疫・膠原病・感染症	医療情報科学研究所	メディックメディカ	978-4-89632-720-5	3，500＋税
参考書：自由記載	こども家庭庁「保育所における感染症対策ガイドライン」 こども家庭庁「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」 厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版）　等			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	発育発達の基本的な内容を理解している。	学習した発育発達に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した発育発達に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した発育発達に関する知識について、大体述べることができる。	学習した発育発達に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した発育発達に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	病気や怪我、災害に対する理解	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、大体述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確に理解し述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	子どもの健康や安全に対する課題を見つけ、その解決方法を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	病気や怪我、災害に対する具体的な対処法の技術習得	それぞれの課題に対する全ての対処法導出し、それらの技術を正確に実施することができる。	それぞれの課題に対するほとんどの対処法導出し、それらの技術を実施することができる。	それぞれの課題に対する大体の対処法を抽出し、それらの技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を十分に抽出できないが、抽出できた技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を全く抽出できず、技術も実施することができない。

科目名	子どもの健康と安全 2クラス			授業番号	CQ309B	サブタイトル			
教員	梶谷 儁之								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えられるようにする。緊急時の対応や事故防止，安全管理について具体的に学べるように，できる限り体験的に学習するよう計画している。								
到達目標	1．子どもと関わる全ての実践の場において，子どもの発達段階にあわせた環境構成・援助ができるようになるとともに，基礎的な技術を身につけることができる。 2．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ，衛生管理・感染症対策・事故防止・安全対策・災害対策について，具体的に理解できる。 3．子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や，保健活動の計画及び評価等について，具体的に理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保健的な観点を踏まえた保育の在り方について…子どもの健康と安全管理	
第2回	子どもの事故とその予防	
第3回	子どもの健康と発育(1)…成長発達の一般原則，形態的発達	
第4回	子どもの健康と発育(2)…運動・精神・生理機能の発達，発育評価	
第5回	子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけについて…年齢・発達にあわせた安全教育の重要性	
第6回	日常に必要な養護…特に3歳未満児について	
第7回	子どもの体調不良や傷害発生時の対応と応急処置について	
第8回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その１ 感染症について	
第9回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その２ 感染予防について	
第10回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防 その３ 急性・慢性疾患，アレルギー性疾患とその対処	
第11回	乳幼児の救急蘇生法に関する理解と実践	
第12回	個別的な配慮を必要とする子どもと家族へのかかわり方	
第13回	子どもの健康と安全を管理する実施体制について…児童虐待の予防と対処	
第14回	保育における保健計画の考え方…計画と実践	
第15回	災害時における保育者の対応について…子どもの心のケア，地域とのかかわり，日常の備え	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度を評価する。
レポート	20	学修したことを活かしながら，テーマに沿って，自分の意見を論理的に説明できているかを評価する。レポートはコメントを入れて返却する。
小テスト	10	各回の主要なポイントが十分に理解できているかを評価する。採点後，返却する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ毎に行われる演習では，お互いに評価し合って技術を向上させること。 活動が伴う際は，動きやすい服装・身だしなみで出席すること。 授業終了後，各自で学修内容をノートにまとめて復習しておくこと。
授業外学修	１．予習として，教科書の授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 ２．学修したことを復習し，記録をノートにまとめること。関連内容を主体的に探し，学修を深掘りすること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの健康と安全	大西文子	中山書店	978-4-521-74777-4	2，200＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
病気がみえるvol.6 免疫・膠原病・感染症	医療情報科学研究所	メディックメディカ	978-4-89632-720-5	3，500＋税
参考書：自由記載	こども家庭庁「保育所における感染症対策ガイドライン」 こども家庭庁「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」 厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版）　等			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	発育発達の基本的な内容を理解している。	学習した発育発達に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した発育発達に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した発育発達に関する知識について、大体述べることができる。	学習した発育発達に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した発育発達に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	病気や怪我、災害に対する理解	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、大体述べることができる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、正確に理解し述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した病気や怪我、災害に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	子どもの健康や安全に対する課題を見つけ、その解決方法を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	病気や怪我、災害に対する具体的な対処法の技術習得	それぞれの課題に対する全ての対処法導出し、それらの技術を正確に実施することができる。	それぞれの課題に対するほとんどの対処法導出し、それらの技術を実施することができる。	それぞれの課題に対する大体の対処法を抽出し、それらの技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を十分に抽出できないが、抽出できた技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を全く抽出できず、技術も実施することができない。

科目名	子どもの食と栄養Ⅱ 1クラス(隔週)			授業番号	CQ311A	サブタイトル			
教員	下田 裕恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児期は，心と体の健やかな成長・発育に重要な時期である。前期に習得した栄養の基礎をもとに実習，演習を通して小児の各時期に応じた栄養の実際を学ぶ。								
到達目標	・保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し，保育場面に活用できる。 ・小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。 ・月齢，年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，調乳，離乳食，幼児食，おやつなどの調理ができる。 ・食事バランスガイドを理解し，食生活を見直し，適切な食生活に向けて努力できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	栄養の定義と実践方法 前期に学んだ栄養素の振り返りと実生活での活用方法を考える。 調理の基本（おやつの調理） 幼児にふさわしいおやつの基礎を学ぶ。	
第2回	栄養の定義と実践方法 前期に学んだ栄養素の振り返りと実生活での活用方法を考える。 調理の基本（おやつの調理） 幼児にふさわしいおやつの基礎を学ぶ。	
第3回	献立作成と食生活の評価 栄養バランスの整った食事の実際を食事バランスガイド、食育SATを利用し説明できるようにする。 食事バランスガイドに関してのレポート提出。	
第4回	献立作成と食生活の評価 栄養バランスの整った食事の実際を食事バランスガイド、食育SATを利用し説明できるようにする。 食事バランスガイドに関してのレポート提出。	
第5回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する。 離乳期までの口腔内発達を理解し、確認する。 調乳と市販離乳食の試食	
第6回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する。 離乳期までの口腔内発達を理解し、確認する。 調乳と市販離乳食の試食	
第7回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する。 離乳食の調理と試食	
第8回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する。 離乳食の調理と試食	
第9回	幼児の栄養、食生活について理解する。 保育現場で発生する食に関する事故と予防について考える。 幼児食の調理と試食	
第10回	幼児の栄養、食生活について理解する。 保育現場で発生する食に関する事故と予防について考える。 幼児食の調理と試食	
第11回	食品表示を理解し適切な選択が出来るようにする。 保育所給食、お弁当について理解する。 非常時の食について理解し、非常食の実習試食を行う。 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出。	
第12回	食品表示を理解し適切な選択が出来るようにする。 保育所給食、お弁当について理解する。 非常時の食について理解し、非常食の実習試食を行う。 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出。	
第13回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する。 食物アレルギーについて 機序、アレルゲン、注意点等を理解し予防方法を考える。 アレルギーに対応したおやつの調理と試食	
第14回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する。 食物アレルギーについて 機序、アレルゲン、注意点等を理解し予防方法を考える。 アレルギーに対応したおやつの調理と試食	
第15回	後期の内容の振り返り。 小テスト。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	50	講義内容を正しく理解し、必要項目が全て記載されている事、自分の意見、課題等が書かれている事を評価する。 コメントを記入して返却する。
小テスト	50	重点項目について確認する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育士という専門性の高い職業を目指す学生としての意識を持ち，実習・演習に積極的に参加し，レポートは一つの書類と考え丁寧に書き提出すること。
授業外学修	指定回のレポートを作成すること。 離乳食，幼児食は学ぶ内容が多岐に渡るのでテキスト，参考資料を読み込み丁寧に復習をすること。 授業のレポート及び課題，次回の授業範囲の予習を週当たり4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	太田百合子他	羊土社	9784762458415	2640
使用テキスト：自由記載	『子どもの食と栄養』，羊土社（子どもと栄養Ⅰで使用したものと同じ）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	専門学校講師（30年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学生が保育士として必要な食の知識，調理技術が保育の現場で実践できるよう各項目に組み入れる。また乳幼児の保護者の視点からも考える力を身に付ける。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し、保育場面に活用できる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、大体述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康と栄養に関する知識について全く表現することができない。
知識・理解	２．小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確に理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、大体述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	３．月齢、年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、調乳、離乳食、幼児食、おやつなどの調理ができる。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、ほぼ理解しており適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分ではあるが課題を提出している。
知識・理解	４．食事バランスガイドを理解し、食生活を見直し、適切な食生活に向けて努力できる。	食事バランスガイドについて正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについて正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについてほぼ理解しており、適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であるが課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。

科目名	子どもの食と栄養Ⅱ 2クラス(隔週)			授業番号	CQ311B	サブタイトル			
教員	下田 裕恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児期は，心と体の健やかな成長・発育に重要な時期である。前期に習得した栄養の基礎をもとに実習，演習を通して小児の各時期に応じた栄養の実際を学ぶ。								
到達目標	・保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し，保育場面に活用できる。 ・小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。 ・月齢，年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，調乳，離乳食，幼児食，おやつなどの調理ができる。 ・食事バランスガイドを理解し，食生活を見直し，適切な食生活に向けて努力できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	栄養の定義と実践方法 前期に学んだ栄養素の振り返りと実生活での活用方法を考える。 調理の基本（おやつの調理） 幼児にふさわしいおやつの基礎を学ぶ。	
第2回	栄養の定義と実践方法 前期に学んだ栄養素の振り返りと実生活での活用方法を考える。 調理の基本（おやつの調理） 幼児にふさわしいおやつの基礎を学ぶ。	
第3回	献立作成と食生活の評価 栄養バランスの整った食事の実際を食事バランスガイド、食育SATを利用し説明できるようにする。 食事バランスガイドに関してのレポート提出。	
第4回	献立作成と食生活の評価 栄養バランスの整った食事の実際を食事バランスガイド、食育SATを利用し説明できるようにする。 食事バランスガイドに関してのレポート提出。	
第5回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する。 離乳期までの口腔内発達を理解し、確認する。 調乳と市販離乳食の試食	
第6回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する。 離乳期までの口腔内発達を理解し、確認する。 調乳と市販離乳食の試食	
第7回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する。 離乳食の調理と試食	
第8回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する。 離乳食の調理と試食	
第9回	幼児の栄養、食生活について理解する。 保育現場で発生する食に関する事故と予防について考える。 幼児食の調理と試食	
第10回	幼児の栄養、食生活について理解する。 保育現場で発生する食に関する事故と予防について考える。 幼児食の調理と試食	
第11回	食品表示を理解し適切な選択が出来るようにする。 保育所給食、お弁当について理解する。 非常時の食について理解し、非常食の実習試食を行う。 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出。	
第12回	食品表示を理解し適切な選択が出来るようにする。 保育所給食、お弁当について理解する。 非常時の食について理解し、非常食の実習試食を行う。 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出。	
第13回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する。 食物アレルギーについて 機序、アレルゲン、注意点等を理解し予防方法を考える。 アレルギーに対応したおやつの調理と試食	
第14回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する。 食物アレルギーについて 機序、アレルゲン、注意点等を理解し予防方法を考える。 アレルギーに対応したおやつの調理と試食	
第15回	後期の内容の振り返り。 小テスト。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	50	講義内容を正しく理解し、必要項目が全て記載されている事、自分の意見、課題等が書かれている事を評価する。 コメントを記入して返却する。
小テスト	50	重点項目について確認する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育士という専門性の高い職業を目指す学生としての意識を持ち，実習・演習に積極的に参加し，レポートは一つの書類と考え丁寧に書き提出すること。
授業外学修	指定回のレポートを作成すること。 離乳食，幼児食は学ぶ内容が多岐に渡るのでテキスト，参考資料を読み込み丁寧に復習をすること。 授業のレポート及び課題，次回の授業範囲の予習を週当たり4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	太田百合子他	羊土社	9784762458415	2640
使用テキスト：自由記載	『子どもの食と栄養』，羊土社（子どもと栄養Ⅰで使用したものと同じ）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	専門学校講師（30年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学生が保育士として必要な食の知識，調理技術が保育の現場で実践できるよう各項目に組み入れる。また乳幼児の保護者の視点からも考える力を身に付ける。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し、保育場面に活用できる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、大体述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康と栄養に関する知識について全く表現することができない。
知識・理解	２．小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確に理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、大体述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	３．月齢、年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、調乳、離乳食、幼児食、おやつなどの調理ができる。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、ほぼ理解しており適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分ではあるが課題を提出している。
知識・理解	４．食事バランスガイドを理解し、食生活を見直し、適切な食生活に向けて努力できる。	食事バランスガイドについて正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについて正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについてほぼ理解しており、適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であるが課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。

科目名	保育計画Ⅱ 1クラス			授業番号	CQ317A	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また，基本的な理論を理解した上で，各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ，「その遊びによって何が育つのか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮，援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい豊かな遊びを検討し，提案できるよう解説する。								
到達目標	1，指導計画の作成について具体的に理解できる。 2，子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして，子どもの育ちを見通した質の高い指導計画を立案できる。 3，計画，実践，省察・評価，改善の過程について，その全体構造をとらえ，実践できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	指導計画の作成の手続き 「指導計画の作成の基本的な手続き」，「指導計画作成の前に保育者が理解すべきこと」について理解する。	
第2回	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法 「全体的な計画とは」，「全体的な内容と編成の原則」，「編成の実際」について理解する。	
第3回	長期・短期指導計画の作成について 「長期指導計画とは」，「長期指導計画の作成原理」，「年間・期・月の指導計画作成原理」について理解する。	
第4回	乳児の指導計画の作成と展開 「乳児の指導計画の作成の基本的な考え方」「乳児の指導計画作成事例」について理解する。	
第5回	幼児の指導計画の作成と展開 「幼児の指導計画の作成の基本的な考え方」「幼児の指導計画作成事例」について理解する。	
第6回	異年齢保育を意識した指導計画と展開 「異年齢保育のの意義」，「異年齢保育の指導計画の作成の基本的な考え方」，「異年齢保育の指導計画作成事例」について理解する。	
第7回	保育の省察及び記録とカンファレンス 「保育評価の意義」，「保育の評価と反省」，「保育カンファレンス」について理解する。	
第8回	指導案の作成（グループワーク） 「絵本の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」，「絵本の活動についての指導案作成」を行う。	
第9回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに絵本の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。	
第10回	指導案の作成（グループワーク） 「０・１・２歳児の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」，「０・１・２歳児の活動についての指導案作成」を行う。	
第11回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに０・１・２歳児の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。	
第12回	指導案の作成（グループワーク） 「３・４・５歳児の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」，「３・４・５歳児の活動についての指導案作成」を行う。	
第13回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに３・４・５歳児の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。	
第14回	異年齢保育の指導案作成 「異年齢保育の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」，「異年齢保育の活動についての指導案作成」を行う。	
第15回	模擬保育及び全体を通しての評価と改善 指導案作成と模擬保育についてのまとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議・模擬保育への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	提出する指導案複数と模擬保育についてのレポートの内容を評価する。指導案，レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	保育計画に関する知識・理解について評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で協力し，積極的に発言や発表を行い，自ら学ぶ姿勢で臨むこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。 模擬保育の準備，練習を怠らないこと。
授業外学修	１，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。 ２，模擬保育については，グループ内で協力し合い，準備・練習を入念に行うこと。 以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育の計画と評価	卜田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500＋税
使用テキスト：自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領，幼稚園教育要領，保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 『保育所保育指針解説書』フレーベル館			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院 その他，適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．指導計画の作成について具体的に理解できる。	園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・改善するなど、保育を実践するためのカリキュラムを理解し実践できる。	園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・改善するなど、カリキュラムを実践できる。	全体的な計画を作成するための基本的な知識を修得しており、全体的な計画に合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	園の全体的な計画について理解することができ、それらに合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について基本的な知識とＰＤＣＡサイクル及びカリキュラムマネジメントについて理解している。
思考・問題解決能力	１．子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、子どもの育ちを見通した質の高い指導計画の立案ができる。	５領域のねらいと内容を設定し、個々の乳幼児やクラス全体の実態にに合わせて、的確に配慮しながら援助・指導ができ、乳幼児の主体性を伸ばし、ねらいを達成するための効果的な展開ができる。	５領域のねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態にに合わせて、指導計画を立て、乳幼児の主体性を伸ばすため臨機応変な展開ができる。	５領域に関するのねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態にに合わせて、援助・指導の工夫ができている。	５領域に関するのねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態にに合わせて、援助・指導の工夫ができる。	５領域に関する援助・指導の基本的菜知識について理解している。
技能	１．計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造をとらえ、実践できる。	乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・実践・評価・改善するなど、保育を実践するためのカリキュラムを理解し実践できる。	乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・実践・評価・改善するなど、、カリキュラムを実践できる。	全体的な計画を作成するための基本的な知識を修得しており、全体的な計画に合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について理解することができ、それらに合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について基本的な知識とカリキュラムマネジメントについて理解している。
態度	１．意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加をする。	積極的な発表や討議、指導案作成、模擬保育など、自ら学ぶ姿勢で意欲的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、模擬保育など、積極的に行う。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、模擬保育などに取り組む。	グループ内で発言や発表、指導案作成、模擬保育などに参加する。	グループ内での話し合い、指導案作成、模擬保育などに参加する。

科目名	保育計画Ⅱ 2クラス			授業番号	CQ317B	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また，基本的な理論を理解した上で，各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ，「その遊びによって何が育つのか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮，援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい豊かな遊びを検討し，提案できるよう解説する。								
到達目標	1，指導計画の作成について具体的に理解できる。 2，子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして，子どもの育ちを見通した質の高い指導計画を立案できる。 3，計画，実践，省察・評価，改善の過程について，その全体構造をとらえ，実践できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	指導計画の作成の手続き 「指導計画の作成の基本的な手続き」，「指導計画作成の前に保育者が理解すべきこと」について理解する。	
第2回	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法 「全体的な計画とは」，「全体的な内容と編成の原則」，「編成の実際」について理解する。	
第3回	長期・短期指導計画の作成について 「長期指導計画とは」，「長期指導計画の作成原理」，「年間・期・月の指導計画作成原理」について理解する。	
第4回	乳児の指導計画の作成と展開 「乳児の指導計画の作成の基本的な考え方」「乳児の指導計画作成事例」について理解する。	
第5回	幼児の指導計画の作成と展開 「幼児の指導計画の作成の基本的な考え方」「幼児の指導計画作成事例」について理解する。	
第6回	異年齢保育を意識した指導計画と展開 「異年齢保育のの意義」，「異年齢保育の指導計画の作成の基本的な考え方」，「異年齢保育の指導計画作成事例」について理解する。	
第7回	保育の省察及び記録とカンファレンス 「保育評価の意義」，「保育の評価と反省」，「保育カンファレンス」について理解する。	
第8回	指導案の作成（グループワーク） 「絵本の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」，「絵本の活動についての指導案作成」を行う。	
第9回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに絵本の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。	
第10回	指導案の作成（グループワーク） 「０・１・２歳児の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」，「０・１・２歳児の活動についての指導案作成」を行う。	
第11回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに０・１・２歳児の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。	
第12回	指導案の作成（グループワーク） 「３・４・５歳児の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」，「３・４・５歳児の活動についての指導案作成」を行う。	
第13回	作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価 グループごとに３・４・５歳児の活動についての指導案に基づいた模擬保育を行う。	
第14回	異年齢保育の指導案作成 「異年齢保育の活動についての指導案作成事例の紹介と模擬保育」，「異年齢保育の活動についての指導案作成」を行う。	
第15回	模擬保育及び全体を通しての評価と改善 指導案作成と模擬保育についてのまとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議・模擬保育への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	提出する指導案複数と模擬保育についてのレポートの内容を評価する。指導案，レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	保育計画に関する知識・理解について評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で協力し，積極的に発言や発表を行い，自ら学ぶ姿勢で臨むこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。 模擬保育の準備，練習を怠らないこと。
授業外学修	１，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。 ２，模擬保育については，グループ内で協力し合い，準備・練習を入念に行うこと。 以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育の計画と評価	卜田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500＋税
使用テキスト：自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領，幼稚園教育要領，保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 『保育所保育指針解説書』フレーベル館			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院 その他，適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．指導計画の作成について具体的に理解できる。	園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・改善するなど、保育を実践するためのカリキュラムを理解し実践できる。	園の方針と園の乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・改善するなど、カリキュラムを実践できる。	全体的な計画を作成するための基本的な知識を修得しており、全体的な計画に合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	園の全体的な計画について理解することができ、それらに合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について基本的な知識とＰＤＣＡサイクル及びカリキュラムマネジメントについて理解している。
思考・問題解決能力	１．子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、子どもの育ちを見通した質の高い指導計画の立案ができる。	５領域のねらいと内容を設定し、個々の乳幼児やクラス全体の実態にに合わせて、的確に配慮しながら援助・指導ができ、乳幼児の主体性を伸ばし、ねらいを達成するための効果的な展開ができる。	５領域のねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態にに合わせて、指導計画を立て、乳幼児の主体性を伸ばすため臨機応変な展開ができる。	５領域に関するのねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態にに合わせて、援助・指導の工夫ができている。	５領域に関するのねらいと内容を理解し、個々の乳幼児やクラス全体の実態にに合わせて、援助・指導の工夫ができる。	５領域に関する援助・指導の基本的菜知識について理解している。
技能	１．計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造をとらえ、実践できる。	乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・実践・評価・改善するなど、保育を実践するためのカリキュラムを理解し実践できる。	乳幼児の実態に合わせて、全体的な計画を作成・実践・評価・改善するなど、、カリキュラムを実践できる。	全体的な計画を作成するための基本的な知識を修得しており、全体的な計画に合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について理解することができ、それらに合わせて自分の保育を計画・実践し、見直すことができる。	全体的な計画について基本的な知識とカリキュラムマネジメントについて理解している。
態度	１．意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加をする。	積極的な発表や討議、指導案作成、模擬保育など、自ら学ぶ姿勢で意欲的に参加する。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、模擬保育など、積極的に行う。	グループで協力し発言や発表、指導案作成、模擬保育などに取り組む。	グループ内で発言や発表、指導案作成、模擬保育などに参加する。	グループ内での話し合い、指導案作成、模擬保育などに参加する。

科目名	保育実習研究Ⅰ 1クラス			授業番号	CQ320A	サブタイトル			
教員	廣畑 まゆ美、土師 範子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	・保育実習において必要な理論とスキルを講義を通して詳しく学ぶ。 ・実習日誌や指導案の実践的演習を通して，保育の計画・観察・記録および自己評価の方法を理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について詳しく学ぶ。								
到達目標	保育実習の意義・目的を理解し，実践において必要となる知識・技能を身に付ける。 実習の内容を理解し，自らの課題を明確にする。 実習終了後には反省会を実施し，総括・自己評価をもとにして，新たな学習目標を明確にする。なお，この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうちの＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習の意義と目的の理解	廣畑 まゆ美　土師 範子
第2回	保育実習の概要について ・実習日誌，指導案，提出物について ・実習先での実践内容について ・実習に向けた課題の持ち方について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第3回	保育所の役割と機能の理解 ・保育所の生活と一日の流れの理解 ・保育所保育指針の理解と保育の展開	廣畑 まゆ美　土師 範子
第4回	保育内容・保育環境の検討 ・保育の計画に基づく保育内容とは何か ・指導計画作成について ・保育実践における留意点の確認	廣畑 まゆ美　土師 範子
第5回	実習園事前訪問の意義・目的の理解	廣畑 まゆ美　土師 範子
第6回	保育士の倫理観，プライバシーの保護と守秘義務について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第7回	年齢・発達に応じた指導案作成における留意点の確認と作成 障害のある子どもの指導について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第8回	実習における観察，記録及び評価の仕方について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第9回	模擬保育実践	廣畑 まゆ美　土師 範子
第10回	実習生の心構えについて 子どもの人権と最善の利益の考慮	廣畑 まゆ美　土師 範子
第11回	実習事後 ・自己評価 ・自己課題の明確化	廣畑 まゆ美　土師 範子
第12回	実習後学びのグループワーク①	廣畑 まゆ美　土師 範子
第13回	実習後学びのグループワーク②	廣畑 まゆ美　土師 範子
第14回	実習総括・成果報告発表会①	廣畑 まゆ美　土師 範子
第15回	実習総括・成果報告発表会②	廣畑 まゆ美　土師 範子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	・1回1回の授業の中で，主体的に学びに臨んでいる姿を評価する。 ・実習の内容を理解し，自らの課題を明確にできたかを評価する。
課題・レポート	50	・期日，指定様式を守って提出できているかを評価する。 ・学内授業・実習での気づきから問いをたて，問いに対する具体的な思考ができているかを評価する。
その他	20	実習後報告会において，グループで共同して学びを深め，新たな課題や学修目標などの気づきを説得力持って説明できているかを評価する。

評価の方法：自由記載	・授業態度，および実習の事前準備や事後の課題，報告会での成果を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。 ・授業の理解度や主体的な学修姿勢を把握するため，自己評価コメントシートを適宜記入してもらう。 ・提出された課題やレポートはコメントつけて返却する。
受講の心得	・毎回実習に関する重要な課題に取り組むので，欠席しないよう心がけること。 ・実際に子どもたちと関わることを意識し，真剣に授業に取り組むこと。 ・乳幼児の遊びやその指導に関連した情報の収集を常に心がけること。 ・守秘義務他保育士等の倫理規定を十分理解し遵守すること。
授業外学修	実習準備・事前訪問は，授業外の時間を確保して取り組むことになる。また実習生としての振る舞いや礼儀作法は一朝一夕で身につくものではなく，継続的な努力が必要である。 各自時間管理を徹底し，学修時間確保に努めること。 また発展学修として授業で示された参考書や，各自実習先から指示された学習内容に主体的に取り組み，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引き』『実習上の心得』初回授業で配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『保育所保育指針解説書』厚生労働省，フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省，フレーベル館 その他，適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．保育事例検討	得た知識と事例を関連付けて捉え，他者の意見も踏まえながら，自分なりの考えを述べることができている。	得た知識と事例を関連付け，他者の意見も踏まえながら自分なりの考えを述べようと努力している。	事例を見て思考し，自分なりに考えようとしている。	事例を見て，考えを述べているものの，熟考されておらず非論理的である。	事例に対して具体的なイメージが出来ず，自分なりの意見を述べることが全然できない。
思考・問題解決能力	２．自己課題設定	学んだことを生かし，現場実践に向けた自己課題を具体的に構築することができている。	学んだことを生かし，現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしているが，課題がまとまっていない。	課題が思いつかず，課題が設定できない。
技能	１．保育内容の計画	子どもの姿を個と集団の視点からとらえ，ねらいと内容を関連付けて計画し，指導案の様式に沿って誤字脱字なく丁寧に記載することができる。	子どもの姿を個と集団の視点からとらえて，ねらいと内容を考えようと工夫している。指導案の様式に沿って，誤字脱字はほとんどない。	子どもの姿を個と集団の視点からとらえているものの，ねらいと内容に再考の余地がある。指導案の様式に沿って書かれているが，援助や環境構成などにも再考の余地がある。	子どもの姿を十分にとられきれておらず，ねらいと内容が一致していない。指導案の様式が示す意味を十分理解しておらず，誤字脱字なども目立つ。	指導案の様式それぞれの項目が持つ意味を理解できておらず，ほとんど書くことができない。
態度	１．実習に向けた準備	実習の意義・目的を理解し，課題に対して主体的・意欲的に取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を常に意識し，遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的を理解しようとし，取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を意識し，無断の遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的を理解しようとし，取り組んでいるものの十分ではない。実習生としての心構えや態度を意識はしているが課題が残る。無断の遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的が理解できておらず意欲的な取り組みがみられない。実習生としての心構えや態度に対する意識が乏しく，実践面でも課題が残る。無断の遅刻・欠席はすることなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的が理解できておらず，全く意欲的な取り組みが見られない。実習生としての心構えや態度に対する理解も実践も不十分で，無断の遅刻・欠席がある。
態度	２．事後の保育観と意欲	現地の指導者からのアドバイスを受けて，保育者の援助のあり方を多角的に考察でき，子どもに対する分析が以前より深くなっている。	現地の指導者からのアドバイスを受けて，保育者の援助のあり方について自分なりの意見をもつことができ，子どもに対する分析が以前より少し深くなっている。	現地の指導者からアドバイスを受けて，保育者の援助のあり方について自分なりの意見をもつことができている。	現地の指導者からアドバイスを受けたことを十分に理解できておらず，保育者の援助のあり方について意見もつことができているが十分ではない。	現地の指導者からのアドバイスを受けても，事前と事後での変化が見られず，自分なりの意見を持つこともできていない。

科目名	保育実習研究Ⅰ 2クラス			授業番号	CQ320B	サブタイトル			
教員	廣畑 まゆ美、土師 範子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	・保育実習において必要な理論とスキルを講義を通して詳しく学ぶ。 ・実習日誌や指導案の実践的演習を通して，保育の計画・観察・記録および自己評価の方法を理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について詳しく学ぶ。								
到達目標	保育実習の意義・目的を理解し，実践において必要となる知識・技能を身に付ける。 実習の内容を理解し，自らの課題を明確にする。 実習終了後には反省会を実施し，総括・自己評価をもとにして，新たな学習目標を明確にする。なお，この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうちの＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習の意義と目的の理解	廣畑 まゆ美　土師 範子
第2回	保育実習の概要について ・実習日誌，指導案，提出物について ・実習先での実践内容について ・実習に向けた課題の持ち方について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第3回	保育所の役割と機能の理解 ・保育所の生活と一日の流れの理解 ・保育所保育指針の理解と保育の展開	廣畑 まゆ美　土師 範子
第4回	保育内容・保育環境の検討 ・保育の計画に基づく保育内容とは何か ・指導計画作成について ・保育実践における留意点の確認	廣畑 まゆ美　土師 範子
第5回	実習園事前訪問の意義・目的の理解	廣畑 まゆ美　土師 範子
第6回	保育士の倫理観，プライバシーの保護と守秘義務について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第7回	年齢・発達に応じた指導案作成における留意点の確認と作成 障害のある子どもの指導について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第8回	実習における観察，記録及び評価の仕方について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第9回	模擬保育実践	廣畑 まゆ美　土師 範子
第10回	実習生の心構えについて 子どもの人権と最善の利益の考慮	廣畑 まゆ美　土師 範子
第11回	実習事後 ・自己評価 ・自己課題の明確化	廣畑 まゆ美　土師 範子
第12回	実習後学びのグループワーク①	廣畑 まゆ美　土師 範子
第13回	実習後学びのグループワーク②	廣畑 まゆ美　土師 範子
第14回	実習総括・成果報告発表会①	廣畑 まゆ美　土師 範子
第15回	実習総括・成果報告発表会②	廣畑 まゆ美　土師 範子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	・1回1回の授業の中で，主体的に学びに臨んでいる姿を評価する。 ・実習の内容を理解し，自らの課題を明確にできたかを評価する。
課題・レポート	50	・期日，指定様式を守って提出できているかを評価する。 ・学内授業・実習での気づきから問いをたて，問いに対する具体的な思考ができているかを評価する。
その他	20	実習後報告会において，グループで共同して学びを深め，新たな課題や学修目標などの気づきを説得力持って説明できているかを評価する。

評価の方法：自由記載	・授業態度，および実習の事前準備や事後の課題，報告会での成果を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。 ・授業の理解度や主体的な学修姿勢を把握するため，自己評価コメントシートを適宜記入してもらう。 ・提出された課題やレポートはコメントつけて返却する。
受講の心得	・毎回実習に関する重要な課題に取り組むので，欠席しないよう心がけること。 ・実際に子どもたちと関わることを意識し，真剣に授業に取り組むこと。 ・乳幼児の遊びやその指導に関連した情報の収集を常に心がけること。 ・守秘義務他保育士等の倫理規定を十分理解し遵守すること。
授業外学修	実習準備・事前訪問は，授業外の時間を確保して取り組むことになる。また実習生としての振る舞いや礼儀作法は一朝一夕で身につくものではなく，継続的な努力が必要である。 各自時間管理を徹底し，学修時間確保に努めること。 また発展学修として授業で示された参考書や，各自実習先から指示された学習内容に主体的に取り組み，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引き』『実習上の心得』初回授業で配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『保育所保育指針解説書』厚生労働省，フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省，フレーベル館 その他，適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．保育事例検討	得た知識と事例を関連付けて捉え，他者の意見も踏まえながら，自分なりの考えを述べることができている。	得た知識と事例を関連付け，他者の意見も踏まえながら自分なりの考えを述べようと努力している。	事例を見て思考し，自分なりに考えようとしている。	事例を見て，考えを述べているものの，熟考されておらず非論理的である。	事例に対して具体的なイメージが出来ず，自分なりの意見を述べることが全然できない。
思考・問題解決能力	２．自己課題設定	学んだことを生かし，現場実践に向けた自己課題を具体的に構築することができている。	学んだことを生かし，現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしているが，課題がまとまっていない。	課題が思いつかず，課題が設定できない。
技能	１．保育内容の計画	子どもの姿を個と集団の視点からとらえ，ねらいと内容を関連付けて計画し，指導案の様式に沿って誤字脱字なく丁寧に記載することができる。	子どもの姿を個と集団の視点からとらえて，ねらいと内容を考えようと工夫している。指導案の様式に沿って，誤字脱字はほとんどない。	子どもの姿を個と集団の視点からとらえているものの，ねらいと内容に再考の余地がある。指導案の様式に沿って書かれているが，援助や環境構成などにも再考の余地がある。	子どもの姿を十分にとられきれておらず，ねらいと内容が一致していない。指導案の様式が示す意味を十分理解しておらず，誤字脱字なども目立つ。	指導案の様式それぞれの項目が持つ意味を理解できておらず，ほとんど書くことができない。
態度	１．実習に向けた準備	実習の意義・目的を理解し，課題に対して主体的・意欲的に取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を常に意識し，遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的を理解しようとし，取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を意識し，無断の遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的を理解しようとし，取り組んでいるものの十分ではない。実習生としての心構えや態度を意識はしているが課題が残る。無断の遅刻・欠席することなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的が理解できておらず意欲的な取り組みがみられない。実習生としての心構えや態度に対する意識が乏しく，実践面でも課題が残る。無断の遅刻・欠席はすることなく授業に臨んでいる。	実習の意義・目的が理解できておらず，全く意欲的な取り組みが見られない。実習生としての心構えや態度に対する理解も実践も不十分で，無断の遅刻・欠席がある。
態度	２．事後の保育観と意欲	現地の指導者からのアドバイスを受けて，保育者の援助のあり方を多角的に考察でき，子どもに対する分析が以前より深くなっている。	現地の指導者からのアドバイスを受けて，保育者の援助のあり方について自分なりの意見をもつことができ，子どもに対する分析が以前より少し深くなっている。	現地の指導者からアドバイスを受けて，保育者の援助のあり方について自分なりの意見をもつことができている。	現地の指導者からアドバイスを受けたことを十分に理解できておらず，保育者の援助のあり方について意見もつことができているが十分ではない。	現地の指導者からのアドバイスを受けても，事前と事後での変化が見られず，自分なりの意見を持つこともできていない。

科目名	施設実習研究 1クラス			授業番号	CQ322A	サブタイトル			
教員	中 典子、牛島 光太郎								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	児童福祉施設や障がい者支援施設での実習を望ましいものにするために，本授業では施設実習の意義と目的・実習記録のとり方など，実習指導を受けるための心得について理解する。また，実習終了後には，実習の課題と反省についてまとめ，自己の振り返りをするために研究発表を行い，施設実習で何を学び，どのような技術を身に付けたかについて明らかにする。								
到達目標	施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	施設実習の意義と目的を学ぶ。 実習施設の役割・機能について理解する。	担当 中 牛島
第2回	対象となる利用児(者)について理解する。 運営状況について理解する。	担当 中
第3回	人権について学ぶ。 施設保育士の職務内容について把握する。	担当 中
第4回	職員間の役割分担やチームワークを学び，施設保育士としての資質を理解する。	担当 中
第5回	外部講師による講義 施設の一日の流れを理解する。利用児(者)への支援の方法を理解する。	担当 中
第6回	施設実習で学びたいことを考える。 実習先での支援について理解する。	担当 中
第7回	実習期間中の学習計画表を作成する。	担当 中
第8回	実習日誌の書き方について理解する。(デイリープログラムの書き方，利用児・者との関わりについての記載方法)	担当 中
第9回	個人情報保護法について理解する。 施設実習指導を受ける上での留意点を把握する。(実習生としての学びの姿勢について)	担当 中
第10回	実習日誌の書き方について理解する。(本日の実習課題と取り組みのポイント，本日の実習課題を通して考えたことについての記載方法)	担当 中
第11回	事後指導1 施設実習で学んだことをグループで振り返り，施設保育士の役割を理解する。	担当 中 牛島
第12回	事後指導2 施設実習で学んだことをグループで報告書にまとめ，施設保育士の役割を理解する。	担当 中 牛島
第13回	事後指導3 施設実習報告会の準備をする。（実習中に深く考えさせられたことについての振り返り）	担当 中
第14回	事後指導4 報告会（児童系の施設） 施設での実際の支援を理解する。	担当 中
第15回	事後指導5 報告会（障害児・者系の施設） 施設での実際の支援を理解する。	担当 中
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
レポート	50	実習終了後，現場で学んだことを振り返り，事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	事前学習に積極的に取り組んだどうかについて，評価する。実習日誌は，コメントを記入して返却する。学習内容が不十分だと判断した場合には，再提出を課す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回提示される課題を丁寧に作成すること。 ・授業中は，一言一句聞き逃さないような心構えをもち，真剣な態度で臨むこと。
授業外学修	・授業中に取ったノートや配付したプリントを見直し，復習すること。その際，必ず実習の手引きと再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育福祉小六法				
使用テキスト：自由記載	・使用するテキストは，『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の授業にて配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	・必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解が十分でない。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解できない。
思考・問題解決能力	２．施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できる。	施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できる。	施設において実習指導について理解できる。	施設において実習指導の意義について理解できる。	施設において実習指導についての理解が十分でない。	施設において実習指導についての理解ができない。

科目名	施設実習研究 2クラス			授業番号	CQ322B	サブタイトル			
教員	中 典子、牛島 光太郎								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	児童福祉施設や障がい者支援施設での実習を望ましいものにするために，本授業では施設実習の意義と目的・実習記録のとり方など，実習指導を受けるための心得について理解する。また，実習終了後には，実習の課題と反省についてまとめ，自己の振り返りをするために研究発表を行い，施設実習で何を学び，どのような技術を身に付けたかについて明らかにする。								
到達目標	施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	施設実習の意義と目的を学ぶ。 実習施設の役割・機能について理解する。	担当 中 牛島
第2回	対象となる利用児(者)について理解する。 運営状況について理解する。	担当 中
第3回	人権について学ぶ。 施設保育士の職務内容について把握する。	担当 中
第4回	職員間の役割分担やチームワークを学び，施設保育士としての資質を理解する。	担当 中
第5回	外部講師による講義 施設の一日の流れを理解する。利用児(者)への支援の方法を理解する。	担当 中
第6回	施設実習で学びたいことを考える。 実習先での支援について理解する。	担当 中
第7回	実習期間中の学習計画表を作成する。	担当 中
第8回	実習日誌の書き方について理解する。(デイリープログラムの書き方，利用児・者との関わりについての記載方法)	担当 中
第9回	個人情報保護法について理解する。 施設実習指導を受ける上での留意点を把握する。(実習生としての学びの姿勢について)	担当 中
第10回	実習日誌の書き方について理解する。(本日の実習課題と取り組みのポイント，本日の実習課題を通して考えたことについての記載方法)	担当 中
第11回	事後指導1 施設実習で学んだことをグループで振り返り，施設保育士の役割を理解する。	担当 中 牛島
第12回	事後指導2 施設実習で学んだことをグループで報告書にまとめ，施設保育士の役割を理解する。	担当 中 牛島
第13回	事後指導3 施設実習報告会の準備をする。（実習中に深く考えさせられたことについての振り返り）	担当 中
第14回	事後指導4 報告会（児童系の施設） 施設での実際の支援を理解する。	担当 中
第15回	事後指導5 報告会（障害児・者系の施設） 施設での実際の支援を理解する。	担当 中
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
レポート	50	実習終了後，現場で学んだことを振り返り，事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	事前学習に積極的に取り組んだどうかについて，評価する。実習日誌は，コメントを記入して返却する。学習内容が不十分だと判断した場合には，再提出を課す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回提示される課題を丁寧に作成すること。 ・授業中は，一言一句聞き逃さないような心構えをもち，真剣な態度で臨むこと。
授業外学修	・授業中に取ったノートや配付したプリントを見直し，復習すること。その際，必ず実習の手引きと再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育福祉小六法				
使用テキスト：自由記載	・使用するテキストは，『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の授業にて配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	・必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解が十分でない。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解できない。
思考・問題解決能力	２．施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できる。	施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できる。	施設において実習指導について理解できる。	施設において実習指導の意義について理解できる。	施設において実習指導についての理解が十分でない。	施設において実習指導についての理解ができない。

科目名	保育実習研究Ⅱ			授業番号	CQ324	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	児童福祉施設の種類は，大変に多い。そこで，保育所以外の様々な児童福祉施設について改めて講義し，自らの実習先の特徴が確認できるように説明する。また，実習に必要な技能について指導を行う。								
到達目標	保育所以外の児童福祉施設における実習(保育実習III)では，総合的な保育の実践力を身につけるために，学習科目の関連について学び，保育の全体計画，観察，記録，自己評価の方法，職業倫理，保育士の専門性について理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習の意義と目的	
第2回	保育実習に対する心構え	
第3回	保育実習の計画と準備	
第4回	実習へ向けての自己課題作成	
第5回	実習先への事前訪問	
第6回	乳幼児期の支援	
第7回	児童期の支援	
第8回	中学生・高校生の支援	
第9回	子育て家庭の支援	
第10回	実習日誌の書き方1 日誌と記録の意義	
第11回	実習日誌の書き方2 児童の観察のポイント	
第12回	実習日誌の書き方3 実習の計画と考察	
第13回	保育実習のまとめ1 礼状の書き方と振り返りシートの作成	
第14回	保育実習のまとめ2 グループワークにおける振り返り	
第15回	保育実習のまとめ3 実習報告会の実施	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
レポート	50	実習終了後，現場で学んだことを振り返り，事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	実習日誌については，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習に関わる重要な授業なので，毎回意欲的に取り組むこと。わからないことがあれば，その都度，積極的に質問すること。また，実習後は自らを振り返り，学び得たことを次に活かせるようにしっかりまとめること。
授業外学修	・授業中に取ったノートや配布したプリントを見直し，復習すること。その際，必ず実習日誌の説明部分と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし(プリントを配付する)

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．保育事例検討	得た知識と事例を関連付けて捉え，他者の意見も踏まえながら，自分なりの考えを述べることができている。	得た知識と事例を関連付け，他者の意見も踏まえながら自分なりの考えを述べようと努力している。	事例を見て思考し，自分なりに考えようとしている。	事例を見て，考えを述べているものの，熟考されておらず非論理的である。	事例に対して具体的なイメージが出来ず，自分なりの意見を述べることが全然できない。
思考・問題解決能力	2．自己課題設定	学んだことを生かし，現場実践に向けた自己課題を具体的に構築することができている。	学んだことを生かし，現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしているが，課題がまとまっていない。	課題が思いつかず，課題が設定できない。

科目名	学童保育実習研究			授業番号	CQ333	サブタイトル			
教員	中田 周作、伊藤 智里								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，学童保育実習を履修するために必要な事前・事後指導を行う。 事前指導では，実習において必要とされる基礎的技能および実習にあたっての心得を指導する。 事後指導では，実習内容を省察し，今後の実践力向上に活かすことができるようにする。								
到達目標	学童保育実習を有意義なものにするための学修を行う。 また，放課後児童クラブ運営指針に則った育成支援を理解する。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力 ＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	放課後児童指導員養成課程における実習の位置づけ	中田周作，伊藤智里
第2回	「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」	中田周作
第3回	放課後児童クラブ運営指針の概要	中田周作
第4回	放課後児童クラブにおける育成支援の内容	中田周作
第5回	特別講座（１）実習先の概要と実習日誌の書き方	中田周作，伊藤智里
第6回	特別講座（２）実習先の概要と実習全般にわたる注意事項	中田周作，伊藤智里
第7回	実習の心得と実習に係る書類作成等の確認	中田周作
第8回	指導案と実践記録（１）	中田周作
第9回	指導案と実践記録（２）	中田周作
第10回	お礼状及び実習報告書の作成	中田周作
第11回	実習報告書の作成	中田周作
第12回	実習報告書の作成	中田周作
第13回	実習の報告	中田周作，伊藤智里
第14回	実習の報告	中田周作，伊藤智里
第15回	実習のまとめと資格制度の確認	中田周作，伊藤智里
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業中に作成する書類やレポート
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	実習報告書

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として，学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者のみ履修できる。
授業外学修	実習の事前事後指導については，週当たり1時間以上の予習復習を行うこと。 授業外学修の内容については，毎回異なるので，授業の時に指示する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．運営指針が理解できている。	関係法令と関連付けて運営指針が理解できている。	運営指針が理解できている。	運営指針が規定する育成支援について理解できている。	育成支援について、あまり理解できていない。	育成支援が理解できていない。
知識・理解	２．実習生に求められる一般的な資質・能力	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することの重要性を理解している。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することの必要性を理解している。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことの重要性を理解している。	実習生として、子どもと積極的にかかわることの大切さが理解できていない。	子どもと関わる心構えができていない。
思考・問題解決能力	１．子どもの発達の特徴や発達過程を理解している。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解したうえで、自らの育成支援を計画することができる。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解したうえで、自らの育成支援を指導案に反映することができる。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解したうえで、子どもと関わることができる。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解した、子どもと関わりができていない。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。
技能	1.実習日誌、指導案について	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成することができる。指導や助言に基づいて、実習日誌、指導案の改善ができる。	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成することができる。	実習日誌、指導案が、一通りできている。	実習日誌、指導案が十分に書けていない。	実習日誌、指導案が書けていない。

科目名	保育所実習Ⅰ			授業番号	CQ418	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美、土師　範子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	保育所の役割や機能，保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して具体的に学ぶ。 これまでの学修を基盤に，乳幼児に対する望ましい援助の仕方について学ぶ。								
到達目標	・保育内容・機能等を実践現場での体験を通して理解する。 ・観察したり，子どもとのかかわりに参加したりすることで，子どもに対する理解を深める。 ・保育士等の職務内容及び役割，また園の職員とのチームワークなど体験的に把握する。 なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	1）保育所の役割と機能の理解 （1)施設の沿革と保育の基本方針を知る。 （2)乳幼児，保護者，保育士等のかかわりや，保育者の具体的な支援について知る。 （3)物的環境（敷地，建物の構造，配置及び施設・設備）を把握する。 （4)人的環境（職員構成，勤務形態等）を把握する。 2）観察・参加実習の実施 （1)観察・参加の仕方を学ぶ。 （2)乳幼児，保護者に対する理解を深める。 （3)保育の1日の流れを把握する。 （4)基本的生活習慣の自立を援助する。 （5)遊びなどの指導について学び，担当者の補助をする。 （6)実習園の保育課程と指導計画を理解する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	実習園での評価と実習記録・実習保育計画を総合的に評価する。
レポート	20	実習ノートの記述状況，指導を受けたことへの改善や，反省内容の記述状況を評価する。

評価の方法：自由記載	保育実習における実習園の評価票，実習日誌，指導計画の準備や成果等を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	実習園では，乳幼児に対して自ら積極的に関わること。 失敗を恐れずに，チャレンジ精神をもって臨むこと。 分からないことは，その都度，謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。 指導者に指摘された場合は，指摘内容をよく理解したうえで，改善に向けて努めること。
授業外学修	実習前にボランティアなどで乳幼児とのふれあい体験をしておくことを勧める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引き』『実習上の心得』 ※初回授業で配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．保育所の役割と機能の理解	実習生として必要な知識を十分理解し，実践に生かすことができている。	実習生として必要な知識を理解し，実践に生かすことができている。	実習生として必要な知識を理解し，実践に生かそうとしている。	実習生として必要な知識を十分に理解できていないが，実践に生かそうとしている。	実習生として必要な知識を十分に理解できておらず，実践につなげることができていない。
技能	2．子ども理解	子どもと主体的に関わって感じたこと・考えたことを丁寧にまとめ，そこから考察したことを踏まえて自身の実践や指導計画に十分生かすことができている。	子どもと主体的に関わって感じたこと・考えたことを丁寧にまとめ，そこから考察したことを踏まえて自身の実践に生かすことができている。	子どもと関わって感じたことを自分なりにまとめ，そこから考察したことを踏まえて自身の実践に生かそうとしている。	子どもとあまり関わることができていないが，その中で見つけたことを自分なりにまとめ，自身の実践に生かそうとしている。	子どもと十分に関われておらず，自分なりの考えが構築されていないため，実践につなげることができない。
態度	1．実習の参加状況	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践に十分に生かすことができている。	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践に生かすことができている。	実習指導者とコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことをまとめ，日々の実践に生かそうとしている。	実習指導者とあまりコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられないものの，経験したことを日々の実践に生かそうとしている。	実習指導者と十分なコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられない。

科目名	保育所実習Ⅱ			授業番号	CQ419	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美、土師　範子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	部分実習や責任実習を通して，保育の計画・観察・記録及び自己評価を実践的に理解する。 乳幼児に対する理解を深め，担当する子どもの実態と照らしわせながら具体的に指導を計画する。 実習全体を通して，保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。								
到達目標	実習を通して，乳幼児の発育・発達状況に応じた具体的な援助の仕方を学ぶ。 保育計画及び指導計画の体系と作成の方法を理解するとともに，記録に基づく省察や自己評価の方法を理解する。 保育記録や保護者とのコミュニーションなどを通して家庭・地域社会との連携を意識し，保育士としての意識を高める。 なお，この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考	実習生自らが立案した指導計画を用いて保育実践を行う。部分実習や責任実習に取り組み，実践的なスキルを身に付ける。								
授業計画 自由記載	(1)保育全般に参加し，保育技術を習得する。 (2)乳幼児の発達や個人差について理解し，適切な対応方法を学ぶ。 (3)指導計画を立案し，実践する。 (4)子どもの家族とのコミュニケーションの方法について具体的に学ぶ。 (5)地域社会に対する理解を深め，連携の方法について具体的に学ぶ。 (6)子どもの最善の利益の具体化について学びを深める。 (7)保育士としての職業倫理を理解する。 (8)保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて，自己の課題を明確にする。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	実習園での評価と実習記録・実習計画を総合的に評価する。
レポート	20	実習ノートの記述や，指導を受けた内容の改善状況，自分自身の反省・工夫・改善などを評価する。

評価の方法：自由記載	保育実習における実習園の評価表，実習日誌，指導案の準備や成果等を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	・実習園では，乳幼児に対して自ら積極的に関わること。 ・失敗を恐れずに，チャレンジ精神をもって臨むこと。 ・分からないことは，その都度，謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。 ・指導者に指摘されたことは，指摘内容を十分理解し，改善に努めること。
授業外学修	実習前にボランティアなどで乳幼児とふれあう体験をしておくことを勧める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引き』『実習上の心得』

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．保育計画及び指導計画	保育施設の全体的な計画を十分把握したうえで，担当する子どもの実態を的確にとらえた指導計画を作成し，子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができている。また実施後は十分な省察ができ，改善点を主体的に次へ生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を把握したうえで，担当する子どもの実態を捉えた指導計画を作成し，子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができている。また実施後は省察を行い，改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をおおむね把握し，担当する子どもの実態を捉えようとした指導計画を作成しているが十分ではない。子どもが楽しめる活動を展開することができている。また実施後は省察を行い，指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をあまり把握できておらず，担当する子どもの実態を捉えきれていない指導計画を作成していたり，作成できないこともある。実践後は省察を行い，指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を全然把握できておらず，担当する子どもの実態を捉えきれていない指導計画を作成していたり，作成できないこともある。実践後の省察も十分ではなく，指摘された改善点を理解することも難しい。
技能	2．発達に応じた援助	発達段階や個人差を十分に理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践できる。	発達段階や個人差を理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践できる。	発達段階や個人差を理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではないものの，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではなく，子どもの実態に応じて援助を工夫しない。
態度	1．実習の参加状況	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践や指導計画の作成に十分に生かすことができている。	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践や指導計画の作成に生かすことができている。	実習指導者とコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことをまとめ，日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者とあまりコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられないものの，経験したことを日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者と十分なコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられない。

科目名	施設実習			授業番号	CQ421	サブタイトル			
教員	中　典子、牛島　光太郎								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	児童福祉施設及び障がい者支援施設で実習指導を受けることにより，その種別による目的や機能を認識し，利用児(者)の生活状況を理解し，保育士がどのような立場にあることが望ましいかを明らかにする。								
到達目標	児童福祉施設及び障がい者支援施設について学んだ理論が実際の現場でいかに応用されているかを知り，自ら実践できるようになることを目的とする。また，利用児(者)にとって望ましい支援のあり方を理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	児童福祉施設・障がい者支援施設において10日間の泊まりこみ及び通いで実習指導を受け，下記のことを学ぶ。								
授業計画 自由記載	1．実習施設における一日の流れを体験によって理解する。 2．施設における支援方針が生活の中でどのように展開されているのかを知り，参加する。 3．支援のための計画を理解する。 4．職員の利用児(者)へのかかわり方に基づいて，実際に利用児(者)と関わる。 5．職員の利用児(者)へのかかわり方を通して彼らの思いを理解する。 6．生活支援の一部を担当し，支援のための技術を習得する。 7．利用児(者)の最善の利益に関する配慮を学ぶ。 8．保育士としての職業倫理を理解する。 9．安全及び疾病予防への配慮について理解する。 10．職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 11．記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭や地域社会を理解する。 12．利用児(者)の生活の安定をもたらす専門職としての資質を習得する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	30	日誌に実習で学んだことについて具体的に記載されていること，また，学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については，コメントを記入して返却する。 巡回訪問記録にもとづいて実習態度を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	70	実習先施設から返却された評価表に基づいて，評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「施設実習研究」で学んだ事をしっかり復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み，利用児・者と積極的に関わること。また，分からないことは，速やかに，かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。
授業外学修	・毎日，実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し，その都度見直したり，実践の振り返りに役立てること。また，新たに分からないことを発見した場合には，施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	・使用するテキストは，『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の「施設実習研究」の授業にて配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	社会福祉関連施設の保育士
実務経験をいかした教育内容	利用者への対応方法について実践を通して理解するように働きかける。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．施設の生活と一日の流れの理解	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	2．利用児(者)の特性やニーズの理解	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	3．利用児(者)の特性やニーズに応じた支援やかかわり	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	4．生活環境整備や安全への配慮	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	5．利用児(者)との人間関係形成	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	6．職員との関係形成	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
技能	7．職員の役割や連携の理解	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
態度	1．客観的な観察に基づく実習記録と省察	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
態度	2．具体的な課題設定と実践	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった
態度	3．実習生としてのマナーやモラル	見守りや示唆により十分に達成できた	見守りや示唆により達成できた	具体的な助言・指導により達成できた	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった

科目名	保育実習Ⅲ			授業番号	CQ423	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	福祉施設での実習指導を受けることにより，その種別による目的や機能を認識し，その全体系を明らかにする。そして，専門職としての保育士の職務意識を高め，全般的な技術に習熟するための実習を行う。								
到達目標	本実習の目的は，次の4つである。(1)個々の利用児・者に対する援助計画・日常的支援・専門的支援を理解できるようになる。(2)日常的支援の重点を理解し，指導者の助言をもとに援助計画を立案できるようになる。(3)担当者の指導のもとに利用児・者の援助実践を行い，養護技術の具体を知り，自ら実践できるようになる。(4)個々の利用児・者の異なるニーズに対応するサポートシステムを知り，自ら実践できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	基本的な実習を終えた後，次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施，関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題をもつこと。								
授業計画 自由記載	1）援助計画の理解 ・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。 ・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画，日常的支援，専門的支援を理解する。 2）援助プログラムの立案 ・日常的支援の時間配分や生活，教育，訓練，治療，矯正などの重点のお き方から援助プログラムへの生かし方を理解する。 ・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し，その助言を受けて立案する。 3）援助プログラムによる援助実践 ・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。 ・実習指導担当者の助言，実習場面の立ち会い，事後の評価等を受ける。 4）保育士の態度と技術の習得 ・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。 ・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。 ・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。 5）多様性と共通性の理解 ・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。 ・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを，施設で実践することで学習する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	20	実習で学んだことについて具体的に記載されていること，また，学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	80	実習先施設から返却された評価票に基づいて，評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「保育実習研究II」で学んだ事を復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み，利用児・者と積極的に関わること。また，分からないことは，速やかに，かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。
授業外学修	・毎日，実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し，その都度見直したり，実践の振り返りに役立てること。また，新たに分からないことを発見した場合には，施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	・必要に応じて紹介する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．保育計画及び指導計画	保育施設の全体的な計画を十分把握したうえで，担当する子どもの実態を的確にとらえた指導計画を作成し，子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができている。また実施後は十分な省察ができ，改善点を主体的に次へ生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を把握したうえで，担当する子どもの実態を捉えた指導計画を作成し，子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができている。また実施後は省察を行い，改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をおおむね把握し，担当する子どもの実態を捉えようとした指導計画を作成しているが十分ではない。子どもが楽しめる活動を展開することができている。また実施後は省察を行い，指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をあまり把握できておらず，担当する子どもの実態を捉えきれていない指導計画を作成していたり，作成できないこともある。実践後は省察を行い，指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を全然把握できておらず，担当する子どもの実態を捉えきれていない指導計画を作成していたり，作成できないこともある。実践後の省察も十分ではなく，指摘された改善点を理解することも難しい。
技能	2．発達に応じた援助	発達段階や個人差を十分に理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践できる。	発達段階や個人差を理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践できる。	発達段階や個人差を理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではないものの，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではなく，子どもの実態に応じて援助を工夫しない。
態度	1．実習の参加状況	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践や指導計画の作成に十分に生かすことができている。	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践や指導計画の作成に生かすことができている。	実習指導者とコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことをまとめ，日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者とあまりコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられないものの，経験したことを日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者と十分なコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられない。

科目名	学童保育実習Ⅰ			授業番号	CQ431	サブタイトル			
教員	中田 周作、伊藤 智里								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，学童保育所で90時間の実習を実施する。 実習期間は8月中旬から9月中旬である。								
到達目標	学童保育所は，実際には，どのような保育をしているのか，実習を通して経験する。 また，放課後の子どもたちと接することによって，子どもたちの実態を理解する。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1．実習先 実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より，実習先を配当する。 2．実習期間 おおよそ，次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後に10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	実習に関する書類や実習ノート
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	20	実習先の評価

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。
授業外学修	運営指針解説書は実習時に携行すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1.実習日誌、指導案、部分指導について	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。指導や助言に基づいて、実習日誌、指導案の改善ができる。	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。	実習日誌、指導案、部分指導が、一通りできている。	実習日誌、指導案、部分指導が、十分に書けていない。	実習日誌、指導案、部分指導が書けていない。
技能	2.育成支援について	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの7つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの6つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの4つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できていない。
態度	1.実習生に求められる一般的な資質・能力	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することができる。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習期間の後半には、実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習生として、子どもと積極的にかかわることができない。	子どもと関わることができていない。

科目名	学童保育実習Ⅱ			授業番号	CQ432	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，学童保育所で90時間の実習を実施する。 実習期間は8月中旬から9月中旬である。								
到達目標	学童保育所は，実際には，どのような保育をしているのか，実習を通して経験する。 また，放課後の子どもたちと接することによって，子どもたちの実態を理解する。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1．実習先 実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より，実習先を配当する。 2．実習期間 おおよそ，次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後に10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間 3.振り替え 放課後児童指導員資格を取得するためには，本実習の履修が必要であるが，その他の実習（ただし2単位以上）の単位で振り替えることができる。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	実習に関する書類や実習ノート
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	20	実習先の評価

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。
授業外学修	運営指針解説書は実習時に携行すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1.実習日誌、指導案、部分指導について	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。指導や助言に基づいて、実習日誌、指導案の改善ができる。	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。	実習日誌、指導案、部分指導が、一通りできている。	実習日誌、指導案、部分指導が、十分に書けていない。	実習日誌、指導案、部分指導が書けていない。
技能	2.育成支援について	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの7つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの6つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの4つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できていない。
態度	1.実習生に求められる一般的な資質・能力	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することができる。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習期間の後半には、実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習生として、子どもと積極的にかかわることができない。	子どもと関わることができていない。

中国学園大学　国際教養学部　国際教養学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
心理学	國田　祥子	1
自然科学概論	岸　誠一	3
日本文化論	岡本　輝彦	5
日本国憲法	俟野　英二	7
倫理学	小谷　彰吾	9
比較文化論	藤代　昇丈	11
中国語	畑木　亦梅	13
韓国語	宋　娘沃	15
岡山学（オムニバス）	住野　好久	17
ICT概論Ⅰ	久保　博尚	19
ICT概論Ⅱ	久保　博尚	22
実践英語Ⅰ	ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ	25
実践英語Ⅱ	森年　ポール	28
導入ゼミナールⅠ	大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／岡本　輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司／宋　娘沃	31
導入ゼミナールⅡ	大宮　めぐみ／森年　ポール／佐々木　公之／岡本　輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安　章／梶西　将司／宋　娘沃	33
マクロ経済学入門	藤原　敦志	35
ミクロ経済学入門	山中　匡	37
マーケティング論入門	宋　娘沃	39
経営学入門	宋　娘沃	41
会計学入門	岸保　宏	43
簿記入門	栢野　勝己	45
観光総論	大石　貴之	47
観光実務	大石　貴之	49
農業経済入門	中安　章	51
農業経済学	中安　章	53
英語資格演習Ⅰ	藤代　昇丈	55
日本の伝統文化	後藤　智絵	57
日本の食文化	小築　康弘	59
国際関係論	井上　あえか	61
総合英語	藤代　昇丈	63
データサイエンス入門	梶西　将司	65
社会調査の基礎	梶西　将司	67
金融論入門	三好　秀和	69
観光英語A	佐々木　真帆美	71
食品流通論	大宮　めぐみ	73
ビジネス・イングリッシュ	森年　ポール	75
ビジネス・ディスカッション技法	大宮　めぐみ／梶西　将司	77
日米関係	ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ	79
実践英語Ⅲ	佐々木　真帆美	81
実践英語Ⅳ	佐々木　真帆美	83
日本の文学	野口　尚志	85
現代環境論	岸　誠一	87
日本語教育概論	岡本　輝彦	89
日本語教授法	岡本　輝彦	91
経営学特論Ⅰ	宋　娘沃	93
企業倫理論	大塚　祐一	95
経営学特論Ⅱ	宋　娘沃	97
情報処理Ⅰ	赤木　竜也	99
情報処理Ⅱ	赤木　竜也	101
情報処理Ⅲ	赤木　竜也	103
ICT応用論	久保　博尚	105
ICT未来学	久保　博尚	107
現代経済史	藤原　敦志	109
経営戦略論	宋　娘沃	111
マーケティング論	宋　娘沃	113
データサイエンス論	梶西　将司	115
イベント・コンベンション事業論	田村　秀昭	117
レジャー・リゾート論	田村　秀昭	119
地域経済学	北川　博史	121
現代ビジネス論	佐々木　公之	123
ブランド戦略論	宋　娘沃	125
観光経営論	田村　秀昭	127
リーダーシップ論	佐々木　公之	129
ライティング	ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ	131
時事英語	藤代　昇丈	133
英語ディスカッション	森年　ポール	135
観光英語B	佐々木　真帆美	137
グローバル経済論	山中　匡	139
英語プレゼンテーション	藤代　昇丈	141
プロフェッショナル・イングリッシュ	佐々木　真帆美	143
観光産業論	田村　秀昭	145
日・アセアン関係	冨田　暁	147
国際経営論	佐々木　公之	149
アジア食品論	中安　章	151
フードシステム論	中安　章	153
地域資源論	中安　章	155
地域政策	中安　章	157
食料経済	大宮　めぐみ	159
アグリビジネス論	中安　章	161
農産物直売所と地域活性化	中安　章	163
農業政策と環境・資源保全	中安　章	165
フードマーケティング論	大宮　めぐみ	167
農業協同組合論	大宮　めぐみ	169

専門ゼミⅠ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇丈／岡本 輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	171
専門ゼミⅡ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇丈／岡本 輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	173
専門ゼミⅢ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇丈／岡本 輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	175
専門ゼミⅣ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇丈／岡本 輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	177
専門ゼミⅤ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇丈／岡本 輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	179
専門ゼミⅥ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇丈／岡本 輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	181
卒業研究	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇丈／岡本 輝彦／ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	183
トップリーダー講義（キャリア研究）	佐々木 公之	185
キャリア・デザイン	佐々木 公之	187
ビジネスプランコンテスト	佐々木 公之	189
インターンシップ（短期）	佐々木 公之	191
インターンシップ（中長期）	佐々木 公之	193
夏季語学研修	佐々木 真帆美	195
春季語学研修	佐々木 真帆美	197
セメスター留学	佐々木 真帆美	199
日本事情（外国人留学生のみ受講可）	岡本 輝彦	201
日本語Ⅰ（外国人留学生のみ受講可）	岡本 輝彦	203
日本語Ⅱ（外国人留学生のみ受講可）	岡本 輝彦	205

科目名	心理学			授業番号	LA101	サブタイトル	(心と行動の科学)		
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，心理学全般の基本的な知識，心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。								
到達目標	クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	心理学とは 「不思議」とされる現象を題材に，人の心のしくみについて長年研究を積み重ねてきた心理学の概要を紹介する。	
第2回	予知体験の不思議 「予知」「予言」と呼ばれる現象はなぜ起こるのか，推論のプロセスから解説する。	
第3回	記憶の不思議 「存在しない記憶」を確信を持って思い出してしまうのはなぜ？ 不思議な記憶のメカニズムについて解説する。	
第4回	影響されるこころ 意見や態度は変容するものである。しかし「影響されやすい」状況やその特徴を知っておくことは重要かもしれない。	
第5回	揺れうごくこころ 感情が私たちの生活の中でどのような働きをするのか，悪徳商法や，心身に良いとされるものを例に考える。	
第6回	検査で「自分」がわかるのか ネットや雑誌などで目にする「心理テスト」はあてになる？ 本物の「心理検査」「パーソナリティ測定」とは。	
第7回	占い・新宗教がもつ現代的意味 占いなどのスピリチュアルな世界に魅力を感じる人は多い。その心理を，背景にある悩みや迷いから紐解いていく。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	子どもから見た現実と想像の世界 さっきまで鬼を怖がって逃げていた子が，今度は鬼の面を付けて「鬼さん」に変身！ 子どもたちが世界をどう捉えているのか考える。	
第10回	「もしかして……」と揺れ動く心の発達 「本当はいない」と分かっていても「いるかもしれない」と思うオバケへの恐怖。想像と現実を行き来する子どもの心を考える。	
第11回	不思議現象に立ち向かう子どもたち 子どもたちは想像の世界に積極的に立ち向かうことで，現実を探求するように。「科学する心」の始まりを解説する。	
第12回	脳とこころの不思議な世界 「金縛り」や「幻覚」はなぜ起こるのか。脳神経系の生理的変化から説明できる心の活動について解説する。	
第13回	科学的に検証するとはどういうことか 目に見えない「心」の存在やその活動を科学的に捉えるには，厳密な実験計画と統計的検定が重要。	
第14回	心理学を学ぶ人のために 分かりやすくもないし簡単でもない，意外と地味な心理学だからこそ学べる「面白さ」。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
不思議現象　なぜ信じるのか　こころの科学入門	菊地　聡・谷口高士・宮元博章（編著）	北大路書房	978-4-7628-2032-8	1900円
不思議現象　子どもの心と教育	菊地　聡・木下孝司（編著）	北大路書房	978-4-7628-2089-2	1900円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し，多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの，努力は明らかである	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず，知識を獲得できていない

科目名	自然科学概論			授業番号	LA102	サブタイトル	体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から，自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて，自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また，科学工作も行い，科学のおもしろさと不思議さを実感する。								
到達目標	私たちの身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識，科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	授業の中では，様々な測定装置，電気関係の測定機器や実験器具などを用いて，私たちの身のまわりの環境，自然科学について実測，体感しながら学びを深めていく。								

回	概要	担当
第1回	中国学園の庭で「幸せ」を探そう!? 四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさを体験し，自然の不思議さに気づくことの大切さを実感する。	
第2回	科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ 空き缶を斜めに立てる科学マジックを通して，力学の法則を理解する。	
第3回	楽しいフィールドワーク 吉備の中山をグループで協力しながら歩き，自然に生息する動植物について理解を深める。	
第4回	コンピュータについて学ぶ 生成系AIによる画像の生成などの体験を通して，ネット社会の未来について理解を深める。	
第5回	地球温暖化のしくみ 二酸化炭素により，地表温度が上昇するしくみが分かる実験装置を活用して，地球温暖化のしくみを理解する。	
第6回	君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！ 高電圧の実験を通して，電気の性質を理解する。また，高電圧を使うイオンエンジンの模型を用いて飛行実験を行い，イオンエンジンの原理について理解する。	
第7回	電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 はんだ付けをしながら，電子オルゴールを製作し，半導体の構造・性質について理解する。	
第8回	高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック) 音を電気信号に変換するオシロスコープという測定器を使い，音を「見える化」しながら「音の3要素」の性質について理解を深める。	
第9回	スライムで遊ぼう!! 「光るスライム」づくりを通して，物質の分子構造について理解する。	
第10回	糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習 べっこう飴づくりを通して物質の分子構造について学ぶ。	
第11回	天然色素と酸アルカリの実験と実習 ムラサキキャベツから作る液体の色の反応から酸性・アルカリ性の水溶液の性質を理解する。また，最後に緑色の焼きそばを作る。	
第12回	光に関する基礎講座ならびに実験と実習 偏光フィルターを使った光の回折実験やレンズを使った光学実験を行いながら，光の性質について理解を深める。	
第13回	楽しい数学 微分や積分などの難しい数学にチャレンジし，数学の問題をを解く楽しさを実感する。	
第14回	流しそうめんの加速度を測定しよう！ 実際に流しそうめんをしながら，運動の法則の理解を深める。	
第15回	まとめ 授業全体の振り返りと自然科学全般のトピックスについて解説。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，実験・実習・討議等への参加度等によって評価する。
レポート	20	野外学習等授業によっては、レポートを提出し、その内容について評価する。提出されたレポートについてはコメントをつけて返却する。
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ次回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について十分に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について概ね理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について普通に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解がやや不十分である。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解できていない。
態度	1.身のまわりの自然現象に関心を持ち，科学的なものの考え方ができるようになる。	身のまわりの自然現象に強い関心を持ち，自ら自然に触れたりするなど積極的に自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち，自ら自然に触れたりするなど自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち，自然のことを調べるなどして科学的な考え方を身に着けている。	身のまわりの自然現象にあまり関心がなく，科学的なものの考え方も十分にできない。	身のまわりの自然現象に全く関心がなく，科学的なものの考え方も全く身についていない。

科目名	日本文化論			授業番号	LA103	サブタイトル			
教員	岡本　輝彦								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	前半は，まず日本の文字・表記の成立，敬語について考え，次に日本最古の書物である古事記をもとに日本文化と社会について，さまざまな視点から見ていく。また，神話から日本社会がどのように形づくられたかについて考察を加える。さらに，多文化共生のあり方についても理解を深める。								
到達目標	１．日本の文化を知ることができる。 ２．日本の文字・表記，敬語について理解することができる。 ３．日本と神と人々のつながりを知ることができる。 ４．古代から現代までの日本社会の形成を理解することができる。 ５．多文化共生社会について見識を深めることができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション，日本文化とは何か 一口に「文化」とは言っても幅広い研究分野であり,人によってつくり出されたものを「文化」とすることもあるほどである。ここでは「文化」の概念を学ぶ。	
第2回	日本文化とは何か 「文化」中で日本文化とは何を理解するとともに,この講義では何を扱っていくかを説明する。	
第3回	日本の文字・表記(1) 日本の文字・表記は日本の文化であるが,平仮名・片仮名・漢字はいかに日本に定着してきたかを知る。また,どのような特徴があるのかを理解する。	
第4回	日本の言葉 日本の言葉はほかの言語と比べ,その数が多い。それはオノマトペが豊富であること,性差・地域差などの位相の違いによる表現が多いことなどが挙げられるが,私たちの生活に語彙が多いことの利点を学ぶ。	
第5回	敬語 日本には敬語があるが、ほかの言語に比べ体系的にしっかりとしており,使い方も特徴的である。この敬語が人間関係を構築するためには重要であり,日本文化を表しているので敬語の体系を知る。	
第6回	古事記とは 日本最古の歴史書である「古事記」を読むことによって日本について学ぶ。「古事記」とはどのように編纂されたかについて知る。また,同時期に編纂された「日本書記」とは何が異なるのかを理解する。	
第7回	古事記(1) 日本が生まれた「創世神話」について学ぶ。	
第8回	古事記(2) 「国生み」と「神生み」について学ぶ。	
第9回	古事記(3) 「黄泉の国」ついて学ぶ。	
第10回	古事記(4) 「禊」「姉弟神の対立」について学ぶ。	
第11回	古事記(5) 「天の岩戸」について学ぶ。	
第12回	古事記(6) 「出雲神話」について学ぶ。	
第13回	多文化共生(1) 在留外国人が増加しているなか,「多文化共生」が重視されているが,「多文化共生」とは何かを理解する。	
第14回	多文化共生(2) 「多文化共生」社会の実現を目指して各地方自治体でさまざまな取り組みが行われているが,どのようなことが行われているかを考察する。	
第15回	多文化共生(3) 地元の岡山市や倉敷市はどのような取り組みを行っているのか,またどのような問題が生じているのかを知るとともに,どのように解決していけばいいのかを考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	講義に対する積極性によって評価する。
小テスト	60	学習内容を理解し,自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。 小テストはコメントを加え,返却した後に全員で再確認する。
プレゼンテーション	20	内容に基づき,適切にプレゼンテーションが組み立てられているかで評価する。 プレゼンテーション終了後にコメントを加え、再検討する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1．授業計画に提示されているテーマに関するプリントを事前に読んで理解しておくこと。 2．授業計画に基づく事項について自分の考えを整理しておくこと。
授業外学修	1.授業計画で提示されているテーマに関する資料を読んでおき，予習しておくこと。 2.自分の考えをまとめておくこと。 3.プレゼンテーションの準備をしておくこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	授業計画に基づく事項に関するプリントを適宜配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．根拠に基づいて日本の文化を知ることができる。	根拠に基づいて具体的かつ客観的事実を示しながら伝えることができる。	根拠に基づいて客観的な事実を示しながら伝えることができる。	根拠に基づいて客観的的な事実とは言えないが、何らかの理由を示しながら伝えることができる。	根拠に基づいているものの、根拠も理由も示して伝えることができない。	根拠に基づかず根拠も理由も示して伝えることができない。
知識・理解	2．論理的に理解することができる。	設定したテーマに基づいて論理的な一貫性を持って整理することができる。	設定したテーマに基づいてある程度論理的な一貫性を持って整理することができる。	設定したテーマに基づいているものの、やや論理的な一貫性に欠けるが、伝えることができる。	設定したテーマに基づいているものの、かなり論理的な一貫性に欠けるが、何とか伝えることができる。	設定したテーマに基づいておらず、論理的な一貫性もないため、伝えることができない。
思考・問題解決能力	1．発表内容を整理して書くことができる。	自らが設定したテーマに基づいて詳細かつ客観的データを用い、整理して書くことができる。	自らが設定したテーマに基づいて客観的データを用い、整理して書くことができる。	自らが設定したテーマに基づいて何らかのデータを用い、整理して書くことができる。	自らが設定したテーマに基づいて何のデータも用いず、整理して書くことができる。	自らテーマを設定せず、整理して書くことができない。
思考・問題解決能力	2．わかりやすいプレゼンテーションができる。	他者がわかるように段落を整えながら、論理的にわかりやすくプレゼンテーションができる。	他者がわかるように文の構成を整えながら論理的にプレゼンテーションができる。	他者がわかるように論理的にプレゼンテーションができる。	他者がわかるようにやや論理的に一貫性は欠けるものの、何とかプレゼンテーションができる。	論理的に一貫性のないため、わかりやすいプレゼンテーションはできない。

科目名	日本国憲法			授業番号	LA201	サブタイトル	(身近な問題から憲法の役割を考える)		
教員	俟野　英二								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえて概説する。Universal Passportにより章ごとに小テストの課題を課し、その基本原理の理解及び基礎知識の定着を確認する。 次に、基本原理等に関する憲法問題を発展学習として、学生が任意に選んだ課題解決に向けてグループで取り組む。そのグループで調査した内容をUniversal Passportで公開、講義でプレゼンして全体討議を行う。これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景および相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うことから，職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得とともに，体系的な思考方法を学び，多面的に分析し，自らの見解を形成する能力の修得を目的とするので，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス，憲法とは何か 1　学修の目標，評価方法などを説明する。 2　法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。	
第2回	国家機関としての天皇制 1　徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2　国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。	
第3回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１―― 非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。	
第4回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２―― 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。	
第5回	国民主権を実現する仕組み１ 政治と国民、国会議員について学修する。	
第6回	国民主権を実現する仕組み２ 選挙、選挙制度、政党について学修する。	
第7回	人権を守るための組織――統治機構１―― 国会、内閣について学修する。	
第8回	人権を守るための組織――統治機構２―― 地方自治、裁判所について学修する。	
第9回	良心をもつ自由、買く権利、中間試験 1　良心の意義について学修する。 2　教師の良心を買く権利について考える。 3　中間試験を実施する。	
第10回	表現の自由と書かれない権利 1　表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2　表現の自由の優越的地位について学修する。	
第11回	知る権利とマス・メディアの自由、グループワーク１ 1　知る権利とマス・メディアの自由について学修する。 2　マス・メディアと国民との利害対立の調整について考える。 3　グループワーク（課題選択）	
第12回	営業の自由と消費者の権利、グループワーク２ 1　職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 2　職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 3　グループワーク（課題分析）	
第13回	子どもの権利と学校における生徒の人権 1　学校における生徒、教師の人権について学ぶ。 2　グループワーク（情報収集、整理）	
第14回	働く人の権利、グループワーク４ 1　勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 2　女性や非正規労働者の問題について考える。 3　グループワーク（全体討議１）	
第15回	グループワーク５ グループワーク（全体討議２）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	20	各回のグループワーク終了時に提出するワークシートに，要求されているステップに沿ったグループワークの結果が書かれていること。 不十分な点については、コメントを付して連絡する。
小テスト	20	各章の主要なポイントの理解を評価する。回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
中間テスト	20	憲法の基本原理及び基礎知識の理解及び課題に対する論理的思考を評価する。Universal Passportに解説を掲示し、全体の講評を講義で行う。
定期試験	40	中間テストの基礎に加え、異なる価値観・意見に配慮した主体的な意見の論理的思考を総合評価する。解説をUniversal Passportに掲示する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 2　第11回以降、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。講義時間中にスマートフォン、タブレットなどで法律情報をリサーチしたり、Universal Passportにワークシートや報告書をアップするので十分充電して講義に臨むこと。 3　中間（第9回）に１回中間テストがある。
授業外学修	1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 3　グループワークで選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループ報告書のまとめ、プレゼンテーションの準備に向け、共同作業のための事前準備を行う。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから－身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400円＋税

使用テキスト：自由記載	第2版の改訂作業中です。第2版が出版された場合、そちらを採用します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本判例１　憲法（第4版）	右崎正博・浦田一郎編	法学書院	978-4-587-52413-5	2500 円＋税

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，大体述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，全く表現することができない。
知識・理解	２．国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し，理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確にではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	２．多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観・意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観・意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。

科目名	倫理学			授業番号	LA202	サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)		
教員	小谷　彰吾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	激変する時代の中で，偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで，先哲の思想，中でも儒教の視点を一つの柱としたり，現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとらえていく。								
到達目標	東洋，西洋，それぞれの時代の中で，人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに，我が国には，神道，仏教，儒教が融合する独特の精神文化があり，それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	『倫理学』の概念を知り，『善悪』の判断とその背景，その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。								

回	概要	担当
第1回	倫理の基盤(1)　ガイダンス 「倫理学」を概観するとともに、授業の展開、授業上の注意事項についてのガイダンス	
第2回	倫理の基盤(2)　倫理観と社会的背景 現代社会の現状、社会的病理など踏まえ、倫理観の低下の原因となる共同体意識の低下などの根拠に触れる	
第3回	倫理の基盤(3)　倫理観の形成と体験の欠如 現代社会が便利になればなるほど、「よりよく生きる」という概念が軽視され、自己中心的発想によって他者に対する思いやりが欠如してくる。幼少期の大自然との関わり、他者との関わりの欠如がますます客観的に自己を見つめることを理解する。	
第4回	倫理の思想(1)　倫理と道徳 「倫理」と「道徳」のルーツから、その違いや同じ「習慣」という考え方に行きつくことを理解するとともに、「知行合一」頭での理解と実践を重ねていくことに課題がある事を理解する。	
第5回	倫理と思想(2)　知識基盤社会と倫理 文明が進化しても、人間の倫理観が追いついていかない現実を昨今の社会的事象や事件などから考える	
第6回	倫理学の基礎(1)　倫理と思考実験 著名なトロッコ実験を例にとり、「安楽死」をどうとらえるかにつなげてく。	
第7回	倫理学の基礎(2)　義務論と功利主義 「タラソフの事例」を基にカントの考え方を理解したり、自殺について考える。	
第8回	現代社会の倫理(1)　死刑制度 日本は死刑の有る少数の国の一つであることを資料から理解すると共に、死刑が必要かどうか議論しながら考えを深める	
第9回	現代社会の倫理(2)　老いと安楽死 これまでの「死生観」をさらに深めるとともに「老いる」ことについて考察を深める	
第10回	現代社会の倫理(3)　いじめと自殺 日本のいじめの現状を理解すると共に、その特徴を知り、特に子供を取り巻く大人の一人として必要なことを考える	
第11回	現代社会の倫理(4)　徳の教育と学校 日本の千五の道徳教育の変遷といじめ打開のための道徳の教科化について知る	
第12回	現代社会の倫理(5)　伝統文化と食の倫理 輸入に頼る日本の食の危機と子どもを取り巻くファストフードについて考える	
第13回	日本倫理の思想(1)　江戸時代の徳の教育 「江戸しぐさ」を理解し、品位品格を求めた当時の教育、また、家庭、寺子屋、地域ともに同じベクトルで子どもに向き合った教育を考える	
第14回	日本倫理の思想(2)　『論語』 著名なものの中から、現代の『倫理観』を向上させるにふさわしい章句を取り上げその意味を知る	
第15回	『倫理学』のまとめ　総括レポート これまでの学習から、自分が今何を為すべきか、また、一人の大人として我が国の倫理観の低下に歯止めをかける策を考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	ディスカッション等授業における意欲・態度，各授業のコメントペーパー
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	15回目の論文で評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義内で随時，紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭15年，私立高等学校教諭18年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	現在，学校教育現場では，アクティブラーニングの研究が進められており，「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし，特に小学校においては，遥か前から実践されていた学びであり，特に「道徳」は教科化されて以降，「議論する道徳」「思考する道徳」，すなわち自らの意見を持って，仲間と意見をぶつけ合い，新しい価値を見出していく学習が展開されている。『倫理学』とて同様の学習を展開すれば，「主体的な学び」が展開できるものと考えている。 グループワーク，ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気を醸成したい。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学問としての倫理学を概観するとともに、現代日本社会の倫理観の現状、原因等について理解する	学問としての倫理学を概観するとともに、現代日本社会の倫理観の現状、原因等について十分理解できている	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解は優れている	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解は十分なレベルである	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解が今一つである	学問としての倫理学を概観すること、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解が非常に劣っている。
態度	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において非常に優れている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において優れている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において十分なレベルである。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点においてやや劣っている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において非常に劣っている。

科目名	比較文化論			授業番号	LA203	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	異文化理解に関するテキストを用い，「文化を比較する」ということを，具体的なテーマについてのディスカッションなどの活動を通して実践的に学ぶ。具体的には衣食住や音楽，芸能などの身近なテーマから思想，言語，宗教などの精神活動に関するテーマなど様々なテーマについて扱う。文化の異同を考えることを通じて，日本文化について改めて理解し，多文化の人々との異文化コミュニケーションを取ることのできる知識と問題解決能力を高める。								
到達目標	具体的なテーマについて，異文化を理解し，比較することを通して，自らの国に対する理解を深めるとともに，自ら一定の尺度をもって，多文化の人々と接し，コミュニケーション力を取れる力を身に着けさせる。また，情報や意見をまとめ，相手を意識して自らの思いや意見を表現できる力を養う。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	文化とは，異文化理解とは何か 「文化」とは何か、文化を構成するものは何か、についてグループディスカッション 文献を通して「文化」の定義づける	
第2回	比較文化の方法 / 「空気に耳を澄ます」異文化間コミュニケーション 文化を比較するとはどういうことかについて考える 空気の読み方を例にとり異文化間コミュニケーションにおける留意点についてディスカッション テキスト１章のエピソードから考える	
第3回	文化と言語　社会言語，認知言語の視点から 言語と文化との関係について考える 社会言語学や認知言語学の視点から物の見方・考え方について解説	
第4回	多文化共生社会 国籍や民族等の異なる人々が、互いに文化的背景等の違いを認め、互いの人権を尊重し合い、地域社会で共に協調して生きる社会を築くための課題についてディスカッション	
第5回	様々な礼節のかたち テキスト２章のエピソードから考える 「勤務評価とネガティブ・フィードバック」 文化の違いと行き違い	
第6回	「なぜ」vs「どうやって」多文化世界における説得の技術 テキスト３章のエピソードから考える 「平等」と「公平」についてディスカッション	
第7回	敬意はどれくらい必要か　リーダーシップ　階層　パワー テキスト４章のエピソードから考える ローコンテキストとハイコンテキスト	
第8回	「大文字の決断か小文字の決断か」誰がどうやって決断するか テキスト５章のエピソードから考える 「平等主義的文化」と「階層主義的文化」	
第9回	「頭か心か」二種類の信頼とその構築法 テキスト６章のエピソードから考える グループディスカッションと発表	
第10回	生産的に見解の相違を伝える テキスト７章のエピソードから考える グループディスカッションと発表	
第11回	「遅いってどれくらい」スケジューリングと各文化の時間に対する認識 テキスト８章のエピソードから考える グループディスカッションと発表	
第12回	国際化と食文化　日本の「和食」 食文化とタブー 各国の食文化について調べ、発表 グループディスカッション	
第13回	遊び，芸能，宗教，音楽 各国の遊びについて調べ、発表 グループディスカッション	
第14回	性差　ジェンダー 各国の性別と性役割について調べ、発表 グループディスカッション	
第15回	日本のこころ / まとめ 日本文化の内、海外に紹介したいものを選び調べ、発表	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する
レポート	30	課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い，内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他	40	課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。 ・事前準備では辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・知識から実践へと進むことができるように，積極的に授業に参加し，授業外でもしっかり練習をして欲しい。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
異文化理解力――相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養	エリン・メイヤー	英治出版	978-4862762085	1800
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)・県総合教育センター(４年)・県立高等学校英語科教諭(17年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき異文化理解の基礎知識などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1比較文化や異文化理解に対して必要な基礎的な事項を理解できる。	比較文化や異文化理解について、テキストや文献を読んだり，講義を聞いたりして、必要となる基礎的事項を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	比較文化や異文化理解について、テキストや文献を読んだり，講義を聞いたりして、内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	比較文化や異文化理解について、テキストや文献を読んだり，講義を聞いたりして、おおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	比較文化や異文化理解について、テキストや文献を読んだり，講義を聞いたりしても、内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	基礎的な文献を読んだり，講義を聞いたりしても、内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.文献などから得られた知識をまとめ、自分の意見を加えて表現することができる。	文化に関するテーマについて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	文化に関するテーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	文化に関するテーマについて，相手と話したり，書いたりすることができる。	文化に関するテーマについて，相手と話をすることはできるが，十分に理解し応用することはできない。	文化に関するテーマについて，相手と話をすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	3.文化をとりまく様々なテーマについて様々な手段で調べることができる。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解し，文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解し，文献などから調べることができる。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解し，与えられた文献などから調べることができる。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解することはできるが，自ら調べることはができない。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解することができず、調べることもできない。
思考・問題解決能力	1.事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2.論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明瞭である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。
思考・問題解決能力	3独創性と洞察力に富んだ表現内容である	オリジナリティに富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	4.テーマや課題に対してチームメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、それぞれの役割を意識しながら、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約することができる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を行い、協力することはできるが、意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して、グループワークやペアで協働することができない。

科目名	中国語			授業番号	LA301	サブタイトル	（発音記号，基本文型，会話，短文）		
教員	畑木 亦梅								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また，外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい，一緒に探し当てていく。								
到達目標	既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	発音記号(1) 単母音，声調，子音，軽声，特殊母音	
第2回	発音記号(2) 重母音，鼻母音，声調の記号のつけ方	
第3回	発音の復習，自己紹介、人称代名詞、「是」「呢」「也」「请」	
第4回	これは何ですか？ 指示代名詞、「吗」「不」「什么」「的」	
第5回	これはいかがですか？ 形容詞述語文、「怎么样」	
第6回	買い物 数詞、数量、助詞「吧」	
第7回	どこにありますか？ 場所指示代名詞、「在」「想」	
第8回	何がありますか？ 「有」「什么」、助数詞	
第9回	ホテルにチェックイン 「了」「还是」	
第10回	何時に行きますか？ 「过」、時間を表す言葉	
第11回	タクシーに乗る 「从」「到」「给」	
第12回	試着と支払い 「可以」「能」「会」「在」	
第13回	苦情を訴える 「给」「是」「去」「来」	
第14回	紛失届を出す 「是～的」「的时候～」	
第15回	復習，おさらい，定期試験に向けて	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
筆記試験	100	発音記号、語彙、文法の定着を確認するため、それぞれの区分から約6・2・2の点数配分で出題

評価の方法：自由記載	授業への取り組みの姿勢／態度／課題の完成度が評価対象になります。
受講の心得	予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。 毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており，遅刻せず声を出して練習すること。
授業外学修	1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。 2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認すること。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
一年生のコミュニケーション中国語	塚本慶一・劉穎	白水社	978-4-560-06931-8	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	プリント配布，学習内容に合わせて中国事情を紹介。 プリントを入れる為のA4サイズのポケット式ファイル(20ポケットほど)を用意すること。 初回からプリントの配布があり，その後の授業にも使う予定。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	高等学校での中国語授業			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	通訳，翻訳の経験を活かし，学生自身の母国語の日本語について考えてもらい，より言語に関心を持ってもらうよう指導する。また，中国語授業の経験を活かし，学生と共に各々にあっての言語の修得方法を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．語彙の使用法	幅広い語彙を会話の中で正確かつ効果的に活用できる	語彙の使用の多様性を示しすが、時折不正確である	基本的な語彙は概ね理解しているが、表現の種類は限られている	語彙の範囲が狭く、単語の選択に苦労する	最小限の語彙しか使用せず、コミュニケーション効果を妨げている
知識・理解	2．文法	文法規則をしっかりと理解し、それらをスピーチなどで正確に適用している	一般的に正しい文法を使用し、理解を妨げない程度の軽微な誤りがある	文法の誤りが目立ち、文の構造と明瞭さにかける	基本的な文法の概念に苦労し、比較的ミスが多い	文法規則の理解が乏しい
思考・問題解決能力	1．異文化理解	会話で中国文化の知識と理解を示す	文化的なニュアンスを意識し、文化的要素を適切に取り入れる	文化的な側面について思考しているが、精度は限られている	中国文化の知識がほとんどなく、文化的参照が不足している	中国の文化的側面に対する理解や配慮を示さない
技能	1．言語能力	正確な発音と基本的な言語構造の理解により、完全な文章で話すことができる	発音に多少の誤りはあるが、基本的な考え方を効果的に伝えることができる	基本的な語彙やフレーズを使って話そうとするが、発音の間違いが目立つ	まとまりのある文章を作るのに苦労し、語彙の使用が限られ、発音の間違いが頻繁にある	断片的に話し、発音が悪く、基本的な言語概念の理解が最小限である
技能	2．コミュニケーションスキル	趣味や興味に関する基本的な会話ができ、中国語で効果的なコミュニケーションがとれる	中国語の簡単なアイデアや興味をサポート付きで伝えることができる	基本的な会話を試みるが、アイデアを明確に表現するのに苦労することがある	会話への参加が最小限で、語彙の使用が限られており、コミュニケーションが不明瞭である	会話ができず、語彙力やコミュニケーション能力が不足している
態度	1．態度とエンゲージメント	発音練習に積極的に取り組み、中国語学習に熱意を示す	発音練習に参加し、中国語学習に興味を示す	発音の練習にやや熱心で、中国語の学習に対して中立的な態度を示す	発音の練習に消極的で、中国語学習への関心が限られている	発音練習や中国語学習に興味や努力を示さない
態度	2．ピアコラボレーション	言語の練習で仲間と積極的に参加し、他の人の学習をサポートしている	言語活動で仲間と協力し、支援する意欲を示している	グループワークには参加するが、仲間との積極的な関わりに欠けている	仲間とのコラボレーションに消極的であり、グループ活動への貢献は最小限である	孤立して働き、語学練習で仲間と関わらない

科目名	韓国語			授業番号	LA303	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，韓国の大学生活，エンターテインメント，社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文法，発音を理解して活用できる。 ・簡単な韓国語の読み書きができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作らてたのかをハングルの由来，歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語文字や基本構成を学習する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語文字の特徴や文字の基本構成を学び，その仕組みを理解する。	
第4回	激音と濃音，パッチム 基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。	
第5回	韓国語の助詞・動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞の仕組みについて学習する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在，過去，未来がどのように表現されているのかを理解する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて理解する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 指示代名詞を事例から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形・尊敬形 韓国語の丁寧形や尊敬語を具体例から学習する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みから短い表現を理解する。	
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を学習する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学の違い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の文化と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，予習をやってくること。 課題を充実に行うこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	978-4-8163-5558-5	1,600円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している	韓国語の必要性をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している	韓国語は理解しているが、具体的な知識が十分でない	あまり外国語に対して興味を持たない
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	韓国語の文字体系を理解しようとしていない	外国語や他の国のことを理解していない
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない	韓国のこと、韓国語にあまり関心が少ない
思考・問題解決能力	１．今日のグローバル社会において外国語を通じて他文化が理解できる	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	韓国の社会や経済に関心があり、韓国語の基礎が十分にできている	韓国語の会話や発音の体系が理解できている	他の国のことはあまり興味が少なく、語学にも理解度をあまり持っていない	外国語や他の国のことを理解していない
思考・問題解決能力	２．外国語を学んでグローバルな視野が広げられる	他の文化に対する理解力を培うことができる	韓国語だけではなく、韓国の社会問題にも興味を持っている	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解し、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
思考・問題解決能力	３．言葉の違いがあっても、他国の人々と共同社会を模索できる姿勢を持つことができる	韓国のことを言葉を通じてまず修得している	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	なぜ語学を勉強する意味があるのがが認識できていない	他の国と日本との関わりに関心がなく、語学の必要性が理解できていない
技能	１．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる	韓国語の基礎が出来ており、自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が出来ている	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
技能	２．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる	韓国語の基礎知識は十分に備え、自ら進んで韓国の文化を勉強している	韓国語の基礎知識を備えられ、その国のことまで把握できる	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	外国語を修得し、１つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない
技能	３．外国語や海外の人や文化を通じて自国のことや自分のことを再考すること	韓国語の学習が十分にでき、今日のグローバル社会が理解できる	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる	韓国語の基礎知識が勉強でき、他の語学にも興味を持つことが可能になる	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し、勉強しようかという認識ができていない
態度	１．韓国語を学ぶ本来の意味は何かを考えられる	語学を学ぶ目的は何かを考えられる	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が十分に理解でき、その国のことに関心が高まっている出来ている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない側面がある	韓国語の発音の体系や会話の基礎が理解できていない
態度	２．日本と韓国の両方を比較し、長所、短所が発見できる	語学勉強を通じて他の国に対する認識が変化している	韓国語の学習を通して、日本と韓国の差異や共通点が発見できている	韓国語の基礎知識を通じて、日本と韓国の共通点が把握できる	語学を学ぶ目的が明確ではなく、外国に関する関心度もあまり見られない	外国の文化や言葉に興味が少なく、韓国語の基礎を理解していない
態度	３．最も近くの国である韓国語の勉強を通じて韓国への再認識ができる	韓国語を学ぶ意味は何かが考えられ、韓国社会を再認識することができている	韓国語の会話や発音体系が理解できて、韓国の社会に関しても勉強しようとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	現在、外国語の学習や韓国語の学習がなぜ必要なのかがあまり理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない

科目名	岡山学（オムニバス）			授業番号	LB101	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	小学校・中学校・高等学校と継続的に学ばれてきた岡山県に関する学習を発展させて、岡山県のいいところ、自慢できるところについてより深く理解し、それを発信するとともに、それを持続可能なものにするために何が必要かを検討する。 個々人で岡山県の何を取り上げるかを決め、それについて個人探究を進めることを基本とする。								
到達目標	・「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを理解する。 ・「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を見いだし、それを解決するための方策を考える力を高める。 ・「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献しようとする態度を高める。 ・本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「岡山」について知ってることを整理しよう －これまでの学修を踏まえて、岡山のいいところを書き上げる	
第2回	「岡山」についていろいろ調べてみよう －岡山のいいところから１つを選び、それについて調べる	
第3回	「岡山」の「いいところ」を１つについて深掘りしよう －選んだ１つのテーマについて、多面的に深掘りする	
第4回	「岡山」の「いいところ」を５分でプレゼンしよう －調べた結果をパワーポイントにまとめて発表する	
第5回	「岡山」の「いいところ」をもう一度プレゼンしよう －最初のパワーポイントをバージョンアップさせて、再度発表する	
第6回	「岡山」の「いいところ」を持続的なものにするために －調べた岡山のいいところを持続可能なものにするための課題を明らかにする	
第7回	「岡山」の「いいところ」を持続的なものにするための方策 －調べた岡山のいいところを持続可能なものにするための方策を明らかにする	
第8回	「岡山」の「いいところ」を持続的なものにするための方策を深める －調べた岡山のいいところを持続可能なものにするための方策について深掘りする	
第9回	「岡山」の「いいところ」を持続的なものにする方策を１０分でプレゼンしよう －調べた岡山のいいところを持続可能なものにするための方策についてプレゼンする	
第10回	「岡山」の「いいところ」を持続的なものにする方策をもう一度プレゼンしよう －調べた岡山のいいところを持続可能なものにするための方策についてバージョンアップさせたプレゼンをする	
第11回	「岡山」の「いいところ」を実現するために自分でできることは何か －調べた岡山のいいところを持続可能なものにするために自分にできることを検討する	
第12回	「岡山」の「いいところ」を実現するために自分でできることを実践する －調べた岡山のいいところを持続可能なものにするために自分にできることを実践する	
第13回	「岡山」の「いいところ」を実現するために自分で実践した成果を評価する －調べた岡山のいいところを持続可能なものにするために自分で実践したことを振り舞える	
第14回	「岡山」の「いいところ」を実現するために自分で実践したことを改善する －調べた岡山のいいところを持続可能なものにするために自分にできることを改善する	
第15回	まとめと討論 －この科目で学習したことをまとめて、発表し、共有する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業で提示される課題に主体的に取り組み、岡山県の持続可能な発展に貢献しようとすること
小テスト（確認テスト）	40	毎回の授業での学習内容について適切に記述する
最終レポート	40	この授業で学んだことを踏まえて、論理的に記述する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「山陽新聞」やローカル・ニュースを視聴し、岡山について関心をもつこと。
授業外学修	1 予習として、予め提示されている課題に取り組んでおくこと 2 復習として、予め提示されている課題に取り組んでおくこと 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと 以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを理解できているか	「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを深く理解し、説明できる	「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを理解し、説明できる	「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを理解している	「岡山」を断片的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを検討できる	「岡山」を理解できず、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを検討できる
思考・問題解決能力	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を複数見いだし、それを解決するための方策を総合的に考えることができるか	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を複数見いだし、それを解決するための方策をいくつか考えることができる	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を複数見いだし、それを解決するための方策を1つ考えることができる	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を1つ見いだし、それを解決するための方策を1つ考えることができる	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を1つ見いだすが、、それを解決するための方策は考えられない	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を見いだせないし、それを解決するための方策も考えられない
態度	「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献しようとする態度が高まっているか	「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献できる	「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献しようとする	「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献する必要性がわかる	「岡山」に対する関心や愛着を持っているが、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持ってこの地域の改善のために貢献しようとしない	「岡山」に対する関心や愛着を持たず、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持ってこの地域の改善のために貢献しようとしない

科目名	ＩＣＴ概論Ｉ			授業番号	LB102	サブタイトル			
教員	久保　博尚								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	本ゼミの講義の大半は，インターネット上のデジタルな道具を用いて行う。具体的には各自がPCでインターネットに接続し，講義ページにアクセスすることで，授業内容の共有，関連情報の閲覧，コニュニケーション，情報伝達を行う。この講義と演習を通じて日本社会と世界の状況を理解することにより，ICT社会の仕組みを実感的に把握するとともに，個人と社会がテクノロジーどのような関係にあり，社会にどのような影響をもたらし得るかを学ぶ。 ★このため初回講義から、全員必ずPCを持参のこと。PCはマック、ウインドウズ、クロームブックを問わない。タブレット端末は不可。								
到達目標	積極的な＜態度＞で演習に取り組むことにより，デジタルな道具を活用するための＜技術＞向上を図る。これを手段として，＜思考＞と＜問題解決能力＞を高め，学びの背景となる日本の現状と自身の立場を正しく＜理解＞することを目的とする。このことは世界を知るための＜知識・理解＞を高め，＜思考・問題解決能力＞の必要性を自覚し，その手段となる＜技能＞と＜態度＞を養うディプロマポリシーの理念にかなうものである。本科目は，インターネットに接続して授業を行うことで，学びと社会の連携を通じた実践的な教育機会を提供するものであり，カリキュラムポリシーに沿うものである。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	道具としてのゼミ1：みんなで作るデジタル・ライブ・ゼミナール 授業は基本的にデジタル環境で行うため，その意義と母艦となるGoogleとScrapboxのWebアプリについて全体的な説明を行う。進行具合に応じて，PC操作の基本となる，文章のコピー，ペースト，カット，セレクトオール，取り消し，また画像についても同様の基本操作を覚える。	
第2回	道具としてのゼミ2：デジタル・ライブのための環境を整える Scrapboxの環境設定を行い，個人用，先生用のそれぞれのScrapbox，Scrapbox上の授業ページ，Googleドライブとの連携を行う。	
第3回	驚異のデジタル1：デジタル・テクノロジーの進化と社会指標の変化を比較する 2000年が世界の社会の分岐点であることの全体的な説明と，その変化を理解するための2000年以前の世界の理解の重要性を理解する。	
第4回	驚異のデジタル2：2000年は世界の分岐点 2000年が分岐点であることの実感的理解のために，まずは2000年以前の社会指標を調査する。合わせて授業Scrapboxの活用方法を説明する。	
第5回	2000年の前の時代のレポートを完成させる（前編） 2000年以前の時代の社会指標の調査内容をScrapboxにレポート素材として書き出す。このことを通じて2000年の前の時代についての理解を深める。書き出した社会指標の発表を行う。並行して、レポートの書き方の基礎を学ぶ。	
第6回	2000年の前の時代のレポートを完成させる（後編） 調査結果をまとめる。Scrapboxに書き出したレポート素材を課題レポートに仕上げるための基本（タイトル，文章，数値，グラフ，体裁）を解説する。合わせて、Googleスプレッドシートの基本を学ぶ。	
第7回	2000年の前の時代の指標を統合する 前2回の実習内容を統合し，「2000年の前の時代」の課題レポートを完成させる。合わせて、オンラインでのレポートの添削や提出方法についての説明を行う。	
第8回	2000年から後の時代を概観する コンピュータとは何かの概説のあと，ムーアの法則について学び，2000年の後の時代を調査するための社会指標の選択などの準備を行う。	
第9回	2000年の後の時代の社会指標を統合する Webアプリケーションとは何かの講義の後，実習課題の「2000年の前の時代」と「後の時代」を統合し，調査結果をスプレッドシートでグラフ化する。	
第10回	2000年を境に世界が変わったことを可視化する スプレッドシートを利用する際の数値の扱い，計算やグラフ化のための基本機能を学習し，統合した指標の数値をグラフで表す。	
第11回	関数を理解しグラフを描く 自動販売機の仕組みを例に，関数の働きを理解する。基礎的な関数として，SUM，COUNTの二つの関数により2000年前後の指標を整理する。整理した数値をもとに，グラフの基礎を学ぶ。	
第12回	レポートの構造を理解しグループ討論を行う 課題レポートに不可欠な起承転結などの基本構造の講義を行う。その上で，Scrapbox上の雛形を用いてレポートを完成させる。	
第13回	オンラインでアンケート調査を行う Googleフォームで自身のアンケートを作成した後，前期前半の授業評価のためのアンケートを実施する。合わせて前期後半の授業方針の説明を行う。	
第14回	アンケート結果と成績から見た学習状況の分析 授業評価アンケートの結果を共有し，傾向や問題点などの分析を通じて授業改善の方法を話し合う。また，レポートの成績状況モニタの説明を行う。	
第15回	働き方1：マクドナルド指数で見るテクノロジーと経済 経済・社会生活とテクノロジーの全体的な視点から，マクドナルド指数や一人当たりGDPがテクノロジーとどのように関係するかを学ぶ。	

第16回	働き方2：インバウンドに見るテクノロジーと経済 具体論として，収入や賃金の各国比較から安いニッポンの実態を理解するとともに，テクノロジーやプラットフォーム化と幸福の関係について考える。	
第17回	働き方3：ICTを活用して日本の生活コストを実感する（1/3） これまでに学んだICTの知識をもとに，課題レポート「主要都市の昼食代の実態調査」を始める。方針と調査方法，英語の扱いなどの解説も行う。	
第18回	働き方4：ICTを活用して日本の生活コストを実感する（2/3） 収取した調査データをもとに，データ整理の方法，平均や合計などの基本的な関数の使いから，スプレッドシートによるグラフ表現の方法を学ぶ。	
第19回	働き方5：ICTを活用して日本の生活コストを実感する（3/3） 技術編と文章表現編に分けマックとウインドウズの違いも含め，レポート作成のポイントを解説する。Scrapboxによる課題レポートの提出方法も解説する。	
第20回	子育て1：子育ての現状を知る 厳しい子育ての環境をICTでどのように改善できるかを考える初回となる。核家族化，シングルマザーの現状，幼児教育とテクノロジーの実態を学ぶ。	
第21回	子育て2：海外と日本の子育て事情の違いを知る 子育てランキングや子育てへの公共投資，幼児教育現場のICTの活用状況，さらには15歳生徒のICT利用実態，海外との違いなどを把握する。	
第22回	教育1：GIGAスクール構想とは何か？ 4回の産業革命とSociety5.0の関係を解説する。この理解を通じて，社会のDX化とGIGAスクール構想がどのように繋がっているかを考える。	
第23回	教育2：Society5.0から生まれたスーパーシティ構想 世界の都市が志向するスマートシティ化の実態を学び，その課題が何かの理解を通じて，日本国内のスーパーシティ構想の現実を知る。	
第24回	プレゼン演習１：プレゼンテーション技法の基礎を学ぶ プレゼンテーション実習の初回。プレゼンテーションの本質が「贈り物」であることを解説する。合わせてプレゼンを成功に導く法則と技法を説明する。	
第25回	プレゼン演習２：プレゼン資料作成の前準備 プレゼン実習の狙いを共有した上で，ストーリー，構成要素，表現のポイントを理解し，Googleスライドを使った表現の基礎を学ぶ。	
第26回	プレゼン演習３：プレゼンテーション資料の作成 履修済み学生が過去に作成した「身近な幸せ」を具体例に，プレゼンのスキルを学ぶ。授業後半では，サーバー上での資料共有による添削なども行う。	
第27回	プレゼン演習４：プレゼンテーションの発表（予行演習） 予行演習を行う。このときの講評をもとに発表内容を見直し，最終発表のための改良作業を行う。また，発表のルールや評価ポイントの説明を行う。	
第28回	プレゼン演習５：プレゼンテーションの発表（前半） 2回に分けて発表する。この回は前半の最終発表を行う。発表の際には聞き手はできるだけ発表者との対話を行い，発表を盛り上げる方式とする。	
第29回	アート：現代アートとICTの現状を概観する 授業前半では，残りの学生による発表を行う。後半では，チームラボや3Dプリンタを取り上げながらコンピュータ・アートの現状を講義する。	
第30回	特別講義：前期の授業を振り返って 授業を振り返り，社会，生活，文化にどれほどコンピュータが影響をもたらしてきたかを理解する。最後に，授業評価アンケートを実施する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討論への参加，授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。
レポート	60	授業ページをよく読んでいること，テキスト内容に沿った論述ができていること，討論内容が反映されていること，自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。

評価の方法：自由記載	●成績評価の方法（「授業計画　備考」のルーブリックを参照） 成績評価は，授業内で行う課題実習を通して行う。試験や追試は行わない。課題共通の評価項目は，「提出期限の遵守」「理解力（正確で明快）」「表現力（適正で整った表現）」「文章力（簡明でわかりやすい整った文章）」「授業態度（出席と態度）」である。ただし，課題それぞれの特性によってさらに詳細な評価項目が適用される。 ●理解度計測 授業期間中1～2回，Googleスプレッドシートを利用したアンケート形式の理解度測定を行う。平均20問の質問項目は複数の選択肢に平均40%の正解が組み込まれている。生徒の回答は各自のスプレッドシート上のモニターに可視化され，回答ごとにスマホなどにより，リアルタイムで正誤がわかるようになっている。正解率（選択数に対する正解の割合）は40%程度のため，繰り返しチャレンジすることで正解に近づくことができる。この理解度測定の成績評価は，繰り返し回答した最後の正解数で評価する。最終的に正解に達しなかった質問項目については，回答締切のあと解説を行い全員の理解を促す。また，正解した学生による解説を通じてクラス全体で協調的な学びに役立てる。 ●成績評価の共有と活用 クラス全体の成績評価の平均的な傾向や特徴は，成績モニタ（Googleスプレッドシート上に匿名で可視化された数値やグラフ）でクラス全員が共有できる。学生個別の成績は，各自のPCやスマートフォンからスプレッドシート上の成績モニターで自由に確認することができる。他人の成績を閲覧することはできない。課題レポート作成の中間段階では，学生と個々に共有したScrapboxやスプレッドシートで，講師がリモートによる添削や作成の指導を行う。 ●授業の評価 30回の授業の中間と終盤で，原則として2回，Googleフォームを利用した授業評価のための無記名によるアンケートを行う。評価項目は，「興味深い内容か？」「授業は有意義か？」「授業はわかりやすいか？」など10項目から構成され，自由記入の回答もある。これにより，授業の改善に役立てる。
受講の心得	日頃からネット上の情報に加え，図書，映画，音楽など各種の情報やコミュニケーションに接し，見て，聞いて，感じたことを文章に表現するクセを付けること。
授業外学修	1) 予習として，授業ページに目を通し，次回の授業計画の関連事項を調べておくこと。 2) 復習として，学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。 3) 発展学習として，授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	市販の図書を利用したいわゆる教科書は使用しない。すべての講義内容は，すべての授業回に対応する形で，文章と図により授業Scrapboxに掲載されているので，講義ならびに予習・復習は授業ページで行うことを原則とする。授業ページは受講生に限り，PC，スマホ，タブレット等によりいつでも学内からに限らず閲覧することができる。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	システム開発会社の顧問を務めながら，現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに，高校，大学，企業で講演を行っている。2016年頃から2019年の在社期間中は月平均1回として約50回. その後は企業の顧問として年平均3回として約12回. 合計8年間で60回を超える講演を行なったものと推計する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として，各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに，学生とともにデジタル技術を活用しながら，近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。本学での実務経験は2023年度末で3年である。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．2000年前の社会の包括的理解	アナログ時代は世界が直線変化した完全な理解。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	2000年が世界の変節点であることが意識できない。
知識・理解	2．2000年後の社会の包括的理解	デジタル時代は世界が指数変化する完全な理解。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	2000年が世界の変節点であることが意識できない。
知識・理解	3．PCの基礎的な仕組みの理解	回路の微細化が計算能力に直結した完全な理解。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	デジタルとは微細化された0と1であることが理解できない。
思考・問題解決能力	1．的確な疑問の把握	自主的に的確な疑問を持つことができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	事象についての疑問を持つことができない。
思考・問題解決能力	2．疑問を解く手段の獲得	疑問を解く十分な手段を持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	抱いた疑問を解く方法を知らない。
思考・問題解決能力	3．理解したことの表現手法の獲得	自分で解いた疑問を独自の方法でわかりやすく表現する能力を有している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	自分の思いを表現することがほとんどできない。
技能	1．PC操作の基本能力	ネットやAIから得た情報を文章やグラフ表現に自由に連携できる能力がある。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	PCの基本操作ができない。
技能	2．表計算アプリの活用能力	標準的な関数の利用と、結果のグラフ表現が的確にできる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	表計算が使えない。
技能	3．プレゼンアプリの活用能力	上記1、2の結果をプレゼンアプリを使用して効果的なプレゼン資料にまとめ上げることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	プレゼンアプリが使えない。
態度	1．授業に関心を持つ	講義に耳を傾け、的確な質問をすることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	居眠りをすることが多い。
態度	2．授業中に会話をしない	授業中に私語を交わすことが他人および講師の迷惑なることが理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば私語やおしゃべりをする。
態度	3．欠席をしない	欠席・遅刻なしに授業に参加できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば欠席や遅刻をする。

科目名	ＩＣＴ概論Ⅱ			授業番号	LB103	サブタイトル			
教員	久保　博尚								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	本科目では，コンピュータの原理と進化の過程を概観したうえで，コンピュータがどのように思考と生活の道具として進化し，活用されてきたかについて，具体例に触れながら広い視野で知識を深める。その学習のまとめとして，コンピュータ活用状況を自己評価するとともに，今後の活用拡大に向けた展望を描く。 ★ICT概論1と同様に，本講座を受講する際にはPCを持参のこと。								
到達目標	演習を通じてコンピュータ社会の実態を知り，コンピュータを道具として活用するための意欲と見通しを得ることを目指す。このことは，デジタルテクノロジーの＜知識・理解＞を深め，＜思考・問題解決能力＞に不可欠な＜技能＞と＜態度＞を養うディプロマポリシーの理念にかなうものである。授業はインターネットを利用したワークショップとして構成されるため，社会と学びの連携を通した実践教育の場として，カリキュラムポリシーにも沿うものである。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	現代のお金1：そもそもお金とは何か？ お金，貨幣，通貨，ビットコインを通観し，お金の不思議さを再認識した上で，初期のお金が誕生するプロセスを解説する。	
第2回	現代のお金2：お金と信用の不思議な関係 信用の印となったヤップ島の石貨を題材に，お金が人間的な信用と密接に関係することを学ぶ。後半では石貨と暗号通貨の類似性を解説する。	
第3回	現代のお金3：お金が生まれなかった島 お金なしに盛んに物品の交換が行われた事例として，「トロブリアンド諸島のクラ交換」を取り上げる。島民が何を信用したかがこの講義のポイント。	
第4回	現代のお金4：お金と信用の未来を考える トロブリアンド諸島に経済があってもお金がない理由を儀礼の役割を通じて考え，倫理と法がテクノロジーの未来を左右することを学ぶ。	
第5回	実習講座：二進数ってどんなもの？ 現代のテクノロジーがコンピュータの0と1から成り立つ理解の上で，二進数の仕組みを学ぶ。後半では，スプレッドシートで二進数の演習に取り組む。	
第6回	実習講座：コンピュータとの付き合い方へ/ 0と1で計算，描画，音が表現できることを確認した上で，スプレッドシートにより二進数の計算と十進数への変換を課題とする演習を行う。	
第7回	現代のお金5：さまざまなデジタルなお金を概観する 暗号通貨ビットコインの誕生経緯と社会的な位置付けの概説を行う。その上で，中核技術ブロックチェーンの考え方と巧妙なその仕組みを学ぶ。	
第8回	現代のお金6：各種のデジタルなお金の違い 具体例を交え，ビットコイン，クレジットカード，電子マネーの役割と仕組みの違いを学ぶ。お金の技術を知る実習としてGDPのグラフ化の課題を行う。	
第9回	現代のお金7：進化するデジタルなお金 企業や国家が取り組むデジタル通貨開発の実態と問題点を取り上げる。後半では，実習講座「GDPと平均年収の相関」に取り掛かる。	
第10回	現代のお金8：スマートコントラクトとは何か？ ブロックチェーンの応用技術スマートコントラクトの概要を解説する。後半では，実習講座の続編として関数を利用した相関グラフの作成を行う。	
第11回	スマート社会1：身近になったスマート家電 教室と講師の自宅を繋ぎ，スマート家電の実際を紹介した後，教室で特徴的なIoT家電のいくつかに触れながらスマート家電を実感的に理解する。	
第12回	スマート社会2：共通基盤としてのインターネット（1/2） 社会の共通基盤となったインターネット誕生の経緯と情報が伝わる仕組みを概説する。合わせてWebページが開く仕組みを比較的詳しく解説する。	
第13回	スマート社会3：共通基盤としてのインターネット（2/2） これまでの学習をさらにPOSやRFID，モノやコトのIoTへと視点を広げ，指数的に増加する情報量と，生まれる情報の性質に違いがあることを学ぶ。	
第14回	スマート社会4：要素技術「IoT」とは何か？ スマート化とは，「人間＋機械」による社会の混沌を解消する取り組みであるべきとの視点から，幸福のためのIoTのあり方を考える。	
第15回	スマート社会5：要素技術「ビッグデータ」とは何か？ ビッグデータの「ビッグ」とはどのような量か，なぜ，どのようにビッグになったのかを考える。ビッグを体感する具体的な実習によりビッグの特徴を学ぶ。	

第16回	理解度計測1：Googleフォームによる後期授業理解度の計測 20の質問項目により授業理解度を計測する。回答は自動で集計・分析が行われ，学生が自由に正解状況を確認できるモニタリング環境を提供する。	
第17回	理解度計測2：Googleフォームによる後期授業理解度の計測 正解するには授業ページを読み込み，検索・理解・外部情報の調査が必要なことから，比較的高度な検索方法の解説により理解度向上を目指す。	
第18回	「理解度計測1」の結果と回答の解説 理解度計測の結果をモニタ上の数値やグラフで学生と共有し，設問ごとの正解の解説を行う。その際に，より理解を深めるための参考書を紹介する。	
第19回	「理解度計測2」の結果と回答の解説（1/3） 理解度計測の結果と解説の後半の説明に加えて，設問ごとに，正解した学生が正解を選んだ理由の解説を行い，クラス全体で協調して理解を深める。	
第20回	人工知能1：人工知能の仕組みと現状を知る 人工知能の歴史，外界認識の方法，脳の仕組みとの関係についての講義を行う。視覚脳と文字系の関係など，脳科学の知見をわかりやすく取り上げる。	
第21回	人工知能2：人工知能を使ってみる 人工知能の実際を理解するため，Google Teachable MachineとChatGPTにより，画像認識，音声認識，行動認識，文章会話を体験する。	
第22回	サブスクリプション1：サブスクリプションとは何か？ Amazonプライム，衣料品のメチャカリを例に，サブスクリプションの本質が分割払いではなくインターネットによる顧客接点の拡張にあることを学ぶ。	
第23回	サブスクリプション2：サブスクを成功に導くテクノロジー サブスクにおける契約の本質理解を通じて，日本式の「お客さまは神さまだ」の意味と問題点を考える。実践的観点からトヨタのKINTOも取り上げる。	
第24回	調査実習：文化度と経済の関係を調べる（1/4） 最終課題「文化度と経済の関係調査」に取り掛かる。合わせて，実習のイメージ，情報へのアクセス，CSVデータの扱い方などの講義を行う。	
第25回	調査実習：文化度と経済の関係を調べる（2/4） 文化度として国際共助の調査報告書を利用する。その際のデータ処理の方法，有効・無効データ，時間軸・地理軸のデータなどの解説を行う。	
第26回	調査実習：文化度と経済の関係を調べる（3/4） 各自のScrapboxにより講師が課題の進捗を確認する。また，レポート執筆の中心概念が「共助・経済・テクノロジー」の三要素であることを説明する。	
第27回	調査実習：文化度と経済の関係を調べる（4/4） ガイダンス資料「数値で考える経済と文化」により，課題レポート執筆の要所を説明する。特に文化面ではハイ・ローコンテクストの重要性を学ぶ。	
第28回	インターネット広告1：広告の歴史を概観する テクノロジーで様変わりした広告市場について，特にネット広告の歴史的進化とテクノロジーの影響とその実際についての講義を行う。	
第29回	インターネット広告2：広告のテクノロジーと適性と安全性 ネット広告の要となるCookieの誕生経緯と現在の状況，ネット広告の品質と適正についての解説のあと，広告の成功例と失敗例を取り上げ違いを探る。	
第30回	後期授業の振り返り 後期全体の内容を振り返るとともに，課題全体の成績状況を共有する。最後に，授業評価のための自主アンケートと大学主催アンケートを実施する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討論への参加，授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。
レポート	60	インターネット上の情報収集と表現手段についての知識が豊富であること。その利用方法を理解していること。それらを手段として，自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。

評価の方法：自由記載	●成績評価の方法（「授業計画　備考」のルーブリックを参照） 成績評価は，授業内で行う課題実習を通じて行う。試験や追試は行わない。課題共通の評価項目は，「提出期限の遵守」「理解力（正確で明快）」「表現力（適正で整った表現）」「文章力（簡明でわかりやすい整った文章）」「授業態度（出席と態度）」である。ただし，課題それぞれの特性によってさらに詳細な評価項目が適用される。 ●理解度計測 授業期間中1～2回，Googleスプレッドシートを利用したアンケート形式の理解度測定を行う。平均20問の質問項目は複数の選択肢に平均40%の正解が組み込まれている。生徒の回答は各自のスプレッドシート上のモニターに可視化され，回答ごとにスマホなどにより，リアルタイムで正誤がわかるようになっている。正解率（選択数に対する正解の割合）は40%程度のため，繰り返しチャレンジすることで正解に近づくことができる。この理解度測定の成績評価は，繰り返し回答した最後の正解数で評価する。最終的に正解に達しなかった質問項目については，回答締切のあと解説を行い全員の理解を促す。また，正解した学生による解説を通じてクラス全体で協調的な学びに役立てる。 ●成績評価の共有と活用 クラス全体の成績評価の平均的な傾向や特徴は，成績モニタ（Googleスプレッドシート上に匿名で可視化された数値やグラフ）でクラス全員が共有できる。学生個別の成績は，各自のPCやスマートフォンからスプレッドシート上の成績モニタで自由に確認することができる。他人の成績を閲覧することはできない。課題レポート作成の中間段階では，学生と個々に共有したScrapboxやスプレッドシートで，講師がリモートによる添削や作成の指導を行う。 ●授業の評価 30回の授業の中間と終盤で，原則として2回，Googleフォームを利用した授業評価のための無記名によるアンケートを行う。評価項目は，「興味深い内容か？」「授業は有意義か？」「授業はわかりやすいか？」など10項目から構成され，自由記入の回答もある。これにより，授業の改善に役立てる。
受講の心得	ネット上の情報，図書，映画，音楽など各種の情報コミュニケーションに接し，見て，聞いて，感じたことを，デジタルな手段を用いて表現する習慣を日頃から身につけておく。
授業外学修	1) 予習として，授業ページに目を通し，次回の授業計画の関連事項を調べておくこと。 2) 復習として，学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。 3) 発展学習として，授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	市販の図書を利用したいわゆる教科書は使用しない。すべての講義内容は，すべての授業回に対応する形で，文章と図により授業Scrapboxに掲載されているので，講義ならびに予習・復習は授業ページで行うことを原則とする。授業ページは受講生に限り，PC，スマホ，タブレット等によりいつでも学内からに限らず閲覧することができる。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	システム開発会社の顧問を務めながら，現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに，高校，大学，企業で講演を行っている。2016年頃から2019年の在社期間中は月平均1回として約50回. その後は企業の顧問として年平均3回として約12回. 合計8年間で60回を超える講演を行なったものと推計する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として，各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに，学生とともにデジタル技術を活用しながら，近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。本学での実務経験は2023年度末で3年である。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．お金もICTも合理性と信用で成立することの理解。	お金、信用、デジタルの関係を十分理解している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	石貨と信用の関係が理解できていない。
知識・理解	２．ネットとAIの基本的な仕組みの理解。	ネットの基本的な仕組みとAIの考え方の十分に理解している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	ネットの仕組み、AIと脳の関係の基礎が理解できない。
知識・理解	３．コンピュータの演算の基礎についての理解。	二進数の基本的な仕組みを理解し基本的な演算ができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	二進数の演算ができない。
思考・問題解決能力	１．的確な疑問の把握	自主的に的確な疑問を持つことができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	事象についての疑問を持つことができない。
思考・問題解決能力	２．疑問を解く手段の獲得	疑問を解く十分な手段を持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	抱いた疑問を解く方法を知らない。
思考・問題解決能力	３．理解したことの表現手法の獲得	自分で解いた疑問を独自の方法でわかりやすく表現する能力を有している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	自分の思いを表現することがほとんどできない。
技能	１．PC操作の基本能力	ネットやAIから得た情報を文章やグラフ表現に自由に連携できる能力がある。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	PCの基本操作ができない。
技能	２．表計算アプリの活用能力	標準的な関数の利用と、結果のグラフ表現が的確にできる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	表計算が使えない。
技能	３．プレゼンアプリの活用能力	上記1、2の結果をプレゼンアプリを使用して効果的なプレゼン資料にまとめ上げることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	プレゼンアプリが使えない。
態度	１．授業に関心を持つ	講義に耳を傾け、的確な質問をすることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	居眠りをすることが多い。
態度	２．授業中に会話をしない	授業中に私語を交わすことが他人および講師の迷惑なることが理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば私語やおしゃべりをする。
態度	３．欠席をしない	欠席・遅刻なしに授業に参加できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば欠席や遅刻をする。

科目名	実践英語 I			授業番号	LB104	サブタイトル			
教員	ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	【授業概要】 In this course, students will continue to review and practice their basic, general English and to develop their English vocabulary and phrases to communicate in English. Students will also continue to develop their English speaking, listening, reading, and writing skills. To achieve this, students will participate in several simple projects in English. このコースでは，学生は引き続き基本的で一般的な英語を強化し，英語でコミュニケーションをとることのため伸ばします。学生はまた，おける英語のスピーキング，リスニング，リーディング，ライティングのスキルを高めます。これを達成するために，学生は英語でいくつかの簡単なプロジェクトに参加します。								
到達目標	【到達目標】 1. To know and be able to use basic, general English. 基本的な一般英語が使えるようになること。 2. This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy. なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	【授業計画 備考】 The course uses prints to review and practice basic English. Students then use that English to create original work. Finally, they present their original work at the end of each project.								

回	概要	担当
第1回	Course Introductions//Self Introductions	
第2回	Project 1 Let's get started Vocabulary	
第3回	Project 1 Let's get started	
第4回	Project 1 Let's get started	
第5回	Project 2 All about us Vocabulary	
第6回	Project 2 All about us	
第7回	Project 2 All about us	
第8回	Vocabulary Quiz #1	
第9回	Project 3 Come to a party! Vocabulary	
第10回	Project 3 Come to a party!	
第11回	Project 3 Come to a party!	
第12回	Project 4 Design a new outfit Vocabulary	
第13回	Project 4 Design a new outfit	
第14回	Project 4 Design a new outfit	
第15回	Vocabulary Quiz #2	

第16回	Project 5 A Class Quiz Vocabulary	
第17回	Project 5 A Class Quiz	
第18回	Project 5 A Class Quiz	
第19回	Project 6 A Famous person Vocabulary	
第20回	Project 6 A Famous person	
第21回	Project 6 A Famous person	
第22回	Vocabulary Quiz #3	
第23回	Project 7 The Crazy Olympics Vocabulary	
第24回	Project 7 The Crazy Olympics	
第25回	Project 7 The Crazy Olympics	
第26回	Project 8 My own restaurant Vocabulary	
第27回	Project 8 My own restaurant	
第28回	Project 8 My own restaurant	
第29回	Project 9 Where I live Vocabulary	
第30回	Vocabulary Quiz #4	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	Active participation in English (英語を使っての授業への積極的参加)
レポート		
小テスト	40	Vocabulary tests (4x10%)
定期試験		
その他	40	Project show and tell (8X5%)

評価の方法：自由記載	The project will be a series of student-guided activities working to complete a project about working in a company.
受講の心得	This is a practical course. Students should use English as much as possible during the lesson to improve their knowledge of English and their English communication skills. Students must also finish projects on time.
授業外学修	Students should self-study each week using prints from class to review content.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	Students must bring all their study materials (dictionary， textbook， workbook，notebook， worksheets， file， etc.) to every class.

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	Handouts， worksheets， workbook， YouTube videos， PowerPoint files， online resources， project materials， etc.
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. Understand the English (mainly vocabulary and grammar) needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands all of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.	Understands most of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.	Understands some of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.	Understands little of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.	Understands none of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.
知識・理解	2. Understand the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands all of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands most of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands some of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands little of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands none of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.
知識・理解	3. Understand the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands all of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands most of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands some of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands little of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands none of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.
思考・問題解決能力	1. Can identify ways in which a zoo's infrastructure and exhibits might be improved to encourage and support more foreign visitors.	Identifies deeply insightful, practical improvements which synthesise various information.	Identifies insightful , practical improvements which synthsise various information.	Identifies improvements that are practical but somewhat superficial or simplistic.	Identifies improvements, though these are not practical.	Cannot identify any improvements.
思考・問題解決能力	2. Can identify ways in which a zoo's social media and PR might be improved to encourage and support more foreign visitors.	Identifies deeply insightful, practical improvements which synthesise various information.	Identifies insightful , practical improvements which synthsise various information.	Identifies improvements that are practical but somewhat superficial or simplistic.	Identifies improvements, though these are not practical.	Cannot identify any improvements.
思考・問題解決能力	3. Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo.	Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo with little or no support.	Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo with some support.	Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo with substantial support.	Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo but with severe difficulty.	Cannot independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo.
技能	1. Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English.	Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English effectively and fluently.	Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English with few language errors which do not inhibit communicaition.	Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English with some language errors that sometimes inhibit communication.	Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English with many language errors that often inhibit communication.	Cannot describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English at all.
技能	2. Can storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram.	Can independently storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram with little or no support.	Can storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram with some support.	Can storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram with substantial support.	Can storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram but with severe difficulty.	Cannot storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram.
技能	3. Can edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram.	Can independently edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram.	Can edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram with some support.	Can edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram with substantial support.	Can edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram but with severe difficulty.	Cannot edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram.
態度	1. Make effort during and beyond the lessons to attain the course goals.	Effort consistent throughout, both within and beyond the lessons to attain all course goals.	Effort during most of the course, both within and beyond the lessons to attain all course goals.	Effort made during some of the course, within and/or beyond the lessons to attain some of the course goals.	Makes only the minimum effort needed to attain some of the course goals.	Makes little or no effort to attain the course goals.

科目名	実践英語Ⅱ			授業番号	LB105	サブタイトル			
教員	森年 ポール								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	学生は引き続き基本的で英語英語を強化し、英語でコミュニケーション力毎日文脈をとることにとて伸ばします。学生はまた、おける英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを高めます。これを達成するために、学生は 15 週間プロジェクトに英語で参加します。 In this course, students will continue to develop their basic general English to communicate in daily life contexts, using speaking, listening, reading and writing skills. To achieve this, students will participate in a 15-week project in English.								
到達目標	1. 基本的な一般英語が使えるようになること。 To know and be able to use basic general English. 2. なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.								
授業計画 備考	このコースでは、印刷物を使用して、基本英語英語の復習と練習を行います。生徒はその英語を使ってオリジナルのプロジェクト作品を作成します。最後に、学生はプロジェクトの最後にオリジナルのプロジェクト作品を発表します。 The course uses prints to review and practice basic English. Students then use that English to create original project work. Finally, they present their original project work at the end of the project.								

回	概要	担当
第1回	自己紹介； 実践英語Ⅰプロジェクトと語彙の復習； コース説明； なぜプロジェクトで英語を学ぶのですか? （レビュー）； PBLプロジェクト作業のルール Self-introductions; Review of Practical English I projects and vocabulary; Course explanation; Why learn English by projects? (Review); Rules for PBL project work	
第2回	Introduction to the 実践英語II project - The wheelchair-friendly guide Make project teams; Project planning graphic	
第3回	Guest speaker from the wheelchair community or teacher; Mobility and other Issues in wheelchair access; Parts of a wheelchair; Q&A	
第4回	Student experience using a wheelchair on campus; Wheelchair experience feedback questionnaire	
第5回	Wheelchair experience feedback questionnaire results and discussion; Vocabulary - Public buildings and places, Allocate areas of responsibility	
第6回	Make a business card and an ID card using your student card. Media coverage (Press release)	
第7回	Prepare a letter of introduction; Grammar - There is (not)... / There are (not)...	
第8回	Business self-introductions with business cards	
第9回	Start preparing your wheelchair access research survey	
第10回	Continue preparing your research survey	
第11回	Finish preparing your research survey; (Data collection starts.)	
第12回	Vocabulary - Floor numbers; Parts of a building; Dimensions and measurements	
第13回	Grammar - Prepositions of location (on, in, next to, between A and B, outside, to the left/right of)	
第14回	Grammar ? [have], [be] and [do]; Grammar ? If…, then…	
第15回	Vocabulary and grammar review activities	

第16回	Grammar and vocab test	
第17回	PC/DTP skills	
第18回	The Process Approach to Writing	
第19回	Plan the guidebook's contents: Contents, information, photos, translated questions, town map, index, etc. (Data collection ends.)	
第20回	Make the cover/title page and contents list.	
第21回	Use the plan to start writing the first draft.	
第22回	Continue writing the first draft.	
第23回	Add the photos, maps, etc.	
第24回	Check your guide's English and make corrections.	
第25回	Submit draft guidebook to check the English and design	
第26回	Return draft guidebook and make corrections	
第27回	Final corrections and improvements	
第28回	Presentation of the guidebook	
第29回	Submit wheelchair-friendly guidebook; Project evaluation; Course review; Student questionnaire	
第30回	Project evaluation results; Feedback on the wheel-chair friendly guidebook	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
英語での参加 Participation in English	20	Active participation in English (英語を使っての授業への積極的参加)
プロジェクトレポート Project report	20	学生は自分のプロジェクトとそこから学んだことを説明する短いレポートを英語で書きます。 Students write a short report in English to explain their project and what they learned from it.
小テスト Short test	10	語彙と文法のテスト Vocabulary and grammar test
プロジェクト結果 Project output	50	車椅子に優しいガイドブック Wheelchair-friendly guidebook.

評価の方法：自由記載	このプロジェクトは、プロジェクト タスクに対する独自の回答を作成するための、学生がガイドし、教師がサポートするアクティビティのセットです。 The project is a set of student-guided, teacher-supported activities to create your own original answer to the project task.
受講の心得	これは実践講座ですと生徒は協力して各プロジェクトを完成させます。学生は，英語の知識と英語のコミュニケーション能力を向上させるために、レッスン中にできるだけ英語を使用する必要があります。また、学生は時間通りにプロジェクトを終了する必要があります。 This is a practical course and students must work collaboratively. Students should use English as much as possible during the lesson to improve their knowledge of English and their English communication skills. Students must also finish their projects on time.
授業外学修	車いす対応ガイドブックのデータを収集するために、生徒は週に 6時間ぐらい自習する必要があります。 Students should self-study for approximately six hours a week to collect data for the wheelchair-friendly guidebook.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	生徒はすべての学習教材 (プロジェクトの課題、辞書、ワークブック、ノート、ワークシート、ファイルなど) をすべてのクラスに持参する必要があります。 Students must bring all their study materials (project work, dictionary, workbook, notebook, worksheets, files, etc.) to every class.

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	プリント，ワークシート，YouTube ビデオ，PowerPoint ファイル，オンライン リソース，プロジェクト資料など。 Handouts， worksheets， YouTube videos， PowerPoint files， online resources， project materials， etc.
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な英語（主に語彙と文法）を理解します。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語をすべて理解しています。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語のほんどを理解します。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語の一部を理解します。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語はほとんど理解できません。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語はまったく理解できません。
知識・理解	2. 動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容の知識を理解します。	動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容の知識をすべて理解しています。	動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容の知識のほとんどを理解しています。	動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容知識の一部を理解します。	動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な内容の知識をほとんど理解していません。	動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な内容の知識がまったく理解できません。
知識・理解	3. 池田動物園への行き方や園内での案内に必要な英語を理解する。	池田動物園への行き方や園内での案内に必要な英語をすべて理解できる。	池田動物園への行き方や園内での案内に必要な英語のほとんどを理解できる。	池田動物園への行き方や園内での案内に必要な英語をある程度理解する。	池田動物園への行き方や園内での案内に必要な英語はほとんど理解できません。	池田動物園への行き方や園内での案内に必要な英語は全く理解できません。
思考・問題解決能力	1. より多くの外国人訪問者を奨励しサポートするために、動物園のインフラと展示物を改善する方法を特定できる。	さまざまな情報を総合して、深い洞察に満ちた実践的な改善点を特定します。	さまざまな情報を総合して、洞察力に富んだ実践的な改善点を特定します。	実用的ではあるものの、やや表面的または単純すぎる改善点を特定します。	実用的ではありませんが、改善点を特定します。	改善点は確認できません。
思考・問題解決能力	2. より多くの外国人訪問者を奨励しサポートするために、動物園のソーシャル メディアと PR を改善する方法を特定できる。	さまざまな情報を総合して、深い洞察に満ちた実践的な改善点を特定します。	さまざまな情報を総合して、洞察力に富んだ実践的な改善点を特定します。	実用的ではあるものの、やや表面的または単純すぎる改善点を特定します。	実用的ではありませんが、改善点を特定します。	改善点は確認できません。
思考・問題解決能力	3. 選んだ動物とその展示品に関する池田動物園の情報を自主的に調べることができる。	ほとんどまたはまったくサポートを受けずに、自分が選んだ動物とその池田動物園での展示に関する情報を独自に調査できる。	ある程度のサポートを受けて、自分が選んだ動物とその池田動物園での展示に関する情報を自主的に調査できる。	充実したサポートを受けて、選択した動物とその展示についての池田動物園に関する情報を自主的に調査できます。	選んだ動物とその展示品に関する池田動物園の情報を独自に調べることができるが、非常に困難である。	選んだ動物やその展示品に関する池田動物園の情報を独自に調べることはできません。
技能	1. 池田動物園で選んだ動物とその展示について英語で説明できる。	選んだ動物と池田動物園の展示について効果的かつ流暢に英語で説明できる。	選択した動物とその池田動物園での展示について、コミュニケーションに支障をきたさない程度の言語ミスをほとんど伴わずに英語で説明できる。	選択した動物とその池田動物園での展示について英語で説明できるが、言語上の誤りがあり、場合によってはコミュニケーションが妨げられることがある。	選んだ動物とその池田動物園での展示について英語で説明できるが、言葉の間違いが多く、コミュニケーションが妨げられることが多い。	池田動物園で選んだ動物とその展示について英語で全く説明できません。
技能	2. Instagram にアップロードするために、ストーリーボード、スクリプトを作成し、15 ～ 90 秒のビデオを個別に録画できます。	ほとんどまたはまったくサポートを受けずに、Instagram にアップロードするための個別の 15 ～ 90 秒のビデオを独自にストーリーボード、スクリプト、および録画できます。	いくつかのサポートがあれば、ストーリーボード、スクリプト、および Instagram にアップロードするための個別の 15 ～ 90 秒のビデオを録画できます。	充実したサポートにより、Instagram にアップロードするための 15 ～ 90 秒の個別のビデオをストーリーボード、スクリプト、録画できます。	Instagram にアップロードするために、ストーリーボード、スクリプト、および個別の 15 ～ 90 秒のビデオを録画できますが、非常に困難です。	Instagram にアップロードするための 15 ～ 90 秒のビデオを個別にストーリーボード、スクリプト、および録画することはできません。
技能	3. iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、Instagram にアップロードするための個別の 15 ～ 90 秒のビデオを作成できます。	iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を個別に編集し、Instagram にアップロードするための個別の 15 ～ 90 秒のビデオを作成できます。	iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、Instagram にアップロードするための個別のビデオを作成できます (一部のサポートあり)。	iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、充実したサポートを受けながら、Instagram にアップロードするための 15 ～ 90 秒の個別のビデオを作成できます。	iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、Instagram にアップロードするための 15 ～ 90 秒の個別のビデオを作成できますが、非常に困難です。	iPhone アプリやその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、Instagram にアップロードするための 15 ～ 90 秒の個別のビデオを作成することはできません。
態度	1. コースの目標を達成するために、レッスン中およびレッスン後も努力します。	コースのすべての目標を達成するために、レッスン内外で一貫した努力を続けます。	コースのほとんどの期間、レッスン内外で、コースのすべての目標を達成するために努力します。	コースの一部の目標を達成するために、レッスン内およびまたはレッスンを超えて、コースの一部で行われた努力。	コース目標の一部を達成するために必要な最小限の努力のみを行います。	コースの目標を達成するためにほとんど、またはまったく努力しません。

科目名	導入ゼミナールⅠ			授業番号	LC101	サブタイトル	(学問の方法)		
教員	中安 章、宋 娘沃、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 ポール、ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾅﾝﾃﾞﾐ、大宮 めぐみ、梶西 将司								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	導入ゼミⅠでは，大学生として最低限必要なアカデミックスキルズを身につける。高校と大学とでは，学生に課される課題が大きく異なる。例えば，多くの学生は，レポートを書いた経験が無いと思われるが，大学の大体の授業ではレポートを書くスキルが求められ，それに伴い資料の収集や，限られた時間で集めた資料を読むことが必須となる。しかも，それらを自主的に進めて行くことが求められる。そのため，本セミナーでは，主にレポート作成の課題をどう進めればよいのか，順序立てて指導していく。								
到達目標	本セミナーでは，大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など，大学での学修を充実したものとしていくための基礎作りを行う。大学生としての基礎を確実に習熟していくことが目標となる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	・『アカデミックスキルズ』を基本テキストにして，高校までの学びと大学での研究の違いについて学ぶ。 ・演習後半ではレポート作成に取り組み，レポートを実際に書くことで論文の書き方について学ぶ。 ・ビジネスに関する英文を読み暗唱を行う。								

回	概要	担当
第1回	本演習の目的や概要の説明	
第2回	アカデミックスキルズとは ビジネスに関する英文の暗唱	
第3回	講義を聴いてノートを取るアカデミックスキルズとは ビジネスに関する英文の暗唱	
第4回	情報収集の基礎−図書館とデーターベースの使い方 ビジネスに関する英文の暗唱	
第5回	本を読む−クリティカル・リーディングの手法 ビジネスに関する英文の暗唱	
第6回	情報整理 ビジネスに関する英文の暗唱	
第7回	研究成果の発表 ビジネスに関する英文の暗唱	
第8回	プレゼンテーションのやり方 ビジネスに関する英文の暗唱	
第9回	論文・レポートをまとめる ビジネスに関する英文の暗唱	
第10回	書式の手引き ビジネスに関する英文の暗唱コンテスト	
第11回	レポート課題設定	
第12回	レポート作成	
第13回	レポート作成	
第14回	レポート作成	
第15回	レポート発表と提出	

授業計画 備考2	・『アカデミックスキルズ』を輪読し理解を深める。 ・図書館オリエンテーション，借り出し時間を含む。 ・レポートの課題を設定する。 ・レポートは最終日に提出とプレゼンテーションをする。

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	毎回の講義の取組態度を評価する。
レポート	40	課題意識，取組態度を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	20	課題プレゼン発表をとおして，取組態度，理解度，表現力を評価する。

評価の方法：自由記載	・演習なので全員の積極的参加を求める。 ・英文の暗唱については授業外でもしっかり時間をかけて取り組むことを求める。 ・レポートについては自身が一番関心の高いテーマを選び自主的に取り組むことを求める。 ・レポートは最終日に提出とプレゼンテーションを求める。
受講の心得	課題は提出期限までに提出し，積極的に各授業に参加すること。
授業外学修	復習，課題，プレゼン準備等のために週当たり4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・日経新聞を毎日読むこと ・英文の経済誌（紙）を読むこと https://www.nikkei.com/ https://www.ft.com/ https://www.economist.com/ https://www.wsj.com/
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．テキストの講読を通じて、アカデミック・スキルズの理解とブックレビューを行える。	テキストの講読を通じて、アカデミック・スキルズを十分に理解できており、ブックレビューも高く評価できる。	テキストの講読を通じて、アカデミック・スキルズを理解できているが、ブックレビューが不十分である。	アカデミック・スキルズの理解が不十分であり、ブックレビューの評価が低いものとなった。	テキスト講読を通じたアカデミック・スキルズの理解が不十分であり、ブックレビューの評価が低いものとなった。	テキスト講読をしたが、ブックレビューができていない。

科目名	導入ゼミナールⅡ			授業番号	LC102	サブタイトル	(学問の方法)		
教員	中安 章、宋 娘沃、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 ポール、ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ、大宮 めぐみ、梶西 将司								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	導入ゼミIIでは，導入ゼミIで学んだ知識を基礎として，実践的に資料収集やレポート執筆を行うことで，その際に生じる学生の質問に答えていく形式をとる。学生同士がお互いに助け合いながら協働的に課題に取り組むことで，学生間の対話の中から一人では気づかなかった観点や，問題への気づきを促す。								
到達目標	情報収集・情報整理の方法，文献の読み方，レポートの書き方，文献引用のしかた，剽窃防止などについて実践的に学び，大学生として必要なアカデミックスキルズを身につけることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	本演習の目的と概要，	
第2回	ＰＢＬの設定，	
第3回	ディスカッション	
第4回	ディスカッション	
第5回	ディスカッション	
第6回	中間発表	
第7回	ディスカッション	
第8回	ディスカッション	
第9回	ディスカッション	
第10回	ディスカッション	
第11回	ＰＢＬ最終発表	
第12回	PBL英語スピーチ練習チェック	
第13回	PBL英語スピーチ練習	
第14回	PBL英語スピーチ練習	
第15回	PBL英語スピーチ発表	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	毎回の講義の取組態度を評価する。
レポート	40	課題意識，取組態度を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	20	課題プレゼン発表をとおして，取組態度，理解度，表現力を評価する。

評価の方法：自由記載	・演習への積極的参加を評価する。 ・レポートの内容とプレゼンテーションを評価する。
受講の心得	課題を提出期限までに提出し，積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため，よく文献を読み込んでくることが求められる。レポートは書き直し作業が重要となるため，教員や学生からのフィードバックを活用して書き直すこと。
授業外学修	予習・復習，課題の作成等のために，週当たり４時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・日経新聞を毎日読むこと ・経済誌（紙）を毎日読むこと https://www.nikkei.com/ https://www.ft.com/ https://www.economist.com/ https://www.wsj.com/
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭(藤代昇丈)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．PBL（課題設定解決型学習）で魅力的なプレゼンテーションを行えている。	グループで設定した課題に対して、調査、討論が十分に行われており、魅力的なプレゼンテーションを行えている。	グループで設定した課題に対して、調査、討論は十分に行われているが、魅力的なプレゼンテーションを行えていない。	グループで設定した課題に対して、調査、討論は十分に行われているが、プレゼンテーションを評価が低い。	グループで設定した課題に対して、調査、討論が十分に行われていないため、プレゼンテーションの評価は極めて低い。	課題に対する取り組みが十分に行われていない。プレゼンテーションができなかった。
思考・問題解決能力	２．発表したPBLの成果を英語で表現することもできる。	英語での表現、プレゼンテーションが極めて優秀であった。	英語での表現、プレゼンテーションともに優秀であった。	英語での表現、プレゼンテーションは少し劣るが、伝えようとする意思は強い。	英語での表現、プレゼンテーションは全般的に劣っている。	英語での表現、プレゼンテーションができなかった。

科目名	マクロ経済学入門			授業番号	LC103	サブタイトル			
教員	藤原 敦志								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	マクロ経済学は経済全体の状態を表した指標であるGDPや物価，賃金，失業率，金利，為替レート，貿易収支などの動きを説明するための総合的な学問だ。経済全体の動きを理解するため，マクロ経済学は経済のモデル（模型）を作り，そのモデルを使っていろいろな実験を行う。例えば，そのモデルにさまざまなショックを与えて，上で述べた指標がどのように動くのかを観察するのだ。例えば中央銀行が金融政策を変更すると，GDPや物価にどんな影響が出るのか，などだ。モデルは調べたい事柄に応じていろいろなタイプのものを作ることができる。例えば，短期的な効果を見たいのか，長期的な効果を見たいのか，国内経済への影響を見たいのか，国際的な影響まで見たいのかなどだ。この授業では，そのようなマクロ経済学のモデルを使って，特に長期的な分析ができるようになることを目標に学んでいく。								
到達目標	マクロ経済学の基本を習得し，経済の長期的なメカニズムを理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	毎回，プリントを用意し，そこに書き込む形にする。教員が学生を順番に当てて，質問に答えてもらったり，前に出て問題を解いてもらったりする。また毎回，練習問題を最後に配布し，次回までに解いて提出する。								

回	概要	担当
第1回	科学としてのマクロ経済学 マクロ経済学者は何を研究するのか，経済学者はどのように考えるのか，そしてこの授業の構成について説明する。	
第2回	マクロ経済学のデータ（1） 経済活動の価額を測定する国内総生産について説明する。また実質GDPと名目GDPの違いや支出の構成要素について説明する。	
第3回	マクロ経済学のデータ（2） 生計費を測定する消費者物価指数と失業者の割合を測定する失業率について説明する。	
第4回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか（1） 財・サービスの総生産を決めるのは何か，そこから得られる国民所得はどのように分配されるのか，また財・サービスの需要を決めるのは何かについて説明する。	
第5回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか（2） 財・サービスの需要と供給を均衡させるものは何かについて説明する。	
第6回	貨幣システム：どのようなものでどのように機能するか（1） 貨幣とは何かや，貨幣システムにおける銀行の役割について説明する。	
第7回	貨幣システム：どのようなものでどのように機能するか（2） 中央銀行がマネーサプライにどのような形で影響を与えるのかを説明する。	
第8回	インフレーション：原因と影響と社会的コスト（1） 貨幣数量説という考え方と，貨幣を発行するという特権に伴う収入，インフレーションが利子率にどのような影響を与えるのかについて説明する。	
第9回	インフレーション：原因と影響と社会的コスト（2） 貨幣需要という概念と名目利子率が貨幣需要にどのような影響を与えるか，またハイパーインフレーションについて説明する。	
第10回	開放経済（1） 資本と財の国際的な流れについて説明する。	
第11回	開放経済（2） 小国開放経済モデルについて説明する。	
第12回	開放経済（3） 為替レートについて説明する。	
第13回	失業と労働市場（1） 離職，就職と自然失業率について説明する。また職探しと摩擦的失業について説明する。	
第14回	失業と労働市場（2） 最低賃金，労働組合，効率賃金について説明する。	
第15回	失業と労働市場（3） アメリカとヨーロッパの労働市場の経験について説明する。	
授業計画 備考2	授業で分からなかったところはメールなどで質問を受け付ける。練習問題の解答はできるだけ速やかに公表する。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	教員の問いに対して答える積極性や成長性を見る。
レポート	30	練習問題として毎回の授業の内容の復習への取り組みを評価する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	定期試験は，毎回の練習問題と同じかやや応用力を試す問題にする予定である。
受講の心得	間違えてもいいので，積極的に質問し，自分の中で疑問点をすぐに解消しておくこと。
授業外学修	週３時間くらいの復習が必要である。プリントを見返して練習問題を解く。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しないで，教員が参考書の前半部分を基にして書き込み式の教材を作成し，毎回，その日にやる分を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『マンキュー・マクロ経済学Ⅰ・入門篇（第５版）』N・グレゴリー・マンキュー（著）足立英之・地主敏樹・中谷武・柳川隆（訳）東洋経済新報社，2024年，4400円（税込） 授業の予習・復習に力を入れたり，マクロ経済学を本格的に学んだりしたい学生には購入することを薦める。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．マクロ経済データを理解できる	データの不備を理解している	自分で作成できる	はっきりと意味することを説明できない	何となく意味するところが分かる	全く意味が分からない
知識・理解	２．各市場の機能を説明できる	すべての市場のリンクが分かる	ある市場と別の市場のリンクが分かる	すべての市場が分かる	1～2個の市場は分かる	1つの市場も分からない
知識・理解	３．閉鎖経済と開放経済の違いが分かる	金融政策の効果の違いを説明できる	財政政策の効果の違いを説明できる	金融市場の違いを説明できる	財・サービス市場の違いを説明できる	全く区別できない
思考・問題解決能力	１．経済問題に応じたモデルを提示できる	全ての経済問題に応じたモデルを提示できる	3つの経済問題に応じたモデルを提示できる	2つの経済問題に応じたモデルを提示できる	1つの経済問題に応じたモデルを提示できる	全く提示できない
思考・問題解決能力	２．経済ショックに対して政策を提案できる	全ての経済ショックに対応した政策を提案できる	3つの経済ショックに対応した政策を提案できる	2つの経済ショックに対応した政策を提案できる	1つの経済ショックに対応した政策を提案できる	全く提案できない

科目名	ミクロ経済学入門			授業番号	LC104	サブタイトル			
教員	山中 匡								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	経済の基本的な動きを,需要と供給,価格,均衡,市場競争などをキーワードに講義する。								
到達目標	ミクロ経済学の基本を習得し,世の中の動きをメカニズムとして理解できるようになる。 なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ミクロ経済学とは何か？ ミクロ経済学とマクロ経済学の違い,「機会費用」「限界的な変化」などの専門用語を理解する。	
第2回	個人の選択と効用最大化 個人の効用最大化行動のもと,所得や価格の変化が消費に与える影響を理解する。	
第3回	需要曲線 需要曲線の意味と需要曲線がシフトする要因について理解する。	
第4回	企業行動と利潤最大化 完全競争市場の定義と企業の価格決定メカニズムについて理解する。	
第5回	供給曲線 供給曲線の意味と供給曲線がシフトする要因について理解する。	
第6回	市場均衡と効率性 「消費者余剰」「生産者余剰」「死荷重」の意味を理解する。	
第7回	完全競争市場への政府介入 最低賃金が労働市場に与える影響と課税が総余剰に与える影響について理解する。	
第8回	前半部分(第1～7回)のまとめ 前半部分の演習問題を解くことで,知識や理解を深める。	
第9回	独占市場 独占企業の利潤最大化行動と独占が総余剰に与える影響について理解する。	
第10回	外部性 「正の外部性」「負の外部性」の意味と具体例について理解する。	
第11回	公共財 公共財の意味と性質,「フリーライダー」など公共財に関連する問題について理解する。	
第12回	情報の非対称 情報の非対称によって生じる「逆選択」「モラルハザード」の意味と具体例について理解する。	
第13回	ゲーム理論,1 ナッシュ均衡の意味とその求め方について理解する。	
第14回	ゲーム理論,2 混合戦略を用いたときのナッシュ均衡の求め方について理解する。	
第15回	後半部分(第9～14回)のまとめ 後半部分の演習問題を解くことで,知識や理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	グループワークを行い,その貢献度（議論への参加姿勢,報告内容等）を総合的に評価する。
レポート	20	与えられた問題に対して自らの主張や意見を明確に述べていること。 レポート提出後の授業で,全体的な傾向や改善点についてコメントする。
小テスト		
定期試験	50	講義内容についての最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	講義内容の理解を深めるために,5~6名程度のグループワークを時折実施し,その貢献度も成績評価の主要要素として扱います。
受講の心得	新聞，テレビ，インターネット等で報じられている世の中の経済ニュースに関心を持ち,この授業の内容を使って,経済学的視点から分析してみる習慣をつけましょう。
授業外学修	毎週授業前後に2~3時間程度の自主学習（予習・復習，新聞等での経済ニュースの確認）を行ってください。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	指定なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	初学者向けには，下記がおススメですが，ミクロ経済学のテキストはたくさんありますので，図書館等で自分に合うテキストを探して，自主学習に活用してください。 清野一治「シリーズ 新エコノミクス ミクロ経済学入門」日本評論社 2，200円+税 安藤至大「ミクロ経済学の第一歩」有斐閣 2，000円+税
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ミクロ経済学の基本的な内容を理解している。	学修したミクロ経済学に関する知識について，正確に理解し述べることができる。	学修したミクロ経済学に関する知識について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したミクロ経済学に関する知識について，大体述べることができる。	学修したミクロ経済学に関する知識について正確ではないが,自分の言葉では表現できる。	学修したミクロ経済学に関する知識について，全く表現することができない。
知識・理解	２．現実の経済政策を経済学の理論モデルに基づいて理解している。	現実の経済政策を経済学の理論モデルに基づいて正確に説明できる。	現実の経済政策を経済学の理論モデルに基づいて正確ではないが,ほぼ理解し説明することができる。	現実の経済政策を自分の言葉で説明することができる。	現実の経済政策を正確ではないが,自分の言葉では表現できる。	現実の経済政策について,全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．ミクロ経済学の演習問題を解くことができる。	演習問題を8割以上正しく解くことができる。	演習問題を7割程度正しく解くことができる。	演習問題を6割程度正しく解くことができる。	演習問題を5割程度正しく解くことができる。	演習問題の正答が5割を下回る。
態度	１．議論に積極的に参加できる。	与えられた議題の論点を理解し,自分の主張の根拠を論理的に説明できる。	与えられた議題の論点を理解し,積極的に意見を述べることができる。	与えられた議題の論点を理解し,少なくとも1つの意見を述べることができる。	与えられた議論の論点は正確に理解できていないが、意見を述べることができる。	議論に参加していない。

科目名	マーケティング論入門			授業番号	LC105	サブタイトル			
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	マーケティングは時代とともに変遷し，単に商品やサービスを販売する段階を超え，マーケティングの考え方や手法が顧客満足によって利益を得る段階になっている。マーケティングの発想は市場のニーズの広がり，技術シーズの広がりから開発接点を模索し，いかにして競争優位を獲得するかにかかっている。今日においてはグローバル化，デジタル化，ネットビジネスにより一層競争が激化している中，マーケティングの技法も大きく変化している。本講義では，前半で最も基礎的なマーケティングの理論を明らかにする。後半では，実際の企業のマーケティング戦略の実態を事例から考察する。								
到達目標	・マーケティングに関する基礎知識を修得できる。 ・企業のブランド力や商品が市場で消費者の手に届くまでのプロセスが理解できる。 ・実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことによって，実務的な学習能力を培うことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	マーケティングとは マーケティングの定義，マーケティング戦略の全体像，顧客	
第2回	マーケティングミックス マーケティングの製品，本質サービス，プレイス，流通チャネル	
第3回	マーケティングミックス（2） プロモーション，広報活動，インターネット取引の広報活動，プライス，需要の価格弾力性	
第4回	ターゲット市場の選定 セグメンテーションの定義，セグメンテーションの基準，ターゲットセグメントの波及効果	
第5回	プロダクト・ライフサイクル 導入期，市場拡大，ネットワークの外部性，成長期，ブランド選好の獲得	
第6回	プロダクト・ライフサイクル（2） 成熟期，ブランド・ロイヤルティ，市場規模，衰退期，コモディティ化，需要減退	
第7回	市場地位別のマーケティング戦略 市場競争，リーダー，チャレンジャー，トップシェア，生産コスト，採用者カテゴリー，攻撃的チャレンジャー	
第8回	インターネット時代のマーケティング戦略 ロングテール，ネットワークの外部性，プラットフォーム，ICT技術の進歩	
第9回	インターネット時代のブランド戦略 ブランドの機能，ブランドと交換，消費者行動と顧客対応	
第10回	ブランド構築のマネジメント パブリック・リレーションズ，ブランドの効果，ブランド・エクイティ，ブランド・パワー	
第11回	業界の構造分析 競争要因，外部環境，競争業者，固定費・在庫費用，差別化	
第12回	全社戦略 成長機会，市場成長率，市場シェア，PPM，事業単位，戦略経営	
第13回	事業ドメインとは 事業の定義，戦略的思考，企業の生存領域，顧客グループ，顧客ニーズ	
第14回	ネットビジネス アマゾン，マーケットプレイス，クラウドサービス，プラットフォーマー	
第15回	デジタルマーケティングの進化 SWOT分析，PEST分析，消費者購買行動，オムニチャネル，ターゲット消費者	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	講義への意欲や質問，キーワードの理解度，出席率を評価する。
レポート	30	企業の商品や市場での動向を調べ，マーケティングの実態をまとめる。その内容のコメントを返却する。
小テスト	50	キーワードの理解度，授業全体の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・関心ある商品やサービス，消費に関する新聞や雑誌などに目をとおして，問題意識をもって出席すること。 ・授業の進行は，変更することがある。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習は授業と関連する資料を配布し，その内容のまとめを作成すること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わかりやすいマーケティング戦略	沼上幹	有斐閣	978-4-641-22219-9	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・石井淳蔵・廣田章光編著『１からのマーケティング 第３版』中央経済社，2009年。 ・牧田幸裕『デジタル・マーケティングの教科書』東洋経済新報社，2017年。 ・田中洋『ブランド戦略 ケースケースブック2.0』同文舘出版，2021年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．企業のマーケティングの必要性を理解している	企業だけではなく、生活の上でもマーケティングが影響していることを理解できる	企業にとって、マーケティング活動とは何かを理解している	基本的なマーケティング戦略の必要性を理解している	基礎のマーケティングは理解できているが、具体的な内容が十分に理解できていない	マーケティング論入門の科目を理解していない
知識・理解	２．私たちの生活の中で企業の役割や関わりを理解している	企業がどのようにして財・サービスを市場に流通させているのかを十分に理解できている	洞察力を持って企業の具体的な戦略のプロセスが把握できる	企業の組織構造や社員の行動によって製品の購買力が変化していることが把握できる	具体的な企業形態や組織の理解できていない	マーケティングの概念や言葉の意味が理解できていない
知識・理解	３．戦略の違いによって企業の収益、ブランド力が高まることが把握できる	日本企業や外国企業とのマーケティング戦略の違いをわかる	海外企業の事例から日本企業との差異をほぼ理解している	マーケティング入門の基礎的知識が修得できる	マーケティング戦略の内容や各テーマが理解できていない	内容の理解や文章のまとめができていない
思考・問題解決能力	１．今日の経済社会において消費すること、売り手の企業の役割を理解している	企業で起こっている諸問題に対する対応策が考えられる	日本企業の問題点を抽出し、まとめることができる	企業が抱えている問題点を理解している	不十分ながら企業の活動を考えようとしている	企業が商品を販売するための戦略を理解することができない
思考・問題解決能力	２．今日の企業の差別化戦略を理解している	企業や社会の諸問題に対してコメントができる	企業で起こっている問題の本質を自分で把握できる	今日の日本企業と海外企業との競争の熾烈さが理解できる	企業の事業活動があまり理解できていない	なぜ企業でそのような問題が起こっているのかが理解できていない
思考・問題解決能力	３．企業の諸問題をどのようにすればよいかを考えている	企業で起こっていることを自分の問題として把握できる	企業の戦略の本質を自分でほぼ理解している	マーケティング入門の基礎知識や諸問題を理解している	企業が行うマーケティング戦略があまり理解できていない	企業で起こっている問題の解決策が考えられない
技能	１．企業の身近な事例を理解できる	具体的な事例から企業戦略の違いが具体的にまとめられる	企業事例から自分で問題点が抽出できる	企業の事例から具体的な要点が把握できる	企業の諸問題にあまり興味を持っていない	企業の身近な事例が理解できない
技能	２．企業のあるべき行動様式のESGが理解できる	企業のマーケティング活動にESGをどのように取り組んでいるのかがわかる	企業のESG活動をほぼ把握できる	企業のESG活動とわれわれの生活の関わりを理解している	企業のESG活動の重要性を理解していない	企業活動で何が重要であるかを理解していない
技能	３．企業側として商品を販売する際の消費者の行動が把握できる	現在のデジタル・マーケティングにおいて、ビッグデータや人工知能が使われていることが理解できる	日本企業の国際競争の弱点が理解できる	日本企業のマーケティングの問題点は何なのかを把握している。	日本企業がどのような問題により購買力が落ちているのかが理解できていない	日本製品の品質の良さがどのようなものなのかが理解できていない
態度	１．身近な企業のマーケティング活動が理解している	企業の問題に対して具体的に把握できる	身近な企業の問題を具体的に説明できる	身近な企業の事例から問題の所在を探ることができる	企業の事例があまり理解できていない	企業の事例にあまり興味を持っていない
態度	２．生産者としての企業の社会的責任に関する議論ができる	商品を大量に売るために昨今の企業の不祥事に対して十分理解している	不祥事の際、企業がどのように行動するのかを理解できる	企業の社会的責任に多いに関心を持って、内容を把握している	企業がなぜ不祥事を起こしているのかが理解できていない	企業の不祥事に関してあまり興味を持っていない
態度	３．企業の諸問題をどのように解決するのかが議論できる	企業の問題や行動について十分な議論ができる	企業の問題に対して積極的に議論ができる	企業のやるべき行動様式に関して理解している	企業が製品の大量販売のため、何をしているのかが理解できていない	企業で諸問題に対してあまり理解できていない

科目名	経営学入門			授業番号	LC106	サブタイトル	経営学の基礎を学ぶ		
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	企業はわたしたちの生活どのように関わっているのか。企業は新製品を開発したり，製造したり，消費者に販売するため，さまざまな戦略を打ち立てたりしている。経営学とは人，モノ，金，情報が結びつけられ製品やサービスに変換される企業のことを学ぶ学問である。こうした製品やサービスを生み出すために企業の組織や戦略，人材，意思決定はどのように行われ，実践されているのか。今日わたくしたちの生活と密接に関わっている企業の仕組みや組織，戦略，雇用，人材の在り方を学ぶことが必要不可欠である。本講義は，前半では株式会社の仕組みや組織，管理システムに焦点をあてて学習する。後半では実際の企業の事例を取り上げ，企業とわたしたちの生活との関わりを明らかにする。								
到達目標	・経営学の基礎知識を習得することができる。 ・実際の企業の組織，管理システム，企業人材の仕組みを学習することによって，より深い専門知識が習得できる。 ・企業と私たちの生活との関わりを理解することによって，自主的学習能力を高めることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	経営学とは 経営学の歴史，テイラーシステム，生産管理，企業組織	
第2回	企業経営の全体像 顧客の創造，組織のマネジメント，経営資源，企業と社会の関係	
第3回	経営学の全体像 営利追及，広義の経営学，狭義の経営学，学際性	
第4回	企業と会社 株式と株主，議決権，株主総会，取締役会，法人，日本初の株式会社	
第5回	企業と金融資本との関わり 間接金融資本，メインバンク，資金調達，証券取引所，クラウドファンディング	
第6回	企業と労働市場との関わり 採用管理，配置と異動，賃金と昇進，動機づけ，リーダーシップ	
第7回	企業の組織構造と職務設計 組織の仕組み，分業，役割り分担，権限，公式組織	
第8回	企業と製品・サービス市場との関わり 製品，市場競争，波及効果，経営戦略，全社レベル	
第9回	競争戦略のマネジメント 競争要因，新規参入，差別化，代替品の脅威，顧客	
第10回	競争戦略のマネジメント（2） 基本戦略，コスト・リーダーシップ，差別化，集中戦略，変動費，規模の経済	
第11回	多角化戦略のマネジメント（キヤノンの事例） 多角化，M&A，戦略的提携，シナジー	
第12回	国際化のマネジメント 国境，多国籍企業，国際貿易，コミュニケーション，経営資源の移動	
第13回	企業組織のマネジメント 年俸制，成果主義，インセンティブ・システム，報酬，リーダーシップ	
第14回	ICT時代の企業組織と人材 人材の国際労働移動，アウトソーシング，人材流出，人材循環	
第15回	企業の社会的責任 SCR，企業倫理，社会市民，SDGs	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，出席を積極的に取り組んでいるかを評価する。
レポート	30	講義の中間時点で，主要なポイントやキーワードの理解度を評価する。
定期試験	50	授業全体の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・基本的には講義形式で行うが，必要に応じてレジュメや資料を適宜配布する。 ・関心ある企業や最新の企業活動の動向に関する新聞，雑誌などに目を通して講義に臨むこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，疑問点をチェックすること。 ・授業で習った内容の小テストを行うので，必ず復習をする。 ・資料を配布するので，その内容のまとめを課題とする。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
加護野忠男・吉村典久編	1からの経営学　第3版	中央経済社	978-4-502-69610-7	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	・片岡信之編著『アドバンスト経営学　理論と現実』中央経済社，2010年。 ・伊藤宗彦編著『1からのサービス経営』中央経済社，2010年。 ・上林憲雄 他編『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス，2018年。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．経営学入門の必要性を認識している	経営学入門の必要性をほぼ理解している	企業の組織や仕組みをほぼ理解している	基本的に経営学を学ぶ意味を理解している	経営学は理解できているが、具体的な知識が十分ではない	経営学入門の科目を理解していない
知識・理解	2．企業と社会の関わりについて理解している	会社の仕組みや組織を十分に理解している	洞察力を持って企業の仕組みやプロセスが把握できる	会社の組織形態や構造を把握している	具体的な企業形態や組織の理解できていない	概念や言葉の意味が理解できていない
知識・理解	3．経営学入門の内容の知識が修得できる	経営学入門と経済学の違いを理解している	企業形態の内容やいくつかの事例がまとめられる	経営学の基礎知識が修得できている	経営学の内容や各テーマが理解できていない	内容の理解や文章のまとめができていない
思考・問題解決能力	1．今の経済社会において企業の役割を理解している	企業で起こっている諸問題に対する対応策を考えられる	企業で起こっている問題の本質が把握している	経営学に出てくる概念や定義を理解している	企業の社会的役割や問題が理解できていない	経営学の基礎概念が理解できていない
思考・問題解決能力	2．今の企業で起こっていることを理解している	企業や社会の問題に対してコメントができる	われわれの生活と関わる企業のあり方が理解できる	企業での事業活動がどのようなものかが理解できている	企業と社会との関わりが理解できていない	企業の事業活動が理解できていない
思考・問題解決能力	3．企業の不祥事問題をどのようにすれば解決できるかを理解している	企業で起こっていることを自分の問題として把握している	企業の事例から組織や仕組みをほぼ理解している	企業の不祥事のプロセスを理解している	企業の社会的役割や問題が理解できていない	企業で起こっている不祥事の内容の理解ができていない
技能	1．企業組織がどのように形成されているのかが把握できる	企業組織のあるべき基本行動は何のかが理解できる	企業組織の内容をほぼ理解している	企業組織のあり方についてほぼ理解している	企業の組織構造に対してあまり理解できていない	企業の組織構造に関してあまり興味を持っていない
技能	2．企業の形態によって、責任や会社法の違いが理解できる	株式会社の社会的責任を確実に理解している	会社法の内容が把握できる	会社法によって、責任所在が違うことが理解できている	会社法に内容についてあまり理解できていない	企業形態や会社法についてほぼ理解していない
技能	3．海外の企業の事例から日本企業の戦略が理解できる	日本企業の問題点を自分で抽出し、まとめることができる	日本企業の問題点ほぼ把握できる	海外の企業の事例を十分に理解している	海外企業の事業活動を理解していない	海外企業の経営活動が把握できていない
態度	1．企業本来の目的は何かを考えられる	企業の目的や役割を理解している	企業の目的を理解し、具体的な内容が把握できている	企業の目的や役割の重要度が理解できている	企業の目的や形成過程が理解できていない	企業の目的や事業活動に興味を持っていない
態度	2．日本企業のあるべき姿や行動様式が理解できる	人材や組織のあり方によって競争優位を獲得できることが理解している	企業組織のあり方が戦略にとっても重要であることを理解している	日本企業のあるべき行動様式を理解することが出来ている	企業組織のことがあまり理解できていない	日本企業の組織構造があまり理解できていない
態度	3．企業の諸問題をどのように解決するのかが議論できる	具体的な事例から今後の企業の問題に対して議論できる	企業の諸問題に対して自分の考えをまとめることができる	日本企業がどのようにすれば国際競争で勝つのかが把握できる	企業が抱えている問題の所在が理解できていない	企業で起こっている諸問題にあまり関心を持っていない

科目名	会計学入門			授業番号	LC107	サブタイトル			
教員	岸保 宏								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	会計初学者向け。会計の基本的なフレームワークの理解を目的とする。テキストは基本的理解を目的とし，プログラム学習ができる書き込み式になっている。理論や要点は板書し，補足・解説をしていく形で授業を展開する。何度も繰り返し，知識を血肉化してほしい。テキストはかなり情報量を減らし、基本的な理解が出来る構成となっているので、この部分の基本的コアは習熟できるようにしたい。なお，重複する学習事項もあるが，前期開講の「簿記入門」を受講すると，本講座の理解は深まると思われる。出席をすれば、単位取得ができるという安易な考えで、のぞまないこと。								
到達目標	会計の基本的なフレームワークの理解であり，簿記検定などの資格試験向けの講義ではない。あくまで大学の講義であるので，論理的な思考能力の養成を目標に取り組んでいきたい。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	イントロダクション 講義の進め方と狙い，評価方法。会計とは何か，会計の意義について、学ぶ。	
第2回	基本的な仕組み（1） 会計公準，会計原則について学ぶ。	
第3回	基本的な仕組み（2） 貸借対照表，損益計算書について，基礎と内容，その2つの関係などを学ぶ。	
第4回	一般的な記録ルール（1） 勘定，貸借対照表・損益計算書の項目の記録のルール，仕訳，転記，財務諸表の作成について，学ぶ。	
第5回	一般的な記録ルール（2） 資産・負債・純資産・費用・収益の性質などを学ぶ。	
第6回	個別的な記録ルール（1） 商品，商品の勘定記録，期末処理について，学ぶ。	
第7回	個別的な記録ルール（2） 棚卸資産の評価方法と理論について，学ぶ。	
第8回	個別的な記録ルール（3） 現金，預金，有価証券，売掛金，買掛金，その他の債権，債務を学ぶ。	
第9回	個別的な記録ルール（4） 手形と不良債権について，学ぶ。	
第10回	個別的な記録ルール（5） 減価償却について。定額法，定率法の違いなどを学ぶ。	
第11回	決算の集計ルール 決算について。期末の特別な処理について，学ぶ。	
第12回	財務諸表の見方 財務諸表分析。収益性と安全性について，学ぶ。	
第13回	総合演習（1） 5つの利益，これまでの学習事項を確認しつつ，財務諸表から整理する。	
第14回	総合演習（2） 損益分岐点分析を学ぶ。	
第15回	総合演習（3） 演習を通じて、会計を考える。会計学入門の講義の総括を図る。	
授業計画 備考2	過年度の同講座において、レポートを課すことやゲストスピーカーの招聘コメントなどでも評価をしていたが、今年度からは到達度テストにより評価することに変更した。会計学の基本的要点を履修することに力点を置く。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	出席を評価する（出席2点×15回） 授業姿勢（10点）
到達度テスト	60	学習のタームを分け、到達度テスト（持ち込み不可）を実施する。
レポート		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	大人として当然の授業姿勢を求める。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	友岡賛・福島千幸「アカウンティング・エッセンシャルズ」有斐閣

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。）詳しくは授業初日に説明する。 スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。 板書を多用。ノートは持ってくること。マーカーをたくさん使うので，何色かご用意すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	会計事務所，会社経営，大学，専門学校，商工会議所，自治体講座など講師経験あり
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	できるだけ手で書いて，理解するように講義展開をする。必要なことは何度も言うようにしていく。また実務での会計・経理についてのこともお伝えしたい。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.会計学の基礎知識を得られる	財務諸表が自分で読める	教科書の知識がわかり、会計理論もわかる	教科書の知識は理解できる	簿記がわかるが、会計理論がわからない	簿記会計がわからない
技能	1.基本的な簿記の理解ができる	仕訳の理解ができ、取引の二面性がわかる	仕訳の理解ができ、取引の二面性がわかる	仕訳の理解ができ、取引の二面性がわかる	仕訳はわかるが、取引にかかわる勘定科目がわからない	仕訳のルールがわからない
態度	1.授業に望む態度	積極的な授業参加と復習	積極的な授業参加と復習	基本的な授業に望む態度としてふさわしい	理解に努めない、努力しない	教科書を持ってこない、寝ている

科目名	簿記入門			授業番号	LC108	サブタイトル			
教員	栢野 勝己								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	簿記は，企業組織で生じる取引を記録・整理・報告するための技術である。企業の財政状況・経営成績・企業戦略を理解するためには，簿記の体系的な修得が重要である。また，簿記の対象は企業のすべての活動に及ぶので，簿記の能力を身につけることは企業経営を理解するうえでも必要であろう。この授業では，小規模な会社を取り上げて仕訳を中心に学び，重要な項目については決算処理の方法についても簡単に学習する。								
到達目標	簿記の流れを体系的に修得し，小規模株式会社で日々発生する取引の内容を理解することにより，日商簿記検定初級レベルの仕訳処理ができるようになることが目標である。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	簿記の基礎 簿記の基本ルールを理解する。	
第2回	商品売買（１）仕入と売上 商品の仕入と売上に係る仕訳を理解する。	
第3回	商品売買（２）返品・諸掛り 商品の返品，仕入諸掛り・売上諸掛りに係る仕訳を理解する。	
第4回	現金・預金 現金と預金に係る仕訳を理解する。	
第5回	手形と電子記録債権（債務） 手形と電子記録債権（債務）の仕組みと仕訳を理解する。	
第6回	貸付金・借入金 お金の貸し借りに係る仕訳を理解する。	
第7回	小テストと解説	
第8回	その他の取引（１） 第６回までの授業で学習した債権債務以外の取引に係る仕訳を理解する。	
第9回	その他の取引（２） 第６回までの授業で学習した債権債務以外の取引に係る仕訳を理解する。	
第10回	固定資産 固定資産に係る仕訳を理解する。	
第11回	租税公課と消費税・資本金 租税公課と消費税・資本金に係る仕訳を理解する。	
第12回	試算表（１）試算表の基礎 試算表の種類と役割を理解する。	
第13回	試算表（２）試算表の作成 試算表の仕組みを理解し，試算表を作成する。	
第14回	試算表（３）試算表の応用 日商簿記検定初級で出題される試算表の解き方を理解する。	
第15回	伝票と仕訳日計表 伝票と仕訳日計表の役割と処理方法を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度を評価する。
レポート		
小テスト	30	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 定期試験では電卓を使用するが，携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。 2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため，事後学習は必須である。 ※電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。） ※スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。
授業外学修	1. 予習として，教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。 2. 復習として，講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。 3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定を受験し資格取得を図ること。 以上の内容を予習・復習として週当たり4時間以上学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記初級 第３版	滝澤ななみ TAC出版開発グループ	TAC出版	978-4-8132-8736-0	1，000円（税別）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	国税職員（42年），税理士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務での会計・税務知識を活かした講義を展開し，日々の暮らしの中で簿記の知識を活用した経済活動ができるよう，簿記の基礎的知識を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．企業活動と会計の関係を理解している	企業活動における会計の重要性を十分に理解している	企業活動における会計の重要性を理解している	企業活動における会計の重要性をある程度理解している	企業活動における会計の重要性を十分に理解していない	企業活動における会計の重要性を理解していない
知識・理解	２．取引を理解している	あらゆる場面で簿記上の取引であるか否かを十分に判断できる	あらゆる場面で簿記上の取引であるか否かを判断できる	基本的な場面で簿記上の取引であるか否かを判断できる	基本的な場面で簿記上の取引であるか否かを十分に判断できない	基本的な場面で簿記上の取引であるか否かを判断できない
知識・理解	３．勘定科目の意味を理解している	日常的に使用される勘定科目の意味を十分に理解している	日常的に使用される勘定科目の意味を理解している	基本的な勘定科目の意味を理解している	基本的な勘定科目の意味を十分に理解していない	基本的な勘定科目の意味を理解していない
技能	１．勘定科目ごとに貸方・借方に分けることができる	日常的に使用される勘定科目を貸方・借方に分けることが十分にできる	日常的に使用される勘定科目を貸方・借方に分けることができる	基本的な勘定科目を貸方・借方に分けることができる	基本的な勘定科目を貸方・借方に分けることが十分にできない	基本的な勘定科目を貸方・借方に分けることができない
技能	２．仕訳をすることができる	日常的な取引は十分に仕分ができる	日常的な取引は仕分ができる	基本的な取引は仕訳ができる	基本的な取引の仕訳が十分にできない	基本的な取引の仕訳ができない
技能	３．各種試算表の作成ができる	日常的な仕訳を基に各種試算表が十分に作成できる	日常的な仕訳を基に各種試算表が作成できる	基本的な仕訳を基に各種試算表が作成できる	基本的な仕訳を基に各種試算表が十分に作成できない	基本的な仕訳を基に各種試算表が作成できない

科目名	観光総論			授業番号	LC109	サブタイトル			
教員	大石 貴之								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現在，日本における観光の重要性が高まっている。日本政府は観光政策を重視し，また地方の少子高齢化に伴って，観光産業を活用した地域活性化の取り組みが様々な地域で実践されている。こうした状況を踏まえ，本講義では観光に関する諸現象を理解するために，観光の歴史や観光産業の現状，政府や地域の取り組みなど観光学に関する包括的な内容について講義する。								
到達目標	観光に関する包括的な知識を理解し，それを社会の動向に関連付けて考察することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	観光の基礎（1）：観光とは何か 観光の定義や概念について整理し，観光に関する考え方を理解する。	
第2回	観光の基礎（2）：観光の歴史 世界や日本における観光の起源や歴史，特に第２次世界大戦以降の観光の変化を理解する。	
第3回	観光の基礎（3）：観光行動と旅行者 観光の消費者である旅行者の行動や，動機について理解する。	
第4回	観光の基礎（4）：観光産業と統計 観光の生産者である観光産業の概要を把握し，統計を通じて観光の経済的側面を理解する。	
第5回	観光産業の現状（1）：旅行産業 主要な観光産業である旅行産業の概要や現在の状況について理解する。	
第6回	観光産業の現状（2）：宿泊産業 宿泊産業の意義や変化，特徴的な宿泊産業の事例について理解する。	
第7回	観光産業の現状（3）：交通産業 交通産業の中でも鉄道産業や航空産業の特徴や経営上の工夫について理解する。	
第8回	観光産業の現状（4）：博物館とテーマパーク 博物館やテーマパークの現状について，具体的な事例を通じて理解する。	
第9回	観光産業の現状（5）：観光経営と観光商品 観光経営の全般的な特徴を整理し，適産の商品化について考える。	
第10回	日本の観光政策（1）：観光立国と国際観光 日本政府が実施する観光政策について，特に国際観光の視点から理解する。	
第11回	日本の観光施策（2）：地域観光とまちづくり 日本や地方地自体が実施する観光政策について，まちづくりという観点から理解する。	
第12回	観光地の現状と課題（1）：マスツーリズム時代の観光地-温泉とスキー- かつては盛んであった温泉やスキーの変化を理解し，これらの観光地における課題を考える。	
第13回	観光地の現状と課題（2）：持続可能な観光-エコツーリズムと歴史的町並み観光- 持続可能な観光の概念を理解し，エコツーリズムや歴史的町並み観光の意義について考える。	
第14回	観光地の現状と課題（3）：ニューツーリズムの台頭-コンテンツツーリズムとフードツーリズム- 現代に特徴的な観光として，コンテンツツーリズムやフードツーリズムの現状や課題を考える。	
第15回	観光の展望：今後の観光について 講義のまとめとして，日本における観光の現状を整理し，観光の将来について考える。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	40	講義で取り上げた内容について，その背景と実社会との関連について具体的に考察していること。課題については次回の講義において講評する。
小テスト		
定期試験	60	各回の講義の内容に関する理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義で配付する資料の他，担当教員が口頭で説明する内容をメモすること。
授業外学修	・事前学修：講義の最後に提示する，次回講義のキーワードについて調べておくこと（なお，第1回の事前学修については「観光」の定義について調べておくこと）。 ・事後学修：講義で配付するプリントを読み返すとともに，講義で紹介する参考文献を読んで発展的な学修をしておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回の講義でプリントを配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	参考書については，講義中に適宜指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．観光の概念について理解できている	観光に関する基本的な概念に加え，その変化や社会との関連性についても理解できている。	観光に関する基本的な概念に加え，観光の定義には様々な考え方があることが理解できている。	観光に関する基本的な概念を理解している。	観光に関する基本的な概念の理解にが十分でない。	観光に関する基本的な概念の理解が全くできていない。
知識・理解	２．観光産業の現状について理解できている	観光産業の現状に加え，その社会的・歴史的背景やについても理解できている。	観光産業の現状に加え，それが社会的な変化と関連していることも理解できている。	観光産業の現状を理解できている。	観光産業の現状を十分に理解できていない。	観光産業の現状を全く理解できていない。
知識・理解	３．日本における観光政策の意義について理解できている	日本における観光政策の意義について，観光の歴史的背景を踏まえて理解できている。	日本における観光政策の意義について，観光の歴史と関連していることも含めて理解できている。	日本における観光政策の意義を理解できている。	日本における観光政策の意義を十分に理解できていない。	日本における観光政策の意義を全く理解できていない。
知識・理解	４．日本における観光地の現状や課題について理解できている	日本における観光地の現状や課題について，観光や社会的背景を踏まえて理解できている。	日本における観光地の現状や課題について，日本の歴史と関連付けて理解できている。	日本における観光地の現状や課題について理解できている。	日本における観光地の現状や課題について十分に理解できていない。	日本における観光地の現状や課題について全く理解できていない。
思考・問題解決能力	１．日本における観光の現状に対して社会の動向に関連付けて考察できている	講義で得た知識を踏まえ，日本における観光の現状に対して社会の動向に関連付けて考察できている。	日本における観光の現状に対して社会の動向に関連付けて考察できているが，講義で得た知識と関連付けられていない。	日本における観光の現状に対して自分なりの考察ができている。	日本における観光の現状に対して考察が十分でない。	日本における観光の現状に対して考察が全くできていない。

科目名	観光実務			授業番号	LC110	サブタイトル			
教員	大石 貴之								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現在，日本において観光産業が重視されている。日本の観光産業は旅行業と共に発展してきたが，現在では国の政策や地域産業において観光が重視されたことに伴い，直接観光に関わらない産業においても観光に関する知識の理解が必要とされている。こうした状況を踏まえ，本講義では観光に関する実務的な知識として旅行業に関する法律と約款と日本を中心とする世界遺産を取り上げ，これらの基礎的な内容について講義する。								
到達目標	旅行業の法律と約款，日本を中心とする世界遺産に関する知識について理解し，実社会に役立てることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	観光産業と実務，旅行業法(1)：旅行業法の目的と旅行業の定義 観光産業における「旅行業務取扱管理者試験」や「世界遺産検定」の意義について理解し，旅行業法の目的や旅行業の定義について理解する。	
第2回	旅行業法(2)：旅行業者になるためには 旅行業法のうち，旅行業の登録や営業保証金に関する内容を理解する。	
第3回	旅行業法(3)：旅行業者が準備すべきこと 旅行業法のうち，旅行業務取扱管理者と外務員，取扱料金・旅行業約款・標識，広告に関する内容を理解する。	
第4回	旅行業法(4)：旅行者との取引と旅行の実施 旅行業法のうち，取引条件の説明と契約書面の交付，旅程管理に関する内容を理解する。	
第5回	旅行業法(5)：旅行業者の周辺，禁止行為と行政処分 旅行業法のうち，旅行業者代理業，旅行サービス手配業，禁止行為と行政処分に関する内容を理解する。	
第6回	旅行業法(6)：旅行業協会，標準旅行業約款(1)：総則 旅行業法のうち，旅行業協会に関する内容と，標準旅行業約款のうち総則に関する内容について理解する。	
第7回	標準旅行業約款(2)：契約の締結と変更 標準旅行業約款のうち，契約の締結や契約の変更に関する内容を理解する。	
第8回	標準旅行業約款(3)：契約の解除ほか 標準旅行業約款のうち，契約の解除，団体・グループ契約，旅程管理に関する内容を理解する。	
第9回	標準旅行業約款(4)：旅行業者の責任 標準旅行業約款のうち，旅行業者の責任，旅程保証，特別補償規定に関する内容を理解する。	
第10回	世界遺産の基本 世界遺産の概要や成立の経緯，世界遺産に関する概念や課題について理解する。	
第11回	日本の世界遺産(1)：社寺に関連した文化遺産 日本の世界遺産のうち，法隆寺地域の仏教建造物群，日光の社寺などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。	
第12回	日本の世界遺産(2)：歴史的建造物と儀仰に関連した文化遺産 日本の世界遺産のうち，姫路城，紀伊山地の霊場と参詣道などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。	
第13回	日本の世界遺産(3)：古代遺跡と地域の特色に関連した文化遺産 日本の世界遺産のうち，百舌鳥・古市古墳群，白川郷・五箇山の合掌造り集落などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。	
第14回	日本の世界遺産(4)：産業と近代に関連した文化遺産 日本の世界遺産のうち，富岡製糸場と絹産業遺産群，広島平和記念碑(原爆ドーム)などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。	
第15回	日本の世界遺産(5)：自然遺産，講義のまとめ 日本の世界遺産のうち，小笠原諸島，屋久島などの自然遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解するとともに，これまでの講義についてまとめる。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	40	講義で取り上げた内容について考察していること。課題については次回の講義において講評する。
小テスト		
定期試験	60	各回の講義内容に関する理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義で配付する資料に関して，口頭で説明した内容についてメモを取ること。
授業外学修	・事前学修：講義の最後に提示する，次回講義の内容について調べておくこと（なお，第1回の事前学修については「観光産業に必要な知識や技能」について調べておくこと）。 ・事後学修：講義で配付するプリントを読み返すとともに，講義で紹介する発展的な学修に取り組むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回の講義でプリントを配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	参考書については，講義中に適宜指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．旅行業法の条文について基本的な内容を理解している。	旅行業法の条文について，基本的な内容に加えて条文が制定された背景についても理解している。	旅行業法の条文について，基本的な内容に加えて条文が社会との関連で制定されていることも理解している。	旅行業法の条文について，基本的な内容を理解している。	旅行業法の条文について，基本的な内容の理解が十分でない。	旅行業法の条文について，基本的な内容が全く理解できていない。
知識・理解	２．標準旅行業約款について基本的な内容を理解している。	標準旅行業約款について，基本的な内容に加えて旅行業界の背景と関連付けて理解している。	標準旅行業約款について，基本的な内容に加えてその内容が変化していることを理解している。	標準旅行業約款について，基本的な内容を理解している。	標準旅行業約款について，基本的な内容の理解が十分でない。	標準旅行業約款について，基本的な内容が全く理解できていない。
知識・理解	３．世界遺産の概要や日本における世界遺産について基本的な内容を理解している。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について，基本的な内容に加えて社会的背景や日本の地理・歴史を踏まえて理解している。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について理解し，その内容は変化していくものであることも併せて理解している。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について，基本的な内容を理解している。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について，基本的な内容の理解が十分でない。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について，基本的な内容が全く理解できていない。
技能	１．国内旅行業務取扱管理者試験に合格する程度の技能を有している。	国内旅行業務取扱管理者試験の合格に値する技能を十分に身に付けている。	国内旅行業務取扱管理者試験に関する技能を身に付けているが，合格する程度には達していない。	国内旅行業務取扱管理者試験に関するある程度の知識はあるが，資格試験の技能を身に付けるまでには至っていない。	国内旅行業務取扱管理者試験に関するある程度の知識を有している。	国内旅行業務取扱管理者試験に関する知識を有していない。
技能	２．世界遺産検定２級に合格する程度の技能を有している。	世界遺産検定２級の合格に値する技能を十分に身に付けている。	世界遺産検定２級に関する技能を身に付けているが，合格する程度には達していない。	世界遺産検定２級に関するある程度の知識はあるが，資格試験の技能を身に付けるまでには至っていない。	世界遺産検定２級に関するある程度の知識を有している。	世界遺産検定２級に関する知識を有していない。

科目名	農業経済入門			授業番号	LC111	サブタイトル			
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	農業経済学は，農業が抱えている経済的側面について，様々な角度から探っていく学問分野である。生産者の所得の向上や経済的な安定，農業，農産物を通じた一般消費者の生活の向上，農産物，食品の流通，貿易を通じた国際問題についても研究するものである。 この講義では，その入門編として，日本の食料，農業の動向について経済学に理解することを目的とする。								
到達目標	日本の農業生産，農産物・食料品の消費に関心を払うと同時に，その理解には経済学的基礎知識が必要とされる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	日本農業の歩み（１）	
第2回	日本農業の歩み（２）	
第3回	経済成長と農業（１）	
第4回	経済成長と農業（２）	
第5回	日本の農業生産の動向（１）	
第6回	日本の農業生産の動向（２）	
第7回	日本の農業問題	
第8回	日本の食料消費の動向（１）	
第9回	日本の食料消費の動向（２）	
第10回	食料自給率	
第11回	日本の農産物流通	
第12回	農産物流通の新しい動き	
第13回	農業，農村の有する多面的機能	
第14回	自然災害と農業，農村の復旧	
第15回	まとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。
レポート	30	中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）
小テスト		
定期試験	60	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述式のレポート試験を予定）
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は，授業で提供する資料･データだけに留まらず，農業･食料問題についても，食生活，環境問題等の身近な事象に対して自ら関連付けて考察するように努めること。
授業外学修	復習，文献，インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の中で適宜紹介する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日本の食生活と農業の関係を理解している。	日本の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることを明確に理解できており、具体例を説明できる。	日本の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることは理解できている。	日本の食生活と農業、貿易が関係していることを理解できている。	日本の食生活、農業、貿易について断片的には理解できている。	日本の食生活と農業の現状を理解できていない。
知識・理解	２．日本の農産物、食料の流通の現状と問題点を理解している。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べ、その現状と問題点を明確に述べることができる。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べ、現状は理解できている。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べるが十分には理解できていない。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べようとしている。	自ら調べようとしない。
知識・理解	３．食品ロスの背景、現状と問題点を理解している。	食品ロスの成立背景と現状、問題点を充分に理解できており、事例に対する評価を行い、プレゼンテーションを行うことができる。	食品ロスの成立背景と現状、問題点を理解できており、事例に対する評価、プレゼンテーションが不十分。	食品ロスの成立背景と現状、問題点の理解が不十分で、事例に対する評価、プレゼンテーションはできていない。	食品ロスの成立背景と現状、問題点の理解が出来ておらず、事例を探しえていない。	自ら調べようとしない。

科目名	農業経済学			授業番号	LC112	サブタイトル			
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	農業経済学は，農業が抱えている経済的側面について，様々な角度から探っていく学問分野である。生産者の所得の向上や経済的な安定，農業，農産物を通じた一般消費者の生活の向上，農産物，食品の流通，貿易を通じた国際問題についても研究するものである。 この講義では，農業，農産物に対する現実の問題を経済学に理解することを目的とする。前半では，農産物の需要と供給，価格についての経済学的基礎を理解する。後半では，日本の農業，食料の持つ諸問題について経済の動きとの関連から理解する。								
到達目標	日本の農業生産，農産物・食料品の消費に関心を払うと同時に，その理解には経済学的基礎知識が必要とされる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	世界の食料需給と食料問題	
第2回	日本の食料問題	
第3回	食料消費の動向	
第4回	食品産業の動向	
第5回	日本の農産物流通	
第6回	日本の農業問題（１）	
第7回	日本の農業問題（２）	
第8回	日本の農業生産の動向	
第9回	農業，農村の有する多面的機能	
第10回	農産物の需要と需要曲線	
第11回	農産物の需要と弾力性（１）	
第12回	農産物の需要と弾力性（２）	
第13回	農業における生産と費用	
第14回	農産物の供給曲線	
第15回	市場，競争と価格決定	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。
レポート	30	中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）
小テスト		
定期試験	60	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定）
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は，授業で提供する資料・データだけに留まらず，農業・食料問題についても，食生活，環境問題等の身近な事象に対して自ら関連付けて考察するように努めること。
授業外学修	復習とあわせて，文献，インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の中で適宜紹介する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．農産物、食料の消費構造変化とその要因を分析し、理解し、特定地域・作目の対応方策を講ずることができる。	農産物・食料の消費構造変化とその要因を十分に理解できており、自ら調べた事例に対して、その対応方策に対する評価を行い、説明することができる。	理は解できているが、自ら調べた事例に対して、その対応方策に対する評価ができず、プレゼンテーションに至らず。	農産物・食料の消費構造変化とその要因を理解できているが、自ら調べた事例に対して、その対応方策に対する評価が充分にできず、プレゼンテーションが不十分。	費構造変化とその要因の理解が不十分で、事例を探しきれなかった。	自ら調べようとしない。
思考・問題解決能力	２．日本の農業の現状と問題点を理解できている。	特定地域を事例とし、その地域の農業について自ら調べ、その現状と問題点を明確に述べることができる。	事例とした地域の農業について自ら調べ、現状は理解できている。	事例とした地域の農業について自ら調べるが十分には理解できていない。	事例とした地域の農業について自ら調べようとしている。	自ら調べようとしない。
思考・問題解決能力	３．需要と供給の理論を理解し、農産物の需要と供給について具体的な事例に対して説明できる。	需要の弾力性について十分に理解し、農産物の需要と供給に対する具体的な事例を明確に説明できる。	需要の弾力性については理解しているが、具体的な事例の説明は不十分。	需要の弾力性についての理解が不十分で、具体的な事例の説明ができない。	需要の弾力性についての理解が不十分で、具体的な事例を探し出せない。	自ら調べようとしない。

科目名	英語資格演習Ⅰ			授業番号	LC114	サブタイトル			
教員	藤代 昇丈								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	TOEIC（R）L&Rの問題演習を通し，英語の４技能の力を伸ばすことを目指す。その過程で，リスニングパートでの理解力，リーディングパートでの理解力を高めるための語彙力，文法力を鍛える。 教材に付属している音声を使いながら，各パートの問題形式に慣れると同時に，語彙，文法を確認し，次回の授業で小テストにより復習する。 副教材の「ココロイングリッシュ」（予定）は，主として自学自習のために用いるもので，単語・連語等を各自が学修し，その進捗状況を教師が確認する。 なお，「TOEIC(R)」は米国Educational Testing Service(ETS)の登録商標。								
到達目標	各個人の英語の４技能（読み，聞く，書く，話す）の力を伸ばすことを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Listening：Part１ 写真描写問題１ 「人物が写っている写真」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part５ 短文穴埋め問題１ 「品詞」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習	
第2回	Listening：Part１ 写真描写問題２ 「人物が写っていない写真」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part５ 短文穴埋め問題２ 「動詞の形（能動態・受動態）」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習	
第3回	Listening：Part２ 応答問題１ 「疑問詞疑問文」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part５ 短文穴埋め問題３ 「動詞の形（時制・その他）」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習	
第4回	Listening：Part２ 応答問題２ 「Yes/No疑問文・その他の疑問文」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part５ 短文穴埋め問題４ 「前置詞・接続詞」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習	
第5回	Listening：Part２ 応答問題３ 「平叙文・意外な応答」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part５ 短文穴埋め問題５ 「代名詞・関係代名詞」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習	
第6回	Listening：Part２ 応答問題４ 「機能別疑問文」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part６ 長文穴埋め問題 穴埋め問題の解き方の解説と問題演習	
第7回	Listening：Part３ 会話問題１ 「次の行動」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part７ 読解問題１ 「広告・チャット」問題の解き方の解説と問題演習	
第8回	Listening：Part３ 会話問題２ 「問題点・提案・申し出」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part７ 読解問題２ 「Eメール・手紙」問題の解き方の解説と問題演習	
第9回	Listening：Part３ 会話問題３ 「目的・依頼・意図」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part７ 読解問題３ 「告知・社内回覧」問題の解き方の解説と問題演習 到達度テスト	
第10回	Listening：Part４ 説明文問題１ 「録音メッセージ・アナウンス」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part７ 読解問題４ 「記事」問題の解き方の解説と問題演習	
第11回	Listening：Part４ 説明文問題２ 「トーク・会議・ニュース」問題の解き方の解説と問題演習 Reading：Part７ 読解問題５ 「ダブルパッセージ」問題の解き方の解説と問題演習	
第12回	Listening：Part４ 説明文問題３ 「グラフィック（図表）問題」の解き方の解説と問題演習 Reading：Part７ 読解問題６ 「トリプルパッセージ」問題の解き方の解説と問題演習	
第13回	Listening：Part４ 説明文問題４ 「Review (Parts 1 & 3)」問題演習 Reading：Part７ 読解問題７ 「Review (Parts 5 & 6)」問題演習	
第14回	Listening：Part４ 説明文問題５ 「Review (Parts 2 & 4)」問題演習 Reading：Part７ 読解問題８ 「Review (Part 7)」問題演習	
第15回	TOEIC問題形式の復習 各Unitを見直し解き方の復習を行う 到達度テスト	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
TOEICR(R) L&R テスト戦略的トレーニング：レベル500	西谷敦子 /伊藤恵一 /大橋香苗 /夜久容子 /佐藤世津子 /佐野眞歩 /浅田えり佳 /増田将伸 /James G.Wong	朝日出版社	978-4-255-15636-1	1980
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)・県総合教育センター(４年)・県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量のまとまった英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，やや長い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.TOEICでよく使われる英単語や英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を活用してTOEICの問題に取り組み，問題中の含まれる英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	TOEICの問題で用いられている英単語や英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	TOEICの問題で用いられている英単語や英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，短い文章を書いたりすることができる。	TOEICの問題で用いられている英単語や英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	TOEICの問題で用いられている英単語や英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.TOEICの出題傾向を理解し，自らの改善点に気づき修正することができる。	自らTOEICの出題傾向に気づき，自分に合った学修法を選択して継続的に学ぶとともに，自らの弱点を発見し，改善すべき点に気づき修正することができる。	自らTOEICの出題傾向に気づき，自分に合った学修法を選択して，与えられた課題のみならず計画的かつ継続的に学ぶことができる。	講義で与えられた課題をこなし，TOEICの出題傾向に慣れるとともに，自らの弱点に気づくことができる。	継続的に学修することはできるが，TOEICの出題傾向をつかむことができない。誤答を振り返り，改善しようとする意欲が見られない。	TOEICの問題に解答しようとする意欲がなく，継続的に学修することができない。
技能	1.英語を読むことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って，一定分量のまとまった英文を読んんで内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って，やや長い英文を読んで内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて，短い英文を読んで，おおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの，短い英文を読んでも内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んでも内容を理解することができない。
技能	2.英語を書くことができる	既習の英単語や英語表現を活用して，文章を書いて，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，短い既存の文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，英語として書くことができない。
技能	3.英語を聞くことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って，一定分量のまとまった英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って，やや長い英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて，短い英文を聞いて，おおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの，短い英文を聞いても内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を聞いても内容を理解することができない。
技能	4.英語を話すことができる	既習の英単語や英語表現を活用して，相手と話して，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を発話したりして，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，相手と短い対話をしたり，既存の対話文を相手と再現することができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，相手と短い対話をしたり，既存の対話を相手と再現することはできない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，既存の対話を相手と再現することもできない。

科目名	日本の伝統文化			授業番号	LC116	サブタイトル			
教員	後藤 智絵								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	日本の伝統文化の中でも主に文化財に焦点を当て，個々の文化財の詳細について講義する。 そして，実際に文化財に触れ，見学をし，伝統文化を支えている技法に挑戦することを通して，伝統文化を体験する。 さらに，日本の伝統文化にまつわる学術的視点をふまえつつ，それぞれの体験をもとにして考察した内容を発表する。同時に，様々な発表内容を共有する。								
到達目標	1 日本の伝統文化の様相を知り，その多様さについて理解ができるようになる。 2 個々の文化財に対して主体的に情報を収集整理し，経験をふまえて考察ができるようになる。 3 日本の伝統文化の一端について，説明ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	第1回 国家と伝統文化 文化財保護法の変遷と文化財の体系を理解する。	
第2回	第2回 有形文化財 文化財の種類と指定基準を理解する。「日本美術」の誕生について理解する。	
第3回	第3回 有形文化財（美術工芸） 有形文化財の中でも，美術工芸品についての知識を身につける。	
第4回	第4回 無形文化財 岡山の無形文化財を具体例に，伝統文化の継承方法の一端を理解する。	
第5回	第5回 やきものの歴史 縄文時代から江戸時代までのやきものの造形を確認し，現代において、いかに表象されているかを理解する。 瓦を具体例に，焼成技術の向上がもたらした社会の変容と家紋について考察する。	
第6回	第6回 家紋について 家紋を具体例に、日本の伝統文化の継承方法の一端を理解する。	
第7回	第7回 やきもの制作（1） やきものを制作するにあたって，制作のための道具を作る。 まとめ結びを習得し，伝統技法の機能性を体感する。	
第8回	第8回 やきもの制作（2） 瓦当（がとう）を制作する。 粘土に直接触れることで，素材の扱い方を体感する。	
第9回	第9回 やきもの制作（3） 瓦当（がとう）を制作する。 自身で制作した道具で粘土を加工し，細やかな表現に挑戦する。	
第10回	第10回 有形文化財（建造物） 岡山県内の国宝建造物を具体例に，先行研究にアプローチする視点を養う。	
第11回	第11回 モダニズム建築 日本のモダニズム建築を牽引した建築家の「伝統」に対する視点について考察する。	
第12回	第12回 伝統的建造物群 倉敷市を具体例に，民藝運動と照合しつつ，伝統文化の創造性について考察する。	
第13回	第13回 文化財の保存技術 文化財の修復現場を具体例に保存技術の多様さを理解し，同時に技術の継承をめぐる現状を理解する。	
第14回	第14回 課題発表（1） 国指定文化財の中から関心のある文化財を選択し，先行研究の成果をふまえた上で現地調査を行い，その報告を行う。	
第15回	第15回 課題発表（2） それぞれが報告する文化財の情報を共有する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，講義後のコメントシートへの記入内容によって評価する。
レポート	30	レポートは2つ課す。 １つは、家紋について調査し，学修内容の要点を理解し，整理して記述できているかを評価する。 2つは、道具作りから作陶までの学修内容を整理し、要点をまとめて記述できているかを評価する。 レポートはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	40	現地調査の報告及び，課題内容について口頭発表をする。 発表内容に対応する簡単なディスカッションや提出物により，最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義内容の理解と同時に，授業外学修も重要視している。 学外においても，伝統文化を探究するために実際に行動を起こす積極性が必要である。
授業外学修	1 予習として，日本の伝統文化についてアンテナを張り、街歩きをする。 2 復習として，レポートや課題に取り組む。 3 課題発表の準備として，相応の施設等を訪問して情報収集し，発表資料を用意し、発表要点をまとめる。 以上の内容を，平均して週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会学で読み解く文化遺産	木村至聖・森久聡 編	新曜社	978-4-7885-1687-8	2800円+税
日本の伝統＆絶景100	朝日新聞出版編集	朝日新聞出版	978-4-02-333914-9	1400円+税
岡山の文化財	臼井洋輔	吉備人出版	4-86069-063-X	2800円+税
工芸とナショナリズムの近代	木田拓也	吉川弘文館	978-4-642-03835	4800円+税
日本伝統工芸 鑑賞の手引き	公益社団法人 日本工芸会 編	芸艸堂	978-4-7538-0187-9	2200円+税

参考書：自由記載	講義時に使用する際は，その都度指示をする。 授業外学修として読み進めておくことを推奨する。
その他	
備考	令和6年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立高等学校美術・工芸科講師（8年），私立大学社会人陶芸講座講師（3年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が工芸制作に必要な技術を体験するため，公立高等学校での陶芸指導（8年）の経験や，大学が開講する社会人陶芸講座での経験（3年）を活かし、手仕事の現在的な意義についても考察が広がるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文化財の体系についての知識を身に付けている。	学修した文化財の体系に関する知識について，正確に適切な言葉で表現することができる。	学修した文化財の体系に関する知識について，具体的な言葉で表現することができる。	学修した文化財の体系に関する知識について，大まかに表現することができる。	学修した文化財の体系に関する知識について，正確に述べることができないが，自分なりに表現しようとしている。	学修した文化財の体系に関する知識について，全く表現することができない。
知識・理解	2．日本の伝統文化の多様さについて理解ができるようになる。	日本の伝統文化は多様であり、伝統文化に携わることは未来を創造する営みでもあることをイメージすることができる。	日本の伝統文化について、多様な領域で様々に人間と自然が絡み合ってきたことをイメージすることができる。	日本文化と表象されるものを二つ以上はイメージすることができる。	日本文化と表象されるものを一つはイメージすることができる。	日本の伝統文化の多様さについて、全く言及がない。
思考・問題解決能力	1．先行研究を踏まえて問いをたてることができる。	先行研究を踏まえて問いを立て、考察した内容を記述することがきる。	先行研究の概要を理解した上で、自分の関心に沿った問いを立てることができる。	先行研究の内容に関連して考察した内容を記述することができる。	先行研究の書誌情報を記すことができる。	先行研究についての言及がない。
思考・問題解決能力	2．問いを立てて調査し、調査内容をレポートや発表資料として作成することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行い、わかりやすくまとめた資料を作成することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行い、必要最低限の情報量の資料を作成することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行い、調査内容の情報を提示することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行っていない。	レポートや発表資料を作成していない。または提出していない。
技能	1．まとめ結びができる。	まとめ結びの構造を理解し、自分で結ぶことができ、他者に結び方を伝えることができる。	指導者や友人のアドバイスを参考に、自分でまとめ結びができる。	指導者や友人に手伝ってもらうことで、緩いまとめ結びができる。	指導者や友人にほぼ結んでもらった。	まとめ結びができない。
技能	2．道具を使いやすいように工夫して細工することができる。	指示したフォルムの道具を制作し、使用しながらこまめに道具を細工し、使いやすいように工夫することができる。	指示されたフォルムの道具を制作し、オリジナルの道具も工夫して制作することができる。	指示されたフォルムに近い道具を制作することができる。	指示されたフォルムとは違うが、道具を加工した。	道具を制作していない。
技能	3．粘土の特徴を捉え、丁寧に細工することができる。	粘土の特徴を捉え、粘土のコンディションを整えながら、細部まで丁寧に細工を施すことができる。	粘土を加工し、丁寧に細工を施すことができる。	粘土を加工し、一通りの細工ができた。	未完成ではあるが、粘土を加工して造形した。	陶芸制作に取り組んでいない。
態度	1．コメントシートに取り組む。	コメントシートに講義の内容を踏まえたうえでの疑問や課題が記入されている。	コメントシートに講義内容を理解したコメントが記入されている。	コメントシートに講義内容に則したコメントが記入されている。	コメントシートに講義への理解が不十分なコメントが記入されている。	コメントシートを記入していない。または提出していない。
態度	2．取り組んだ課題の発表	取り組んだ課題をわかりやすく発表し、テーマに沿ったデスカッションをすることができる。	取り組んだ課題をわかりやすく発表し、質疑に応答することができる。	取り組んだ課題を発表し、質疑に応答することができる。	取り組んだ課題を発表したが、質疑に応答することができない。	課題発表をしていない。

科目名	日本の食文化			授業番号	LC117	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	近年、「和食」はユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、国際的な注目を集めている。グローバル社会を生き抜くためには、自国の文化への理解は不可欠である。 本講義では、日本の食文化の歴史、特徴、そして現代における課題について、多角的な視点から学ぶ。単に料理の紹介にとどまらず、食文化と社会、環境、経済、技術などとの関わりを考察することで、日本の文化への深い理解と国際的な視野を養う。								
到達目標	・外国人に対して、日本食についての自分なりのイメージを伝えることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	作法に息づく「和のこころ」を知る(1) 「いただきます」「おかわり」挨拶について考える。	
第2回	作法に息づく「和のこころ」を知る(2) 「箸」について考える。	
第3回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(1) 「米」「巻物料理」について考える。	
第4回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(2) いわゆる「おかず」について考える。	
第5回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(3) 「ラーメン」について考える。	
第6回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(4) 「日本酒」について考える。	
第7回	和食が秘める「効能」を解明する(1) 「漬物」「梅干し」について考える。	
第8回	和食が秘める「効能」を解明する(2) 「懐石料理」「おとそ」について考える。	
第9回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(1) 「会席料理」「幕の内弁当」について考える。	
第10回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(2) 「お好み焼き」「もんじゃ焼き」「たこ焼き」について考える。	
第11回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(3) 「天ぷら」「しゃぶしゃぶ」「カレーライス」など、海外にルーツのある料理について考える。	
第12回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(4) 「菓子」について考える。	
第13回	食習慣をはぐくんだ「日本人の信仰」に迫る(1) 「お節」について考える。	
第14回	食習慣をはぐくんだ「日本人の信仰」に迫る(2) 「出汁」「餅」東西の違いについて考える。	
第15回	食習慣をはぐくんだ「日本人の信仰」に迫る(3) 「食べ合わせ」について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	20	授業で得た知識・イメージをもとにした、自分なりの日本食のイメージを評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。
小テスト	30	授業内容の復習テストにより，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	50	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べるくせをつけること。
授業外学修	1．授業内容に関する小テストがあるため，予習・復習をすること 2．日本食に対するイメージを記載するレポートがあるため，普段の食事に際しても想像を巡らすこと。 3．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
外国人にも話したくなる ビジネスエリートが知っておきたい 教養としての日本食	永山久夫	KADOKAWA	9784046043603	1,540円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．外国人に対して、日本食についての自分なりのイメージを伝えることができる。	日本食を明確にイメージできる	日本食をイメージできる	日本食を部分的にイメージできる	日本食のイメージが曖昧である	日本食がイメージできない
思考・問題解決能力	1．外国人に対して、日本食についての自分なりのイメージを伝えることができる。	外国人に日本食を明確に説明できる	外国人に日本食を説明できる	外国人に日本食を部分的に説明できる	外国人に日本食を説明できるが、曖昧である	外国人に日本食を説明できない

科目名	国際関係論			授業番号	LC118	サブタイトル			
教員	井上 あえか								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	国際関係論は，なぜ 戦争が起こるのかを究明し，どうしたら平和を実現し維持することができるかを追究する学問である。この授業では， 日本を取り巻く世界情勢を中心として，緊迫する状況やその地理的・歴史的背景を地図や資料を使って考え，グローバル化する国際社会のゆくえと，日本が直面する諸課題を明らかにする。								
到達目標	過去の戦争と平和に関する国際関係の現実と理論を結びつけ， 複雑に変動を続ける現代社会を理解する力を養うことを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち， <知識・理解> <思考・問題解決能力> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	国際関係のとらえ方 「国際関係論」が扱う内容を理解する。	
第2回	日本を取り巻く国際関係 東アジアの国際関係の現状を知り、その歴史的背景を理解する。	
第3回	日本の安全保障 日本外交の基本と、それが生まれた経緯と現在の課題を理解する。	
第4回	アメリカのリーダーシップ 20世紀以降の世界を動かしてきたアメリカの外交政策とその特徴を理解する。	
第5回	新興国と先進国 20世紀後半に、急成長を遂げた旧植民地各国と、日本を含む先進国の関係を理解する。	
第6回	アジアの域内統合 ASEANを中心に、アジアで進む域内統合の動きとその意義について理解する。	
第7回	EUの実験 経済のみならず、通貨や政治的統合を成し遂げ、さらに模索を続けるEUの目指すものと課題を理解する。	
第8回	発展途上国 依然として経済的に従属的な立場にある各国の現状と課題について理解する。	
第9回	グローバリゼーションとは何か いわゆるグローバル化が意味する内容を具体的に検討し、私たちの社会にも及んでその影響と問題点を理解する。	
第10回	国際主体としての国際機関 国連をはじめとする国際機関の意義とその限界について理解する。	
第11回	国際主体としてのNGO 近年重要性を増すNGOについて具体的に理解し、その役割の大きさと、今後の展望を考える。	
第12回	二一世紀の難題 気候変動や資源の争奪、テロや難民といった全世界的な問題について、当事者意識をもって理解する。	
第13回	日本の課題 日本の国際的な位置づけを理解し、今後のわたしたちが考えるべき論点を整理する。	
第14回	受講生による発表１ 各自が国際関係論に関わりのある書籍もしくは論文を選び、内容について紹介し、批評する発表を行う。 一人の発表の持ち時間は受講生の人数によって按分する。	
第15回	受講生による発表２ 各自が国際関係論に関わりのある書籍もしくは論文を選び、内容について紹介し、批評する発表を行う。 一人の発表の持ち時間は受講生の人数によって按分する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度， 質疑応答への参加によって評価する。
コメントシート	30	毎回の授業内容について，十分かつ内容のあるコメントシートを提出する。
その他	40	学期末に，各自，国際関係に関係のある任意の文献（書籍・論文）を選んで読み，授業で口頭発表する。

評価の方法：自由記載	コメントシートは毎回の講義内容を理解し，自ら考えたことを記載する。 第14回と第15回の授業で、各自任意の書籍を選んでよく読み，内容の紹介・批評を行う。このプレゼンテーションは単位取得の必須要件になる。
受講の心得	授業で使用するテキスト，配布資料を理解し，事柄を説明する態度を養う。 テキストの予・復習，参考文献の参照，コメントシートの提出等を通じて授業へ主体的に参加すること。
授業外学修	予習として， 教科書の授業内容にかかわる部分を読み， 疑問点を明らかにする。 授業中に説明した内容を参考文献を活用して復習し， 理解を深める。 日常的に関連する内容についてニュース， 新聞， インターネット情報に注目すること。 以上の内容を， 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	その他， 授業の中で適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	1996年4月から1998年3月まで，外務省の専門調査員として在パキスタン日本国大使館に勤務し，国内政治情勢の調査とODAによるNGO支援資金を担当した。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	外交の現場でパキスタン政府関係者，各国の外交団，およびNGO関係者と交流し，意見交換する中で，国際政治，国際関係に関わる多様な知見を獲得した。これを生かして教科書に示されている様々な事象について，具体的かつ実際的な説明を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．国際社会の構造を理解する	授業の内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解して、書くことができる	基礎的な内容について不正確な表現もあるが、自分なりの意見を書ける	基礎的な内容についてほとんど書くことができない
知識・理解	2．主権国家の成り立ちを歴史的に理解する	主権国家の成り立ちを歴史的に理解し、書くことができる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解して、書くことができる	基礎的な内容について不正確な表現もあるが、自分なりの意見を書ける	基礎的な内容についてほとんど書くことができない
知識・理解	3．現在の国際紛争を知る	国際紛争に関心を持ち自ら問題意識を発展させ表現できる	国際紛争の基礎的な内容を理解し問題意識を表現できる	国際紛争の基礎的な内容を概ね理解する	国際紛争の基礎的な内容について理解する	基礎的な内容についてほとんど理解できていない
思考・問題解決能力	1．世界の紛争に関心を持つ	主体的に国際紛争について探究し、自らの問題意識を発展させ文章で表すことができる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解して、書くことができる	基礎的な内容について不正確な表現もあるが、自分なりの意見を書ける	基礎的な内容についてほとんど書くことができない
思考・問題解決能力	2．紛争の原因を考察し、問題を理解する	具体的な紛争について探究し原因や現状とともに解決の方向性を建設的に表現できる	具体的な紛争について探究し基礎的な点を理解できる	具体的な紛争について探究し概要を理解している	具体的な紛争について不正確な点を含みながら概要を理解している	具体的な紛争について適切な認識を持てない
思考・問題解決能力	3．意見の異なる相手への想像力を持てる	世界での紛争や対立を十分に理解し、人々の痛みを想像すること、表現することができる	世界の紛争や対立について基礎的な内容を理解し、想像力を持って表現することができる	世界の紛争や対立について概要を理解し、想像力を働かせようと努力する	世界の紛争や対立について不正確な理解や表現もあるが、自分なりの意見を書ける	世界の紛争や対立について基礎的な内容についてほとんど書くことができない
技能	1．本に書かれている内容を適切に読み取る	本や論文の内容を十分かつ批判的に理解し書くことができる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解し、要旨を書くことができる	基礎的な内容について不正確な部分もあるが自分なりに要旨を書くことができる	基礎的な内容についてほとんど要旨を書くことができない
技能	2．人の話を聞いて理解し自分の意見を言える	発表を聞いて意見や質問を発言できる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解して、書くことができる	基礎的な内容について不正確な部分もあるが、自分なりの意見を書ける	基礎的な内容についてほとんど書くことができない
技能	3．自分の意見を適切にまとめ文章で表現できる	発表を聞いて適切な意見や質問を述べたり文章で書いたりできる	発表を聞いて、意見もしくは質問を文章でかける	発表を聞いて概ね主旨を理解して、意見を書くことができる	発表を聞いて不正確な部分もあるが、自分なりの意見を書ける	発表の内容について意見を書くことができない
態度	1．授業後のコメントシートに適切なコメントを書く	授業内容を理解し発展的に自分の意見を書ける	授業内容を理解している	授業内容を概ね理解している	授業内容について不正確な部分もありながら理解している	授業内容に関心がなく理解しようとしていない
態度	2．他の学生の発表を関心をもって聞く	発表者の意図を十分にくみ、発展的な質問を書いたり述べたりできる	発表内容について論旨に関わる質問をしたり意見を述べたりできる	発表内容について論旨に関わる質問ができる	発表内容について言葉の意味など簡単な質問ができる	発表内容に関する質問・意見を述べられない

科目名	総合英語			授業番号	LC119	サブタイトル	(英語で岡山を楽しみながら学ぼう)		
教員	藤代　昇丈								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。英語の四技能（読む、聞く、書く、話す）を総合的に高める目指す。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	1-1-1 New Year's Day 英語の５文型の確認及び疑問文、進行形について理解する。 大晦日から新年を迎える際の会話表現やことわざを理解する。 吉備津神社への初詣について知る。	
第2回	1-1-2 Welcome to Okayama 過去時制の確認及び不定詞について理解する。 空港で留学生を出迎える際の会話表現を理解する。 岡山空港や海外との時差について知る。	
第3回	1-1-3 Okayama City 現在完了形の使い方について理解する。 「～してはどうか」と提案する際の会話表現を理解する。 貸出自転車「ももちゃり」について知る。	
第4回	1-1-4 At Korakuen 付加疑問文の作り方について理解する。 one, the other, some, others, the othersの用法と目的語に動名詞しかとらない動詞を理解する。 岡山市内の貸出自転車「ももちゃり」について知る。	
第5回	1-2-1 Hofukuji and Sesshu 能動態と受動態の確認と使い方について理解する。 付帯状況with＋目的語＋～ingの用法を理解する。 宝福寺の雪舟の物語について知る。	
第6回	1-2-2 Kibiji District 他人を案内する際の指し示し方について理解する。 think of A as Bの意味と用法を理解する。 吉備路と国分寺について知る。	
第7回	1-2-3 At Shin-Kurashiki Station 助動詞mustと関係副詞の非制限用法について理解する。 否定の疑問文とその受け答え方を理解する。 吉備路と国分寺について知る。	
第8回	1-2-4 Ohara Museum of Art 過去の受動態と感嘆文の作り方について理解する。 第５文型の受動態を理解する。 倉敷美観地区と大原美術館について知る。	
第9回	1-3-1 Hiruzen Heights及び到達度テスト 関係代名詞の使い方について理解する。 as far as ～canの表現と用法を理解する。 蒜山高原について知る。	
第10回	1-3-2 A Trip to Inujima asの使い方について理解する。 「～しましょう」と誘う際の表現を理解する。 瀬戸内海の犬島と精錬所の歴史について知る。	
第11回	1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine may have 過去分詞の使い方について理解する。 Can you do me a favor?という表現を理解する。 瀬戸内海の犬島と精錬所の歴史について知る。	
第12回	1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum 関係副詞whereと付帯のwithの使い方について理解する。 「～時代」についての表現を理解する。 竹久夢二と夢二郷土美術館について知る。	
第13回	1-3-5 Yunogo Hot Springs 動名詞や仮主語と真主語について理解する。 Howを用いた簡単表現を理解する。 湯郷温泉について知る。	
第14回	2-1-1 At Suzuki's House 1 過去分詞の前方照応について理解する。 日本文化を紹介する際の表現を理解する。 日本と海外の文化の違いについて知る。	
第15回	2-1-2 At Suzuki's House 2 及び到達度テスト how to～を用いた表現について理解する。 日本文化を紹介する際の表現を理解する。 日本と海外の文化の違いについて知る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂新版 岡山から"ハロー"	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	978-4881977590	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)・県総合教育センター(４年)・県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。	テキストでテーマとなっている岡山の文化や観光名所について理解し，自ら調べ，英文で紹介したり，発表することができる。	テキストでテーマとなっている岡山の文化や観光名所について理解し，まとめることができる。	テキストでテーマとなっている岡山の文化や観光名所について，講義を通して関心をもって議論することができる。	テキストの英文の内容の理解にとどまり，テーマとなっている岡山の文化や観光名所について自ら知ろうとしない。	テキストの英文内容のみならず，テーマとなっている岡山の文化や観光名所について，全く関心を持たない。

科目名	データサイエンス入門			授業番号	LC201	サブタイトル			
教員	梶西 将司								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	データサイエンスは，私たちの身の回りの様々な場面で活用されている．近年は特に，データサイエンスの知識や考え方を持った人が必要とされている．データサイエンスによって得られた数値に隠された本当の意味を知ることはとても重要なことである．本授業では，データサイエンスで利用されているいくつかの分析手法に触れ，基礎知識や簡単な分析手法を身につけることを目指す．								
到達目標	・データサイエンスの重要性を知り，身の回りで活用されていることを実感できる． ・データサイエンスの知識を利用し，身の回りに溢れている数値の持つ真の意味について考えることができ，自らの力で判断ができるようになる． ・データサイエンスの分野で利用されている簡単なデータ分析を行うことができる． なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する．								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	データサイエンスについて データサイエンスの具体例や考え方について説明する	
第2回	PPDACサイクルについて データサイエンスの一連の流れとデータの可視化とその用途について理解する	
第3回	度数分布表とヒストグラム 平均やデータの散らばり具合の統計量である標準偏差の考え方について理解する	
第4回	標準偏差の活用事例 統計学で最も有名な正規分布を例に分布の考え方について説明する	
第5回	推測統計（仮説検定・区間推定）について 推測統計の概要及び，身近な例について考える	
第6回	母集団・母平均・母標準偏差・標本平均 推測統計の基本的な考え方である母集団と標本について理解する	
第7回	標本平均を使った母集団の区間推定 正規分布の考え方を使い，母集団の平均を幅をもって推測できるようになる	
第8回	標本分散とカイ二乗分布，母分散の推定 カイ二乗分布の性質を理解でき，母分散について幅をもって推測できるようになる	
第9回	標本分散と比例する統計量の作り方 統計量の作り方を理解し，算出できる	
第10回	母平均が未知の正規母集団を区間推定 母平均が分からない場合の推定方法をを理解できる	
第11回	t 分布による区間推定 t 分布の用途を理解でき，その分布を用いて区間推定ができる	
第12回	相関係数について 2変数の関係を数量的に表す相関係数について理解し，算出できる	
第13回	総合演習 これまでの学習内容の確認を行う	
第14回	分析事例(１) データサイエンスでよく使われる解析方法とその解釈を理解できる（クラスター分析，決定木，回帰分析）	
第15回	分析事例(２) 専門的なデータサイエンスの解析方法とその解釈を理解できる（空間データ分析，画像認識）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する．
レポート	40	2～3回程度のレポート課題を課す．classroomを利用し、評価をフィードバックする．
小テスト	20	2回程度の小テストを行う．実施は事前にアナウンスする． 実施後、必要に応じて、小テストを返却しフィードバックする．
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	データサイエンスについて知り，身の回りに溢れている数値に隠された意味を自らの力で考え，判断できる力を身に付けてほしい．また，データサイエンスの手法について学び，データ解析で得られた結果を解釈する楽しさを知ってほしい．授業に関してはテキストや配布資料を利用し授業の復習・予習を行い，講義内容をしっかりと理解できるように努めてほしい．
授業外学修	1　予習として，配布資料やテキストを読み，次回の授業内容に関わる部分を整理しておく． 2　復習として，学習した内容を整理し，課題レポートをする． 3　発展学習として，授業で紹介された内容について自ら調べる． 以上の内容を，週当たり4時間以上学習すること．

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社	978-4-478-82009-4	1800
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無			
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．データサイエンスの重要性について理解できる	日常生活で利活用されているデータサイエンスの技術を理解できている	データサイエンスの技術について理解し、一部利用できる	身の回りにあるデータやグラフなど、データサイエンスが活用されていることを予測できる	データサイエンスについて理解できているが、日常生活に活用されていることが分からない	データサイエンスについて理解できておらず、どのような場面で活用されているか分からない
知識・理解	2．データの可視化の重要性について理解できる	データの可視化の重要性について理解できている。また、グラフ作成の手順が把握できており、実際に作成することができる。	データの可視化の重要性について理解できている。また、実際に作成することができる。	データから可視化の用途別にグラフを作成できる	データ可視化の重要性を理解できていないが、グラフを作成することができる	データ可視化の重要性を理解できておらず、グラフを作成することができない
知識・理解	3．推測統計について理解できる	推測統計について理解し、課題に応じて推定と検定の統計量を正しく算出できる	推測統計についてある程度理解し、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要が理解でき、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要を理解できていないが、推定と検定の統計量を計算により算出できる	推測統計について理解できておらず、統計量を算出できない
思考・問題解決能力	1．データから統計量を算出し評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、算出された統計量を正しく評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、統計量を算出できる	データから統計量を算出できる	統計量の種類や用途を理解できていないが、算出はできる	統計量の種類や用途が分からず、算出できない
思考・問題解決能力	2．グラフや表を用いて全体像を把握できる	データに応じて適切なグラフや表を選択し、作成・評価ができる	データに応じて適切なグラフ表を選択し、作成できる	データからグラフや表を作成することができる	グラフの種類や用途を理解できていないが、作成できる	グラフの種類や用途が分からず、作成できない
思考・問題解決能力	3．区間推定の活用し、課題を解決できる	課題に応じて、区間推定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果を正しく判断し評価できる。	課題に応じて、区間推定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果から結論を考察できる	区間推定の手法を理解し、統計量を算出できる	区間推定の手法について理解しているが、統計量を算出できない	区間推定の手法について理解できておらず、統計量を算出することができない
技能	1．基本統計量の算出ができる	基本統計量の用途と特徴を十分に理解し、実際に計算により導出することができる。	基本統計量の用途と特徴を理解し、計算により導出することができる。	基本統計量について理解し、実際に算出することができる。	基本統計量について理解できているが、算出はできない。	基本統計量について理解できておらず、算出もできない。
技能	2．正規分布表を活用できる	正規分布表の仕組みを十分に理解し、実際に問題の中で使用し、正しく確率を求めることができる。	正規分布表の仕組みを理解し、実際に使用でき、正しく確率を求めることができる。	正規分布表について理解できており、問題に応じて正しく確率を求めることができる。	正規分布表について理解できていないが、表を用いて確率を求めることができる。	正規分布表について理解できておらず、確率を求めることもできない。
技能	3．信頼区間を求めることができる	信頼区間の種類や手法を十分に理解できており、問題に応じて自らの力で信頼区間を算出できる。	信頼区間の種類や手法を理解できており、問題に応じて信頼区間を算出できる。	信頼区間について理解できており、実際に信頼区間を算出できる。	信頼区間について十分な理解ができていないが、信頼区間を算出することができる。	信頼区間について理解できておらず、算出することもできない。

科目名	社会調査の基礎			授業番号	LC203	サブタイトル			
教員	梶西 将司								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，社会調査を本格的に学ぶ学生を対象に，社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を解説する. 授業では，さまざまな社会調査の手法やデータ収集・分析のプロセス，社会調査の事例などを紹介する．また，統計解析アプリケーションＲを用いて，実際にデータ解析を行い，その解釈を行う.								
到達目標	・社会調査について理解できている. ・対象や状況に応じた調査票が作成できる. ・得られたデータからデータ解析が行える. ・統計解析アプリケーションRを用いて解析が行える．また，その結果を解釈することができる. なお，本科目はディプロマシーポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する.								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	社会調査とは 社会調査の概要ついて理解でき，社会における具体例を説明できる	
第2回	社会調査の種類 社会調査の種類やその方法を説明する	
第3回	調査のプロセスとデザイン 社会調査のプロセスやデザインを考える上で必要な事柄を理解できる	
第4回	調査の方法と調査票の作成方法 実際の調査票を確認しながら作成方法を説明する 調査票を作成する際に必要な考え方を理解できる	
第5回	サンプリングの方法 サンプリングの種類や方法，無作為抽出(ランダムサンプリング)について理解できる	
第6回	調査の実施 実際に社会調査を実施する際に必要な留意事項を知り，準備・実施・集計分析・管理の流れを理解できる	
第7回	データの基礎的統計 調査で集計したデータを要約する統計的手法を理解でき，実際に計算できる	
第8回	統計的推測 調査で得られたデータを標本とし，母集団を推測する方法を理解できる	
第9回	変数間の関連 2変数間の関連を数量的に表現できる相関係数について理解でき，因果関係との違いを説明できる	
第10回	調査倫理とデータの管理 社会調査を実施する上で必要な倫理とデータの管理方法を理解できる	
第11回	総合演習 これまでの内容の確認を行う	
第12回	アプリケーションを活用した調査票の作成 実際に調査票(アンケート)を作成できる	
第13回	集計結果の見方・分析方法 調査票により集計したデータを管理，分析することができる	
第14回	Rを使用したデータ処理と統計分析 プログラムにより少し複雑な分析ができる	
第15回	社会調査の具体例 実際に実施されている社会調査を調べ，その内容や方法からどのような集計・分析が可能か説明する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する.
レポート	30	2～3回程度のポート課題を課す．classroomを利用し，評価をフィードバックする.
小テスト	20	2回程度の小テストを行う．実施は事前にアナウンスする. 実施後、必要に応じて小テストを返却しフィードバックする.
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	社会調査の重要性を知ってもらいたい．また，得られたデータからデータ解析を行い，結果を解釈することで新たな発見があることを知ってもらい，またその楽しさを実感してもらいたい．
授業外学修	1　予習として，配布資料やテキストを読み，次回の授業内容に関わる部分を整理しておく． 2　復習として，学習した内容を整理し，課題レポートをする． 3　発展学習として，授業で紹介された内容について自ら調べる． 以上の内容を，週当たり4時間以上学習すること．

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
入門・社会調査法	編：轟亮・杉野勇	法律文化社	978-589-03817-3	2500円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
フィールド分析法	編：守屋和幸　著：村上陽平	共立出版	978-4-320-00604-1	3850円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会調査の重要性について理解できる	社会調査の重要性と意義を理解し、実社会で利用される場面を具体的に説明できる。	社会調査の重要性を理解し、実社会で利用される場面を具体的に説明できる。	社会調査の重要性を理解し、実社会で利用される場面を想像できる。	社会調査の重要性を理解している。	社会調査の重要性が理解できておらず、具体的な場面も分かっていない。
知識・理解	2．社会調査の種類や方法を理解できる	社会調査の種類や方法、それらの特徴を理解し、メリットとデメリットを説明できる。	社会調査の種類や方法を理解し、メリットとデメリットを説明できる。	社会調査の種類や方法を理解できている。	社会調査の基本的な種類を一部理解している。	社会調査の種類や方法を理解できていない。
知識・理解	3．統計的手法の使用例や結果の解釈ができる	データに応じた必要な分析が理解できており、基本的なデータ分析の結果に対して、解釈することができる。	いくつかのデータ分析手法を理解しており、基本的なデータ分析の結果に対して、解釈することができる。	いくつかのデータ分析手法を理解しており、基本的なデータ分析の結果を読み取ることができる。	いくつかのデータ分析手法を理解している。	データ分析の手法を理解できておらず、結果の解釈もできない。
思考・問題解決能力	1．社会調査の枠組みを考えることができる	調査の目的に応じて社会調査の枠組みを考えることができ、実査に向けて必要な要点を理解できている。	社会調査の枠組みを考えることができ、実査に向けて必要な要点を理解できている。	社会調査の枠組みを考えることができる。	調査の枠組みを理解できていないが、必要な工程を一部理解できている。	調査の枠組みを理解できていない。
思考・問題解決能力	2．社会調査の問題について理解し、解決・防止策を考えることができる	社会調査の実査において、生じる問題点を調査者・対象者それぞれの観点から理解し、その防止策を講じることができる。	社会調査の実査において、生じる問題点を理解し、その防止策を講じることができる。	社会調査の実査において、生じる問題点を理解できている。	社会調査の実査において問題が生じることは理解できている。	社会調査の実査において、どのような問題が生じるのか理解できていない。
思考・問題解決能力	3．データ分析の手法を理解し、実際に適用できる	データから明らかにしたい事柄を定めることができ、そのために必要な分析手法を選択し、実際に計算できる。	データから大まかな分析目的を定め、そのために必要な分析手法を選択し、実際に計算できる。	いくつかの主要な分析手法を選択し、実際に計算できる。	自らデータ分析手法を選択できないが、算出はできる。	分析手法を選択することも実際に算出することもできない。
技能	1．調査票を作成することができる	調査目的に応じた簡単な調査票を作成することができ、効果的な質問項目の設定ができている。また、作成の留意点も考慮することができている。	調査目的に応じた簡単な調査票を作成することができ、作成の留意点も考慮することができている	調査目的に応じた簡単な調査票を作成することができる。	簡単な調査票を作成することができる。	簡単な調査票を作成することができない。
技能	2．データの整理ができる	収集されたデータに対して、有効票と無効票の判断ができ、分析可能なデータに整理ができる。またコード化をすることができる。	収集されたデータに対して、有効票と無効票の判断ができ、分析可能なデータに整理ができる。	収集されたデータに対して、分析可能なデータに整理できる。	収集されたデータに対して、一部データの整理ができる。	データを整理できない。
技能	3．Excelを用いて適切な分析ができる	Excelを用いて、データに応じた分析を適切に判断し、適用することができ、その結果を解釈することができる。	Excelを用いて、データに応じた分析を適用することができ、その結果を解釈することができる。	Excelを用いて、データに応じた分析を適用することができる。	Excelを用いて基礎的なデータ分析を行うことができる。	Excelを用いてデータ分析を行うことができない。

科目名	金融論入門			授業番号	LC204	サブタイトル			
教員	三好　秀和								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	テキストを利用して授業を進める。テキストの構成はテーマごとに【ストーリー】で主人公にかかわる会社での出来事が上司，部下，同僚や友人，恩師とのかかわりの中で会話形式で書かれている。このテーマである課題にあなたならどう解決するかを考えること。そして主人公の【解決策】が次に書かれているので、自己の回答と比較すること。 もし，解決策が気が付かなかったり用語などで困ったら解決策を読み進む前に，【論点解説】を先に読んで用語の定義や使い方などを確認すること。それでも解決策が見つからないとき，【解決策】を読み進めむこと。 そして授業ではチームに【解決策】について議論する。解決策は１つではないかもしれない。解決策にとらわれないでオープンな議論を期待する。今回の学習を通じて,企業にどんな課題があり経営者はどんな課題に悩んでいるのか，そして，金融がどのようにかかわっているのかを知ることができる。								
到達目標	金融は金融機関だけで成立するものではない。金融の仕組みが長く存続しているのは利用者である企業や個人にとって必要性があるからである。そこで，企業に焦点をあてその事業活動の中でどのように金融が関わっているか，そのシーンを材料に金融業界(銀行・証券・保険)の講義をする。特に，銀行・証券会社に就職を希望する学生にとって顧客である企業の立場に立てることができるので，将来の銀行，証券会社のあるべき姿を創造する力を身に着けることができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献することになる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス　企業と金融のかかわりの全体像を理解する。 付録1　講義録　p(1)-(18) B/S、P/L、Debt Equity Swap、ROE、ROA。	
第2回	どうしてわが社の株価は低迷しているのか　1 第１章 p18-36 株価の変動要因は何か、PERと期待収益率、PERの活用方法	
第3回	どうしてわが社の株価は低迷しているのか　2 第１章 p18-36 ＰＥＲと期待収益率／PERをどう活用するか	
第4回	「プライム落ち」は逃れたが，東証の市場再編問題　1 第２章　p37-52 東証再編とプライム市場	
第5回	「プライム落ち」は逃れたが，東証の市場再編問題　2 第２章　p37-52 流通株式数／単位(売買単位)／時価総額	
第6回	「プライム落ち」は逃れたが，東証の市場再編問題　3 第２章　p37-52 スチュワードコードシップとコーポレート・ガバナンス・コードとは何か。	
第7回	物言う株主にどう対処するかーアクティビスト・ファンド対策　1 第3章　p53-68 CIOの役割	
第8回	物言う株主にどう対処するかーアクティビスト・ファンド対策　2 第3章　p53-68 総会招集請求権と株主の権利	
第9回	物言う株主にどう対処するかーアクティビスト・ファンド対策　3 第3章　p53-68 検査役　東芝の混乱を考える	
第10回	資本コストの導入は可能か　1 第3章　p53-68 資本コスト、ハードルレート、WACC	
第11回	ポストM&Aを意識しなければ失敗するぞ　1 第5章p83-100 M&Aとは	
第12回	ポストM&Aを意識しなければ失敗するぞ　2 第5章p83-100 会社の価格はどうやって計算するの、Ｍ＆Ａの構図を理解すればより深まる	
第13回	ポストM&Aを意識しなければ失敗するぞ　3 第5章p83-100 友好的なＭ＆Ａとは？、Ｍ＆Ａの成立までのプロセスとは？	
第14回	市場からの資金調達　現在の金融証券市場の状況 第７章　p112-123 リスケと貸しはがし，信用保証付き貸付	
第15回	レポートの書き方。文章で意思を伝えるための方法，ルールを学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝへの参加，予習復習状況によって評価する。出席しているだけでは評価しない。良い発言には加点する。
レポート	50	レポートの書き方の基準に合っているか。論理が明快であるかどうか。発想力や新規性に優れているか。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	企業に就職し成長させていくには金融機関とのかかわりは欠かせない。
授業外学修	テキストの【ストーリー】を事前に読んで，自分なりの解決策を考えてみてください。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ストーリーで学ぶCFO入門講座	三好秀和	同友館	978-4-496-05640-6	1，980円（税込）
使用テキスト：自由記載	授業で利用するので必須となります。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
3年で退職しないための就活読本	三好秀和･佐々木一雄	同友館	978-4496052576	1760
『銀行･証券･保険業界のビジネスモデルで学ぶ 金融キャリアの教科書』	三好秀和	経済法令研究会	978-4-7668-3346-1	1430
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	生命保険会社(15年)，資産運用会社の勤務経験(5年)，金融システムの業務経験(6年) がある。日本FP学会理事(17年) 。FPとはファイナンシャルプランナーのことです。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	生命保険会社，資産運用会社，トレーダーの経験があるや京都大学の資金運用アドバイザーでは証券金融市場に対時しています。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.金融機関の機能を企業の立場で理解できている。	資金調達だけでなく従業員の福利厚生、リスク管理の視点で金融の役割を理解している。	資金調達として銀行と証券会社の役よりを理解している。	銀行による貸し出しと証券会社による増資し上場支援など資金調達を理解している。	銀行による貸し出しは理解できるが証券会社による増資し上場支援など資金調達は理解していない。	どうして企業にとって金融機関が大切か理解できない。
知識・理解	2．会社と株主の関係性を理解できる。	東芝が上場廃止になった理由を説明できる。	アクティビストがどのように行動原理で企業に対時しているか理解できる。	アクティビストとは何か説明できる。	アクティビストは知っているが説明できない。	アクティビストとは何か説明できない。
知識・理解	3．新しい金融機関の役割としてM&A支援があることを理解している。	大手証券会社のみならず地方銀行もM&Aビジネスに乗り出している理由を説明できる。	M&Aビジネスの必要性を企業の立場に立って説明できる。	M&Aビジネスのスキームを説明できる。	M&Aとは何か説明できる。	M&Aを説明できない。
思考・問題解決能力	1．株価が企業にとってもたらす意味を説明できる。	3つの視点(企業買収と株式交換の視点、買収防衛策の視点、財産価値の視点)で具体的に説明できる。	3つの視点(企業買収と株式交換の視点、買収防衛策の視点、財産価値の視点)で説明できる。	3つの視点(企業買収と株式交換の視点、買収防衛策の視点、財産価値の視点)で十分な説明できない。	3つの視点(企業買収と株式交換の視点、買収防衛策の視点、財産価値の視点)に気が付かない。	株価の意義を説明できない。
思考・問題解決能力	2．銀行の現状と将来性について説明できる。	金利の影響と銀行の業績を説明できる。さらに低金利下での今日、手数料ビジネスを拡張していることを具体的に説明できる。	金利の影響と銀行の業績を説明できる。さらに低金利下での今日、手数料ビジネスを拡張していることを説明できる。	間接金融だけではなく手数料ビジネスを説明できる。	間接金融だけではなく手数料ビジネスを説明できない。	間接金融の説明できない。
思考・問題解決能力	3．株価と企業業績の関係性を説明できる。	株価と企業業績の関係性を具体的にバリエーションの視点から説明できる。	株価と企業業績の関係性をバリエーションの視点から説明できる。	PER、PBR、EPS、BPSの計算ができ説明ができる。	PER、PBR、EPS、BPSの計算ができない。	PER、PBR、EPS、BPSの説明ができない。

科目名	観光英語 A			授業番号	LC205	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，海外を旅行する際，誰かを海外に連れて旅をする際に必要な知識と観光英語を学ぶ。言語を習得するには，繰り返し聴き，話すことが必要となるが，授業中に観光で想定される場面での会話練習の機会を増やすためにも，テキストを用いた予習は必須である。英語で国内外の観光地を紹介する練習として，定期的にプレゼンテーションを実施する。中間・期末試験には，プレゼンテーションで取り上げられた国内外の観光地に関する問題も含まれる。								
到達目標	本講義では，観光に関連したテーマを扱うテキストを用いて，実用的な語彙の増強を図りつつ，日常的な会話表現を含んだ実践的な英語表現を学ぶ。英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すと同時に，観光に関連したテーマの語彙・表現，背景となる海外の旅行地理などを学び，定期的に小テストで学力定着を確認することで「観光英語検定」対策も併せて行う。海外での旅行・観光の際に想定される様々な場面において，英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ツーリズム・イングリッシュとは？ 観光英語と旅行地理の必要性	
第2回	Unit 1 Travel 旅行の計画を立てる際の英語表現と語彙を学ぶ。	
第3回	Unit 2 Jobs and People 観光業に関する職種とその業務内容を英語で学ぶ。	
第4回	Unit 3 Getting on the Plane 飛行機に搭乗する際の英語表現と語彙を学ぶ。	
第5回	Unit 4 At the Immigration and Customs 出入国管理と税関で行われる手続きとその際に使われる英語表現と語彙を学ぶ。	
第6回	Unit 5 At the Airport 空港内の施設に関連した英語表現や語彙を学ぶ。	
第7回	Unit 6 Hotel(Accommodations) ホテルでのチェックインやチェックアウト時に使われる英語表現や語彙を学ぶ。	
第8回	観光英検にチャレンジ(1) Unit 1～Unit 6に関する観光英検の問題に挑戦する。	
第9回	Unit 7 Restaurant(Breakfast and Fast Food) レストランで注文をする際の英語表現や語彙を学ぶ。	
第10回	Unit 8 Sightseeing 観光ツアーに申込む際に使われる英語表現や語彙を学ぶ。	
第11回	Unit 9 Shopping ショッピングの際に使われる会話表現や語彙を学ぶ。	
第12回	Unit 10 Transportation 交通機関を利用する際に使われる会話表現や語彙を学ぶ。	
第13回	Unit 11 Problems and Complaints 海外旅行で起こりうる問題と苦情を訴える表現や語彙を学ぶ。	
第14回	Additional Unit Traveling in Japan 日本国内の旅行について英語で説明をする。	
第15回	観光英検にチャレンジ(2) Unit 7～Additional Unitに関する観光英検の問題に挑戦する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	20	毎授業開始時に前回の授業内容に関して小テストを行う。小テストで観光英語の理解度を評価する。
定期試験	40	中間・期末に授業内容と国内外の観光地に関する知識の理解度を評価する。
その他	20	国内外の観光地に関するプレゼンにより評価。課題のテーマについて調べ適切にまとめ，わかりやすい発表を行うこと。発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	背景となる国内外の地理，歴史などに関する知識が必要となるので，日頃から知識獲得に努めること。
授業外学修	1　予習として，テキストを読み，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。 2　復習として，英語および観光の知識として不十分な部分を調べて補強する。調べてもわからない箇所は次の授業時に教員に質問をする。 3　発展学習として，テキストに出てきた国や地域について調べる。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
CD付 ステップアップ観光英語 Basic	観光英検センター	三修社	978-4-384-33437-1	2，000円＋税
使用テキスト：自由記載	テキストの使用に加えて適宜プリントも配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業で随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．観光に関する英語の語彙や英語表現を理解している	観光に関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、それを他の場面でも応用して使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現を理解し、例に倣って自分で使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を覚えている。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を理解していない。
知識・理解	２．観光に関する英文を読解することができる。	観光に関する英文を読んで理解し、それを基に自らの意見を持ち、ディスカッションすることができる。	観光に関する英文を読んで理解し、それを基に自らの意見を持つことができる。	観光に関する英文を読んで理解することができる。	観光に関する英文を読んで一部を理解することができる。	観光に関する英文を読んで理解することができない。
知識・理解	３．国内外の観光地に関する知識を身につけている	国内外の観光地に関する知識を積極的に得ようとし、自らの言葉で説明することができる。	国内外の観光地について自発的に調べ、理解している。	国内外の観光地について、授業で扱った項目については知識がある。	国内外の観光地について、授業で扱った項目について一部知識がある。	国内外の観光地に関する知識がない。
技能	１．海外旅行で使用する英語表現を使って他者と口頭でコミュニケーションが取れる	既習の語彙や英語表現を活用して，海外旅行に関する内容を英語で自由に表現し、相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して，海外旅行に関する内容を英語で表現し、相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，海外旅行に関する簡単な内容を英語で伝え、理解することができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現、相手の言っていることは英語で理解できるが、自分の伝えたい内容を英語で表現することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず，海外旅行について既存の英文を用いても相手とコミュニケーションをとることができない。
技能	２．海外旅行に関する内容について英作文することができる	既習の語彙や英語表現を活用して，海外旅行に関する内容を自由に英作文することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して，海外旅行に関する内容を英作文することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，海外旅行に関する簡単な内容を短い文で英作文することができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現は理解できるが、短い文であっても英作文することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず，海外旅行について既存の英文を参考にしても英作文することができない。
技能	３．国内外の観光地を英語で紹介することができる	既習の語彙や英語表現を活用して，観光地について英語で自由に説明をすることができる。	既習の語彙や英語表現を応用して文章を作り，観光地について英語で説明をすることができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，観光地について簡単な内容を短い英文で伝えることができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現は理解できるが，短い英文でも観光地について説明することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず，既存の英文を用いて観光地について説明することができない。

科目名	食品流通論			授業番号	LC206	サブタイトル			
教員	大宮 めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では食品が生産され私たち消費者に届くまでの食品流通システムについて学修する。はじめに現在の食生活の現状について理解し，食品の生産，加工，流通に関わる産業の概要，主要食品の流通システムの特徴について学ぶ。次に，わが国の食料需給の現状，流通過程で発生する課題について理解する。さらに，食品産業におけるマーケティング戦略について学ぶ。								
到達目標	（1）食品流通に関連する基礎的な専門用語を理解する。 （2）わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し，説明する力を身につける。 （3）フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し，その課題解決方法について自ら考察，説明する能力を身につける。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の取得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	食品流通論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 食品流通とは何かについて概説し，全体の流れを紹介する。	
第2回	食生活の変化と食の外部化 食品流通をめぐる環境変化や食生活の変化について理解する。	
第3回	食品流通の基礎（1） 流通の社会的役割について理解する。	
第4回	食品流通の基礎（2） 流通の仕組みと機能について理解する。	
第5回	主要食品の流通システム（1） 米の流通システム，流通規制の変遷について理解する。	
第6回	主要食品の流通システム（2） 青果物の流通システムと卸売市場について理解する。	
第7回	主要食品の流通システム（3） 水産物，食肉の流通システムについて理解する。	
第8回	前半のまとめ これまでの学習内容の確認を行う。	
第9回	食料の安全保障と食料自給率 食料自給率低下の背景と食料安全保障について理解する。	
第10回	食料消費の課題（1） 食品産業の概要と食料品アクセス問題について理解する。	
第11回	食料消費の課題（2） 食品ロスの実態について理解する。	
第12回	食料消費と安全（1） 食品表示の機能や情報管理について理解する。	
第13回	食料消費と安全（2） 食品安全行政，食品の安全性確保のための仕組みについて理解する。	
第14回	マーケティングの基礎知識/フードマーケティング マーケティングの手法と食品企業のマーケティングの実際について理解する。	
第15回	全体のまとめ 全体の学習内容の確認を行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	30	中間的な理解度を評価する。
定期試験	50	到達目標に達しているかを最終的に評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義では食料消費や食品流通，食料に関連する今日的課題等を理解し，自らのこととして考え，その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには，「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （2）発展学修として，食品流通など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	資料を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
農産物・食品の市場と流通	日本農業市場学会	筑波書房	978-4-8119-0549-5	2，500円＋税
新版　食料・農産物流通論	藤島廣二ほか	筑波書房	9784811904078	2，500円＋税
フードシステムの経済学	時子山ひろみほか	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70740-1	2，500円＋税

参考書：自由記載	適宜，指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食品流通に関連する基礎的な専門用語を理解している	食品流通に関連する専門用語を正確に理解し、述べることができる。	食品流通に関連する専門用語をほぼ理解し、述べることができる。	食品流通に関連する専門用語を一定程度理解し、大体述べることができる。	食品流通に関する専門用語について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	２．わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し、説明する能力を身につけている	食品流通の構造および食品産業の役割について正しく理解をしており詳細に説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割についてほぼ理解しており、説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割について一定程度理解しており、説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食品流通の構造および食品産業の役割について理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	３．フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し、課題解決方法について自ら考察、説明する能力を身につけている	諸課題について広範囲にわたり正しく理解し、課題解決方法について理論的に説明することができる。	諸課題についてほぼ理解し、課題解決方法について説得力のある考察することができる。	諸課題について一定程度理解し、課題解決方法について説明することができる。	諸課題について理解がやや不十分であり、課題解決方法について説明する力が乏しい。	諸課題について理解できておらず、自らの考えを提示することができない。

科目名	ビジネス・イングリッシュ			授業番号	LC207	サブタイトル			
教員	森年 ポール								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	現代の国際化・情報化した社会において、ビジネス・経済分野では英語は非常に大きな役割を果たしている。したがって、このコースは学生のビジネス英語を向上させることを目的としています。また、学生に英語力のレベルを感じてもらうことも目的としています。このコースは、実践的な活動を通じてビジネス英語の知識とスキルを統合します。また、学生を日本国外のビジネスコンテキストに結び付けるための文化的認識活動も含みます。また、TOEIC形式の練習活動は、生徒の進捗状況を確認するのに役立ちます。英語のコミュニケーション能力を伸ばすためには、やむを得ず練習する必要があります。 In today's internationalized and information-oriented society, English plays a very important role in the business and economic fields. Therefore, this course intends to improve students' business English. It also aims to give students a sense of their English proficiency level. The course integrates business English language knowledge and skills through practical activities. It also includes cultural awareness activities to connect students to business contexts outside Japan. In addition, TOEIC-style practice activities help to check students' progress. To improve your English communication abilities, it is unavoidable that you must practice.								
到達目標	ビジネス英語の知識、英語で意見やアイデアを表現する能力、ビジネス関連の概念や問題についての理解を深めるため。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。 To improve your knowledge of business English, your ability to express your opinions and ideas in English and your understanding of business-related concepts and issues. This subject contributes to the acquisition of knowledge/understanding, skills, and attitudes among the contents of the Bachelor's degree listed in the Diploma Policy.								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	コースと内容の紹介 Introduction to the course and content	
第2回	ビジネスの文脈での自己紹介することNice to meet you!: Introducing yourself in a business context	
第3回	初めまして!: ビジネスの場面で人を別の人に紹介すること Nice to meet you!: Introducing one person to another in a business context	
第4回	あなたのサービス会社を紹介すること Introducing your service company	
第5回	あなたの製造会社を紹介すること Introducing your manufacturing company	
第6回	小テスト1、ビジネス電話を受けること Short test 1, Taking a business phone call	
第7回	ビジネス電話をかけること Making a business phone call	
第8回	ビジネスメールを読むこと Reading business emails	
第9回	ビジネスメールの書くこと Writing business emails	
第10回	小テスト2、ビジネスプレゼンテーションのやり方 Short test 2, How to give a business presentation	
第11回	あなたのビジネスプレゼンタンを準備すること Preparing your business presentation	
第12回	あなたのビジネスプレゼンテーションを行うこと Giving your business presentation	
第13回	ホスピタリティ: 顧客に会社の敷地内を案内すること Hospitality: Showing a client around your company premises	
第14回	ホスピタリティ: 依頼人にあなたの街を案内すること Hospitality: Showing a client around your city	
第15回	小テスト3, コースまとめ, 学生アンケート Short test 3, Course review, Student questionnaire,	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
積極的な参加 Active participation	20	英語での積極的な参加。英語を使うほど, スコアは高くなります。 Active participation in English. The more English you use, the higher your score.
ビジネスレポート Business reports	30	ビジネスライティング練習活動(3 x 10%) Business writing practice activities (3 x 10%)
小テスト Short tests	30	３つの語彙と文法の小テストでビジネス英語の理解度を評価する。なお, 小テストの実施はあらかじめアナウンスする。(3 x 10%) Evaluate your understanding of Business English with three written tests of vocabulary and grammar. The tests will be announced in advance. (3 x 10%)
スピーキングテスト Speaking test	20	個人的なスピーキングテスト Individual speaking test

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本科目はビジネスに関するトピックが中心となるので、前もって英文を読んでおくことが必須である。授業で扱った語彙や英語表現をしっかり復習し、すべて小テストや課題に臨むこと。なお，小テストや定期試験は口頭によるテストを含む。 テストを欠席したか、評価された作業を提出しなかったためにコースに失敗した学生は、コースの最後に再テストを受ける資格がありません。 Since this subject focuses on business-related topics, it is essential to read English in advance. Thoroughly review the vocabulary and English expressions used in class, take all tests and submit all writing assignments. The quizzes and regular tests include oral tests. Students who fail the course because they were absent for a test without good reason or did not submit assessed work, will NOT be eligible for a retest at the end of the course.
授業外学修	1 復習すること Review 2 レッソンの内容を，週当たり2時間以上学修すること。 To study the lesson's contents for 2 hours or more per week.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	ご自身の学習経験を活かして、効果的な英語学習法を開発してください。 Use your own study experiences to develop effective English learning methods.

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 選択されたビジネス文脈で英語で会話したり書いたりするために必要な語彙、文法、定型句、つまり語彙文法能力を理解します。	選択されたビジネス文脈における英語の知識の理解を一貫して示します。	多くの場合、選択されたビジネス文脈に関する英語の知識の理解を示します。	場合によっては、選択された ビジネス文脈に関する英語の知識の理解を示すこともあります。	選択されたビジネス文脈における英語の知識の理解を示す場合のみ。	選択されたビジネスコンテキストに関する英語の知識をまったく理解していないことを示しています。
知識・理解	2. さまざまなビジネス文脈で適切な言語を選択する際の文脈の役割、つまり社会言語的能力を理解します。	さまざまなビジネスの文脈において社会言語学的に適切な言語を選択する際の文脈の役割を完全に理解しています。	さまざまなビジネスの文脈において社会言語学的に適切な言語を選択する際の文脈の役割のほとんどを理解しています。	さまざまなビジネスコンテキストで適切な言語を選択する際のコンテキストの役割のいくつかを理解します。	さまざまなビジネス コンテキストで適切な言語を選択する際のコンテキストの役割の一部だけを理解しています。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の文脈の役割の理解を示していない。
知識・理解	3. 適切な言語を選択する際の談話機能とチャネルの役割、つまり談話能力を理解する。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の談話機能とチャネルの役割を完全に理解しています。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の、談話機能とチャネルの役割のほとんどを理解しています。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の談話機能とチャネルの役割のいくつかを理解します。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の談話機能とチャネルの役割のほんの一部だけを理解しています。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の談話機能とチャネルの役割を理解していません。
技能	1. ビジネシーンにおける自己紹介、メールの送信、電話のかけ方などにおいて、英語の話し言葉や書き言葉で効果的に意味を伝えることができる。	選択されたビジネスコンテキストの範囲全体にわたって効果的に意味を伝える能力を一貫して実証します。	多くの場合、選択されたビジネス コンテキストの範囲にわたって効果的に意味を伝える能力を示します。	場合によっては、選択したビジネス コンテキスト全体で意味を効果的に伝える能力を実証します。	限られた範囲の選択されたビジネス コンテキストにおいても、効果的に意味を伝える能力を発揮できるのはごくまれです。	選択したビジネス コンテキスト全体で意味を効果的に伝える能力を実証していません。
技能	2. ビジネスの場面で、自己紹介、電子メールの送信、電話をかけるなどの英語の話し言葉と書き言葉を理解して使用することができます。	特定のビジネスの文脈において、英語の話し言葉と書き言葉を間違いなく理解して使用できる。	特定のビジネスの文脈において、コミュニケーションミスを引き起こすことのない、ほとんど間違いなく、英語の話し言葉と書き言葉を理解して使用することができます。	特定のビジネスの文脈内で英語の話し言葉と書き言葉を理解して使用できますが、多少の間違いがあり、場合によってはコミュニケーションの行き違いを引き起こす可能性があります。	コミュニケーションの齟齬を引き起こす多くの間違いを伴う、特定のビジネス文脈内での英語の話し言葉と書き言葉を理解して使用することができる。	特定のビジネス文脈内で英語の話し言葉や書き言葉を理解できない、または使用できないため、有意義なコミュニケーションが取れません。
技能	3. 言語および内容の知識を、ある文脈から別の文脈へ、またはある談話機能から別の文脈へ効果的に伝達できる。	言語および内容の知識を、ある文脈から別の文脈へ、またはある談話機能から別の文脈へ効果的に一貫して伝達します。	多くの場合、言語および内容の知識をある文脈から別の文脈に、またはある談話機能から別の文脈に効果的に伝達します。	場合によっては、言語および内容の知識をある文脈から別の文脈に、またはある談話機能から別の文脈に効果的に伝達します。	言語および内容の知識をある文脈から別の文脈に、またはある談話機能から別の文脈に効果的に伝達することはほとんどありません。	言語および内容の知識を、ある文脈から別の文脈へ、またはある談話機能から別の文脈へ効果的に伝達することができないようです。
態度	1. コースの目標を達成するために、レッスン中およびレッスン後も努力します。	コースのすべての目標を達成するために、レッスン内外で一貫した努力を続けます。	コースのほとんどの期間、レッスン内外で、コースのすべての目標を達成するために努力します。	コースの一部の目標を達成するために、レッスン内および/またはレッスンを超えて、コースの一部で行われた努力。	コース目標の一部を達成するために必要な最小限の努力のみを行います。	コースの目標を達成するためにほとんど、またはまったく努力しません。
態度	2. コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を持つこと。	コース全体を通じて、コースの目標、内容、アクティビティ、および他の生徒に対して一貫して前向きな姿勢を持っています。	コースのほとんどの期間において、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの一部では、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して積極的な態度を示している証拠はほとんどありません。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して否定的な態度を公然と示します。
態度	3. レッスン中はスタッフや他の生徒に対して適切かつ敬意を持って行動すること。	人の行動は常に適切であり、スタッフと学生に対して敬意を持っています。	ほとんどの場合、人の行動は適切であり、スタッフや学生に対して敬意を持っています。	場合によっては、職員や学生に対して適切かつ敬意を持った行動が行われます。	職員や学生に対する態度は適切でも敬意を払うものでもなく、中立的です。	職員や学生に対する態度が不適切であったり、無礼な場合があります。

科目名	ビジネス・ディスカッション技法			授業番号	LC208	サブタイトル			
教員	梶西　将司, 大宮　めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，前半はディスカッション技法の基礎について学修する。後半では修得したディスカッション技法を活用し，実際にディスカッションの実施とディスカッション技法を応用しながら意見集約などの手法を学ぶ。								
到達目標	（1）ディスカッション技法に関する基本的な知識を修得すること。 （2）効果的なディスカッション技法における技術を理解，修得すること。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の取得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ディスカッションについて ディスカッションの必要性を説明し，全体の流れを紹介する	梶西
第2回	ディスカッション技法の基礎(1)スキルと進め方　他者から見た自己の理解　相手を受け入れよう これらのスキルを実際のディスカッションの場面で活用できる	梶西
第3回	ディスカッション技法の基礎(2)アイスブレイクとスモールトーク アイスブレイクとスモールトークをディスカッションの場面で活用できる	梶西
第4回	ディスカッション技法の基礎(3)司会とグランドルール 司会とグランドルールをディスカッションの場面で活用できる	梶西
第5回	ディスカッション技法の基礎(4)テーマ分析 テーマに対して，分析を行いディスカッションの場面で実行できる	梶西
第6回	ディスカッション技法の基礎(5)意見交換と質問 意見交換と質問の方法を理解でき，ディスカッションの場面で活用できる	梶西
第7回	ディスカッション技法の基礎(6)議論の構造化と振り返り 議論の構造化について理解し，実際の話し合いの中で構造化のフレームワークを作成できる	梶西
第8回	演習(1)-1ディスカッション実践 ディスカッションの流れや話し合いに必要なスキルを駆使し，社会の諸問題について議論できる	大宮
第9回	演習(1)-2ディスカッション実践と発表 社会の諸問題について議論した内容をまとめることができ，その内容を発表できる	大宮
第10回	演習(2)-1ディスカッション実践（KJ法） KJ法について理解でき，実践できる	大宮
第11回	演習(2)-2ディスカッション実践と発表（KJ法） KJ法を通して意見交換し，幅広い視点から議論できる	大宮
第12回	演習(3)-1ディスカッション実践（フォーカスグループインタビュー） フォーカスグループインタビューについて理解でき，実践できる	大宮
第13回	演習(3)-2ディスカッション実践と発表（フォーカスグループインタビュー） フォーカスグループインタビューを通して意見交換し，幅広い視点から議論できる	大宮
第14回	演習(4)　ディスカッション（ワールドカフェ） ワールドカフェについて理解でき，実践できる	大宮
第15回	まとめ これまで学習した内容を振り返り，ディスカッションの意義や方法を確認する	梶西・大宮
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	講義に取り組む姿勢、積極的にディスカッションに参加しているかを判断する。 また、講義中に学習した事柄を理解できているかについても評価の対象とする。
レポート	40	講義中に適宜指示するレポートの内容で評価する. 評価は必要に応じて、講義中にコメントする.
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義はディスカッション技法の基礎を理解し，技術を修得することを到達目標とする。そのためには，ひとりひとりが演習の中で積極的に発言し，他者への理解を持つという姿勢で講義に臨むこと。また，ディスカッションのテーマとしてトピックスなどを提示する場合があるが，それらに対してニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	配布資料等を活用し講義・演習の振り返りを行うこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
大学生からのグループ・ディスカッション入門	中野美香	ナカニシヤ出版	9784779512421	1，900＋税

参考書：自由記載	必要に応じて別途配布する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ディスカッションの重要性を理解できている	ディスカッションの重要性について十分に把握し、どのような場面で必要とされているか理解できている。	ディスカッションの重要性について把握し、どのような場面で必要とされているか理解できている。	ディスカッションの重要性について十分に理解できている。	ディスカッションの重要性について一部理解できている。	ディスカッションの重要性について全く理解できていない。
知識・理解	２．ディスカッションに必要なスキルを理解できている	ディスカッションで必要なスキルを十分に理解しいる。また、どのような場面で使用され、その効果についても理解できている。	ディスカッションで必要なスキルを理解しいる。また、どのような場面で活用さているかも理解できている。	ディスカッションで必要なスキルを理解しいる。	ディスカッションで必要なスキルを一部理解しいる。	ディスカッションで必要なスキルを全く理解できていない。
知識・理解	３．ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を理解できている	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を理解できており、具体的な場面やその対策を説明できる。	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を理解できており、その対策を考えることができる。	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を理解できている。	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点があることは知っているが、理解できていない。	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を知らない。
思考・問題解決能力	１．テーマについて多角的に考えることができる	テーマについて様々な観点から考え、自らの意見をまとめることができる。また、必要に応じて、情報を収集することができる。	テーマについて様々な観点から考え、自らの意見をまとめることができる。	テーマについて様々な観点から考えることができる。	テーマについて考えることはできるが、自らの意見としてまとめることができない。	テーマについて考えることができておらず、意見をまとめることができない。
思考・問題解決能力	２．話し合いの中で意見をまとめ結論を導くことができる	話し合いの中で、いくつかの視点ごとに意見をまとめることができ、グループ全体としての結論を導き出せる。	話し合いの中で、意見をまとめることができ、グループ全体としての結論を導き出せる。	話し合いの中で、グループ全体としての結論を導き出せる。	話し合いの中で、いくつかの意見を出し合うことができるが一定の結論を導き出せない。	十分な意見交換ができておらず、結論を導き出せない。
思考・問題解決能力	３．ディスカッションを円滑に進める方法を考え、実践できる	ディスカッションにおける個人の役割について十分理解しており、円滑に進むように全体を見ながら行動できる。	ディスカッションにおける個人の役割について理解しており、円滑に進むように全体を見ながら行動できる。	ディスカッションにおける個人の役割について理解しており、行動に移すことができる。	ディスカッションにおける個人の役割について理解しているが、行動には移すことができていない。	ディスカッションにおける個人の役割について理解していない。
態度	１．積極的にディスカッションに取り組むことができる	ディスカッションに対して積極的に取り組む姿勢が見られ、テーマに応じた活発な意見交換ができる。	ディスカッションに対して積極的に取り組む姿勢が見られ、テーマに応じた意見交換ができる。	ディスカッションに対して意欲的に取り組む姿勢が見られ、テーマに応じた意見交換ができる。	ディスカッションに対して意欲的に取り組む姿勢が見られないが、テーマに応じた意見交換はできる。	ディスカッションに対して意欲的に取り組む姿勢が見られず、テーマに応じた意見交換もできていない。
態度	２．ディスカッションのスキル積極的に活用できる	学修したディスカッションのスキルを話し合いの中で、積極的に取り入れ、習得しようとする姿勢が見られる。	学修したディスカッションのスキルを話し合いの中で、積極的に取り入れようとする姿勢が見られる。	学修したディスカッションのスキルを話し合いの中で、取り入れようとする姿勢が見られる。	学修したディスカッションのスキルを理解できているが、話し合いの中で、活用する姿勢が見られない。	学修したディスカッションのスキルを理解できておらず、話し合いの中で、活用する姿勢も見られない。
態度	３．他者の意見を大切にできる	話し合いの中で他者の意見を傾聴し、他の意見も積極的に取り入れようとする姿勢が見られる。また、他者の意見に対して質問ができている。	話し合いの中で他者の意見を傾聴し、他の意見も積極的に取り入れようとする姿勢が見られる。	話し合いの中で他者の意見を聞き、他の意見も取り入れようとする姿勢が見られる。	話し合いの中で他者と意見交換するが、聞き入れる姿勢が見られない。	話し合いの中で他者と意見交換できておらず、聞き入れる姿勢が見られない。

科目名	日米関係			授業番号	LC209	サブタイトル			
教員	ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この「日本とアメリカの関係」コースは、日本とアメリカ間の二国間関係に影響を与えてきた歴史、文化、経済的、政治的要因を探求します。学生は、歴史的出来事、メディアの表現(音楽、エンターテインメント）、現代の社会問題、および両国間の相互作用を形成する文化的違いを分析します。								
到達目標	学生は、日本とアメリカの二国間関係の歴史的推移、メディアによる両国の表象、現代的な通商問題や安全保障協力など、様々な側面を総合的に学習します。文化の違いが両国の関係にどのように影響しているかについても理解を深めます。 さらに、異文化への理解と感受性を高めることで、学生は国際的な文脈においても建設的に関与できる能力を身につけることができます。 本講義はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容の内，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	コースの概要紹介, アメリカ文化の紹介	
第2回	日米関係の歴史的背景 両国関係の形成に影響を与えた主要な出来事と条約	
第3回	Part 1 日本とアメリカの文化的価値観の比較 外交関係に及ぼす文化的相違の影響 文化交流プログラムの事例研究と影響（例：JET Programme; Interac;留学プログラムの背景）	
第4回	Part 2 日本とアメリカの文化的価値観の比較 外交関係に及ぼす文化的相違の影響 文化交流プログラムの事例研究と影響（例：JET Programme; Interac;留学プログラムの背景）	
第5回	Part 1:メディアによる表象 日本とアメリカのお互いに対するメディア表象の検討　（メディア、CM、ユーモアの比較）	
第6回	Part 2: 時代に渡るアート,音楽,エンターテインメントの比較	
第7回	教育制度の違い、大学制度	
第8回	中間試験 ﾚｯｽﾝ 1-7	
第9回	家族の形、宗教の違い、子育ての習慣	
第10回	職場に関する態度の違い、年工場列、労働文化	
第11回	図書館で研究の日、データ収集	
第12回	スポーツの背景	
第13回	学生のプレゼンテーション	
第14回	2回目試験 ﾚｯｽﾝ 9,10,11	
第15回	まとめと討論	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度 グループワークの参加	20	出席状況 出席率：授業への出席率が高いか。 遅刻や早退の頻度：遅刻や早退が少ないか。 集中力 授業中の態度：授業中に集中して取り組んでいるか。 ノートの取り方：授業内容をしっかりとノートに記録しているか 協力姿勢 チームメンバーとの協力：チームメンバーと協力して課題に取り組んでいるか。役割分担の理解と実行：自分の役割を理解し、責任を持って遂行しているか。 貢献度 アイデアの提供：グループの目標達成に向けて有益なアイデアを提供しているか。 タスクの遂行：割り当てられたタスクを期限内に遂行しているか。
中間試験 ﾚｯｽﾝ 1-7	30	理解度の確認;文章の構成と表現：自分の考えを論理的に整理し、明確に表現する能力;授業で学んだ基礎的な知識や概念を正しく理解しているか。
2回目試験 ﾚｯｽﾝ 9,10,11	30	理解度の確認;文章の構成と表現：自分の考えを論理的に整理し、明確に表現する能力;授業で学んだ基礎的な知識や概念を正しく理解しているか。
プレゼンテーション	20	テーマとの整合性 プレゼンの内容がテーマや目的に沿っているか。 論理的な話の流れ 話の流れが論理的で、聴衆にとって理解しやすいか。 資料の適切なボリューム 資料の量が多すぎず少なすぎず、適切であるか。 時間配分 プレゼンが予定された時間内に収まっているか。 プレゼンの内容適切な課題設定 プレゼンで取り上げた課題や問題が適切であるか。 有益な情報の提供 聴衆にとって有益な情報や知識が提供されているか。 声量・声のトーン 声の大きさやトーンが適切で、聴衆に聞き取りやすいか。 話すスピード 話すスピードが適切で、理解しやすいか。 視線の配り方 聴衆に視線を適切に配り、アイコンタクトを取っているか。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	具体的には、歴史的な出来事やメディアが及ぼす影響、経済関係の動向、政治外交の戦略など、幅広いトピックを取り上げています。これらを総合的に理解することで、学生には日米関係の複雑な構造や相互作用が深く認識できるようになります
授業外学修	【授業外学修】 1 予習として プリント記事を読書すること。講義内容に関する疑問点を明らかにしておく。 2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。 3 テクノロジーを使いながらグループワークを参加すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	私は10年以上日本で異文化理解を教えてきた、アメリカの社会科教師免許を持つ研究者です。日米関係史が私の専門分野です。 日米関係の本質を理解することは重要です。この関係は複雑で、時には緊張もありますが、両国の歴史的絆と相互依存関係は深いものがあります。日米両国は、相手国への深い理解と尊重を持ち、外交的な対応力を備えることが不可欠です。このような姿勢を持ち続けることで、建設的な協力関係を築き上げていくことができるはずです
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．講義の内容とテーマを理解できる。	講義の内容とテーマを完全に理解している。	講義の内容とテーマを十分理解している。	講義の内容とテーマを必要とされる程度理解している。	講義の内容とテーマを多少は理解している。	講義の内容とテーマを理解していない。
態度	講義の目標を達成するため、授業内外を問わず努力することができ、授業内容、活動に対して前向きな姿勢を持っている。授業中、教職員および他の学生に対して適切かつ礼儀正しく行動できる。	授業内外を問わず、講義の目標を達成するため常に一貫して努力を続けることができる。教職員および他の学生に対して適切かつ礼儀正しく行動できる。	授業内外を問わず、講義の目標を達成するため努力することができる。教職員および他の学生に対して適切に行動できる。	授業中に、講義の目標を達成するため努力することができる。教職員および他の学生に対して適切に行動できる。	講義の目標を達成するために必要な最低限の努力のみをしている。教職員および他の学生に対して適切な行動をとることができない。	講義の目標を達成するために必要な努力をすることができない。教職員および他の学生に対して適切な行動をとることができない。

科目名	実践英語Ⅲ			授業番号	LC210	サブタイトル			
教員	佐々木 眞帆美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ビジネスで遭遇する場面を題材にしたテキストを用いて，４技能をバランスよく身につけることを目標とする。相手の発言を理解し，自分の考えを英語で発信するために必要な語彙力・表現力を増強し，基本的な文法事項の定着を図るとともに，様々なアクティビティを通して実践的な英語運用能力の向上を目指す。								
到達目標	1. ビジネスでよく使われる実用的な英文素材を読むことができる。 2. ビジネスに関する簡単な会話を聞き取ることができる。 3. 各ユニットで学んだ語彙・表現を用いて， 様々なビジネス場面で自分の考えを相手に英語で伝えることができる。 4. 各ユニットで学んだ内容を参考にして， 様々なビジネス場面で相手に伝えたいことを英語で表現できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Unit 1 "It's nice to meet you." Introduction 初対面の際の受け答え方法を学ぶ。	
第2回	Unit 2 "What does 'FYI' mean?" Clarifying Meanings わからない言葉の意味を尋ねたり，聞き直したりする方法を学ぶ。	
第3回	Unit 3 "May I speak to Mr. Yoshioka?" Phone Conversation [1] 電話の応対と取り次ぎ方法を学ぶ。	
第4回	Unit 4 "May I take a message?" Phone Conversation [2] 担当者不在の際の電話の応対方法を学ぶ。	
第5回	Unit 5 "I have a headache." Calling in Sick 体調不良・病欠の際の英語表現を学ぶ。	
第6回	Unit 6 "I have appointment at 9:30." Appointments 予定の調整・変更方法を学ぶ。	
第7回	Unit 7 "Would you like something to drink." Making Offers 来客対応の際の英語表現を学ぶ。	
第8回	Unit 8 "Let's go out for a drink." Invitation 食事などへの誘い方，誘われたときの返答に関する英語表現を学ぶ。	
第9回	Unit 9 "How was your weekend?" Small Talk 英語特有のスモールトークについて学ぶ。	
第10回	Unit 10 "The sales department is on the 3rd floor." Location 場所を尋ねたり，案内する際の英語表現を学ぶ。	
第11回	Unit 11 "Turn right on Main Street." Direction 道順を尋ねたり，説明したりする際の英語表現を学ぶ。	
第12回	Unit 12 "First, press the Start button." Instructions オフィス機器などの使い方を説明する表現を学ぶ	
第13回	Unit 13 "I'd like to check in." Checking in at a Hotel ホテルでのチェックインの際の英語表現を学ぶ。	
第14回	Unit 14 "I'm looking for a souvenir." Shopping ショッピングの際の英語表現を学ぶ。	
第15回	Unit 15 "What would you like to have?" Eating out レストランでの注文や支払いの際の英語表現を学ぶ。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	積極的な受講態度を評価する。
レポート	30	リーディングの理解度とライティングスキルを評価する。なお，課題はコメントを記入して返却する。
小テスト	50	ビジネスに関連する語彙・表現の理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。 2．復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
First Steps to Office English	Tae Kudo	Cengage Learning	978-4-86312-180-5	2，300円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	・英和辞書を持参すること
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	一般企業にて貿易業務に従事した経験（２年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	貿易業務に従事した経験（２年）から，海外の企業とのメールや電話での対応，英語の敬語表現など，実践力が身につくよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ビジネスに関する英語の語彙や英語表現を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、応用して自由に使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	ビジネスに関する語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2．様々なビジネス文書のフォーマットを理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、目的や内容に合わせて自ら英語のビジネス文書を作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、テンプレートを参考にしながら内容を変えて作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を大まかには理解しているが、細かい点で理解できていない箇所がある。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解していない。
知識・理解	3．日本とアメリカのビジネス文化の相違を理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、各国の文化的・歴史的背景や価値観等と関連付けながら理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、授業で扱った以上の内容を理解している。	授業で扱った日本とアメリカのビジネス文化の相違をよく理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して違いがあることを認識しているが、具体的な事象については理解できていない。	日本とアメリカのビジネス文化に相違があることを理解していない。
技能	1．様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用し、様々なビジネスの場面でTPOに合わせた表現を用いて相手に伝えたいことを英語で自由に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用し、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、多少のミスがありつつも相手に伝えたい内容を英語で伝えることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を使用して英語で相手に伝えたい内容を伝えようとしているが、ミスが多く内容を伝えることができない。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができない。
技能	2．ビジネスでよく使われる実用的な英文を読むことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、自分の言葉で説明し、自らの意見を持つことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、それを自分の言葉で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、ビジネスに関する英文を理解することが難しい。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、ビジネスに関する英文を理解できない。
技能	3．ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項をしっかりと理解しており、ビジネスに関する会話を聞きとり、詳細な内容まで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞きとり、大体の内容を理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞きとることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を参考にしながらビジネスに関する会話を聞き内容を推測することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しておらず、ビジネスに関する会話の内容を理解することができない。

科目名	実践英語Ⅳ			授業番号	LC211	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本講義は「実践英語III」の応用編である。「実践英語III」に引き続き， ビジネスの世界を疑似体験しながら４技能をバランスよく身につけることを目標とする。相手の発言を理解し， 自分の考えを英語で発信するために必要な語彙力・表現力を増強し， 基本的な文法事項の定着を図るとともに， 様々なアクティビティを通して実践的な英語運用能力の向上を目指す。								
到達目標	１．ビジネスでよく使われる実用的な英文素材を読むことができる。 ２．ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。 ３．各ユニットで学んだ語彙・表現を用いて，様々なビジネス場面で自分の考えを相手に英語で伝えることができる。 ４．各ユニットで学んだ内容を参考にして，様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション / Unit 1 Introductions 初対面の挨拶や仕事内容の説明に役立つ表現を学ぶ	
第2回	Unit 2 Telephone Calls 電話の応答や伝言の受け方を学ぶ	
第3回	Unit 3 Making an Inquiry 製品や金額に関する問い合わせ方法や対応について学ぶ	
第4回	Unit 4 Making an Appointment 約束のとりつけや原稿に関する表現を学ぶ	
第5回	Unit 5 Receiving a Visitor 受付での来客対応や空港などでの出迎えに役立つ表現を学ぶ	
第6回	Unit 6 Invitations 接待に役立つ表現やスモールトークを学ぶ	
第7回	Unit 7 Presentations 1 プレゼンテーションを始める際の挨拶や概要説明の表現を学ぶ	
第8回	Unit 8 Presentations 2 プレゼンテーションで新製品を紹介する際に役立つ表現を学ぶ	
第9回	Unit 9 Presentations 3 プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答について学ぶ	
第10回	Unit 10 Online Meetings ビデオ会議で役立つ表現と意見を伝える方法について学ぶ	
第11回	Unit 11 Negotiations 価格交渉や支払い条件の確認などに必要な表現を学ぶ	
第12回	Unit 12 Placing an Order 商品の発注や発注内容の変更などに必要な表現を学ぶ	
第13回	Unit 13 Making a Complaint 1 発注商品のトラブルに関するクレームについて学ぶ	
第14回	Unit 14 Making a Complaint 2 請求書や支払いのトラブルに関するクレームについて学ぶ	
第15回	Unit 15 Completing a Project / 第１～15回のまとめ 業務完了時の確認や協力者への謝意の伝え方を学ぶ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。
レポート	30	リーディングの理解度とライティングスキルを評価する。なお，課題はコメントを記入して返却する。
小テスト	50	既習事項について語彙や表現，文法項目などの理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	・予習を前提として進めていので，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。
受講の心得	
授業外学修	1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べておくこと。また，練習問題も解いておくこと。 2．復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Successful Office English	Tae Kudo	Cengage Learning	978-4-86312-343-4	2，300円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	一般企業にて貿易業務に従事した経験（２年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	貿易業務に従事した経験（２年）から，海外の企業とのメールや電話での対応，英語の敬語表現など，実践力が身につくよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ビジネスに関する英語の語彙や英語表現を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、応用して自由に使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	ビジネスに関する語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2．様々なビジネス文書のフォーマットを理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、目的や内容に合わせて自ら英語のビジネス文書を作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、テンプレートを参考にしながら内容を変えて作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を大まかには理解しているが、細かい点で理解できていない箇所がある。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解していない。
知識・理解	3．日本とアメリカのビジネス文化の相違を理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、各国の文化的・歴史的背景や価値観等と関連付けながら理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、授業で扱った以上の内容を理解している。	授業で扱った日本とアメリカのビジネス文化の相違をよく理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して違いがあることを認識しているが、具体的な事象については理解できていない。	日本とアメリカのビジネス文化に相違があることを理解していない。
技能	1．様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用し、様々なビジネスの場面でTPOに合わせた表現を用いて相手に伝えたいことを英語で自由に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用し、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、多少のミスがありつつも相手に伝えたい内容を英語で伝えることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を使用して英語で相手に伝えたい内容を伝えようとしているが、ミスが多く内容を伝えることができない。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができない。
技能	2．ビジネスでよく使われる実用的な英文を読むことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、自分の言葉で説明し、自らの意見を持つことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、それを自分の言葉で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、ビジネスに関する英文を理解することが難しい。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、ビジネスに関する英文を理解できない。
技能	3．ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項をしっかりと理解しており、ビジネスに関する会話を聞きとり、詳細な内容まで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞きとり、大体の内容を理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞きとることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を参考にしながらビジネスに関する会話を聞き内容を推測することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しておらず、ビジネスに関する会話の内容を理解することができない。

科目名	日本の文学			授業番号	LC212	サブタイトル	文学作品の読みの方法と実践		
教員	野口 尚志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業の前半（第1回～第5回)では，文学作品の読み方を確認していく。後半（第6回～第15回)では，近代の文学作品を取り上げ，前半で学んだことを用いて実際にそれらを読解していく。授業は講読・講義・討論を適宜交えながら進める。								
到達目標	作品の文体や構造を分析し，時代背景も考慮しつつ読解することで，日本文学に対して深く理解することを目指す。また，自身の考え方・主張を持ち，作品を批評できるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス・文学作品の読み方の例 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」	
第2回	読解の方法①二項対立を見つける 志賀直哉「小僧の神様」	
第3回	読解の方法②テクストの空白を読む 夢野久作「瓶詰地獄」	
第4回	読解の方法③語り手と語り方を見分ける 太宰治「葉桜と魔笛」	
第5回	読解の方法④時代背景と作品の関連から論じる 中島敦「文字禍」	
第6回	読みの実践①谷崎潤一郎「刺青」ー作品世界のルールと二項対立の反転に注目する	
第7回	読みの実践②葉山嘉樹「淫売婦」ー主人公の変化に注目する	
第8回	読みの実践③太宰治「畜犬談」ー他者に託して表現された「私」を読み取る	
第9回	読みの実践④平林たい子「盲中国兵」ー作品の奥行きを読み取る	
第10回	読みの実践⑤大江健三郎「人間の羊」ー寓意と歴史を読み取る	
第11回	読みの実践⑥村上春樹「かえるくん、東京を救う」ー細部から全体を意味づける	
第12回	読みの実践⑦綿矢りさ「蹴」ー人間の関係性を意味づける	
第13回	学生による読みの実践ー小論文のまとめ方指導と準備	
第14回	学生による読みの実践ー小論文の執筆と提出	
第15回	小論文の講評と全体のふりかえり	
授業計画 備考2	授業内の議論の深まりによっては，読む作品を減らしたり入れ替えるたりすることがある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
①事前学習として読解準備シートへの記入	25	意欲的な予習の状況を評価する。コメントをつけて返却する。
②授業ごとのコメントシート	25	受講後に提出。読解準備シートの段階と比較し，見解の変化・深まりを評価する。コメントをつけて返却する。
③レポート（小論文）	50	講義で扱った作品から一つを選び，学んだ読解の方法を活かして作品を分析する。最終授業時に返却し，できるだけ多くの提出レポートに触れながら全体を講評する。

評価の方法：自由記載	授業当日に①を記入することはできない（事前学習を評価するため）。 授業を受けずに②を提出することはできない（①と比較して講義を経た読解の深まりを評価するため）。 よって授業を欠席すると①②の評価が不可能となり，成績にその分の点数が加算できなくなるので注意すること。
受講の心得	わからないところは積極的に尋ねてほしい。質問は随時受け付ける。 電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。
授業外学修	1.授業で扱う作品を通読する。作品が提示する問題を捉えながら読むこと。通読せずに授業に出席しても授業の内容は理解できない。2.読解準備シートに記入する。この作業には、わからない言葉をすべて辞書で調べることや，授業時に作品のあらすじや内容について説明できるように自分の見解を準備すること等が含まれる。3.授業後に講義を受けたうえでの新たな見解を加えてコメントシートに記入し，提出する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは授業で配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業内で適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文学作品の読みの方法を理解する	文学作品の読みの方法を複数理解している	文学作品の読みの方法を一つ以上理解している	文学作品の読みの方法にどのようなものがあるかを理解している	文学作品の読みの方法への理解が十分でない	文学作品の読みの方法を理解していない
知識・理解	2．作品の時代背景を理解する	時代背景と作品を結び付けて作品内容を説明できる	時代背景と作品の関連を指摘できる	作品の成立した時代を特徴と共に指摘できる	作品の成立した時代を指摘できる	作品の成立した時代を理解していない
思考・問題解決能力	1．文学作品の文体や構造を指摘できる	文学作品の文体や構造を自力で指摘できる	文体や構造を教員の指摘を受けながら示すことができる	文体や構造にどのようなものがあるかを理解している	文体や構造への理解が不十分である	文体や構造を理解していない
思考・問題解決能力	2．作品内容を批評的に論じることができる	授業で学んだ読みの方法を複数利用して作品を分析し、序論・本論・結論の形式でレポート（小論文）にまとめている	授業で学んだ読みの方法を利用して作品を分析し、序論・本論・結論の形式でレポート（小論文）にまとめている	作品への見解を序論・本論・結論の形式でレポート（小論文）にまとめている	作品への見解が書かれているが、序論・本論・結論ではない形式でレポート（小論文）にまとめている	作品への見解が十分に表現できておらず、序論・本論・結論ではない形式でレポート（小論文）にまとめている
態度	1．作品についての下調べをする	事前学習のための読解準備シートの項目をすべて詳細に記入し、作品についての見解を提示している	読解準備シートのすべての項目を記入している	読解準備シートの大部分の項目を記入している	読解準備シートの半分以上の項目を記入していない	読解準備シートを記入していない。または提出していない
態度	2．作品についての見解を深める	準備シートの見解に加えて、講義を通じて自力で得た考察がコメントシートに記入されている	準備シートの見解に加えて、講義で教員が示した考察がコメントシートに記入されている	コメントシートに講義を理解したコメントが記入されている	コメントシートに講義への理解が不十分なコメントが記入されている	コメントシートを記入していない。または提出していない

科目名	現代環境論			授業番号	LC213	サブタイトル	現代の身近な環境を「実感」する		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から，現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて，現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。								
到達目標	「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点をおき，環境問題という現代的，社会的な課題に対して地球的な視野で考え，自らの問題として捉え，身近なところから取り組むことができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞と＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	授業概要の説明，環境に関する基礎講座I 地球温暖化等、今世界が直面している様々な環境問題について学修することについて理解する。	
第2回	環境に関する基礎講座II 喫緊の課題である「カーボンニュートラル」の各国の取り組みについて理解する。	
第3回	地球温暖化について 地球温暖化のしくみについて実際に実験を通して理解する。	
第4回	吉備の中山フィールドワーク(ドングリとイノシシに学ぶ?!) 吉備の中山でのフィールドワークを通して，身近な環境問題を実感する。	
第5回	中国学園近辺の用水の水は大丈夫か？ 中国学園近辺の水質検査と用水の清掃活動を通して，身近な水の環境問題について理解を深める。	
第6回	SDGs（エス・ディー・ジーズ）って何だ? SDGsの17の目標を理解し，自分たちでできる具体的な取組みについて考える。	
第7回	中国学園近辺に降る雨は大丈夫か？ 酸性雨のできる仕組みについて理解し，大気汚染と酸性雨にの関係について学修する。	
第8回	発電と節電について 火力発電，原子力発電等様々な発電の仕組みを理解し、CO2削減のための節電について学修する。	
第9回	「シーベルト」「ベクレル」って何だ？ 放射能についての正しい知識を中国学園の放射線量測定から学ぶ	
第10回	循環型社会へ向けて 環境問題と国際的な取り組みについて理解を深める。	
第11回	環境問題解決のための新技術I 脱化石エネルギー，リサイクルなど環境問題解決の取り組みを理解する。	
第12回	環境問題解決のための新技術II 水素エネルギーや燃料電池他，太陽光発電など環境問題解決のための新技術にについて理解する。	
第13回	太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを！(再生可能エネルギーの実践を通して) 太陽光発電について実際の発電装置を稼働してイルミネーションを点灯させることを試み，太陽光発電についての理解を深める。	
第14回	環境問題について特別講義 環境についての専門家を招聘して，環境問題の理解を深める。	
第15回	まとめ 環境問題について討論会を実施し，自分の考えを発表し環境問題の理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，グループワーク等への参加度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	野外学修等の後はレポートを提出してもらう。何に気づき，何を得たのかなど，書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は，その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。
小テスト	20	小テストを実施し，個々の内容について理解度を評価する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は，野外学修も行うため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。野外学修等の後はレポートを提出してもらう。レポートはコメントをつけて返却する。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。なお，学修のための情報提供をclassroomで行うので，よく見ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．環境問題という現代的，社会的な課題の理解	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について十分に理解し、この環境問題をどのように解決していくかその対策についてもよく理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について概ね理解し、この環境問題をどのように解決していくかその対策についても概ね理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について普通に理解し、この環境問題をどのように解決していくかその対策についても理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について理解が不十分であり、この環境問題をどのように解決していくかの理解も不十分である。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について全く理解できておらず、この環境問題をどのように解決していくかについても説明できない。
思考・問題解決能力	1．環境問題を地球的な視野で考え，自らの問題として捉え，身近なところから環境問題を改善することができる。	環境問題を十分自らの問題ととらえており、どのようにして環境問題に取り組んでいくか、他の事例をあげながら(自分がする意識はやや薄い)詳しく説明することができる。	環境問題を十分自らの問題ととらえており、どのようにして環境問題に取り組んでいくか、他の事例をあげながら(自分がする意識はやや薄い)詳しく説明することができる。	環境問題を普通に自らの問題ととらえているが、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについては、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	環境問題を自らの問題ととらえていることはやや不十分であり、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについても、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	環境問題を自らの問題ととらえていることは全くなく、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについても、全く自分から進んで実践する態度は見受けられない。
態度	1．提出物	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。
態度	2．授業で行う環境美化活動	川の清掃などの授業で実施する活動に自分でやり方を工夫して積極的に参加することができる。	川の清掃などの授業で実施する活動に積極的に参加することができる。	川の清掃などの授業で実施する活動に普通に参加することができる。	川の清掃などの授業で実施する活動の参加は不十分。	川の清掃などの授業で実施する活動の参加は全くない。

科目名	日本語教育概論			授業番号	LC214	サブタイトル			
教員	岡本　輝彦								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	日本語教育とは何か，また，教師に求められるものは何かについて学習するとともに，日本語教育の基礎的な知識や現状，問題点に関して包括的な講義を行う。								
到達目標	1．日本語教育とは何かを把握することできる。 2．日本語教員の役割を理解することができる。 3．日本語教育を取り巻く国内外の現状，問題点を見つけ出すことできる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	日本語教育とは何か。 在住外国人が増加し,日本語教育が重視されるようになった背景について事例を挙げながらわかりやすく説明する。日本語教育の多様性にも触れる。	
第2回	国語と日本語 学校教育における国語は主に日本人に対する科目を示すとき使われる言葉であるのに対して日本語は一般に外国人に対して使われる言葉であることを詳しく説明する。	
第3回	国内における日本語教育の現状と問題点 日本国内において在住外国人の増加とともに日本語教育が行われるようになったが,その歴史的変遷を理解するとともに文化庁の資料 を使用し,現状と問題点を考察する。	
第4回	海外における日本語教育の現状と問題点 国際交流基金の資料を使用しながら海外における日本語教育の現状を示すとともに,国と地域の日本語教育に対する施策にも触れる。	
第5回	日本語教師という仕事 日本語教育は漢字圏・非漢字圏,学習者,ニーズなどの多様性を有しているが,日本語教師としての心構えを考える。	
第6回	日本語教師の役割(1) 外国人に日本語を教える場合に日本語教師として何に注目しなければならないかについて考える。	
第7回	日本語教師の役割(2) 外国人に日本語を教える場合に日本語教師として何に注意しなければならないかについて考える。	
第8回	日本語学習者の活動(1) 外国人日本語学習者は日本語をどのように習得していくのかを「獲得」と「学習」という観点から見ていく。	
第9回	日本語学習者の活動(2) 日本語教師は日本語をどのようにして,またどのような内容を教えるのかを考える。	
第10回	日本語教育に期待されるもの(1) 外国人学習者が日本国内で日本語を学習する際に何を期待するかを考える。	
第11回	日本語教育に期待されるもの(2) 外国人学習者が自国で日本語を学習する際に日本国内で期待されるものとは異なるが、その相違点を考える。	
第12回	日本語教師に必要とされる能力(1) 日本語教師に求められる能力として文化庁国語課が示している日本語教員に必要な能力を説明する。	
第13回	日本語教師に必要とされる能力(2) 日本語教師に求められる能力として文化庁国語課が示している日本語教員に必要な能力を説明する。	
第14回	登録日本語教員とは何か。 文化庁国語課を推し進めている国家資格「登録日本語教員」とは何かを説明する。	
第15回	認定日本語教育機関とは何か. 文化庁国語課が認定する「認定日本語教育機関」とは何かを説明する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	講義の積極的な参加度によって評価する。
小テスト	60	日本語教育に関する概要を理解し,自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。 小テストはコメントを加え、返却した後に全員で再確認する。
ディスカッション	20	デスカッションにおける発言回数,論理的な発言,質疑に対する回答が適切であったかどうかで評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この講義ではディスカッション等を行うので積極的に参加すること。
授業外学修	1.授業計画で示されたテーマを予習しておくこと。 2.講義で学んだ学習内容を再確認するとともに整理しておくこと。 3.ディスカッションに備えて自分の考えをまとめておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリントを配布する予定

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	1．高見澤孟，ハント孫山裕子他（2004）『新・はじめての日本語教育１』，アスク 2．坂本勝信，手嶋千佳（2017）『日本語教育への道しるべ 第２巻』，凡人社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員（8年）,日本語教育研究所研究員（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教育機関（8年）での経験から,外国人に対して日本語を指導する技能を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本語教育とは何かを理解するとともに、その難しさを知ることができる。また、日本語教員の役割を理解し、自分の意見を表すことができる。	日本語教育とは何かを理解することができ、その難しさを知ることができる。また、日本語教員の役割を理解することができ、自分の意見を表すことができる。	日本語教育とは何かを理解することができ、その難しさを知ることができる。また、日本語教員の役割を理解することができるが、自分の意見を表すことができない。	日本語教育とは何かを理解することができ、その難しさを知ることができない。また、日本語教員の役割を理解することができ、自分の意見を表すことができない。	日本語教育とは何かを理解することができ、その難しさを知ることができない。また、日本語教員の役割を理解することができず、自分の意見を表すこともできない。	日本語教育とは何かを理解することができず、その難しさを知ることができない。また、日本語教員の役割を理解することができず、自分の意見を表すことができない。
思考・問題解決能力	日本語教育の動向を理解することができ、国内外の情勢を把握することができる。また、日本語教育の問題点を見つけ出し、解決法を模索することができる。	日本語教育の動向を理解することができ、国内外の情勢を把握することができる。また、日本語教育の問題点を見つけ出し、解決法を模索することができる。	日本語教育の動向を理解することができ、国内外の情勢を把握することができる。また、日本語教育の問題点を見つけ出せるが、解決法を模索することができない。	日本語教育の動向を理解することができ、国内外の情勢を把握することができる。また、日本語教育の問題点を見つけ出せず、解決法を模索することができない。	日本語教育の動向を理解することができ、国内外の情勢を把握することができない。また、日本語教育の問題点を見つけ出しせず、解決法を模索することができない。	日本語教育の動向を理解することができない。国内外の情勢を把握することができない。また、日本語教育の問題点を見つけ出しせず、解決法を模索することができない。

科目名	日本語教授法			授業番号	LC215	サブタイトル			
教員	岡本　輝彦								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	日本語を教えるとはどういうことなのか,教師に求められるものは何かについて説明し,指導法の基礎を身につけることを目標とする。								
到達目標	1.国語教育と日本語教育に対して正しく理解することができる。 2.外国人に対する日本語の教え方の基礎を理解することができる。 3.外国人に対する日本語教育における教室活動の方法を理解することができる。 4.日本語参照枠を正しく理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	日本語を教えるとは 日本語教育において誰に,何を,どのようにを教えるのかを理解する。	
第2回	国語教育と日本語教育 学校教育における国語教育と外国人学習者に対する日本語教育は異なる教育であることを学ぶ。	
第3回	世界の言語から見た日本語 ほかの言語と対比しながら日本語の特徴を探るとともに日本語を教える際に どのように役立てていかを考える。	
第4回	音声・音韻 日本語の音の発声,意味の弁別するための音のパターンである音韻の構造を理解し,どのように役立てるかを学ぶ。	
第5回	語彙（１） 日本語の語彙体系を理解するとともに,理解語彙・使用語彙,基礎語彙・基本語彙などの違いを理解する。	
第6回	語彙（２） 日本語の語の種類,漢字,表記について理解するとともに、語の意味概念にも触れる。その上で外国人日本語学習者が学ぶべき語彙を学ぶ。	
第7回	文法・文型（１） 日本語教育で使用される文型や機能語について説明する。また,国語教育で使用されている文法ではなく,日本語教育文法にも学ぶ。	
第8回	文法・文型（２） 日本語のテンス・アスペクト,ヴォイス,モダリティなどを扱い,日本語教育にどのように役立てるかを学ぶ。	
第9回	いろいろな教授法(1) 伝統的な教授法を示すとともに,その利点と欠点を知る。	
第10回	いろいろな教授法(2) 1980年代に開発された教授法を示すとともに,その利点と欠点を知る。また,現在日本語教育機関ではどのような教授法が使われているかを学ぶ。	
第11回	日本語教育の方法 日本語教育現場では何を中心に日本語を教えているかを学ぶ。実際に教室作業ではどのようなことが行われているかを知る。	
第12回	コースデザイン(1) コースデザインとは何かを理解する。コースデザインは日本語コース全体の計画を立てることであるが,その考え方を学ぶ。	
第13回	コースデザイン(2) コースデザインの考え方については前回学んだが,今回はコースデザインの事例を紹介しながらその実際を考える。	
第14回	カリキュラムデザイン 日本語コースではニーズに沿うように到達目標が設定された上でシラバスが決定され,教授法や教材が選択されることになるが,どのようにカリキュラムを作成するかを学ぶ。	
第15回	日本語教育参照枠 これから認定日本語教育機関では日本語教育参照枠という指標に基づいて日本語教育が行われるように文部科学省・文化庁国語課が規定しているが,日本語教育参照枠はCEFRをもとに作成されているため,CEFRの考え方を学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み/態度	20	講義に対する積極性によって評価する。
小テスト	60	教授法に関する理解度によって評価する。 小テストはコメントを加え,返却した後に,全員で内容を再確認する。
口頭発表	20	口頭発表がテーマに沿った内容であったかどうか、質疑応答に対応できたかどうかで評価する。 口頭発表終了後に,コメントを加え,再確認する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1.授業計画に基づく事項に関して事前にテキストを読んだり,調べたりしておくこと。 2.グループワークを行うこともあるが,その際には互いに協力し積極的に発言すること。
授業外学修	1.授業計画で示されているテーマに関する書籍を読んでおくこと。 2.次回の講義までに自分の考えをまとめておくこと。 3.口頭発表の準備をしておくこと。 4.毎回,課題を与えるので調べて答えられるようにしておくこと。 以上の内容を,週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	1.鎌田修,川口義一,鈴木睦(1996)『日本語教授法ワークショップ』,凡人社 2.日本語教育学会(1995)『タスク 日本語教授法』,凡人社 3.国際交流基金(2007)『教師の役割/コースデザイン』,ひつじ書房
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	日本語教員（８年）,日本語教育研究所研究員（２年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教育機関（８年）での経験から外国人に対して日本語を指導する技能を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	国語教育と日本語教育を正しく理解することができるとともに、外国人に対する日本語の教え方の基礎を身につけることができる。	国語教育と日本語教育を正しく理解することができるとともに、外国人に対する日本語の教え方の基礎を身につけることができる。	国語教育と日本語教育を正しく理解することができるとともに、外国人に対する日本語の教え方の基礎を多少身につけることができる。	国語教育と日本語教育を正しく理解することができるとともに、外国人に対する日本語の教え方の基礎を少ししか身につけることができない。	国語教育と日本語教育をあまり理解することができず、外国人に対する日本語の教え方の基礎を身につけることができない。	国語教育と日本語教育をあまり理解することができず、外国人に対する日本語の教え方の基礎も身につけることができない。
思考・問題解決能力	日本語参照枠を理解することができるとともに、外国人に日本語を教える際にどのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握し、改善法を考えることができる。	日本語参照枠を理解することができるとともに、外国人に日本語を教える際にどのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握し、改善法を考えることができる。	日本語参照枠を理解することができるとともに、外国人に日本語を教える際にどのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握し、あまり改善法を考えることができない。	日本語参照枠を理解することができるとともに、外国人に日本語を教える際にどのように利用するか、その問題点はどこにあるかをあまり把握するかを把握することができず、改善法を考えることができない。	日本語参照枠を理解することができるとともに、外国人に日本語を教える際にどのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握することができず、改善法を考えることができない。	日本語参照枠をあまり理解することができず、また外国人に日本語を教える際にどのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握することできず、改善法も考えることができない。

科目名	経営学特論Ⅰ			授業番号	LC216	サブタイトル			
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	今日の世界経済はネットで繋がれて緊密に一体化し，どこかで発生した問題は瞬時に世界中に波及している。世界各地で起こる紛争や自然災害は弱みのあるところを徹底的に痛めつけており，各国の経済やその連合体である世界経済は，その構成単位ともいうべき個別の企業経営とも緊密に一体化している。つまり，全体経済に関する知識のマクロ経済と個別経済に関する経営学は相互に連関しているのである。本講義では，我々の生活を営むための会社の仕事はどのように成しているのか，身近な会社の組織はどのように形成され，我々の仕事に結びついていくのかを考察する。具体的には経営実践の場である会社の仕組み，組織間関係，生産管理，社員の雇用システム，社員の動機付け，人材育成制度などに関して学習する。								
到達目標	・経営学の基礎理論が理解できるようになる。 ・実際の企業の事例研究を通じて企業の実態がみえる。 ・経営学の基礎理論を超えた会社の仕組みが理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	会社の経営はどんなことか わたしたちと関わる会社，経営のエッセンス，会社の経営に必要なもの，経営資源，管理のリサイクル	
第2回	会社はどのようにして社会に役立つのか 社会に対する会社の役割，会社の行動と経済性原理，市場と意思決定，企業とNPOの違い，企業の社会的責任	
第3回	会社は誰が動かしているのか コーポレート・ガバナンス，会社形態の種類，株式会社の規模分布，所有と経営の分離，物言う株主，社外取締役の導入，執行役員制の導入	
第4回	会社はどのような方針で動いているのか 経営理念，会社の組織的機能，組織の求心力，経営理念の意義，会社の基本方針	
第5回	経営戦略と企業ドメイン 企業のドメイン，企業ミッション，事業の選択，競争戦略，コスト・リーダーシップ，差別化，集中，リーダー，チャレンジャー	
第6回	会社はどんな仕組みで動いているのか 会社組織のかたち，職能別組織，事業部制組織，マトリックス組織，カンパニー制，分社化，企業グループ	
第7回	会社はどのようにしてモノを造るのか 生産管理，会社の社会的責任，コスト・ダウン，テイラー・システム，課業管理，能率向上運動	
第8回	生産管理とアメリカの自動車システム フォード・システム，ベルト・コンベア・システム，少品種大量生産方式，大量生産，規模の経済性，多品種少量生産，生産性と人間性の両立	
第9回	社員は仕事をどのように分担しているのか 組織の仕組み，組織の役割分担，分業，人件費の削減，権限関係を決める，公式を作る，仕事の効率，分業を緩める	
第10回	社員はなぜ働くのか モチベーション，リーダーシップ，労働の意味，職業人生の流れ，動機付けと期待，達成動機，リーダーの行動	
第11回	社員のなぜ組織にとどまろうとするのか 雇用システム，終身雇用，多様化する雇用形態，非正規雇用，フリーター数の高止まり，解雇，長期雇用	
第12回	会社の報酬制度とは 仕事の報酬，賃金の組織レベル，賃金形態，賃金体系と成果主義，年功序列の時代，能力重視の時代	
第13回	会社の人材育成制度 労働力という商品，人材育成，教育訓練，キャリア・デザイン，自律型人材，学習した成長，OJT，OFF-JT	
第14回	会社は海外での経営とは何か 国際経営，グローバル企業，海外直接投資，海外生産，海外日系企業，日本的経営，ハイブリッド工場，グローバル統合	
第15回	会社の会計制度 財務活動，会計活動，貸借対照表，損益計算書の構造，損益分岐点，キャッシュフロー，手元現金	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への態度，出席率，質問の状況，課題の提出を評価する
レポート	30	毎回の講義のまとめをレポートとして提出し，そのレポートを評価する
小テスト	50	キーワードの理解度，授業全体の理解度を２回の小テストを実施して評価する

評価の方法：自由記載	講義の内容をまとめるレポートや小テストを実施するので，講義内容が理解できるように復習を行うこと。
受講の心得	・日常，企業の動向や戦略，経営に関心をもって授業に取り組むこと。 ・関心ある企業関連の新聞や雑誌などに目をとおして，問題意識をもって出席すること。
授業外学修	・ 予習として，教科書の講義内容に相当する部分を事前に読み，疑問点をチェックして来ること。 ・ 復習として，レジュメの内容を再度確認すること。 ・授業で学んだ内容の小テストがあるので，復習を充実にやること。 以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄他編著	有斐閣ブックス	978-4-641-18348-3	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
アドバンスト経営学	片岡信之他編著	中央経済社	978-4-502-67620-8	
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.経営学特論の必要性を認識している 2.経営学の基礎知識を深め，社会との関わりを理解することができる 3.企業の組織構造のあり方によって，競争力の獲得できる構図を理解することができる	経営学特論の必要性をほぼ理解している 企業の組織構造を理解することができる 企業はどのように事業活動し，われわれに商品やサービスを提供できるのかが理解できる	経営学特論の必要性をある程度理解している 企業の組織構造によって，企業業績が変ることが理解できる	基本的に経営学特論を学ぶ意味が理解できる 経営学の基礎概念が理解できる	経営学は理解できているが，具体的な知識は十分ではない 経営学の基礎概念が十分に理解できていない 企業組織のあり方にあまり興味を持っていない	経営学特論の科目を理解していない 経営学の基礎知識の習得にあまり興味を持っていない
思考・問題解決能力	1.企業とわたしたちの社会との関わりを理解している 2.企業の組織はどのように作られ，実行されているかが理解できる 3.日本企業の国際競争力はどのようなものなのかが把握できる	会社の仕組みや組織について十分に理解している 企業の社会との関わりが十分に理解できている 日本企業の問題点を把握し，自分でまとめることができる	企業の組織や企業の役割が理解できる 日本企業の国際競争の源泉が何であるのかが把握できる 自分で企業活動や戦略をの問題点を把握し，議論することができる	企業の組織形態や構造を理解している 企業の競争はどのようなものなのかが理解できる 企業のあり方，社会的責任を理解することができる	具体的な企業形態や組織が理解できていない 企業に関する基礎知識に興味を持っていない	企業に関する概念や言葉の意味が理解できていない 企業の組織構造，人材にあまり興味を持っていない 日本企業，海外企業にあまり興味をもっていない
技能	1.もう少し高度な経営学の内容の知識が修得できる 2.経営学の基礎知識や理論が修得できる 3.日本企業の海外における事業活動が理解できる	経営学の基礎理論と知識を深めることができる 企業で起こっている諸問題の対応策が考えられる 企業の不祥事を把握し，自分でその問題点をまとめることができる	洞察力を持って企業の仕組みや企業の役割が把握できる 企業の組織構造の重要性が理解できる 日本企業の海外展開における長所，短所が理解できる	経営学の基礎知識は修得できる 日本企業の組織構造を理解することができる 日本企業の競争優位はどのようなものなのかが理解できる	経営学の基礎知識はあまり修得できていない 経営学の基礎的な概念や定義が理解できていない 企業の不祥事がなぜ起こっているのかが理解できていない	経営学の基礎知識にあまり関心を持っていない 経営学の内容の理解や文章のまとめができていない 企業と社会との関わり方に関心をもっていない

科目名	企業倫理論			授業番号	LC301	サブタイトル			
教員	大塚 祐一								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この科目は「専門教育科目」の「国際教養基幹科目」に属している。 本講義では，次の2つの問いに対する理解を深めることで社会的存在としての企業の役割や責任を学ぶ。2つの問いとは「企業は社会の中でどのような存在であるべきか」と「現代社会において企業に求める社会的責任とは何か」である。言い換えれば「私たちが生きている現代の社会において，良い企業とはどのような企業であるのか」を共に学び考えること，これが本講義の大きなテーマである。「良い企業とはどのような企業か」と問われると，多くの人は利益をたくさん稼ぐ企業と答えるかもしれない。もちろん誤りではないが，21世紀においては企業の稼ぐ力に加えて，社会的課題や環境問題に誠実に対応する力が備わっていなければ本当に良い企業とは言われなくなってきている。多くの利益を稼ぐ裏で，環境破壊や人権無視，法令違反を繰り返しているとすれば，そのような企業を良い企業とは呼べないだろう。本講義では，具体的な事例や実社会の動向を踏まえながら，上記2つの問いに答えていく。								
到達目標	(1)現代社会の複雑な事象（特に社会問題・ビジネス上の倫理的問題）について理解し，それらが企業の持続的成長に深く関わっていることを説明できるようになる。 (2)現代社会の複雑な事象（特に社会問題・ビジネス上の倫理的問題）に対し，それを自分事として認識する態度が身につく。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「本講義の目的と概要」ガイダンスとして、シラバス内容の確認を中心に本講義の全体像を大まかに掴む。	
第2回	「経済のグローバル化とGood Business」 企業に社会的責任が求められるようになった背景として，経済のグローバル化を取り上げ，本講義の前提となる知識を修得する。	
第3回	「企業不正と企業の社会的責任」 21世紀初頭に相次いで表面化した企業不祥事を取り上げ，企業が社会的責任を果たすことの重要性を再確認する。	
第4回	「コンプライアンス経営」 企業不祥事を防止するための仕組みや体制のあり方を学ぶ。	
第5回	「コーポレートガバナンス(1)会社は誰のものか」 会社は誰のものかの問いを巡る日米の違いを学ぶ。	
第6回	「コーポレートガバナンス(2)企業統治を巡る近年の動向」 企業価値の向上に向けたガバナンス強化の動向（特に2015年以降）を学ぶ。	
第7回	「良い企業を市場から支える仕組み」 どんなに熱心に社会的責任を果たしていたとしても，そうした企業が市場で評価されなければ企業の倫理実践は前には進まない。近年注目されているESG投資の視点から，良い企業が報われる社会になりつつあることを学ぶ。	
第8回	「CSRとしての企業の社会貢献活動」 社会の公器として，企業がいかに社会貢献活動を展開しているのかを学ぶ。	
第9回	「CSV経営(共通価値の創造)」 社会的価値と経済的価値を両立するCSVの理論と実践を学ぶ。	
第10回	「SDGsと企業経営」 規模の大小に関わらず，近年SDGsへの貢献が企業に期待されている。企業はいかにSDGsに向き合っていくべきかを学ぶ。	
第11回	「SDGs時代における企業の脱炭素経営」 脱炭素や気候変動など，一度は耳にしたことのある言葉について理解を深めると同時に，いま企業に求められている環境対応について学ぶ。	
第12回	「ビジネスと人権」 人権課題への対応が急務となる中，事例を交えながら企業の人権責任について学ぶ。	
第13回	「人事・労務とCSR」 ダイバーシティや女性活躍推進など，人事・労務に関わる企業の社会的責任について学ぶ。	
第14回	「企業の存在理由(purpose)を改めて考える」 ここまでの授業内容を振り返りながら，改めて企業の目的・存在理由を再確認する。	
第15回	「全体の振り返りと総括」 授業の重要箇所の振り返りとともに，期末試験に向けた対策講座を実施する。	
授業計画 備考2	毎回の授業で資料を配付する。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	講義への参加度，発言などを評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	「企業倫理」の基本的概念を理解しているかどうか確認する。
その他		

評価の方法：自由記載	授業への取り組み姿勢／態度については，授業内での発言なども考慮に入れるため，能動的な姿勢で参加して欲しい。
受講の心得	企業倫理や企業の社会的責任を理解するには，実社会の動向を広く捉えることが重要となるため，新聞やニュースに触れる機会を主体的に増やしておくこと。
授業外学修	事前学習として，配布資料を事前に読み授業で用いる用語や概念について予習しておくこと（60分程度） 事後学習として，授業で学習した内容（用語，理論，実社会の動向など）について復習し理解を深めること（60分程度）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．CSR（企業の社会的責任）やESG（環境・社会・ガバナンス）など、企業倫理論に関する基本的な言葉について理解している。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、正確に理解し述べることができる。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、ほぼ正確に理解し述べることができる。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、おおむね理解し述べることができる。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、適切に述べることはできないが、自分の言葉ではおおむね表現できる。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、全く理解することができない。
思考・問題解決能力	１．現代社会における倫理的問題や社会問題が、企業の持続的成長に深く関わっていることを理解している。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していることを正確に理解し、これら課題に企業はいかに応えていくべきかを述べることができる。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していることをほぼ正確に理解し、これら課題に企業はいかに応えていくべきかを述べることができる。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していることをおおむね正確に理解し、これら課題に企業はいかに応えていくべきかを述べることができる。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していることを適切に理解・説明することはできないが、自分の言葉ではおおむね表現できる。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していること、そうした動きに対して企業はいかに応えていくべきかについて全く理解できない。
態度	１．現代社会における社会課題を自分事として捉え、積極的に授業に参加できる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が常に見受けられる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が多々見受けられる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が時折見受けられる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が僅かながら見受けられる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が見受けられない。

科目名	経営学特論Ⅱ			授業番号	LC302	サブタイトル			
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	今日企業を取り巻く環境は日々変化し，企業間の競争はますます熾烈になってきている。こうした熾烈な世界競争の中で日本企業の事業活動はどのように形成され，発展してきたのかを考察する。これまでの国際競争で優位になっているアメリカ企業の経営方法や管理システムを検討した上で，現在の日本企業の競争メカニズムを抽出する。どこの企業においてもそれぞれの保有している経営資源を配分し，事業戦略や経営戦略を実践していくのかが最大限の課題である。本講義では，世界競争を根幹をなす企業競争に軸をおいて，実際の企業の国際競争力の現段階の特質や構造を明らかにする。本講義では，前半でアメリカ経営学の経営管理の諸理論を学習する。後半では，これまで国際競争に勝ち抜いてきた日本企業の競争戦略や経営戦略に焦点をあてICT産業，通信産業，半導体産業における競争戦略，経営戦略に焦点を当て，アメリカ企業，東アジア企業との比較からその相違，発展メカニズムを明らかにする。								
到達目標	・経営学の基礎理論が理解できるようになる。 ・実際の企業の事例研究を通じて競争システムが理解できる。 ・海外企業を含む企業の国際競争力の実態が理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	経営学の生成と発展 アメリカの産業化，未熟練工の発生，大量生産，見えざる手	
第2回	科学的管理法と工場管理 テイラーシステム，生産管理，時間研究，課業管理，作業研究	
第3回	フォードシステムとフォーディズム 賃金動機，標準化，移動組立法，大量生産，規模の経済	
第4回	メイヨーと人間関係論 ホーソン実験，面接調査，リレー組立試験室，経済人仮説，社会人仮説，公式組織	
第5回	近代組織論とバーナード革命 経営工学，権限受容説，内部統制，外部適応，意思決定，協同体系，共通目標	
第6回	会社の組織 会社組織の形態，職能別組織，事業部制組織，マトリックス組織，カンパニー制，分社化，企業グループ	
第7回	アメリカのICT企業の競争力 国際分業関係，アウトソーシング，戦略的提携，オフショアリング	
第8回	アメリカICT企業の競争力（２） 国際競争，寡占構造，企業間競争，M&A，価値連鎖	
第9回	アメリカICT企業の事例（アマゾン） クラウドサービス，プライム会員，ネットワークの外部性，物流システム，ビックデータ	
第10回	日本の電子産業の国際競争力 デジタル化，コモディティ化，水平分業，垂直統合モデル	
第11回	韓国モバイル企業の部品調達（三星電子） 内部調達，内製化，R&D投資，スピード，シナジー	
第12回	中国企業の成長の事例（レノボ社） 戦略的資産，M&A，研究開発力，先進技術，技術導入	
第13回	デジタル化とGAFAの競争構造 プラットフォーマー，デジタル多国籍企業，寡占構造，無形資産	
第14回	GAFAの競争構造の事例（グーグル） 検索エンジン，無形資産，ネットワークの外部性，システムの創造	
第15回	世界展開する日本のアパレル産業 現地化，マーケティング戦略，新興国市場，BOP市場	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への態度，出席率，質問の状況，課題の提出を評価する。
レポート	30	講義の内容のまとめをレポートとして提出し，そのレポートを評価する。 提出レポートはコメントを加え，返却する。
小テスト	50	キーワードの理解度，授業全体の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	講義の内容をまとめたレポートや小テストを実施するので，講義内容が理解できるように復習を行うこと。
受講の心得	・日常，企業の動向や戦略，経営に関心をもって授業に取り組むこと。 ・関心ある企業関連の新聞や雑誌などに目をとおして，問題意識をもって出席すること。
授業外学修	・ 予習として，教科書の講義内容に相当する部分を事前に読み，疑問点をチェックして来ること。 ・ 復習として，レジュメの内容を再度確認すること。 ・授業で学んだ内容の小テストがあるので，復習を充実に行うこと。 以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄他編著	有斐閣ブックス	978-4-641-18348-3	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
多国籍企業・グローバル企業と日本経済	夏目啓二編著	新日本出版社	978-4-406-06394-4	
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.経営学の形成と発展の歴史が理解できる 2.現在，最も成長しているアメリカのICT企業の競争構造が理解できる 3.経営学の事例研究を通して企業の成長プロセスが把握できる	アメリカ経営学の形成過程から今日の企業経営の基本が理解できる 企業の組織構造を学ぶことによって，企業の成長メカニズムが理解できる 経営学特論の内容の知識が修得できる	経営学と経済学の違いを理解できる 企業の仕組みや企業形態の内容がほぼ理解できる	基本的に経営学を学ぶ意味を理解している 企業の熾烈な競争構造を把握することができる 経営学の基礎を超えた基本知識が修得できる	経営学特論の科目が理解できていない 具体的な企業の競争構造が理解できていない	経営学特論の科目を理解していない 基本的な概念や意味が理解てきていない 内容の理解や文章のまとめができない
知識・理解	1.企業の歴史をアメリカ経営学の形成から学び，理解することができる 2.海外企業の事例を通じて，国際競争力がどのようなものかを理解できる 3.日本企業と海外企業との競争優位の源泉を探ることができる	アメリカ企業の歴史を通じて，今日の企業の発展は把握できるようになる 海外企業の事例から現在の国際情勢，国際競争が理解できる 経営学の実践を学ぶことから自分の考え方を深めることができる	企業の組織構造を知ることから思考力が培える 国際競争の寡占構造を理解することができる 海外企業の事例を学ぶことからデジタル時代の競争構造が把握できる	経営学の芸念や基礎理論が理解できる 企業の事業活動の中身を理解することができる 日本企業の問題点を発見することができる	経営学の内容や各テーマが理解てきていない 日本企業の海外展開，国際競争にあまり関心を持っていない 企業の役割や問題点に関して理解できていない	経営学の基礎理論や概念に興味を持っていない 日本企業の国際競争力にあまり興味を持っていない 企業と社会との関わり方を理解していない
技能	1.経営学の歴史から企業経営の実態を把握することができる 2.海外企業の事例を通して，日本企業の差別化戦略を把握することができる 3.日本企業の競争の源泉である技術力，品質がどのようなものかを理解できる	アメリカ経営学の歴史を学ぶことから今の企業の現状を把握することができる 海外企業の事例を学ぶことから，企業経営の問題点を抽出することができる 日本企業の問題点を把握し，自分でその問題点をまとめる力が培える	企業組織の内容を理解している 日本企業の問題点がほぼ把握できる 海外企業の事例を学ぶことで，国際競争力の意味，現状が理解できる	日本企業と海外企業との競争構造を理解することができる 海外企業の事例を通して戦略の違いを十分も理解している 現在の日本企業の置かれている現状が把握できる	日本企業や海外企業に興味を持っていない 経営学の歴史，理論に興味を持っていない 企業の事業活動，基礎知識が理解できていない	日本企業の事業活動に関心を持っていない 経営学の歴史を学ぶ意味を理解していない 企業とわれわれ社会との関わりが理解できていない

科目名	情報処理 I			授業番号	LD101	サブタイトル			
教員	赤木 竜也								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。	
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データの扱いについて学習する。	
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。	
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。	
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。	
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。	
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。	
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。	
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。	
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。	
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。	
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。	
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。	
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。	
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。
定期試験	70	習熟達成度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスターWord&Excel2021（Windows11対応）	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．データの特性について理解している	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに，適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	２．ビジネス文書について理解している	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し，時候の挨拶を適切に扱うことができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	３．表計算ソフトの関数および演算について理解している	絶対参照・相対参照の違いを理解し，正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用、演算し，わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり，関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず，また正しく演算することができない。
知識・理解	４．グラフの特性について理解している	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し，またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し，グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが，グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	１．正しくデータ入力をすることができる	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	２．ソフトウェアを操作することができる	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	情報処理Ⅱ			授業番号	LD102	サブタイトル			
教員	赤木　竜也								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および前期科目「情報処理Ⅰ」を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の発展的内容ついて学修する。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの応用的技術を学び，情報に応じてより高度な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ビジネス文書の基礎知識 基本的なビジネス文書の構成とその作成方法について学習する。	
第2回	表の編集とリスト より高度な作表とリストの作成方法について学習する。	
第3回	グラフィック要素の挿入・取り扱いと文書の管理 グラフィック要素の種類とその作成・編集方法および文書の機能について学習する。	
第4回	他のデータの利用 他のアプリケーションデータの取り込み方法について学習する。	
第5回	文書の書式・レイアウトおよびデータのインポート ページレイアウトおよび図形の配置，外部テキストデータの取り込み方法について学習する。	
第6回	表の作成と編集 基本的な表の作成と編集および複数シートの連携について学習する。	
第7回	関数(1) カウント，条件処理関数について学習する。	
第8回	関数(2) 文字列操作関数について学習する。	
第9回	グラフ グラフの作成や変更，書式設定などグラフ機能について学習する。	
第10回	データベース機能の利用 データベースの基礎知識とテーブル機能について学習する。	
第11回	ブック内の移動と表示のカスタマイズ ブック内の効率的な移動や表示のカスタマイズについて学習する。	
第12回	共同作業のための設定方法 印刷や共同作業のための設定方法について学習する。	
第13回	インポートとデータの視覚化 別ファイルからのインポートとわかりやすい表の作成方法について学習する。	
第14回	クロス集計 ピボットテーブルについて学習する。	
第15回	別表の参照とエラー回避 検索関数とエラー表示の回避方法について学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	50	習熟達成度を評価する 。
その他	30	出題する演習問題について評価する 。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミックWord&Excel2019	杉本くみ子／大澤栄子	実教出版	978-4-407-34834-7	1540
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々な文書の作成方法を理解している	目的に合わせて自在に文書を作成することができる。	図表を用いたビジュアル文書を作成することができる。	レイアウトの整った文書を作成することができる。	レイアウトが崩れていたり，統一性が欠けたりした文書を作成する。	必要な機能を理解しておらず目的の文書を作成することができない。
知識・理解	２．データの特性に基づき表の作成方法を理解している	データの特性を認識した上で適宜関数や集計機能を利用し，わかりやすい表を作成することができる。	関数や集計機能を利用し，わかりやすい表を作成することができる。	関数や集計機能を利用して表を作成し，正しく表示することができる。	関数や集計機能を利用して表を作成することができるが，正しく表示させることができない。また正しく演算することができない。	関数や集計機能の利用がおぼつかない。また正しく演算することができない。
知識・理解	３．外部データの取り込み・編集方法を理解している	外部データの特性を理解するとともに，外部データを作成，取り込み、編集することができる。	外部データに合わせて正しく取り込み編集することができる。	外部データを取り込んで編集することができる。	外部データを取り込むことはできるが，データ型を正しく扱うことができない。	外部データを取り込むことができない。
知識・理解	４．日本語ワープロソフトと表計算ソフトとの連携方法を理解している	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間だけにとどまらず，他のソフトウェアとのデータのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間で最新データのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができるが，レイアウトを正しく表示することができない。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができない。
技能	１．正しくデータ入力をすることができる	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	２．ソフトウェアを操作することができる	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	情報処理Ⅲ			授業番号	LD201	サブタイトル			
教員	赤木　竜也								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および1年次開講科目「情報処理Ⅰ」「情報処理 II 」を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環として表計算ソフトを用いて情報処理の発展的内容ついて学修する。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，表計算ソフトの応用的技術を学び，情報に応じてより高度な表・グラフの作成およびデータの分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	表計算の基礎 基礎的な表計算ソフトの機能について学習する。	
第2回	外部データの取込 他のアプリケーションソフトからのデータ取り込みおよびデータチェック(検索・置換)方法について学習する。	
第3回	データ処理の基礎(1) 数式およびテーブル機能，条件付き書式機能について学習する。	
第4回	データ処理の基礎(2) グラフの種類より効果的なグラフの作成方法について学習する。	
第5回	データ処理の基礎(3) 基本的な関数の利用方法について復習するとともに関数を用いた数値の加工方法について学習する。	
第6回	データ処理の基礎(4) 日付・時刻の扱い(シリアル値)について学習する。	
第7回	データ処理の基礎(5) 文字列操作関数および関数の複合利用について学習する。	
第8回	データ処理の基礎(6) データベース関数および統計関数について学習する。	
第9回	データ処理の応用(1) データ集計およびデータベース処理について学習する。	
第10回	データ処理の応用(2) ピボットテーブルとピボットグラフ機能について学習する。	
第11回	データ処理の応用(3) 作業の自動化(マクロ機能)について学習する。	
第12回	データ処理の応用(4) グラフ機能を利用したデータ分析(ABC分析，単回帰分析)方法について学習する。	
第13回	実践データ処理(1) 関数の複合的利用方法について学習する。	
第14回	実践データ処理(2) 作業グループとさまざまなグラフを用いたデータ分析方法について学習する。	
第15回	実践データ処理(3) 基礎統計処理(クロス集計，相関分析)を用いたデータ分析方法について学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	50	習熟達成度を評価する 。
その他	20	授業中出題する演習問題について評価する 。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック情報活用 Excel2016/2013	飯田慈子・米沢雄介・岡本久仁子	実教出版	978-4-407-34029-7	1650

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．関数を適切に使用することができる	データの特性に合わせて最適な関数を複数組み合わせて利用することができる。	複数の関数を組み合わせて利用することができる。	データの特性に合わせて適切に関数を利用することができる。	データの特性に合わせて適切に関数を利用することができない。	基本的な数種類の関数しか使用することができない。
知識・理解	２．データベースについて理解している	適切なデータベースを作成，集計し，分析することができる	適切なデータベースを作成し，集計することができる	データベースについての基本知識を理解し，作成することができる。	一部不適切なデータベースを作成している。	データベースの基本知識が不足し，作成することができない。
知識・理解	３．データを適切に分析することができる	作成した表やグラフを元に多角的にデータ分析を行うことができる。	作成した表やグラフを元にデータ分析を正しく行うことができる。	作成した表やグラフを元にデータ分析を行うことができる。	作成した表やグラフを元にデータ分析を行うことができない。	データ分析に必要な表やグラフの作成等の前処理をすることができない。
技能	１．正しくデータ入力をすることができる	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	２．ソフトウェアを操作することができる	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	ＩＣＴ応用論			授業番号	LD202	サブタイトル			
教員	久保　博尚								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，近未来社会をできるだけ実感的に知ることを目的に，最新のデジタルテクノロジーであるメタバースを学ぶ。学習効果を高めるため，アニメ作品の原点である『鉄腕アトム』（1951）からメタバース世界をテーマにした映画『レディ・プレイヤー1』（2018）まで，メタバースに関わりのあるメディア表現を積極的に取り上げる。また，テクノロジーが現実社会に与える影響が実感できるように，デジタル機材を用いたテレイグジスタンスの体験実習にも取り組む。これらを通じて，近未来社会とそこで生きる自分の姿がよりリアルに予測できるようにする。								
到達目標	授業を通じて最新のデジタルテクノロジーを実感的に学び，近未来の自分の姿をリアルに思い描けるようにすることが本授業の目標である。この目標を達成するには，授業を通じて得た＜知識・理解＞をもとに，＜思考・問題解決能力＞を高めるための＜技能＞を磨く必要がある。こうした能力は知識のみならず，話を聞く・質問する・調べる・まとめる・表現するといった基本的な学習＜態度＞によって支えられる。これは，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の構成要素そのものである。								
授業計画　備考	授業を受けるにあたり，各自がPC，タブレット端末，スマートフォンのいずれかを保有し（可能な限りPC），Googleアカウントを持つことが必須の要件である。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。各自の端末を操作して授業に参加する必要があるため，PCの持参を強く推奨する。スマートフォンやタブレットでは大きなハンディを背負うことになる。PCはChromebook以上であれば機種を問わないが，可能であればWindowsよりもMacの利用を推奨する。								

回	概要	担当
第1回	仮想現実とは何か？ 授業計画の説明とともに，社会に普及し始めた仮想現実の代表的な例に接し，その実態を理解する。その補助資料として、代表的なソーシャルVRであるclusterの解説動画を視聴する。	
第2回	仮想現実のテクノロジー史（イントロ） 仮想現実の成立にはテクノロジーの発達と文化の成熟が大きく関係している。この回の授業では、テクノロジーの視点から仮想現実研究の歴史を概観する。そのひとつとして，1960年前後に行われたアメリカの研究機関における仮想現実の研究に関する動画を視聴する。	
第3回	仮想現実の文化史（前編） 仮想現実に関係する文化のうち，主に戦後から2000年ごろの出来事を取り上げる。合わせて仮想現実におけるアバターの関係を考える。その題材として，アニメ作品『電脳コイル』の紹介動画を視聴する。	
第4回	仮想現実の文化史（中編） 仮想現実に関係する文化のうち，主に2000年ごろから現在までの出来事を取り上げる。合わせて身体能力の拡張と仮想現実の関係を取り上げる。仮想現実に関する表現手法の具体例として，映画『マトリックス』の特撮がどのように行われたかを取り上げる。	
第5回	仮想現実の文化史（後編） 主に1980年以降のSF映画と仮想現実の関係を考え，映画やアニメの表現が仮想現実と密接に結びついている様子を確認する。具体例として，映画『ブレードランナー』やアニメ作品『寄生獣』を取り上げる。またこの回は，これまでに学んだ仮想現実の特徴整理を行い，内外のアニメや映画が仮想現実，拡張現実，義体，ロボットに分類されることを確認する。	
第6回	なぜ仮想が現実になるのか？ これまでの授業で得た知識をもとに，そもそも「仮想」がなぜ「現実」と言えるのか，仮想現実の本質を考える。このことを通じて「仮想現実とは，見かけは現実ではないが，実質的には現実である」ことを理解する。この理解を補足する資料として，騙し絵，錯覚，ピカソの絵画作品を取り上げる。また，視覚と脳の関係をもとに「見るのは目ではなく脳である」ことを解説する。	
第7回	メタバースを先導する日本の状況 これまでに学んだメタバースと文化の関係を踏まえ，文化の違いがアバターの表現や扱いにどのような影響をもたらしているかその実際を学ぶ。参考題材として，アニメ作品『ドラえもん』を取り上げ，この作品にメタバースの中心概念である仮想現実と拡張現実が巧みに表現されていることを理解する。	
第8回	特別テーマ：アップルのVision Proの本質を探る 仮想現実についての最新事例としてアップルのVision Proをとりあげ，その特徴や実際を動画を使った解説により、その考え方と実際を体感する。とくに，Apple Vison Proが初めて打ち出した「空間コンピュータ」という概念に関わる，VR（仮想現実）とAR（拡張現実）が連続的に混在する世界がどのようなものかを理解する。	
第9回	clusterで「仮想教室」を体験する（準備編） 次回授業で仮想空間内での授業「仮想教室」を体験する。その準備として、代表的なVRゴーグルであるMetaのQuest2を使い，仮想空間に対応した3D映像作品を使って仮想空間を予行的に体験する。また，仮想教室への参加に必要なアカウントの取得や，各自のスマートフォンの設定などの準備作業を行う。	
第10回	Quest2を使って仮想空間を体験する（実習編） 各自のスマートフォンやQuest2を使って，別途準備した「ICT応用論」の仮想教室に入る。仮想空間内の教室では移動，発言，挙手，スライドやビデオの閲覧などを実際に行い，教室外では無限階段を歩く際の身体感覚の変化などを体感する。授業の進度によっては，教室の改造や備品の追加などの仮装体験も行う。	
第11回	空間を超える仮想現実 仮想現実は視覚だけによってもたらされるものではない。この回では、イメージや視覚による仮想現実とは性質の異なる，物理的，身体的性格が強い遠隔制御の基礎を学ぶ。その上で，後のテレイグジスタンス実習の基礎知識として，遠隔制御の仮想化であるテレイグジスタンスの意味と性質を考える。	
第12回	五感と仮想現実 聴覚や視覚など，人間の五感がどのように仮想現実と関係するかを学ぶ。その上で，ビジュアルハプティクス（視覚的力触覚）を体験する。合わせて，目の不自由な人がどのように空間を捉えているかを学ぶ。そのための補足資料として伊藤亜紗『手の倫理』を利用する。	
第13回	テレイグジスタンス実践講座（1） テレイグジスタンスが地理的な距離の制約を超えるための仮想現実であることを理解した上で，VR支援装置に人間が同伴する「同伴型テレイグジスタンス」実習のための準備を行う。より実感的なテレイグジスタンス環境を実現するには，コミュニケーション能力の向上が重要であることを学ぶ。	
第14回	テレイグジスタンス実践講座（2） 実習に利用するテレイグジスタンス装置の説明を行った上で，装置とアプリケーションソフトのセットアップを行う。その後，実際に校内の売店で商品を購入し，図書館では図書を借りる実習を行う。実習の際には，実施者と参加者が遠隔コミュニケーションを行う様子を動画に収録し、後に実習の内容を分析するための資料を得る。	
第15回	テレイグジスタンス実践講座の補足とICT応用論の振り返り 前回授業で撮影した動画を振り返り，分析と評価を行う。後半では，ICT応用論全体の要点整理とディスカッションを通じて，学習した内容の再確認と知識の定着に努める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討論への参加，テレイグジスタンス実習など授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。
レポート，実習の成果	60	授業ページを読み授業のポイントに沿った論述であること，討論内容が反映されていること，自らの意見が論理的にわかりやすく表現されていること。積極的に実習に参加し，関係者とのコミュニケーションに勤めること。これらが評価の基準になる。

評価の方法：自由記載	●成績評価の方法 Googleフォームを利用した選択式と記述式の理解度測定を行う。理解度測定とその評価・共有は授業時間内に行い，時間外の試験や追試は行わない。記述式では，授業を通じて発展した考えについて，思考力・判断力・表現力などを評価する。 ●理解度計測 本授業は選択科目のため，聴講生が多い場合は回答状況のモニタリング方式，少ない場合は回答についての講評方式により，回答の共有とフィードバック，理解度の向上を図る。モニタリングの具体的な方法はICT概論1，2に準じる。 ●成績評価の共有と活用 選択式・記述式ともに，回答の傾向や正解率，考え方の特徴，興味深い意見などをクラスで共有し，授業の改善に役立てる。
受講の心得	ネット上の情報とともに，図書・映画・音楽など各種の情報コミュニケーションに接し・見て・聞いて・感じたことを文章に表現するクセを付けること。
授業外学修	1) 予習として，授業ページに目を通した上で，授業で取り上げる重要キーワードを調べておくこと。 2) 復習として授業ページを再読し，学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。 以上の内容を，週に４時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	市販の図書を利用したいわゆる教科書は使用しない。すべての講義内容は，すべての授業回に対応する形で，文章と図により授業Scrapboxに掲載されているので，講義ならびに予習・復習は授業ページで行うことを原則とする。授業ページは受講生に限り，PC，スマホ，タブレット等によりいつでも学内からに限らず閲覧することができる。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
メタバース進化論――仮想現実の荒野に芽吹く「解放」と「創造」の新世界	バーチャル美少女ねむ	技術評論社	978-4-297-12756-5	1980円

参考書：自由記載	受講する上で上述の参考図書の購読を推奨する。読んでおくことで授業内容が理解しやすくなる。ただし、購読は必須ではなく、教科書として使用するものではない。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システム開発会社の顧問を務めながら，現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに，高校，大学，企業で講演を行っている。2016年頃から2019年の在社期間中は月平均1回として約50回，その後は企業の顧問として年平均3回として約12回，合計8年間で60回を超える講演を行なったものと推計する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として，各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに，学生とともにデジタル技術を活用しながら，近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。本学での実務経験は2023年度末で3年である。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．仮想現実の実感的な理解	仮装現実が「現実ではないが実質的に現実」であることの実感的な理解ができている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	仮想現実が漠然としか理解できない。
知識・理解	２．表現と仮想現実の関係についての理解	日本のアニメの多くが仮想現実と密接に関係することの具体的な理解ができている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	アニメなどの作品とか草原寺の関係が理解できていない。
知識・理解	３．仮想現実について説明できる表現能力	仮想現実を文章表現する基本的な用語の意味が十分に理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	仮想現実がどのようなものか表現できない。
思考・問題解決能力	１．的確な疑問の把握	自主的に的確な疑問を持つことができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	事象についての疑問を持つことができない。
思考・問題解決能力	２．疑問を解く手段の獲得	疑問を解く十分な手段を持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	抱いた疑問を解く方法を知らない。
思考・問題解決能力	３．理解したことの表現手法の獲得	自分で解いた疑問を独自の方法でわかりやすく表現する能力を有している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	自分の思いを表現することがほとんどできない。
技能	１．PC操作の基本能力	ネットやAIから得た情報を文章やグラフ表現に自由に連携できる能力がある。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	PCの基本操作ができない。
技能	２．ソーシャルVRの活用能力	ソーシャルVRが利用できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	ソーシャルVRが未体験。
技能	３．図形や画像などの創作能力	図形や画像などにより必要とする表現ができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	デジタルな方法で図形や絵が表現できない。
態度	１．授業に関心を持つ	講義に耳を傾け、的確な質問をすることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	居眠りをすることが多い。
態度	２．授業中に会話をしない	授業中に私語を交わすことが他人および講師の迷惑なることが理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば私語やおしゃべりをする。
態度	３．欠席をしない	欠席・遅刻なしに授業に参加できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば欠席や遅刻をする。

科目名	ＩＣＴ未来学			授業番号	LD203	サブタイトル			
教員	久保　博尚								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	15回の講義の前半ではICT概論Ⅰ，Ⅱ，ICT応用論で得た知識をベースに，未来を考えるための手掛かりとしてオクスフォード大学のOur World in Dataから過去・現在の社会指標を7つ選び未来を俯瞰するための基礎知識を得る。その上で2045年の未来を予測しその予測される姿をクラス全員で整理する。後半では前半の授業で学んだ視点の応用発展として，代表的な映画6作品を題材に，そこに描かれた未来の特徴と実現可能性を批判的な視点で明らかにする。 なお，本講義の内容は文章と図ですべてScrapbox上の授業ページに記載されている。受講生をすべての内容をPCやスマートフォンで閲覧することができる。 また、本講座の特徴として、第9回から第14回の各回はSF映画を題材とした講義となる。作品を視聴した上で受講する必要があるため、事前に試聴方法などの説明を行う。映画を題材とした6回の講義では受講後にGoogleフォームを通じて各自感想文を提出する。								
到達目標	自然科学と人文科学の双方の立体的な学習を通じて，ICTが社会と深い関わりを持ち，大きな影響をもたらすことを実感的に理解することを目標とする。これによりデジタル時代を生き抜く＜知識＞と＜態度＞を身に付ける。また，これら広範な＜理解＞の向上を通じて，社会人になったときコンピュータを道具として生かすための＜思考・題解決能力＞を養う。これは全体として，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の向上につながるものである。								
授業計画　備考	授業を受けるにあたり全講義を通じて，各自がPC，タブレット端末，スマートフォンのいずれかを保有し（可能な限りPC），Googleアカウントを持つことが必須の要件である。授業ならびにネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。各自の端末を操作して授業に参加する必要があるため，PCの持参を強く推奨する。スマートフォンやタブレットでは大きなハンディを背負うことになる。PCは機種を問わない。また，第9回授業以降はSF映画を題材とした講義を行う。このため，各講義までに課題となる映画の鑑賞を済ませておく必要がある。作品の視聴方法や視聴できるサイト等は別途案内する。								

回	概要	担当
第1回	人は未来をどのように捉えてきたか？ まずはじめに未来を考える基本的な態度として，自然科学と人文科学の二つの視点が重要であることを説明する。その具体例としてタイムマシンが取り上げ，科学と小説の中で時間や時間旅行がどのように扱われてきたかを学ぶ。これにより本講座全体の性格がどのようなものかを理解する。	
第2回	未来を構成する要素（1/6）：テクノロジーの基本的性質 まず最初に，本講座の視点との中心であるテクノロジーの基本的な性質を学ぶ。ここではその構成要素として，「ムーアの法則」「ハイプ・サイクル」「科学研究と特許の動向」「情報量の変質」を取り上げる。	
第3回	未来を構成する要素（2/6）：人工知能とメタバース 未来を大きく左右するテクノロジーの具体例として，人工知能とメタバースを取り上げる。人工知能については，生成系AIが示した突発的な知識の獲得の理由や，言語能力の向上による身体との統合発展の可能性について考察する。また，社会現象としてのメタバースを取り上げ，近未来において人工知能とメタバースが統合する未来へと考察を進める。	
第4回	未来を構成する要素（3/6）：人口と食糧 人工知能とメタバースが影響する未来社会も，人間は食料なしには生きられない。この基本原則を理解するために，未来の人口と食料問題を考える。ここではその背景知識として、経済学者マルサスの『人口論』，化学肥料発明の経緯，先進国で低下し始めた化学肥料の使用量なども合わせて取り上げる。	
第5回	未来を左右する要素（4/6）：資源エネルギー 未来は地球温暖化によってその在り方を変える。その重要な要因となる永源エネルギーについて，ここでは工業化，公害，エネルギー消費量の推移などの動向を整理した上で，未来のエネルギー問題の鍵を握るバッテリーとバッテリー生産に伴う放射性廃棄物問題などを取り上げる。	
第6回	未来を左右する要素（5/6）：経済と生活／暴力と戦争 1970年代に行われた未来予測「成長の限界」を足がかりに，経済が未来の生活にどのように影響するかを考察する。ここでは経済指標であるGDPそのものが抱える問題を通して，GDPでは捉えられない余剰価値や生活満足度の実態を通じて今後の経済社会の姿を考える。また，平和な社会は暴力と戦争と隣り合わせであることから，スティーブン・ピンカーの『暴力の人類史』を取り上げ，暴力・戦争・社会の関わりを概観する。	
第7回	未来を左右する要素（6/6）：地球温暖化 未来社会を左右する決定的な要因である地球温暖化について，温暖化の実態，温暖化のメカニズム，経済と温暖化の関係，「CO2排出量実質ゼロ」の意味を考える。合わせて，温暖化についての冷静な議論を促す資料として，杉山大志『地球温暖化のファクトフルネス』を取り上げる。	
第8回	未来を左右する要素のまとめと未来のシナリオ 15回の講義全体の折り返し点として，これまでの学びから予測される未来の姿を整理する。その手段として，「未来を左右する6つの要素」から抽出した56のトピックを用いたアンケートを実施し，集計した数値をもとに学生個人ならびにクラス全体の未来観を全員で共有する。この集計資料をもとに、グループワークとして未来社会についてのクラス討論を行う。また，議論の参考資料として，BBCが作成したハンス・ロスリングのプレゼン動画『200ヶ国、200年、4分間』を視聴する。 なお，以降のSF映画を題材とした各回の講義では，受講後にGoogleフォームを通じて各自感想文を提出する。各自が執筆した感想文はScrapboxの授業ページに掲載される。	
第9回	映画『タイムマシン』に見る時間旅行の矛盾 ここからは後半のSF映画を通じて未来社会を知る工程に入る。第一回はサイモン・ウェルズ監督の『タイムマシン』を取り上げる。この作品を通じて，自然科学の視点からタイムマシンの実現可能性を考え，人文科学の視点からは当時の時代背景や原作者のH.G.ウェルズが作品に込めた意味を探る。	
第10回	映画『エリジウム』に見る分断の未来社会 映画による未来社会の考察の第2回は，ニール・ブロムカンプ監督の『エリジウム』を取り上げる。この作品には，宇宙に浮かぶスペースコロニー『エリジウム』で暮らす富裕層と地球で暮らす貧困層の分断が描かれている。この未来の姿を題材に宇宙そのものの基礎知識を概観した上で，自然科学の視点からはスペースコロニーの実現可能性や主人公の身体拡張などについて，また人文科学の視点からは分断と貧困の問題へと考察を進める。ここでは，アメリカで進行する都市のスラム化の実態も取り上げる。	
第11回	映画『マイノリティ・リポート』に見る予知のパラドックス 映画による未来社会の考察の第3回は，スティーヴン・スピルバーグ監督の『マイノリティ・リポート』を取り上げる。この映画には，現在から30年後の2054年を舞台に，犯罪予知の実態が描かれている。進化したさまざまな情報機器や乗り物も登場する。これらの要素を題材に，自然科学の視点から犯罪予知の技術的可能性や矛盾、あるいは進化した機器の妥当性を考える。また，人文科学の視点からは，犯罪予知そのものの矛盾や運用上の問題について考察する。	
第12回	映画『A.I.』に見る人とロボットの愛憎 前回と同じスティーヴン・スピルバーグ監督による『A.I.』を取り上げる。地球温暖化が進み一部の土地が海に沈み，妊娠・出産に厳しい許可制度が しかれたことで，人間に比べ多くの資源を必要としないロボットが活躍する近未来が描かれている。この映画の主人公は完全に人間の子どもと同じロボットとして描かれている。この近未来のAIロボットが示す愛憎の在り方を通じて，テクノロジーの発達と人間の関係を考える。	
第13回	映画『オデッセイ』に見る科学による問題解決 第5回はリドリー・スコット監督の『オデッセイ』を取り上げる。この映画では，事故で火星に一人取り残されることになった宇宙飛行士が科学知識を総動員して生き延び，地球に生還する姿が描かれている。このひとつひとつを詳しく分析し，科学の基礎知識がどのように生存のために利用されているかを検証する。この映画は過去にアメリカが行った火星探査計画の史実に基づいていることから，火星の環境や衛星軌道の物理についても取り上げる。また，人文科学の視点から，ユーモア表現や映画の背景となった政治問題についても言及する。	
第14回	映画『コングレス未来学会議』に見るメタバース社会 映画による未来社会の考察の最終回として，アリ・フォルマン監督の『コングレス未来学会議』を取り上げる。この映画では、映画制作がすべて俳優のデジタルスキャンに置き換わった未来社会を背景に，特殊なクスリを服用することで人間が団塊にアニメ世界に同化する世界が描かれている。現在のソーシャルVRの延長上と考えられることから，ここでは仮想世界でどのように人間が愛情や憎しみを抱くか，実体とかけ離れた世界で愛情がどこに向かうかを中心に考察を進める。あわせて，映画制作におけるデジタル技術の利用法の基礎と，麻薬などの薬物使用の危険性についての解説を行う。	
第15回	ICT未来学を振り返って見えてくる私たちの近未来 ICT未来学の最終回として、三つのパートに分けて講義全体の振り返りとまとめを行う。舞台的には「未来を考えるための基礎編」「映画で学ぶ未来社会編」「ICT未来学から見えてきた近未来」の三つのパートを辿り、最後に授業全体の評価のため、Googleフォームを利用したアンケートを実施する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討論への参加，授業内容関連の知識の習得状況，講義で取り上げた映画の感想文の提出状況によって評価する。
アンケート回答と映画の感想文	60	インターネット上の情報収集と表現手段についての知識が豊富であること。その利用方法を理解していること。講義で取り上げる映画の視聴状況。それらを手段として，自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。これらが評価の対象となる。

評価の方法：自由記載	●成績評価ならびに理解度計測の方法の詳細 第8回授業でGoogleフォームを利用したアンケート形式の理解度調査を行う。設問は講義内容を集約した56項目から構成される。内容は大きく「知識の正確さの確認」「未来に対する考え方の表現」の二つに分かれる。これらを数値的に集計することで，学生各自とクラス平均の理解度や未来観を可視化する。「知識の正確さ」については授業内で答え合わせを行い，正しい知識が定着するようにフィードバックを行う。「未来に対する考え方」については各自の意見の講評と共有を行い，学生個人の個性を重視する考えのもとでその深化を図る。 第9回～第14回の講義では，毎回Googleフォーム経由で「映画の感想の提出」を促す。提出された各自の回答は授業ページに反映され，これを題材にクラス全員での意見交換や討論を行う。この意見の交流を通じて，自分の考え方が他人の意見や全体的な視点とどのような関係にあるかを意識させる。これは，授業を通じて個々の学生が思考を深めるためのフィードバックとして機能する。 ●成績評価の共有と活用 以上のまとめ，クラス討論，映画の感想等はすべてScrapbox上の授業ページに掲載され，討論，授業進行，成績評価の資料として活用される。
受講の心得	ネット上の情報，図書，映画，音楽など各種の情報コミュニケーションに接し，見て，聞いて，感じたことを，デジタルな手段を用いて表現する習慣を日頃から身につけておく。
授業外学修	1) 予習として，映画回では次回授業の映画を事前に視聴しておくこと。また，日ごろからテクノロジーにまつわる情報や本，映画作品などに積極的な関心を持つようにする。 2) 復習として，授業で学んだことを自分のScrapboxページにまとめる。映画回では指定のGoogleフォームに感想文を掲載すること。 3) 発展学習として，授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックする。 以上の内容を，週当たり４時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	市販の図書を利用したいわゆる教科書は使用しない。すべての講義内容は，すべての授業回に対応する形で，文章と図により授業Scrapboxに掲載されているので，講義ならびに予習・復習は授業ページで行うことを原則とする。授業ページは受講生に限り，PC，スマホ，タブレット等によりいつでも学内からに限らず閲覧することができる。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	システム開発会社の顧問を務めながら，現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに，高校，大学，企業で講演を行っている。2016年頃から2019年の在社期間中は月平均1回として約50回，その後は企業の顧問として年平均3回として約12回，合計8年間で60回を超える講演を行なったものと推計する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として，各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに，学生とともにデジタル技術を活用しながら，近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。本学での実務経験は2023年度末で3年である。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会の変化に関係する主要な自然科学についての基本的な知識	自然科学の基礎知識がある程度理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	仮想現実が漠然としか理解できない。
知識・理解	２．社会の変化に関係する主要な人文科学についての基本的な知識	人文科学の基礎知識をある程度持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	アニメなどの作品とか草原寺の関係が理解できていない。
知識・理解	３．自然科学、人文科学双方の情報収集の能力	自然科学、人文科学双方について、ネットやAIを利用した情報収集により意見が構築できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	仮想現実がどのようなものか表現できない。
思考・問題解決能力	１．的確な疑問の把握	自主的に的確な疑問を持つことができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	事象についての疑問を持つことができない。
思考・問題解決能力	２．疑問を解く手段の獲得	疑問を解く十分な手段を持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	抱いた疑問を解く方法を知らない。
思考・問題解決能力	３．理解したことの表現手法の獲得	自分で解いた疑問を独自の方法でわかりやすく表現する能力を有している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	自分の思いを表現することがほとんどできない。
技能	１．PC操作の基本能力	ネットやAIから得た情報を文章やグラフ表現に自由に連携できる能力がある。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	PCの基本操作ができない。
技能	２．やや専門的な検索の能力	指定したデータサイトやAIで比較的複雑なデジタル情報の検索ができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	AIを利用した検索ができない。
技能	３．小説や映画などの文章・映像表現の読解力	小説や映画などのアナログ表現について、自分の考えを文章表現することができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	文章表現が非常に不得手。
態度	１．授業に関心を持つ	講義に耳を傾け、的確な質問をすることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	居眠りをすることが多い。
態度	２．授業中に会話をしない	授業中に私語を交わすことが他人および講師の迷惑なることが理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば私語やおしゃべりをする。
態度	３．欠席をしない	欠席・遅刻なしに授業に参加できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば欠席や遅刻をする。

科目名	現代経済史			授業番号	LE201	サブタイトル			
教員	藤原　敦志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業は，日本の近代から現代にかけての歴史を，特に経済の問題に焦点を当てながら，それと関連した社会や政治の問題にも触れつつ解説していく。前半では，江戸幕府の崩壊から第二次世界大戦後の復興までの期間における日本経済の歩みを解説していく。日本は，明治維新後に日清・日露戦争に勝利し，国力を高めていきながら，資本主義経済や民主主義社会の土台を築いていく。その後，関東大震災や昭和恐慌など社会が不安定化する中で，軍部が台頭して統制経済に入っていき，終戦によってそれが終わり，その後のアメリカによる占領と混乱の中で，復興していく。後半では，高度経済成長から現在までの期間における日本の経済の歩みを解説していく。日本は高度経済成長を達成し、そこからもたらされた環境破壊などの副作用に直面していく。その後，固定為替相場制から変動為替相場制へ移行し，オイルショックをきっかけとしたインフレーションを経て安定成長に入っていく。1980年代に入ると資産価格の高騰と急落を招き，その後の「失われた30年」と呼ばれる試行錯誤の時期に，金融システムの見直しや企業の経営改革に取り組んでいく。この授業では，このような日本経済の過去150年の歩みを，そのときどきの経済・社会・政治問題に焦点を当てながら，解説していく。								
到達目標	現在の日本の経済システムが少しずつ築かれてきたことを150年という長いスパンで確認する。また資本主義経済の歪みが，労働問題や環境問題，インフレやバブルなど形を変えながら様々な形で繰り返し起こっていることを確認する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考	毎回，プリントを用意し，そこに書き込む形にする。教員が学生を順番に当てて，質問に答えてもらったり，前に出て問題を解いてもらったりする。								

回	概要	担当
第1回	開港と明治維新 江戸時代までに近代化の基礎がどれだけできていたか，それが開国によってどう加速したかを見ていく。	
第2回	殖産興業と富国強兵 効率的な生産体制をどのように築いていったか，また海外からの資源を獲得するために戦争に走っていった日本の状況について見ていく。	
第3回	日本の産業革命と財閥の形成 資本家と労働者の誕生や戦後の日本を実質的に形作る財閥の誕生について見ていく。	
第4回	大正デモクラシーと労働運動 第一次世界大戦前後の比較的自由な雰囲気を持っていた大正時代を見ていく。	
第5回	昭和恐慌と中国侵略 世界経済が不穏な空気に包まれる中，日本もそこに飲み込まれていった様子を見ていく。	
第6回	戦時経済体制と植民地支配 国家のあらゆる機関が戦争遂行のための道具となり，海外にもそのような流れが伝播していった様子を見ていく。	
第7回	戦後改革と経済復興 財閥解体や農地改革などで戦前の日本が解体され，激しいインフレーションが起こっていった様子などを見ていく。	
第8回	高度経済成長と環境破壊 高度経済成長はなぜ達成できたのか，また公害などそれによって持たらされた副作用について見ていく。	
第9回	ニクソンショックとオイルショック 戦後のブレトンウッズ体制が崩壊し，固定相場制から変動相場制に移行し，オイルショックによる「狂乱物価」と呼ばれた状況について見ていく。	
第10回	日米貿易摩擦とプラザ合意 貿易黒字が累積した日本が，激しい円高に見舞われ，それにどうのように対処していったかを見ていく。	
第11回	金融自由化とバブル経済 海外からの圧力で金融が自由化され，それと同時に行われた低金利政策によって地価や株価が高騰していた様子を見ていく。	
第12回	金融再生と産業再生 バブル崩壊後の日本が立ち直るために，銀行の不良債権処理が必要であり，それは同時に産業の再生でもあったことを見ていく。	
第13回	デフレ経済とアベノミクス 1990年代後半から2020年代前半まで続く超金融緩和政策が，日本をデフレ経済から脱却させるためであったことを見ていく。	
第14回	経営革新と雇用問題 M&Aの活発かやコーポレートガバナンスの重要性の認識によって，日本企業の経営が変わりつつあり，それに伴って雇用のあり方も変わっていった様子を見ていく。	
第15回	2025年の日本経済 日本経済はこのときどうなっているのか，この先どうなっていくのかを考えていく。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業での積極的な発言を評価する。
レポート	20	中間レポートを総合的に評価する。
小テスト	20	授業の前半と後半に1回ずつ授業内容に対する確認を行う。
定期試験	50	授業のすべての範囲の内容の理解度を，語句説明，正誤問題，論述問題などで総合的に評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	小テストは期末試験の出題の参考になる問題を出す。
受講の心得	高校のときには，日本の近現代史を経済の視点から学ぶ機会があまりなかったと思うが，特に社会科学系の学生は，大学の最初にそのような知識を補充しておくと，その後の日本社会の分析をより複眼的に行えるようになると思う。
授業外学修	週３時間程度の予習・復習が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『日本経済史』武田晴人（著），有斐閣，2019年。 『ゼミナール日本経済入門 （第25版）』三橋規宏・内田茂男・池田吉紀（著），日本経済新聞出版社，2012年。 その他の参考書は授業中に適宜，紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	なし
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．各時代の全ての出来事を知り、つながりを説明できる	各時代の鍵となる出来事を知り、つながりを説明できる	各時代の鍵となる出来事のつながりを説明できる	各時代の鍵となる出来事を知っている	いくつかの時代の出来事を知っている	出来事を全く知らない
思考・問題解決能力	１．経済システムが枝分かれしていく歴史的ポイントを発見できる	全てのポイントを発見できる	すべてのポイントをぼんやりと認識できる	重要なポイントを発見できる	重要なポイントをぼんやりと認識できる	全く発見できない

科目名	経営戦略論			授業番号	LE202	サブタイトル			
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	経営戦略とは，競争優位を獲得するために企業が人，モノ，カネ，情報という経営資源を配分し，意思決定を行うことである。企業戦略にはいかにして低コストを実現するのか，どのようにして違いを出して差別化するのか，どのような事業に集中するのかが必要不可欠である。企業を取り巻く競争はますます激化しており，今日，日本企業においても経営戦略をどのように構築し，いかにして実行するのかが重要な戦略課題となっている。本講義では，グローバル競争に焦点をあて学習する。講義の前半では，経営戦略の基礎理論を学び，後半では企業の経営戦略の実体を把握するために，現在もっとも注目されている日本企業や欧米企業の事例を取り上げ，考察する。								
到達目標	・経営戦略に関する基礎理論が理解できるようになる。 ・日本企業・欧米企業の経営戦略の実態を把握することによって，グローバルな視点の考え方が培える。 ・企業の競争について学ぶことで，企業間の競争や競争優位が理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	経営戦略とは何か 経営戦略の定義，戦略の要素について理論的なフレームワーク，チャンドラーとアンゾフの経営戦略。	
第2回	経営環境と業界の構造 企業の外部環境における競争要因，新規参入，競合企業の脅威，代替品。	
第3回	競争優位と参入障壁 競争要因から生じる参入障壁，競合企業，移動障壁，製品の価格と種類。	
第4回	経営環境とPEST分析・SWOT分析 企業の外部環境，経営環境の自社の視点，企業内部の経営資源。	
第5回	競争戦略の基本戦略 コスト・リーダーシップ戦略，差別化戦略，集中戦略，価値連鎖。	
第6回	製品ライフサイクル別戦略 製品ライフサイクル別の戦略定石，経営上の特徴，戦略上の市場浸透，製品ラインの拡大。	
第7回	市場地位別戦略 競争優位はそれぞれの市場地位別に異なっている。市場地位の逆転や新たな市場の選定。	
第8回	企業の成長戦略と多角化 成長戦略，新事業，関連多角化，非関連多角化，シナジー，M&A，戦略的提携。	
第9回	企業取り巻く環境（トヨタ自動車の事例） かんばん方式，カイゼン，ハイブリッド車，EV自動車，3CとSWOT分析。	
第10回	企業の組織構造 職能別組織，マトリックス組織，SBUによる組織，事業部制組織，組織のコンティンジェンシー理論。	
第11回	企業の社会的責任 企業の成長と停滞，利益追求と雇用確保のジレンマ，戦略的CSRの取り組み，共有価値の創造。	
第12回	日本企業のグローバル成長戦略（ソニーの事例） ゲーム事業，映画事業，イメージセンサー，複合経営，グローバルブランド構築。	
第13回	モバイル企業の部品調達戦略（アップルの事例） 日本の部品企業，納期，アウトソーシング，サプライチェーン構築。	
第14回	ネットビジネスの経営戦略（アマゾンの事例） プラットフォーム戦略，マーケットプレイス，アマゾン・プライム，クラウドサービス，EC専業企業。	
第15回	戦略実現のための人材マネジメント 組織リーダーとモチベーション，リーダーシップと組織適合，自律型人材とキャリア開発，ワーク・ライフ・バランス。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への意欲，質問の状況，課題の提出を評価する。
レポート	30	企業の実態を知るため，資料や課題を提示する。提出されたレポートはその内容のコメントを返却する。
小テスト	50	キーワードの理解度，授業全体への理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・日常，企業の動向や戦略・経営に関心をもって授業に臨むこと。 ・企業関連の新聞や雑誌などに目をとおして，問題意識をもって積極的に取り組むこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，疑問点を疑問点をチェックすること。 ・授業で学んだ内容の小テストがあるので，復習を充実に行うこと。 ・個別企業の事例を資料や参考文献から読むこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
1からの戦略論 第２版	嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編	中央経済社	978-4-502-16741-6	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・大滝精一編『経営戦略』有斐閣アルマ，1997年。 ・マイケル・ポーター・竹内弘高編『日本の競争戦略』ダイヤモンド社，2000年。 ・伊丹敬之編『戦略とイノベーション第3巻』有斐閣，2006年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．経営戦略論の必要性を認識している	経営戦略論の必要性をほぼ理解している	企業の組織や仕組みをほぼ理解している	基本的に経営戦略を学ぶ意味を理解している	経営学は理解できているが、具体的な知識が十分ではない	経営戦略論という科目を理解していない
知識・理解	２．企業と社会の関わりについて理解している	会社の仕組みや組織を十分に理解している	洞察力を持って企業の仕組みやプロセスが把握できる	会社の組織構造や経営戦略を把握している	具体的な企業形態や組織の理解できていない	概念や言葉の意味が理解できていない
知識・理解	３．経営戦略論の知識が修得できる	企業の実態における経営戦略を理解している	企業形態の内容やいくつかの事例がまとめられる	経営学や戦略の基礎知識が修得できている	経営戦略の各テーマが理解できていない	内容の理解や文章のまとめができていない
思考・問題解決能力	１．今の経済社会において企業の役割を理解している	企業で起こっている諸問題に対する対応策を考えられる	企業で起こっている問題の本質が把握している	経営戦略の概念や定義を理解している	企業の社会的役割や問題が理解できていない	経営戦略論の基礎概念が理解できていない
思考・問題解決能力	２．今の企業で起こっていることを理解している	企業や社会の問題に対してコメントができる	企業と関連する経営戦略が理解できる	企業での事業活動がどのようなものなのかが理解できている	企業の経営戦略とわれわれの社会生活との関わりが理解できていない	企業の事業活動が理解できていない
思考・問題解決能力	３．企業の戦略をどのようにすれば成功できるかを理解している	企業で起こっていることを自分の問題として把握できる	企業の事例から組織や戦略の仕組みをほぼ理解している	企業の経営戦略のプロセスを理解している	企業の社会的役割や問題が理解できていない	企業で策定する経営戦略の仕組みの理解ができていない
技能	１．企業戦略がどのように形成されているのかが把握できる	企業組織のあるべき基本行動は何かが理解できる	企業戦略の内容をほぼ理解している	企業戦略のあり方についてほぼ理解している	企業の経営戦略に対してあまり理解できていない	企業の経営戦略に関してあまり興味を持っていない
技能	２．企業の組織によって、経営戦略の違いが理解できる	日本企業の経営戦略を確実に理解している	基礎的な経営戦略が把握できる	経営戦略によって、企業組織の責任所在が違うことが理解できている	経営戦略についてあまり理解できていない	企業の経営戦略についてほぼ理解していない
技能	３．海外の企業の事例から日本企業の戦略がみえてくる	日本企業の問題点を自分で抽出し、まとめることができる	日本企業の問題点ほぼ把握できる	海外の企業の事例を十分に理解している	海外企業の事業活動を理解していない	海外企業の経営活動が把握できていない
態度	１．企業本来の目的は何かを考えられる	企業の経営戦略を理解している	企業の目的を理解し、具体的な内容が把握できている	企業の目的や戦略の重要度が理解できている	企業の目的や形成過程が理解できていない	企業の目的や事業活動に興味を持っていない
態度	２．日本企業のあるべき姿や経営戦略が理解できる	経営戦略のあり方によって競争優位を獲得できることが理解している	企業組織のあり方が戦略にとっても重要であることを理解している	日本企業のあるべき行動様式を理解することが出来ている	企業戦略のことがあまり理解できていない	日本企業の戦略の仕組みがあまり理解できていない
態度	３．企業の諸問題をどのように解決するのかが議論できる	具体的な事例から企業の戦略に対して議論できる	企業の諸問題に対して自分の考えをまとめることができる	日本企業がどのようにすれば国際競争で勝つのかが把握できる	企業が抱えている問題の所在が理解できていない	企業で起こっている諸問題にあまり関心を持っていない

科目名	マーケティング論			授業番号	LE203	サブタイトル			
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	市場では消費者の好みやライフスタイルがますます多様化し，個別化している。マーケティングは単に作った製品を販売するだけではなく，売れる製品をいかにして作るかが求められている。そのためには，消費者のニーズを明確に捉え，それに見合った新製品を開発することが重要な戦略となっている。マーケティングはこうした製品をどのようにターゲット市場に細分化し，宣伝，広告，流通チャネルまでトータルに捉えていくのかが必要不可欠である。本講義では，企業が提供する商品やサービスをどのように消費者に結びつけ購買行動を促進するのか，企業と消費者行動との関係性，いかにしてブランドの構築を行っているのかを考察する。講義では，具体的な企業の事例を取り上げ，今日のマーケティングの考え方や技法を明らかにする。								
到達目標	・マーケティングに関する基礎知識が修得できる。 ・企業のブランド力や商品やサービスが市場で販売されるまでのプロセスが理解できる。 ・実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことによって，実務的な学習能力を培うことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	マーケティングとは マーケティングが登場したのは，19世紀から20世紀初頭のアメリカの大量生産技術や大規模生産技術がさまざまな産業で導入された。 マーケティング登場の歴史的な変遷を学習する。	
第2回	マーケティングミックス マーケティング戦略は市場環境や競争環境をといった外部環境を正確に把握することが必要不可欠である。マーケティングの標的市場と市場細分化について理解する。	
第3回	競争環境・競争要因 企業の外部環境の分析は，市場の競争要因を把握することである。競争構造によって，マーケティング戦略は異なるが，自社の経営資源分析とは何かを学習する。	
第4回	競争対抗戦略と市場環境 競争対抗戦略の類型は市場環境に適合するリーダー企業のマーケティング戦略がどのように構築されているのか。	
第5回	市場環境と消費者行動の捉え方 市場における消費者の購買意思決定過程を理解する。	
第6回	顧客志向のマーケティング 市場で販売されている商品やサービスは顧客志向に合致しているのか，売る手としての企業側の利潤だけに求められているのか。 買い手と売り手との競争要因を学習する。	
第7回	製品ライフサイクル 市場で販売されている商品やサービスは大半製品寿命によって変化する。 市場での商品のライフサイクルはどのように変化していくのか。	
第8回	流通環境と中間業者の役割 商品が市場で販売されるまで、どのような流通経路をたどっていくのか。 中間業者の流通機能，流通系列化，取引の効率化について学習する。	
第9回	消費者行動とマーケティング 今日のインターネット時代のおける消費者行動はどのように変化しているのか。	
第10回	市場環境と購買意思決定の変容 消費者行動の意思決定過程や代替案評価過程はどのようなものかを理解する。	
第11回	ブランド構築の基礎 なぜブランドを構築するのか。何をブランド化するのか。顧客接点型商品ブランドとは何か。	
第12回	マーケティング・レベルのブランド戦略 フォーカス顧客戦略とブランド価値のプロポジション，差別化ポイント	
第13回	価格設定のマーケティング 価格規定要因としての費用，価格規定要因としての需要，競合品・代替品の中での価格設定はどのように構築されるのか。	
第14回	プロモーション政策 プロモーション活動の役割，プロモーションの手段，プロモーションミックス	
第15回	デジタル時代のマーケティング戦略 情報過剰と消費者，社会とユーザーからみたブランドの変化，企業側からみたブランドの変化	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢と態度	20	予習・復習の状況，講義への意欲や質問，課題提出について評価する。
レポート	30	企業の商品や市場での動向を調べ，マーケティングの実体例をまとめる。提出されたレポートは，内容のコメントを加えて返却する。
小テスト	50	キーワードの理解度，講義全体の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・日常，興味ある商品やサービス，消費に関する新聞や雑誌などに目をとおして，問題意識をもって出席することを望む。 ・適宜，資料の配布があり，そのまとめを書き，提出することがある。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって熟読し，疑問点をチェックして来ること。 ・授業で学んだ内容の小テストがあるので，配布プリント，教科書の復習をすること。 ・関心ある商品や企業のマーケティング活動の事例を資料や参考文献で読むこと。 以上の内容を週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
入門・マーケティング戦略	池尾恭一	有斐閣	978-4-641-16485-4	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・石井淳蔵・廣田章光編『１からのマーケティング 第３版』中央経済社，2009年。 ・フィリップ・コトラー著 恩藏直人監訳 大川修二訳『マーケティング・コンセプト』東洋経済新報社，2008年。 ・日本マーケティング協会監修 恩藏直人・三浦俊彦・芳賀康浩・坂下玄哲編『ベーシック・マーケティング』同文舘出版，2010年。 ・田中洋『ブランド戦略 ケースブック2.0』同文舘出版，2021年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．企業のマーケティングの必要性を理解している	企業だけではなく、生活の上でもマーケティングが影響していることを理解できる	企業にとって、マーケティング活動とは何かを理解している	基本的なマーケティング戦略の必要性を理解している	基礎のマーケティングは理解できているが、具体的な内容が十分に理解できていない	マーケティング論の科目を理解していない
知識・理解	２．私たちの生活の中で企業の役割や関わりを理解している	企業がどのようにして財・サービスを市場に流通させているのかを十分に理解できている	洞察力を持って企業の具体的な戦略のプロセスが把握できる	企業の組織構造や社員の行動によって製品の購買力が変化していることが把握できる	具体的な企業形態や組織の理解できていない	マーケティングの概念や言葉の意味が理解できていない
知識・理解	３．戦略の違いによって企業の収益、ブランド力が高まることが把握できる	日本企業や外国企業とのマーケティング戦略の違いをわかる	海外企業の事例から日本企業との差異をほぼ理解している	マーケティング入門の基礎的知識が修得できる	マーケティング戦略の内容や各テーマが理解できていない	内容の理解や文章のまとめができていない
思考・問題解決能力	１．今日の経済社会において消費すること、売り手の企業の役割を理解している	企業で起こっている諸問題に対する対応策が考えられる	日本企業の問題点を抽出し、まとめることができる	企業が抱えている問題点を理解している	不十分ながら企業の活動を考えようとしている	企業が商品を販売するための戦略を理解することができない
思考・問題解決能力	２．今日の企業の差別化戦略を理解している	企業や社会の諸問題に対してコメントができる	企業で起こっている問題の本質を自分で把握できる	今日の日本企業と海外企業との競争の熾烈さが理解できる	企業の事業活動があまり理解できていない	なぜ企業でそのような問題が起こっているのかが理解できていない
思考・問題解決能力	３．企業の諸問題をどのようにすればよいかを考えている	企業で起こっていることを自分の問題として把握できる	企業の戦略の本質を自分でほぼ理解している	マーケティング入門の基礎知識や諸問題を理解している	企業が行うマーケティング戦略があまり理解できていない	企業で起こっている問題の解決策が考えられない
技能	１．企業の身近な事例を理解できる	具体的な事例から企業戦略の違いが具体的にまとめられる	企業事例から自分で問題点が抽出できる	企業の事例から具体的な要点が把握できる	企業の諸問題にあまり興味を持っていない	企業の身近な事例が理解できない
技能	２．企業のあるべき行動様式のESGが理解できる	企業のマーケティング活動にESGをどのように取り組んでいるのかがわかる	企業のESG活動をほぼ把握できる	企業のESG活動とわれわれの生活の関わりを理解している	企業のESG活動の重要性を理解していない	企業活動で何が重要であるかを理解していない
技能	３．企業側として商品を販売する際の消費者の行動が把握できる	現在のデジタル・マーケティングにおいて、ビッグデータや人工知能が使われていることが理解できる	日本企業の国際競争の弱点が理解できる	日本企業のマーケティングの問題点は何なのかを把握している。	日本企業がどのような問題により購買力が落ちているのかが理解できていない	日本製品の品質の良さがどのようなものなのかが理解できていない
態度	１．身近な企業のマーケティング活動が理解している	企業の問題に対して具体的に把握できる	身近な企業の問題を具体的に説明できる	身近な企業の事例から問題の所在を探ることができる	企業の事例があまり理解できていない	企業の事例にあまり興味を持っていない
態度	２．生産者としての企業の社会的責任に関する議論ができる	商品を大量に売るために昨今の企業の不祥事に対して十分理解している	不祥事の際、企業のマーケティング戦略とどう関わっているかが理解できる	企業の社会的責任に関心を持って、企業のマーケティング活動をどうすべきかが理解できる	企業がなぜ不祥事を起こしているのかが理解できていない	企業の不祥事に関してあまり興味を持っていない
態度	３．企業の諸問題をどのように解決するのかが議論できる	企業の問題や行動について十分な議論ができる	企業の問題に対して積極的に議論ができる	企業のやるべき行動様式に関して理解している	企業が製品の大量販売のため、何をしているのかが理解できていない	企業で諸問題に対してあまり理解できていない

科目名	データサイエンス論			授業番号	LE204	サブタイトル			
教員	梶西 将司								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	データサイエンスは，私たちの身の回りの様々な場面で活用されている．近年は特に，データサイエンスの知識や考え方を持った人が必要とされている．データサイエンスによって得られた数値に隠された本当の意味を知ることはとても重要なことである．本授業では，データサイエンスで用いられる分析手法を理解することに加え，統計解析ソフトRを用いて実際にデータ解析を行い，解釈ができる力を身につけることを目指す．								
到達目標	・データサイエンスの重要性を理解でき，数値に隠された本当の意味を考える力を身につけることができる． ・統計解析ソフトRを用いて，データ解析を行うことができる． ・データ解析で得られた結果を自ら解釈でき，理解できる． なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する．								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	社会で利用されているデータ データサイエンスの分野において社会で利用されているデータについて理解できる	
第2回	グラフを用いたデータの視覚化 データの可視化手法やその用途を理解し，作成できる	
第3回	データの集計方法とヒストグラム データの集計方法を理解し，実際にデータの分布を確認できる	
第4回	データの数量化(1変量) 代表値・分散・標準偏差などの基本統計量を算出できる	
第5回	データの数量化と視覚化(1変量) 四分位数・四分位範囲・箱ひげ図・標準化などの散らばり具合を表す統計量を算出できる	
第6回	２変量データの視覚化と数量化(1) 散布図を作成でき，共分散・相関係数などを実際に算出することができる	
第7回	２変量データの視覚化と数量化(2) クロス集計表を作成でき，オッズ比を計算方法を理解できる	
第8回	総合演習(1) これまでの学習内容を確認する	
第9回	記述統計と推測統計，サンプル調査の特徴 記述統計と推測統計の違い，サンプル調査の仕組みを理解できる	
第10回	推測統計の考え方 区間推定の考え方や仮説検定の仮説の立て方と結論の述べ方について理解できる	
第11回	区間推定と統計的仮説検定（１） (母平均の差の検定と区間推定(母分散既知)/母分散の検定と区間推定)	
第12回	区間推定と統計的仮説検定（２） (母平均の差の検定と区間推定(母分散未知)/母比率の検定と区間推定)	
第13回	区間推定と統計的仮説検定（３） (２標本の平均の差の検定/適合度検定)	
第14回	統計的仮説検定（４） クロス集計表と独立性の検定	
第15回	総合演習(2) これまでの学習内容を確認する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する．
レポート	20	2～3回程度のレポート課題を課す．classroomを利用し、評価をフィードバックする．
小テスト	40	2回程度の小テストを行う．実施は事前にアナウンスする． 実施後、必要に応じて小テストを返却しフィードバックする．
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	データから有益な結果を導き出す重要性を理解してほしい．また，プログラミング言語を用いてデータ解析をする楽しさを知ってほしい．授業に関してはテキストや配布資料を利用し授業の復習・予習を行い，講義内容をしっかりと理解できるように努めてほしい．
授業外学修	1　予習として，配布資料やテキストを読み，次回の授業内容に関わる部分を整理しておく． 2　復習として，学習した内容を整理し，課題レポートをする． 3　発展学習として，授業で紹介された内容について自ら調べる． 以上の内容を，週当たり4時間以上学習すること．

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．データサイエンスの重要性について理解できる	日常生活で利活用されているデータサイエンスの技術を理解し、一部活用できる	データサイエンスの技術について理解し、一部利用できる	身の回りにあるデータやグラフなど、データサイエンスが活用されていることを予測できる	データサイエンスについて理解できているが、日常生活に活用されていることが分からない	データサイエンスについて理解できておらず、どのような場面で活用されているか分からない
知識・理解	2．データの可視化の重要性について理解できる	データの可視化の重要性について理解し、Excelを利用し、グラフ作成の手順や地図による表現ができる	データの可視化の重要性について理解し、Excelを利用し、グラフが作成できる	データから可視化の用途別にグラフを作成できる	データ可視化の重要性を理解できていないが、グラフを作成することができる	データ可視化の重要性を理解できておらず、グラフを作成することができない
知識・理解	3．推測統計について理解できる	推測統計について理解し、課題に応じて推定と検定の統計量を正しく算出できる	推測統計についてある程度理解し、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要が理解でき、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要を理解できていないが、推定と検定の統計量を計算により算出できる	推測統計について理解できておらず、統計量を算出できない
思考・問題解決能力	1．データから統計量を算出し評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、算出された統計量を正しく評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、統計量を算出できる	データから統計量を算出できる	統計量の種類や用途を理解できていないが、算出はできる	統計量の種類や用途が分からず、算出できない
思考・問題解決能力	2．グラフから全体像を把握できる	データに応じて適切なグラフを選択し、作成・評価ができる	データに応じて適切なグラフを選択し、作成できる	データからグラフを作成することができる	グラフの種類や用途を理解できていないが、作成できる	グラフの種類や用途が分からず、作成できない
思考・問題解決能力	3．推測統計を活用し、課題を解決できる	課題に応じて、推定や検定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果を正しく判断し評価できる。	課題に応じて、推定や検定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果から結論を考察できる	推定や検定の手法を理解し、統計量を算出できる	推定や検定の手法について理解しているが、統計量を算出できない	推定や検定の手法について理解できておらず、統計量を算出することができない
技能	1．基本統計量の算出とグラフ作成ができる	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成ができ、その結果を適切に判断できる。また、その結果を説明できる	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成ができ、その結果を適切に判断できる	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成ができる	自らの力でExcelを用いて、統計量の算出とグラフ作成することができない	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成の方法を知らない
技能	2．区間推定を適用できる	課題に応じて適切な区間推定の手法を選択でき、実際に区間を推定できる。また、その結果を正しく説明できる。	課題に応じて適切な区間推定の手法を選択でき、実際に区間を推定できる。	区間推定の手法を用いて、実際に区間を推定できる	区間推定について理解ができていないが、区間を求めることはできる	区間推定について理解できれおらず、区間を推定できない
技能	3．仮説検定を適用できる	課題に応じて適切な仮説検定の手法を選択でき、実際に検定統計量を算出し、有意かどうか判断できる。また、結果に基づいた解釈ができる。	課題に応じて適切な仮説検定の手法を選択でき、実際に検定統計量を算出し、有意かどうか判断できる。	仮説検定の手法を用いて、実際に検定統計量を算出し、有意かどうか判断できる。	仮説検定について理解できていないが、検定統計量を求め、結果を導くことができる	仮説検定について理解できておらず、検定統計量を正しく算出できない

科目名	イベント・コンベンション事業論			授業番号	LE205	サブタイトル			
教員	田村　秀昭								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	国や自治体が推進するMICEとは何か。イベント・コンベンションなどの事業活動が地域社会，環境，経済にどのような影響を与えているのか。 イベント・コンベンション事業の効果と課題を理解するとともに，自らイベントなどを主催する際に企画立案・実施運営の知識を学ぶことを目指す。 政府の方針でもあるIR（統合型リゾート）のあるべき姿などについても考察する。 また，イベント・コンベンション事業を支える仕組みや制度などを学び，あらゆる場面における応用を考察する。 人生における「イベント」の大切さや転機となるシーンを想像し，創造してほしい。 今年はパリ・オリンピックが開催されます。来年は関西万博も開催です。 ぜひ，イベントに興味を持ち，この授業に臨んでください。								
到達目標	・国や自治体が推進するイベント・コンベンション（MICE)に関する政策への理解を深める。 ・イベント・コンベンション事業を支える組織や人の存在を知り，将来活躍する職務における応用を考察する。 ・イベント・コンベンションに関する企画立案・実施運営の基礎及び実務的な知識を身につける。 ・イベント・コンベンションの効果や課題を説明できるようになる。 ・ツーリズム産業におけるイベント・コンベンションの重要性を理解し，説明できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション及びECの歴史 イベントとは？コンベンションとは？MICEとの違いは何か。 そもそもMICEとは何か？導入の授業として基本を学んでいただきます。 また、日本の歴史上、最古のイベント、コンベンションはどういったものだったのか。 日本史、世界史上におけるイベントなどの開催について考察します。 そして、「プロデューサー」になるためには何が必要なのか。	
第2回	総論・ECとは：ECの定義と開催目的 コミュニケーションの歴史とメディアの変遷。 人が直接「会う」こと、「集まる」ことの必要性、重要性。 ECの定義を学び、その持ち合わせた特性などについて学びます。	
第3回	総論・ECとはII：ECの仕組みと開催効果 イベント・コンベンションを成立させるための原理。 ５W2Hをいかに構成してゆくか。 ECの開催効果は何か？何のために開催するのか？ 事例を見ながら意見交換をします。	
第4回	総論・ECとはIII：ECのマーケット分類と市場規模 イベント・コンベンション市場とはどのようなものか。 市場規模はどの程度か。また、ECに隣接する社会・産業領域について考察します。	
第5回	岡山のイベントの実態（ワークショップ） 観光協会や観光案内書などで岡山のイベント・コンベンションの開催案内チラシ等をいただき、 それをもとに皆さんで岡山のイベントの実態を研究してみましょう。	
第6回	イベント・コンベンション産業I：ECオーガナイザー，ホテルの役割 ※岡山市内のホテル等での学外授業（予定） 岡山駅隣接のホテルで、ホテルの役割を確認するために視察を実施します。 ホテルの都合により開催できない場合は、ホテルの資料を基にECを開催する場合にどのような機能が必要かを確認します。	
第7回	イベント・コンベンション産業II：ECを支える多彩な産業 イベント・コンベンションに係る産業は観光産業そのものであり、 ECそのものがツーリズム（観光）産業に支えられて開催できるものであることを確認します。 どのような産業がこのECの世界では必要とされているのかを考察しましょう。	
第8回	コンベンション施設と付帯設備I：日本と世界のコンベンション施設 イベント・コンベンションを開催する設備や付帯設備について学びます。 例えば、広い面積の場所を比喩するに「東京ドーム○個分」と言われることがあります。 さて、皆さんはその広さや大きさをきちんと理解できていますか？ 世界の施設も含めて学びます。	
第9回	コンベンション施設と付帯設備II：コンベンション施設の基本型と運営形態 ※岡山観光コンベンションビューロー等での学外授業（予定） 岡山駅西口に隣接のおかやまコンベンションセンター（通称：ままかりフォーラム）の視察をします。 コンベンション開催を中心にした岡山市で最も活用される施設を見学し、担当者の話を聴きます。 都合により視察ができない場合は、いただいた資料に基づいて施設に必要な設備や配置などについても考察します。	
第10回	世界と日本のEC動向：発展するMICE市場とコンベンション（ECビジネスの可能性） コロナで人が集まることを停められ、会議やイベント、修学旅行さえ中止になった経験を持つ人もいるでしょう。 WEB上で会議はできるし、ライブも鑑賞できますが、やはり本物が観たいという気持ちは誰しも同じでしょう。 そのECは今後のビジネス的な可能性はどうなのか。皆さんで意見交換をしましょう。	
第11回	EC推進機関とECに関わる法律：JNTO，JETRO，その他のEC推進機関 イベント・コンベンションの実施に当たっては様々な法規制や、守るべき法律やルールなどがあります。 それらを学びながら、ECを実際に開催する計画策定へ向けての準備としましょう。 また、ECを開催あるいは誘致するにおいて推進する組織・機関があります。 これらの働きも学びます。	
第12回	スポーツイベント（スポーツツーリズム） スポーツイベントで思い起こすのはオリンピックやサッカーのワールドカップなど世界的なものが多くあります。 身近なものでは学校の運動会や地区の大会、あるいはインターハイなども経験された方もいるでしょう。 岡山ではファジアーノやリベッツ、シーガルズなどプロのスポーツチームもあります。 これらスポーツを通して街づくりをするなどの活動も近年見られます。 これらについて調べてみましょう。そして意見交換をして岡山ではどう展開してゆくのかを考察します。	
第13回	演習編：イベントの企画立案 これまで学んできたことを活かして、自らがプロデューサーとなってイベントを開催する計画を立ててましょう。 パソコンを持参し、パワーポイントで企画書を作成し、プレゼンができる準備をします。	
第14回	演習編：ミニイベントのプレゼンテーション 前の授業で作成したパワーポイントを使ってプレゼンテーションをしましょう。 制限時間は5分。受講生全員が質問をし、それに対して回答できるような姿勢を体験してください。 そして、実際に開催できるのかどうか。まとめをしましょう。	
第15回	総括：講義のまとめ- 視察やプレゼン、意見交換などを通してイベント・コンベンションを学んできましたが、 要点を再度確認しながら、将来イベント・コンベンションの現場で働くつもりで復習をして下さい。	
授業計画　備考2	岡山市内のホテル，コンベンション施設などの現場を視察する校外学習を2回予定しています。 単なる見学に終わらないように，しっかりと質問をし，現場の課題を模索してください。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	積極的な授業への参加態度 授業への出席は1回につき1ポイントとしますが、残り35ポイントは積極的な学ぶ姿勢で評価します。 授業に臨む姿勢や発言、授業後に提出を求める出席カードへの質問や感想をしっかりと評価の基礎とさせていただきます。
レポート	10	校外学習後のレポート（5点×2回） 岡山市内のホテル、コンベンション施設の視察後に1,000字程度のレポートを提出して頂きます。
イベント企画＆プレゼンテーション	20	イベント企画をパワーポイントで作成し、プレゼンテーションをしていただきます。 パワーポイントは5枚以上、発表は5分以内とします。
定期試験	20	期末テスト 授業で配布する資料やレジュメなど、自筆のノート類は持込可とします。 100点満点ですが、20点に圧縮してこの授業の評価に加えます。

評価の方法：自由記載	授業参画意欲を積極的に見せてください。この講義の評価の中心です。 修了テストは授業時に配布する資料や授業中の講義内容からの出題とします。 100点満点を五分の一に圧縮し，全体の20%の評価とします。 また，企画立案するイベントについては受講生との意見交換をしながらテーマを決めます。 そのプレゼンテーションでしっかりと発表していただきたい。企画内容とプレゼンテーションで評価します。
受講の心得	基本的には講義形式の座学ですが，平素から市中で開催されるイベントをしっかりと観察してほしい。 その現場で働く人々の姿を追い，どのような仕事があり，どう役割をこなしているかを見ていただくようにお願いしたい。 また，現場の危機管理についてはよく注視してください。 イベント・コンベンションの用語をしっかりと理解してください。
授業外学修	・毎回の授業内容は必ず復習をしてください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 ・配布する資料は大切に保管し，整理をしてください。 試験時には持込可としますので，単元ごとに整頓しておいてください。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは指定しません。講義ごとにレジュメや資料を配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンベンションビジネス	萩原誠司	ダイヤモンド社	978-4-478-08345-1	1，500円（税別）

参考書：自由記載	
その他	ホテルやコンベンション施設などの平面図や仕様書などを入手し，会場がどのようになっているかなどを見ていただきたい。 観光案内所やコンベンションビューローなどでイベントのチラシやパンフレットを入手し，そのチラシに書いてある内容などを確認してほしい。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	JTBで38年，ツーリズム産業の最前線で実務をこなしてきた経験を有する。 また，国土交通省，経済産業省，農林水産省などの官公庁の審査委員等の経験値を生かす。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	JTBの中でも新規事業，とにMICEについては積極的に実務経験を積み，成功裏に導いてきた経験を学生たちに伝えてゆく。 スマップ，ミスターチルドレンなどの野外コンサートの5万人規模の観客の輸送や警備，危機管理を含む事業を経験。 ポンデベル（現ベッキオバンビーノ）を岡山に誘致し，20年間続く定番のイベントとして定着させた実績。 淡路ロングライドを手始めに，四万十∞ライド（高知），サザンセトロングライド（山口）などを次々に提案し実施に導いてきた。 日本眼科学会，日本薬学会，日本精神神経学会など大型コンベンションを年間50本以上実施運営してきた経験を持つ。 これらイベントコンベンションの実務経験をもとに，学生の皆さんに現場のあり様をお伝えしてゆきます。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．MICE政策の理解を深める	MICE政策の必要性を説明できる	MICEの課題を説明できる	MICEを説明できる	MICEを知っている	MICEを理解できない
知識・理解	2．MICEを支える人や組織を理解する	MICE現場で活躍する人の役割を説明できる	MICE現場で活躍する人を説明できる	MICE現場に足を運び、活躍する人を確認する	MICE現場に行くが活躍する人がわからない	MICE現場に行かない
知識・理解	3．観光産業におけるMICEの重要性を理解する	観光産業におけるMICEがもたらす効果を説明できる	観光産業におけるMICEの重要性を説明できる	MICEの重要性を理解できる	MICEが観光産業に必要だということを理解する	MICEが観光産業の一種であることもわからない
思考・問題解決能力	1．ECの企画をし、プレゼンをする	規定通りにPPTに纏め、制限時間でプレゼンをする	PPTにまとめ、制限時間内にプレゼンする	PPTにまとめ、プレゼンできる	PPTに纏めることはできる	PPTもプレゼンもできない
態度	1．授業中の受講態度	姿勢を正し、メモを取り、反応をする	姿勢を正し、メモをきちんと取る	姿勢を正し、常に聴く	姿勢、傾聴が十分でない	居眠り、私語、遅刻・早退等

科目名	レジャー・リゾート論			授業番号	LE206	サブタイトル			
教員	田村　秀昭								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	余暇時間とは。ツーリズム産業は人々が余暇を過ごす余裕があるからこそ成立するビジネスであり，リゾートと称される場所で過ごすことを楽しむことをお手伝いすることがその本質でもあります。 日本人の余暇活動は温泉で寛いだり，山や海で自然を満喫したり，あるいはテーマパーク等で遊ぶことが主流となっています。 本講義では日本のレジャーとリゾートの近・現代の流れを理解し，世界のそれとの対比やレジャー・リゾートをビジネスとして成立させてゆくためのマーケティングや企画・運営等について学んでいただきます。 また，実際に身近なエリアでのリゾートビジネスについて考察します。 なお，サスティナブルツーリズム、つまり持続可能な観光を支えてゆくためにヘルスツーリズムやグリーンツーリズム，オーバーツーリズムについても考察していただきます。								
到達目標	1，レジャー・リゾートビジネスの概要を理解する 2，レジャー・リゾートビジネスの日本における歴史を理解し，将来像を描く 3，レジャー・リゾートビジネスの実態を知り，その特性を理解する 4，日本の観光政策のなかで「リゾート」がどのような位置を占めているのかを理解する 5，地域経済と結びつけるためのリゾートのあり方について理解する 6，レジャー・リゾートビジネスに関する企画力を習得する なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	レジャー・リゾートビジネスのガイダンス レジャーとは何か，リゾートとは何か。人間が求める余暇活動の中で，リゾートと呼ばれる場所，時間がいかに有効なものか。 シラバスの確認と講義を受けるにあたっての注意事項。提出課題や授業内での資格取得などについて解説する。	
第2回	レジャー・リゾートビジネスの概要 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 リゾートで生み出されるビジネス等について考察。 また、宿泊業を中心としたリゾートビジネスについての討論。	
第3回	日本のレジャー・リゾートの変遷I この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 日本人の余暇の過ごし方を歴史の観点から振り返る。 日本におけるリゾートの誕生。 リゾート開発と鉄道の関り。	
第4回	日本のレジャー・リゾートの変遷II この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 第2次世界大戦後の日本経済の復興とツーリズムの発展。 高度成長を基軸とした日本のリゾートの観念について考察。	
第5回	世界のリゾートビジネス この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 世界のリゾートの初めについて。 ヨーロッパ貴族のリゾートでの滞在と、そのリゾートの変遷。 産業革命がもたらしたツーリズムの観点。 世界最古の旅行会社の誕生。	
第6回	レジャー・リゾートの商品開発 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 旅行会社の「ハワイ」行のパンフレットを持参してください。 一緒に中を見ながら、旅行商品のつくり方などを研究します	
第7回	ハワイ政府観光局主催「ハワイ検定初級」への取組 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 全員パソコンを持参してください。 ハワイ検定に挑戦していただきます。アメリカ合衆国ハワイ政府観光局認定の公式な資格です。 この授業中に初級合格を目指し、希望者は中級へもチャレンジしてください。	
第8回	「アルプスの少女ハイジ」で読み解くヘルスツーリズムとグリーンツーリズム この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 ヨハンナ・シュピリ作の小説「アルプスの少女ハイジ」を必ず読んでから、この授業に臨んでください。 小説の中にいくつの「ツーリズム」が見つけられるか。 また、小説の時代背景を考えながら、ハイジの生きた場所、時間、人との出会いなどを考えてみましょう。 終了後には感想文を提出いただきます。	
第9回	日本の観光政策 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 日本の観光政策を紐解き、成功事例失敗事例などを考えてみましょう。 また、身近な「リゾート」が観光政策によってどうなっていったのかを検証しましょう。	
第10回	レジャー・リゾートと地域の発展 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 地方創生と観光のまとめ。 地方創生がローカル・アベノミクス政策として登場して10年になります。 元々は地方の人口減少化による地方都市の疲弊化を防ごうという人口問題が発端でありながら、 なぜ観光に力を入れることが地方創生に繋がるのか。 議論しましょう。	
第11回	映画「フラガール」で考察する地方創生と観光 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 映画「フラガール」を必ず視聴してからこの授業に臨んでください。 地方創生と観光についての議論にも発展してゆきます。 終了後、感想文を提出して頂きます。	
第12回	農村漁村のリゾート化：農泊とコンテンツ 農林水産省の地方創生事業に一つ。農山漁村振興交付金という同省の事業は全国の第一次産業従事者の付加的な収入増加のために、農泊や農家レストランなどを古民家を改装するなどして創り込んでいこうという施策。この事業の狙いと今後皆さんの身近なところで活用できないかを考察します。 この授業の中で、最終授業の際のプレゼンのネタを研究してください。	
第13回	瀬戸内海地域のサスティナブルツーリズム この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 最終回の授業のプレゼンの参考とするために、私がインドネシア教育大学で講演した内容を皆さんにご覧いただきます。 瀬戸内海をいかにリゾートとしてゆくかを一緒に考えましょう。	
第14回	岡山を舞台にしたリゾートビジネスの企画・プレゼンテーション この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 岡山・瀬戸内を舞台としたリゾートの企画をプレゼンしていただきます。 個人の持ち時間は5分。授業参加者全員で皆さんの計画を議論します。 パワーポイントで5枚程度作成。USBで自賄するか、パソコン本体を持ってきて参加してください。 イメージを膨らませ、そのリゾートでの滞在をストーリー付けして説明をして下さい。	
第15回	総括：まとめ この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返り。 レジャー・リゾート論の総まとめをします。 特にレジャー、リゾートの日本人と海外の方々との考え方の違いや実際の状況など。 日本政府の観光政策についていかにあるべきか。 消費活動を促す工夫や観光のあるべき姿、オーバーツーリズムとサスティナブルツーリズムについても研究します。	
授業計画　備考2	15回の授業の中では学外授業の設定は予定していないが，希望者は別途ツーリズム産業の現場でのインターンシップや研修の機会を設定できるように配慮したい。また、実際に農山漁村振興交付金を利用した案件の成果などについても紹介してゆく。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	積極的な授業への参画　出席は1回で1点　残り35点は積極的な発言や授業態度。毎回提出の出席カードへのコメントや感想などを評価します。
レポート	10	「アルプスの少女ハイジ」と「フラガール」：レポート（5点×2回） 原稿用紙（配布します）に手書きで1,000字程度の文章とします。
小テスト	10	WEB試験：ハワイ検定初級（合格） 実施日には各自パソコンを持参し、受験できるようにしてください。 当日欠席となった場合は自宅学習として受験してください。 アメリカ合衆国ハワイ政府観光局認定の公式な資格です。
定期試験	20	期末テストとして実施します。100点満点ですが、20点に圧縮して評価します。 出題は授業に際し配布する資料、レジュメなどからとし、個々の自筆のノート類は持参可能とします。
その他	10	岡山・瀬戸内のリゾート考察：企画提案とプレゼンテーション パワーポイント5枚程度で発表時間は5分程度とします。 授業採集に近い時間での発表となりますが、授業後半にはその要点などをお知らせします。

評価の方法：自由記載	授業への参画意欲，質疑，発言などを積極的にしてほしい。 参考図書などを明示するので，必ず熟読し，レポートを提出すること。 岡山・瀬戸内のレジャー・リゾートについて研究し，岡山・瀬戸内らしいリゾートについての発表をしていただきます。 試験は授業において配布した資料や，解説したリゾートなどの中から出題します。 授業中にハワイ検定（WEB）を受験していただきます。合格者を評価します。
受講の心得	平素からホテルやレストランなど，ツーリズム産業に関わる産業をよく観察してほしい。 また，そこに働く人々やその役割を考察してほしい。 リゾートのあり方は環境問題とともに考えることが必要です。 SDGsの考え方もこの授業の中で学びましょう。 講義においてワークショップや議論の機会などをつくります。積極的な発言をお願いします。 また，下欄に記載の「アルプスの少女ハイジ」と「フラガール」の事前学習は必須です。 当該授業の予定日前に読書し，鑑賞を終えておくことをお願いします。
授業外学修	・テキストは指定しませんが，平素からレジャー・リゾートについての参考書，資料等を読み込んでください。 ・毎回の授業内容は必ず復習をしてください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 ・小説「アルプスの少女ハイジ」を読み，映画「フラガール」を鑑賞してください。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は指定しません。毎回，レジュメや資料を準備する予定です。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
世界のリゾート＆ツーリズム徹底研究	大前研一	(株)master peace		
アルプスの少女ハイジ	ヨハンナ・シュピリ	角川文庫		640円（税別）

参考書：自由記載	旅行会社のパンフレットや観光協会等が発行する資料やパンフレット，映像などを活用する予定です。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	JTBで38年のツーリズム業界での実績。国土交通省（観光庁），経済産業省，農林水産省の審査委員などの経験あります。 観光開発プロデューサーとして中国四国エリアの地方創生に絡めた観光での地域創生のお手伝いをしてきました。 また、渡航経験は100回を超え、岡山空港からヨーロッパ、エジプト、アメリカや中国、韓国へのチャーターフライトを企画し、 お客様を案内してきた経験から、世界のリゾートや観光の在り方を見てきました。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	JTBでの38年の経験で，ツーリズム産業の全体像や特にホテルなどリゾート施設などの現状などを伝えていきたいと思います。 また，ここ10年は各省庁の委員などを務め，観光政策の在り方や観光立国日本の将来についての研究もしてきました。 令和元年度の中国運輸局長観光功労者表彰を受けるなどの功績や，インドネシア教育大学での基調講演の内容などを授業の中でお示しします。 せとうちDMO設立の基盤を創った経緯から，DMOやDMCの重要性なども大学の講義などでお話をしています。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．レジャー・リゾートビジネスの概要を理解する	世界のレジャー・リゾートビジネスについて説明できる	日本のレジャー・リゾートビジネスについて説明できる	レジャー・リゾートビジネスの概要を説明で説明できる	レジャー・リゾートのビジネスがどのようなものか説明できる	レジャー・リゾートビジネスが何か説明できない
知識・理解	2．レジャー・リゾートビジネスの日本の歴史を理解し、将来像を描く	日本のレジャー・リゾートビジネスの歴史を明確に説明し、将来像を示しながら、その課題を説明できる	日本のレジャー・リゾートビジネスの歴史について説明し、将来像を明確に語ることができる	日本のレジャー・リゾートビジネスの歴史・将来の方向性を説明できる	日本のレジャー・ビジネスの歴史を説明できる	日本のレジャー・リゾートの歴史について説明できない
知識・理解	3．レジャー・リゾートビジネスの実態を知り、その特性を理解する	レジャー・リゾートビジネスの実態を理解し、特性を説明し、課題を説明できる	レジャー・リゾートビジネスの実態を理解し、特性を説明できる	レジャー・リゾートビジネスの実態と特性の概略を説明できる	レジャー・リゾートビジネスの実態を理解する	レジャーリゾートビジネスの実態が理解できない
思考・問題解決能力	1．日本の観光政策の中で「リゾート」がどのような位置を占めているのかを理解する	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を理解し、課題を説明できる	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を説明できる	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を理解する	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を知っている	政策の存在すら理解できない
技能	1．レジャー・リゾートビジネスの企画力	岡山県のリゾートビジネスの企画を作成し、具体的な提案書としてまとめられる	岡山県のリゾートビジネス企画を作成し、具体的に説明できる	岡山県のリゾートビジネスの企画を作成できる	岡山県のリゾートについて説明できる	岡山県のリゾートを理解できない
技能	2．レジャー・リゾートビジネスのプレゼンテーション	指定時間内いっぱいで、身体全体で表現ができる	指定時間内に明確な発表ができる	指定時間内に発表できる	指定時間を余したり、時間オーバーはするが発表はする	発表ができない、しない
態度	1．授業中の受講態度	姿勢を正し、メモを取り、反応をする	姿勢を正し、メモをきちんと取る	姿勢を正し、常に聴く	姿勢、傾聴が十分でない	居眠り、私語、遅刻・早退等

科目名	地域経済学			授業番号	LE207	サブタイトル			
教員	北川　博史								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	地域経済は，人々の（経済）活動の相互依存関係の上に成立し，自然的・経済的・文化的複合体としての地域（歴史的・社会的存在としての地域）を支える経済単位である。すなわち，人間の共同的生活空間を地域として捉え，そうした地域を支える経済が地域経済となる。本講義では，地域の中でも都市と産業地域に焦点をあて，そうした地域における地域経済をどのように捉えるのかといった理論や考え方を説明するとともに，地域経済の現状と動態，さらには，具体的な課題について講義を通して一緒に考えてみたい。								
到達目標	第一に，地域経済を読み解く理論や考え方について理解し，説明できるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 第二に，地域経済の現状と動態について学び，地域の抱える課題を理解できるようになる。その上で，そうした課題の解決方法を，第一の目標で得られた理論や考え方を用いて，探ることができるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「都市，産業地域そして地域経済とは」 復習：都市とはどのような地域なのでしょうか。もう一度整理してみましょう。 予習：都市化とはどのような現象なのでしょうか。調べてみましょう。	
第2回	「都市化経済」 復習：都市化の進んだ時期や場所を確認してみましょう。 予習：都市内の土地利用はどこも同じだろうか。あるいは違うのだろうか。自分の住む街を事例に考えてみましょう。	
第3回	「都市内部構造論」 復習：自分の住む街はこの理論に当てはまるのでしょうか。考えてみましょう。 予習：都市によっては衰退する都市もあります。それはなぜなのでしょうか。考えてみましょう。	
第4回	「ジェントリフィケーションと都市再生」 復習：再生に成功した都市はほかにもあるのだろうか。調べてみましょう。 予習：最近とても元気な都市が日本も含めて世界にはいくつかあります。どういった都市でしょうか。調べてみましょう。	
第5回	「クリエイティブシティ論」 復習：クリエイティブシティではなぜ地域経済が活性化しているのでしょうか。もう一度確認しましょう。 予習：大都市は数が少なく，小都市は沢山あります。なぜなのでしょうか。考えてみましょう。	
第6回	「モノの持つ距離と中心地論」 復習：中心地論は地域経済の活性化を考える際に援用できるでしょうか。考えてみましょう。 予習：全ての都市の地域経済が活性化しているわけではないようです。なぜなのでしょうか。考えてみましょう。	
第7回	「地域構造論と都市システム論」 復習：地域構造や都市システムが地域経済の盛衰に与える影響を整理しておきましょう。 予習：日本の中では，どの地域が元気が良い（地域経済が活性化している）のでしょう。調べてみましょう。	
第8回	「日本の地域構造と地域経済」 復習：日本の地域構造の特徴をもう一度整理しておきましょう。 予習：産業地域とはどのような地域でしょうか。調べてみましょう。	
第9回	「産業立地論」 復習：なぜ産業地域が出現したのでしょうか。もう一度整理しておきましょう。 予習：地域経済を支える産業はどこでも同じなのでしょうか。あるいは違うのでしょうか。調べてみましょう。	
第10回	「空間的分業論と地域再編成」 復習：分工場経済について，もう一度確認しておきましょう。 予習：地域経済を支える産業の一つに地場産業があります。地場産業とはどのような産業のことをいうのでしょうか。調べてみましょう。	
第11回	「地場産業地域の動態」 復習：地場産業地域はどこにあるのでしょう。整理してみましょう。 予習：地域経済が活性化する「新しい産業集積」とはどのようなことを指すのでしょうか。調べてみましょう。	
第12回	「産業集積と新たな動向」 復習：新しい産業集積の典型的な事例地域はどこだったでしょう。もう一度確認しておきましょう。 予習：地域経済の疲弊している地域，活性化している地域はどこか調べてみましょう。	
第13回	「地域経済循環論」 復習：地域経済循環とはどのような考え方だったでしょうか。もう一度確認しておきましょう。 予習：日本の地域経済政策にはどのようなものがあるでしょうか。調べてみましょう。	
第14回	「地域経済政策の軌跡」 復習：日本の地域経済政策の歴史的展開についてもう一度整理しておきましょう。 予習：日本の地域産業政策によって地域経済が活性化した地域はどこでしょう。調べてみましょう。	
第15回	「地域経済政策の展開と課題－まとめにかえて－」 復習：日本の地域経済や政策の課題はどこにあるのでしょう。そしてその解決策はどのようなことが考えられるでしょうか。授業で得られた理論や事例を用いてまとめてみましょう。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	毎回意見や質問などをお書きいただきます。この内容も評価に含めます。
レポート	30	授業内容の理解度を測るために，複数回，レポートをお願いすることになります。クイズ形式のものや記述式の小レポートもあります。提出期限や様式については別途指示いたします。課題のポイントを押さえていれば高評価します。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価します。各回の主要な論点を押さえていれば高評価となるでしょう。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	地域や地域経済，地域産業の動向に関心を払っていただきたいと思います。そして，可能ならば，事例とした地域あるいはそれに類似した地域を実際に歩いてみましょう。現場をみることにより，実践力が身につくことと思います。
授業外学修	授業計画内の復習・予習に書かれていることを週当たり4時間以上実行してみましょう。毎回，完璧とはいわないまでも，時間の許す限り実行に移してみましょう。また，復習・予習を通じて疑問が生じた場合には，疑問点を書き留めておき，次の授業時のコメントペーパーを用いて積極的におたずね下さい。可能な限り回答する予定です。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	指定しません。講義中に資料を配付します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	指定しません。講義中に示す参考文献，参考図書などを積極的に活用し，学修を発展させて下さい。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．地域経済に関する理論を理解している。	学修した地域経済に関する理論について、正確に理解し説明することができる。	学修した地域経済に関する理論について、正確ではないがほぼに理解し説明することができる。	学修した地域経済に関する理論について、大まかに説明することができる。	学修した地域経済に関する理論について、正確に説明することが出来ないが、自分の言葉で表現できる。	学修した地域経済に関する理論について、全く説明することができない。
知識・理解	２．地域の社会経済的現象を理解している。	学修した社会経済的現象について、正確に理解し説明することができる。	学修した社会経済的現象について、正確ではないがほぼに理解し説明することができる。	学修した社会経済的現象について、大まかに説明することができる。	学修した社会経済的現象について、正確に説明することが出来ないが、自分の言葉で表現できる。	学修した社会経済的現象について、全く説明することができない。
知識・理解	３．日本の地域経済政策を理解している。	学修した日本の地域経済政策について、正確に理解し説明することができる。	学修した日本の地域経済政策について、正確ではないがほぼに理解し説明することができる。	学修した日本の地域経済政策について、大まかに説明することができる。	学修した日本の地域経済政策について、正確に説明することが出来ないが、自分の言葉で表現できる。	学修した日本の地域経済政策について、全く説明することができない。
思考・問題解決能力	１．地域の抱える課題とその解決策を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を捉えたものの、指示事項に沿っていない。
技能	１．地域経済に関する様々な定性的および定量的データを的確な方法で分析し、分析結果を理解することができる。	的確な分析手法によってデータ解析を行い、分析結果を正確に説明することができる。	的確な分析手法によってデータ解析を行い、分析結果を正確ではないがほぼ説明することができる。	ほぼ的確な分析手法によってデータ解析を行い、分析結果について大まかに説明することができる。	ほぼ的確な分析手法によってデータ解析を行うことができる。	的確な分析手法によってデータ解析ができない。
態度	１．講義に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、講義内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	講義に前向きに臨む姿勢が見受けられ、講義内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	講義に出席し、講義内容を理解した上でコメントシートを提出している。	講義に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	講義に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	現代ビジネス論			授業番号	LE301	サブタイトル			
教員	佐々木　公之								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義では，組織におけるビジネス実務の概念について基本的な知識，および ビジネス活動の進め方について学んでいく。また，実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り，その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。ビジネスの基本知識と現代マーケティング理論を習得しながらキャリア形成を考えていく。								
到達目標	「ビジネス概念」「ビジネスの推進力・能力開発」「ビジネス実務の基本的技術等」を身に付け，ケーススタディー等を通じてビジネスの総合的な知識を高め，論理的思考にて判断できる力を養う。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<思考・問題解決能力> の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	現代ビジネスの現状と傾向	
第2回	現代マーケティング戦略を学ぶ(1)	
第3回	現代マーケティング戦略を学ぶ(2)	
第4回	ブランディング戦略（１）	
第5回	ブランディング戦略（２）	
第6回	ブランディング戦略（３）	
第7回	サービス・マーケティング（１）	
第8回	サービス・マーケティング（２）	
第9回	サービス・マーケティング（３）	
第10回	マーケティング・コミュニケーション（１）	
第11回	マーケティング・コミュニケーション（２）	
第12回	マーケティング・コミュニケーション（３）	
第13回	チャンネルと販売（１）	
第14回	チャンネルと販売（２）	
第15回	チャンネルと販売（３）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	プロジェクトマネジメントを通じて各テーマの主要ポイントを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「前に出る力」「考え抜く力」「チームワーク力」の意味を知る。ビジネスの基礎，マーケティング理論となる原理，原則を知ると共に企画力，プレゼンテーション力を身に付ける。SNSやブランディング戦略など現代社会での事例を学びながら，実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り，その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。
授業外学修	1．予習として，授業内容に関わる箇所を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，課題のレポートを書く。 以上の内容を，週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス実務と経営学の基礎を学ぶ教科書ノート	佐々木公之、大田住吉他	銀河書籍	9784866450278	1100

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．ビジネスの理論できる	ビジネスの理論が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	ビジネスの理論を理解し、共感し疑問を持つことができる。	ビジネスの理論と講義の意図が理解することができる。	ビジネスの理論や講義の意図が概ね理解することができる。	ビジネスの理論が理解できない。
思考・問題解決能力	2．現代社会の動向を理解している	信頼できるリソースから、現代社会の動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、現代社会の動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
思考・問題解決能力	3．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	4．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	ブランド戦略論			授業番号	LE302	サブタイトル			
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	わたしたちの生活において，ブランドへの関心が年々高まったのは1980年代から1990年代の初めにかけてである。今日ブランドへの関心や競争はますます高くなり，海外のジャーナルや日本国内にもブランドに関するブランド戦略論やブランド・マネジメントの論評が多くなってきている。ブランドはどのように創られ、それを発展させ持続していくのかが最大限の関心ごとである。ブランドは今日，プライベート・ブランド，地域ブランド，グローバル・ブランドなど異なった領域においてブランドの重要性がより一層認識されるようになっている。本講義では，前半でブランドの基礎理論やブランドの機能について解説し，後半ではブランド戦略を駆使し，確実したブランド構築を成し遂げている企業の事例を用いて学習する。								
到達目標	・ブランド戦略に関する基礎理論や歴史が理解できる。 ・企業はどのようにブランド構築に取り組んで，それを持続させているのかが理解できる。 ・事例研究を通じて消費者の観点から価値創出やブランド力行使が理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞に修得に貢献する。								
授業計画 備考	毎回レジュメを配布する。								

回	概要	担当
第1回	ブランドの定義とは何か ブランドの語源，商標，ブランドの機能，ブランドの効果と影響力，ブランド・エクイティ	
第2回	ブランドと交換 交換パラダイム，交換価値，価額財，探索財，等価交換，差異からの価値創出，競争的差異	
第3回	イノベーションとブランド 包装革命とブランド，顧客の創造，新しいパターンの創出，持続的交換関係，ブランド使用	
第4回	ブランド史の構造 ブランドの歴史的構造，近代ブランド，アイデンティティの成立，消費財ブランド，ブランド・マネジメント	
第5回	統合ブランド戦略の基礎 ブランド戦略，ブランド構築，潜在的可能性，ノンブランド市場，戦略マトリクス	
第6回	経営レベルのブランド戦略 ブランド・テリトリー，６C分析，経営資源の意思決定，ブランド・アーキテクチャー，ブランド配置	
第7回	マーケティグレベルのブランド戦略 フォーカス顧客，価値の創造，セグメンテーションの困難，ポジショニング，類似化ポイント，差異化ポイント	
第8回	企業ブランド戦略とブランド拡張 企業ブランド，マネジメントの視点，ブランド拡張，動機付け，カテゴリー，パーソナリティ	
第9回	ブランドM&Aとライセンシング ブランドの買収，グローバル企業の買収，ブランド買収の効果	
第10回	グローバルブランド戦略 市場と自社の課題，自覚共通化，ブランド保有，マネジメントの課題解決	
第11回	ブランド経験とブランド信頼 ブランド経験価値，ピーク・エンド法則，信頼概念，意図に対する信頼，ブランド意図	
第12回	食品・飲料ブランドの事例 新ビジネスモデル，ブランド活性化，成熟ブランドの再活性化，市場の転機，競合と自社分析	
第13回	耐久消費財のブランド戦略（ダイソンとティファールの事例） ブランド革新，サイクロン技術，デザインの力，人口減少と高齢化，エコロジー志向	
第14回	ツーリズム・ブランド（ハウステンボスの事例） エンターテインメントブランドの再構築，オンリーワン思考，市場対応，失敗に学ぶ，顧客ニーズ	
第15回	BtoBと企業ブランド 成熟産業，事業革新，事業ドメイン，戦略単位の源泉，酸素繊維，市場の需要	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	予習や復習の状況，講義への意欲や質問，課題提出などを評価する
レポート	30	提出されたレポートは，きちんと書かれたいたかを検討し，内容のコメントを加えて返却する。
小テスト	40	キーワードの理解度，授業全体の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	・何回かの授業中での資料を読み，評価する。 ・小テストは授業全体の理解度を評価する。
受講の心得	・日常，興味ある商品やサービス，消費行動に関する内容の新聞，雑誌などに目をとおして，問題意識をもって出席すること。
授業外学修	・ 予習として，レジュメの講義内容にかかわる部分を前もって塾読し，疑問点をチェックして来ること。 ・小テストのため，配布プリント，資料を復習すること。 ・関心ある商品や企業のブランドに関する参考文献を読むこと。 以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ブランド戦略論	田中洋	有斐閣	978-4-641-16510-6	
ベーシック・マーケティング	恩蔵直人編著	同文舘出版	978-4-495-64372-0	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	企業のブランド構築の必要性を理解しているわたしたちの生活の中で企業の役割や関わりを理解している 企業の戦略の違いによって企業の収益、ブランド力が高まることが把握できる	われわれの生活の中で，企業のブランド力が影響していることを理解できる	企業にとって，ブランド力とは何かを理解している われわれ消費者の行動や購買について理解している	生産者としての企業の社会的役割や責任に関する議論ができる 企業のブランドとは何かが把握できる	企業が利益を得るために，不祥事が起こっていることが十分の理解できない	企業の不祥事の際，企業ブランドに大きく影響及ぼしていることが把握できない
思考・問題解決能力	今日の経済社会で，消費すること，売り手である企業の役割や戦略が理解できる 今日の企業はブランド構築のために，差別化戦略を遂行していることが把握できる 企業の内部での経営資源をどのようにしてブランド構築に活用しているかが理解できる	企業で起こっている諸問題に対する対応策が議論できる	日本企業の問題点を抽出し，まとめることができる	企業の基本的なブランド構築の必要性を理解している 企業の組織構造や社員の行動によって製品開発や戦略が変化していることが把握できる	基礎的なマーケティングは理解しているが、具体的な内容は十分にりかいできていない 具体的な企業の組織構造によって，製品販売の方法が異なっていることが理解できていない	ブランド戦略論の科目を理解していない 企業のブランド構築に関する概念や企業理念が理解できていない

科目名	観光経営論			授業番号	LE303	サブタイトル			
教員	田村　秀昭								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	観光産業ならではの経営上の課題やその対応策などを模索する。 観光経営の基礎知識を習得し，ホテル，旅行，運輸(航空，貸切バスなど)，エンターテ イメントなどの固有の課題を考察し， その解決方法や管理方など対策を講じてゆく。 また，危機管理の観点から災害などからの復興，再建などについて学ぶことでツーリズムをビジネスとしてとらえてゆく。								
到達目標	ツーリズム産業には一般的な企業経営とは違った課題が数多くあり，特に季節・曜日変動，立地条件や流行に左右されやすく， 設備投資額を考えると決して高収益とはならない経営リスクがあることを学んでほしい。 また，ツーリズム産業の中にあっても各業種によりその経営課題は異なるが，この違いなどを理解しながら対応策を考察してゆく力をつけてほしい。 課題を明確にし，協調しながら結論付けたり，発表する力も同時に養ってほしい。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	基本的には座学だが，課題を共有し，ディスカッションの後に集約した意見を発表する場も設定してゆきたい。 まず，講義に出席し，積極的に質問をし，議論に参加して欲しい。 観光経営という分野にとらわれず，学生としての学びの場を広げてゆきたいと思います。 時に脱線もしますが，観光産業で勤めてきた40年の経験を皆さんにお伝えしたいと思います。								

回	概要	担当
第1回	観光経営ガイダンス 観光の定義、経営の定義。 日本におけるホテル経営の初め、旅行業の初めの姿などの歴史を紐解きます。 まず、観光・ツーリズムの世界を知るところから始めてゆきます。	
第2回	観光経営の歴史 観光における経営を論じるとき、基本ベースは宿泊業（ホテル、旅館など）と旅行業は欠かすことができません。 2つの つの業種の始まりを押さえて、その辿ってきた過程を学びます。	
第3回	観光経営の課題・リスクの理解 旅行を英語でTravelといいますが、その語源はtroubleともいわれています。 トラブル、つまり事故、騒動など困難なことと理解できます。 苦難なことをなぜ人は続けてきたのか。 そして、現在は安心・安全を基本とした旅行・観光の時代になりましたが、 その経営過程においては依然としてtroubleだらけです。 そのリスクを理解し、回避するのはどうしたらよいかを考察します。	
第4回	季節・曜日変動などの経営課題：稼働率，生産性の考察 世界のバカンスの考え方では日本ほど繁閑の差を意識することはないでしょう。 しかし、日本人は旅行に出かけるといっても1泊か2泊。せいぜい思い切っても1週間どまり。 週末や連休を利用した旅行が多いでしょう。つまり、その時にしか行けないという判断で、 お客様が大変多い時と閑で集客できない時と大きな差があります。 これは稼働率や生産性を考慮すると大変な問題です。 それではどうしたらよいのか、一緒に考えましょう。	
第5回	巨大な設備投資と人的サービスへの傾斜傾向 宿泊業（ホテル・旅館など）や運輸業など、設備投資が先行して必要なうえに、人件費という経費をいかにコントロールするか。 装置産業であり人が資本である観光業の課題などを学びます。	
第6回	ホテル・旅館経営の課題 前週に引き続き、生産性などについて学びます。 宿泊業の課題は繁閑の差を如何に埋めるかなども含めて復習します。	
第7回	旅行業経営の課題（OTAとRTA，クレームとトラブル対策など） 旅行業の課題は生産性の向上とDX対策。収入率の低い産業であり、その誕生の経緯からも薄利多売の体質。 今後はいかに生き残るかを含めて、旅行業現場の経営課題などを学んでいきます。	
第8回	航空業界の課題 今年1月2日に羽田空港で発生した航空機の衝突事故をはじめとした、事故への対処という課題を含めて考察します。 航空機という先行投資の装置産業であり、人がその資本である航空業界の課題は何で、どう対応してゆけばよいのか。 一緒に考えてみましょう。	
第9回	鉄道経営と沿線開発の課題 かつて鉄道経営の基本は不動産業（デベロッパー）としての経済活動が中心でした。 都市部から離れた地域にはレジャー施設を展開し、その一方で通勤圏内と思える地区には住宅を建築する不動産投資。 沿線開発の名のもとに行われた都市開発、環境への対処などを一緒に考えましょう。	
第10回	リゾート経営の課題：日本の観光政策の失敗事例 「リゾート法」・「観光圏事業」など、日本の観光政策は厳しい評価を受けるものが多い。 現在では「日本版DMO」の推進をしているが、世界のDMOと比べて何がどう違うのか。 事例研究をする。	
第11回	テーマパーク，遊園地などアミューズメント，コンベンション施設の経営の課題 皆さんも大好きなディズニーリゾートやUSJなどはどのような経営計画を立て、 お客様へのサービス提供をしているのでしょう。リピーターがいかに獲得できるか。 一方で「リゾート法」で全国各地に建設されたのはホテル等宿泊施設のみならず、 レジャー施設も同様に全国に開発されました。その顛末は如何だったのでしょう。 意見交換しながら考察をします。	
第12回	観光経営の事例研究(レポート対象) 本講義の過程において研究すべきテーマを皆さんと考えてゆきます。 それぞれがテーマや対象業種などを研究し、事例を考察してゆきます。 発表後にはレポート提出を求めます。	
第13回	ツーリズムビジネスの将来についての考察：ディスカッションと整理 観光産業の将来はどうなるのか、あるいはどうすれば発展してゆくのかを意見交換をして、纏めてゆきましょう。	
第14回	第13回のまとめと発表 前週意見交換し、纏めていた課題などをPPTで発表していただきます。 その発表に対しての意見交換をします。	
第15回	観光経営論総括 これまでの観光経営についての講義のまとめをします。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。 出席は1回につき1ポイントとするが、残りの35点は授業に臨む姿勢・態度や発言を評価する。 また、毎回出席カードへのコメントを求めるが、質問や感想などで授業で如何に学習したかを評価の対象とする。
レポート	10	授業の中で課題を出します。それに対してのレポートを求めます。 観光産業あるいは観光地の経営について自主学習をしていただきます。
小テスト	10	復習の意味を含めて小テストを数回実施します。 基本的には用語の解説などを通して学習した内容を確認します。
定期試験	20	期末試験。授業中に配布した資料や自筆のノートの持ち込みは可とする。 100点満点を20点に圧縮して全体評価に加えます。
その他	10	第13・14回のディスカッションとプレゼンテーションの評価をします。 積極的に議論に参加し、自身の意見を姿勢よく発表してください。

評価の方法：自由記載	座学を中心とした授業の中でいかに予習をし，復習ができているかを確認しながら進めてゆきます。 また，各単元の中で自発的な発表やレポート提出などを歓迎します。公欠の場合のはレポートの提出を求めます。
受講の心得	予習と復習を心掛け，授業時に取り上げた用語や内容について書籍などで調べ， 情報収集を行うなどの自主的な学習に努めましょう。 授業中にはペア・グループでの発表活動を実施しますので，積極的に参加してください。 ツーリズム産業を活用した地域振興策を考える習慣をつけてください。 積極的に質問をし，用語などでわからないままに進むことの無いようにしてください。
授業外学修	・講義内容については予習をしましょう。 次回講義のポイントについて毎回お伝えをします。 ・毎回の授業内容は必ず復習してください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
観光概論	穴戸学ほか	(株)JTB総合研究所		2，477円（税抜き）

参考書：自由記載	市中にある観光パンフレット，旅行商品パンフレット，ホテル・旅館のパンフレットなども参考になります。 講義によっては授業で使用する場合があります。各施設，事業所等で手に入れることを求めることがあります。 また、毎回の授業では新聞掲載の記事や専門誌から抜粋した資料を配布します。 経営学や地域振興のお話も資料を交えてお伝えします。
その他	
備考	試験は期末と講義中に小テストを実施します。 期末テストは配布した資料や自筆のノートは持込を可とします。 小テストは講義の復習を兼ねたものです。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	(株)JTBでの38年間の実績。中国運輸局，中国経済産業局，中国四国農政局などでの観光関連，街づくり，地方創生などの委員経験など。 イベント・コンベンション、観光調査、広告宣伝などの事業経験もあります。 台湾の高校の顧問も務めていますので，国際交流などについてもお話しできます。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	なし
実務経験をいかした教育内容	JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に，「現場」で起こっている，起こる可能性などの事象を具体的にお話します。 行政の委員などの経験をもとに観光行政の在り方や成功・失敗事例の原因なども事例を交えて解説してゆく予定です。 また、現在は美作市議会議員の立場でもあり、行政の考え方や政策へいかに活かすかなどのお話もさせていただきます。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．観光産業の経営のリスクを理解する.	観光経営のリスクを説明し、一般経営との差を説明できる	観光経営の基礎知識を習得し説明できる	観光経営の基礎知識習得	観光経営の課題がわかる	観光経営の意味が分からない
知識・理解	２．観光産業の種類によって課題が違うことを理解する	観光産業の４種類以上の課題を説明できる	観光産業の３職種の課題を説明できる	観光産業の課題を説明できる	観光産業に課題があることは知っている	観光産業の課題を見つけられない
知識・理解	３．観光産業の危機管理を理解する.	観光産業の危機管理策を纏め、対応を説明できる	観光産業の危機管理を理解し、対応策を説明できる	観光産業の危機管理を理解できる	観光産業に危機管理対応が必要なことを理解する	観光産業の危機管理を理解できない
思考・問題解決能力	１．課題を明確にし、発表する	課題をPPTに纏めて時間内にプレゼンできる	課題をPPTに纏め、発表できる	課題を纏め、発表できる	課題を纏めることができる	課題を纏められない
態度	１．授業中の受講態度	姿勢を正し、メモを取り、反応をする	姿勢を正し、メモをきちんと取る	姿勢を正し、常に聴く	姿勢、傾聴が十分でない	居眠り、私語、遅刻・早退等

科目名	リーダーシップ論			授業番号	LE401	サブタイトル			
教員	佐々木　公之								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	ＶＵＣＡ(Volatility（変動性），Uncertainty（不確実性），Complexity（複雑性），Ambiguity（曖昧性）の頭文字から作られた言葉）と言われる変化の大きな時代には，リーダーの指導力が問われる。本講義では下記を重点的に取り上げる。 (1)主要なリーダーシップ論について学ぶ。 (2)現代の優れたリーダー達がどのように指導力を発揮し，変革を興し，地域に貢献したかについて学ぶ。 (3)これらを踏まえて現代社会が必要とするリーダーシップ論について議論し，理解を深める。								
到達目標	本講義においては経営学における主要なリーダーシップ論について学ぶ。また，ビジネス界が生み出したリーダー達の生き方やリーダーシップのあり方を学ぶ。加えて，ＶＵＣＡの時代と言われる現代をどう生きるかについて議論する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	前半はリーダーシップ論の主要理論について学ぶ。 後半は、グループワークにより現代のリーダーを取り上げ，その功績や生き方について学ぶ。								

回	概要	担当
第1回	本講義の目的と概要	
第2回	リーダーシップ特性論	
第3回	リーダーシップ行動論	
第4回	人的資源を活かすリーダーシップ	
第5回	カリスマ的リーダーシップ論	
第6回	サーバントリーダーシップ論	
第7回	変革的リーダーシップ論	
第8回	社会的責任とリーダーシップ論	
第9回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー１	
第10回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー２	
第11回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー３	
第12回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー４	
第13回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー５	
第14回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー６	
第15回	まとめとディスカッション	
授業計画　備考2	レジュメを配布する。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	リアクションペーパーを評価する
レポート・定期試験	50	最終課題のレポートを評価する

評価の方法：自由記載	リアクションペーパーの提出を求め，評価の対象とする。 講義の中で課題（プレゼンテーション）を提示し，その課題についてのレポート・発表を評価する。 最終レポート、定期試験は基本的概念や理論の理解度を評価する。
受講の心得	日ごろから新聞や経済誌を読み，経済の変化について関心を持ち，下記の紙（誌）等を毎日読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 東洋経済
授業外学修	1 予習として，講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として，レジュメを再度確認すること。 3 発展学修として，講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を，週当たり 4 時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
リーダーシップ入門	金井 壽宏	日経BPマーケティング	978-4532110536	

使用テキスト：自由記載	レジュメを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
リーダーシップの名著を読む	日本経済新聞社	日経BPマーケティング	978-4532113346	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	資生堂，ユニリバー，マテル，ロレアルにおける豊富なマーケティングや経営の経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	資生堂，ユニリバー，マテル，ロレアルなどでの実際の経営経験を踏まえて，できるだけ分かりやすく生きたリーダーシップ論について解説する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	リーダーシップの考え方が理解できる	リーダーシップの考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	リーダーシップの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	リーダーシップの考え方と講義の意図が理解することができる。	リーダーシップの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	リーダーシップの考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
技能	チームビルディングが身に付いてる。	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる。	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
技能	コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている。	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。
態度	リーダーシップを身につけるとする態度である。	リーダーシップ論を身につけるとする態度で聴講し、直ぐに行動している。	リーダーシップ論を身につけるとする態度で取り組んでいる。	リーダーシップ論を身につけるとする態度で取り組んでいるが、行動力には欠けている。	リーダーシップ論を身につけるとする態度に若干欠けている。	リーダーシップ論を身につけるとする態度ではない。

科目名	ライティング			授業番号	LF201	サブタイトル			
教員	ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業は，仕事やビジネスのための，さまざまなタイプの短く簡潔な文章を書くことに焦点を当てる。これには，情報要求，招待，宿泊予約のための電子メール，入国カード，文書の付け紙，ファックス送付状，就職応募書類，履歴書を含む。学生は，毎時間出席し，毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが，学生は積極的に授業に参加し，できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。この授業は，「インテグレーテッド・イングリッシュC」，「基礎ゼミ」，「専門ゼミ」などの授業と関連している。								
到達目標	この授業の目標は，学生の英語で書く基本的な能力と，短く簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法，語彙，句読法，綴り字法の知識を伸ばすことである。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	書くことについて考える	
第2回	導入を書く	
第3回	様々な様式を埋める	
第4回	感謝を述べる	
第5回	情報を要求する	
第6回	ユニット小テスト１; 詳細な情報を得る	
第7回	招待し，会合のを手配する	
第8回	面会時間・場所を決め，それを変更する	
第9回	指示を与える	
第10回	問題に対応する	
第11回	ユニット小テスト2; 描写する	
第12回	意見を言い，推薦する	
第13回	休暇について書く	
第14回	趣味について書く	
第15回	仕事に応募する ユニット小テスト３	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	英語を使っての授業への積極的参加
レポート	10	毎週の作文課題
小テスト	45	ユニット小テスト
定期試験		
その他	20	課題

評価の方法：自由記載	英語を使っての授業への積極的参加 25%，毎週の作文課題 10%，ユニット小テスト 3x15%，課題 20%
受講の心得	学生は，毎時間出席し，毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが，学生は積極的に授業に参加し，できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。
授業外学修	授業で直接指導できる時間は限られているので，学生は，自習と毎時間の授業のための準備と課題に週当たり４時間以上の学修が必要である。この学習は，一度に行うよりも，毎日30-40分学修するのが効率的である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	学生は，教科書とともに和英辞典，A4サイズのノート，授業プリントと課題を入れた授業用ファイル，自習課題を毎時間持参すること。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法，語彙，句読法，綴り字法の知識を伸ばすことである。	文章構造理解 理解力が深く、文章構造を素早く把握する。	文章構造を理解し、適切に解釈できる。	基本的な文章構造を理解できる。	文章構造の理解に苦労している。	文章構造の理解がほとんどない。
知識・理解	２．簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法，語彙，句読法，綴り字法の知識を伸ばすことである。	語彙知識 多様な語彙を的確に使用する。	主要な語彙を適切に使用できる。	基本的な語彙を理解し、使用できる。	語彙の理解や使用に困難がある。	語彙の理解や使用がほとんどない。
思考・問題解決能力	１．批判的思考	批判的思考 情報を深く考え、独自の見解を形成できる	情報を理解し、それに基づいて意見を形成できる	基本的な情報を理解し、それに基づいて意見を形成できる。	情報の理解や意見形成に苦労する	情報の理解や意見形成がほとんどない。
思考・問題解決能力	２．創造的思考	創造的思考 新しいアイデアや視点を豊富に提供する。	新しいアイデアや視点を提供できる。	基本的なアイデアや視点を提供できる。	アイデアや視点の提供に苦労する。	アイデアや視点の提供がほとんどない。
技能	１． 高度なライティング技能を持つ。	明確で効果的な文章を書く。	明確な文章を書く。	単純な文章を書く。	文章の作成に困難がある。	文章を書くのが非常に困難
技能	２． 様々文章の書類を理解する。	複雑なテキストを理解する。	主要なテキストを理解する。	単純なテキストを理解する。	テキストの理解が困難	テキストを理解するのが非常に困難

科目名	時事英語			授業番号	LF202	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	米国の経済週刊誌 Bloomberg Businessweek の論説・記事を扱ったテキストを教材にして，時事英語特有の表現や国際社会で起こっている様々な問題についての理解を深めるとともに，英語の４技能を高める。具体的には，テキストを活用してトピックについての読解力，聴解力を高めるとともに，グループワークやペアワークを通して，自らの意見を口頭や筆記により表現する力を高める。また，CNNやBBCのニュース映像やインターネット上に公開されているニュース記事等を活用して，より新鮮なニュースに触れる機会を設ける。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・時事英語，ニュース英語でよく使われる英語表現を理解することができる。 ・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。 ・英語の４技能を駆使して情報を収集し発信できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Unit1 A Mom-to-Be in the Corner Office 有給出産休暇に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第2回	Unit2 In Defense of Affirmative Action アファーマティブ・アクションに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第3回	Uniyt3 Keeping the Internet Safe from Rogue Regimes インターネットの安全に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第4回	Unit4 Fighting Hacks with National Security Standards サイバー攻撃との戦いに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第5回	Unit5 Raise the Minimum Wage 最低賃金に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第6回	Unit6 America's Real Immigration Crisis アメリカの移民政策に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第7回	Unit7 France's Fleeing Billionaire フランスの税金に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第8回	Unit8 Don't Bring Back the Drachma ギリシャの債務不履行に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第9回	Unit9 One Europe，Many Tribes (1) ユーロに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第10回	Unit10 One Europe，Many Tribes (2) ユーロに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第11回	Unit11 In Japan，Retirees Go On Working 年金負担に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第12回	Unit12 Japan，China and A Pile of Rocks (Part1) 領土紛争に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第13回	Unit13 Japan，China and A Pile of Rocks (Part2) 領土紛争に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第14回	Unit14 China Struggles to Publish Accurate Data 中国に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第15回	Unit15 Singapore's Pay-for-Performance Plan シンガポールの報酬と腐敗に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
15章版：ニュースメディアの英語 ―2024年度版― 15 Selected Units of English through the News Media –2024 Edition–	高橋優身／伊藤典子／Richard･Powell 編著	朝日出版	978-4-255-15713-9	1,430円（本体1,300円＋税）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)･県総合教育センター(４年)･県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量のまとまった英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，やや長い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.時事的なニュースでよく使われる英単語や英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を活用して時事的なニュースに積極的に触れ，ニュース中の含まれる英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，短い文章を書いたりすることができる。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，自ら調べ理解することができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，自ら積極的に調べ，理解することができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，自ら調べることができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，読んだり聞いたりすることができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，読んだり聞いたりすることができない。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持てない。
技能	1.英語を読むことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って，一定分量のまとまった英文を読んんで内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って，やや長い英文を読んで内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて，短い英文を読んで，おおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの，短い英文を読んでも内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んでも内容を理解することができない。
技能	2.英語を書くことができる	既習の英単語や英語表現を活用して，文章を書いて，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，短い既存の文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，英語として書くことができない。
技能	3.英語を聞くことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って，一定分量のまとまった英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って，やや長い英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて，短い英文を聞いて，おおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの，短い英文を聞いても内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を聞いても内容を理解することができない。
技能	4.英語を話すことができる	既習の英単語や英語表現を活用して，相手と話して，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を発話したりして，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，相手と短い対話をしたり，既存の対話文を相手と再現することができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，相手と短い対話をしたり，既存の対話を相手と再現することはできない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，既存の対話を相手と再現することもできない。

科目名	英語ディスカッション			授業番号	LF203	サブタイトル	なし		
教員	森年 ポール								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業は、学生が英語で自分の意見を形成し、表現し、それを裏付ける能力と、批判的に思考する能力を、学生自身に直接関係したり重要であったりするビジネス 問題を議論することを通して伸ばすことを目標とする。 This course aims to develop students' ability to form, express and support their considered opinions in English and to think critically, through discussion of business issues that should be directly relevant and important to the students.								
到達目標	学生は、例えばマーケティング、ビジネス倫理、人事決定と他ビジネス的に関連した話題を、大人として議論することを期待されている。学生は、自分の考えやその理由を、意見の共有、議論を通して英語で伝えることになる。学生は、自分の意見や感情、そしてそのもとなる信念を熟考し、批判的に考えることができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。 Students are expected to discuss marketing, business ethics, personnel decisions and other business-related topics in a mature way. English should be used to communicate your ideas and the reasons for those ideas through opinion-sharing and discussion. You will learn to reflect on your opinions, feelings and the beliefs they are based on, and to think more critically. This course will contribute to acquiring knowledge and understanding, thinking and problem-solving abilities, skills and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.								
授業計画 備考	このコースは、積極的に参加している学生が英語を使い、ビジネス関連のトピックについて考えることに依存しています。このコンテンツは、学生が英語、ディスカッションスキル、およびビジネス文化の理解を向上させるのに役立ちます。 This course relies on students participating actively to use English and to think about business-related topics. The content will help students to improve their English, discussion skills, and their understanding of business culture.								

回	概要	担当
第1回	Introduction to the course コースの紹介, Course administration 授業の進め方, Final exam explanation 定期試験の説明 What is 'Discussion'? 「ディスカッション」とは What are the purposes of discussion? ディスカッションの目的は何ですか？	
第2回	Discussion point - Opinion vs facts Discussion topic - What makes a good company? 何が良い会社になるのか？	
第3回	Discussion point - Types of supporting information サポート情報の種類 Discussion topic - Which is more important: qualifications or experience? どちらがより重要ですか：資格または経験？	
第4回	Discussion point - Deciding your own opinion 自分の自身の意見を決める Discussion topic - What does 'professionalism' mean? 「プロフェッショナル」とはどういう意味ですか？	
第5回	Short test 1 Discussion topic - Should we hire a younger or older person? 若い人を雇うべきですか、それとも年上の人を雇うべきですか？	
第6回	Discussion point - Explaining your opinion あなたの意見を説明する Discussion topic - Which management style is best? どの管理スタイルが最適ですか？	
第7回	Discussion point - Supporting your opinion 自分の意見を支持する Discussion topic - Who should be fired? 誰を解雇すべきですか？	
第8回	Discussion point - Listening to other people's opinions 他の人の意見とサポート情報を聞く Discussion topic - Should we hire a man or a woman? 男性と女性のどちらを雇うべきですか？	
第9回	Discussion point - Evaluating other people's opinions and supporting information 他人の意見を評価し，情報を裏付ける Discussion topic - Who should be promoted? 誰を昇進させるべきですか？	
第10回	Short test 2 Discussion topic - Which marketing strategy is most effective? どのマーケティング戦略が最も効果的ですか？	
第11回	Discussion point - Refuting another person's opinions and supporting information 他人の意見に反論し、裏付けとなる情報 Discussion topic - How to manage debt or credit 債務または信用を管理する方法	
第12回	Discussion point - Showing that supporting information is incorrect サポート情報が正しくないことを示す Presentation preparation (1) - Bid for a contract (Prepare your bid's content) 契約の入札（入札内容の準備）	
第13回	Presentation preparation (2) Bid for a contract (Prepare your presentation) 契約の入札（短いプレゼンテーションを準備する）	
第14回	Presentations and discussions (1) - Present your bids. Who gets the contract? 入札プレゼンテーション。誰が契約を結ぶのですか？	
第15回	Presentations and discussions (2) - Present your bids. Who gets the contract? 入札プレゼンテーション。誰が契約を結ぶのですか？ Short test 3 Course evaluation コース評価	

授業計画 備考2	このコースは、学生が以前のレッスンを使用してビジネス英語とディスカッションスキルを向上できるように設計されています。したがって、できるだけ多くのレッスンに参加することが重要です。 The course is designed so that students can improve their business English and discussion skills using previous lessons. It is therefore important to attend as many lessons as possible.

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
Active participation in English during the lesson.	20	Use English as much as you can in the lesson. レッソンではできるだけ英語を使いましょう。
Report: Bid for a contract.	25	契約への入札について説明する短いレポートを作成します。 Write a short report to explain your bid for the contract.
Presentation: Bid for a contract	25	Presentation and discussion of the presentation's contents.
3つの小テスト 3 short tests	30	小テストでは授業内容の理解度を確認します。 The short test checks your understanding of the lessons' contents.

評価の方法：自由記載	参加とショートテストは個別に評価されますが、最終的なディスカッションとプレゼンテーションはグループワークです。グループの各メンバーはチームをサポートする必要があります。 The participation and short tests are evaluated individually, but the final discussion and presentation are group work. Each member of the group must support their team.
受講の心得	大学の出席方針に従って。 In accordance with the university's attendance policies.
授業外学修	授業外で、授業の復習や準備，課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。 Students should spend 2 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing research, homework, reports, self-study or other assignments.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、授業ファイル、ノート、ワークシート、課題など）をすべて持参すること。この授業は、積極的な授業参加と比較的高いレベルの英語を必要とする。 Students should bring their dictionaries, course files, notebooks, worksheets, homework and other necessary materials to every class. This course requires active participation in English and a relatively high level of English.			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 会話などの他の形式の談話と区別する、ディスカッションの談話の特徴を理解します。	会話などの他の形式の談話と区別する、ディスカッションの談話の特徴の全範囲を理解します。	会話などの他の形式の談話と区別する、ディスカッションの談話の特徴のほとんどを理解しています。	会話などの他の形式の談話と区別する、ディスカッションの談話の特徴のいくつかを理解します。	会話などの他の形式の談話と区別する、ディスカッションの談話の特徴をいくつか理解します。	会話などの他の形式の談話と区別する、ディスカッションの談話の特徴をまったく理解していません。
知識・理解	2. 事実と意見の違いを理解する。	事実と意見の違いについて理論的にしっかりと理解を示し、それを実際の議論に効果的に適用できる。	事実と意見の違いを理論的によく理解しており、それを実際の議論に効果的に適用できる。	事実と意見の違いについて理論的には明確に理解しているが、それを実際の議論に適用するのは難しい。	事実と意見の違いについては漠然と理解していますが、それを実際の議論に適用する能力はほとんど、またはまったくありません。	事実と意見の違いについての理論的理解も実際の応用も示していない。
知識・理解	3. コースで取り上げた英語ディスカッションに役立つフレーズを理解します。	コースで取り上げられる英語ディスカッションのための幅広いフレーズの知識と理解を示します。	コースで取り上げられる英語ディスカッションのための幅広いフレーズの知識と理解を示します。	コースで取り上げられる英語ディスカッション用のフレーズのいくつかについての知識と理解を示します。	コースで取り上げられる英語ディスカッション用のいくつかのフレーズについての知識と理解を示します。	コースで取り上げられる英語ディスカッションのフレーズについて、まったくまたはほぼ完全に知識や理解が欠けていることを示しています。
思考・問題解決能力	1. 技術的以外の問題やトピックについて考え、それに対する自分の立場を特定できる。	一貫して効果的に、非技術的な問題やトピックについて考え、それに対する自分の立場を特定することができます。	通常、非技術的な問題やトピックについて考え、それに対する自分の立場を特定できます。	時々、非技術的な問題やトピックについて考え、それに対する自分の立場を特定できる。	技術的ではない問題やトピックについて時折しか考えず、それに対する自分の立場を特定することしかできません。	技術的以外の問題やトピックについて考える能力や、それに対する自分の立場を特定する能力がありません。
思考・問題解決能力	2. 論理的なサポート情報を使用してその立場を構築し、サポートできる。	論理的な裏付け情報を使用して、一貫して効果的にその立場を構築およびサポートできます。	通常、論理的なサポート情報を使用してその立場を構築し、サポートできます。	場合によっては、論理的な裏付け情報を使用してその立場を構築し、サポートできることもあります。	非技術的な問題やトピックについて時々考え、それに対する自分の立場を特定することしかできません。	論理的な裏付け情報を使ってその立場を構築し、サポートする能力がないことを示しています。
思考・問題解決能力	3. 他人の議論の論理的誤りを特定できる。	他人の議論の論理的誤りを一貫して効果的に特定できる。	通常、他人の議論の論理的誤りを特定できる	他人の議論の論理的誤りを特定できることがある	他人の議論の論理的誤りを時折しか特定できない	他人の議論の論理的誤りを特定する能力を示さない
技能	1. さまざまな情報をもとに、自分の意見や裏付けとなる情報を英語で伝えることができる。	あらゆる種類の情報を使用して、自分の意見や裏付けとなる情報を英語で一貫して効果的に伝えることができます。	通常、幅広い種類の情報をもとに、自分の意見や裏付けとなる情報を英語で伝えることができます。	限られた種類の情報を使って自分の意見や裏付けとなる情報を英語で伝えることができることがある。	非常に限られた種類の情報を使用して、自分の意見や裏付けとなる情報を英語で時々伝えることしかできません。	あらゆる種類の情報について、英語で自分の意見や裏付けとなる情報を伝える能力がありません。
技能	2. 他の人の意見や裏付けとなる情報に耳を傾け、理解することができます。	他の人の意見や裏付けとなる情報を一貫して効果的に聞き、理解することができます。	通常、他の人の意見や裏付けとなる情報に耳を傾け、理解することができます。	時には他の人の意見や裏付けとなる情報に耳を傾けて理解することができます。	他の人の意見や裏付けとなる情報をたまにしか聞いて理解できない。	他の人の意見や裏付けとなる情報に耳を傾けて理解する能力がないことを示しています。
技能	3. 他の人の意見や裏付けとなる情報を論理的根拠に基づいて分析し、異議を唱えることができます。	一貫して効果的に分析し、論理的根拠に基づいて他の人の意見や裏付けとなる情報を分析し、異議を唱えることができます。	通常、論理的根拠に基づいて他の人の意見や裏付けとなる情報を分析し、異議を唱えることができます。	時には他の人の意見や裏付けとなる情報を論理的に分析し、異議を唱えることができます。	他人の意見や裏付けとなる情報を論理的に分析し、反論できることはたまにしかありません。	他人の意見や裏付けとなる情報を論理的根拠に基づいて分析し、異議を唱える能力がありません。
態度	1. コースの目標を達成するために、レッスン中およびレッスン後も努力します。	コースのすべての目標を達成するために、レッスン内外で一貫した努力を続けます。	コースのほとんどの期間、レッスン内外で、コースのすべての目標を達成するために努力します。	コースの一部の目標を達成するために、レッスン内およびまたはレッスンを超えて、コースの一部で行われた努力。	コース目標の一部を達成するために必要な最小限の努力のみを行います。	コースの目標を達成するためにほとんど、またはまったく努力しません。
態度	2. コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を持つこと。	コース全体を通じて、コースの目標、内容、アクティビティ、および他の生徒に対して一貫して前向きな姿勢を持っています。	コースのほとんどの期間において、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの一部では、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して積極的な態度を示している証拠はほとんどありません。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して否定的な態度を公然と示します。
態度	3. レッスン中はスタッフや他の生徒に対して適切かつ敬意を持って行動すること。	人の行動は常に適切であり、スタッフと学生に対して敬意を持っています。	ほとんどの場合、人の行動は適切であり、スタッフや学生に対して敬意を持っています。	場合によっては、職員や学生に対して適切かつ敬意を持った行動が行われます。	職員や学生に対する態度は適切でも敬意を払うものでもなく、中立的です。	職員や学生に対する態度が不適切であったり、無礼な場合があります。

科目名	観光英語B			授業番号	LF204	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この講義では海外から日本を訪れる留学生，旅行者などに対して，英語で日本紹介や簡単な通訳案内ができるようになることを目的としている。日本を訪れる人々に日本のことをより良く知ってもらうためには，英語と日本語の知識を習得する必要がある。なお， 各ユニットに関連したテーマについて英語で発表を行う。								
到達目標	本講義では，日本の観光地について英語で学び，その知識を自分の言葉を使って英語で表現できるようにすることを目標とする。日本国内の観光地で通訳案内をする際に，英語で円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Chapter 1 Japan's Top Three Castles Nagoya Castle， Osaka Castle， Kumamoto Castle 日本三大名城に関する英語表現を学ぶ	
第2回	Chapter 2 Japan's Top Three Festivals The Gion Festival， the Tenjin Festival， the Kanda Festival 日本三大祭に関する英語表現を学ぶ	
第3回	Chapter 3 Japan's Top Three Mountains Fujisan， Tateyama， Hakusan 日本三名山に関する英語表現を学ぶ	
第4回	Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs Dogo Onsen， Arima Onsen， Shirahama Onsen 日本三名泉に関する英語表現を学ぶ	
第5回	Chapter 5 Japan's Top Three Gardens Kenrokuen， Korakuen， Kairakuen 日本三名園に関する英語表現を学ぶ	
第6回	Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles Raku Ware， Hagi Ware， Karatsu Ware 日本三大陶磁器に関する英語表現を学ぶ	
第7回	Chapter 7 Japan's Top Three Night Views Mount Hakodate， Mount Maya， Mount Inasa 日本三大夜景に関する英語表現を学ぶ	
第8回	Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods Tempura， Sushi， Sukiyaki 日本三大料理に関する英語表現を学ぶ	
第9回	Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves Ryusendo， Ryugado， Akiyoshido 日本三大鍾乳洞に関する英語表現を学ぶ	
第10回	Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots Matsushima， Amanohashidate， Miyajima 日本三景に関する英語表現を学ぶ	
第11回	Chapter 11 Japan's Top Three Waterfalls Fukuroda Falls， Kegon Falls， Nachi Falls 日本三名瀑に関する英語表現を学ぶ	
第12回	Chapter 12 Japan's Top Three Disappointing Places Sapporo Clock Tower， Harimaya Bridge， Hollander Slope 日本三大がっかり名所に関する英語表現を学ぶ	
第13回	Chapter 13 Japan's Top Three Ekiben Ikameshi， Touge no Kamameshi， Masu no sushi 日本三大駅弁に関する英語表現を学ぶ	
第14回	Chapter 14 Japan's Top Three Udon Sanuki Udon， Inaniwa Udon， Mizusawa Udon 日本三大うどんに関する英語表現を学ぶ	
第15回	Appendix Aomori， Fukushima， Chiba， Kanagawa， Tokushima， Okinawa / まとめ 各県に関する英語表現を学ぶ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	50	毎回授業開始時に前回の授業内容に関する小テストを行う。観光英語に関する理解度を評価する。
定期試験		
その他	30	課題のテーマについて調べ適切にまとめ，自分の考えを英語で具体的に発表できていること。発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	背景となる日本事象全般に関する知識が必要となるので，日頃から知識獲得に努めてほしい。
授業外学修	1　予習として，テキストを読み，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。また、練習問題には答えておくこと。 2　復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 3　発展学習として，教科書で取り上げられている観光地やテーマに関連した観光地について調べる。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
英語で学ぶ日本三選	坂部俊行・岡島徳昭・William Noel	南雲堂	978-4-523-17788-3	2，000円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．観光に関する英語の語彙や表現を理解している	観光に関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、それを他の場面でも応用して使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現を理解し、例に倣って自分で使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を覚えている。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を理解していない。
知識・理解	２．観光に関する英文を読解することができる	観光に関する英文を読んで理解し、それを基に自らの意見を持ち、ディスカッションすることができる。	観光に関する英文を読んで理解し、それを基に自らの意見を持つことができる。	観光に関する英文を読んで理解することができる。	観光に関する英文を読んで一部を理解することができる。	観光に関する英文を読んだり理解することができない。
知識・理解	３．国内の観光地に関する知識を身につけている	国内の観光地に関する知識を積極的に得ようとし、自らの言葉で説明することができる。	国内の観光地について積極的に調べ、理解している。	国内の観光地について、授業で扱った項目については知識がある。	国内の観光地について、授業で扱った項目について一部知識がある。	国内の観光地に関する知識がない。
技能	１．国内の観光地に関する英語表現を使って他者と口頭でコミュニケーションをとることができる	既習の語彙や英語表現を活用して，国内の観光地に関する内容を英語で自由に表現し、相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して，国内の観光地に関する内容を英語で表現し、相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，国内の観光地に関する簡単な内容を英語で伝え、理解することができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現、相手の言っていることは英語で理解できるが、自分の伝えたい内容を英語で表現することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず，国内の観光地に関して既存の英文を用いても相手とコミュニケーションをとることができない。
技能	２．国内の観光地を紹介する文章を英語で作ることができる	既習の英単語や英語表現を活用して，文章を書いて，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，短い文章を書いたりして，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，短い既存の文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，英語として書くことができない。
技能	３．国内の観光地について英語で発表することができる	既習の語彙や英語表現を活用して，観光地について英語で自由に説明をすることができる。	既習の語彙や英語表現を応用して文章を作り，観光地について英語で説明をすることができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，観光地について簡単な内容を短い英文で伝えることができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現は理解できるが，短い英文でも観光地について説明することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず，既存の英文を用いて観光地について説明することができない。

科目名	グローバル経済論			授業番号	LF205	サブタイトル			
教員	山中 匡								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	ヒト,モノ,カネの国境を越えた移動が拡大する経済のグローバル化という現象を「貨幣」「会社」「移民」「環境問題」など様々なトピックを通して講義する。								
到達目標	経済のグローバル化が社会にもたらす影響を,複数の視座から説明できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	経済のグローバル化とは グローバル化と国際化の違いについて理解する。	
第2回	比較生産費の理論 リカードの比較生産費の理論を通して「絶対優位」「比較優位」の意味を理解する。	
第3回	自由貿易の利益と損失 輸入または輸出が消費者余剰,生産者余剰に与える影響について理解する。	
第4回	貨幣の機能と役割 貨幣が現在の不換紙幣になるまでの歴史とその役割について理解する。	
第5回	外国為替,1 外国為替の仕組みと為替レートの変動が経済に与える影響について理解する。	
第6回	外国為替,2 変動相場制における為替レートが通貨の需要と供給によって決まることを理解する。	
第7回	環境問題 環境問題の構造を「囚人のジレンマ」という枠組みを通して理解する。	
第8回	前半部分(第1～7回)のまとめ 前半部分から,いくつか議題を取り上げ議論することで知識や理解を深める。	
第9回	EUの発展 EUの設立目的,EU域内での移民問題について理解する。	
第10回	ユーロの役割と問題点 共通通貨ユーロのメリットやデメリット,EU域内の金融政策について理解する。	
第11回	株式会社の仕組み 株式会社の仕組みと株主との関係について理解する。	
第12回	会社と雇用慣行 日本的雇用慣行,欧米的雇用慣行の違いと本質について理解する。	
第13回	移民問題,1 日本の移民受け入れの制度と現状について理解する。	
第14回	移民問題,2 移民の増加が労働市場に与える影響について理解する。	
第15回	後半部分(第9～14回)のまとめ 後半部分から,いくつかの議題を取り上げ議論することで知識や理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	グループワークを行い,その貢献度(議論への参加姿勢,報告内容等)を総合的に評価する。
レポート	40	2回の中間レポートをそれぞれ20点満点で評価する。 与えられた問題に対して自らの主張や意見が明確に述べられていること。 レポート提出後の授業で全体的な傾向や改善点についてコメントする。
小テスト		
定期試験	30	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	講義内容の理解を深めるために,5～6名程度のグループワークを時折実施し,その貢献度も成績評価の主要要素として扱います。
受講の心得	日々起こっている世界の経済ニュースを日常的に確認すること。
授業外学修	毎週授業前後に2～3時間程度の自主学習(予習,復習,新聞等での経済ニュースの確認)を行ってください。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
世界経済図説 第四版	宮崎勇，田谷禎三	岩波書店	9784004318309	880円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	なし
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．グローバル経済の基本的な内容を理解している。	学修した経済事象に関する知識について,正確に理解し述べることができる。	学修した経済事象に関する知識について,正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した経済事象に関する知識について,大体述べることができる。	学修した経済事象に関する知識について,正確に述べることはできないが,自分の言葉では表現できる。	学修した経済事象に関する知識について,全く表現することができない
思考・問題解決能力	１．グローバル化によって起こる現実問題に対して考察することができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して、学修した知識に基づき多角的に考察することができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して、学修した知識に基づき多角的ではないが論理的整合性を持った考察をすることができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して,ほぼ論理的整合性を持った考察をすることができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して、自分の意見を述べることができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して、自分の意見を述べることができない。
態度	１．議論に積極的に参加できる。	与えられた議題の論点を理解し,自分の主張の根拠を論理的に説明できる。	与えられた議題の論点を理解し,積極的に意見を述べることができる。	与えられた議題の論点を理解し,少なくとも1つの意見を述べることができる。	与えられた議論の論点は正確に理解できていないが、意見を述べることができる。	議論に参加していない。

科目名	英語プレゼンテーション			授業番号	LF301	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	事前に配布された新聞記事やニュースを読んだり聞いたりして的確に理解する力の養成に努め，学んだり経験したことに基づいて，その情報や自分の考え方をまとめて発表する演習を行う。また，発表された情報や提案を聞いたり読んだりして，自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする活動を行う。								
到達目標	英語を通して，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながらまとまりのある情報や提案を分かり易く伝える能力を養う。また，英語を通して，発表された情報や提案を的確に理解し，自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする能力を養う。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	意味を知る：英語によるプレゼンテーションとは 「プレゼンテーション」の意味等の基礎知識について解説 プレゼンテーション５つの目的分類、プレゼンテーションとスピーチの違いなどについて解説する。	
第2回	対象と目的を意識する：プレゼンテーションは何のために誰のために 目的を明確にし、必要な事前分析を行うことの必要性について解説する。	
第3回	大切な要素を知る：プレゼンテーション成功のための３要素 「伝える方法」「伝える内容」「伝える順序」について解説する。 プレゼンテーション演習準備（グループ）：発明品	
第4回	方法を考える：伝えたいことをいかに伝えるか 伝達手段と伝える技術（言語と非言語による伝達、表現方法）、違いを生み出すデリバリー技術について解説する。 プレゼンテーション演習準備（グループ）：発明品	
第5回	内容を決める：何を伝えるかを吟味する テーマに応じてプレゼンテーションの内容を決定する グループ・ペアでの議論の仕方：ブレーンストーミング・KJ法について解説する。 プレゼンテーション演習準備（グループ）：発明品	
第6回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう①（グループ発表） 各グループの発明品についてプレゼンテーションを行う。 相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
第7回	構成を考える：いかに分かりやすく伝えるか 分かりやすい話の組み立て方（「導入」⇒「本論」⇒「結論」）について解説 プレゼンテーション演習準備（個別）：身近な話題・関心のある事	
第8回	磨きをかける：改善のための方法 動画を用いた振り返りとメタ認知について解説。 プレゼンテーション演習準備（個別）：身近な話題・関心のある事	
第9回	評価する：プレゼンテーション評価の規準 評価者の目で自分のプレゼンテーションを見直すこと、他人のプレゼンテーションを評価の観点から見る必要性について解説 プレゼンテーション演習準備（個別）：身近な話題・関心のある事	
第10回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう②（個人発表１：前半） 身近な話題・関心のある事について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
第11回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう②（個人発表２：後半） 身近な話題・関心のある事について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
第12回	プレゼンテーションのテーマについて英語でディスカッションしてみよう１ グループで地元について英語で話し合い、英語でレポートする。 英語のプレゼンテーション動画を真似してみよう TEDの中から1つ動画を選び真似て発表する練習する。 プレゼンテーション演習準備（個別）：社会的な課題について	
第13回	プレゼンテーションのテーマについて英語でディスカッションしてみよう２ グループですきな音楽について英語で話し合い、英語でレポートする。 英語のプレゼンテーション動画を真似してみよう TEDの中から1つ動画を選び真似て発表する練習する。 プレゼンテーション演習準備（個別）：社会的な課題について	
第14回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう③（個人発表１：前半） 社会的な課題について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
第15回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう③（個人発表２：後半） 社会的な課題について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する
レポート	30	課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他	40	積極的に自分の考えをプレゼン発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。 ・事前準備では辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・知識から実践へと進むことができるように，積極的に授業に参加し，授業外でもしっかり練習をして欲しい。
授業外学修	1　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 2　プレゼンテーションについては事前に作成や発表練習を行うこと。 3　ペアやグループで作成する課題についてよく打ち合わせること。 上記に関連して授業まとに４時間以上の準備を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
英語プレゼンのトリセツ	藤代昇丈	日本橋出版	978-4-434-27950-8	1，600円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)・県総合教育センター(４年)・県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべきプレゼン技術について，ペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1.事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2.論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明瞭である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。
思考・問題解決能力	3独創性と洞察力に富んだ表現内容である	オリジナリティに富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	4.適切な表現方法を選択し、英語で伝えることができる	伝える情報や提案・意見に応じて、プレゼンテーションスライドに限らず、適切な表現方法選択し、適切な英語表現により情報や提案・意見を伝えることができる。	プレゼンテーションスライドを用いて、適切な英語表現により情報や提案・意見を伝えることができる。	プレゼンテーションスライドを用いて、間違った表現を含むものの英語により、情報や提案・意見を伝えることができる。	プレゼンテーションスライドを用いてはいるが、間違った英語表現を多く含むため伝わりづらい。	プレゼンテーションスライドを用いてはいるが、英語で表現できていない。
技能	1.英語で発表内容を書くことができる	既習の英単語や英語表現を活用して，文章を書いて，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，短い文章を書いたりして，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，短い既存の文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，英語として書くことができない。
技能	2.英語で発表することができる	既習の英単語や英語表現を活用して，聞き手に対して，自由に英語で自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して文章を作り，聞き手に対して，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，聞き手に対して，簡単な内容を伝えることができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，相手に短い英文でも意思を伝えることができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，既存の英文を用いて相手に内容を伝えることもできない。
技能	3.表現方法を工夫して発表することができる	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが、話す時には目を上げて、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、目線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、ゆっくりと大きな声ではあるが、聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており、目線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのか分からない。
技能	4.分かりやすいプレゼンテーションスライドを作成できる	表現方法の一つとして、テーマに沿った分かりやすいプレゼンテーションスライドを作成できる。特に見やすい色使いやフォントサイズ、項目を箇条書きにするなどの工夫ができる。	表現方法の一つとして、テーマに沿ったプレゼンテーションスライドを作成できる。	色使いやフォントサイズなどにやや問題があるが、表現方法の一つとして、プレゼンテーションスライドを作成できる。	テーマには沿っているが、プレゼンテーションスライドが見づらく分かりづらい。	プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションスライドを作成することができない。

科目名	プロフェッショナル・イングリッシュ			授業番号	LF302	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本講義では， 主人公が外資系企業に就職し国際プロジェクトに携わる展開の中で， 会社組織や国際業務に必要な英語力を主人公とともに学ぶ。また， ビジネスに関連する様々なアクティビティを通して英語の4技能を向上させるとともに， ビジネス社会で必要となる実践的な英語力の習得を目指す。								
到達目標	1．ビジネス関連の英語の語彙や表現を理解できる。 2．グローバルな職場で求められる英語力と実用的な知識を身につけることができる。 3．ビジネス現場を想定したロールプレイングの中で英語でコミュニケーションを取ることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス / ビジネス場面におけるE-mailライティング E-mailのフォーマットを学ぶ	
第2回	Unit 1 就職活動 Telephone Communication 取り次いでもらう・取り次ぐ Business Topics 高まるビジネス英語の必要性	
第3回	Unit 2 面接 Telephone Communication 間違い電話 Business Topics 就職面接のポイント	
第4回	Unit 3 会社プロフィール Telephone Communication 不在のときの応対 Business Topics 日本企業の特徴	
第5回	Unit 4 仕事の内容 Telephone Communication 取り次ぎを断る Business Topics 会社の組織	
第6回	Unit 5 会議開催の通知 Telephone Communication メッセージを残す・あずかる Business Topics グローバル企業でのコミュニケーション	
第7回	Unit 6 ビジネスパートナーを空港で出迎える Telephone Communication 本人による電話応対 Business Topics 出入国手続き	
第8回	Unit 1～6のまとめ / 中間試験 Unit 1～6の内容を振り返り，これまでの授業内容の理解度を確認する	
第9回	Unit 7 受付での対応 Telephone Communication ボイスメール Business Topics 国際ビジネスで大切なホスピタリティの精神	
第10回	Unit 8 紹介と名刺交換 Telephone Communication アポイントメントをとりつける Business Topics 異文化間コミュニケーション	
第11回	Unit 9 会議冒頭のあいさつ Telephone Communication 会議に遅れることを伝える Business Topics 訪日外国人を増やすための政府の取り組み	
第12回	Unit 10 プレゼンテーション Telephone Communication 打ち合わせの申し入れ Business Topic プレゼンテーションのスキル	
第13回	Unit 11 交渉 Telephone Communication ねぎらいと別れのあいさつ Business Topics 望ましいネゴシエーションとは?	
第14回	Unit 12 接待 Telephone Communication 感謝を述べる Business Topics 海外のビジネスパートナーを接待する	
第15回	Unit 7～12のまとめ / 期末試験 Unit 7～12の内容を振り返り，これまでの授業内容の理解度を確認する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。
レポート		
小テスト	50	各回の既習事項について語彙や表現，文法項目などの理解度を評価する。
定期試験	30	全体的な授業内容の理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を訳し，未知の単語は調べたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。
授業外学修	1．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。 2．復習として，授業で学んだビジネスに関する英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践ビジネス英語	辻和成・辻勢郎・Margaret M. Lieb	朝日出版社	978-4-255-15659	1，800+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	一般企業にて貿易業務に従事した経験（２年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	貿易業務に従事した経験（２年）から，海外の企業とのメールや電話での対応，英語の敬語表現など，実践力が身につくよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ビジネスに関する英語の語彙や英語表現を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、応用して自由に使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	ビジネスに関する語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2．様々なビジネス文書のフォーマットを理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、目的や内容に合わせて自ら英語のビジネス文書を作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、テンプレートを参考にしながら内容を変えて作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を大まかには理解しているが、細かい点で理解できていない箇所がある。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解していない。
知識・理解	3．日本とアメリカのビジネス文化の相違を理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、各国の文化的・歴史的背景や価値観等と関連付けながら理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、授業で扱った以上の内容を理解している。	授業で扱った日本とアメリカのビジネス文化の相違をよく理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して違いがあることを認識しているが、具体的な事象については理解できていない。	日本とアメリカのビジネス文化に相違があることを理解していない。
技能	1．様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用し、様々なビジネスの場面でTPOに合わせた表現を用いて相手に伝えたいことを英語で自由に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用し、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、多少のミスがありつつも相手に伝えたい内容を英語で伝えることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を使用して英語で相手に伝えたい内容を伝えようとしているが、ミスが多く内容を伝えることができない。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができない。
技能	2．ビジネスでよく使われる実用的な英文を読むことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、自分の言葉で説明し、自らの意見を持つことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、それを自分の言葉で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、ビジネスに関する英文を理解することが難しい。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、ビジネスに関する英文を理解できない。
技能	3．ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項をしっかりと理解しており、ビジネスに関する会話を聞きとり、詳細な内容まで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞きとり、大体の内容を理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞きとることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を参考にしながらビジネスに関する会話を聞き内容を推測することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しておらず、ビジネスに関する会話の内容を理解することができない。

科目名	観光産業論			授業番号	LF303	サブタイトル	観光の力を知り、そのすそ野の広さを知る		
教員	田村　秀昭								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	観光産業の歴史的変遷，旅行業の観光産業内の位置づけ，ホスピタリティ産業としてのホテルの組織運営や経営管理， 観光・レジャー産業について幅広く基礎的知識を学ぶ。 具体的には(1)観光産業の歴史と現状の把握，(2)旅行業の特徴及び交通・宿泊・飲産業との関係，(3)宿泊産業の経営形態とマネジメント (4)観光・レジャー産業の動向その将来像，などについて幅広く学ぶ。 また，観光資源を活用し地創方創生を推進する観光まちづくりに取り組める人材の育成をめざして講じ、解説する。 担当教員が40年に及ぶ観光・旅行業界での経験を生かした「現場」の実情を解説します。								
到達目標	・観光産業の概要と社会への影響を理解できる。 ・観光産業の果たす役割と仕組み，及び課題を理解できる。 ・宿泊業におけるホスピタリティと マネジメントについて理解できる。 ・観光を核とした地域活性化等のまちづくり振興方法について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	観光とは何か(観光産業の概念) 観光の語源、観光の歴史。観光産業の特徴などを考察します。	
第2回	観光産業の歴史 日本の観光の歴史から発生した産業は何か。 宿泊業の発生、そして鉄道経営が観光に与えた力などを学びます。 また、第二次世界大戦後日本の復興の象徴となるイベント、 その後、日本人の体験する観光・旅行の世界を観光産業を通して研究してみましょう。	
第3回	観光の効果，観光産業の構図と経営 観光の持つ力を分析し、旅がもたらす効果などを研究します。 また、観光産業が社会課題を解決する力を持つことから地方創生の糸口ともなっています。 また、日本の観光産業の経営上の課題、脅威と機会を学びます。	
第4回	旅行業の歴史と変遷 観光産業のまとめ役ともいえる旅行業の歴史とその役割について学びます。 その旅行業も脅威にさらされ、特にIT化への対応が今後の成長戦略の柱ともなります。 世界最古の旅行会社の歴史を学んで、その対応策を研究します。	
第5回	旅行会社の業務(アウトバウンド) 旅行会社の本来の仕事は「ここ」にいる人を「そと」にご案内すること。 この本来の仕事がいかに重要であるかと、その役割を果たす旅行業の種類や責務などについて研究します。	
第6回	旅行会社の業務(インバウンドと観光開発) これまではあまり意識してこなかった、「そと」から「ここ」に来るお客であるインバウンドについて学びます。 過去20年で日本のインバウンド政策は大きく変わり、訪日外国人は3,000万人時代になりました。 その消費効果も高く、貿易収支との対比においても、その重要さが際立っています。 今後の旅行会社の新たな業務としての考え方を学びます。 広義の意味でとれば、観光開発などの分野におけるコンサルタント的な業務もその領域となります。	
第7回	宿泊産業の歴史とホテル経営の理念 旅行・観光産業において重要なファクターとなるのが宿泊業。 宿泊産業の歴史とその変遷、役割などを学び、経営に必要な理念などを研究します。	
第8回	ホスピタリティ(ホテル サービスと日本のおもてなし) 東京オリンピックを招致するに際し、「お・も・て・な・し」というプレゼンで有名になった、日本のおもてなし。 ホスピタリティを学ぶ中で、その違いや日本旅館を中心としたその文化を考察してゆく。	
第9回	宿泊産業の経営形態とマネジメント 宿泊産業の経営資源の特性を学び、経営形態、経営方式を研究する。 その経営の形の中で日本旅館の将来について考察する。 また、ホテル・旅館業という枠を飛び越え、不動産業が観光産業へ介入し、 大きく影響力を持つようにもなってきたことを知る。	
第10回	観光に関わるその他の産業 観光に係る産業は多岐にわたり、産業全体の中でも大きな力を持つまでになった。 地方創生の考え方の中でも、第一産業の農業や漁業あるいは第二次産業などへの影響力も持ち、 全容をとらえると大きな力を持つことが分かる。この力をいかに活かしてゆくかを考察する。	
第11回	地方創生と観光 地方創生と言われ始めて10年が経つ。 地方の人口減少問題が本来の地方創生の考察のポイントだが、 各自治体は観光に力を入れることで地方創生を推進しているという。 これはなぜか。なぜ観光産業を地方創生の主たるものとしてとらえるのか考えてみる。	
第12回	旅行商品の着想(発地型から着地型へ) 観光産業の変遷、旅行業の変容を理解し、旅行の在り方や商品構成について考察する。 その中で今後の旅行商品はどうあるべきか、多岐にわたる産業との連携によって新たな商品造成へとつながることを学びます。	
第13回	観光資源の活用(地域の産業と観光との連携) 前回に続き、新たな旅行商品の構成には地域の産業との連携が必要であり、 その観光資源の発掘も観光産業へとつながることを学ぶ。 地域に眠る資源を如何に宝探しをするか。観光の新たな道筋も考察します。	
第14回	観光まちづくりのあり方 多くの観光客を迎え入れることはリスク対策も必要です。 オーバーツーリズムと呼ばれる現象が実際に日本・世界各地で起こっています。 これらの対策のためには観光客を選ぶということも必要です。 誰でもよいからたくさん来ればよいというものではなく、 住まう地域の人々にとって便益を享受できる観光でなくては意味がありません。 観光をベースにしたまちづくりはどうすべきかを考えます。	
第15回	観光産業の課題と展望 多岐にわたる観光産業ですが、その中でも基幹となる旅行業、宿泊業などは多くの課題を抱えています。 その課題をいかに克服し、未来永劫産業として生き残っていくかを考察します。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。 出席ごとに1ポイントとし、残り35ポイントは授業中の態度や発言を評価します。 また、毎回提出して頂く出席カードへの感想、質問などその意欲や関心度をポイント化します。
レポート	10	レポート・提出物 観光産業に関して研究をし、レポートを提出して頂きます。 基本的には旅行業に関して考察いただく予定です。
小テスト	10	復習の意味での小テストを実施します。 2回予定し、各5点満点で計10点の評価です。
定期試験	20	期末試験 試験は100点満点ですが、20点に圧縮し全体への評価とします。 授業中に配布した資料や自筆のノートは持込可とします。
その他	10	プレゼンにより積極的に自分の考えを発表できるかを評価します。 授業中に指定したタイトルでプレゼンをしていただきます。

評価の方法：自由記載	基本的には授業中の姿勢，積極的な発言などを評価します。 レポート，小テスト，プレゼンテーションなどにより，授業への参画意識を高めていただき，その一つひとつを評価に加えます。 また，定期試験はこの講義のまとめとなりますが，100点満点を五分の一に圧縮し，全体では20%の評価といたします。
受講の心得	・予習と復習を心がけ，授業時に取り上げた用語や内容についてインターネットや書籍で調べ、情報収集を行うなど，自主的な学習に努めること。 ・授業中にペアあるいはグループでのワークショップや発表活動を実施するので積極的に参加すること。 ・観光・レジャー産業を利用した地域活性化案を考える習慣を付けること。
授業外学修	・観光に関してのニュースや情報には気を停める癖をつけてください。 ・毎回の授業内容について復習しておくこと。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
観光産業論	林清	原書房	978-4-562-10130-6	2，800円（税別）

参考書：自由記載	観光経済新聞，トラベルジャーナル誌など観光系の業界紙などに目を通してください。 新聞を読む習慣をつけてください。
その他	旅行会社のパンフレットを見たり、ホテルのラウンジでドリンクを飲むなどの体験で観光産業を身近なものにして下さい。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	(株)JTBでの38年間の旅行業，イベント・コンベンション事業，観光開発コンサル業の実績，中国運輸局・中四国農政局・中国経済産業局等での委員経験など。 台湾の高校の顧問も務めていますので国際交流などについてもお話しできます。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に，「現場」で起きている事象を例に具体的に講義します。 行政（中国運輸局、中国四国農政局、広島県など）の委員経験や美作市議会議員の経歴を活かし，観光行政の方向性も示してゆきます。 また、就活の相談なども受けることが多く、機会があれば講義に係る内容の中でアドバイスできれば良いと思っています。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．観光産業の業種と企業	観光産業の業種ごとに代表的な企業名を5つ以上挙げることができる	観光産業の業種ごとに代表的な企業名を3つづつ挙げることができる	観光産業の業種ごとに代表的な企業名を挙げることができる	観光産業の企業名を挙げられる	観光産業の種類も企業も挙げることができない
知識・理解	2．観光産業の課題	観光産業の課題を業種ごとに説明できる	観光産業の課題を3つ以上説明することができる	観光産業の課題を業種ごとに説明することができる	観光産業の課題を何かしら説明できる	観光産業の課題を理解できない
知識・理解	3．宿泊業のホスピタリティとマネジメントの理解	宿泊業のホスピタリティとマネジメントの課題を説明できる	宿泊業のホスピタリティとマネジメントを説明できる	宿泊業の業務内容を説明できる	宿泊業の業務内容の概略は分かる	宿泊業の業務内容が理解できない
思考・問題解決能力	1．観光まちづくり	振興方法の課題が理解できる	振興方法の説明ができる	振興方法の理解ができる	振興方法の存在を知る	振興方法そのものがわからない
態度	1．授業中の受講態度	姿勢を正し、メモを取り、反応をする	姿勢を正し、メモをきちんと取る	姿勢を正し、常に聴く	姿勢、傾聴が十分でない	居眠り、私語、遅刻・早退等

科目名	日・アセアン関係			授業番号	LF304	サブタイトル			
教員	富田 暁								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	アセアン加盟10カ国（2024年2月時点）は参加国の主権を重んじ，意思決定はコンセンサスに基づいて行われるが，経済を中心に次第に地域統合の度合いを高めつつある。それに加えて，アセアンという地域連合は国際社会の様々な場で存在感を強めつつある。また，アセアンの総人口は約6.5億人に至り，経済発展の著しい地域でもある。日本にとっても，アセアン諸国との交流は政治・経済・文化などのあらゆる分野において重要性を益々増加させている。本授業では，アセアン加盟諸国および東南アジアの過去から現在までの歴史・政治・経済・文化などの特徴を日本との関係を踏まえつつ概観し，議論によって理解を更に深めながら学習する。								
到達目標	アセアン諸国の歴史的な特徴（多様性）や共通性並びに経済発展が大きく進む現在のアセアン諸国及びアセアンの歴史的な形成過程・展開とその潜在力を，日本との関係を踏まえながら，理解して説明できるようになる。そうした理解の上で，アセアン諸国およびアセアンの今後の課題や展望並びに今後の日本との関係について考察・展望できる視点・知見を養うと共に，他者に説明したり議論したりできる能力を養成・強化する。なお，本授業はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業全体の進め方として，前半の回は教員によるアセアン加盟諸国（東南アジア諸国）の歴史・文化などに関する説明・解説を行う。その後は，使用テキストに基づき，受講生に担当国を割り当てた上で，受講生による担当国に関する発表と教員および受講生全員による議論によって授業を進める（担当国の割り当ては受講生と相談の上で決定する）。受講生は下記の参考文献なども用いつつプレゼンテーションを準備して報告する。								

回	概要	担当
第1回	東南アジアの自然と社会 地理，自然環境，言語，宗教など，東南アジアの自然と社会に関する特徴を取り上げて，東南アジア各国の共通性や固有性を説明する。	
第2回	東南アジアの食文化 食材や料理といった東南アジアの歴史的な食文化を通じて東南アジア各国の共通性や固有性を説明する。	
第3回	古代東南アジアの歴史と文化 東南アジアの歴史と文化に関して，先史時代から初期国家が誕生し展開していく時代の概要を説明する。	
第4回	中世東南アジアの歴史と文化 東南アジアの歴史と文化に関して，「国風文化」の時代または「憲章の時代」などと呼ばれる，外来文化と現地文化が融合・発展した時代を説明する。	
第5回	近世東南アジアの歴史と文化① 東南アジアの歴史と文化に関して，世界的な交易の活発化のもとで社会や文化が発展していく近世前期（15～16世紀）の「交易の時代」を説明する。	
第6回	近世東南アジアの歴史と文化② 東南アジアの歴史と文化に関して，華人，ヨーロッパ人，ブギス人などの域内外の人の移動と活動の影響下で変容していく18世紀の東南アジア社会を説明する。	
第7回	近世大陸部の歴史と文化 近世大陸部に焦点を当て，王朝勢力の統合と解体が繰り返される中で徐々に国家統合が進行し，現在のミャンマー，タイ，ベトナムといった現在の国に繋がる「かたち」が形成されていく様相を説明する。	
第8回	近代東南アジアの歴史と文化① 植民地化が侵攻していく19世紀後半以降の東南アジア社会に焦点を当てて，植民地化が東南アジア社会に何をもたらしたのかを説明する。	
第9回	近代東南アジアの歴史と文化② 東南アジアにおける民族主義やナショナリズムの形成と展開並びに日本占領期に焦点を当てて，当該期の東南アジア社会の変容を説明する。	
第10回	現代東南アジアの歴史と文化 東南アジア各国における独立・国民国家建設などの歴史的過程を取り上げ，現在社会に繋がる東南アジア社会の様相を説明する。	
第11回	ＡＳＥＡＮの特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
第12回	①タイの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 ②ミャンマーの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
第13回	①カンボジア・ラオスの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 ②フィリピンの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
第14回	①ベトナムの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 ②インドネシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
第15回	①マレーシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 ②シンガポールの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	毎回の授業における積極性や取り組み態度なら広に発表・議論への参加状況によって評価する。 また，毎回の授業後に授業コメントペーパの内容によって評価する。コメントペーパーには質問やコメントなどの他，教員から指示された内容を記入する
学期末レポート	60	課題として与える学期末レポートの結果を評価する。課題内容について，出典を明記した具体的な根拠に基づき，論理的かつ端的に記述した上で自分の分析・コメントが十分になされていることを評価基準とする。レポートについては教員からの講評をおこなう。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講にさいしては高校卒後程度または一般常識程度の，歴史，地理，政治経済などの知識を確認しておくことが望ましい。 本授業では，相互学習による理解促進と対話による相互理解進展のためにも，単に講義や発表を聞いて理解するだけではなく，質疑や議論に積極的に参加することが期待される。
授業外学修	配布する資料，使用テキスト，紹介する参考文献をもとに予習復習を行うこと。ニュースやインターネットなどを通じて東南アジアおよびアセアン諸国に関する情報を日々チェックすること。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
図解　ASEANを読み解く（第2版）	みずほ総合研究所	東洋経済新報社	978-4492093283	1800円（税別）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	黒柳米司・金子芳樹・吉野文雄（編著）『ASEANを知るための50章』明石書店，2015年。 今井昭夫（編集代表）『東南アジアを知るための50章』明石書店，2014年。 古田元夫『東南アジア史10講』（岩波新書），岩波書店，2021年。 その他の参考文献は授業中に適宜紹介する。
その他	
備考	身の回りに存在するアセアンに関係する様々な事柄に注目してみることで授業に対する興味関心や理解度が深まります。
注意事項	受講生と相談の上で講義計画・内容・順序を適宜修正・変更する可能性があります。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の特徴と共通性を理解している。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について，誤解が若干存在するが，ほぼ正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について概ね正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について，正確性を欠くが，自分の言葉で説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について，全く説明することができない。
知識・理解	２．アセアン諸国の現代的な状況や課題（政治・経済など）を理解している。	アセアン諸国の現代的な状況や課題について正確に理解し説明できる。	アセアン諸国の現代的な状況や課題について，誤解が若干存在するが，ほぼ正確に理解し説明できる。	アセアン諸国の現代的な状況や課題について概ね正確に理解し説明できる。	アセアン諸国の現代的な状況や課題について，正確性を欠くが，自分の言葉で説明できる。	アセアン諸国の現代的な状況や課題について，全く説明することができない。
知識・理解	３．アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係を理解している。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について，誤解が若干存在するが，ほぼ正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について概ね正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について，正確性を欠くが，自分の言葉で説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について，全く説明することができない。
思考・問題解決能力	1．アセアン諸国の現代的な課題・展望（政治・経済など）について考えることができる。	課題について，十分な論拠ならびに論理性・多角性に基づいた考察をしている。	課題について，論拠に基づき，概して論理的に考察している。	課題について，論拠を提示しつつ自分の考えを述べている。	課題について，自分の考えを述べているが，論拠が欠如している。	課題について，自分の考えが全く欠如している。
思考・問題解決能力	2．アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係と課題・展望について考えることができる。	課題について，十分な論拠ならびに論理性・多角性に基づいた考察をしている。	課題について，十分な論拠に基づき，概して論理的に考察している。	課題について，論拠を提示しつつ自分の考えを述べている。	課題について，自分の考えを述べているが，論拠が欠如している。	課題について，自分の考えが述べられていない。
態度	１．授業に積極的に参加できる。	質問や討論に自ら積極的であり，授業内容を理解した上で適切なコメントペーパーを提出している。	指名時のみに質問や討論に参加し，授業内容を理解した上で適切なコメントペーパーを提出している。	授業に出席し授業の内容を理解した上でコメントペーパーを提出している。	授業に出席しコメントペーパーを提出しているが，授業内容の理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントペーパーを提出していない。

科目名	国際経営論			授業番号	LF404	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義の目的は，国際経営の実態を理解することである。本講義ではまず，国際経営活動について学ぶ。具体的には，輸出，海外生産，海外研究開発，輸入，技術導入，外国企業との合併などの活動である。次に，現代の国際経営に至るまでの歴史的なプロセスについて学ぶ。そのうえで，現代の国際経営ではどのような課題が見られるか，国際経営の今後の展望はどうであるかに，ついても見ていく。 更には，国内経営と比較した場合の国際経営の特徴も把握する。国際経営の個別的な事実だけでなく，国際経営の全体像，達成した成果，残されている課題についても理解しながら講義を進める。 授業では，積極的に事例を盛り込むことで，国際経営という広い領域についても，具体的にイメージできるようにする。								
到達目標	本講義の到達目標は，国際経営における基礎知識を理解し，日本企業の国際経営の課題を考えながら実態を把握することである。具体的には，国際経営に関する本や雑誌，記事を読み内容をわかった上で，その内容について他人に説明ができるようになることである。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	国際経営環境の新しい動き：外部環境の新しい動き	
第2回	国際経営とは：多国籍企業の経営	
第3回	国際経営戦略(1)：国際経営戦略の歴史的展開	
第4回	国際経営戦略(2)：ケーススタディ（トヨタ自動車）	
第5回	国際マーケティング(1)：輸出マーケティングと国際調達	
第6回	国際マーケティング(2)：グローバル・サプライチェーン・マネジメント	
第7回	海外生産(1)：海外生産の発展と日本的生産のグローバル展開	
第8回	海外生産(2)：ケーススタディ（シーゲート・テクノロジーズ）	
第9回	技術移転と海外研究開発：技術の国際移転，海外研究開発とソフトウェアの海外開発	
第10回	国際経営マネジメント：国際経営を行ううえでの論点と対応策	
第11回	北米・欧州のなかの日本企業：北米と欧州	
第12回	アジアのなかの日本企業：アジアと中国，インド＆ケーススタディ（アジアにおけるグローバル小売競争の展開）	
第13回	新興国市場と日本企業：新興国市場と新興国戦略	
第14回	サービス企業の海外進出：サービス企業の特徴と海外進出	
第15回	国際経営の新展開：国際経営戦略の新しい動きと国際経営マネジメントの革新	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）
レポート	30	講義内容の正しい把握ができているかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）
小テスト		
定期試験	50	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定）
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前学習は不要であるが，既習の経営学の中にある「ビジネスの海外展開」に関して，理解があいまいな場合は，再度学習をしておくこと。 毎回，事後学習として，授業で実施した内容について，復習をして欲しい。復習のポイントは，授業中に指示をする。 また，「国際経営」に関する新聞等の記事を読み，テーマ・主要論点・ポイントをまとめることを望む。
授業外学修	上記，復習，新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての国際経営	中川功一	有斐閣	9784641150171	1980円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『ケースに学ぶ国際経営』(2013)	吉原英樹編，白木三秀編，新宅純二郎編，浅川和宏編	有斐閣	4641184151	3024円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
知識・理解	２．経営学の理論できる	経営学の理論が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	経営学の理論を理解し、共感し疑問を持つことができる。	経営学の理論と講義の意図が理解することができる。	経営学の理論や講義の意図が概ね理解することができる。	経営学の理論が理解できない。
知識・理解	３．国際的な知識が理解している。	国際的な知識があり、学習課題に取り組むことができる。	国際的な知識を概ね理解して学習課題に取り組むことができる。	国際的な知識を調査を行うことで、学習課題に取り組むことができる。	国際的な知識が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	国際的な知識が乏しく、学習課題に取り組むことができない。

科目名	アジア食品論			授業番号	LG201	サブタイトル			
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	アジアは有史以来世界の人口の6割を占めている。食の面から考えると，世界の主要文明が主食穀物を小麦として発達して来たのに対して，日本を含む東アジアとその南に位置する東南アジアでは米を主食穀物米として発達してきた。 この講義では，日本と食の面で共通性を強く持つ東アジア，東南アジアを中心にそこでの農業生産，食品生産と流通，貿易の状況を理解しながら，日本との関係，方向性を考える。								
到達目標	身近な外国としての外国，東アジア，東南アジアに対して，食品及び農産物という対象物の生産，流通，消費及び貿易の事態を理解することと合わせて，グローバリゼーションの進展と日本との関係を理解する視点を養う。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	アジアの米食文化とヨーロッパの肉食文化	
第2回	今年日本の食料消費	
第3回	世界の食料需給と日本の食料自給	
第4回	日本の食料輸入の動向	
第5回	東アジア地域の農業，食品の生産と食生活（１）中国１	
第6回	東アジア地域の農業，食品の生産と食生活（２）中国２	
第7回	東アジア地域の農業，食品の生産と食生活（３）韓国	
第8回	東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（１）ベトナム	
第9回	東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（２）タイ	
第10回	東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（３）インドネシア	
第11回	東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（４）フィリピン等	
第12回	他のアジア地域の農業，食品の生産と食生活	
第13回	アジア食品と「ハラル」	
第14回	日本の農産物輸出とアジア	
第15回	まとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。
レポート	30	中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）
小テスト		
定期試験	60	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述式のレポート試験を予定）
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は，授業で提供する資料・データだけに留まらず，関連情報について文献，インターネット等を使って収集し，理解するように努めること。
授業外学修	復習とあわせて，文献，インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の中で適宜紹介する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．日本の食と農業の関係を理解している。	日本の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることを明確に理解できており、具体例を説明できる。	日本の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることは理解できている。	日本の食生活と農業、貿易が関係していることを理解できている。	日本の食生活、農業、貿易について断片的には理解できている。	日本の食生活と農業の現状を理解できていない。
思考・問題解決能力	２．アジア諸国の食生活、農業と食品流通、貿易の問題点を理解している。	アジア諸国の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることを明確に理解できており、具体例を説明できる。	アジア諸国の食生活と農業、貿易との関係は理解できているが、具体例を説明できない。	アジア諸国の食生活と農業、貿易との関係は理解できている。	アジア諸国の食生活と農業、貿易との関係が充分に理解できていない。	具体的な事例について自ら調べようとしない。
思考・問題解決能力	３．各自が特定したアジアの国について、食生活、農業、貿易について分析し、その現状と問題点を理解できる。	事例の国について、食生活、農業、貿易について分析し、その現状と問題点を理解でき、それをプレゼンテーションできる。	事例の国について、食生活、農業、貿易の現状と問題点を理解できているが、プレゼンテーションが不十分。	調べた事例に対する評価が不十分なためプレゼンテーションがうまく行えない。	調べた事例に対する評価が不十分で、プレゼンテーションに至らない。	事例を探すことができていない。

科目名	フードシステム論			授業番号	LG202	サブタイトル			
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	フードシステムとは，「食料となる農水産物が生産され，消費者にわたるまでの食料・食品の流れをシステムとしてとらえたもの」である。物の動きとして，農林水産業から，農水産物卸売業，食品製造業，食料品小売業，外食産業を経て消費者までの流れをトータル的に考察していくものである。本講義では，それぞれの産業に携わる人々の動きに注目して，消費者の行動から遡って考察する。								
到達目標	日本の農業，食料とそれを取り巻く諸産業に関心を払うと同時に，消費者行動の変化についての基礎的知識が必要とされる。あわせて，フードシステムを構成する諸産業・企業の関係性を理解する視点を養う。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	フードシステムとは	
第2回	日本の食と農の変遷	
第3回	消費者行動の変化と食料消費の動向	
第4回	消費者の青果物購買と消費	
第5回	外食産業と中食産業	
第6回	農産物流通の動き（１）小売市場	
第7回	農産物流通の動き（２）卸売市場	
第8回	農産物流通の動き（３）農産物直売	
第9回	食品加工業	
第10回	日本農業の動向	
第11回	農業の六次産業化	
第12回	日本の農産物・食品貿易	
第13回	日本の食料自給率	
第14回	食品流通における諸問題	
第15回	まとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。
レポート	30	中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）
小テスト		
定期試験	60	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定）
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は，授業で提供する資料・データだけに留まらず，関連情報について文献，インターネット等を使って収集し，理解するように努めること。
授業外学修	復習とあわせて，文献，インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の中で適宜紹介する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．フードシステムの考え方をを理解している。	食料の流通において構成している各主体が連鎖的に活動していることを明確に理解できている。	食料の流通における各主体の連鎖的に行動を理解しようとしている。	食料の流通における各主体の行動を理解できている。	食料の流通における各主体の活動を断片的に飲み理解しようとしている。	食料の流通における各主体の行動そのものを理解できていない。
思考・問題解決能力	２．農産物、食料の流通の現状と問題点を理解している。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べ、その現状と問題点を明確に述べることができる。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べ、現状は理解できている。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べるが十分には理解できていない。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べようとしている。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べようとしない。
思考・問題解決能力	３．６次産業化、農商工連携についてその成果を評価できる。	６次産業化、農商工連携の事例を探し、その成果を評価し明確にプレゼンテーションを行える。	６次産業化、農商工連携の事例を探し、その成果を評価しているがプレゼンテーションが不十分。	調べた事例に対する評価が不十分なためプレゼンテーションがうまく行えない。	調べた事例に対する評価が不十分で、プレゼンテーションに至らない。	６次産業化、農商工連携の事例を探すことができていない。

科目名	地域資源論			授業番号	LG203	サブタイトル			
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，地域経済の衰退や人口減少ならびに高齢化問題の解決を目的として，「地域資源活用による地域活性化対策」に関わる計画策定ができるようにする。地域活性化対策を目的として，利用可能な地域資源の存在量の計測，および地域資源を活用した地域活性化対策に関わる問題点の把握と問題点解決のための対策を提示できる能力を備えた人材を育成する。具体的には，地域活性化のための「専門知識」，問題解決に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに，問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。							
到達目標	１）地域社会が抱える問題点および課題を正確に把握し，地域活性化に対応可能な地域資源活用方策を提案できる。 ２）地域における利用可能資源の分類ができる。 ３）地域資源を活用した地域活性化プランの作成ができる。 ４）地域の人々と協力して地域資源活用に取り組むことができる。 ５）地域活性化に対して，政策提案ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，（知識・理解）および（思考・問題解決能力）を習得するのに貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	我が国における戦後から高度経済成長期までの経済政策と地域社会との関係・問題点把握	
第2回	我が国における高度経済成長期からバブル経済崩壊までの経済政策と地域社会の問題点把握	
第3回	我が国におけるバブル経済崩壊以後から現代までの経済政策と地域社会の関係・問題点把握	
第4回	利用可能な地域資源リスト作成（１)自然資源リストの作成および資源の利用可能性把握	
第5回	利用可能な地域資源リスト作成（２）文化資源リストの作成および資源の利用可能性把握	
第6回	地域活性化と地域資源活用対策（１）農林水産業資源の活用	
第7回	地域活性化と地域資源活用対策（２）農村文化資源の活用	
第8回	地域活性化と地域資源活用対策（３）地場産業・技術の活用	
第9回	地域活性化と地域農業活性化（１）農業生産力アップによる地域経済効果	
第10回	地域活性化と地域農業活性化（２）地域活性化と農産物直売所の活用	
第11回	農山村地域の利用可能資源と地域活性化（１）農村文化の活用と地域活性化	
第12回	農山村地域の利用可能資源と地域活性化（２）地域特産物活用と地域活性化	
第13回	農業活性化と地域活性化	
第14回	地域内経済循環の意義（１）	
第15回	地域内経済循環の意義（２）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	予習・復習内容等に関して，講義中に質問し，それに対する回答内容・態度により評価する。
レポート	10	地域資源の中で，どの様な地域資源が，どの様に活用されているかに関してインターネット等で情報収集し，具体的な事例紹介のレポートを提出させ，その内容および情報収集の努力も評価点に加えて，総合的に評価する。
小テスト	20	講義中に，理解度を確認するため，小テストを実施する。
定期試験	60	講義期間全体を通じての内容に関して試験を課し，解答してもらう。
その他		

評価の方法：自由記載	関心のある社会問題について，新聞，インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問することを勧める。
受講の心得	農山村地域は，人口減少，産業・社会活動が停滞し，利用可能な資源はほとんど無い‥‥と言われているが，発想の転換次第では，利用可能な資源が沢山ある。どの資源を，どの様に活用すれば，地域活性化を為していけるのかについて，考え続けて欲しい。そして，疑問点に関して，講義中に質問して欲しい。
授業外学修	講義内容と関連する各地域の地域資源利用に関係する事例を紹介するので，(1)インターネット等で関連事業について調べ，整理しておく。また，(2)地域資源利用の具体的事例に関係する情報を収集する。とくに，農林水産省や国土交通省のホームページにアクセスし，情報収集しておくこと。また，気付いた点をメモしておき，講義中に意見発表や質問をすること。(3)復習として，講義ノートをまとめる。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は使用しない。毎回，講義担当者が作成した講義資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	特に指定しないが，必要に応じて，必要部分を資料として配付する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．地域社会が抱える問題点及び課題を正確に把握し、地域活性化に利用可能な地域資源活用方策を提案できる。	地域社会が抱える問題点及び課題を正確に把握できており、地域活性化に利用可能な地域資源活用方策のプレゼンテーションが魅力的である。	地域社会が抱える問題点及び課題を把握できているが、地域活性化に利用可能な地域資源活用方策のプレゼンテーションが魅力的になっていない。	地域社会が抱える問題点及び課題の把握が不十分で、地域活性化に利用可能な地域資源活用方策のプレゼンテーションが不十分である。	地域社会が抱える問題点及び課題の把握が不十分で、プレゼンテーションにいたっていない。	調査そのものを行っていない。
思考・問題解決能力	２．地域資源を活用した地域活性化プランの作成ができる。	地域での利用可能資源の分類が正確に行われており、それに基づいた地域活性化プランの提案が魅力的である。	地域での利用可能資源の分類は行われているが、それに基づいた地域活性化プランの提案が不十分である。	地域での利用可能資源の分類が明確に行われておらず、それに基づいた地域活性化プランの提案に至っていない。	地域での利用可能資源の分類が十分に行われていない。	調査そのものを行っていない。

科目名	地域政策			授業番号	LG204	サブタイトル			
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，(1)我が国が直面している人口減少・少子高齢化問題ならびに地域社会衰退に関わる問題点の把握，そして，(2)これら諸問題解決のために実施すべき対策を提示すると同時に，(3)対策実現のために採るべき具体的行動計画を策定できる能力を備えた人材の育成を目指す。これらにより，地域社会問題解決のための「専門知識」，地域社会の問題解決に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに，問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。								
到達目標	地域社会の抱える諸問題の把握とこれら諸問題解決に向けた対策を提示できる能力を身につけさせることを到達目標とする。 １）日本全体における人口問題や地域経済が抱える問題点および課題を正確に把握できる。 ２）地域政策のための政策立案能力を身につけることができる。 ３）地域活性化に対して，政策提案ができる。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉を習得するのに貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	地域政策の論理	
第2回	国土計画の展開（1）	
第3回	国土計画の展開（2）	
第4回	国土交通省による国土のグランドデザイン2050(1)	
第5回	国土交通省による国土のグランドデザイン2050(2)	
第6回	国土交通省による国土のグランドデザイン2050（3）	
第7回	国土計画と農業・農村	
第8回	国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(1)地方自治体における財政問題』	
第9回	国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(2)中国地域の人口問題』	
第10回	国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(3)中国地域の経済問題』	
第11回	人口移動と経済問題	
第12回	人口問題と社会問題	
第13回	農林業から見た地域経済活性化	
第14回	製造業，流通業から見た地域経済活性化	
第15回	EUの地域政策	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	予習・復習内容等に関して，講義中に質問し，それに対する回答内容・態度により評価する。
レポート	10	人口減少・少子高齢化問題ならびに地域社会衰退に関わる問題点の理解が出来ているかどうかを評価する。また，関連情報の収集に関する努力も評価する。
小テスト	20	講義中に，理解度を確認するため実施する
定期試験	60	講義期間全体を通じての内容について試験を課し，解答してもらう。
その他		

評価の方法：自由記載	関心のある地域社会問題について，新聞，インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問すること。
受講の心得	地域社会は，人口減少，産業・社会活動の停滞などにより，活力が低下してきている。しかしながら，中国地域には，農林業や，地域に根ざした企業のなかに，新たな発展の可能性を秘めた事例がある。さらに，有望な利用可能資源も沢山ある。どの資源を，どの様に活用すれば，地域活性化を為していけるのかについて，考え続け，本講義から，何らかのヒントを得て欲しい。
授業外学修	インターネットを通じて，全国の中で取り組まれている，ユニークな地域活性化への取り組みを各自で調べ，纏める。その成果を，講義中に発表できる時間を確保する。以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は使用しない。必要に応じて，国・県・地方自治体等の資料を印刷・配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
地域政策第2版	山崎朗，杉浦勝章他	中央経済社	978-4-502-44671-9	2400円＋税

参考書：自由記載	特に指示しないが，必要に応じて，必要部分を資料として配付する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．特定地域を設定し、その地域での人口問題と対策を講ずる。	地域を設定し調査することによって、そこでの人口問題を明確に理解し、対応策を評価できている。	地域を設定し調査することによって、そこでの人口問題の理解はできているが、対応策の評価が不十分である。	地域を設定し調査することによって、そこでの人口問題の理解はできているが、対応策の評価を行っていない。	地域を設定し調査することによって、そこでの人口問題の理解が不十分である。	設定そのものを行っていない。
思考・問題解決能力	２．特定地域とそこでの課題を設定し、施策についての提言を行う。	地域とそこでの課題を設定し、その特徴と問題点を明確に理解できており、施策についての提言を行えている。	地域とそこでの課題を設定し、その特徴と問題点を理解できているが、施策についての提言が不十分である。	地域とそこでの課題を設定し、その特徴と問題点の理解にとどまっている。	地域とそこでの課題を設定し、その特徴と問題点をの理解が不十分である。	設定そのものを行っていない。

科目名	食料経済			授業番号	LG205	サブタイトル			
教員	大宮 めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，まず食料消費の経済理論と食料の流れ，それらに関わる経済主体の連鎖であるフードシステムの概念について学ぶ。その上で，わが国の食料消費構造の変化について経済理論を通じて理解する。さらに我が国の食料安全保障の実態と今後の展開について，食料輸入と食料自給率，世界の食料需給などの今日的課題を題材に考察する。								
到達目標	（1）食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ（フードシステム）を理解し，全体像を説明する力を身につける。 （2）食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いて説明する力を身につける。 （3）食料需給に関連する社会問題について，経済学を基盤とした観点から考察，説明する力を身につける。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の取得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	食料経済の対象領域と課題－フードシステムとは何か？何を学ぶのか？－ フードシステムとは何かについて概説し，全体の流れを紹介する。	
第2回	食料経済の理論（1） 食品の商品としての特徴，食品選択の理論について理解する。	
第3回	食料経済の理論（2） 食料需要の価格弾力性，所得弾力性とエンゲル係数について理解する。	
第4回	食生活の成熟(1) 食料消費の変化，高級化，高付加価値化について理解する。	
第5回	食生活の成熟（2） 食料消費の時期と特徴について理解する。	
第6回	食料消費パターンの変化 食料消費構造の変化やその誘因について理解する。	
第7回	食料の安全保障と自給率(1) 食料需給表と食料自給率について理解する。	
第8回	食料の安全保障と自給率（2） 食料自給率の変化と食料安全保障について理解する。	
第9回	前半のまとめ これまでの学習内容の確認を行う。	
第10回	食品工業の構造と特徴 食品工業の現状と特徴を理解する。	
第11回	食品流通業の構造と特徴（1） 卸売市場の機能を理解する。	
第12回	食品流通業の構造と特徴（2） 食品小売業の機能と特徴を理解する。	
第13回	外食産業の構造と特徴 外食産業・中食産業の現状と特徴を理解する。	
第14回	中食産業の構造と特徴 中食産業の現状と特徴を理解する。	
第15回	世界の人口と食料/食生活と政府の役割 世界の食料問題について理解する。市場メカニズムの限界と政府の役割，外部不経済について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	30	中間的な理解度を評価する。
定期試験	50	到達目標に達しているかを最終的に評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義では食料消費の変遷，関連産業の動向，食料に関連する今日的課題等を理解し，自らのこととして考え，その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには，「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）予習として，テキストを読み，疑問点を明らかにしておくこと。 （2）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （3）発展学修として，食料自給率や食品産業など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
フードシステムの経済学 第6版	時子山 ひろみ ， 荏開津 典生 ， 中嶋 康博	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70740-1	2,750

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ（フードシステム）を理解し、全体像を説明することができる	フードシステムについて正確な理解を持ち、理論的かつ詳細に説明ができる。	フードシステムについてほぼ理解しており、説明ができる。	フードシステムについて一定程度理解があり、大体の説明ができる。	フードシステムについて理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	フードシステムについて理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	２．食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いた理解ができてり、これらを説明することができる	食料消費とその変化について経済学的な論理やデータを用いて、詳細に説明することができる。	食料消費とその変化について、関連する経済学の知識を用いて、説明することができる。	食料消費とその変化について、関連する経済学の知識の一部を用いて、一定程度の説明ができる。	食料消費とその変化について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食料消費とその変化について理解できておらず、説明する力がない。
知識・理解	３．食料需給に関連する社会問題について、経済学を基盤とした観点から考察、説明することができる	食料需給に関する社会問題を正しく理解しており、経済学的視点から論理的に説明することができる。	食料需給に関する社会問題についてほぼ理解しており、経済学的視点から説明することができる。	食料需給に関する社会問題について一定程度理解しており、説明をすることができる。	食料需給に関する社会問題について経済学的視点からの理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食料需給に関する社会問題について理解しておらず、説明する力がない。

科目名	アグリビジネス論			授業番号	LG301	サブタイトル			
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	アグリビジネスとは，「農業資材・サービス供給産業，食品加工産業，飲食産業そして関連する流通産業等を総称したものである」と定義される。これらは農業関連産業として位置づけられ，グローバリゼーションの下で日本農業の方向性を考えることが重要となる。この講義では，日本農業に焦点を当て，農商工連携あるいは農業の六次産業化の実態と方向性を考える。								
到達目標	日本及び世界の農業，食料とそれを取り巻く諸産業に関心を払う同時に，これらの持つ諸問題の理解においては，グローバリゼーションとアグリビジネスについての基礎的知識が必要とされる。あわせて，アグリビジネスの具体的な姿を理解する視点を養う。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	アグリビジネスの概観と概念	
第2回	日本におけるアグリビジネスの動き	
第3回	アグリビジネスと農業	
第4回	農業と資材産業	
第5回	食品加工産業の動向	
第6回	外食産業の動向	
第7回	農産物・食品の流通の変化と農業	
第8回	アグリビジネスの下での農村	
第9回	農商工連携と農業，農村	
第10回	農業の六次産業化	
第11回	農業における法人化	
第12回	都市農村交流とアグリビジネス	
第13回	アジアにおけるアグリビジネス（１）	
第14回	アジアにおけるアグリビジネス（２）	
第15回	まとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。
レポート	30	中間時点でレポートを課し，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）
小テスト		
定期試験	60	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述式のレポート試験を予定）
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は，授業で提供する資料・データだけに留まらず，関連情報について文献，インターネット等を使って収集し，理解するように努めること。
授業外学修	復習とあわせて，文献，インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを，週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の中で適宜紹介する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．農業の法人化の意義、問題点を明確に理解し、自らが法人化を想定した場合の解決策を講ずる。	農業の法人化の意義、問題点を明確に理解し、自らが法人化を想定した場合の解決策を講ずることができる。	農業の法人化の意義、問題点を理解しているが、その解決策のプレゼンテーションが不十分である。	農業の法人化の意義、問題点を理解しているが、その解決策を講ずるには至っていない。	農業の法人化の意義、問題点を十分に理解できていない。	調査そのものを行っていない。
思考・問題解決能力	２．６次産業化、農商工連携についてその成果を評価できる。	６次産業化、農商工連携の事例を探し、その成果を評価し明確にプレゼンテーションを行える。	６次産業化、農商工連携の事例を探し、その成果を評価しているがプレゼンテーションが不十分。	調べた事例に対する評価が不十分なためプレゼンテーションがうまく行えない。	調べた事例に対する評価が不十分で、プレゼンテーションに至らない。	６次産業化、農商工連携の事例を探すことができていない。

科目名	農産物直売所と地域活性化			授業番号	LG302	サブタイトル			
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，農産物直売所の運営を通じて，地域農業振興と地域活性化との双方を同時に達成可能とする「地域活性化プラン策定」を実施できる力を養うことを目的とする。農業・農村における問題点の把握と問題点解決のための対策立案が実施できる人材育成を目指す。これらにより，農産物のマーケティング戦略策定や地域活性化プラン策定に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに，問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。								
到達目標	１）農産物直売所が抱える問題点および課題の把握・分析・整理ができる。 ２）農産物直売所が抱える問題点・課題の分析に基づいて，改善方策を提案できる。 ３）農産物直売所の運営戦略・マーケティング戦略立案が出来る。 ４）課題解決を通じて，地域活性化対策の提案が出来る。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考力・問題解決能力＞を習得するのに貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	我が国における農業・農村の現状(1)	
第2回	我が国における農業・農村の現状(2)	
第3回	農産物流通の現状と問題点・課題(1)	
第4回	農産物流通の現状と問題点・課題(2)	
第5回	都市農山村交流と地産地消	
第6回	農産物直売所の意義と問題点	
第7回	代表的な農産物直売所（1）	
第8回	代表的な農産物直売所（2）	
第9回	全国的なＪＡ戦略としてのファーマーズマーケット	
第10回	農産物直売所の成功事例の発表（1）	
第11回	農産物直売所の成功事例の発表（2）	
第12回	農産物直売所の組織と運営	
第13回	地域活性化における農産物直売所の役割	
第14回	農産物直売所と高齢者福祉との関係性分析	
第15回	農産物直売所と地域振興	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	予習・復習に関連して，講義中に質問し，それに対する回答内容・態度により評価する。
レポート	30	農産物直売所と地域振興の成功事例に関係する情報を収集し，成功事例の内容に関してレポートを提出させる。また，レポート内容だけでなく，情報収集の努力も評価点に加えて，総合的に評価する。
小テスト		講義中に，理解度を確認するため実施する
定期試験	60	講義内容全体に関係する試験問題に回答してもらい，その内容を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	講義内容と関連する社会問題について，新聞・インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問することを勧める。
受講の心得	農産物直売所の店舗数は，コンビニ店舗数の約半分である。店舗数だけから見ても，大きな影響力を持っていることが分かる。一方，コンビニ店と異なるのは，直売所の管理主体は，通常，地域の農家であり，多数の農家が直売所の経営に関わっていることである。基本的には，関係者全員の合意形成によって，直売所の運営方針が決定されている。経営組織体としては，コンビニとは，大きく異なっている。もちろん，スーパー・マーケットとも大きく異なって
授業外学修	諸種の農産物直売所に関係する情報を紹介するので，(1)インターネット等で調べて，直売所の問題点や課題について整理しておく。また，(2)農産物直売所を直接訪問し，気付いた点をメモしておき，講義中に意見発表や質問をすること。(3)復習として講義ノートをまとめる。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は使用しない。毎回，講義担当者が作成した講義資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	特に指定しないが，必要に応じて，必要部分を資料として配付する。 本講義に関係すると思われる社会問題について，新聞，インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問することを勧める。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．農産物直売所の実態と問題点を理解している。	身近な農産物直売所を調査し、その現状について理解できている。	身近な農産物直売所を調査し、その現状と問題点を明確に理解できている。	身近な農産物直売所を調査しているが、その現状について十分に把握できていない。	身近な農産物直売所を調査したが、その報告ができていない。	調査そのものを行っていない。
思考・問題解決能力	２．特定の農産物直売所を事例に、その地域活性化についての提言を行う。	特定の農産物直売所に対して調査を行い、その特徴と問題点を明らかにし、その地域活性化についての提言を行えている。	特定の農産物直売所に対して調査を行い、その特徴と問題点を明らかにしているが、その地域活性化についての提言が不十分である。	特定の農産物直売所に対して調査を行い、その特徴と問題点を明らかにするところでとどまり、その地域活性化についての提言はできていない。	特定の農産物直売所に対して調査を行い、その特徴と問題点を明らかにすることができていない。	調査そのものを行っていない。

科目名	農業政策と環境・資源保全			授業番号	LG303	サブタイトル			
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	世界人口は急激な増加傾向にある。一方，食料生産に不可欠な農地や水資源は，質的劣化や量的不足が大きな問題となっている。また，大気中の二酸化炭素増加による地球温暖化現象により，食料生産は不安定化している。本講義では，食料安定供給を可能とする経済システム構築や，農業生産と環境・土壌・水資源保全等に関する問題点・課題の把握と解決策立案ができるようにする。そのため，農業問題・環境問題に関わる「専門知識」や「思考力・判断力・表現力」を養い，問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。								
到達目標	1)我が国経済全体の中で，農業生産部門が担っている役割について理解できる。 2)食料生産と地域資源（土地資源・水資源・農村景観・森林資源など）との関連を理解し，政府が実施している農業政策の意味を理解できる。 ３）世界レベルでみた農地・水資源問題と食料・人口問題との関係が理解できる。 ４）我が国における農業・農村の問題を理解すると同時に，問題解決に向けた政策提案ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉を習得するのに貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	わが国の食料・農業・農村の動向（1）	
第2回	わが国の食料・農業・農村の動向（2）	
第3回	わが国の食料消費構造の変化	
第4回	食料自給率の推移と農業	
第5回	わが国の戦後農業政策の展開（1）	
第6回	わが国の戦後農業政策の展開（2）	
第7回	農業生産と水資源問題	
第8回	農業就業人口と農村問題	
第9回	過疎化と農業・農村問題	
第10回	環境保全型農業の展開	
第11回	世界の有機農業	
第12回	食料安全保障と環境問題	
第13回	自然災害と農林業（1）	
第14回	自然災害と農林業（2）	
第15回	食料安全保障政策の必要性について	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	予習・復習内容等に関して，講義中に質問し，それに対する回答内容・態度により評価する。
レポート	10	世界で発生している自然環境問題と食料生産との関係について，インターネット等で情報収集し，具体的な事例紹介のレポートを提出させ，その内容および情報収集の努力も評価点に加えて，総合的に判断する。
小テスト	20	講義中の重要テーマに関して理解度を確認するため小テストを実施
定期試験	60	講義期間全体を通じての内容に関して試験を課し，解答してもらう。
その他		

評価の方法：自由記載	講義内容と関連する社会問題について，新聞，インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問することを勧める。
受講の心得	「食料安全保障」という言葉は，あまりなじみのない言葉だと思います。しかしながら，皆さんが，毎日，安心して食べ物を食べることが出来るということは大変「有り難い」ことなのです。地球上の人口は，約78億４千万人ですが，そのうち，８億２千万人は食料不足により「死」に直面しています。そのことを心に留めて講義に参加してください。毎日，十分な食料を確保でき，それを食することが出来ることの有り難さを考えて欲しい。
授業外学修	講義中に課題をだすので，インターネット等を活用して，世界における食料問題や人口問題および食料生産に必要不可欠な農地・水資源問題に関係する記事を読んでおくこと。理解度を確認するため，講義中に質問をする。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は使用しない。毎回，講義担当者が作成した資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	特に指定しないが，必要に応じて，必要部分を資料として配付する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日本農業の動向と農業政策の流れを理解できている。	日本農業の動向と農業政策の流れを明確に理解できており、施策の評価もできている。	日本農業の動向と農業政策の流れは理解できているが、施策の評価が不十分である。	日本農業の動向と農業政策の流れは理解できているが、施策の評価を行っていない。	日本農業の動向と農業政策の流れの理解が不十分である。	農業の動向も理解できていない。
思考・問題解決能力	１．特定地域における農業の現状と問題点を理解し、その解決策の提言を行うことができる。	特定地域を設定し調査を行い、農業の現状と問題点を明確に理解できており、その解決策の提言を行えている。	特定地域を設定し調査を行い、農業の現状と問題点を理解できているが、その解決策の提言が不十分である。	特定地域を設定し調査を行い、農業の現状と問題点を理解できているが、その解決策の提言を行っていない。	特定地域を設定し調査を行い、農業の現状と問題点の理解が不十分である。	調査そのものを行っていない。

科目名	フードマーケティング論			授業番号	LG304	サブタイトル			
教員	大宮 めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，まずマーケティング理論の基礎について理解する。その上で，わが国の農産物や加工食品におけるマーケティング戦略について実際の事例から学修する。さらに食品産業の中でも外食産業（飲食店）のマーケティング戦略について学修する。								
到達目標	（1）マーケティング理論に関する基本的な知識を修得すること。 （2）加工食品・農産物に関係するマーケティング戦略がどのように行われているか理解し、考察、説明する能力を身につける。 （3）飲食店における店舗運営やマーケティング戦略について基礎的な知識を修得し、課題解決策を提案することができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の取得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション/マーケティング発想の経営と成り立ち 現在の食市場について概説する。マーケティングとは何か、マーケティングの成り立ちについて理解する。	
第2回	マーケティングの基礎概念 実際の事例を基にSTPと４Pについて理解する。	
第3回	フードマーケティングの事例① 製品のマネジメントについて理解する。	
第4回	フードマーケティングの事例② 価格のマネジメントについて理解する	
第5回	フードマーケティングの事例③ チャネルのマネジメントについて理解する。	
第6回	フードマーケティングの事例④ 営業のマネジメントについて理解する。	
第7回	フードマーケティングの事例⑤ ブランド構築のマネジメントについて理解する。	
第8回	フードマーケティングの事例⑥ 食品製造業が行う総合的なマーケティング戦略について理解する。	
第9回	フードマーケティングの事例⑦ 食品製造業が行う総合的なマーケティング戦略について理解する。	
第10回	フードマーケティングの事例⑧ 農業協同組合が行うマーケティング戦略について理解する。	
第11回	フードマーケティングの事例⑨ 農業生産法人が行うマーケティング戦略について理解する。	
第12回	外食産業（飲食店）における経営とマーケティング 飲食店の経営の実際と計数管理を理解する	
第13回	飲食店におけるメニュープランニング メニュープランニングについて理解する	
第14回	飲食店のマーケティング演習 事例を基に実際に飲食店の改善計画・メニュープランニングを実施する	
第15回	まとめ 全体のまとめと発表	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度や取り組み（発表）によって評価する。
レポート	60	複数回のレポート内容で評価する。 なお、次回の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義ではマーケティングの基礎を理解するとともに，食に関わるマーケティングがどのように行われているかを学ぶことで，食品産業等で行われるマーケティング戦略を理解，説明できることを到達目標とする。そのためには，身近に存在する「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （2）講義内容に関連するレポートを課すため、これらを意欲的に取り組むこと。 （3）発展学修として，食に関連したマーケティングやフードビジネスに関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	資料を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
フード・マーケティング論	藤島廣二・宮部和幸・木島実・平尾正之・岩崎邦彦	筑波書房	978-4-8119-0482-5	
1からのマーケティング（第4版）	石井淳蔵・廣田章光・清水信年	碩学舎	978-4-502-32771-1	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．マーケティング理論に関する基本的な知識を修得している	マーケティング理論を正確に理解し、述べることができる。	マーケティング理論をほぼ理解し、述べることができる。	マーケティング理論を一定程度理解し、大体述べることができる。	マーケティング理論について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	マーケティング理論について基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	２．加工食品・農産物に関係するマーケティング戦略がどのように行われているか理解し、考察、説明する能力を身につけている	加工食品・農産物のマーケティングについて正しい理解をしており詳細に考察し、説明することができる。	加工食品・農産物のマーケティングについてほぼ理解しており、説明することができる。	加工食品・農産物のマーケティングについて一定程度理解しており、説明することができる。	加工食品・農産物のマーケティングについて理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	加工食品・農産物のマーケティングについて理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	３．飲食店における店舗運営やマーケティング戦略について基礎的な知識を修得し、課題解決策を提案することができる	店舗経営やそのマーケティング戦略について深い理解をしており、課題解決策についても理論的に考察し、独自の提案ができる。	店舗経営やそのマーケティング戦略について理解をしており、課題解決策についても自らの言葉として提案ができる。	店舗経営やそのマーケティング戦略について一定程度の理解をしており、課題解決策についても提案ができる。	店舗経営やそのマーケティング戦略について理解がやや不十分であり、考察、提案する力が乏しい。	店舗経営やそのマーケティング戦略について理解しておらず、提案する力がない。

科目名	農業協同組合論			授業番号	LG401	サブタイトル			
教員	大宮 めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，はじめに協同組合とは何かについて学修する。その上で，わが国の農家を組合員として組織化する農業協同組合について学び，その特徴と様々な事業内容について理解する。さらに農業協同組合がおかれる現状を概説し今後のあり方について考察する。								
到達目標	（1）協同組合とは何かを理解し，その目的と役割について基本的な知識を修得する。 （2）農業協同組合が果たす社会的役割を理解し，自らの言葉で説明する力を身につける。 （3）農業協同組合がおかれる現状について理解し，自ら考察できる力を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の取得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	農業協同組合論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 農業協同組合とは何かについて概説し，全体の流れを紹介する。	
第2回	協同組合の基礎知識（1） 協同組合の仕組みや目的について理解する。	
第3回	協同組合の基礎知識（2） 株式会社と協同組合の違いや特徴について理解する。	
第4回	国内外の多様な協同組合 協同組合の種類等について理解する。	
第5回	農業協同組合の歴史（1） 戦前の日本の協同組合の歴史を理解する。	
第6回	農業協同組合の歴史（2） 戦後の農協の歴史を理解する。	
第7回	農業協同組合の組織と運営 農協の組合員制度や組織活動などを理解する。	
第8回	農業協同組合の事業と活動の特徴 農協の総合事業の特徴について概要を理解する。	
第9回	農業協同組合の総合事業（1） 農協の総合事業（指導事業）について理解する。	
第10回	農業協同組合の総合事業（2） 農協の総合事業（経済事業）について理解する。	
第11回	農業協同組合の総合事業（3） 農協の総合事業（信用事業）について理解する。	
第12回	農業協同組合の総合事業（4） 農協の総合事業（共済事業）について理解する。	
第13回	農業協同組合の総合事業（5） 農協の総合事業（利用事業・厚生事業・その他事業）について理解する。	
第14回	協同組合の新たな方向 協同組合間連携の拡大など，新たな協同の動向を理解する	
第15回	まとめ 全体のまとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
小テスト	30	中間的な理解度を評価する。
定期試験	40	到達目標に達しているかを最終的に評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義では農業協同組合のもつ役割や機能を理解し，今後のあり方を考察できることを到達目標とする。そのためには，農業や農村，農業協同組合に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （2）発展学修として，農業や農村，農業協同組合に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	資料を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．協同組合とは何かを理解し，その目的と役割について基本的な知識を修得する。	協同組合について正確に理解し、述べることができる。	協同組合についてほぼ理解し、述べることができる。	協同組合について一定程度理解し、大体述べることができる。	協同組合について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	協同組合について基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	2．農業協同組合が果たす社会的役割を理解し，自らの言葉で説明する力を身につけている	農業協同組合が果たす社会的役割について正確に理解をしており、詳細に説明することができる。	農業協同組合が果たす社会的役割についてほぼ理解しており、説明することができる。	農業協同組合が果たす社会的役割について一定程度理解しており、説明することができる。	農業協同組合が果たす社会的役割について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	農業協同組合が果たす社会的役割について理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	3．農業協同組合がおかれる現状について理解し，自ら考察できる力を身につける。	農業協同組合がおかれる現状について深い理解をしており、その展開方向についても詳細に考察ができる。	農業協同組合がおかれる現状についてほぼ理解をしており、その展開方向について考察ができる。	農業協同組合がおかれる現状について一定程度の理解をしており、その展開方向について一定程度の考察ができる。	農業協同組合がおかれる現状について理解がやや不十分であり、考察、提案する力が乏しい。	農業協同組合がおかれる現状について理解しておらず、考察する力がない。

科目名	専門ゼミⅠ			授業番号	LH201	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、ｹﾞﾚｼﾞﾘｰ　ﾅﾝﾃﾞﾐ、佐々木　眞帆美、大宮　めぐみ、梶西　将司								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	自ら設定した（見出した，あるいは選択した）課題について，文献を収集し，文献内容の要約を含めたデータベースを作成する方法を学習することで，これまでの研究によって蓄積された情報・知識を修得する。それらの成果はその都度ゼミで発表し，意見交換を通じて理解を深める。また，特定のテキストを精読するゼミ，フィールドワークを実施するゼミなどがあるが，それぞれの場合も研究に必要な基礎的方法を学び，それらの成果を報告（書評，調査結果報告）することで，プレゼンテーションの技能を高める。								
到達目標	自ら取り上げた課題に関する文献リストを作成し，主要文献について，その内容の要旨を作成して，これまでの研究成果をレビューする。フィールドワークを実施した場合には，ポスター発表を行う。本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	15回								
授業計画 自由記載	○第1回　ゼミ概要紹介 関心のあるテーマや課題発見の方法、レポートの作成方法について解説 各コース分野に関する講義○第2回　文献収集とリスト作成の方法 各コース分野に関する講義 テーマ設定のための文献収集及びリスト作成方法について解説 図書館等での資料収集などを行う。また、ゼミ単位で個別ディスカッションを深めテーマ設定の準備をする。○第3回～第13回　文献データベース作成と文献精読あるいはフィールドワーク 各コース分野に関する講義 ゼミ単位で個別指導を行い、テーマ設定及び先行研究を進める。また、テーマ関連のブックレポートを課す。○第14回～第15回　ブックレポート及び調査結果報告書の作成 各コース分野に関する講義 後期の専門ゼミⅡへの接続に向けた指示								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度，発表討議への参加よって評価する。
レポート	40	提出されたレジメ，レポート，ポスターで評価。 課題やレポート提出後、コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各人がそれぞれの問題関心に基づいて取り上げたテーマであっても，ゼミで意見・アイディアを交換し，集団で作品を作成する楽しさを覚える。
授業外学修	1．図書館を利用して文献収集に努める。 2．文献内容の要約に努める。 3．フィールドワークに当たっては，様々な情報源から情報を収集する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義のなかで適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	2.先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	3.自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	1.事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2.独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	3..テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	1.論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	2.わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	3.調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	1.他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。

科目名	専門ゼミⅡ			授業番号	LH202	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾅﾝﾃﾞﾐ、佐々木　眞帆美、大宮　めぐみ、梶西　将司								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	専門ゼミⅡに引き続き，文献収集を進め，文献リストの充実を計る。先行研究の文献レビューを行うために，文献の分類整理を行う。フィールドワークを行うゼミの場合には，調査を引き続き進め。専門ゼミⅡで不足していた部分を再調査して補充し，調査報告書を作成する。								
到達目標	文献レビューおよび調査報告書の作成・提出を目標とする。また，作成された作品について，ゼミで討議し，内容をブラシュアップする。本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	15回								
授業計画 自由記載	第1回　専門ゼミⅡの成果の確認 各コース分野に関する講義 専門ゼミⅠを受けて，今後のテーマについて確認第2回～第13回　文献レビューおよびフィールドワークを実施 各コース分野に関する講義 ゼミ単位で個別指導を行い，テーマ設定及び先行研究・調査を進める。また、テーマ関連のブックレポートを課す。第14回～第15回　ブックレポートおよび調査報告書を作成し，発表する。 各コース分野に関する講義 次年度の専門ゼミⅢへの接続に向けた指示								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度，発表討議への参加によって評価する。
レポート	40	発表レジメ，報告書などで評価する。 課題やレポート提出後、コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ゼミで積極的に意見交換することに努める。グループで知識・技能・アイデアを共有するように心がける。
授業外学修	1．図書館を利用して文献収集に努める。 2．文献内容を要約し，それをデータベースにして保管する習慣を身につける。 3．フィールドワークにおける情報収集の方法を実践する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	2.先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	3.自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	1.事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2.独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	3..テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	1.論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	2.わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	3.調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	1.他の意見に傾聴することで，柔軟に対応することができる	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。

科目名	専門ゼミⅢ			授業番号	LH301	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁｼﾞﾐ、佐々木　眞帆美、大宮　めぐみ、梶西　将司								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	専門ゼミIIIでは，専門ゼミ，IIで培った知識・技能に基づいて，学術研究に適したテーマを設定し，卒業研究につなげる研究方法の理解・修得を進めるとともに，論文執筆の仕方についても学術論文の講読を通して学修する。また，取上げたテーマについての作業過程をその都度報告し，ゼミの構成員の間でディスカッションし，作業の進め方などをチェック・調整する。ゼミでのディスカッションを通じて，ゼミ構成員は他のメンバーが取り組んでいる研究テーマについても知識を共有して，集団で研究を進めることを学ぶ。								
到達目標	卒業研究に必要となる学術論文の作成に必要となる分析方法，議論の仕方，書き方などを修得する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	15回								
授業計画 自由記載	第1回　卒業論文とは 第2回～第13回　文献の収集，作業過程の報告とディスカッション 第14回～第15回　成果のまとめと発表								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表討議への参加，および積極的な意見・情報・アイデア提供などで評価する。
レポート	50	発表レジメおよび報告書などで評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ゼミでのディスカッションに積極的に参加し，自分の考えを論理的に説明できるように努力する。
授業外学修	1．自分が取り上げたテーマに関する文献や情報を幅広く収集する。 2．ゼミで修得した知見や方法を身につけるために，関連文献などにも当たって自習する。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡ知識をもとにより高度に応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対して仲間と協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	専門ゼミIV			授業番号	LH302	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、佐々木　眞帆美、大宮　めぐみ、梶西　将司								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	専門ゼミIVでは，専門ゼミI～IIIで取り組んだ内容をさらに発展させ，学術論文の体裁を備えた成果物を作成できるように，論文構成の立て方，分析手法，文献レビューなどについての理解を深める。その間，ゼミで繰り返し作業過程を報告し，ディスカッションを通じて自分の考えを論理的なものにする。								
到達目標	卒業研究のテーマを設定し，研究計画を作成できるようにする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1回　専門ゼミI～IIIの成果を再確認し，卒業研究に向けての現時点の状態を把握。 第2回～第15回　研究作業の途中経過の報告と点検								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表討議への参加，および積極的な意見・情報・アイデア提供などで評価する。
レポート	50	発表レジメおよび文献レビューなどで評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ゼミでは，研究作業の報告とディスカッションが中心になる。そのため，研究作業の中間報告を決められたスケジュールで発表できるようにする。それと，ゼミでは積極的に発言し，アイデアを提供するとともに，自分の考えを明確する態度を養う。
授業外学修	1．ゼミには，文献を熟読し，作業結果を吟味して，自分の立脚点や論点を明らかにして臨む。 2．ディスカッションで学んだ事項を再確認し，今後の作業に活かす努力をする。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとにより高度に応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	.自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	専門ゼミV			授業番号	LH401	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、佐々木　眞帆美、大宮　めぐみ、梶西　将司								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	専門ゼミVでは，専門ゼミI～IVの成果として提出される研究テーマおよび研究計画を基に，卒業論文作成のための調査・文献精読を開始する。ゼミでは，研究の進捗をチェックするために，自身の見解の裏付けとなる資料を用意し，提示・説明する。同時に，今後さらに補充の必要がある部分を明確にし，そのための取り組みを始める。								
到達目標	卒業論文執筆に移るために必要な文献・資料等を整える。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回専門ゼミI～IVの成果に基づいて設定した研究テーマおよび研究計画の説明 第2回～第15回　研究計画に基づいた文献精読，調査・分析を進め，中間報告する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表討議への参加および積極的な意見・情報・アイデアの提供などで評価する。
レポート	60	発表レジメおよび卒論の中間報告書などで評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	卒業研究を着実に進められるように研究計画を絶えずチェックしながら作業を進める。
授業外学修	1．文献レビューなどは執筆作業を進める。 2．間接的なデータを含めて資料の補充に努める。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料を紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木眞帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとにより高度に応用することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについてて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らの研究テーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らの研究テーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができず卒業研究のテーマも設定できていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することはできるが，意見を集約することはできない。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	卒業研究のテーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	卒業研究について自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	専門ゼミVI			授業番号	LH402	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、佐々木　眞帆美、大宮　めぐみ、梶西　将司								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	卒業研究VIは，これまでに収集検討した文献・資料に基づいて論文執筆を進めるためのゼミである。教員からのコメントに加えて，学生間でお互いの論文を点検し合うことにより，内容の修正や文章の校正を行っていく。								
到達目標	卒業論文を完成させる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	15回								
授業計画 自由記載	第1回　論文作成の計画の再点検 第2回～第14回　執筆できた部分を報告し，ゼミで検討する。それを参考にして文章を推敲する。 第15回ゼミでのプレゼンテーション								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表討議への参加および積極的な意見・情報・アイデアの提供などで評価する。
レポート	60	発表レジメおよび報告書などで評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため，よく文献を読み込んでくることが求められる。計画的に論文執筆に取り組み，質問等あれば教員に相談すること。
授業外学修	１．論文執筆作業を進める。 ２．ゼミでのディスカッションを踏まえて論文構成の再考と文章の推敲を重ねる。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料・文献を紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとにより高度に応用することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについてて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らの研究テーマについて理解することはできき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らの研究テーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができず卒業研究のテーマも設定できていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することはできるが，意見を集約することはできない。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	卒業研究のテーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	卒業研究について自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	卒業研究			授業番号	LH403	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、中安　章、宋　娘沃、佐々木　公之、岡本　輝彦、森年　ポール、ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ、佐々木　真帆美、大宮　めぐみ、梶西　将司								
単位数	4単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，ゼミ担当教員等からのフィードバックを基に推敲した卒業論文を完成させ提出する。研究内容については，卒業論文中間発表会・最終発表会で口頭発表および質疑応答を行う。								
到達目標	卒業論文を完成させ，指導教員等の助言を基に推敲した論文を提出する。卒業論文発表会では，口頭発表および質疑応答を行う。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載									
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	口頭発表および卒業論文で評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	卒業研究では，ゼミでの討論や発表会での議論を反映させ，自主的かつ積極的な態度で臨み，知識・理解，思考・問題解決能力，技能のすべてを注力して取り組むこと。
授業外学修	週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料・文献を紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとにより高度に応用することができている。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができている。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができているる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができていない。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができている。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができている。	自らの研究テーマについて，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができている。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできていない。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができている。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができている。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できている。	自らの研究テーマについてて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができている。	自らの研究テーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできていない。	自らの研究テーマについて理解することができず，調べることもできていない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができている。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができている。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができている。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができず卒業研究のテーマも設定できていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できている。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できている。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができている。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することはできるが，意見を集約することはできていない。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができていない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	卒業研究のテーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	卒業研究について自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができている。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができている。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができている。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできていない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができていない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	トップリーダー講義（キャリア研究）			授業番号	LI101	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	各業界で活躍されるトップリーダー（経営者・起業家・専門家等）を招き業界のしくみ，求める人物像を講義・ケーススタディー・ディスカッション・アクティブラーニングを交えながら最先端の業界の動向や夢実現への必要なスキルの直接指導を受けます。								
到達目標	・岡山地域を中心に各業界でご活躍されるリーダーから直接，社会で必要な知識，社会的スキル，また考え方について講義を通して直接指導を受け，職業理解を高め，将来の目指す方向，大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。 ・将来の目標が明確に言えることができる。 ・学生時代にチャレンジすることが年次ごとに具体的に述べられることができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	トップリーダーとは 復習 トップリーダーについてまとめ	佐々木
第2回	アクティブラーニング演習 予習 アクティブラーニング練習課題 復習 レポート作成	佐々木
第3回	トップリーダー講義(1) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第4回	トップリーダー講義(2) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第5回	トップリーダー講義(3) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第6回	トップリーダー講義(4) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第7回	トップリーダー講義(5) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第8回	トップリーダーの気質と特徴	佐々木
第9回	トップリーダー講義(6) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第10回	トップリーダー講義(7) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第11回	トップリーダー講義(8) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第12回	トップリーダー講義(9) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第13回	トップリーダー講義(10) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第14回	トップリーダーと業界分析(1)	佐々木
第15回	トップリーダーと業界分析(2)	佐々木
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	70	各業界の特徴や自分自身が今後どうすべきなどが具体的に述べてあること。 レポート内容を確認後、コメントを付けてフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他	10	プレゼンテーションをとおして最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講前に，業界について事前に調査を行い，受講後，復習を必ず行い理解を高めることを強く勧める。
授業外学修	1　予習として，各リーダーの業界を毎回調査し分析すること。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，講師・授業で紹介された参考文献・記事などを読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	配布プリント

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜配布
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業（銀行・都市ガス会社），自営（企業コンサルティング経験），会社役員など経営戦略に携わる経験
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	企業等からの講師による指導を実施
実務経験をいかした教育内容	企業コンサルティング経験を生かして，学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．トップリーダーの意思、考え方が理解できる	トップリーダーの考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	トップリーダーの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	トップリーダーの考え方と講義の意図が理解することができる。	トップリーダーの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	トップリーダーの言っていることが理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
思考・問題解決能力	3．他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分との共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	4．チームビルディングが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	5．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	キャリア・デザイン			授業番号	LI301	サブタイトル			
教員	佐々木　公之								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	「将来の自分が何をしたいのか？」「どの様な学生生活で成長するのか？」など大学4年間の過ごし方，学習への動機付けを行う。将来の自分のあるべき姿を考え，4年間で何を学び，どの様な資格にチャレンジするか人生設計を企て大局的な視野に立って考える。挨拶，文章の書き方等の社会的基本技能習得や人生ロードマップ作成，大学4年間のアクションプラン作成を求める。								
到達目標	将来の人生設計を考えた4年間の学生生活の過ごし方と職業理解を高める。現時点での，自分自身を理解した上で，社会現状，各業界・業種の特徴，ワークスタイルなど考えながら将来に対して大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。授業を通じて，将来の自分を見据えたキャリアデザインを描き，そこに到達するまでの4年間の行動方針の設定を目指す。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	キャリアデザインとは：講師のキャリアを通じて重要性を理解する 就職支援課より配布される就活開度Book、授業中に配布される資料の事前・事後チェック	
第2回	ライフコースを知ろう　～将来のキャリアと大学教育～：教材を読みキャリアの重要性を理解する 教科書の事前・事後チェック	
第3回	働くことを考える：教材を通して働くことの意義を理解する 教科書の事前・事後チェック	
第4回	変化のなかの若者と意識：教材を通じて現代社会の若者動向について考える 配布資料の事前・事後チェック	
第5回	社会が求める人物像：グループ討議により社会的スキルについて考える 配布資料の事前・事後チェック	
第6回	大学から労働への移行：実社会で求める人物像についてグループ討議 配布資料の事前・事後チェック	
第7回	企業のフレキシビリティと労働者のキャリア：労働環境・労働形態について学ぶ 配布資料の事前・事後チェック	
第8回	日本の雇用制度とワーク・ライフ・バランス：日本的な雇用形態を理解する 配布資料の事前・事後チェック	
第9回	世界をみすえたキャリアのあり方：ローモデル教育として世界で活躍する人物について考える 配布資料の事前・事後チェック	
第10回	キャリアとビジネススキル(1)　～挨拶・言葉遣い～：社会的スキルとして事例にて学ぶ 配布資料の事前・事後チェック	
第11回	キャリアとビジネススキル(2)　～ビジネス文書の書き方～：ビジネスに必要な基礎知識を学ぶ 配布資料の事前・事後チェック	
第12回	キャリアとビジネススキル(3)　～チームビルディング～：キャリアについてグループ討議 討議内容について準備と振り返り	
第13回	人生ロードマップ作成：目標と夢の明確化を行う レポート作成と振り返り	
第14回	大学4年間のアクションプラン作成：4年間のアクションプランを発表する 事前に発表準備と振り返り	
第15回	大学生活とキャリアデザイン：年次ごとの目標を明確化しアクションプランを考える 事後でのレポート作成	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	40	夢・目標・アクションプランが具体的に述べてあること。 レポート内容を確認後、コメントを付けてフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験	30	ビジネスマナーが習得できているかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・事前にトピックについて予習を行い，事後学習として講義のまとめを行うことを強く勧める。 ・受講前に，教科書を読み理解して授業に臨むこと ・グループワークでは積極的に授業に参加すること ・授業中に他学生に迷惑を掛けないように受講すること
授業外学修	1　授業毎に紹介する教科書，参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 2　復習として，グループワーク，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された記事などを読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	別途指示

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	小野田博之著「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」（日本能率協会マネジメントセンター，2005）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業（銀行・都市ガス会社），自営（企業コンサルティング経験），会社役員など経営戦略に携わる経験
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	企業コンサルティング経験を生かして，学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．キャリアデザイン考え方が理解できる	キャリアデザインの考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	キャリアデザインの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	キャリアデザインの考え方と講義の意図が理解することができる。	キャリアデザインの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	キャリアデザインの考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
思考・問題解決能力	3．他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分との共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	4．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる。	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	5．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	ビジネスプランコンテスト			授業番号	LI302	サブタイトル			
教員	佐々木　公之								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	・ビジネスプラン（事業計画書）の概念を学ぶことで，企業経営の経営計画・起業の本質を理解する。 ・ビジネスプラン作成に必要な手順，方法等について学ぶ。 ・ベンチャー企業の実例をもとに，成功・失敗の要因などについて考察する。								
到達目標	・ビジネスプラン（事業計画書）の概念と，社会におけるその重要性を，他者に説明できるようになる。 ・ビジネスプラン（事業計画書）を通じて，経営者・起業家の気持ちが持てるようになる）。 ・広義の起業家精神を持って勉学，社会生活に臨むことができるようになる。 ・身近なベンチャー企業の例を複数挙げられる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ビジネスプラン作成とは何か	
第2回	良いビジネスプランを作成する準備（１） -ビジネスプランの作成目的-	
第3回	良いビジネスプランを作成する準備（２） -ビジネスプランの進め方-	
第4回	ビジネスプラン作成のフレームワーク（１） -顧客分析の進め方-	
第5回	ビジネスプラン作成のフレームワーク（２） -競合分析の進め方-	
第6回	ビジネスプラン作成のフレームワーク（３） -自社分析の進め方-	
第7回	ビジネスプラン作成のポイント（１） -誰がやるのか-	
第8回	ビジネスプラン作成のポイント（２） -いかに儲かる仕組みを創るか-	
第9回	ビジネスプランの構成と書き方（１） -ビジネスプランの事業概要-	
第10回	ビジネスプランの構成と書き方（２） -基本戦略-	
第11回	ビジネスプランの構成と書き方（３） -財務計画(1)-	
第12回	ビジネスプランの構成と書き方（４） -財務計画(2)-	
第13回	ビジネスプランとアプトプット（１） -プレゼンテーション技法-	
第14回	ビジネスプランとアプトプット（２） -発表-	
第15回	ビジネスプランとアプトプット（３） -総括-	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講時の発言等の積極性を評価する。
レポート	20	修了レポートの内容レベルを評価する。 レポート内容を確認後、コメントを付けてフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験	50	ビジネスプランの内容レベルを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ビジネスプラン作成は，単なる知識の一方的伝達ではなく，双方向の議論を重視する。普段から問題意識を持ち，質問その他，幅広く発言できるようにしておくこと。
授業外学修	1　予習として，講義での指示やシラバス，テキストを参照し，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにしておくこと。 2　広く新聞，雑誌・書籍，TV・ラジオ，ウエブサイト等から社会経済の新しい動向の把握に努めること。 3　関連機関の行う講習・講演会，見学会，起業家との触れ合いなどの機会を積極的に探して参加する努力をすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス実務と経営学の基礎を学ぶ教科書ノート	佐々木公之、大田住吉他	銀河書籍	9784866450278	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ベンチャー企業	松田修一	日本経済新聞社	978-4-532-11303-2	1000
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	経営コンサルタントとして起業家に向けビジネスプラン作成の指導実績あり			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	企業コンサルティングの経験を生かして，ビジネスプラン作成や論理的思考力向上などの指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．ビジネスプランの考え方が理解できる	キャリアデザインの考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	ビジネスプランの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	ビジネスプランの考え方と講義の意図が理解することができる。	ビジネスプランの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	ビジネスプランの考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
思考・問題解決能力	３．ビジネス課題を理解し問題解決が出来る	ビジネス課題を多角的に想像し、ビジネスアイデアを形式知化できる。	ビジネス課題を想像しながら、アイデアの思いを想像することができる。	ビジネス課題を想像することができる。	ビジネス課題が多様であることを認識している。	ビジネス課題が理解できない。
技能	１．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
技能	２．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	インターンシップ（短期）			授業番号	LI303	サブタイトル			
教員	佐々木　公之								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	約2週間に亘って，将来のキャリアを念頭に入れ企業・行政・NPOにて就業体験を行う制度である。職場の実情を知り体感することで職業理解，実務能力を向上させるだけでなく，自己の職業適性について考える契機となる。学内にて事前研修を行った後，実際9-10日間のインターンシップを経験する。期間中は，「インターンシップ実施日誌」，受け入れ先からの実習の態度，意欲，成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」，インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。								
到達目標	・職業，勤労をより実践的に理解する。 ・仕事を遂行する上での様々な技能を実践的に習得する。 ・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1回　社会とインターンシップ 第2回　ソーシャルマナー 第3回　応募先決定・応募 第4～28回　インターンシップ実習 第29回　実習体験報告 第30回　インターンシップふりかえり								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	実習受け入れ先からのフィードバックを基づき評価を行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	学内での取組み状況・体験報告会を通して評価を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講前に，インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。
授業外学修	1　予習として，希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2　復習として，インターンシップでの実習を通じて得られたことなをレポートとして書く。 3　発展学修として，講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	体験報告書等

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜配布
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	企業等からの講師による指導を実施
実務経験をいかした教育内容	企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして，学生の適応力，マナー，挨拶などの社会人基礎力向上にいかす。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．インターンシップ先の考え方が理解できる	インターンシップ先の考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	インターンシップ先の考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	インターンシップ先の考え方と講義の意図が理解することができる。	インターンシップ先の考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	インターンシップ先の考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会人としてのマナーを身に付いている。	社会人に必要なビジネスマナーが身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーが概ね身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	ビジネスマナーの心構えを持って、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーの心構えが不十分で、インターンシップ先にミスがある。	社会人に必要なビジネスマナーの身に付いておらず、インターンシップ先にうまく取り組めない。
思考・問題解決能力	3．他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分との共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	4．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	5．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	インターンシップ（中長期）			授業番号	LI304	サブタイトル			
教員	佐々木　公之								
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	1カ月～2カ月に亘って，将来のキャリアを考え国内外にて就業体験を企業・行政・NPOにて行う制度である。国内企業にて長期間の就業体験を積むことで職業理解，実務能力向上を目指す。海外インターンシップでは海外での就業体験にて，異文化理解だけでなく，語学力の向上にて国際的視野に立った人材育成が図られる。学内にて事前研修を行った後，実際20－50日間のインターンシップを経験する。期間中は，「インターンシップ実施日誌」，受け入れ先からの実習の態度，意欲，成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」，インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。								
到達目標	・職業，勤労をより実践的に理解する。 ・仕事を遂行する上での様々な技能を中長期間掛けて実践的に習得する。 ・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1回　社会とインターンシップ 第2回　　ソーシャルマナー 第3回応募先決定・応募 第4～98回　インターンシップ実習 第99回　実習体験報告 第100回　インターンシップふりかえり								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	実習受け入れ先からのフィードバックを基づき評価を行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	学内での取組み状況・体験報告会を通して評価を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講前に，インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。
授業外学修	1　予習として，希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2　復習として，インターンシップでの実習を通じて得られたことなをレポートとして書く。 3　発展学修として，講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	体験報告書等

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜配布
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	企業等からの講師による指導を実施
実務経験をいかした教育内容	企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして，学生の適応力，マナー，挨拶などの社会人基礎力向上にいかす。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．インターンシップ先の考え方が理解できる	インターンシップ先の考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	インターンシップ先の考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	インターンシップ先の考え方と講義の意図が理解することができる。	インターンシップ先の考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	インターンシップ先の考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会人としてのマナーを身に付いている。	社会人に必要なビジネスマナーが身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーが概ね身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	ビジネスマナーの心構えを持って、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーの心構えが不十分で、インターンシップ先にミスがある。	社会人に必要なビジネスマナーの身に付いておらず、インターンシップ先にうまく取り組めない。
思考・問題解決能力	3．他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分との共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	4．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	5．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	夏季語学研修			授業番号	LJ101	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にした留学プログラムである。夏休み（8月下旬～9月上旬）期間中にカナダのバンクーバーアイランドのEF校で週26レッスンの英語学習を課す。								
到達目標	1．留学で日常生活に必要な英語の語彙， 表現を理解できる。 2．語学学校や日常生活の様々なアクティビティを通して，英語の4技能をバランスよく向上させることができる。 3．簡単な日常会話であれば外国人とコミュニケーションを取ることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	・事前指導では， 留学前に英語学習や留学先について調べてレポートを提出すること。 ・事後指導では， 留学後に留学で得られたものについてレポートを提出すること。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	100	事前事後学習の課題を総合的に評価する。なお，フィードバックは返却時に個別に行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	中国学園を代表して研修に参加するものとし，留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。
授業外学修	留学期間中は，語学学校で出された課題について1日２時間程度を予習・復習の授業外学修に費やすこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	EF校で指定されたテキストを使用する（留学費用の中にテキスト代は含まれている）。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．留学で日常生活に必要な英語の語彙、表現を理解できる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、応用して使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	２．日常生活に関する事柄について、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、英語で自由にコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、簡単な英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスがあるものの、簡単な英語であれば概ねコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスが多く、簡単な英語であってもコミュニケーションを取ることができない。
知識・理解	３．言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解している。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを明確に理解したうえで、他者との違いを調整しコミュニケーションをとることができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解したうえで、他者との違いを調整しようする。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解し、その違いを説明することができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いがあることは認識しているが、その違いを明確に説明することができない。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを認識できていない。
技能	１．英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を的確に理解し、それを自分の言葉で正確に説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解し、その概要を自分の言葉で説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を概ね理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容の一部を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができない。
技能	２．自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、自分が伝えたい内容を英語で的確に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、自分が伝えたい内容を短い英文を用いて表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現しようとするが、一部間違いがあり内容が伝わりにくい。	既存の英文を参考にしても、自分が伝えたい内容を英語で表現することができない。
技能	３．他の言語や文化に興味をもち、異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について自発的に調べ、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に積極的に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場が設定されればコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について興味はあるが、異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとろうとしない。	他の言語や文化について興味をもたず、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。

科目名	春季語学研修			授業番号	LJ102	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にした留学プログラムである。春休み(2月下旬から3月上旬)期間中にオーストラリア・シドニーのEF校で週26レッスンの英語学習を課す。								
到達目標	1.留学で日常生活に必要な英語の語彙、 表現を理解できる。 2.語学学校や日常生活の様々なアクティビティを通して、 英語の4技能をバランスよく向上させることができる。 3.簡単な日常会話であれば外国人とコミュニケーションを取ることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>，<技能>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	・事前指導では、 留学前に英語学習や留学先について調べてレポートを提出すること。 ・事後指導では、 留学後に留学で得られたものについてレポートを提出すること。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	100	事前事後学習の課題を総合的に評価する。なお，フィードバックは返却時に個別に行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	中国学園を代表して研修に参加するものとし，留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。
授業外学修	留学期間中は，語学学校で出された課題について1日2時間程度を予習・復習の授業外学修に費やすこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	EF校で指定されたテキストを使用 する(留学費用の中にテキスト代は含まれている)。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．留学で日常生活に必要な英語の語彙、表現を理解できる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、応用して使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	２．日常生活に関する事柄について、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、英語で自由にコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、簡単な英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスがあるものの、簡単な英語であれば概ねコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスが多く、簡単な英語であってもコミュニケーションを取ることができない。
知識・理解	３．言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解している。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを明確に理解したうえで、他者との違いを調整しコミュニケーションをとることができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解したうえで、他者との違いを調整しようする。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解し、説明することができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いがあることは認識しているが、その違いを明確に説明することができない。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを認識できていない。
技能	１．英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を的確に理解し、それを自分の言葉で正確に説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解し、その概要を自分の言葉で説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を概ね理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容の一部を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができない。
技能	２．自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、自分が伝えたい内容を英語で的確に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、自分が伝えたい内容を短い英文を用いて表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現しようとするが、一部間違いがあり内容が伝わりにくい。	既存の英文を参考にしても、自分が伝えたい内容を英語で表現することができない。
技能	３．他の言語や文化に興味をもち、異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について自発的に調べ、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に積極的に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場が設定されればコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について興味はあるが、異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとろうとしない。	他の言語や文化について興味をもたず、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。

科目名	セメスター留学			授業番号	LJ201	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	12単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にしたプログラムである。2年後期（9月末～1月中旬）期間中に北米，ヨーロッパ，オセアニア，アジアのさまざまな会場等のESL（English as a Second Language）プログラムにて週30時間以上の英語学習を課した留学プログラムである。								
到達目標	各留学先で提供されるプログラムを合格点で修了させること。分野別に授業が実施されることになるが，全ての授業で合格点を獲得しなければ，所定12単位は取得できないので注意すること。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	留学先ごとに若干の差があるが，Listening， Speaking， Reading， Writing， Vocabulary， Grammar， Spelling， Pronunciationの分野から現地でのESLの授業が行われる。いずれの留学先においても，ESLの授業クラスはレベル分けされており，プレースメント・テスト等により所属クラスが決定される。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	留学先から送付される各授業の成績や担当教員の所感等を総合的に判断して評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	中国学園を代表して研修に参加するものとし，留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。
授業外学修	留学期間中は，1日３時間程度を予習・復習の授業外学修に費やし，残りの時間は帰国後（12月末）から学期が終了する1月下旬まで，帰国プレゼンテーションのための資料づくりや報告書の作成等に費やすことで，必要な時間数を確保することに努める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	留学先にて指定されたものを購入する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．留学で日常生活に必要な英語の語彙、表現を理解できる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し、応用して使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	２．日常生活に関する事柄について、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、英語で自由にコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、簡単な英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスがあるものの、簡単な英語であれば概ねコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスが多く、簡単な英語であってもコミュニケーションを取ることができない。
知識・理解	３．言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解している。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを明確に理解したうえで、他者との違いを調整しコミュニケーションをとることができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解したうえで、他者との違いを調整しようする。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解し、説明することができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いがあることは認識しているが、その違いを明確に説明することができない。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを認識できていない。
技能	１．日常生活において英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を的確に理解し、それを自分の言葉で正確に説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解し、その概要を自分の言葉で説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を概ね理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容の一部を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができない。
技能	２．日常生活において自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、自分が伝えたい内容を英語で的確に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、自分が伝えたい内容を短い英文を用いて表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現しようとするが、一部間違いがあり内容が伝わりにくい。	既存の英文を参考にしても、自分が伝えたい内容を英語で表現することができない。
技能	３．他の言語や文化に興味をもち、異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について自発的に調べ、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に積極的に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場が設定されればコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について興味はあるが、異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとろうとしない。	他の言語や文化について興味をもたず、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。

科目名	日本事情 (外国人留学生のみ受講可)			授業番号	LK101	サブタイトル			
教員	岡本 輝彦								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	日本の文化や社会，習慣について幅広く学習し日本人のものの見方，考え方を知ることによって日本での生活に適応できる能力を身につける。また，知識を習得するだけではなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。								
到達目標	１．日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。 ２．日本や日本人を正しく理解することができる。 ３．最終的には日本人コミュニティーに参加できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション・自己紹介	
第2回	日本を知る 日本の国土,人口,産業,気候などの情報を知る。	
第3回	自国・故郷の説明 自国・故郷について説明するための発表の準備	
第4回	自国についての発表 資料を示しながら口頭発表する。	
第5回	日本の都市について 日本の都市とその産業を紹介するとともに,都市が抱えている問題を考察する。	
第6回	日本の交通について 日本の公共交通機関を紹介するとともに,移動方法を学ぶ。	
第7回	日本と自国との比較 日本と自分の国を比較しながら,相似点や相違点を探り,口頭で発表する。	
第8回	日本の年中行事 日本の年中行事には伝統的に続いてきた日本の独自に文化に由来するものや海外ががら伝わってきた習慣や近年になって生まれたイベントがあるが,どのようなことが行われているかを考察する。	
第9回	日本の教育 日本の教育制度や教育の問題点などを学ぶ。	
第10回	日本のポップカルチャー 日本には伝統文化のほかに,アニメや漫画といったポップカルチャーがあるが,海外ではポップカルチャーに関心を持つ日本語学習者が多い。そこで, ポップカルチャーを考察する。	
第11回	日本の問題(1) 日本は食料自給率が低い。そこには食物ロスなどの問題が潜んでいる。ここでは食の問題を考える。	
第12回	日本の問題(2) 日本は少子化により子供の数が減少し続けている。このまま続けば経済活動を支える若い世代が減少することで経済に悪影響を及ぼす.この少子化の問題を考える。	
第13回	日本の問題(3) 日本は過疎化が進んでいるが,過疎の現状を知るとともに,その問題を考える。	
第14回	自国の問題(1) 自国の問題を取り上げ,口頭で発表する。	
第15回	自国の問題(2) どのような対策が必要なのかをディスカッションする。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	積極的な受講態度，発話回数で評価する。
口頭発表	20	テーマに沿った内容になっており,口頭発表の組み立てが適切になされているかどうかで評価する。 口頭発表終了後に,コメントを加え,再確認する。
小テスト	60	学習内容が理解し,自分の意見が明確に述べられているかどうかでどうかで評価する。 小テストはコメントを加え,返却した後に,再確認する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1.資料を読んだり，ディスカッションをしたりするので，自分からどんどん発言すること。 2.講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。 3.口頭発表の準備をしておくこと。
授業外学修	1.テキストの中でわからない語彙を調べておくこと。 2.テキストの内容を資料などを使って調べておくこと。 3.学習した内容を復習しておくこと。 4.資料を探し,口頭発表の練習をすること。 以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(8年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教員(8年)での経験から外国人に対して日本事情を日本の生活に役立てるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本や日本人を正しく理解することができる。	日本や日本人について自身の意見を述べながら他者との協働により正しく理解することができる。	日本や日本人について自身の意見を述べ、他者の意見を聞きながら正しく理解することができる。	日本や日本人についてある程度自分の意見を述べ他者の意見を聞きながら正しく理解することができる。	日本や日本人について何かを拠り所にしなければ理解することができない。	日本や日本人について何を拠り所にしても理解することができない。
思考・問題解決能力	日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる	自らの問題意識に基づいて日本の文化や社会、習慣について十分に理解し、自国の事情と比較しながら他者と議論できる。	自らの問題意識に基づいて日本の文化や社会、習慣について理解し、自国の事情と比較しながら他者に伝えることができる。	自らの問題意識に基づいているものの、日本の文化や社会、習慣について何かを拠り所にすれば、自国の事情を他者に伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてはいるものの、日本の文化や社会、習慣について十分に理解できておらず、自国の事情と比較することできない。	自らの問題意識を設定することができず日本の文化や社会、習慣について理解できていないため自国の事情も比較することができない。
技能	日本人のコミュニティに参加できる。	自分から話題を提供し,日本人のコミュニティに参加することができる。	他者から話題を提供されれば日本人のコミュニティに参加できる。	他者の誘いがあれば日本人コミュニティに参加できる。	他者から話題を提供され、話題を提供されれば日本人のコミュニティに何とか参加できる。	日本人のコミュニティに参加できない。

科目名	日本語Ⅰ（外国人留学生のみ受講可）			授業番号	LK102	サブタイトル			
教員	岡本　輝彦								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること，受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより，日本語での発信力を向上させることを目的としている。								
到達目標	１．論理的な思考を身につけることができる。 ２．自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 ３．中上級の表現力が習得できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション・日本語能力チェック 日本語がどの程度かを確かめるために日本語能力のチェックテストの実施。	
第2回	アカデミック・リーディング(1) 日本語能力試験Ｎ２レベルの読み物を読む	
第3回	アカデミック・ライティング(1) レポートに使われる文体の習得	
第4回	語彙・表記(1) 日本語能力試験Ｎ２レベルの語彙、カタカナの使い方の習得	
第5回	文法(1) 日本語能力試験N2レベルの表現や機能語の習得	
第6回	アカデミック・リーディング(2) 日本語能力試験N2レベルの読み物を読む	
第7回	アカデミック・ライティング(2) 首尾一貫した文章の作成法の習得	
第8回	語彙・表記(2) 日本語能力試験N2レベルの語彙、ひらがなと漢字の使い方の習得	
第9回	文法(2) 日本語能力試験N2レベルの表現や機能語の習得	
第10回	アカデミック・リーディング(3) 日本語能力試験N2レベルの読み物を読む	
第11回	アカデミック・ライティング(3) 句読点の効果的な使用方法、副詞・接続詞・主語・疑問詞との呼応の習得	
第12回	語彙・表記(3) 日本語能力試験N2レベルの語彙、ひらがなと漢字の使い方の習得	
第13回	文法(3) 日本語能力試験N2レベルの表現や機能語の習得	
第14回	アカデミック・リーディング(4) 日本語能力試験N2レベルの読み物を読む	
第15回	アカデミック・ライティング(4) レポートを書く	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	積極的な受講態度，発話回数，予習復習の成果で評価する。
小テスト	60	学修した語彙・文法・表現の正確な理解,やや長い文章を読む際のスキルが利用できていること等で評価する。小テストは修正しコメントを加え,返却する。
レポート	20	テーマに沿っており,文章構成が整っていること,語彙・文法を適切に使用していること等で評価する。レポートは修正するとともに,コメントを加えて返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義の前にプリントを読んでおき，事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけではなく，自分から意見を述べること。
授業外学修	1.毎回配布するテキストに出てくる語彙・表現を調べておくこと。 2.テキストの内容に対して自分の意見をまとめておくこと。 3.調べながら,適切にレポート,課題に取り組むこと。 以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(8年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教員(8年)の経験から学生が大学生活で自分の考えを表明できる技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	論理的な思考を身につけ,適切な表現を使うことができる。	論理的に考えることでき、非常に適切な表現ができる。	論理的に考えることはできるが、適切な表現ができる。	論理的に考えることはできるが、ある程度適切な表現ができる。	論理的に考えることができるが、適切な表現ができないこともが多い。	論理的に考えることもできず、適切な表現ができない。
思考・問題解決能力	自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。	自分の言いたいことを例や理由を述べながら非常にわかりやすく説明することができる。	自分の言いたいことを例や理由を述べながら、わかるように説明することができる。	自分の言いたいことを例や理由を述べながら、何とかわかるように説明することができる。	自分の言いたいことを例や理由を述べることはできるが、あまりわかるように説明はできない。	自分の言いたいことを例や理由を述べることもできず、わかるように説明することができない。
技能	中級の機能語を用いて自分の考えていることを自由に表現できる。	中上級の機能語を用いて自分が考えていることを自由に表現することができる。	中上級の機能語を用いて自分が考えていることをやや自由に表現することができる。	中上級の機能語を用いて自分が考えていることを簡単に表現することができる。	中上級の機能語の一部を用いて自分が考えていることを何とか表現することができる。	中上級の機能語を用いることができず、自分の考えていることを簡単にしか表現することができない。

科目名	日本語Ⅱ（外国人留学生のみ受講可）			授業番号	LK103	サブタイトル			
教員	岡本　輝彦								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	総合的な日本語力はもとよりのこと，特に「話す」,「書く」といった産出の面における日本語能力の向上も目指し，自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。								
到達目標	1．論理的な思考を身につけることができる。 2．自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3．中上級の表現力を習得することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	アカデミック・リーディング(1) 日本語能力試験N1レベルの読み物を読む	
第2回	アカデミック・ライティング(1) 文章構成法の習得	
第3回	語彙・表記(1) 日本語能力試験N1レベルの語彙、日本語能力試験N2・N1レベルの漢字 表記の習得	
第4回	文法(1) 日本語能力試験N1レベルの表現や機能語の習得	
第5回	アカデミック・リーディング(2) 日本語能力試験N1レベルの読み物を読む	
第6回	アカデミック・ライティング(2) 歴史的経緯の書き方の習得	
第7回	語彙・表記(2) 日本語能力試験N1レベルの語彙の習得	
第8回	文法(2) 日本語能力試験N1レベルの表現や機能語の習得	
第9回	アカデミック・リーディング(3) 日本語能力試験N1レベルの読み物を読む	
第10回	アカデミック・ライティング(3) 比較・対象の表現法の習得	
第11回	語彙・表記(3) 日本語能力試験N1レベルの語彙の習得	
第12回	文法(3) 日本語能力試験N1レベルの表現や機能語の習得	
第13回	アカデミック・リーディング(4) 日本語能力試験N1レベルの読み物を読む	
第14回	アカデミック・ライティング(3) 要約の方法の習得	
第15回	日本語能力レベル・チェック 日本語がどの程度かを確かめるために日本語能力のチェックテストの実施	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。
小テスト	60	学修した語彙・文法・表現の正確な理解,難解で長い文章の読み取り等で評価する。小テストは修正し,コメントを加え,返却する。
レポート	20	テーマに沿っており,語彙・文法の正確さだけでなく,段落を利用していること,段落と段落との結束性も考えられていること等で評価する。レポートは修正しコメントを加えた上で返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義の前にプリントを読んでおき,事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけでなく,自分からも意見を述べること。
授業外学修	1.毎回配布するプリントに関する語彙・文法を調べておくこと。 2.テキストの内容に対して自分の意見をまとめておくこと。 3.調べながら適切にレポート,課題に取り組むこと。 以上の内容を週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(8年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教員(8年)の経験から,大学生活で自分の意見が表明できるように日本語の理解とスキルを向上させられるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	論理的な思考を身につけ,適切な表現を使うことができる。	論理的に考えることでき、非常に適切な表現ができる。	論理的に考えることはできるが、適切な表現ができる。	論理的に考えることはできるが、ある程度適切な表現ができる。	論理的に考えることができるが、適切な表現ができないこともが多い。	論理的に考えることもできず、適切な表現もできない。
思考・問題解決能力	自分が言いたいことが客観的かつ具体的なデータや理由などを示しながらわかりやすく説明できる。	自分の言いたいことを客観的か具体的なデータや理由を述べながら非常にわかりやすく説明することができる。	自分の言いたいことを客観的に述べながら、わかるように説明することができる。	自分の言いたいことを具体的に自身の考えを述べながら、わかるように説明することができる。	自分の言いたいことを述べることはできるが、何とかわかるように説明はできる。	自分の言いたいことをあまりわかるように説明することができない。
技能	中上級の表現で詳しい描写をすることができる。	中上級の表現を用いて非常に詳しい描写をすることができる。	中上級の表現を用いてやや詳しい描写をすることができる。	中上級の表現を用いてある程度詳しい描写をすることができる。	中上級の表現を用いて簡単な描写をすることができる。	中上級の表現を十分に用いることができず、簡単な描写しかすることがしかできない。

中国学園大学　大学院　現代生活学研究科 人間栄養学専攻　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
総合食品栄養学特論	井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝／坪井　誠二 ・・・・・・・	1
総合人間栄養学特論	古川　愛子／多田　賢代／赤木　收二／小野　尚美／波多江　崇 ・・・・・・・	3
食品化学特論	大桑　浩孝 ・・・・・・・	5
食品化学演習	大桑　浩孝 ・・・・・・・	7
代謝調節栄養学特論	赤木　收二 ・・・・・・・	9
代謝調節栄養学演習	赤木　收二 ・・・・・・・	11
細胞栄養学特論	坪井　誠二 ・・・・・・・	13
細胞栄養学演習	坪井　誠二 ・・・・・・・	15
栄養生理学特論	井之川　仁 ・・・・・・・	17
栄養生理学演習	井之川　仁 ・・・・・・・	19
環境・食品微生物学特論	楠本　晃子 ・・・・・・・	21
環境・食品微生物学演習	楠本　晃子 ・・・・・・・	23
健康栄養学特論	多田　賢代 ・・・・・・・	25
健康栄養学演習	多田　賢代 ・・・・・・・	27
病態栄養学特論	古川　愛子／赤木　收二 ・・・・・・・	29
公衆衛生学特論	波多江　崇 ・・・・・・・	31
公衆衛生学演習	波多江　崇 ・・・・・・・	33

科目名	総合食品栄養学特論			授業番号	GJ501	サブタイトル			
教員	井之川　仁、坪井　誠二、大桑　浩孝、楠本　晃子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	学部での食品栄養学をさらにすすめた講義を行う。『総合』食品栄養学であり，食品や食品に関連する化合物や微生物が人体におよぼす影響を微生物学的視点・運動栄養学的視点からとらえるのみならず，データ解析や食文化の発展に関する内容まで広く講義する。								
到達目標	食品や食品に関連する物質が人体におよぼす影響を理解できるとともに，その有効な利用法や悪影響の防止について広範に説明できる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	有用微生物	
第2回	微生物利用食品の機能性	
第3回	食品媒介微生物	楠本
第4回	食事と腸内細菌叢	楠本
第5回	健康食品とサプリメント	
第6回	食品の残留農薬	
第7回	食事と妊娠	
第8回	食・運動習慣と血糖値	井之川
第9回	食・運動習慣と自律神経系	井之川
第10回	ジュニアアスリートの栄養サポート	
第11回	陸上競技選手の栄養サポート	井之川
第12回	プロサッカー選手の栄養サポート	
第13回	食品学におけるメタ解析	
第14回	食感・食環境と認知神経	
第15回	食文化進化論	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。
レポート	50	与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加すること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。
その他	
備考	令和３年度改定
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ジュニアアスリート・プロサッカーチーム・陸上競技選手の栄養指導，薬剤師として健康食品・サプリメントのカウンセリング，健康食品・サプリメントのメタ解析，内閣府食品安全委員会専門委員
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実体験を交えた講義および現場での思考方法を伝授する。

科目名	総合人間栄養学特論			授業番号	GK501	サブタイトル			
教員	赤木　收二、多田　賢代、小野　尚美、波多江　崇、古川　愛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	食・栄養に関わる高度専門職業人として，医療・福祉・栄養教育等の現場における実務や研究活動を推進する上で必要となる基本的であり先進的な知見を俯瞰的に解説する。								
到達目標	この授業を通じて，傷病者の療養や健康維持・増進をはかるための職務を遂行するために普遍的かつ重要な事項を学修し，食・栄養に関わる高度職業人として，社会に貢献する上で重要となる基本的な考え方を身につけることが目標である。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	各担当教員によるオムニバス方式で授業を運営し，以下のテーマ等について解説する。 (1) 成長，発達，加齢における栄養管理に関して，各種学会から出されている提言やトピックスを中心に解説を行う。 (2) 食育にかかわる各種栄養政策について，SDGsにつなげる食環境整備の観点から解説する。 (3) 食物・栄養素の消化，吸収について，それらにかかわる消化管ホルモンに視点をあてながら解説する。 (4) 脂質代謝異常によってもたらせる各種疾患(NASH，脂質異常症等)について概説し，それらに対する最新の栄養療法について解説する。 (5) 体温調節機構およびその破綻によってもたらされる病態および栄養素等の摂取による介入の現状について解説する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	授業中の質疑応答，課題レポートを総合的に判断する。

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては，各担当教員よりコメントを記入して返却する。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指示を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機器の管理栄養士((8年)，市町村嘱託管理栄養士(3年)として職務を行った(多田)。医療機関の栄養士(３年)，管理栄養士(3年)(吉川)として職務を行なった。医師(35年)として医療機関等において診療に従事した(赤木)。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	臨床現場や健康増進のために行う栄養教育等の業務を,高度専門職業人として遂行するために有用となる内容を学修できるように授業を進める。

科目名	食品化学特論			授業番号	GL501	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	食品構成成分の化学的・物理的特性とその栄養機能について理解することは食品の加工・調理を行う上で重要なことである。この特論においては，食品構成成分の化学構造，存在状態について学ぶとともに，加工・調理による食品成分の変化および食品成分間反応についての知識と理解を深める。								
到達目標	・食品成分の化学的・物理的変化を総合的に理解し，食品の品質との関連性を的確に説明できる能力を養う。 ・食品化学に関する問題を自発的に調査し，論理的に纏めることができる能力を養う。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第１回　　食品の種類と分類 第２～５回　食品成分の化学的・物理的特性 (1)水 (2)タンパク質，アミノ酸 (3)脂質 第６～９回　食品成分間反応 (1)脂質代謝 (2)酵素による食品成分の変化 (3)炭水化物代謝 (4)微生物的成分変化 第10～12回　食品素材の化学的特性 第13～14回　調理・加工食品の品質 第15回　　まとめと総合討論								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。
レポート	50	与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加すること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に定めない				
使用テキスト：自由記載	特に定めない。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

科目名	食品化学演習			授業番号	GL602	サブタイトル			
教員	大桑 浩孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	食品化学に関する内外の論文についてゼミナール形式で購読する。論文を理解するために必要な食品関連の基礎的知識についても演習を行い，専門知識を深め，食品に関する多角的視野と理解力を養う。また，具体的な事例を取り上げ，演習を通じて問題点の把握と自ら考察する能力を養う。								
到達目標	・食品化学に関連した専門原著論文の読解力，理解力，考察力，内容の伝達力を身に付ける。 ・食品化学に関する課題を自発的に設定，調査し，論理的に解決する能力を身に付ける。 ・食品に関する現実の問題を，具体的，論理的に纏め，解決することができる能力を養う。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第１～６回　　文献購読・討論 (1)～(6) 第７～12回　　調査報告・討論 (1)～(6) 第13～14回　　事例演習・討論 (1)～(2) 第15回　　まとめと総合討論								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。
レポート	50	与えられた課題に対する具体的，論理的内容により評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加し討議に加わること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	特に定めない。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	代謝調節栄養学特論			授業番号	GM501	サブタイトル			
教員	赤木 收二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	ヒトは，食物として各種栄養素を摂取し，それらを消化・吸収した後，エネルギーへの変換，生体高分子への合成および生理活性物質の生成等を行うことで，恒常性を保ちながら生命を維持する。体内において各栄養素は個別にあるいは相互的に絶妙な代謝調節をうけているが，疾病の多くは，この調節機構の破綻の結果ともいえる。本授業では，栄養学的介入を行う上で重要な疾患を中心に，各栄養素の消化・吸収および代謝について，疾患のなりたちに関連づけながら学修する。さらに，各種疾患について，栄養指導などの栄養学的治療介入を行う上での根拠となるエビデンスについて理解を深める。								
到達目標	各種疾病のなりたちを理解し，栄養学的理論を展開・応用・実践させる能力を向上させつつ，さらに新たな栄養学的介入を探求するために適切な研究遂行能力を養うとともに，医療現場において，個々人の身体状況・栄養状態に応じて，高度の専門知識を用いた栄養療法を行うための能力を高めることが本授業の目標である。								
授業計画 備考	事前に授業に用いる資料を配布する。								
授業計画 自由記載	第1・2回 消化器系器官の機能と構造 食物の消化，吸収 第3・4回 糖質代謝と疾患 糖尿病 第5・6・7回 脂質代謝と疾患 脂質異常症 肥満とメタボリックシンドローム 動脈硬化 第8回 アミノ酸代謝と疾患 第9回 尿酸代謝と高尿酸血症 第10・11・12回 ミネラル代謝と疾患 腎疾患，骨，貧血 第13回 体温調節と代謝 第14回 睡眠と栄養素，時間栄養学の基礎 第15回 まとめ								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	授業中の質疑応答，課題レポートを総合的に判断する。

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては，コメントを記入して返却する。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，必要に応じ，関連領域の最新論文を読むこと。
授業外学修	学部時代に学習した関連事項について復習しておくこと。 事前に資料を配布するので，授業前に通読しておくこと。 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。適宜資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として診療に従事(35年間）。産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画(10年間)。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実臨床に即した，管理栄養士としての職務実践能力を高める内容に重点をおき授業を進める。

科目名	代謝調節栄養学演習			授業番号	GM602	サブタイトル			
教員	赤木 收二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	各種栄養素の代謝およびそれらに関連した疾患についての論文を講読し，内容について議論を重ねることで代謝調節栄養学特論で習得した知識を深めるための演習を行う。								
到達目標	栄養学的アプローチが重要とされる疾患の最新の知見に関する論文を読み解きつつ，討論に参加することを通じて疾病に対する理解をより深める。さらに新たな栄養学的介入を探求するために必要な研究遂行能力を養うとともに，医療現場において個々人の身体状況や栄養状態に応じて，高度の専門知識を用いた栄養療法を行うことができる能力を高めることを目標とする。								
授業計画 備考	事前に授業に用いる資料を配布する。								
授業計画 自由記載	第１～8回 各種栄養素の代謝と関連疾患に関する論文の講読と討論 第 9回～10回 栄養障害にともなう代謝調節の変化・破綻に関する論文の購読と討論 第 11～13回 老化にともなう各種病態と栄養素摂取に関する論文の購読と討論 第 14回 体温調節機構とそれに影響する栄養素摂取に関する論文の講読と討論 第 15回 総合討論								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	授業中の質疑応答，課題レポートを総合的に判断する。

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては，コメントを記入して返却する。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，講義に参加し，討議に加わること。
授業外学修	事前に配布した資料を通読しておくこと。 週当たり1時間以上，授業外の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。資料を事前に配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として診療に従事(35年間)。産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画(10年間)。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実臨床に即した，管理栄養士としての職務実践能力を向上させる内容に重点を置きながら授業を進める。

科目名	細胞栄養学特論			授業番号	GN501	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	ヒトが摂取する栄養分は，基本的には細胞内において代謝され生体成分としての固有の働きを示し，細胞を基本としたさまざまな生命現象に関与する。 本特論では生体を構成する組織細胞内で営まれる生体高分子の代謝や諸反応を分子レベルで分析・総合し，生命維持における各栄養素の役割を理解する。								
到達目標	ヒトの摂取した栄養が実際に細胞内でどのようなしくみで生命を支えているかを，細胞レベル，分子レベル，遺伝子レベルから深く理解できる。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	生物にとって栄養とは何か	
第2回	食物と栄養	
第3回	物質（炭素）の代謝と栄養の摂取	
第4回	物質（窒素）の代謝と栄養の摂取	
第5回	生体エネルギーと細胞代謝	
第6回	細胞内への物質の出入りの仕組み	
第7回	細胞の構造と機能	
第8回	細胞の構造と機能	
第9回	細胞小器官の構造と機能	
第10回	細胞小器官の構造と機能	
第11回	細胞の進化	
第12回	細胞間情報伝達	
第13回	細胞内シグナル伝達	
第14回	遺伝子と遺伝子発現	
第15回	栄養面から見た生命の進化	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業への取り組み姿勢，授業での質疑応答
レポート	50	授業内容の課題レポート（毎回）
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えと探究心をもって授業に臨むこと。
授業外学修	英文の資料と参考書を併用して，輪読形式で授業をおこなう。週あたり４時間以上の予備学修を行って授業に出席すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	なし
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	細胞栄養学演習			授業番号	GN602	サブタイトル			
教員	坪井 誠二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	前半では，調査目標とするトピックを決め，文献調査と複数の原著論文の抄読を行う。 後半では，調査した複数の文献に掲載されていた実験結果をもとに，学会発表形式でパワーポイントを用いて調査結果のプレゼンテーションを行う。								
到達目標	設定したトピックに関連した最新の原著論文を検索することができる。 複数の原著論文を読み解き，結果をプレゼンテーションすることができる。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	調査トピックの決定と，原著論文の検索	
第2回	論文抄読	
第3回	論文抄読	
第4回	論文抄読	
第5回	論文抄読	
第6回	論文抄読	
第7回	論文抄読	
第8回	論文抄読	
第9回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成	
第10回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成	
第11回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成	
第12回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成	
第13回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成	
第14回	調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成	
第15回	プレゼンテーションと討論（質疑応答）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	演習への取り組み，質疑応答。
レポート	50	演習内容の課題レポート（毎回）
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自ら進んで新しい問題をみつけ，明らかにしようとする心構えと探究心が必要である。
授業外学修	英文の資料参考書を併用する。基本事項についてあらかじめ学修・準備して授業に臨むこと（週あたり４時間以上）。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	なし
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	栄養生理学特論			授業番号	GO501	サブタイトル			
教員	井之川　仁								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人体の栄養に関わる生理機能は，消化器系ばかりでなく統合的に神経が統轄する生理機能の一つととらえることができる。本特論では，特に神経細胞における刺激伝達物質受容体の構造，脳内分布，神経刺激伝達とそれに続く脳の統合機能を学ぶ。								
到達目標	摂食や飲水行動の中枢である視床下部の機能について，ホルモン合成，分泌を含めて，報酬系，嫌悪系などの神経伝達調節物質と食行動の関わりについて理解を深め，高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養と摂食	
第2回	中枢神経系における摂食，飲食調節	
第3回	摂食行動と視床下部摂食中枢の機能	
第4回	摂食行動と視床下部満腹中枢の機能	
第5回	摂食行動に影響を与える因子	
第6回	糖代謝とインスリン分泌	
第7回	中枢神経系におけるインスリンの作用	
第8回	サイトカインの栄養生理における役割	
第9回	中枢神経系における食欲抑制物質１	
第10回	中枢神経系における食欲抑制物質２	
第11回	中枢神経系における食欲抑制物質受容体	
第12回	飲水行動に影響を与える因子	
第13回	血漿浸透圧と体液量の調節	
第14回	ホルモンとストレス環境への対応	
第15回	神経系とストレス環境への対応	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	質疑応答から評価する
レポート	20	課題レポートを評価する
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	栄養生理学演習			授業番号	GO602	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	特論に関連する具体的かつ現実的な課題を取り上げ，解決する方策を創案する。このことは，栄養教諭が実際に直面する，学童・生徒の食に関わる問題を解決するために必要な指導力を養うことになる。取り上げる課題は以下のようである。人体の構造・機能のホメオスターシスを維持する中枢として，神経系の機能を熟知し，外部から機能を調節する因子について理解を深める。								
到達目標	栄養素の意義，摂取食品の栄養源のバランスなどと疾病の関係などについて，深く理解し，高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第１回 摂食，飲食調節に関わる中枢の機構 第２回 摂食行動と視床下部摂食中枢の機能 第３回 摂食行動と視床下部満腹中枢の機能 第４回 摂食行動に影響を与える多様な因子・条件 第５回 中枢神経系におけるホルモンの作用 第６回 脂質代謝１ 第７回 脂質代謝２ 第８回 脂質代謝３ 第９回 神経系とストレス環境への対応１ 第10回 神経系とストレス環境への対応２ 第11-15回 上記の課題論文を中心として，栄養生理学関連分野について，総合的に討論する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	質疑応答から評価する
レポート	50	課題レポートを評価する
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	時間内の質疑応答，課題レポートにより行う。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。
授業外学修	毎週最低4時間は演習内容の予習復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	環境・食品微生物学特論			授業番号	GP501	サブタイトル			
教員	楠本　晃子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	地球環境には，様々な微生物が存在し，ヒトの生活と密接に関係している。本特論では，微生物の有効利用および感染症・食中毒の起因微生物についての最近の知見を学ぶ。また，食品安全確保および食品の品質保持方法について学ぶ。								
到達目標	・地球環境に関わる微生物の生態学的な意義を理解するとともに，食品の生産に関わる微生物や感染症・食中毒に関する微生物の特徴および制御について理解し，実践的な知識を身につける。 ・専門的かつ実践的な食品安全に関する知見および手段を身につける。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	環境と微生物(1)	
第2回	環境と微生物(2)	
第3回	食品と病原微生物(1)	
第4回	食品と病原微生物(2)	
第5回	感染症と微生物	
第6回	食品の腐敗と微生物フローラ	
第7回	食品保存と微生物	
第8回	微生物による環境浄化	
第9回	微生物の機能と食品	
第10回	微生物とバイオテクノロジー	
第11回	健康と腸内フローラ	
第12回	食品安全確保の考え方	
第13回	HACCPと食品衛生管理	
第14回	遺伝子手法による微生物学的衛生管理	
第15回	全体のまとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業時間内の質疑応答が的確にできている。
レポート	50	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，講義に参加し，討議に加わること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	環境・食品微生物学演習			授業番号	GP602	サブタイトル			
教員	楠本　晃子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	環境・食品微生物に関する文献および微生物制御技術や品質管理に関する文献を講読する。各自が興味のある環境・食品微生物について検査を行い，理解を深める。各自が問題点を整理し討論を行うことで，研究を評価できる能力と人の生活環境を取り巻く微生物の制御に関する実践力を習得する。								
到達目標	・環境・食品に関わる微生物の病原性と有用性を評価できる能力および微生物に関する情報を適切に評価できる能力を身につける。 ・微生物に関する知識・理解を深め，食品の品質管理などの微生物制御を実践・展開する能力を身につける。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第１～３回　環境微生物分野の論文の講読と討論 第４～９回　食品微生物分野の論文の講読と討論 第10～14回　環境・食品微生物の検査 第15回　全体のまとめ								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業時間内の質疑応答が的確にできている。
レポート	50	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，講義に参加し，討議に加わること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	健康栄養学特論			授業番号	GQ501	サブタイトル			
教員	多田　賢代								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	栄養と健康との関わりについて，学部での学習を基盤にさらに専門性を深め，より実践的な知識を学習する。出来る限り多角的な視点から課題を設定し，具体的な事例報告等をもとに，実践的手法，技術を学ぶ。これにより，適正な食生活，生活習慣，栄養管理の意義，栄養アセスメントなどについて対象者の理解を促す方法を思考し，ディスカッションする。そして，健康・栄養指導者として，より幅の広い視野をもって対応する能力を養う。								
到達目標	各ライフステージにおける健康維持に必要な栄養学的側面や生活習慣的側面を理解し，解説することができる。中でも，幼小児期および成人期・高齢期における栄養アセスメントに必要な生化学的検査，臨床医学的検査，生活状況調査などの過程と評価を理解し，問題点を探求し，考察できる能力や対象者に対応・指導できる能力を身につける。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第１～14回　提示するテーマに関する文献検索と文献紹介・抄読を通して，成長，発達，加齢に伴う身体的・精神的特徴と栄養について学び，健康維持に向けた栄養の指導に活かす。 以下のテーマについて学修する。 ・生活習慣病の各種要因（生活習慣，遺伝体質，加齢・老化，性差，環境等）の評価・検討 ・健康的な生活習慣（食・運動・喫煙・飲酒・睡眠習慣，ストレス等）の評価と対策 ・幼少児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態の把握と問題点の抽出 ・幼少児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態の背景考察と対策事例の理解 ・幼少児期または成人期・高齢期における健康・栄養状態を解決するための健康教育理論の応用 第15回　まとめ								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	授業内容のまとめとして出される課題により，問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。
授業外学修	1　予習として，授業内容にかかわる著書や雑誌を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。

科目名	健康栄養学演習			授業番号	GQ602	サブタイトル			
教員	多田　賢代								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	健康栄養学特論で学んだ内容をもとに，指定した課題について文献検索，抄読を行い，担当指導者とディスカッションしながら，理解を深めて，課題解決能力を養う。さらに担当指導者や受講生同士と共に測定することにより，様々な測定技術を修得し，また指導者が提示する調査データや測定値などをもとに集計解析する手法を学び，対象者に適切な食生活・保健習慣を身につけてもらうための健康・栄養教育を実践できる能力を養う。								
到達目標	健康や栄養学に関する専門的な論文等を抄読の上その内容を考察，説明し，正しく判断評価することができるようになる。実際に，健康・栄養状態を判断するために必要な各種測定方法や調査方法を理解し，その技術を身につける。また，それらの測定値等を適切に処理する技法や実際の調査・測定値を使った情報処理技術を理解・演習し，考察できる能力を身につける。その結果から適切に対象者に対応・指導できる能力を身につける。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第１～７回 現代の栄養および食生活における問題点を抽出し，健康のあり方を考察する。加えて，栄養教育・食育等に関する実践的論文を輪読・抄読し，新しい知識を付加していくとともに，健康に関するタイムリーな問題点を捉えた，実際の調査・測定値をもとに，その処理技法，評価法を理解，演習し，問題点を明確にして解決法を検討し，その具体的解決策についてのプランを立案する。 第８～14回 応用栄養学に関する専門的な論文を講読し，論文の課題・方法・結果等について検討する。論文を正しく自分で評価する能力を養い，それを習慣づける。また身体・栄養状態，動脈硬化度，自律神経等を測定し評価する。その結果をクライエントに適切に説明（フィードバック）し，状況に応じた適正な栄養管理・教育，生活指導ができる能力を身につける。 第15回 まとめとディスカッション								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	授業内容のまとめとして出される課題により，問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。
授業外学修	1　予習として，授業内容にかかわる著書や雑誌を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士，市町村嘱託栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。

科目名	病態栄養学特論			授業番号	GR501	サブタイトル			
教員	赤木 收二、古川 愛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	傷病者の栄養管理においては，病態に応じた適切な栄養摂取ならびに体内での各種栄養素の代謝を，深く理解することが重要である。本授業では，栄養指導・栄養療法において重要な疾患について，疾病を抱えた患者に対して，最新の知見を踏まえ，病態に即した栄養教育力や実践的な指導力を身につけることができるよう授業を進める。								
到達目標	栄養素とその体内での代謝について理解したうえで，摂取栄養素の過不足やアンバランスが体内代謝と健康に影響することを学ぶ。さらに，各種栄養素の体内代謝は，遺伝的要因など個体側の要因によって大きな影響を受けることを理解して，個人差を考慮した栄養摂取についての介入の必要性について理解する。その上で，各種疾患における栄養教育がより着実に実践できる能力を養うことが本授業の目的である。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第１回 侵襲と栄養素代謝 第２回 栄養の補給法 第３回 代謝性疾患，とくに糖・脂肪代謝の栄養学 第４回 循環器疾患の栄養支援 第５回 消化器疾患の栄養ケア 第６回 炎症性腸疾患の栄養ケアと食事療法 第７回 肝不全の栄養管理と疾病進展の予防 第８回 腎不全の栄養ケア 第９回 骨粗鬆症の病態と管理・予防の栄養学 第10回 悪性腫瘍の栄養管理と栄養指導 第11回 高齢者の栄養ケア 第12回 周術期の栄養ケア 第13回 呼吸器疾患(COPD)の栄養ケア 第14回 食物アレルギーと栄養ケア 第15回 高尿酸血症・痛風と栄養ケア								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	授業中の質疑応答，課題レポートを総合的に判断する。

評価の方法：自由記載	課題やレポートについては，各担当教員よりコメントを記入して返却する。
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。
授業外学修	1，授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。 2，配布資料を元に質疑，討論ができるように準備しておく。 3，授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めない。オムニバス方式で授業を行うので、各々、授業担当者の指導を受けること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関における医師(35年間)および栄養士・管理栄養士(計6年間)としての実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	チーム医療の一員として，傷病者への栄養療法を進める実践能力を養えるよう，両担当教員同士が連携をはかりながら授業を進める。

科目名	公衆衛生学特論			授業番号	GS501	サブタイトル			
教員	波多江　崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人間集団の健康増進と疾病予防のために，生活環境や食品の衛生管理を科学的エビデンスに基づいて判断し施策を立案できる能力を養う。そのために保健・医療・福祉・介護システムを深く理解し，環境保全，環境衛生維持，学校保健などの具体的な方策や施策を理解しその評価が正しく行える能力を養う。また，疫学的判断ができる能力を養う。								
到達目標	科学的エビデンスに基づく評価・判断能力を身に付け，高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	公衆栄養・公衆衛生学の意義	
第2回	衛生統計：衛生統計の意義	
第3回	衛生統計：疾病統計	
第4回	産業保健：労働と健康	
第5回	産業保健：生物学的モニタリング	
第6回	産業保健：生物学的モニタリングの栄養分野への応用	
第7回	学校保健：学校保健の意義，学校給食	
第8回	環境保健：環境保健の意義	
第9回	環境保健：環境保全	
第10回	保健・医療・福祉と介護	
第11回	高齢者保健	
第12回	疫学：疫学の意義	
第13回	疫学：感染症の疫学	
第14回	栄養疫学の意義	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な学習態度
レポート	50	データに対して充分な考察がなされている
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。
授業外学修	レポートの作成など，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	食・栄養に関わる福祉，介護について，行政での現場経験を生かした内容に重点を置く。

科目名	公衆衛生学演習			授業番号	GS602	サブタイトル			
教員	波多江　崇								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	セミナー方式で関連論文を講読するとともに，現場実務者を迎えて現実のエビデンスに基づいて理解を深め，建設的かつ具体的な討論をすることができる能力を養い，討論により関連分野の自己の評価判断基準を確立する。								
到達目標	公衆衛生学と栄養学の関連を明瞭にし，課題解決にむけての研究方法を会得し，高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保健統計関連論文の読解　その1	
第2回	保健統計関連論文の読解　その2	
第3回	保健統計関連論文の読解　その3	
第4回	産業保健関連論文の読解　その1	
第5回	産業保健関連論文の読解　その2	
第6回	産業保健関連論文の読解　その3	
第7回	学校保健関連論文の読解　その1	
第8回	学校保健関連論文の読解　その2	
第9回	学校保健関連論文の読解　その3	
第10回	高齢者保健関連論文の読解　その1	
第11回	高齢者保健関連論文の読解　その2	
第12回	高齢者保健関連論文の読解　その3	
第13回	環境保健関連論文の読解　その1	
第14回	環境保健関連論文の読解　その2	
第15回	第15回　まとめの発表	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な学習態度
レポート	50	データに対して充分な考察がなされている
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。 事前に論文を配布するので，授業までに十分に読み込んでくること。
授業外学修	レポートの作成など，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	テキストは使用せず，実際の論文をテキストとする。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

中国学園大学　大学院　子ども学研究科 子ども学専攻　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
保育・幼児教育学特論	伊藤　智里 ・・・・・・・	1
学校教育学特論	佐々木　弘記／岸　誠一 ・・・・・・・	3
教育方法学特論	佐々木　弘記／住野　好久 ・・・・・・・	5
子どもと音楽演習	川崎　泰子 ・・・・・・・	7
子どもと英語演習	西田　寛子 ・・・・・・・	9
子どもと理科演習	佐々木　弘記 ・・・・・・・	11
子どもと算数演習	平井　安久 ・・・・・・・	13
子どもと国語演習	太田　憲孝 ・・・・・・・	15
子どもと表現演習	牛島　光太郎 ・・・・・・・	17
子どもと健康演習	水落　洋志 ・・・・・・・	19
子どもと環境演習	齊藤　佳子 ・・・・・・・	21
子どもと人間関係演習	廣畑　まゆ美 ・・・・・・・	23
教育心理学特論	國田　祥子 ・・・・・・・	25
子ども社会学特論	中田　周作 ・・・・・・・	27
相談・援助特論	中　典子 ・・・・・・・	29
発達障害児支援特論	原田　新 ・・・・・・・	31
子どもの認知と学習特論	國田　祥子 ・・・・・・・	33
子どもとメディア特論	岸　誠一 ・・・・・・・	35
地域教育社会学特論	中田　周作 ・・・・・・・	37
地域教育福祉特論	中　典子 ・・・・・・・	39
子どもと放課後特論	住野　好久 ・・・・・・・	41
子ども学特別研究	中田　周作／中　典子／國田　祥子／佐々木　弘記／伊藤　智里／西田　寛子 ・・・・・・・	43

科目名	保育・幼児教育学特論			授業番号	MA301	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講座では，子ども社会を実践的に読み解いていくための保育・幼児教育論について学ぶ。その過程で制度的な変遷と現在の課題について明らかにするとともに，諸外国との比較をしながら，幼児期の教育の課題や実践の方法について考察する。さらに，子どもを取り巻く家庭や地域の現状や保育者の専門性に対しての理解力を高め，保育の実力を深めていく。								
到達目標	子どもの視点に立ちながら，より高度な活動の理解と解釈を可能にするために，保育・幼児教育の法令変遷について理解し，諸外国との比較も踏まえ日本の保育・幼児教育の課題を明確にするとともにそのあり方について考察することを目標とする。 また最新の保育制度や情報について深く理解し活用する。なお，この科目の内容はディプロマポリシーに掲げる高度な専門性を備えた保育者の育成に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育・幼児教育の基本 現在の保育・幼児教育の基本的事項について確認する	
第2回	日本の保育・幼児教育の制度１ 日本の保育（福祉系）の制度について概観し、課題を検討する	
第3回	日本の保育・幼児教育の制度２ 現在の幼児教育（教育系）の制度について概観し、課題を検討する	
第4回	保幼小接続の仕組み 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の接続について、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを理解する	
第5回	幼児教育の歴史的変遷１ 幼児教育について、海外および日本の歴史的変遷を概観する	
第6回	保育・幼児教育の歴史的変遷２ 保育・養護の側面から海外および日本の歴史的変遷を概観する	
第7回	保育所・幼稚園・こども園の保育の比較と課題 保育所・幼稚園・認定こども園の各機関の役割の整理と現状の課題について検討する	
第8回	外国の保育・幼児教育１ フィンランドのネウボラについて概観する	
第9回	外国の保育・幼児教育２ ニュージーランドのティファリキについて概観する	
第10回	外国の保育・幼児教育３ 海外の保育・幼児教育について概観する	
第11回	保育・幼児教育思想１ フレーベル、倉橋惣三が目指した幼児教育について検討する	
第12回	保育・幼児教育思想２ モンテッソリ、シュタイナーが目指した保育について検討する	
第13回	保育・幼児教育思想3 現在に至るまでの教育・保育の思想家について確認する	
第14回	保育者の専門性１ 保育者が持つべき専門性について検討する	
第15回	保育者の専門性２ 今後の保育者に求められる専門性について検討する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	自主的に調査結果を発表し討議できたかを評価する。
レポート	50	自分の得た知識や技術をさらに発展させることができるような記述内容であるかを評価する。 内容についてのコメントは、授業内または後日フィードバックする。

評価の方法：自由記載	予習や意見発表など講義への取り組みの積極性と，レポートの論理性を基準に評価を行う。
受講の心得	授業内容を理解し課題を行う中で，自分はどう考えるかについて周囲に伝えられるようにすることを心がける。
授業外学修	１．授業前に発表できる準備を行うこと。 ２．授業後に討論した内容について、まとめること 以上の内容を週当たり4時間以上学修することが望ましい。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「保育用語辞典」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
その他	
備考	令和４年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	学校教育学特論			授業番号	MA302	サブタイトル			
教員	佐々木 弘記、岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	第一に，先行研究を概括しながら，学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について議論するとともに，教師の専門的力量の形成について考察する。 第二に，反省的実践家としての教師の専門的力量形成のモデルを取り上げ，省察と熟考による実践的見識の獲得過程に言及する。 第三に，学校教育におけるいくつかの問題場面を想定し，反省的思考の過程について学ぶ。								
到達目標	学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について理解を深めることができる。＜知識・理解＞ 教師の専門的力量の形成について思考し，反省的実践家として教育に係る諸問題に対応できる問題解決能力を身に付ける。＜思考・問題解決能力＞ なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育課程の変遷 明治期に導入された学制に伴う教育課程の始まりから戦後の学習指導要領に至る教育課程の変遷を概括する。	岸誠一
第2回	学習指導の様式 学習指導の対立する二つの様式である「伝達観・助成観」及び「形式陶冶・実質陶冶」の観点から学習指導の在り方について議論する。	岸誠一
第3回	行動主義の学習論 学習指導の在り方に影響を与えた行動主義の学習理論についてその理論と方法を議論する。	岸誠一
第4回	認知主義の学習論 学習指導の在り方に影響を与えた認知主義の学習理論についてその理論と方法を議論する。	岸誠一
第5回	構成主義の学習論 学習指導の在り方に影響を与えた構成主義の学習理論についてその理論と方法を議論する。	岸誠一
第6回	教師の専門的力量 教師の専門的力量形成について行動主義と構成主義の立場から考察する。	岸誠一
第7回	技術的熟達者モデル 教師の専門的力量形成の一角を占める技術的熟達者モデルについてその意義と教師教育への適用について議論する。	岸誠一
第8回	反省的実践家モデル 教師の専門的力量形成の一角を占める反省的実践家モデルについてその意義と教師教育への適用について議論する。	岸誠一
第9回	省察と熟考 反省的実践家としての教師の専門的力量の中核をなす「省察と熟考」について実践的な立場から考察する。	岸誠一
第10回	教師の職能成長 教師の職能成長を支える観点から，反省的実践家としての教師の成長についてその原理と方法を議論する。	岸誠一
第11回	専門的力量の形成(1) 教育センターにおける研修講座において，学習評価の専門的力量を形成した実践事例について考察する。	佐々木弘記
第12回	専門的力量の形成(2) 教育センターにおける長期研修において，各教科における実践的指導力を形成した実践事例について考察する。	佐々木弘記
第13回	専門的力量の形成(3) 教育センターにおける所員研究において，研究協力者である校長が所属校の教員の専門的力量を形成した実践事例について考察する。	佐々木弘記
第14回	反省的思考の方法(1) ショーンの反省的実践家モデルに基づいて，「行為過程における省察」「行為についての省察」を促すことで実践的指導力を形成する方法について検討する。	佐々木弘記
第15回	反省的思考の方法(2) ショーンの反省的実践家モデルに基づいて，「熟考と翻案」の反省的思考を促すことで実践的指導力を形成する方法について検討する。	佐々木弘記
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
レポート	50	課題について要点をおさえ，自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	レポート（50%），授業態度（50%）
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業の中で適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『教育方法学　岩波テキストブック』，佐藤学（著），岩波書店，1996年 『専門家の知恵ー反省的実践家は行為しながら考える』，ドナルド・ショーン（著），佐藤学・秋田喜代美（訳），ゆみる出版，2001年
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)，県教育ｾﾝﾀｰ(9年)（佐々木弘記） 公立小学校長(8年)，公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)，公立小学校教諭(13年)，岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年)，岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。（岸誠一）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木弘記） 公立小学校長(8年)，小学校教諭(13年)，県生涯学習センター(3年)，県情報教育センター(6年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（岸誠一）

科目名	教育方法学特論			授業番号	MB301	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を学び，それを実践するための力量を身につける。								
到達目標	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を理解すること。それに基づく教育実践を創造する力量を身につけること。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育方法学研究の全体像 教育方法学研究の歴史的変遷から現代的な課題について概括する。	（佐々木）
第2回	教育方法学研究の歴史(1)−コメニウス 教育方法学の歴史をたどり，実質陶冶の始祖としてのコメニウスの業績について検討する。	（佐々木）
第3回	教育方法学研究の歴史(2)−ヘルバルト 教育方法学の歴史をたどり，現在の学習指導につながるヘルバルトの５段階教授法について検討する。	（佐々木）
第4回	教育方法学研究の歴史(3)−デューイ 教育方法学の歴史をたどり，子ども中心の新教育への変革を唱えたデューイの教育方法について検討する。	（佐々木）
第5回	教育方法学研究の歴史(4)−戦後新教育 日本における戦後の教育方法学の歴史をたどり，民主主義の発展を企図した新教育運動について検討する。	（佐々木）
第6回	教育方法学研究の歴史(5)−教育の現代化 日本における戦後の教育方法学の歴史をたどり，スプートニクショックを起点とした教育の現代化について検討する。	（住野）
第7回	教育方法学研究の歴史(6)−集団学習法 学習者を小グループに分け討論などを用いて行う教育方法であるバズ学習やジグソー学習などについて検討する。	（住野）
第8回	教育方法学研究の歴史(7)−学びの共同体論 学習者主体の協働・共同的な学習を実現するための学びの共同体論について議論する。	（住野）
第9回	教育方法学研究の歴史(8)−アクティブ・ラーニング 平成２９年告示の学習指導要領において授業改善の視点として取り入れられたアクティブ・ラーニングの理念と方法について検討する。	（住野）
第10回	教育方法学研究の実践課題(1)−学力・資質能力論 平成２９年告示の学習指導要領において示された学校教育において育成する資質・能力の３つの柱について学力論の観点から検討する。	（住野）
第11回	教育方法学研究の実践課題(2)−教授と学習 教育の根幹をなす教授と学習についてその原理や方法について行動主義や認知主義，構成主義の学習論の立場から検討する。	（住野）
第12回	教育方法学研究の実践課題(3)−指導と評価の一体化 学習指導の表裏一体となる学習評価について，形成的評価や総括的評価などの評価論を用いながら指導と評価の一体化について議論する。	（住野）
第13回	教育方法学研究の実践課題(4)−授業づりと学級づり 学級経営の視点をもった各教科等の授業づりの意義と方法について検討する。	（住野）
第14回	教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表（第１回） これまでの授業での学修内容を踏まえ，教育方法学の立場から今後の授業の在り方について検討する。	（住野）
第15回	教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表（第２回） これまでの授業での学修内容を踏まえ，教育方法学の立場から今後の授業の在り方について検討し，実践構想を発表する。	（住野）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討議への参加・貢献，予・復習の状況によって評価する。
レポート	60	講義内容を深く理解したうえで，教育方法学の実践化のための知見を示すこと。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教育実習等での経験と講義内容とを結びつけながら学修すること。 授業で配付するプリント・資料などを整理し，講義ノートを詳細にとること。
授業外学修	1　予習：配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習：ノートの内容を確認し，プリント・資料などを整理する。 3　発展学習：紹介された参考文献を読む。可能な範囲で教育実践に活用する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年)，県教育ｾﾝﾀｰ(９年)（佐々木弘記）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(15年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木弘記）

科目名	子どもと音楽演習			授業番号	MB302	サブタイトル	小学校音楽１～６年		
教員	川崎　泰子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもと音楽の関係や年齢に応じた音楽活動についての知識を整理する。次に，現場における自らの実践事例記録などで観察される様々な課題を分析し改善することを通して，子どもと音楽の関係性に対する理解を深める。その上で，実践的な表現方法のあり方を考察し，より発展的な表現技法や表現形態についても考察を進める。								
到達目標	子どもの発達において音楽的感性や表現力を培うことは重要なことである。本授業では，子どもの音楽的成長と発達について理解し，子どもの感性を育むための音楽の役割について理解することを目標とする。また，子どもと関わる保育者・教師自身による豊かな音楽的感性や表現力を身につける。さらに，子どもが豊かな音楽表現を身につけるためには，どのような音楽的活動を経験させ，どのような指導・援助を行うことが望ましいのかについて多面的に考察する。加えて，教育現場における具体的課題への接近方法を探究する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校の音楽科教育の現状と課題 小学校における音楽科教育の意義と内容／音楽科学習指導要領	
第2回	表現－歌唱、器楽、創作－　１年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校１年生共通教材弾き歌いについて理解・習得する	
第3回	表現－歌唱、器楽、創作－　２年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校２年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める	
第4回	表現－歌唱、器楽、創作－　３年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校３年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第5回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ １～３年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第6回	表現－歌唱、器楽、創作－　４年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校４年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第7回	表現－歌唱、器楽、創作－　５年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校５年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第8回	表現－歌唱、器楽、創作－　６年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校５年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第9回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ ３～６年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第10回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表準備	
第11回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表、評価について考察する	
第12回	「鑑賞」および「共通教材」１，２，３年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第13回	「鑑賞」および「共通教材」４，５，６年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第14回	共通事項　音楽理論の確認 ①「音楽を形づくっている要素」と「それらに関わる音符、休符、記号や用語」 ②楽譜の読み書きに用いる音楽用語を理解し、音階、移調について理解を深める ③小テスト	
第15回	まとめ「表現」および「共通教材」－歌唱、器楽、創作－ １～６年生までの共通教材弾き歌い、ソプラノリコーダー（課題曲２曲（重唱含む））成果発表 評価について考察する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況により評価する。
レポート	20	レポート課題について，コメントし返却する。
小テスト（実技試験、グループ発表）	50	最終的な理解度定着度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり4時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	小学校音楽１～６年

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	小学校音楽１～６年 小学校学習指導要領「音楽」
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年）. 数々の学校にて歌唱指導（20年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かしての音楽的指導，音楽実技，またはそれらに必要な音楽的知識や理解を深め，実践的指導力の向上に努める。

科目名	子どもと英語演習			授業番号	MB303	サブタイトル			
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英語教育に関する先行研究ならびに先行実践について検討し，理論に基づく指導の改善について考察する。また，英語教育の課題解決に向けた指導と評価の在り方について探究する。								
到達目標	・英語教育に関する理論と実践について考察し，現状における課題の解決に向けた指導と評価の在り方について探究できる。 ・具体的な実践・評価構想について論究できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた（高度な専門性を備えた教育者の育成）に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第１回 英語教育の現状について議論する。 第２回 英語教育の課題について議論する。 第３回 課題解決のための理論研究（１）：自己調整学習の理論に基づく指導の改善について論究する。 第４回 課題解決のための理論研究（２）：学校組織開発理論に基づく指導の改善について論究する。 第５回 課題解決のための理論研究（３）：自己調整学習の理論と学校組織開発理論の融合理論に基づく指導の改善について論究する。 第６回 実践研究の方法論（１）：「聞くこと」についての指導と評価について論究する。 第７回 実践研究の方法論（２）：「話すこと（やり取り・発表）」についての指導と評価について論究する。 第８回 実践研究の方法論（３）：「読むこと」についての指導と評価について論究する。 第９回 実践研究の方法論（４）：「書くこと」についての指導と評価について論究する。 第10回 実践研究の方法論（５）：「主体的・対話的で深い学び」の在り方について論究する。 第11回 実践研究の方法論（６）：「ティーム・ティーチング」の在り方について論究する。 第12回 実践研究の方法論（７）：「視聴覚教材・ICT」の効果的な活用について論究する。 第13回 実践研究の方法論（８）：「他教科等との連携」「異校（園）種間連携」の在り方について論究する。 第14回 理論に基づく実践構想の発表（プレゼンテーション）を行う。 第15回 発表の振り返りと改善策の考案・まとめを行う。								
授業計画 備考2	令和５年度改定								

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加・貢献，課題解決に向けた積極的な姿勢等を評価する。
レポート	50	理論に基づく具体的な実践構想について，レポート（紙媒体）ならびにプレゼンテーションで評価する。 レポートについては，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ 授業で配布される資料について予習・復習をすること。 ・ 疑問点や課題について，自ら進んでリサーチし，その解決策について探究すること。 ・ 授業中は積極的に発言すること。
授業外学修	・予習として，配付資料を読み，疑問点を明らかにして受講する。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	資料を授業で配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，学校・園等の英語教育に携わる指導者に求められる高度な実践力を育成する。

科目名	子どもと理科演習			授業番号	MB304	サブタイトル			
教員	佐々木 弘記								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された目標や内容について分析し，育成すべき資質能力について概括する。また，理科の学習指導に用いられる学習理論を指導場面に沿って考察する。更に，いくつかの単元を採り上げて，観察・実験の方法を習得し，教材研究の技能を身に付ける。								
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の目標や内容に基づき，理科の学習指導に用いられる学習理論について背景となる学問領域と関連させて理解する。また，具体的な授業場面を想定した教材研究の技能を身に付ける。 本科目は，ディプロマポリシーに掲げた修士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	小学校理科の目標・内容 小学校学習指導要領理科に示された理科の目標や内容について理解する。	
第2回	理科で育成する資質・能力 小学校学習指導要領理科に示された三つの資質能力及び問題解決能力の育成内容について理解する。	
第3回	理科の学習理論 理科の学習指導を支える行動主義，認知主義，構成主義の各学習論について理解する。	
第4回	探究学習論 理科の学習指導を支える探究学習論をその歴史的変遷と理論の進展をたどりながら理解する。	
第5回	問題解決学習論 理科の学習指導を支える問題解決学習論をその歴史的変遷と理論の進展をたどりながら理解する。	
第6回	認知論的学習論 理科の学習指導を支える認知論的習論をその歴史的変遷と理論の進展をたどりながら理解する。	
第7回	構成主義学習論 理科の学習指導を支える構成主義学習論をその歴史的変遷と理論の進展をたどりながら理解する。	
第8回	教材研究の仕方 各学年における問題解決力を育成する視点から教材を工夫する方法を修得する。	
第9回	学習指導案における指導と評価 各学年における問題解決力を育成する視点から学習指導案を作成し，指導と評価の在り方について考察する。	
第10回	理科におけるプログラミング教育 学習指導要領に示された第６学年「電気の利用」の単元において，電気を効率的に利用するための方法としてプログラミングの指導の仕方を工夫する。	
第11回	情報機器を活用した授業 コンピュータやインターネットを用いて効果的に理科の学習指導を行う方法を修得する。	
第12回	物理領域にかかわる教材研究 小学校理科の「A 物質・エネルギー」の物理領域に係る効果的な教材や指導法について考察する。	
第13回	化学領域にかかわる教材研究 小学校理科の「A 物質・エネルギー」の化学領域に係る効果的な教材や指導法について考察する。	
第14回	生物領域にかかわる教材研究 小学校理科の「B 生命・地球」の生物領域に係る効果的な教材や指導法について考察する。	
第15回	地学領域にかかわる教材研究 小学校理科の「B 生命・地球」の地学領域に係る効果的な教材や指導法について考察する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題について要点をおさえ，自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付された資料について予習・復習をして授業に臨むこと。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　理科編	文部科学省	東洋館出版		111
使用テキスト：自由記載	「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省，小学校理科教科書			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校理科教諭(15年），県教育ｾﾝﾀｰ(9年）（佐々木弘記）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。			

科目名	子どもと算数演習			授業番号	MB305	サブタイトル			
教員	平井 安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	算数学習の内容論的考察と方法論的考察を理解し，算数教育の研究課題について検討することから，算数学習・算数教育のあり方について考察する。								
到達目標	1　算数学習の内容論的考察と方法論的考察について理解することができる。 2　算数教育の研究課題を探究することができる。 3　算数学習・算数教育のあり方について考察することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた修士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	算数学習の内容論的考察（数と計算）	
第2回	算数学習の内容論的考察（図形）	
第3回	算数学習の内容論的考察（測定，変化と関係）	
第4回	算数学習の内容論的考察（データの活用）	
第5回	算数学習の方法論的考察（認知プロセスとしての数学的活動）	
第6回	算数学習の方法論的考察（数学的推論と操作的証明）	
第7回	算数学習の方法論的考察（数学史と数学的活動）	
第8回	算数学習の方法論的考察（教授パラダイムと教師の専門性）	
第9回	算数教育の研究課題（達成度調査の国際比較）	
第10回	算数教育の研究課題（世界と日本の授業研究）	
第11回	算数教育の研究課題（問題解決型の授業）	
第12回	算数教育の研究課題（発達段階と学習指導）	
第13回	算数教育の研究課題（コミュニケーションの役割と機能）	
第14回	算数教育の研究課題（教科書の変遷）	
第15回	算数学習・算数教育のあり方	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況を評価する。
レポート	60	演習の要点を理解し，自分の考えを述べた内容を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付する資料等について予習・復習し，自分の疑問や意見をもって授業に臨むこと。
授業外学修	1　復習として，授業内容をノートにまとめて整理すること。 2　予習として，配付した資料等を熟読し，自分の疑問や意見をもつこと。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは特に指定しない．必要な資料を各回用意する．

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要な文献・資料等を各回紹介する．
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと国語演習			授業番号	MB306	サブタイトル			
教員	太田 恵孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	国語科教育に関する先行文献及び先行実践の研究、小学校国語科教科書に掲載されている教材の特質の理解を通して、国語科教育についての確かな教科観及び指導観等を身に付け、今日的課題に即した授業構想を検討する。								
到達目標	国語科教育に関する先行文献や先行実践を研究したり、教科書に掲載されている教材を分析し教材の特質を捉えたりして，国語科教育に対する確かな学力観及び指導観等を身に付けるとともに，今日的課題に即した授業のあり方を具現化することを目標とする。 この科目は，ディプロマポリシーに掲げた確かな専門性を備えた保育者，教育者，研究者の育成に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	国語科教育の現状と課題 「国語科教育に関する先行文献や先行実践を検討し、今日の国語科教育の現状と課題を明らかにする。」	
第2回	小学校における文学的文章の指導（１） 「教科書に掲載されている物語を分析し、読者を引き付ける物語の構造や仕掛けを理解する。」	
第3回	小学校における文学的文章の指導（２） 「教科書に掲載されている物語を分析し、読者を引き付ける文学的表現を理解する。」	
第4回	小学校における文学的文章の指導（３） 「語り手が顕在化している物語を分析し、作者の想を理解する。」	
第5回	小学校における文学的文章指導のあり方 「文学的文章の特質を整理し、指導のあり方を構想する。」	
第6回	小学校における説明的文章の指導（１） 「説明的文章の指導に関する先行文献及び先行実践を検討し、現状と課題を理解する。」	
第7回	小学校における説明的文章の指導（２） 「教科書に掲載されている説明的文章を分析し、読者を説得する文章の構造や仕掛けについて理解する。」	
第8回	小学校における説明的文章の指導（３） 「教科書に掲載されている説明的文章を分析し、読者を説得する説明的言語と文学的言語について理解する。」	
第9回	小学校における説明的文章の指導（４） 「説明的文章の特質を整理し、説明的文章の指導のあり方を構想する。」	
第10回	小学校における「書くこと」の指導（１） 「「書くこと」に関する先行文献及び先行実践、現行の学習指導要領を検討し、現状と課題を理解する。	
第11回	小学校における「書くこと」の指導（２） 「教科書に掲載されている教材を分析し、実用的文章指導の実際を理解する。」	
第12回	小学校における「書くこと」の指導（３） 「生活綴り方において実践された作文を分析し、人格形成に資する作文指導を理解する。」	
第13回	小学校における「書くこと」の指導（４） 「「書くこと」に関する指導の傾向を整理し、「書くこと」の指導のあり方を構想する。」	
第14回	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善（１） 「「主体的・対話的で深い学び」について、先行文献を調べ、その趣旨や課題を理解する。」	
第15回	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善（２） 「先行実践を調べ、「主体的・対話的で深い学び」の改善点を検討する。」	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	予習及び討論への参加の状況によって評価する。
レポート	50	授業内容の理解度をレポート及び発表によって評価する。提出されたレポートは、授業の中で読み合い、学びの深まりを確認する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業及び研究と向き合う姿勢が重要である。
受講の心得	資料の読み合わせ及び討論に積極的に参加し，研究の深まりや楽しさを実感すること。 予習では，授業で用いる資料を深く読み込み，自分の考えをもって授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内容は，ファイルやノートに整理しておくこと。 2．予習として，授業で用いる文献を熟読しておくこと。 3．授業での学びをきっかけにして，関係する文献を調べ研究を充実させること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと表現演習			授業番号	MB307	サブタイトル			
教員	牛島 光太郎								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもと表現に関する先行実践を学び，表現に関する指導や環境の在り方について検討する。また,様々な表現ツールを用いながら，その特徴や面白さや課題を確認する。その上で表現の指導に関する自身の問題意識を明らかにし，具体的な指導場面を想定し課題解決に向けた指導や教材の在り方について探究する。								
到達目標	1.子どもの表現に関する基本を踏まえ，育成すべき資質・能力について理解できる。 2.子どもの表現を支える様々な取り組みを研究し，指導の構想に活用することができる。 3.子どもの発達や学びの過程を理解し，素材や環境要素を研究し，自身の問題意識を持ちながら教材化することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	表現とは1 幼児の表現に関する事例研究	
第2回	表現とは2 児童の表現に関する事例研究	
第3回	表現とは3 子どもの表現に関する事例研究（企業の取り組み）	
第4回	表現とは4 子どもの表現に関する事例研究（様々な自治体の取り組み）	
第5回	表現とは5 子どもの表現に関する事例研究（海外の取り組み）	
第6回	表現方法について1 子どもと造形表現	
第7回	表現方法について2 子どもと音楽表現	
第8回	表現方法について3 子どもと身体表現	
第9回	表現方法について4 子どもと自然環境	
第10回	鑑賞について1 幼児と鑑賞活動	
第11回	鑑賞について2 児童と鑑賞活動	
第12回	教材の研究1 教材を活用した活動のねらい,内容について	
第13回	教材の研究2 表現活動の環境について	
第14回	教材の研究3 教材の制作	
第15回	教材の研究4 教材の発表,振り返り	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート・課題	50	課題について要点をおさえ，自分の考えを具体的に述べていること。レポート・課題はコメントをつけて返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	造形表現については，はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと健康演習			授業番号	MB308	サブタイトル			
教員	水落 洋志								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもの身心の発育・発達についての現状と課題について講義する。また，子どもと健康に関わる課題等について文献や学術論文を集め，要約し発表する。								
到達目標	下記の3点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた＜保育所，幼稚園，認定こども園，小学校，地域社会，家庭などのあらゆる領域における子育て支援，保育，教育等の子どもに関わる営みの中で生じる様々な課題に対して，多様な視点からアプローチし，理論化を図る＞ことに貢献する。 1．乳幼児期の心身の発育・発達を理解し，現状から導き出される課題と照らし合わせ，その課題への対応策を導き出すことができる。 2．乳幼児期の各発達段階に応じた支援・援助について，健康の側面から分析及び適切な解を導き出すことができる。 3．子どもの健康に関する課題について，論理的思考をもち，課題解決することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	第1回 乳幼児期の心身の発育・発達	
第2回	第2回 乳児期の遊びが心身の発達に及ぼす影響	
第3回	第3回 幼児期の遊びが心身の発達に及ぼす影響	
第4回	第4回 乳児期の遊び（運動遊びを中心として）	
第5回	第5回 幼児期の遊び（運動遊びを中心として）	
第6回	第6回 乳児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（歩行動作獲得までの発達過程）	
第7回	第7回 乳児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（模倣動作の発達過程）	
第8回	第8回 幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（運動能力の発達過程）	
第9回	第9回 幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（個と集団の運動遊び）	
第10回	第10回 幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（子どもの興味・関心から構成する運動遊び）	
第11回	第11回 乳児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（0−1歳児を中心として）	
第12回	第12回 乳児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（2歳児を中心として）	
第13回	第13回 幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（3歳児を中心として）	
第14回	第14回 幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（4歳児を中心として）	
第15回	第15回 幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（5歳児を中心として）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	35	論理的思考や主体的な発話ができる。さらに，自己の興味・関心に基づき探究し，具現化（レポート等）することができる。 課題やレポートについてはコメントを記入し返却する。
レポート	65	乳幼児期の発達の特性を捉え，理論的に発表したり，レポート作成ができる。 課題やレポートについてはコメントを記入し返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1．乳幼児の健康に関する知見やその研究データなどを収集し，解決にむけた方法を探る。 2．乳幼児の身体発達についての先行研究を集約し，研究方法について理解する。
授業外学修	1．乳幼児を対象とした身体に関する学術論文や文献を集め，そのポイントを記載する。 2．具体的な乳幼児の身体発達を促す遊びや場面について，生活の中でエピソードを収集する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生涯スポーツの心理学	杉原　隆	福村出版	978-4-571-25039-2	2，800円
参考書：自由記載	事前に読んでおくことが望ましい。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼児・保育現場での運動指導（3年），スポーツクラブインストラクター（1年），保育者への運動発達に関する実演・講演演者（14年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学生が，乳幼児期の健康に関する専門的知識を身につけるため，幼児・保育現場での運動指導の経験（3年），スポーツインストラクター（1年）等や，保育者に対する健康に関する実技講演等の演者の経験（14年）を生かし，指導を行う。			

科目名	子どもと環境演習			授業番号	MB309	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わるには，指導者はどのような準備をし，どのように子どもに接すればよいか，ポイントを明確にしながら内容ごとに具体的に探っていく。 また子どもが体験したことを生活に取り入れていくためには，どのような活動を展開したらよいかを実際の指導場面を考慮しながら考え，明らかにしていく。								
到達目標	・子どもが身近な環境に親しみ，自然とふれあい，様々な事象に興味・関心をもつためには，指導者はどのような準備，仕掛け，声かけをすれば良いかポイントを述べることができる。 ・子どもが身近な環境に自分から関わり，発見を楽しんだり，考えたり，それを生活に取り入れている具体的な子どもの活動をイメージすることができる。そのためにはどうすれば良いかを具体的に述べることができる。 ・物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにするためには，どのような遊び・活動が効果的なのかを具体例を挙げながら述べることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容，内容の取扱いについて要点を考察する。	
第2回	子どもの身近な環境とは何か，自然とは何か，子どもが興味・関心を持つためには，どうすれば良いか考え，まとめる。	
第3回	子どもが身近な環境に自分から関わるにはどうすれば良いか，発見を楽しむとはどういうことか，子どもはどのような場面で何を考えるか考え，まとめる。	
第4回	「(1)自然に触れて生活し，その大きさ，美しさ，不思議さなどに気付く」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第5回	「(2)生活の中で，様々な物に触れ，その性質や仕組みに興味や関心をもつ。」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第6回	「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第7回	「(4)自然などの身近な事象に関心をもち，取り入れて遊ぶ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第8回	「(5)身近な動植物に親しみをもって接し，生命の尊さに気付き，いたわったり大切にしたりする」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第9回	「(6)日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第10回	「(7)身近な物を大切にする」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第11回	「(8)身近な物や遊具に興味をもって関わり，自分なりに比べたり，関連付けたりしながら考えたり，試したりして工夫して遊ぶ」どのような場面設定・準備・言葉掛けをしたら良いか，イメージして，まとめる。	
第12回	「(9)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第13回	「（10）日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第14回	「（11）生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第15回	「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
授業計画 備考2	・授業の前半で資料を集め，思索を深め，子どもの具体的な活動をイメージする。 ・授業の後半は，ポイントを押さえたレポートを作成する。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	全授業を通じて，学修内容の様子や気付きをまとめ，学生自身の学びが可視化されたものを中心に，学びの過程を評価する。
レポート	75	授業で学修した内容を深めることができたか，考え・発想・イメージの独自性，記述内容など，学びの成果を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	・学生の考え，発想，イメージを尊重する。 ・課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。
受講の心得	・「子どもと環境」について，深く根本的なことについて考え，イメージしていく。既成概念にこだわらない自由な考えを述べること。生き生きとした子どもの活動がイメージできたらよい。 ・授業で出た感想や疑問などをあらかじめ共有し，次回授業において議論するなど，各回の内容が有機的につながるよう工夫する。
授業外学修	「興味・関心」「自分から関わる」「発見を楽しむ」「考える」「生活に取り入れる」などのキーワードを日頃から意識し，見識を深めていくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領解説，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと人間関係演習			授業番号	MB310	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本授業は授業前に調べ学習を行い，授業は議論中心に行う。具体的には，幼児の仲間関係に関する研究のあり方について理解を深めるための先行研究レビューを行う。また，そのための質的研究方法論についての理解も深める。								
到達目標	・領域「人間関係」に関する研究の動向と課題を理解する。 ・研究の位置づけの方法やレビューの方法や幼児の人間関係にアプローチする質的研究方法論について理解する。 ・先行研究のまとめ方，議論の方法を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「人間関係」に関する研究とは何か　…　発達研究と実践研究について理解を深める	
第2回	「幼児の仲間関係の動向と課題」を知る　…　仲間関係研究の現状と課題を整理して議論する	
第3回	「保育者を介した幼児の仲間関係の多様性」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第4回	「幼児の協同的活動」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第5回	「障害がある幼児がいるクラスの仲間関係」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第6回	「保育者の人間関係に関する援助」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第7回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエピソード記述…『エピソード記述入門』の紹介と議論	
第8回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としての事例研究…『発達心理学研究』における「事例研究」を扱った論文のまとめの発表と議論	
第9回	幼児の仲間関係を記録するドキュメンテーションと研究のあり方…ドキュメンテーションの紹介と議論	
第10回	質的研究方法論のTEMについて理解を深める…『TEMでわかる人生の径路』を基にした議論	
第11回	TEMで幼児の仲間関係をどのように捉えられるか…保育実践研究のツールとしての複線径路・等至性モデルの可能性と課題」に関する議論	
第12回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのM-GTA…「子どもの経験を質的に描き出す試み：M-GTAとTEMの比較」の報告と議論	
第13回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエスノグラフィ…『子どもエスノグラフィ入門』の紹介と議論	
第14回	エスノグラフィで幼児の仲間関係をどのように描けるか…『幼稚園で子どもはどう育つか』の紹介と議論	
第15回	仲間関係に関するテーマを基にした議論　…　各受講者の関心のあるテーマを基に議論	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80	各回の授業で提示される課題について，自分の主張をいくつかの根拠にもとづいて明確に述べられているかを評価する。課題はコメントをつけて返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題レポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない。適宜プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	使用しない。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	教育心理学特論			授業番号	MC301	サブタイトル			
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。この授業では，学習者の認知過程についての知見をふまえた，新たな授業実践のあり方を解説する。								
到達目標	教授学習過程に関するこれまでの心理学的知見を学ぶことで，児童・生徒の理解を助けるために必要となる力を養う。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教授学習過程とは	
第2回	学習科学:思弁から科学へ	
第3回	熟達 ―熟達者と初心者の違いは何か―	
第4回	転移 ―学んだことを活用するために―	
第5回	認知発達 ―子どもはいかに学ぶのか―	
第6回	神経科学 ―学習を支える脳のメカニズム―	
第7回	学習環境 ―学びの環境をデザインする―	
第8回	算数教育 ―意味を理解させる―	
第9回	理科教育 ―ブラックボックスの内部を探る―	
第10回	読みの指導 ―大きな構図を見る―	
第11回	作文教育 ―知識の陳述から知識の変換へ―	
第12回	教育評価 ―指導と評価を一体化する―	
第13回	教師の学習 ―教師の成長を支援する―	
第14回	情報教育 ―学習を支える情報テクノロジー―	
第15回	学習科学の現状	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	100	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。
授業外学修	有意義な討議を行うため，必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業が変わる 認知心理学と教育実践が手を結ぶとき	松田文子・森 敏昭(監訳)	北大路書房	4-7628-2088-1	3200円
授業を変える 認知心理学のさらなる挑戦	森 敏昭・秋田喜代美(監訳)	北大路書房	978-4-7628-2275-9	3800円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子ども社会学特論			授業番号	MC302	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本授業は，下記のテーマにしたがって進めていく。 受講学生は，順番に担当部分についての発表資料を作成し，その作成した資料にもとづいて発表を行う。 その発表に関しては，学生たち自身が質疑応答や討論をする。 教員は，この議論について適宜，補足説明をしたり，必要な事項について講義する。								
到達目標	現代社会における教育現象は，決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは，こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。 そこで，本授業では，現代社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ，社会学の方法を用いて分析する。 このような学習を積み重ねることにより，教育者・保育者として，社会現象としての教育について的確な理解ができる実践者となることを目標とする。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子ども社会学の位置づけ	
第2回	子ども社会学の研究対象と研究方法	
第3回	子どもの発達と子どもの「居場所」	
第4回	子どもの「居場所」と臨床教育社会学	
第5回	子どもの逸脱行動	
第6回	「いじめ」の定義の再検討	
第7回	学校と地域社会の連携	
第8回	母親の育児不安と父親の育児態度	
第9回	母親の育児不安と育児サークル	
第10回	現代日本の子ども観	
第11回	子どもの仲間集団	
第12回	子どもの放課後と学童保育	
第13回	子ども研究の方法 テクスト分析	
第14回	子ども研究の方法 フォーカス・グループ・インタビュー	
第15回	子ども研究の方法 SCAT	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	作成したレジュメ及びその修正
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	発表及び質問

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な姿勢で臨むこと。
授業外学修	発表資料の作成

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子ども社会学の現在	住田正樹	九州大学出版会	978-4-7985-0135-2	3800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	住田正樹・高島秀樹 編著『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹・多賀太編『子どもへの現代的視点』北樹出版 酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会 日本子ども社会学会 編『いま，子ども社会に何がおこっているか』北大路書房 永井聖二・加藤　理 編『消費社会と子どもの文化』学文社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	相談・援助特論			授業番号	ME301	サブタイトル			
教員	中 典子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	相談援助の進め方や実際について社会福祉の立場から講義し，ソーシャルワークやカウンセリング技術の学びを促し，子どもを取り巻く環境に働きかける支援の理解を深める。事例を通して子どもが生活する上で直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び，保育・教育現場における相談援助について説明する。								
到達目標	1．相談援助の基本的考え方を把握できるようになる。 2．子どもと子どもを取り巻く環境の相互作用に焦点を当てた支援の実際を理解できるようになる。 3．事例研究にもとづいて，アセスメントの方法について理解できるようになる。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	相談援助の構造 子ども家庭支援のシステムを理解する。	
第2回	相談援助の理論・意義・機能 子ども家庭支援の意義と必要性を理解する。	
第3回	相談援助における技術 子ども家庭支援の目的と機能を理解する。	
第4回	相談援助の対象・プロセス 保育の専門性を生かした支援プロセスを理解する。	
第5回	相談援助の方法と技術 信頼関係を築くための保護者や子どもへの対応方法を理解する。	
第6回	関係機関との連携 子どもや保護者が利用している社会資源との連携の必要性を理解する。	
第7回	保育・教育相談援助の基本「子どもの福祉と最善の利益の遵守」 子どもの権利条約に基づく対人相談援助ついて理解する。	
第8回	保育・教育相談援助の基本「子どもの成長と喜びの共有」 保護者との情報共有の必要性を理解する。	
第9回	保育・教育相談援助の基本「保護者の養育力の向上と支援」 保育者に求められる資質を理解する。	
第10回	保育・教育相談援助の基本「受容，自己決定，秘密保持の遵守」 バイステックの対人援助の7原則を理解する。	
第11回	保育・教育相談援助の実際1 保育所を利用する子どもへの家庭支援の方法を理解する。	
第12回	保育・教育相談援助の実際2 地域の子育て家庭への支援の方法を理解する。	
第13回	保育・教育相談援助の実際3 要保護の子どもと家庭への支援の方法を理解する。	
第14回	保育・教育相談援助の実際4 障がいのある子どもと保護者への支援の方法を理解する。	
第15回	保育・教育相談援助の実際5 虐待の予防に向けての保護者への支援の方法を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲のある受講態度，発表や討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	50	事例研究にもとづいて保育・教育現場における相談援助の方法について具体的に述べられているかによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。
授業外学修	授業開始前までに，事前配付資料の内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
無				

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	発達障害児支援特論			授業番号	ME302	サブタイトル			
教員	原田 新								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	障害概念および発達障害の基礎知識を学んだ上で，二次障害の予防を見据えたインクルーシブ教育の環境，発達障害児への具体的な支援方法や関わり方，また家族支援の方法について身につけることを目指す。								
到達目標	各種の発達障害特性や支援方法について理解することで，発達障害児およびその家族が日常で直面する困難さにアプローチできる為の視点を身につけると共に，子育て支援，保育，教育等の現場に対して身につけた知識や方法を還元できるようになること。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	障害とは：障害の社会モデル，障害者差別解消法，差別,合理的配慮等についての基本的な考え方を理解する。	
第2回	発達障害の理解(1)：発達障害におけるスペクトラムの考え方について理解する。	
第3回	発達障害の理解(2)：自閉スペクトラム症の基礎知識について理解する。	
第4回	発達障害の理解(3)：注意欠如・多動症，限局的学習症の基礎知識について理解する。	
第5回	発達障害と二次障害：二次障害をもたらす悪循環や，その予防・回復のために必要なことについて理解する。	
第6回	インクルーシブ教育(1)：インクルーシブ教育についての基礎知識について理解する。	
第7回	インクルーシブ教育(2)：インクルーシブ教育や多様性について，事例から考える。	
第8回	インクルーシブ教育(3)：インクルーシブ教育や多様性について，事例から考える。	
第9回	インクルーシブ教育(4)：インクルーシブ教育や多様性について，事例から考える。	
第10回	発達障害児の見方と関わり方(1)：リフレーミングの基礎知識について理解する。	
第11回	発達障害児の見方と関わり方(2)：分かりやすい声かけや指示の仕方について理解する。	
第12回	発達障害児の家族支援(1)：ペアレント・プログラムの概要について理解する。	
第13回	発達障害児の家族支援(2)：ペアレント・プログラムにおける現状把握表の基礎的な書き方について理解する。	
第14回	発達障害児の家族支援(3)：ペアレント・プログラムにおける現状把握表の応用的な書き方について理解する。	
第15回	まとめ：これまでの授業内容について振り返ると共に，今後どのような形で活かせるかについて，話し合う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	授業内での討論や演習等への参加状況，授業外での取り組み状況，授業内で作成する成果物を総合的に評価する。
レポート	20	授業に関わるテーマの小レポート（2回）を評価する。小レポートについては，その後の授業で発表してもらうと共に，教員からコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	シラバスに基づいて入念に予習を行って授業に臨むと共に，授業中に行う討論や演習等に参加すること。
授業外学修	授業で配布する資料や，参考書等を参照しながら，予習，復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高等教育機関における障害学生支援（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等教育機関における発達障害学生支援の実例も交えながら説明する。

科目名	子どもの認知と学習特論			授業番号	ME303	サブタイトル			
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人の行動は内的な認知過程に依存しており，その過程は感情や意識，経験や知識などによって変化する。こうした認知機能と，それが子どもの学習過程にもたらす影響について学ぶ。								
到達目標	子どもの学習過程を認知的側面から捉えるための基礎知識および方法論を身に着ける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	学習および認知について 知識獲得のメカニズムについて解説する。	
第2回	古典的条件づけ 「刺激」と「反応」の連合によって学習を説明する理論を解説する。	
第3回	道具的条件づけ 生起した行動への「報酬／罰」による生起頻度の変化について解説する。	
第4回	技能学習 楽器演奏，スポーツ技能，ドライブ技術など，動作や技術の習得について解説する。	
第5回	社会的学習 他人の経験や体験を見聞することによる学習のメカニズムについて解説する。	
第6回	問題解決と推理 問題解決過程について説明し，その中で重要な役割を果たす推理について解説する。	
第7回	概念過程と言語獲得 人間がどのように概念や言語を獲得し，用いるかという問題について解説する。	
第8回	記憶のしくみ 「記銘」-「保持」-「想起」から成る記憶のプロセスのうち，「記銘」について解説する。	
第9回	情報の検索と忘却 記憶過程を経て貯蔵された情報を「検索」するしくみについて解説する。	
第10回	知識と表象 人の中に保持されている知識について，どのように記憶されているのかを解説する。	
第11回	イメージと空間の情報処理 画像的記憶の特徴について，さらにその表象である視覚イメージについて解説する。	
第12回	認知の制御過程 人間の認知的活動を円滑に進めるための制御の過程について，注意のメカニズムを中心に紹介する。	
第13回	文章の理解と記憶 文章理解がどのようになされているのか，またその意味をどのように記憶しているのかについて解説する。	
第14回	意思決定 意思決定という判断を私たちはどのように行っているのか，先行研究に基づいて解説する。	
第15回	日常世界の記憶 日常世界での認知活動と実験室で観察される認知活動のかかわりについて解説する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	100	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。フィードバックは討議の中で行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。
授業外学修	有意義な討議を行うため，必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック学習心理学	山内光哉・春木　豊（編著）	サイエンス社	978-4-7819-0977-9	2550円
グラフィック認知心理学	森　敏昭・井上　毅・松井孝雄（共著）	サイエンス社	978-4-7819-0776-8	2400円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもとメディア特論			授業番号	MF301	サブタイトル			
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもを取り巻く情報メディア環境は，スマートフォン使用の低年齢化が進むことにより，大きく様変わりしつつある。 そのため，社会全体が，子どもに対する適切な情報環境をどのように整備・構築するかが求められている。 本授業では，前半部分でメディア教育の基礎理論およびその歴史と変遷について学修し，後半部分ではメディアと社会について，インターネットのソーシャルメディアを取り上げ，その文化的，社会的な効果や影響について分析し，適切な情報メディア環境を分析する。								
到達目標	授業で学んだメディア教育やソーシャルメディアの分析手法を習得し，その分析手法を使用し，各メディアが与える効果や影響について分析する知識を身に付ける。そして，ソーシャルメディアの今後の課題と在り方について学ぶ。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	メディア教育とは 現代社会におけるメディア教育の重要性を強調し，メディアが個人と社会に及ぼす影響について理解する。また，メディアリテラシーの基本的な概念についても学修する。	
第2回	メディア教育の歴史Ⅰ（視聴覚教育とメディア教育） メディア教育の歴史について学修する。もともと社会教育と学校教育からそれぞれ2つに分かれて行われてきた「視聴覚教育」が教育現場でどのように行われてきたかを理解する。また現場の教員の指導の中心施設であった「視聴覚ライブラリー」の機能についても学修する。	
第3回	メディア教育の歴史Ⅱ CAIと呼ばれていた初期のコンピュータを活用した教育について，当時の映像や資料を参照しながら学習する。	
第4回	メディア教育の歴史Ⅲ（インターネットとメディア教育） インターネットの基本構造と，ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探る。オンラインコミュニティの形成とその文化的意味についても学修する。	
第5回	メディアリテラシー教育 メディアメッセージをどのように解釈し，批判的に考えるかを学ぶ。ニュース，広告，エンターテイメントを例に，メディアメッセージを自分で分析しながら学習する。	
第6回	ソーシャルメディアの基礎知識（文字や音声・映像による情報メディアの表現と技術） ソーシャルメディアによるコミュニケーションの基本的なしくみとその特性によって起こる課題について実例をもとに学修する。	
第7回	ソーシャルメディアと子どもの発達 ソーシャルメディアが子どもの言語発達化，注意力，社会性に与える肯定的および否定的影響について学修する。また，親と教育者の役割に焦点を当てて考える。	
第8回	情報の倫理と法律 オンラインでの行動規範，情報の正確性，著作権といった法的側面について学ぶ。デジタル時代における倫理的な課題と責任を学校現場の事例をもとに学修する。	
第9回	メディアとジェンダー メディアが形成するジェンダー観とステレオタイプの理解。メディアがどのようにジェンダー役割を再生産し，それに対抗する方法について議論する。	
第10回	メディアの社会的効果 メディアが公共の議論，政治意識，文化的価値に与える影響に焦点を当て，メディアが社会にどのように機能するかを探る。	
第11回	学校におけるソーシャルメディア活用の現状Ⅰ GIGAスクール構想に関する社会的背景や学校における情報通信技術に関する整備状況について理解するとともに，ICT支援員などの外部人材・外部機関と連携した取組の実態について理解する。	
第12回	学校におけるソーシャルメディア活用の現状Ⅱ 情報メディア，デジタル教材，デジタル教科書等を用いた指導事例にふれ，これらの効果的活用法について理解する。	
第13回	メディア教育と学修評価 学習履歴(スタディ・ログ)，デジタルポートフォリオを活用した学習評価の方法などメディア教育における学習評価について学修する。また，遠隔・オン ライン教育の導入の方法について学修し，その時の評価方法についても学ぶ。	
第14回	ソーシャルメディアの課題 現在学校現場で課題となっているソーシャルメディアの課題について調査・分析を行う。	
第15回	メディアプロジェクトの企画と実施 最終講義では，学生自身がメディアを利用したプロジェクトを企画，実施する機会を提供。これにより，コースを通じて学んだ理論とスキルを実践的に適用し，理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。
レポート	70	各回の授業で提示される課題について，理解の程度，自分の考えを具体的に述べているかなどの観点で評価する。なお，レポート等の提出物へのフィードバックについては，コメントを記載して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	新聞・TV等で報道されるメディア情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。
授業外学修	1 復習すること 2 授業で紹介された参考文献を読む。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。毎回資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中でその都度紹介するが「スマホ脳」アンデシュ・ハンセン(新潮新書)は必ず読んでほしい。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー　3年)，岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	生涯学習センター(県視聴覚ライブラリー)で各学校のメディア教育担当の教員に対して行っていたメディア教育研修の内容や情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用例について様々な取り組みを指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

科目名	地域教育社会学特論			授業番号	MF302	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本授業は，下記のテーマにしたがって進めていく。 受講学生は，順番に担当部分についての発表資料を作成し，その作成した資料にもとづいて発表を行う。 その発表に関しては，学生たち自身が質疑応答や討論をする。 教員は，この議論について適宜，補足説明をしたり，必要な事項について講義する。								
到達目標	現代社会における教育現象は，決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは，こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。 そこで，本授業では，地域社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ，社会学の方法を用いて分析する。 このような学習を積み重ねることにより，教育者・保育者として，社会現象としての地域教育について的確な理解ができる実践者となることを目標とする。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの社会化とは何か	
第2回	現代日本の子ども観 (1)子ども観の定義と統計データから見る子ども観	
第3回	現代日本の子ども観 (2)課題図書に見る子ども観	
第4回	現代日本の子ども観 (3)地域住民の子ども観	
第5回	子ども社会化エージェント (1)子どもの仲間集団における社会化の特徴	
第6回	子ども社会化エージェント (2)近隣集団・地域集団における社会化の特徴	
第7回	子ども社会化エージェント (3)家族集団における社会化の特徴	
第8回	現代社会における子育て支援 (1)母親の育児不安の実態	
第9回	現代社会における子育て支援 (2)放課後子ども教室と学童保育	
第10回	現代社会における子育て支援 (3)近隣集団と地域集団の活動	
第11回	現代社会における子育て支援 (4)子どもとインターネット，ケータイ	
第12回	地域における子育て支援活動の現実 (1)放課後子どもプラン	
第13回	地域における子育て支援活動の現実 (2)教育支援人材の育成	
第14回	地域における子育て支援活動の現実 (3)地域集団における子育て支援活動(1)	
第15回	地域における子育て支援活動の現実 (4)地域集団における子育て支援活動(2)	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	作成したレジュメ及びその修正
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	発表及び質問

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な姿勢で臨むこと。
授業外学修	発表資料の作成

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもへの現代的視点	住田正樹・多賀太	北樹出版	4-7793-0076-2	2800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	住田正樹・高島秀樹編『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹『子ども社会学の現在』九州大学出版会 酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	地域教育福祉特論			授業番号	MF303	サブタイトル			
教員	中 典子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代社会における子どもを取り巻く環境を把握したうえで，子どもの教育環境・子ども家庭福祉政策の実態とその重要性について講義する。その際，「地域におけるネットワーク形成」に着目し，コミュニティワークの特質やそのあり方について説明する。また，院生自身が事例を読み解き，自らプレゼンテーションをする時間を設ける。								
到達目標	・現代社会における子どもとその家族を取り巻く課題に対して，地域福祉・地域教育からのアプローチの方法とその特徴を理解できるようになる。 ・子ども，家族に関する理解を前提に，子どもの権利を守る活動として地域福祉・地域教育実践を分析，考察することができるようになる。 ・なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもをめぐる現状と課題 子どもをとりまく環境を理解する。	
第2回	「子どもの権利条約」からみた教育・福祉 子どもの権利に関する条約の内容を理解する。	
第3回	地域ネットワークとは 地域の社会機関同士の連携協働の必要性を理解する。	
第4回	子育ての現状と子育てネットワーク 子育て支援関連の社会資源を理解する。	
第5回	保育・幼児教育施設における子育て支援 保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における子育て支援の内容を理解する。	
第6回	児童館で展開される子育てネットワーク 児童館での子育て支援を理解する。	
第7回	学校現場を中心にみたネットワーク1 スクールソーシャルワークを理解する。	
第8回	学校現場を中心にみたネットワーク2 スクールソーシャルワーカーの役割を理解する。	
第9回	市町村における子どもの専門機関のネットワーク 行政における子育て支援対策を理解する。	
第10回	子どもの貧困対策に対する支援1 子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。	
第11回	子どもの貧困対策に対する支援2 子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。	
第12回	多文化の子どもに対する支援1 子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。	
第13回	多文化の子どもに対する支援2 子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。	
第14回	子どもをめぐるネットワークとは 子ども支援のために構築されているネットワークを理解する。	
第15回	地域教育・地域福祉の今後の展望と課題 子どもの教育保障するためにどのような暮らしの支援が必要かを理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
小テスト	50	出題に対して適切な分析力，表現力，また，参考文献・資料などの活用力などについて評価する。
その他	30	プレゼンテーションについては，「他者によく分かる授業」を観点として評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に提示した資料をよく読んでくること。毎回の授業において，他学生としっかりディスカッションをすることにより学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないところは自ら文献や先行研究論文を探し，他学生に提示できるように努力すること。
授業外学修	授業開始前までに，事前配付資料の内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
無				
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて提示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

科目名	子どもと放課後特論			授業番号	MF304	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ（学童保育）について、日本学童保育学会設立10周年記念誌『学童保育研究の課題と展望』に所収の論考を批判的に分析することを通じて学ぶ。								
到達目標	・現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ（学童保育）の現状と、その研究動向を理解する。 ・放課後における子どもの教育と福祉のあり方及び学校教育との連携のあり方について考える。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの放課後対策の現状 現代日本における子どもの放課後対策について全体像を理解する。	
第2回	子どもの放課後対策の課題 現代日本における子どもの放課後対策が抱えている課題を理解する。	
第3回	放課後児童健全育成事業（学童保育）政策の概要 現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ（学童保育）制度とその現状を理解する。	
第4回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と子どもの生活保障 テキスト「第一部第1章　生活保障としての学童保育」を批判的に検討する。	
第5回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と地域づくり テキスト「第一部第3章『大きな家族』としての学童保育から地域づくりへ」を批判的に検討する。	
第6回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と子どもの権利保障 テキスト「第一部第4章　子どもの権利と学童保育の子ども観・子育て観」を批判的に検討する。	
第7回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と学校教育 テキスト「第一部第2章　学童保育と学校教育の現在と未来」を批判的に検討する。	
第8回	学童保育実践の特質と構造 テキスト「第二部第1章　学童保育実践の特質と構造」を批判的に検討する。	
第9回	学童保育指導員・支援員の職務と専門性 テキスト「第二部第2章　学童保育指導員・支援員の職務と専門性」を批判的に検討する。	
第10回	学童保育指導員の同僚性 テキスト「第二部第5章　実践者たちの同僚性と組織的な専門性向上」を批判的に検討する。	
第11回	学童保育実践と子どもたちの発達保障 テキスト「第三部第1章　今日の子どもたちの発達保障と学童保育実践」を批判的に検討する。	
第12回	学童保育実践とインクルーシブ子どもたちの発達保障 テキスト「第三部第2章『特別な教育的ニーズ』のある子どもとインクルーシブ学童保育」を批判的に検討する。	
第13回	学童保育実践と家族支援 テキスト「第三部第3章　貧困・児童虐待問題と学童保育における家族支援」を批判的に検討する。	
第14回	学童保育研究の課題と展望 テキスト「第一部第5章　日本の学童保育史研究の課題と展望」を批判的に検討する。	
第15回	子どもの放課後対策の未来 子どもの放課後に対する総合的な対策の方向性を、海外の取組を踏まえて考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	50	本科目の学習を理解した上で，子どもの放課後対策及び学童保育に関する考えを論述すること
小テスト		
定期試験		
授業での発表	50	テキストの内容理解及び批判的検討について発表する内容の妥当性

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子どもの発達保障を広い視野で考える思考様式を持って，積極的に討論に参画すること。
授業外学修	1）テキスト及び配付資料を熟読すること。 2）学校外の子ども を対象とした様々な事業に参加したり，そうした事業に関する新聞記事を収集したりすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
学童保育研究の課題と展望	日本学童保育学会	明誠出版	4909942165	3080

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	厚生労働省「放課後児童クラブ運営指針解説書」
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子ども学特別研究			授業番号	MH401	サブタイトル			
教員	佐々木　弘記、中　典子、中田　周作、西田　寛子、伊藤　智里、園田　祥子								
単位数	8単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	入学後，院生は研究指導教員と話し合い，ディプロマポリシーにふさわしい研究テーマを設定し，修士論文としてまとめる。目安として，1年次では主として研究テーマに沿った先行研究の文献や資料を収集することで研究分野に関する理解を深め，具体的な研究計画を完成させる。1年次後半から2年次にかけてデータや資料を収集，解析し，修士論文の執筆を進める。現職の社会人や実践経験のある学生では，自ら体験した事例や，現場で集めたデータを基に研究を進めることもできる。2年次後半で研究の仕上げを行い，修士論文を完成させる。								
到達目標	子ども学の本質・内容・方法に関する専門的知識に基づいて， ・子ども学の専門的な知識や研究手技を理解する。 ・事象を分析し，問題点を見出し問題解決を行う。 ・論理的で普遍性のある文章およびプレゼンテーションにより表現する。 ・科学者としての研究倫理を踏まえて研究を進める。 以上を踏まえたうえで修士論文を完成させる。修士論文審査の評価基準は別途配付する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。								
授業計画 自由記載	佐々木弘記：教育方法学，教育工学の手法を用いて，教授－学習過程やメディアの活用に関する理論的・実証的研究の指導を行う。 中　典子：事例研究の手法を用いて学校をベースに展開するソーシャルワークプロセスに関する研究指導を行う。 西田寛子：マネジメントの手法を用いて，英語科や外国語活動に関する理論的・実証的研究の指導を行う。 伊藤智里：幼児教育の歴史，現在の保育・幼児教育に関する問題等に関する研究指導を行う。 園田詳子：表示メディアと読みの関係，音読の効果，頻度と注意の関係等に関する研究指導を行う。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度によって評価する。
その他	90	執筆された論文を学位審査委員会で審査する。

評価の方法：自由記載	論文は，受講中の討論や中間発表での議論が反映されていることと，高度専門職業人や研究者としての問題解決の基礎的能力を身に付けていると認定できることが求められる。表現系の場合は作品や実演を審査の対象とすることができる。
受講の心得	教育や保育の実践の改善に資するテーマを探究すること。先行研究のレビューを行い，教育や保育の実践上の問題点を明確にし，研究課題の新規性を説明できるようにしておくこと。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり8時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭(15年)，県教育センター(９年)（佐々木弘記） 公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年），県教育委員会指導主事（４年），公立中高一貫校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年）（西田寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校(15年)，教育センター(９年)での勤務経験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。（佐々木弘記） 英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，教育現場の実態を踏まえて，その課題を解決するための実践的な指導を行う。（西田寛子）

中国短期大学　総合生活学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
フレッシャーズセミナー	松井　圭三／加賀田　江里／仁宮　崇／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之／疋田　基道／川村　朱乃	1
韓国語	宋　娘沃	3
キャリア開発論	小築　康弘／平井　安久／太田　憲孝	5
中国語	畑木　亦梅	7
日本国憲法	俟野　英二	9
人間の尊厳と自立	住野　好久	11
経済学	板野　敬吾	13
体育実技	土田　豊	15
英語A 1クラス	森年　ポール	17
英語A 2クラス	ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ　ﾁﾝﾃﾞﾐ	19
日本語表現	太田　憲孝	21
心理学	疋田　基道	23
社会保障論	松井　圭三	25
社会学	中田　周作	27
芸術	鳥越　亜矢	29
人間関係とコミュニケーション	疋田　基道	31
自然科学概論	岸　誠一	33
英語B	藤代　昇丈	35
法学概論	藤原　健補　他	37
時事問題	板野　敬吾	39
生活とデザイン	川村　朱乃	41
色彩学	川村　朱乃	43
生活デザイン実習A（135分）	川村　朱乃	45
生活デザイン実習B（135分）	川村　朱乃	47
基礎調理演習	加賀田　江里	49
食と生活	小築　康弘	51
食品の世界	小築　康弘	53
食と健康	小築　康弘	55
食空間と調理	加賀田　江里／石田　有美枝	57
調理実習Ⅰ	加賀田　江里	59
フードマーケティング論	大宮　めぐみ	61
食生活演習（7.5回）	加賀田　江里	63
製菓演習（7.5回）	加賀田　江里	65
フードコーディネート実習	小築　康弘／石田　有美枝	67
食品加工実習	小築　康弘	69
応用調理演習	加賀田　江里	71
調理実習Ⅱ	加賀田　江里／岡　久／山田　紳介	73
生活学概論A	小築　康弘／仁宮　崇	75
生活学基礎演習	小築　康弘	77
生活情報基礎演習 1クラス	小築　康弘	79
生活情報基礎演習 2クラス	小築　康弘	81
生活コミュニケーション論	疋田　基道	83
生活コミュニケーション演習A 生活創造・医療事務コースの学生対象	疋田　基道	85
生活コミュニケーション演習A 生活福祉コースの学生対象	疋田　基道	87
生活学概論B	川村　朱乃	89
ホスピタリティとマナー	加賀田　江里／仁宮　崇／韓　在都	91
生活学概論C	小築　康弘／仁宮　崇／韓　在都	93
生活学概論D	加賀田　江里／疋田　基道	95
キャリア開発演習	加賀田　江里／仁宮　崇／韓　在都／疋田　基道	97
生活情報演習A 生活創造・医療事務コースの学生対象	石原　信也	99
生活情報演習A 生活福祉コースの学生対象	石原　信也	101
公衆衛生学	波多江　崇	103
生活コミュニケーション演習B 生活創造・医療事務コースの学生対象	疋田　基道	105
生活コミュニケーション演習B 生活福祉コースの学生対象	疋田　基道	107
生活情報演習B 1クラス	石原　信也	109
生活情報演習B 2クラス	石原　信也	111
生活コミュニケーション演習C	疋田　基道	113
生活コミュニケーション演習D	疋田　基道	115
メンタルヘルス学	仁宮　崇	117
総合生活学セミナーA	小築　康弘	119
総合生活学セミナーB	疋田　基道	121
総合生活学セミナーC	川村　朱乃	123
総合生活学セミナーD	小築　康弘	125
総合生活学セミナーE	川村　朱乃	127
応用メンタルヘルス学	仁宮　崇	129
特別研究	中野　ひとみ／森田　裕之	131
診療報酬請求事務Ⅰ	仁宮　崇	134

診療報酬請求事務演習Ⅰ	仁宮　崇	・・・・・・・	136
医事コンピュータ演習Ⅰ	岡本　智子	・・・・・・・	138
医療管理事務総論	仁宮　崇	・・・・・・・	140
秘書学	仁宮　崇	・・・・・・・	142
医療情報管理論	仁宮　崇	・・・・・・・	144
診療報酬請求事務Ⅱ	仁宮　崇	・・・・・・・	146
医事コンピュータ演習Ⅱ	岡本　智子	・・・・・・・	148
診療報酬請求事務演習Ⅱ	仁宮　崇	・・・・・・・	150
医療事務セミナー	仁宮　崇	・・・・・・・	152
医療事務情報演習	仁宮　崇	・・・・・・・	154
接遇演習	仁宮　崇	・・・・・・・	156
ファッションと生活	川村　朱乃	・・・・・・・	158
ファッションビジネス	川村　朱乃	・・・・・・・	160
アパレル基礎実習（135分）	江口　まりこ	・・・・・・・	162
アパレル企画実習（135分）	川村　朱乃	・・・・・・・	164
ファッションコーディネート演習	川村　朱乃	・・・・・・・	166
地域共生社会論	中野　ひとみ	・・・・・・・	168
地域福祉論	松井　圭三	・・・・・・・	170
社会福祉論	松井　圭三	・・・・・・・	172
ヒューマンケア ①　シラバス用	韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	174
ヒューマンケア ②　シラバス用	中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	176
ヒューマンケア ③　シラバス用	中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	178
介護保険事務論	仁宮　崇	・・・・・・・	180
介護概論	松井　圭三	・・・・・・・	182
介護の基本Ⅰ	森田　裕之	・・・・・・・	184
認知症の理解Ⅰ	中野　ひとみ	・・・・・・・	186
人間発達学	疋田　基道	・・・・・・・	188
障害者支援論	藤井　裕士	・・・・・・・	190
医学一般	波多江　崇	・・・・・・・	192
リスクマネジメント論	森田　裕之	・・・・・・・	194
生活支援技術Ⅰ	森田　裕之	・・・・・・・	196
生活家事支援技術	加賀田　江里	・・・・・・・	199
生活余暇支援技術	森田　裕之	・・・・・・・	202
総合生活学セミナーKI	松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	204
総合生活学セミナーKⅡ	松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	206
介護過程Ⅰ	韓　在都	・・・・・・・	208
介護過程Ⅱ	森田　裕之	・・・・・・・	210
介護実習Ⅰ―①	松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	212
介護実習Ⅰ―②	中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	214
ヒューマンケア ④　シラバス用	中野　ひとみ／韓　在都	・・・・・・・	216
ヒューマンケア ⑤　シラバス用	韓　在都	・・・・・・・	218
介護の基本Ⅱ―A	韓　在都	・・・・・・・	221
介護の基本Ⅱ―B	韓　在都	・・・・・・・	223
認知症の理解Ⅱ	韓　在都	・・・・・・・	225
発達と老化の理解	中野　ひとみ	・・・・・・・	227
障害の理解	中野　ひとみ	・・・・・・・	229
こころとからだのしくみⅠ	中野　ひとみ	・・・・・・・	231
こころとからだのしくみⅡ	韓　在都	・・・・・・・	233
生活コミュニケーション特論	森田　裕之	・・・・・・・	235
生活支援技術Ⅱ	森田　裕之	・・・・・・・	237
生活支援技術Ⅲ	韓　在都	・・・・・・・	240
総合生活学セミナーKⅢ	松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	243
総合生活学セミナーKⅣ	松井　圭三／中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	245
介護過程Ⅲ	韓　在都	・・・・・・・	247
介護実習Ⅰ―③	中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	249
医療的ケアⅠ	中野　ひとみ	・・・・・・・	251
介護実習Ⅱ	中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・	254
医療的ケアⅡ	中野　ひとみ	・・・・・・・	256

科目名	フレッシャーズセミナー			授業番号	HA101	サブタイトル	(大学における学修方法を身につける)		
教員	仁宮 崇、韓 在都、松井 圭三、中野 ひとみ、加賀田 江里、森田 裕之、川村 朱乃、疋田 基道								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	学生生活を始めるにあたり，授業の予習復習，メモ，ノートのとり方，定期試験や資格試験の勉強方法について学修する。また、2年間の目標設計，グループワークを通して学友・教員との交流，学内施設を知る等，2年間を有意義に過ごすための学びも実践する。								
到達目標	・授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について理解している。 ・学内の施設について，利用方法を知っている。 ・グループワークを通して他者を思いやり，協力するように努めることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	勉強方法①授業の予習復習，日々の学修について 短期大学における授業の受け方，予習復習の意義を学び，メモ，ノートのとり方について理解する。	仁宮
第2回	笑顔学－人と触れ合う生活のために育む教養－ コミュニケーションの基本である笑顔を学ぶ。	韓
第3回	自分の生活について考える 充実した学生生活を送るため，この2年間での目標を考え，グループワークを行うことで同級生・教員との交流を深める。	加賀田，韓，仁宮，疋田，川村
第4回	学内の施設を知る グループに分かれて学内を探検し、学内のことを良く知る。グループワークを行うことで同級生同士の交流を深める。	加賀田，韓，松井，仁宮，疋田，川村
第5回	就職支援課の利用：就職支援課のことを知り，有効活用できるようにする。	仁宮
第6回	図書館の利用 図書館の利用方法を知り，図書館を有効活用できるようにする。（第6回と第7回は1クラスと2クラスに別れて交互に受講する）	加賀田，韓，松井，疋田，川村
第7回	学生生活とストレス対策 ストレス対策の基礎知識，悩みを相談することの大切さを学ぶ。（第6回と第7回は1クラスと2クラスに別れて交互に受講する）	仁宮
第8回	ここから始める仕事研究・インターンシップ 仕事研究，インターンシップとは何かその意義，就職情報サイトの利用について学ぶ。	仁宮
第9回	レポートの書き方説明① レポートの書き方について理解する。	仁宮（講義），韓，松井，中野，加賀田，森田，疋田，川村（レポート採点）
第10回	メモとり実践① 講演を聴いてしっかりメモをとり，可能であれば質問する。	仁宮
第11回	働くことを考えよう アルバイトや就職のために役に立つ知識を学ぶ。労働基準法，労働契約法などの労働法についてわかりやすく解説します。またみなさんからの質問にもお答えします。	松井
第12回	レポートの書き方説明② 前回のレポート課題の反省を活かし，レポートを書く能力を向上させる。	仁宮（講義），松井，中野，加賀田，森田，疋田，川村（レポート採点）
第13回	勉強方法② 入学して初めての定期試験や資格試験の勉強方法について理解する。	仁宮
第14回	メモとり実践② 講演を聴いてしっかりメモをとり，可能であれば質問する。	仁宮
第15回	レポート採点と講評・授業の振り返り レポート採点結果と各教員の講評を伝える。授業の振り返りをする。	仁宮
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業への取り組む姿勢，感想の質と量で評価する。
レポート	40	指示されたルールを守ってレポートを作成し，期限までに提出できるかで評価する。提出された課題は評価し，コメントを付して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業への取り組みの姿勢／態度　60点　4点×15回＝60点 レポート　40点　20点×2回＝40点
受講の心得	授業で学んだことを2年間意識して学生生活に活かすこと。
授業外学修	・課題として出されるレポートの作成をする。 ・授業で得た学生としての学修を様々な場面で実践する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について理解している。	授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎についてよく理解している。	授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎についてほぼ理解している。	授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について基本的に理解している。	不十分ながら授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について理解している。	授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について理解していない。
知識・理解	２．学内の施設について、利用方法を知っている。	学内の施設について、利用方法をよく知っている。	学内の施設について、利用方法をほぼ知っている。	学内の施設について、基本的な利用方法を知っている。	不十分ながら学内の施設について、基本的な利用方法を知っている。	学内の施設について、利用方法を知らない。
思考・問題解決能力	１．グループワークを通して他者を思いやり、協力するように努めることができる。	グループワークを通して他者を思いやり、協力するようにとても積極的に努めることができる。	グループワークを通して他者を思いやり、協力するように積極的に努めることができる。	グループワークを通して他者を思いやり、協力するように自分の役割を果たそうと努めることができる。	消極的ながらグループワークを通して他者を思いやり、協力するように努めている。	グループワークを通して他者を思いやり、協力するように努める姿勢が見受けられない。

科目名	韓国語			授業番号	HA102	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を置い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，韓国の大学生活，エンターテインメント，社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。 ・簡単な韓国語の読み書きができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作られたのかをハングルの由来，歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学習する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学習する。	
第4回	激音と濃音，パッチム 基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。	
第5回	韓国語の助詞・動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞の仕組みについて学習する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在，過去，みらいはどのように表現されているのかを学習する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて学習する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 指示代名詞を事例の文章から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形や尊敬語 韓国語の丁寧形や尊敬語を具体例から学び，理解する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みをから短い表現を理解する。	
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を学習する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学との近い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活・食文化や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の音楽と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，予習をやって来ること。 ・課題を充実に行うこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	978-4-8163-5558-5	1,600円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している	韓国語の必要性をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している	韓国語は理解しているが、具体的な知識が十分でない	あまり外国語に対して興味を持たない
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	韓国語の文字体系を理解しようとしていない	外国語や他の国のことを理解していない
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない	韓国のこと、韓国語にあまり関心が少ない
思考・問題解決能力	１．今日のグローバル社会において外国語を通じて他文化が理解できる	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	韓国の社会や経済に関心があり、韓国語の基礎が十分にできている	韓国語の会話や発音の体系が理解できている	他の国のことはあまり興味が少なく、語学にも理解度をあまり持っていない	外国語や他の国のことを理解していない
思考・問題解決能力	２．外国語を学んでグローバルな視野が広げられる	他の文化に対する理解力を培うことができる	韓国語だけではなく、韓国の社会問題にも興味を持っている	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解し、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
思考・問題解決能力	３．言葉の違いがあっても、他国の人々と共同社会を模索できる姿勢を持つことができる	韓国のことを言葉を通じてまず修得している	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	なぜ語学を勉強する意味があるのがが認識できていない	他の国と日本との関わりに関心がなく、語学の必要性が理解できていない
技能	１．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる	韓国語の基礎が出来ており、自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が出来ている	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
技能	２．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる	韓国語の基礎知識は十分に備え、自ら進んで韓国の文化を勉強している	韓国語の基礎知識を備えられ、その国のことまで把握できる	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	外国語を修得し、１つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない
技能	３．外国語や海外の人や文化を通じて自国のことや自分のことを再考することになるが	韓国語の学習が十分にでき、今日のグローバル社会が理解できる	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる	韓国語の基礎知識が勉強でき、他の語学にも興味を持つことが可能になる	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し、勉強しようかという認識ができていない
態度	１．韓国語を学ぶ本来の意味は何かを考えられる	語学を学ぶ目的は何かを考えられる	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が十分に理解でき、その国のことに関心が高まっている出来ている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない側面がある	韓国語の発音の体系や会話の基礎が理解できていない
態度	２．日本と韓国の両方を比較し、長所、短所が発見できる	語学勉強を通じて他の国に対する認識が変化している	韓国語の学習を通して、日本と韓国の差異や共通点が発見できている	韓国語の基礎知識を通じて、日本と韓国の共通点が把握できる	語学を学ぶ目的が明確ではなく、外国に関する関心度もあまり見られない	外国の文化や言葉に興味が少なく、韓国語の基礎を理解していない
態度	３．最も近くの国である韓国語の勉強を通じて韓国への再認識ができる	韓国語を学ぶ意味は何かが考えられ、韓国社会を再認識することができている	韓国語の会話や発音体系が理解できて、韓国の社会に関しても勉強しようとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	現在、外国語の学習や韓国語の学習がなぜ必要なのかがあまり理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない

科目名	キャリア開発論			授業番号	HA103	サブタイトル	(キャリア形成のための基礎学力養成)		
教員	小築 康弘、太田 憲孝、平井 安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちは変化の激しい時代を生きている。以前は手に職をつければ，一生生きていけるという考えが主流だった。しかし，現代では身につけた知識・技術があっという間に時代遅れになってしまう。このような時代に生きる我々は常に知識・技術のアップデートが求められ，そのアップデートに対応できる言語力・論理力・推論力が必要となる。 これらを踏まえ，本授業の目的はキャリア開発の基礎となる基礎学力の養成にある。特に，みなさんが現在向き合っている就職活動を意識し，基礎学力の養成を図る。履歴書・エントリーシート等では，比較的短い文章で自身の意図を伝える必要があり，そのための表現能力の開発を行う。また， SPIに対応できるようになるために，言語分野としての基礎的国語能力の開発，非言語分野として基礎的数学能力の開発を行う。								
到達目標	・日本語表現の特徴を捉え，基礎的な言語力を身につけることができる。 ・数学の基礎的な知識を身につけ，基礎的問題を解くことができる。 なお，本教科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	キャリア開発とは？：なぜ基礎学力が必要か キャリア形成における基礎学力の重要性について考える	小築 康弘
第2回	SPIの理解 SPIには様々な形式があり，また特徴がある。それらを概論する	小築 康弘
第3回	国語の基礎知識１ 考えを述べる	太田 憲孝
第4回	国語の基礎知識２ 情報を伝える	太田 憲孝
第5回	国語の基礎知識３ 文章と形式	太田 憲孝
第6回	国語の基礎知識４ 想いを伝える	太田 憲孝
第7回	国語の基礎知識５ 自己を表現する	太田 憲孝
第8回	国語の基礎知識６ 分かり易い文章	太田 憲孝
第9回	数学の基礎的知識１ 推論，図表の読み取り	平井 安久
第10回	数学の基礎的知識２ 集合，順列・組み合わせ	平井 安久
第11回	数学の基礎的知識３ 確率，割合	平井 安久
第12回	数学の基礎的知識４ 損益，分割払い	平井 安久
第13回	数学の基礎的知識５ 速さ，比，代金精算	平井 安久
第14回	数学の基礎的知識６ 資料の解釈，文章題と計算，グラフの読み取り	平井 安久
第15回	まとめ 「キャリア開発」を改めて考える	小築 康弘
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	授業に取り組む姿勢を評価する。
レポート	19	レポートの内容，理解度，考察力などについて評価する。内訳：国語の基礎的知識で12%，小築担当回で7%。提出された課題は採点し，コメントがあればそれを付して返却する。
小テスト	36	各領域の基礎的な理解度を評価する。内訳：国語の基礎的知識で12%，数学の基礎的知識で24%。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1．配布する資料は必ず持参すること。 2．授業態度は，礼儀正しい態度で臨むこと。
授業外学修	1．復習として，勉強したことを資料を見ながら学修しておくこと。 2．分野によって課されるレポートは作成しておくこと。 3．授業で身につけた知識・技術について，普段の生活に活かせるようにすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日本語表現の特徴を捉え，基礎的な言語力を身につけることができる。	言語力が基礎的なレベルを超えている	言語力が発展的なレベルに入りつつある	基礎的な言語力が身についている	基礎的な言語力を部分的に身につけている	言語力が乏しい
知識・理解	2．数学の基礎的な知識を身につけ，基礎的問題を解くことができる。	非言語分野の問題を速く解くことができる	非言語分野の問題を解くことができる	非言語分野の問題の大半を解くことができる	非言語分野の問題を部分的にを解くことができる	非言語分野の問題を解毛ない
態度	1．日本語表現の特徴を捉え，基礎的な言語力を身につけることができる。	課題を全てクリアし、学習意欲を継続的に抱いている	課題をクリアし、学習意欲を抱いている	課題への取り組みを通じて、学習意欲を抱いている	課題への取り組み、学習意欲が不十分である	課題への取り組み、学習意欲がない
態度	2．数学の基礎的な知識を身につけ，基礎的問題を解くことができる。	課題を全てクリアし、学習意欲を継続的に抱いている	課題をクリアし、学習意欲を抱いている	課題への取り組みを通じて、学習意欲を抱いている	課題への取り組み、学習意欲が不十分である	課題への取り組み、学習意欲がない

科目名	中国語			授業番号	HA104	サブタイトル	(発音記号，基本文型，会話，短文)		
教員	畑木 亦梅								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また，外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい，一緒に探し当てていく。								
到達目標	既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	テキスト第一課 発音(1) 単母音，声調，子音，軽声，特殊母音 (課題提出 テキスト第一課分P9-10)，	
第2回	テキスト第二課 発音(2) 重母音，鼻母音，声調の記号のつけ方	
第3回	発音の復習，知っておいて便利な言葉 (課題提出 テキスト第二課分P13-14)	
第4回	テキスト第三課 名詞文「…是…(…は…です)」について(肯定文，否定文，疑問文)；副詞「也，都(も)」について，強化トレーニング (課題提出 テキスト第三課分P19-20)	
第5回	テキスト第四課 指示代名詞，存在文「有…(…あります/います)」について，「ちょっと…する」の言い方，強化トレーニング (課題提出 テキスト第四課分P25-27)	
第6回	テキスト第五課 動詞文，動作の継起，願望文「想…(…したい)」について，強化トレーニング (課題提出 テキスト第五課分P33-34)	
第7回	テキスト第六課 動作・行為の完了，形容詞文について，比較，起点などの表し方，強化トレーニング (課題提出 テキスト第六課分P39-40)	
第8回	テキスト第七課 動作の進行，いろいろな「在」の使い方，数字・日付の言い方，強化トレーニング (課題提出 テキスト第七課分P45-46)	
第9回	テキスト第八課 過去の経験の表しかた，東京ディズニーランドに行ったことがありますか？ 強化トレーニング (課題提出 テキスト第八課分P51-52)	
第10回	テキスト第九課 皆さんはお元気ですか 強化トレーニング (課題提出 テキスト第九課分P57-58)	
第11回	テキスト第十課 休みの日はどのように過ごしますか？ 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十課分P63-64)	
第12回	テキスト第十一課 納豆は食べますか？ 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十一課分P69-70)	
第13回	テキスト第十二課 私について(1) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十二課分P75-77)	
第14回	テキスト第十三課 私について(2) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十三課分P81-82)	
第15回	復習，おさらい，定期試験に向けて	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
筆記試験	100	発音記号、語彙、文法の定着を確認するため、それぞれの区分から約6・2・2の点数配分で出題

評価の方法：自由記載	授業への取り組みの姿勢／態度／課題の完成度が評価対象になります。
受講の心得	予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。 毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており，遅刻せず声を出して練習すること。
授業外学修	1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。 2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認すること。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストについては教務課より別途指示

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	プリント配布，学習内容に合わせて中国事情を紹介。 プリントを入れる為のA4サイズのポケット式ファイル(20ポケットほど)を用意すること。 初回からプリントの配布があり，その後の授業にも使う予定。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高等学校での中国語授業
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通訳，翻訳の経験を活かし，学生自身の母国語の日本語について考えてもらい，より言語に関心を持ってもらうよう指導する。また，中国語授業の経験を活かし，学生と共に各々にあっての言語の修得方法を指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．語彙の使用法	幅広い語彙を会話の中で正確かつ効果的に活用できる	語彙の使用の多様性を示しすが、時折不正確である	基本的な語彙は概ね理解しているが、表現の種類は限られている	語彙の範囲が狭く、単語の選択に苦労する	最小限の語彙しか使用せず、コミュニケーション効果を妨げている
知識・理解	2．文法	文法規則をしっかりと理解し、それらをスピーチなどで正確に適用している	一般的に正しい文法を使用し、理解を妨げない程度の軽微な誤りがある	文法の誤りが目立ち、文の構造と明瞭さにかける	基本的な文法の概念に苦労し、比較的ミスが多い	文法規則の理解が乏しい
思考・問題解決能力	1．異文化理解	会話で中国文化の知識と理解を示す	文化的なニュアンスを意識し、文化的要素を適切に取り入れる	文化的な側面について思考しているが、精度は限られている	中国文化の知識がほとんどなく、文化的参照が不足している	中国の文化的側面に対する理解や配慮を示さない
技能	1．言語能力	正確な発音と基本的な言語構造の理解により、完全な文章で話すことができる	発音に多少の誤りはあるが、基本的な考え方を効果的に伝えることができる	基本的な語彙やフレーズを使って話そうとするが、発音の間違いが目立つ	まとまりのある文章を作るのに苦労し、語彙の使用が限られ、発音の間違いが頻繁にある	断片的に話し、発音が悪く、基本的な言語概念の理解が最小限である
技能	2．コミュニケーションスキル	趣味や興味に関する基本的な会話ができ、中国語で効果的なコミュニケーションがとれる	中国語の簡単なアイデアや興味をサポート付きで伝えることができる	基本的な会話を試みるが、アイデアを明確に表現するのに苦労することがある	会話への参加が最小限で、語彙の使用が限られており、コミュニケーションが不明瞭である	会話ができず、語彙力やコミュニケーション能力が不足している
態度	1．態度とエンゲージメント	発音練習に積極的に取り組み、中国語学習に熱意を示す	発音練習に参加し、中国語学習に興味を示す	発音の練習にやや熱心で、中国語の学習に対して中立的な態度を示す	発音の練習に消極的で、中国語学習への関心が限られている	発音練習や中国語学習に興味や努力を示さない
態度	2．ピアコラボレーション	言語の練習で仲間と積極的に参加し、他の人の学習をサポートしている	言語活動で仲間と協力し、支援する意欲を示している	グループワークには参加するが、仲間との積極的な関わりに欠けている	仲間とのコラボレーションに消極的であり、グループ活動への貢献は最小限である	孤立して働き、語学練習で仲間と関わらない

科目名	日本国憲法			授業番号	HA201	サブタイトル	(身近な問題から憲法の役割を考える)		
教員	俣野 英二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえて概説する。Universal Passportにより章ごとに小テストの課題を課し、その基本原理の理解及び基礎知識の定着を確認する。 次に、基本原理等に関する憲法問題を発展学習として、学生が任意に選んだ課題解決に向けてグループで取り組む。そのグループで調査した内容をUniversal Passportで公開、講義でプレゼンして全体討議を行う。これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考え方に配慮しながら，主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景及び相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うので，変化の激しい現代社会に対応できる幅広い知識の修得に貢献する。また、グループや全体での討議を通じて，他者の有する異なる価値観や考えの存在を尊重しつつ協力して課題を解決する作業から，他者を思いやる心，他者に対する礼儀の精神及び他者と協力して問題を解決しようとする姿勢の修得に貢献する。さらに，身近な問題から主体的に問題の解決を思考する力の修得を通じて,変化し続ける現代社会に対応すべく主権者や市民として生涯にわたって社会に対する関心を持ち続ける態度の修得に貢献する。以上のようにこの科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容の＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス，憲法とは何か 1 学修の目標，評価方法などを説明する。 2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。	
第2回	国家機関としての天皇制 1 徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2 国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。	
第3回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１―― 非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。	
第4回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２―― 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。	
第5回	国民主権を実現する仕組み１ 政治と国民、国会議員について学修する。	
第6回	国民主権を実現する仕組み２ 選挙、選挙制度、政党について学修する。	
第7回	人権を守るための組織――統治機構１―― 国会、内閣について学修する。	
第8回	人権を守るための組織――統治機構２―― 地方自治、裁判所について学修する。	
第9回	良心をもつ自由、貫く権利、中間試験 1 良心の意義について学修する。 2 教師の良心を貫く権利について考える。 3 中間試験を実施する。	
第10回	表現の自由と書かれない権利 1 表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2 表現の自由の優越的地位について学修する。	
第11回	知る権利とマス・メディアの自由、グループワーク１ 1 知る権利とマス・メディアの自由について学修する。 2 マス・メディアと国民との利害対立の調整について考える。 3 グループワーク（課題選択）	
第12回	営業の自由と消費者の権利、グループワーク２ 1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 2 職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 3 グループワーク（課題分析）	
第13回	子どもの権利と学校における生徒の人権 1 学校における生徒、教師の人権について学ぶ。 2 グループワーク（情報収集、整理）	
第14回	働く人の権利、グループワーク４ 1 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 2 女性や非正規労働者の問題について考える。 3 グループワーク（全体討議１）	
第15回	グループワーク５ グループワーク（全体討議２）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	20	各回のグループワーク終了時に提出するワークシートに，要求されているステップに沿ったグループワークの結果が書かれていること。 不十分な点については、コメントを付して連絡する。
小テスト	20	各章の主要なポイントの理解を評価する。回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
中間テスト	20	憲法の基本原理及び基礎知識の理解及び課題に対する論理的思考を評価する。Universal Passportに解説を掲示し、全体の講評を講義で行う。
定期試験	40	中間テストの基礎に加え、異なる価値観・意見に配慮した主体的な意見の論理的思考を総合評価する。解説をUniversal Passportに掲示する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 2　第11回以降、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。講義時間中にスマートフォン、タブレットなどで法律情報をリサーチしたり、Universal Passportにワークシートや報告書をアップするので十分充電して講義に臨むこと。 3　中間（第9回）に１回中間テストがある。
授業外学修	1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 3　グループワークで選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループ報告書のまとめ、プレゼンテーションの準備に向け、共同作業のための事前準備を行う。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400円＋税
使用テキスト：自由記載	第2版の改訂作業中です。第2版が出版された場合、そちらを採用します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本判例１　憲法（第4版）	右崎正博･浦田一郎編	法学書院	978-4-587-52413-5	2500 円＋税
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権･同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権･同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，大体述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，全く表現することができない。
知識・理解	２．国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し，理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確にではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	２．多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観・意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観・意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
態度	１．グループワークに積極的に参加できる。	調査，質問などを積極的に行い，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し，課題内容を理解した上で，ワークシートを提出している。	グループワークに参加し，ワークシートを提出しているが，課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または，グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	人間の尊厳と自立			授業番号	HA202	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。さらに，人権思想・福祉理念の歴史的変遷を学び，人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また，本人主体の観点から自立の考え方や自立生活の理念を学び，その生活を支える必要性を理解する。								
到達目標	１）人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し，人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を身に付ける。 ２）人間にとっての自立の意味と，本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	人間の尊厳(1)人間が生きるということ 「生きる」とは「心臓が動いていること」だけではない。「生きる」とはどういうことかを考える。	
第2回	人間の尊厳(2)人間が死ぬということ 「死ぬ」とは「心臓が止まること」ではない。どのような状態になると「死」と判断するのか。	
第3回	人間の尊厳(3)人間の尊厳とは 障がいがあっても、子どもでも、高齢者でも、等しく人間の尊厳が尊重されるとはどういうことか。	
第4回	人権思想の歴史的展開(1)近代 「人間の権利」という考え方はいつから始まったのか。どのように発展してきたのか。	
第5回	人権思想の歴史的展開(2)現代 戦争という人類最大の人権侵害行為を乗り越えて、現代の人権思想がどのように発展してきたのか。	
第6回	福祉理念の変遷(1)近代 人権思想の発展とともに「福祉」という考え方がどのように発展してきたのか。	
第7回	福祉理念の変遷(2)現代 現代における積極的な福祉の捉え方を考える。	
第8回	ノーマライゼーションの思想と運動 障がいの有無にかかわらず人権を尊重する社会々どのように模索されてきたのか。	
第9回	人間の尊厳と生命倫理 「生きる権利」と「死ぬ権利」について考える。	
第10回	ＱＯＬと利用者主体の福祉 「生きる権利」を保障する福祉の考え方を学ぶ。	
第11回	自立の理念(1)自立と依存 「自立」とはどのようなことか。「一人でする」ということなのか。	
第12回	自立の理念(2)自立生活の理念と意義 「自立」とはどういうことか。自立して生活するとはどういうことか。	
第13回	自立の理念(3)自己選択・自己決定 「自立」に欠かせない要素である「自己選択・自己決定」について考える。	
第14回	自立と支援(1)インフォームド・コンセント 利用者の「自立」を支える支援に欠かせない要素である「インフォームド・コンセント」について考える。	
第15回	自立と支援(2)自立支援・アドボカシー 利用者の「自立」を支える支援に欠かせない要素である「アドボカシー」について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	50	本科目の学習内容をふまえ，人間の尊厳を尊重し、自立を支援することについて論理的に叙述すること
確認テスト	50	授業で学習した内容を理解し，課題に対し適切に回答すること
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1．予習のためにテキストを熟読しておくこと 2．復習のためにテキストを熟読すること 3．新聞やＴＶ＆ネットのニュースで，国内外の人権問題についてリサーチすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新・介護福祉士養成講座 1　人間の理解	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解する。	法令や個人名を使って人権思想・福祉理念の歴史的変遷をわかりやすく説明できる。	主な法令や個人名を出して人権思想・福祉理念の歴史的変遷を説明できる。	人権思想・福祉理念の歴史的変遷の概要を説明できる。	人権思想・福祉理念の歴史的変遷を部分的に説明できる。	人権思想・福祉理念の歴史的変遷を全く説明できない。
知識・理解	2．人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を身に付ける。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を日常的に活用できるほど理解している。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を介護に活用できるほど理解している。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を説明できる。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方の基礎を理解している。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解できない。
知識・理解	3．人間にとっての自立の意味を理解する。	自立の意味を理解して、具体的な事例を用いて説明できる。	自立の意味を説明できる。	自立の意味を理解している。	自立の意味をだいたい理解している。	自立の意味を理解していない。
知識・理解	4．本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。	本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。	本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。	本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。	本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。	本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。
態度	1．他者の人権を尊重して接することができる。	人権を尊重して誰に対しても接している。	人権を尊重して誰に対しても接しようとする。	人権を尊重して身近な人に接している。	人権を尊重して身近な人に接しようとする。	人権を尊重して他者に接することができない。
態度	2．利用者の自立を大切にして介護行為ができる。	いつも利用者の自立を大切にして介護行為が十分できる。	いつも利用者の自立を大切にして介護行為ができる。	時々利用者の自立を大切にして介護行為ができる。	利用者の自立を大切にして介護行為をしようとする。	利用者の自立を大切にして介護行為をしようとしない。

科目名	経済学			授業番号	HA203	サブタイトル	(経済の見方)		
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	テレビのニュースや新聞では貿易や為替などの状況が頻繁に取り上げられている。このような報道は，一見私たちの普段の生活に無縁なものと思われがちである。しかしながら，これらの動きは物価や賃金に影響を及ぼし，私たちの生活に密着した経済現象として考えることができる。 また，経済活動の重要な役割を担う企業及び家計は，その活動が経済全体に大きな影響を及ぼすものであり，社会生活においても重要なアクターとしてとらえることができる。この点，企業や家計の活動をコントロールする経済政策は私たちにとって身近な問題として捉える必要がある。 本講義では，基本的な経済理論を学びつつ，消費者行動，企業活動及び経済政策が私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考えることとする。								
到達目標	テレビや新聞のニュース等の経済動向が理解できるようになるだけでなく，経済現象は様々な要因で現れるということを理解したうえで，実生活において経済学的な思考ができるようになるようにする。 本講義は上級ビジネス実務士資格取得のための選択科目であり，特に企業活動・経済政策と経済現象の関連を理解し，新聞・ニュース等の経済情勢の影響等を自ら判断できるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	経済学とは 経済学とは，何を対象とし，どのような分析等をする分野であるか，理解する。	
第2回	ミクロ経済学の考え方 経済学は大きく二つの分野に分かれ，その一つがミクロ経済学であり，何を対象とし，どのように分析するのかを理解する。	
第3回	家計の行動 本分野での主な役割を担う家計について，その活動を理解する。	
第4回	企業の行動 本分野での一方の役割を担う企業活動について理解する。	
第5回	政府の役割 ミクロ経済学では主要な役割は持たないが，富の分配に不均衡が生じるとき政府が是正するということを学ぶ。	
第6回	需要と供給 家計の行動と企業の活動の相違を理解し，価格が決定するメカニズムを理解する。	
第7回	不完全競争市場（独占・寡占） 政府が富の分配を正すという内容を理解する。	
第8回	不完全競争下での企業の行動 企業活動を説明するゲーム理論について理解する。	
第9回	マクロ経済学の考え方 マクロ経済学の対象とするものと分析について概要を学ぶ。	
第10回	国民所得 マクロ経済学における主要な分析方法について学ぶ。	
第11回	貨幣の役割 マクロ経済学における主要な分析方法について学ぶ。	
第12回	国民所得のコントロール GDPの考え方について学ぶ。	
第13回	長期の経済とは マクロ経済学とミクロ経済学の考え方の違いを学ぶ。	
第14回	失業 本分野の主要な指標である失業率について学ぶ。	
第15回	経済政策と企業活動 政策と企業活動について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，復習の状況により判断する。
レポート		
小テスト	20	単元ごとの理解度を評価する。 出題目的に即した解答内容であることが求められ，小テストの都度全体的な傾向等についてコメントをする。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。 出題目的に即した解答内容であることが求められ，最終課題提出後，全体的な傾向等についてコメントをする。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習は特に必要ない。事後学習（復習）については必ず行い，講義で得た知識を実際の経済現象に照らし考えてみるという姿勢を実践すること。
授業外学修	授業において説明する経済学の基本的考え方は経済理論の基礎となるものである。また，経済理論はそれだけにとどまらずさらに発展的に展開し，別の理論とも深く関わる。従って，必ず復習し理解したうえで，後の講義を受講するよう心がけること。 講義で得た知識をもとに，新聞・テレビ等で経済に関するニュース等を閲覧し，その経済現象はどのような経済理論が適用できるか考えること。 週当たりの授業外学習時間（予習・復習等）4時間

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配布し，使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	978-4-04-601168-8	1500
図解大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	978-4-04-601754-3	925
大学4年間の経済学がマンガでざっと学べる	井堀利宏，カツヤマケイコ	KADOKAWA	978-4-04-601720-8	1200

参考書：自由記載	参考図書については，必要の都度講義中に周知する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	国際通信経済研究所（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ミクロ経済学の理論を理解できている。	ミクロ経済学の発展的な考え方が十分理解できる。	ミクロ経済学の発展的な考え方が理解できる。	ミクロ経済学の基本的な考え方は理解できている。	基本的な経済理論の考え方の理解が不十分である。	基本的なミクロ経済学の考え方が理解できていない。
知識・理解	２．マクロ経済学の理論を理解できている。	マクロ経済学の発展的な考え方が十分理解できる。	マクロ経済学の発展的な考え方が理解できる。	マクロ経済学の基本的な考え方は理解できている。	基本的な経済理論の考え方の理解が不十分である。	基本的なマクロ経済学の考え方が理解できていない。
知識・理解	３．ミクロ経済学とマクロ経済学の相違点を理解できている。	両分野の相違点が十分理解できる。	両分野の相違点が理解できる。	両分野の基本的な相違点が理解できる。	両分野の基本的な相違点が十分に理解できていない。	両分野の基本的な相違点が理解できていない。
思考・問題解決能力	１．経済現象を理解できている。	経済政策を評価することができる。	経済ニュース等を十分理解できる。	経済ニュース等を十分理解できる。	経済ニュース等を十分に理解できていない。	経済ニュース等を理解できていない。
態度	１．授業に積極的に参加できる。	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	体育実技			授業番号	HA204	サブタイトル	(適切な運動実践)		
教員	土田　豊								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し，チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	体力テスト グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。	
第2回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第3回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。	
第4回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第5回	バレーボールIV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第6回	バレーボールV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第8回	バドミントンII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第10回	バドミントンIV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第11回	バドミントンV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第12回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第13回	卓球II（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第14回	卓球Ⅲ（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第15回	卓球IV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し，練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また，メンバーに声を掛けたり，援助などができておれば加点対象とする。
レポート	20	各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し，コメント入力後返却する。
小テスト	30	バレーボールにおいては，トス，サーブの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。
授業外学修	１．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。 ２．各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭　10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での経験を生かして，日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるのに加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができている。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	２．各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
思考・問題解決能力	１．チームの課題に対する取り組み姿勢	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーと共に解決に向けて積極的に取り組むことができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーに提案することができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考えることができている。	チームの課題を見つけることはできているが、その解決策について考えることが不十分である。	チームの課題を見つけることができない。
技能	１．各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。
態度	１．グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	２．活動に取り組む意欲	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られ、自分だけでなく、みんなで楽しめる雰囲気作りができている。	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られ、場の雰囲気を盛り上げようとする態度も感じられる。	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られる。	特定の種目については、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られる。	体を動かすことに対して消極的で、活動に対する意欲が感じられない。

科目名	英語A 1クラス			授業番号	HA205A	サブタイトル			
教員	森年 ポール								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	演習を週して講義する。 Learning through practical activities. ペアやグループ活動取り入れ，最終的には簡単な英語で会話できる力の養成を目指している。 By incorporating pair and group activities, we aim to ultimately develop the ability to converse in simple English.								
到達目標	1．基本的な英語の文法と語彙を学び、使用できるようになります。 2．英語での会話できること。 3．英語でメモなどの短い文章を書くことができること。 4．図書館にあるレベル 1 の本を読んで理解できること。 5．非常に簡単で身近なトピックについて英語で短いプレゼンテーションを行うことができること。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 1. Learn and be able to use basic English grammar and vocabulary. 2. Ability to converse in English. 3. Ability to write short texts such as memos in English. 4. Ability to read and understand level 1 books in the library. 5. Be able to give short presentations in English on very simple and familiar topics. Furthermore, this subject contributes to the acquisition of <knowledge and understanding> among the contents of the academic skills listed in the diploma policy.								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	授業ガイダンス Course guidance	
第2回	Unit 1: Meeting people - Vocabulary, grammar and listening	
第3回	Unit 1: Meeting people - Reading, writing, viewing and presenting Unit 1 test	
第4回	Unit 2: Countries and nationalities - Vocabulary, grammar and listening	
第5回	Unit 2: Countries and nationalities - Reading, writing, viewing and presenting Unit 2 test	
第6回	Unit 3: Family - Vocabulary, grammar and listening	
第7回	Unit 3: Family - Reading, writing, viewing and presenting Unit 3 test	
第8回	Units 1-3 Self-assessment Mid-term exam	
第9回	Unit 4: Describing people - Vocabulary, grammar and listening	
第10回	Unit 4: Describing people - Reading, writing, viewing and presenting Unit 4 test	
第11回	Unit 5: Food and drinks - Vocabulary, grammar and listening	
第12回	Unit 5: Food and drinks - Reading, writing, viewing and presenting Unit 5 test	
第13回	Unit 6: Things we do - Vocabulary, grammar and listening	
第14回	Unit 6: Things we do - Reading, writing, viewing and presenting Unit 6 test	
第15回	Units 4-6 Self-assessment Final exam 科目授業全体の振り返り Course review	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
Active participation in English	20%	Come on time, with your textbook, notebook, etc. Use English as much as you can.
6回の小テスト	30% (6 x 5%)	Each unit has a short test of grammar and vocabulary.
Mid-term exam and final exam	30% (2 x 15%)	Mid-term exam: Units 1-3 Final exam: Units 4-6
Short presentation	20%	身近なトピックに関する短くてシンプルなプレゼンテーション。 A short, simple presentation on a familiar topic.

評価の方法：自由記載	
受講の心得	英語は難しすぎる、面白くないと感じている人は、もう一度考えてみてください。先生はあなたにこのコースを楽しんでもらいたいと思っています。基礎英語の実践力を高めるには勉強と練習が必要ですが、楽しいし、先生もサポートしてくれます。ぜひ前向きな気持ちで積極的にご参加ください。 If you think English is too difficult or not interesting, think again. Your teacher wants you to enjoy this course. Improving your basic English skills requires study and practice, but it's fun and the teachers are supportive. Please participate actively with a positive attitude. ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 Make sure to prepare and review, and strive to study independently, such as by looking words up in your dictionary. ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 During lessons, we will do speaking activities in pairs and groups, so please actively participate.
授業外学修	テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。これには、毎日少なくも 15 分間、英語で図書館の本を読むことが含まれます。 Self-study for two hours per week regarding the content of the text. This can include at least 15 minutes of English reading from the library books every day.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Stretch Starter Multi-Pack A	Susan Stempleski	Oxford University Press	0194603270	2,728円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中学校、短期大学と大学の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．コースで扱われる語彙と文法を理解します。	コースで教えられるすべての英語の語彙と文法を理解します。	コースで教えられる英語の語彙と文法のほとんどを理解します。	コースで教えられる英語の語彙と文法の一部を理解します。	コースで教えられる英語の語彙と文法をほとんど理解していません。	コースで取り上げられる英語の語彙や文法をまったく理解していません。
思考・問題解決能力	１．事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	２．論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明瞭である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。
思考・問題解決能力	３．独創性と洞察力に富んだ表現内容である。	オリジナリティに富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
技能	１．基礎的な英語で会話ができる 。	学生は、文法、単語の選択、発音の間違いがほとんど、またはまったくなく、基本的な英語で自分の考えを表現することができ、高いレベルの聴解力を持っています。	学生は、文法、単語の選択、発音に多少の間違いはあるものの、基本的な英語で自分の考えを表現することができ、十分なレベルの聴解力を持っています。	学生は基本的な英語で自分の考えを表現できますが、文法、単語の選択、発音にいくつかの間違いはありますが、十分なレベルの聴解力を持っています。	この学生は基本的な英語で自分の考えを表現することができますが、文法、単語の選択、発音に多くの間違いがあり、リスニングが困難です。	学生は基本的な英語で自分の考えを表現することができず、リスニング能力もほとんどありません。
技能	２．基本的な英語 (レベル 1) の多級リーダーを読んで理解することができます。	学生は、基本的な英語 (レベル 1) の段階的リーダーを、読解ミスがほとんど、またはまったくなく、読んで理解することができます。	学生は、多少の読解ミスはあるものの、基本的な英語 (レベル 1) の段階的リーダーを読んで理解することができます。	学生は、いくつかの理解上の間違いはあるものの、基礎英語 (レベル 1) の段階的リーダーを読んで理解することができます。	学生は基本的な英語 (レベル 1) の段階的リーダーを読んで理解することができますが、理解上の誤りが多数あります。	学生は、基礎英語 (レベル 1) の有級リーダーを読んだり理解したりすることができません。
技能	３．基本的な英語で短い文章を書くことができる。	学生は、文法、単語の選択、スペル、句読点、またはレイアウトの誤りがほとんど、またはまったくない状態で、基本的な英語で短い文章を書くことができます。	学生は、文法、単語の選択、スペル、句読点、またはレイアウトに多少の間違いがある場合でも、基本的な英語で短い文章を書くことができます。	学生は基本的な英語で短い文章を書くことができますが、文法、単語の選択、スペル、句読点、またはレイアウトにいくつかの間違いが含まれています。	学生は基本的な英語で短い文章を書くことができますが、文法、単語の選択、スペル、句読点、またはレイアウトに多数の間違いが含まれています。	この学生は基礎的な英語で一貫した短い文章を書くことができません。
技能	４．専門的ではない身近なトピックについて、基本的な英語で短いプレゼンテーションを行うことができます。	プレゼンテーションはプロフェッショナルで、よく準備され、台本を読まなくても実践されています。	プレゼンテーションは非常に優れており、よく練習されており、台本はほとんど使用されません。	プレゼンテーションは適切ですが、十分な練習はなく、書かれたスクリプトへの参照がいくつかあります。	プレゼンテーションは準備されていますが、書かれた台本を読むことによってのみ可能です。	学生は、身近な非専門的なトピックについて、基礎的な英語で短いプレゼンテーションを行うことさえできません。
態度	１．コースの目標を達成するために、レッスン中およびレッスン後も努力します。	コースのすべての目標を達成するために、レッスン内外で一貫した努力を続けます。	コースのほとんどの期間、レッスン内外で、コースのすべての目標を達成するために努力します。	コースの一部の目標を達成するために、レッスン内および/またはレッスンを超えて、コースの一部で行われた努力。	コース目標の一部を達成するために必要な最小限の努力のみを行います。	コースの目標を達成するためにほとんど、またはまったく努力しません。
態度	２．コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を持つこと。	コース全体を通じて、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して一貫して前向きな姿勢を持っています。	コースのほとんどの期間において、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの一部では、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して積極的な態度を示している証拠はほとんどありません。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して否定的な態度を公然と示します。
態度	３．レッスン中はスタッフや他の学生に対して適切かつ敬意を持って行動すること。	人の行動は常に適切であり、スタッフと学生に対して敬意を持っています。	ほとんどの場合、人の行動は適切であり、スタッフや学生に対して敬意を持っています。	場合によっては、職員や学生に対して適切かつ敬意を持った行動が行われます。	職員や学生に対する態度は適切でも敬意を払うものでもなく、中立的です。	職員や学生に対する態度が不適切であったり、無礼な場合があります。

科目名	英語A 2クラス			授業番号	HA205B	サブタイトル			
教員	ｹﾞﾚｺﾞﾘｰ ﾁﾝﾃﾞﾐ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	演習を通して講義する。 Learning through practical activities. ペアやグループ活動取り入れ，最終的には簡単な英語で会話できる力の養成を目指している。 By incorporating pair and group activities, we aim to ultimately develop the ability to converse in simple English.								
到達目標	1. 基本的な英語の文法と語彙を学び、使用できるようになります。 2. 英語での会話できること。 3. 英語でメモなどの短い文章を書くことができること。 4. 図書館にあるレベル 1 の本を読んで理解できること。5. 非常に簡単で身近なトピックについて英語で短いプレゼンテーションを行うことができること。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>の修得に貢献する。 1. Learn and be able to use basic English grammar and vocabulary. 2. Ability to converse in English. 3. Ability to write short texts such as memos in English. 4. Ability to read and understand level 1 books in the library. 5. Be able to give short presentations in English on very simple and familiar topics. Furthermore, this subject contributes to the acquisition of <knowledge and understanding> among the contents of the academic skills listed in the diploma policy.								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	第1回 授業ガイダンス	
第2回	Unit 1: Meeting people - Vocabulary, grammar and listening	
第3回	Unit 1: Meeting people - Reading, writing, viewing and presenting Unit 1 test	
第4回	Unit 2: Countries and nationalities - Vocabulary, grammar and listening	
第5回	Unit 2: Countries and nationalities - Reading, writing, viewing and presenting Unit 2 test	
第6回	Unit 3: Family - Vocabulary, grammar and listening	
第7回	Unit 3: Family - Reading, writing, viewing and presenting Unit 3 test	
第8回	Units 1-3 Self-assessment Mid-term exam	
第9回	Unit 4: Describing people - Vocabulary, grammar and listening	
第10回	Unit 4: Describing people - Reading, writing, viewing and presenting Unit 4 test	
第11回	Unit 5: Food and drinks - Vocabulary, grammar and listening	
第12回	Unit 5: Food and drinks - Reading, writing, viewing and presenting Unit 5 test	
第13回	Unit 6: Things we do - Vocabulary, grammar and listening	
第14回	Unit 6: Things we do - Reading, writing, viewing and presenting Unit 6 test	
第15回	Units 4-6 Self-assessment Final exam 科目授業全体の振り返り Course review	
授業計画 備考2	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 Make sure to prepare and review, and strive to study independently, such as by looking words up in your dictionary. ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 During lessons, we will do speaking activities in pairs and groups, so please actively participate.	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
Active participation in English	20	授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。 Come on time, with your textbook, notebook, etc. Use English as much as you can.
小テスト	30	Each unit has a short test of grammar and vocabulary. (6回 x 5%)
Short presentation	20	身近なトピックに関する短くてシンプルなプレゼンテーション。A short, simple presentation on a familiar topic.
Mid-term exam and final exam	30	Mid-term exam: Units 1-3 Final exam: Units 4-6
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。これには、毎日少なくとも 15 分間、英語で図書館の本を読むことが含まれます。 Self-study for two hours per week regarding the content of the text. This can include at least 15 minutes of English reading from the library books every day.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Stretch Starter Multi-Pack A	Susan Stempleski	Oxford University Press	978-4881977590	1100

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中学校、短期大学と大学の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．コースで扱われる語彙と文法を理解します。	コースで教えられるすべての英語の語彙と文法を理解します。	コースで教えられる英語の語彙と文法のほとんどを理解します。	コースで教えられる英語の語彙と文法の一部を理解します。	コースで教えられる英語の語彙と文法をほとんど理解していません。	コースで取り上げられる英語の語彙や文法をまったく理解していません。
思考・問題解決能力	1．事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2．論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明瞭である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。
思考・問題解決能力	3．独創性と洞察力に富んだ表現内容である。	オリジナリティに富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
技能	1．基礎的な英語で会話ができる 。	学生は、文法、単語の選択、発音の間違いがほとんど、またはまったくなく、基本的な英語で自分の考えを表現することができ、高いレベルの聴解力を持っています。	学生は、文法、単語の選択、発音に多少の間違いはあるものの、基本的な英語で自分の考えを表現することができ、十分なレベルの聴解力を持っています。	学生は基本的な英語で自分の考えを表現できますが、文法、単語の選択、発音にいくつかの間違いはありますが、十分なレベルの聴解力を持っています。	この学生は基本的な英語で自分の考えを表現することができますが、文法、単語の選択、発音に多くの間違いがあり、リスニングが困難です。	学生は基本的な英語で自分の考えを表現することができず、リスニング能力もほとんどありません。
技能	2．基本的な英語 (レベル 1) の多級リーダーを読んで理解することができます。	学生は、基本的な英語 (レベル 1) の段階的リーダーを、読解ミスがほとんど、またはまったくなく、読んで理解することができます。	学生は、多少の読解ミスはあるものの、基本的な英語 (レベル 1) の段階的リーダーを読んで理解することができます。	学生は、いくつかの理解上の間違いはあるものの、基礎英語 (レベル 1) の段階的リーダーを読んで理解することができます。	学生は基本的な英語 (レベル 1) の段階的リーダーを読んで理解することができますが、理解上の誤りが多数あります。	学生は、基礎英語 (レベル 1) の有級リーダーを読んだり理解したりすることができません。
技能	3．基本的な英語で短い文章を書くことができる。	学生は、文法、単語の選択、スペル、句読点、またはレイアウトの誤りがほとんど、またはまったくない状態で、基本的な英語で短い文章を書くことができます。	学生は、文法、単語の選択、スペル、句読点、またはレイアウトに多少の間違いがある場合でも、基本的な英語で短い文章を書くことができます。	学生は基本的な英語で短い文章を書くことができますが、文法、単語の選択、スペル、句読点、またはレイアウトにいくつかの間違いが含まれています。	学生は基本的な英語で短い文章を書くことができますが、文法、単語の選択、スペル、句読点、またはレイアウトに多数の間違いが含まれています。	この学生は基礎的な英語で一貫した短い文章を書くことができません。
技能	4．専門的ではない身近なトピックについて、基本的な英語で短いプレゼンテーションを行うことができます。	プレゼンテーションはプロフェッショナルで、よく準備され、台本を読まなくても実践されています。	プレゼンテーションは非常に優れており、よく練習されており、台本はほとんど使用されません。	プレゼンテーションは適切ですが、十分な練習はなく、書かれたスクリプトへの参照がいくつかあります。	プレゼンテーションは準備されていますが、書かれた台本を読むことによってのみ可能です。	学生は、身近な非専門的なトピックについて、基礎的な英語で短いプレゼンテーションを行うことさえできません。
態度	1．コースの目標を達成するために、レッスン中およびレッスン後も努力します。	コースのすべての目標を達成するために、レッスン内外で一貫した努力を続けます。	コースのほとんどの期間、レッスン内外で、コースのすべての目標を達成するために努力します。	コースの一部の目標を達成するために、レッスン内および/またはレッスンを超えて、コースの一部で行われた努力。	コース目標の一部を達成するために必要な最小限の努力のみを行います。	コースの目標を達成するためにほとんど、またはまったく努力しません。
態度	2．コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を持つこと。	コース全体を通じて、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して一貫して前向きな姿勢を持っています。	コースのほとんどの期間において、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの一部では、コースの目標、内容、活動、他の学生に対して前向きな態度を示します。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して積極的な態度を示している証拠はほとんどありません。	コースの目標、内容、活動、他の学生に対して否定的な態度を公然と示します。
態度	3．レッスン中はスタッフや他の学生に対して適切かつ敬意を持って行動すること。	人の行動は常に適切であり、スタッフと学生に対して敬意を持っています。	ほとんどの場合、人の行動は適切であり、スタッフや学生に対して敬意を持っています。	場合によっては、職員や学生に対して適切かつ敬意を持った行動が行われます。	職員や学生に対する態度は適切でも敬意を払うものでもなく、中立的です。	職員や学生に対する態度が不適切であったり、無礼な場合があります。

科目名	日本語表現			授業番号	HA206	サブタイトル	(音声言語と文章表現)		
教員	太田 憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，「文章表現」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	身の周りにある様々な日本語表現 「身の周りにある日本語表現を探したり分類したりすることを通して、日本語表現に対して関心をもつ」	
第2回	乳幼児の日本語獲得（１） 「満１歳頃までに行われる「クーイング」「視線」「指さし」などの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」	
第3回	乳幼児の日本語獲得（２） 「意味を伴う音声による表現の獲得に向けて、その過程や特徴等について理解する。」	
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ（１） 「絵本を取り上げ、乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」	
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ（２） 「読み聞かせの場面を取り上げ、「絵本モンタージュ」の仕組みや「母親の語り掛け」の働きについて理解する。」	
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し、「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」	
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し、読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」	
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し、作者の想を表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」	
第9回	身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 「身の周りにある広告の表現を分析し、読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第10回	身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 「身の周りにある「取り扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し、読者を説得しようとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」	
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し、読者にイメージをもたらす文学的表現の工夫を理解する。」	
第13回	言葉を味わう詩的表現 詩を読み味わい、「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」	
第14回	読者の「予測」を利用した読み物（１） 怪談の表現や仕掛けを分析し、「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」	
第15回	読者の予測を利用した読み物（２） ショート・ショート等の表現や仕掛けを分析し、「予測→タメ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」	
授業計画 備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，話し合い活動への参加を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し、学習の深まりを確認できるようにする。
小テスト	50	学習内容のまとまりごとにその定着度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配付資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	1．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。 2．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭、中学校教諭、教育委員会主任指導主事、岐阜大学教育学部附属中学校文部教官
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	絵本，物語や説明的文章等の表現分析

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文章のジャンルに合せて、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、多様な視点から日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を見つけることはできるが、そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を見つけることが難しい。
知識・理解	2．様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
思考・問題解決能力	1．日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している	・日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に関心をもって追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における様々な特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することが難しい。
技能	1．文章のジャンルに合せて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえ、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけること不十分である。

科目名	心理学			授業番号	HA207	サブタイトル	(心を科学的に理解する)		
教員	疋田 基道								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	心理学は，心について科学的に研究する学問であり，その範囲は人間の心に関わるあらゆる領域におよぶ。この授業では，心理学全般の基礎的な内容を解説し，心について科学的に理解することを目的とする。								
到達目標	・心理学の基礎的理論を理解できる。 ・心理学の基礎知識をもとに，実生活における自他の心について考えを深める。 ・本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	心理学とは何か 心理学の歴史と研究法について学ぶ	
第2回	感覚と知覚 人間の感覚・知覚のしくみ・働きについて学ぶ	
第3回	学習 学習とは何かについて学ぶ	
第4回	記憶 記憶の仕組みについて学ぶ	
第5回	思考 思考と問題解決、推論について学ぶ	
第6回	言語 言語の習得と言語の理解について学ぶ	
第7回	動機づけと情動 動機付けとは何か、情動とは何かについて学ぶ	
第8回	発達（1） 胎児期・乳幼児期・児童期の発達について学ぶ	
第9回	発達（2） 青年期・成人期・老年期の発達について学ぶ	
第10回	性格 性格について学ぶ	
第11回	自己と人間関係 自己や人間関係の理論について学ぶ	
第12回	人間と社会 社会の中の心について学ぶ	
第13回	心の健康 心の健康と発達支援について学ぶ	
第14回	心理療法を学ぶ 心理療法の理論について学ぶ	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する
レポート		
小テスト	70	授業内容の理解度を評価する。小スト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	・配布資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
心理学（新版）	無藤 隆・森 敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治共著	有斐閣	978-4-641-05386-1	4200円＋税
参考書：自由記載				
その他				
備考	２年前期に総合生活学セミナーの受講を希望する場合は，本科目を履修し，心理学の基礎を学習することを（必須ではないが）推奨する。			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	心理学の基礎的な内容について、これまでの臨床経験（20年）を通し、人のこころについての実践的な知識や対処法について伝えることができ、実生活で活かせる心理学の知識や、自他の心について理解する力を習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．心理学の基礎的理論を理解できる。	心理学はこころについて科学的に研究する学問であることを理解し、知覚や感覚、学習、発達、臨床など心理学が扱う様々な領域について基礎的理論を習得し、説明することができる。	心理学はこころについて科学的に研究する学問であることを理解し、身近な分野の心理学の基礎知識を習得している。	心理学の基礎的な理論や概念を理解できる。	心理学の基礎的な理論を理解しているが、特定の領域に限られる。	心理学の基礎的理論を理解できていない。
思考・問題解決能力	１．心理学の基礎知識をもとに，実生活における自他の心について考えることができる。	心理学の基礎知識をもとに，実生活における自他の心について考え理解することができ、自己理解を深めるとともに、自他の心理的な課題に対して対応策を考える力がある。	心理学の基礎知識をもとに，実生活における自他の心について考えることができ、自己理解を深める力がある。	心理学の基礎知識をもとに，自他の心について考えることができる力がある。	心理学の基礎知識をもとに，自他の心について考えることができるが、考えられる視野が限られる。	心理学の基礎知識をもとに，自他の心について考えることができない。

科目名	社会保障論			授業番号	HA208	サブタイトル	介護福祉士養成の必修教科であり、社会保障制度を概観する。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	社会保障の基礎知識，年金，医療，介護，雇用保険，労災保険等の基礎知識について理解する。 また，社会保障の概念，社会保障の沿革，年金，医療，介護，雇用，労災の社会保険の基本を学ぶ。								
到達目標	福祉現場で役に立つ社会保障の制度，サービスの知識等を修得し，説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会保障のポイントを抑える。 社会保障とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第2回	少子高齢化の現状と課題を抑える。 わが国の少子高齢化社会の現状と課題について学ぶ。	
第3回	西欧の社会保障の沿革を抑える。 イギリスの社会福祉の沿革について学ぶ。	
第4回	わが国の社会保障の沿革のポイントを抑える。 わが国の社会福祉の沿革を学ぶ。	
第5回	公的年金の基礎を抑える。 公的年金制度の動向とサービスについて学ぶ。	
第6回	公的年金の課題のポイントを抑える。 公的年金制度の課題について学ぶ。	
第7回	医療保険の基礎を抑える。 医療保険の動向とサービスについて学ぶ。	
第8回	医療保険の課題のポイントを抑える。 医療保険の課題について学ぶ。	
第9回	介護実践に関する諸制度のポイントを抑える。 介護保険制度の動向とサービスについて学ぶ。	
第10回	介護保険の課題のポイントを抑える。 介護保険制度の課題について学ぶ。	
第11回	雇用保険の基礎のポイントを抑える。 雇用保険制度の制度、サービスについて学ぶ。	
第12回	労災保険の基礎のポイントを抑える。 労災保険の制度、サービスについて学ぶ。	
第13回	民間保険の基礎のポイントを抑える。 民間保険のサービス内容について学ぶ。	
第14回	公的扶助の基礎のポイントを抑える。 公的扶助の制度、サービスについて学ぶ。	
第15回	社会保障の展望のポイントを抑える。 社会保障のこれからと展望について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，発表，グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートについて評価する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループワークで授業を展開します。 ・予習と授業中の積極的発言を求めます。 ・自分で考えることをベースに授業に参加してください。 ・介護福祉士の国家試験対策を講じます。
授業外学修	・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。 ・復習として，授業のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 短期大学の設置基準では１単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業買い学修が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会保障論	松井圭三他	大学図書出版	978-4-907166-25-0	2800円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会福祉概論	小田兼三他	勁草書房	978-4-326-70095-0	2800円＋税
参考書：自由記載	随時紹介します。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者保健福祉分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会保障制度を理解する。	社会保障制度をすべて理解できる。	社会保障制度を概ね理解できる。	社会保障制度を理解できる。	社会保障制度をほとんど理解できない。	社会保障制度を理解できない。
思考・問題解決能力	１．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。

科目名	社会学			授業番号	HA209	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。 理解の状況の確認を行う。 提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	2．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	3．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	1．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	芸術			授業番号	HA210	サブタイトル	(アートに親しむ)		
教員	扇越　亜矢								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	アートカードなどを使った鑑賞ゲームや，スライドと対話を用いた作品鑑賞を行うほか，身近な環境の中に美を見出す活動や，作品制作と鑑賞活動を行う。								
到達目標	第一に，芸術作品の鑑賞や制作を通じ，時代，文化，社会情勢や市井の人々の暮らし，素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像すること。第二に，自分自身と他者のものの見方や考え方を意識すること。第三に，そこから心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えること。 この授業はディプロマ・ポリシーに掲げられた学士力のうち，(知識・理解)(思考・問題解決能力)の修得に貢献する。								
授業計画　備考	保育学科の学生が履修した場合，学外実習期間中は休講とし，別日に補講を行う。 芸術と結びつくものとして宗教（キリスト教・仏教）を取り上げる。 Visual thinking（VT）による鑑賞体験を繰り返し行う。そうすることにより，対象を見て，考え，話し，聞く行為を身に付け，アートという正解のない問いに興味を持って向き合う姿勢を養う。								

回	概要	担当
第1回	芸術（アート）について考える ワードマップ「アートといえば」「アートに必要なものは？」を行い，芸術（アート）について考える。 また，Visual thinking（VT）による鑑賞体験を行い，自他の見方や考え方や視点の違いに気付いたり，アートを見ることに新たな価値を見出す。 レポート課題：「あなたにとってアートとは・社会にとってアートとは・アートに必要なものは？」 このレポートは第15回目に続きを書く。	
第2回	アートカードゲーム「今日の気分は？」／Visual thinking（VT）による鑑賞体験 国立美術館で作成されたアートカードを用いてゲームを行うほか，考え，話し，聞く方法による鑑賞を通じて、アートに親しむ。 Visual thinking（VT）による鑑賞体験では，人物画や人物の作品を通して人は何を感じたり考えたりするか，自分たちの鑑賞中の対話を通して考える。	
第3回	アートゲーム：感想からたどる大原美術館の宝／芸術作品の価値を考える 保育学科2年生が鑑賞して記した感想を紹介し，どの作品かを当てるゲームを行う。 また，「芸術作品の価値」というタイトルで思いつく言葉を黒板に書きだし，その言葉に基づきながら芸術作品の価値ついて考える。	
第4回	アートカードゲーム（○×クイズ）／VT体験：太古からの芸術真似して学ぶ古代のアート１　縄文の技術体験 アートカードゲーム（○×クイズ）では代表者を決め、その代表者が選んだ1枚を複数の作品から探るアートゲームをする。その探り方は3つの質問で行う。但し，質問は○または×で答えられるようにする。このようなルールに基づくことにより，対象をよく見ることを促されるとともに思考と言語表現の吟味を求められる。縄文の技術体験では，可能であれば精巧なレプリカを用意し，それを触ったり見たりしながら太古の人々の模様作りに挑戦し，土偶や土器づくりを行う。	
第5回	真似して学ぶ古代のアート２　縄文土器・土偶づくりと鑑賞 第4回目の続きを行い，出来上がった縄文土器・土偶の鑑賞を行う。	
第6回	アートカードゲーム「アートカードで物語を作る」／芸術作品の作り手について考える アートカードゲームではグループに分かれ，アートカードを3～4枚使い，その絵にあった言葉や短文を考え、さらにカードの順序性と言葉のつながりを意識してストーリー性も加味した物語を作り，発表する。また，芸術作品のニーズの点から作品の芸術の作り手について考える。	
第7回	アートカードゲーム「読み札かるた」／アートと結びつくもの　宗教編 アートカードゲーム「読み札かるた」では、自分なりの視点で作品解釈した結果をかるたの読み札として書きだす。それをお互いに当てることにより，言葉にされた感想から絵を探す楽しさや，自分にはない作品解釈や視点に気付く。アートと結びつくものでは建築に見られる宗教や地域性に焦点化してアートについて考える。	
第8回	アートの役割　宗教編（布教・信仰） 布教に果たすアートの役割，信仰におけるアートの役割について作品を見ながら考える。	
第9回	アートの役割　権力者編 王侯貴族・商人 の権力・権威・富の象徴（映え）として権力者に用いられるアート作品に費え知るとともに，それを生み出す アーティストのお金事情を知る。	
第10回	アートとアーティストを変えるもの―素材・技術・ニーズ DVD　世界・美の旅プルシャンブルーを視聴し，アート作品に不可欠な絵の具や市自体，素材による製作技法や描法，構図について，その歴史的変遷について考える。	
第11回	雑誌・紙屑からアートへの昇格―浮世絵 海を渡る浮世絵が西洋に衝撃を与えた状況を知り，刷りの魅力・構図の魅力について知る。	
第12回	身近な環境に美を見出す 建築廃材などを用いて自分なりの視点で環境を捉えて感性を発揮する。	
第13回	身近な環境を使ったフレームづくり 自分なりの感性や視点で素材の特徴を生かして制作する	
第14回	アートカードゲーム「作品のライブ中継」 他者による作品説明から想像してあらたに作品解釈をする。	
第15回	芸術と関わる―モアレ作品の体験／課題レポート：あなたにとってアートとは・社会にとってアートとは・アートに必要なものは？ 図書館に収蔵されている現代アート作品としての書籍を用いて，自分で生み出したモアレ作品を鑑賞する。 第1回目に書いたレポートの内容に対するセルフアンサーを行い，その内容を紹介しあう。また教師からの講評を聞く。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	毎回の振り返りの記録や発言・授業態度により評価する。記録については新たな知見の有無や，自分の考えが述べられていること。発言の評価基準は発言回数とともに，発言内容に他者の意見を反映したり，知識や記憶，経験に基づいた意見が述べられたりしている点を加点評価する。なお，授業内容と無関係な行為をしていた場合には減点評価する。
レポート	30	課題意識を持ち，具体的に述べていることを評価する。評価基準は到達目標や受講の心得に基づくほか，初回レポートと15回目レポートを比較して，芸術に対する考えの広がりや深まり等の変容があることを評価する。レポートのフィードバックについては提出後の授業中に総評として行う。
その他	30	課題趣旨の理解がみられることのほか，課題によっては素材や色，構成について吟味し丁寧に作成されていること，独創性などを作品の評価基準とする。返却する作品には各種確認印やコメントを添える等のフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中，作品を見て思ったことを主体的・積極的に発言するとともに，他者の発言に耳を傾け，自分の鑑賞や思考の手がかりとすること。製作に必要なものは自分で用意すること。 授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物に入れておくこと。ただし，情報検索や記録等を目的として使用を認める場合がある。
授業外学修	自分が興味を持った作家や作品，その歴史的・社会的背景について調べるなどして，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立美術館における対話型鑑賞体験ツアーのボランティア（12年）保育者や小学校教諭を対象にした対話型鑑賞を用いた美術鑑賞の研修講師（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	美術鑑賞に関するボランティア（12年）や研修講師（3年）の経験を生かして対話型鑑賞という方法による芸術作品の鑑賞を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	振り返りの記録や発言における新たな知見や，自分の考えの有無。	毎回の振り返りの記録や発言において、新たな知見や、自分の考えをが数多く示すことができる。	毎回の振り返りの記録や発言において、新たな知見や、自分の考えを示すことができる。	15回の授業のうち半分程度は、振り返りの記録や発言において、新たな知見や、自分の考えを示すことができる。	15回の授業のうち1／３程度は、振り返りの記録や発言において、新たな知見や、自分の考えを示すことができる。	振り返りの記録や発言において、新たな知見も、自分の考えを示すこともできない。
思考・問題解決能力	１．振り返りの記録や発言における芸術とさまざまな物事とのかかわりに関する内容の多さ	毎回の授業で芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像できる。	15回の授業のうち半分程度は、芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像できる。	15回の授業のうち1／3程度は、芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像できる。	芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを多少は想像できる。	芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりをほとんど想像できない。
思考・問題解決能力	２．他者の考えを意識しながら考える個人や社会における芸術の意味	他者の見方や考え方を受容し、心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を多様かつ具体的に考えて、論じたり記述したりすることができる。	他者の見方や考え方を受容し、心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を具体的に考えて、論じたり記述したりすることができる。	他者の見方や考え方を意識しながら、心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えて、論じたり記述したりすることができる。	他者の見方や考え方を意識しながら、暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えて、論じたり記述したりすることができる。	他者の見方や考え方を意識することもなく、暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えて、論じたり記述したりすることができない。

科目名	人間関係とコミュニケーション			授業番号	HA211	サブタイトル	(良好な人間関係を築くために)		
教員	疋田 基道								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	良好な人間関係を構築し，豊かなコミュニケーションをとることは，質の高い仕事やパフォーマンスを行うために不可欠である。この授業では，コミュニケーションの基礎となる自己理解や対人援助の技術，組織やチームにおけるコミュニケーションについて学び，社会人として良好な人間関係を築くための幅広い知識を身につけることを目的とする。								
到達目標	・コミュニケーションにおける自己理解の重要性や，自己理解の枠組みを説明できる ・対人援助技術に関する基礎的知識を身に着けている ・組織やチームにおけるコミュニケーションの特徴を説明できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	人間関係とコミュニケーションの基本 人間関係とコミュニケーションの基本について理解し，学習内容を概観する	
第2回	良好な人間関係を築くために（1） 良好な人間関係を築くための共感や同期運動について学びを深める	
第3回	良好な人間関係を築くために（2） 良好な人間関係を築くための怒りや攻撃性の対処について学びを深める	
第4回	良好な人間関係を築くために（3） 自己理解を深めるためのワークに取り組み，学びを深める	
第5回	対人援助の技術（1） 対人援助職に求められる援助技法の基本について学ぶ	
第6回	対人援助の技術（2） 対人援助の技法を身に着けるためのワークに取り組み，学びを深める	
第7回	対人援助の技術（3） 対人援助の技法を身に着けるためのワークに取り組み，学びを深める	
第8回	対人援助の技術（4） 対人援助の技法を身に着けるためのワークに取り組み，学びを深める	
第9回	組織で良好な人間関係を築くために（1） 組織の人間関係において重要なワークモチベーションの重要性を学ぶ	
第10回	組織で良好な人間関係を築くために（2） 自身のワークモチベーションへの理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第11回	組織で良好な人間関係を築くために（3） 組織の人間関係において重要なリーダーシップや役割分担の重要性を学ぶ	
第12回	組織で良好な人間関係を築くために（4） 難しい場面を組織で乗り切るために必要なことについて学びを深める	
第13回	職場のストレスとメンタルヘルス（1） 職場の人間関係で生じやすいストレスとメンタルヘルス維持の工夫について学ぶ	
第14回	職場のストレスとメンタルヘルス（2） 職場の人間関係で生じやすいストレスとメンタルヘルス維持の工夫について学ぶ	
第15回	組織におけるコミュニケーション・総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	44	意欲的な受講態度によって評価する
レポート		
小テスト	56	授業内容の理解度を評価する。小スト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・授業内で行うワークやディスカッションに積極的に参加すること ・授業で学ぶコミュニケーションの知識を自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・配布資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
キャリア開発の産業・組織心理学ワークブック〔第2版〕	石橋里美	ナカニシヤ出版	978-4779510557	2750円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
職場に活かす心理学	今城志保	東洋経済新報社	978-4-492-53268-7	2000＋税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	コミュニケーションの知識や力が良好な人間関係を築くために必要であることを、臨床現場での経験（20年）を通し、対人援助の技術、組織での人間関係等について具体的に紹介し教えることができ、実践に即したコミュニケーション力を習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解できている。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解し、自分の性格や感情等々自己理解を深めることができる。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法が分かる。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解できる。	コミュニケーションの重要性は理解できるが、自己理解が不十分である。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性が理解できない。
知識・理解	２．対人援助技術に関する基礎的知識や組織におけるコミュニケーションについて理解できている。	対人援助技術に関する基礎的知識や組織におけるコミュニケーションについて様々な場面に応じた理解ができている。	対人援助技術に関する基礎的知識や組織におけるコミュニケーションについて理解できている。	対人援助場面や組織のコミュニケーションについて理解できている。	対人援助場面のコミュニケーションについて理解できている。	対人援助場面や組織のコミュニケーションについて理解できていない。
思考・問題解決能力	１．社会人として良好な人間関係を築くための幅広い知識を身につけ、状況に応じた対応を考える力がある。	社会人として良好な人間関係を築くための幅広い知識を身につけ、想定された状況に応じた対応を考える力がある。	社会人として良好な人間関係を築くための知識を身につけ、対応策を考える力がある。	社会人として良好な人間関係を築くための方策について考えることができる。	良好な人間関係を築くため方策について考えることができるが、社会人への応用力が乏しい。	良好な人間関係を築くため方法について考えることができない。

科目名	自然科学概論			授業番号	HA212	サブタイトル	体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から，自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて，自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また，科学工作も行い，科学のおもしろさと不思議さを実感する。								
到達目標	私たちの身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識，科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	授業の中では，様々な測定装置，電気関係の測定機器や実験器具などを用いて，私たちの身のまわりの環境，自然科学について実測，体感しながら学びを深めていく。								

回	概要	担当
第1回	中国学園の庭で「幸せ」を探そう!? 四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさを体験し，自然の不思議さに気づくことの大切さを実感する。	
第2回	科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ 空き缶を斜めに立てる科学マジックを通して，力学の法則を理解する。	
第3回	電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 はんだ付けをしながら，電子オルゴールを製作し，半導体の構造・性質について理解する。	
第4回	高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック) 音を電気信号に変換するオシロスコープという測定器を使い，音を「見える化」しながら「音の3要素」の性質について理解を深める。	
第5回	スライムで遊ぼう!! 「光るスライム」づくりを通して，物質の分子構造について理解する。	
第6回	君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！ 高電圧の実験を通して，電気の性質を理解する。また，高電圧を使うイオンエンジンの模型を用いて飛行実験を行い，イオンエンジンの原理について理解する。	
第7回	地球温暖化のしくみ 二酸化炭素により，地表温度が上昇するしくみが分かる実験装置を活用して，地球温暖化のしくみを理解する。	
第8回	楽しいフィールドワーク 吉備の中山をグループで協力しながら歩き，自然に生息する動植物について理解を深める。	
第9回	流しそうめんの加速度を測定しよう！ 実際に流しそうめんをしながら，運動の法則の理解を深める。	
第10回	糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習 べっこう飴づくりを通して物質の分子構造について学ぶ。	
第11回	天然色素と酸アルカリの実験と実習 ムラサキキャベツから作る液体の色の反応から酸性・アルカリ性の水溶液の性質を理解する。また，最後に緑色の焼きそばを作る。	
第12回	光に関する基礎講座ならびに実験と実習 偏光フィルターを使った光の回折実験やレンズを使った光学実験を行いながら，光の性質について理解を深める。	
第13回	楽しい数学Ⅰ SPIの数的推理等就活に活用できる数学の解法について理解する。	
第14回	楽しい数学Ⅱ 速度，食塩水の濃度，確率など就活に活用できる数学の解法について理解する。	
第15回	まとめ 授業全体の振り返りと自然科学全般のトピックスについて解説する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，実験・実習・討議等への参加度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	野外学習等授業によっては，レポートを提出し，その内容について評価する。提出されたレポートについてはコメントをつけて返却する。
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.Classroomで授業に関する情報提供を行うので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について十分に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について概ね理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について普通に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解がやや不十分である。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解できていない。
態度	1.身のまわりの自然現象に関心を持ち，科学的なものの考え方ができるようになる。	身のまわりの自然現象に強い関心を持ち，自ら自然に触れたりするなど積極的に自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち，自ら自然に触れたりするなど自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち，自然のことを調べるなどして科学的な考え方を身に着けている。	身のまわりの自然現象にあまり関心がなく，科学的なものの考え方も十分にできない。	身のまわりの自然現象に全く関心がなく，科学的なものの考え方も全く身についていない。

科目名	英語B			授業番号	HA213	サブタイトル	(英語を楽しみながら学ぼう)		
教員	藤代 昇丈								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英語の4技能の力を高めると同時に身近な話題についての英語を通して理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，社会的な話題について簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。 ・英語の４技能を駆使して情報を収集し発信できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Unit1 Goals in College Life 「充実した大学生活を送るには」という内容の英文を読み理解する。 語アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第2回	Unit2 Totoro Travels to Nepal 「ネパールでの国際交流の体験」という内容の英文を読み理解する。 文アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第3回	Unit3 Sightseeing in London 「国際観光都市ロンドン」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第4回	Unit4 Sushi 「世界に誇る和食文化」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第5回	Unit5 Fashion Trends 「ファッションを考える」という内容の英文を読み理解する。 弱形と強形について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第6回	Unit6 Shodo 「書道は昔の教養科目」という内容の英文を読み理解する。 音の同化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第7回	Unit7 The Mississippi River 「アメリカ最長の河」という内容の英文を読み理解する。 無声化と有音化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第8回	Unit8 Ocean Blue 「洞窟ダイビングの人気スポット」という内容の英文を読み理解する。 連結発音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第9回	Unit9 Studying Abroad及び到達度テスト 「留学する前に考えておくべきことは」という内容の英文を読み理解する。 音のリズムについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第10回	Unit10 The Northern Lights 「カナダのオーロラ観光」という内容の英文を読み理解する。 イントネーションについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第11回	Unit11 The Sound of the Saxophone 「サキソフォンの魅力的な音色」という内容の英文を読み理解する。 紛らわしい音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第12回	Unit12 Communication Tips 「良好な人間関係を築くには」という内容の英文を読み理解する。 半母音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第13回	Unit13 Seasonal Festivals(Sekku) 「9月9日は菊のお節句」という内容の英文を読み理解する。 英語らしい響き(日本語と英語の違い)について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第14回	Unit14 Electric Cars 「環境にやさしい車」という内容の英文を読み理解する。 数字の聞き取りについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第15回	Unit15 The Amazing Brain 及び到達度テスト 「驚異的な脳の働き」という内容の英文を読み理解する。 意味のまとまりで展開を予想して聞くについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメント、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Amazing Visions of the Future -Aspects of Human Activity- 国際社会への英語の扉ーインプットからアウトプットで学ぶ四技能ー	伊関田洋之，赤塚麻里，土 井峨，梶浦眞由美，マリキ ットG.マナラング，室淳子	南雲堂	9784523178880	1900
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)・県総合教育センター(４年)・県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.よく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.様々なテーマについて知識を得ることができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，自ら調べ，英文で紹介したり，発表することができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，まとめることができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について，講義を通して関心をもって議論することができる。	テキストの英文の内容の理解にとどまり，テーマとなっている世の中の出来事について自ら知ろうとしない。	テキストの英文内容のみならず，テーマとなっている世の中の出来事について，全く関心を持たない。

科目名	法学概論			授業番号	HA214	サブタイトル	(学生のための法律)		
教員	藤原 健補 他								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	弁護士による学生のための法律の授業である。身近な問題を通じて、法によって権利・義務が発生することを理解し、法を使うことのできる社会人となってもらうために行う。授業の中で、裁判手続きを深めるために、実際に裁判を傍聴してもらう予定である（その関係で授業計画が変更することがあるが、その場合は事前に知らせるものとする）。								
到達目標	受講により、大学生の身の回りで起こる問題について、法的問題として深く考える法的思考を養成し、社会人となったときにも役立つ法的知識を修得している。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	法学の総論。法律とは何か、なぜ法律を学ぶのかについて考える。	馬場 幸三 弁護士
第2回	日常生活で発生しうるお金のトラブルを知り、日常生活の中での気をつけるべき点を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ１	谷口 怜司 弁護士
第3回	日常生活において特に身近な事象（インターネットの利用や居室の賃借等）に関する諸問題を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ２及び３	馬場 幸三 弁護士
第4回	交通事故に遭遇した場合の3つの責任（民事責任・刑事責任・行政責任）等について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ６	谷口 怜司 弁護士
第5回	旅行トラブルと就職活動でのトラブルに対する対処法について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ５，ＵＮＩＴⅡ ＳＴＡＧＥ２	山本 愛子 弁護士
第6回	働くとはなにか。アルバイトや正社員などの労働契約の成立から終了までを学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅡ ＳＴＡＧＥ１	山本 愛子 弁護士
第7回	交際相手等とのトラブルについての知識，対処法を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ４	髙瀬 鈴香 弁護士
第8回	大学・授業でのトラブルとサークルでのトラブルについて、気をつけるべき点を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅢ ＳＴＡＧＥ１及び２	福田 力希斗 弁護士
第9回	刑事裁判手続き（裁判員裁判、被害者参加を含む）の流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅣ	玉井 康太郎 弁護士
第10回	裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅣ	福田 力希斗 弁護士 玉井 康太郎 弁護士
第11回	裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅣ	福田 力希斗 弁護士 玉井 康太郎 弁護士
第12回	民事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。【裁判傍聴予備日】	福田 力希斗 弁護士
第13回	刑事裁判における検察及び弁護士の役割及びその理念、目標を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅣ	藤原 健補 弁護士
第14回	我が国の民法における家族関係の規律のなかから、親子、相続について学ぶ。	髙瀬 鈴香 弁護士
第15回	我が国の民法における家族関係の規律のなかから、夫婦（婚姻、離婚）について学ぶ。	玉井 康太郎 弁護士
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加等によって評価する。
レポート	50	レポート内容、提出期限・最低字数の厳守等によって評価する。 レポートについては、課題提出後の授業で全体的な傾向等についてコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業時の携帯電話等の使用は禁止する。
授業外学修	(1)予習として、テキストの内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにしておくこと。 (2)予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。 (3)日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。 以上(1)～(3)を、週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
学生のための法律ハンドブック	近江幸治・広中俊一郎　編著	成文堂	978-4-7923-0631-1	1800円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	弁護士(藤原健補33年),弁護士(馬場幸三15年),弁護士(谷口怜司13年),弁護士(山本愛子13年),弁護士(髙瀬鈴香3年),弁護士(福田力希斗1年),弁護士(玉井康太郎1年未満)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	法律事務所に勤務する弁護士が、実際の事例や相談内容を踏まえた講義を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	各授業のテーマに関わる法律の基本的な内容を理解している。	学習した法律に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した法律に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる	学習した法律に関する知識について、概ね述べることができる。	学習した法律に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した法律に関する知識について、理解が乏しく自分の言葉で表現することができない。
態度	授業に積極的に参加できる。	自ら発言し、疑問を解決するなど授業に積極的に臨む姿勢が見受けられる。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられる。	授業に出席し、授業内容を理解しようとしている。	授業に出席しているが、授業内容を理解しようとする態度が不十分である。	授業に出席しているが、授業内容を理解しようとする意欲が感じられない。

科目名	時事問題			授業番号	HA215	サブタイトル	(現代日本及び世界を取り巻く諸問題)		
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	日々流れるニュースの中で，地球温暖化，大気・水等の汚染，森林減少，砂漠化などの問題が多く取り上げられている。これら現代の多くの環境問題は，私たち現代の人間がその原因をつくり，最終的に私たちの生活に影響を及ぼしているものである。これら諸問題は容易に解決するものではなく，後世のために，現在の環境問題を少しでも改善していく必要性がある。また，現代においては，環境問題は一国における問題というよりも，現在においては経済のグローバル化により，地球規模での影響が問題となっている。本講義ではこれらの環境問題，現代日本と取り巻く諸問題について，最新のデータ等をもとに，その現状を説明し，改善のためにとるべき対策について受講者と共に考える。また，重要な事件などが発生した場合は，本授業計画にないものであっても講義の対象として学生の皆さんと考えてみたい。								
到達目標	様々な環境問題，日本の現状について，基礎知識を修得し，理解することができるようになること。また，環境問題・日本の抱える諸問題に関する時事ニュースについて関心を持ち，自分の考えを言えるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	環境問題とは 現在における環境問題は，単純に特定の地域だけにとどまらず，地球規模的な範囲となっていることを理解する。	
第2回	人間と環境 人類の起源から現代までの環境の変化をとらえ，人間の活動が環境に与える影響を理解する。	
第3回	地球温暖化 地球温暖化の原因と時系列的変化を学ぶ。	
第4回	温暖化と対策 地球温暖化の対策と現状について理解する。。	
第5回	原子力発電 原子力発電のメカニズムとその歴史を理解し，合わせて原子力発電と地球温暖化の関係を考える。	
第6回	空気の汚染 空気の汚染とその原因を学び，人体に及ぼす影響を考える。また，その対策を考える。	
第7回	水と汚染 川や湖沼の水の汚染とその原因を学び，その対策を考える。	
第8回	土壌と地下水の汚染 土壌と地下水の汚染の状況を学ぶ。また，土壌の役割を理解する。	
第9回	森と生物多様性 森林，特に熱帯林における生物多様性を学ぶ。	
第10回	森林減少と砂漠化 砂漠化は森林減少と同時に語られることが多い。本講義では，森林減少と日本の木材消費の関係を学び，生物多様性を日本の関係を理解する。	
第11回	ゴミと資源 世界中で破棄されているゴミが地球に及ぼす影響を理解し，またゴミの減量とリサイクルについて考える。	
第12回	食品と安全性 日本の食料自給率と食料資源の状況を学ぶ。また，食品添加物と人体に及ぼす影響についても考察する。	
第13回	アレルギーとその原因 アレルギー患者の増加とアレルゲンについて学び，その対策を考える。	
第14回	紛争と戦争 世界中で発生している紛争・戦争は環境破壊の原因である。本講義では，紛争等による環境への影響を理解する。	
第15回	地球にやさしい社会 環境問題に対する日本での法的・行政での取り組みの概要と私たちの活動について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度，予習，復習の状態によって評価する。
レポート	20	単元毎に小レポートを実施し理解度を評価する。
小テスト		
定期試験	65	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	項目ごとの評価の割合は変更することがある。
受講の心得	1．日頃より環境問題，政治・経済に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。 2．授業態度は，礼儀正しい態度で臨むこと。
授業外学修	1．予習として，授業ごとに該当する項目を熟読し，疑問点を明らかにしておく。 2．復習として，授業で学んだことを教科書を見て再度学修しておく。 3．授業で紹介した事例を新聞・インターネット等で確認する。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
地球環境問題がよくわかる本 改訂版	浦野絋平・浦野真弥	オーム社	978-4-274-23001-1	1800
使用テキスト：自由記載	必要に応じ，授業に際しプリントを配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
地球環境の教科書	九里徳泰，左巻健男，平山明彦	東京書籍	9784487808311	2100
参考書：自由記載	必要の都度，随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日本における環境問題を理解できる	日本の環境問題の対策を十分理解できる	日本の環境問題の因果関係を理解できる	日本の環境問題の基本的なことを理解できる	日本の環境問題の基本的なことを十分に理解できでいない	日本の環境問題の基本的なことを理解できでいない
知識・理解	2．世界における環境問題を理解できる	世界の環境問題の対策を十分理解できる	世界の環境問題の因果関係を理解できる	世界の環境問題の基本的なことを理解できる	世界の環境問題の基本的なことを十分に理解できでいない	世界の環境問題の基本的なことを理解できでいない
思考・問題解決能力	1．日本の環境対策を評価できる	日本の評価することができる	日本の環境問題に関するニュース等を十分理解できる	日本の環境問題に関するニュース等を理解できる	日本の環境問題に関するニュース等を十分に理解できていない	日本の環境問題に関するニュース等を理解できていない
思考・問題解決能力	2．世界の環境対策を評価できる	世界の評価することができる	世界の環境問題に関するニュース等を十分理解できる	世界の環境問題に関するニュース等を理解できる	世界の環境問題に関するニュース等を十分に理解できていない	世界の環境問題に関するニュース等を理解できていない
態度	1．授業に積極的に参加できる	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	生活とデザイン			授業番号	HD101	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	デザインの歴史や背景を知り、デザインの概念を学ぶ。その上で現代社会で見られる空間，物，人，生活などの視点から切り取り，事例を紹介しながら解説していく。それによってデザインの機能や影響，可能性についてについて学ぶ。								
到達目標	デザインに関する基礎的な知識を修得し，デザインの生活での役割を学び,「いいデザイン」とは何かを自身で考え，提案できるようになる。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	デザインとは何か？：社会の中のデザインの役割について	
第2回	産業革命以降の近代デザインから現代：デザインという概念が生まれた背景から発展までを学ぶ	
第3回	２０世紀のモダンデザイン	
第4回	日本のデザイン	
第5回	空間を観察する：ランドスケープ・ストリート・建築・インテリア	
第6回	空間を観察する：ランドスケープ・ストリート・建築・インテリア・店舗	
第7回	物を観察する：プロダクトデザイン	
第8回	メッセージを観察する：エディトリアル・グラフィック・パッケージ	
第9回	メッセージを観察する：エディトリアル・グラフィック・パッケージ	
第10回	人を観察する：ファッション・メイク・ヘア	
第11回	人を観察する：ファッション・メイク・ヘア	
第12回	考えを観察する：デザイン思考	
第13回	デザインを構成する要素：色・素材・形態	
第14回	生活を観察する：社会問題・福祉・環境・イベント	
第15回	今後のデザインの立ち位置について	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。
レポート	40	最終的な理解度を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	授業内で行う課題の提出で，各授業回の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	デザインに関する基本的な知識を学ぶために，身のまわりのあらゆるデザインについて，よく観察しておくこと。
授業外学修	1.講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容のデザインについて調べることやリサーチを行ったりして事前学修を毎回行うこと。（２時間以上） 2.事後学修として，講義時に配布された「レジュメ」を読み講義で学んだ内容を整理し理解するために復習を毎回行うこと。（２時間以上）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ファッションブランドを主宰し，衣服のデザイン・制作を担当。グラフィックデザインやファッションショーなどのイベント企画・運営などの経験も有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	国内繊維工場との製品モデルデザイン，グラフィックデザインなどの実務経験から，デザインに関する基礎的な知識をわかりやすく解説した講義を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．デザインに関する基礎的な知識を修得している。	授業以上に自身で理解を深め、デザインに関する基礎知識を身に付け、応用できる。	授業以上に自身で理解を深め、デザインに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し、デザインに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが、基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
知識・理解	２．デザインの生活での役割を理解している。	授業以上に自身で理解を深め、デザインの生活での役割を理解し、自身で咀嚼し身の回りの生活へ応用できる。	デザインの生活での役割を理解し、自身で咀嚼し生活へ応用できる。	デザインの生活での役割を理解し、自身で咀嚼できる。	デザインの生活での役割を理解しているが、応用出来ない。	デザインの生活での役割を理解し切れていない。
思考・問題解決能力	１．「いいデザイン」とは何かを自身で考え、提案できる。	「いいデザイン」を俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、新規性のある独自の視点を持った提案ができている。	「いいデザイン」を俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、独自の視点を持った提案ができている。	「いいデザイン」を俯瞰して捉え、独自の視点を持った提案ができている。	独自の視点を持った提案ができているが新規性に欠ける。	テーマを理解せず、独自の提案ができていない。
態度	１．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	色彩学			授業番号	HD102	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	日常生活と密接な関わりを持つ「色」を知覚や心理などさまざまな視点から捉え,その意味や役割を学ぶ。色を効果的に用いることで，プレゼンテーションの書類の見やすさはもちろんのこと，生活の中での美しさや快適さなどを演出することもできる。この講義では色彩について、色彩科学の視点から基礎理論を学ぶ。また、ファッションとインテリア分野への応用を念頭に、カラーコーディネート演習を通じて配色について実習を行う。								
到達目標	1.生活の中での色彩感覚を高めることができる。 2.色彩に関する基礎的な知識を修得しその方法を活用できる。 3.色彩検定協会（AFT）が主催する色彩検定3級の内容に準拠しており，資格取得に向けた目標を持つことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	色とは：目の構造と色覚	
第2回	色の知覚：自然光と人口光、自然の色	
第3回	色の知覚：目と脳の働きと色覚	
第4回	表色系：PCCSとトーン	
第5回	表色系：マンセル表色系	
第6回	色彩心理：心理的効果・色の視覚効果・色の知覚的効果	
第7回	色彩調和①　配色の基礎・色相を利用した配色・トーンを利用した配色	
第8回	色彩調和②　配色の基本的技法・色彩効果・色彩と構成	
第9回	色名・慣用色名	
第10回	色彩と生活：ファッションと色彩	
第11回	色彩と生活：インテリアと色彩	
第12回	色彩とユニバーサルデザイン	
第13回	色彩文化：日本の色と世界の色	
第14回	ファッションとパーソナルカラー	
第15回	まとめとテスト	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	20	最終的理解度を評価する。
定期試験	40	筆記試験では，その得点を評価対象とする。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的にAFT主催の色彩検定3級にチャレンジする。受験者は「AFT色彩検定公式テキスト3級編」（AFT対策テキスト改訂版編集委員会）や問題集を別途購入すること。
授業外学修	1.事前学修は，日常生活の中で目にする様々な色彩について関心を持ち，テキストを一読し，分からない用語等は調べて毎回，予習しておくこと。（２時間以上） 2.事後学修は，毎回，テキストでのワークシートや講義で行った演習などの色彩理論や課題などを振り返り，理解して覚える。また，講義時間内に指定された箇所までのワークシートが仕上がらない場合は，次回講義時までに指定された箇所まで完成させておくこと。（２時間以上）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
色彩検定 公式テキスト 3級編		内閣府認定 公益社団法人 色彩検定協会	4909928030	978-4909928030

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	国内繊維工場と製品デザインを担当した経験により授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．色彩に関する基礎的な知識を修得しその方法を活用できる。	授業以上に自身で理解を深め、デザインに関する基礎知識を身に付け、応用できる。	授業以上に自身で理解を深め、デザインに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し、デザインに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが、基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
知識・理解	２．色をさまざまな視点から捉え、その意味や役割を学ぶ。	学んだ知識を十分に理解し、色を知覚や心理などさまざまな視点から捉え、その意味や役割を自身の観点で考え活用することが出来る。	学んだ知識を十分に理解し、色を知覚や心理などさまざまな視点から捉え、その意味や役割を自身の観点で考えることが出来る。	学んだ知識を十分に理解し、その意味や役割を自身の観点で考えることが出来る。	学んだ知識を理解しているが、自身の観点で捉えることは難しい。	学んだ知識を理解しているが、自身の観点で考えることに欠ける。
思考・問題解決能力	１．色を効果的に用い、生活の中での美しさや快適さなどを演出することができる。	学んだ内容を理解し、自身の生活の中で色を効果的に用い、美しさや快適さなどを演出することができる。自身の生活以外にも生かせる場面を探ることもできる。	学んだ内容を理解し、自身の生活の中で色を効果的に用い、美しさや快適さなどを演出することができる。	学んだ内容を理解し、自身の生活の中で色を効果的に用い演出することができる。	学んだ内容を理解しているが、自身の生活に生かし切れない。	学んだ内容を理解し切れていない。
態度	１．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	生活デザイン実習Ａ（135分）			授業番号	HD201	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	「テーマに沿ってデザイン的なアプローチを習得する」「自分のオリジナルデザインを現実のものとする」 与えられたテーマに沿って,独自の視点を持って構想し,自身の手で制作する。 構想、作品どちらも魅力的であるからこそ、人々の心は惹きつける。 コンセプトを構想し、メイングラフィック作成・ロゴマーク作成・リメイクを通して，オリジナルＴシャツを作成する。 適切にテーマを理解し,独自性のあるイメージを構想し,それらを形として成立させること，計画的な制作力の向上を目指す。								
到達目標	テーマに沿って適切に理解し、構想から作品までのプロセスを通し,デザインの思考法やものづくりの手順を身につけ，形による表現の可能性を修得する。なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Tシャツデザインについて：Tシャツの歴史、メッセージ性、デザインを過去作品より学ぶ	
第2回	ロゴマークについて：歴史・役割・トレンドをブランドの実例を元に学ぶ	
第3回	課題説明・コンセプト作り：用意したファッションに関わる人物の格言を一つ選び、そこからイメージを膨らませ、コンセプトを構想する	
第4回	メイングラフィックをコンピューターで作成	
第5回	ロゴマークをコンピューターで作成	
第6回	メイングラフィック・ロゴマーク作成作業	
第7回	中間発表	
第8回	転写プリント作業：自身でデザインしたプリントロゴマークを印刷し、アイロンで転写	
第9回	Tシャツアレンジについて：刺繍・カッティング・パッチワーク	
第10回	Tシャツアレンジ作業	
第11回	プロモーションについて	
第12回	プロモーション①：広告作成：完成した作品を写真撮影し、コンピューターにてポスター広告作成	
第13回	プロモーション②：広告作成：完成した作品を写真撮影し、コンピューターにてポスター広告作成	
第14回	発表資料・仕上げ作業	
第15回	発表・相互評価	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	積極的に実習やプレゼンテーションに臨んでいるか。
作品	40	テーマに沿った構想を魅力的なデザインに仕上げ、実際に再現されているか。
レポート	15	課題内容を理解し、的確に調査を進められているか。
発表	15	内容を適切に、魅力的に伝えられているか。時間通りに発表できているか。

評価の方法：自由記載	・授業への取り組みの姿勢／態度（30%）は出席数,授業態度で評価する。 ・制作物（40%）制作物については,「創造性」「独自性」「論理性」「創造性」「完成度」で評価する。 ・レポート（15%）については,課題に沿って的確に理解し調査を進められているか、独自の視点が入っているか、正確性で評価する。 ・発表（15%）については,コンセプト・作品・制作過程を魅力的且つ相手に伝わりやすく表現できているか,発表資料の適切性などから評価する。
受講の心得	日常のあらゆるデザインについて興味を示し、作り手の視点を持つこと。
授業外学修	配布した資料を一読して，事前学修として知識を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	国内繊維工場での製品デザインとグラフィックデザインの経験をもとに授業を実施する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．テーマを理解し正しく提案できている。	テーマを十分に理解した上で、授業以上に自身で理解を深め、クオリティの高い作品を制作する視点を身につけている。	テーマを十分に理解し、クオリティの高い作品を制作する視点を身につけている。	テーマを十分に理解し、作品を制作できる。	テーマは理解出来ているが、作品へ十分に反映出来ていない。	テーマが理解できていない。
知識・理解	2．制作における手順を理解出来ている。	制作の手順を理解し、制作工程の内容を踏まえて自身で工夫ができている。	制作の手順を理解し、制作工程の内容を深く理解できている。	制作の手順を理解し、制作工程の理解できている。	制作手順は理解出来ているが、十分に成果に反映されていない。	制作の手順が理解できていない。
技能	1．美しいデザイン提案ができている。	自身の企画を深掘りし、的確捉えながら、バランスの整った印象的で美しいデザイン提案ができている。	自身の企画を深掘りし、的確捉えながら、バランスの整った美しいデザイン提案ができている。	テーマに沿った、バランスの整った美しいデザイン提案ができている。	テーマに沿って提案出来ているが、精度欠ける。	魅力的なデザインの提案が出来ていない。
技能	2．魅力的なプレゼンテーションが出来ている。	分かり易く、聞いている人を惹き込むような魅力的な説明ができている。見易い資料で構成されている。内容の取捨選択ができている。時間通りにプレゼンができる。	分かり易く、魅力的な説明ができている。見易い資料で構成されている。内容の取捨選択ができている。時間通りにプレゼンができる。	分かり易く説明ができている。見易い資料で構成されている。時間通りにプレゼンができる。	分かり易く説明できているが、精度に欠ける。	分かり易く説明ができていない。
態度	1．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	生活デザイン実習Ｂ（135分）			授業番号	HD202	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	ディスプレイ（商品の演出表現）は，販売促進に必要不可欠なテクニックで，ショップの顔であり，消費者にショップイメージを伝えるための重要な要素である。主にショップディスプレイを中心に演出し，商品を効果的にビジュアル表現するための考え方やテクニックなどについて実際の事例を踏まえながら解説し，実際にディスプレイ・空間の企画と制作を通して表現技法について学修する。								
到達目標	1.空間構成を習得し，生活空間およびショップ運営にディスプレイを活用することができる。 2.テーマにあった演出ができるように知識と技術力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション　（講義概要と授業の進め方について）	
第2回	ＶＭＤの概要説明（ＶＭＤの目的や手法，専門用語,店舗作りについて）	
第3回	什器を使用した商品陳列①	
第4回	什器を使用した商品陳列②	
第5回	什器を使用した商品陳列③	
第6回	マネキンを使用した商品陳列②	
第7回	ショーウインドウの商品陳列①	
第8回	ショーウインドウの商品陳列②	
第9回	ファッションスタイリング表現（演出，陳列構成やカラーコーディネートの具体例を事例から学ぶ）	
第10回	外部講師による授業（予定）	
第11回	ショップ空間演出の企画（ショップにおける空間演出について）①	
第12回	ショップ空間演出の企画（ショップにおける空間演出について）②	
第13回	ショップ空間演出の制作（ショップにおける空間演出について）①	
第14回	ショップ空間演出の制作（ショップにおける空間演出について）②	
第15回	発表	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	積極的に実習に臨み自らが決定したスケジュールと設計に沿って制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。
レポート	20	課題内容の理解度とリサーチの正確性,独自の視点があるか
小テスト		
定期試験		
その他	60	・制作物（40%）制作物については，創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）を評価規準とする。・作品発表（20%）「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	普段からお店にあるショーウインドやディスプレイなどの空間演出制作物に興味を示すこと。
授業外学修	課題に沿ったアイデアなどを事前学修としてイメージしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ディスプレイにおける基礎知識を習得している。	空間構成を習得し，生活空間およびショップ運営にディスプレイを独自の視点を持って活用することができる。授業以上に自身で学習している。	空間構成を習得し，生活空間およびショップ運営にディスプレイを活用することができる。授業以上に自身で学習している。	空間構成を習得し，生活空間およびショップ運営にディスプレイを活用することができる。	空間構成の基礎知識を習得している。	空間構成の基礎知識を習得し切れていない。
知識・理解	２．テーマにあった演出ができるように知識と技術力を身につける。	授業内容を生かしながら、テーマを的確に把握し、俯瞰して捉えられる。独自の視点を持って提案できる。	授業内容を生かしながら、全体を把握し、独自の視点を持って提案できる。	授業内容を生かしながら、全体を把握して提案できる。	授業内容を生かしながら提案できるが、精度が低い。精度が低い。	授業内容を生かしながら提案できていない。
技能	１．制作物の完成度	制作過程における独自の工夫と、発想の独創性と完成度があり、作業の丁寧で仕上げが美しい。	発想の独創性と完成度があり、作業の丁寧で仕上げの美しい。	企画通りに制作できている。	企画通りに制作できているが、精度に欠ける。	企画通りに制作できていない。
態度	１．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。

科目名	基礎調理演習			授業番号	HF101	サブタイトル			
教員	加賀田　江里								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	食材の切り方や調理法・衛生管理など，調理の基礎となる事柄を学ぶ。基礎を学んだ上で簡単な献立を自ら計画・実践することで調理をする上での初歩的な調理操作を身に付けることを目的とする。								
到達目標	調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付けることができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理室の使い方，調理器具の使い方，基本操作について 調理室の使い方，衛生面に関する注意点について，および調理の基本となる切り方，加熱の方法などの基本を理解する。	
第2回	調理の基本操作１ 基本的な切り方を例にして，食材を切りながら包丁を安全に扱う方法を理解する。	
第3回	調理の基本操作２ 基本的な切り方を例にして，食材を切りながら包丁を安全に扱う方法を理解する。	
第4回	調理の基本操作３ 基本的な切り方を例にして，食材を切りながら包丁を安全に扱う方法を理解する。	
第5回	調理の基本操作４ 基本的な野菜の切り方を実際に調理をしながら学び，理解する。	
第6回	調理の基本操作５ 基本的な野菜の切り方を実際に調理をしながら学び，理解する。	
第7回	調理の基本操作６ 基本的な野菜の切り方を実際に調理をしながら学び，理解する。	
第8回	調理の基本操作７ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第9回	調理の基本操作８ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第10回	調理の基本操作９ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第11回	調理の基本操作１０ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第12回	調理の基本操作１１ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第13回	調理の基本操作１２ 寒天、ゼラチンなどのゲル化剤を用いて、その特性について理解する。	
第14回	調理の計画１ 調理操作をイメージしながら，時間内に作ることのできる献立を立てることが出来る。	
第15回	調理の実践２ 自分たちで計画をした献立を時間内に調理することが出来る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	実習にふさわしい身支度を整え，衛生面に配慮しながら実習に取り組めたか等，意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	25	自ら考えたメニューのレシピをまとめ，その料理を作る上での注意事項などについて考察し提出すること。レポート課題はコメントを付けて返却する。
小テスト	30	授業の中で説明した調理に関する事項について主要なポイントの理解を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	1．授業で出てきたポイントを復習すること 2．日頃から食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な事柄が理解できている	調理の基礎となる基本的な知識を十分に理解することができている	調理の基礎となる基本的な知識をおおよそ理解することができている	調理の基礎となる基本的な知識を理解することができている	調理の基礎となる基本的な知識をやや理解することができている	調理の基礎となる基本的な知識を理解することができていない
思考・問題解決能力	1．調理に関する初歩的な知識を身につけ、自分自身でメニューを考えることが出来る	調理操作を理解したうえで、自分自身でメニューを考えることが出来る	自分自身でメニューを考えることが出来る	資料等を参考にしながら、自分自身でメニューを考えることが出来る	資料等を参考にしながら、自分自身でメニューをおおよそ考えることが出来る	自分自身でメニューを考えることが出来る
技能	1．調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を行うことが出来る	調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を自らすすんで行うことが出来る	調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を行うことが出来る	資料等を参考にしながら調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を行うことが出来る	資料等を参考にしながら調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作をおおよそ行うことが出来る	資料等を参考にしても調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を行うことができない

科目名	食と生活			授業番号	HF201	サブタイトル			
教員	小築 康弘								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	標準的な日本人は一日に３回の食事を行う。単純すぎる計算であるが，人生が80年で毎日３回の食事をすると仮定すると，87，600回の食事を生涯にわたってすることになる。このことからも分かるように，我々が生活を営んで行く上で「食」は重要な要素である。そこで，本教科は生活の中における「食」を広く学び，「食」に対する考えを構築することを目的とする。 なお，本教科はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目である。								
到達目標	・「食」に対するイメージを自身の中に思い描くことができる ・日本および世界の食生活に関する基礎的な知識，および食の安全に関わる初歩的な知識を有している なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	日本の食文化(1) 縄文時代～平安時代	
第2回	日本の食文化(2) 鎌倉時代～現代	
第3回	日本の食文化(3) 日本料理の種類	
第4回	日本の食文化(4) 扇と旬	
第5回	日本の食文化(5) 行事食と郷土食	
第6回	世界の食文化(1) 中国料理	
第7回	世界の食文化(2) フランス料理を中心とした西洋料理の歴史：古代～17世紀	
第8回	世界の食文化(3) フランス料理を中心とした西洋料理の歴史：17世紀～現代	
第9回	世界の食文化(4) 西洋料理：菓子・デザート・パン	
第10回	世界の食文化(5) イギリス料理・イタリア料理などフランス料理以外の料理の紹介	
第11回	栄養素 栄養素についての概要	
第12回	食の安全(1) 衛生微生物	
第13回	食の安全(2) 食中毒・寄生虫	
第14回	食の安全(3) 食品異物／食品添加物／食品の腐敗／食品衛生対策	
第15回	食の安全(4) 食品の品質表示制度／食物アレルギー	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	14	予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	30	授業毎の復習テストを行い，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	56	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べておくせをつけること。
授業外学修	1．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 2．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 3．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新･フードコーディネーター教本2024	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	978-4-388-15458-6	3300円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．「食」に対するイメージを自身の中に思い描くことができる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
知識・理解	2．日本および世界の食生活に関する基礎的な知識，および食の安全に関わる初歩的な知識を有している	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない

科目名	食品の世界			授業番号	HF202	サブタイトル			
教員	小築 康弘								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	ヒトが食用にする品物の総称を食品というが，実際にどのようなものがあり，どのようなものを含み，どのような性質があるのだろうか。そこで，本教科では食材に関する知識，食材に含まれる食品成分についての知識を得ることを目的とする。 なお，本教科はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目である。								
到達目標	・食材についての基礎的な知識を有している ・食品成分についての基礎的な知識を有している なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	食品とは： 食品の定義 食品成分：水分 食品中の水分の性質	
第2回	食品成分：タンパク質(1) 概説／アミノ酸 食材：肉(1) 肉の特徴	
第3回	食品成分：タンパク質(2) ペプチド／タンパク質の変性 食材：肉(2) 畜肉類	
第4回	食品成分：タンパク質(3) タンパク質の分類と消化吸収 食材：肉(3) 鳥肉類	
第5回	食品成分：炭水化物(1) 概説／単糖類 食材：肉(4) 畜肉加工品／その他の肉	
第6回	食品成分：炭水化物(2) オリゴ糖 食材：魚(1) 概説／魚類	
第7回	食品成分：炭水化物(3) 多糖類 食材：魚(2) 貝類・甲殻類	
第8回	食品成分：脂質(1) 概説／脂肪酸 食材：魚(3) イカ・タコ類／水産加工品／その他魚介類	
第9回	食品成分：脂質(2) 中性脂肪／食用油脂／その他の脂質 食材：野菜・きのこ・海藻(1) 豆類／葉菜類	
第10回	食品成分：脂質(3) 脂質の生理作用 食材：野菜・きのこ・海藻(2) 鱗茎菜類／果菜・花菜類／根菜類／きのこ類／藻菜類	
第11回	食品成分：ビタミン(1) 概説／脂溶性ビタミン 食材：野菜・きのこ・海藻(3) 果実・種実／その他の野菜	
第12回	食品成分：ビタミン(2) 水溶性ビタミン 食品成分：ミネラル(1) 概説 食材：乳・乳製品・卵 概説と各論	
第13回	食品成分：ミネラル(2) 各論 食材：穀類 概説と各論 食材：酒・ドリンク類 概説と各論	
第14回	食品成分：食品成分間反応(1) 糖・デンプンの加熱変化／褐変反応／亜硝酸塩 食材：調味料・香辛料 概説と各論	
第15回	食品成分：食品成分間反応(2) 油脂の酸化と加熱劣化 食材：加工食品 概説と各論	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	14	予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	30	授業内容の復習テストにより，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	56	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べておくせをつけること。
授業外学修	1．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 2．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 3．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学シリーズNEXT 食品学総論 食べ物と健康 第４版	辻英明・海老原清・渡邉浩幸・竹内弘幸 編	講談社	978-4-06-522467-0	2860円（税込）
新・フードコーディネーター教本2024	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	978-4-388-15458-6	3300円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食材についての基礎的な知識を有している	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
知識・理解	２．食品成分についての基礎的な知識を有している	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない

科目名	食と健康			授業番号	HF203	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	健康を保つのに必要な要素はいくつかあるが，その大事な一つは「食」である。この教科では，われわれヒトを含む動物が生きていくために必ず必要とする，食品に含まれる物質である「栄養素」を学ぶことにより，「食」と健康の関わりについて理解する。あわせて，栄養素以外の物質（非栄養素）にも健康に貢献する効果（食品機能）があるため，そのような物質についても学ぶ。 なお，本教科はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目である。								
到達目標	・糖質（炭水化物）・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルについての基礎的な知識を身につけている ・食物繊維などの非栄養素と健康との関わりについて基礎的な知識を身につけている ・食の安全に関わる事項のうち，食品の表示，食品添加物，食物アレルギーに関する基礎的な知識を身につけている なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養とは 栄養・栄養素の定義／現代日本人の栄養状況	
第2回	タンパク質(1) タンパク質の定義／アミノ酸／タンパク質の物理化学的性質	
第3回	タンパク質(2) タンパク質の体内での働きと消化吸収	
第4回	脂質(1) 脂質の定義／中性脂肪・アミノ酸・その他の脂質／脂質の体内での働き	
第5回	脂質(2) 脂質の消化吸収と代謝／脂質と疾病	
第6回	炭水化物(1) 炭水化物の定義／単糖・オリゴ糖・多糖／炭水化物の体内での働き	
第7回	炭水化物(2) 炭水化物の消化吸収／食物繊維	
第8回	ミネラル 概説と各論	
第9回	ビタミン 概説と各論	
第10回	食品表示制度(1) 栄養成分表示／機能性の表示	
第11回	食品表示制度(2) アレルゲンを含む食品の原材料表示／遺伝子組み換え食品の表示	
第12回	食品表示制度(3) 生鮮食品の表示／加工食品の表示	
第13回	食品添加物 概説／食品添加物の必要性と安全性の確認	
第14回	食物アレルギー(1) 概説／アナフィラキシー／食物アレルギーと間違えられる症状	
第15回	食物アレルギー(2) 即時型食物アレルギーの概説と対策／加工食品のアレルゲン表示	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	14	予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	30	授業毎の復習テストで知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	56	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多いので，すぐに調べておくせをつけること。
授業外学修	1．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 2．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 3．全授業終了後に定期試験があるため．その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わかりやすい栄養学 改定6版	吉田　勉　編	三共出版	978-4-7827-0792-0	2530円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．糖質（炭水化物）・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルについての基礎的な知識を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている
知識・理解	２．食物繊維などの非栄養素と健康との関わりについて基礎的な知識を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている
知識・理解	３．食の安全に関わる事項のうち，食品の表示，食品添加物，食物アレルギーに関する基礎的な知識を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識として欠けている部分が少なくない

科目名	食空間と調理			授業番号	HF204	サブタイトル			
教員	加賀田　江里、石田　有美枝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	食空間における厨房とその計画，内装デザインに加えテーブルマナーなどについて講義を行い，それらに関する基本的な知識の修得を目的とする。 本科目はフードコーディネーター３級養成科目の一つである。								
到達目標	厨房計画や内装デザイン，テーブルマナーの基礎知識について学び，理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	厨房の基礎知識・概説 厨房を作る上で基本となる事項について理解する	加賀田　江里
第2回	厨房計画とメニュー１ 厨房づくりとメニューがどのようにかかわっているかを理解する。	加賀田　江里
第3回	厨房計画とメニュー２ 厨房づくりとメニューがどのようにかかわっているかを理解する。	加賀田　江里
第4回	キッチンスタイルの基本 キッチンスタイルの基本とその利点と欠点を理解する。	加賀田　江里
第5回	食空間のあり方 食空間のあり方について理解する。	加賀田　江里
第6回	食空間と内装デザイン計画の基礎１ 食空間を作る上で必要な事柄について理解する。	石田　有美枝
第7回	食空間と内装デザイン計画の基礎２ 食空間を作る上で必要な事柄について理解する。	石田　有美枝
第8回	食空間と内装デザイン計画の基礎３ 食空間を作る上で必要な事柄について理解する。	石田　有美枝
第9回	食空間と内装デザイン計画の基礎４ 食空間を作る上で必要な事柄について理解する。	石田　有美枝
第10回	食空間と内装デザイン計画の基礎５ 食空間を作る上で必要な事柄について理解する。	石田　有美枝
第11回	テーブルマナーとサービス１ 洋食のテーブルマナーの基本について理解する。	加賀田　江里
第12回	テーブルマナーとサービス２ 日本料理のテーブルマナーの基本について理解する。	加賀田　江里
第13回	テーブルマナーとサービス３ 中国料理のテーブルマナーの基本について理解する。	加賀田　江里
第14回	テーブルマナーとサービス４ お酒，お茶，お菓子などのテーブルマナーの基本について理解する。	加賀田　江里
第15回	テーブルマナーとサービス５ サービスの基本について理解する。	加賀田　江里
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	70	主要なポイントの理解を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	毎回授業の初めに，前回の授業の内容に関する小テストを行うので１週間に４時間以上の復習をしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本2024：3級資格認定試験対応テキスト	特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会	柴田書店	9784388154586	3300円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	フラワーコーディネート及びテーブルコーディネートの実務経験（19年）（石田　有美枝）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	フラワーコディネートおよびテーブルコーディネートの実務経験（19年）を活かして指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．厨房計画や内装デザインについての知識を身につけることができている	厨房計画や内装デザインについての知識を生かして、最適な厨房レイアウトや内装デザインを考えることができる	厨房計画や内装デザインについての知識を生かして、適切な厨房レイアウトや内装デザインを考えることができる	厨房計画や内装デザインについての知識を生かして、厨房レイアウトや内装デザインを考えることができる	厨房計画や内装デザインに関する知識を有している	厨房計画や内装デザインに関する知識が全く身についていない
知識・理解	２．テーブルマナーの基礎知識について学び，理解することができている	テーブルマナーについて学び、マナーを適切に守りながら実践することができる	テーブルマナーについて学び、適切に実践することができる	テーブルマナーについて学び、実践することができる	テーブルマナーについて学んでいるが十分に身についていない	テーブルマナーについて学んでいるが全く身についていない

科目名	調理実習Ⅰ			授業番号	HF205	サブタイトル			
教員	加賀田　江里								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	調理の基本となる材料や料理に応じた切り方や調理法，衛生管理など，調理の基礎となる事柄を学ぶ。１２回の実習を通して，繰り返し学習することで基本的な調理操作を身に付けることを目的とする。								
到達目標	調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第１回　　調理の基本１，実習に関するガイダンス（使用上の注意，身支度等）調理器具の説明，計量 調理をする上でのルール（衛生面）を理解し，基本的な調理を行う。 第２回　　調理の基本２ 切る，茹でる，などの基本的な調理操作および器具の使い方を理解する。 第３回　　調理の基本３ 切る，茹でる，などの基本的な調理操作および器具の使い方を理解する。 第４回　　焼き物の調理 調理操作の中の，焼き物について理解する。 第５・６回　炒め物の調理 調理操作の中の炒め物について理解する。 第７回　　揚げ物の調理 調理操作の中の揚げ物について理解する。 第８回　　蒸し物の調理 調理操作の中の蒸し物について理解する。 第９・10回　複数の調理法を用いた調理 これまで学んできた調理操作を使って，効率よく調理を実践する。 第11・12回　簡単なおやつ作り お菓子作りを通して，お菓子特有の器具などの使い方，お菓子の作り方について理解する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	36	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	40	授業で学んだ調理に関する基礎的な知識を評価する。
定期試験	24	実習に出てきた料理の中で基本となるものの実技試験を行う。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『調理と理論』，山崎清子　他共著，同文書院 『新ビジュアル食品成分表　増補版』，新しい食生活を考える会　編，大修館書店
その他	材料入手の都合により，実習内容の変更や実習時期の変更をする場合があります。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．調理の基礎となる初歩的な知識を身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識を十分に身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識をおおよそ身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識を身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識をやや身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識を身につけることができていない
技能	１．調理の基礎となる初歩的な調理技術を身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術を十分に身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術をおおよそ身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術を身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術をやや身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術を身につけることができていない

科目名	フードマーケティング論			授業番号	HF207	サブタイトル			
教員	大宮 めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，前半はマーケティング理論の基礎知識について理解する。後半では修得したマーケティング理論を活用し，飲食店の出店計画からメニュープランニングといった出店業務およびフードコーディネーターとしての食の「開発」「演出」「運営」について学修する。								
到達目標	（1）マーケティング理論に関する基本的な知識を修得すること。 （2）食品産業におけるマーケティング戦略の知識を修得すること。 （3）外食産業（飲食店）における出店業務の流れと食の「開発」「演出」「運営」に関する知識を修得すること。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	フードマーケティング論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 授業の概要と全体の流れを紹介する。	
第2回	現代の食事形態と食市場 内食，中食，外食と食市場について理解する。	
第3回	食市場とマーケティング マーケティングの定義や手法について理解する。	
第4回	マーケティングの基礎知識（1） 製品戦略について理解する。	
第5回	マーケティングの基礎知識（2） 価格戦略について理解する。	
第6回	マーケティングの基礎知識（3） チャネル戦略について理解する。	
第7回	マーケティングの基礎知識（4） プロモーション戦略について理解する。	
第8回	事例分析（1） 食品製造業で行われているマーケティング戦略について理解する。	
第9回	事例分析（2） 食品製造業で行われているマーケティング戦略について理解する。	
第10回	前半のまとめ これまでの学習内容の確認を行う。	
第11回	外食産業の特徴と経営の基礎知識（1） 外食産業の特徴について理解する。マネジメントの基礎と飲食店の出店業務について理解する。	
第12回	経営の基礎知識（2） 経営の計数管理や財務諸表について理解する。	
第13回	メニュープランニング メニュープランニングの流れや方法について理解する。	
第14回	メニュープランニング演習 メニュープランニングを理解し，実際に飲食店のメニューを考案する。	
第15回	食の企画・構成・演出の流れ/まとめ 食の企画の流れや方法について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	30	レポート内容で評価する。次回の講義で，全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	20	中間的な理解度を評価する。
定期試験	40	到達目標に達しているかを最終的に評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義ではマーケティングの基礎を理解するとともに，食に関わるマーケティングがどのように行われているかを学ぶことで，食品産業等で行われるマーケティング戦略を理解できることを到達目標とする。そのためには，身近に存在する「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）予習として，テキストを読み，疑問点を明らかにしておくこと。 （2）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （3）発展学修として，食に関連したマーケティングやフードビジネスに関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本2023 3級資格認定試験対応テキスト	日本フードコーディネーター協会	株式会社　光邦		3，000円＋税
使用テキスト：自由記載	適時資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
フード・マーケティング論	藤島廣二他	筑波書房	978-4-8119-0482-5	2，500＋税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．マーケティング理論に関する基本的な知識を修得している	マーケティング理論を正確に理解し、述べることができる。	マーケティング理論をほぼ理解し、述べることができる。	マーケティング理論を一定程度理解し、大体述べることができる。	マーケティング理論について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	マーケティング理論について基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	2．食品産業におけるマーケティング戦略の知識を修得している	食品産業のマーケティング戦略について正確に理解をしており、詳細に説明することができる。	食品産業のマーケティング戦略についてほぼ理解しており、説明することができる。	食品産業のマーケティング戦略について一定程度理解しており、説明することができる。	食品産業のマーケティング戦略について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食品産業のマーケティング戦略ついて理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	3．外食産業（飲食店）における出店業務の流れと食の「開発」「演出」「運営」に関する知識を修得している	飲食店の出店業務について深い理解をしており、食の「開発」「演出」「運営」について理論的に説明することができる。	出店業務について理解しており、食の「開発」「演出」「運営」について、説得力のある説明をすることができる。	出店業務について一定程度理解しており、食の「開発」「演出」「運営」について、説明することができる。	飲食店の出店業務について理解がやや不十分であり、食の「開発」「演出」「運営」について説明する力が乏しい。	飲食店の出店業務について理解できておらず、自らの食の「開発」「演出」「運営」について説明することができない。

科目名	食生活演習 (7.5回)			授業番号	HF208	サブタイトル			
教員	加賀田　江里								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	私たちは様々なリスクにさらされながら生活をしている。そのリスクを少しでも軽減するためには様々な知識を身につけておく必要がある。 この授業では心と体の健康，栄養，食文化等，生活者および消費者として生きる上で必要な知識を中心に学び，身につけることを目的として授業を行う。また，この授業は食生活アドバイザー３㊁級に対応している。								
到達目標	・健康や食に関する基本的な知識を身につけることが出来る ・生活者，消費者として生きる上で必要な基本的な知識を身につけることが出来る なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	【第１回】生活者とは何か 生活者とは何か，生活者として生活するとはどういうことかを理解する。 【第２回】ウエルネス上手になろう：栄養と健康に関する基礎知識 栄養と健康に関する基本的な事項について理解する。 【第３回】もてなし上手になろう：食文化と食習慣に関する基礎知識 食文化と食習慣に関する基本的な事項について理解する。 【第４回】買い物上手になろう：食品学に関する基礎知識 食品に関する基本的な事項について理解する。 【第５回】段取り上手になろう：衛生管理に関する基礎知識 衛生管理に関する基本的な事項について理解する。 【第６回】生き方上手になろう：食マーケットに関する基礎知識 食マーケットに関する基本的な事項について理解する。 【第７回】やりくり上手になろう：社会生活に関する基礎知識 社会生活を営む上での必要な基本的な事項について理解する。 【第８回】生活者・消費者として生きていくということ これまで学んできた知識を振り返り，より深く理解する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	40	各回の授業で出てきた内容への理解度を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この科目は食生活アドバイザー®３級対応の科目である。検定試験を受けるか否かに関わらず，しっかりと受講し，授業後は復習に取り組むこと。
授業外学修	1．授業で出てきたポイントを繰り返し復習すること 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
2024-2025年版【公式】食生活アドバイザー®３級テキスト＆問題集	一般社団法人FLAネットワーク協会	日本能率協会マネジメントセンター	9784800591609	1980
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．健康や食に関する基本的な知識を身につけることが出来る	健康や食に関する知識を十分に身につけ、理解することができている	健康や食に関する知識を概ね身につけ、理解することができている	健康や食に関する知識が身につけられている	健康や食に関する知識がやや身につけられている	健康や食に関する知識が身につけられていない
知識・理解	2．生活者，消費者として生きる上で必要な基本的な知識を身につけることが出来る	生活者，消費者として生きる上で必要な知識を身につけることが出来ている	生活者，消費者として生きる上で必要な知識を概ね身につけることが出来ている	生活者，消費者として生きる上で必要な知識を身につけることが出来ている	生活者，消費者として生きる上で必要な知識をやや身につけることが出来ている	生活者，消費者として生きる上で必要な知識が身につけられていない

科目名	製菓演習 (7.5回)			授業番号	HF209	サブタイトル			
教員	加賀田　江里								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	この授業ではお菓子作りを通して製菓における基本的な操作と材料の特徴について理解する。 毎回実習を行い，最後は各グループで計画し，グループごとに自らの計画に沿ったお菓子作りを行う。								
到達目標	・製菓に関する基本的な操作を理解する。 ・製菓材料の特徴について理解する。 ・自分たちでレシピを作成し，お菓子を作ることが出来る。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理実習室の使い方，器具の使い方 製菓に必要な材料，器具に関する基礎的な知識および調理実習室を衛生的に使用するための注意点などを理解する。	
第2回	製菓の基礎１ 製菓に関わる基本的な調理操作を理解する。	
第3回	製菓の基礎２ 製菓に関わる基本的な調理操作を理解する。	
第4回	製菓の基礎３ 製菓に関わる基本的な調理操作を理解する。	
第5回	製菓の基礎４ 製菓に関わる基本的な操作を理解する。	
第6回	製菓の基礎５ 製菓に関わる基本的な操作を理解する。	
第7回	レシピ作成計画 これまで学んだことを基本として，自分たちでレシピを考えることが出来る。	
第8回	計画の実践 自分たちで計画したレシピでお菓子を作ることが出来る。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	身支度をきちんと整え，衛生面に配慮しながら調理実習を行うなど意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	70	授業の中で学んだ知識を活かして，メニューレシピを作成し，その調理上の注意点やポイントなどをまとめて提出する。レポート課題にはコメントを付けて返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	製菓に関する基本的な操作を理解する	製菓に関する基本的な操作を十分に理解できている	製菓に関する基本的な操作を概ね理解できている	製菓に関する基本的な操作を理解できている	製菓に関する基本的な操作がやや理解できている	製菓に関する基本的な操作が理解できていない
知識・理解	製菓材料の特徴について理解する	製菓材料の特徴について十分に理解できている	製菓材料の特徴について概ね理解できている	製菓材料の特徴について理解できている	製菓材料の特徴についてやや理解できている	製菓材料の特徴について理解できていない
技能	自分たちでレシピを作成し，お菓子を作ることが出来る	適切なレシピを作成し、考えていた通りのお菓子を作ることが出来る	適切なレシピを作成し、概ね考えていた通りのお菓子を作ることが出来る	適切なレシピを作成し、お菓子を作ることが出来る	レシピを書くことはできるが、考えていたものと完成が異なっている	レシピを作成することができない

科目名	フードコーディネート実習			授業番号	HF301	サブタイトル			
教員	小築 康弘、石田 有美枝								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，今日的なライフスタイルに合わせた，人々の食を豊かにするための食のコーディネート技法について学修する。具体的には，テーブルコーディネートを中心に据え，テーブルマナー及び食品素材について，実習により体得することを目的とする。 本科目は，フードコーディネーター資格３級のための必要な科目の１つである。								
到達目標	・テーブルコーディネートの技法を知り，実践できる ・テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる ・食材に関するいくつかの知識を実習を持って身につけている なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	授業のねらい・到達目標の説明：授業全体の説明 食品と衛生 ～手洗い～： 食品を扱う上での手洗いの重要性を理解する	小築康弘
第2回	食材の実体験(1)：品種と味・食感 ジャガイモの各品種の味・食感を官能試験により判定する	小築康弘
第3回	食材の実体験(2)：品種と甘さ 苺の各品種の味・食感を官能試験により判定する	小築康弘
第4回	食材の実体験(3)：うま味の相乗効果 うま味の相乗効果に関する実験をする	小築康弘
第5回	洋食・和食のマナーの基礎 洋食・和食のマナーの基礎知識を学ぶ	小築康弘
第6回	和食のマナーの実践 和食のマナーを実践し，自己評価をする	小築康弘
第7回	食空間の構成(1) 洋食のテーブルセッティング	石田有美枝
第8回	食空間の構成(2) 和の食卓	石田有美枝
第9回	食空間の構成(3) 中国料理のテーブルセッティング	石田有美枝
第10回	テーブルコーディネート(1) 正月のテーブルコーディネート	石田有美枝
第11回	テーブルコーディネート(2) クリスマスのテーブルコーディネート	石田有美枝
第12回	テーブルコーディネート(3) バレンタインデーのテーブルコーディネート	石田有美枝
第13回	テーブルコーディネート(4) ワインを楽しむテーブルコーディネート	石田有美枝
第14回	テーブルコーディネート(5) テーマ別コーディネート： 行事や場面を想定してテーブルコーディネートをします。内容はその時の話題・気候等を考慮して決めます。	石田有美枝
第15回	まとめ 授業の各内容を振り返ります。	小築康弘
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	実習中の取り組む姿勢を評価する。
レポート	60	各回の内容についての理解度を判定する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。
授業外学修	1．次回の内容について予習をし，スムーズに実習に移れるようにしておくこと 2．レポートの作成をすること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本2022	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	978-4-388-15451-7	3300円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	フラワーコーディネート及びテーブルコーディネートの実践及び指導（フリーランス：石田有美枝）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	食空間の構成の基礎知識修得とテーブルコーディネートの実践を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．テーブルコーディネートの技法を知り，実践できる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
知識・理解	2．テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
知識・理解	3．食材に関するいくつかの知識を実習を持って身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
思考・問題解決能力	1．テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる上に、他者に配慮しながら、食事ができる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の大半を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、いくつかが欠けている	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、大半が欠けている
技能	1．テーブルコーディネートの技法を知り，実践できる	他の人の感性に訴えかけるテーブルコーディネートを実践できる	テーブルコーディネートを実践できる	テーブルコーディネートを完成させることを目指し、取り組むことができる	テーブルコーディネートの実践において欠けている部分がある	テーブルコーディネートを実践できない
技能	2．テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる上に、所作が美しい	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の大半を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、いくつかが欠けている	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、大半が欠けている
態度	1．テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる上に、他者に配慮しながら、食事ができる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の大半を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、いくつかが欠けている	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、大半が欠けている

科目名	食品加工実習			授業番号	HF302	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	われわれは日常の食生活において様々な加工食品を利用している。本授業では，身近で代表的な加工食品の加工原理を学ぶとともに，それらを試作し，基礎的加工技術を修得する。実習を通じて，加工食品の安全性や利便性についての理解を深め，適正な選択や利用について考える。								
到達目標	・食品加工の原理のいくつかを理解し，それら原理を利用した加工食品を製造できる ・基礎的加工技術を身につけている なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食品をなぜ加工するのか？ 上記内容について講義する	
第2回	シラップ漬の製造 柑橘類のシラップ漬けの製造をする	
第3回	ジャムの製造 いちごジャムの製造をする	
第4回	マーマレードの製造 柑橘のマーマレードを製造する	
第5回	なめたけの製造 なめたけを製造する	
第6回	マヨネーズの製造 マヨネーズを製造する	
第7回	こんにゃくの製造 こんにゃくを製造する	
第8回	酸乳飲料・ヨーグルトの製造 酸乳飲料・ヨーグルトを製造する	
第9回	うどんの製造 うどんの製造をする	
第10回	中華麺の製造 中華麺の製造をする。	
第11回	生パスタの製造 生パスタを製造する。	
第12回	米粉パンの製造 米粉パンの製造をする	
第13回	手洗いと衛生 手の洗い方・水気の拭き取り方の違いによる手のひら上の生菌数を実験により確認する	
第14回	褐変反応の実験 桃の褐変反応の様子を観察する。	
第15回	まとめ 授業全体を振り返る	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	授業への取り組む姿勢を評価する。
レポート	55	各回の内容についての理解度を判定する。また，実習で自身が作成した製品の商品的価値についても述べていること。提出物は採点して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，衛生面・安全面に十分配慮し，計画的に行うこと。
授業外学修	普段の生活の中で、得た知識・技術を活かすこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
食品加工学と実習・実験第2版	谷口亜樹子　編著	光生館	978-4-332-04064-4	2310円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食品加工の原理のいくつかを理解し，それら原理を利用した加工食品を製造できる	授業で扱った全ての食品加工の原理を理解している	授業で扱った大半の食品加工の原理を理解している	授業で扱ったいくつかの食品加工の原理を理解している	授業で扱った食品加工の原理を理解度が低い	授業で扱った全ての食品加工の原理を理解していない
技能	１．食品加工の原理のいくつかを理解し，それら原理を利用した加工食品を製造できる	加工食品を効率よく製造できる	加工食品を製造できる	仲間と協力して、加工食品を製造できる	加工食品の製造に不安が伴う	加工食品の製造ができない
技能	２．基礎的加工技術を身につけている	授業で扱った技術を駆使することができる	授業で扱った技術を利用できる	授業で扱った大半の技術を利用できる	授業で扱った数個の技術を利用できる	授業で扱った大半の技術を利用できない

科目名	応用調理演習			授業番号	HF303	サブタイトル			
教員	加賀田　江里								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	多くの人は食材を調理・加工し，生きる上で必要なエネルギーおよび栄養素を得る。しかし，社会人として働き，生活していく中で調理のために使える時間は限られていくことが予想される。 そこで通常の調理に加えて，調理の時間短縮などにより，限られた時間の中で効率よく調理ができる能力を身に付けるために様々な調理家電を用いて調理実習を行う。								
到達目標	通常の調理に加えて，様々な調理家電を用いることで調理の時間短縮につなげることができる。 限られた時間の中で効率よく調理ができる能力を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理の基本 調理に関する基本的な事項を理解する。	
第2回	時短調理１ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第3回	時短調理２ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第4回	時短調理３ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第5回	時短調理４ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第6回	時短調理５ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第7回	時短調理６ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第8回	時短調理７ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第9回	時短調理８ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第10回	時短調理９ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第11回	時短調理１０ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第12回	時短調理１１ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第13回	時短調理１２ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第14回	時短調理１３ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第15回	献立計画 これまで学んだ調理方法を活かして，自分自身でレシピを考えることが出来る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	55	授業の中で学んだ知識を活かして，メニューレシピを作成し，まとめて提出する。レポート課題はコメントを付けて返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	1．授業で出てきたポイントを復習すること 2．日頃から食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．調理家電を適切に使用するための知識を身につけている	知識を十分に身に着けており、生活に生かせている	知識を身に着けており、生活に生かせている	調理家電の使用について知識があり、生活に生かせている	調理家電の使用についてやや知識がある	調理家電の使用について知識がある
技能	1．様々な調理家電の特徴を理解して使用し、料理を作ることが出来る	様々な調理家電を使用し、効率よく自分で考えて料理を作ることが出来る	様々な調理家電を使用し、自分で考えて料理を作ることが出来る	様々な調理家電を使用し、料理を作ることが出来る	様々な調理家電を使用し、やや料理を作ることが出来る	様々な調理家電を使用し、料理を作ることが出来ない

科目名	調理実習Ⅱ			授業番号	HF304	サブタイトル			
教員	加賀田　江里、岡　久、山田　紳介								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	特別講師による和・洋・中の調理実習を通して，それぞれの食文化やテーブルマナーについてさらに発展的な内容を学ぶ。 本科目はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目の一つである。 なお，授業効果を高めるために，１年後期開講の調理実習Ⅰを履修しておくことを必須とする。								
到達目標	・料理をより美しく，そして美味しく作るための発展的な技法を身に付けている。 ・和食，中華，西洋，世界の料理の食の文化について理解を深めている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	実習の概要説明，調理の基礎について 調理時間する基本的な事項について理解する。	加賀田　江里
第2回	和食の調理 調理実習を通して，和食の作るときの注意点を理解する。	加賀田　江里
第3回	和食の調理と食の文化 調理実習を通して和食に対する理解を深める。	加賀田　江里
第4回	和食の調理とテーブルコーディネート 調理実習を通して器の選び方などを理解する。	加賀田　江里
第5回	和食とテーブルマナー 調理実習を通して和食について理解を深める。	加賀田　江里
第6回	中華料理の調理 調理実習を通して中華料理を作るときの注意点を理解する。	山田　伸介
第7回	中華料理の基本と食の文化 調理実習を通して中華料理に対する理解を深める。	山田　伸介
第8回	中華料理の実習とテーブルコーディネート 調理実習を通して器の選び方などを理解する。	山田　伸介
第9回	中華料理の実習とテーブルマナー 調理実習を通して中華料理について理解を深める。	山田　伸介
第10回	西洋料理の基本と食の文化 調理実習を通して西洋料理に対する理解を深める。	岡　　久
第11回	西洋料理の実習とテーブルコーディネート 調理実習を通して器の選び方などを理解する。	岡　　久
第12回	西洋料理の実習とテーブルマナー 調理実習を通して西洋料理について理解を深める。	岡　　久
第13回	西洋料理の実習と各国料理の歴史 調理実習を通して西洋料理について理解を深める。	岡　　久
第14回	世界の料理 西洋料理を通して他国の料理について理解を深める。	加賀田　江里
第15回	製菓 調理実習を通して，お菓子作りのポイントについて理解する。	加賀田　江里
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	55	調理のポイントについてまとめ，なぜそれがポイントとなるのか具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリント（各講師作成）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	フードコーディネーター教本2024
その他	食材の入荷状況等によって実習内容が変更になる場合あり。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ホテルの厨房（岡久）での実務経験（45年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	ホテルの厨房（岡久）などの調理経験（45年）を活かして指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食材の下処理、加熱などの調理技術が理解できている	調理に関する高度な知識を有している	調理に関する高度な知識をやや有している	基本的な調理技術について理解している	基本的な調理技術について大まかに理解できている	基本的な調理技術について理解できていない
知識・理解	２．各種料理の文化について理解を深めることができている	各種料理の文化についてよく理解している	各種料理の文化についてやや理解している	各種料理の文化について理解を深めようと努力している	各種料理の文化について理解していない	各種料理の文化について理解しようとしていない
技能	１．食材に適切な下処理を行い、調理をすることができている	下処理について理解し、自分自身で問題なく行うことが出来る	下処理について大体理解し、自分自身で問題なく行うことが出来る	最低限の下処理を自分自身で行うことが出来る	下処理について理解はしているが自分で行うことができない	下処理ができていない
技能	２．出来上がった料理を美しく盛り付けることが出来る	完成した料理に合わせた食器を選択し、美しく盛り付けることが自らできる	完成した料理に合わせた食器を選択し、美しく盛り付けることを意識しながら盛り付けができる	自分で食器を選択し、美しく盛り付けることを意識しながら盛り付けができる	料理に合わせて食器を選ぶことができないが、丁寧に盛り付けようとしている	美しく盛り付けようとする意識が感じられない

科目名	生活学概論A			授業番号	HG101	サブタイトル			
教員	小築 康弘、仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。生活学概論Aでは生活の中の食，環境，情報について学び，これらの基礎知識を身につけるのが，本講義の目的である。								
到達目標	・生活の中の「食」「環境」「情報」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	パソコン・スマートフォン・周辺機器の仕組み パソコン，スマートフォン，入力装置，記憶装置，出力装置といった周辺機器の特徴について理解する。	仁宮 崇
第2回	アプリケーションソフト・ネットワーク アプリケーションソフトの種類や機能，インターネットの仕組みについて理解する。	仁宮 崇
第3回	情報セキュリティ(1) 情報セキュリティのリスク，コンピュータウイルスの特徴について理解する。	仁宮 崇
第4回	情報セキュリティ(2) コンピュータウイルス感染経路と対策，パスワード管理について理解する。	仁宮 崇
第5回	個人情報保護 個人情報保護法における個人情報の定義，情報の収集や取り扱い，漏洩事例と対策について理解する。	仁宮 崇
第6回	食の機能と栄養機能 「食」の持つ機能の概論と，その１つである栄養機能について理解する。	小築康弘
第7回	食と生活リズム／食の精神的機能 サーカディアンリズムと食のリズムの関係，食による精神的満足感，共食の重要性を理解する。	小築康弘
第8回	食事形態の選択 外食・中食・内食，食文化の継承等について考える。	小築康弘
第9回	食事に対する価値観／食べ物の安全と安心の概念 食事に対する価値観を考察するとともに，食べ物に対する「安全」「安心」について考える。	小築康弘
第10回	食中毒 細菌性およびウイルス性食中毒を中心に，食中毒の概要を理解する。	小築康弘
第11回	人々の生活と災害 災害に対する先人の知恵を知るとともに，現在問題になっている「集中豪雨」について考える。	小築康弘
第12回	水質問題と生態系 水質問題の事例，それらに対する環境省（旧環境庁）の対処の概要を理解する。	小築康弘
第13回	エネルギーと温暖化 化石エネルギーによる生活，温暖化，集中豪雨，台風について考える。	小築康弘
第14回	環境問題 現在主に問題になっている環境問題の事例について考える。	小築康弘
第15回	生活の持続可能性 Sustainability(持続可能性)について，生活との関連性の中で考える。	小築康弘
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	［仁宮］受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート	10	［小築］予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	10	［小築］授業内容の復習テストにより，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	70	［小築・仁宮］全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる「くせ」をつけること。
授業外学修	［仁宮］ 1．講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること 2．参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること ［小築］ 3．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 4．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること ［共通］ 5．全授業終了後に定期試験があるため，その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
人と生活	「生活する力を育てる」ための研究会　編	建帛社	978-4-7679-1446-6	2，000＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生活と環境	藤城敏幸	東京教学社	978-4- 8082-5012-6	1，900円+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院事務（仁宮崇）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療情報システムの管理運用，電子カルテ運用保守，ヘルプデスク，レセプトデータ集計，DPCデータ分析，情報セキュリティ対策，医療従事者への個人情報保護教育等の経験をいかして指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．生活の中の「食」「環境」「情報」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない

科目名	生活学基礎演習			授業番号	HG102	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	我々は進歩の激しい世界に生活をしている。そこで，必要になるのは新たな知識を取り入れ，新たな技術・知識に対応することである。それが，現代の生活者に必要な能力の一つである。本演習では，その基礎となる『学修する習慣』のより確実な構築を目的とするとともに，言語能力および非言語能力として数学および論理学の基礎的能力を身に付けることを目指す。								
到達目標	・基礎的な言語能力および非言語能力の学修を通し，自身の必要に合わせて学修する習慣を身につけている なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	なぜ「学修する習慣」が必要なのか 生活における「学修する習慣」について考える	
第2回	非言語分野の演習(1) 順番を考える問題	
第3回	言語分野の演習(1) 二語関係	
第4回	非言語分野の演習(2) 内訳を考える問題	
第5回	非言語分野の演習(3) 発言の正誤を判断する問題	
第6回	非言語分野の演習(4) 平均から個々の値を求める問題	
第7回	第2回～第6回の演習内容の確認テスト 上記授業回の内容を確認する	
第8回	言語分野の演習(2) 語句の用法	
第9回	非言語分野の演習(5) 人口密度の問題	
第10回	非言語分野の演習(6) 当てはあるものを全て選ぶ問題	
第11回	非言語分野の演習(7) ２つの表から，数量や割合を求める問題	
第12回	第2回～第6回の演習内容および第8回～第11回の演習内容の確認テスト 上記授業回の内容を確認する	
第13回	非言語分野の演習(8) ２つの項目に当てはまらない男女の合計人数の問題	
第14回	非言語分野の演習(9) 順列・組み合わせの問題	
第15回	改めて考える ～なぜ「学修する習慣」が必要なのか～ 上記テーマについて，改めて考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	50	各回の内容の理解度・定着度を評価する。
定期試験	50	自身が身につけた能力を適切に発揮できるかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，到達目標にあるように『学修の習慣化』を求める。
授業外学修	1．授業で提示される次回の内容について予習をすること 2．定期試験に向けて，自身の身につけた言語能力・非言語能力の定着を図ること 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	未定			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	未定			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．基礎的な言語能力および非言語能力の学修を通し，自身の必要に合わせて学修する習慣を身につけている	基礎的な言語能力及び非言語能力の学修を諦めずに遂行できるとともに、授業課題を難なく解ける	基礎的な言語能力及び非言語能力の学修を諦めずに遂行できるとともに、練習をしている	基礎的な言語能力及び非言語能力の学修を諦めずに遂行できる	基礎的な言語能力及び非言語能力の学修のいくつかを諦めてしまう	基礎的な言語能力及び非言語能力の学修を諦めてしまう
態度	1．基礎的な言語能力および非言語能力の学修を通し，自身の必要に合わせて学修する習慣を身につけている	予習を十分に行い、授業課題を即座に解ける	予習を十分に行い、授業課題を効率よく解ける	予習を行い、授業課題を解ける	予習が不足しており、授業課題を解くのに困難が伴う	予習をしていないため、授業課題が解けない

科目名	生活情報基礎演習 1クラス			授業番号	HG103A	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	大学を卒業後，「働く」職場で大部分の人が普通に使いこなしている「道具」がパーソナルコンピューター（PC）である。もちろん，PCを使用しない職場はあるが，圧倒的に多くの職場でPCが利用されており，平然と使いこなすことが求められている。本授業の目的は，PCはあくまでも「道具」であることを認識し，その操作を違和感なく遂行できるようになることである。そのため，すでにPCの操作に自信のある学生は対象としていない。一方で，受講する学生の一人たりとも脱落することも想定していない。授業は，マウスやキーボードに慣れることから始める。卒業後に，PCを当たり前のように使いこなす第一歩にあたる授業である。								
到達目標	・情報端末を単なる道具と見なすことができる ・PCのキーボード・マウスを難なく操作することができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	マウスはポインティングデバイス：PCに操作する場所を教える装置の一つが「マウス」	
第2回	左クリック・右クリック・ドラッグ	
第3回	キーボード：入力の基礎　間違って消去してしまっても元に戻せる[Ctrl] + [Z]／文字の消去法／ＡＢＣ ... と打ってみよう	
第4回	キーボード：入力の基礎　母音（ａｅｉｏｕ）の位置はどこにある？　子音（ｋｓｔｎｈ ...）の位置はどこにある？ (1)	
第5回	キーボード：入力の基礎　母音（ａｅｉｏｕ）の位置はどこにある？　子音（ｋｓｔｎｈ ...）の位置はどこにある？ (2)	
第6回	キーボード：文章を打ってみよう	
第7回	ネット検索の基礎：教えて！ Google先生！	
第8回	Eメールのルール：まずはGoogle先生に聞いてみよう	
第9回	Eメール実践	
第10回	PowerPointを使おう	
第11回	Excelで表計算の基礎	
第12回	Excelでちょっと高度な使い方	
第13回	Wordで簡単なポスター作り	
第14回	Word：左合わせ・右合わせ・センタリング・タブ ... etc. スペースキーを連打しなくても文字の場所は簡単に決められる	
第15回	まとめ：Google，Siri，生成AI ... が結構教えてくれる	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	授業へ取り組む姿勢を評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	55	授業毎に設定するハードル（タイピングの正確性・スピードなど）のクリアの度合いにより評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，普段の生活の中で情報端末に触れ，慣れることを求める。
授業外学修	1　PCを所有していなくても，スマートホンでqwerty配列のキーボードを利用できるので，いわゆる英文タイプライターの配列のキーボードに親しむこと 2　PCを利用できる機会がある時は，積極的に使用し，本学を卒業した後に普通にPCを扱えるようになることを意識し親しむこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．情報端末を単なる道具と見なすことができる。	苦手意識はなく、むしろ得意になっている。	苦手意識がない。	苦手意識が少ない。	苦手意識がある。	情報端末を見たくもない。
知識・理解	2．PCのキーボード・マウスを難なく操作することができる。	他の人に使い方を教えることができる。	難なく操作できる。	操作できる。	助けがあれば操作できる。	操作できない。

科目名	生活情報基礎演習 2クラス			授業番号	HG103B	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	大学を卒業後，「働く」職場で大部分の人が普通に使いこなしている「道具」がパーソナルコンピューター（PC）である。もちろん，PCを使用しない職場はあるが，圧倒的に多くの職場でPCが利用されており，平然と使いこなすことが求められている。本授業の目的は，PCはあくまでも「道具」であることを認識し，その操作を違和感なく遂行できるようになることである。そのため，すでにPCの操作に自信のある学生は対象としていない。一方で，受講する学生の一人たりとも脱落することも想定していない。授業は，マウスやキーボードに慣れることから始める。卒業後に，PCを当たり前のように使いこなす第一歩にあたる授業である。								
到達目標	・情報端末を単なる道具と見なすことができる ・PCのキーボード・マウスを難なく操作することができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	マウスはポインティングデバイス：PCに操作する場所を教える装置の一つが「マウス」	
第2回	左クリック・右クリック・ドラッグ	
第3回	キーボード：入力の基礎　間違って消去してしまっても元に戻せる[Ctrl] + [Z]／文字の消去法／ＡＢＣ ... と打ってみよう	
第4回	キーボード：入力の基礎　母音（ａｅｉｏｕ）の位置はどこにある？　子音（ｋｓｔｎｈ ...）の位置はどこにある？ (1)	
第5回	キーボード：入力の基礎　母音（ａｅｉｏｕ）の位置はどこにある？　子音（ｋｓｔｎｈ ...）の位置はどこにある？ (2)	
第6回	キーボード：文章を打ってみよう	
第7回	ネット検索の基礎：教えて！ Google先生！	
第8回	Eメールのルール：まずはGoogle先生に聞いてみよう	
第9回	Eメール実践	
第10回	PowerPointを使おう	
第11回	Excelで表計算の基礎	
第12回	Excelでちょっと高度な使い方	
第13回	Wordで簡単なポスター作り	
第14回	Word：左合わせ・右合わせ・センタリング・タブ ... etc. スペースキーを連打しなくても文字の場所は簡単に決められる	
第15回	まとめ：Google，Siri，生成AI ... が結構教えてくれる	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	授業へ取り組む姿勢を評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	55	授業毎に設定するハードル（タイピングの正確性・スピードなど）のクリアの度合いにより評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，普段の生活の中で情報端末に触れ，慣れることを求める。
授業外学修	1　PCを所有していなくても，スマートホンでqwerty配列のキーボードを利用できるので，いわゆる英文タイプライターの配列のキーボードに親しむこと 2　PCを利用できる機会がある時は，積極的に使用し，本学を卒業した後に普通にPCを扱えるようになることを意識し親しむこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．情報端末を単なる道具と見なすことができる。	苦手意識はなく、むしろ得意になっている。	苦手意識がない。	苦手意識が少ない。	苦手意識がある。	情報端末を見たくもない。
知識・理解	2．PCのキーボード・マウスを難なく操作することができる。	他の人に使い方を教えることができる。	難なく操作できる。	操作できる。	助けがあれば操作できる。	操作できない。

科目名	生活コミュニケーション論			授業番号	HG105	サブタイトル			
教員	疋田 基道								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	人が社会の中で生きていく上で，互いの思いを伝え理解し合うためのコミュニケーションは欠かせないものである。この授業では，コミュニケーションとは何か，どのように成り立つのかについて基礎的な知識を身につける。また，様々な種類の人間関係におけるコミュニケーションについて学ぶ。								
到達目標	・コミュニケーションに関する基礎的内容について説明できる ・コミュニケーションに関する基礎知識をもとに，実生活における人間関係について考えることができる ・コミュニケーションの重要性を理解し，自分の生活に照らして考えることができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	コミュニケーションを学ぶ意義 コミュニケーションを学ぶ意義，２年間で学修するコミュニケーション分野の学びについて概観する	
第2回	自己理解 コミュニケーションにおける自己理解の重要性とその方法を学ぶ	
第3回	信頼関係の構築 コミュニケーションにおける信頼関係の構築の重要性とその方法を学ぶ	
第4回	傾聴と共感 傾聴と共感の重要性とその方法を学ぶ	
第5回	聞く技術 相談を受けるときの聞き方について学ぶ	
第6回	話を聞いてもらうための技術 相談したいときに話を聞いてもらうための方法について学ぶ	
第7回	非言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーションの種類と方法を学ぶ	
第8回	いろいろな手段によるコミュニケーション（1） 対面、手紙などによるコミュニケーションの特徴と工夫について学ぶ	
第9回	いろいろな手段によるコミュニケーション（2） 電話やオンラインなどによるコミュニケーションの特徴と工夫について学ぶ	
第10回	いろいろな手段によるコミュニケーション（3） 図表などによるコミュニケーションの特徴と工夫について学ぶ	
第11回	家族、親子とのコミュニケーション 家族、親子のコミュニケーションの特徴について発達も踏まえ学ぶ	
第12回	友人とのコミュニケーション 友人とのコミュニケーションの特徴について発達も踏まえ学ぶ	
第13回	組織におけるコミュニケーション 組織におけるコミュニケーションの特徴について学ぶ	
第14回	コミュニケーションの個人差 コミュニケーションの個人差，発達障害，現代的課題について学ぶ	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	70	授業内容の理解度を評価する。小テスト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で学ぶコミュニケーションの知識を自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること。
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
大学生の生活のためのソーシャルスキル	橋本 剛 著	サイエンス社	978-4-7819-1183-0	1，782円（税込）
聞く技術 聞いてもらう技術	東畑開人 著	ちくま新書	978-4-480-07509-3	2，860円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	コミュニケーションの基礎的な力を身に着けるために、臨床現場での経験（20年）を通し、コミュニケーションの基盤となるものや様々なコミュニケーション場面や方法について具体的に紹介し教えることができ、実生活や将来の仕事に活かすことができるコミュニケーションの知識やスキルを習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．コミュニケーションに関する基礎的内容について理解している。	コミュニケーションとは何か，どのように成り立つのかについて基礎的な知識を理解し、様々なコミュニケーション手段や、様々な人間関係におけるコミュニケーションについて理解している。	聞くこと、伝えることの基礎的内容を理解し、様々なコミュニケーション手段とその方法について理解している。	様々なコミュニケーション手段とその方法について理解している。	いくつかのコミュニケーション手段とその方法について理解している。	様々なコミュニケーション手段があることについて理解できていない。
思考・問題解決能力	１．コミュニケーションに関する基礎知識をもとに，実生活における人間関係について考えることができる。	コミュニケーションに関する基礎知識をもとに，実生活での様々な課題や想定される課題について状況に応じたコミュニケーションを通して改善を図ったり対応策を考えることができる。	コミュニケーションに関する基礎知識をもとに，身近な課題について状況に応じたコミュニケーションの方法を考えることができる。	実生活での人とのかかわりにおいて状況に応じたコミュニケーションの方法を考えることができる。	状況に応じたコミュニケーションの方法を考えることができるが、考えられる方法のバリエーションが少ない。	状況に応じたコミュニケーションの方法を考えることができない。
態度	１．コミュニケーションの重要性を理解し，自分の生活に照らして考えることができ、積極的に実践できる。	実生活のなかでコミュニケーションを通して良好な関係を築くことができ、さらには疑問点や困りごと相談したり、他者の相談を親身に聞いたりとコミュニケーションを積極的に活用しようという姿勢がある。	実生活のなかで周囲の人と必要に応じたコミュニケーションを積極的にとることができ、良好な関係を築こうとする姿勢がある。	コミュニケーションを通して良好な関係を築こうとする姿勢がある。	若干消極的ではあるがコミュニケーションを通して良好な関係を築こうとする姿勢がある。	コミュニケーションを通して良好な関係を築こうとする姿勢があまりない。

科目名	生活コミュニケーション演習 A 生活創造・医療事務コースの学生対象			授業番号	HG106C	サブタイトル			
教員	疋田 基道								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	コミュニケーションの基本として，他者の話を「聞く／聴く／訊く」ことに関する基礎的知識を身につける。情報を正確に聞きとることや，傾聴を通して相手の考えや気持ちを理解し援助すること，より積極的に対象を知るための適切な訊き方について学ぶ。表面的なスキルにとどまらず，真に相手を知り，理解しようとする姿勢を身につける。								
到達目標	・コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている ・ワークやディスカッションを通じて，様々なきき方の基本的スキルを身につけている。 ・コミュニケーションにおけるきくスキルを積極的に実生活に活かすことができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	いろいろなきき方ー聞くhear，聴くlisten，訊くinquire 様々な「きく」の特徴について学ぶ	
第2回	傾聴（listen）の重要性（１） 傾聴とは何か，その特徴とスキルについて学ぶ	
第3回	傾聴（listen）の重要性（２） 聴き上手になるためのスキルについて学ぶ	
第4回	傾聴の技法 傾聴の技法について具体的な事例を通して学ぶ	
第5回	傾聴訓練（1） 傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第6回	傾聴訓練（2） 傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第7回	傾聴訓練（3） 傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第8回	訊くこと（inquire）の重要性 訊くこと，質問の特徴とスキルについて学ぶ	
第9回	質問の技法 よい質問の特徴とスキルについて学ぶ	
第10回	質問訓練（1） 質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第11回	質問訓練（2） 質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第12回	質問訓練（3） 質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第13回	共感の重要性 共感するスキルについて学び，ワークに取り組み学びを深める	
第14回	伝える技術 伝える技術について学び，ワークに取り組み学びを深める	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	課題により授業内容の理解度・修得度を評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
対人援助の現場で使える聴く・伝える・共感する技術便利帖	大谷佳子	翔泳社	978-4-7981-5255-4	1800円＋税
対人援助の現場で使える質問する技術便利帖	大谷佳子	翔泳社	978-4-7981-5988-1	1800円＋税
プロカウンセラーの面接の技術	杉原保史	創元社	978-4-422-11813-0	1650円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	傾聴し相手の考えや気持ちを理解し援助することについて、臨床現場での経験（20年）を通し、その意義や方法について具体的に紹介し教えることができ、実生活や仕事に活かすことができるスキルを習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている。	コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけており、その知識をもとにどのような場面でどのようなきき方が望ましいか説明できる。	コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている。	様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている。	きき方に関する知識を身に着けているが、きき方の種類が限られる。	きき方に関する知識を身に着けていない。
思考・問題解決能力	１．様々なきき方の基本的スキルを身につけ、状況を踏まえて実生活での問題解決に活かすことができる。	ワークやディスカッションを通じて，様々なきき方のスキルを身につけ、他者との円滑なコミュニケーションがとれ、実生活や将来の仕事で想定される問題解決に活かすことができる。	様々なきき方のスキルを身につけ、状況に応じて他者の話のきき方を考えることができ、ワークや実生活でも活かすことができる。	様々なきき方の基本的スキルを身につけ、状況に応じて考えることができる。	様々なきき方の基本的スキルを身につけているが、実際の状況では柔軟に考えられない。	様々なきき方の基本的スキルが身についておらず、状況に応じて考えたり対処したりすることができない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し、積極的に自分の意見を言え、質問も行い、疑問を解決することができる。	演習内容を理解し、前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し、演習に参加することができる。	演習には参加しているが、発言や質問が少ない。	演習には参加しているが、受け身的に参加していることが多い。

科目名	生活コミュニケーション演習 A 生活福祉コースの学生対象			授業番号	HG106D	サブタイトル			
教員	疋田 基道								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	コミュニケーションの基本として，他者の話を「聞く／聴く／訊く」ことに関する基礎的知識を身につける。情報を正確に聞きとることや，傾聴を通して相手の考えや気持ちを理解し援助すること，より積極的に対象を知るための適切な訊き方について学ぶ。表面的なスキルにとどまらず，真に相手を知り，理解しようとする姿勢を身につける。								
到達目標	・コミュニケーションにおける聞くことの重要性を理解し，様々な聞き方に関する基礎的知識を身につけている ・ワークやディスカッションを通じて，様々な聞き方の基本的スキルを身につけている。 ・コミュニケーションにおける聞くスキルを積極的に実生活に活かすことができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	いろいろな聞き方ー聞くhear，聴くlisten，訊くinquire 様々な「聞く」の特徴について学ぶ	
第2回	傾聴（listen）の重要性（１） 傾聴とは何か，その特徴とスキルについて学ぶ	
第3回	傾聴（listen）の重要性（２） 聴き上手になるためのスキルについて学ぶ	
第4回	傾聴の技法 傾聴の技法について具体的な事例を通して学ぶ	
第5回	傾聴訓練（1） 傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第6回	傾聴訓練（2） 傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第7回	傾聴訓練（3） 傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第8回	訊くこと（inquire）の重要性 訊くこと，質問の特徴とスキルについて学ぶ	
第9回	質問の技法 よい質問の特徴とスキルについて学ぶ	
第10回	質問訓練（1） 質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第11回	質問訓練（2） 質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第12回	質問訓練（3） 質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第13回	共感の重要性 共感するスキルについて学び，ワークに取り組み学びを深める	
第14回	伝える技術 伝える技術について学び，ワークに取り組み学びを深める	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	課題により授業内容の理解度・修得度を評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
対人援助の現場で使える聴く・伝える・共感する技術便利帖	大谷佳子	翔泳社	978-4-7981-5255-4	1800円＋税
対人援助の現場で使える質問する技術便利帖	大谷佳子	翔泳社	978-4-7981-5988-1	1800円＋税
プロカウンセラーの面接の技術	杉原保史	創元社	978-4-422-11813-0	1650円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	傾聴し相手の考えや気持ちを理解し援助することについて、臨床現場での経験（20年）を通し、その意義や方法について具体的に紹介し教えることができ、実生活や仕事に活かすことができるスキルを習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている。	コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけており、その知識をもとにどのような場面でどのようなきき方が望ましいか説明できる。	コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている。	様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている。	きき方に関する知識を身に着けているが、きき方の種類が限られる。	きき方に関する知識を身に着けていない。
思考・問題解決能力	１．様々なきき方の基本的スキルを身につけ、状況を踏まえて実生活での問題解決に活かすことができる。	ワークやディスカッションを通じて，様々なきき方のスキルを身につけ、他者との円滑なコミュニケーションがとれ、実生活や将来の仕事で想定される問題解決に活かすことができる。	様々なきき方のスキルを身につけ、状況に応じて他者の話のきき方を考えることができ、ワークや実生活でも活かすことができる。	様々なきき方の基本的スキルを身につけ、状況に応じて考えることができる。	様々なきき方の基本的スキルを身につけているが、実際の状況では柔軟に考えられない。	様々なきき方の基本的スキルが身についておらず、状況に応じて考えたり対処したりすることができない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し、積極的に自分の意見を言え、質問も行い、疑問を解決することができる。	演習内容を理解し、前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し、演習に参加することができる。	演習には参加しているが、発言や質問が少ない。	演習には参加しているが、受け身的に参加していることが多い。

科目名	生活学概論Ｂ			授業番号	HG107	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。 この講義では、生活の構成する衣服,住居,消費,経済をとらえ,生活に関わる要素を理解し、自身の生活に活用できるような基礎知識を身につける。								
到達目標	衣服，住居,消費，経済の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれらの知識を利用することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	生活学とは：生活学の概要を学び,自身の現在の生活を把握する	
第2回	衣服から考える：「フランス人は10着しか服を持たない」から衣生活を考察する①	
第3回	衣服から考える：「フランス人は10着しか服を持たない」から衣生活を考察する②	
第4回	衣服から考える：社会的機能と保健衛生的機能について	
第5回	住居から考える：住まいの機能　住まいの役割	
第6回	住居から考える：世界の住まいと日本の住まい	
第7回	消費から考える：消費生活者と消費者の権利	
第8回	消費から考える：悪質商法から消費トラブルまで	
第9回	消費から考える：広告の表示と製品の安全性	
第10回	消費から考える：情報社会におけるトラブル	
第11回	経済から考える：くらしと経済における家計	
第12回	経済から考える：市場の働きと経済	
第13回	経済から考える：新たな貨幣の機能を理解するキャッシュレス経済	
第14回	経済から考える：社会保障制度の理解（社会保険，社会福祉，各種保険）	
第15回	経済から考える：豊かさと生活経済との関係	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。
レポート	40	最終的理解度を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	各講義の振り返りワークシートの提出。

評価の方法：自由記載	小テスト及び各講義の振り返りワークシートの提出と内容によって理解度を評価する。
受講の心得	
授業外学修	1．講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容について調べる事前学修を毎回行う。 2．事後学修として，講義時に配布された「レジュメ」を読み，講義で学んだ内容を整理し，理解するために復習を毎回行う。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。消費トラブルの教育・研修分野における講師，独立系保険代理店でのファイナンシャルプランナーとしての実績。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	アパレル販売員や繊維工場との共同自社製品開発でのデザインの実績と知識を活用して授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．衣服,住居,消費,経済をとらえ,生活に関わる要素を理解し、自身の生活に活用できるような基礎知識を身につける。	衣服，住居,消費，経済の基礎知識を十分に理解し、自身で発展的な学習ができる。それらの知識を活用することができる。	衣服，住居,消費，経済の基礎知識を十分に理解し、それらの知識を活用することができる。	衣服，住居,消費，経済の基礎知識を十分に理解している。	衣服，住居,消費，経済の基礎知識を十分に理解し切れていない。	衣服，住居,消費，経済の基礎知識を十分に理解していない。
思考・問題解決能力	1．レポートの精度	授業内容を理解し、自身で発展的に考え、他人が気がつかない観点で自分の考えを記述することができる。	授業内容を理解し、自身で発展的に考え、自分の考えを記述することができる。	授業内容を理解し、自分の考えを記述することができる。	授業内容全てを理解できてはないが、自分の考えを記述することができる。	授業内容全てを理解できておらず、自分の考えを整理出来ていない。
態度	1．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	ホスピタリティとマナー			授業番号	HG108	サブタイトル			
教員	仁宮 崇、韓 在都、加賀田 江里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	ホスピタリティは，笑顔で話す，温かい声かけをするだけでなく，相手の立場に立って考え，行動することが大切である。マナーは，相手の立場に立って考え，相手を不快にさせないためにあるものである。 人間が生活する中で，人と人との繋がりは必要不可欠であり，良好な人間関係を築いていく中でもホスピタリティおよびマナーは重要である。本科目は，人生をより良く豊かに生きるために，確実に身につけておきたいホスピタリティとマナーについて考えていく。								
到達目標	・各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識が理解できる。 ・ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることができる。 ・授業で学んだことを実践し，行動に繋げていくことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ホスピタリティとマナーを学ぶ意義：ホスピタリティとマナーの意味，なぜ学ぶ必要があるかについて理解する。 時間のマナー、ネットのマナーについても考える。	仁宮
第2回	食事のマナー：和食 箸の使い方を中心に和食における振る舞い方を考える。	加賀田
第3回	食事のマナー：洋食 洋食のテーブルマナーの基本について理解する。	加賀田
第4回	テーブルマナーの実践 ホテルに行き，実際に食事をしながら洋食のテーブルマナーを深く理解する。	加賀田 仁宮
第5回	人権とマナー：多様性を考える 様々な人権問題を知り，自身は人権をどのように考え，どのように振る舞うかを考える。	韓
第6回	訪問時・来客時のマナー 訪問するとき，来客をお迎えするときの基本的なマナーについて理解する。	加賀田
第7回	冠婚葬祭のマナー 冠婚葬祭で必要な基本的なマナーを理解する。	加賀田
第8回	マナー実践：マナーを守って相手の話を聴く。	仁宮
第9回	ホスピタリティの実践：好感・満足・感動～最高のホスピタリティとは何か～，ホスピタリティの3つのステップを理解する。	仁宮
第10回	ホスピタリティの意義：サービスとホスピタリティについて，事例をもとに意義について考える。	仁宮
第11回	対人関係とホスピタリティ（1）：電話・手紙・メール，ホスピタリティと日常使用する通信方法について考える。	仁宮
第12回	対人関係とホスピタリティ（2）：座席・立ち居振る舞い・身だしなみ，席次を理解した上でのホスピタリティ，相手をおもてなしする応対について学ぶ。	仁宮
第13回	ホスピタリティの事例（1）：ホスピタリティで有名な宿泊施設の事例を参考に，ホスピタリティの在り方について学ぶ。	仁宮
第14回	ホスピタリティの事例（2）：医療機関での接遇を例に医療現場でのホスピタリティの在り方について学ぶ。	仁宮
第15回	ホスピタリティとマナーのまとめ・小テスト：これまでの授業を振り返り，ホスピタリティとマナーをより身につけられるように日常生活に取り入れることを考える。	仁宮 加賀田
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	受講態度，提出する感想の量と質で評価する。
レポート	20	レポート課題の期限や指示を守って書いたかを評価する（韓・加賀田）。
小テスト	20	授業の理解度を評価する（仁宮）。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	【評価の方法1：種別】 授業への取り組みの姿勢／態度の内訳 4点×15回 合計60点 【評価の方法2：種別】 レポートの内訳 韓（担当回）：10点，加賀田（テーブルマナー講習会）：10点 合計20点
受講の心得	授業名通り，相手を不快にさせず，他者への気遣いを意識した受講態度で臨むこと。ホスピタリティもマナーも実践することに意味があるため，学んだことを日常生活でも取り入れること。
授業外学修	1. 授業で学んだホスピタリティ，マナーを日常生活の中で実践する。 2. サービスを受ける側になった際，サービス提供者の行動をみて，気くばりや心くばりを参考にする。 3. 発展学修として紹介した参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講義資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「ホスピタリティの教科書」あさ出版 「ホスピタリティ コミュニケーション力」日本医療企画 「レッツホスピタリティ」経済法令研究会
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識が理解できる。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識を大変よく理解している。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識を十分理解している。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識を理解している。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識の理解が不十分である。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識を理解していない。
思考・問題解決能力	1. ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることができる。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることが大変よくできている。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることが十分できている。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることができている。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることがあまりできていない。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることができていない。
態度	1. 授業で学んだことを実践し，行動に繋げていくことができる。	授業で学んだことを実践し，行動に繋げていくことが大変よくできている。	授業で学んだことを実践し，行動に繋げていくことが十分できている。	授業で学んだことを実践し，行動に繋げていくことができている。	授業で学んだことを実践し，行動に繋げていくことがあまりできていない。	授業で学んだことを実践し，行動に繋げていくことができていない。

科目名	生活学概論Ｃ			授業番号	HG110	サブタイトル			
教員	小築　康弘、韓　在都、仁宮　崇								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。生活学概論Cでは生活の中の住，介護，医療について学び，これらの基礎知識を身につけるのが，本講義の目的である。								
到達目標	・生活の中の「住」「介護」「医療」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	住居の機能 住居は住む場所であるのは当然であるが，その他の機能も含め理解する。	小築康弘
第2回	住まいの快適さ 住まいの快適さに関わる要因を理解する。	小築康弘
第3回	住まいの安全性 住居そのものの安全性，気候や災害に対する安全性を考える。	小築康弘
第4回	ライフサイクルと住生活 ライフステージにより，住生活に求める要件は変わることを理解する。	小築康弘
第5回	住環境 我々が住む場所の自然環境と住生活との関わりについて１年時に習った内容を再度考察する。	小築康弘
第6回	患者として知っておくべき医療制度 医療機関の特徴，診療費，かかりつけ医，患者として知っておくべきインフォームドコンセントやセカンドオピニオンといった用語について理解する。	仁宮　崇
第7回	救急車の適正利用と救命処置 救急医療の現状，救急車の適正利用，救命処置を知っておくことの必要性，熱中症対策について理解する。	仁宮　崇
第8回	身体に起こる不調：いわゆる「病気」「けが」など 「病気」「けが」と我々は気軽にいうが，実際にはどのような状態なのかを理解する。	小築康弘
第9回	病気やけがの治療 (1) 捻挫等のいわゆる「けが」の治療の実際を中心に考える。	小築康弘
第10回	病気やけがの治療 (2) いわゆる「風邪」などの感染症の治療の実際を中心に考える。	小築康弘
第11回	人権と正義 人権と倫理について学ぶ	韓　在都
第12回	笑顔と健康 人と触れ合うための教養について学ぶ	韓　在都
第13回	障害とICF 障害福祉の理念や制度について学ぶ	韓　在都
第14回	老化と認知症 老化や認知症の現状を学ぶ	韓　在都
第15回	介護を必要とする人の生活 生活のしづらさの理解とその支援について学ぶ	韓　在都
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	14	［韓・仁宮］受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート	8	［小築］予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	8	［小築］授業内容の復習テストにより，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	70	［小築・韓・仁宮］全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる「くせ」をつけること。
授業外学修	1．講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること 2．参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること 3．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 4．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 5．全授業終了後に定期試験があるため．その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
人と生活	「生活する力を育てる」ための研究会 編	建帛社	978-4-7679-1446-6	2000＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考	令和５年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	介護職員・訪問介護員（韓在郁），病院事務（仁宮崇）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設や医療現場等における経験をいかして指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．生活の中の「住」「介護」「医療」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない

科目名	生活学概論D			授業番号	HG111	サブタイトル			
教員	疋田 基道、加賀田 江里								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。本科目では，生活の主体として生きるために，生活の仕組みと営みを学び，変化し続ける生活構造や意識，それらに対応するために必要なライフスキル，生活設計等の理論を学ぶ。								
到達目標	・現代の生活構造・意識を理解し，その特徴を理解できる ・生活学の知識を基に，現代社会の問題やその解決方法について考えを深める。 ・家族・社会・環境との関連において，共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができる。 ・生活学の知識を用いて，主体的に生活設計に取り組むことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	受講者の興味関心に応じて，参考文献や配布資料を変え，内容を一部変更することもある。								

回	概要	担当
第1回	生活の主体としての生活者と生活環境（1） 主体的に生きるということについて理解する。	疋田
第2回	生活の主体としての生活者と生活環境（2） 主体的な生活者となるための考え方を理解する。	疋田
第3回	生活の主体としての生活者と生活環境 主体的な生活者となるための工夫、方法を理解する。	疋田
第4回	変化する生活構造と生活意識（1） ＩＣＴ技術等の発達と生活意識の変化を理解する	疋田
第5回	変化する生活構造と生活意識（2） 人とのつながりが希薄化している社会と生活意識の変化を理解する。	疋田
第6回	協働・共生のためのライフスキル（1） 多様な年代、多様な価値観とともに生きていくスキルを理解する。	疋田
第7回	協働・共生のためのライフスキル（2） 各役割が分化、専門化していくなかで協働するスキルを理解する。	疋田
第8回	変化の激しい社会の中で主体的に生きるために 変化が激しい社会の中で心の健康を保つための方法を理解する。	疋田
第9回	私たちと生活(1) 生活とは何か，生活を創る仕組みを理解する。	加賀田
第10回	私たちと食生活(1) 現代の食の問題点を理解する。	加賀田
第11回	私たちと食生活(2) 私たちの食を守る仕組みを理解する。	加賀田
第12回	私たちと循環型の生活 SDGsについて理解し，SDGsがどのように私たちの生活の中に存在しているのか理解する。	加賀田
第13回	私たちと生活(2) 私たちが生きていくうえで大切な健康と就業に関する事項を理解する。	加賀田
第14回	私たちと生活(3) 私たちの生活を守るための就業に関するルールを理解する。	加賀田
第15回	私たちと生活設計スキル 私たちの生活を設計するために必要な知識を理解する。	加賀田
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	70	授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容を自分自身の問題としてよく考えながら受講すること。
授業外学修	・授業中に紹介した参考文献を積極的に読む。 ・授業中に配布した資料を繰り返し読み、復習する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生活を創るライフスキルー生活経営論	内藤道子・中間美砂子他共著	建帛社	978-4-7696-1440-4	1800＋税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．現代の生活構造・意識を理解し，その特徴を理解できる。	生活の主体として生きるために生活の仕組みと営みを理解し，多様性や食、健康、就業等について、そして変化し続ける生活構造や意識，それらに対応するために必要なライフスキル，生活設計等についての知識がある。	生活の主体として生きるということについてや、現代の生活構造・意識について、生活にまつわるいくつかの視点からその特徴を理解できる。	生活の主体として生きるということについてや、現代の生活構造・意識について、その特徴を理解できる。	現代の生活構造・意識について、その特徴を理解できているが、実生活にあまり結びついていない。	現代の生活構造・意識について理解できていない。
思考・問題解決能力	１．生活学の知識を基に，現代社会の問題やその解決方法について考えを深める。	生活学の知識を基に，現代社会の問題や、将来起こりうる問題を想定でき、問題の原因を探り、様々な観点から解決方法を考える力がある。	生活学の知識を基に，現代社会の問題や、将来起こり得る問題を想定でき、その解決方法を考える力がある。	生活学の知識を基に，現代社会の問題やその解決方法について考えを深める力がある。	現代社会の問題やその解決方法について考えることができるが、根本的な解決策までには至らない。	現代社会の問題やその解決方法について考えることができない。
技能	１．家族・社会・環境との関連において，共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができる。	多くの人々と関わる技能や現代社会の様々な問題をとらえる技能があり、かつ、多くの価値観を理解し共に生きていく中で、自分自身の自己実現を目指すとともに、皆が持続可能な形で生活設計しそれを表現する技能がある。	多くの人々と関わる技能があり、家族・社会・環境との関連を自覚し、共生と自立を目指して心豊かな人生設計ができそれを表現できる技能がある。	家族・社会・環境との関連において，共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができ、そのことを言葉などで表現できる技能がある。	共生と自立を目指した生活設計ができるが、具体的な形で表現する技能がない。	家族・社会・環境との関連において，共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができない。
態度	１．生活学の知識を用いて，主体的に生活設計に取り組むことができる。	自分自身の生活設計に向け、生活学の知識を用いて自覚と責任をもって主体的に考え、現代社会の課題点を自ら捉え解決しようという態度がある。	自分自身の生活設計に向け、生活学の知識を用いて主体的に考えようとする態度がある。	主体的に生活設計に取り組もうとする態度がある。	主体的に生活設計に取り組もうとする態度があるが、持続的に取り組むことができない。	主体的に生活設計に取り組もうとする態度がない。

科目名	キャリア開発演習			授業番号	HG112	サブタイトル			
教員	加賀田　江里、韓　在都、仁宮　崇、疋田　基道								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	学生が主体的に進路選択し，積極的な姿勢で就職活動に取り組むために必要な知識の修得を行うことを目的としている。 学生が自らのキャリアデザインを描き、実現のために何が必要か、働く意味について考え，自己分析にて自己を知り，職務適正テストの実施，基本的な履歴書，エントリーシートの記載方法から，筆記試験，個人面接，グループ面接，グループディスカッション対策までを行う。また，随時に適切な就職情報も提供する。								
到達目標	1.働くことの意味を自ら考えて，キャリアデザインを描くことができる。 2.進路選択に必要な基本知識を身につけ，自ら情報収集ができる。 3.就職実践力の基礎能力を修得することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【第1回】スタートアップ就活準備 「働く」とは何か、「何のために働く」のか？、正規社員・非正規社員の働き方の違いについて学ぶ。	加賀田江里・就職支援センター
第2回	【第2回】適性診断の実施 Match plusを用いて、自分の適性を知る。	加賀田江里・就職支援センター
第3回	【第3階】就職活動と身だしなみ① 就職活動における身だしなみについて学ぶ。	加賀田江里・就職支援センター
第4回	【第4回】就職活動と身だしなみ② 就職活動におけるメイク方法について学ぶ。	加賀田江里・就職支援センター
第5回	【第5回】就職活動について学ぶ 先輩からのメッセージを聞き、就職活動を具体的にイメージする。	加賀田江里・就職支援センター
第6回	【第6回】求人票検索システムの使用準備と説明 求人票検索システムについて学ぶ。	加賀田江里・就職支援センター
第7回	【第7回】履歴書・エントリーシートについて① 履歴書やエントリーシートを書く時のポイントについて学ぶ。	加賀田江里・就職支援センター
第8回	【第8回】履歴書・エントリーシートについて② 前回の授業の説明をもとに実際に履歴書を記入する。	加賀田江里　韓在都　仁宮崇　疋田基道
第9回	【第9回】面接について 面接のマナーの基本を把握し，面接を理解する	加賀田江里・就職支援センター
第10回	【第10回】模擬面接の実施 模擬面接を実際に体験する。	加賀田江里　韓在都　仁宮崇　疋田基道
第11回	【第11回】グループディスカッションの基本と実践 グループディスカッションの基本について学び、実践する。	加賀田江里　韓在都　仁宮崇　疋田基道
第12回	仕事研究・インターンシップ 仕事やインターンシップについて学ぶ。	加賀田江里・就職支援センター
第13回	【第13回】求人票の見方 就職活動をする上で必要な求人票の見方について学ぶ。	加賀田江里・就職支援センター
第14回	【第14回】企業研究① 企業研究の方法について学ぶ。	加賀田江里・就職支援センター
第15回	【第15回】企業研究② 企業研究を行い、自分に合う企業について考える。	加賀田江里・就職支援センター
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度，討議への参加，復習の状況，就職ガイダンスの参加状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	履歴書・自己紹介書などの提出物によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの人生と職業について友人や家族と話し合う機会を持ち，積極的な姿勢で授業に臨むとともに，授業で指示する課題については，そのつど真剣に取り組むこと。
授業外学修	各授業で学んだ内容を整理し復習を毎回行うこと。（1時間以上）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	本学就職支援センター編『就活ガイドBOOK2024』（第１回授業時に配布予定）。加えて適宜プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．就職実践力の基礎能力を修得することができる。	就職活動に関する知識を十分に有している。	就職活動に関する知識を概ね有している。	就職活動に関する知識を有している。	就職活動に関する知識をやや有している。	就職活動に関する知識を有していない
知識・理解	２．グループワークに必要な知識を理解できている	常に周囲の人と積極的に関わり，バランス良く行動し,職場における協調性は十分である。	周囲の人と進んで関わる姿が見られ，協調性が感じられた。	グループワークに必要な内容を理解し一定程度の理解ができている	周囲の人とう関わろうとする努力は見えたが，取り立てて素晴らしいと言えるレベルではない。	積極的に人と関わろうとせず，孤立する場面が見られた。
知識・理解	３．自己分析にて自己を知り，基本的な履歴書・自己紹介書，エントリーシートの記載方法（就職実践力）を身につけることができている	就職実践力の知識の幅広い教養を十分に身についている	就職実践力の知識の内容を理解している	就職実践力の知識の内容を理解し一定程度の理解ができている	就職実践力の知識の内容を理解は不十分である	就職実践力の知識の内容を理解できていない
思考・問題解決能力	１．多くの職種や就職状況から進んで仕事を見つけることや就職実践力の諸問題について、自ら解決する能力を身につけることができる	期待以上に自ら進んで仕事を見つけ解決する場面が多々あった。	自ら進んで仕事を見つけ解決する場面があった。	仕事に向けた能力がある程度身についている	ある程度,問題に気づくことはできたが，自ら解決するには至っていない。	問題に気づくことができず，自ら課題を解決する場面はなかった。
技能	１．働くことの意味を自ら考えて，キャリアデザインを描くことができる	期待以上に主体的に取り組み，現場の求めるレベルに十分達している。	主体的に取り組み，現場の求めるレベルに達している。	キャリアデザインの内容を理解し一定程度の理解ができている	おおむね積極的に取り組んでいるが，場面によって物足りなさがある。	積極性に欠け，現場で通用するレベルには達していない。

科目名	生活情報演習A 生活創造・医療事務コースの学生対象			授業番号	HG202C	サブタイトル			
教員	石原 信也								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	マイクロソフトオフィススートのうちWordをワードプロセッサソフトとして使用し，ちらし，ビラ，ポスターなどの「一枚もの」からスタイル機能を使用した冊子の作成方法を明らかにする。								
到達目標	文章作成方法とページレイアウトを知り，Word固有の機能を使用した小冊子の編集が出来るようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考	課題は通常各回ごとに説明し，解説します．成果物（課題提出物）のチェックは演習時間中に巡回し行います．時間内に仕上がらず遅延した場合でもグーグルクラスルームに課題ごとに提出してください。								

回	概要	担当
第1回	PC操作の基礎・漢字変換の演習を行う. SPI等でも頻出する漢字を交えながら，難読漢字の入力を行う。IMEの基本的な４種類の入力方法，読みによる入力，部首による入力，全画数による入力，手描き入力を演習し，コピー，ペースト，取り消しなどのショートカットキーと単語の辞書登録を紹介する.	
第2回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，通知状・挨拶状・諾状を題材とした課題を作成する. 課題の作成を通じてワープロソフトの概略と局内ファイルサーバの紹介を行い，文章の入力，保存と呼び出しを演習する.	
第3回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，送付状・礼状を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて行や文字の選択，範囲選択，分離した範囲の選択を行い，それらの切り取り，コピー，ペースト，アンドゥ，リドゥ等のやり方を紹介し，IMEを有効に使用した入力の演習を行う。	
第4回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，依頼状・招待状を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて紙面全体に対しての改行幅やフォントサイズの調整方法，用紙サイズの変更方法を紹介し，改行幅・文字幅などの調整が行えるよう演習する.	
第5回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，見積書・請求書を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じてフォントの字体やファミリーを紹介し，文字装飾（太字・斜体・下線など）が行えるよう演習する.	
第6回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，注文書・納品書を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて線種，線幅の調整，枠内の文字の配置を説明し，罫線・枠線が使えるよう演習する.	
第7回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，稟議書・報告書を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じてワープロで使用する改行，使用しない空白を説明し，段落ごと，文字ごとの調整ができるよう演習する.	
第8回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，案内状・議事録を題材とした課題を作成する．スタイルの発想はホームページなどでのタグに類似していること，スタイルの使用によって文章の統一感や手直しに有効であることを紹介し，課題作成を通じてワードのスタイル機能の新規作成，適用，保存が使えるよう演習する.	
第9回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，社内報の作成を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて複数ページのレイアウト・設計方法を紹介し差し込み印刷を用いた出力と，文章のPDF演習を演習する.	
第10回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，ワードのテンプレート機能を使用したパンフレットの作成を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じてテキストボックスによる自由なレイアウトと枠，背景，内部テキストの書式設定と図形の利用を演習する.	
第11回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，テンプレートを離れてパンフレットの作成を題材とした課題を作成する．これは第10回の続きである. 課題作成を通じて画像の取り込みと縮尺の変更，トリミングを学習し，縦横比の変更を忌避する方法を紹介する．また画像の背景削除やぼかし，色味の変更などの可能や自由な配置が行う演習をする.	
第12回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，ポスター制作を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて，ワードアートなどのオフィスの機能でこれまで紹介していないものを紹介し演習する.	
第13回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，自由課題として，これまでの学習成果を使用した，あるいはまとめた文書を作成する. 他者の著作物についての敬意を払いながら自分のリソースと発想を形にする.	
第14回	自由課題として作成した成果物を相互に提示発表しあい，相互評価を行う．発表資料の作成過程で画面のキャプチャリング，パワーポイントでの図形編集（ワードより高機能である）を演習する.	
第15回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，スケジュール表を題材とした課題を作成する．単調で同様な項目の羅列であれば表計算ソフトを使用したほうが効率的であることを紹介し，ワードの限界と他のアプリケーションを使用したほうが良いケースを学習する. 発表の予備日程として，14回目に発表できなかったものの相互評価を行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	課題成果物及びそのプレゼンテーションについて，「正確性」「視認性」「独自性・創意性」「紙面要素のバランス」の４項目で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	課題成果物及びそのプレゼンテーションについて，学生による相互評価を行う。

評価の方法：自由記載	各演習課題の提示，提出，評価はグーグルクラスルームで行う．また，最終課題については相互評価も行う。 各演習日の提出でも出欠状況，課題達成状況の把握を行うが，出席については別途出席簿でも確認する。
受講の心得	演習科目のため，出席は特に重要である。
授業外学修	1.演習の準備として指示された素材を収集する。 2.発展学習として発表用のスライドなどを演習中に学習した技術を使って作成する。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用せず，必要なものはプリントして配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア 専門学校教職員
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験をいかして，私たちの生活に密着したワードプロセッサソフトの仕組みや機能を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．提出状況（演習時間中に作業に積極的に取り組み練習できたか。）	全ての課題が演習時間内に提出されている。	ほぼすべての課題が演習時間内に提出でき，全ての課題が提出できた。	全ての演習課題が提出できた。	提出時期に偏りがあるものの，多くの課題が提出できた。	2/3以下の提出しかできない。
知識・理解	２．文章作成方法とページレイアウトの理解	全ての演習項目に対し受講者自身の理解するとともに，周囲の者への伝搬ができた。（相互評価総合点の平均値が上位40%）	演習項目の多くのケースで積極的に自分の言葉で他者へ伝搬できた。（相互評価総合点の平均値が上位80%）	演習項目のうち理解の至らないものを他からの援助を得て達成した。	演習項目のうち理解の至らないものがある。	演習項目の多くに対して理解が至らない。
知識・理解	３．Word固有の機能を使用した小冊子の編集	デザインに優れ，印象的な作品を演習項目をふんだんに使用して達成した。（相互評価技術点の平均値が上位40%）	演習項目を使った作品を作った。（相互評価技術点の平均値が上位80%）	作品が提出・発表できた。	誰からも最終課題の評価が得られない，または他者の作品の評価ができない	最終課題の提出が困難であるか，不適当。

科目名	生活情報演習A 生活福祉コースの学生対象			授業番号	HG202D	サブタイトル			
教員	石原 信也								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	マイクロソフトオフィススートのうちWordをワードプロセッサソフトとして使用し，ちらし，ビラ，ポスターなどの「一枚もの」からスタイル機能を使用した冊子の作成方法を明らかにする。								
到達目標	文章作成方法とページレイアウトを知り，Word固有の機能を使用した小冊子の編集が出来るようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考	課題は通常各回ごとに説明し，解説します．成果物（課題提出物）のチェックは演習時間中に巡回し行います．時間内に仕上がらず遅延した場合でもグーグルクラスルームに課題ごとに提出してください。								

回	概要	担当
第1回	PC操作の基礎・漢字変換の演習を行う. SPI等でも頻出する漢字を交えながら，難読漢字の入力を行う。IMEの基本的な４種類の入力方法，読みによる入力，部首による入力，全画数による入力，手描き入力を演習し，コピー，ペースト，取り消しなどのショートカットキーと単語の辞書登録を紹介する.	
第2回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，通知状・挨拶状・諾状を題材とした課題を作成する. 課題の作成を通じてワープロソフトの概略と局内ファイルサーバの紹介を行い，文章の入力，保存と呼び出しを演習する.	
第3回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，送付状・礼状を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて行や文字の選択，範囲選択，分離した範囲の選択を行い，それらの切り取り，コピー，ペースト，アンドゥ，リドゥ等のやり方を紹介し，IMEを有効に使用した入力の演習を行う。	
第4回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，依頼状・招待状を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて紙面全体に対しての改行幅やフォントサイズの調整方法，用紙サイズの変更方法を紹介し，改行幅・文字幅などの調整が行えるよう演習する.	
第5回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，見積書・請求書を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じてフォントの字体やファミリーを紹介し，文字装飾（太字・斜体・下線など）が行えるよう演習する.	
第6回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，注文書・納品書を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて線種，線幅の調整，枠内の文字の配置を説明し，罫線・枠線が使えるよう演習する.	
第7回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，稟議書・報告書を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じてワープロで使用する改行，使用しない空白を説明し，段落ごと，文字ごとの調整ができるよう演習する.	
第8回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，案内状・議事録を題材とした課題を作成する．スタイルの発想はホームページなどでのタグに類似していること，スタイルの使用によって文章の統一感や手直しに有効であることを紹介し，課題作成を通じてワードのスタイル機能の新規作成，適用，保存が使えるよう演習する.	
第9回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，社内報の作成を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて複数ページのレイアウト・設計方法を紹介し差し込み印刷を用いた出力と，文章のPDF演習を演習する.	
第10回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，ワードのテンプレート機能を使用したパンフレットの作成を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じてテキストボックスによる自由なレイアウトと枠，背景，内部テキストの書式設定と図形の利用を演習する.	
第11回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，テンプレートを離れてパンフレットの作成を題材とした課題を作成する．これは第10回の続きである. 課題作成を通じて画像の取り込みと縮尺の変更，トリミングを学習し，縦横比の変更を忌避する方法を紹介する．また画像の背景削除やぼかし，色味の変更などの可能や自由な配置が行う演習をする.	
第12回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，ポスター制作を題材とした課題を作成する. 課題作成を通じて，ワードアートなどのオフィスの機能でこれまで紹介していないものを紹介し演習する.	
第13回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，自由課題として，これまでの学習成果を使用した，あるいはまとめた文書を作成する. 他者の著作物についての敬意を払いながら自分のリソースと発想を形にする.	
第14回	自由課題として作成した成果物を相互に提示発表しあい，相互評価を行う．発表資料の作成過程で画面のキャプチャリング，パワーポイントでの図形編集（ワードより高機能である）を演習する.	
第15回	ワードプロセッサソフトWordを使用し，スケジュール表を題材とした課題を作成する．単調で同様な項目の羅列であれば表計算ソフトを使用したほうが効率的であることを紹介し，ワードの限界と他のアプリケーションを使用したほうが良いケースを学習する. 発表の予備日程として，14回目に発表できなかったものの相互評価を行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	課題成果物及びそのプレゼンテーションについて，「正確性」「視認性」「独自性・創意性」「紙面要素のバランス」の４項目で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	課題成果物及びそのプレゼンテーションについて，学生による相互評価を行う。

評価の方法：自由記載	各演習課題の提示，提出，評価はグーグルクラスルームで行う．また，最終課題については相互評価も行う。 各演習日の提出でも出欠状況，課題達成状況の把握を行うが，出席については別途出席簿でも確認する。
受講の心得	演習科目のため，出席は特に重要である。
授業外学修	1.演習の準備として指示された素材を収集する。 2.発展学習として発表用のスライドなどを演習中に学習した技術を使って作成する。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用せず，必要なものはプリントして配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア 専門学校教職員
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験をいかして，私たちの生活に密着したワードプロセッサソフトの仕組みや機能を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．提出状況（演習時間中に作業に積極的に取り組み練習できたか。）	全ての課題が演習時間内に提出されている。	ほぼすべての課題が演習時間内に提出でき，全ての課題が提出できた。	全ての演習課題が提出できた。	提出時期に偏りがあるものの，多くの課題が提出できた。	2/3以下の提出しかできない。
知識・理解	２．文章作成方法とページレイアウトの理解	全ての演習項目に対し受講者自身の理解するとともに，周囲の者への伝搬ができた。（相互評価総合点の平均値が上位40%）	演習項目の多くのケースで積極的に自分の言葉で他者へ伝搬できた。（相互評価総合点の平均値が上位80%）	演習項目のうち理解の至らないものを他からの援助を得て達成した。	演習項目のうち理解の至らないものがある。	演習項目の多くに対して理解が至らない。
知識・理解	３．Word固有の機能を使用した小冊子の編集	デザインに優れ，印象的な作品を演習項目をふんだんに使用して達成した。（相互評価技術点の平均値が上位40%）	演習項目を使った作品を作った。（相互評価技術点の平均値が上位80%）	作品が提出・発表できた。	誰からも最終課題の評価が得られない，または他者の作品の評価ができない	最終課題の提出が困難であるか，不適当。

科目名	公衆衛生学			授業番号	HG203	サブタイトル			
教員	波多江　崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	公衆衛生学は，人びとを疾病から守り，健康の保持・増進をはかることを目的としており，管理栄養士などの医療・健康関連分野を専門とする人びとの基礎となる学問である。学習する内容は，母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と，地域保健，精神保健，環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで，広い範囲にわたっている。そのうちで，公衆衛生学1では，疫学，保健統計，社会保障の分野を中心に学習する。								
到達目標	・社会あるいは家庭において，人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる保健統計，疫学，社会保障の知識を身につける。 ・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集，分析，情報管理の方法を学び活用できる。 ・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での充分な実力を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	公衆衛生と健康の概念 「健康」・「公衆衛生」・「一次予防・二次予防・三次予防」・「ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ 」・「プライマリヘルスケア」・「ヘルスプロモーション」の定義と具体例を理解する。	
第2回	公衆衛生と健康の概念 「行動変容と意識変容」の定義，「行動変容ステージモデル」・「自己効力感」の意味と具体例を理解する。	
第3回	人口静態統計 国勢調査の概要とわが国における国勢調査の現状および経時的変化を理解する。	
第4回	人口動態統計 わが国における「出生」・「死亡」・「結婚」・「離婚」の現状および経時的変化を理解する。	
第5回	人口動態統計 「平均寿命」・「平均余命」・「健康寿命」の意味，わが国における現状および経時的変化を理解する。	
第6回	人口動態統計 「死因統計」の意味，わが国における現状および経時的変化を理解する。	
第7回	人口動態統計 「疾病統計」の意味，わが国における現状および経時的変化を理解する。	
第8回	社会保障と医療経済 わが国における社会保障制度の概要とそれに関連する専門用語を理解する。	
第9回	社会保障と医療経済 わが国における医療保障制度の概要とそれに関連する専門用語を理解する。	
第10回	社会保障と医療経済 わが国における医療保険制度と国民医療費の現状および経時的変化を理解する。	
第11回	地域保健 わが国における地域保健制度の変遷とそれに伴う法律の制定や改正を理解する。	
第12回	地域保健 健康日本21と健康増進法の概要を理解する。	
第13回	介護保険制度 わが国における介護保険制度の概要とそれに関連する専門用語を理解する。	
第14回	介護保険制度 わが国における介護サービスの概要とそれに関連する専門用語を理解する。	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。
授業外学修	(1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として，授業で作成したノートを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる2024-2025	医療情報科学研究所	メディックメディア		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．公衆衛生と健康の概念について説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	2．わが国の保健統計について説明できる。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の保健統計について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	3．わが国の社会保障制度について説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	4．わが国の地域保健制度について説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	5．わが国の介護保険制度について説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	6．わが国の国民健康増進施策について説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。

科目名	生活コミュニケーション演習 B 生活創造・医療事務コースの学生対象			授業番号	HG204C	サブタイトル			
教員	疋田 基道								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	コミュニケーションの基本として，「伝える，表現する」ことを学ぶ。相手に分かりやすい伝え方や，自分の意見を適切に表現するスキルについて学び，円滑な人間関係を構築・維持するためのスキルを身につける。会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を学ぶ。								
到達目標	・コミュニケーションにおける自己表現の重要性について説明できる ・様々な自己表現や伝え方のスキルの基礎が身についている ・コミュニケーションにおける伝えるスキルを積極的に実生活に活かすことができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	伝えること・表現することの基本 伝えること・表現することの基本とは何かについて学ぶ	
第2回	伝える工夫（1） うまく伝わらない状況を考え、分析する	
第3回	伝える工夫（2） いろいろなコミュニケーション手段を学ぶ	
第4回	伝える工夫（3） 説明の仕方の技術を学ぶ	
第5回	非言語的表現（1） 言葉以外の方法で伝える技術を学ぶ	
第6回	非言語的表現（2） 様々な非言語的表現について学ぶ	
第7回	書いて伝える（1） 書いて伝える技術を学ぶ	
第8回	書いて伝える（2） 書いて伝える技術を学ぶ	
第9回	分かりやすく伝える（1） 分かりやすい伝え方を学ぶ	
第10回	分かりやすく伝える（2） 分かりやすい伝え方を学ぶ	
第11回	図表で伝える（1） 図表で伝える技術を学ぶ	
第12回	図表で伝える（2） 図表で伝える技術を学ぶ	
第13回	話して伝える（1） 話して伝える技術を学ぶ	
第14回	話して伝える（2） 話して伝える技術を学ぶ	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	課題により，授業内容の理解度・修得度を評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
図解「伝える」技術 ルール10 話して伝える 書いて伝える 図表で伝える	藤沢晃治	講談社	978-4062134132	952円
対人援助の現場で使える言葉＜以外＞で伝える技術便利帖	大谷佳子	翔泳社	978-4-7981-7147-0	1800円＋税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	コミュニケーションにおける「伝える、表現する」力について、臨床現場での経験（20年）を通し、その意義や方法について具体的に紹介し教えることができ、実生活や将来の仕事に活かすことができるスキルを習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々な自己表現や伝え方の手段の知識がある。	コミュニケーションにおける自己表現の重要性について理解し、様々な自己表現や伝え方の手段を理解し、その方法や意義を他者に説明できる。	コミュニケーションにおける自己表現の重要性について理解し、様々な自己表現や伝え方の手段の知識がある。	様々な自己表現や伝え方の手段を理解している。	自己表現することができるが、伝える手段の知識が乏しい。	自己表現したり思いを伝える手段の知識がない。
思考・問題解決能力	１．会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考えることができる。	ワークやディスカッションにおいて会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考え、使い分け、実生活での問題解決に活かすことができる。	会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考え、状況や場面に応じた使い分けを考えることができる。	会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考えることができる。	表現の仕方を考えることができるが、考えられる手段の幅が限られている。	様々な表現の仕方を考えることができない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し、積極的に自分の意見を言え、質問も行い、疑問を解決することができる。	演習内容を理解し、前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し、演習に参加することができる。	演習には参加しているが、発言や質問が少ない。	演習には参加しているが、受け身的に参加していることが多い。

科目名	生活コミュニケーション演習 B 生活福祉コースの学生対象			授業番号	HG204D	サブタイトル			
教員	疋田 基道								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	コミュニケーションの基本として，「伝える，表現する」ことを学ぶ。相手に分かりやすい伝え方や，自分の意見を適切に表現するスキルについて学び，円滑な人間関係を構築・維持するためのスキルを身につける。会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を学ぶ。								
到達目標	・コミュニケーションにおける自己表現の重要性について説明できる ・様々な自己表現や伝え方のスキルの基礎が身についている ・コミュニケーションにおける伝えるスキルを積極的に実生活に活かすことができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	伝えること・表現することの基本 伝えること・表現することの基本とは何かについて学ぶ	
第2回	伝える工夫（1） うまく伝わらない状況を考え、分析する	
第3回	伝える工夫（2） いろいろなコミュニケーション手段を学ぶ	
第4回	伝える工夫（3） 説明の仕方の技術を学ぶ	
第5回	非言語的表現（1） 言葉以外の方法で伝える技術を学ぶ	
第6回	非言語的表現（2） 様々な非言語的表現について学ぶ	
第7回	書いて伝える（1） 書いて伝える技術を学ぶ	
第8回	書いて伝える（2） 書いて伝える技術を学ぶ	
第9回	分かりやすく伝える（1） 分かりやすい伝え方を学ぶ	
第10回	分かりやすく伝える（2） 分かりやすい伝え方を学ぶ	
第11回	図表で伝える（1） 図表で伝える技術を学ぶ	
第12回	図表で伝える（2） 図表で伝える技術を学ぶ	
第13回	話して伝える（1） 話して伝える技術を学ぶ	
第14回	話して伝える（2） 話して伝える技術を学ぶ	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	課題により，授業内容の理解度・修得度を評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
図解「伝える」技術 ルール10 話して伝える 書いて伝える 図表で伝える	藤沢晃治	講談社	978-4062134132	952円
対人援助の現場で使える言葉＜以外＞で伝える技術便利帖	大谷佳子	翔泳社	978-4-7981-7147-0	1800円＋税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	コミュニケーションにおける「伝える、表現する」力について、臨床現場での経験（20年）を通し、その意義や方法について具体的に紹介し教えることができ、実生活や将来の仕事に活かすことができるスキルを習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々な自己表現や伝え方の手段の知識がある。	コミュニケーションにおける自己表現の重要性について理解し、様々な自己表現や伝え方の手段を理解し、その方法や意義を他者に説明できる。	コミュニケーションにおける自己表現の重要性について理解し、様々な自己表現や伝え方の手段の知識がある。	様々な自己表現や伝え方の手段を理解している。	自己表現することができるが、伝える手段の知識が乏しい。	自己表現したり思いを伝える手段の知識がない。
思考・問題解決能力	１．会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考えることができる。	ワークやディスカッションにおいて会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考え、使い分け、実生活での問題解決に活かすことができる。	会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考え、状況や場面に応じた使い分けを考えることができる。	会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考えることができる。	表現の仕方を考えることができるが、考えられる手段の幅が限られている。	様々な表現の仕方を考えることができない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し、積極的に自分の意見を言え、質問も行い、疑問を解決することができる。	演習内容を理解し、前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し、演習に参加することができる。	演習には参加しているが、発言や質問が少ない。	演習には参加しているが、受け身的に参加していることが多い。

科目名	生活情報演習 B 1クラス			授業番号	HG205A	サブタイトル			
教員	石原 信也								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	マイクロソフトオフィススイートのうちExcelを表計算ソフトとして使用し，ビジネス文書の作成方法を明らかにする。 Microsoft Excelという表計算ソフトの基本操作及び応用操作を演習する。								
到達目標	表計算ソフトの機能や操作，Excel固有の機能を知り，実務でよく使われるビジネス文書（請求書，見積書，リスト，売上報告書，名簿など）が効率的に出来るようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	課題は通常各回ごとに説明し，解説します．成果物（課題提出物）のチェックは演習時間中に巡回し行います．時間内に仕上がらず遅延した場合でもグーグルクラスルームに課題ごとに提出してください。								

回	概要	担当
第1回	マイクロソフト社のワード，エクセル，パワーポイントについて起動しファイル作成を行う， ファイル作成を通じて3つのアプリ間の共通の機能，差異部分を紹介し，ディレクトリの移動，ファイル保存（全角・半角使用できない文字など）および課題提出の演習を行う.	
第2回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「日報」／「月報」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて文字の入力（大きさ，色の変更，消し方），画面の拡大・縮小，セルの結合など表の作り方の基本を演習する.	
第3回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「日報」／「月報」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて見出しの作成，色，罫線や列と行の挿入・削除，高さと幅の調整 文字位置の調整を演習する	
第4回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「積算書」／「集計表」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてSUM関数，AVERAGE関数MAX関数，MIN関数，COUNT関数などの簡単な関数を演習し，オートフィル，コピー・切り取り・貼付けを使おう(Ctrl+C, Ctrl+X，Ctrl+V)，1つ前に戻る方法(Ctrl+Z)を演習する	
第5回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「予定表」／「集計表」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてワークシートの作成や名称の変更を演習する	
第6回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「売上表」／「クロス集計表」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてデータの並び替え，フィルターの使用を演習する	
第7回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「集計表」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてシートとシートを跨いだ入力，集計を演習する	
第8回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「申込書」／「アンケート」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてテーブルツールの使用を演習する	
第9回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「推移表（棒グラフ）」／（折れ線グラフ）を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて単純なグラフ作成を演習する	
第10回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，（円グラフ）／（チャートグラフ）を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてグラフ作成（行列の入れ替え，データラベルのセルからの挿入）を演習する.	
第11回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「予約表（マクロ）」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてマクロの有用性を学習し，同時にセキュリティ上の脅威となることを理解する.	
第12回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「調査」／「名簿」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて多様な印刷機能とパスワード付の保存などファイルの特殊な保存を演習する	
第13回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「一覧」／「台帳」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて表示形式，条件付き書式を演習する	
第14回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「請求書」／「見積書」／「納品書」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてフラッシュフィル，重複の削除を演習する.	
第15回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルとプレゼンテーションソフトパワーポイントをを使用し，目的を持ったスケジュールフォーマットの作成を行い相互に発表する．作成と発表を通じて全体を振り返り学習の穴埋め演習を行う.	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	「必須」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	「応用」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。

評価の方法：自由記載	各演習課題の提示，提出，評価はグーグルクラスルームで行う．また，最終課題については相互評価も行う。 各演習日の提出でも出欠状況，課題達成状況の把握を行うが，出席については別途出席簿でも確認する。
受講の心得	演習科目のため，出席はとくに重要である。
授業外学修	1.予習として，授業内容にかかわる部分を参考図書，ネット（動画）等で調査し，疑問点を明らかにしておく. 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア 専門学校教職員
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験をいかして，私たちの生活に密着した表計算ソフトの仕組みや機能を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．提出状況（演習時間中に作業に積極的に取り組み練習できたか。）	全ての課題が演習時間内に提出されている。	ほぼすべての課題が演習時間内に提出でき，全ての課題が提出できた。	全ての演習課題が提出できた。	提出時期に偏りがあるものの，多くの課題が提出できた。	2/3以下の提出しかできない。
知識・理解	２．ビジネス文書が効率的に作成出来るようになる。	全ての演習項目に対し受講者自身の理解するとともに，周囲の者への伝搬ができた。（相互評価総合点の平均値が上位40%）	演習項目の多くのケースで積極的に自分の言葉で他者へ伝搬できた。（相互評価総合点の平均値が上位80%）	演習項目のうち理解の至らないものを他からの援助を得て達成した。	演習項目のうち理解の至らないものがある。	演習項目の多くに対して理解が至らない。
知識・理解	３．表計算ソフトの機能や操作，Excel固有の機能を知る。（自由テーマでのシート作成を最終課題作品とする。）	機能性に優れ，創意工夫のある作品を演習項目をふんだんに使用して達成した。（相互評価技術点の平均値が上位40%）	演習項目を使った作品を作った。（相互評価技術点の平均値が上位80%）	作品が提出・発表できた。	誰からも最終課題の評価が得られない，または他者の作品の評価ができない。	最終課題の提出が困難であるか，不適当。

科目名	生活情報演習 B 2クラス			授業番号	HG205B	サブタイトル			
教員	石原 信也								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	マイクロソフトオフィススイートのうちExcelを表計算ソフトとして使用し，ビジネス文書の作成方法を明らかにする。 Microsoft Excelという表計算ソフトの基本操作及び応用操作を演習する。								
到達目標	表計算ソフトの機能や操作，Excel固有の機能を知り，実務でよく使われるビジネス文書（請求書，見積書，リスト，売上報告書，名簿など）が効率的に出来るようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	課題は通常各回ごとに説明し，解説します．成果物（課題提出物）のチェックは演習時間中に巡回し行います．時間内に仕上がらず遅延した場合でもグーグルクラスルームに課題ごとに提出してください。								

回	概要	担当
第1回	マイクロソフト社のワード，エクセル，パワーポイントについて起動しファイル作成を行う， ファイル作成を通じて3つのアプリ間の共通の機能，差異部分を紹介し，ディレクトリの移動，ファイル保存（全角・半角使用できない文字など）および課題提出の演習を行う.	
第2回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「日報」／「月報」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて文字の入力（大きさ，色の変更，消し方），画面の拡大・縮小，セルの結合など表の作り方の基本を演習する.	
第3回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「日報」／「月報」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて見出しの作成，色，罫線や列と行の挿入・削除，高さと幅の調整 文字位置の調整を演習する	
第4回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「積算書」／「集計表」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてSUM関数，AVERAGE関数MAX関数，MIN関数，COUNT関数などの簡単な関数を演習し，オートフィル，コピー・切り取り・貼付けを使おう(Ctrl+C, Ctrl+X，Ctrl+V)，1つ前に戻る方法(Ctrl+Z)を演習する	
第5回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「予定表」／「集計表」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてワークシートの作成や名称の変更を演習する	
第6回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「売上表」／「クロス集計表」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてデータの並び替え，フィルターの使用を演習する	
第7回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「集計表」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてシートとシートを跨いだ入力，集計を演習する	
第8回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「申込書」／「アンケート」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてテーブルツールの使用を演習する	
第9回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「推移表（棒グラフ）」／（折れ線グラフ）を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて単純なグラフ作成を演習する	
第10回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，（円グラフ）／（チャートグラフ）を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてグラフ作成（行列の入れ替え，データラベルのセルからの挿入）を演習する.	
第11回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「予約表（マクロ）」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてマクロの有用性を学習し，同時にセキュリティ上の脅威となることを理解する.	
第12回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「調査」／「名簿」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて多様な印刷機能とパスワード付の保存などファイルの特殊な保存を演習する	
第13回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「一覧」／「台帳」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じて表示形式，条件付き書式を演習する	
第14回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルを使用し，「請求書」／「見積書」／「納品書」を題材としたファイルの作成を行う. ファイル作成を通じてフラッシュフィル，重複の削除を演習する.	
第15回	マイクロソフト社表計算ソフトエクセルとプレゼンテーションソフトパワーポイントをを使用し，目的を持ったスケジュールフォーマットの作成を行い相互に発表する．作成と発表を通じて全体を振り返り学習の穴埋め演習を行う.	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	「必須」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	「応用」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。

評価の方法：自由記載	各演習課題の提示，提出，評価はグーグルクラスルームで行う．また，最終課題については相互評価も行う。 各演習日の提出でも出欠状況，課題達成状況の把握を行うが，出席については別途出席簿でも確認する。
受講の心得	演習科目のため，出席はとくに重要である。
授業外学修	1.予習として，授業内容にかかわる部分を参考図書，ネット（動画）等で調査し，疑問点を明らかにしておく. 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア 専門学校教職員
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験をいかして，私たちの生活に密着した表計算ソフトの仕組みや機能を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．提出状況（演習時間中に作業に積極的に取り組み練習できたか。）	全ての課題が演習時間内に提出されている。	ほぼすべての課題が演習時間内に提出でき，全ての課題が提出できた。	全ての演習課題が提出できた。	提出時期に偏りがあるものの，多くの課題が提出できた。	2/3以下の提出しかできない。
知識・理解	２．ビジネス文書が効率的に作成出来るようになる。	全ての演習項目に対し受講者自身の理解するとともに，周囲の者への伝搬ができた。（相互評価総合点の平均値が上位40%）	演習項目の多くのケースで積極的に自分の言葉で他者へ伝搬できた。（相互評価総合点の平均値が上位80%）	演習項目のうち理解の至らないものを他からの援助を得て達成した。	演習項目のうち理解の至らないものがある。	演習項目の多くに対して理解が至らない。
知識・理解	３．表計算ソフトの機能や操作，Excel固有の機能を知る。（自由テーマでのシート作成を最終課題作品とする。）	機能性に優れ，創意工夫のある作品を演習項目をふんだんに使用して達成した。（相互評価技術点の平均値が上位40%）	演習項目を使った作品を作った。（相互評価技術点の平均値が上位80%）	作品が提出・発表できた。	誰からも最終課題の評価が得られない，または他者の作品の評価ができない。	最終課題の提出が困難であるか，不適当。

科目名	生活コミュニケーション演習C			授業番号	HG206	サブタイトル			
教員	疋田 基道								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	コミュニケーションについて理解を深め，スキルを育むためには，「自分を知る」ことが大切である。自己理解を深めることは，自分と異なる存在である他者を理解し，互いに尊重し合うための基盤となる。この演習では，様々なワークやグループディスカッションを通じて自己理解を深め，他者との関係や社会の中で自分を生かすためにはどうすればよいか考える。								
到達目標	・コミュニケーションにおける自己理解の重要性や，自己理解の枠組みを説明できる ・ワークやディスカッションを通じて自己理解を深めている ・自己理解を深め，他者への理解やコミュニケーションに活かすことができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	コミュニケーションにおける自己理解の重要性 文学、映画などの作品を通して，自己理解の重要性について学ぶ	
第2回	「好き」から捉える自己について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第3回	自己像を描くためのワークに取り組み，学びを深める	
第4回	自己肯定感を育むためのワークに取り組み，学びを深める	
第5回	他者から見た自分ー心の窓について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第6回	自分の価値観を知るためのワークに取り組み，学びを深める	
第7回	自我状態を知るー心理検査について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第8回	自分の感情を知るためのワークに取り組み，学びを深める	
第9回	自分のストレスと対処法について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第10回	自分の性格を知るためのワークに取り組み，学びを深める	
第11回	対人関係地図ー自分をとりまく人間関係について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第12回	友人関係と自分について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第13回	自分の時間を見つめなおすためのワークに取り組み，学びを深める	
第14回	未来の自分を描くためのワークに取り組み，学びを深める	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	課題により，授業内容の理解度・修得度を評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・テキストや配布資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学生・高校生・大学生のための自己理解ワーク	丹治光浩	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0543-0	1600円+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	自分を知ることを通して、自分を表現し伝えるコミュニケーションの力が培われていくことを、臨床現場での経験（20年）から具体的に紹介し指導することができ、コミュニケーションの知識と自分について考える力、コミュニケーションの力を習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解できている。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解し、自分の性格や感情等々自己理解を深めることができる。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法が分かる。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解できる。	コミュニケーションの重要性は理解できるが、自己理解が不十分である。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性が理解できない。
思考・問題解決能力	１．自己理解を深め，コミュニケーションに活かすことができる。	自己理解を深め，他者との関係や社会の中で自分を生かすためにはどうすればよいか考えることができ、グループワークや実生活で実践できる。	自己理解を深め，他者との関係や社会の中で自分を生かすためにはどうすればよいか考えることができる。	自己理解を深め，コミュニケーションに活かすことができる。	他者との情報のやりとりはできるが、自分の思いや感情の表現が少ない。	自分を知り、自分の思いや感情を他者に伝えることができない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し、積極的に自分の意見を言え、質問も行い、疑問を解決することができる。	演習内容を理解し、前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し、演習に参加することができる。	演習には参加しているが、発言や質問が少ない。	演習には参加しているが、受け身的に参加していることが多い。

科目名	生活コミュニケーション演習D			授業番号	HG207	サブタイトル			
教員	疋田 基道								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	集団や組織での問題解決，ディスカッションに関して実践的に学ぶ。具体的には，グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。 自分の意見を持ち，他者に分かりやすく伝える力や，他者の意見に耳を傾け，人間の考えの個人差や多様性について理解するということを体験的に学ぶ。 また，幅広いテーマを取り上げることを通して，豊かなコミュニケーションの素地となる教養を豊かなものにしていくことも目指す。								
到達目標	・集団や組織における問題解決ついて説明できる ・コミュニケーションにおいて伝達される意志・感情・思考などの「情報」の重要性を理解している。 ・自分の意見を持ち，他者に伝わるように述べることができる ・人間の考え方の個人差や多様性を理解できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	集団・組織におけるコミュニケーション（1） ディベートのねらいと方法について学ぶ	
第2回	集団・組織におけるコミュニケーション（2） ディベートのねらいと方法について学ぶ	
第3回	集団・組織におけるコミュニケーション（3） 映画等の作品を通して，集団・組織における問題解決について学ぶ	
第4回	集団・組織におけるコミュニケーション（4） 映画等の作品を通して，集団・組織における問題解決について学ぶ	
第5回	集団・組織におけるコミュニケーション（5） コンセンサスゲームを体験し，集団・組織におけるコミュニケーションの特徴を学ぶ	
第6回	ディベート（1）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第7回	ディベート（2）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第8回	ディベート（3）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第9回	ディベート（4）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第10回	ディベート（5）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第11回	ディベート（6）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第12回	ディベート（7）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第13回	ディベート（8）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第14回	ディベート（9）グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第15回	総括：学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	70	授業内容の理解度・修得度を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	ディベートの発表内容により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ディベートに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	集団や組織で問題を解決していく力について、これまでの臨床経験（20年）を通し、自分の意見を持ちそれを他者に分かりやすく伝えることや、他者の意見や気持ちを理解し、問題を解決していく方法や意義ついて伝えることができ、様々な問題に他者と協力して対応していく力を習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．集団や組織における問題解決について理解でき、コミュニケーションにおいて伝達される意志・感情・思考などの「情報」の重要性を理解できる。	集団や組織における問題解決の知識を習得し、相手の意志・感情・思考の重要性を理解し、複数の意見があることを理解できる。	集団や組織における問題解決の方法や重要性を十分に理解し、詳しく説明することができる。	集団や組織における問題解決の方法や重要性を理解している。	集団や組織における問題解決の重要性を理解しているが、その方法までは十分理解できていない。	集団や組織における問題解決の方法や重要性を理解していない。
思考・問題解決能力	１．自分の意見を持ち，ディベートやディスカッションの中で，他者に伝わるように述べる力がある。	ディベートやディスカッションの中で，自分の意見を他者に伝わるように述べる力があり、他者の意見を尊重しながら、合意形成を図ることができる。	ディベートやディスカッションの中で，他者の意見を理解したうえで、自分の意見を他者に伝わるように述べる力がある。	ディベートやディスカッションの中で，自分の意見を他者に伝わるように述べる力がある。	ディベートやディスカッションの中で，やや消極的ではあるが自分の意見を述べることができる。	ディベートやディスカッションの中で，自分の意見を述べることができない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し、積極的に自分の意見を言え、質問も行い、疑問を解決することができる。	演習内容を理解し、前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し、演習に参加することができる。	演習には参加しているが、発言や質問が少ない。	演習には参加しているが、受け身的に参加していることが多い。

科目名	メンタルヘルス学			授業番号	HG208	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代はストレス社会であり，ストレスは日常生活，社会で働く上で向き合わなければならない問題である。メンタルヘルス不調を未然に防止するため，ストレスやセルフケアに関する知識，自分に合ったストレス解消方法を身に付ける。これから社会に出る者としてのストレス対処能力を考えていく。 また，この科目は「メンタルヘルス・マネジメント®検定III種」合格を目指す授業でもあり，受験申込者数が10名以上になれば団体特別試験として本学で受験することが可能になる。本学で試験を実施する場合は1月下旬の休日を試験日とする予定である。								
到達目標	・ストレスと心身の健康との関連性を理解できる。 ・自らのストレスの状況を把握できる。 ・メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を身に付ける。 ・自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	メンタルヘルスの基礎知識：メンタルヘルスの基礎知識，ストレスチェック制度について理解する。	
第2回	メンタルヘルスケアの意義：労働者のストレスの現状，メンタルヘルスケアの方針と計画について理解する。	
第3回	ストレスの基礎知識（1）ストレスについて，ストレスによる健康障害のメカニズム，産業ストレスについて理解する。	
第4回	ストレスの基礎知識（2）ライフサイクル，女性労働，雇用形態とストレス，ワーク・エンゲイジメントについて理解する。	
第5回	メンタルヘルスの基礎知識：メンタルヘルスの不調，様々な精神疾患・心身症について理解する。	
第6回	心の健康問題の正しい態度：心の健康問題は自分とは関係ないという誤解，睡眠を削って残業をがんばるのは"美徳"という誤解，その他の誤解と対策について理解する。	
第7回	セルフケアの重要性：過重労働の健康への影響，自己保険義務，早期対処の重要性について理解する。	
第8回	ストレスへの気づき方：注意すべきリスク要因，仕事以外のストレス，自分の変化に気づく，ストレスのセルフチェックについて理解する。	
第9回	ストレスへの対処（1）：ストレスの軽減方法，休養・睡眠，運動・食事等，生活におけるストレス対処について理解する。	
第10回	ストレスへの対処（2）：ソーシャルサポート，コーピングの知識について理解する。	
第11回	ストレスへの対処（3）：コーピング活用方法について理解する。	
第12回	自発的な相談の有用性：コミュニケーション・スキル，話すことの意味（カウンセリングの意味），同僚のケアについて理解する。	
第13回	社内外資源の活用（1）：相談できるスタッフの種類と特徴，相談窓口について理解する。	
第14回	社内外資源の活用（2）：専門相談機関の知識，医療機関の種類と選び方，受診のポイント，治療の実際について理解する。	
第15回	歴史上の人物から学ぶストレス対処：メンタルヘルスに関する歴史上の人物の考え方や言葉 を読み，これからのストレス対策に繋げる。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	10	課題への取り組み，完成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ストレスに関する専門用語が多く出るため，自分で調べて理解する習慣が必要である。学んだストレス対策に効果があるかも検証する必要があるため，実践すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，教科書を読み返し，課題や問題演習に取り組む。 3. メンタルヘルスに関する新聞記事やホームページを読む習慣をもつ。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキストIII種 セルフケアコース 第５版	大阪商工会議所	中央経済社	978-4-502-38831-6	2，000円 + 税
メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種セルフケアコース過去問題集 ２０２４年度版	春日　未歩子	中央経済社	978-4-502-51131-8	1，900円 + 税
使用テキスト：自由記載	講義資料			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	ストレスに負けない技術−コーピングで仕事も人生もうまくいく！(日本実業出版社)　マンガでわかりやすい ストレス・マネジメント−ストレスを味方にする心理術(きずな出版)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス（コミュニケーション編）(DVD：第一法規)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス対策 未然予防 セルフケア編(DVD：第一法規)			
その他				
備考	※メンタルヘルス・マネジメント®検定は大阪商工会議所の登録商標です。			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ストレスと心身の健康との関連性を理解できる。	ストレスと心身の健康との関連性を大変よく理解している。	ストレスと心身の健康との関連性を十分理解している。	ストレスと心身の健康との関連性を理解している。	ストレスと心身の健康との関連性の理解が不十分である。	ストレスと心身の健康との関連性を理解していない。
知識・理解	2. メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を身に付ける。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を大変よく身に付けている。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識が十分身に付けている。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を身に付けている。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識の身に付きが不十分である。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識が身に付いていない。
思考・問題解決能力	1. 自らのストレスの状況を把握できる。	自らのストレスの状況を大変よく把握できる。	自らのストレスの状況を十分把握できる。	自らのストレスの状況を把握できる。	自らのストレスの状況の把握が不十分である。	自らのストレスの状況の把握ができない。
思考・問題解決能力	2. 自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができる。	自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することが大変よくできている。	自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することが十分できている。	自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができている。	自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することがあまりできていない。	自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができていない。

科目名	総合生活学セミナーA			授業番号	HG301	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本セミナーでは，「食とインターネット」をテーマに演習を行う。具体的には，国立健康・栄養研究所のホームページなど有用なホームページやデータベースを利用し，世に広まる様々な食の情報の信用度について考察する授業である。								
到達目標	・インターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	Google，Google Scholar，国立健康・栄養研究所のホームページ，「健康食品」の安全性・有効性情報（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所），厚生労働省のホームページなどの使い方を学ぶとともに，授業毎に立てられるテーマに関する情報をそれらホームページから収集する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	情報収集に対する積極性を評価する。
レポート	40	授業毎の収集結果を評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本セミナーは，情報端末を操作し，情報を収集する。時を無意味に過ごすことなく，情報収集の手段や情報の質の判定のために大事な時を当ててほしい。 スマートフォンを活用するので，本機器を所有していることが望ましい。
授業外学修	・普段から気にしている「食」の情報をインターネットで調べる 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．インターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる	授業で習うインターネット活用法を高いレベルで実践できる	授業で習うインターネット活用法を実践できる	授業で習うインターネット活用法の大半を実践できる	授業で習うインターネット活用法の数個を実践できる	授業で習うインターネット活用法を実践できない
技能	1．インターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる	一人でもインターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる	一人でもインターネットを活用し，「食」に関する情報を集めることができる	周りの人と協力し、インターネットを活用し，「食」に関する情報を集めることができる	周りの助けがあっても、インターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることに困難が伴う	情報を集められない

科目名	総合生活学セミナーB			授業番号	HG302	サブタイトル			
教員	疋田 基道								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	心理学とは，科学的な手法と枠組みを用いて心について理解する学問である。この授業では，近年，心理学分野で注目されている「レジリエンス」についてとりあげ，文献講読を通して理解を深める。具体的には，指定テキストを分担して発表し，自由に感じたことや考えたことを述べあい，ディスカッションを行う。								
到達目標	・心理学の基礎およびレジリエンスの概念について説明できる ・文献講読とディスカッションを通して，自分の考えを深めることができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科学としての心理学，文献購読の狙いと方法について説明する	
第2回	心理学文献講読（1）レジリエンスとは 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第3回	心理学文献講読（2）危険因子と保護因子 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第4回	心理学文献講読（3）レジリエンスの測定 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第5回	心理学文献講読（4）レジリエンスに関連する心理特性 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第6回	心理学文献講読（5）臨床場面でのレジリエンス 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第7回	心理学文献講読（6）教育場面でのレジリエンス 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第8回	心理学文献講読（7）レジリエンス介入の試み 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第9回	心理学文献講読（8）養育とレジリエンス 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第10回	心理学文献講読（9）レジリエンスと人間関係 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第11回	心理学文献講読（10）レジリエンスとライフキャリア 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第12回	心理学文献講読（11）レジリエンスと身体活動・スポーツ 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第13回	心理学文献講読（12）レジリエンスと生涯発達 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第14回	心理学文献講読（13）レジリエンスと社会 担当者が資料を準備して発表を行い，それにもとづいて全体ディスカッションを行う	
第15回	総括：学んできた内容を振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度，ディスカッションへの貢献度で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	発表内容により，理解度等を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・文献講読に意欲的に取り組むこと ・ディスカッションに積極的に参加すること
授業外学修	・関連図書や関連資料をもとに予習・復習をすること 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
レジリエンスの心理学	小塩真司・平野真理・上野雄己	金子書房	978-4-7608-3834-9	1900円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤、16年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学生がレジリエンスを学ぶため、臨床現場での経験（20年）から様々な場面や年代での特徴と対応を具体的に紹介、検討することができ、レジリエンスの理解と実践に即した対応を考える力を習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．レジリエンスの概念について理解できている。	レジリエンスについて関連する様々な心理特性、要因も含めて深く理解している。	レジリエンスについて他の要因とも関連付けて理解できる。	レジリエンスについて基本的な知識を理解している。	レジリエンスについて理解しているが、どのような要因と関連しているのか十分に理解できていない。	レジリエンスについて理解できていない。
思考・問題解決能力	1．レジリエンスを高めるために必要なことについて日常生活や教育、対人援助等の場面ごとに考えることができる	自他のレジリエンスを高めるために必要なことについて具体的な多くの場面について課題を見つけて自ら多面的に考えることができる。	レジリエンスを高めるために必要なことについて、具体的な場面での対応について複数考えることができる。	レジリエンスを高めるために必要なことについて複数の案を考えることができる。	レジリエンスを高めるために必要なことについて考えることができる。	レジリエンスを高めるために必要なことについて考えることができない。

科目名	総合生活学セミナーC			授業番号	HG303	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	グラフィックソフト（Adobe Photoshop・Adobe Illustrator）にて，画像処理の効果や技術，イラスト作成方法などを学び，フリー素材を活用しながら，オリジナル名刺，オリジナルＣＤジャケットを作成後，Adobe Premiere Proにて簡単な動画編集までを学修する。								
到達目標	グラフィックソフト，動画ソフト，プレゼンテーションソフトの基本的な技法について操作ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Adobe Photoshopにていろいろな効果を楽しむ	
第2回	着色展開（Adobe Photoshop）	
第3回	画像処理方法（Adobe Photoshop）	
第4回	名刺作成（Adobe Illustrator）	
第5回	ＣＤジャケット作成（Adobe Illustrator）	
第6回	ＣＤジャケット仕上げ（Adobe Illustrator）	
第7回	パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備	
第8回	パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備	
第9回	パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備	
第10回	プレゼンテーションの動画撮影	
第11回	動画ファイルを読み込み後，タイトルを入れる（Adobe Premiere Pro）	
第12回	動画の分割や不要な部分を削除する（Adobe Premiere Pro）	
第13回	音楽ファイルを読み込みBGMを設定する（Adobe Premiere Pro）	
第14回	タイトル／クレジットを入れる（Adobe Premiere Pro）	
第15回	データをＣＤ－Ｒに焼き付けてオリジナルＣＤを完成させる	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	積極的に実習に臨み各ソフトの特徴を理解して制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	・制作物（40%）制作物については，創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）を評価基準とする。・作品発表（20%）「説得力」「独創性」「倫理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常生活の中で見るポスター，ディスプレイ，チラシなどのデザインは，どのようなソフトで制作されているかを観察し，興味を持つこと。
授業外学修	課題に沿ったソフトの操作方法や技法などの配布資料を一読して，事前学修として知識を深めておくこと。（週1時間以上）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	名刺やリーフレット等のデザインを行なった経験を生かして授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．Adobe グラフィックソフトに関する基礎的な知識を修得している。	授業以上に自身で理解を深め、Adobe グラフィックソフトに関する基礎知識を身に付け、応用できる。	授業以上に自身で理解を深め、Adobe グラフィックソフトに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し、Adobe グラフィックソフトに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが、基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
知識・理解	2．制作における手順を理解出来ている。	制作の手順を理解し、制作工程の内容を踏まえて自身で工夫ができている。	制作の手順を理解し、制作工程の内容を深く理解できている。	制作の手順を理解し、制作工程の理解できている。	制作手順は理解出来ているが、十分に成果に反映されていない。	制作の手順が理解できていない。
技能	1．Adobe グラフィックソフトの基礎的な知識を習得する。	積極的に課題に取り組み、授業で学んだことを習得する。授業以上の制作にも自身で取り組み、様々なソフトの長所を活用し、デザイン制作ができるようになる。	積極的に課題に取り組み、授業で学んだことを習得する。様々なソフトの長所を活用し、デザイン制作ができるようになる。	様々なソフトの長所を活用し、デザイン制作ができるようになる。	様々なソフトを理解できているが、デザイン制作までに生かし切れない。	ソフトを理解できていない。
態度	1．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	総合生活学セミナーD			授業番号	HG304	サブタイトル			
教員	小築 康弘								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本セミナーは，世に広まるダイエット法について受講者個人及びグループで考察する授業である。ダイエット（diet）とは，本来『（通常の）食事』を表す言葉であったが，そこから次第に食餌療法・食餌制限の意味でも使われるようになった言葉である。本セミナーでは，この食餌療法・食餌制限の概念を意識し，『食事と減量』という観点から世に広まるダイエット法について考察する。								
到達目標	・様々なダイエット法を批判的に考察できる ・ダイエットに対する自身の概念を構築できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	毎回の授業で，ダイエット法に対する情報を理解する。 複数のダイエット法を理解したのち，それら情報に基づき複数人で議論または個人で熟考することにより，ある条件に対するダイエット法を考える。 ダイエット法の情報については，原則的に教員が準備するが，受講者からの提案があれば，全員で議論した後に，採用する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業への積極的な参加を評価する。
レポート	40	ダイエットに対する自身の考えを評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	情報を鵜呑みにする精神を求めない。本授業の担当者である小築に対しても例外ではなく、情報に対して批判的に評価することを望む。
授業外学修	・世の中に広がる様々なダイエット法に注目し，「言われていることは本当だろうか？」と批判的に分析する 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ダイエットに対する自身の概念を構築できる	情報機器を使いこなし、外国語の情報にもアクセスし、理解しようと試み、自身のダイエットの概念を深めることができる	自らも情報を取り入れ、自身のダイエットの概念を深めることができる	与えられた情報を理解し、自身のダイエットの概念を構築できる	与えられた情報であるにもかかわらず理解が浅いが、自身のダイエットの概念を構築できる	自身のダイエットの概念が構築できない
思考・問題解決能力	1．様々なダイエット法を批判的に考察できる	周りとの意見交換も活かし、批判的にダイエット法を評価できる	周りとの意見交換を試みることで、批判的にダイエット法を評価できる	情報を鵜呑みにせずに、批判的にダイエット法を評価できる	情報を鵜呑みする傾向もあるが、批判的にダイエット法を評価しようと試みている	批判的に評価することができない
態度	1．様々なダイエット法を批判的に考察できる	継続的にテーマに取り組み、新たな情報を手に入れ、ダイエット法を考察できる	継続的にテーマに取り組み、新たな情報を手に入れようと試み、ダイエット法を考察できる	継続的にテーマに取り組み、ダイエット法を考察できる	ダイエット法を考察できる	ダイエット法を考察できない

科目名	総合生活学セミナーE			授業番号	HG305	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ファッションショーの企画や演出までをプロモーションする。本セミナーでは，実際に企画，演出，撮影までも行う。ファッションショーの運営企画には，演出・構成，ポスター，チラシ制作，スタイリスト，音響・映像，照明，広報，台本製作，プログラム，パンフレット制作，記録，モデル，フィッター，情報・コンピューター担当，商品管理，作品管理，衣装作成，受付，設営，ナレーターなど多様であるが，各自が関心のあるテーマを決めて，ポスター，台本制作，設営イメージ，音響企画，進行イメージマップを作成し，ファッションショーのイメージを企画，プランニングする。企画書やイメージマップの制作は，Adobe Photoshopにて，イメージを形にしてビジュアル表現までを行う。								
到達目標	ファッションショーの企画と手順を理解しプロモーションすることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ファッションショーとは	
第2回	ファッションと演出	
第3回	空間,照明,音響効果 デザインアイテム，カラー展開，企画書作成	
第4回	映像効果.舞台効果 演出設定とファッションショーの企画，ポスターの写真撮影	
第5回	ターゲット設定・サブテーマ，コンセプト設定 イメージポスターの制作	
第6回	ファッションショーイメージをマップ表現	
第7回	プログラム構成①	
第8回	プログラム構成②	
第9回	舞台構成	
第10回	ウォーキング構成	
第11回	照明・音響	
第12回	イメージポスターの制作	
第13回	プロモーション展開とシミュレーションファッションショーの準備	
第14回	シミュレーションファッションショーを音楽ホールにて開催	
第15回	動画編集（Adobe Premiere Pro）にてプレゼンテーション	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	プライズメイドコーディネイトとファッションショーのプランニングにおける制作意図を理解し，積極的に取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	60	制作物については，ファッションショーの企画イメージマップをイメージ通りに表現することができているか。企画・デザイン・演出・舞台等のプロセスを構成し，プロデュース力・企画力・独創性の3点に点数をつけて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	インターネット，ファッション雑誌などの各メディアを参考にして，企画したいコーディネイトやファッションショーをイメージしておくこと。
授業外学修	事前学修として，課題に沿った，ファッションショー提案について，メディアの情報を参考に，週当たり１時間以上，イメージトレーニングをしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ファッションビジネスの基礎的な知識を修得している。	授業以上に自身で理解を深め、生活におけるファッションビジネスに関する基礎知識を身に付け、応用できる。	授業以上に自身で理解を深め、生活におけるファッションビジネスに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し、生活におけるファッションにビジネス関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが、基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
思考・問題解決能力	１．独自の視点を反映できている。	テーマを俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、新規性のある独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え、独自の視点を持った提案ができている。	独自の視点を持った提案ができているが新規性に欠ける。	テーマを理解せず、独自の提案ができていない。
思考・問題解決能力	２．レポートの精度	授業内容を理解し、自身で発展的に考え、他人が気がつかない観点で自分の考えを記述することができる。	授業内容を理解し、自身で発展的に考え、自分の考えを記述することができる。	授業内容を理解し、自分の考えを記述することができる。	授業内容全てを理解できてはいが、自分の考えを記述することができる。	授業内容全てを理解できておらず、自分の考えを整理出来ていない。
態度	１．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	応用メンタルヘルス学			授業番号	HG306	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次		開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	1年生で学んだ「メンタルヘルス学」の知識に加え、2年生では「部門内，上司としての部下のメンタルヘルス対策の推進」について学ぶ。自身の健康を守るだけでなく，部門内の職員がメンタル不調にならないために気にかけ，時には安全配慮義務に則った対応ができるようになるための知識を学ぶ。そのため，この授業は1年後期のメンタルヘルス学の内容を理解していることを前提に展開する。 また，この科目は「メンタルヘルス・マネジメント®検定Ⅱ種」合格を目指す授業でもあり，受験申込者数が10名以上になれば団体特別試験として本学で受験することが可能になる。								
到達目標	【到達目標】 ・メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割について理解している。 ・ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を理解している。 ・個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を把握している。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識（1） ストレス，健康障害メカニズム等について学ぶ。	
第2回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識（2） メンタルヘルス不調の知識，心の健康問題の正しい態度等について学ぶ。	
第3回	職場環境等の評価および改善の方法（1） ストレスの原因となる職場環境，ストレスの評価方法等について学ぶ。	
第4回	職場環境等の評価および改善の方法（2） ラインによる職場環境改善と具体的な進め方について学ぶ。	
第5回	個々の労働者への配慮（1） 部下のストレスへの気づき，管理監督者が注意すべきストレス要因等について学ぶ。	
第6回	個々の労働者への配慮（2） ストレスの予防，ストレスへの対処，職場によるサポート等について学ぶ。	
第7回	労働者からの相談への対応（1） 相談対応の基本，早期発見のポイント等について学ぶ。	
第8回	労働者からの相談への対応（2） 管理監督者が話を聴く意味，不調が疑われたときの話の聴き方等について学ぶ。	
第9回	社内外資源との連携（1） 社内資源，社外資源について学ぶ。	
第10回	社内外資源との連携（2） 医療機関の種類と選び方，連携の必要性と方法等について学ぶ。	
第11回	心の健康問題を持つ復職者への支援の方法（1） 心の健康問題で休業した労働者の職場復帰支援の5つのステップについて学ぶ。	
第12回	心の健康問題を持つ復職者への支援の方法（2） プライバシーの保護，職場復帰支援の注意点，治療と仕事の両立支援等について学ぶ。	
第13回	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割（1） 労働者のストレス，ハラスメント問題，過重労働による健康障害の防止等について学ぶ。	
第14回	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割（2） ストレスチェック制度，メンタルヘルスケアの方針と計画，ラインによるケアの重要性等について学ぶ。	
第15回	授業の振り返り	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ストレス，法律に関する専門用語が多く出るため，自分で調べて理解する習慣が必要である。メンタルヘルス・マネジメント®検定Ⅱ種は社会的認知度や評価が高い検定であり，1人でも多くの受験を推奨する。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，教科書を読み返し，課題や問題演習に取り組む。 3. メンタルヘルスに関する新聞記事やホームページを読む習慣をもつ。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキストⅡ種ラインケアコース 第５版	大阪商工会議所	中央経済社	978-4-502-38821-7	3，100円 + 税
メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅱ種ラインケアコース過去問題集 ２０２４年度版	梅澤 志乃	中央経済社	978-4-502-51121-9	2，300円 + 税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	ストレスに負けない技術−コーピングで仕事も人生もうまくいく！(日本実業出版社)　マンガでわかりやすい ストレス・マネジメント−ストレスを味方にする心理術(きずな出版)　マンガでわかる! アドラー心理学 折れない心の作り方(宝島社)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス（コミュニケーション編）(DVD：第一法規)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス対策 未然予防 セルフケア編(DVD：第一法規)
その他	
備考	※メンタルヘルス・マネジメント®検定は大阪商工会議所の登録商標です。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を理解できる。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を大変よく理解している。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を十分理解している。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を理解している。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割の理解が不十分である。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を理解していない。
知識・理解	2. ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を理解できる。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を大変よく理解している。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を十分理解している。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を理解している。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識が不十分である。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を理解していない。
思考・問題解決能力	1. 個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を把握できる。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を大変よく把握している。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を十分把握している。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を把握している。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法の把握が不十分である。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法の把握ができない。

科目名	特別研究			授業番号	HG401	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	中野　ひとみ, 森田　裕之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，実習中の利用者との関わりを研究テーマとし，介護過程の手法を用い利用者の課題解決に向けて調査・研究を行う力を身につける。 実習中の事例をまとめ，他者にわかりやすく報告することができる力を修得する。								
到達目標	(1)生活困難者の課題を多角的に判断し，分析することで問題の解決能力を応用できる。 (2)介護過程を理解することができる。 (3)「福祉」に関する課題について多面的・多角的に調査し説明できる。 (4)他者へ自分の意見を説明することができる。 (5) 研究成果をまとめ，表現することが実行できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	実習Ⅱと関連した科目であることを意識して取り組むことが重要である。								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション 事例事例研究とは何かを説明し，研究の進め方を理解する。	中野
第2回	事例研究とは何か 研究の進め方・準備の方法を理解する。	中野
第3回	図書館の活用方法(1) 文献検索方法・引用方法・著作権の注意点などを理解する。その1	中野
第4回	図書館の活用方法(2) 文献検索方法・引用方法・著作権の注意点などを理解する。その2	中野
第5回	事例研究テーマの検討・データ収集の注意点などを学ぶ。 ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第6回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(1) 事例研究の開始し，自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文の構成を考える。その１ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第7回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(2) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文の構成を考える。その２ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第8回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(3) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 データの整理を行う。その１ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第9回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(4) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 データの整理を行う。その２ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第10回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(5) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。その1 ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第11回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(6) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。その２ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第12回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(7) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。その３ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第13回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(8) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。その４ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第14回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(9) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。その５ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第15回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(10) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。その６ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓

第16回	中間発表を行い，事例研究内容再検討の方法を理解する。 各自研究内容を確認し修正を行う。その１ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第17回	要旨の作成を理解する。 各自研究内容を確認し修正を行う。その２ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第18回	要旨の添削・ディスカッションを行う。(1) 各自研究内容を確認し修正を行う。その３ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第19回	要旨の添削・ディスカッションを行う。(2) 各自研究内容を確認し修正を行う。その４ 要旨の提出を期日までに行う。 ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第20回	事例研究発表会（プレゼンテーション）の資料の作成を行う。 各自研究内容を確認し修正を行う。その５ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第21回	事例研究発表会（プレゼンテーション）の添削・修正を行う。(1) ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第22回	事例研究発表会（プレゼンテーション）の添削・修正を行う。(2) ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第23回	事例研究発表会の発表練習を行い，自らの課題を見つけ修正することが出来る。 ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第24回	事例研究発表会のための発表資料の作成や準備を行う。 ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第25回	事例研究発表会のリハーサルを行い，指導された内容を確認・修正できる。 それぞれが与えらえた役割（座長・タイムキーパー他）を実施することができる。	中野 森田 韓
第26回	事例研究発表会で，自らの研究内容を発表することができる。(1) それぞれが与えらえた役割（座長・タイムキーパー他）を実施することができる。その１	中野 森田 韓
第27回	事例研究発表会で，自らの研究内容を発表することができる。(2) それぞれが与えらえた役割（座長・タイムキーパー他）を実施することができる。その2	中野 森田 韓
第28回	事例研究論文まとめ・修正を行う。(1) 各自で校正を行う。その１ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第29回	事例研究論文まとめ・修正を行う。(2) 各自で校正を行う。その２ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第30回	指示された記載内容で書いてあるか，誤字脱字がないか最終確認を行い，研究論文提出を期日までに行うことができる。 ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	自分が取り上げた研究内容を文献などを用いまとめる努力しているか評価する。
レポート	30	研究内容が明確であるか，科学的視点やエビデンスに基づいた論文作成が出来ているか評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	自分の意見を他者に的確に述べるための努力をしているか，また発表資料が適切にまとめられているか，発表態度及びプレゼンテーション資料の完成度によって評価する。

評価の方法：自由記載	・評価の方法：発表会においてプレゼンテーションが出来るとともに，質疑応答に対応できる。 ・「特別研究発表会」でのプレゼンテーションを必須とする。 ・研究へ臨む姿勢，取り組み・研究内容・発表方法（プレゼンテーション含む）にて評価する。 ・論文作成（4～10ページほど）を提出後，評価する。 ・結果の報告に関しては，研究発表会におけるプレゼンテーションおよび修了研究論文の提出を行うことで評価をする。
受講の心得	・担当教員により，各回の授業形態や進み具合は様々である。スムーズな取り組みが出来るよう学生は毎回の研究目標をしっかり持ち，臨むこと。 ・実習IIの介護過程実践のまとめとなります。 ・実習での情報収集を的確におこなうことが重要です。また，介護過程I～IIIまでを再度振り返り研究成果としてまとめられるようにしてください。
授業外学修	1週間に週間に8時間以上の研究・調査等の活動を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	・使用テキストの指定はないが担当教員の指示をうけること。 ・自分に研究に必要な文献検索や本を図書館などを適宜活用しながらを進めていく。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	・研究成果や論文をまとめるにあたり，授業外での活動も自分自身で調整しながら行っていく必要があります。 ・研究を進めるにあたり，必ず担当教員と連絡を行いながら進めていくこと。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	中野：看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。 森田：通所リハビリテーション介護職員（2年半），訪問介護管理者兼サービス提供責任者(5年半) 韓：介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中野：看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。 森田：高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する 韓：高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.介護過程を理解することができている。	介護過程のPDCAを理解し、介護問題を個別性に応じた展開ができている。	介護過程の介護問題を見つけアセスメント出来、展開の方法を理解しているが介護計画や目標設定が一部不十分である。	介護過程の介護問題を見つけることができ、アセスメント出来るが内容が不十分であり展開ができない。	介護過程の介護問題を見つけることが出来るアセスメントが浮かばず展開ができない。	介護過程が全く理解できていない。
知識・理解	２.研究論文が課題に対して適切にまとめられている。	研究論文は、介護過程に応じた内容であり、適切な考察及びまとめや今後の課題など内容がぶれることなくまとまり良く書けている。書くための材料は適切に整理されている。	研究論文は、介護過程に応じた内容ではあり問題点と最後のまとめも出来ているが全体の内容がやや浅い。書くための材料は整理されている。	研究論文は、介護過程に応じた内容ではあるが、問題点と最後のまとめの内容がずれている。書くための材料は一部整理されていない。	研究論文は介護過程の展開が出来ていないため書けるため材料が整理されていないが、作成中にまとめようとする努力は見られる。	研究論文が全く書けない。書くための材料が整理されていない。
知識・理解	３.プレゼンテーション機能を用い、自分の研究内容が適切にまとめられている。	プレゼンテーション内容は、研究内容を的確にまとめた内容でわかりやすい。また、字体、色使い、アニメーションなどが効果的に使用されわかりやすい。スライド枚数も適量で仕上がっている。	プレゼンテーション内容はは、研究内容をまとめた内容であり報告内容にずれもない。しかし一部字体、色使い、アニメーションなどが効果的に使用されていない。スライド枚数は適量で仕上がっている。	プレゼンテーション内容は研究内をある程度まとめたものであるが、報告内容にややずれがある。また字体や色使い、アニメーションなど効果的に用いられていない。スライド枚数が少ない、逆に極端に多い。	発表スライドがわかりにくく、プレゼンテーション機能が効果的に用いられていない。スライド枚数が少ない、逆に極端に多い	プレゼンテーション機能が全く使えない。スライド枚数が極端に少ない。
思考・問題解決能力	1.福祉に関する課題について多面的・多角的に調査し考察できている。	実習中の現場において自らがみつけた福祉課題を的確にアセスメントし、解決方法まで導き出し、文章にすることもできている。論文に一貫性がある。	実習中の現場において自らがみつけた福祉課題をアセスメントまではでき文章にすることもできている。不十分ではあるが解決方法まで一部導き出すことができている。論文に一貫性がややある。	実習中の現場において自らがみつけた福祉課題を不十分ではあるがアセスメントまではでき文章にすることまではできている。解決方法までは、導き出すことができていない。論文に一貫性が不十分である。	実習中の現場において自らがみつけた福祉課題について曖昧なアセスメントまでは浮かぶが、文章としてまとめることができていない。論文の一貫性は不十分である。	実習中の福祉課題が全く浮かばない。論文に一貫性が全くなく、書けていない。
思考・問題解決能力	２.研究内容の問題点が明確であり、的確な答えを導きだしている。	研究内容の問題点が明確でに挙げることができ、それを解決するための的確な答えを導きだしている。	研究内容の問題点が明確でに挙げることができ、それを解決するための答えを導きだしている。	研究内容の問題点がやや不明瞭ではあるが、自分なりにそれを解決するための答えを導きだしているが修正が必要である。	研究内容の問題点が内容とずれている。助言をして修正をすることができる。	研究内容の問題点が内容とずれている。また助言をしても修正ができない。
態度	1．本研究成果をまとめて他者へ自分の意見を述べることができ、表現する力を修得している。	本研究成果を他者へ自分の言葉でしっかりと伝える事ができ、まとまりよく質問に対しても的確な応対ができている。また、発表者として学生らしい服装や好感の持てる態度、言葉遣いで表現する力を身につけている。	本研究成果を他者へ自分の言葉でしっかりと伝える事ができ、まとまりよく質問に対しても応対ができている。発表者として学生らしい服装や好感の持てる態度、言葉遣いが一部かけている。	本研究成果を他者へ自分の言葉で伝える事ができているがまとまりに欠け質問には答えられない。また発表者として学生らしい態度にやや欠けている。	本研究成果を他者へ自分の言葉で伝えようとする努力はしているが、内容にまとまりになく聞き取りずらい。学生らしい服装や言葉遣い、好感の持てる態度も欠けている。	本研究成果が全くまとまりなく話す内容もまとまりがない。また、学生らしい服装や言葉遣い、好感の持てる態度も欠けている。

科目名	診療報酬請求事務Ⅰ			授業番号	HM101	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務Ⅰ」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習Ⅰ」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習Ⅰ」も履修すること。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・診療報酬制度の仕組みが理解できる。 ・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	初診料，再診料：前期に学んだ初診料と再診料の算定方法をさらに深めて理解する。	
第2回	医学管理料，在宅医療料：医学管理と在宅医療の算定方法について理解する。	
第3回	投薬料：内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について理解する。	
第4回	注射料：筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について理解する。	
第5回	外来レセプト作成説明（1）：初診再診から注射までの診療行為のレセプト作成方法について理解する。	
第6回	検査料（1）検体検査（尿，血液）：検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について理解する。	
第7回	検査料（2）検体検査（生化学，免疫学），生体検査：生化学的検査と免疫学的検査の検体検査，心電図と超音波検査の生体検査の算定方法について理解する。	
第8回	画像診断料（1）：X-Pの画像診断の算定方法について理解する。	
第9回	画像診断料（2）：CT，MRIの画像診断の算定方法について理解する。	
第10回	外来レセプト作成説明（2）：検査，画像診断の診療行為を加えたレセプト作成方法について理解する。	
第11回	処置料，手術料：処置と手術の算定方法について理解する。	
第12回	院外処方せん：院外処方せん，一般名処方加算，特定疾患処方管理加算の算定方法ついて理解する。	
第13回	外来レセプト作成説明（3）：これまで学んだ全ての診療行為のレセプト作成方法について理解する。	
第14回	外来レセプト作成説明（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について理解する。	
第15回	外来レセプト作成説明（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
診療報酬・完全攻略マニュアル 2024-25年版	青山 美智子	医学通信社	978-4-87058-939-1	2，800円 + 税
診療報酬・完全マスタードリル 2024-25年版	内芝 修子	医学通信社	978-4-87058-942-1	1，400円 + 税
使用テキスト：自由記載	講義資料			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	診療点数早見表(医学通信社)			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬制度の仕組みが理解できる。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分で大変よく理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてだいたいの診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいて一部の診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてほとんどの診療行為区分で理解が不十分である。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分の理解ができていない。
技能	1. 診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を全診療行為区分において大変よく身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能をだいたいの診療行為区分において十分に身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を一部の診療行為区分において身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能がほとんどの診療行為区分において身に付きが不十分である。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能が全診療行為区で身に付いていない。

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅰ			授業番号	HM102	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務Ⅰ」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習Ⅰ」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務Ⅰ」も履修すること。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・診療報酬制度の仕組みが理解できる。 ・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	初診料，再診料：前期に学んだ初診料と再診料の算定方法について演習問題を解きながらさらに深めて理解する。	
第2回	医学管理料，在宅医療料：医学管理と在宅医療の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第3回	投薬料：内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について演習問題を解きながら理解する。	
第4回	注射料：筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第5回	外来レセプト作成演習（1）：初診再診から注射までの診療行為のレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
第6回	検査料（1）検体検査（尿，血液）：検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第7回	検査料（2）検体検査（生化学，免疫学），生体検査：生化学的検査と免疫学的検査の検体検査，心電図と超音波検査の生体検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第8回	画像診断料（1）：X-Pの画像診断の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第9回	画像診断料（2）：CT，MRIの画像診断の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第10回	外来レセプト作成演習（2）：検査，画像診断の診療行為を加えたレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
第11回	処置料，手術料：処置と手術の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第12回	院外処方せん：院外処方せん，一般名処方加算，特定疾患処方管理加算の算定方法ついて演習問題を解きながら理解する。	
第13回	外来レセプト作成演習（3）：これまで学んだ全ての診療行為を加えたレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
第14回	外来レセプト作成演習（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
第15回	外来レセプト作成演習（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
診療報酬・完全攻略マニュアル 2024-25年版	青山 美智子	医学通信社	978-4-87058-939-1	2，800円 + 税
診療報酬・完全マスタードリル 2024-25年版	内芝 修子	医学通信社	978-4-87058-942-1	1，400円 + 税
使用テキスト：自由記載	講義資料			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	診療点数早見表(医学通信社)			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬制度の仕組みが理解できる。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分で大変よく理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてだいたいの診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいて一部の診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてほとんどの診療行為区分で理解が不十分である。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分の理解ができていない。
技能	1. 診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を全診療行為区分において大変よく身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能をだいたいの診療行為区分において十分に身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を一部の診療行為区分において身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能がほとんどの診療行為区分において身に付きが不十分である。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能が全診療行為区で身に付いていない。

科目名	医事コンピュータ演習Ⅰ			授業番号	HM103	サブタイトル			
教員	岡本 智子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	診療所を始め中小病院で最も広く普及している日本医師会が開発した診療報酬請求システムORCAを通して外来における患者登録，レセプト作成，医事統計等の医事業務の基本を修得する。								
到達目標	医事コンピュータ技能検定２級・３級を目指し，コンピュータを利用した医事業務の基礎知識を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	日医標準レセプトソフト（オルカ）について 当該システムの基本動作を習得する。 医療制度及び医療保険請求の概要について理解する。	
第2回	患者登録業務 基本的なパソコンの動作について説明する。 患者基本情報の登録方法，各種保険や公費の登録方法，個人情報の登録方法を説明する。	
第3回	操作入力フロー 外来診療のみの診療所を想定して，一般的な診療内容について講義する。 診察開始から診療行為入力そして会計までの全体の流れを説明する。	
第4回	診療行為入力業務 診察料（初診・再診）について講義し，入力方法を説明する。 投薬（内服薬・外用薬・頓服薬）について講義し、入力方法を説明する。 注射（皮下筋肉注射・静脈注射・点滴）について講義し、入力方法を説明する。	
第5回	カルテ入力演習 今までに学習した内容に基づいて，各自カルテ内容の入力をしていく。 また，入力内容の削除や訂正方法について説明する。 レセプトの印刷について説明する。	
第6回	診療行為入力業務及びカルテ入力演習 処置料・手術料について講義し、入力方法を説明する。 病名の登録について説明する。 今までに学習した内容に基づいて，各自カルテ内容の入力をしていく。	
第7回	診療行為入力業務 検査料について講義し、入力方法を説明する。 検査については特に専門的な用語も多いことから，詳しく説明する。	
第8回	各種帳票の発行とカルテ入力演習 院外処方せん，請求領収書，カルテ等帳票の発行について説明する。 来院から会計までの業務を，説明して実際に入力する。	
第9回	診療行為入力業務 画像（レントゲン）・リハビリテーションについて講義し、入力方法を説明する。 その他，自費項目について入力方法を説明する。	
第10回	カルテ入力演習 今までに学習した内容に基づいて，各自カルテ内容の入力をしていく。 新しい保険の追加について説明する。 また，同日に二回以上受診した場合の処理について説明する。	
第11回	カルテ入力演習 すべての診療行為について入力できるように演習する。 時間外や休日等の処理についても説明する。	
第12回	カルテ入力演習 公費医療がある場合の入力について説明する。 同日に複数診療科を受診した場合の入力について説明する。	
第13回	予約登録 予約の登録について説明する。 予約票の印刷や一覧表の印刷など，帳票の発行について説明する。	
第14回	保険請求業務・統計業務 レセプト発行業務について講義する。 レセプトの連続発行，個別発行について説明する。 日報，月報など統計業務について説明する。	
第15回	カルテ入力演習 外来の診療行為について，すべての項目において正しく入力できるように演習する。 入力内容の訂正ができるように説明する。 正確なレセプト発行ができるように説明する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的に演習に取り組んでいるかを評価する。
課題	20	診療内容を入力しレセプトを作成して提出する。 課題についてはコメントを記入して返却する。
小テスト	20	学修した範囲のｺﾝﾋﾟｭｰﾀ操作ができているかを評価する。
定期試験	40	診療報酬請求事務について理解し，正確にコンピュータ入力ができているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療所・病院への就職を希望する者は，最強の武器となるので，積極的にチャレンジする。 予習・復習を心がけること。
授業外学修	不定期に小テストを行うので，授業毎に学修した操作について次回授業までに週あたり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	日医標準レセプトソフト(ORCA)基本操作説明書＜外来版＞（Ver5.0.0）3300円

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日医IT認定インストラクター（15年）電子カルテシステムインストラクター（10年）レセプトコンピューターインストラクター（30年） 病院における医療事務（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日医IT認定インストラクター（15年）病院における医療事務（2年）の経験から，医療機関における保険請求業務である，レセプト作成の基本的なコンピュータ操作及び技量の修得，さらには実践力までも養えるよう指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．医療事務の基本的な内容を理解している。	学修した医療事務の知識について，深く理解できている。	学修した医療事務の知識について，ほぼ理解できている。	学修した医療事務の知識について，一定程度理解できている。	学修した医療事務の知識について，あまり理解できていない。	学修した医療事務の知識について，全く理解できていない。
知識・理解	２．保険請求業務について理解している。	学修した保険請求の業務について，深く理解できている。	学修した保険請求の業務について，ほぼ理解できている。	学修した保険請求の業務について，一定程度理解できている。	学修した保険請求の業務について，あまり理解できていない。	学修した保険請求の業務について，全く理解できていない。
技能	１．コンピュータの基本的な操作ができる。	学修したコンピュータについて，正確に操作することができる。	学修したコンピュータについて，ほぼ正確に操作することができる。	学修したコンピュータについて，概ね正確に操作することができる。	学修した情報について，あまり正確に操作することができない。	学修したコンピュタについて，全く操作することができない。
技能	２．患者基本情報及び保険情報の登録ができる。	学修した情報について，正確に登録することができる。	学修した情報について，ほぼ正確に登録することができる。	学修した情報について，概ね正確に登録することができる。	学修した情報について，あまり正確に登録することができない。	学修した情報について，全く登録することができない。
技能	３．外来診療行為の入力ができて，レセプトを発行することができる。	学修したコンピュータを使用して正確にカルテ入力し，正しいレセプトを作成することができる。	学修したコンピュータを使用して概ね正確にカルテ入力し，修正しながら正しいレセプトを作成することができる。	学修したコンピュータを使用して正確ではないがカルテ入力し，修正しながらレセプトを作成することができる。	学修したコンピュータを使用してカルテ入力が正しくはできないが，レセプトを作成することができる。	学修したコンピュータを使用してカルテ入力が正しくできず，レセプトを作成することができない。

科目名	医療管理事務総論			授業番号	HM201	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	医療機関の特徴，医療機関で働く職員の職種とその業務内容，医療の法律，診療報酬制度について学ぶ。現在の医療費の社会問題についても言及する。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・医療機関の特徴，医療職種と業務内容が理解できる。 ・医師法，医療法といった医療に関係する法律を理解できる。 ・医療保険制度について理解できる。 ・診療報酬制度の基礎について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医療の歴史，健康管理：医療の歴史を通して健康管理，疾病予防の基礎知識を理解する。	
第2回	病院の組織と医療スタッフ（1）：医師，看護師，コメディカルといった医療従事者の種類，業務内容を理解する。	
第3回	病院の組織と医療スタッフ（2）：医療事務，医療機関における様々な事務職員の業務内容を理解する。	
第4回	医療機関の種類：病院と診療所について，かかりつけ医制度について理解する。	
第5回	多職種連携と地域包括ケアシステム：在宅医療を例に紹介した医療職種の連携，地域包括ケアシステムについて理解する。	
第6回	医療保険制度（1）：被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった保険の種類について理解する。	
第7回	医療保険制度（2）：被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった各保険の特徴について理解する。	
第8回	公費負担医療制度：生活保護法，感染症法，精神保健福祉法，労働者災害補償保険法といった法について理解する。	
第9回	保健医療機関と保険医：保健医療を行う保健医療機関と医師，指定や登録，施設基準について理解する。	
第10回	療養担当規則：保険診療の方針と診療録作成，保健医療機関の責務について理解する。	
第11回	診療報酬請求と審査制度（1）：保険診療のしくみ，診療報酬請求と審査制度について理解する。	
第12回	診療報酬請求と審査制度（2）：診療報酬の審査制度について理解する。	
第13回	医療関連法規：医療法，医師法，保健師助産師看護師法，介護保険法について理解する。	
第14回	診療報酬制度（1）：我が国の診療報酬改定の流れ，初診料と再診料の定義について理解する。	
第15回	診療報酬制度（2）：我が国の診療報酬改定の流れ，初診料と再診料の算定の流れについて理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	医療事務職員として就職したい学生にとっては必須の知識が多い。資格試験のみならず，医療機関の就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，講義資料にある問題を復習する。 3. 医療に関わる新聞記事を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保険診療　基本法令テキストブック　医科　令和6年度版　医療保険制度の概要と関係法令	社会保険研究所	社会保険研究所	978-4-7894-0906-3	2，600円 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	マンガでわかる!医療制度・病院のしくみに学ぶ「患者トラブル」防止法(日本医療企画)　よくわかる 図解 病院の学習書（ロギカ書房）　マンガでやさしくわかる病院と医療のしくみ（日本能率協会マネジメントセンター）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.1（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.2（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.3（SCICUS）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，事務職員の役割，医療保険制度，多職種との連携することの大切さを理解できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 医療機関の特徴，医療職種と業務内容が理解できる。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容を大変よく理解している。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容を十分理解している。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容を理解している。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容の理解が不十分である。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容において理解していない。
知識・理解	2. 医師法，医療法といった医療に関係する法律を理解できる。	医師法、医療法といった医療に関係する法律を大変よく理解している。	医師法、医療法といった医療に関係する法律を十分理解している。	医師法、医療法といった医療に関係する法律を理解している。	医師法、医療法といった医療に関係する法律の理解が不十分である。	医師法、医療法といった医療に関係する法律を理解していない。
知識・理解	3. 医療保険制度について理解できる。	医療保険制度について大変よく理解している。	医療保険制度について十分理解している。	医療保険制度について理解している。	医療保険制度について理解が不十分である。	医療保険制度について理解していない。
知識・理解	4. 診療報酬制度の基礎について理解できる。	診療報酬制度の基礎について大変よく理解している。	診療報酬制度の基礎について十分理解している。	診療報酬制度の基礎について理解している。	診療報酬制度の基礎について理解が不十分である。	診療報酬制度の基礎について理解していない。

科目名	秘書学			授業番号	HM202	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	秘書という職種に限らず，上司を補佐することは社会人の重要な仕事の一つである。秘書業務を通して社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能について学ぶ。テキストやDVD教材を用いて接遇の視覚的な学修にも重点を置く。2年生後期の「接遇演習」を履修する学生は，本科目の単位取得と成績が履修条件になる。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。 ・医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎知識を理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ビジネスマナーの基礎（1）：社会人としての服装，身だしなみ，挨拶，言葉づかいについて理解する。	
第2回	ビジネスマナーの基礎（2）：社会人としての電話，社内，訪問先，接客におけるマナーについて理解する。	
第3回	秘書業務の基本：秘書業務に携わる時の心構え，秘書業務の内容と進め方について理解する。	
第4回	秘書に必要とされる資質（1）：後輩の指導，秘書の仕事の限界，秘書の高度な判断力，企業機密，秘書のパーソナリティー，秘書業務に携わる時の心構えについて理解する。	
第5回	秘書に必要とされる資質（2）：上司の指示の受け方，秘書の身だしなみ，業務の引き継ぎ，心遣い，必要な能力と資質について理解する。	
第6回	職務知識：補佐機能の本質，上司の出張，不意の客の対応，予約のある客の対応について理解する。	
第7回	接遇表現，話し方・電話応対の実際：好感を与える話し方，信頼される電話応対，尊敬語，謙譲語，言葉づかいについて理解する。	
第8回	秘書のマナー・接遇：席次，来客応対，弔辞のマナーと上書き，慶事などの上書きと贈答マナーについて理解する。	
第9回	秘書の技能（1）：宛名，書類の分類方法，弔事，敬称，時候の挨拶，ビジネス文書の慣用句，年齢について秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第10回	秘書の技能（2）：社交文書，尊敬語と謙譲語，表書きについて秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第11回	秘書の技能（3）：敬語，接遇，社内文書，慣用句，上書き，社外文書，グラフ作成について秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第12回	医療機関を事例にした接遇（1）：あいさつ，表情，態度，身だしなみ，言葉づかいの事例を見て接遇について理解する。	
第13回	医療機関を事例にした接遇（2）：電話応対，受付応対等の事例を見て接遇について理解する。	
第14回	医療機関を事例にした接遇（3）：感じの良い態度や表情，心配りを示す言葉づかいの事例を見て接遇について理解する。	
第15回	医療機関を事例にした接遇（4）：クレームへの対応等の事例を見て接遇について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	試験は持込不可である。
受講の心得	仕事をする上でのビジネスマナー，接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶，行動を心がけること。一般事務，営業・販売，サービス，医療事務等で就職を考えている学生は，参考になる事例が多い。秘書検定に関心のある学生は，6月，11月，2月に行われる秘書検定3級，2級の試験対策でもあることを意識する。すでに秘書検定2級に合格している学生は，知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず，就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。
授業外学修	1. テキスト，講義資料を読み，問題を復習する。 2. 会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白いほど受かる本	佐藤 一明	KADOKAWA/中経出版	978-4046041029	1，400 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	秘書検定2級実問題集（実務技能検定協会） 秘書検定準1級実問題集（実務技能検定協会） マンガでわかる秘書検定2級直前対策（トレンドプロ） 秘書業務入門（DVD：日本経済新聞出版社） 秘書検定準1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会） 秘書検定1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会） 病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21） 医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関での患者・来客応対，電話応対等の接遇経験，上司や医師から指示を受けて業務をしてきた経験をもとに、社会人としてのビジネスマナーを理解できるように授業を展開する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において大変よく知識が身に付けている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において十分な知識が身に付いている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識が身に付いている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識が不十分である。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識がない。
知識・理解	2. 医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎知識を理解する。	来客応対，電話応対の基礎知識を大変よく理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識においてだいたいの流れは十分理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識において，理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識において，理解が不十分である。	来客応対，電話応対の基礎知識において，応対の流れを理解できていない。

科目名	医療情報管理論			授業番号	HM203	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	医療機関での医療情報の管理が重要視されている。また，情報技術の発展に伴い，医療情報システムを導入，運用している医療機関が多くなっている。本講義では，医療情報の管理，活用方法，統計，情報技術の医療分野への関わりといった業務内容について学ぶ。医療情報に携わる職員として情報セキュリティ，個人情報保護も考えていく。本科目を履修する要件として，前期の医療管理事務総論の単位を取得しておくこと。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・医療情報を管理することの重要性を理解できる。 ・個人情報保護と守秘義務を学び，情報漏洩をしない意識を身に付ける。 ・情報技術，情報セキュリティ対策を身に付ける。 ・電子カルテ，医療情報システムの特徴を理解できる。 ・統計指標，グラフの特徴を理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医療制度と医療関連法規（1）：医療情報について学ぶ意義，医療関連法規について理解する。	
第2回	医療制度と医療関連法規（2）：健康指標と予防医学の活動，救急医療と災害医療について理解する。	
第3回	病院業務と病院の運営管理（1）：病院における診療体制と業務，診療の過程，病院の運営と管理，臨床指標について理解する。	
第4回	病院業務と病院の運営管理（2）：安全適切な医療，医療安全とコミュニケーションについて理解する。	
第5回	医療情報の特性と医療の情報倫理（1）：診療記録の種類と保存期間，医療情報の特性と利用について理解する。	
第6回	医療情報の特性と医療の情報倫理（2）：医の倫理，医療の情報倫理，個人情報保護について理解する。	
第7回	医療情報の特性と医療の情報倫理（3）：医療現場での個人情報保護，情報の取り扱いの注意点について理解する。	
第8回	医療情報の特性と医療の情報倫理（4）：医療現場での個人情報保護，情報漏洩経路と注意点，人的対策について理解する。	
第9回	情報システムの基盤技術（1）：情報セキュリティの要素，情報セキュリティの対象，技術的脅威について理解する。	
第10回	情報システムの基盤技術（2）：情報セキュリティの技術的脅威，技術的対策，ユーザ管理について理解する。	
第11回	医療情報システムの構成と機能（1）：病院情報システムの概要，全体にかかわるシステム，部門システムについて理解する。	
第12回	医療情報システムの構成と機能（2）：地域医療情報システムと保健福祉情報システムについて理解する。	
第13回	医療情報システムの構成と機能（3）：遠隔医療，電子保存3基準，医療情報システムのガイドラインについて理解する。	
第14回	医療情報の標準化と活用（1）：医療情報の標準化，データの尺度と性質，図示による記述について理解する。	
第15回	医療情報の標準化と活用（2）：データの基本統計量，推測統計学の基礎，分析事例について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	記録の重要性，統計，個人情報保護，情報システム，情報セキュリティ，安全管理の知識は，医療事務のみならず，社会人として知っておくべきであるため，社会人の一般常識のつもりで理解に努める。テキスト，講義資料のみならず，インターネットで閲覧可能な厚生労働省のガイドラインを読む。
授業外学修	1. 予習として，教科書，講義資料の授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，教科書，講義資料の授業内容にかかわる部分，関連する記事，文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
医療情報の基礎知識　改訂第2版	一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会	南江堂	978-4-524-24993-0	2，600円 + 税
使用テキスト：自由記載	講義資料			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン　「映像で知る情報セキュリティ」（DVD：情報処理推進機構）　「医療向け個人情報保護法対策」（DVD：東邦薬品）　医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第 4.2 版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療情報システムの管理運用，電子カルテ運用保守，ヘルプデスク，レセプトデータ集計，DPCデータ分析，情報セキュリティ対策，医療従事者への個人情報保護教育等の経験をいかして指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 医療情報を管理することの重要性を理解できる。	医療情報を管理することの重要性を大変よく理解している。	医療情報を管理することの重要性を十分理解している。	医療情報を管理することの重要性を理解している。	医療情報を管理することの重要性の理解が不十分である。	医療情報を管理することの重要性を理解していない。
知識・理解	2. 個人情報保護と守秘義務を学び，情報漏洩をしない意識を身に付ける。	個人情報保護と守秘義務を学び，情報漏洩をしないことを大変よく意識している。	個人情報保護と守秘義務を学び，情報漏洩をしないことを十分意識している。	個人情報保護と守秘義務を学び，情報漏洩をしない意識がある。	個人情報保護と守秘義務の学びや，情報漏洩をしない意識が不十分である。	個人情報保護と守秘義務の学びや，情報漏洩をしない意識がない。
知識・理解	3. 情報技術，情報セキュリティ対策を身に付ける。	情報技術，情報セキュリティ対策を大変よく理解している。	情報技術，情報セキュリティ対策を十分理解している。	情報技術，情報セキュリティ対策を理解している。	情報技術，情報セキュリティ対策の理解が不十分である。	情報技術，情報セキュリティ対策を理解していない。
知識・理解	4. 電子カルテ，医療情報システムの特徴を理解できる。	電子カルテ，医療情報システムの特徴を大変よく理解している。	電子カルテ，医療情報システムの特徴を十分理解している。	電子カルテ，医療情報システムの特徴を理解している。	電子カルテ，医療情報システムの特徴の理解が不十分である。	電子カルテ，医療情報システムの特徴を理解していない。
知識・理解	5. 統計指標，グラフの特徴を理解できる。	統計指標，グラフの特徴を大変よく理解している。	統計指標，グラフの特徴を十分理解している。	統計指標，グラフの特徴を理解している。	統計指標，グラフの特徴の理解が不十分である。	統計指標，グラフの特徴を理解していない。

科目名	診療報酬請求事務Ⅱ			授業番号	HM204	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	診療報酬請求事務に関する知識，診療報酬明細書作成（外来・入院）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務II」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習II」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習II」も履修すること。								
到達目標	・点数表の内容を調べて診療報酬の文章を正しく解釈する方法を理解できる。 ・診療報酬における入院の算定方法を理解できる。 ・診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	入院料（1）：入院料，食事療養費の算定方法について理解する。	
第2回	入院料（2）：加算項目の入った入院料の算定方法について理解する。	
第3回	入院レセプト作成：診療行為，食事療養費の入った入院レセプト作成方法について理解する。	
第4回	入院関係診療行為：手術，輸血，麻酔，リハビリテーションといった入院レセプト作成問題で出題される分野の算定方法について理解する。	
第5回	入院レセプト作成問題説明（1）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第6回	入院レセプト作成問題説明（2）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第7回	入院レセプト作成問題説明（3）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第8回	入院レセプト作成問題説明（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第9回	入院レセプト作成問題説明（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第10回	入院レセプト作成問題説明（6）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第11回	外来レセプト作成問題説明（1）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成について理解する。	
第12回	外来レセプト作成問題説明（2）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成について理解する。	
第13回	外来レセプト作成問題説明（3）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成について理解する。	
第14回	小テスト（1）：点数表の内容を調べて診療報酬の文章を正しく解釈する方法を理解しているかを確認する。	
第15回	小テスト（2）：点数表の内容を調べて診療報酬の文章を正しく解釈する方法を理解しているかを確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	受講態度，課題への取り組み，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト	85	総合的な理解度で評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠であり，医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。7月，12月に実施される診療報酬請求事務能力認定試験に合格する気持ちで授業に臨むこと。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
診療点数早見表　2024年度版	医学通信社	医学通信社	978-4-87058-937-7	4，600円 + 税
『診療報酬請求事務能力認定試験』受験対策と予想問題集　2023年【後期版】	医学通信社	医学通信社	978-4-87058-928-5	2，200円 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料 7月，12月に実施される診療報酬請求能力認定試験を受験する学生は，以下のテキストの購入も推奨する。 最新　医療関連法の完全知識　2024年版 ～これだけは知っておきたい医療実務108法～ 望月稔之／並木洋／小笠原一志　著 B5／２色刷／約440頁 2024年06月 刊行予定 978-4-87058-949-0 3，200円 + 税

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬における入院の算定方法を理解できる。	診療報酬における入院の算定方法を大変よく理解している。	診療報酬における入院の算定方法を十分理解している。	診療報酬における入院の算定方法を理解している。	診療報酬における入院の算定方法の理解が不十分である。	診療報酬における入院の算定方法を理解していない。
技能	1. 診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を大変よく身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を十分身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能が不十分である。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能がない。

科目名	医事コンピュータ演習Ⅱ			授業番号	HM205	サブタイトル			
教員	岡本 智子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	診療所を始め中小病院で最も広く普及している日本医師会が開発した診療報酬請求システムORCAを通して有床診療所における入院レセプト作成を中心に医事コンピュータ業務の実際を修得する。 また，外来については，難易度の高い診療内容の処理に対応する。								
到達目標	医事コンピュータ技能検定２級・３級に合格できる知識・技術がある。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	初級で学んだ外来入力業務の復習する。 ジェネリック医薬品・一般名処方について講義する。	
第2回	外来カルテ入力 指導料について講義する。 在宅医療につて講義する。	
第3回	外来カルテ入力 各診療科ごとの特徴的な診療内容について講義する。 担当医の登録について説明する。	
第4回	公費負担医療の請求業務 生活保護，原爆医療，自立支援法，難病など公費医療について講義する。 それぞれの公費について入力方法を説明する。	
第5回	岡山県福祉医療の請求業務 乳幼児医療，障害者医療，ひとり親医療について講義する。 それぞれの公費について入力方法を説明する。	
第6回	医療保険以外の請求 労災・自賠責の請求について講義する。 それぞれの患者登録や診療行為入力につて説明する。	
第7回	入院業務について 入院料の内容について講義する。 入院登録業務・入院会計カレンダーについて説明する。 入院カルテ印刷について説明する。	
第8回	入院カルテ入力（１） 一般病棟について講義する。 入院登録から退院までの操作について説明する。	
第9回	入院カルテ入力（２） 療養病棟について講義する。 ADL入力，まとめ入力について説明する。 入院登録から定期請求までの操作について説明する。	
第10回	入院カルテ入力（３） 外泊・他院受診について説明する。 病室・病棟の移動の操作について説明する。	
第11回	入院カルテ入力演習（1） 一般病棟・療養病棟ともに入力の演習をする。 退院請求書・明細書・定期請求書・退院証明書などの発行について説明する。 内容の訂正について説明する。	
第12回	入院カルテ入力演習（2） 一般病棟のカルテ入力を行う。 入院登録から退院処理まで行い請求業務を行う。	
第13回	入院カルテ入力演習（3） 療養病棟のカルテ入力を行う。 まとめ入力により請求業務を行う。	
第14回	レセプト業務・統計業務 データチェック業務について講義する。 レセプトの返戻及び月遅れの処理について講義する。 各種統計業務について講義する。	
第15回	外来・入院の入力演習 これまでに学んできたすべての診療内容について正確に入力できるように演習する。 レセプトを発行して，正しく入力できているか確認し，訂正できるように説明する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的に演習に取り組んでいるかを評価する。
レポート	20	診療内容を入力しレセプトを作成して提出する。 課題についてはコメントを記入して返却する。
小テスト	20	学修した範囲のｺﾝﾋﾟｭｰﾀ操作ができているかを評価する。
定期試験	40	診療報酬請求事務について理解し，正確にコンピュータ入力ができているかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療所・病院への就職を希望する者は，最強の武器となるので，積極的にチャレンジする。 予習・復習を心がけること。 医療事務コースを専攻する者は，必ず受講すること。
授業外学修	不定期に小テストを行うので，授業毎に学修した操作について次回授業までに週あたり１時間以上復習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	日医標準レセプトソフト(ORCA)基本操作説明書＜外来版＞（Ver5.0.0） ［入院版］基本操作説明書

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日医IT認定インストラクター（15年）電子カルテシステムインストラクター（10年）レセプトコンピューターインストラクター（30年） 病院における医療事務（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医IT認定インストラクター（15年）病院における医療事務（2年）の経験から，医療機関における保険請求業務である，レセプト作成の基本的なコンピュータ操作及び技量の修得，さらには実践力までも養えるよう指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．医療事務（外来・入院）の内容を理解している。	学修した医療事務の知識について，深く理解できている。	学修した医療事務の知識について，ほぼ理解できている。	学修した医療事務の知識について，一定程度理解できている。	学修した医療事務の知識について，あまり理解できていない。	学修した医療事務の知識について，全く理解できていない。
知識・理解	２．保険請求・入院請求業務について理解している。	学修した請求の業務について，深く理解できている。	学修した請求の業務について，ほぼ理解できている。	学修した請求の業務について，一定程度理解できている。	学修した請求の業務について，あまり理解できていない。	学修した請求の業務について，全く理解できていない。
技能	1．患者基本情報及び保険情報・公費情報の登録ができる。	学修した情報について，正確に登録することができる。	学修した情報について，ほぼ正確に登録することができる。	学修した情報について，概ね正確に登録することができる。	学修した情報について，あまり正確に登録することができない。	学修した情報について，全く登録することができない。
技能	2．外来診療行為の入力ができて，レセプトを発行することができる。	学修したコンピュータを使用して正確にカルテ入力し，正しいレセプトを作成することができる。	学修したコンピュータを使用して概ね正確にカルテ入力し，修正しながら正しいレセプトを作成することができる。	学修したコンピュータを使用して正確ではないがカルテ入力し，修正しながらレセプトを作成することができる。	学修したコンピュータを使用してカルテ入力が正しくはできないが，レセプトを作成することができる。	学修したコンピュータを使用してカルテ入力が正しくできず，レセプトを作成することができない。
技能	３．入院診療行為の入力ができて，レセプト及び入院請求書を発行することができる。	学修したコンピュータを使用して正確にカルテ入力し，正しいレセプト・入院請求書を作成することができる。	学修したコンピュータを使用して概ね正確にカルテ入力し，修正しながら正しいレセプト・入院請求書を作成することができる。	学修したコンピュータを使用して正確ではないがカルテ入力し，修正しながらレセプト・入院請求書を作成することができる。	学修したコンピュータを使用してカルテ入力が正しくはできないが，レセプト・入院請求書を作成することができる。	学修したコンピュータを使用してカルテ入力が正しくできず，レセプト・入院請求書を作成することができない。

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅱ			授業番号	HM301	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	診療報酬請求事務に関する知識，診療報酬明細書作成（外来・入院）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務II」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習II」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務II」も履修すること。								
到達目標	・点数表の内容を調べて診療報酬の文章を正しく解釈する方法を理解できる。 ・診療報酬における入院の算定方法を理解できる。 ・診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	入院料（1）：入院料，食事療養費の算定に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第2回	入院料（2）：加算項目の入った入院料の算定に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第3回	入院レセプト作成：診療行為，食事療養費の入った入院レセプトの算定に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第4回	入院関係診療行為：手術，輸血，麻酔，リハビリテーションといった入院レセプト作成問題で出題される分野の算定に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第5回	入院レセプト作成問題演習（1）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第6回	入院レセプト作成問題演習（2）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第7回	入院レセプト作成問題演習（3）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第8回	入院レセプト作成問題演習（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第9回	入院レセプト作成問題演習（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第10回	入院レセプト作成問題演習（6）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第11回	外来レセプト作成問題演習（1）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第12回	外来レセプト作成問題演習（2）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第13回	外来レセプト作成問題演習（3）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第14回	入院レセプト作成問題演習（7）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第15回	入院レセプト作成問題演習（8）：診療報酬請求事務能力認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	受講態度，課題への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	85	総合的な理解度で評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠であり，医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。7月，12月に実施される診療報酬請求事務能力認定試験に合格する気持ちで授業に臨むこと。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
診療点数早見表　2024年度版	医学通信社	医学通信社	978-4-87058-937-7	4，600円 + 税
『診療報酬請求事務能力認定試験』受験対策と予想問題集　2023年【後期版】	医学通信社	医学通信社	978-4-87058-928-5	2，200円 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料 7月，12月に実施される診療報酬請求能力認定試験を受験する学生は，以下のテキストの購入も推奨する。 最新　医療関連法の完全知識　2024年版 ～これだけは知っておきたい医療実務108法～ 望月稔之／並木洋／小笠原一志　著 B5／２色刷／約440頁 2024年06月 刊行予定 978-4-87058-949-0 3，200円 + 税

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬における入院の算定方法を理解できる。	診療報酬における入院の算定方法を大変よく理解している。	診療報酬における入院の算定方法を十分理解している。	診療報酬における入院の算定方法を理解している。	診療報酬における入院の算定方法の理解が不十分である。	診療報酬における入院の算定方法を理解していない。
技能	1. 診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を大変よく身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を十分身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能が不十分である。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能がない。

科目名	医療事務セミナー			授業番号	HM302	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	医療事務コースの学生に対し，医療機関における就職能力向上を目的として本授業を展開する。筆記試験対策，履歴書欄にある得意科目，学生時代にがんばったこと，長所短所，自己PR，志望動機の書き方の指導，学生同士で面接官と受験者の役になって面接試験練習といった医療事務として就職するために必要なことを学修する。								
到達目標	・医療事務として就職するために自己PRや志望動機が伝わる履歴書の書き方を理解できる。 ・医療事務としてその医療機関で働きたい思いが伝わる礼儀，態度で面接をすることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医療機関への就職活動について（1）：医療事務の就職活動において求人の探し方，就職試験の出題傾向について理解する。	
第2回	医療機関への就職活動について（2）：医療事務の就職活動において就職試験の流れ，どのような人材が求められるかを理解する。	
第3回	履歴書の書き方（1）：履歴書の「得意な科目」「研究課題」の書き方について学び，書く練習を行う。	
第4回	履歴書の書き方（2）：履歴書の「学生時代に力を入れたこと」の書き方について学び，書く練習を行う。	
第5回	履歴書の書き方（3）：履歴書の「自己PR」の書き方について学び，書く練習を行う。	
第6回	履歴書の書き方（4）：履歴書の「長所短所」の書き方について学び，書く練習を行う。	
第7回	履歴書の書き方（5）：履歴書の「志望動機」の書き方について学び，書く練習を行う。	
第8回	履歴書の書き方（6）：履歴書の書き方で学んできたことを総合的に意識しながら書く練習を行う。	
第9回	面接試験対策（1）：個人面接試験について「面接試験でした方が良い姿勢，相槌，うなずき等」を学んで意識しながら練習を行う。	
第10回	面接試験対策（2）：個人面接試験について「面接試験でやってはいけない言動」を学んで意識しながら練習を行う。	
第11回	面接試験対策（3）：個人面接試験について「会話回数を増やすこと」を学んで意識しながら練習を行う。	
第12回	面接試験対策（4）：個人面接試験について「答えにくそうな質問」を取り入れて質問し，練習を行う。	
第13回	面接試験対策（5）：個人面接試験について自己PR，志望動機を伝えることを意識し，練習を行う。	
第14回	面接試験対策（6）：集団面接試験について学び，練習を行う。	
第15回	授業のまとめ：就職して「長く活躍し続ける人材」について考え，就職に対する意識を高める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な態度・取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	自由記載に述べる。

評価の方法：自由記載	評価の方法5 【履歴書の完成度：30%】 履歴書欄にある得意科目，学生時代にがんばったこと，長所短所，自己PR，志望動機といった項目に関して，学んだことを理解して記述できているかを評価する。 【面接試験練習での受け答え：40%】 社会人として望ましい姿勢や態度で面接練習ができているか，面接官の質問をよく聴いて答えているか，就職したい熱意を伝えられているか等を評価する。
受講の心得	医療機関の就職試験は一般企業より遅い傾向にはあるが，就職への意識を早めに持って動かないと希望の医療機関への内定は厳しいと意識しておくこと。自分でもしっかり医療機関の求人を調べ，どのような試験があるかを把握し，対策をしておくこと。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	就活ガイドBOOK，講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，どのような事務職員が必要とされるかを学生が意識して就職活動できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 医療事務として就職するために自己PRや志望動機が伝わる履歴書の書き方を理解できる。	医療事務として就職するために自己PRや志望動機が伝わる履歴書の書き方を大変よく理解している。	医療事務として就職するために自己PRや志望動機が伝わる履歴書の書き方を十分理解している。	医療事務として就職するために自己PRや志望動機が伝わる履歴書の書き方を理解している。	医療事務として就職するために自己PRや志望動機が伝わる履歴書の書き方の理解が不十分である。	医療事務として就職するために自己PRや志望動機が伝わる履歴書の書き方を理解していない。
思考・問題解決能力	1. 医療事務としてその医療機関で働きたい思いが伝わる礼儀，態度で面接をすることができる。	医療事務としてその医療機関で働きたい思いが伝わる礼儀，態度で面接をすることが大変よくできている。	医療事務としてその医療機関で働きたい思いが伝わる礼儀，態度で面接をすることが十分できている。	医療事務としてその医療機関で働きたい思いが伝わる礼儀，態度で面接をすることができている。	医療事務としてその医療機関で働きたい思いが伝わる礼儀，態度で面接をすることが不十分である。	医療事務としてその医療機関で働きたい思いが伝わる礼儀，態度で面接をすることができていない。

科目名	医療事務情報演習			授業番号	HM303	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	医療事務職員として必要だと思われるWord，Excel，PowerPointの機能について演習を行う。医事コンピュータORCAを用いて，分院設定機能を利用して同一システムを複数の医療機関で使用し，施設基準や病棟管理設定を各自で行う。複雑な外来・入院のレセプトを作成して診療報酬算定の知識を学ぶ。								
到達目標	・診療報酬明細書（外来・入院）を作成する知識を身に付ける。 ・ORCAの診療コード登録，入院設定機能の操作ができる。 ・多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成ができる。 ・医療事務職員として知っておいた方が良いWord，Excel，PowerPointの機能を操作できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医療ビジネス文書の作成(1)：Wordの文字や表の挿入を用いて診療診療情報提供書（紹介状）を作成する。	
第2回	医療ビジネス文書の作成(2)：図表，文字の装飾機能を用いて患者さんにわかりやすい休診日掲示物の作成をする。	
第3回	医療ビジネス文書の作成(3)：メール文章を作成し，社会人としてのメールの書き方を理解する。	
第4回	医療データを用いた分析(1)：患者数データを用いて関数，図表で分析し，そのデータが意味することを考える。	
第5回	医療データを用いた分析(2)：アンケート結果のデータを用いてアンケート集計，ヒストグラムを作成する方法を学ぶ。	
第6回	医療データを用いた分析(3)：アンケート結果のデータを用いてアンケート集計，ピボットテーブルを作成する方法を学ぶ。	
第7回	院内発表資料作成練習(1)：医療，健康において関心のあるテーマを選びプレゼンテーション資料を作成する。	
第8回	院内発表資料作成練習(2)：医療，健康において関心のあるテーマを選びプレゼンテーション資料を作成する。	
第9回	病院の施設基準 診療コード入力：医事コンピュータORCAを用いて，診療行為のコード入力設定の方法を学ぶ。	
第10回	外来レセプト作成(1)：医事コンピュータORCAを用いて外来レセプトを作成する。	
第11回	外来レセプト作成(2)：医事コンピュータORCAを用いて外来レセプトを作成し，マスタで設定した内容が反映されているかを確認する。	
第12回	病院の施設基準設定，病棟設定：医事コンピュータORCAを用いてマスタを編集し，施設設定，病棟病室設定の方法を学ぶ。	
第13回	入院レセプト作成(1)：医事コンピュータORCAを用いて入院レセプトを作成し，マスタで設定した内容が反映されているかを確認する。	
第14回	入院レセプト作成(2)：医事コンピュータORCAを用いて入院レセプトを作成し，マスタで設定した内容が反映されているかを確認する。	
第15回	入院レセプト作成(3)：医事コンピュータORCAを用いて入院レセプトを作成し，マスタで設定した内容が反映されているかを確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	提出する文書や図表，レセプト課題の完成度で評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	医療事務の仕事をする上で必要なパソコンを用いた演習である。医療事務コースの学生は必ず受講すること。Word，Excel，PowerPointを仕事で使えるようにする意識を持つこと。複雑なレセプトを作成するため，ORCAの使用方法に加え，診療報酬請求事務の理解も努めること。
授業外学修	1. ORCAのマニュアル，診療報酬請求事務の教科書を読んで，予習・復習する。 2. レセプト作成で出てきた診療行為は診療報酬のテキストで調べておく。 3. パソコンの操作練習をする。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日医標準レセプトソフト（ORCA）　基本操作説明書（外来版）	日本医師会総合政策研究機構	日本医師会総合政策研究機構	なし	3，000円 + 税

使用テキスト：自由記載	[入院版]基本操作説明書(簡易版)　診療報酬請求の実務　診療報酬請求演習

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	日医標準レセプトソフト　外来版操作マニュアル　日医標準レセプトソフト　入院版操作マニュアル　医事コンピュータ技能検定問題集3級(1)（つちや書店）　医事コンピュータ技能検定問題集3級(2)（つちや書店）　医療ビジネス文書実例集（経営書院）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関の受付・会計，データ分析，医療におけるビジネス文書，院内員外発表資料作成等の経験をいかして指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．診療報酬明細書（外来・入院）を作成する知識を身に付ける。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する知識を大変よく身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する知識を十分身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する知識を身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する知識が不十分である。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する知識が身に付いていない。
技能	1．ORCAの診療コード登録，入院設定機能の操作ができる。	ORCAの診療コード登録，入院設定機能の操作が大変よくできる。	ORCAの診療コード登録，入院設定機能の操作が十分できる。	ORCAの診療コード登録，入院設定機能の操作ができる。	ORCAの診療コード登録，入院設定機能の操作があまりできない。	ORCAの診療コード登録，入院設定機能の操作がほとんどできない。
技能	2．多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成ができる。	多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成が大変よくできる。	多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成が十分できる。	多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成ができる。	多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成があまりできない。	多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成がほとんどできない。
技能	3．医療事務職員として知っておいた方が良いWord，Excel，PowerPointの機能を操作できる。	医療事務職員として知っておいた方が良いWord，Excel，PowerPointの機能を操作することが大変よくできる。	医療事務職員として知っておいた方が良いWord，Excel，PowerPointの機能を操作することが十分できる。	医療事務職員として知っておいた方が良いWord，Excel，PowerPointの機能を操作することができる。	医療事務職員として知っておいた方が良いWord，Excel，PowerPointの機能を操作することがあまりできない。	医療事務職員として知っておいた方が良いWord，Excel，PowerPointの機能を操作することがほとんどできない。

科目名	接遇演習			授業番号	HM304	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	サービス業への就職を希望する学生が多い中，自ら接遇を練習する機会を増やすことが望まれる。接遇を練習することで，実際の仕事においても言葉，表情，態度に出るようになる。受付役と来客役，電話をかける役と受ける役等，実際に接遇を練習するため，グループワークが多い。 学生の希望に応じて一般企業と医療事務でグループに分かれて演習を行うこともある。本科目の履修要件は「秘書学」「ホスピタリティとマナー」のGPA2.5以上を満たすことである。医療事務の接遇を学びたい学生は，医療用語や診療報酬の説明をする練習も行うので，「医療管理事務総論」，「診療報酬請求事務1」，「診療報酬請求事務演習1」の単位を取得しておくこと。								
到達目標	・社会人としての来客応対，電話応対の方法を理解している。 ・顧客・患者応対における接遇を理解している。 ・医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，患者に説明することができる。 ・笑顔で感じの良い接遇能力を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	サービスマインド・敬語の練習：ホスピタリティ，接遇，敬語について理解を深める。	
第2回	チームワークの重要性・敬語の練習：社会人として働くためにチームワークの重要性を理解する。敬語を正しく使えるように練習する。	
第3回	接遇マナーの基本（1）・報告応対の練習：社会人として就業中マナーを理解する。秘書検定準1級のレベルの報告応対ができるようにする	
第4回	接遇マナーの基本（2）・報告応対の練習：顧客患者に対して安心感を与える印象について理解する。秘書検定準1級のレベルの報告応対ができるようにする。	
第5回	接遇マナーの基本（3）・感動接客：信頼関係を築く言葉づかい，顧客を感動させる接客について理解する。	
第6回	接遇マナーの基本（4）・感動接客：事例を通して顧客を感動させる接客について理解する。	
第7回	接遇マナーの基本（5）・電話練習：安心感を与える電話の受け方，好印象を与える電話のかけ方について理解する。電話応対の練習を行う。	
第8回	接遇マナーの基本（6）・電話練習：社会人として15秒で決まる電話応対について理解する。電話応対の練習を行う。	
第9回	コミュニケーションの基本と応用：人間関係とコミュニケーション，社会人に必要なコミュニケーションスキル，クレーム対応について理解する。	
第10回	窓口応対・タイプ別応対：受付・会計窓口での応対，患者のご家族への応対について理解する。	
第11回	心のケア：ストレスに気づく，心と身体，心のセルフケア，身体のセルフケアについて理解する。	
第12回	接遇練習(1)：一般企業と医療事務の接遇で問題演習をし，グループで接遇練習を行う。	
第13回	接遇練習(2)：一般企業と医療事務の接遇で問題演習をし，グループで接遇練習を行う。	
第14回	接遇練習(3)：一般企業と医療事務の接遇で問題演習をし，グループで接遇練習を行う。	
第15回	実技テスト：接遇の実践テストを行う（スーツ着用）。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度や演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト	30	実践テストの取り組み，応対を評価する。
定期試験		
その他	20	課題への取り組み，完成度を評価する。

評価の方法：自由記載	授業への取り組みの姿勢／態度は高い基準を求める。姿勢，言葉遣い，お辞儀の角度，意識して受講すること。
受講の心得	授業態度に厳しい科目であるため，新入職員研修を受けるつもりで臨むこと。お客様・患者様を満足させる接遇を心がけ，日ごろから身だしなみ，言葉遣い，姿勢に気を配る。テキストの種類は医療接遇であるが，一般企業の接遇にも活用できる内容が多いので，接遇能力を高めたい学生は履修することを推奨する。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，教科書を読んで復習し，演習問題を解く。 3. 日常会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
医療に従事する人のための 改訂版 患者接遇マナー基本テキスト	田中 千恵子	日本能率協会マネジメントセンター	978-4820759539	1，800円 + 税
使用テキスト：自由記載	講義資料配布。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	らくらく合格サービス接遇検定２級＋準1級集中レッスン＆問題集（ナツメ社）　DVDで学ぶできる人のビジネスマナー(DVD：西東社)　秘書検定準1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　秘書検定1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21)　医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療機関での接遇経験（5年）を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関での患者・来客応対，電話応対等の接遇経験から，姿勢，言葉遣い，相手に合わせた態度を意識できるような接遇ができるよう授業を展開する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 社会人としての来客応対，電話応対の方法を理解している。	社会人としての来客応対，電話応対の方法を大変よく理解している。	社会人としての来客応対，電話応対の方法を十分理解している。	社会人としての来客応対，電話応対の方法を理解している。	社会人としての来客応対，電話応対の方法の理解が不十分である。	社会人としての来客応対，電話応対の方法を理解していない。
知識・理解	2. 顧客・患者応対における接遇を理解している。	顧客・患者応対における接遇を大変よく理解している。	顧客・患者応対における接遇を十分理解している。	顧客・患者応対における接遇を理解している。	顧客・患者応対における接遇の理解が不十分である。	顧客・患者応対における接遇を理解していない。
技能	1. 医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，医療用語を患者に説明することができる。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，医療用語を患者に説明することが大変よくできる。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，医療用語を患者に説明することが十分できる。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，医療用語を患者に説明することができる。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎の理解が不十分で，医療用語を患者に説明することがあまりできない。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解ができず，医療用語を患者に説明することができない。
態度	1. 笑顔で感じの良い接遇能力を身に付けている。	笑顔で感じの良い接遇能力を大変よく身に付けている。	笑顔で感じの良い接遇能力を十分身に付けている。	笑顔で感じの良い接遇能力を身に付けている。	笑顔で感じの良い接遇能力の身に付きが不十分である。	笑顔で感じの良い接遇能力が身に付いていない。

科目名	ファッションと生活			授業番号	HT101	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	衣服が生活においてどのような意味や役割を持ち，どのように人と関わっているのか，社会的役割，設計，流行，歴史，選択，購入，管理や素材の観点から学ぶ。変遷においては、実際のストリートファッションを参考縫いしながら、衣服と社会の関係性も紹介していく。これらを学ぶことにより,自身の生活における「ファッション」を俯瞰して捉え,時代の変化に気づき,今後の衣生活を考察するために必要なアパレル企業構造の専門的な基礎知識を身につける。								
到達目標	ファッション製品の設計，流行，歴史，選択，購入，管理や素材を判別することなど，ファッション製品についての基本的な知識を持ち，快適なファッション生活ができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	人はどうして服を着るのか	
第2回	衣服素材の種類：繊維の原料・繊維・糸・布について	
第3回	衣服素材の種類：品質表示・機能性・洗濯について	
第4回	衣服の社会的役割	
第5回	衣服の象徴性について	
第6回	装いのコミュニケーション	
第7回	身体と衣服	
第8回	環境・人権に考慮したファッション	
第9回	ユニバーサルファッション	
第10回	ストリートファッションから紐解く装いの変遷①	
第11回	ストリートファッションから紐解く装いの変遷②	
第12回	ストリートファッションから紐解く装いの変遷③	
第13回	ストリートファッションから紐解く装いの変遷④	
第14回	ストリートファッションから紐解く装いの変遷⑤	
第15回	これからのファッションビジネス	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題への理解度,新規性,独自性,の観点で評価する。
小テスト	20	最終的理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日頃からファッションについて興味を持ち，衣服を購入する際に，素材，価格，品質，流行等について考えること。
授業外学修	事前学修として，講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容について調べておくこと。（２時間以上） 事後学修として，講義時に配布された「レジュメ」や「資料」にて講義で学んだ内容を整理し，理解するために復習を毎回行うこと。（２時間以上）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	国内繊維工場での製品企画，デザインを担当。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	メーカーに勤めていたときに，ブランドの企画，デザイン，素材研究，店舗指導，マーチャンダイザー（ＭＤ）をしていた実務経験をいかした解説を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．生活におけるファッションの基礎的な知識を修得している。	授業以上に自身で理解を深め、生活におけるファッションに関する基礎知識を身に付け、応用できる。	授業以上に自身で理解を深め、生活におけるファッションに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し、生活におけるファッションに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが、基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
知識・理解	２．生活におけるファッションの役割を理解している。	授業以上に自身で理解を深め、生活におけるファッションの役割を理解し、自身で咀嚼し身の回りの生活へ応用できる。	生活におけるファッションの役割を理解し、自身で咀嚼し生活へ応用できる。	生活におけるファッションの役割を理解し、自身で咀嚼できる。	デザインの生活での役割を理解しているが、応用出来ない。	デザインの生活での役割を理解し切れていない。
思考・問題解決能力	１．独自の視点を反映できている。	テーマを俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、新規性のある独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え、め、独自の視点を持った提案ができている。	独自の視点を持った提案ができているが新規性に欠ける。	テーマを理解せず、独自の提案ができていない。
態度	１．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	ファッションビジネス			授業番号	HT201	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	ファッション構成する素材・合織メーカーなどの産業から,企画・生産・販売をするアパレル産業,百貨店・専門店・小売店などの流通分野に至る広範囲な分野の基礎知識を学ぶ。また,商品知識についてアイテム・素材・サイズなどの知識を習得と,それらの商品を効果的にプレゼンテーションするための知識も学ぶ。								
到達目標	生活全体におけるファッション感覚を養い「想像力」「企画力」を高めること，ファッションビジネス能力検定３級，ファッション販売能力検定３級取得程度の能力を身に付ける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ファッションビジネスの概要	
第2回	ファッション産業の構成①	
第3回	ファッション産業の構成②	
第4回	インターカラーについて 消費者行動とファッション表現	
第5回	消費者行動とファッション表現	
第6回	ファッションマーケティングに必要なライフスタイル分析	
第7回	顧客の購買行動	
第8回	アパレル小売業の構造と業態①	
第9回	アパレル小売業の構造と業態②	
第10回	ファッションマーケティングの重要性	
第11回	ファッション販売の知識	
第12回	アパレル産業と繊維産業	
第13回	国内繊維産業	
第14回	ファッションビジネスの範囲	
第15回	今後のファッションビジネス	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。
レポート	40	課題内容の理解度とリサーチの正確性，独自の視点があるか。
小テスト	15	最終的理解度を評価する。
定期試験		
その他	15	各講義の振り返りワークシート提出によって理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日頃からストリートや雑誌等でファッションに興味を持つことと，アパレル商品を購入するときにブランドコンセプトや販売方法，流行を意識して感性を磨くこと。
授業外学修	1.事前学修として，講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容の業種や業態を見学すること，ファッションブランドについて調べておくこと。 2.事後学修として，講義時に配布された「レジュメ」や「資料」にて，講義で学んだ内容を整理し，理解するために復習を毎回行うこと。 以上の内容を週あたり合計４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	国内繊維工場の自社製品企画，デザインを担当。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ファッションビジネスの基礎的な知識を修得している。	授業以上に自身で理解を深め、生活におけるファッションビジネスに関する基礎知識を身に付け、応用できる。	授業以上に自身で理解を深め、生活におけるファッションビジネスに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し、生活におけるファッションにビジネス関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが、基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
思考・問題解決能力	1．独自の視点を反映できている。	テーマを俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、新規性のある独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え、独自の視点を持った提案ができている。	独自の視点を持った提案ができているが新規性に欠ける。	テーマを理解せず、独自の提案ができていない。
技能	1．「想像力」「企画力」を高める。	生活全体におけるファッション感覚を日常から積極的に養い、「想像力」「企画力」を高めることができる。そのために自分で動くことができ、外で活用できる方法を探る。	生活全体におけるファッション感覚を養い、「想像力」「企画力」を高めることができる。そのために自分で動くことができる。	生活全体におけるファッション感覚を養い、「想像力」「企画力」を高めることができる。	生活全体におけるファッション感覚を養い、「想像力」「企画力」を理解できる。	生活全体におけるファッション感覚を養い、「想像力」「企画力」を理解できない。
技能	2．レポートの精度	授業内容を理解し、自身で発展的に考え、他人が気がつかない観点で自分の考えを記述することができる。	授業内容を理解し、自身で発展的に考え、自分の考えを記述することができる。	授業内容を理解し、自分の考えを記述することができる。	授業内容全てを理解できてはないが、自分の考えを記述することができる。	授業内容全てを理解できておらず、自分の考えを整理出来ていない。
態度	1．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	アパレル基礎実習 (135分)			授業番号	HT202	サブタイトル			
教員	江口 まりこ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	「自分ブランド」をイメージしオリジナルデザインで衣服や小物を創造する。 アイデアの出し方、デザイン画の書き方，工業用パターンの活用方法，創造することの楽しさ，衣服制作の手順を学び，衣服，帽子やバック，アクセサリーまでオリジナル作品を具体化するための知識や技術を学修する。								
到達目標	・オリジナルデザインを現実のものに作成することができる。 ・衣服のベースになる，製造方法の知識を身につけることができる。 ・既製服の作り方を修得し既製服のような仕上がりに完成できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	既製服の作り方とホームソーイングの違いについて説明	
第2回	デザイン/プラン トートバッグのデザイン出し アイディアの出し方とデザイン画の描き方の説明する	
第3回	デザインをする トートバッグのオリジナルプリントのデザイン出しをする	
第4回	縫製工程のプランニングを立てる 縫製工程表の説明と作成	
第5回	トートバッグ製作１ 工業用パターンの説明と作成	
第6回	トートバッグ製作２ 裁断の説明 生地の地の目と地直しについて 裁断をする	
第7回	トートバッグ製作３ 直線ミシンとロックミシンの使い方と説明 縫製に入る	
第8回	トートバッグ製作４ バッグ本体を完成させる 仕上げアイロンの説明	
第9回	トートバッグ製作５ オリジナルプリントを完成させる	
第10回	デザイン/プラン Tシャツとプリントのデザイン出しと縫製工程表作成	
第11回	Tシャツの製作１ パターン作成	
第12回	Tシャツ製作２ 裁断し縫製に入る	
第13回	Tシャツ製作３ 縫製を完成させる	
第14回	Tシャツ製作４ プリントする	
第15回	プレゼンテーション 品評会と作品発表	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度で評価する
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	作品の創造性と完成度を評価基準とする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ﾌｧｯｼｮﾝに興味を持って受講すること。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	随時，プリント使用			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	アパレルメーカーで婦人服企画デザイナー「6年）フリーデザイナー・洋裁講師（14年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	アパレルメーカーで婦人服の企画・デザインを担当していた経験，洋裁講師を活かした実習を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．縫製工程を理解してる。	縫製工程を正確に理解し製作することができる。	縫製工程は、正確ではないがほぼ理解し製作することができる。	縫製工程は、大体理解し製作することができる。	縫製工程は、理解が不十分だが製作することはできる。	縫製工程を理解できていない。
技能	1．創造性	創造性や想像力に満ちた作品で、斬新なデザインや表現方法を取り入れている。	独自のアイディアやコンセプトを持ち斬新なデザインである。	独自のアイディアやコンセプトを持っている。	斬新さはあるが独自のアプローチが不足している。	独自のアイディアやアプローチがほとんど見られない。
態度	1．意欲的に実習できている。	質問など積極的に行い疑問を解決しプラン通りに製作できている。	前向きに取り組んでプラン通りに製作できている。	実習プラン通りに製作できている。	ややプラン通りに製作できていない。	実習プラン通りにできていない。

科目名	アパレル企画実習 (135分)			授業番号	HT301	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	アパレル業界における商品企画に関する基本的な知識と技術を身につけると共に、商品企画の背景、意図、商品化までのプロセスを習得する。 アパレル企画業務ではディレクターを中心に、デザイナー、やマーチャンダイザー、マーケターなどがチームを組み実施される。その際,それぞれの構想を言語化, 視覚化し共有していく必要がある。今回は、それらの企画を想定したシュミレーションを行ない、それぞれの立場から幅広くアパレル企画に必要な知識を習得し、実践できるような内容を実施します。企画商品の消費者に対しての購買行動の分析と生産者サイドからの分析を習得する。								
到達目標	１.アパレルメーカーの企画における最低限の知識を身につける。 ２.企画商品の消費者に対しての購買行動の分析と生産者サイドからの分析を習得する。 ポリシーに掲げた学士力の内容のうち, ＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション	
第2回	ビジュアルパンティング	
第3回	キーワードリサーチ	
第4回	カラープランニング	
第5回	カラーコーディネート	
第6回	テキスタイルデザイン	
第7回	中間発表	
第8回	スタイリングイメージ	
第9回	ファッションイメージストーリー	
第10回	トータルコーディネーション（プロダクト）	
第11回	トータルコーディネーション（バイイング）	
第12回	ヴィジュアルマーチャンダイジング（VMD）	
第13回	プロモーション企画	
第14回	プレゼンテーション資料整理	
第15回	最終発表,相互評価	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	積極的に実習に臨み自らが決定したスケジュールと設計に沿って，企画制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	最終提出物（企画データ）に関する構想力,表現力,ブランドイメージ,価格設定,プレゼンテーション力に点数をつけて評価する。　(70%)

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	実際の店舗に出向くことや，新聞，雑誌，インターネットなどでファッション情報を集めることによって，普段からファッションブランドの企画について考察し，リサーチ店舗先や興味のあるファッションブランドを調べておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時，プリント使用

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	メーカーに勤めていたときにスポーツブランドの企画，デザインをしていた実務経験をいかした実習を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．アパレル業界における商品企画に関する基本的な知識と技術を身につける。	授業以上に自身で理解を深め、アパレル業界における商品企画に関する基本的な知識と技術を身につけ、応用できる。	アパレル業界における商品企画に関する基本的な知識と技術を身につけ、応用できる。	アパレル業界における商品企画に関する基本的な知識と技術を身につけている。	アパレル業界における商品企画に関する基本的な知識と技術を十分に身につけられていない。	アパレル業界における商品企画に関する基本的な知識と技術を身につけられていない。
知識・理解	２．企画商品の消費者に対しての購買行動の分析と生産者サイドからの分析を習得する。	授業以上に自身で理解を深め、企画商品の消費者に対しての購買行動の分析と生産者サイドからの分析を習得し、応用できる。	企画商品の消費者に対しての購買行動の分析と生産者サイドからの分析を習得し、応用できる。	企画商品の消費者に対しての購買行動の分析と生産者サイドからの分析を習得できる。	企画商品の消費者に対しての購買行動の分析と生産者サイドからの分析が十分に理解できていない。	企画商品の消費者に対しての購買行動の分析と生産者サイドからの分析が理解できていない。
思考・問題解決能力	１．独自の視点を反映できている。	テーマを俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、新規性のある独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え、授業以上に自習で理解を深め、独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え、め、独自の視点を持った提案ができている。	独自の視点を持った提案ができているが新規性に欠ける。	テーマを理解せず、独自の提案ができていない。
技能	１．魅力的なデザイン提案が出来ている。	テーマ・プロセスに沿い、自身でテーマを深堀りし、美しく新規性のある作品に仕上がっている。	テーマ・プロセスに沿い、自身でテーマを深堀りし、美しい作品に仕上がっている。	テーマ・プロセスに沿い、仕上がっている。	テーマ・プロセスに沿い、仕上がっているが、精度が低い。	テーマ・プロセスに沿い、仕上がっていない。
態度	１．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	ファッションコーディネート演習			授業番号	HT302	サブタイトル			
教員	川村　朱乃								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ファッション流通・販売促進に不可欠とされるスタイリングの基礎的な知識や流れを学ぶ。また、１週間スタイリングをまとめたLOOK BOOKとInstagramアカウントを制作する。それらを通じて、デジタル・アナログ両方のアプローチからのプロモーションを把握する。 実際にSNSを運営し、様々なスタイリングについての講義と演習を行うなど、世間の注目を集める情報収集力とセルフプロデュース力を習得することができる。								
到達目標	コーディネートの役割や効果を理解し、自身でも応用ができる。スタイリングイメージマップかや写真撮影のための背景や照明との関係の知識を得る。それらを全て集約したLOOK BOOKとSNSアカウントを制作することで、コーディネートを魅力的に発信することができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション・ファッションコーディネートについて	
第2回	コレクションから見るトレンド分析とファッションコーディネートの変遷	
第3回	コーディネートを構成する要素	
第4回	ストリートファッションとその背景　海外	
第5回	ストリートファッションとその背景　日本	
第6回	映画から見るストリートファッション	
第7回	ファッション雑誌にみるコーディネートからのターゲット分析と現代 １週間STYLING 制作：１週間シュチュエーション別のスタイリングをまとめたLOOK BOOKとSNSのプロモーションを作成。課題説明とコンセプト設定	
第8回	１週間STYLING 制作：ファッションコーディネートイメージマップの制作①	
第9回	１週間STYLING 制作：ファッションコーディネートイメージマップの制作② 中間発表	
第10回	１週間STYLING 制作：SNS時代のスタイリングプロモーションテクニック・写真への納め方	
第11回	１週間STYLING 制作：フィールドワーク（衣装、ヘアメイク、ロケ地）	
第12回	１週間STYLING 制作：コーディネートスタイリングプランの実践、環境・空間とのコーディネート	
第13回	１週間STYLING 制作：コーディネート提案LOOK BOOK・Instagramアカウントの製作①	
第14回	１週間STYLING 制作：コーディネート提案LOOK BOOK・Instagramアカウントの製作②	
第15回	コーディネート提案LOOK BOOK・Instagramのプレゼンテーション	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	ターゲット分析とイメージマップの制作意図を理解し，積極的に取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。
レポート	30	課題内容の理解度とリサーチの正確性，独自の視点があるか。
小テスト		
定期試験		
その他	40	制作物（40%）制作物については，イメージマップをイメージ通りに表現することができているか。創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）とプレゼンテーション（30%）トータルコーディネート提案したイメージマップをプレゼンする。プレゼン評価は，「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	シーズンサイクルと社会行事，ファッションコーディネート，ディテール等に対して興味を持ち，街頭のショーウインドやショップを観察し，関心を高める。
授業外学修	事前学修として，課題に沿ったコーディネート提案をファッション雑誌を参考に，週当たり１時間以上，イメージトレーニングをしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ファッション流通・販売促進に不可欠とされるスタイリングの基礎的な知識や流れを習得する。	授業以上に自身で理解を深め、スタイリングの基礎的な知識に関する基礎知識を身に付け、応用できる。	授業以上に自身で理解を深め、スタイリングに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し、生活におけるスタイリング関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが、基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
知識・理解	２．デジタル・アナログ両方のアプローチからのプロモーションを把握する。	授業以上に自身で理解を深め、プロモーション理解し、自身で咀嚼し身の回りの生活へ応用できる。	プロモーションの役割を理解し、自身で咀嚼し生活へ応用できる。	プロモーションの役割を理解し、自身で咀嚼できる。	プロモーションの役割を理解しているが、応用出来ない。	プロモーションの役割を理解し切れていない。
技能	１．LOOK BOOKとSNSアカウントを制作することで、コーディネートを魅力的に発信することができる。	制作過程における独自の工夫，発想の独創性など創造性に長け、作業の丁寧さ、仕上げの美しさなどの完成度が高い。	制作過程における独自の工夫，発想の独創性など創造性があり、作業の丁寧さ、仕上げの美しさなどの完成度が高い。	授業内容を理解した制作過程を行い、完成している。	授業内容を理解した制作過程を行い、完成度が低い。	授業内容を理解しておらず、完成度が低い。
技能	２．魅力的なプレゼンテーションが出来ている。	分かり易く、聞いている人を惹き込むような魅力的な説明ができている。見易い資料で構成されている。内容の取捨選択ができている。	分かり易く、魅力的な説明ができている。見易い資料で構成されている。内容の取捨選択ができている。	分かり易く説明ができている。見易い資料で構成されている。	分かり易く説明できているが、精度に欠ける。	分かり易く説明ができていない。
態度	１．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	地域共生社会論			授業番号	HW201	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，地域社会を取り巻く環境を理解し，そこに存在する様々な課題を多角的に捉え解決できる力を身につける。 地域福祉の概要を理解し，ボランティアや誰もが暮らしやすい街づくりとはどのようなものかグループワークを通して，共生社会や多様な価値の在り方を修得する。								
到達目標	(1)地域共生社会とはどのようなものか説明できる。 (2)ボランティアの意義について説明できる。 (3)他者と意見を共有し，グループワークに取り組み自らの考えを発表することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。								

回	概要	担当
第1回	地域福祉の概念・地域福祉の構成要素の意味を理解する。 共生とは何か，その意味を理解する。	
第2回	地域福祉の歴史的展開・生活の基本機能を理解する。 地域における社会的課題を理解する。	
第3回	地域福祉の充実(コミュティ・ソーシャルワーク・社会福祉協議会・地域福祉計画)を理解する。 地域における課題を理解する。	
第4回	ボランティアの定義の意味を理解する。 有償・無償ボランティアの違いを理解する。	
第5回	災害と地域社会(過去の災害からの学び)を理解する。 阪神淡路大震災・東日本大震災を振り返り地域の課題を理解する。	
第6回	災害救助法・福祉避難所の定義を理解する。 法律的定義を理解する。	
第7回	災害シミュレーション(1) 事例を通してグループワークを行い，災害時の課題を理解する。	
第8回	災害シミュレーション(2) 事例を通してグループワークを行い，災害時の課題への解決方法を見つけることができる。	
第9回	災害シミュレーション(3) グループで発表を行い，災害時の対応や問題点を理解する。	
第10回	地域共生社会を目指す社会的背景・理念を理解する。 共生社会を阻む課題とは何か，その解決方法をみつけることができる。	
第11回	地域共生社会を目指すソーシャルインクルージョンを理解する。	
第12回	地域共生社会実現に向けた取り組みを考える。(まち・地域づくり)(1) グループワークを行い，課題をみつけることが出来る。	
第13回	地域共生社会実現に向けた取り組みを考える。(まち・地域づくり)(2) グループワークを行い，課題への解決方法を見つけることができる。	
第14回	地域共生社会実現に向けた取り組みを考える。(まち・地域づくり)(3) 各グループ発表を行い，問題点を理解する。	
第15回	地域包括ケア・まとめの振り返りを行い，地域共生社会の必要性を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・地域や災害など身近な福祉の問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座２　社会の理解	上原千寿子ほか	中央法規出版	978-4-8058-8391-4	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6カ月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6カ月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．地域共生社会とはどのようなものか理解できている。	地域共生社会の必要性を理解し、社会が抱える問題点と、どのように構成されているか具体的に説明することができている。	地域共生社会の必要性を理解し、社会が抱える問題点と、どのように構成されているか説明することができている。	地域共生社会の必要性を理解し、社会が抱える問題点が少しは理解できるが、口頭で説明することができない。	地域共生社会の必要性を理解は出来るが、どのような社会が抱える問題点があるのか説明ができない。	地域共生社会の意味を理解できていない。
知識・理解	２．ボランティアの意義について説明できている	ボランティアの種類やその必要性や意義について具体的に説明できている	ボランティアの種類やその必要性や意義について説明できている	ボランティアの種類はわかるが、その必要性や意義について説明できない。	ボランティアの意味は何となくわかるが有償・無償の違いは理解できていない。また、その必要性や意義について説明できない。	ボランティアとは何か理解できていない。
思考・問題解決能力	地域にある課題をみつけ、それに対する解決策を見出すことができている。	地域にある課題をみつけ、それに対する適切な解決策を見出すことができている。	地域にある課題をみつけ、それに対する解決策を見出すことができている。	地域にある課題をみつけることが出来るが、具体的な解決策を見出すことができない。	地域にある課題をみつけることが出来るが、解決策が見いだせない。	地域にどのような課題があるのか理解できていない。
態度	他者と意見を共有し，グループワークに取り組み発表することができている。	自らの意見もしっかりと述べ他者の意見を尊重しながら内容を共有し，連携しながらグループワークに取り組み発表することができている	他者の意見を尊重しながら内容を共有し，連携しながらグループワークに取り組み発表することができている	他者の意見を共有し，少し自らの意見を述べ連携しながらグループワークに取り組むことができている	他者と意見を共有し、グループワークに取り組むことができているが自らの意見を述べることが少ない。	自分の意見も言えないし、他者と意見を共有しすることも出来ないためグループワークとして成立できていない。

科目名	地域福祉論			授業番号	HW202	サブタイトル	地域福祉とは何かを明らかにします。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	地域福祉の理念，地域福祉主体の対象，地域福祉の主体と対象，地域福祉の担い手の本質を理解する。 また，地域住民に対する社会資源，地域福祉の現状と課題について学ぶ。								
到達目標	地域福祉計画の概要，地域福祉の現状と課題の知識，技術を知り，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	現代における地域の特徴のポイントを抑える。 地域福祉の概念、理念について学ぶ。	
第2回	地域福祉の課題のポイントを抑える。 わが国の地域福祉の課題の現状について学ぶ。	
第3回	地域福祉の基本理念と概念のポイントを抑える。 地域福祉の基本理念、概念を概観する。	
第4回	地域福祉の理論のポイントを抑える。 地域福祉の理論について概観する。	
第5回	地域福祉主体と対象のポイントを抑える。 地域福祉の主体と対象について概観する。	
第6回	地域福祉の担い手（１）社会福祉協議会のポイントを抑える。 社会福祉協議会の機能や内容について概観する。	
第7回	地域福祉の担い手（２）民生・児童委員のポイントを抑える。 民生委員・児童委員の機能や概要について学ぶ。	
第8回	地域福祉の担い手（３）民間非営利組織のポイントを抑える。 民間非営利組織の機能や概要について学ぶ。	
第9回	地域福祉の担い手（４）社会福祉施設のポイントを抑える。 社会福祉施設の機能や概要について学ぶ。	
第10回	地域福祉の担い手（５）地方自治体のポイントを抑える。 地方自治体の地域福祉における機能や課題について学ぶ。	
第11回	地域福祉の動向のポイントを抑える。 地域福祉とは何かについて学ぶ。	
第12回	地域福祉計画とはのポイントを抑える。 地域福祉計画について概観する。	
第13回	地域福祉計画の作成の意義のポイントを抑える。 地域福祉計画作成の意義について概観する。	
第14回	地域福祉計画の方法のポイントを抑える。 地域福祉計画の方法について概観する。	
第15回	地域福祉計画の財源のポイントを抑える。 地域福祉計画の財源について概観する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，発表，グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートについて評価する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループワークで授業をを展開します。 ・予習と授業中の積極的発言を求めます。 ・自分で考えることをベースに授業に参加してください。
授業外学修	・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。 ・復習として，授業のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
現代地域福祉	高内正子監修	教育情報出版	978-4-905493-06-8	2381円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会福祉概論	小田兼三他	勁草書房	978-4-326-70095-0	2800円＋税
参考書：自由記載	随時紹介します。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者保健福祉分野において実践経験を踏まえた授業を実践している。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．地域福祉制度を理解する。	地域福祉制度をすべて理解できる。	地域福祉制度を概ね理解できる。	地域福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	1．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。

科目名	社会福祉論			授業番号	HW203	サブタイトル	広義の社会福祉の体系を明らかにする。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講では，福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。具体的には，「社会福祉の概念」，「社会福祉の沿革」，「年金」，「医療」，「介護」，「子育て」，「障害者福祉」，「高齢者福祉」の基礎を学ぶ。								
到達目標	現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得する。また，現代生活に必要な社会福祉の基本的知識を知り，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	現代社会と社会福祉のポイントを抑える。 わが国の少子高齢化の現状と課題について学ぶ。	
第2回	社会福祉とはのポイントを抑える。 社会福祉の概念理念について学ぶ。	
第3回	社会福祉の歴史（イギリス）Ⅰのポイントを抑える。 イギリスの社会福祉の沿革について学ぶ。（戦前）	
第4回	社会福祉の歴史（イギリス）IIのポイントを抑える。 イギリスの社会福祉の沿革について学ぶ。（戦後）	
第5回	わが国の社会福祉の歴史Iのポイントを抑える。 わが国の社会福祉の沿革について学ぶ。（戦前）	
第6回	わが国の社会福祉の歴史IIのポイントを抑える。 わが国の社会福祉の沿革について学ぶ。（戦後）	
第7回	公的扶助のポイントを抑える。 公的扶助の制度、サービスについて学ぶ。	
第8回	児童家庭福祉Iのポイントを抑える。 「児童福祉法」の概要について学ぶ。	
第9回	児童家庭福祉IIのポイントを抑える。 「児童福祉法」以外の児童家庭福祉関係の法律、制度の概要について学ぶ。	
第10回	障害者福祉Iのポイントを抑える。 「障害者総合支援法」の制度、サービスについて学ぶ。	
第11回	障害者福祉IIのポイントを抑える。 「障害者総合支援法」以外の障害者関連の制度、サービスについて学ぶ。	
第12回	高齢者福祉Iのポイントを抑える。 「介護保険法」、「後期高齢者医療制度」の概要について学ぶ。	
第13回	高齢者福祉IIのポイントを抑える。 「公的年金制度の」の概要について学ぶ。	
第14回	社会福祉のこれからのポイントを抑える。 社会福祉の動向やこれからの展望について学ぶ。	
第15回	全体のまとめのポイントを抑える。 これまでの社会福祉の学習を振り返り、全体を総括する。	
授業計画　備考2	山陽新聞を教材にします。3回山陽新聞記者が特別授業を行います。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講座は講義形式とグループ討議で授業を展開します。 ・予習と授業の積極的参加を期待します。 ・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に参加してください。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる章節を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く ・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	随時紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	シルバー人材センター，福祉事務所の経験を「高齢者福祉」，「障害者福祉」の学習に活かす。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会福祉制度を理解する。	社会福祉制度をすべて理解できる。	社会福祉制度を概ね理解できる。	社会福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	1．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。

科目名	ヒューマンケア ① シラバス用			授業番号	HW2050	サブタイトル	人権と尊厳を支える介護		
教員	韓 在都、森田 裕之								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき，職務におけるリスクとその対応策を理解する。 他職種との連携のもと，介護を展開していかなければならないことを理解する。								
到達目標	(1)介護の専門性と職業倫理及び多様なサービスについて理解し，説明することができる。 (2)他職種との連携の重要性について学び，介護職の役割を説明することができる。 (3)虐待の定義，身体拘束及びサービス利用者の尊厳，プライバシーを儘つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。 (4)介護職の職業倫理の重要性を理解し，介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について， ポイントを列挙できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	多様なサービスの理解１ 介護と介護保険制度の意義や目的を理解する。	韓 在都
第2回	多様なサービスの理解２ 多様なサービスと介護職の仕事内容・働く現場を理解する。	韓 在都
第3回	介護職の仕事内容や働く現場の理解１ 介護職の資格体形の見直しを理解する。	韓 在都
第4回	介護職の仕事内容や働く現場の理解２ 介護職のキャリアパスの全体像を理解する。	韓 在都
第5回	人権と尊厳を支える介護１ 個人の権利を守る制度，介護分野のICFを理解する。	韓 在都
第6回	人権と尊厳を支える介護２ 生活の質とマズローの欲求段階説，ノーマライゼーションについて理解する。	韓 在都
第7回	人権と尊厳を支える介護３ 高齢者虐待予防法・身体拘束禁止について理解する。	韓 在都
第8回	自立に向けた介護１ 専門職として求められる「自立」と「自律」を理解する。	韓 在都
第9回	自立に向けた介護２ 自立支援のための介護予防と健康寿命について理解する。	森田 裕之
第10回	自立に向けた介護３ 介護保険と介護予防，社会的入院について理解する。	森田 裕之
第11回	介護職の役割，専門性と多職種との連携 訪問介護サービス，施設介護サービス，地域包括センターの役割と機能について理解する。	森田 裕之
第12回	介護職の職業倫理 専門職として法令遵守，倫理綱領について理解する。	森田 裕之
第13回	介護における安全の確保の重要性と，リスクマネジメント 緊急時の対応，応急処置，感染症対策について理解する。	森田 裕之
第14回	介護職の安全 介護職の心身の健康管理，腰痛予防，ストレスマネジメントの重要性を理解する。	森田 裕之
第15回	まとめ（特に職業倫理・介護の専門性への理解を深める）	韓 在都
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	第1回～15回の講義内容の理解度を，ペーパー試験で評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	各回学んだ介護職員の職業倫理とチームワーク（他職種との連携）を常に意識し，授業に望むことを求める。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。 2 発展学修として授業で紹介した参考文献を次回授業までに読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキスト 第１分冊 理念と基本	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-45-7	1000円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。（韓 在都） 通所リハビリテーション介護職員（2年半），訪問介護管理者兼サービス提供責任者(5年半）（森田 裕之）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだこころのしくみに関する知識や技術を身につよう指導する。（韓 在都）高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田 裕之）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護職の専門性と職業倫理を理解し、説明できる。	専門職としての倫理や使命に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	専門職としての倫理や使命に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	専門職としての倫理や使命に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	専門職としての倫理や使命に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	専門職としての倫理や使命に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．介護職務におけるリスクとその対策について理解し、説明できる。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．介護職の役割と他職種との連携の重要性を理解し、説明できる。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．介護福祉の社会化と専門職として倫理や使命を理解し、説明できる。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．自立に向けた介護について理解し、説明できる。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．介護における安全の確保とリスクマネジメントについて説明できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に説明できるが不十分である。
技能	1．介護福祉の基本理念を説明できる。	介護福祉の基本理念について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護福祉の基本理念について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護福祉の基本理念について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護福祉の基本理念について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護福祉の基本理念について他者に説明できるが不十分である。
技能	2．フォーマルサービスとインフォーマルサービスの支援について説明できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に説明できるが不十分である。
技能	3．介護予防やリハビリテーションの意義と目的を説明できる。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができない。

科目名	ヒューマンケア ② シラバス用			授業番号	HW2051	サブタイトル	介護保険制度とコミュニケーション		
教員	韓 在都、中野 ひとみ、森田 裕之								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	介護保険制度や，障がい者に関する制度を担う一員として，最低知っておくべき制度の内容，目的，サービス利用の流れ，各専門職の役割・責務について学ぶ。 また介護が必要な人たちの生活（家事，住環境，終末期医療）についても理解する。								
到達目標	(1)介護保険制度や障害者総合支援制度の理念，介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙することができる。 (2)家事援助の基礎知識と生活支援技術を学び，家事援助のポイントを説明することができる。 (3)終末期の基礎知識と利用者の心の援助について説明することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げる学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	介護保険制度 1 介護保険制度の創設の背景・しくみなどを理解する。	森田 裕之
第2回	介護保険制度 2 介護保険制度の財源・組織・役割，医療保険との関わりを理解する。	森田 裕之
第3回	医療との連携とリハビリテーション 1 高齢者の服薬服用と副作用，医療行為，介護職員による服薬介助について理解する。	森田 裕之
第4回	医療との連携とリハビリテーション 2 医療処置の目的と方法，医療処置を行っている人の介護について理解する。	森田 裕之
第5回	障害者に関する制度及びその他の制度 1 日本の法律で定める障害のとらえ方や障害者福祉制度創設の理念・背景と目的について理解する。	韓 在都
第6回	障害者に関する制度及びその他の制度 2 障害者福祉制度のしくみなどの基礎的理解と個人の権利を守る概要について理解する。	韓 在都
第7回	介護におけるコミュニケーション 1 コミュニケーションの基本要素，意義，目的，役割，手段と技法について理解する。	韓 在都
第8回	介護におけるコミュニケーション 2 介護におけるコミュニケーションにおける利用者・家族への対応の基礎知識を理解する。	韓 在都
第9回	介護におけるコミュニケーション 3 チームのコミュニケーションにおける記録による情報の共有化について理解する。	韓 在都
第10回	介護におけるコミュニケーション 4 チームのコミュニケーションにおける報告・連絡・相談について理解する。	韓 在都
第11回	老化に伴うこころとからだの変化と日常 1 老年期の発達と心身の変化の特徴を理解する。	中野 ひとみ
第12回	老化に伴うこころとからだの変化と日常 2 心身の機能の変化と日常生活への影響について理解する。	中野 ひとみ
第13回	高齢者と健康 1 高齢者の疾病（老年症候群）と生活上の留意点（外科系）について理解する。	中野 ひとみ
第14回	高齢者と健康 2 高齢者に多い病気と生活上の留意点（内科系）についてについて理解する。	中野 ひとみ
第15回	認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念やパーソンセンタードケアについて理解する。	韓 在都
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	30	制度や介護が必要な人の気持ちが理解でき，述べていること。提出物は，コメントを記入して返却する。
小テスト	40	知識の定着度・理解度（２回の小テストにより）を評価する。
定期試験		
その他	30	授業中整理した資料等の提出物を評価する。提出物は，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目で全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	介護が必要な人の生活について理解し，学修したことを生活の中で活かすことを求める。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。 2 授業で身につけた知識について復習し，介護が必要な人の気持ちについて振り返る。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 制度の理解	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-46-4	1430円（税込み）
介護職員初任者研修テキスト 第4分冊 技術と実践	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-48-8	2200円（税込み）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓 在都） 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設（介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野ひとみ） 通所リハビリテーション介護職員（2年半），訪問介護管理者兼サービス提供責任者(5年半）（森田 裕之）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（韓 在都）看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野ひとみ） 高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田 裕之）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、説明できる。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者に説明でき、質問に回答できる。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．障害者福祉と障害者保健福祉制度について説明できる。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．家事援助の基礎知識と家事援助のポイントを説明できる。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．介護保険制度の目的とサービスの流れを説明できる。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．障害者総合支援法の理念や仕組みについて説明できる。	障害者総合支援法について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	障害者総合支援法について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	障害者総合支援法について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	障害者総合支援法について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	障害者総合支援法について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを説明できる。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に説明でき、質問に対して回答できる。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に説明できるが不十分である。
技能	1．介護保険制度の社会的意義や役割について説明できる。	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に説明できるが不十分である。
技能	2．障害者福祉関連する法律と制度に関する情報をPCを利用して適切なキーワードで検索できる。	PC等を用いて、的確なキーワードで検索でき、必要な情報・データにアクセスでき、PCを利用したプレゼンテーションができる。	PC等を用いて、的確なキーワードで検索でき、必要な情報にアクセスできる。	PC等を用いて、キーワードで必要な情報にアクセスできる。	PC等を用いて、キーワードで検索できるが、必要な情報に適切にアクセスできない。	PC等が適切に使用することができず、的確なキーワードで検索できない。
技能	3．生活支援に共通する技術を説明できる。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができない。

科目名	ヒューマンケア ③ シラバス用			授業番号	HW2052	サブタイトル	認知症の基礎と健康管理		
教員	韓 在都、中野 ひとみ、森田 裕之								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なる。その違いを理解する。 また，加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について理解し，その心理的特徴についても学ぶ。								
到達目標	(1)老化・認知症・障がいについて説明することができる。 (2)共感，受容，傾聴的態度，気づきなど基本的なコミュニケーション上のポイントについて説明することができる。 (3)家族の気持ちについて理解し，介護職として持つべき視点を列挙することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症の概念と中核症状，原因疾患の診断，病態，ケアのポイントを理解する。	中野 ひとみ
第2回	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 生活障害，心理，行動の特徴，利用者への対応についてについて理解する。	中野 ひとみ
第3回	家族への支援 認知症への受容過程での援助とレスパイトについて理解する。	韓 在都
第4回	障がいの基礎的理解 障害者福祉の基本理念と国際生活機能分類（ICF）について理解する。	韓 在都
第5回	障害の医学的側面，生活障害，心理・行動の特徴，かかわり支援等の基礎的知識 肢体不自由，内部障害，視覚・聴覚障害，音声・言語・咀嚼機能障害などの障害を持つ人の関わり方を理解する。	中野 ひとみ
第6回	家族の心理，かかわり支援の理解 介護する家族の遭遇するストレスや介護負担の軽減について理解する。	韓 在都
第7回	生活と家事１ 人の暮らし（衣食住の環境）について理解する。	韓 在都
第8回	生活と家事２ 家事援助の基礎知識と家事援助の技法について理解する。	韓 在都
第9回	快適な居住環境整備と介護１ 人と住まい，高齢者に必要な住まいの性能について理解する。	森田 裕之
第10回	快適な居住環境整備と介護２ 介護保険による住宅改修，福祉用具の基礎知識について理解する。	森田 裕之
第11回	死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護１ 住み慣れた場所で最期を迎えるための終末期ケアについて理解する。	韓 在都
第12回	死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護２ 高齢者の死に至るパターンとケアの特徴，終末期の心理状態についてついて理解する。	韓 在都
第13回	ふり返り１ 第4分冊における振りかえりの課題などを学び，自立支援について理解する。	韓 在都
第14回	ふり返り２ 介護現場で求められるOJT，介護職のキャリアにつながるOJT，OJT・Off−JTの実際について理解する。	韓 在都
第15回	就業への備えと研修修了後における継続的な研修 介護職のキャリアップにつながる契機，現任者研修で大切にしたいことについて理解する。	韓 在都
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	40	身につけた知識を，実生活に生かす意欲について述べられていること。提出物は，コメントを記入して返却する。
小テスト	60	老化・認知症・障がいについての知識の理解度（3回の小テストにより）を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	なお，本科目は，「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。 資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	高齢者や認知症，障がいがある人に関心をもち，授業で得た知識を普段の生活の中で生かすことを求める。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1 授業で身につけた知識・技能について予習・復習し普段の生活に生かせるようにすること。 2 課されたレポートの作成をすること。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 老化・認知症・障害の理解	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-47-1	1300＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。（韓 在都） 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野ひとみ） 通所リハビリテーション介護職員（2年半），訪問介護管理者兼サービス提供責任者(5年半）（森田 裕之）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだとこころのしくみに関する知識や技術を身につけるよう指導する。（韓 在都）看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野ひとみ） 高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田 裕之）			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について説明できる。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について説明し、質問に的確に回答できる。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について他者に説明でき、質問に回答できる。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントを説明できる。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化について説明できる。	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術を活用できる。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術を活用できる。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	1．認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念を説明できる。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	2．介護における記録による情報の共有化について説明できる。	介護における記録による情報の共有化について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護における記録による情報の共有化について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護における記録による情報の共有化について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護における記録による情報の共有化について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護における記録による情報の共有化について他者に説明できるが不十分である。
技能	3．家族の心理を心理を理解し、かかわる手法を説明できる。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に説明できるが不十分である。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができない。

科目名	介護保険事務論			授業番号	HW207	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	我が国は超高齢社会を迎え，介護保険サービスを利用する高齢者は年々増加している。その中で，保険料の増額，提供されるサービスの質の評価など，さまざまな問題が出てきている。本科目は，介護保険制度を理解した上で，介護保険サービスを利用するための要件やサービスの種類，また，介護報酬の算定方法などを医療保険と関連づけながら総合的に学ぶ。								
到達目標	・介護保険制度の仕組みや背景について理解できる。 ・介護報酬算定を理解し，介護レセプトが作成できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	介護保険制度（1）介護保険制度の背景，被保険者の特徴，要介護度認定の流れについて理解する。	
第2回	介護保険制度（2）これまでの介護保険制度改正，令和3年度改正の要点について理解する。	
第3回	介護保険制度（3）介護保険制度の利用のしくみ，財源と保険料の仕組み，要介護区分，ケアマネージャーについて理解する。	
第4回	介護保険制度（4）成年後見制度，高齢者虐待の定義，サービス事業者の指定・取り消しについて理解する。	
第5回	介護保険制度（5）介護保険制度の創設と意義，サービス高齢者住宅，高齢者への訪問診療について理解する。	
第6回	介護保険制度（6）介護保険制度と法令，現物給付と償還払い，地域包括支援センターの特徴について理解する。	
第7回	介護保険制度（7）訪問，通所，入所等の介護サービスの種類と特徴，共生型サービスについて理解する。	
第8回	介護報酬算定の理解 (1)介護保険と医療保険の相違点，介護報酬の原則と特徴，地域区分と単価計算について理解する。	
第9回	介護報酬算定の理解 (2)介護報酬サービスコード表を用いた単位計算の方法を理解する。	
第10回	介護報酬算定の理解 (3)地域区分と介護報酬サービスコード表を用いた単位計算の方法を理解する。	
第11回	介護レセプト作成(1)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。	
第12回	介護レセプト作成(2)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。	
第13回	介護レセプト作成(3)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。	
第14回	介護レセプト作成(4)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。	
第15回	介護レセプト作成(5)介護レセプト様式第二の介護サービスの単位と負担額計算を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト	40	介護レセプト作成技能を評価する。
定期試験		
その他	30	課題の完成度で評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	介護事務の仕事においては当然必須であるが，医療事務の仕事にも介護保険の知識や介護報酬算定の技能が求められる時代になってきている。福祉・介護，医療分野への就職を目指す学生は仕事のことも意識して受講すること。また，仕事で介護事務に携わらなくても，将来自分の家族に介護が必要になったときにも有用な知識が多いため，生活者としての介護保険の利用も考えながら受講する。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，講義資料にある問題を復習する。 3. 介護保険に関わる新聞記事を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい介護保険のしくみ よくわかる！ 令和３年改正対応版	長谷憲明	瀬谷出版	978-4-902381-43-6	2，600円 + 税
介護報酬基本テキスト　介護報酬サービスコード表付き	ケアアンドコミュニケーション株式会社	ケアアンドコミュニケーション株式会社	なし	3，300円 + 税
使用テキスト：自由記載	介護報酬基本テキストは学内のテキスト販売日ではなく，別途代金を徴収して出版社から直接購入する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護保険制度の仕組みや背景について理解している。	介護保険制度の仕組みや背景について大変よく理解している。	介護保険制度の仕組みや背景について十分理解している。	介護保険制度の仕組みや背景について理解している。	介護保険制度の仕組みや背景について理解が不十分である。	介護保険制度の仕組みや背景について理解していない。
技能	１．　介護報酬算定を理解し，介護レセプトが作成できる。	介護報酬算定を理解し，様式第二の介護レセプトを作成できる技能を大変よく有している。	介護報酬算定を理解し，様式第二の介護レセプト作成できる技能が十分ある。	介護報酬算定を多少理解し，様式第二の介護レセプトを作成できる技能がある。	介護報酬算定があまり理解できておらず，様式第二の介護レセプトを作成することが難しい。	介護報酬算定が理解できておらず，様式第二の介護レセプトを作成することができない。

科目名	介護概論			授業番号	HW208	サブタイトル	介護とは何かについて明らかにする。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	介護の理念，介護の役割と機能，介護他分野の連携の本質を理解する。 また，介護の理念，倫理，対象，介護保険制度の本質と課題について学ぶ。								
到達目標	介護現場での最低限必要な介護の知識，制度等を理解し，その内容が説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護の成り立ちのポイントを抑える。 介護の概念について学ぶ。	
第2回	介護の基本理念のポイントを抑える。 介護の理念について学ぶ。	
第3回	介護福祉士を取り巻く状況のポイントを抑える。 介護福祉士の資格の現状について学ぶ。	
第4回	「社会福祉士及び介護福祉士法」のポイントを抑える。 「社会福祉士及び介護福祉士法」の概要について学ぶ。	
第5回	介護における専門職団体の活動のポイントを抑える。 介護における専門職団体について概観する。	
第6回	介護福祉士の倫理のポイントを抑える。 介護福祉士の倫理について概観する。	
第7回	自立の考え方のポイントを抑える。 自立とは何かについて学ぶ。	
第8回	ICFの考え方のポイントを抑える。 ICFについて概観する。	
第9回	自立支援とリハビリテーションのポイントを抑える。 自立支援とリハビリテーションについて概観する。	
第10回	自立支援と介護予防のポイントを抑える。 自立支援と介護予防について概観する。	
第11回	介護福祉を必要とする人の理解のポイントを抑える。 介護福祉を必要とする人の理解について概観する。	
第12回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみのポイントを抑える。 介護保険制度の内容、課題について学ぶ。	
第13回	介護における安全の確保とリスクマネジメントのポイントを抑える。 介護における安全の確保とリスクマネジメントについて概観する。	
第14回	協働する多職種の機能と役割のポイントを抑える。 医療、保健、福祉の専門職や連携、協働について概観する。	
第15回	介護従事者の安全のポイントを抑える。 介護従事者の安全について概観する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，発表，グループワークの参加，予習，復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートについて評価する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループワークで授業を展開します。 ・予習と授業中の積極的発言を求めます。 ・自分で考えることをベースに授業に参加してください。
授業外学修	・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。 ・復習として，授業のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では，時間外学修として，予習，復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ＮＩＥ介護の基本演習	松井圭三他	大学教育出版	978-4-86692-004-7	2200円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護保険政策集	松井圭三他	大学教育出版	978-4-88730-839-8	1800円＋税
参考書：自由記載	随時紹介します。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者保健福祉分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護の福祉制度を理解する。	介護の福祉制度をすべて理解できる。	介護の福祉制度を概ね理解できる。	介護の福祉制度を理解できる。	介護の福祉制度をほとんど理解できない。	介護の福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	１．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。

科目名	介護の基本Ⅰ			授業番号	HW209	サブタイトル			
教員	森田 裕之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	わが国の「介護」における社会的状況はめまぐるしく変化している。そのなかで介護福祉士は，多様，複雑，高度な問題を解決できる専門職としての役割を期待されていることを理解する。また，高齢者に対する「尊厳の保持」，「自立支援」，「自律支援」という考え方を理解するとともに，「介護を必要とする人」を生活の観点から捉える。 本講義では，介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し，介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学修とする。介護福祉の基本となる理念を理解し，介護福祉士としての倫理に基づき，その役割と機能を理解する。								
到達目標	介護福祉の基本となる理念を理解することができる。 介護福祉士の役割と機能を理解することができる。 介護福祉士の倫理を理解することができる。 自立に向けた支援の必要性を理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	介護の成り立ち～専門職による「介護」の展開 介護の歴史や介護福祉士制度の背景について理解する。	
第2回	介護の概念の変遷 社会福祉士及び介護福祉士法やゴールドプラン等をもとに、介護の概念の変遷について理解する。	
第3回	介護福祉の基本理念 「生活の継続性」「自己決定の尊重」「残存能力の活用」といった介護福祉の基本理念について理解する。	
第4回	尊厳・自立を支える介護 尊厳の保持や自立支援について理解する。	
第5回	介護福祉士の活動の場と役割 介護保険制度や障害者総合支援法に基づく施設・事業所について理解する。 また、それぞれの種別における介護福祉士の役割について理解する。	
第6回	社会福祉士及び介護福祉士法 社会福祉士及び介護福祉士法成立の背景や介護福祉士の定義について理解する。	
第7回	介護福祉士養成及び社会福祉専門職に求められる役割の拡大 社会福祉士及び介護福祉士法の法改正から、介護福祉士養成及び社会福祉専門職に求められる役割について理解する。	
第8回	介護福祉士を支える団体 日本介護福祉士会等、介護福祉士を支える団体について理解する。	
第9回	介護福祉士の実践における倫理 日本介護福祉士会倫理綱領をもとに、介護福祉士の実践における倫理を理解する。	
第10回	自立支援の考え方 自立と自律の違い等から、自立支援の基本的な考え方を理解する。	
第11回	ICFの考え方（1） ICIDH（国際障害分類）とICF（国際生活機能分類）について理解する。	
第12回	ICFの考え方（2） ICF（国際生活機能分類）の6つの構成要素である「健康状態」「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」について理解する。	
第13回	自立支援とリハビリテーション リハビリテーションの基本的な考え方を理解し、自立支援との関連性について学ぶ。	
第14回	自立支援と介護予防 「要介護状態の発生をできる限り防ぐ（遅らせる）こと、そして要介護状態にあってもその悪化をできる限り防ぐこと、さらには軽減を目指すこと」という介護予防の考え方と自立支援のつながりについて理解する。	
第15回	介護福祉の基本理念・まとめ 介護福祉に関する基本理念や知識を統合して、介護福祉について説明することができる。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。
レポート	20	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する
小テスト		
定期試験	70	授業内容を理解できているか評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 5．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は90時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週6時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座３　介護の基本I		中央法規出版	978-4-8058-8392-1	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト その都度，授業資料・参考資料を配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2024」中央法規出版　（6月頃発行）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（森田）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）の経験から、介護における基本的な知識を有している。介護の基本である自立支援やICF等の知識を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識を有する。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に十分に関する知識を有する。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識を概ね有する。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識をある程度有する。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識をあまり有していない。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識を有していない。
思考・問題解決能力	1．介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力を有する。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力を十分に有する。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力を概ね有する。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力をある程度有する。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力をあまり有していない。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力を有していない。
思考・問題解決能力	2．介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力を有する。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力を十分に有する。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力を概ね有する。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力をある程度有する。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力をあまり有していない。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力を有していない。

科目名	認知症の理解Ⅰ			授業番号	HW210	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では認知症に関する基礎的知識を習得するとともに，認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する。 認知症ケアの歴史から認知症を取り巻く状況を理解し，医学的側面から見た認知症の基礎となる知識を身につける。 認知症の人のその治療やケアについて理解を深めるとともに，予防と生活に及ぼす影響について修得する。 認知症の人のみならず，家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する。 また認知症に伴うこころとからだの変化が日常生活に及ぼす影響について事例をもとにロールプレイを行い，認知症の本人や家族の気持ちを理解する力を身につける。								
到達目標	(1)認知症の人の体験，認知症を取り巻く環境，認知症の人の医学，行動，心理，認知症の人の生活について理解し説明できる。 (2)認知症をもつ人と家族の体験を学ぶことにより，自分で考え支援する方法論を説明することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。 本科目は介護福祉士国家試験対応科目である。 ゲストスピーカーの講義は日程調整をして行う。								

回	概要	担当
第1回	認知症とはなにか，認知症の人の介護，認知症ケアの理念と視点を理解する。	中野
第2回	認知症ケアの歴史，認知症の人の体験とはどのようなものかを理解する。 キノコエスポワールの取り組み（DVD)を視聴し理解する。	中野
第3回	認知症による症状，その人らしさを大切する支援の必要性を理解する。	中野
第4回	認知症の原因となる脳のしみ・病変(脳のしみ)を理解する。 脳の解剖生理を理解する。	中野
第5回	認知症と老化の関係(認知症と他の状態との鑑別，うつやせん妄)を理解する。 病態と対応について理解する。	中野
第6回	認知症の症状(中核症状・BPSD)を理解する。 記憶・知能・失行・失認を理解する。 BPSDの症状と対応について理解する。	中野
第7回	認知症の主な原因疾患(アルツハイマー型認知症)を理解する。(1) 病態と対応について理解する。	中野
第8回	認知症の主な原因疾患(脳血管性認知症)を理解する。(2) 病態と対応について理解する。	中野
第9回	認知症の主な原因疾患(レビー小体型・前頭側頭型認知症)を理解する。(3) 病態と対応について理解する。	中野
第10回	認知症の主な原因疾患(その他の認知症)を理解する。(4) 病態と対応について理解する。 若年性認知症の課題について理解する。	中野
第11回	認知症の検査・治療方法・予防を理解する。 長谷川式認知症スケールやMMSEや確定診断に必要な検査を理解する。 認知症治療薬や向精神薬の効果と副作用について理解する。 認知症予防のための日常生活の留意点を理解する。	中野
第12回	認知症の人の支援療法（回想法）を理解する。 認知症支援に必要な自己覚地・他者理解を理解する。	森重
第13回	認知症を取り巻く社会的問題を理解する。 虐待や家族介護の難しさ及び老々介護の実態を事例問題から考える。	中野
第14回	認知機能の変化が生活に及ぼす影響や家族支援を理解する。 本人支援や家族へのレスパイトケアについて理解する。	中野
第15回	認知症の人の環境の理解，生活を続けるに必要な支援について理解しまとめを行う。	中野
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読むこと。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座13　認知症の理解	中司登志美ほか	中央法規出版	978-4-8058-5773-1	2200円

使用テキスト：自由記載	視聴覚教材

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員業務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	森重 功:心療内科における心理臨床(老年期を含む)（22年）大学病院老年科，総合病院精神科における認知症スクリーニング検査（3年）総合病院精神科における認知症高齢者（軽度・中等度）を対象としたグループ回想法 ファシリテーター（2年）介護福祉士、社会福祉士、保育士養成課程講師（9年）看護師養成課程講師（10年）
実務経験をいかした教育内容	中野：看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。 森重：認知症の診断にかかわる検査の経験（3年），認知症高齢者を対象とした回想法を運営した経験（2年）に基づいた認知症の理解やかかわりに関する知見を事例を通しておく伝えするとともに，さまざまな心理的課題を抱えた来談者とともに歩んできた心理臨床の経験（22年）を通して考えてきた対人理解に関する諸課題（特に治療者の自己理解）について，実践的な観点からお伝えしていく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．認知症の取り巻く環境を理解できている	社会における認知症の問題を問題意識として捉え、解決方法を考えることができている	社会における認知症の問題を問題意識として捉えることができている。	社会における認知症の問題に興味・関心を持つことができている。	社会における認知症の問題に少しだけ興味・関心を持つことができている。	社会における認知症の問題を全く理解できていない。
知識・理解	2．認知症の医学的知識を理解できている	認知症の種類による原因疾患や主症状、脳のメカニズム及び治療方法まで理解することができている。	認知症の種類による原因疾患や主症状や脳のメカニズムを理解することができている。	認知症の種類による原因疾患や主症状を理解することができている。	認知症の種類だけを理解することができているが主症状は判別できていない。	認知症の医学的知識が全く理解できていない
知識・理解	3．認知症の行動・心理を理解できている	認知症の行動・心理症状の発症時期を含め、中核症状及び周辺症状が的確に区別と内容を理解できている。	認知症の中核症状及び周辺症状も理解し行動・心理症状の理解もできている。	認知症の中核症状及び周辺症は理解できているが行動、心理症状の区別がつかない。	認知症の主たる症状はわかるがそのほかに出現する症状や行動、心理症状の区別がつかない。	認知症の症状が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1．認知症の人や家族への支援方法を見出すことができる	認知症の人や家族への支援方法を理解し具体的な声掛けの仕方や支援内容を明確に説明することができている。	認知症の人や家族への支援方法が浮かび簡単に説明することができているが不十分なところもある。	認知症の人や家族への支援方法が曖昧だが浮かぶが明確な説明ができていない。	認知症の人への支援法はわかるが家族への支援方法は浮かばない。	認知症の人や家族への支援方法が全く浮かばない
思考・問題解決能力	2.認知症のBPSDへの対応方法を見出すことができる。	認知症のBPSDの症状を理解できるが具体的かつ明確な対応方法を答えることができる。	認知症のBPSDの症状を理解でき対応方法を答えることができる。	認知症のBPSDの症状を理解できるがヒントを与えると対応方法が曖昧だが答えることができる。	認知症のBPSDの症状少し理解できるがヒントを与えても具体的な対応方法まで浮かばない。	認知症のBPSDがどのような症状が出現するか理解できていないためヒントを与えても対応方法が全く浮かばない。
態度	1．介護福祉士として認知症の人への対応を理解できている。	介護福祉士として認知症の方や家族にも関わることができそうで、専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	介護福祉士として認知症の方へ関わることができそうであり、専門的な知識・技術をもって対応できると考えうえる。	介護福祉士として認知症の方へ関わることができそうだが、専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが、一部不十分でなところもある。	介護福祉士として認知症の方へ関わることができそうではあるが、専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉士として専門性を持って認知症の方へ対応できそうもない。

科目名	人間発達学			授業番号	HW211	サブタイトル			
教員	疋田 基道								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	人間は，時間とともに様々な側面（感覚，感情，認知，社会性など）において変化していく存在である。この講義では，人間が生まれてからどのようなプロセスをたどりながら発達していくのかについて基礎的な知識を身につける。主要な発達理論を参照しながら，胎児期から高齢期まで段階ごとに発達の様相について解説する。								
到達目標	・主要な発達理論について説明できる。 ・各発達段階の特徴について説明できる。 ・発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる ・なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	発達とは何か―発達理論 基礎的な発達理論について理解し，発達とは何かを学ぶ	
第2回	胎児期 胎児の発達の特徴と胎内環境について学ぶ	
第3回	乳児期 乳児期の身体，知覚，情緒，言語，アタッチメントの発達について学ぶ	
第4回	幼児期(1) 幼児期の自律性，他者との関係の発達について学ぶ	
第5回	幼児期(2) 幼児期の認知発達と遊びの重要性について学ぶ	
第6回	児童期(1) 児童期の認知発達と動機付けについて学ぶ	
第7回	児童期(2) 児童期の社会性と道徳性の発達について学ぶ	
第8回	青年期(1) 青年期の思考・感情と人間関係について学ぶ	
第9回	青年期(2) 青年期のアイデンティティの確立と精神的自立について学ぶ	
第10回	成人期（１） 成人期における発達課題について学ぶ	
第11回	成人期（２） 成人期後期における次世代育成と中年期危機について学ぶ	
第12回	高齢期 高齢期における人生の振り返りについて学ぶ	
第13回	発達の個人差，障害 発達障害を含む様々な発達の個人差について学ぶ	
第14回	人間発達に関わる現代的課題 人間発達に関わる現代的課題について紹介し，考察する	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	70	授業内容の理解度を評価する。小テスト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受け身の姿勢ではなく，問題意識をもって能動的態度で受講すること。
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること。 ・授業で紹介した本や資料を読むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
完全カラー図解 よくわかる発達心理学	渡邉弥生 監修	ナツメ社	978-4-8163-7057-1	1600円+税
使用テキスト：自由記載	講義内容の理解を深めるために，必要に応じて紹介する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義内容の理解を深めるために，適宜文献を紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計18年10か月）の実務経験を有する。実務経験の合計は20年。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	人間の発達について、これまでの様々な年代の方々との臨床経験（20年）を通し、各発達期の特性や課題について伝えることができ、実践に活かせる知識と発達課題への対応を考える力を習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解し、説明できる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解し、知覚、言語、社会性、アイデンティティなどの具体的な発達についても詳しく説明でき、過去現在未来とつながる自分について説明できる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について基礎的な知識を習得し、それらをもとに現在の自分を説明することができる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解している。	ある発達理論やある時期の発達段階の特徴について理解しているが、時期や分野が限られる。	発達理論や各発達段階の特徴について理解できていない。
思考・問題解決能力	１．発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができ、将来の職業選択や人生設計を考えられるとともに、自他の人生の発達課題への対応を考えることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができ、将来の職業選択や人生設計を考えることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる。	自分自身について考えることができるが、発達心理学の知見からの考察が乏しい。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えることができない。

科目名	障害者支援論			授業番号	HW212	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	障害の概念や基本的理念，障害の基礎的な知識を学び，障害のある人の特性に応じた支援，家族への支援について学ぶ。								
到達目標	・障害のある人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得することができる。 ・家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することができる。 ・それらの知識をもとに特性や状況に応じた支援を考えることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害者支援の基礎①事例を基に、障害観や支援観を深める。	
第2回	障害者支援の基礎②映像教材を基に「障害」について考える。	
第3回	障害者支援の基礎③ICF等の国際的な基準をもとに「障害」について理解する。	
第4回	障害者の生活を知る①：聴覚障害障害者の生活上の困難さや,障害者に関わる家族や周辺の人々の関わり方について知る。	
第5回	障害者の生活から考える①障害者の生活上の困難さや,障害者に関わる家族や周辺の人々の関わり方について考える。	
第6回	聴覚障害,言語障害の理解と支援聴覚障害者の疑似体験を行い,生活上どのような支障が生じるか考える。聴覚障害の基礎的な知識を理解する。更に,どのような支援が可能か考える。	
第7回	視覚障害の理解と支援視覚障害者の疑似体験を行い,生活上どのような支障が生じるか考える。また,視覚障害の基礎的な知識を理解する。更に,どのような支援が可能か考える。	
第8回	障害者の生活を知る②：肢体不自由障害者の生活上の困難さや,障害者に関わる家族や周辺の人々の関わり方について知る。	
第9回	障害者の生活から考える②：肢体不自由障害者の生活上の困難さや,障害者に関わる家族や周辺の人々の関わり方について考える。	
第10回	肢体不自由の理解と支援肢体不自由者の疑似体験を行い,生活上どのような支障が生じ,どのような支援が可能か考える。肢体不自由の基礎的な知識や支援について理解する。	
第11回	障害者の生活を知る③：知的障害・発達障害障害者の生活上の困難さや,障害者に関わる家族や周辺の人々の関わり方について知る。	
第12回	障害者の生活から考える③：知的障害・発達障害障害者の生活上の困難さや,障害者に関わる家族や周辺の人々の関わり方について考える。	
第13回	知的障害・発達障害の理解と支援知的障害者,発達障害者の疑似体験を行い,生活上どのような支障が生じ,どのような支援が可能か考える。知的障害・発達障害の基礎的な知識や支援について理解する。	
第14回	障害者支援の理解ユニバーサルデザインやバリアフリー・コンフリクトついて知り,障害者支援についての理解を深める。	
第15回	まとめ講義の内容を踏まえ,当事者や家族にいかに関わるかを自分の言葉で表現する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況によって評価する。
レポート	40	全講義終了後，障がい者支援における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる
課題	20	講義内で小課題を実施する（課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする）
その他	25	事例検討や演習に積極的に参加し，意見を出すことができる

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，障害者支援に関わる基礎理論を復習すること。 2．授業内で授業内容の課題があるため，その準備をすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じて，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	身体障害者更生施設職員（１年）,特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	身体障害者更生施設での経験（1年）及び特別支援学校での経験（14年）から,肢体不自由,知的障害,発達障害,聴覚障害の理解や支援について,具体的な事例を交えながら授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	障害の概念や,障害者支援における基本理念に関して理解できているか。	障害の概念と種類を深く理解し,その影響を総合的に説明できる。	障害に関する基本的な知識を持ち,その影響について説明できる。	障害の基本的な概念を理解しているが,詳細な説明には限界がある。	障害の一部の概念を理解しているが,全体像を把握するのに苦労している。	障害の基本的な概念や種類の理解が不足している。
思考・問題解決能力	障害のある個人の特性や状況を踏まえ,適切な支援を立案することができるか。	障害のある個人の特性や状況を詳細に理解し,その人にとって最も効果的なカスタマイズされた支援を立案できる。支援は創造的で,個人の潜在能力を最大限に引き出す。	個人の特性をよく理解し,適切な支援を立案できる。支援は効果的であり,個人のニーズに合っているが,Aレベルのような深いカスタマイズや創造性はやや欠ける。	障害のある個人の基本的な特性や状況を理解し,一般的な支援を立案できる。しかし,より具体的なニーズや状況に対する洞察には限界があり,カスタマイズが不十分。	個人の特性や状況の理解が浅く,支援はその人のニーズを完全には満たしていない。基本的な支援は提供できるが,効果は限定的。	障害のある個人の特性や状況の理解が不足しており,不適切または非効果的な支援を立案してしまう。個人のニーズや潜在能力を引き出すことができない。

科目名	医学一般			授業番号	HW213	サブタイトル			
教員	波多江　崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	健康成人の人体の構造と機能を理解した上で，介護サービスの主な対象者となる高齢者の人体の加齢による変化について，基本的な知識を身につけることを目的とする。また，介護福祉士を含む介護職員が服薬介助・軟膏塗布・点眼・坐薬の挿入などの薬物療法にも参画できるようになったことから，薬の扱い方に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。 健康の定義および高齢者の人体における加齢に伴う変化について学修する。日本老年医学会が提示している高齢者に注意が必要な薬について学修する。								
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解し，利用者によく見られる代表的な疾患について理解し，保健医療対策を学ぶ。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「健康」とは何かを理解する	
第2回	からだのしくみを理解する（解剖学総論）	
第3回	からだのしくみを理解する（組織学総論）	
第4回	からだのしくみを理解する（神経系）	
第5回	からだのしくみを理解する（消化器系）	
第6回	からだのしくみを理解する（泌尿器系）	
第7回	からだのしくみを理解する（循環器系）	
第8回	からだのしくみを理解する（呼吸器系）	
第9回	からだのしくみを理解する（運動器系）	
第10回	からだのしくみを理解する（内分泌系）	
第11回	「薬」とは何かを理解する	
第12回	薬が効くしくみを理解する	
第13回	薬の種類とその特徴を理解する	
第14回	薬の説明書の読み方を理解する	
第15回	薬の基本的な扱い方を理解する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	介護職として社会に出ると，すぐに使う知識ばかりなので，単位取得にだけこだわることなく，日々の学修を心がけること。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，返却された小テストを満点にすること。 以上，の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新　介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	978-4-8058-5771-7	2，860円（税込）

使用テキスト：自由記載	必要に応じて，追加の資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．人体の神経系のしくみについて説明できる。	人体の神経系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	人体の神経系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	人体の神経系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	人体の神経系のしくみについて、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	人体の神経系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	２．人体の消化器系のしくみについて説明できる。	人体の消化器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	人体の消化器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	人体の消化器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	人体の消化器系のしくみについて、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	人体の消化器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	３．人体の泌尿器系のしくみについて説明できる。	人体の泌尿器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	人体の泌尿器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	人体の泌尿器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	人体の泌尿器系のしくみについて、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	人体の泌尿器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	４．人体の循環器系のしくみについて説明できる。	人体の循環器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	人体の循環器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	人体の循環器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	人体の循環器系のしくみについて、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	人体の循環器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	５．人体の呼吸器系のしくみについて説明できる。	人体の呼吸器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	人体の呼吸器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	人体の呼吸器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	人体の呼吸器系のしくみについて、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	人体の呼吸器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	６．人体の運動器系のしくみについて説明できる。	人体の運動器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	人体の運動器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	人体の運動器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	人体の運動器系のしくみについて、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	人体の運動器系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	７．人体の内分泌系のしくみについて説明できる。	人体の内分泌系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	人体の内分泌系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	人体の内分泌系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	人体の内分泌系のしくみについて、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	人体の内分泌系のしくみについて、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	８．薬が効くしくみおよび薬の基本的な扱い方について説明できる。	薬が効くしくみおよび薬の基本的な扱い方について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	薬が効くしくみおよび薬の基本的な扱い方について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	薬が効くしくみおよび薬の基本的な扱い方について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	薬が効くしくみおよび薬の基本的な扱い方について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	薬が効くしくみおよび薬の基本的な扱い方について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。

科目名	リスクマネジメント論			授業番号	HW214	サブタイトル			
教員	森田 裕之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	リスクマネジメント論では，介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し，介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学修とする。 介護を必要とする人が安全に安心して生活できるための，危機管理や事故防止，災害時の支援等リスクマネジメントについて理解を深め，介護実践の基礎となる知識技術を学ぶ。								
到達目標	(1)「予防」「最小化」「是正処置」のサイクルを理解し，リスクマネジメントを展開できる。 (2)災害時における介護の役割を理解するとともに，応急処置・緊急時の対応できる。 (3)「要配慮者」「避難行動要支援者」に対する支援及び，多職種協働を含む包括的な支援を理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	介護における生活の質の保証とリスクマネジメント リスクマネジメント（よくある介護事故の原因を分析し、予防方法を考えること、あるいは事故が発生した際の対応を検討すること）について理解する。	
第2回	介護における安全の確保とリスクマネジメント 事例をもとに、介護における安全の確保について理解する。	
第3回	クオリティインプルーブメントの考え方 クオリティインプルーブメントの「より質の高いサービスを提供することによって多くの事故が未然に回避できる」という考え方を理解する。	
第4回	クオリティインプルーブメントを実践するために クオリティインプルーブメントを実践するために必要な要素について理解する。	
第5回	身体拘束による弊害 身体拘束の定義とその弊害について理解する。	
第6回	在宅における危機管理 利用者の居宅に置いて、どのような危機管理が必要かを理解する。	
第7回	施設における危機管理 介護保険施設等において、どのような危機管理が必要かを理解する。	
第8回	介護現場におけるリスクマネジメントの実際(1) 介護現場でよく起こる事故をもとにした事例から、介護現場におけるリスクマネジメントを理解する。	
第9回	介護現場におけるリスクマネジメントの実際(2) 介護現場でよく起こる事故をもとにした事例から、介護現場におけるリスクマネジメントを理解する。	
第10回	災害時における介護福祉士の役割 避難所でのADL低下を防ぐ等、災害時における介護福祉士の役割について理解する。	
第11回	災害時における介護の実際(1) 東日本大震災での介護福祉士の実際を紹介し、災害時の対応について考える。	
第12回	災害時における介護の実際(2) 東日本大震災での介護福祉士の実際を紹介し、災害時の対応について考える。	
第13回	応急手当の知識と技術 「心肺蘇生」の流れと「AED」の使い方について理解する。	
第14回	応急処置・緊急時の対応 救急処置の4原則を学び、緊急時の対応を考える。	
第15回	介護におけるリスクマネジメントの基本的理解・まとめ 学生自身の今後に生かせるように、リスクマネジメントや災害時の対応等の復習を行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。
レポート	20	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する
小テスト		
定期試験	70	授業内容を理解できているか評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 5．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その都度，授業資料・参考資料を配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	通所リハビリテーション介護職員（２年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）の経験から、介護施設や在宅等におけるリスクマネジメントを行うことができる。リスクマネジメントに必要なKYTやハインリヒの法則等を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識を有する。	リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識を十分に有する。	リスクマネジメントに関する基礎知識災害時・緊急時に必要な知識を概ね有する。	リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識をある程度有する。	リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識をあまり有していない。	リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識を有していない。
思考・問題解決能力	1．リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策を考えることができる。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策を十分に考えることができる。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策を概ね考えることができる。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策をある程度考えることができる。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策をあまり考えることができない。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策を考えることができない。
思考・問題解決能力	2．介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力を有する。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力を十分に有する。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力を概ね有する。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力をある程度有する。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力をあまり有していない。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力を有していない。

科目名	生活支援技術Ⅰ			授業番号	HW215	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田 裕之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	生活支援技術Ⅰでは，尊厳の保持や自立支援，生活の豊かさの観点から，本人主体の生活が継続できるよう，根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学修とする。 ＩＣＦの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し，自立に向けた居住環境整備，移動，身支度，食事ついて基礎的な知識・技術を学ぶ。								
到達目標	(1)ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し，生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解できる (2)自立に向けた居住環境の整備について理解することができる (3)自立に向けた移動・身じたく・食事の介護を理解することができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	生活支援の基本的な考え方 介護における生活支援の基本的な考え方を理解する。 ボディメカニクスについて理解することができる。	
第2回	生活支援におけるＩＣＦの視点 ICFの視点をもとに、高齢者や障害者の生活支援の基本的な考え方を理解する。	
第3回	生活支援とチームアプローチ チームアプローチの意味と生活支援との関連性について理解する。	
第4回	自立に向けた居住環境の整備(1) 高齢者の居住環境やベッドメイキングについて理解する。	
第5回	自立に向けた居住環境の整備(2) ベッドメイキングを実践することができる。	
第6回	自立に向けた居住環境の整備(3) シーツ交換を実践することができる。	
第7回	自立に向けた移動の介護 移動介助の基本を理解することができる。	
第8回	杖歩行介助(1) 杖歩行の方法や注意点を理解し実践することができる。	
第9回	杖歩行介助(2) 階段昇降等での杖歩行の方法や注意点を理解し実践することができる。	
第10回	車いすの介助(1) 車椅子の部位の名称や使用方法を理解することができる。	
第11回	車いすの介助(2) 車椅子を使用して段差等をこえることができる。	
第12回	生活とバリアフリー（公共施設での支援） バリアフリーとは何かを理解し、生活との関連性について知ることができる。	
第13回	安楽な体位と体位交換(1) 安楽な体位を理解することができ、体位変換を実践することができる。	
第14回	安楽な体位と体位交換(2) クッションなどを使用したポジショニングを行うことができる。 良肢位を理解することができる。	
第15回	移乗の介護(1) 車椅子からベッド、ベッドから車椅子の移乗を行うことができる。	

第16回	移乗の介護(2) ストレッチャーからベッド、ベッドからストレッチャーの移乗を行うことができる。	
第17回	福祉機器・福祉用具を活用した生活支援（1） リフトの使用方法を理解し、実践することができる。	
第18回	福祉機器・福祉用具を活用した生活支援（2） スライドボード、スライドシート、マルチグローブなどの福祉用具について理解し、実践することができる。	
第19回	自立に向けた身じたくの介助 更衣介助について理解し、実践することができる。	
第20回	整容の介助(1) 爪切りや電動髭剃りの使用方法、清拭について理解することができる。	
第21回	整容の介助(2) 爪切りや電動髭剃りの使用方法、清拭について実践することができる。	
第22回	自立に向けた食事の介護 食事介助の留意点（嚥下、誤嚥等）について理解することができる。	
第23回	食事の介護(1) 食事介助の留意点をもとに、実践することができる。	
第24回	食事の介護(2) 安全に配慮した水分・食事介助を行うことができる。	
第25回	自立に向けた口腔ケア 口腔ケアの留意点を理解することができる。	
第26回	口腔ケア(1) 口腔ケアの留意点を踏まえ、実践することができる。	
第27回	口腔ケア(2) 義歯の取り外しや管理について理解し、実践することができる。	
第28回	実技試験に向けて（ベッドメイキング・ボディメカニクス） ベッドメイキングやボディメカニクスについて復習し、各自が実技試験に向けて練習する。	
第29回	実技試験 ボディメカニクスが行えているか、ベッドメイキングのコーナー等を丁寧に行えているか等を確認する。	
第30回	生活支援技術の基本的理解・まとめ 生活支援についてや各介助について、復習を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。
レポート	10	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。
小テスト	20	事例に沿った生活支援技術が実施できるか評価する（実技試験）
定期試験	60	授業の内容が理解できているか評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に演習形式で行い，各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び，実習室での実習で技術を修得していきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。 ・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち，緊張感を持って取り組んでください。 ・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し，利用者の尊厳の保持し，自立支援ができるようにしましょう。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 3．実技は「１回見た，１回した」だけでは身につきません。実習で実際に利用者支援をする際，不安のないようにしっかり練習してください。 4．実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく，根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかり守ってください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座６ 生活支援技術I		中央法規	978-4-8058-8395-2	2200
最新介護福祉士養成講座７ 生活支援技術II		中央法規	978-4-8058-8396-9	2200
使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	実習日は実習服，室内シューズを持参してください。 頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	通所リハビリテーション介護職員（２年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）の経験から、介護施設等の利用者に対して自立支援や尊厳の保持に配慮した生活支援技術に必要な知識と技術を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を十分説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を概ね説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、る尊厳の必要性をある程度説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と尊厳の必要性をあまり説明できない。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を説明できない。
知識・理解	2．利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることができる。	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることが十分できる	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることが概ねできる	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることがある程度できる	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることがあまりできない	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることができない
技能	1．基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が実践できる。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が正確に実践できる。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が概ね実践できる。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術がある程度実践できる。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術があまり実践できない。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が実践できない。
態度	1．講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に積極的に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と概ね協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生とある程度協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことがあまりできない。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことができない。

科目名	生活家事支援技術			授業番号	HW216	サブタイトル			
教員	加賀田　江里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	デモンストレーションを見た後，自身で調理を行う。実際の調理を体験しながら，食生活支援に必要な知識・技術を身に付ける。								
到達目標	食生活支援に必要な基本的な調理の知識・技術について理解し，実践する力を身に付ける。 １．自立に向けた食事や調理の介護についての基本的知識が理解できる。 ２．食生活支援に必要な調理の基本技術を身に付ける。 ３．衛生面に配慮しながら調理を行うことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自立に向けた家事の介護（調理），調理実習の心得，調理の意義，調理の介護 調理についてその意義と調理を行う上での注意点等を含めて理解する。	
第2回	自立に向けた家事の介護（調理），調理実習の心得，調理の意義，調理の介護 調理についてその意義と調理を行う上での注意点等を含めて理解する。	
第3回	調理の基礎(1) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第4回	調理の基礎(1) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第5回	調理の基礎(2) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第6回	調理の基礎(2) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第7回	調理の基礎(3) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第8回	調理の基礎(3) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第9回	調理の基礎(4) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第10回	調理の基礎(4) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第11回	調理の基礎(5) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第12回	調理の基礎(5) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第13回	調理の基礎(6) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第14回	調理の基礎(6) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第15回	調理の基礎(7) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	

第16回	調理の基礎(7) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第17回	調理の基礎(8) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第18回	調理の基礎(8) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第19回	調理の基礎(9) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第20回	調理の基礎(9) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第21回	調理の基礎(10) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第22回	調理の基礎(10) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第23回	調理の基礎(11) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第24回	調理の基礎(11) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第25回	調理の基礎(12) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第26回	調理の基礎(12) 調理をする上で基本的な調理操作を理解する。	
第27回	調理の基礎　献立作成 これまで学んできた習識をもとに，自ら献立作成を行う。	
第28回	調理の基礎　献立作成 これまで学んできた習識をもとに，自ら献立作成を行う。	
第29回	調理の基礎　献立の実践 前回の授業で作成した献立をもとに，調理実習を行う。	
第30回	調理の基礎　献立の実践 前回の授業で作成した献立をもとに，調理実習を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	30	授業の中で学んだ知識を活かして，メニューレシピを作成し，調理上の注意点や調理のポイントをまとめて提出する。レポート課題にはコメントを付けて返却する。
小テスト		
定期試験	40	調理に関する基礎的な知識を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	1．日頃から食について興味関心をもち，情報収集をすること 2．授業で習った内容を復習すること 以上の内容を週当たり2時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中央法規出版　最新介護福祉士養成講座 6．生活支援技術		中央法規出版	9784805883952	2420円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．自立に向けた食事や調理の介護についての基本的知識が理解できる。	自立に向けた食事や調理の介護についての基本的知識が理解でき、将来に生かすことができる	自立に向けた食事や調理の介護についての基本的知識が理解でき、生活に生かすことができる	自立に向けた食事や調理の介護についての基本的知識が理解できる	自立に向けた食事や調理の介護についての基本的知識がやや理解できる	自立に向けた食事や調理の介護についての基本的知識が理解できていない
技能	1．食生活支援に必要な調理の基本技術を身に付けることができている。	食生活支援に必要な調理の基本技術を身に付けており、自分自身で調理を行うことができる	食生活支援に必要な調理の基本技術を身に付けており、調理を行うことができる	食生活支援に必要な調理の基本技術を身に付けることができている	食生活支援に必要な調理の基本技術をおおよそ身に付けている	食生活支援に必要な調理の基本技術を身に付けることができていない
技能	2．衛生面に配慮しながら調理を行うことができる。	なぜその衛生上の注意が必要なのか理解したうえで、衛生面に配慮しながら調理を行うことができる	なぜその衛生上の注意が必要なのか大まかに理解したうえで、衛生面に配慮しながら調理を行うことができる	衛生面に配慮しながら調理を行うことができる	衛生面にやや配慮しながら調理を行うことができる	衛生面に配慮しながら調理を行うことができていない

科目名	生活余暇支援技術			授業番号	HW217	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田 裕之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	高齢になり心身機能の低下や障害を患っても，今までの生活同様自分らしく楽しい生活を送ることは人の権利である。 介護福祉の専門職として，生きがいの獲得や自己実現に向けた余暇活動支援の知識と能力を学修する。 生活余暇支援技術では，他者交流や社会とのつながりを通し，生活の中の楽しみや生きがいを創出できるように，多様なレクリエーション活動について学ぶ。そして，利用者のニーズに応じた余暇活動の立案・実践する。								
到達目標	利用者の状況・状態に合わせた生活の中での楽しみを計画することができる。 レクリエーション活動の実践を通し生きがいの支援の必要性を理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	生活の中の余暇活動支援 余暇活動および余暇活動支援の意味を学び、高齢者や障害者の生活においてどのような意味を持つか理解する。	
第2回	レクリエーション活動の意義と目的 「身体機能や脳機能の活性化」「コミュニケーションの促進」「生活の質の向上」といったレクリエーションの意義や目的を理解する。	
第3回	余暇活動の支援を必要とする人の理解 余暇活動の支援は、高齢者や障害者の生活の質（QOL）を向上させるために必要不可欠な要素ということを理解する。	
第4回	レクリエーション活動の実践 レクリエーションについて調べ、学生同士でレクリエーションを実践することができる。	
第5回	福祉レクリエーション（1） 福祉レクリエーションとは、何らかの形で国家・社会からのシステム的生活援助・支援（公的私 的を包含して）を必要としている人々が、その 生活や人生過程の中で楽しみや喜びを求めて行 なう行為・活動であることを理解する。	
第6回	福祉レクリエーション（2） 身体機能向上、脳の活性化、コミュニケーション促進、QOL向上などを目的としたレクリエーションを計画することができる。	
第7回	創作活動と生活 先を使う 折り紙、おはじき、あやとり、塗り絵、指体操、お菓子作り、書道、おもちゃを作る工作など、創作活動について学ぶ。	
第8回	レクリエーション活動計画の作成(1) 介護実習で使用する様式をもとに、レクリエーション活動計画の作成を理解する。	
第9回	レクリエーション活動計画の作成(2) 介護実習で使用する様式をもとに、レクリエーション活動計画を作成することができる。	
第10回	レクリエーション活動の実践(1)デイサービス デイサービスのレクリエーションを見学し、介護現場のレクリエーションを理解する。	
第11回	レクリエーション活動の実践(2)デイサービス デイサービスのレクリエーションを見学し、介護現場のレクリエーションを理解する。	
第12回	レクリエーション活動の評価と再アセスメント 学生同士で行ったレクリエーションに対して、評価と再アセスメントを行うことができる。	
第13回	回想法の意義と目的 グループを組み、グループのメンバーに対し「自分の過去を話す」回想法について、喜びや満足感を感じ、孤独感をやわらげるといった目的等について理解する。	
第14回	回想法の実践 学生同士で回想法を実践することができる。	
第15回	余暇生活支援の必要性・まとめ レクリエーションや回想法について復習し、介護実習で行うレクリエーション計画を立案することができる。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・グループワークのリーダーシップ，予・復習状況を評価する。
レポート	60	レクリエーション計画書の内容を評価する
その他	20	レクリエーションの実践（発表）を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義と演習形式を組み合わせて進めていきます。 ・余暇活動支援について体験的に学べるように，グループ討議や実践を多く取り入れます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義・演習に臨んでください。 ・対象者に合わせたレクリエーションの立案ができるようになりましょう。
授業外学修	1．予習として，レクリエーション関連の雑誌（レクリエ等）やインターネットから，援助を必要とする方への余暇活動支援，レクリエーション材を集めておく。 2．復習として，授業後は授業で扱った資料や参考所を照らし合わせ復習し，レクリエーションの実践ができるよう練習しましょう。 3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 5．発展学修として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	プリント配布			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（２年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学生が介護施設等でレクリエーションを行う際に必要な能力を身につけるため、通所リハビリテーション介護職員（２年）の経験から、高齢者等を対象にした介護現場で行う実践的なレクリエーションが行えるように授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護を必要とする人に必要なレクレーションについて説明できる。	介護を必要とする人に必要なレクレーションについて十分に説明できる。	介護を必要とする人に必要なレクレーションについて概ね説明できる。	介護を必要とする人に必要なレクレーションについてある程度説明できる。	介護を必要とする人に必要なレクレーションについてあまり説明できない。	.介護を必要とする人に必要なレクレーションについて説明できない。
技能	1．基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションが実践できる。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションが十分に実践できる。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションが概ね実践できる。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションがある程度実践できる。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションがあまり実践できない。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションが実践できない。
態度	1．講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に積極的に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と概ね協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生とある程度協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことがあまりできない。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことができない。

科目名	総合生活学セミナーＫⅠ			授業番号	HW218	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	総合生活学セミナーKIは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。 各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習での学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。								
到達目標	標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。 また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。 (1)介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。 (3)実習を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。 (4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護総合演習の位置づけ 介護福祉士養成における、介護総合演習の位置づけを理解する。	森田
第2回	介護実習前の学習の内容と方法 実習先の施設・事業所について理解する。 実習先での態度等について理解する。	森田
第3回	介護実習の意義と目的 「地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケー ションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする」といった介護実習の意義と目的について理解する。	森田
第4回	介護実習の種類 介護実習Ⅰ－（1）～（3）、介護実習Ⅱについて理解する。	森田
第5回	実習前の学びと，実習後の学びの活かし方 実習前には実習先の種別や地域の特性等を学び、実習後には学んだことをまとめてパワーポイントを使用し発表を行う。	森田
第6回	介護実習前・実習中・実習後の学習の内容と方法 介護実習前・実習中・実習後の実習課題等について、学習の内容と方法を理解する。	森田
第7回	実習Iのねらい・実習Iの進め方 中国短期大学の実習の手引きをもとに、実習Iのねらい・実習Iの進め方を理解する。	森田
第8回	実習記録の書き方 卒業生の実習記録の用紙をもとに、実習記録の書き方を理解する。	森田
第9回	通所介護事業所について・通所介護事業所での実習準備 通所介護事業所について理解し、個人調査票作成等の実習準備を行う。	森田
第10回	通所介護事業所での実習後について・礼状の書き方 通所介護事業所での実習後に行う発表についてや礼状の書き方について理解する。	森田
第11回	実習I-(2)A障害福祉実習について 実習I-(2)A障害福祉実習について、就労継続支援や生活介護等の種別を理解する。	森田
第12回	通所介護実習の振り返り・実習報告会 通所介護実習で学んだこと等をパワーポイントにまとめ、発表する。	森田，松井，中野，韓
第13回	実習I-(2)A　障害者施設での実習について 生活介護や就労支援事業所等について理解する。	森田
第14回	障害福祉サービス事業所での実習について	森田
第15回	障害者施設での実習準備 個人調査票や実習目標等を作成する。	森田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。
レポート	30	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。
小テスト		
振り返りの発表	50	学内学修と介護現場での学びを統合し、発表内容や時間等について評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・実習をスムーズに進めるため，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。
授業外学修	1．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。 2．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。 3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 5．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	978-4-8058-8399-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設（介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を理解できる。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を十分理解できる。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を概ね理解できる。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をある程度理解できる。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をあまり理解できない。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解できず、実習生として必要な資質を理解できない。
知識・理解	2．利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を十分理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を概ね理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をある程度理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をあまり理解できない。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できない。
思考・問題解決能力	1．自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に十分努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に概ね努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にある程度努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にあまり努めることができない。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができない。
技能	1．高齢者と適切にかかわる基本姿勢が習得できる。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢が十分習得できる。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢が概ね習得できる。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢がある程度習得できる。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢があまり習得できない。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢が習得できない。
技能	2．実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに十分まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに概ねまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにある程度まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することがあまりできない。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができない。
態度	1．実習のための課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習のための課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習のための課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	総合生活学セミナーＫⅡ			授業番号	HW219	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	総合生活学セミナーKIIは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。 各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習での学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。								
到達目標	標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。 また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。 (1)介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。 (3)実習を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。 (4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害者施設での実習を終えて 障害者施設での実習で学んだことや反省点等をパワーポイントにまとめる。	森田
第2回	障害者施設実習の振り返り・実習報告会 パワーポイントでまとめた内容をもとに発表を行う。	森田，松井，中野，韓
第3回	就労支援と社会参加 障がいのある方等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう必要な支援や援助について理解する。	森田
第4回	障がい者の自立（自律）について ノーマライゼーションの思想を背景とした、「自己決定に基づいて主体的な生活を営むこと」、「障害を持っていてもその能力を 活用して社会活動に参加すること」について理解する。	森田
第5回	障がい者施設での（実習Ⅰ-(2)）実習まとめ パワーポイントで発表した内容をもとに、学生同士で意見を伝え合い、実習の学びを深める。	森田
第6回	介護実習Ⅰ-(2)Bの意義と目的 訪問介護実習の意義と目的を理解する。	森田
第7回	介護実習Ⅰ-(2)Bの学習の内容と方法 訪問介護に関する歴史等について理解する。	森田
第8回	訪問介護事業所について 訪問介護における身体介護・生活介護および特性等について理解する。	森田
第9回	在宅における生活支援と相談援助 自宅等、病院や介護老人保健施設以外で生活している方の生活支援と相談援助について理解する。	森田
第10回	地域の中で生活をする意義 社会においてお互いが支え合って生活することの重要性や社会で暮らす一員として生活する意義を理解する。	森田
第11回	地域の社会資源について 各種制度、サービス、人材、組織・団体等、地域の社会資源について理解する。	森田
第12回	在宅生活を支えるための多職種協働 看護師やリハビリテーション専門職等が、在宅生活を支えるためにどのような協働を行っているかについて理解する。	森田
第13回	訪問介護事業所での実習準備(1) 個人調査票や実習目標を作成する。	森田
第14回	訪問介護事業所での実習準備(2) 個人調査票や実習目標を作成する。	森田
第15回	訪問介護事業所での実習に向けて（実習中・実習後の予定の確認等） 事前オリエンテーションや実習巡回、お礼状の作成等について理解する。	森田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。
レポート	30	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。
小テスト		
パワーポイントを使用した発表	50	発表内容、発表時間、質疑応答の内容等で評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・実習をスムーズに進めるため，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。
授業外学修	1．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。 2．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。 3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 5．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	978-4-8058-8399-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設（介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を理解できる。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を十分理解できる。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を概ね理解できる。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をある程度理解できる。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をあまり理解できない。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解できず、実習生として必要な資質を理解できない。
知識・理解	2．利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を十分理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を概ね理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をある程度理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をあまり理解できない。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できない。
思考・問題解決能力	1．自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に十分努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に概ね努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にある程度努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にあまり努めることができない。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができない。
技能	1．障害者と適切にかかわる基本姿勢が習得できる。	障害者と適切にかかわる基本姿勢が十分習得できる。	障害者と適切にかかわる基本姿勢が概ね習得できる。	障害者と適切にかかわる基本姿勢がある程度習得できる。	障害者と適切にかかわる基本姿勢があまり習得できない。	障害者と適切にかかわる基本姿勢が習得できない。
技能	2．実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに十分まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに概ねまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにある程度まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することがあまりできない。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができない。
態度	1．実習のための課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習のための課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習のための課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	介護過程Ⅰ			授業番号	HW220	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，介護福祉における介護過程の意義と目的を理解し，基本となる考え方を講義する。 他の教科で学習した知識や技術を統合して，介護過程を展開，介護計画を立案したうえで適切なサービスの提供ができる能力を養うための講義を行う。 介護過程の意義を理解し，介護現場で展開できる力を身につけるための講義を行う。								
到達目標	(1)介護過程の構成要素を列挙することができる。 (2)介護過程の意義を理解し，介護実践に結びつけるポイントの説明ができる。 (3)情報収集，解釈・関連づけ・統合化，課題の明確化に実際を追体験する。 (4)事例を用いて介護過程を展開する目的と効果について説明することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護過程とはなにか 介護実践における介護過程の目的と意義を理解し，本人の望む生活を理解する。	
第2回	介護過程の構成要素・意義 介護過程の全体像（アセスメント，介護計画，介護の実施，評価）を理解する。	
第3回	アセスメント１ アセスメントの第1歩である「情報の収集」の方法を多角的視点から理解する。	
第4回	アセスメント２ ICF視点にもとづいて情報を収集することで，利用者の全体像を客観的かつ全人的にとらえることに対して理解する。	
第5回	アセスメント３ 利用者の情報収集の方法について観察力，先入観や偏見などが及ぼす影響について理解する。また、客観的観察と主観的観察，情報の取捨選択の意義を理解する。	
第6回	アセスメント４ 前回まで学習した内容をもとに写真や映像から情報収集の演習をすることで利用者の全体像を理解する。	
第7回	アセスメント５ 多角的視点から得られた情報を「情報の解釈・関連付け・統合化」という作業を通して，利用者の生活課題を明確に理解する。	
第8回	介護計画の立案 アセスメントによって明確にされた生活上の課題を達成し，利用者の希望する生活を実現するための介護計画を理解する。	
第9回	介護の実施 目標達成のために立案された介護計画に沿って，実際に介護を実践する場面の3つの視点「安全性の配慮，快適さへの配慮，自立への配慮」を理解する。	
第10回	評価 介護計画により実践された介護実施に対して，達成されたか，方法は適切であったか，修正は必要かなど評価の意義と目的を理解する。	
第11回	事例研究１ グループホームにおける認知症高齢者の事例をもとに利用者の生活課題を明らかにするまでのアセスメントの過程を理解する。	
第12回	事例研究２ 脳性麻痺のある男性の事例をもとに利用者の生活課題を明らかにするまでのアセスメントの過程を理解する。	
第13回	事例研究３ 在宅における脳血管疾患のある女性の事例をもとに利用者の生活課題を明らかにするまでのアセスメントの過程を理解する。	
第14回	事例研究４ 介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例をもとに利用者の生活課題を明らかにするまでのアセスメントの過程を理解する。	
第15回	介護過程とケアマネジメント ケアプランと個別援助計画の関係性を学び，チームとしての介護過程を展開する意義を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト（個別ワーク）	20	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・他教科との連動して考える力，専門的知識と技術が応用力が求められます。 ・自ら考える姿勢で講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開します。 実習を含めて，必ず必要となる知識ですので，しっかり習得していきましょう。 難解な言葉が多くありますが，わからないことは調べるなどして学修を進めていくことが必要です。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護過程	介護福祉士養成講座　9	中央法規	978-4-8058-5769-4	2200（税別）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。（韓 在都）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	介護福祉士として高齢者施設（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし，知識や技術など実践的能力が身につくように指導する。（韓 在都）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護過程の意義、目的を説明できる	介護過程の意義、目的に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の意義、目的に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程の意義、目的に対し、他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護過程の意義、目的に対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程の意義、目的に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．介護過程の全体像を説明できる	介護過程の全体像について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の全体像について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程の全体像について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護過程の全体像について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程の全体像について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．生活支援における介護過程の必要性を説明できる	生活支援における介護過程の必要性を他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	生活支援における介護過程の必要性を他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	生活支援における介護過程の必要性を他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	生活支援における介護過程の必要性を他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活支援における介護過程の必要性を他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．介護過程におけるアセスメントの思考の流れを説明できる	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．ICFの考え方を活用した情報収集の方法を説明できる	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画が立案できる	情報収集した関連情報の因果関係を十分分析し、課題を明確し、適切な介護目標をたてている。	情報収集した情報を分析し、課題を明確し、適切な介護目標をたてている。	情報収集した情報を分析し、おおむね適切な課題と介護目標をたてている。	課題と考えられることや介護目標は書いているが、分析や根拠が十分ではない。	情報収集や分析が十分ではなく、課題や介護目標が不適切又は書いていない。
技能	1．情報収集の必要性について説明できる	事例を通して、対象者の状態・状況に応じた情報収集の必要性についてわかりやすく説明でき、質問に対して的確に回答できる。	事例を通して、対象者の状態・状況に応じた情報収集の必要性についてわかりやすく説明でき、質問に対して回答できる。	事例を通して、情報収集の必要性について説明でき、質問に対して回答できる。	事例を通して、情報収集の必要性について説明できるが、質問に対しての回答が的確ではない。	事例を通して、情報収集の必要性について説明が不十分である。
技能	2．介護過程とICFモデルの関連性を説明できる	介護過程とICFの関連性について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程とICFの関連性について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程とICFの関連性について他者に説明し、質問に対し回答できる。	介護過程とICFの関連性について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程とICFの関連性について他者に説明できるが不十分である。
技能	3．情報の分析・解釈・統合ができる	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を対象者の生活環境に合わせて的確に分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報の分析、解釈、統合が不十分である。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を整理している。
態度	1．課題に取り組む姿勢	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	介護過程Ⅱ			授業番号	HW221	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田 裕之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本人の望む生活の実現に向けて，生活課題の分析を行い，根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を修得する学修とする。 介護過程Ⅱでは，個別事例を通じた介護過程の展開の実際について，介護総合演習や介護実習，生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて，介護過程を展開できる能力を養う。								
到達目標	(1)個別の事例を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができる。 (2)居宅サービス計画・施設サービス計画についても理解し，個別に応じた介護過程の展開が理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	介護過程の実践的展開 介護過程が介護現場でどのように展開されているかを理解する。	
第2回	「介護過程」展開の実際 介護過程が介護現場でどのように展開されているかを、実習等と関連して理解する。	
第3回	事例１における介護過程の展開 事例をもとに、アセスメント・立案を行うことができる。	
第4回	事例２における介護過程の展開 事例をもとに、アセスメント・立案を行うことができる。	
第5回	事例３における介護過程の展開 事例をもとに、アセスメント・立案を行うことができる。	
第6回	事例４における介護過程の展開 事例をもとに、アセスメント・立案を行うことができる。	
第7回	介護過程とケアマネジメントの関係性 介護福祉士が行う介護過程と、介護支援専門員が行うケアマネジメントの関係性を理解する。	
第8回	チームアプローチによる介護福祉士の役割 多職種がかかわるチームアプローチの中で、介護福祉士がどのような役割を担っているかを理解する。	
第9回	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 利用者の生活の違いを介護過程の展開に反映させることができる。	
第10回	事例で考える利用者の生活と介護過程(1) 事例をもとに利用者の全体像を捉えることができる。	
第11回	事例で考える利用者の生活と介護過程(2) 利用者の全体像をもとに、情報の解釈・関連付け・統合化を行うことができる。	
第12回	事例で考える利用者の生活と介護過程(3) 利用者の全体像をもとに、ニーズの抽出を行うことができる。	
第13回	事例で考える利用者の生活と介護過程(4) 利用者の全体像をもとに、計画の立案を行うことができる。	
第14回	事例で考える利用者の生活と介護過程(5) 計画の立案をもとに、実施・評価を行うことができる。	
第15回	介護過程の展開方法・まとめ 利用者の全体像を捉える重要性や、アセスメント・立案・実施・評価といった一連の介護過程について理解できているかを確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・グループワークの参加状況，予・復習状況を評価する。
レポート	30	介護過程の展開で作成した資料を評価する
小テスト		
定期試験	60	授業内容が理解できているか評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本科目は講義・演習形式をとり，個別ワーク・グループワークヲ実施しながら進めていきます。 実習ではひとりで介護過程を展開していくので，介護過程の展開技法を修得してください。 テキストの事例を基に介護過程を展開していくため，期限を守るようにしてください。 積極的に発言し，グループワークを円滑にしてください。 疑問点は必ず質問し，解決して進めてください。 他教科で学んだことを統合し，専門的知識と技術の応用力を求めています。 自分のグループ内の役割を意識しチームビルディングを図ってください。
授業外学修	1．予習として，教科書をしっかり読んで，利用者に応じた介護計画の立案に努めてください。 2．復習として，介護過程の資料を見直し，根拠を考え，的確な資料作りをしてください。 3．この講義は，事例に応じた介護過程の展開を考え，介護計画書を作成します。精度の高い資料の作成は授業時間だけでは完成しません。しっかり授業外学修を行ってください。 4．介護計画書は思いだけで作るのではなく，エビデンスが必要です。他の教科の教科書や参考書から，事実に基づいた記述を心がけてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書９　介護過程		中央法規	978-4-8058-8398-3	2200
使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	通所リハビリテーション介護職員（２年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）			
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）の経験から、利用者のニーズに応じた一連の介護過程を行うことができる。一連の介護過程に必要なアセスメントや計画立案を、学生が行うことができるようになるような授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護過程を展開するために必要な情報や知識を修得することができる。	介護過程を展開するために必要な情報や知識を十分に修得することができる。	介護過程を展開するために必要な情報や知識を概ね修得することができる。	介護過程を展開するために必要な情報や知識をある程度修得することができる。	介護過程を展開するために必要な情報や知識をあまり修得できていない。	介護過程を展開するために必要な情報や知識を修得できていない。
知識・理解	2．アセスメントや立案の必要性と方法について理解をしている。	アセスメントや立案の必要性と方法について十分理解をしている。	アセスメントや立案の必要性と方法について概ね理解をしている。	アセスメントや立案の必要性と方法についてある程度理解をしている。	アセスメントや立案の必要性と方法についてあまり理解していない。	アセスメントや立案の必要性と方法について理解していない。
思考・問題解決能力	1．収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力を有する。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力を十分に有する。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力をほぼ有する。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力をある程度有する。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力をあまり有していない。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力を有していない。
思考・問題解決能力	2．整理した情報をもとにニーズを抽出する能力を有する。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力を十分に有する。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力をほぼ有する。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力をある程度有する。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力をあまり有していない。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力を有していない。

科目名	介護実習Ⅰ－①			授業番号	HW222	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田 裕之、松井 圭三、韓 在都、中野 ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。 本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。 介護実習Ⅰでは，個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。								
到達目標	(1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解できる。 (2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深めることができる。 (3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解できる。 (4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解できる。 (5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	実習Ⅰ−(1) 通所介護事業所（デイサービス・デイケア） 1日8時間×10日間（80時間） 7月の第2週～3週に実施 通所介護事業を通し，在宅生活支援における介護サービスについて実習を行なう。 【内容】 通所介護事業所の特徴・役割の理解，介護福祉士の役割・生活支援の理解，介護保険制法の理解， 利用者・家族とのコミュニケーションからの利用者理解，生活支援　技術の見学・実践， サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。
レポート	25	実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	50（実習担当者25・教員25）	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。 (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。 (2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。 (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。 (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。 (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。 (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。
授業外学修	1．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。 2．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。 3．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。 4．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。 5．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。 また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。 以上の内容を，毎日1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習		中央法規	978-4-8058-8399-0	2200
使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等） 介護実習の手引き			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設（介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	実習指導者（介護福祉士）			
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた指導を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を十分に説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を概ね説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活をある程度説明することができる。	利用者の生活をあまり説明することができない。	利用者の生活を説明することができない。
知識・理解	2．通所介護の業務内容や一日の流れを、理解できる。	通所介護の業務内容や一日の流れを、十分に理解できる。	通所介護の業務内容や一日の流れを、概ね理解できる。	通所介護の業務内容や一日の流れを、ある程度理解できる。	通所介護の業務内容や一日の流れをあまり理解できない。	通所介護の業務内容や一日の流れを理解できない。
思考・問題解決能力	1．実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとにある程度明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	明確な毎日の目標を立てる能力をあまり有していない。	明確な毎日の目標を立てる能力を有していない。
技能	1．高齢者にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者に積極的にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者にある程度積極的にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者の話をあまり聴くことができない。	高齢者の話を聴くことができない。
技能	2．自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察をある程度的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することがあまりできない。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができない。
態度	1．実習課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	介護実習Ⅰ－②			授業番号	HW223	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田 裕之、韓 在都、中野 ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。 本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。 介護実習Ⅰでは，個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。								
到達目標	実習A （1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解できる。 （2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深めることができる。 （3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解できる。 （4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解できる。 （5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 実習B （1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解する。 （2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深める。 （3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解する。 （4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解する。 （5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	＜実習Ａ＞ 障害福祉事業所（障害者支援施設，就労継続支援A・B型事業所） 1日7.5時間×8日間（60時間）　9月の第2週～3週に実施 障害福祉事業における生活支援及び就労支援を通し障害者支援について実習を行なう。 【内容】 障害者支援事業の特徴・役割の理解，障害者福祉サービスでの生活支援の理解，障害者総合支援法の理解， 障がい者の自立支援・社会参加の理解，生活支援技術の見学・実践，サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り ＜実習Ｂ＞ 訪問介護事業所 1日6時間×5日間（30時間）　2月の第2・3週に実施 在宅生活継続のためのケアマネジメントにおける介護サービスについて実習を行なう。 【内容】 訪問介護事業所の特徴・役割の理解，訪問介護員の生活支援の理解，介護保険制度・障害者総合支援法の理解， サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。
レポート	25	実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	50（実習担当者25・教員25）	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。 (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。 (2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。 (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。 (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。 (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。 (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。
授業外学修	1．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。 2．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。 3．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。 4．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。 5．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。 また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。 以上の内容を，毎日1時間学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10 介護総合演習・介護実習		中央法規	978-4-8058-8399-0	2200
使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等） 介護実習の手引き			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	実習指導者（介護福祉士）			
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた指導を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を十分に説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を概ね説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活をある程度説明することができる。	利用者の生活をあまり説明することができない。	利用者の生活を説明することができない。
知識・理解	2．障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを、理解できる。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを、十分に理解できる。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを、概ね理解できる。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを、ある程度理解できる。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れをあまり理解できない。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを理解できない。
思考・問題解決能力	1．実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとにある程度明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	明確な毎日の目標を立てる能力をあまり有していない。	明確な毎日の目標を立てる能力を有していない。
技能	1．高齢者や障害者にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者や障害者に積極的にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者や障害者にある程度積極的にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者や障害者にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者や障害者の話をあまり聴くことができない。	高齢者や障害者の話を聴くことができない。
技能	2．自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察をある程度的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することがあまりできない。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができない。
態度	1．実習課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	ヒューマンケア ④ シラバス用			授業番号	HW301	サブタイトル	こころとからだのしくみ		
教員	韓 在都、中野 ひとみ								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識を，介護の流れをイメージしながら修得する。 また，介護を必要とする人にとって，生活の充足を味わうためにはどのような介護技術が必要なのかを事例をとおして理解する。								
到達目標	(1)介護の目指す基本的なものは何かについて説明でき，介護の専門性について列挙することができる。 (2)介護技術の基本となる人体の構造や機能に関する知識を修得し，安全な介護サービスが提供できるように準備することができる。 (3)介護過程の展開に必要な構成要素を理解し，介護過程の展開について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	介護の基本的な考え方 理念に基づいた介護，法的根拠に基づいた介護について理解する。	韓 在都
第2回	介護に関するこころのしくみの基礎的理解 1 感情と意欲に関する基礎知識について理解する。	中野 ひとみ
第3回	介護に関するこころのしくみの基礎的理解 2 自己概念といきがいについて理解する。	中野 ひとみ
第4回	介護に関するこころのしくみの基礎的理解 3 老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因について理解する。	中野 ひとみ
第5回	介護に関するからだのしくみの基礎的理解 1 健康チェックとバイタルサインについて理解する。	中野 ひとみ
第6回	介護に関するからだのしくみの基礎的理解 2 骨，関節，筋肉に関する基礎知識について理解する。	中野 ひとみ
第7回	介護に関するからだのしくみの基礎的理解 3 中枢神経と内部器官に関する基礎知識について理解する。	中野 ひとみ
第8回	介護過程の基礎的理解 1 科学的思考と介護過程について理解する。	韓 在都
第9回	介護過程の基礎的理解 2 介護過程の展開に必要な構成要素（アセスメント①）について理解する。	韓 在都
第10回	介護過程の基礎的理解 3 介護過程の展開に必要な構成要素（アセスメント②）について理解する。	韓 在都
第11回	介護過程の基礎的理解 4 介護過程の展開に必要な構成要素（計画の立案，介護の実施，評価）について理解する。	韓 在都
第12回	総合生活支援技術演習（事例１） 事例による展開（衣服の着脱，移動の介助，食事の介助）について理解する。	韓 在都
第13回	総合生活支援技術演習（事例１） 事例による展開（排泄の介助，入浴の介助）について理解する。	韓 在都
第14回	総合生活支援技術演習（事例２） 事例による展開（衣服の着脱，移動の介助，食事の介助）について理解する。	韓 在都
第15回	総合生活支援技術演習（事例２） 事例による展開（排泄の介助，入浴の介助）について理解する。	韓 在都
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	積極的な発言・筆記・質問を評価する。
レポート	40	こころとからだの仕組みについて身に付けた基本的知識・技術・考え方を，実生活に生かす意欲や方法について述べていること。レポートについては，コメントを記入して返却する。
小テスト	30	基本的知識の定着度・理解度（2回の小テストにより）を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため，全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	こころとからだを健康に保ち，気持よく本授業にのぞめるよう，服装や環境整備に留意することを求む。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。 2 授業で身につけた知識・技術について復習し，介護が必要な人のことを考える。 3 発展学修として授業で学んだことを実生活で生かす。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキスト 第4分冊：技術と実践	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-48-8	2000＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。（韓 在都） 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野ひとみ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだこころのしくみに関する知識や技術を身につよう指導する。（韓 在都）看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野ひとみ）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護の専門性について理解し、説明できる。	介護の専門性について他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護の専門性について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護の専門性について他者に説明でき、質問に回答できる。	介護の専門性について他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	介護の専門性について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識を理解し、介護の流れを説明できる。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．介護過程の意義と目的、介護過程の展開について説明できる。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者に説明でき、質問に回答できる。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．介護福祉の基本理念や専門職としての倫理について説明できる。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．介護に関するからだのしくみの基礎的理解を説明できる。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点について説明できる。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	1．協働する他職種連携の意義と課題を説明できる。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	2．介護技術の基本となる人体の構造や機能に関する基礎知識を説明できる。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	3．チームで介護過程を展開することの意義や方法を説明できる。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができない。

科目名	ヒューマンケア ⑤ シラバス用			授業番号	HW302	サブタイトル	生活支援技術の基本		
教員	韓 在都								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	介護が必要な人たちの尊厳を保持し，自立及び自律を尊重し，持っている力を発揮できるようなこころとからだのしくみを理解した上で，生活を支える具体的な介護技術を学ぶ。								
到達目標	(1)生活支援技術の基本を習得するための原理を説明することができる。 (2)生活支援技術の知識と実践を統合し，基本となる生活支援技術について説明することができる。 (3)多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントを列挙することができる。 (4)多面的な生活支援を展開するための技能について説明することができる。 なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 1 整容についての意義を，生理的側面，社会的側面，精神的側面から理解する。	
第2回	整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 2 整容の支援技術（爪切り，口腔ケア）について学び，利用者の自立支援にもとづいた介助方法を理解する。	
第3回	整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 3 整容の支援技術（衣服の着脱）について学び，利用者の自立支援にもとづいた介助方法を理解する。	
第4回	整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 4 身体状況に合わせた衣服の着脱について理解する。	
第5回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 1 移動・移乗介助の意義・目的を理解する。	
第6回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 2 重心・重力の動き，ボディメカニクスの基本原理について理解する。	
第7回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 3 福祉用具を活用する意義，福祉用具（杖・歩行器，車いす，下肢装具）の種類とその活用方法について理解する。	
第8回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 4 活動の低下が及ぼすこころとからだへの影響（廃用症候群，褥瘡，体位変換）について理解する。	
第9回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 5 活動の低下した場合の移動・移乗（移乗の介助，歩行の介助，視覚障害者の移動介助）について学び，自立支援にもとづいた介助を理解する。	
第10回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 6 歩行が困難な利用者の移動手段である車いすに操作方法や移動介助の具体的方法を理解する。	
第11回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 1 私たちの生活における食事の意味や食事摂取のしくみについて理解する。	
第12回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 2 食事に関連した観察のポイントや適切な食事環境について理解する。	
第13回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 3 さまざまな状態像に合わせた介護方法について理解する。	
第14回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 4 さまざまな状態像（上肢機能障害，視覚障害，認知機能障害，食事制限）に合わせた介護方法について理解する。	
第15回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 5 咀嚼・嚥下状態の観察と確認について理解する。	

第16回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護６ 食事介護の社会的側面，口腔機能について理解する。	
第17回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護１ 入浴の効果と入浴に関する基礎知識について理解する。	
第18回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護２ 清拭の効果と清拭に関する基礎知識について理解する。	
第19回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護３ シャワー浴・一般浴（片麻痺の場合）の介助方法について理解する。	
第20回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護４ 手浴・足浴の介助方法について理解する。	
第21回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護５ 洗髪・髭剃りの介助方法について理解する。	
第22回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護６ 入浴に際したリスクの対応について理解する。	
第23回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護１ 排泄の意義・排泄のメカニズム・排泄障害・失禁の種類について理解する。	
第24回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護２ 排泄しやすい環境整備，排泄用具の種類と特徴について理解する。	
第25回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護３ ポータブルトイレの介助（片麻痺のある場合）の意義と方法について理解する。	
第26回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護４ トイレ内での排泄介助（片麻痺のある場合）の意義と方法について理解する。	
第27回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護５ ベッド上での介助（尿器介助）の意義と方法について理解する。	
第28回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護６ ベッド上での介助（オムツ交換）の意義と方法について理解する。	
第29回	睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護１ 睡眠の基礎知識と役割について理解する。	
第30回	睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護２ 高齢者の睡眠の特徴，睡眠を阻害する要因について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	各回の授業で行う介護技術の修得度を，実技発表の形で毎回確認し評価する。

評価の方法：自由記載	なお，本科目は，「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	こころとからだを健康に保ち，気持よく本授業に臨めるよう，服装や環境整備に留意することを求める。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1 予習として，教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。 2 授業で身につけた知識・技術について復習し，介護が必要な人のことを考える。 3 発展学修として，授業で学んだ技術は練習する。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキスト 第4分冊：技術と実践	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-48-8	2000＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだとこころのしくみに関する知識や技術を身につよう指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．生活支援技術の基本を習得するための原理を説明できる。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者に説明でき、質問に回答できる。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について説明できる。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者に説明でき、質問に回答できる。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントを列挙できる。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．生活支援の意義や目的について説明できる。	生活支援の意義や目的について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	生活支援の意義や目的について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	生活支援の意義や目的について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	生活支援の意義や目的について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活支援の意義や目的について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．生活に活かすICFについて説明できる。	生活に活かすICFについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	生活に活かすICFについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	生活に活かすICFについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	生活に活かすICFについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	生活に活かすICFについて他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について説明できる。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に説明できるが不十分である。
技能	1．介護技術実践の根拠について説明できる。	介護技術実践の根拠について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護技術実践の根拠について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護技術実践の根拠について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護技術実践の根拠について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護技術実践の根拠について他者に説明できるが不十分である。
技能	2．対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について説明できる。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に説明できるが不十分である。
技能	3．観察、アセスメント、考察について説明できる。	観察、アセスメント、考察について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	観察、アセスメント、考察について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	観察、アセスメント、考察について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	観察、アセスメント、考察について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	観察、アセスメント、考察について他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。

科目名	介護の基本Ⅱ－A			授業番号	HW303	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目は介護領域の基盤となる科目です。介護を必要とする人の生活を支援する視点から，介護福祉を必要とする人の理解，介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ，介護における安全の確保とリスクマネジメントについて学ぶ。								
到達目標	(1)日常の生活を構成する重要な要素について説明することができる。 (2)介護福祉を必要とする人たちの多様性について説明することができる。 (3)リスクマネジメントの必要性とその方法について説明することができる。 (4)地域連携や感染症予防のポイントを列挙することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	私たちの生活の理解１ 私たちの生活は「時間」,「空間」,「生活のリズム」が相互に関連し，構成されていることを理解する。	
第2回	私たちの生活の理解２ 私たちの生活にとって大切な要素（家庭・地域・社会）と生活の特性を理解する。	
第3回	私たちの生活の理解３ 介護福祉を必要とする人たちの暮らしの多様性を理解する。	
第4回	介護福祉を必要とする人たちの暮らし１ 利用者の暮らし（歴史）とその多様性を理解する。	
第5回	介護福祉を必要とする人たちの暮らし２ 介護福祉を必要とする高齢者の事例（特別養護老人ホームに3年前から入所しているAさんのケース）。	
第6回	介護福祉を必要とする人たちの暮らし３ 介護福祉を必要とする高齢者の事例（身体障害をもち，介護福祉サービス等を利用しながら働くBさんのケース）。	
第7回	生活のしづらさの理解とその支援 介護を必要とする人の生活のしづらさの視点について学び，家族介護者とその支援について理解する。	
第8回	利用者の生活を支えるしくみ 地域共生社会や地域包括ケアシステムについて理解する。	
第9回	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは 高齢者や障害者の生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）を理解する。	
第10回	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは 高齢者や障害者の生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）を理解する。	
第11回	地域連携１ 地域連携の意義と目的について学び，地域連携にかかわる機関の理解。	
第12回	地域連携２ 利用者を取り巻く地域連携の実際（重度の障害のあるAさんの事例）。	
第13回	介護における安全の確保１ セーフティーマネジメントの考え方を学び，安全な暮らしの支援が，利用者の尊厳の保持に結び付くことの重要性を理解する。	
第14回	介護における安全の確保２ 尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント（事故・苦情・身体拘束）を理解する。	
第15回	介護における安全の確保３ 事故防止・予防のための対策について学び，安全に暮らすための生活環境づくりの重要性を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業態度，グループワーク参加姿勢を評価する。
レポート	20	グループワークによるレポート，発表を評価する。
小テスト	10	予習・復習の理解度を評価する。
定期試験	50	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	本科目は，アクティブラーニングを基本する。グループワーク等の演習によるレポート作成，発表にて評価とする。
受講の心得	将来，介護福祉士として大切な心得を学ぶ科目です。知識や技術を身に着けるだけではなく，介護のプロとしての価値観を確立できるように努めること。
授業外学修	1．講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること 2．参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること 3．授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護福祉士養成講座４　介護の基本II	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-5764-9	2420円（税込み）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし実践的能力が身につくように指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解し、説明できる。	生活にとって大切な要素を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	生活にとって大切な要素を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	生活にとって大切な要素を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	生活にとって大切な要素を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活にとって大切な要素に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．その人らしさと生活ニーズを理解し、説明できる。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、説明できる。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．生活や暮らしの特性について説明できる。	生活や暮らしの特性を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	生活や暮らしの特性を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	生活や暮らしの特性を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	生活や暮らしの特性を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活や暮らしの特性を理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．生活ニーズを理解し、説明できる。	生活のしずらさを理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	生活のしずらさを理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	生活のしずらさを理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	生活のしずらさを理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活のしずらさを理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．フォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、説明できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者に説明できるが不十分である。
技能	1．介護福祉を必要とする人たちの暮らしを説明できる。	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解し、他者に説明できるが不十分である。
技能	2．その人らしさと生活ニーズについて説明できる。	その人らしさと生活ニーズについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	その人らしさと生活ニーズについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	その人らしさと生活ニーズについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	その人らしさと生活ニーズについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない	その人らしさと生活ニーズについて他者に説明できるが不十分である。
技能	3フォーマルサービスとインフォーマルサービスの種類や提供者について説明できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	介護の基本Ⅱ－B			授業番号	HW304	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，多職種協働による介護実践のために，医療・保健・福祉機関に関する，他の専門職との連携，協力及び必要に応じた対応能力を養う。また，介護従事者自身が心身ともに健康に介護を実践するための健康管理や労働環境の管理を理解する。本科目は，アクティブラーニングを基本とし，講義内にてグループワークを行います。								
到達目標	(1)多職種連携・協働の必要性や目的・効果について説明することができる。 (2)多職種協働におけるコミュニケーション能力の重要性について説明することができる。 (3)働く人の健康や生活を守る法制度を理解し，説明することができる。 (4)保健・医療・福祉職の役割と機能のポイントを列挙できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	感染症対策 1 介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識（感染症対策の3原則・手洗い）を学び，感染を予防するための具体的な方法を理解する。	
第2回	感染症対策 2 介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識（標準予防策・施設内清潔保持・多職種連携）を学び，安全な薬物療法を支える視点・連携を理解する。	
第3回	多職種連携・協働の必要性 多職種連携・協働の必要性のについて学び，多職種連携・協働の効果を理解する。	
第4回	多職種連携・協働に求められる基本的な能力 介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意義について学び，問題解決に対する多職種のかかわりには，多様な視点と受容が必要であることを理解する。	
第5回	保健・医療・福祉職の役割と機能 多職種協働が機能する大前提として，専門職同士が自分以外の専門職のことをしっかり学び，仲間の専門性と力を信頼するという専門職を理解する。	
第6回	多職種連携・協働の実際 1 専門職連携実践（IPW）の内容と実践タイプを学び，介護福祉職からみる連携の実態から専門性を理解する。	
第7回	多職種連携・協働の実際 2 特別養護老人ホームの連携の実態調査から，介護福祉職の観察情報の提供後の（各専門職の診察・観察，おむつ交換，食事介助，口腔ケア）を理解する。	
第8回	多職種連携・協働の実際 3 自立支援介護における多職種連携の実際（有料老人ホーム，特別養護老人ホームの事例から）を理解する。	
第9回	健康管理の意義と目的 働く人の健康や生活を守る法制度（労働基準法，労働安全衛生法，労働者災害補償保険法）を学び，かいごに従事することで生じやすい健康問題を理解する。	
第10回	こころの健康管理 ストレスとこころの健康との関係について学び，介護従事者のこころの病気について理解する。	
第11回	身体の健康管理 介護従事者の身体の健康障害（腰痛・頭肩腕障害）の原因を学び，健康障害の予防と対策について理解する。	
第12回	労働環境の整備 1 介護従事者の生活や健康，安全に影響する労働環境と，健康や安全を守るための整備方法を理解する。	
第13回	労働環境の整備 2 介護従事者の労働災害（熱中症・転倒・転落・激突）について学び，事故やけがの予防のしくみを理解する。	
第14回	介護福祉の基本理念と継続的支援 1 介護の基本Ⅱの全体を振り返り，介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解する。	
第15回	介護福祉の基本理念と継続的支援 2 介護の基本Ⅱの全体を振り返り，国家試験対策のための総まとめとして介護福祉の基本を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業態度，グループワーク参加姿勢を評価する。
レポート	20	グループワークによるレポート，発表を評価する。
小テスト	10	予習・復習の理解度を評価する。
定期試験	50	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	本科目は，アクティブラーニングを基本する。グループワーク等の演習によるレポート作成，発表にて評価とする。
受講の心得	本科目は，アクティブラーニングを基本とし，講義内にてグループワークを行う。積極的なコミュニケーションを試みること。
授業外学修	1．講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること。 2．参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること。 3．授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護福祉士養成講座４　介護の基本II	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-5764-9	2200
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし実践的能力が身につくように指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、説明できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．協働する多職種の機能と役割を理解し、説明できる。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．介護従事者について理解し、説明できる。	介護従事者について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護従事者について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護従事者について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護従事者について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護従事者について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．介護現場におけるセーフティマネジメントについて説明できる。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、説明できる。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．介護労働環境や健康管理について理解し、説明できる。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者に説明できるが不十分である。
技能	1．事故防止のための対策や感染症対策について説明できる。	事故防止のための対策や感染症対策について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	事故防止のための対策や感染症対策について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	事故防止のための対策や感染症対策について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	事故防止のための対策や感染症対策について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない	事故防止のための対策や感染症対策について他者に説明できるが不十分である。
技能	2．保健・医療・福祉職の役割と機能について説明できる。	保健・医療・福祉職の役割と機能について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	保健・医療・福祉職の役割と機能について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	保健・医療・福祉職の役割と機能について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	保健・医療・福祉職の役割と機能について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	保健・医療・福祉職の役割と機能について他者に説明できるが不十分である。
技能	3．労働環境を整備し、けがを予防について説明できる。	労働環境を整備し、けがを予防について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	労働環境を整備し、けがを予防について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	労働環境を整備し、けがを予防について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	労働環境を整備し、けがを予防について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	労働環境を整備し、けがを予防について他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	認知症の理解Ⅱ			授業番号	HW305	サブタイトル			
教員	韓 在都								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では認知症に関する基礎的知識をもとに，認知症ケアを具体的に講義する。 認知症の方への支援だけではなく家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得するための講義を行う。 介護実習IIでの実践と関連づけながら，基本的な考え方を身につけるための講義を行う。 ケアマネジメントの視点で介護が展開できるように，具体的な事例に対して，認知症の家族への支援や権利を守るための取り組みについて説明する。								
到達目標	(1)認知症ケアの実際について基本的な考え方や姿勢について具体的に説明することができる。 (2)認知症の人とのコミュニケーションを理解し，基本的な方法を列挙することができる。 (3)認知症の人へのさまざまなアプローチの方法を理解し，その方法について説明することができる。 (4)認知症の人の生活支援技術を理解し，介護過程の展開ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	認知症ケアの実際 パーソン・センタード・ケア実践のための3つのステップを学び，認知症の人の心理的ニーズを理解する。	
第2回	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール１ 認知症の人を理解するための多方面からのアプローチ方式の中で，センター方式の理念や共通の5つの視点を理解する。	
第3回	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール２ 認知症の人を理解するための多方面からのアプローチ方式の中で，利用者の背景要因の言動からひも解くためのツールであるひもときシートを理解する。	
第4回	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール３ 認知症の人を理解するためのアプローチで方式である健康状態のアセスメントの特徴や3つのステップを理解する。	
第5回	認知症ケアの実際１ 認知症の人とのコミュニケーションにおける留意点を学び，コミュニケーションの実際を理解する。	
第6回	認知症ケアの実際２ 認知症の早期から生じるIADL・ADL障害（食事・服薬管理・ごみの処理・排泄・入浴）のケアについて学び，認知症の人の生活障害へのケアについて理解する。	
第7回	認知症ケアの実際３ 認知症の早期から生じるIADL・ADL障害（休息と睡眠・活動,いきがい・BPSD）のケアについて学び，認知症の人の生活障害へのケアについて理解する。	
第8回	認知症の人へのさまざまなアプローチ１ 認知症介護の方法である「ユマニチュード」に関する4つの柱や5つのステップを学ぶ。またアルツハイマー型認知症および類似認知症の高齢者とのコミュニケーション方法であるバリデーションの3つの柱を理解する。	
第9回	認知症の人へのさまざまなアプローチ１ 認知症介護の方法である「ユマニチュード」に関する4つの柱や5つのステップを学ぶ。またアルツハイマー型認知症および類似認知症の高齢者とのコミュニケーション方法であるバリデーションの3つの柱を理解する。	
第10回	認知症の人へのさまざまなアプローチ２ 認知症高齢者のアプローチ方法である「脳活性化リハビリテーション5原則」,「リアリティオリエンテーション」,「回想法」,「音楽療法と芸術療法」,「アロマテラピーとタッチケア」,「園芸療法」などを理解する。	
第11回	認知症の人の終末期医療と介護 終末期における高齢者や認知症の人に関する終末期医療と介護の特徴を学び，生活の主な課題を理解する。	
第12回	環境づくり 認知症の人にとっての自宅や施設における環境の要素を理解し，さまざまな環境づくりの具体的な工夫を理解する。	
第13回	介護者支援 認知症高齢者の介護者である家族への支援に活用できるフォーマルやインフォーマルなレスパイトサービスを学ぶ。また、働きやすい職場環境の整備により介護福祉士職への支援を理解する。	
第14回	認知症の人の地域生活支援 地域包括ケアシステムにおける認知症ケアの概要を学ぶとともに地域生活支援の機関やサービスを理解する。	
第15回	多職種連携と協働 認知症の人が地域で継続して暮らすための多職種連携と協働の基本的な考え方を学び，多職種連携と協働の必要性を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式をグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。 ・認知症の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護福祉士養成講座13 認知症の理解	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-5773-1	2420（税込み）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし，知識や技術など実践的能力が身につくように指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、説明できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．介護者支援について理解し、説明できる。	介護者支援について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護者支援について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護者支援について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護者支援について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護者支援について理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．認知症の人の地域生活支援について理解し、説明できる。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、説明できる。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、説明できる。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、説明できる。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
技能	1．認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールについて説明できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールについて他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールについて他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールについて他者に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールについて他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールについて他者に説明できるが不十分である。
技能	2．認知症の人へのさまざまなアプローチについて説明できる。	認知症の人へのさまざまなアプローチについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	認知症の人へのさまざまなアプローチについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	認知症の人へのさまざまなアプローチについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	認知症の人へのさまざまなアプローチについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない	認知症の人へのさまざまなアプローチについて他者に説明できるが不十分である。
技能	3．新オレンジプランや若年性認知症について説明できる。	新オレンジプランや若年性認知症について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	新オレンジプランや若年性認知症について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	新オレンジプランや若年性認知症について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	新オレンジプランや若年性認知症について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	新オレンジプランや若年性認知症について他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	発達と老化の理解			授業番号	HW306	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，人間の発達段階に応じたこころとからだのしくみを理解する。 特に発達の観点から，人間が老化することによって起きる身機能の変化と特徴，成人期以降に発症しやすい生活習慣病をはじめとする代表的な疾患に関する医学的基礎的知識を修得する。								
到達目標	(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常生活及び高齢者の健康，医療との連携について説明できる。 (2)人間の発達の観点から成長と発達について基礎的理解を持ち，説明できる。 (3)老年期の発達課題や心理を理解し，対象者に応じた医療や介護の場で応用実践できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。 本科目は医療機関や福祉施設での就職を希望する学生への対応科目である。専門的医学知識を学び，患者や利用者の健康とQOL向上を目指すための科目だと心得てほしい。 また，本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。								

回	概要	担当
第1回	人間の成長と発達・ライフサイクルを理解する。 各期の発達課題を理解する。	
第2回	人間の老化に伴う心理的・身体的・知的機能の変化と日常生活を理解する。 記憶・知能の変化について理解する。	
第3回	高齢期に多い症状・訴えとその留意点(1) 生理的機能・身体的機能の低下を理解する。	
第4回	高齢期に多い症状・訴えとその留意点(2) エイジング・慢性疾患を理解する。	
第5回	成人期に多い病気とその日常生活の留意点(1) 3大生活習慣病(糖尿病）の病態を理解する。	
第6回	成人期に多い病気とその日常生活の留意点(2) 3大生活習慣病（高血圧・脂質異常症）の病態を理解する。	
第7回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(3) 骨・関節系の病気，歯・口腔の病気を理解する。	
第8回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(4) 眼の病気・耳の病気を理解する。	
第9回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(5) 皮膚の病気・呼吸器の病気を理解する。	
第10回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(6) 腎・泌尿器の病気を理解する。	
第11回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(7) 消化器系疾患・循環器系疾患を理解する。	
第12回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(8) 神経疾患・感染症を理解する。	
第13回	第3回～12回までの各疾患に対する総合的なまとめを行う。	
第14回	保健医療チームとの連携のポイントについて理解する。(1)	
第15回	保健医療職との連携のポイントについて理解・まとめを行う。(2)	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式を中心として進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・講義を聴講するだけではなく，大切なところはメモを取り，疑問点は明らかにする。 ・高齢者問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。 ・難解な医療専門用語が講義中に多く出てきます。テキストには必ず眼を通しておいてください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解	秋山昌江ほか	中央法規出版	978-4-8058-5772-4	2200円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 自分の将来のため，目的意識を持ち受講態度で臨むように努めてください。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員業務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．老化に伴うこころの変化を理解できている。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解し質問に的確に答え支援方法まで考えることができている。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解し質問に答えることができている。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解し質問に答えることができるが回答が不十分である。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を少し理解できているが、質問には答えられない。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解ができていない。
知識・理解	２．老化に伴うからだの変化を理解できている	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解し質問に的確に答え支援方法まで考えることができている。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解し質問に的確に答えることができている。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解し質問に答えることができるが回答が不十分である。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を少し理解できているが、質問には答えられない。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解ができていない。
知識・理解	３．高齢者の健康保持・促進と医療との連携について理解できている。	社会における高齢者の問題を問題意識として捉え、解決方法を考えることができ的確に述べることができている。	社会における高齢者の問題を問題意識として捉えることができ述べることができている。	社会における高齢者の問題に興味・関心を持つことができ課題を答えることができている。	社会における高齢者の問題に少しだけ興味・関心を持つことができているが明確に答えられない。	社会における高齢者の問題を全く理解できていない。
知識・理解	４．老年期の発達課題を理解することができている。	老年期の発達課題や心理を理解し，対象者に応じた個別支援内容まで明確に述べることができる。	老年期の発達課題に興味・関心を持つことができ課題や心理状態を少しだけ答えることができるが、個別支援内容までは浮かばない。	老年期の発達課題に興味・関心を持つことができ課題や心理状態を少しだけ答えることができている。	老年期の発達課題に少し興味・関心をもつことが出来ているが明確に答えられない。	老年期の発達課題が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1．人間の成長発達の課題を見出し、説明することができている。	人間の成長発達段階、ライフステージごとの課題を理解し、その段階ごとの問題点を的確に捉えることができ、回答も明確である。	人間の成長発達段階、ライフステージごとの課題を理解し、その段階ごとの問題点をいくつか捉えることができ答えることもできているが不十分である。	人間の成長発達段階、ライフステージの意味を理解することができているが問題点の答えに答える努力をしているが不十分である。	人間の成長発達段階やライフステージの意味を理解出きていないが、曖昧だか問題点が浮かぶが答えらえない。	人間の成長発達段階やライフステージの意味が全く理解できない。
思考・問題解決能力	２．老年期にある対象者に応じた介護実践を考えることができている。	老年期における対象者の状況及び出現しやすい症状や身体の変化に応じた支援内容を個別性まで考慮でき考えることができている。	老年期における対象者の状況及び出現しやすい症状や身体の変化に応じた支援内容を不十分であるが考えることができている。	老年期における対象者の状況及び出現しやすい症状や身体の変化は理解できているが支援方法までは考えつかない。	老年期における対象者の状況の理解は乏しいが出現しやすい症状や身体の変化を少しだけ理解できている。	老年期における対象者の状況や出現しやすい症状や身体の変化が全くイメージすることができていない。
態度	１．医療・福祉に関わるものとして疾患を持つ人や高齢者への対応を理解できている。	医療・福祉に関わるものとして疾患を持つ人や高齢者やその家族にも関わることができそうで、専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	医療・福祉に関わるものとして疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうであり、専門的な知識・技術をもって対応できると考えらえる。	医療・福祉に関わるものとして疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうだが、専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが、一部不十分でなところもある。	医療・福祉に関わるものとし疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうではあるが、専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	医療・福祉に関わるものとして専門性を持って疾患を持つ人や高齢者への対応ができそうもない。
態度	2．介護福祉士として疾患を持つ人や高齢者への対応を理解できている。	介護福祉士として疾患を持つ人や高齢者やその家族にも関わることができそうで、専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	介護福祉士として疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうであり、専門的な知識・技術をもって対応できると考えらえる。	介護福祉士として疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうだが、専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが、一部不十分でなところもある。	介護福祉士とし疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうではあるが、専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉士として専門性を持って疾患を持つ人や高齢者への対応ができそうもない。

科目名	障害の理解			授業番号	HW307	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，障害のある人だけではなく，その家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。 また，障害の基礎的理解や医学的側面の両方を身につけ，生活支援へ必要な課題解決能力を身につける。								
到達目標	(1)障害者支援の基礎的な知識・技術について理解し，各障害に応じた介護の介護の留意点が説明できる。 (2)障害者福祉の理念について理解し，介護の基本的視点について説明できる。 (3)障害がある人を取り巻く家族の支援のあり方について説明ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。 本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。 ゲストスピーカーの講義は補講期間に行う。								

回	概要	担当
第1回	障害の概要・基本的な考え方・自己概念を理解する。 障害児・者への支援方法の基本やICFを理解する。	中野
第2回	障害者福祉の基本的理念を理解する。 ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョンを理解する。	中野
第3回	障害者の権利条約を理解する。 制度の概要・関連制度を理解する。 障害に対する様々な障壁を理解する。	中野
第4回	障害のある人の基本的視点 援助の原則・権利擁護・医学モデルと社会モデル・エンパワメントを理解する。	中野
第5回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(1) 肢体不自由を理解する。	中野
第6回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(2) （内部障害）呼吸器機能障害・循環器障害を理解する。	中野
第7回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(3) （内部障害）腎臓機能障害・肝臓機能障害・小腸機能障害を理解する。	中野
第8回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(4) （内部障害）大腸・膀胱機能障害・後天性免疫障害を理解する。	中野
第9回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(５) 聴覚・言語障害を理解する。	中野
第10回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(6) 発達障害を理解する。	中野
第11回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(7) 精神障害・高次脳機能障害を理解する。	中野
第12回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(8) 難病・その他の障害を理解する。	中野
第13回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(9) 視覚障害者の現状や日常生活を理解する。	福原　中野
第14回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(10) 視覚障害者の支援方法の理解や点字の実際を行う。	福原　中野
第15回	連携と協働・家族への支援・まとめを行う。	中野
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式を中心として進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・障害者の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座14　障害の理解	川井太加子	中央法規出版	978-4-8058-4	2200円
使用テキスト：自由記載	視聴覚教材			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設（介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	福原隆行：鍼師，灸師，あんまマッサージ指圧師として病院勤務（6年)を経て，2006年4月に城東台治療院ふくはらを開業（18年）の実務経験を有する。(公社)岡山県鍼灸師会では、青年部担当理事（10年）として，親子スキンタッチ教室という小児鍼を生かした子育て活動や，スポーツ鍼灸トレーナー活動、災害鍼灸などのボランティアに関わってきた。また，（社福)岡山県視覚障害者協会では，2008年から青年部担当理事や，岡山市視覚障害者協会で副会長として視覚障害者をとりまく諸問題に取り組み，会運営にあたっている(16年)。視覚障害当事者として，小学校や高校での、点字や生活についての講演を行ってきた。			
実務経験をいかした教育内容	中野：看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。 福原：視覚障害団体での経験(16年），また自身の生活から視覚障害当事者としての現状や具体的な生活での諸問題を考えたり，点字の講習も交え講義を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	各障害の症状や疾患について理解できている。	各障害の症状や疾患について理解でき、特徴や留意する事項を述べることができている。	各障害の症状や疾患について理解でき、特徴や留意する事項を適切に述べることができている。	各障害の症状や疾患について理解できているが、特徴や留意する事項を述べることができていない。	各障害の症状や疾患について一部理解出来ているが、特徴や留意する事項を述べることもできていない。	各障害の症状や疾患について、特徴や留意する事項を全く述べることができていない。
知識・理解	障害者福祉の理念について理解し，介護の基本的視点について説明することができるようになる。	障害者福祉の理念について理解し，介護の基本的視点について自分の言葉で説明することができる。	障害者福祉の理念について理解し，介護の基本的視点について少し説明することができる。	障害者福祉の理念について一部理解しているが，介護の基本的視点についての説明は曖昧である。	障害者福祉の理念について一部理解しているが，介護の基本的視点についての説明は全くできていない。	障害者福祉の理念について全く理解できていない。
思考・問題解決能力	障害のある方の社会におけるバリアについて理解し、それを除去するため支援方法を説明することができている。	社会におけるバリアについて十分に理解し、それを除去するため支援方法を説明することができている。	社会におけるバリアについて理解し、それを除去するため支援方法を説明することができている。	社会におけるバリアについて一部理解し、それを除去するため支援方法を少しだけ理解することができている。	社会におけるバリアについて一部理解できているが、それを除去するための支援方法を見出すことができていない。	社会におけるバリアについて全く理解できていない。
思考・問題解決能力	障害がある人を取り巻く家族の支援のあり方について説明ができるようになる。	障害がある人を取り巻く社会の課題と家族の支援方法を明確に理解できている。	障害がある人を取り巻く社会の課題と家族の支援方法を理解できている。	障害がある人を取り巻く社会の課題を一部だけ理解できるが家族の支援方法までは浮かばない。	障害がある人を取り巻く社会の課題を具体的に述べることが出来ない。また家族の支援方法までは浮かばない。	障害がある人を取り巻く社会の課題が全く理解できない。また家族の支援方法も全く浮かばない。
技能	障害者支援の基礎的な知識・技術について理解できている。	障害者支援の基礎的な知識・技術について明確に理解できている。	障害者支援の基礎的な知識・技術について理解できている。	障害者支援の基礎的な知識・技術について一部理解できている。	障害者支援の基礎的な知識・技術について少しだけ考えることができている。	障害者支援の基礎的な知識・技術について全く理解できていない。
態度	1．介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を理解し支援する力が身についている。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を理解し必要な支援を考える力が身についている。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を理解し必要な支援を考える力が身についている。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を理解しているが、必要な支援を考えることはできていない。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点の一部は理解しているが、必要な支援を考えることはできていない。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を全く理解できていない。
態度	２．介護福祉士として障害児・者への対応を理解できている。	介護福祉士として障害児・者や家族にも関わることができ、専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	介護福祉士として障害児・者へ関わることができそうではあり、専門的な知識・技術をもって対応できると考えらえる。	介護福祉士として障害児・者へ関わることができそうではあるが、専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが、一部不十分でなところもある。	介護福祉士として障害児・者へ関わることができそうではあるが、専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉士として専門性を持って障害児・者へ対応できそうもない。

科目名	こころとからだのしくみ I			授業番号	HW308	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，介護福祉士として人体の構造やこころのしくみについて学び，利用者のこころの状態や身体的状態を適切に判断し状況に応じた支援内容を理解する。 人間のこころとからだのしくみを理解し，より質の高いサービスの仕方について習得する。 こころのしくみ に関する諸理論や，感情のしくみ，からだのしくみ，ボディメカニクス，身じたく，排泄，食事，睡眠等について理解する。								
到達目標	(1)生活支援に必要なこころとからだのしくみについて説明できる。 (2)身体的機能低下，障害によってもたらされるこころとからだの変化と生活に及ぼす影響について説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。 ディスカッションやグループワークを行う								

回	概要	担当
第1回	こころとからだの基礎 人間の基本的欲求・生命の維持・恒常性・バイタルサイン・人体各部の名所・ボディメカニクス・関節可動域を理解する。	
第2回	移動に関連したこころとからだのしくみ(1) 移動行為の生理的意味・重心の移動・バランスなどを理解する。	
第3回	移動に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が移動に及ぼす影響を理解する。	
第4回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ(1) 身じたくの行為の生理的意味・爪，毛髪，口腔の清潔を理解する。	
第5回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が移身じたくに及ぼす影響を理解する。	
第6回	食事に関連したこころとからだのしくみ(1) 栄養素・水分量・食べることの生理的意味を理解する。	
第7回	食事に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が食事に及ぼす影響を理解する。	
第8回	入浴に関連したこころとからだのしくみ(1) 清潔が保てない人の心理・清潔保持を理解する。	
第9回	入浴に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が移入浴に及ぼす影響を理解する。	
第10回	排泄に関連したこころとからだのしくみ(1) 排泄のメカニズム・排泄障害の種類を理解する。	
第11回	排泄に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が移排泄に及ぼす影響を理解する。	
第12回	睡眠に関連したこころとからだのしくみ(1) 睡眠とは何か・睡眠障害を理解する。	
第13回	睡眠に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が睡眠に及ぼす影響を理解する。	
第14回	終末期に関連したこころとからだのしくみ(1) 死について・からだの変化を理解する。	
第15回	終末期に関連したこころとからだのしくみ(2) 死に対するこころの理解・家族支援・医療職との連携・まとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・疾患に関するニュースにも関心を持つよう心がけてください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ	秋山昌江	中央法規出版	978-4-8058-5771-7	2600円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員業務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．生活支援に必要なこころの仕組みを理解できている。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みの全体を理解でき口頭でも十分説明することができている。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みの全体を理解できているが口頭での説明が一部曖昧な部分もある。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みの全体を理解できているが、口頭での説明を不十分である。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みの一部のみ理解しているが不十分である。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みを理解できていない。
知識・理解	2．生活支援に必要なからだの仕組みについて理解できている。	生活支援に必要な疾患や症状を理解でき医学的知識の質問にも十分で的確な回答をすることができている。	生活支援に必要な疾患や症状を理解できているが医学的知識の質問への回答は答えらえるが一部曖昧な部分もある。	生活支援に必要な疾患や症状を理解できているが医学的知識の質問への回答に努力は感じられるが内容が不十分である。	生活支援に必要な主疾患のイメージはつくが、医学的知識を十分理解できていないため答えらえない。	生活支援に必要な医学的知識が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1．機能低下、障害によってもたらされるからだの変化が理解できている。	機能低下、障害によってもたらされるからだの変化が正確に理解でき具体的な対応方法まで口頭で説明ができている。	機能低下、障害によってもたらされるからだの変化が理解でき対応方法まで口頭で説明ができている。	機能低下、障害によってもたらされるからだの変化が理解でき対応方のイメージは浮かぶが、口頭での説明は不十分である。	機能低下、障害によってもたらされるからだの変化は曖昧だがイメージできるが対応方法は全く浮かばない。	機能低下、障害によってもたらされるからだの変化が理解できていない。
思考・問題解決能力	2．機能低下、障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について理解できている。	機能低下、障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について正確に理解でき具体的な対応方法まで説明ができている。	機能低下、障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について理解でき対応方法まで口頭での説明ができている。	機能低下、障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について理解でき対応方法のイメージは浮かぶが口頭での説明が不十分である。	機能低下、障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について曖昧だがイメージできるが対応方法は全く浮かばない。	機能低下、障害によってもたらされる生活の変化が理解できない。
態度	1．介護福祉士としてADLに課題がある人への対応を理解できている。	介護福祉士としてADLに課題がある人やその家族にも関わることができそうで、専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	介護福祉士としてADLに課題がある人へ関わることができそうであり、専門的な知識・技術をもって対応できると考えらえる。	介護福祉士としてADLに課題がある人へ関わることができそうだが、専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが、一部不十分でなところもある。	介護福祉士としADLに課題がある人へ関わることができそうではあるが、専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉士として専門性を持って疾患を持つ人やADLに課題がある人への対応ができそうもない。

科目名	こころとからだのしくみⅡ			授業番号	HW309	サブタイトル			
教員	韓 在都								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，介護福祉士として対象者の生活支援の根拠となる人体の構造やこころのしくみについて講義を行う。 介護福祉士として利用者のこころの状態や身体的状態を適切に判断し状況に応じた支援内容の講義を行う。 介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために，介護技術の根拠となる基本的事項の講義を行う。								
到達目標	(1)生活支援技術とこころとからだのしくみを関連づけて説明することができる。 (2)機能低下や障害によってもたらされる，こころとからだの変化について説明することができる。 (3)介護の対象が持つ心身面の背景を理解するための視点を説明することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	移動に関連したこころとからだのしくみ１ 人が移動する必要性や移動の効果を学び，移動にともなう身体の仕組みを理解する。	
第2回	移動に関連したこころとからだのしくみ２ 心身の機能低下が移動に及ぼす影響を学び，移動が不自由になると生じる状態（廃用症候群・褥瘡）などを理解する。	
第3回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ１ 生活のなかで行われている身じたくの行為（生理的意味・爪，毛髪，耳，歯，口腔の清潔など）に関するこころとからだのしくみを理解する。	
第4回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ２ 精神機能の低下や身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響を学び，身じたくを整えることをさまたげる要因について理解する。	
第5回	食事に関連したこころとからだのしくみ１ 人間に必要不可欠栄養素と働きを学び、摂食・嚥下障害などを理解する。	
第6回	食事に関連したこころとからだのしくみ２ 精神機能の低下や身体機能の低下が食事に及ぼす影響を学び，食事動作を整えることをさまたげる要因について理解する。	
第7回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ１ 入浴と清潔がもたらす心身への効果や皮膚の仕組み，発汗の仕組みなどについて理解する。	
第8回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ２ 精神機能の低下や身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を学び，清潔保持の機会に確認できる心身の状態を理解する。	
第9回	排泄に関連したこころとからだのしくみ１ 排泄に必要な行為や蓄尿と尿排出，蓄便と便排出の仕組みを理解する。	
第10回	排泄に関連したこころとからだのしくみ２ 排泄障害の種類（認知症・ストレスが及ぼす排泄障害）や便失禁の原因などを学び，排泄の観察のポイントや観察方法を理解する。	
第11回	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ１ 休息・睡眠のしくみ（レム睡眠・ノンレム睡眠）を学び，良質な睡眠のための環境条件や生活習慣を理解する。	
第12回	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ２ 休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能（加齢・予備能力・疾患）の低下を学び，睡眠での医療職と連携のポイントを理解する。	
第13回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ１ 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方を学び、看取りでの尊厳の保持の意味を理解する。	
第14回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ２ 「死」を受容する段階や家族が「死」を受容できるための支援を理解する。	
第15回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ３ 終末期から危篤状態，死後のからだの特徴，終末期における医療職との連携を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・自分のこころとからだに関連させながら学んでください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-5771-7	2600＋税

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 視聴覚教材

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだとこころのしくみに関する知識や技術を身につけるよう指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．移動・身じたく・食事にのしくみについて理解し、説明できる。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、説明できる。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、説明できる。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、説明できる。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、説明できる。	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、説明できる。	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者に説明できるが不十分である。
技能	1．移動・身じたく・食事に関連した観察ポイントについて説明できる。	移動・身じたく・食事に関連した観察ポイントについて他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	移動・身じたく・食事に関連した観察ポイントについて他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	移動・身じたく・食事に関連した観察ポイントについて他者に説明でき、質問に対し回答できる。	移動・身じたく・食事に関連した観察ポイントについて他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	移動・身じたく・食事に関連した観察ポイントについて他者に説明できるが不十分である。
技能	2．入浴・排泄・休息に関連した観察ポイントについて説明できる。	入浴・排泄・休息に関連した観察ポイントについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	入浴・排泄・休息に関連した観察ポイントについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	入浴・排泄・休息に関連した観察ポイントについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	入浴・排泄・休息に関連した観察ポイントについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない	入浴・排泄・休息に関連した観察ポイントについて他者に説明できるが不十分である。
技能	3．終末期における医療職との連携について説明できる。	終末期における医療職との連携について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	終末期における医療職との連携について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	終末期における医療職との連携について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	終末期における医療職との連携について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	終末期における医療職との連携について他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	生活コミュニケーション特論			授業番号	HW310	サブタイトル			
教員	森田 裕之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び，介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 生活コミュニケーション特論では，本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を修得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて，情報共有の意義，活用，管理などに関する基本知識・技術について理解する。								
到達目標	(1)コミュニケーション障害について理解し，対象者の状況に応じたコミュニケーションを図り，信頼関係の構築ができる。 (2)障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術が身につけることができる。 (3)多職種協働におけるチームのコミュニケーションが図れるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	介護におけるコミュニケーションの基本 受容・共感・傾聴等、介護におけるコミュニケーションの基本を理解する。	
第2回	介護におけるコミュニケーションの対象・援助関係とコミュニケーション 介護におけるコミュニケーションの対象である、高齢者や障害者との援助関係について理解する。	
第3回	言語コミュニケーション 会話や電話・メールといった言葉を用いて意思を伝える言語コミュニケーションについて理解する。	
第4回	非言語コミュニケーション 身振り手振り・ジェスチャー・表情・目の動きといった非言語コミュニケーションについて理解する。	
第5回	介護現場におけるコミュニケーションの実際 介護現場で行われているコミュニケーションについて、教員の実体験や学生の実習での実体験等をもとに説明する。	
第6回	コミュニケーション障害への対応の基本的姿勢 利用者の障害特性に応じた対応が必要であることを理解する。	
第7回	視覚障害に応じたコミュニケーション 閉ざされた質問の活用、抽象的な言葉を使用しない等、視覚障害に応じたコミュニケーションを理解する。	
第8回	聴覚・言語障害に応じたコミュニケーション 障害の原因疾患に応じたコミュニケーション方法を理解する。	
第9回	精神障害に応じたコミュニケーション 自分からうまく話せない、話がうまくまとまらないといった精神障害に応じたコミュニケーションについて理解する。	
第10回	高次脳機能障害・認知症に応じたコミュニケーション 失語症や記憶障害等、症状に応じたコミュニケーション方法を理解する。	
第11回	知的・発達障害に応じたコミュニケーション 「はっきり」「短く」「具体的」に話すといった知的・発達障害に応じたコミュニケーションを理解する。	
第12回	身体障害に応じたコミュニケーション 身体障害について理解し、利用者の身体障害に応じたコミュニケーション方法を理解する。	
第13回	家族とのコミュニケーション 積極的に傾聴する等、家族とのコミュニケーション方法を理解する。	
第14回	多職種協働におけるコミュニケーション 介護福祉士と異なる専門職の専門性を理解しお互いに 尊重し合うといった、多職種協働におけるコミュニケーションの基本について理解する。	
第15回	介護におけるコミュニケーションの基本・まとめ 疾患や症状別のコミュニケーション方法を復習するとともに、国家試験の内容も関連して学ぶ。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。
レポート	20	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する
小テスト		
定期試験	60	授業内容が理解できているか評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・予習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 5．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書5 コミュニケーション技術		中央法規	978-4-8058-5765-6	2200
使用テキスト：自由記載	その都度，授業資料・参考資料を配布します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	通所リハビリテーション介護職員（２年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）			
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）の経験から、多様な疾患や障害をもった高齢者や障害者に対してコミュニケーションを図ることができる。多様な疾患や障害をもった高齢者や障害者とのコミュニケーションに必要な知識や技術を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについて理解できている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについて正確に理解できている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについて概ね理解できている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについてある程度理解できている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについてあまり理解できていない。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについて理解できていない。
技能	1．高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法を身につけている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法を十分に身につけている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法を概ね身につけている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法をある程度身につけている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法をあまり身につけていない。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法を身につけていない。

科目名	生活支援技術Ⅱ			授業番号	HW311	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田 裕之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	生活支援技術IIでは，尊厳の保持や自立支援，生活の豊かさの観点から，本人主体の生活が継続できるよう，根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学修とする。 自立に向けた入浴・清潔保持，排せつ，休息・睡眠，人生の最終段階における介護ついて基礎的な知識・技術を学ぶ。								
到達目標	(1)自立に向けた入浴・清潔保持の介護を理解することができる。 (2)自立に向けた排泄の介護を理解することができる。 (3)休息・睡眠の介護を理解することができる。 (4)人生の最終段階における介護を理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	自立に向けた衣服の着脱介助 できる部分は自身で着脱してもらうといった自立支援を意識して衣服の着脱を行うことができる。	
第2回	座位での着脱介助 車椅子等に座った状態で、脱健着患を意識した着脱介助を行うことができる。	
第3回	臥位での着脱介助（1） ベッド等に臥床している状態で、脱健着患を意識した着脱介助を行うことができる。	
第4回	臥位での着脱介助（2） ベッド等に臥床している状態で、脱健着患を意識した着脱介助を行うことができる。	
第5回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 利用者の可動域等に留意し自立を支援した入浴・清潔保持を行うことができる。	
第6回	清拭の介助(1) 顔を拭くときの、目頭から目尻を拭き、上まぶた、下まぶたの順で拭くといった手順を、根拠をもって行うことができる。	
第7回	清拭の介助(2) 全身清拭の手順を、根拠をもって行うことができる。	
第8回	洗髪・洗身の介助(1) 洗髪介助を、根拠をもって行うことができる。	
第9回	洗髪・洗身の介助(2) 洗身介助を、根拠をもって行うことができる。	
第10回	洗髪・洗身の介助(3) 臥床した状態の利用者に対し、洗髪・洗身の介助を行うことができる。	
第11回	特殊浴槽の介助(1) 特殊浴槽の使用方法や留意点について理解する。	
第12回	特殊浴槽の介助(2) 特殊浴槽を使用し、安全に入浴することができる。	
第13回	入浴・清潔保持の介護における多職種協働 入浴・清潔保持の介護において、看護師やリハビリテーション専門職等、多職種との協働について理解する。	
第14回	自立に向けた排泄の介護 自分で行えることを把握するための声掛け等、自立に向けた排泄介助を行うことができる。	
第15回	排泄用具を活用した排泄介助 尿便器など等、排泄用具を活用した排泄介助を行うことができる。	

第16回	トイレでの排泄介助 トイレ内での移乗等、安全に留意した排泄介助を行うことができる。	
第17回	ポータブルトイレでの排泄介助(1) ポータブルトイレを置く位置や留意点等を理解する。	
第18回	ポータブルトイレでの排泄介助(2) ポータブルトイレを活用した排泄介助を行うことができる。	
第19回	ベット上での排泄介助(1) ベッドで臥床している利用者の、おむつ交換の手順や留意点を理解する。	
第20回	ベット上での排泄介助(2) ベッドで臥床している利用者の、おむつ交換の手順や留意点を踏まえ、排泄介助を行うことができる。	
第21回	ベット上での排泄介助(3) ベッドで臥床している利用者のおむつ交換等、排泄介助を行うことができる。	
第22回	自立に向けた休息・睡眠の介護 高齢になると、寝つきが悪く、浅い眠りになりやすいこと等を理解する。	
第23回	休息・睡眠の介護における多職種協働 高齢者や障害者の休息・睡眠において、看護師やリハビリテーション専門職等との多職種協働について理解する。	
第24回	人生の最終段階における介護 人生の最終段階における意思決定支援や本人の意思に基づく医療・介護の提供について理解する。	
第25回	人生の最終段階の意義と介護の役割 どういった内容の医療・ケアを受けたいかや、自分で意思表示できない場合には誰に意思推定を委ねたいか等、人生の最終段階の意義と介護の役割について理解する。	
第26回	人生の最終段階における生活支援技術 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」をもとに、必要な生活支援技術について理解する。	
第27回	人生の最終段階の介護における多職種協働 人生の最終段階の介護において、看護師やリハビリテーション専門職等との多職種協働について理解する。	
第28回	実技試験に向けて（移動・衣服の着脱・排せつ介助等） 過去の介護福祉士国家試験問題（実技）をもとに、実技試験の内容や留意点について理解する。	
第29回	実技試験 実技試験を行い、良い点や改善点等を学生同士で指摘し合い、学びを深める。	
第30回	自立に向けた生活支援・まとめ 今まで学んだ生活支援技術に関する復習を、介護福祉士国家試験をもとに行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。
レポート	10	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。
小テスト	20	事例に沿った生活支援技術が実施できるか評価する（実技試験）
定期試験	60	授業の内容が理解できているか評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に演習形式で行い，各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び，実習室での実習で技術を修得していきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。 ・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち，緊張感を持って取り組んでください。 ・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し，利用者の尊厳の保持し，自立支援ができるようにしましょう。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 3．実技は「１回見た，１回した」だけでは身につきません。実習で実際に利用者支援をする際，不安のないようにしっかり練習してください。 4．実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく，根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかり守ってください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座 7　生活支援技術II		中央法規	978-4-8058-8396-9	2200
最新介護福祉士養成講座 6　生活支援技術I		中央法規	978-4-8058-8395-2	2200
使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	実習日は実習服，室内シューズを持参してください。 頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（２年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）の経験から、介護施設等の利用者に対して自立支援や尊厳の保持に配慮した生活支援技術に必要な知識と技術を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を十分説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を概ね説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、る尊厳の必要性をある程度説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と尊厳の必要性をあまり説明できない。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を説明できない。
知識・理解	2．利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることができる。	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることが十分できる	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることが概ねできる	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることがある程度できる	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることがあまりできない	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることができない
技能	1．応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が実践できる。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が正確に実践できる。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が概ね実践できる。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術がある程度実践できる。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術があまり実践できない。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が実践できない。
態度	1．講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に積極的に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と概ね協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生とある程度協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことがあまりできない。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことができない。

科目名	生活支援技術Ⅲ			授業番号	HW312	サブタイトル			
教員	韓 在郁								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	「生活支援技術III」では，障害や疾病のある人について，医学的・心理的側面から理解するとともに生活上の困り事を理解する。また，障害やしっぺいのある人の生活を支援するために介護福祉職が果たすべき役割を理解する。特に各障害や疾病の原因や症状をを学ぶことによって具体的な支援方法や内容を学ぶ。								
到達目標	(1)介護を必要とする人の障害や疾病内容を説明することができる。 (2)生活上の困りごとの観察ができる。 (3)障害や利用者の身体の状況に合わせた介護，環境整備について説明することができる。 (4)利用者がその人らしい生き方を継続する為にどのような支援が必要か説明することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは 障害や疾病とともに生活する人の背景について学び，生活支援を行う意義を理解する。	
第2回	肢体不自由に応じた介護１ 肢体不自由のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第3回	肢体不自由に応じた介護２ 肢体不自由のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第4回	視覚障害に応じた介護１ 視覚障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第5回	視覚障害に応じた介護２ 視覚障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第6回	聴覚・言語障害に応じた介護１ 聴覚・言語障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第7回	聴覚・言語障害に応じた介護２ 聴覚・言語障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第8回	重複障害（盲ろう）に応じた介護１ 重複障害（盲ろう）のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第9回	重複障害（盲ろう）に応じた介護２ 重複障害（盲ろう）のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第10回	心身機能障害に応じた介護１ 心身機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第11回	心身機能障害に応じた介護２ 心身機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第12回	呼吸器機能障害に応じた介護１ 呼吸器機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第13回	呼吸器機能障害に応じた介護２ 呼吸器機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第14回	腎臓機能障害に応じた介護１ 腎臓機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第15回	腎臓機能障害に応じた介護２ 腎臓機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	

第16回	膀胱・直腸機能障害に応じた介護 1 膀胱・直腸機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第17回	膀胱・直腸機能障害に応じた介護 2 膀胱・直腸機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第18回	小腸機能障害に応じた介護 1 小腸機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第19回	小腸機能障害に応じた介護 2 小腸機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第20回	高次脳機能障害に応じた介護 1 高次脳機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第21回	高次脳機能障害に応じた介護 2 高次脳機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第22回	発達障害に応じた介護 1 発達障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第23回	発達障害に応じた介護 2 発達障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第24回	筋委縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護 1 筋委縮性側索硬化症（ALS）のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第25回	筋委縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護 2 筋委縮性側索硬化症（ALS）のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第26回	パーキンソン病に応じた介護 1 パーキンソン病のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第27回	パーキンソン病に応じた介護 2 パーキンソン病のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第28回	悪性関節リウマチに応じた介護 1 悪性関節リウマチのある人の生活上の困りごとを理解する。	
第29回	悪性関節リウマチに応じた介護 2 悪性関節リウマチのある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第30回	演習（振り返り）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。
レポート	20	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。
小テスト	10	車椅子や身体部位の名称等の小テストにて評価します。
定期試験	50	授業の内容が理解できているか評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に障害や疾病の概要の基礎的知識を学び，その具体的な支援内容や支援方法を修得します。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 3．演習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく，根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかり守ってください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新・介護福祉士養成講座８　生活支援技術III	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-8397-6	2420（税込み）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし実践的能力が身につくように指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、説明できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、説明できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、説明できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、説明できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、説明できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、説明できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
技能	1．利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について説明できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが不十分である。
技能	2．障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について説明できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが不十分である。
技能	3．障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について説明できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。

科目名	総合生活学セミナーＫⅢ			授業番号	HW313	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	総合生活学セミナーKIIIは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。 各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習での学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。								
到達目標	標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。 また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。 (1)介護介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。 (3)実習を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。 (4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	訪問介護事業所の実習を終えて 訪問介護事業所の実習で学んだこと や気づいたこと等をパワーポイントにまとめる。	森田
第2回	訪問介護実習の振り返り・実習報告会 パワーポイントにまとめた、訪問介護事業所の実習で学んだこと や気づいたことを発表する。	森田，松井，中野，韓
第3回	訪問介護実習での（実習I-(2)B）実習まとめ パワーポイントでの発表に関する総評や改善点等を学生と共有する。	森田
第4回	介護実習I-(3)の意義と目的 地域密着型サービス（小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護）の意義と目的を理解する。	森田
第5回	地域密着型施設について 地域密着型の、高齢者が中重度の要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた自宅又は地域で生活を継続できるようにするため、身近な市町村で提供されるといった特色を理解する。	森田
第6回	認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護での実習準備 個人調査票や実習課題を作成する。	森田
第7回	地域密着型施設での実習を終えて 地域密着型施設の実習で学んだこと や気づいたこと等をパワーポイントにまとめる。	森田
第8回	地域密着型実習の振り返り・実習報告会 パワーポイントにまとめた内容を発表する。	森田，松井，中野，韓
第9回	施設・在宅での生活支援技術について 施設と在宅で行われる、生活支援技術の違いについて理解する。	森田
第10回	家族との連携・地域との連携 利用者により良い介護を提供するために必要な、家族・地域との連携の重要性について理解する。	森田
第11回	介護実習Iまとめ 通所サービス、障害サービス、訪問サービス、地域密着型サービスそれぞれの特色や違いについて理解する。	森田
第12回	実習IIのねらい・進め方 介護老人福祉施設・介護老人保健施設の特色について理解する。 遅出・早出・夜勤等、変則勤務について理解する。	森田
第13回	実習における介護過程の展開 介護実習Ⅱでは、対象利用者を1人選び、一連の介護過程を行う必要があることを理解する。	森田
第14回	実習IIにおける個別支援計画の作成 アセスメント（情報収集、情報の解釈関連付け統合化、課題抽出）、計画立案、実施、評価について理解しているか確認する。	森田
第15回	実習IIに向けて・まとめ 介護保険施設についてや変則勤務、一連の介護過程等、今までの実習との違いを中心に復習を行う。	森田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。
レポート	30	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。
パワーポイントを用いた発表	50	実習報告における発表内容について、内容・時間・質疑応答の受け答え等で評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・実習をスムースに進めるため，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。
授業外学修	1．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。 2．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。 3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 5．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	978-4-8058-5770-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を理解できる。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を十分理解できる。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を概ね理解できる。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をある程度理解できる。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をあまり理解できない。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解できず、実習生として必要な資質を理解できない。
知識・理解	2．利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を十分理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を概ね理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をある程度理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をあまり理解できない。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できない。
思考・問題解決能力	1．自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に十分努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に概ね努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にある程度努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にあまり努めることができない。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができない。
技能	1．高齢者と適切にかかわるために必要な能力が習得できる。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力が十分習得できる。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力が概ね習得できる。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力がある程度習得できる。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力があまり習得できない。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力が習得できない。
技能	2. 実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに十分まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに概ねまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにある程度まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することがあまりできない。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができない。
態度	1．実習のための課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習のための課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習のための課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	総合生活学セミナーＫⅣ			授業番号	HW314	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、松井　圭三、韓　在都、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	総合生活学セミナーKIVは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。 各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習での学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。								
到達目標	標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。 また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。 (1)介護介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。 (3)実習を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。 (4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	実習IIにおける介護過程の展開方法(1) 実習Ⅱで行う、対象利用者の決定・アセスメント・立案・実施・評価について理解する。	森田　松井　韓　中野
第2回	実習IIにおける介護過程の展開方法(2) 実習Ⅱで行う、対象利用者の決定・アセスメント・立案・実施・評価について理解する。	森田　松井　韓　中野
第3回	実習IIにおける記録について 実習記録について、利用者にとってより良い介護とは何かを考える考察について理解する。	森田　松井　韓　中野
第4回	実習IIの準備 個人調査票や実習目標等を作成する。	森田　松井　韓　中野
第5回	実習II（介護保険施設実習）を終えて 実習Ⅱで学んだことや反省点等をパワーポイントにまとめる。	森田　松井　韓　中野
第6回	自己評価と客観的評価 学生の自己評価と実習施設の客観的評価を照らし合わせて、自身の課題等を考える。	森田　松井　韓　中野
第7回	実習のまとめ パワーポイントで作成した資料をもとに、学生間で報告を行う。	森田　松井　韓　中野
第8回	学びの共有・深化 学生それぞれが、学んだことや反省点を共有し、話し合うことで深化させる。	森田　松井　韓　中野
第9回	自己の課題と展望 学生それぞれの課題を考え、それにどう向き合っていくかを考える。また、学生自身がどのような就職先を望むのか、将来どうなりたいか等を考える。	森田　松井　韓　中野
第10回	介護実践の研究 介護実習Ⅱで行った介護過程をもとに、介護研究を行う。	森田　松井　韓　中野
第11回	研究の意義と目的 ケアの質の向上等、介護研究の意義と目的について理解する。	森田　松井　韓　中野
第12回	研究方法の理解 ある具体的な事例について、それを詳しく調べ、分析・研究して、その背後にある原理や法則性などを究明し、一般的な法則・理論を発見するといった、事例研究の方法について理解する。	森田　松井　韓　中野
第13回	倫理的配慮 研究する際に研究者が責任をもって守るべきルールと、行うべき配慮について理解する。	森田　松井　韓　中野
第14回	研究内容の発表 事例研究内容について、パワーポイントを使用して発表を行う。	森田　松井　韓　中野
第15回	研究内容の発表 事例研究内容について、パワーポイントを使用して発表を行う。	森田　松井　韓　中野
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。
レポート	30	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。
小テスト		
介護研究発表	50	発表内容や発表時間、質疑応答の内容等で評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・実習をスムーズに進めるため，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・実習に必要な姿勢・言葉等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。
授業外学修	1．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。 2．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。 3．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 4．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 5．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	978-4-8058-5770-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．利用者の全体像をＩＣＦの視点から捉え、理解できる。	利用者の全体像をＩＣＦの視点から捉え、十分理解できる。	利用者の全体像をＩＣＦの視点から捉え、概ね理解できる。	利用者の全体像をＩＣＦの視点から捉え、ある程度理解できる。	利用者の全体像をあまり理解できない。	利用者の全体像を理解できない。
知識・理解	2．利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を十分理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を概ね理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をある程度理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をあまり理解できない。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できない。
思考・問題解決能力	1．自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に十分努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に概ね努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にある程度努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にあまり努めることができない。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができない。
技能	1．実習で行った一連の介護過程をもとに、事例研究を行うことができる。	実習で行った一連の介護過程をもとに、十分な事例研究を行うことができる。	実習で行った一連の介護過程をもとに、ある程度十分な事例研究を行うことができる。	実習で行った一連の介護過程をもとに、ある程度の事例研究を行うことができる。	実習で行った一連の介護過程をもとに、事例研究をあまり行うことができない。	実習で行った一連の介護過程をもとに、事例研究を行うことができない。
態度	1．実習のための課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習のための課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習のための課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	介護過程Ⅲ			授業番号	HW315	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	介護計画を立案して適切なサービスを提供するためには，ケアマネジメント過程の中で，多職種連携や社会資源などの利用によるチームアプローチが必要なことを学ぶ。 介護過程IIに引き続き，事例を通して介護過程の展開を実施し，介護実習で体験した事例を振り返りながら介護実践の評価の方法を学ぶ。介護過程の展開が適切に展開できることを目標とする。								
到達目標	(1)介護過程I，IIで学習した内容を活用し，介護過程の展開について説明することができる。 (2)様々な事例を通して適切な介護計画を立案する際に根拠に基づいた思考ができる。 (3)どのような利用者についても適切に介護過程を展開できる力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護過程の意義と目的 介護過程の意義と目的をしっかり把握することで根拠に基づいた介護の実践へとつながることの理解を深める。	
第2回	介護過程の視点 ＩＣＦの視点に基づく利用者の把握，尊厳を守るケアの実践，個別ケアの実施，根拠に基づく介護の実践と的確な記録の理解を深める。	
第3回	介護過程の4つのプロセス 介護過程の「アセスメント」，「計画の立案」，「実施」，「評価」の４つのプロセスの理解を深める。	
第4回	介護過程の展開の理解１ 情報収集の方法についてICFの視点から学び，フェイスシート・ICFシートによる情報収集の方法の理解を深める。	
第5回	介護過程の展開の理解２ 情報の分析による解釈，関連付けの過程を，アセスメントシートに抽出する過程の理解を深める。	
第6回	介護過程の展開の理解３ 情報の解釈，関連付けした情報を，統合化による生活課題の明確化する過程の理解を深める。	
第7回	介護過程の展開の理解４ 利用者に寄り添う介護の実践のために，5W1Hの視点にもとづく計画立案（個別援助計画）の理解を深める。	
第8回	介護過程の展開の理解５ 援助内容と実践方法についてPDCAサイクルの視点とICFの視点から学び，利用者に寄り添った支援の理解を深める。	
第9回	介護過程の展開の理解６ 介護実践における経過記録の理解を深める。	
第10回	介護過程の展開の理解７ 介護実践による評価の意義と展開（評価の内容や項目，修正など）を理解する。	
第11回	介護過程の展開の理解８ 介護実践による評価の意義と展開（5W1HとICFの視点とPDCAサイクルの視点）を理解する。	
第12回	介護過程の展開の理解９ 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別援助計画との関連性，チームとして介護過程を展開することの意義や方法の理解を深める。	
第13回	介護過程の展開の理解10 個別の事例（介護老人保健施設の場合）を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる方法の理解を深める。	
第14回	介護過程の展開の理解11 個別の事例（介護老人保健施設の場合）を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる方法の理解を深める。	
第15回	介護過程の展開の理解12 個別の事例（介護老人保健施設の場合）を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる方法の理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的に授業に取り組めたか，提出状況，指導教員との質疑応答等を評価する
レポート（記録物）	30	記録シートの記入において根拠に基づく事例研究ができたか評価する
小テスト		
定期試験	50	介護過程の展開，ICFと介護計画の関連について理解の程度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	介護福祉士コースの1年間を学習して得た知識と介護実習の体験をもとに，介護現場でフルに活用できる専門的知識・技術を深める科目です。 介護福祉士は介護過程に沿った介護実践を行い，評価することで，自己を振り返り，新たな課題を発見することが日々の援助です。 常に問題意識を持って，探究する楽しさを感じ意欲的に取り組んでください。
授業外学修	1．この科目は事例をもとに対人援助の基本的な知識を学ぶことが目標です。 2．今までの学んできた知識や経験を活かしながら，対人援助についてより深い知識を重ねる，介護の集大成的な科目であることを理解してください。 3．授業中に行われるグループディスカッションに積極的に参加してください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護過程	介護福祉士養成講座　9	中央法規	978-4-8058-8398-3	2200円（税別）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	その他授業の中で参考図書を紹介します			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの高齢者施設や障害者施設での経験を活かし，介護現場の現状を伝えながら，基本的知識・技術を学習し，介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護過程の実践的展開について説明できる。	介護過程の実践的展開について、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の実践的展開について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程の実践的展開について、他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護過程の実践的展開について、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程の実践的展開について、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．介護過程の全体像を説明できる。	介護過程の全体像について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の全体像について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程の全体像について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護過程の全体像について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程の全体像について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりを説明できる。	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．介護過程におけるアセスメントの思考の流れを説明できる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．ICFの考え方を活用した情報収集の方法を説明できる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案ができる。	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案が利用者に適した計画にできている。	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案ができる。	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案がおおむねできている。	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案ができているが、分析や根拠が十分ではない。	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案が利用者の目線ではなく、情報収集や分析が不十分である。
技能	1．アセスメントの必要性について説明できる。	事例を通して、対象者の状態・状況に応じた情報収集の必要性についてわかりやすく説明でき、質問に対して的確に回答できる。また、事例の三つ以上の課題を的確に見つけ、優先順位をつけることができる。	事例を通して、対象者の状態・状況に応じた情報収集の必要性についてわかりやすく説明でき、質問に対して回答できる。また、事例の三つ以上の課題を見つけ、優先順位をつけることができる。	事例を通して、情報収集の必要性について説明でき、質問に対して回答できる。また、事例の三つ以上の課題を見つけることができる。	事例を通して、情報収集の必要性について説明できるが、質問に対しての回答が的確ではない。また、事例の課題を見つけることができるが不十分である。	事例を通して、情報収集の必要性について説明が不十分である。また、課題を見つけることができない。
技能	2．情報の分析・解釈・統合ができる。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を対象者の生活環境に合わせて的確に分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報の分析、解釈、統合が不十分である。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を整理している。
技能	3．介護過程とチームアプローチについて説明できる。	介護実践における情報共有の意義を理解し、情報管理ができ、他者に分かりやすく説明し、質問に対し明確に回答できる。	介護実践における情報共有の意義を理解し、他者にわかりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護実践における情報共有の意義を理解し、他者に説明し、質問に対し回答できる。	介護実践における情報共有の意義に対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護実践における情報共有の意義に対し、他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	介護実習Ⅰ－③			授業番号	HW316	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田 裕之、韓 在都、中野 ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。 本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。 介護実習Ⅰでは，個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。								
到達目標	(1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解できる。 (2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深めることができる。 (3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解できる。 (4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解できる。 (5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	実習Ⅰ−(3) 地域密着型施設（小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護） 1日8時間×10日間（80時間） 2年次5月の第4週～5週に実施 地域密着型施設における地域に根ざした介護サービスについて実習を行う。 【内容】 地域密着型施設の特徴・役割の理解，地域密着型施設での生活支援の理解，介護保険制度の理解， 介護過程の展開（アセスメント，計画の立案）生活支援技術の実践，サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。
レポート	25	実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	50（実習担当者25・教員25）	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。 (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。 (2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。 (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。 (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。 (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。 (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。
授業外学修	1．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。 2．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。 3．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。 4．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。 5．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。 また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。 以上の内容を，毎日1時間学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10 介護総合演習・介護実習		中央法規	978-4-8058-5770-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等） 介護実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた指導を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を十分に説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を概ね説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活をある程度説明することができる。	利用者の生活をあまり説明することができない。	利用者の生活を説明することができない。
知識・理解	2．地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを、理解できる。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを、十分に理解できる。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを、概ね理解できる。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを、ある程度理解できる。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れをあまり理解できない。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを理解できない。
思考・問題解決能力	1．実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとにある程度明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	明確な毎日の目標を立てる能力をあまり有していない。	明確な毎日の目標を立てる能力を有していない。
技能	1．高齢者にかかわり、話を聴き情報収集をすることができる。	高齢者や高齢者に積極的にかかわり、話を聴き情報収集をすることができる。	高齢者や高齢者にある程度積極的にかかわり、話を聴き情報収集をすることができる。	高齢者や高齢者にかかわり、話を聴き情報収集をすることができる。	高齢者や高齢者の話をあまり聴くことができず、情報収集をすることがあまりできない。	高齢者や高齢者の話を聴くことができず、情報収集をすることができない。
技能	2．自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察をある程度的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することがあまりできない。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができない。
態度	1．実習課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	医療的ケアⅠ			授業番号	HW317	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	4単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では医療を必要とする人の安全と生活を守るための基礎的知識を修得するための講義を行う。 「人間と社会」,「保健医療制度とチーム医療」,「安全な療養生活」,「清潔保持と感染」,「健康状態の保持」について説明する。								
到達目標	. 介護福祉士としての倫理的配慮ができ，必要な喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識・技術を習得することができる。 . 介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するために，必要な基本的知識を身につけることができる。 ・喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ必要な支援をい行うことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に資献する。								
授業計画　備考	本講義は厚生労働省の規定による基本研修によるものであり，講義時間50時間以上で構成されている。 授業計画（34回） ディスカッションとグループワークを行う。								

回	概要	担当
第1回	人間と社会 個人の尊厳・医療と介護の倫理・個人情報と守秘義務を理解する。	
第2回	人間と社会 医療的ケアを受ける利用者の対応・介護，看護の立場・生活支援を理解する。	
第3回	保健医療制度とチーム医療医療(1) 保健医療に関する諸制度・医行為に関する法律を理解する。	
第4回	保健医療制度とチーム医療医療(2) 喀痰吸引と経管栄養についての介護の連携を理解する。	
第5回	安全な療養生活(1) 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施・リスクマネージメントを理解する。	
第6回	安全な療養生活(2) ヒヤリハットとアクシデント・救急蘇生を理解する。	
第7回	安全な療養生活(3) AEDの実際と救急蘇生を理解する。	
第8回	清潔保持と感染予防(1) 標準予防策・手洗い・うがい・手指消毒等を理解する。	
第9回	清潔保持と感染予防(2) 職員の感染予防対策・生活環境を理解する。	
第10回	清潔保持と感染予防(3) 医療廃棄物の取り扱い方を理解する。	
第11回	健康状態の把握(1) 平常時の健康状態の把握・健康の観察法を理解する。	
第12回	健康状態の把握(2) バイタルサインの実際を理解する。	
第13回	健康状態の把握(3) バイタルサインの正常と異常を理解する。	
第14回	健康状態の把握(4) 急変時の把握とその対応・準備を理解する。	
第15回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(1) 呼吸器の解剖整理と呼吸のしくみとはたらきを理解する。	
第16回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(2) 呼吸の変化と呼吸のしくみとその働きを理解する。	
第17回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(3) 喀痰吸引とは何かを理解する。	
第18回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(4) 人工呼吸器装着者の留意点と吸引方法を理解する。	
第19回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(5) 子どもの吸引方法を理解する。	
第20回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(6) 利用者や家族の気持ちを理解する。	

第21回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(7) 呼吸器系の感染と予防を理解する。	
第22回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(8) 実施実施手順と留意点を理解する。	
第23回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(9) 喀痰吸引に伴うケアを理解する。	
第24回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(1) 消化器系の解剖整理としくみを理解する。	
第25回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(2) 消化器系の症状とそのはたらきを理解する。	
第26回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(3) 経管栄養とはを理解する。	
第27回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(4) 注入注入する内容についての知識を理解する。	
第28回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(5) 実施するうえでの留意点を理解する。	
第29回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(6) 子どもの経管栄養を理解する。	
第30回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(7) 緊急時の対応を理解する。	
第31回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(8) 実施手順の留意点を理解する。	
第32回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(9) 経管栄養に必要なケアを理解する。	
第33回	喀痰吸引や経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちを対応を理解する。	
第34回	急変・事故発生時の対応と報告・記録の必要性を理解する。 第1～34回の振り返りとまとめを行う。	
第35回		
第36回		
第37回		
第38回		
第39回		
第40回		
第41回		
第42回		
第43回		
第44回		
第45回		

授業計画 備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 なお大学評価により60点以上で単位認定とはなるが，厚生労働省の規定により，小テスト・定期試験共に9割以上を合格とする。
受講の心得	本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）で進めていきます。 また，各単元ごとに小テストを実施します。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座15医療的ケア	川井太加子他	中央法規出版	978-4-8058-8404-1	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を理解できている。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を十分に理解でき,具体的に説明することができている。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を理解でき説明することができている。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性の一部を理解できているが説明することは不十分である。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を一部理解出来ているが説明することはできない。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を全く理解できていない。
知識・理解	2．喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識・技術を習得することができるようになる。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全な実施方法や適切に行うための知識・技術の方法を具体的に説明することが出来ている。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全な実施方法や適切に行うための知識・技術の方法を説明することが出来ている。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全な実施方法や適切に行うための知識・技術の方法の一部を説明することが出来ている不十分なところもある。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全な実施方法や適切に行うための知識・技術の方法を少し説明することが出来ているが不十分である。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識・技術を習得する理解が全くされていない。
思考・問題解決能力	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するために，必要な基本的知識を身につけることができるようになる	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を見つけることができ、それに対応できる解決策を具体的に述べることができている。	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を見つけることができ、それに対応できる解決策を述べることができている。	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を一部見つけることができ、それに対応できる解決策を曖昧だが述べることができている。	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を一部見つけることができ、それに対応できる解決策を述べることはできない。	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を全く理解できない。
技能	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ必要な支援をい行うことが出来るようになる。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ、対象者への心理的支援の必要性を考えることができ、適切な声かけや支援方法を見出すことができる。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ、対象者への心理的支援の必要性を考えることができ、声かけや支援方法を見出すことができる。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ、対象者への心理的支援の必要性を考えることができるが、声かけや支援方法への内容は欠けている。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ、対象者への心理的支援の必要性の一部を考えることができるが、声かけや支援方法は考えることができていない。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることが全くできない。また、対象者への心理的支援の必要性や声かけや支援方法を考えることができない。
態度	1．介護福祉士として患者・利用者の安全に留意しながら対応する力が身についている。	介護福祉士として、患者・利用者の安全を最優先し、きめ細やかな配慮や危険の伴わない実施方法の力が身についている。	介護福祉士として、患者・利用者の安全を最優先し声かけ危険の伴わないや実施方法の力が身についている。	介護福祉士として患者・利用者の安全に配慮する声かけや実施内容にも留意しながら行っているが、やや危険性が感じられる。	介護福祉士として患者・利用者の安全に配慮する声かけなどは少しみられるが実施内容に危険が伴っている。	介護福祉士として患者・利用者の安全に対して全ての配慮に欠けている。

科目名	介護実習Ⅱ			授業番号	HW401	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田 裕之、韓 在都、中野 ひとみ								
単位数	5単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。 本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。 実習IIでは，個別ケアを行うために，個々の生活リズムや個性を理解し，利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成，実施，実施後の評価，計画の修正といった一連の介護過程を展開し，他科目で学習した知識や技術を総合して，具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。								
到達目標	(1)介護保険制度における入所施設の役割及び生活支援について理解できる。 (2)利用者・家族とのかかわりをおしてコミュニケーションを図り，個別に応じた生活支援技術について理解できる。 (3)対象利用者の個別ニーズを把握し，利用者の望む生活に向けた支援を展開できる。 (4)介護過程に取り組み，個別介護計画の立案・実践・評価・修正を行うことができる。 (5)介護過程の展開における他職種の役割と多職種協働について理解できる。 (6)介護理念・職業倫理について理解を深め，介護観を明確にすることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	実習II 高齢者入所施設（介護老人福祉施設・介護老人保健施設） 1日8時間×25日（200時間） 2年次後期 10月第3週～11月第2週に実施 介護施設において，対象利用者を決め，一連の介護過程を展開の実習を行なう。 【内容】 介護施設の特徴・役割の理解，介護施設での生活支援の理解，介護保険制度の理解，生活支援技術の実践， 中間の振り返り，介護過程の展開（アセスメント，計画の立案・実践・評価・再アセスメント）， サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習最終カンファレンス								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。
レポート	25	実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。特に介護過程の展開内容の記録に重点を置いて評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	50（実習担当者25・教員25）	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限）の遵守を念頭において実習に望んでください。 (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。 (2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。 (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。 (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。 (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。 (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。
授業外学修	1．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。 2．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。 3．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。 4．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。 5．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。 また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。 以上の内容を，毎日1時間学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習		中央法規	978-4-8058-5770-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等） 介護実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	実習指導者（介護福祉士）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた指導を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を十分に説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を概ね説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活をある程度説明することができる。	利用者の生活をあまり説明することができない。	利用者の生活を説明することができない。
知識・理解	2．介護保険施設の業務内容や一日の流れを、理解できる。	介護保険施設の業務内容や一日の流れを、十分に理解できる。	介護保険施設の業務内容や一日の流れを、概ね理解できる。	介護保険施設の業務内容や一日の流れを、ある程度理解できる。	介護保険施設の業務内容や一日の流れをあまり理解できない。	介護保険施設の業務内容や一日の流れを理解できない。
思考・問題解決能力	1．実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとにある程度明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	明確な毎日の目標を立てる能力をあまり有していない。	明確な毎日の目標を立てる能力を有していない。
技能	1．高齢者にかかわり、一連の介護過程を行うことができる。	高齢者にかかわり、一連の介護過程を十分に行うことができる。	高齢者にかかわり、一連の介護過程を概ね行うことができる。	高齢者にかかわり、一連の介護過程をある程度行うことができる。	高齢者にかかわり、一連の介護過程をあまり行うことができない。	高齢者にかかわり、一連の介護過程を行うことができない。
技能	2．自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察をある程度的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することがあまりできない。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができない。
態度	1．実習課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	医療的ケアⅡ			授業番号	HW402	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本講義は，介護福祉士がその業務として喀痰吸引等の行為を実施するために必要な基礎知識について修得するための講義を行う。 喀痰吸引および経管栄養を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得し実践できるための講義を行う。								
到達目標	・介護福祉士として医療的ケアである「喀痰吸引」「経管栄養」の実施手順に基づき安全・適切に行うことができる。 ・医療的ケアを実施する手順・留意点を述べることができる。 ・喀痰吸引を安全・適切に実施することができる。 ・経管栄養を安全・適切に実施することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	本講義は，厚生労働省が規定する医療的ケアの基本研修であり省令で定める修得すべきすべての行為ごとの回数以上の演習を実施する。								

回	概要	担当
第1回	喀痰吸引の演習の進め方・注意事項などオリエンテーションを行う。	
第2回	喀痰吸引演習(1)（口腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。	
第3回	喀痰吸引演習(2)（口腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。	
第4回	喀痰吸引演習(3)（口腔） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第5回	喀痰吸引演習(4)（口腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。	
第6回	喀痰吸引演習(5)（鼻腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。	
第7回	喀痰吸引演習(6)（鼻腔） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第8回	喀痰吸引演習(7)（鼻腔） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第9回	喀痰吸引演習(8)（鼻腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。	
第10回	喀痰吸引実技確認試験（口腔）を行い，手技を理解する。	
第11回	喀痰吸引実技確認試験（鼻腔）を行い，手技を理解する。	
第12回	喀痰吸引演習(9)（気管カニューレ） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第13回	喀痰吸引演習(10)（気管カニューレ） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第14回	喀痰吸引演習(11)（気管カニューレ） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。	
第15回	喀痰吸引演習(12)（気管カニューレ） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。	

第16回	喀痰吸引実技確認試験（気管カニューレ）を行い，手技を理解する。	
第17回	喀痰吸引実技確認試験（気管カニューレ） 試験終了後，経管栄養法の演習の進め方・注意事項などオリエンテーションを行う。	
第18回	経経管栄養法演習(1)（胃ろう） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第19回	経管栄養法演習(2)（胃ろう） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第20回	経管栄養法演習(3)（胃ろう） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第21回	経管栄養法演習(4)（胃ろう） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第22回	経管栄養法演習(5)（経鼻） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第23回	経管栄養法演習(6)（経鼻） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第24回	経管栄養法演習(7)（経鼻） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第25回	経管栄養法演習(8)（経鼻） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。	
第26回	経管栄養法実技試験(1)（胃ろう）を行い，手技を理解する。	
第27回	経管栄養法実技試験(2)（経鼻）を行い，手技を理解する。	
第28回	経管栄養法実技試験(3)（胃ろう・経鼻）を行い，手技を理解する。	
第29回	緊急時の対応の仕方(1) 講義およびDVD学習を行い，手技を理解する。	
第30回	緊急時の対応の仕方(2) AEDの実際・演習を行い，その留意点を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	20	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	30	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	30	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，実技試験および|アクションペーパーを参考に総合的に評価する。 なお，大学評価により60点以上で単位認定とはなるが，厚生労働省の規定により，実技試験の8割以上を合格とする。 各単元ごとに技能修得判定を行う。なお，演習の修了が認められなかったものについては再度演習の課程を受講する必要がある。
受講の心得	本講義は実技演習をグループごとで進めていきます。 また，各単元ごとに小テストを実施します。 ・テキストの授業該当部分を読み復習を行うこと。 ・確実な実技の修得のため自己学修を行うこと。 ・演習は必ず指定された実習着，靴を着用すること。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.確実なる実技の修得に向けて練習を重ねること。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座15医療的ケア	川井太加子	中央法規出版	978-4-8058-8404-1	2200円
使用テキスト：自由記載	使用テキストとは別に演習時は「医療的ケア演習要綱」の冊子が必ず必要である。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	単元ごとの実技確認試験の後は，「リアクションシート」と「実習要綱」に必要事項を記載のうえ，試験終了後に速やかに提出すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員業務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．医療的ケアを実施する手順・留意点を述べることができている。	医療的ケアを実施する手順・留意点をチェックリストの通りに的確に述べることができている。	医療的ケアを実施する手順・留意点をチェックリストの通りにだいたい述べることができている。	医療的ケアを実施する手順・留意点をチェックリストの重要部分のみ述べることができている。	医療的ケアを実施する手順・留意点をチェックリスト重要部分が浮かぶが正確に述べることができていない。	医療的ケアを実施する手順・留意点を全く理解ができていない。
思考・問題解決能力	１．医療的ケアで起こる緊急の症状や事故防止について問題解決方法を考えることができている。	医療的ケアで起こる緊急の症状や事故防止がなぜ起きるのかその原因と問題解決方法や対応を的確に説明することができている。	医療的ケアで起きる緊急時の症状や事故は浮かび、問題解決方法や対応方法を説明できるが一部不十分である。	医療的ケアで起きる緊急時の症状や事故は浮かぶが問題解決方法は浮かぶが対応方法の説明内容が不十分で曖昧である。	医療的ケアで起きる緊急時の症状や事故は多少浮かぶが問題解決方法や対応まではわからない。	医療的ケアで起きる緊急の症状や事故がどのようなものか全く理解できていない。
技能	１．経管栄養を適切に実施することができるようになる。	手順に則り、正確に経管栄養を実施することができている。対象者への声かけはインフォームドコンセントになっているが、清潔操作が問題なくできている。	手順に則り、正確に経管栄養の実施ができている。対象者への声かけはインフォームドコンセントになっているが、清潔操作が一部不十分である。	こちら側の声かけなく、手順に則り、やや正確さに欠けるが経管栄養の実施は最後までできている。対象者への声かけがインフォームドコンセントになっておらず、また清潔操作が不十分である。	こちら側の声かけで何とか手順通り、経管栄養を行うことができるが最後まで適切に行えず全体的に不十分である。対象者への声かけや清潔操作は明らかに不十分である。	こちら側が声かけしても経管栄養の手順が全く理解できていない。象者への声かけや清潔操作は全く不十分である。
技能	２．喀痰吸引を適切に実施することができるようになる。	手順に則り、正確に喀痰吸引を実施することができている。対象者への声かけはインフォームドコンセントになっているが、清潔操作が問題なくできている。	手順に則り、正確に喀痰吸引の実施ができている。対象者への声かけはインフォームドコンセントになっているが、清潔操作が一部不十分である。	こちら側の声かけなく、手順に則り、やや正確さに欠けるが喀痰吸引の実施ができている。対象者への声かけがインフォームドコンセントになっておらず、また清潔操作が不十分である。	こちら側の声かけで何とか手順通り、喀痰吸引を行うことができるが全体的に不十分である。対象者への声かけや清潔操作は明らかに不十分である。	こちら側が声かけしても喀痰吸引の手順が全く理解出来ていない。者への声かけや清潔操作は全く不十分である。
態度	１．介護福祉士として患者・利用者の安全に留意しながら対応する力が身についている。	介護福祉士として、患者・利用者の安全を最優先し、きめ細やかな配慮や危険の伴わない実施方法の力が身についている。利用者・患者の安全安楽の確認や、医療的ケアに伴うリスク管理の重要性を考えることまでができている。	介護福祉士として、患者・利用者の安全を最優先し声かけ危険の伴わないや実施方法の力が身についている。しかし、医療的ケアに伴うリスク管理まで考えるところにまで到達できていない。	介護福祉士として患者・利用者の安全に配慮する声かけや実施内容にも留意しながら行っているが、やや危険性が感じられる。	介護福祉士として患者・利用者の安全に配慮する声かけなどは少しみられるが実施内容に危険が伴っている。	介護福祉士として患者・利用者の安全に対して全ての配慮に欠けている。

中国短期大学　保育学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
フレッシャーズセミナー	松井　みさ／山本　房子／福澤　惇也／藤井　裕士／荒谷　友里恵	1
日本語表現	又吉　里美	3
芸術	鳥越　亜矢	5
日本国憲法	俟野　英二	7
社会学	中田　周作	9
自然科学概論	岸　誠一	11
情報処理概論 1クラス	赤木　竜也	13
情報処理概論 2クラス	赤木　竜也	15
体育講義（全8回）	土田　豊	17
体育実技 1クラス	土田　豊	19
体育実技 2クラス	土田　豊	21
英語A 1クラス	高坂　勝彦	23
英語A 2クラス	高坂　勝彦	25
英語B	藤代　昇丈	27
保育者基礎演習	松井　みさ／土田　豊／平尾　太亮／鳥越　亜矢／山本　房子／福澤　惇也／清水　憲志／藤井　裕士／岡本　美幸／荒谷　友里恵／渡辺　ユリナ	29
教育原理	藤井　裕士	31
保育原理 1クラス	岡本　美幸	33
保育原理 2クラス	岡本　美幸	35
子ども家庭福祉	松井　圭三	37
社会福祉	松井　圭三	39
子ども家庭支援論	松井　圭三	41
社会的養護Ⅰ	松井　圭三	43
保育者論	山本　房子	45
教育心理学	平尾　太亮	47
子ども家庭支援の心理学	長櫓　涼子	49
子どもの理解と援助 1クラス	山本　房子	51
子どもの理解と援助 2クラス	山本　房子	53
子どもの保健	荒谷　友里恵	55
子どもの食と栄養A・B　1クラス	荻田　志津子	57
子どもの食と栄養A・B　2クラス	荻田　志津子	59
子どもの食と栄養B シラバス用	荻田　志津子	61
子どもの食と栄養B・A　1クラス	荻田　志津子	63
子どもの食と栄養B・A　2クラス	荻田　志津子	65
教育相談	藤井　裕士	67
子どもと防災（全8回）	山本　房子／福澤　惇也	69
教育・保育課程論	藤井　裕士	71
保育内容総論 1クラス	福澤　惇也	73
保育内容総論 2クラス	福澤　惇也	75
（保育内容）健康 1クラス	土田　豊	77
（保育内容）健康 2クラス	土田　豊	79
（保育内容）人間関係 1クラス	福澤　惇也	81
（保育内容）人間関係 2クラス	福澤　惇也	83
（保育内容）環境 1クラス	清水　憲志	85
（保育内容）環境 2クラス	清水　憲志	87
（保育内容）言葉 1クラス	山本　房子	89
（保育内容）言葉 2クラス	山本　房子	91
（保育内容）表現 1クラス	鳥越　亜矢／岡本　美幸	93
（保育内容）表現 2クラス	鳥越　亜矢／岡本　美幸	95
保育内容の理解と方法A 1クラス	鳥越　亜矢	97
保育内容の理解と方法A 2クラス	鳥越　亜矢	99
保育内容の理解と方法B 1クラス	鳥越　亜矢	101
保育内容の理解と方法B 2クラス	鳥越　亜矢	103
乳児保育Ⅰ	岡本　美幸	105
子どもの健康と安全 1クラス	荒谷　友里恵	107
子どもの健康と安全 2クラス	荒谷　友里恵	109
特別支援教育入門 1クラス	平尾　太亮	111
特別支援教育入門 2クラス	平尾　太亮	113
社会的養護Ⅱ 1クラス	津嶋　悟	115
社会的養護Ⅱ 2クラス	津嶋　悟	117
子育て支援 1クラス	平尾　太亮	119
子育て支援 2クラス	平尾　太亮	121
健康の指導法 1クラス	荒谷　友里恵	123
健康の指導法 2クラス	荒谷　友里恵	125
人間関係の指導法	岡本　美幸	127
環境の指導法 1クラス	清水　憲志	129
環境の指導法 2クラス	清水　憲志	131
言葉の指導法	福澤　惇也	133
表現の指導法	松井　みさ	135
教育・保育技術論 1クラス	鳥越　亜矢	137
教育・保育技術論 2クラス	鳥越　亜矢	139
音楽基礎演習A 1クラス	松井　みさ／河田　健二／渡辺　ユリナ／青木　彩絵子	141
音楽基礎演習A 2クラス	松井　みさ／河田　健二／渡辺　ユリナ／青木　彩絵子	143
音楽基礎演習B 1クラス	松井　みさ／河田　健二／渡辺　ユリナ／青木　彩絵子	145
音楽基礎演習B 2クラス	松井　みさ／河田　健二／渡辺　ユリナ／青木　彩絵子	147
保育内容の理解と方法C 1クラス	松井　みさ／土田　豊	149
保育内容の理解と方法C 2クラス	松井　みさ／土田　豊	151
乳児保育Ⅱ 1クラス	荒谷　友里恵	153
乳児保育Ⅱ 2クラス	荒谷　友里恵	155
親子ふれあい演習A	土田　豊／福澤　惇也／清水　憲志／渡辺　ユリナ	157
親子ふれあい演習B	土田　豊／山本　房子／福澤　惇也／藤井　裕士	159
音楽実践演習A 1クラス	松井　みさ／渡辺　ユリナ	161
音楽実践演習A 2クラス	松井　みさ／渡辺　ユリナ	163
音楽実践演習B 1クラス	松井　みさ／渡辺　ユリナ	165
音楽実践演習B 2クラス	松井　みさ／渡辺　ユリナ	167

保育者対話実践演習	藤井　裕士	・・・・・・・	169
保育教材および表現の研究	鳥越　亜矢	・・・・・・・	171
保育内容の理解と方法D	松井　みさ／土田　豊／鳥越　亜矢／岡本　美幸／渡辺　ユリナ	・・・・・・・	173
保育実習指導A 1クラス	平尾　太亮	・・・・・・・	175
保育実習指導A 2クラス	平尾　太亮	・・・・・・・	177
保育実習指導B 1クラス	清水　憲志	・・・・・・・	179
保育実習指導B 2クラス	清水　憲志	・・・・・・・	181
保育実習指導C 1クラス	清水　憲志	・・・・・・・	183
保育実習指導C 2クラス	清水　憲志	・・・・・・・	185
保育実習指導D	平尾　太亮	・・・・・・・	187
保育実習A	平尾　太亮／荒谷　友里恵	・・・・・・・	189
保育実習B	清水　憲志／岡本　美幸	・・・・・・・	191
保育実習C	清水　憲志／岡本　美幸	・・・・・・・	193
保育実習D	平尾　太亮	・・・・・・・	195
教育実習	山本　房子／福澤　惇也	・・・・・・・	197
教育実習指導 1クラス	山本　房子	・・・・・・・	199
教育実習指導 2クラス	山本　房子	・・・・・・・	201
保育･教職実践演習（幼稚園）1クラス	福澤　惇也／藤井　裕士／荒谷　友里恵	・・・・・・・	203
保育･教職実践演習（幼稚園）2クラス	福澤　惇也／藤井　裕士／荒谷　友里恵	・・・・・・・	205

科目名	フレッシャーズセミナー			授業番号	EA101	サブタイトル	(大学における学修方法を身につける)		
教員	松井　みさ、山本　房子、藤井　裕士、福澤　惇也、荒谷　友里恵								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	導入教育を目的として開講された本科目では，新入生が学生生活を有意義なものとするため，大学生として必要な勉学の進め方や，自立した生活の基礎を学ぶ。各種オリエンテーションや研修等の様々な活動を通じて，教職員と学生，学生相互のコミュニケーションを図る。								
到達目標	大学生として必要な勉学の進め方や自立した生活の基礎を学び実行できるようになる。また，教職員と学生，学生相互のコミュニケーションを図ることができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第１回　大学の魅力を知る（本学の理念，歴史，学科の目標，地域社会での役割など）。 第２回　大学のしくみを知る（履修の仕方，講義の受け方，レポートの書き方など）。 第３回　大学のしくみを知る（学生生活全般について）。 第４回　大学の施設を知る（図書館の利用）。 第５回　大学の施設を知る（情報処理センターの利用）。 第６回　協働の喜びを知る（学科行事，大学行事などを通じて）。 第７回　ボランティア活動の意義を知る。 第８・９回　　保育関係の進路を知る。 第10回　　先輩の体験談から学ぶ。 第11・12回　　地域の特色を知る。 第13回　ボランティア活動の進め方を知る。 第14・15回　　グループワーク「自分の進む道」を行う。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表への参加によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	毎時間学んだことを専用のファイルに綴じて，提出できる。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本科目の性質上，時間を変更して行う場合もあるので，各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。
授業外学修	課題の予習，復習を必ず行う。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし。 入学当初のガイダンスには，【学生手帳・授業概要】を持参すること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田豊）10年 ミュージックスクール講師（松井みさ）６年 保育士（岡本美幸）15年 保育士（清水憲志）8年 幼稚園教諭（山本房子）19年 幼稚園教諭（福澤惇也）1年 医療型障害児入所施設職員（平尾太亮）3年 特別支援学校（藤井裕士）14年 看護師(荒谷友里恵）10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育士や幼稚園教諭を目指す学生に，勤務経験を元にした説明をし，学生生活をより有意義なものにするための心掛けと具体的な行動を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．勉学の進め方について	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心に基づき、意欲的に調べたり、発言したり、十分に記述したりすることができる。	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心に基づき、意欲的に調べたり、発言したり、記述したりすることができる。	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心について、調べたり、発言したり、記述したりすることができる。	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心について調べたことをやや記述することができる。	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心について、調べたり、発言したり、記述したりすることができない。
態度	1．学生生活の基礎を構築する力	大学生活における自らの責任を自覚し、目標の実現に向けて毎回自己課題を見出し、その解決に向けた自分なりの結論を出すことができる。	大学生活における自らの責任を自覚し、目標の実現に向けて自己課題を見出し、その解決に向けた自分なりの結論を出すことができる。	大学生活における自らの責任を自覚し、目標の実現に向けて自己課題を見出すことができる。	大学生活における自らの責任を自覚しようとし、目標の実現に向けて取り組もうとするが、自己課題を見出すところまでには至らない。	大学生活における自らの責任を自覚しようとせず、目標の実現に向けて取り組もうとしないため、自己課題も見出すことができない。

科目名	日本語表現			授業番号	EA201	サブタイトル	(日本語の用字用語と言語表現について)		
教員	又吉 里美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義は，適切な日本語表現を身につけるべく実際に「書くこと」の演習をおこなう。また，表現活動のおもしろさを味わう。								
到達目標	1．適切な日本語表現を身につける。 2．日本語の仕組みや特徴について理解し，様々な種類の文章が書けるようになる。 3．表現活動に興味関心を持って取り組み，表現することの創意工夫の観点を理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	本講義では，適切な表現を考えたり，表現することの創意工夫を考えたりしながら，多様な種類の文章を実際に書いていく。 また，日本語の仕組みや特徴について，言語表現の工夫や効果を考えながら理解を深める。								

回	概要	担当
第1回	日本語表現の留意点＊文章を書くときに意識したいこと	
第2回	日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(1)―語・語彙＊類義語の使い分けについて考える	
第3回	日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(2)―語・語彙＊外来語の使用とその留意点について理解を深める	
第4回	日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(3)―語・語彙＊言語の位相（ことばのバリエーション）について理解を深める	
第5回	日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(4)―語・語彙＊敬語の理解を深める	
第6回	日本語表現の留意点＊ことばの使い分け(5)―語・語彙＊表現の広がり（表現のおもしろさを考える）について考える	
第7回	日本語表現の工夫と効果＊表記の表現性(1)―漢字・ひらがな・カタカナの表現性について考える	
第8回	日本語表現の工夫と効果＊表記の表現性(2)―当て字・ふりがななどの表記にみるレトリックについて考える	
第9回	日本語表現の工夫と効果＊ことばの仕組みと表現性―日本語の複数形のバリエーションと表現性について考える	
第10回	言語表現と文芸＊物語を創作する(1)―ショートショートから発想法を学ぶ	
第11回	言語表現と文芸＊物語の文体・構造を理解する―「羅生門」の分析をとおして理解を深める	
第12回	言語表現と文芸＊物語を創作する(2)―物語創作を通して学ぶ論理関係／分かりにくい文を直す(1)	
第13回	言語表現と文芸＊物語を創作する(3)―物語創作を通して学ぶレトリック／分かりにくい文を直す(2)	
第14回	言語表現と実用文＊手紙の形式と敬語について理解を深める／分かりにくい文を直す(3)	
第15回	学習のまとめ＊広告表現の特徴を見出す／分かりにくい文を直す(小テスト)	
授業計画 備考2	※状況により，授業内容を入れ替えることがあります。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予習課題，授業中の課題の取組・提出などの状況によって評価する。
レポート	50	レポート内容は，物語の創作，効果的な文章の特徴についてを中心とする。評価の観点は，(1)構成が整っていること，(2)適切な表現，効果的な表現を用いて作成していること，(3)適切な分量で書かれていることである。レポートについてはコメントを記入して返却したり，全体的に講評したりする。
小テスト	10	「分かりにくい文を直す」内容に関連したテストをする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・初回授業時に詳細を提示する。 ・電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。
授業外学修	1．予習として，課題に取り組むこと。 2．復習として，授業で学んだことを実践すること。 3．発展学習として，授業で紹介した参考文献（授業時に適宜紹介する）を読むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日本語の仕組みや特徴について理解している。	学習した日本語の仕組みや特徴などの知識について、適切に理解して、説明することができる。	学習した日本語の仕組みや特徴などの知識について、おおよそ理解して、説明することができる。	学習した日本語の仕組みや特徴などの知識について、部分的に理解して、説明することができる。	学習した日本語の仕組みや特徴などの知識について、説明することはできないが、キーワードを挙げることができる。	学習した日本語の仕組みや特徴などの知識について、全く説明することができない。
知識・理解	2．表現の効果について理解している。	学習した表現の効果について、適切に理解して、説明することができる。	学習した表現の効果について、おおよそ理解して、説明することができる。	学習した表現の効果について、部分的に理解して、説明することができる。	学習した表現の効果について、説明することはできないが、キーワードを挙げることができる。	学習した表現の効果について、全く説明することができない。
技能	1．適切な日本語表現で文章を書くことができる。	日本語の語句の意味を適切に理解して、適切な表記で文章を書くことができる。	日本語の語句の意味をある程度理解して、適切な表記で文章を書くことができる。	日本語の語句の意味をある程度理解して、おおよそ適切な表記で文章を書くことができる。	日本語の語句の意味の理解に適切さを欠くところがあるが、おおよそ適切な表記で文章を書くことができる。	日本語の語句の意味の理解に適切さを欠くところがあり、誤字脱字の多さも目立つ。
技能	2．様々な種類の文章を書くことができる。	様々な種類の文章の特徴を適切に踏まえて、文章を書くことができる。	様々な種類の文章の特徴をある程度踏まえて、文章を書くことができる。	様々な種類の文章の特徴を部分的に踏まえて、文章を書くことができる。	様々な種類の文章の特徴を部分的に踏まえることはできるが、あまり文章に反映することができない。	様々な種類の文章の特徴捉えた文章を書くことができない。
態度	1．表現活動に興味を持ち、文章を積極的に書くことができる。	適切な分量の文章を書くことができる。	ある程度の分量の文章を書くことができる。	適切な分量の半分程度の分量で文章を書くことができる。	適切な分量の1/4程度の分量で文章を書くことができる。	まとまった量の文章を書くことができない。
態度	2．表現活動に関心を持ち、創意工夫をして文章を書くことができる。	創造性に富み、様々な創意工夫を凝らした文章を書くことができる。	創造性を発揮して、様々な創意工夫を凝らした文章を書くことができる。	創造性をある程度発揮して、創意工夫をしようとしながら文章を書くことができる。	創造性に乏しいものの、創意工夫をしようとしながら文章を書くことができる。	創造性に富み、創意工夫を凝らした文章を書くことができない。

科目名	芸術			授業番号	EA202	サブタイトル	(アートに親しむ)		
教員	扇越　亜矢								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	アートカードなどを使った鑑賞ゲームや，スライドと対話を用いた作品鑑賞を行うほか，身近な環境の中に美を見出す活動や，作品制作と鑑賞活動を行う。								
到達目標	第一に，芸術作品の鑑賞や制作を通じ，時代，文化，社会情勢や市井の人々の暮らし，素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像すること。第二に，自分自身と他者のものの見方や考え方を意識すること。第三に，そこから心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えること。 この授業はディプロマ・ポリシーに掲げられた学士力のうち，（知識・理解）（思考・問題解決能力）の修得に貢献する。								
授業計画　備考	保育学科の学生が履修した場合，学外実習期間中は休講とし，別日に補講を行う。 芸術と結びつくものとして宗教（キリスト教・仏教）を取り上げる。 Visual thinking（VT）による鑑賞体験を繰り返し行う。そうすることにより，対象を見て，考え，話し，聞く行為を身に付け，アートという正解のない問いに興味を持って向き合う姿勢を養う。								

回	概要	担当
第1回	芸術（アート）について考える ワードマップ「アートといえば」「アートに必要なものは？」を行い、芸術（アート）について考える。 また，Visual thinking（VT）による鑑賞体験を行い，自他の見方や考え方や視点の違いに気付いたり，アートを見ることに新たな価値を見出す。 レポート課題：「あなたにとってアートとは・社会にとってアートとは・アートに必要なものは？」 このレポートは第15回目に続きを書く。	
第2回	アートカードゲーム「今日の気分は？」／Visual thinking（VT）による鑑賞体験 国立美術館で作成されたアートカードを用いてゲームを行うほか，考え，話し，聞く方法による鑑賞を通じて、アートに親しむ。 Visual thinking（VT）による鑑賞体験では，人物画や人物の作品を通して人は何を感じたり考えたりするか，自分たちの鑑賞中の対話を通して考える。	
第3回	アートゲーム：感想からたどる大原美術館の宝／芸術作品の価値を考える 保育学科2年生が鑑賞して記した感想を紹介し，どの作品かを当てるゲームを行う。 また，「芸術作品の価値」というタイトルで思いつく言葉を黒板に書きだし，その言葉に基づきながら芸術作品の価値ついて考える。	
第4回	アートカードゲーム（○×クイズ）／VT体験：太古からの芸術真似して学ぶ古代のアート１　縄文の技術体験 アートカードゲーム（○×クイズ）では代表者を決め、その代表者が選んだ1枚を複数の作品から探るアートゲームをする。その探り方は3つの質問で行う。但し，質問は〇または×で答えられるようにする。このようなルールに基づくことにより，対象をよく見ることを促されるとともに思考と言語表現の吟味を求められる。縄文の技術体験では，可能であれば精巧なレプリカを用意し，それを触ったり見たりしながら太古の人々の模様作りに挑戦し，土偶や土器づくりを行う。	
第5回	真似して学ぶ古代のアート２　縄文土器・土偶づくりと鑑賞 第4回目の続きを行い，出来上がった縄文土器・土偶の鑑賞を行う。	
第6回	アートカードゲーム「アートカードで物語を作る」／芸術作品の作り手について考える アートカードゲームではグループに分かれ，アートカードを3～4枚使い，その絵にあった言葉や短文を考え、さらにカードの順序性と言葉のつながりを意識してストーリー性も加味した物語を作り，発表する。また，芸術作品のニーズの点から作品の芸術の作り手について考える。	
第7回	アートカードゲーム「読み札かるた」／アートと結びつくもの　宗教編 アートカードゲーム「読み札かるた」では、自分なりの視点で作品解釈した結果をかるたの読み札として書きだす。それをお互いに当てることにより，言葉にされた感想から絵を探す楽しさや，自分にはない作品解釈や視点に気付く。アートと結びつくものでは建築に見られる宗教や地域性に焦点化してアートについて考える。	
第8回	アートの役割　宗教編（布教・信仰） 布教に果たすアートの役割，信仰におけるアートの役割について作品を見ながら考える。	
第9回	アートの役割　権力者編 王侯貴族・商人 の権力・権威・富の象徴（映え）として権力者に用いられるアート作品に費え知るとともに，それを生み出す アーティストのお金事情を知る。	
第10回	アートとアーティストを変えるもの―素材・技術・ニーズ DVD　世界・美の旅プルシャンブルーを視聴し，アート作品に不可欠な絵の具や市自体，素材による製作技法や描法，構図について，その歴史的変遷について考える。	
第11回	雑誌・紙屑からアートへの昇格―浮世絵 海を渡る浮世絵が西洋に衝撃を与えた状況を知り，刷りの魅力・構図の魅力について知る。	
第12回	身近な環境に美を見出す 建築廃材などを用いて自分なりの視点で環境を捉えて感性を発揮する。	
第13回	身近な環境を使ったフレームづくり 自分なりの感性や視点で素材の特徴を生かして制作する	
第14回	アートカードゲーム「作品のライブ中継」 他者による作品説明から想像してあらたに作品解釈をする。	
第15回	芸術と関わる―モアレ作品の体験／課題レポート：あなたにとってアートとは・社会にとってアートとは・アートに必要なものは？ 図書館に収蔵されている現代アート作品としての書籍を用いて，自分で生み出したモアレ作品を鑑賞する。 第1回目に書いたレポートの内容に対するセルフアンサーを行い，その内容を紹介しあう。また教師からの講評を聞く。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	毎回の振り返りの記録や発言・授業態度により評価する。記録については新たな知見の有無や，自分の考えが述べられていること。発言の評価基準は発言回数とともに，発言内容に他者の意見を反映したり，知識や記憶，経験に基づいた意見が述べられたりしている点を加点評価する。なお，授業内容と無関係な行為をしていた場合には減点評価する。
レポート	30	課題意識を持ち，具体的に述べていることを評価する。評価基準は到達目標や受講の心得に基づくほか，初回レポートと15回目レポートを比較して，芸術に対する考えの広がりや深まり等の変容があることを評価する。レポートのフィードバックについては提出後の授業中に総評として行う。
その他	30	課題趣旨の理解がみられることのほか，課題によっては素材や色，構成について吟味し丁寧に作成されていること，独創性などを作品の評価基準とする。返却する作品には各種確認印やコメントを添える等のフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中，作品を見て思ったことを主体的・積極的に発言するとともに，他者の発言に耳を傾け，自分の鑑賞や思考の手がかりとすること。製作に必要なものは自分で用意すること。 授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物に入れておくこと。ただし，情報検索や記録等を目的として使用を認める場合がある。
授業外学修	自分が興味を持った作家や作品，その歴史的・社会的背景について調べるなどして，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立美術館における対話型鑑賞体験ツアーのボランティア（12年）保育者や小学校教諭を対象にした対話型鑑賞を用いた美術鑑賞の研修講師（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	美術鑑賞に関するボランティア（12年）や研修講師（3年）の経験を生かして対話型鑑賞という方法による芸術作品の鑑賞を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	振り返りの記録や発言における新たな知見や，自分の考えの有無。	毎回の振り返りの記録や発言において、新たな知見や、自分の考えをが数多く示すことができる。	毎回の振り返りの記録や発言において、新たな知見や、自分の考えを示すことができる。	15回の授業のうち半分程度は、振り返りの記録や発言において、新たな知見や、自分の考考えを示すことができる。	15回の授業のうち1／３程度は、振り返りの記録や発言において、新たな知見や、自分の考えを示すことができる。	振り返りの記録や発言において、新たな知見も、自分の考えを示すこともできない。
思考・問題解決能力	１．振り返りの記録や発言における芸術とさまざまな物事とのかかわりに関する内容の多さ	毎回の授業で芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像できる。	15回の授業のうち半分程度は、芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像できる。	15回の授業のうち1／3程度は、芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを様々に想像できる。	芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりを多少は想像できる。	芸術作品の鑑賞や制作を通じ、時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩などと芸術とのかかわりをほとんど想像できない。
思考・問題解決能力	２．他者の考えを意識しながら考える個人や社会における芸術の意味	他者の見方や考え方を受容し、心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を多様かつ具体的に考えて、論じたり記述したりすることができる。	他者の見方や考え方を受容し、心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を具体的に考えて、論じたり記述したりすることができる。	他者の見方や考え方を意識しながら、心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えて、論じたり記述したりすることができる。	他者の見方や考え方を意識しながら、暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えて、論じたり記述したりすることができる。	他者の見方や考え方を意識することもなく、暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えて、論じたり記述したりすることができない。

科目名	日本国憲法			授業番号	EA203	サブタイトル	(身近な問題から憲法の役割を考える)		
教員	俣野 英二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえて概説する。Universal Passportにより章ごとに小テストの課題を課し、その基本原理の理解及び基礎知識の定着を確認する。 次に、基本原理等に関する憲法問題を発展学習として、学生が任意に選んだ課題解決に向けてグループで取り組む。そのグループで調査した内容をUniversal Passportで公開、講義でプレゼンして全体討議を行う。これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら，主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景及び相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うので、保育を取り巻く環境の変化など保育者に求められる幅広い知識の修得に資献する。また、グループや全体での討議を通じて、他者の有する異なる価値観や考えの存在を尊重しつつ協力して課題を解決する作業から、信頼される保育者に必要なやさしさや思いやりなど、豊かな人間性を育む基礎を身に付け、自他を尊重し、仲間との協調する態度の修得に資献する。さらに，身近な問題から主体的に問題の解決を思考する力の修得を通じて，保育を取り巻く環境の変化やより良い保育活動をしていくうえでの課題に適切に思考・判断し主体的に解決できる能力の修得に資献する。以上のようにこの科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた短期大学学士力の内容の＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に資献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス，憲法とは何か 1 学修の目標，評価方法などを説明する。 2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。	
第2回	国家機関としての天皇制 1 徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2 国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。	
第3回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義１―― 非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。	
第4回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義２―― 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。	
第5回	国民主権を実現する仕組み１ 政治と国民、国会議員について学修する。	
第6回	国民主権を実現する仕組み２ 選挙、選挙制度、政党について学修する。	
第7回	人権を守るための組織――統治機構１―― 国会、内閣について学修する。	
第8回	人権を守るための組織――統治機構２―― 地方自治、裁判所について学修する。	
第9回	良心をもつ自由、買く権利、中間試験 1 良心の意義について学修する。 2 教師の良心を買く権利について考える。 3 中間試験を実施する。	
第10回	表現の自由と書かれない権利 1 表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2 表現の自由の優越的地位について学修する。	
第11回	知る権利とマス・メディアの自由、グループワーク１ 1 知る権利とマス・メディアの自由について学修する。 2 マス・メディアと国民との利害対立の調整について考える。 3 グループワーク（課題選択）	
第12回	営業の自由と消費者の権利、グループワーク２ 1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 2 職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 3 グループワーク（課題分析）	
第13回	子どもの権利と学校における生徒の人権 1 学校における生徒、教師の人権について学ぶ。 2 グループワーク（情報収集、整理）	
第14回	働く人の権利、グループワーク４ 1 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 2 女性や非正規労働者の問題について考える。 3 グループワーク（全体討議１）	
第15回	グループワーク５ グループワーク（全体討議２）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	20	各回のグループワーク終了時に提出するワークシートに，要求されているステップに沿ったグループワークの結果が書かれていること。 不十分な点については、コメントを付して連絡する。
小テスト	20	各章の主要なポイントの理解を評価する。回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
中間テスト	20	憲法の基本原理及び基礎知識の理解及び課題に対する論理的思考を評価する。Universal Passportに解説を掲示し、全体の講評を講義で行う。
定期試験	40	中間テストの基礎に加え、異なる価値観・意見に配慮した主体的な意見の論理的思考を総合評価する。解説をUniversal Passportに掲示する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 2　第11回以降、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。講義時間中にスマートフォン、タブレットなどで法律情報をリサーチしたり、Universal Passportにワークシートや報告書をアップするので十分充電して講義に臨むこと。 3　中間（第9回）に１回中間テストがある。
授業外学修	1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 3　グループワークで選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループ報告書のまとめ、プレゼンテーションの準備に向け、共同作業のための事前準備を行う。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400円＋税
使用テキスト：自由記載	第2版の改訂作業中です。第2版が出版された場合、そちらを採用します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本判例１　憲法（第4版）	右崎正博･浦田一郎編	法学書院	978-4-587-52413-5	2500 円＋税
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権･同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権･同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，大体述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，全く表現することができない。
知識・理解	２．国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し，理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確にではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	２．多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観・意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観・意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
態度	１．グループワークに積極的に参加できる。	調査，質問などを積極的に行い，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し，課題内容を理解した上で，ワークシートを提出している。	グループワークに参加し，ワークシートを提出しているが，課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または，グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	社会学			授業番号	EA204	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。 理解の状況の確認を行う。 提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	2．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	3．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	1．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	自然科学概論			授業番号	EA205	サブタイトル	体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から，自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて，自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また，科学工作も行い，科学のおもしろさと不思議さを実感する。								
到達目標	私たちの身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識，科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	授業の中では，様々な測定装置，電気関係の測定機器や実験器具などを用いて，私たちの身のまわりの環境，自然科学について実測，体感しながら学びを深めていく。								

回	概要	担当
第1回	中国学園の庭で「幸せ」を探そう!? 四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさを体験し，自然の不思議さに気づくことの大切さを実感する。	
第2回	科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ 空き缶を斜めに立てる科学マジックを通して，力学の法則を理解する。	
第3回	電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 はんだ付けをしながら，電子オルゴールを製作し，半導体の構造・性質について理解する。	
第4回	高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック) 音を電気信号に変換するオシロスコープという測定器を使い，音を「見える化」しながら「音の3要素」の性質について理解を深める。	
第5回	スライムで遊ぼう!! 「光るスライム」づくりを通して，物質の分子構造について理解する。	
第6回	君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！ 高電圧の実験を通して，電気の性質を理解する。また，高電圧を使うイオンエンジンの模型を用いて飛行実験を行い，イオンエンジンの原理について理解する。	
第7回	地球温暖化のしくみ 二酸化炭素により，地表温度が上昇するしくみが分かる実験装置を活用して，地球温暖化のしくみを理解する。	
第8回	楽しいフィールドワーク 吉備の中山をグループで協力しながら歩き，自然に生息する動植物について理解を深める。	
第9回	流しそうめんの加速度を測定しよう！ 実際に流しそうめんをしながら，運動の法則の理解を深める。	
第10回	糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習 べっこう飴づくりを通して物質の分子構造について学ぶ。	
第11回	天然色素と酸アルカリの実験と実習 ムラサキキャベツから作る液体の色の反応から酸性・アルカリ性の水溶液の性質を理解する。また，最後に緑色の焼きそばを作る。	
第12回	光に関する基礎講座ならびに実験と実習 偏光フィルターを使った光の回折実験やレンズを使った光学実験を行いながら，光の性質について理解を深める。	
第13回	楽しい数学Ⅰ SPIの数的推理等就活に活用できる数学の解法について理解する。	
第14回	楽しい数学Ⅱ 速度，食塩水の濃度，確率など就活に活用できる数学の解法について理解する。	
第15回	まとめ 授業全体の振り返りと自然科学全般のトピックスについて解説する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，実験・実習・討議等への参加度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	野外学習等授業によっては，レポートを提出し，その内容について評価する。提出されたレポートについてはコメントをつけて返却する。
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。また，内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので，配付資料等は毎回，持参していただきたい（ノートに貼ることを推奨している）。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.Classroomで授業に関する情報提供を行うので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について十分に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について概ね理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について普通に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解がやや不十分である。	身のまわり，日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解できていない。
態度	1.身のまわりの自然現象に関心を持ち，科学的なものの考え方ができるようになる。	身のまわりの自然現象に強い関心を持ち，自ら自然に触れたりするなど積極的に自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち，自ら自然に触れたりするなど自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち，自然のことを調べるなどして科学的な考え方を身に着けている。	身のまわりの自然現象にあまり関心がなく，科学的なものの考え方も十分にできない。	身のまわりの自然現象に全く関心がなく，科学的なものの考え方も全く身についていない。

科目名	情報処理概論 1クラス			授業番号	EA206A	サブタイトル	(コンピュータの基礎知識)		
教員	赤木　竜也								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。なお，本授業は教職必修科目である。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。	
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データについて学習する。	
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。	
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。	
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。	
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。	
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。	
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。	
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。	
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。	
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。	
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。	
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。	
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。	
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。
定期試験	60	習熟達成度を評価する。
その他	10	授業中出題する演習問題について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスターWord&Excel2021（Windows11対応）	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．データの特性について理解している。	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに，適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	２．ビジネス文書について理解している。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し，時候の挨拶を適切に扱うことができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	３．表計算ソフトの関数および演算について理解している。	絶対参照・相対参照の違いを理解し，正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用，演算し，わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり，関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず，また正しく演算することができない。
知識・理解	４．グラフの特性について理解している。	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し，またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し，グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが，グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	１．正しくデータ入力をすることができる。	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	２．ソフトウェアを操作することができる。	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	情報処理概論 2クラス			授業番号	EA206B	サブタイトル	(コンピュータの基礎知識)		
教員	赤木 竜也								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。なお，本授業は教職必修科目である。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。	
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データについて学習する。	
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。	
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。	
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。	
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。	
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。	
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。	
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。	
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。	
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。	
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。	
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。	
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。	
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。
定期試験	60	習熟達成度を評価する。
その他	10	授業中出題する演習問題について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスターWord&Excel2021（Windows11対応）	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8	1100

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．データの特性について理解している。	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに，適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	２．ビジネス文書について理解している。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し，時候の挨拶を適切に扱うことができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	３．表計算ソフトの関数および演算について理解している。	絶対参照・相対参照の違いを理解し，正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用，演算し，わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり，関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず，また正しく演算することができない。
知識・理解	４．グラフの特性について理解している。	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し，またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し，グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが，グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	１．正しくデータ入力をすることができる。	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	２．ソフトウェアを操作することができる。	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	体育講義 (全8回)			授業番号	EA207	サブタイトル	(子どものからだと心の健康)		
教員	土田　豊								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また，セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し，対処法についても学びます。								
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて理解し，保育・教育の現場に出た際，子どもたちのからだと心の異変に気づき，適切に対処できる力を養うことを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているのかじっくりと考えます。	
第2回	「ホルモン」のはたらきについて考える 眠りのホルモンと呼ばれている「メラトニン」について，分泌の仕組みや働きについて考えます。	
第3回	「自律神経」のはたらきについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考えます。	
第4回	「土踏まず」のはたらきについて考える 人間が，二足歩行する上で重要な働きをしている土踏まずについてじっくり考えます。	
第5回	「背筋力」のはたらきについて考える 土踏まず同様人間が，二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら考えます。	
第6回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること，健康診断では分からないことについて考えます。	
第7回	「前頭葉」のはたらきについて考える 人間の感情や記憶，想像力などの中枢である前頭葉の仕組みや育て方について考えます。	
第8回	「子どものからだと心を元気にする方法」について考える 30泊31日キャンプが，子どものからだと心を元気にする理由について映像も見ながら考えます。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況を評価する。毎回配布するワークシートに授業に沿った記録がされていたり，発表できたりすることを加点対象とする。
レポート	40	事前学習や授業で学んだことを踏まえ，自分自身の問題として具体的に述べていること。授業内容を理解し，具体的な事例として捉えられている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。
小テスト	30	全８回の授業内容を踏まえ，子どものからだと心の問題にどう対応していくかということについてのレポートを作成する。自分の考えが具体的に記述されている度合いに応じて，得点化する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1．「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，情報を収集すること。 2．各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 3．授業で学んだことを日常生活で実践したり，保育現場で見聞きした子どもの状態も想起しながら学習内容を深く理解すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その都度プリントを準備する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場や自然体験施設での経験を生かして，体の仕組みや健康を維持する方法などについて指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.人間のからだと心の仕組みの理解	人間のからだと心の仕組みや育ちについてメディア、文献等から情報取を集し、自分のからだと心の状態に重ね合わせて理解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや育ちについてメディア、文献等から情報取を集し、より深く理解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや育ちについてある程度理解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや育ちに興味を持つことができているが、理解したことの記述が不十分である。	人間のからだと心の仕組みや育ちについて理解できず、記述もできていない。
知識・理解	2.現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題についての理解	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題に興味や関心を持ち、文献やインターネットで調べ、解決方法についての自分の考えを記述することができている。	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について、文献やインターネットで調べ、より深く理解し、記述できている。	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題についてある程度理解し、記述できている。	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について関心を持つことができているが、理解したことの記述が不十分である。	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について理解できず、記述もできていない。
思考・問題解決能力	1.からだと心の問題の解決方法の模索	からだと心の問題に対する解決方法について複数の視点から考え、具体的な方法について発表することができる。	からだと心の問題に対する解決方法について複数の視点から考え、発表することができる。	からだと心の問題に対する解決方法について考え、発表することができる。	からだと心の問題に対する解決方法について考えることはできているが、発表に対して消極的である。	からだと心の問題に対する解決方法について考えることができず、発表することもできない。
思考・問題解決能力	2.子どもたちと接した経験の中での問題を把握と解決策の創造	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について深く考え、具体的な解決策を考え発言することができる。	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について深く考え、解決策を考え発言することができる。	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について考え、解決策を考え発言することができる。	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について考えることはできているが、解決策を考え、発言することが不十分である。	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について考え、発言することができない。
技能	からだと心を客観的に評価する方法の習得	からだと心を客観的に評価する方法について理解し、その方法の原理も含め十分習得できている。	からだと心を客観的に評価する方法について理解し、その方法を十分習得できている。	からだと心を客観的に評価する方法について理解し、ある程度その方法を習得できている。	からだと心を客観的に評価する方法に関心はあるものの、その方法が習得できていない。	からだと心を客観的に評価する方法に対する関心が低く、その方法も習得できていない。
態度	子どものからだと心の課題への向き合い方	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や深く考えた意見をほぼ毎回発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、毎回ではないが、自分なりの知見や深く考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図の理解はできているが、自分なりの知見や考えた意見を発表したり、記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できない。

科目名	体育実技 1クラス			授業番号	EA208A	サブタイトル	(適切な運動実践)		
教員	土田　豊								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し，チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	体力テスト グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。	
第2回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第3回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。	
第4回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第5回	バレーボールIV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第6回	バレーボールV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第8回	バドミントンII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第10回	バドミントンIV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第11回	バドミントンV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第12回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第13回	卓球II（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第14回	卓球Ⅲ（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第15回	卓球IV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し，練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また，メンバーに声を掛けたり，援助などができておれば加点対象とする。
レポート	20	各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し，コメント入力後返却する。
小テスト	30	バレーボールにおいては，トス，サーブの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。
授業外学修	１．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。 ２．各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭　10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での経験を生かして，日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるのに加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができている。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	２．各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
思考・問題解決能力	１．チームの課題に対する取り組み姿勢	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーと共に解決に向けて積極的に取り組むことができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーに提案することができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考えることができている。	チームの課題を見つけることはできているが、その解決策について考えることが不十分である。	チームの課題を見つけることができない。
技能	１．各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。
態度	１．グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	２．活動に取り組む意欲	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られ、自分だけでなく、みんなで楽しめる雰囲気作りができている。	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られ、場の雰囲気を盛り上げようとする態度も感じられる。	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られる。	特定の種目については、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られる。	体を動かすことに対して消極的で、活動に対する意欲が感じられない。

科目名	体育実技 2クラス			授業番号	EA208B	サブタイトル	(適切な運動実践)		
教員	土田　豊								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し，チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	体力テスト グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。	
第2回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第3回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。	
第4回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第5回	バレーボールIV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第6回	バレーボールV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第8回	バドミントンII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第10回	バドミントンIV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第11回	バドミントンV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
第12回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第13回	卓球II（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第14回	卓球Ⅲ（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第15回	卓球IV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し，ゲームに反映していきます。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し，練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また，メンバーに声を掛けたり，援助などができておれば加点対象とする。
レポート	20	各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し，コメント入力後返却する。
小テスト	30	バレーボールにおいては，トス，サーブの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。
授業外学修	１．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。 ２．各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭　10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での経験を生かして，日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるのに加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができている。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	２．各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
思考・問題解決能力	１．チームの課題に対する取り組み姿勢	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーと共に解決に向けて積極的に取り組むことができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーに提案することができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考えることができている。	チームの課題を見つけることはできているが、その解決策について考えることが不十分である。	チームの課題を見つけることができない。
技能	１．各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。
態度	１．グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	２．活動に取り組む意欲	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られ、自分だけでなく、みんなで楽しめる雰囲気作りができている。	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られ、場の雰囲気を盛り上げようとする態度も感じられる。	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られる。	特定の種目については、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られる。	体を動かすことに対して消極的で、活動に対する意欲が感じられない。

科目名	英語A 1クラス			授業番号	EA211A	サブタイトル	(保育の英語)		
教員	高坂 勝彦								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	グローバル人材を育成するため，多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での１年間を通して，使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。								
到達目標	外国人保護者や児童を支援できる人になれるよう，基礎的な語彙・文法事項を理解し，その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき，基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	SANSHUSHAの「保育の英語」に沿ってLesson 20まで進む（We will cover all the Ｌessons of "保育の英語" by SANSHUSHA								

回	概要	担当
第1回	・新学期 ・園の人々 ・園舎 ・登園 ・家族 ・室内あそび ・欠席の連絡 ・外あそび ・遊具などについての英語表現	
第2回	・園庭 ・けんか ・Grammar 1 ・昼食、献立表　などについての英語表現	
第3回	・着替え ・おはなし ・トイレ ・お昼寝　などについての英語表現	
第4回	・病気 ・身体の名称 ・緊急連絡などについての英語表現	
第5回	・行事の案内 ・電話連絡 ・運動会 ・動作などについての英語表現	
第6回	・散歩（１） ・地図 ・散歩（２） ・交通などについての英語表現	
第7回	・お絵かき ・お手紙かき ・Grammar 2 ・Grammar 3 ・雪の日 ・工作などについての英語表現	
第8回	・降園 ・お知らせ ・連絡帳 ・乳児室などについての英語表現	
第9回	・家庭調査書 ・園行事 ・園だよりなどについての英語表現	
第10回	・家庭調査書 ・怪我や病気についての英語表現	
第11回	・Lesson 1 ～ Lesson 5 の復習 ・Lesson 6 ～ Lesson 10の復習	
第12回	・Lesson 11 ～ Lesson 15 の復習 ・Lesson 16 ～ Lesson 20 の復習	
第13回	・テレビドラマや映画などを教材とした実用英語	
第14回	・テレビドラマや映画などを教材とした実用英語	
第15回	・テレビドラマや映画などを教材とした実用英語	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業をよく聴き、板書の答えを教科書に書き込む。音読もできている。
小テスト	50	レッスンが２つ終わるごとの２０問の単語テスト。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1．予習として，教科書本文に目を通し分からない単語をチェックしておく。 2．復習として，学習した単語や熟語を暗記し，英語表現を音読するなどして身につける。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育の英語	森田和子	三修社	978-4-384-33399-2	1，900円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	辞書を毎時間携帯すること。電子辞書でも構わない。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立高等学校英語科教諭・支援学校教諭(高坂勝彦)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校現場での経験を生かして，英語全般を教養として楽しく教える。また，実務経験を生かし，「保育の英語」を実践的に教える。(高坂勝彦)			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．将来の職場である保育園における園児、保護者との英語でのコミュニケーション力	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が90%できる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が80%できる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が70%できる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が50%にとどまる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が50%以下しかできない。
知識・理解	2．園児との遊び的な勉強の場面を理解し、英語で歌、手遊び、ビデオなどを使い指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い上手に指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使いかなり上手に指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い十分指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い自分なりに指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い十分指導することが難しい。

科目名	英語A 2クラス			授業番号	EA211B	サブタイトル	(保育の英語)		
教員	高坂 勝彦								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	グローバル人材を育成するため，多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での１年間を通して，使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。								
到達目標	外国人保護者や児童を支援できる人になれるよう，基礎的な語彙・文法事項を理解し，その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき，基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	SANSHUSHAの「保育の英語」に沿ってLesson 20まで進む（We will cover all the Ｌessons of "保育の英語" by SANSHUSHA								

回	概要	担当
第1回	・新学期 ・園の人々 ・園舎 ・登園 ・家族 ・室内あそび ・欠席の連絡 ・外あそび ・遊具などについての英語表現	
第2回	・園庭 ・けんか ・Grammar 1 ・昼食、献立表　などについての英語表現	
第3回	・着替え ・おはなし ・トイレ ・お昼寝　などについての英語表現	
第4回	・病気 ・身体の名称 ・緊急連絡などについての英語表現	
第5回	・行事の案内 ・電話連絡 ・運動会 ・動作などについての英語表現	
第6回	・散歩（１） ・地図 ・散歩（２） ・交通などについての英語表現	
第7回	・お絵かき ・お手紙かき ・Grammar 2 ・Grammar 3 ・雪の日 ・工作などについての英語表現	
第8回	・降園 ・お知らせ ・連絡帳 ・乳児室などについての英語表現	
第9回	・家庭調査書 ・園行事 ・園だよりなどについての英語表現	
第10回	・家庭調査書 ・怪我や病気についての英語表現	
第11回	・Lesson 1 ～ Lesson 5 の復習 ・Lesson 6 ～ Lesson 10の復習	
第12回	・Lesson 11 ～ Lesson 15 の復習 ・Lesson 16 ～ Lesson 20 の復習	
第13回	・テレビドラマや映画などを教材とした実用英語	
第14回	・テレビドラマや映画などを教材とした実用英語	
第15回	・テレビドラマや映画などを教材とした実用英語	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業をよく聴き、板書の答えを教科書に書き込む。音読もできている。
小テスト	50	レッスンが２つ終わるごとの２０問の単語テスト。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1．予習として，教科書本文に目を通し分からない単語をチェックしておく。 2．復習として，学習した単語や熟語を暗記し，英語表現を音読するなどして身につける。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育の英語	森田和子	三修社	978-4-384-33399-2	1，900円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	辞書を毎時間携帯すること。電子辞書でも構わない。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立高等学校英語科教諭・支援学校教諭(高坂勝彦)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での経験を生かして，英語全般を教養として楽しく教える。また，実務経験を生かし，「保育の英語」を実践的に教える。(高坂勝彦)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．将来の職場である保育園における園児、保護者との英語でのコミュニケーション力	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が90%できる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が80%できる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が70%できる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が50%にとどまる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が50%以下しかできない。
知識・理解	2．園児との遊び的な勉強の場面を理解し、英語で歌、手遊び、ビデオなどを使い指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い上手に指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使いかなり上手に指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い十分指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い自分なりに指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い十分指導することが難しい。

科目名	英語B			授業番号	EA212	サブタイトル	(英語を楽しみながら学ぼう)		
教員	藤代　昇丈								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英語の4技能の力を高めると同時に身近な話題についての英語を通して理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り 入れ，最終的には，社会的な話題について簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。 ・英語の４技能を駆使して情報を収集し発信できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Unit1 Goals in College Life 「充実した大学生活を送るには」という内容の英文を読み理解する。 語アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第2回	Unit2 Totoro Travels to Nepal 「ネパールでの国際交流の体験」という内容の英文を読み理解する。 文アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第3回	Unit3 Sightseeing in London 「国際観光都市ロンドン」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第4回	Unit4 Sushi 「世界に誇る和食文化」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第5回	Unit5 Fashion Trends 「ファッションを考える」という内容の英文を読み理解する。 弱形と強形について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第6回	Unit6 Shodo 「書道は昔の教養科目」という内容の英文を読み理解する。 音の同化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第7回	Unit7 The Mississippi River 「アメリカ最長の河」という内容の英文を読み理解する。 無声化と有音化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第8回	Unit8 Ocean Blue 「洞窟ダイビングの人気スポット」という内容の英文を読み理解する。 連結発音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第9回	Unit9 Studying Abroad及び到達度テスト 「留学する前に考えておくべきことは」という内容の英文を読み理解する。 音のリズムについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第10回	Unit10 The Northern Lights 「カナダのオーロラ観光」という内容の英文を読み理解する。 イントネーションについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第11回	Unit11 The Sound of the Saxophone 「サキソフォンの魅力的な音色」という内容の英文を読み理解する。 紛らわしい音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第12回	Unit12 Communication Tips 「良好な人間関係を築くには」という内容の英文を読み理解する。 半母音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第13回	Unit13 Seasonal Festivals(Sekku) 「9月9日は菊のお節句」という内容の英文を読み理解する。 英語らしい響き(日本語と英語の違い)について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第14回	Unit14 Electric Cars 「環境にやさしい車」という内容の英文を読み理解する。 数字の聞き取りについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第15回	Unit15 The Amazing Brain 及び到達度テスト 「驚異的な脳の働き」という内容の英文を読み理解する。 意味のまとまりで展開を予想して聞くについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Amazing Visions of the Future -Aspects of Human Activity- 国際社会への英語の扉ーインプットからアウトプットで学ぶ四技能ー	伊関田洋之，赤塚麻里，土 井峨，梶浦眞由美，マリキ ットG.マナラング，室淳子	南雲堂	9784523178880	1900
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)・県総合教育センター(４年)・県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.よく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.様々なテーマについて知識を得ることができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，自ら調べ，英文で紹介したり，発表することができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，まとめることができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について，講義を通して関心をもって議論することができる。	テキストの英文の内容の理解にとどまり，テーマとなっている世の中の出来事について自ら知ろうとしない。	テキストの英文内容のみならず，テーマとなっている世の中の出来事について，全く関心を持たない。

科目名	保育者基礎演習			授業番号	EB101	サブタイトル			
教員	土田　豊、松井　みさ、鳥越　亜矢、平尾　太亮、山本　房子、岡本　美幸、藤井　裕士、清水　憲志、福澤　惇也、荒谷　友里恵、渡辺　ユリナ								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	保育学科の実習（施設・保育所・幼稚園）では，乳幼児や障がい児（者）だけでなく教職員との人間関係が基礎となる。そこで，各実習に先駆けて，それらに共通する自己理解と他者理解・コミュニケーション技術・保育技術・保育現場の実際について，演習や見学などを通して体験的に学んでいく。10人程度を1グループとし，オムニバス形式で以下の内容を網羅する。								
到達目標	保育者としての心豊かな人間性や自主学習力，人間関係を築く上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	グループを決める。ファイルを作成する。園見学の服装態度を学ぶ	担当：土`田 豊　松井 みさ　鳥越 亜矢　平尾 太亮　山本 房子　岡本美幸　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也　渡辺ユリナ
第2回	友達と一緒にふれあい遊びを体験する。	担当：土`田 豊　松井 みさ　鳥越 亜矢　平尾 太亮　山本 房子　岡本美幸　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也　渡辺ユリナ
第3回	造形活動を通した仲間づくりを体験する。	担当：土`田 豊　松井 みさ　鳥越 亜矢　平尾 太亮　山本 房子　岡本美幸　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也　渡辺ユリナ
第4回	会話表現のし方を学ぶ（保育者として聞き取りやすい話し方の基本，あいさつ，敬語の使い方など）。	担当：鳥越 亜矢
第5回	生活者としてのたしなみを学ぶ。	担当：荒谷友里恵
第6回	リズム楽器の奏法と音楽リズムを学ぶ。	担当：松井みさ
第7回	歌唱を通して発声を学ぶ。	担当：渡辺ユリナ
第8回	こども園で3歳未満児の生活を観察する。	担当：福澤惇也
第9回	絵本のおもしろさを体験する。	担当：清水憲志
第10回	実習やボランティアで身に付ける名札をつくる。	担当：岡本美幸
第11回	ネイチャーゲームを体験する。	担当：土`田豊
第12回	施設の生活を知る（施設の生活を理解し，支援方法を学ぶ）。	担当：平尾太亮
第13回	手話でコミュニケーションしよう。	担当：藤井裕士
第14回	こども園で3歳以上児と触れ合う。	担当：山本房子
第15回	保育者基礎演習を通して学んだことをグループメンバーと共有する。	担当：土`田 豊　松井 みさ　鳥越 亜矢　平尾 太亮　山本 房子　岡本美幸　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也　渡辺ユリナ
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度、討議への参加状況を評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	毎回，振り返りシートに学んだことをまとめて提出でき，15回目にすべてをファイルに綴じて提出できるかを評価する。振り返りシートについては，授業者が押印して返却する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育者（保育士･幼稚園教諭）を目指す者は，必ず受講すること。
授業外学修	以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田豊）10年 ミュージックスクール講師（松井みさ）6年 保育士（岡本美幸）15年 保育士（清水恵志）8年 幼稚園教諭（山本房子）19年 幼稚園教諭（福澤惇也）1年 医療型障害児入所施設職員（平尾太亮）3年 特別支援学校（藤井裕士）14年 看護師(荒谷友里恵）10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育士や幼稚園教諭を目指す学生に各教員が勤務経験を元にした説明をし，学生生活をより有意義なものにするための心掛けと具体的な行動を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．テーマの理解	グループ全員がテーマについて様々な視点から考察し、テーマの理解を深める意見を活発に交換することができる。	グループ全員がテーマについて考察し、テーマの理解を深める意見を活発に交換することができる。	グループ全員がテーマについて考察し、テーマの理解を深める意見を交換することができる。	グループ内でテーマについて考察し、テーマの理解につながる意見を交換することができる。	グループ内の多くがテーマについて考察できず、テーマの理解につながる意見を交換することができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	テーマに興味を持ち、問題点を調べ、一人一人が具体的な意見を出し合い、課題をまとめることができる。	テーマに興味を持ち、問題点を調べ、一人一人が意見を出し合い、課題をまとめることができる。	テーマに興味を持ち、問題点を調べ、意見を出して、課題をまとめることができる。	テーマに興味を持ち、問題点を調べ、意見を出して、課題をほぼまとめることができる。	テーマに興味を持てず、問題点を調べたり、意見を出したりして、課題をまとめることができない。
態度	1．グループ活動での行動	一人一人が責任をもって活動内容の理解に努めており、グループ内の他メンバーに対しても理解を深め、他者の発言や意見を十分受容して行動することができる。	一人一人が責任をもって活動内容の理解に努めており、グループ内の他メンバーに対しても理解を深め、他者の発言や意見を受容して行動することができる。	一人一人が活動内容の理解に努めており、グループ内の他メンバーに対しても理解を深めようとして、他者の発言や意見を受容して行動することができる。	多くのメンバーが活動内容の理解に努めようとしており、グループ内の他メンバーに対しても理解を深めようとして、他者の発言や意見を概ね受容して行動することができる。	多くのメンバーが活動内容の理解に努めようとしないうえ、グループ内の他メンバーに対しても理解を深めようとせず、他者の発言や意見を受容して行動することができない。
態度	2．課題への向き合い方	グループのメンバーそれぞれが互いの意見を尊重しあい、課題に前向きに取り組む。	グループのメンバーそれぞれが互いの意見を尊重しあい、課題に取り組む。	グループのメンバーそれぞれが互いの意見を聞き、課題に取り組む。	グループのメンバーの多くが互いの意見を聞き、課題に取り組む。	グループのメンバーが互いの意見を聞き、課題に取り組むことができない。

科目名	教育原理			授業番号	EC101	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などとの関わり，教育の思想と歴史的変遷，教育の制度，教育実践の取組，生涯学習社会における教育の現状と課題についての基本的な考え方や内容について，映像教材等を交えながら講義する。								
到達目標	教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などとの関わり，教育の思想と歴史的変遷，教育の制度，教育実践の取組，生涯学習社会における教育の現状と課題について理解を深めると共に，学修を通して自分なりの教育観をもつことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育の意義・目的（1）「どんな先生になりたいか」という問いのもと,自身の教育観を言語化する。	
第2回	教育の意義目的（2） 教育の意義・目的について理解する。	
第3回	乳幼児期の保育の教育の特性乳幼児期の発達や，幼児教育で育む「資質・能力」について理解する。	
第4回	教育と子ども家庭福祉の関連性児童福祉法や子育て支援等について理解する。	
第5回	人間形成と家庭・地域社会家庭，地域社会の変化する現状について理解する。	
第6回	諸外国の教育思想フレーベルやペスタロッチ等の諸外国の教育思想について理解する。	
第7回	学校教育の意義①「学校は必要か」という問いのもと,学校教育の意義について検討する。	
第8回	諸外国の教育の歴史諸外国における公教育の歴史について理解する。	
第9回	日本の教育思想・歴史及び,海外の教育思想国内や海外の教育思想や歴史を理解する。	
第10回	さまざまな教育実践①フレーベル理論に基づく教育について理解する。	
第11回	さまざまな教育実践②モンテッソーリ理論に基づく教育について理解する。	
第12回	さまざまな教育実践③シュタイナー教育について理解する。	
第13回	教育の意義の再考①映像教材をもとに,教育の意義について考える。	
第14回	教育の意義の再考② 映像教材をもとに,教育の意義について考える。	
第15回	教育にまつわる諸制度 教育に関する制度,法律を理解する。生涯学習の概念やこれからの教育政策について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度によって評価する。
小テスト	15	各回の主要なポイントの理解を，授業後に行う小テストにより評価する。小テストは採点し、次回の授業で返却を行う。
定期試験	55	最終的な理解度を評価する。
その他	15	発表や演習に対する意欲・態度によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2　発表や討議に積極的に取り組むこと。 3　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，テキストやノート，資料を読み直す。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新基本保育シリーズ2　教育原理	矢藤誠慈郎，北野幸子	中央法規	978-4-8058-5782-3	2200円（税込み）
使用テキスト：自由記載	テキストを中心に講義を進めていくため，講義の際には毎回テキストを持参すること。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校での経験（14年）から,乳幼児の発達，制度，教育実践等について具体例を交えながら説明を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育の基本的な意義と目的について深い理解を持ち,具体的な例を用いて説明できる。	教育の意義と目的について深い理解を示し,多様な教育現場での適用例を豊富に提供できる。	基本的な意義と目的を正確に理解し,一般的な例を用いて説明できる。	教育の意義と目的の基本を理解しているが,具体例の提供には限界がある。	意義と目的の理解が不完全で,適用例の説明が不十分。	教育の意義と目的についての基本的な理解が欠けている。
知識・理解	２．現代の教育実践における様々なアプローチとその理論的根拠を理解し,実際の教育現場での適用例を説明できる。	現代の教育実践とその理論的根拠を深く理解し,具体的な教育現場での適用例を示せる。	教育実践と理論の基本を理解し,標準的な教育現場で適用できる。	教育実践の基本的な理解はあるが,応用には課題がある。	教育実践への理解が不完全で,具体的な適用が困難。	教育実践に対する基本的な理解が欠如している。

科目名	保育原理 1クラス			授業番号	EC102A	サブタイトル			
教員	岡本 美幸								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	保育の意義及び目的について理解し,現在の保育実践がどのような子ども観や発達観,保育観を基礎として構築されてきたか,保育の思想や保育の歴史から解説する 保育所保育指針に書かれている内容を学び,理解を深めることを目指す。そのうえで,近年の保育制度や保育の動向にふれ,今後の保育のあり方を考察し,保育に対する関心を深めながら,自分なりの保育観をもてるようにする。								
到達目標	・保育の意義や 保育に関する法令及び制度を理解する。 ・保育所保育指針における保育の基本を踏まえ,保育目標や内容・方法を理解する。 ・保育の思想と歴史の変遷を理解し,これからの保育の現状や課題について理解する。 なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育の理念と概念 「保育とは」を,保育の社会的意義や諸法令等からみて保育の原理を理解する。	
第2回	保育の基本 (1) 保育実践の前提となる,子どもの最善の利益や発達観を理解する。	
第3回	保育の基本(2) 指針や教育・保育要領を比較し,その変遷や保育の目標・目的・ねらいについて理解する。	
第4回	保育の基本(3) 保育における養護と教育の意味,保育者に求められる専門性を理解する。	
第5回	保育思想とその歴史的変遷(1) 諸外国における保育の思想や歴史から保育を理解する。	
第6回	保育思想とその歴史的変遷(2) 江戸から明治期における日本の保育について理解する。	
第7回	保育思想とその歴史的変遷(3) 大正から昭和期における日本の保育について理解する。	
第8回	保育の方法 環境を通して行う保育,生活や遊びを通して総合的な行う保育について理解する。	
第9回	保育実践の基本的構造(1) 0～2歳ころの子どもの姿と保育の内容について理解する。	
第10回	保育実践の基本的構造(2) 3～6歳ころの子どもの姿と保育の内容について理解する。	
第11回	多様な子どもの育ちを支える保育 (個と集団への配慮) 健康および安全・食育・多様な子どもへの支援について理解する。	
第12回	保育の計画 計画 (全体的な計画と指導計画) および,その実践・記録・評価・改善の過程の循環の重要性を理解する。	
第13回	さまざまな子育て支援 保護者に対する支援や地域社会との連携の必要性について理解する。	
第14回	保育者の専門性 倫理観に裏付けられた子どもと向き合う保育者の専門性,保護者支援について理解する。	
第15回	日本の保育の現状と今日的課題及び総括 これまでの内容を総括した上で現状と課題を整理する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	グループワークを含めた授業への参加・貢献度,提出遅れ・受講態度も考慮し評価する。
レポート	20	授業振り返りレポート課題を踏まえ,その内容を共通理解できるように適宜授業内で解説する。
小テスト		
定期試験	60	授業全般の内容について,理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育における基本や歴史,現状と課題などに目を向け,一人一人のが子ども観や発達観,保育観を基礎を構築できるよう,積極的かつ自発的にしっかりと学ぶ姿勢で授業に取り組むこと。
授業外学修	・毎回,授業終了時に本授業における学びを確認するための,振り返りレポートを課す。 ・事前・事後学習として,テキストや配布資料の指定範囲を週あたり2時間以上の予習・復習すること。 ・課題提出は必ず行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂２版　Workで学ぶ保育原理	佐伯一弥･金 瑛珠 (編集)･佐伯一弥･金 瑛珠･鈴木彬子･髙橋優子(著)	わかば社	978-4-907-27047-6	1,870円
保育所保育指針解説	厚生労働省 (編集)	フレーベル館	978-4-577-81448-2	382円
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府 (著), 文部科学省 (著), 厚生労働省 (著)	フレーベル館	978-4-577-81449-9	385円
幼稚園教育要領解説	文部科学省 (著)	フレーベル館	978-4-577-81447-5	264円
使用テキスト：自由記載	その他,授業中に適宜資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ	中坪 史典		978-4-623-07685-7	3080
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士（15年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	保育士の経験（１５年）を活かして,具体的な事例を交えながら保育に対する関心を深め,自分なりの保育観をもてるように,授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．指針や教育・保育要領等の諸法令に記述する内容の理解	関係する法律などを知り、用語の意味をよく理解し、保育に活用できる。	関係する法律などを知り、用語の意味を理解し、保育に活用できる。	関係する法律などを知り、用語の意味を理解している。	関係する法律などを知り、用語の意味をあまり理解していない。	関係する法律などを知らず、用語の意味も理解していない。
知識・理解	２．保育思想や歴史、人物についての理解	歴史上の人物や様々な保育の方法をよく理解し、保育に活用できる。	歴史上の人物や様々な保育の方法をよく理解している。	歴史上の人物や様々な保育の方法を理解している。	歴史上の人物や様々な保育の方法をあまり理解していない。	歴史上の人物や様々な保育の方法を理解していない。
思考・問題解決能力	１．保育の基本をふまえた、子ども一人一人の発達に応じた援助及び環境構成	子どもの発達を理解し、環境構成をしたり、適切な援助ができたりして主体的に保育ができる。	子どもの発達を理解し、環境構成をしたり、適切な援助ができたりして保育ができる。	子どもの発達を理解し、環境構成をしたり、適切な援助ができたりして保育がおおむねできる。	子どもの発達を理解し、環境構成や適切な援助などの保育があまりできない。	子どもの発達を理解し、環境構成や適切な援助などの保育ができない。
思考・問題解決能力	２．発達を理解し、子ども達の遊びの意味を読み取る。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などがよく読み取れ、育ちにつなげられる。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などがよく読み取れる。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などが読み取れる。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などがあまり読み取れない。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などが読み取れない。
態度	１．授業に対する態度	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に進んで参加できる。また、グループの中での発言が前向きであり、様々な提案ができる。	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に進んで参加できる。また、グループの中で提案ができる。	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に参加できる。また、グループの中で提案ができる。	授業に対する姿勢は前向きであり、グループワーク等に参加できる。グループ内での提案はできにくい。	授業に集中できていない。グループワーク等に参加することができるが、グループ内での提案はできにくい。

科目名	保育原理 2クラス			授業番号	EC102B	サブタイトル			
教員	岡本 美幸								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	保育の意義及び目的について理解し,現在の保育実践がどのような子ども観や発達観,保育観を基礎として構築されてきたか,保育の思想や保育の歴史から解説する 保育所保育指針に書かれている内容を学び,理解を深めることを目指す。そのうえで,近年の保育制度や保育の動向にふれ,今後の保育のあり方を考察し,保育に対する関心を深めながら,自分なりの保育観をもてるようにする。								
到達目標	・保育の意義や 保育に関する法令及び制度を理解する。 ・保育所保育指針における保育の基本を踏まえ,保育目標や内容・方法を理解する。 ・保育の思想と歴史の変遷を理解し,これからの保育の現状や課題について理解する。 なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育の理念と概念 「保育とは」を,保育の社会的意義や諸法令等からみて保育の原理を理解する。	
第2回	保育の基本 (1) 保育実践の前提となる,子どもの最善の利益や発達観を理解する。	
第3回	保育の基本(2) 指針や教育・保育要領を比較し,その変遷や保育の目標・目的・ねらいについて理解する。	
第4回	保育の基本(3) 保育における養護と教育の意味,保育者に求められる専門性を理解する。	
第5回	保育思想とその歴史的変遷(1) 諸外国における保育の思想や歴史から保育を理解する。	
第6回	保育思想とその歴史的変遷(2) 江戸から明治期における日本の保育について理解する。	
第7回	保育思想とその歴史的変遷(3) 大正から昭和期における日本の保育について理解する。	
第8回	保育の方法 環境を通して行う保育,生活や遊びを通して総合的な行う保育について理解する。	
第9回	保育実践の基本的構造(1) 0～2歳ころの子どもの姿と保育の内容について理解する。	
第10回	保育実践の基本的構造(2) 3～6歳ころの子どもの姿と保育の内容について理解する。	
第11回	多様な子どもの育ちを支える保育 (個と集団への配慮) 健康および安全・食育・多様な子どもへの支援について理解する。	
第12回	保育の計画 計画 (全体的な計画と指導計画) および,その実践・記録・評価・改善の過程の循環の重要性を理解する。	
第13回	さまざまな子育て支援 保護者に対する支援や地域社会との連携の必要性について理解する。	
第14回	保育者の専門性 倫理観に裏付けられた子どもと向き合う保育者の専門性,保護者支援について理解する。	
第15回	日本の保育の現状と今日的課題及び総括 これまでの内容を総括した上で現状と課題を整理する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	グループワークを含めた授業への参加・貢献度,提出遅れ・受講態度も考慮し評価する。
レポート	20	授業振り返りレポート課題を踏まえ,その内容を共通理解できるように適宜授業内で解説する。
小テスト		
定期試験	60	授業全般の内容について,理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育における基本や歴史,現状と課題などに目を向け,一人一人のが子ども観や発達観,保育観を基礎を構築できるよう,積極的かつ自発的にしっかりと学ぶ姿勢で授業に取り組むこと。
授業外学修	・毎回,授業終了時に本授業における学びを確認するための,振り返りレポートを課す。 ・事前・事後学習として,テキストや配布資料の指定範囲を週あたり2時間以上の予習・復習すること。 ・課題提出は必ず行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂２版　Workで学ぶ保育原理	佐伯一弥･金 瑛珠 (編集)･佐伯一弥･金 瑛珠･鈴木彬子･髙橋優子(著)	わかば社	978-4-907-27047-6	1,870円
保育所保育指針解説	厚生労働省 (編集)	フレーベル館	978-4-577-81448-2	382円
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府 (著), 文部科学省 (著), 厚生労働省 (著)	フレーベル館	978-4-577-81449-9	385円
幼稚園教育要領解説	文部科学省 (著)	フレーベル館	978-4-577-81447-5	264円
使用テキスト：自由記載	その他,授業中に適宜資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ	中坪 史典		978-4-623-07685-7	3080
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士（15年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	保育士の経験（１５年）を活かして,具体的な事例を交えながら保育に対する関心を深め,自分なりの保育観をもてるように,授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．指針や教育・保育要領等の諸法令に記述する内容の理解	関係する法律などを知り、用語の意味をよく理解し、保育に活用できる。	関係する法律などを知り、用語の意味を理解し、保育に活用できる。	関係する法律などを知り、用語の意味を理解している。	関係する法律などを知り、用語の意味をあまり理解していない。	関係する法律などを知らず、用語の意味も理解していない。
知識・理解	２．保育思想や歴史、人物についての理解	歴史上の人物や様々な保育の方法をよく理解し、保育に活用できる。	歴史上の人物や様々な保育の方法をよく理解している。	歴史上の人物や様々な保育の方法を理解している。	歴史上の人物や様々な保育の方法をあまり理解していない。	歴史上の人物や様々な保育の方法を理解していない。
思考・問題解決能力	１．保育の基本をふまえた、子ども一人一人の発達に応じた援助及び環境構成	子どもの発達を理解し、環境構成をしたり、適切な援助ができたりして主体的に保育ができる。	子どもの発達を理解し、環境構成をしたり、適切な援助ができたりして保育ができる。	子どもの発達を理解し、環境構成をしたり、適切な援助ができたりして保育がおおむねできる。	子どもの発達を理解し、環境構成や適切な援助などの保育があまりできない。	子どもの発達を理解し、環境構成や適切な援助などの保育ができない。
思考・問題解決能力	２．発達を理解し、子ども達の遊びの意味を読み取る。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などがよく読み取れ、育ちにつなげられる。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などがよく読み取れる。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などが読み取れる。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などがあまり読み取れない。	子どもの発達を理解し、子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などが読み取れない。
態度	１．授業に対する態度	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に進んで参加できる。また、グループの中での発言が前向きであり、様々な提案ができる。	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に進んで参加できる。また、グループの中で提案ができる。	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に参加できる。また、グループの中で提案ができる。	授業に対する姿勢は前向きであり、グループワーク等に参加できる。グループ内での提案はできにくい。	授業に集中できていない。グループワーク等に参加することができるが、グループ内での提案はできにくい。

科目名	子ども家庭福祉			授業番号	EC201	サブタイトル	子ども家庭福祉とは何かを明らかにする。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義の目的は下記の通りである。 (1) 現代の日本社会における児童福祉問題を社会科学の視点より自ら考察できるようになること。 (2) 児童福祉に関する基礎的知識を習得すること。こうした基礎知識を活用し，児童福祉問題に関するレポートを作成できるようになること。 (3) 子ども家庭福祉の観点を学習すること。 (4) 児童福祉関連法を学習すること。								
到達目標	・児童福祉の実践能力を修得し，説明できる。 ・保育者として専門性を高めるための基本的知識を修得し，説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念のポイントを抑える。 子ども家庭福祉の理念、概念について学ぶ。	
第2回	子ども家庭福祉の歴史的変遷のポイントを抑える。 わが国の子ども家庭福祉の沿革について学習する。	
第3回	現代社会と子ども家庭福祉のポイントを抑える。 現代社会と子ども家庭福祉の現状と課題について学ぶ。	
第4回	子どもの人権擁護の歴史的変遷のポイントを抑える。 わが国の子どもの人権擁護の沿革について学ぶ。	
第5回	児童の権利に関する条約のポイントを抑える。 児童の権利に関する条約の概要について学ぶ。	
第6回	子どもの人権擁護と現代社会における課題のポイントを抑える。 わが国の人権擁護と現代社会の課題の現状について学ぶ。	
第7回	子ども家庭福祉の制度と法体系のポイントを抑える。 子ども家庭福祉に関係した法律、制度の概要について学ぶ。	
第8回	子ども家庭福祉の実施体系のポイントを抑える。 子ども家庭福祉の国、自治体の行政機関等について学ぶ。	
第9回	児童家庭福祉施設のポイントを抑える。 わが国の児童家庭福祉の施設の現状と課題について学ぶ。	
第10回	子ども家庭福祉の専門職のポイントを抑える。 子どもを取り巻く医療、保健、福祉の専門職の現状について学ぶ。	
第11回	少子化と地域子育て支援のポイントを抑える。 わが国の少子化と子育て支援の現状と課題について学ぶ。	
第12回	母子保健と子どもの健全育成のポイントを抑える。 母子保健と子ども健全育成とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第13回	子ども虐待・ＤＶとその防止のポイントを抑える。 DV、子ども虐待の現状と制度、課題等について学ぶ。	
第14回	障害のある子どもへの対応のポイントを抑える。 障害がある子どもの現状と制度、サービスについて学ぶ。	
第15回	貧困家庭，外国籍の子どもとその家族への対応，子ども家庭福祉の動向と課題のポイントを抑える。 子ども家庭福祉のの動向や展望、課題について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度。発表，グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。
レポート	10	レポート課題に対し的確に解答しているかについて評価する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・他教科と連動して考える力，専門的知識の応用力が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。 ・レポートの提出期限を遵守する。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では１単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子ども家庭福祉	小倉毅ほか	大学教育出版	978-4-86692-207-2	1800円
NIE子ども家庭福祉演習	今井慶宗ほか	大学教育出版社		2300円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義時に適宜紹介します。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども福祉制度を理解する。	子ども福祉制度をすべて理解できる。	子ども福祉制度を概ね理解できる。	子ども福祉制度を理解できる。	子ども福祉制度をほとんど理解できない。	子ども福祉制度を理解できない。
知識・理解	２．家庭福祉制度を理解する。	家庭福祉制度をすべて理解できる。	家庭福祉制度を概ね理解できる。	家庭福祉制度を理解できる。	家庭福祉制度をほとんど理解できない。	家庭福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	１．子ども本位の支援について理解する。	子ども本位のすべてを理解できる。	子ども本位を概ね理解できる。	子ども本位を理解できる。	子ども本位をほとんど理解できない。	子ども本位を理解できない。

科目名	社会福祉			授業番号	EC202	サブタイトル	広義の社会福祉の沿革、制度、サービスのポイントを抑える。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	社会福祉に関する基礎知識を学ぶことが本講の目的である。特に，社会福祉の歴史・法律・組織・制度・施設・技術・資格・課題・展望等を学ぶことを主眼としている。また，社会福祉は生きたものであるので社会福祉の動向についてもふれていく。具体的には，ゴールドプラン・新ゴールドプラン・エンジェルプラン・障害者プラン等今日の社会福祉政策や介護保険について言及する。ゆえに，社会福祉の基礎知識を学習すると言っても，そのメニューはきわめて多いので予習して授業に臨んでいただければと思う。 最後に，社会福祉関係に従事しようとするものは専門知識だけでなく倫理や哲学といった人格や人間性も重要になってくる。本講ではそのような観点から現代の社会福祉問題を取り上げ，自分ならどう考えるか，どのようにして援助していくかについても考察していく。								
到達目標	・現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得し，その概要が説明できる。 ・保育の専門性を高めるための社会福祉の専門的知識を修得し，その内容が説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	山陽新聞記者から4月，5月，6月，7月において各1回特別授業を受講する。「新聞とは何か」，「新聞記事の読む方」，「レポート，文章の書き方」，「プレゼンテーションの仕方」等について解説をする。また，新聞を3か月分使用し，社会福祉関係の記事のスクラップや要約，感想等を事前に準備し，授業でグループワークを行う予定である。								

回	概要	担当
第1回	現代社会と社会福祉のポイントを抑える。 わが国の少子高齢社会の現状と課題について学習する。	
第2回	社会福祉の歴史のポイントを抑える。 イギリスの社会福祉の沿革とわが国の社会福祉の沿革のポイントについて学習する。	
第3回	社会福祉のしくみを抑える。 国や自治体の行政機関、社会福祉施設等について学習する。	
第4回	社会福祉援助技術のポイントを抑える。 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等の社会福祉方法論について学ぶ。	
第5回	社会福祉に働く人々のポイントを抑える。 医療、保健、福祉の専門職の現状について学習する。	
第6回	生活保護のポイントを抑える。 「生活保護法」、「生活困窮者自立支援法」の概要について学ぶ。	
第7回	児童家庭福祉のポイントを抑える。 児童家庭福祉の現状、制度、課題について学ぶ。	
第8回	障害者保健福祉のポイントを抑える。 障害者保健福祉の制度、サービスについて学ぶ。	
第9回	高齢者保健福祉のポイントを抑える。 高齢者保健福祉サービスの制度について学ぶ。	
第10回	母子保健福祉のポイントを抑える。 母子保健福祉サービスの制度について学ぶ。	
第11回	地域福祉のポイントを抑える。 地域福祉とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第12回	医療保健福祉のポイントを抑える。 医療保健福祉とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第13回	国際福祉のポイントを抑える。 国際福祉とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第14回	これからの社会福祉のポイントを抑える。 今後の社会福祉の動向や今後の展望について学ぶ。	
第15回	まとめ、社会福祉全体のポイントを抑える。 社会福祉全体を概観し、これまでの学習を総括する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。
レポート	10	レポート課題に的確に解答しているかどうかを評価する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本授業は講義形式とグループワーク討議を行います。 ・予習と授業中の積極的な参加を期待します。 ・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に参加してください。 ・レポートの提出期限を遵守する。 ・社会福祉の基礎知識を学習するといっても，そのメニューは極めて多いので予習して授業を受けること。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関する章節を読み，課題点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新聞教材費				6400円

使用テキスト：自由記載	新聞を教材に使用します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において，随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会福祉制度を理解する。	社会福祉制度をすべて理解できる。	社会福祉制度を概ね理解できる。	社会福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	1．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。

科目名	子ども家庭支援論			授業番号	EC203	サブタイトル	子ども家庭支援とは何かを明らかにする。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	家族，家庭の概念と子育て支援や関係機関，専門職の連携を学習する。また専門職倫理をもとに事例研究を行い，保育現場において必要な社会資源，制度，法律，サービス等の知識を習得する。								
到達目標	1．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し，説明できる。2．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し，説明できる。 3．子育て家庭に対する支援の体制について理解し，説明できる。4．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状，課題について理解し，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第１回 家族の意義と役割 第２回 家庭支援の必要性 第３回 現代の家庭における人間関係 第４回 地域社会の変容と家庭支援 第５回 保育と相談援助 第６回 男女共同参画社会とワークライフバランス 第７回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 第８回 子育て支援施策 第９回 保育所入所児童の家庭への支援 第10回 地域の子育て家庭への支援 第11回 子育て支援における関係機との連携 第12回 要保護児童および家庭に対する支援 第13回 多様な家族形態と子どもたちの育ち 第14回 結婚，家族の事例研究 第15回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。
レポート	10	レポート課題に的確に解答しているかについて評価する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。 ・レポート提出期限を遵守する。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本授業では，週1時間程度の授業外学習が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
NIE家庭支援演習	松井圭三他	大学教育出版	978-4-86429-501-7	2700円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
家庭支援論	松井圭三	大学教育出版		1800円

参考書：自由記載	必要に応じて紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本を理解できる。	子ども家庭支援の意義をすべてを理解できる。	子ども家庭支援の意義を概ね理解できる。	子ども家庭支援の意義を理解できる。	子ども家庭支援の意義をほとんど理解できない。	子ども家庭支援の意義を理解できない。
知識・理解	２．子ども家庭に対する支援の体制について理解できる。	子ども支援の体制をすべて理解できる。	子ども支援の体制を概ね理解できる。	子ども支援の体制を理解できる。	子ども支援の体制をほとんど理解できない。	子ども支援の体制を理解できない。
思考・問題解決能力	１．子育て家庭の現状と課題を理解できる。	子育て家庭の現状と課題をすべて理解できる。	子育て家庭の現状と課題を概ね理解できる。	子育て家庭の現状と課題を理解できる。	子育て家庭の現状と課題をほとんど理解できない。	子育て家庭の現状と課題を理解できない。

科目名	社会的養護Ⅰ			授業番号	EC204	サブタイトル	社会的養護とは何かについて明らかにする。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	社会的養護の意義と歴史的変遷，児童福祉や児童の権利擁護，社会的養護の制度や実施体系，児童の人権擁護及び自立支援等の現状と課題について学ぶ。								
到達目標	・社会的養護の歴史的変遷と現状の課題についての知識を獲得し，その内容が説明できる。 ・現代社会における社会的養護の果たす役割についての知識を獲得し，その内容が説明できる。 ・社会的養護の制度や実施体系についての知識を獲得し，その内容が説明できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会的養護の理念と概念のポイントを抑える。 社会的養護の理念、概念について概観する。	
第2回	社会的養護の歴史的変遷のポイントを抑える。 わが国の社会的養護の沿革について学ぶ。	
第3回	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護のポイントを抑える。 児童家庭福祉と社会的養護の関係について学ぶ。	
第4回	児童の権利擁護と社会的養護のポイントを抑える。 児童の権利擁護について概観する。	
第5回	社会的養護の制度と法体系のポイントを抑える。 社会的養護に関係した法律、制度等について学ぶ。	
第6回	社会的養護の仕組みと実施体系のポイントを抑える。 社会的養護における関係機関、児童福祉施設、サービス等について学ぶ。	
第7回	家庭養護と施設養護のポイントを抑える。 里親、特別養子縁組、乳児院、児童養護施設の概要について学ぶ。	
第8回	社会的養護における保育士等の倫理と責務のポイントを抑える。 社会的養護における保育士の役割について概観する。	
第9回	家庭養護と施設養護の基本原理のポイントを抑える。 家庭養護と施設養護の基本原理を概観する。	
第10回	家庭養護と施設養護の実際のポイントを抑える。 家庭養護、施設養護の事例について学ぶ。	
第11回	施設養護とソーシャルワークのポイントを抑える。 施設養護とソーシャルワークについて概観する。	
第12回	施設等の運営管理の現状と課題のポイントを抑える。 施設等の運営管理について概観する。	
第13回	倫理の確立のポイントを抑える。 福祉職の倫理、道徳について学ぶ。	
第14回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題のポイントを抑える。 虐待を受けた子供たちの現状と課題について学ぶ。	
第15回	社会的養護と地域福祉の現状と課題のポイントを抑える。 社会的養護と地域福祉の現状と課題について概観する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート	30	社会的養護を支える専門職の，各施設における設置基準と意義について論じることができる。
小テスト		
定期試験	50	全講義終了後，社会的養護における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，社会的養護に関わる諸知識を復習すること。 2．教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
NIE社会的養護演習Ⅰ，Ⅱ	松井圭三他	大学教育出版	978-48669-21266	2200円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育福祉小六法	保育福祉小六法編集委員会	みらい	978-4-86015-473-8	1700円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員2年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司3年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	子どもや障害児の人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会的養護の歴史的変遷について理解する。	社会的養護の歴史的変遷をすべてを理解できる。	社会的養護の歴史的変遷を概ね理解できる。	社会的養護の歴史的変遷を理解できる。	社会的養護の歴史的変遷をほとんど理解できない。	社会的養護の歴史的変遷を理解できない。
知識・理解	2．社会的養護の役割について理解する。	社会的養護の役割をすべて理解できる。	社会的養護の役割を概ね理解できる。	社会的養護の役割を理解できる。	社会的養護の役割をほとんど理解できない。	社会的養護の役割を理解できない。
思考・問題解決能力	1．社会的養護の現状と課題を理解できる。	社会的養護の現状と課題をすべて理解できる。	社会的養護の現状と課題を概ね理解できる。	社会的養護の現状と課題を理解できる。	社会的養護の現状と課題をほとんど理解できない。	社会的養護の現状と課題を理解できない。

科目名	保育者論			授業番号	EC205	サブタイトル			
教員	山本　房子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	人格形成の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者の果たす役割は大きく，保育者の人間性や専門性の向上が求められる。そうした今日求められている保育者の役割や資質能力について学ぶとともに，学生が自らの課題を認識したうえで，保育者としての意欲や自覚を高めることを目標に講義する。								
到達目標	・保育者に求められる役割や資質能力を理解できる。 ・保育者の人間性や専門性について考察し，理解できる。 ・保育者の連携・協働の必要性について理解できる。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育者とは 保育者とはどのような人なのか，自身の目指す保育者，高めたい資質や能力について考える	
第2回	保育者になるための免許・資格について法律や法令をもとに学ぶ	
第3回	保育者の専門職倫理と職業倫理について学ぶ	
第4回	保育者の専門性について 保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資質能力について考える	
第5回	保育者の役割① 子どもの遊びにおける保育者の果たす役割について理解する	
第6回	保育者の役割② 環境を通した保育における保育者の果たす役割について理解する	
第7回	保育者の子どもの発達を捉える視点 保育者の子どもを見る視点について事例を通して学ぶとともに，自身の子どもを見る視点を意識する。	
第8回	保育及び保育者の質の向上のために何が必要なのか，事例をもとに考える ＮＣＴ（ノンコンタクトタイム）について理解する	
第9回	保育における協働とはどのようなことか，事例やＤＶＤ資料をもとに考える	
第10回	成長する保育者と同僚性について，同僚性の意味や重要性について学ぶ	
第11回	家庭や地域と連携・支援する保育者の役割について学ぶ	
第12回	保育者のキャリアとは 保育者のキャリア形成及び段階について理解するとともに，自身の保育者としてのキャリアプランについて考える	
第13回	現代の子どもたちの様子とその背景にある多様な要因について学ぶ	
第14回	保育者の歴史や欧米・日本の保育や幼児教育について学ぶ	
第15回	これからの保育者に求められること これまでの学修をふまえて，今後社会から求められる保育者像，自身が目指す保育者像について考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	課題に対し，授業の要点を押さえたうえで，自分の考えを分かりやすく記入できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。
定期試験	50	到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育者を志す学生として自覚をもって授業に取り組むこと。
授業外学修	・予習として，授業にかかわる視点について教科書の指定された部分を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，授業を振り返り，ノートの記入，配布物資料の整理をする。 ・発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい時代の保育者論	須藤　麻紀	教育情報出版		税込み2000円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤　惇也	ななみ書房	978-4-910973-06-7	税込み1200円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年)としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（19年）をもつ教員が，保育現場の実際を反映させた授業を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育者の役割に関する理解	保育者像や教師観の変遷を深く理解した上で,今日の保育者に求められる役割について具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者像や教師観の変遷を踏まえた上で,今日の保育者に求められる役割について具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者像や教師観の変遷を踏まえた上で,今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができにくい。
知識・理解	２．保育者の資質能力・専門性に関する理解	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について深く理解した上で,自身の課題と照らし合わせながら具体的かつ建設的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で,自身の課題と照らし合わせながら具体的かつ建設的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で,自身の課題と照らし合わせながら具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で,具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性についての理解が不十分で,説明もできにくい。
知識・理解	３．保育者の連携や協働の理解	保育者の連携や協働の重要性について深く理解し,課題等も明らかにした上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解し,課題等も明らかにした上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解した上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解した上で,具体的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性についての理解が不十分で,具体的に説明することができにくい。
知識・理解	４．保育者の資質向上やキャリア形成に関する理解	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について深く理解し,自身の資質向上やキャリア形成を想定した上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し,自身の資質向上やキャリア形成を想定した上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し,具体的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性についての理解が不十分で,具体的に説明することができにくい。
思考・問題解決能力	１．課題発見能力	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて明らかにするとともに,授業で得た情報をもとに自主的に探求することができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて,授業で得た情報をもとに明らかにすることができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて,授業で得た情報を整理して考えることができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて,授業で得た情報を整理することができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて,授業で得た情報を整理することができにくい。
技能	１．レポートの作成	課題に対し,授業内容を超えた自主的な学修が反映された内容が見られるとともに,論理的に記入することができる。	課題に対し,授業の要点を押さえたうえで,自分の考えを分かりやすく論理的に記入することができる。	課題に対し,授業の要点を押さえたうえで,自分の考えを分かりやすく具体的に記入することができる。	課題に対し,授業の要点を押さえたうえで,自分の考えを記入することができる。	課題に対し,授業の内容のみを記入している。
態度	１．受講態度	授業内容や課題の意図を十分理解し,自分なりの考えを分かりやすく発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を適切に理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが,自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず,自分なりの意見もない。
態度	２．グループ活動での言動	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかは十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかしか発揮していないが,目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらも発揮しておらず,目標や目的に向かって取り組むこともできていない。

科目名	教育心理学			授業番号	ED201	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	教育心理学の基本的な概念や理論への理解を深めるとともに，保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。								
到達目標	・教育心理学の基本的な概念や理論を知り，教育心理学についての知識を習得する。 ・心理学的な視点や考え方を，保育・教育の場面でいかせるようにする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育心理学とは？ 教育心理学の意義や目的について理解する。	
第2回	子どもの発達 ピアジェの発達理論等,発達に関する諸理論を参考に子どもの発達を理解することができる。	
第3回	大人の発達 ライフサイクル理論等，発達の諸理論を参考に大人の発達について理解することができる。	
第4回	学習とは？(1) 学習理論や動機づけについて理解することができる。	
第5回	学習とは？(2) 事例を通して、学習理論の実際について理解することができる。	
第6回	頭が良いとは？ 知能について，諸理論を参考に理解することができる。	
第7回	記憶力が良いとは？ 記憶の方法や忘却など諸理論を参考に記憶について理解することができる。	
第8回	性格とは？(1) 性格について，諸理論を参考に理解することができる。	
第9回	性格とは？(2) 自分の性格について知り,自己理解とともに他者理解を深めることができるようになる。	
第10回	集団とは？ 集団の力について理解し、保育現場における集団について考えることができるようになる。	
第11回	評価とアセスメント 評価とアセスメントについて，諸理論を参考に理解することができる。	
第12回	子どもの心の問題(1) 発達の課題や心身症など、子どもの発達を通してみられる心の問題について理解することができる。	
第13回	子どもの心の問題(2) 事例を通して、子どもの心の問題に理解を深めることができる。	
第14回	カウンセリングとは？ カウンセリング諸理論を通して、カウンセリングの実際に触れることができる。	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート		
小テスト	25	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回）課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験	55	全講義終了後，教育心理学における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気付きが得られるように，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，教育心理学に関わる基礎理論を復習すること。 2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	スクールカウンセラー（12年），医療型障害児入所施設職員（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	スクールカウンセラー（12年）でのカウンセリング業務を通して，子どもの性格や特性，集団に対してのアセスメントの方法や，子どもの心の問題，カウンセリングについて実例を交えながら教示する。 施設職員の経験（3年）では，生涯発達やライフサイクル，特別支援といった成長・発達に関する知見を伝える。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教育心理学に関する知識	教育心理学に関する具体的な知識を深く習得している。	教育心理学に関する具体的な知識を習得している。	教育心理学に関する知識を習得している。	教育心理学に関する知識の習得が不十分である。	教育心理学に関する知識が習得できていない。
態度	1.課題への取り組み	課題の意図を理解し、教育心理学の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。教育心理学の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。 自分の意見が記述できてない。
態度	2.グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。 グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。 もしくは グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	子ども家庭支援の心理学			授業番号	ED202	サブタイトル			
教員	長櫓 涼子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し，初期経験の重要性と獲得すべき発達課題等について理解する。また，家族・家庭の意義や機能を理解するとともに，親子関係や家族関係等について発達的な視点から理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。併せて，子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解を深める。さらに，子どもの精神保健とその課題についても考察しながら，生育環境が子どもに与える影響についての理解を深める。								
到達目標	1.生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し，初期経験の重要性や発達過程等を理解できる。 2.親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える観点を習得できる。 3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や，子どもの精神保健について学び，その課題を理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	生涯発達(1) 乳児期の発達 新生児期・乳児期／言葉の発達／アタッチメント	
第2回	生涯発達(2) 幼児期の発達 認知発達／言語発達／社会性の発達／自我の発達／初期経験の重要性／遊びの発達	
第3回	生涯発達(3) 学童期の発達 認知発達／社会性の発達／自己の発達／学童期の諸問題と教育支援	
第4回	生涯発達(4) 青年期の発達 身体の発達／認知発達／自己の発達／対人関係の変化／臨床的課題と支援	
第5回	生涯発達(5) 成人期・中年期の発達 職業キャリアの発達／結婚と子育て／中年期危機（自己・職業・家庭）	
第6回	生涯発達(6) 高齢期の発達 高齢期の心と体の発達／超高齢社会の高齢者／高齢者福祉（認知症対策）／支援・介護と世代間交流	
第7回	家族・家庭の理解(1) 意義の機能 家庭・親族・世帯とは／家族の定義・機能の変化／環境としての家庭／諸問題と支援	
第8回	家族・家庭の理解(2) 家族関係・親子関係の理解 家族のライフサイクル／家族・夫婦・親子の関係を理解する（ジェノグラム）／親子・家族支援	
第9回	家族・家庭の理解(3) 子育ての経験と親としての育ち 妊娠期間中の親／初めての子育てと親としての育ち／子育て支援と相談援助／諸問題と支援	
第10回	子育て家庭に関する現状と課題(1) 子育てを取り巻く社会的状況 晩婚化・非婚化／出産・子育てをめぐる社会的状況／要保護児童と家庭への支援	
第11回	子育て家庭に関する現状と課題(2) ライフコースと仕事・子育て 男女のライフコースの特徴／諸問題（性役割分業・男性の育児参加・ダブルケア）／親のライフコースにおける子育ての位置づけ	
第12回	子育て家庭に関する現状と課題(3) 多様な家庭とその理解 多様な家庭・家族について／子ども家庭を取り巻く様々な諸問題／多様な家族への支援	
第13回	子育て家庭に関する現状と課題(4) 特別な配慮を要する家庭 養育者のメンタルヘルス／子どもや家族の障害／不適切な養育・家族の機能不全／心理的な問題とケア	
第14回	子どもの精神保健と課題(1) 子どもの生活・生育環境とその影響 生育環境の諸問題／特殊な環境で育つ子どもへの支援・保護者サポート	
第15回	子どもの精神保健と課題(2) 子どもの心の健康にかかわる問題 心身の健康に関する諸問題／気になる子どもと発達障害	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，積極的なグループ討論と発表等によって評価する。
レポート	30	課題に対して適切な解答が得られていること。課題やレポートについては評価の後，返却する。
小テスト		
定期試験	50	課題を理解し，それについての見解が述べられていること。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業前後に教科書や配布資料を読み，理解を深めること。
授業外学修	下記の1～3の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 1.復習として，教科書を参考に，授業配布プリントや自作ノートをまとめ，学んだことを整理する。 2.予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読んで問題点を明らかにする。 3.発展学習として，教科書の各章のSTEP3を読み，保育や子育てを取巻く現代の最先端の知識や課題を把握する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新基本保育シリーズ(9)子ども家庭支援の心理学	白川佳子・福丸由佳	中央法規	978-4-8058-5789-2	2，000（税別）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業中に適宜紹介する。
その他	授業で配布するレジュメ，資料等をファイルするホルダーを用意すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	保育所の発達巡回指導員（5年）・小学校での児童特別支援事業における補助教員（4年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼児の発達巡回指導（５年）や小学校の児童特別支援事業での補助教員（４年）の経験を活かし，子どもの心身の発達とその特徴および健康面に配慮した支援について提示する。また保護者支援の在り方を考える。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．生涯発達に関する心理学の基礎知識の習得ができている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が90%以上できている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が80%程度できている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が70%程度できている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が60%程度できている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が60%未満である。
知識・理解	2．親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得ができている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が90%以上できている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が80%程度できている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が70%程度できている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が60%程度できている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が60%未満である。
知識・理解	3．子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題を理解できる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が90%以上できている。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が80%程度できている。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が70%程度できている。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が60%程度できている。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が60%未満である。
知識・理解	4．子どもの精神保健の知識を習得し、その課題を理解できる。	子どもの精神保健やその課題の理解が90%以上できている。	子どもの精神保健やその課題の理解が80%程度できている。	子どもの精神保健やその課題の理解が70%程度できている。	子どもの精神保健やその課題の理解が60%程度できている。	子どもの精神保健やその課題の理解が60%未満である。
思考・問題解決能力	1．生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力がある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が90%以上ある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が80%程度ある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が70%程度ある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が60%程度ある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が80%未満である。
思考・問題解決能力	2．親子関係や家族関係を発達的な視点で捉えて考えることができる。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が90%以上ある。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が80%程度ある。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が70%程度ある。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が60%程度ある。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が60%未満である。
思考・問題解決能力	3．子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力がある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が90%以上ある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が80%程度ある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が70%程度ある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が60%程度ある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が60%未満である。
思考・問題解決能力	4．子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力がある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が90%以上ある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が80%以上ある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が70%以上ある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が60%以上ある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が60%未満である。

科目名	子どもの理解と援助 1クラス			授業番号	ED203A	サブタイトル			
教員	山本　房子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育における子どもの理解の意義と重要性を踏まえた上で，子どもを理解する視点や方法を知る。また，保育者（保育士や幼稚園教諭等）が，子ども理解に基づき具体的にどのような援助や環境構成等を行っているのか，その基本について学ぶ。								
到達目標	・保育における子ども理解の意義や重要性を理解できる。 ・子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法について理解できる。 ・子ども理解を深めるための，保育者の姿勢や援助について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども理解とは，保育における子ども理解の意義や目的についてこれまでの経験をもとに考える	
第2回	子どもを理解するための保育者の姿勢や態度についてこれまでの経験をもとに考える	
第3回	子どもを理解する視点「子どもの生活・遊び」 保育者は，子どもの生活や遊びをどのようにデザインし子どもを理解しようとしているのか，その実際についてＤＶＤ資料から学ぶ	
第4回	子どもを理解する視点「集団の中での子ども」 保育者の集団へのかかわりと個へのかかわりについて，事例をもとに学ぶ	
第5回	子どもを理解する視点「トラブル」 トラブル場面の事例をもとに，発達段階によるトラブルのちがいや保育者の対応方法について学ぶ	
第6回	子どもを理解する視点「葛藤やつまずき」 葛藤場面の事例をもとに，子どもの内面や保育者の対応方法について学ぶ	
第7回	子どもを理解する方法「保育の環境の理解と構成」 事例をもとに，環境がもたらす子どもの言動及び育ちの違いについて学ぶ	
第8回	子どもを理解する方法「観察・記録・振り返りの実際」 保育における観察，記録，振り返りの重要性について理解するとともに，そのあり方について事例をもとに学ぶ	
第9回	保育における評価について 評価の種類やそれぞれの目的，意義について理解する	
第10回	保育カンファレンスについて 目的，留意点を理解し，保育カンファレンスのあり方について考える 保育カンファレンスに必要な同僚性，ノンコンタクトタイムについて理解する	
第11回	子ども理解に基づく保育者の援助について 実習での経験をふまえた事例（エピソード）をもとに，様々な対応方法を考える	
第12回	小学校との連携・接続について 保育における子どもの学びと小学校以降の学びのちがいについて理解するとともに，連携・接続のありかたについて具体例をもとに考える	
第13回	子育て支援・家庭支援について 子どもを理解するための子育て支援や家庭支援，保護者へのかかわり方について，事例をもとに学ぶ	
第14回	特別な配慮を要する子どもへの理解と援助について 事例をもとに子どもを理解する視点や方法，専門機関との連携等について考える	
第15回	子ども理解とこれからの保育 子どもを理解するための保育者の専門性について考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	子ども理解の必要性や重要性について，これまでの実習等の経験や講義の視点をふまえて具体的に論述できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子どもを理解するためには，自分の子ども観や保育観を意識した上で，子どもの何を見ようとし，どのようにとらえるのかを多様な視点から考えていくことが必要である。 主体的に授業に参加し，自分で考えたり，自分の言葉で表現したりすること。また，他者の気付きや考えからも積極的に学び取ってほしい。
授業外学修	1　予習として授業にかかわる視点について，実習での経験や配布資料等をもとに考え，疑問点を明らかにする。 2　復習としてノートの記入，配布資料の整理をする。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤　惇也	ななみ書房	9784910973067	税抜き1200円
使用テキスト：自由記載	随時，資料を配布する			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児理解に基づいた評価	文部科学省	チャイルド本社	978-4805402832	275円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年）としての実務経験を有する			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（19年）をもつ教員が，現場での経験や実践をもとに演習授業を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育における子ども理解の意義	保育における子ども理解の意義について,自身の経験や知識,現代の保育の課題等も踏まえた上で具体的かつ論理的に述べることができる。	保育における子ども理解の意義について,自身の経験や知識を踏まえた上で具体的かつ論理的に述べることができる。	保育における子ども理解の意義について,自身の経験や知識を取り入れながら具体的に述べることができる。	保育における子ども理解の意義について述べることができる。	保育における子ども理解の意義について述べることができにくい。
知識・理解	2．子ども理解の基本	既存の知識や自身の実習等の経験を踏まえた上で,子どもを理解するための基本的な考え方について具体的に述べることができる。	自身の実習等の経験を踏まえた上で,子どもを理解するための基本的な考え方について具体的に述べることができる。	子どもを理解するための基本的な考え方について具体的に述べることができる。	子どもを理解するための基本的な考え方について述べることができる。	子どもを理解するための基本的な考えについて述べることができにくい。
知識・理解	3．保育者の姿勢や援助	既存の知識や自身の実習等の経験を踏まえた上で,子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について具体的かつ建設的に述べることができる。	自身の実習等の経験を踏まえて,子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について具体的かつ建設的に述べることができる。	子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について具体的に述べることができる。	子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について述べることができる。	子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について述べることができにくい。
思考・問題解決能力	1．研究的態度	子どもを理解するための様々な視点や方法について,探究心をもって取り組み明らかにしようとする。	子どもを理解するための様々な視点や方法について,探究心をもって取り組むことができる。	子どもを理解するための様々な視点や方法について,問題意識をもって考えることができる。	担当教員の指示があれば,子どもを理解するための方法等について調べることができる。	担当教員の指示があっても,子どもを理解するための方法等について調べることができにくい。
技能	1．事例分析	事例をもとに,子どもや保育者の言動,場の状況等を読み取った上で,子どもの内面や保育者としての姿勢を多面的に考えることができる。	事例をもとに,子どもや保育者の言動,場の状況等を読み取った上で,子どもの内面や保育者としての姿勢を検討することができる。	事例の情報から,子どもや保育者の言動を読み取るとともに,子どもの内面や保育者のかかわりに気付くことができる。	事例の情報から,子どもの言動や保育者の関わりを読み取ることができる。	事例の情報から,子どもの言動や保育者の関わりを読み取ることができにくい。
技能	2．レポートの作成・提出	提出期限を守り,決められた様式に従い論理的なレポートを作成できる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを作成できる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを作成できているが,数箇所誤字脱字等が見られる。	レポートを作成し期限を守って提出しているが,誤字脱字が見られたり,決められた様式と異なった様式で作成している。	提出期限を守ることができない。決められた様式で作成できない。
態度	1．受講態度	授業内容や課題の意図を十分理解し,自分なりの考えを分かりやすく発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を適切に理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが,自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず,自分なりの意見もない。
態度	2．グループ活動での言動	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかは十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかしか発揮していないが,目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらも発揮しておらず,目標や目的に向かって取り組むこともできていない。

科目名	子どもの理解と援助 2クラス			授業番号	ED203B	サブタイトル			
教員	山本　房子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育における子どもの理解の意義と重要性を踏まえた上で，子どもを理解する視点や方法を知る。また，保育者（保育士や幼稚園教諭等）が，子ども理解に基づき具体的にどのような援助や環境構成等を行っているのか，その基本について学ぶ。								
到達目標	・保育における子ども理解の意義や重要性を理解できる。 ・子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法について理解できる。 ・子ども理解を深めるための，保育者の姿勢や援助について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども理解とは，保育における子ども理解の意義や目的についてこれまでの経験をもとに考える	
第2回	子どもを理解するための保育者の姿勢や態度についてこれまでの経験をもとに考える	
第3回	子どもを理解する視点「子どもの生活・遊び」 保育者は，子どもの生活や遊びをどのようにデザインし子どもを理解しようとしているのか，その実際についてＤＶＤ資料から学ぶ	
第4回	子どもを理解する視点「集団の中での子ども」 保育者の集団へのかかわりと個へのかかわりについて，事例をもとに学ぶ	
第5回	子どもを理解する視点「トラブル」 トラブル場面の事例をもとに，発達段階によるトラブルのちがいや保育者の対応方法について学ぶ	
第6回	子どもを理解する視点「葛藤やつまずき」 葛藤場面の事例をもとに，子どもの内面や保育者の対応方法について学ぶ	
第7回	子どもを理解する方法「保育の環境の理解と構成」 事例をもとに，環境がもたらす子どもの言動及び育ちの違いについて学ぶ	
第8回	子どもを理解する方法「観察・記録・振り返りの実際」 保育における観察，記録，振り返りの重要性について理解するとともに，そのあり方について事例をもとに学ぶ	
第9回	保育における評価について 評価の種類やそれぞれの目的，意義について理解する	
第10回	保育カンファレンスについて 目的，留意点を理解し，保育カンファレンスのあり方について考える 保育カンファレンスに必要な同僚性，ノンコンタクトタイムについて理解する	
第11回	子ども理解に基づく保育者の援助について 実習での経験をふまえた事例（エピソード）をもとに，様々な対応方法を考える	
第12回	小学校との連携・接続について 保育における子どもの学びと小学校以降の学びのちがいについて理解するとともに，連携・接続のありかたについて具体例をもとに考える	
第13回	子育て支援・家庭支援について 子どもを理解するための子育て支援や家庭支援，保護者へのかかわり方について，事例をもとに学ぶ	
第14回	特別な配慮を要する子どもへの理解と援助について 事例をもとに子どもを理解する視点や方法，専門機関との連携等について考える	
第15回	子ども理解とこれからの保育 子どもを理解するための保育者の専門性について考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	子ども理解の必要性や重要性について，これまでの実習等の経験や講義の視点をふまえて具体的に論述できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子どもを理解するためには，自分の子ども観や保育観を意識した上で，子どもの何を見ようとし，どのようにとらえるのかを多様な視点から考えていくことが必要である。 主体的に授業に参加し，自分で考えたり，自分の言葉で表現したりすること。また，他者の気付きや考えからも積極的に学び取ってほしい。
授業外学修	1　予習として授業にかかわる視点について，実習での経験や配布資料等をもとに考え，疑問点を明らかにする。 2　復習としてノートの記入，配布資料の整理をする。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤　惇也	ななみ書房	9784910973067	税抜き1200円
使用テキスト：自由記載	随時，資料を配布する			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児理解に基づいた評価	文部科学省	チャイルド本社	978-4805402832	275円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年）としての実務経験を有する			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（19年）をもつ教員が，現場での経験や実践をもとに演習授業を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育における子ども理解の意義	保育における子ども理解の意義について,自身の経験や知識,現代の保育の課題等も踏まえた上で具体的かつ論理的に述べることができる。	保育における子ども理解の意義について,自身の経験や知識を踏まえた上で具体的かつ論理的に述べることができる。	保育における子ども理解の意義について,自身の経験や知識を取り入れながら具体的に述べることができる。	保育における子ども理解の意義について述べることができる。	保育における子ども理解の意義について述べることができにくい。
知識・理解	2．子ども理解の基本	既存の知識や自身の実習等の経験を踏まえた上で,子どもを理解するための基本的な考え方について具体的に述べることができる。	自身の実習等の経験を踏まえた上で,子どもを理解するための基本的な考え方について具体的に述べることができる。	子どもを理解するための基本的な考え方について具体的に述べることができる。	子どもを理解するための基本的な考え方について述べることができる。	子どもを理解するための基本的な考えについて述べることができにくい。
知識・理解	3．保育者の姿勢や援助	既存の知識や自身の実習等の経験を踏まえた上で,子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について具体的かつ建設的に述べることができる。	自身の実習等の経験を踏まえて,子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について具体的かつ建設的に述べることができる。	子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について具体的に述べることができる。	子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について述べることができる。	子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について述べることができにくい。
思考・問題解決能力	1．研究的態度	子どもを理解するための様々な視点や方法について,探究心をもって取り組みあきらかにしようとする。	子どもを理解するための様々な視点や方法について,探究心をもって取り組むことができる。	子どもを理解するための様々な視点や方法について,問題意識をもって考えることができる。	担当教員の指示があれば,子どもを理解するための方法等について調べることができる。	担当教員の指示があっても,子どもを理解するための方法等について調べることができにくい。
技能	1．事例分析	事例をもとに,子どもや保育者の言動,場の状況等を読み取った上で,子どもの内面や保育者としての姿勢を多面的に考えることができる。	事例をもとに,子どもや保育者の言動,場の状況等を読み取った上で,子どもの内面や保育者としての姿勢を検討することができる。	事例の情報から,子どもや保育者の言動を読み取るとともに,子どもの内面や保育者のかかわりに気付くことができる。	事例の情報から,子どもの言動や保育者の関わりを読み取ることができる。	事例の情報から,子どもの言動や保育者の関わりを読み取ることができにくい。
技能	2．レポートの作成・提出	提出期限を守り,決められた様式に従い論理的なレポートを作成できる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを作成できる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを作成できているが,数箇所誤字脱字等が見られる。	レポートを作成し期限を守って提出しているが,誤字脱字が見られたり,決められた様式と異なった様式で作成している。	提出期限を守ることができない。決められた様式で作成できない。
態度	1．受講態度	授業内容や課題の意図を十分理解し,自分なりの考えを分かりやすく発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を適切に理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが,自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず,自分なりの意見もない。
態度	2．グループ活動での言動	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかは十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかしか発揮していないが,目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらも発揮しておらず,目標や目的に向かって取り組むこともできていない。

科目名	子どもの保健			授業番号	ED204	サブタイトル			
教員	荒谷 友里恵								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもの心身の成長発達について学び，健康の保持増進のための保健活動について学ぶ。								
到達目標	1．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解して，それを論述できる。 2．子どもの身体発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解して，それを論述できる。 3．小児期に起こりやすい病気と怪我について，予防法と適切な対応が理解して，それを論述できる。 本科目は，本学科ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの心身の健康と保健の意義について学ぶ。	
第2回	子どもの保健の諸統計について学ぶ。	
第3回	子どもの心身の発達とその評価について学ぶ。	
第4回	子どもの生理機能の発達として呼吸，体温，循環について学ぶ。	
第5回	子どもの生理機能の発達として消化機能，排泄機能，睡眠について学ぶ。	
第6回	「早寝早起き朝ごはん」運動と子どもの睡眠について学ぶ。	
第7回	子どもの脳神経，運動機能の発達について学ぶ。	
第8回	子どもの感覚の発達とその評価について学ぶ。	
第9回	子どもの病気 先天異常，呼吸器疾患の予防，手当てについて学ぶ。	
第10回	子どもの病気 消化器，血液疾患の予防，手当てについて学ぶ。	
第11回	子どもの病気 泌尿器，皮膚疾患の予防，手当てについて学ぶ。	
第12回	子どもの保健と感染症ガイドライン，アレルギー性疾患への対応について学ぶ。	
第13回	子どもの体調不良等の健康観察と支援について学ぶ。	
第14回	子どもの支援，病棟保育士について学ぶ。DVDの視聴を行う。	
第15回	子どもの健康と安全管理の実施体制と保育者の役割について学ぶ。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	集中して授業に取り組み，授業内に提出する課題の記述内容が的確である。
レポート	10	睡眠リズム表が正確に記入でき，締切に間に合うように提出できる。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。
小テスト	20	
定期試験	60	到達目標1・2・3の理解度・定着度について評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育者を目指す学生として，まず自分の健康の保持増進に関心をもつこと 小児保健に関するニュースに関心をもつこと 保育所・幼稚園などでボランティア活動をおこない，子どもの理解に努めること
授業外学修	授業内容に関するテキスト内容を読んだり，それ以外の資料を調べてノート整理すること 小テストを行うので，復習を行うこと。小テストの実施については授業内で連絡する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの保健と安全	髙内正子	教育情報出版	978-4-909378-43-9	2497
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	看護師としての実務経験を有する。（10年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保健活動に関する意義理解	保育者が担う役割としての保健活動の重要性について、統計的側面や活動の実際的側面について正しい知識をもち、現状の問題点と課題を具体的に整理して述べることができる。	保育者が担う役割としての保健活動の重要性について統計的側面や活動の実際的側面について正しい知識をもち、現状の問題点と課題を具体的に言える。	保育者が担う役割としての保健活動の重要性について統計的側面や活動の実際的側面について正しい知識をもち、現状の問題点と課題を部分的に言える。	保育者が担う役割としての保健活動の重要性について知識をもっているが、統計的側面や活動の実際的側面についての知識は十分ではない。	保育者が担う役割としての保健活動の重要性、統計的側面や活動の実際的側面についての知識が全くない。
知識・理解	2．子どもの発育に関する理解	各月齢・年齢の成長発達について、すべて正確な知識がある。	各月齢・年齢の成長発達について、正確な知識がある。	各月齢・年齢の成長発達について、ほぼ正確な知識がある。	各月齢・年齢の成長発達について、正確な知識がやや乏しい。	各月齢・年齢の成長発達について、正確な知識が全くない。
知識・理解	3．小児期に起こりやすい病気と怪我等に関する理解	小児期に起こりやすい病気と怪我について、すべて正確な知識がある。また、それらに関する予防法と適切な対応についてすべて正確な知識がある。	小児期に起こりやすい病気と怪我について、ほぼすべて正確な知識がある。また、それらに関する予防法と適切な対応について、ほぼすべて正確な知識がある。	小児期に起こりやすい病気と怪我について、半分程度は正確な知識がある。また、それらに関する予防法と適切な対応について半分程度は正確な知識がある。	小児期に起こりやすい病気と怪我について、正確な知識が乏しい。また、それらに関する予防法と適切な対応について半分程度は正確な知識が乏しい。	小児期に起こりやすい病気と怪我、予防法と対応についての正確な知識が全くない。
思考・問題解決能力	1．健康の保持増進に関する考察力	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題に積極的に取り組むことができる。自分の生活習慣や生活リズムを客観視したうえで、適確な考察をし、健康の保持増進のためにすべきことを考察できる。	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題に積極的に取り組むことができる。自分の生活習慣や生活リズムを客観視したうえで、自分なりに考察をし、健康の保持増進のためにすべきことを考察できる。	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題に取り組むことができる。自分の生活習慣や生活リズムを客観視したうえで、自分なりに考察をし、健康の保持増進のためにすべきことを考察できる。	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題への取り組みが消極的である。自分の生活習慣や生活リズムを客観視した考察が浅く、今後の改善点も考察が十分ではない。	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題への取り組みができていないか、不完全である。そのため、それを題材とした考察ができないか、不完全である。
態度	1．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。	テーマに沿った内容で意見・感想を述べることができる。また、やや知識の定着が見られる。	意欲的な態度が見られず、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができない。また、知識の定着も見られない。

科目名	子どもの食と栄養Ａ　1クラス			授業番号	ED205A	サブタイトル	健康なからだとこころを育む小児栄養		
教員	荻田　志津子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	妊娠期（胎児期），乳児期，幼児期，学童・思春期の各段階に応じた健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養と食生活の面から説明する。 また、その後の成人期・高齢期の健康および食生活についても、子ども時代の食生活との関係を示しながら説明する。								
到達目標	・栄養の基本的な内容を理解し、小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることを理解し、保育場面で活用できる。 ・健康的な小児の発育発達を促すための食事と食育の重要性を理解し、示すことができる。 ・バランスの良い食事内容を理解記憶して，保育者自身が実践でき、その上で幼児の保護者に説明・指導ができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	新生児・乳児期の発育・発達と食生活 「母乳栄養の大切さ」、「人工栄養の種類と調乳および授乳法」を理解する。	
第2回	離乳期における栄養・食生活 「離乳食の作り方・進め方」「離乳期の栄養・食生活上の問題」「低出生体重児の発育」を理解する。	
第3回	幼児期の心身の発育と食生活について「間食の意義」について　①栄養面　②心理面　③しつけなど食育面　を理解する。	
第4回	幼児期の心身の発育と食生活 「幼児期のからだの発育・発達の特徴」「幼児期のこころの発達の特徴」「幼児期における栄養・食生活」を理解する。	
第5回	栄養に関する基本的知識「人の体と食物・食物のゆくえ」 糖質、脂質、たんぱく質を理解する。	
第6回	幼児期の心身の発育と食生活 「気になる食事行動および改善への糸口」を理解する。	
第7回	食事のバランス 「食事のバランスについて、具体的な食べ物とその量」を理解する。	
第8回	学童期・思春期の心身の発育と食生活 学童期・思春期の「体の発育・発達の特徴」、「こころの発達の特徴」、「栄養・食生活」を理解する。	
第9回	生涯発達と食生活 「成人期・老年期における健康と栄養・食生活」を理解する。	
第10回	栄養に関する基本的知識「人の体と食物・食物のゆくえ」 無機質(ミネラル)、ビタミン、食物繊維、水分、エネルギー代謝を理解する。	
第11回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 「アレルギーのある子どもへの対応」を理解する。	
第12回	食育の基本と内容 「保育所給食と食育の推進」、「保育所の食育実践活動」、「保育所から家庭へのアプローチ」を理解する。	
第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 「疾病および体調不良の子どもへの対応」を理解する。	
第14回	妊娠期の栄養・食生活 「妊娠期における栄養・妊娠中にみられる症状別栄養・食生活の対応」を理解する。	
第15回	健康づくりのための食生活指針について、各自が実践出来ていることを評価し、今後実践すべき内容を理解して、どの様に実行するかを考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	集中して講義を聴き、授業終了時に当日の講義の要約および感想を、記述して提出を求めるコメントシートにより、評価をおこなう。
小テスト	20	主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	集中して講義を聴き，受講内容をノートにまとめる。積極的に質問に答え，授業に参加する。
授業外学修	・授業後に授業内容を整理・理解し、必要な部分を自分自身の食生活に活かす。 ・興味を持った内容をさらに自分で調べたり、疑問点は更に質問し、解決して理解を深める。 上記の内容を週当たり３時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
イラストBOOK たのしい保育「食」をとおして育つもの・育てたいもの	堤ちはる	ぎょうせい	978-4-324-10995-3	1,540円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	特になし			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	高梁市役所健康づくり課にて、乳幼児健診、子どもの食事指導、母子食事相談、生活習慣病予防教室担当（10年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	保育士・幼稚園教諭に必要な，こどもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導するとともに、学生自身の健康を保つための食生活を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養の基本的な内容を理解している。	学習した栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、理解し述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、ほぼ理解し述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、自分の言葉では述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、全く述べることができない。
知識・理解	２．健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関係を理解している。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、正確に理解し述べることができる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、理解し述べることができる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、ほぼ理解し述べることができる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、自分の言葉では表現できる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、全く表現できない。
知識・理解	３，小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性について、正確に理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性について、理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性について、ほぼ理解し述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、自分の言葉では表現できる。	小児期における食育の重要性について、全く表現できない。
思考・問題解決能力	１．健康的な小児の食育発達を促すための食事・おやつについて考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について多角的に考察をして、数多くの適切な食事・おやつを考えて、伝えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、ある程度の適切な食事・おやつを考えて伝えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、いくつかの食事・おやつを考えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、適切とは言えないが、いくつかの食事を考えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、適切とは言えない食事・おやつしか考えることができない。
態度	１．講義を真面目に聴き、講義内容を理解している。	講義を真剣に聴いて講義内容を理解し、重要な内容はノートにまとめ、疑問点は口頭で質問解決している。また、授業終了時には適切なコメントシートを提出している。	講義を真面目に聴いて講義内容を理解し、講義内容に即した適切なコメントシートを提出している。疑問点はコメントシートで質問解決している。	講義を聞いていて講義内容を理解し、講義内容に即したコメントシートを提出している。	講義を聞いてはいるが、提出したコメントシートが講義内容を理解している内容ではない。	講義を聞かず、提出したコメントシートが講義内容を理解している内容で全くはない。

科目名	子どもの食と栄養Ａ　2クラス			授業番号	ED205B	サブタイトル	健康なからだとこころを育む小児栄養		
教員	荻田　志津子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	妊娠期（胎児期），乳児期，幼児期，学童・思春期の各段階に応じた健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養と食生活の面から説明する。 また、その後の成人期・高齢期の健康および食生活についても、子ども時代の食生活との関係を示しながら説明する。								
到達目標	・栄養の基本的な内容を理解し、小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることを理解し、保育場面で活用できる。 ・健康的な小児の発育発達を促すための食事と食育の重要性を理解し、示すことができる。 ・バランスの良い食事内容を理解記憶して，保育者自身が実践でき、その上で幼児の保護者に説明・指導ができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	新生児・乳児期の発育・発達と食生活 「母乳栄養の大切さ」、「人工栄養の種類と調乳および授乳法」を理解する。	
第2回	離乳期における栄養・食生活 「離乳食の作り方・進め方」「離乳期の栄養・食生活上の問題」「低出生体重児の発育」を理解する。	
第3回	幼児期の心身の発育と食生活について「間食の意義」について　①栄養面　②心理面　③しつけなど食育面　を理解する。	
第4回	幼児期の心身の発育と食生活 「幼児期のからだの発育・発達の特徴」「幼児期のこころの発達の特徴」「幼児期における栄養・食生活」を理解する。	
第5回	栄養に関する基本的知識「人の体と食物・食物のゆくえ」 糖質、脂質、たんぱく質を理解する。	
第6回	幼児期の心身の発育と食生活 「気になる食事行動および改善への糸口」を理解する。	
第7回	食事のバランス 「食事のバランスについて、具体的な食べ物とその量」を理解する。	
第8回	学童期・思春期の心身の発育と食生活 学童期・思春期の「体の発育・発達の特徴」、「こころの発達の特徴」、「栄養・食生活」を理解する。	
第9回	生涯発達と食生活 「成人期・老年期における健康と栄養・食生活」を理解する。	
第10回	栄養に関する基本的知識「人の体と食物・食物のゆくえ」 無機質(ミネラル)、ビタミン、食物繊維、水分、エネルギー代謝を理解する。	
第11回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 「アレルギーのある子どもへの対応」を理解する。	
第12回	食育の基本と内容 「保育所給食と食育の推進」、「保育所の食育実践活動」、「保育所から家庭へのアプローチ」を理解する。	
第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 「疾病および体調不良の子どもへの対応」を理解する。	
第14回	妊娠期の栄養・食生活 「妊娠期における栄養・妊娠中にみられる症状別栄養・食生活の対応」を理解する。	
第15回	健康づくりのための食生活指針について、各自が実践出来ていることを評価し、今後実践すべき内容を理解して、どの様に実行するかを考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	集中して講義を聴き、授業終了時に当日の講義の要約および感想を、記述して提出を求めるコメントシートにより、評価をおこなう。
小テスト	20	主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	集中して講義を聴き，受講内容をノートにまとめる。積極的に質問に答え，授業に参加する。
授業外学修	・授業後に授業内容を整理・理解し、必要な部分を自分自身の食生活に活かす。 ・興味を持った内容をさらに自分で調べたり、疑問点は更に質問し、解決して理解を深める。 上記の内容を週当たり３時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
イラストBOOK たのしい保育「食」をとおして育つもの・育てたいもの	堤ちはる	ぎょうせい	978-4-324-10995-3	1,540円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	特になし			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	高梁市役所健康づくり課にて、乳幼児健診、子どもの食事指導、母子食事相談、生活習慣病予防教室担当（10年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	保育士・幼稚園教諭に必要な，こどもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導するとともに、学生自身の健康を保つための食生活を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養の基本的な内容を理解している。	学習した栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、理解し述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、ほぼ理解し述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、自分の言葉では述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、全く述べることができない。
知識・理解	２．健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関係を理解している。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、正確に理解し述べることができる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、理解し述べることができる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、ほぼ理解し述べることができる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、自分の言葉では表現できる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、全く表現できない。
知識・理解	３，小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性について、正確に理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性について、理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性について、ほぼ理解し述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、自分の言葉では表現できる。	小児期における食育の重要性について、全く表現できない。
思考・問題解決能力	１．健康的な小児の食育発達を促すための食事・おやつについて考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について多角的に考察をして、数多くの適切な食事・おやつを考えて、伝えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、ある程度の適切な食事・おやつを考えて伝えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、いくつかの食事・おやつを考えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、適切とは言えないが、いくつかの食事を考えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、適切とは言えない食事・おやつしか考えることができない。
態度	１．講義を真面目に聴き、講義内容を理解している。	講義を真剣に聴いて講義内容を理解し、重要な内容はノートにまとめ、疑問点は口頭で質問解決している。また、授業終了時には適切なコメントシートを提出している。	講義を真面目に聴いて講義内容を理解し、講義内容に即した適切なコメントシートを提出している。疑問点はコメントシートで質問解決している。	講義を聞いていて講義内容を理解し、講義内容に即したコメントシートを提出している。	講義を聞いてはいるが、提出したコメントシートが講義内容を理解している内容ではない。	講義を聞かず、提出したコメントシートが講義内容を理解している内容で全くはない。

科目名	子どもの食と栄養 B シラバス用			授業番号	ED206	サブタイトル	赤ちゃんからお年寄りまで生涯健康な生活を送るための食事作り		
教員	荻田 志津子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の食事（調乳，離乳食，幼児食等）、薄味で栄養バランスのとれた子どもの食事、生活習慣予防のための大人の食事を調理、試食する。								
到達目標	・食の大切さ、食の面白さ、食べることの楽しさなど、食育についての理解を深めて、保育現場などで実践することができる。 ・調理実習を通して自分自身でもバランスのとれた料理が出来るようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	調乳：無菌操作法で調乳し、消毒法・衛生管理を理解・習得する。調乳後2時間以内に使用しなかったミルクは捨てるため、調乳をスムーズに行うことを意識する。	
第2回	離乳食作り：月齢に合わせた消化しやすく薄味の離乳食を調理試食して、離乳食および乳児の摂食機能を理解する。	
第3回	１～２歳児のおやつ作り おやつ作り・試食を通して、幼児期における間食の必要性を栄養面・心理面・しつけなど食育面から理解する。	
第4回	１～２歳児の食事作り １～２歳児の食べやすい食事作りを通して、食事形態を理解し、調理方法を習得する。	
第5回	１～２歳児の食事作り １～２歳児の食事のバリエーションを増やすため、食材の複数の扱い方や調理方法を習得する。	
第6回	３～５歳児のおやつ作り おやつを通して、心理面、特に「気になる食事行動および改善への糸口」を理解する。	
第7回	３～５歳児の食事作り ３～５歳児の食べやすい食事形態を理解し、調理方法を習得する。	
第8回	カルシウムたっぷりの料理作り 子どもから大人まで不足しがちなカルシウムを摂るために、カルシウムを多く含む食材：乳製品・大豆製品、およびカルシウムの吸収を助ける食材を使った調理方法を習得する。	
第9回	生活習慣病予防のための料理作り 幼児期から大事な高血圧予防のための美味しい減塩料理の調理方法を習得する。	
第10回	学生考案の幼児のお弁当作り 幼児が喜んで食べる、安全でバランスの良い弁当を、班のメンバーで考案・調理して、弁当の調理技術を向上させる。	
第11回	食物アレルギー対応の食事作り 食物アレルギー(卵・牛乳・小麦)対応の食事作りを通して、アレルギー児への理解・対応を深める。	
第12回	幼児の行事食作り クリスマス料理作りを通して、調理・供食の楽しさを経験し、保育の現場に活かす。	
第13回	子どもの体調不良の時の食事作り 子どもの体調不良の時の食事作りを通して、子どもの食と身体との関係について理解・対応を深める。	
第14回	若い女性に多い貧血対策の料理作り 鉄の豊富な食材を使い、貧血予防の食事を調理試食して、自分自身の貧血予防に役立てる。	
第15回	ひな祭りの行事食 ちらし寿司・吸い物・苺大福を作り、季節感・供食の楽しさを経験し、保育の現場に活かす。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢、態度	100	・デモンストレーションを集中して見て聞いて、手順に従って調理を進めているかを評価する。 ・意欲的な実習態度とチームワークにより評価する。 ・授業終了時に提出を求めるコメントシートに、出来上がった料理が基準を満たすか、また学生自身が客観的評価と改善点について、具体的に述べられているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習形式ですすめるので，講師の指示に従い，積極的に参加すること。
授業外学修	実習内容を自宅にて再度調理し，料理技術の向上に努める。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回、レジピ・資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高梁市役所健康づくり課にて、乳幼児健診、子どもの食事指導、母子食事相談、生活習慣病予防教室担当（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育士・幼稚園教諭に必要な，子どもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導するとともに、学生自身の健康を保つための食生活を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性について、完璧に述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないがほぼ理解し、述べることができる。	小児期における食育の重要性について、ほぼ述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないが、自分の言葉では表現できる。	小児期における育育の重要性について全く表現できてない。
思考・問題解決能力	1．健康的な小児の食育発達を促すための食事について考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、多角的に柔軟に考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、柔軟に考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、少しではあるが考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、全く考えることが出来ない。
技能	1．子どもの食事を作る調理技術が身に付いている。	包丁で食材を適切に切り、適切な水・調味料を加えて、適切な火加減で、子どもが食べやすくおいしい料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、適切な水・調味料を加えて、子どもが食べやすい料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、適切な水・調味料を加えて、料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、水・調味料を加えて、料理を作ることが出来る。	料理を作ることが出来ない。
態度	1．調理手順の説明・デモンストレーションを理解して、適切に調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、きちんと理解した上で、班のメンバーと協力してスムーズに適切に調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、理解して、班のメンバーと協力して調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、班のメンバーと調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、なんとか調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きせず、適切に調理することが出来ない。

科目名	子どもの食と栄養Ｂ　1クラス			授業番号	ED206A	サブタイトル	赤ちゃんからお年寄りまで生涯健康な生活を送るための食事作り		
教員	荻田　志津子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の食事（調乳，離乳食，幼児食等）、薄味で栄養バランスのとれた子どもの食事、生活習慣予防のための大人の食事を調理、試食する。								
到達目標	・食の大切さ、食の面白さ、食べることの楽しさなど、食育についての理解を深めて、保育現場などで実践することができる。 ・調理実習を通して自分自身でもバランスのとれた料理が出来るようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調乳：無菌操作法で調乳し、消毒法・衛生管理を理解・習得する。調乳後2時間以内に使用しなかったミルクは捨てるため、調乳をスムーズに行うことを意識する。	
第2回	離乳食作り：月齢に合わせた消化しやすく薄味の離乳食を調理試食して、離乳食および乳児の摂食機能を理解する。	
第3回	１～２歳児のおやつ作り おやつ作り・試食を通して、幼児期における間食の必要性を栄養面・心理面・しつけなど食育面から理解する。	
第4回	１～２歳児の食事作り １～２歳児の食べやすい食事作りを通して、食事形態を理解し、調理方法を習得する。	
第5回	１～２歳児の食事作り １～２歳児の食事のバリエーションを増やすため、食材の複数の扱い方や調理方法を習得する。	
第6回	３～５歳児のおやつ作り おやつを通して、心理面、特に「気になる食事行動および改善への糸口」を理解する。	
第7回	３～５歳児の食事作り ３～５歳児の食べやすい食事形態を理解し、調理方法を習得する。	
第8回	カルシウムたっぷりの料理作り 子どもから大人まで不足しがちなカルシウムを摂るために、カルシウムを多く含む食材：乳製品・大豆製品、およびカルシウムの吸収を助ける食材を使った調理方法を習得する。	
第9回	生活習慣病予防のための料理作り 幼児期から大事な高血圧予防のための美味しい減塩料理の調理方法を習得する。	
第10回	学生考案の幼児のお弁当作り 幼児が喜んで食べる、安全でバランスの良い弁当を、班のメンバーで考案・調理して、弁当の調理技術を向上させる。	
第11回	食物アレルギー対応の食事作り 食物アレルギー(卵・牛乳・小麦)対応の食事作りを通して、アレルギー児への理解・対応を深める。	
第12回	幼児の行事食作り クリスマス料理作りを通して、調理・供食の楽しさを経験し、保育の現場に活かす。	
第13回	子どもの体調不良の時の食事作り 子どもの体調不良の時の食事作りを通して、子どもの食と身体との関係について理解・対応を深める。	
第14回	若い女性に多い貧血対策の料理作り 鉄の豊富な食材を使い、貧血予防の食事を調理試食して、自分自身の貧血予防に役立てる。	
第15回	ひな祭りの行事食 ちらし寿司・吸い物・苺大福を作り、季節感・供食の楽しさを経験し、保育の現場に活かす。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢、態度	100	・デモンストレーションを集中して見て聞いて、手順に従って調理を進めているかを評価する。 ・意欲的な実習態度とチームワークにより評価する。 ・授業終了時に提出を求めるコメントシートに、出来上がった料理が基準を満たすか、また学生自身が客観的評価と改善点について、具体的に述べられているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習形式ですすめるので，講師の指示に従い，積極的に参加すること。
授業外学修	実習内容を自宅にて再度調理し，料理技術の向上に努める。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回、レジピ・資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高梁市役所健康づくり課にて、乳幼児健診、子どもの食事指導、母子食事相談、生活習慣病予防教室担当（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育士・幼稚園教諭に必要な，子どもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導するとともに、学生自身の健康を保つための食生活を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性について、完璧に述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないがほぼ理解し、述べることができる。	小児期における食育の重要性について、ほぼ述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないが、自分の言葉では表現できる。	小児期における育育の重要性について全く表現できてない。
思考・問題解決能力	1．健康的な小児の食育発達を促すための食事について考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、多角的に柔軟に考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、柔軟に考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、少しではあるが考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、全く考えることが出来ない。
技能	1．子どもの食事を作る調理技術が身に付いている。	包丁で食材を適切に切り、適切な水・調味料を加えて、適切な火加減で、子どもが食べやすくおいしい料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、適切な水・調味料を加えて、子どもが食べやすい料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、適切な水・調味料を加えて、料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、水・調味料を加えて、料理を作ることが出来る。	料理を作ることが出来ない。
態度	1．調理手順の説明・デモンストレーションを理解して、適切に調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、きちんと理解した上で、班のメンバーと協力してスムーズに適切に調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、理解して、班のメンバーと協力して調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、班のメンバーと調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、なんとか調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きせず、適切に調理することが出来ない。

科目名	子どもの食と栄養Ｂ　2クラス			授業番号	ED206B	サブタイトル	赤ちゃんからお年寄りまで生涯健康な生活を送るための食事作り		
教員	荻田　志津子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の食事（調乳，離乳食，幼児食等）、薄味で栄養バランスのとれた子どもの食事、生活習慣予防のための大人の食事を調理、試食する。								
到達目標	・食の大切さ、食の面白さ、食べることの楽しさなど、食育についての理解を深めて、保育現場などで実践することができる。 ・調理実習を通して自分自身でもバランスのとれた料理が出来るようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調乳：無菌操作法で調乳し、消毒法・衛生管理を理解・習得する。調乳後2時間以内に使用しなかったミルクは捨てるため、調乳をスムーズに行うことを意識する。	
第2回	離乳食作り：月齢に合わせた消化しやすく薄味の離乳食を調理試食して、離乳食および乳児の摂食機能を理解する。	
第3回	１～２歳児のおやつ作り おやつ作り・試食を通して、幼児期における間食の必要性を栄養面・心理面・しつけなど食育面から理解する。	
第4回	１～２歳児の食事作り １～２歳児の食べやすい食事作りを通して、食事形態を理解し、調理方法を習得する。	
第5回	１～２歳児の食事作り １～２歳児の食事のバリエーションを増やすため、食材の複数の扱い方や調理方法を習得する。	
第6回	３～５歳児のおやつ作り おやつを通して、心理面、特に「気になる食事行動および改善への糸口」を理解する。	
第7回	３～５歳児の食事作り ３～５歳児の食べやすい食事形態を理解し、調理方法を習得する。	
第8回	カルシウムたっぷりの料理作り 子どもから大人まで不足しがちなカルシウムを摂るために、カルシウムを多く含む食材：乳製品・大豆製品、およびカルシウムの吸収を助ける食材を使った調理方法を習得する。	
第9回	生活習慣病予防のための料理作り 幼児期から大事な高血圧予防のための美味しい減塩料理の調理方法を習得する。	
第10回	学生考案の幼児のお弁当作り 幼児が喜んで食べる、安全でバランスの良い弁当を、班のメンバーで考案・調理して、弁当の調理技術を向上させる。	
第11回	食物アレルギー対応の食事作り 食物アレルギー(卵・牛乳・小麦)対応の食事作りを通して、アレルギー児への理解・対応を深める。	
第12回	幼児の行事食作り クリスマス料理作りを通して、調理・供食の楽しさを経験し、保育の現場に活かす。	
第13回	子どもの体調不良の時の食事作り 子どもの体調不良の時の食事作りを通して、子どもの食と身体との関係について理解・対応を深める。	
第14回	若い女性に多い貧血対策の料理作り 鉄の豊富な食材を使い、貧血予防の食事を調理試食して、自分自身の貧血予防に役立てる。	
第15回	ひな祭りの行事食 ちらし寿司・吸い物・苺大福を作り、季節感・供食の楽しさを経験し、保育の現場に活かす。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢、態度	100	・デモンストレーションを集中して見て聞いて、手順に従って調理を進めているかを評価する。 ・意欲的な実習態度とチームワークにより評価する。 ・授業終了時に提出を求めるコメントシートに、出来上がった料理が基準を満たすか、また学生自身が客観的評価と改善点について、具体的に述べられているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習形式ですすめるので，講師の指示に従い，積極的に参加すること。
授業外学修	実習内容を自宅にて再度調理し，料理技術の向上に努める。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回、レジピ・資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高梁市役所健康づくり課にて、乳幼児健診、子どもの食事指導、母子食事相談、生活習慣病予防教室担当（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育士・幼稚園教諭に必要な，子どもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導するとともに、学生自身の健康を保つための食生活を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性について、完璧に述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないがほぼ理解し、述べることができる。	小児期における食育の重要性について、ほぼ述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないが、自分の言葉では表現できる。	小児期における育育の重要性について全く表現できてない。
思考・問題解決能力	1．健康的な小児の食育発達を促すための食事について考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、多角的に柔軟に考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、柔軟に考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、少しではあるが考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、全く考えることが出来ない。
技能	1．子どもの食事を作る調理技術が身に付いている。	包丁で食材を適切に切り、適切な水・調味料を加えて、適切な火加減で、子どもが食べやすくおいしい料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、適切な水・調味料を加えて、子どもが食べやすい料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、適切な水・調味料を加えて、料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、水・調味料を加えて、料理を作ることが出来る。	料理を作ることが出来ない。
態度	1．調理手順の説明・デモンストレーションを理解して、適切に調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、きちんと理解した上で、班のメンバーと協力してスムーズに適切に調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、理解して、班のメンバーと協力して調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、班のメンバーと調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、なんとか調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きせず、適切に調理することが出来ない。

科目名	教育相談			授業番号	ED207	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	教育相談・カウンセリングの理論と方法，基本的な応答の仕方について講義や演習を行う。								
到達目標	子どもの発達への援助，保護者への子育て支援の重要さやカウンセリング・マインドの大切さを理解し，子どもや保護者に対する基本的な応答の仕方を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育相談とは 教育相談の全体像について理解する。	
第2回	カウンセリング・マインド カウンセリング・マインドについて演習を通して理解する。	
第3回	保育場面でのカウンセリング技法の活用（1） カウンセリングの基礎理論を,演習を通して理解する。	
第4回	保育場面でのカウンセリング技法の活用（2） カウンセリングの基礎理論を,演習を通して理解する。	
第5回	保育場面でのカウンセリング技法の活用（3） カウンセリングの基礎理論を,演習を通して理解する。	
第6回	保育者の自己理解 文章完成法,HSPチェックリスト等を用いて自己理解を行う。	
第7回	保育者のメンタルヘルス 保育者自身のメンタルヘルスについて理解し，ストレスの軽減方法を知る。	
第8回	基礎的対人関係（1） 基礎的対人関係について理解し，演習を行う。	
第9回	基礎的対人関係（2） 基礎的対人関係について理解し，演習を行う。	
第10回	保護者への対応（1） 面談場面での保護者対応について演習を行う。	
第11回	保護者への対応（2） 気になる子どもの保護者の対応について演習を行う。	
第12回	保護者への対応（3） 発達障害などの気になる子どもの保護者の対応について演習を行う。	
第13回	園・地域における専門家との連携による相談・支援 園・地域における専門家や社会資源について理解し，それらの連携や相談・支援について事例検討を通して理解を深める。	
第14回	事例検討（1） 事例を基に、検討会を行い教育相談の在り方を理解する。	
第15回	事例検討（2） 事例を基に、検討会を行い教育相談の在り方を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度によって評価する。
小テスト	15	各回の主要なポイントの理解を，授業後に行う小テスト（或いは演習のワークシート）により評価する。
試験	55	最終的な理解度を評価する。
その他	15	演習への参加の意欲・態度から評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2　発表や討議に積極的に取り組むこと。 3　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，テキストを読み授業内容の理解を深める。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの理解と保育・教育相談	小田豊・秋田喜代美	みらい	978-4-86015-546-9	2100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校教諭（14年）の経験から,子どもや保護者に対する相談支援について具体例を交えながら解説する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	教育相談の目的,カウンセリングの基本理念や方法に関して理解できたか。	教育相談に関する理論,方法,実践例について豊富な知識を持ち,具体例を交えて深い理解を示せる。	基本的な理論や方法は理解しており,実践例を挙げて説明できるが,Aレベルほどの詳細さはない。	教育相談の基本的な理論や方法については理解しているが,具体例の使用が限定的。	基本的な理論や方法の理解に不備があり,実践例を適切に用いることができない。	教育相談の基本的な理論や方法についての理解が不足している。
技能	具体的な教育相談の事例を分析し,適切な対応策を立案できるか。	相談者のニーズを正確に理解し,効果的な支援計画を立案・実施できる。高度なコミュニケーション能力を示す。	相談者のニーズを理解し,適切な支援計画を立案・実施できるが,Aレベルほどの洞察力や創造性はない。	基本的な相談技能は持っているが,複雑なケースに対する対応には限界がある。	相談技能の基本は理解しているが,実践の際に不十分な面が見られる。	相談技能が不足しており,相談者のニーズに適切に対応できない。

科目名	子どもと防災 (全8回)			授業番号	ED301	サブタイトル			
教員	山本 房子、福澤 惇也								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本授業は，2021年度からの岡山市消防局と本学との協定事業による実践活動をもとに，以下の子どもと防災における知識及び能力の向上に向けて，防災の専門職員である消防局員と保育学科教員とが共同して実施する授業である。・ 防災（主に火災）についての基本的な知識を得た上で，岡山市消防局開発（一部保育学科考案）の防火カードを使用した子どもへの火災予防教育の方法について学ぶ・ 家庭、保育所・幼稚園・こども園（職場），地域等の身近なコミュニティでの防災意識の向上の取り組について考える・ 災害が起こった際の避難の方法や乳幼児への救命措置等について学ぶ 履修人数は20名程度とする								
到達目標	防災について基礎的な知識を習得する。 防火カードを用いた子どもへの防火教育について考え，実践することができる。 乳幼児への心肺蘇生法を習得する。 地域の防災に対する取り組みを知るとともに，学生自ら地域の防災活動のリーダー（機能別団員）として貢献できる意欲や態度を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	防災とは 災害及び防災について考える	担当 山本，福澤，岡山市消防局消防団係
第2回	防火教育について 防火カードを使用した子どもへの防災（防火）教育について，実践方法を学ぶ	担当 山本，岡山市消防局予防企画係
第3回	防災活動とは① 地域で行われている防災活動（避難所マップ、ハザードマップ）について学ぶ	担当 福澤，岡山市消防局危機管理室
第4回	避難訓練について 保育所・幼稚園・こども園での避難訓練について，法的根拠，目的，実践方法を知る。	担当 山本，岡山市消防局予防企画係
第5回	防災活動とは② 岡山市における防災活動について消防団の取り組みから学ぶとともに，自分のできる防災活動について考える	担当 福澤，岡山市消防局消防団係
第6回	乳幼児の命を守る 普通救命講習に参加し，知識，方法を学ぶ	担当 福澤，岡山市消防局救急課
第7回	火災の現状と火災の予防対策について 火災の現状と火災の発生要因を理解し，火災予防について学ぶとともに，電気実習盤を使用した演習に参加する	担当 山本，岡山市消防局火災調査係，消防団係
第8回	まとめ・振り返り普通救命講習（実技）に参加するとともに，乳幼児に対する心配蘇生法，けが等の応急手当の方法を知る今できる防災活動について具体的に考える	担当 山本，福澤，岡山市消防局救急課
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，活動への参加の状況について，ルーブリックをもとに評価する。
レポート	20	毎回，授業に関するミニレポートを課す。授業内容をもとに，自己の考えを記述しているかどうかを各回担当の教員，消防局員とともに評価する。レポートはコメントをつけて返却する。
その他	50	岡山市消防局実施のボランティア等への参加状況や参加態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業及び消防局実施の活動(機能別団員活動）に積極的，意欲的に参加すること。
授業外学修	１．防火カードの使い方を知るとともに，効果的な活用方法を考え，ボランティア活動や実習前体験学習等において実践すること。 ２．身近なコミュニティ（家庭、アルバイト先、地域等）で防災意識を高めるための活動について，調べたり考えたりすること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	参考資料「子どもと防災」岡山県作成
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年）としての経験を生かし，保育現場の実際を反映させた授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼稚園教諭としての経験を生かし，保育現場の実際を反映させた授業を行う。
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭としての経験を生かすとともに，消防局の職員と連携をとりながら，必要な知識・実践力が身につくように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．防災についての基礎知識	学修した防災に関する基礎知識について,正確に理解し分かりやすく述べることができる。	学修した防災に関する基礎知識について,正確に理解し述べることができる。	学修した防災に関する基礎知識について,ほぼ理解し述べることができる。	学修した防災に関する基礎知識について,自分の言葉で表現することができる。	学修した防災に関する基礎知識について,全く表現することができない。
知識・理解	２．防火カードを用いた防火教育の方法	学修した防火カードを用いた防火教育の方法について,正確かつ複数の方法を理解している。	学修した防火カードを用いた防火教育の方法について,正確に理解している。	学修した防火カードを用いた防火教育の方法について,ほぼ理解している。	学修した防火カードを用いた防火教育の方法について知っている。	学修した防火カードを用いた防火教育の方法について全く理解できていない。
知識・理解	３．普通救命講習の知識	学修した普通救命講習に関する知識について,正確に理解し分かりやすく述べることができる。	学修した普通救命講習に関する基礎知識について,正確に理解し述べることができる。	学修した普通救命講習に関する基礎知識について,ほぼ理解し述べることができる。	学修した普通救命講習に関する基礎知識について,自分の言葉で表現することができる。	学修した普通救命講習に関する基礎知識について,全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．課題への対処	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題を明らかにするとともに,具体的な改善策を他者と相談しながら見出し解決に導くことができる。	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題を明らかにするとともに,具体的な改善策を他者と相談しながら見出すことができる。	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題を明らかにするとともに,具体的な改善策を挙げることができる。	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題を知っているが,具体的な改善策を挙げることはできない。	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題が分からない。
態度	１．活動への参加状況	活動に積極的に参加したり,自分から質問を行ったりするとともに,適切なミニレポートを提出している。	活動に前向きに参加し,適切なミニレポートを提出している。	活動に参加し,活動内容に応じたミニレポートを提出している。	活動に参加し,ミニレポートを提出している。	活動に参加しない,ミニレポートを提出しないことがある。

科目名	教育・保育課程論			授業番号	EE201	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等について講義と演習を行う。								
到達目標	幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等を知り，指導計画等を自分なりに作成できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	めざす子ども像 理想のめざす子ども像を考え,意見交換を行う中で、めざす子ども像の概念を理解する。	
第2回	幼稚園の教育課程 幼稚園の教育課程について理解する。	
第3回	保育所の全体的な計画（保育課程） 保育所の全体的な計画や留意事項について理解する。	
第4回	教育課程・全体的な計画,指導計画を考える上で必要なこと 教育課程・全体的な計画,指導計画を考える上での留意事項を理解する。	
第5回	教育課程の編成から長期・短期の指導計画へ 教育課程の編成から長期指導計画,短期指導計画へのつながりを理解する。	
第6回	全体的な計画（保育課程）の編成と指導計画の作成 全体的な計画の編成から指導計画編成へのつながりを理解する。	
第7回	教育課程・保育課程のPDCAサイクル カリキュラムマネジメントの方法について理解する。	
第8回	教育課程・全体的な計画に関わる物的環境・人的環境の検討① 理想のめざす子ども像を実現する,理想の園の条件を考える。	
第9回	教育課程・全体的な計画に関わる物的環境・人的環境の検討② ・理想の園をグループごとに発表し,意見交換を行う。	
第10回	理想の園の指導計画の作成① めざす子ども像との関連に焦点化し，個人で指導計画のねらいや内容を設定する。	
第11回	理想の園の指導計画の作成② めざす子ども像との関連に焦点化し，個人で指導計画のねらいや内容を設定する。	
第12回	発表・意見交換（１） めざす子ども像と指導計画の関連性を示しながら，発表・意見交換を行う。	
第13回	発表・意見交換（２）	
第14回	発表・意見交換（３）	
第15回	まとめ 教育課程,全体的な計画の編成と実践・評価への一体的な取組について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	30	提出された課題から，授業内容が理解できているか，自身の考えを表現できているかを評価する。（課題提出後の授業で全体的な傾向についてフィードバックする）
グループ発表	30	グループ発表・意見交換への参加や態度によって評価する。
その他	25	事例検討や演習に積極的に参加し,意見を出すことができるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2　課題について追究したことや自分の考えをまとめ，レポートを書くこと。 3　発表や討議に積極的に取り組むこと。 4　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，テキストを読み授業内容の理解を深める。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校幼稚部での経験を基に，具体的な事例なども踏まえながら解説を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育・保育課程を計画,実施,評価,改善する過程での基本的な考え方や手法を理解している。	教育・保育課程の基本理念,目的,内容について深い理解を示し,具体的な例を用いて複雑な概念を説明できる。	基本理念や目的は正確に理解しており,内容についても具体的な知識があるが,Ａレベルほどの深い洞察は示せない。	基本的な理念,目的,内容の理解があり,簡単な説明ができるが,深い分析や批判的な考察には至らない。	理念や目的の理解に誤解が見られ,内容についての知識も表面的である。	教育・保育課程の基本理念や目的の理解が不足しており,重要な内容についての知識がほとんどない。
知識・理解	２．めざす子ども像の達成を意識した指導計画を作成することができる。	めざす子ども像に基づいた包括的かつ創造的な指導計画を作成。計画は具体的,実践的であり,多様な学習ニーズに応える。	めざす子ども像を適切に理解し,それに基づく実践的な指導計画を作成。しかし,Ａレベルほどの詳細さや創造性はない。	めざす子ども像の達成に向けた指導計画を作成できるが,応用や多様性に欠ける場合がある。	指導計画には目標が含まれているが,計画の具体性や実践性に不足。めざす子ども像の達成に必要な要素が欠けている。	めざす子ども像に対する理解不足から,適切な指導計画を作成できない。計画には目標の達成に向けた具体的な方策が不足している。
思考・問題解決能力	１．与えられた目的や条件の下で,効果的な教育・保育計画を立案できる。	実践的な課題に対して独自の解決策を提案し,その実施計画を詳細に立案できる。批判的思考と創造性を見せる。	具体的な課題に対して適切な解決策を提案できき,その実施についても計画を立てることができるが,Ａレベルのような独創性はやや欠ける。	一般的な問題解決のアプローチを理解しており,基本的な解決策を提案できるが,複雑な問題に対する深い洞察には至らない。	問題解決のアプローチが一部理解できているが,具体的な計画立案や実施の方法に誤りがある。	問題を認識することはできるが,効果的な解決策の提案や計画立案ができない。

科目名	保育内容総論 1クラス			授業番号	EE202A	サブタイトル			
教員	福澤 惇也								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また，保育構想→具体的な指導案→模擬保育→振り返り→指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。								
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている，園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。 教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。 以上のことを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。	
第2回	子どもの遊びを分析して，どのような経験しているのかを話し合う。	
第3回	教育・保育における環境を通した実践について学ぶ。	
第4回	環境構成を分析して，物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。	
第5回	要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。	
第6回	子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。	
第7回	支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。	
第8回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。	
第9回	活動を分析し，保育の多様な展開について具体的に学ぶ。	
第10回	教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。	
第11回	教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。	
第12回	運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。	
第13回	「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。	
第14回	模擬保育を目指して指導案を作成する。	
第15回	模擬保育をグループで実施する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。
レポート	10	講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。
小テスト		
定期試験	80	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストをよく読み，内容の把握に努めること。講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。 グループワークを中心とするので，積極的態度で受講すること。 講義を通して，　少しずつ自らが描く保育者像の輪郭が鮮明になるよう思考を巡らせること。
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 1週間あたり5時間を目安とする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	240円
保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	978-4-577-81448-2	320円
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	978-4-577-81449-9	350円
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤惇也・山本房子・請川滋大	ななみ書房	978-4-910973-06-7	1320円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育内容総論－保育って，おもしろい－	前田和代	教育情報出版	978-4-909378-50-7	1,800円
「面白い」「やってみたい」と心弾ませる子どもを目指して	住野好久・清水憲志・福澤惇也	ASOBI書房	979-8392113552	1,650円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼稚園教育要領および保育所保育指針に基づいて保育の内容を理解できている。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について具体的に考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有し、保育の計画について考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
知識・理解	２．乳幼児の発達に即した保育内容の基本的な考え方を理解できている。	乳幼児の発達に関して高度な知識を有し、発達に即した保育計画について具体的に考えることができる。	乳幼児の発達に関して高度な知識を有し、発達に即した保育計画について考えることができる。	乳幼児の発達に関して知識を有し、発達に即した保育計画について考えることができる。	乳幼児の発達に関して知識を有してはいるが、発達に即した保育計画にまで考えが及ばない場合がある。	乳幼児の発達に関して知識を有してはいるが、発達に即した保育計画にまで考えが及ばない。
知識・理解	３．環境を通して行う保育の内容を理解できている。	環境を通して行う保育に関して高度な知識を有し、環境の構成について具体的に考えることができる。	環境を通して行う保育に関して高度な知識を有し、環境の構成について考えることができる。	環境を通して行う保育に関して知識を有し、環境の構成について考えることができる。	環境を通して行う保育に関して知識を有してはいるが、環境の構成にまで考えが及ばない場合がある。	環境を通して行う保育に関して知識を有してはいるが、環境の構成にまで考えが及ばない。
知識・理解	４．生活や遊びによる総合的な保育の内容を理解できている。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について具体的に考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有し、保育の計画について考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
知識・理解	５．家庭や地域等との連携をふまえた保育のあり方を理解できている。	家庭や地域等との連携に関して高度な知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について具体的に考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して高度な知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して知識を有してはいるが、家庭支援や地域連携の方法にまで考えが及ばない場合がある。	家庭や地域等との連携に関して知識を有してはいるが、家庭支援や地域連携の方法にまで考えが及ばない。
知識・理解	６．小学校との連携や接続をふまえた保育のあり方を理解できている。	小学校との連携や接続に関して高度な知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について具体的に考えることができる。	小学校との連携や接続に関して高度な知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について考えることができる。	小学校との連携や接続に関して知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について考えることができる。	小学校との連携や接続に関して知識を有してはいるが、子どもの就学を援助できる保育計画にまで考えが及ばない場合がある。	小学校との連携や接続に関して知識を有してはいるが、子どもの就学を援助できる保育計画にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して具体的な保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。

科目名	保育内容総論 2クラス			授業番号	EE202B	サブタイトル			
教員	福澤 惇也								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また，保育構想→具体的な指導案→模擬保育→振り返り→指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。								
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている，園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。 教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。 以上のことを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。	
第2回	子どもの遊びを分析して，どのような経験しているのかを話し合う。	
第3回	教育・保育における環境を通した実践について学ぶ。	
第4回	環境構成を分析して，物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。	
第5回	要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。	
第6回	子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。	
第7回	支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。	
第8回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。	
第9回	活動を分析し，保育の多様な展開について具体的に学ぶ。	
第10回	教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。	
第11回	教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。	
第12回	運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。	
第13回	「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。	
第14回	模擬保育を目指して指導案を作成する。	
第15回	模擬保育をグループで実施する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。
レポート	10	講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。
小テスト		
定期試験	80	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストをよく読み，内容の把握に努めること。講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。 グループワークを中心とするので，積極的態度で受講すること。 講義を通して，　少しずつ自らが描く保育者像の輪郭が鮮明になるよう思考を巡らせること。
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 1週間あたり5時間を目安とする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	240円
保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	978-4-577-81448-2	320円
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	978-4-577-81449-9	350円
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤惇也・山本房子・靖川滋大	ななみ書房	978-4-910973-06-7	1320円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育内容総論－保育って，おもしろい－	前田和代	教育情報出版	978-4-909378-50-7	1,800円
「面白い」「やってみたい」と心弾ませる子どもを目指して	住野好久・清水憲志・福澤惇也	ASOBI書房	979-8392113552	1,650円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼稚園教育要領および保育所保育指針に基づいて保育の内容を理解できている。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について具体的に考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有し、保育の計画について考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
知識・理解	２．乳幼児の発達に即した保育内容の基本的な考え方を理解できている。	乳幼児の発達に関して高度な知識を有し、発達に即した保育計画について具体的に考えることができる。	乳幼児の発達に関して高度な知識を有し、発達に即した保育計画について考えることができる。	乳幼児の発達に関して知識を有し、発達に即した保育計画について考えることができる。	乳幼児の発達に関して知識を有してはいるが、発達に即した保育計画にまで考えが及ばない場合がある。	乳幼児の発達に関して知識を有してはいるが、発達に即した保育計画にまで考えが及ばない。
知識・理解	３．環境を通して行う保育の内容を理解できている。	環境を通して行う保育に関して高度な知識を有し、環境の構成について具体的に考えることができる。	環境を通して行う保育に関して高度な知識を有し、環境の構成について考えることができる。	環境を通して行う保育に関して知識を有し、環境の構成について考えることができる。	環境を通して行う保育に関して知識を有してはいるが、環境の構成にまで考えが及ばない場合がある。	環境を通して行う保育に関して知識を有してはいるが、環境の構成にまで考えが及ばない。
知識・理解	４．生活や遊びによる総合的な保育の内容を理解できている。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について具体的に考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有し、保育の計画について考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
知識・理解	５．家庭や地域等との連携をふまえた保育のあり方を理解できている。	家庭や地域等との連携に関して高度な知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について具体的に考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して高度な知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して知識を有してはいるが、家庭支援や地域連携の方法にまで考えが及ばない場合がある。	家庭や地域等との連携に関して知識を有してはいるが、家庭支援や地域連携の方法にまで考えが及ばない。
知識・理解	６．小学校との連携や接続をふまえた保育のあり方を理解できている。	小学校との連携や接続に関して高度な知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について具体的に考えることができる。	小学校との連携や接続に関して高度な知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について考えることができる。	小学校との連携や接続に関して知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について考えることができる。	小学校との連携や接続に関して知識を有してはいるが、子どもの就学を援助できる保育計画にまで考えが及ばない場合がある。	小学校との連携や接続に関して知識を有してはいるが、子どもの就学を援助できる保育計画にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して具体的な保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。

科目名	(保育内容) 健康 1クラス			授業番号	EE203A	サブタイトル			
教員	土田　豊								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	乳幼児期の発育発達の過程や個人差に合わせた支援の必要性や，現代社会における子どものからだと心の育ちに関する問題点について学習し，乳幼児期における身体活動の重要性について理解する。								
到達目標	現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し，その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践できるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「健康」とは 子どものからだと心の現状について様々なデータを見ながら，客観的かつ具体的に把握する。	
第2回	「幼児期における運動遊びの必要性」 なぜ，幼児期に体を動かすことが必要なのかについて理論的に理解する。	
第3回	「運動遊びと健康（1）」 集団遊びいろいろなジャンケン遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。	
第4回	「運動遊びと健康（2）」 身近にある材料である風船や新聞紙を使った遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。	
第5回	「運動遊びと健康（3）」 サーキット遊びを通して，子どもたちが様々な動きを獲得できる環境について理解する。	
第6回	「運動遊びと健康（4）」 リバーシーゲームの体験を通して，楽しく体を動かすことの大切さを理解する。	
第7回	「運動遊びと健康（5）」 ボールを使ったサーキット遊びを通して，物を操作する動きを獲得できる環境について理解する。	
第8回	「運動遊びと健康（6）」 伝承遊びの体験を通して，伝承遊びで高められる力について理解する。	
第9回	「運動遊びと健康（7）」 いろいろな玉入れ遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。	
第10回	「運動遊びと健康（8）」 いろいろな障取り遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。	
第11回	「運動遊びと健康（9）」 大型かるたとり遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。	
第12回	「模擬保育　運動会の計画と準備」 保育の現場で行われる運動会をイメージしながら種目や内容，役割分担等について計画する。	
第13回	「模擬保育　運動会(1)」 自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。	
第14回	「模擬保育　運動会(2)」 自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。	
第15回	「家庭との連携・まとめ」 運動遊びの必要性について園での取り組みに加え，家庭との連携の仕方について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。望ましい服装で授業に取り組めていない場合は，減点対象とする。一方，授業中の発表やグループ内での発表状況等，積極的な言動が確認できた場合は，加点対象とする。
レポート	30	授業で体験したことを踏まえ，実際の保育場面を想像しながら述べていること。保育現場で，子どもたちと運動遊びを展開していることが想起できる場合，内容に応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで学習のフィードバックとする。
小テスト		
定期試験		
その他	50	領域「健康」のねらいや幼児期運動指針に示されている内容を考慮して，模擬保育を実施し，その理解度や保育への展開具合を得点化する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・運動着を着用する ・室内用シューズを履く ・貴重品は自己管理する ・装飾品は身につけない（髪は結わえる） ・全員協力の上，準備・片付けをする ・日常生活においても課題を見つけ積極的に取り組む
授業外学修	・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり，新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。 ・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して，保育現場で行われている運動遊びについて，対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。 ・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め，指導案として反映できるようにすること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児期運動指針ガイドブック	文部科学省	サン・ライフ企画	978-4-904011-47-8	1300

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭　10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での経験を生かして，幼児期に体を動かす子との大切さや方法などについて指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．運動習慣づくりの重要性	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性について、発達の観点から十分理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができている。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性を十分理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができている。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性を概ね理解し、その解決策について自分の考えを発言することができている。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性をあるていど理解できているが、その解決策について考え、発言することができていない。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性が理解できず、発言もできない。
知識・理解	２．幼児期に経験することが望ましい運動	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、授業の中で実践することができている。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、実践することができている。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて授業を通して、ある程度理解し、様々な運動に興味を持って実践することができている。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについてある程度理解できているが、自らからだを動かすことに対する興味を持つことができていない。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについての理解ができず、自らからだを動かすこともできていない。
思考・問題解決能力	１．現代の子どもたちの運動環境や実施状況の改善策	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について、授業やメディア、文献等から情報を集めるなどして十分理解し、自分の考えも持ち合わせている。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について、授業やメディア、文献等から情報を集めるなどして概ね理解できている。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について授業を通して概ね理解し、情報収集もできている。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について授業を通してある程度理解できているが、進んで情報収集することができていない。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について理解できておらず、情報収集もできない。
技能	１．身の回りにある遊具や道具を活用した運動遊びの創造	身の回りにある遊具や道具を活用し、子どもたちが意欲的に取り組むことができる環境を考えながら、運動遊びを実践することができている。	身の回りにある遊具や道具を活用し、自分なりのアレンジを加えながら、運動遊びを実践することができている。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができている。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践しようとしているが、行動に写すことができていない。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができていない。
技能	２．子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びの創造	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、興味関心を引き出す手立ても考えながら、運動遊びの難易度調節ができている。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、動きも想像しながら、運動遊びの難易度調節ができている。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、運動遊びの難易度調節ができている。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びを考えることはできているが、難易度調節はできていない。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びを考え、実践することができていない。
態度	１．グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	(保育内容) 健康 2クラス			授業番号	EE203B	サブタイトル			
教員	土田　豊								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	乳幼児期の発育発達の過程や個人差に合わせた支援の必要性や，現代社会における子どものからだと心の育ちに関する問題点について学習し，乳幼児期における身体活動の重要性について理解する。								
到達目標	現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し，その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践できるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「健康」とは 子どものからだと心の現状について様々なデータを見ながら，客観的かつ具体的に把握する。	
第2回	「幼児期における運動遊びの必要性」 なぜ，幼児期に体を動かすことが必要なのかについて理論的に理解する。	
第3回	「運動遊びと健康（1）」 集団遊びいろいろなジャンケン遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。	
第4回	「運動遊びと健康（2）」 身近にある材料である風船や新聞紙を使った遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。	
第5回	「運動遊びと健康（3）」 サーキット遊びを通して，子どもたちが様々な動きを獲得できる環境について理解する。	
第6回	「運動遊びと健康（4）」 リバーシーゲームの体験を通して，楽しく体を動かすことの大切さを理解する。	
第7回	「運動遊びと健康（5）」 ボールを使ったサーキット遊びを通して，物を操作する動きを獲得できる環境について理解する。	
第8回	「運動遊びと健康（6）」 伝承遊びの体験を通して，伝承遊びで高められる力について理解する。	
第9回	「運動遊びと健康（7）」 いろいろな玉入れ遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。	
第10回	「運動遊びと健康（8）」 いろいろな障取り遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。	
第11回	「運動遊びと健康（9）」 大型かるたとり遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。	
第12回	「模擬保育　運動会の計画と準備」 保育の現場で行われる運動会をイメージしながら種目や内容，役割分担等について計画する。	
第13回	「模擬保育　運動会(1)」 自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。	
第14回	「模擬保育　運動会(2)」 自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。	
第15回	「家庭との連携・まとめ」 運動遊びの必要性について園での取り組みに加え，家庭との連携の仕方について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。望ましい服装で授業に取り組めていない場合は，減点対象とする。一方，授業中の発表やグループ内での発表状況等，積極的な言動が確認できた場合は，加点対象とする。
レポート	30	授業で体験したことを踏まえ，実際の保育場面を想像しながら述べていること。保育現場で，子どもたちと運動遊びを展開していることが想起できる場合，内容に応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで学習のフィードバックとする。
小テスト		
定期試験		
その他	50	領域「健康」のねらいや幼児期運動指針に示されている内容を考慮して，模擬保育を実施し，その理解度や保育への展開具合を得点化する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・運動着を着用する ・室内用シューズを履く ・貴重品は自己管理する ・装飾品は身につけない（髪は結わえる） ・全員協力の上，準備・片付けをする ・日常生活においても課題を見つけ積極的に取り組む
授業外学修	・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり，新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。 ・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して，保育現場で行われている運動遊びについて，対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。 ・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め，指導案として反映できるようにすること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児期運動指針ガイドブック	文部科学省	サン・ライフ企画	978-4-904011-47-8	1300
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立小学校教諭　10年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学校現場での経験を生かして，幼児期に体を動かす子との大切さや方法などについて指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．運動習慣づくりの重要性	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性について、発達の観点から十分理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができている。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性を十分理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができている。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性を概ね理解し、その解決策について自分の考えを発言することができている。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性をあるていど理解できているが、その解決策について考え、発言することができていない。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性が理解できず、発言もできない。
知識・理解	２．幼児期に経験することが望ましい運動	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、授業の中で実践することができている。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、実践することができている。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて授業を通して、ある程度理解し、様々な運動に興味を持って実践することができている。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについてある程度理解できているが、自らからだを動かすことに対する興味を持つことができていない。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについての理解ができず、自らからだを動かすこともできていない。
思考・問題解決能力	１．現代の子どもたちの運動環境や実施状況の改善策	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について、授業やメディア、文献等から情報を集めるなどして十分理解し、自分の考えも持ち合わせている。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について、授業やメディア、文献等から情報を集めるなどして概ね理解できている。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について授業を通して概ね理解し、情報収集もできている。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について授業を通してある程度理解できているが、進んで情報収集することができていない。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について理解できておらず、情報収集もできない。
技能	１．身の回りにある遊具や道具を活用した運動遊びの創造	身の回りにある遊具や道具を活用し、子どもたちが意欲的に取り組むことができる環境を考えながら、運動遊びを実践することができている。	身の回りにある遊具や道具を活用し、自分なりのアレンジを加えながら、運動遊びを実践することができている。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができている。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践しようとしているが、行動に写すことができていない。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができていない。
技能	２．子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びの創造	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、興味関心を引き出す手立ても考えながら、運動遊びの難易度調節ができている。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、動きも想像しながら、運動遊びの難易度調節ができている。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、運動遊びの難易度調節ができている。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びを考えることはできているが、難易度調節はできていない。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びを考え、実践することができていない。
態度	１．グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	（保育内容）人間関係 1クラス			授業番号	EE204A	サブタイトル			
教員	福澤 惇也								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し，保育を構想し実践する力を身に付ける。								
到達目標	幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け，幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について，背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 その上で，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	現代社会と幼児の人間関係	
第2回	家庭や地域の人間関係	
第3回	3歳未満児における人間関係の発達（１）	
第4回	3歳未満児における人間関係の発達（２）	
第5回	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち	
第6回	幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ち	
第7回	乳幼児期の自立心の育ち（１）	
第8回	乳幼児期の自立心の育ち（２）	
第9回	幼児期の協同性の育ち（１）	
第10回	幼児期の協同性の育ち（２）	
第11回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（１）	
第12回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（２）	
第13回	乳幼児期の人間関係のひろがり	
第14回	乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり	
第15回	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	10	講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。
小テスト		
定期試験	90	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストや配付資料についてはよく読み，内容を把握し，授業で学んだことを整理しておくこと。 講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育と人間関係ー理論と実践をつなぐためにー	柏まり・小林みどり	嵯峨野書院	978-7823-0621-5	2,475円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育者と幼児の人間関係について理解できている。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	２．保育者と保護者の人間関係について理解できている。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	３．幼児同士の人間関係について理解できている。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について具体的に考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有してはいるが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない場合がある。	幼児同士の人間関係に関して知識を有してはいるが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	４．幼児と保護者の人間関係について理解できている。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について具体的に考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない場合がある。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	１．適切な言葉の活用ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を十分示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない場合がある。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない。
技能	２．手遊びや手話歌の実践ができる。	その場の雰囲気や文脈に沿う手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等の音程やリズムが曖昧なまま実践している。
技能	３．対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と意思の疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。

科目名	（保育内容）人間関係 2クラス			授業番号	EE204B	サブタイトル			
教員	福澤 惇也								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し，保育を構想し実践する力を身に付ける。								
到達目標	幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け，幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について，背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 その上で，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	現代社会と幼児の人間関係	
第2回	家庭や地域の人間関係	
第3回	3歳未満児における人間関係の発達（１）	
第4回	3歳未満児における人間関係の発達（２）	
第5回	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち	
第6回	幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ち	
第7回	乳幼児期の自立心の育ち（１）	
第8回	乳幼児期の自立心の育ち（２）	
第9回	幼児期の協同性の育ち（１）	
第10回	幼児期の協同性の育ち（２）	
第11回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（１）	
第12回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（２）	
第13回	乳幼児期の人間関係のひろがり	
第14回	乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり	
第15回	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	10	講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。
小テスト		
定期試験	90	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストや配付資料についてはよく読み，内容を把握し，授業で学んだことを整理しておくこと。 講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育と人間関係ー理論と実践をつなぐためにー	柏まり・小林みどり	嵯峨野書院	978-7823-0621-5	2,475円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育者と幼児の人間関係について理解できている。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	２．保育者と保護者の人間関係について理解できている。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	３．幼児同士の人間関係について理解できている。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について具体的に考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有してはいるが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない場合がある。	幼児同士の人間関係に関して知識を有してはいるが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	４．幼児と保護者の人間関係について理解できている。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について具体的に考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない場合がある。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	１．適切な言葉の活用ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を十分示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない場合がある。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない。
技能	２．手遊びや手話歌の実践ができる。	その場の雰囲気や文脈に沿う手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等の音程やリズムが曖昧なまま実践している。
技能	３．対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と意思の疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。

科目名	（保育内容）環境 1クラス			授業番号	EE205A	サブタイトル			
教員	清水　憲志								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	子どもの発達を環境とかかわる力の側面から学ぶ。実践例，ビデオ視聴，保育現場の観察，遊び等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり，それを生活に取り入れていこうとする力を養うための保育の展開について学び，指導力・実践力を身につけることを目指す。								
到達目標	子どもと環境とのかかわりや子どもの育ちを理解し，具体的な保育の環境のあり方とその考え方，教師の援助のあり方について学ぶことで，環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育と環境 …保育における環境をの意味を理解しよう。	
第2回	領域「環境」の捉え方と考え方 …領域「環境」について考えてみよう。	
第3回	保育環境の構成 …環境を構成する理由を知ろう。	
第4回	人的環境について …人的環境の意味を知ろう。	
第5回	豊かな生活を育む環境をデザインする …様々な環境（自然）を知ろう。	
第6回	泥団子を作ろう …泥団子を作って楽しもう。	
第7回	泥団子を極めよう …泥団子の理論を理解して，実践してみよう。	
第8回	ごっこ遊びについて …ごっこ遊びの重要性を知ろう。	
第9回	遊びにかかわる指導を考えよう …指導案を立案して保育の実践をイメージしよう。	
第10回	生き物や植物，自然の事象に関心を持つ食育，栽培活動について …食育及び栽培計画を作成しよう。	
第11回	作品展について …子どもの色々な作品を見て，感性を磨こう。	
第12回	フォトブック鑑賞会 …それぞれが作ったフォトブックを見ながら，感性を高めよう	
第13回	砂・水遊びの指導を考えよう(1)理論編 …砂・水遊びの意味を知り，計画してみよう。	
第14回	砂・水遊びの指導を考えよう(2)実践編 …それぞれに指導案から実践してみよう。	
第15回	子どもを守る安全な環境について …保育における安全な環境ついて考えよう。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	30	フォトブックの作成（自然物）

評価の方法：自由記載	フォトブックについて ・写真１０枚以上（１０種類以上）（１点） ・表紙にタイトルをつける（１点） ・裏表紙に学籍番号・名前を書く（１点） ・本形式であること（閉じ紐，リング，ファイル，リボン，ノートetc）（１点） ・大きさ15cm×18cm以上（１点） ○ポイント ・子どもがみてわかりやすいこと（10点） ・統一感を持って作成してあること（5点） ・自分なりの工夫がされていること（10点） ※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。
受講の心得	日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。
授業外学修	1. 復習として，ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「面白い」「やってみたい」と心弾ませる子どもを目指して	住野好久　清水憲志　福澤惇也	ASOBI書房	979-8392113552	
使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年３月　内閣府，文部科学省，厚生労働省）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立保育所保育士（8年），附属幼稚園教諭（1年）,ネイチャーゲームリーダー（1年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	子どもの育ちを豊かにする環境について，実務経験【公立保育所保育士（8年），附属幼稚園教諭（1年）】を生かして，実践事例を取り入れ，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と結びつけ，指導の大切さを学ぶとともに，学生自身が実体験することで感動体験を味わい，保育者としての資質が向上できるような援助する。また、自然への興味関心を高めるためネイチャーゲーム【ネイチャーゲームリーダー（1年）】を行い,自然を身近なものとして捉えられるようにする。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．環境が及ぼす影響を理解し、想像力豊かに構成できる。	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成するイメージができる。	発達の連続性を意識して、環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがあまりできる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがしにくい。
知識・理解	２．人的環境として相応しい、自然への知識・興味・関心を持ち、発達に応じて援助できる。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合い、子どもの気持ちを考え、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合っており、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がない。

科目名	（保育内容）環境 2クラス			授業番号	EE205B	サブタイトル			
教員	清水　憲志								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	子どもの発達を環境とかかわる力の側面から学ぶ。実践例，ビデオ視聴，保育現場の観察，遊び等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり，それを生活に取り入れていこうとする力を養うための保育の展開について学び，指導力・実践力を身につけることを目指す。								
到達目標	子どもと環境とのかかわりや子どもの育ちを理解し，具体的な保育の環境のあり方とその考え方，教師の援助のあり方について学ぶことで，環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育と環境 …保育における環境をの意味を理解しよう。	
第2回	領域「環境」の捉え方と考え方 …領域「環境」について考えてみよう。	
第3回	保育環境の構成 …環境を構成する理由を知ろう。	
第4回	人的環境について …人的環境の意味を知ろう。	
第5回	豊かな生活を育む環境をデザインする …様々な環境（自然）を知ろう。	
第6回	泥団子を作ろう …泥団子を作って楽しもう。	
第7回	泥団子を極めよう …泥団子の理論を理解して，実践してみよう。	
第8回	ごっこ遊びについて …ごっこ遊びの重要性を知ろう。	
第9回	遊びにかかわる指導を考えよう …指導案を立案して保育の実践をイメージしよう。	
第10回	生き物や植物，自然の事象に関心を持つ食育，栽培活動について …食育及び栽培計画を作成しよう。	
第11回	作品展について …子どもの色々な作品を見て，感性を磨こう。	
第12回	フォトブック鑑賞会 …それぞれが作ったフォトブックを見ながら，感性を高めよう	
第13回	砂・水遊びの指導を考えよう(1)理論編 …砂・水遊びの意味を知り，計画してみよう。	
第14回	砂・水遊びの指導を考えよう(2)実践編 …それぞれに指導案から実践してみよう。	
第15回	子どもを守る安全な環境について …保育における安全な環境ついて考えよう。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	30	フォトブックの作成（自然物）

評価の方法：自由記載	フォトブックについて ・写真１０枚以上（１０種類以上）（１点） ・表紙にタイトルをつける（１点） ・裏表紙に学籍番号・名前を書く（１点） ・本形式であること（閉じ紐，リング，ファイル，リボン，ノートetc）（１点） ・大きさ15cm×18cm以上（１点） ○ポイント ・子どもがみてわかりやすいこと（10点） ・統一感を持って作成してあること（5点） ・自分なりの工夫がされていること（10点） ※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。
受講の心得	日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。
授業外学修	1. 復習として，ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「面白い」「やってみたい」と心弾ませる子どもを目指して	住野好久　清水憲志　福澤惇也	ASOBI書房	979-8392113552	
使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針解説（平成30年３月 厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年３月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 （平成30年３月 内閣府，文部科学省，厚生労働省）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立保育所保育士（8年），附属幼稚園教諭（1年）,ネイチャーゲームリーダー（1年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	子どもの育ちを豊かにする環境について，実務経験【公立保育所保育士（8年），附属幼稚園教諭（1年）】を生かして，実践事例を取り入れ，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と結びつけ，指導の大切さを学ぶとともに，学生自身が実体験することで感動体験を味わい，保育者としての資質が向上できるような援助する。また、自然への興味関心を高めるためネイチャーゲーム【ネイチャーゲームリーダー（1年）】を行い,自然を身近なものとして捉えられるようにする。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．環境が及ぼす影響を理解し、想像力豊かに構成できる。	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成するイメージができる。	発達の連続性を意識して、環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがあまりできる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがしにくい。
知識・理解	２．人的環境として相応しい、自然への知識・興味・関心を持ち、発達に応じて援助できる。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合い、子どもの気持ちを考え、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合っており、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がない。

科目名	（保育内容）言葉 1クラス			授業番号	EE206A	サブタイトル			
教員	山本 房子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	保育内容における領域「言葉」について理解するとともに，子どもの発達に関する知識や言葉を育てる児童文化財を実際に体験することを通して，子どもの言葉の育ちを支える保育者のかかわりについて学ぶ。								
到達目標	・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における，ねらい・内容・留意事項を理解できる。 ・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。 ・絵本，ペープサートなどの児童文化財の実践を行うことができる。 ・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもと言葉① 言葉の意義と主な機能（コミュニケーション・思考・行動調整）について理解する	
第2回	子どもと言葉② 言葉を獲得するために必要な基礎について理解する	
第3回	子どもと言葉③ 前言語期における身近な大人の関わりの重要性及び乳児の言葉の特徴と発達について理解する	
第4回	子どもと言葉④ 幼児の言葉の特徴と発達について理解する	
第5回	幼児教育における言葉 領域「言葉」のねらいと内容について理解する	
第6回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財① 児童文化財の保育における役割について理解する 身近な児童文化財である絵本や紙芝居の特性について知る	
第7回	絵本の読み聞かせをする（模擬保育をする）	
第8回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財② 様々な児童文化財があることを知る。 ペープサート，エプロンシアター，パネルシアターなどを体験する	
第9回	言葉に対する感覚とは 様々な言葉遊びや日本語の表現に触れ，言葉そのもののもつ面白さや楽しさを知る	
第10回	保育で用いるペープサートを作る① ペープサートの基本的な作り方を知り，題材を選ぶ	
第11回	保育で用いるペープサートを作る② 保育現場での実践を想定し，作ったペープサートが子どもにどのように見えるかを意識しながら工夫して作る	
第12回	ペープサートを演じる（模擬保育をする）	
第13回	子どもの言葉を育む保育の実際について映像資料から考える	
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝え合い」の視点から小学校との接続について考える	
第15回	特別支援，多文化共生の視点から言葉の発達に関わる諸問題について考える	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業における発表や参加態度など，ルーブリックをもとに評価する。
定期試験	50	到達目標に関する基本的な知識について試験を行い，理解度を評価する。
その他	20	絵本の読み聞かせに必要な技術や知識に気付けたかどうかを評価する。（10%）ペープサートを作成し演じる。 保育現場での実践を想定し，子どもの発達段階や興味関心，子どもの見え方等を意識して作成，演じることができたかどうかを評価する。（10%）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	絵本の読み聞かせやペープサート等の実践発表については，授業時間外における教材研究，発表練習が必要となってくるが，積極的に取り組むこと。
授業外学修	1　予習として教科書の授業にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習としてノートの記入や資料の整理をする。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
指導法もいっしょに学ぶ保育内容「言葉」	浅井　拓久也　編著	教育情報出版	978-4-909378-58-3	税込み2000円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領	文部科学省　厚生労働省　内閣府	チャイルド本社	978-4805402580	500円＋税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年）としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（19年）をもつ教員が，事例や実践をもとに領域「言葉」における保育内容等について演習授業を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．言葉の意義や機能	人間にとっての言葉の意義や機能について,乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて,具体的かつ論理的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について,乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について具体的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について,説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について,説明することができにくい。
知識・理解	2．領域「言葉」に関する知識	領域「言葉」に関する具体的な知識を深く修得している。	領域「言葉」に関する具体的な知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識の習得が不十分である。	領域「言葉」に関する知識の習得ができていない。
知識・理解	3．保育者の姿勢や援助	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し,具体的,建設的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し,具体的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し,適切に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本についての理解が不十分であるため,適切に述べることができにくい。	乳幼児の言葉の発達や獲得のを支える保育者の姿勢や援助の基本について理解できていないため述べることができない。
思考・問題解決能力	1．課題への対処	乳幼児の言葉の発達に関する様々な視点や方法について,探究心をもって取り組み明らかにしようとする。	乳幼児の言葉の発達に関する様々な視点や方法について,探究心をもって取り組むことができる。	乳幼児の言葉の発達に関する様々な視点や方法について,問題意識をもって考えることができる。	担当教員の指示があれば,乳幼児の言葉の発達に関して,考えたり調べたりすることができる。	担当教員の指示があっても,乳幼児の言葉の発達に関して,考えたり調べたりすることができにくい。
技能	1．絵本の読み聞かせ	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえ,かつ,事前に繰り返し練習した上で,適切に読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえ,かつ事前に繰り返し練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえ,かつ事前に練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえて読み聞かせをしているが,事前の練習が不十分である。	保育における読み聞かせのポイントの理解が不十分であるとともに,事前の練習をしていない。
技能	2．ペープサートの作成,発表	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などのポイントをふまえ,かつ,事前に繰り返し練習した上で,適切にペープサートを演じることができる。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などのポイントをふまえ,かつ事前に繰り返し練習した上で演じることができる。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などポイントをふまえ,かつ事前に練習した上で演じることができる。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などポイントをふまえて演じているが,事前の練習が不十分である。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などポイントの理解が不十分であるとともに,事前の練習をしていない。
態度	1．受講態度	授業内容や課題の意図を十分理解し,自分なりの考えを分かりやすく発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を適切に理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが,自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず,自分なりの意見もない。
態度	2．グループ活動での言動	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかは十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかしか発揮していないが,目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらも発揮しておらず,目標や目的に向かって取り組むこともできていない。

科目名	（保育内容）言葉 2クラス			授業番号	EE206B	サブタイトル			
教員	山本 房子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	保育内容における領域「言葉」について理解するとともに，子どもの発達に関する知識や言葉を育てる児童文化財を実際に体験することを通して，子どもの言葉の育ちを支える保育者のかかわりについて学ぶ。								
到達目標	・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における，ねらい・内容・留意事項を理解できる。 ・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。 ・絵本，ペープサートなどの児童文化財の実践を行うことができる。 ・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもと言葉① 言葉の意義と主な機能（コミュニケーション・思考・行動調整）について理解する	
第2回	子どもと言葉② 言葉を獲得するために必要な基礎について理解する	
第3回	子どもと言葉③ 前言語期における身近な大人の関わりの重要性及び乳児の言葉の特徴と発達について理解する	
第4回	子どもと言葉④ 幼児の言葉の特徴と発達について理解する	
第5回	幼児教育における言葉 領域「言葉」のねらいと内容について理解する	
第6回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財① 児童文化財の保育における役割について理解する 身近な児童文化財である絵本や紙芝居の特性について知る	
第7回	絵本の読み聞かせをする（模擬保育をする）	
第8回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財② 様々な児童文化財があることを知る。 ペープサート，エプロンシアター，パネルシアターなどを体験する	
第9回	言葉に対する感覚とは 様々な言葉遊びや日本語の表現に触れ，言葉そのもののもつ面白さや楽しさを知る	
第10回	保育で用いるペープサートを作る① ペープサートの基本的な作り方を知り，題材を選ぶ	
第11回	保育で用いるペープサートを作る② 保育現場での実践を想定し，作ったペープサートが子どもにどのように見えるかを意識しながら工夫して作る	
第12回	ペープサートを演じる（模擬保育をする）	
第13回	子どもの言葉を育む保育の実際について映像資料から考える	
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝え合い」の視点から小学校との接続について考える	
第15回	特別支援，多文化共生の視点から言葉の発達に関わる諸問題について考える	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業における発表や参加態度など，ルーブリックをもとに評価する。
定期試験	50	到達目標に関する基本的な知識について試験を行い，理解度を評価する。
その他	20	絵本の読み聞かせに必要な技術や知識に気付けたかどうかを評価する。（10%）ペープサートを作成し演じる。 保育現場での実践を想定し，子どもの発達段階や興味関心，子どもの見え方等を意識して作成，演じることができたかどうかを評価する。（10%）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	絵本の読み聞かせやペープサート等の実践発表については，授業時間外における教材研究，発表練習が必要となってくるが，積極的に取り組むこと。
授業外学修	1　予習として教科書の授業にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習としてノートの記入や資料の整理をする。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
指導法もいっしょに学ぶ保育内容「言葉」	浅井　拓久也　編著	教育情報出版	978-4-909378-58-3	税込み2000円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領	文部科学省　厚生労働省　内閣府	チャイルド本社	978-4805402580	500円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年）としての実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（19年）をもつ教員が，事例や実践をもとに領域「言葉」における保育内容等について演習授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．言葉の意義や機能	人間にとっての言葉の意義や機能について,乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて,具体的かつ論理的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について,乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について具体的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について,説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について,説明することができにくい。
知識・理解	2．領域「言葉」に関する知識	領域「言葉」に関する具体的な知識を深く修得している。	領域「言葉」に関する具体的な知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識の習得が不十分である。	領域「言葉」に関する知識の習得ができていない。
知識・理解	3．保育者の姿勢や援助	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し,具体的,建設的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し,具体的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し,適切に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本についての理解が不十分であるため,適切に述べることができにくい。	乳幼児の言葉の発達や獲得のを支える保育者の姿勢や援助の基本について理解できていないため述べることができない。
思考・問題解決能力	1．課題への対処	乳幼児の言葉の発達に関する様々な視点や方法について,探究心をもって取り組み明らかにしようとする。	乳幼児の言葉の発達に関する様々な視点や方法について,探究心をもって取り組むことができる。	乳幼児の言葉の発達に関する様々な視点や方法について,問題意識をもって考えることができる。	担当教員の指示があれば,乳幼児の言葉の発達に関して,考えたり調べたりすることができる。	担当教員の指示があっても,乳幼児の言葉の発達に関して,考えたり調べたりすることができにくい。
技能	1．絵本の読み聞かせ	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえ,かつ,事前に繰り返し練習した上で,適切に読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえ,かつ事前に繰り返し練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえ,かつ事前に練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえて読み聞かせをしているが,事前の練習が不十分である。	保育における読み聞かせのポイントの理解が不十分であるとともに,事前の練習をしていない。
技能	2．ペープサートの作成,発表	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などのポイントをふまえ,かつ,事前に繰り返し練習した上で,適切にペープサートを演じることができる。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などのポイントをふまえ,かつ事前に繰り返し練習した上で演じることができる。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などポイントをふまえ,かつ事前に練習した上で演じることができる。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などポイントをふまえて演じているが,事前の練習が不十分である。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などポイントの理解が不十分であるとともに,事前の練習をしていない。
態度	1．受講態度	授業内容や課題の意図を十分理解し,自分なりの考えを分かりやすく発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を適切に理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し,自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが,自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず,自分なりの意見もない。
態度	2．グループ活動での言動	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかは十分に発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し,目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらかしか発揮していないが,目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ,メンバーシップのどちらも発揮しておらず,目標や目的に向かって取り組むこともできていない。

科目名	（保育内容）表現 1クラス			授業番号	EE207A	サブタイトル			
教員	鳥越　亜矢、岡本　美幸								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	子どもの成長過程における多様な表現に関して，幅広く表現の意義とその必要性を理解する。幼児期の発達特性をふまえながら，創造性豊かに楽しく表現し，創作体験を重ねることにより，豊かな感性を磨くとともに創造性を高め，指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。								
到達目標	感じたことを色や形で表現することができること，制作物を使った表現ができること，また，音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい，幼児の発達特性に合わせた指導ができるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	１回～３回　オノマトペの表現４回～７回　ブラックライトを使った音・光・形の競演８回～11回　音やリズムを表現する 12回～15回　体を使った表現や音を感じ、伝える体験 授業の効率をあげるためにグループに分かれて行なう内容がある。								

回	概要	担当
第1回	オノマトペの表現　１　オノマトペを探す（音・触感・様子を表す表現など）　　オノマトペに関する説明を聞き，概要を理解する。3回目までの進め方と内容について理解する。グループを形成して話し合い，発表内容を決めて担当教員に報告する。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第2回	オノマトペの表現　２　練習・リハーサル・手直し 表現の発表に必要なものを準備または作成する。発表に使用する教室にグループごとに移動し，動き方や表現の確認をする。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第3回	オノマトペの表現　３　発表と振り返り 通し練習の後、グループごとにオノマトペをテーマにした内容を発表する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。・工夫したところ，自他の発表で面白いと感じたこととその理由，改善点。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第4回	ブラックライトを使った音・光・形の競演１：　概要の理解 ブラックライトやそれを使った舞台表現について参考資料を視聴し，構想・制作・練習・発表までの説明を受けて概要を理解する。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第5回	ブラックライトを使った音・光・形の競演２：制作・練習 音楽ホールにブラックライトを設置して，光るものもって舞台に立って動いてみる経験をする。教室で製作を行い，練習は音楽ホールで行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などをいろいろと試行する。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第6回	ブラックライトを使った音・光・形の競演３：リハーサル・手直し 第5回目の経験を踏まえて教室での製作の仕上げと随時音楽ホールでの練習を行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などのさらなる検討を行う。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第7回	ブラックライトを使った音・光・形の競演４：上演（音楽ホール）と振り返り 音楽ホールにて全グループによる通し練習を行った後，本番としての上演を行う。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。・工夫したところ，自他の発表で面白いと感じたこととその理由，改善点。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第8回	音やリズムを表現する　１保育教材「タップリン」の素材さがしと作成 ブラックライトを使った音・光・形の競演の振り帰りについて総評としてのコメントを聞く。音やリズム遊びを楽しむ保育教材について紹介し，手袋の指先にボタンなどを縫い付けるなどして固いものを取り付ける。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第9回	音やリズムを表現する　２タップリンの作成と演奏に向けて 作成の続きのほかに，何をたたくか素材を探したりたたき方を試したりするほか，リズムや曲に合わせた練習をする。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第10回	音やリズムを表現する　３タップリンを用いた演奏に向けて 曲に合わせたステージへの入退場方法を考えたり，たたくものやたたき方を工夫したりして表現としての質が高まるよう練習する。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第11回	音やリズムを表現する　４タップリンを用いた演奏と振り返り リハーサル後に上演する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。・工夫したところ，自他の発表で面白いと感じたこととその理由，改善点。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第12回	手遊び・手話歌・リトミック／音を感じる体験１ 手遊び・手話歌を体験するグループと，音を様々な方法で身体的に感じる体験をするグループに分かれて様々な表現の体験と理解を深める。なお，これらの内容には表現体験と鑑賞体験の基盤となる感受するものが含まれる。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第13回	音を感じる体験１／手遊び・手話歌・リトミック12回目に受講した内容ではない方の体験をする。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第14回	リトミック／音を感じる体験２リトミックについて体験的に理解するグループと，様々な方法で音を伝える体験のグループに分かれて様々な表現の体験と理解を深める。なお，これらの内容には表現体験と鑑賞体験の基盤となる感受するものが含まれる。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第15回	音を感じる体験２／リトミック14回目に受講した内容ではない方の体験をする。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき評価する。 (1)課題について真摯に向き合い，深く考えた意見を発表，または提出プリントに記述できる。 (2)グループ活動のリーダーになった場合の務めを果たし目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。 (3)グループ活動でメンバー同士として積極的に意見交換ができ，グループ内で協力して目標に向かう姿勢が見られる。
小テスト（舞台等における発表）	20	グループ活動の発表の中で主に次の観点で評価する。(１)実技発表の内容における創造性。(2)実技発表及び成果物としての完成度。(3)目標到達に対して最後まで改善する意欲や，向上心を持って取り組んでいるか。
その他	20	以下の姿勢を評価する。個性，感性を尊重し合い，情報交換のコミュニケーション力を発揮することができる。各課題の準備や処理に対しても責任ある行動ができる。他者の発表に対して興味，関心を持ち，多くの気づきを共有する発言，行動ができる。

評価の方法：自由記載	授業の流れの中でも終始受け身の姿勢に留まらず，個人として率先して，意見や発表を行う姿勢を示すことも大切な評価とする。また，実技発表においては準備段階からの全体の流れを振り返り，評価をフィードバックする。
受講の心得	［造形表現について］課題に対して主体的・創造的な姿勢で，意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。使用した道具・用具の片付け，清掃をきちんとすること。 ［音楽表現について］発表の場に対し積極的に取り組み，音楽の感性を広げていく姿勢を持って臨むこと。
授業外学修	授業で学んだ成果を元に，週当たり２時間～４時間予習復習すること。 予習として授業内容に関連する情報収集を行い，他者に還元する姿勢を持ち，復習としては授業内容の取組を反省し深める姿勢を持つこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達特性に応じた表現活動	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた表現活動を具体的に考えることができる。	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解して、表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解しているが、それに応じた表現活動を考えるに至らない場合がある。	幼児の発達特性の理解が浅く、それに応じた表現活動を考えるに至らない。
思考・問題解決能力	１．視覚的・聴覚的情報を活用した表現活動	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力に長けており、それらを効果的に活用して、新たな表現の創造ができる。	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、新たな表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力はあるが、表現においては他者を模倣することが多い。	視覚的・聴覚的情報をうまく活用できず、表現に結びつかない。
技能	１．感じたことの表現	感じた色々なことを様々なな方法で十分に表現することができる。	感じた色々なことを様々なな方法で表現することができる。	感じたことをいろいろな方法で表現することができる。	他者の表現を模倣しながら感じたことを表現する。	表現方法が示されていても、感じたことを表現することに結びつかない。
技能	２．手遊びや手話歌の実践	気持ちに余裕を持ち、表情豊かに正しい音程・音量で実践できる。	表情豊かに正しい音程・音量で実践できる。	表情豊かに正しい音程で実践できる。	表情豊かであるが、音程があいまいなまま実践している。	表情が乏しく、あいまいな音程のまま実践している。
態度	１．課題への向き合い方	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や深く考えた意見をほぼ毎回発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、毎回ではないが、自分なりの知見や深く考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図の理解はできているが、自分なりの知見や考えた意見を発表したり、記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，また記述できない。
態度	２．グループ活動での行動	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分発揮できている状態。グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していない。グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮していない。そのうえ、グループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	（保育内容）表現 2クラス			授業番号	EE207B	サブタイトル			
教員	鳥越　亜矢、岡本　美幸								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	子どもの成長過程における多様な表現に関して，幅広く表現の意義とその必要性を理解する。幼児期の発達特性をふまえながら，創造性豊かに楽しく表現し，創作体験を重ねることにより，豊かな感性を磨くとともに創造性を高め，指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。								
到達目標	感じたことを色や形で表現することができること，制作物を使った表現ができること，また，音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい，幼児の発達特性に合わせた指導ができるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	１回～３回　オノマトペの表現４回～７回　ブラックライトを使った音・光・形の競演８回～11回　音やリズムを表現する 12回～15回　体を使った表現や音を感じ、伝える体験 授業の効率をあげるためにグループに分かれて行なう内容がある。								

回	概要	担当
第1回	オノマトペの表現　１　オノマトペを探す（音・触感・様子を表す表現など）　　オノマトペに関する説明を聞き，概要を理解する。3回目までの進め方と内容について理解する。グループを形成して話し合い，発表内容を決めて担当教員に報告する。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第2回	オノマトペの表現　２　練習・リハーサル・手直し 表現の発表に必要なものを準備または作成する。発表に使用する教室にグループごとに移動し，動き方や表現の確認をする。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第3回	オノマトペの表現　３　発表と振り返り 通し練習の後、グループごとにオノマトペをテーマにした内容を発表する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。・工夫したところ，自他の発表で面白いと感じたこととその理由，改善点。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第4回	ブラックライトを使った音・光・形の競演１：　概要の理解 ブラックライトやそれを使った舞台表現について参考資料を視聴し，構想・制作・練習・発表までの説明を受けて概要を理解する。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第5回	ブラックライトを使った音・光・形の競演２：制作・練習 音楽ホールにブラックライトを設置して，光るものもって舞台に立って動いてみる経験をする。教室で製作を行い，練習は音楽ホールで行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などをいろいろと試行する。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第6回	ブラックライトを使った音・光・形の競演３：リハーサル・手直し 第5回目の経験を踏まえて教室での製作の仕上げと随時音楽ホールでの練習を行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などのさらなる検討を行う。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第7回	ブラックライトを使った音・光・形の競演４：上演（音楽ホール）と振り返り 音楽ホールにて全グループによる通し練習を行った後，本番としての上演を行う。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。・工夫したところ，自他の発表で面白いと感じたこととその理由，改善点。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第8回	音やリズムを表現する　１保育教材「タップリン」の素材さがしと作成 ブラックライトを使った音・光・形の競演の振り帰りについて総評としてのコメントを聞く。音やリズム遊びを楽しむ保育教材について紹介し，手袋の指先にボタンなどを縫い付けるなどして固いものを取り付ける。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第9回	音やリズムを表現する　２タップリンの作成と演奏に向けて 作成の続きのほかに，何をたたくか素材を探したりたたき方を試したりするほか，リズムや曲に合わせた練習をする。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第10回	音やリズムを表現する　３タップリンを用いた演奏に向けて 曲に合わせたステージへの入退場方法を考えたり，たたくものやたたき方を工夫したりして表現としての質が高まるよう練習する。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第11回	音やリズムを表現する　４タップリンを用いた演奏と振り返り リハーサル後に上演する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。・工夫したところ，自他の発表で面白いと感じたこととその理由，改善点。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第12回	手遊び・手話歌・リトミック／音を感じる体験１ 手遊び・手話歌を体験するグループと，音を様々な方法で身体的に感じる体験をするグループに分かれて様々な表現の体験と理解を深める。なお，これらの内容には表現体験と鑑賞体験の基盤となる感受するものが含まれる。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第13回	音を感じる体験１／手遊び・手話歌・リトミック12回目に受講した内容ではない方の体験をする。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第14回	リトミック／音を感じる体験２リトミックについて体験的に理解するグループと，様々な方法で音を伝える体験のグループに分かれて様々な表現の体験と理解を深める。なお，これらの内容には表現体験と鑑賞体験の基盤となる感受するものが含まれる。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
第15回	音を感じる体験２／リトミック14回目に受講した内容ではない方の体験をする。	鳥越　亜矢 岡本　美幸
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき評価する。 (1)課題について真摯に向き合い，深く考えた意見を発表，または提出プリントに記述できる。 (2)グループ活動のリーダーになった場合の務めを果たし目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。 (3)グループ活動でメンバー同士として積極的に意見交換ができ，グループ内で協力して目標に向かう姿勢が見られる。
小テスト（舞台等における発表）	20	グループ活動の発表の中で主に次の観点で評価する。(１)実技発表の内容における創造性。(2)実技発表及び成果物としての完成度。(3)目標到達に対して最後まで改善する意欲や，向上心を持って取り組んでいるか。
その他	20	以下の姿勢を評価する。個性，感性を尊重し合い，情報交換のコミュニケーション力を発揮することができる。各課題の準備や処理に対しても責任ある行動ができる。他者の発表に対して興味，関心を持ち，多くの気づきを共有する発言，行動ができる。

評価の方法：自由記載	授業の流れの中でも終始受け身の姿勢に留まらず，個人として率先して，意見や発表を行う姿勢を示すことも大切な評価とする。また，実技発表においては準備段階からの全体の流れを振り返り，評価をフィードバックする。
受講の心得	［造形表現について］課題に対して主体的・創造的な姿勢で，意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。使用した道具・用具の片付け，清掃をきちんとすること。 ［音楽表現について］発表の場に対し積極的に取り組み，音楽の感性を広げていく姿勢を持って臨むこと。
授業外学修	授業で学んだ成果を元に，週当たり２時間～４時間予習復習すること。 予習として授業内容に関連する情報収集を行い，他者に還元する姿勢を持ち，復習としては授業内容の取組を反省し深める姿勢を持つこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達特性に応じた表現活動	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた表現活動を具体的に考えることができる。	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解して、表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解しているが、それに応じた表現活動を考えるに至らない場合がある。	幼児の発達特性の理解が浅く、それに応じた表現活動を考えるに至らない。
思考・問題解決能力	１．視覚的・聴覚的情報を活用した表現活動	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力に長けており、それらを効果的に活用して、新たな表現の創造ができる。	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、新たな表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力はあるが、表現においては他者を模倣することが多い。	視覚的・聴覚的情報をうまく活用できず、表現に結びつかない。
技能	１．感じたことの表現	感じた色々なことを様々なな方法で十分に表現することができる。	感じた色々なことを様々なな方法で表現することができる。	感じたことをいろいろな方法で表現することができる。	他者の表現を模倣しながら感じたことを表現する。	表現方法が示されていても、感じたことを表現することに結びつかない。
技能	２．手遊びや手話歌の実践	気持ちに余裕を持ち、表情豊かに正しい音程・音量で実践できる。	表情豊かに正しい音程・音量で実践できる。	表情豊かに正しい音程で実践できる。	表情豊かであるが、音程があいまいなまま実践している。	表情が乏しく、あいまいな音程のまま実践している。
態度	１．課題への向き合い方	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や深く考えた意見をほぼ毎回発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、毎回ではないが、自分なりの知見や深く考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図の理解はできているが、自分なりの知見や考えた意見を発表したり、記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，また記述できない。
態度	２．グループ活動での行動	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分発揮できている状態。グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していない。グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮していない。そのうえ、グループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	保育内容の理解と方法A 1クラス			授業番号	EE208A	サブタイトル			
教員	扇越　亜矢								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	身近な素材や道具，技法の特性を理解して表現活動を行う。								
到達目標	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養い，身近な素材や道具，技法の特性を理解した表現活動を行えるようになるとともに，それらの活用を保育実践として具体的に考えるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「面白い」を捉える「5Cの力」とは 『子どもの造形表現』第1章，第８章を中心に保育の視点として機能する「5Cの力」を覚え，理解すること。	
第2回	幼児の造形表現の発達 資料や教科書，講義を通して心身と造形表現の関係から幼児の造形表現の発達を理解する。	
第3回	子どもの造形表現の基本「切る」「くっつける」「塗る・描く」 教科書の第３章・第６章の内容を中心に，造形表現につながる行為や環境構成との関係について理解する。	
第4回	かく材料の教材研究I　画材類／基底材 ／身近なものが道具になる 水溶性絵具や固形絵具の特徴や着色する各種基底材との関係を演習を通して理解するとともに，身の回りにあるものを使った描線の面白さや描き心地を味わうことで，幼児の表現活動にふさわしい画材や道具について理解する。	
第5回	かく材料の教材研究II　パス類の比較 各種固形絵具を比較し、環境へのらくがき体験をする。活動を通して描くことや環境が描画活動に様々な影響を与えることを理解する。	
第6回	パスの技法遊び　カラーカーボン・スクラッチ 線描や面描に適したパス類があることを理解し，画材の特性を生かした活動の重要性や同じ画材を使った様々な活動展開の可能性を理解する。	
第7回	偶然の色と形の技法遊びI　偶然と対称 偶然の表現や対称の表現になる技法あそびを体験し，できた色や形から新たなイメージを付加する見立て活動を行う。	
第8回	偶然の色と形の技法遊びII　模様の遊び→見立てや活用 様々な方法で二度と作ることのできない模様を生み出す体験をする。また，その模様から新しい造形イメージを見出したり，保育現場や家庭における活用法を考えたりする。	
第9回	色を使った様々な遊び 染料を使って紙を染める模様の遊びを体験後，その染液を活用して光を生かした色水遊びを行う。	
第10回	廃材を使った造形表現活動：発想・構想 建築廃材や生活廃材を触ったり加工したりしながら，その良さを生かしたモノづくりに向けてアイデアを出し合ったり，試作をしたりする。	
第11回	廃材を使った造形表現活動：制作・完成 10回目の続きを行い完成させる。また，作品タイトルや工夫点や見どころを書いて作品とともに提出する。	
第12回	可塑性のある素材［紙］１　連続切り・組み紙 折り紙を使って連続切り・組み紙をする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの模様を生み出すことを理解し，楽しむ。	
第13回	可塑性のある素材［紙］２　切り紙（2つ折り・4つ折り） 折り紙を使って2つ折り・4つ折りをする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの形を生み出すことを理解し，楽しむ。第12回目で作ったものと組み合わせて一人一人の制作物を持ち寄り，黒板に創造的なひまわりのお花畑を作り出すことにより，個人作品が集合作品に活用できることを理解する。	
第14回	可塑性のある素材［紙］３ 切り紙（５つ折り） 折り紙を使って５つ折りをする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの形を生み出すことを理解し，楽しむ。授業中に実技試験を行い，正しい折り方とイメージ通りの形になるように鋏を使うことができるかを評価する。	
第15回	可塑性のある素材［紙］４　切り紙（6つ折り） 折り紙を使って５つ折りをする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの形を生み出すことを理解し，楽しむ。また，一人一人の作品を持ち寄り，黒板に海の世界を作り出すことにより，個人作品が集合作品に活用できることを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業中の活動や発言について，以下の観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。 (1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。 (2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。 (3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。 (4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。 (5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。 なお，観点(1)～(5)は「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。
その他	70	スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか，また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。スケッチブックには各種確認印等を，Googleクラスルームに投稿された課題にはコメント等を付けることによるフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへ方法等を図示したり写真を貼ったりして，あとから見てもわかるように演習を記録していることも評価する。
受講の心得	造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。 指定した回までにA４サイズのスケッチブック（紙の素材は白い画用紙であること）と「なんでもボックス」を用意しておくこと。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示することがある。詳細は授業中に説明する。 授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物にいれておくこと。しかし，情報検索や記録等の目的で使用を指示することがある。
授業外学修	予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの造形表現　第3版	北沢昌代　畠山智宏　中村光絵	開成出版	978-4-87603-553-3	2500
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版　遊びの指導	幼少年教育研究所	同文書院	978-4-8103-0037-6	3200
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県教育センター(4年) 幼稚園・保育園における研修講師（13年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	各種の演習内容や「面白い」を捉える「5Cの力」は幼稚園や保育園等における造形研修で紹介している内容である。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達や特性を理解した演習記録	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る詳細な演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	授業回数の1／3程度は、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	演習内容の手順の記述に終始しており、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録の作成ができない。
知識・理解	２．演習内容における保育者に必要な造形表現の知識とその活用	色彩については中学校の美術科で学習する内容以上の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識であると理解したうえで、存分に表現活動できる。	色彩については中学校の美術科で学習する内容の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識と理解したうえで、表現活動できる。	色彩については中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法は小学校で経験する内容であることを保育者に必要な基礎知識として再認識しながら、得た知識や経験を生かして表現活動できる。	色彩については、中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法については、小学校で経験する内容であること、それらが保育者に必要な基礎知識であるという理解がないままに、得た知識や経験を生かして表現活動している。	保育者に必要な造形表現の知識が中学校の美術科での学習内容であることや、小学校で経験する内容であることが、授業の体験を通じても理解できない。また、得た知識や経験を生かした表現活動になっていない。
思考・問題解決能力	１．授業の説明に基づく演習準備のあり方や、演習記録における活動の環境構成に関する記述	授業中の説明を聞いて、自分たちでやりやすい環境を考えながら準備して造形活動することができる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて具体的かつ詳細に記述できる。	授業中の説明を聞いて、自分たちでやりやすい環境を考えながら準備して造形活動することができる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて具体的に記述できる。	授業中の説明を聞いて、自分たちでやりやすい環境を考えながら準備して造形活動することができる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて記述することができる。	授業中の説明以外に教師から個別にアドバイスを受けながらやりやすい環境を考えながら準備して造形活動できる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて記述することができる。	授業中の説明以外に教師から個別にアドバイスを受けてもやりやすい環境を考えて造形活動することができない。また、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて記述することができない。
思考・問題解決能力	２．感性と表現イメージの醸成における他者とのコミュニケーションや五感を駆使して得た情報の活用	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、すぐにそこから様々なイメージを豊かに想起して自他の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、様々なイメージを豊かに想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境から感じたり、情報を得たりするほか、教師から具体的なアドバイスを受けることを通じて、なんとかイメージを想起して、表現活動することができる。	他者との情報交換や、自らの五感を使って活動や環境から感じたり、情報を得たりするほか、教師から具体的なアドバイスを受けることを通じて、なんとかイメージを想起して、表現活動することができる。	他者と情報交換をしたり、自らの五感で活動や環境から感じたり、得たりした情報を活用することが難しく、教師から具体的なアドバイスを受けてもイメージを想起して表現活動することができない。
技能	１．道具や素材、技法の特性を理解し、これまでの経験を踏まえた表現活動	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を十分理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら独創的な表現活動できる。	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら表現活動できる。	素材の特徴をとらえ、道具を正しく使える。技法の特性や手順を理解して表現活動できており、自分の経験と結びつけることができる。	素材の特徴をとらえ、道具を使って、技法の手順に沿った活動がどうにかできる。また、教師の助言により、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができる。	素材の特徴が分からず、道具の正しい操作ができない。また、技法の特性や手順の理解ができない。また、教師の助言があっても、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができない。

科目名	保育内容の理解と方法A 2クラス			授業番号	EE208B	サブタイトル			
教員	扇越　亜矢								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	身近な素材や道具，技法の特性を理解して表現活動を行う。								
到達目標	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養い，身近な素材や道具，技法の特性を理解した表現活動を行えるようになるとともに，それらの活用を保育実践として具体的に考えるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「面白い」を捉える「5Cの力」とは 『子どもの造形表現』第1章，第８章を中心に保育の視点として機能する「5Cの力」を覚え，理解すること。	
第2回	幼児の造形表現の発達 資料や教科書，講義を通して心身と造形表現の関係から幼児の造形表現の発達を理解する。	
第3回	子どもの造形表現の基本「切る」「くっつける」「塗る・描く」 教科書の第３章・第６章の内容を中心に，造形表現につながる行為や環境構成との関係について理解する。	
第4回	かく材料の教材研究I　画材類／基底材 ／身近なものが道具になる 水溶性絵具や固形絵具の特徴や着色する各種基底材との関係を演習を通して理解するとともに，身の回りにあるものを使った描線の面白さや描き心地を味わうことで，幼児の表現活動にふさわしい画材や道具について理解する。	
第5回	かく材料の教材研究II　パス類の比較 各種固形絵具を比較し、環境へのらくがき体験をする。活動を通して描くことや環境が描画活動に様々な影響を与えることを理解する。	
第6回	パスの技法遊び　カラーカーボン・スクラッチ 線描や面描に適したパス類があることを理解し，画材の特性を生かした活動の重要性や同じ画材を使った様々な活動展開の可能性を理解する。	
第7回	偶然の色と形の技法遊びI　偶然と対称 偶然の表現や対称の表現になる技法あそびを体験し，できた色や形から新たなイメージを付加する見立て活動を行う。	
第8回	偶然の色と形の技法遊びII　模様の遊び→見立てや活用 様々な方法で二度と作ることのできない模様を生み出す体験をする。また，その模様から新しい造形イメージを見出したり，保育現場や家庭における活用法を考えたりする。	
第9回	色を使った様々な遊び 染料を使って紙を染める模様の遊びを体験後，その染液を活用して光を生かした色水遊びを行う。	
第10回	廃材を使った造形表現活動：発想・構想 建築廃材や生活廃材を触ったり加工したりしながら，その良さを生かしたモノづくりに向けてアイデアを出し合ったり，試作をしたりする。	
第11回	廃材を使った造形表現活動：制作・完成 10回目の続きを行い完成させる。また，作品タイトルや工夫点や見どころを書いて作品とともに提出する。	
第12回	可塑性のある素材［紙］1　連続切り・組み紙 折り紙を使って連続切り・組み紙をする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの模様を生み出すことを理解し，楽しむ。	
第13回	可塑性のある素材［紙］2　切り紙（2つ折り・4つ折り） 折り紙を使って2つ折り・4つ折りをする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの形を生み出すことを理解し，楽しむ。第12回目で作ったものと組み合わせて一人一人の制作物を持ち寄り，黒板に創造的なひまわりのお花畑を作り出すことにより，個人作品が集合作品に活用できることを理解する。	
第14回	可塑性のある素材［紙］3　切り紙（５つ折り） 折り紙を使って５つ折りをする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの形を生み出すことを理解し，楽しむ。授業中に実技試験を行い，正しい折り方とイメージ通りの形になるように鋏を使うことができるかを評価する。	
第15回	可塑性のある素材［紙］4　切り紙（6つ折り） 折り紙を使って５つ折りをする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの形を生み出すことを理解し，楽しむ。また，一人一人の作品を持ち寄り，黒板に海の世界を作り出すことにより，個人作品が集合作品に活用できることを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業中の活動や発言について，以下の観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。 (1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。 (2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。 (3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。 (4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。 (5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。 なお，観点(1)～(5)は「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。
その他	70	スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか，また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。スケッチブックには各種確認印等を，Googleクラスルームに投稿された課題にはコメント等を付けることによるフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへ方法等を図示したり写真を貼ったりして，あとから見てもわかるように演習を記録していることも評価する。
受講の心得	造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。 指定した回までにA４サイズのスケッチブック（紙の素材は白い画用紙であること）と「なんでもボックス」を用意しておくこと。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示することがある。詳細は授業中に説明する。 授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物にいれておくこと。しかし，情報検索や記録等の目的で使用を指示することがある。
授業外学修	予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの造形表現　第3版	北沢昌代　畠山智宏　中村光絵	開成出版	978-4-87603-553-3	2500
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版　遊びの指導	幼少年教育研究所	同文書院	978-4-8103-0037-6	3200
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県教育センター(4年) 幼稚園・保育園における研修講師（13年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	各種の演習内容や「面白い」を捉える「5Cの力」は幼稚園や保育園等における造形研修で紹介している内容である。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達や特性を理解した演習記録	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る詳細な演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	授業回数の1／3程度は、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	演習内容の手順の記述に終始しており、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録の作成ができない。
知識・理解	２．演習内容における保育者に必要な造形表現の知識とその活用	色彩については中学校の美術科で学習する内容以上の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識であると理解したうえで、存分に表現活動できる。	色彩については中学校の美術科で学習する内容の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識と理解したうえで、表現活動できる。	色彩については中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法は小学校で経験する内容であることを保育者に必要な基礎知識として再認識しながら、得た知識や経験を生かして表現活動できる。	色彩については、中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法については、小学校で経験する内容であること、それらが保育者に必要な基礎知識であるという理解がないままに、得た知識や経験を生かして表現活動している。	保育者に必要な造形表現の知識が中学校の美術科での学習内容であることや、小学校で経験する内容であることが、授業の体験を通じても理解できない。また、得た知識や経験を生かした表現活動になっていない。
思考・問題解決能力	１．授業の説明に基づく演習準備のあり方や、演習記録における活動の環境構成に関する記述	授業中の説明を聞いて、自分たちでやりやすい環境を考えながら準備して造形活動することができる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて具体的かつ詳細に記述できる。	授業中の説明を聞いて、自分たちでやりやすい環境を考えながら準備して造形活動することができる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて具体的に記述できる。	授業中の説明を聞いて、自分たちでやりやすい環境を考えながら準備して造形活動することができる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて記述することができる。	授業中の説明以外に教師から個別にアドバイスを受けながらやりやすい環境を考えながら準備して造形活動できる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて記述することができる。	授業中の説明以外に教師から個別にアドバイスを受けてもやりやすい環境を考えて造形活動することができない。また、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて記述することができない。
思考・問題解決能力	２．感性と表現イメージの醸成における他者とのコミュニケーションや五感を駆使して得た情報の活用	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、すぐにそこから様々なイメージを豊かに想起して自他の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、様々なイメージを豊かに想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境から感じたり、情報を得たりすることを通じてイメージを想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者との情報交換や、自らの五感を使って活動や環境から感じたり、情報を得たりするほか、教師から具体的なアドバイスを受けることを通じて、なんとかイメージを想起して、表現活動することができる。	他者と情報交換をしたり、自らの五感で活動や環境から感じたり、得たりした情報を活用することが難しく、教師から具体的なアドバイスを受けてもイメージを想起して表現活動することができない。
技能	１．道具や素材、技法の特性を理解し、これまでの経験を踏まえた表現活動	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を十分理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら独創的な表現活動できる。	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら表現活動できる。	素材の特徴をとらえ、道具を正しく使える。技法の特性や手順を理解して表現活動できており、自分の経験と結びつけることができる。	素材の特徴をとらえ、道具を使って、技法の手順に沿った活動がどうにかできる。また、教師の助言により、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができる。	素材の特徴が分からず、道具の正しい操作ができない。また、技法の特性や手順の理解ができない。また、教師の助言があっても、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができない。

科目名	保育内容の理解と方法B 1クラス			授業番号	EE209A	サブタイトル			
教員	扇越　亜矢								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	前期開講の保育内容の理解と方法Aの学習内容を踏まえつつ，素材と関わりながら色や形，リズム，感触等を意識して様々な表現活動を行う。								
到達目標	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて，子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養うとともに，自らの感性を養い，表現イメージを豊かにする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	素材との直接体験(1) 同じ素材に対する様々な関わり方 「破ってびりびり」からの「パルプ粘土」というタイトルで，生活の中にある紙素材を用いた素材と戯れる体験の後，ゲーム性のある遊びで環境を変えて次の活動に移り，紙素材の特徴を体感する。一連の活動を通じ，活動の展開の仕方と，紙素材が様々に変容することを理解する。	
第2回	素材との直接体験(2) 粘土のいろいろ 油粘土 様々な粘土があることを知り，3歳以上児を対象とした油粘土の活動を行う。	
第3回	素材との直接体験(3) 同じものをたくさん使って遊ぶ 楽しく遊ぶ前提となるルールと基本的な素材の扱い方を知り，1万個以上の紙コップとカプラで遊ぶ。単一の素材でどのような遊びが展開するかを試行しながら遊ぶ。	
第4回	版画のいろいろ・幼児の発達に応じた表現活動（1）ものや手形によるスタンピング 体や物を使ったとスタンピング を行う中で表出と表現の往来を楽しむ。また，幼児でもモノを使うことにより形の合成ができることや，構成を考えながら絵画的な表現をすることを理解する。	
第5回	幼児の発達に応じた表現活動（2）環境への関わりを意識して フロッタージュ（こすりだし）を行い，何をこすったのかを当てるスライドづくりを行う。この活動を通じて環境に内在している造形的な面白さに気づく体験をする。また，葉っぱのローラー転がしでは，正しいローラーの使い方を理解するとともに，こすりだしとは異なる方法による形や色の表現を楽しむ。	
第6回	幼児の発達に応じた表現活動（3） 環境への関わりを意識して 第5回目でGoogleスライドを使って作成したフロッタージュのクイズ大会を行い，環境に対するそれぞれの着眼点の違いを実感する。また，スチレン版画のフレームづくりとフレーム遊びでは，生活廃材のアップサイクルと，アップサイクルしたものを使ってそれぞれの興味関心に従って環境を切り取る活動を行う。こうした活動を通じて，環境への様々なかかわり方や，それによって身近な環境が特別なものに変化する面白さを理解する。	
第7回	幼児の発達に応じた表現活動（4） スチレン版画：凹ませて作る凸版印刷 版の様式について理解し，スチレン版画が凹ませて作る凸版印刷であることと，幼児にも簡単にできる版づくりであることを踏まえて版づくりを行い，印刷・額装までを行う。印刷では幼児でもできる凸版印刷の方法と版画用具の正しい使い方を理解する。	
第8回	幼児の発達に応じた表現活動(5) 貼り重ねて作る凸版印刷／同じ原版による転写版画 紙版画には貼り絵の方法による版づくりの工程と印刷する工程があることを理解する。また，幼児に扱いやすい紙素材の提供の仕方や，糊付けの指導内容について理解する。版づくりでは紙の意大きさと貼る順序を意識して版を作ることにより，多様な表現（刷り上がり）になることを理解する。印刷では同じ原版を凸版印刷と平版印刷の方法で印刷した場合の効果について理解する。	
第9回	色彩に興味を持つ活動(1) 色が生まれる 見えない色を見る 光の混色（加法混色），絵の具の混色（減法混色），実際の様子とは異なる認知をする色の体験（並置混色，回転混色，補色残像）をし，色は見て認識する以外に，現実にはそこにない色を認知する場合があることや，光と絵具の混色の関係性について理解する。演習ではコーヒー用のペーパーフィルターと水性マーカーを用いてペーパークロマトグラフィーという手法による，色を取り出す活動をする。この活動では，色が混色されてできていることを体感する。	
第10回	色彩に興味を持つ活動(2) 偶然の色と形を生かした創作ほか 第9回目に行った活動で乾燥したペーパーフィルターに，偶然に現れた色と形を生かして創作貼り絵をする。貼り絵には筆記用具での加筆もできる。紙版画の時に行った糊付け指導の内容を意識して貼り絵をする。また，画材ではなく落ち葉や花などの身の回りのものをスケッチブックにこすりつけ，身の回りにあるものが出す色を見つけてその良さを味わう。	
第11回	色彩に興味を持つ活動(3) 減法混色と回転混色の活動 スケッチブックに減法混色による色相のあそびを行う。みんな同じ色の絵具を使うけれども，混色してできる色はその時にしかできない自分だけの色であることを体感する。また，廃材とタコ糸，マーカーを使ったブンブンゴマを作って回し，回転混色遊びをする。	
第12回	色を知る 色の属性（色相・明度・彩度）や，有彩色と無彩色・清色と濁色について知り，それぞれの関係性を理解する。また，３色（白・黒・純色）で色のつながりを作る活動でその知識を具現化することにより，色についての理解を深める。	
第13回	教材制作とその活用１　基本形 ソックスを使って口がパクパクと動く手遣い人形の基本形までを作る。作る人形には名前や性格付けを行い，どのような保育場面で活用するかを考えて活用シートに記述する。	
第14回	教材制作とその活用２　完成と発表 パクパク人形の仕上げを行い，完成した人形を使って簡単な劇や歌などの発表をする。	
第15回	身近な素材で楽しむ探究的な遊び 牛乳パックとストローを使い，飛ぶおもちゃを作る。あそびで子どもが培う思考力や心や体，モノをコントロールする力を意識し，自分たちで「遊びを生み出して楽しみ，展開する」経験をする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業中の活動や発言について，以下の観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。 (1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。 (2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。 (3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。 (4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。 (5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。 なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法Aと同様に，「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。
クラスルーム等への投稿	15	活動結果が写真や動画でなければならないものについてはクラスルームへの投稿を求める。その内容が当該授業内容に合致していることを評価する。
その他	70	製作した保育教材，スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか，また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。提出物返却に当たり，各種チェックサインやコメントなどを付けてフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへの演習記録内容の充実度も評価する。制作した保育教材については発表内容も併せて評価の対象とする。
受講の心得	造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。 前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用している「なんでもボックス」，スケッチブックを引き続き使用して構わない。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示するが詳細は授業中に説明する。
授業外学修	予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用しているテキスト（『子どもの造形表現　第３版』『新版　遊びの指導』）を引き続き使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県教育センター研究講師（3年），幼稚園・保育園における研修講師（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	岡山県教育センター研究講師（3年），幼稚園・保育園における研修講師（14年）のような保育者を対象にした様々な研修講師の経験を活かし，幼児の発達に応じた様々な造形表現技法とそのポイントなどについて演習を通して指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達や特性を理解した演習記録	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る詳細な演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	授業回数の1／3程度は、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	演習内容の手順の記述に終始しており、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録の作成ができない。
知識・理解	２．保育者に必要な造形表現の知識とその活用	色彩については中学校の美術科で学習する内容以上の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識であると理解したうえで、存分に表現活動できる。	色彩については中学校の美術科で学習する内容の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識と理解したうえで、表現活動できる。	色彩については中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法は小学校で経験する内容であることを保育者に必要な基礎知識として再認識しながら、得た知識や経験を生かして表現活動できる。	色彩については、中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法については、小学校で経験する内容であること、それらが保育者に必要な基礎知識であるという理解がないままに、得た知識や経験を生かして表現活動している。	保育者に必要な造形表現の知識が中学校の美術科での学習内容であることや、小学校で経験する内容であることが、授業の体験を通じても理解できない。また、得た知識や経験を生かした表現活動になっていない。
思考・問題解決能力	１．演習記録における活動の環境構成に対する記述	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しており、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考えるようとしている。また、幼児の実態把握に努める必要性も感じ始めている。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しており、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考えるようとしている。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しており、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考える必要性を理解している。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しようとするが、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考える必要性の理解には至っていない。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しようとしておらず、幼児が活動しやすい環境構成を考える必要性も感じていない。
思考・問題解決能力	２．感性と表現イメージの醸成における他者とのコミュニケーションや五感を駆使して得た情報の活用	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、すぐにそこから様々なイメージを豊かに想起して表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、様々なイメージを豊かに想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境から感じたり、情報を得たりすることを通じてイメージを想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者との情報交換や、自らの五感を使って活動や環境から感じたり、情報を得たりするほか、アドバイスを受けることを通じて、なんとかイメージを想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者と情報交換をしたり、自らの五感で活動や環境から感じたり、得られた情報を活用することが難しく、イメージを想起することも、自分の経験を踏まえながら表現活動することもできない。
技能	１．道具や素材、技法の特性を理解し、これまでの経験を踏まえた表現活動	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を十分理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら独創的な表現活動できる。	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら表現活動できる。	素材の特徴をとらえ、道具を正しく使える。技法の特性や手順を理解して表現活動できており、自分の経験と結びつけることができる。	素材の特徴をとらえ、道具を使って、技法の手順に沿った活動ができる。また、教師の助言により、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができる。	素材の特徴が分からず、道具の正しい操作ができない。また、技法の特性や手順の理解ができない。また、教師の助言があっても、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができない。
技能	２．素材の特徴や教材としての特性を生かした教材作成とその活用	素材の特徴や教材としての特性を生かした完成度の高い造形になっている。また、活用のねらいやそれに応じた活用方法を3つ以上具体的に考えて作成している。	素材の特徴や教材としての特性を生かした完成度の高い造形になっている。また、活用のねらいやそれに応じた活用方法を2つ程度具体的に考えて作成している。	素材の特徴や教材としての特性を生かした造形になっている。また、活用のねらいやそれに応じた活用方法を具体的に考えて作成している。	素材の特徴や教材としての特性を理解した造形になっている。しかし、活用はできるが、活用のねらいを具体的に定めることができない。	素材の特徴や教材としての特性を理解した造形になっていない。また、活動のねらいやそれに応じた活用方法を全く考えていない。

科目名	保育内容の理解と方法B 2クラス			授業番号	EE209B	サブタイトル			
教員	扇越　亜矢								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	前期開講の保育内容の理解と方法Aの学習内容を踏まえつつ，素材と関わりながら色や形，リズム，感触等を意識して様々な表現活動を行う。								
到達目標	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて，子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養うとともに，自らの感性を養い，表現イメージを豊かにする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	素材との直接体験(1) 同じ素材に対する様々な関わり方 「破ってびりびり」からの「パルプ粘土」というタイトルで，生活の中にある紙素材を用いた素材と戯れる体験の後，ゲーム性のある遊びで環境を変えて次の活動に移り，紙素材の特徴を体感する。一連の活動を通じ，活動の展開の仕方と，紙素材が様々に変容することを理解する。	
第2回	素材との直接体験(2) 粘土のいろいろ 油粘土 様々な粘土があることを知り，3歳以上児を対象とした油粘土の活動を行う。	
第3回	素材との直接体験(3) 同じものをたくさん使って遊ぶ 楽しく遊ぶ前提となるルールと基本的な素材の扱い方を知り，1万個以上の紙コップとカプラで遊ぶ。単一の素材でどのような遊びが展開するかを試行しながら遊ぶ。	
第4回	版画のいろいろ・幼児の発達に応じた表現活動（1）ものや手形によるスタンピング 体や物を使ったとスタンピング を行う中で表出と表現の往来を楽しむ。また，幼児でもモノを使うことにより形の合成ができることや，構成を考えながら絵画的な表現をすることを理解する。	
第5回	幼児の発達に応じた表現活動（2）環境への関わりを意識して フロッタージュ（こすりだし）を行い，何をこすったのかを当てるスライドづくりを行う。この活動を通じて環境に内在している造形的な面白さに気づく体験をする。また，葉っぱのローラー転がしでは，正しいローラーの使い方を理解するとともに，こすりだしとは異なる方法による形や色の表現を楽しむ。	
第6回	幼児の発達に応じた表現活動（3） 環境への関わりを意識して 第5回目でGoogleスライドを使って作成したフロッタージュのクイズ大会を行い，環境に対するそれぞれの着眼点の違いを実感する。また，スチレン版画のフレームづくりとフレーム遊びでは，生活廃材のアップサイクルと，アップサイクルしたものを使ってそれぞれの興味関心に従って環境を切り取る活動を行う。こうした活動を通じて，環境への様々なかかわり方や，それによって身近な環境が特別なものに変化する面白さを理解する。	
第7回	幼児の発達に応じた表現活動（4） スチレン版画：凹ませて作る凸版印刷 版の様式について理解し，スチレン版画が凹ませて作る凸版印刷であることと，幼児にも簡単にできる版づくりであることを踏まえて版づくりを行い，印刷・額装までを行う。印刷では幼児でもできる凸版印刷の方法と版画用具の正しい使い方を理解する。	
第8回	幼児の発達に応じた表現活動(5) 貼り重ねて作る凸版印刷／同じ原版による転写版画 紙版画には貼り絵の方法による版づくりの工程と印刷する工程があることを理解する。また，幼児に扱いやすい紙素材の提供の仕方や，糊付けの指導内容について理解する。版づくりでは紙の意大きさと貼る順序を意識して版を作ることにより，多様な表現（刷り上がり）になることを理解する。印刷では同じ原版を凸版印刷と平版印刷の方法で印刷した場合の効果について理解する。	
第9回	色彩に興味を持つ活動(1) 色が生まれる 見えない色を見る 光の混色（加法混色），絵の具の混色（減法混色），実際の様子とは異なる認知をする色の体験（並置混色，回転混色，補色残像）をし，色は見て認識する以外に，現実にはそこにない色を認知する場合があることや，光と絵具の混色の関係性について理解する。演習ではコーヒー用のペーパーフィルターと水性マーカーを用いてペーパークロマトグラフィーという手法による，色を取り出す活動をする。この活動では，色が混色されてできていることを体感する。	
第10回	色彩に興味を持つ活動(2) 偶然の色と形を生かした創作ほか 第9回目に行った活動で乾燥したペーパーフィルターに，偶然に現れた色と形を生かして創作貼り絵をする。貼り絵には筆記用具での加筆もできる。紙版画の時に行った糊付け指導の内容を意識して貼り絵をする。また，画材ではなく落ち葉や花などの身の回りのものをスケッチブックにこすりつけ，身の回りにあるものが出す色を見つけてその良さを味わう。	
第11回	色彩に興味を持つ活動(3) 減法混色と回転混色の活動 スケッチブックに減法混色による色相のあそびを行う。みんな同じ色の絵具を使うけれども，混色してできる色はその時にしかできない自分だけの色であることを体感する。また，廃材とタコ糸，マーカーを使ったブンブンゴマを作って回し，回転混色遊びをする。	
第12回	色を知る 色の属性（色相・明度・彩度）や，有彩色と無彩色・清色と濁色について知り，それぞれの関係性を理解する。また，３色（白・黒・純色）で色のつながりを作る活動でその知識を具現化することにより，色についての理解を深める。	
第13回	教材制作とその活用１　基本形 ソックスを使って口がパクパクと動く手遣い人形の基本形までを作る。作る人形には名前や性格付けを行い，どのような保育場面で活用するかを考えて活用シートに記述する。	
第14回	教材制作とその活用２　完成と発表 パクパク人形の仕上げを行い，完成した人形を使って簡単な劇や歌などの発表をする。	
第15回	身近な素材で楽しむ探究的な遊び 牛乳パックとストローを使い，飛ぶおもちゃを作る。あそびで子どもが培う思考力や心や体，モノをコントロールする力を意識し，自分たちで「遊びを生み出して楽しみ，展開する」経験をする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業中の活動や発言について，以下の観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。 (1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。 (2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。 (3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。 (4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。 (5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。 なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法Aと同様に，「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。
クラスルーム等への投稿	15	活動結果が写真や動画でなければならないものについてはクラスルームへの投稿を求める。その内容が当該授業内容に合致していることを評価する。
その他	70	製作した保育教材，スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか，また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。提出物返却に当たり，各種チェックサインやコメントなどを付けてフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへの演習記録内容の充実度も評価する。制作した保育教材については発表内容も併せて評価の対象とする。
受講の心得	造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。 前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用している「なんでもボックス」，スケッチブックを引き続き使用して構わない。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示するが詳細は授業中に説明する。
授業外学修	予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用しているテキスト（『子どもの造形表現　第３版』『新版　遊びの指導』）を引き続き使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県教育センター研究講師（3年），幼稚園・保育園における研修講師（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	岡山県教育センター研究講師（3年），幼稚園・保育園における研修講師（14年）のような保育者を対象にした様々な研修講師の経験を活かし，幼児の発達に応じた様々な造形表現技法とそのポイントなどについて演習を通して指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達や特性を理解した演習記録	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る詳細な演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	授業回数の1／3程度は、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	演習内容の手順の記述に終始しており、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録の作成ができない。
知識・理解	２．保育者に必要な造形表現の知識とその活用	色彩については中学校の美術科で学習する内容以上の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識であると理解したうえで、存分に表現活動できる。	色彩については中学校の美術科で学習する内容の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識と理解したうえで、表現活動できる。	色彩については中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法は小学校で経験する内容であることを保育者に必要な基礎知識として再認識しながら、得た知識や経験を生かして表現活動できる。	色彩については、中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法については、小学校で経験する内容であること、それらが保育者に必要な基礎知識であるという理解がないままに、得た知識や経験を生かして表現活動している。	保育者に必要な造形表現の知識が中学校の美術科での学習内容であることや、小学校で経験する内容であることが、授業の体験を通じても理解できない。また、得た知識や経験を生かした表現活動になっていない。
思考・問題解決能力	１．演習記録における活動の環境構成に対する記述	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しており、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考えるようとしている。また、幼児の実態把握に努める必要性も感じ始めている。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しており、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考えるようとしている。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しており、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考える必要性を理解している。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しようとするが、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考える必要性の理解には至っていない。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しようとしておらず、幼児が活動しやすい環境構成を考える必要性も感じていない。
思考・問題解決能力	２．感性と表現イメージの醸成における他者とのコミュニケーションや五感を駆使して得た情報の活用	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、すぐにそこから様々なイメージを豊かに想起して表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、様々なイメージを豊かに想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境から感じたり、情報を得たりすることを通じてイメージを想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者との情報交換や、自らの五感を使って活動や環境から感じたり、情報を得たりするほか、アドバイスを受けることを通じて、なんとかイメージを想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者と情報交換をしたり、自らの五感で活動や環境から感じたり、得られた情報を活用することが難しく、イメージを想起することも、自分の経験を踏まえながら表現活動することもできない。
技能	１．道具や素材、技法の特性を理解し、これまでの経験を踏まえた表現活動	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を十分理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら独創的な表現活動できる。	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら表現活動できる。	素材の特徴をとらえ、道具を正しく使える。技法の特性や手順を理解して表現活動できており、自分の経験と結びつけることができる。	素材の特徴をとらえ、道具を使って、技法の手順に沿った活動ができる。また、教師の助言により、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができる。	素材の特徴が分からず、道具の正しい操作ができない。また、技法の特性や手順の理解ができない。また、教師の助言があっても、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができない。
技能	２．素材の特徴や教材としての特性を生かした教材作成とその活用	素材の特徴や教材としての特性を生かした完成度の高い造形になっている。また、活用のねらいやそれに応じた活用方法を3つ以上具体的に考えて作成している。	素材の特徴や教材としての特性を生かした完成度の高い造形になっている。また、活用のねらいやそれに応じた活用方法を2つ程度具体的に考えて作成している。	素材の特徴や教材としての特性を生かした造形になっている。また、活用のねらいやそれに応じた活用方法を具体的に考えて作成している。	素材の特徴や教材としての特性を理解した造形になっている。しかし、活用はできるが、活用のねらいを具体的に定めることができない。	素材の特徴や教材としての特性を理解した造形になっていない。また、活動のねらいやそれに応じた活用方法を全く考えていない。

科目名	乳児保育 I			授業番号	EE210	サブタイトル			
教員	岡本 美幸								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	乳乳児保育の目的・役割，歴史的変遷について解説し，多様な乳児保育の場の現状・課題について理解する。そのうえで，日々保育所等で乳児保育に携わる保育者が実践している保育内容や保育方法，運営体制について知識・理解を深め，保育を行うことのできる技能を身につけていく。								
到達目標	・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 ・保育所や認定こども園，乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と人的・物的環境のあり方，運営体制について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する 。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	乳児保育及び子育て家庭に関する社会的状況とその課題 乳児保育はなぜ必要なのか，社会的背景から保育及び子育て支援のあり方や考える。	
第2回	歴史的変遷と乳児保育の現状 乳児保育の歴史的変遷や実際の乳児保育の現状について理解する。	
第3回	人生の基礎としての乳児期 胎児期から新生児期の育つ力について理解する。	
第4回	乳児の心や言葉の発達 身近な人との絆を育む過程や思いを通じ合う手段を得る過程を理解する。	
第5回	乳児保育における子育て支援 乳児保育の視点から保護者を支えていくための子育て支援について理解する。	
第6回	保育所以外の施設や家庭的保育等における乳児保育 保育所や認定子ども園だけでなく，児童福祉施設等で行っている乳児保育について理解する。	
第7回	「保育所保育指針」とは 保育所保育指針における乳児保育のポイントを理解する。	
第8回	0歳児の発達と生活（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔）の環境 0歳児の生活や遊びの考え方と，生活面における人的・物的環境について理解する。	
第9回	0歳児の発達と遊びの意義 0歳児の発育・発達を踏まえた遊びの環境と保育者の関わりについて理解する。	
第10回	1，２歳児の発達と生活（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔）の環境 1，2歳児の生活や遊びの考え方と，生活面における人的・物的環境について理解する。	
第11回	1，2歳児の発達と遊びの意義 1，2歳児の発育・発達を踏まえた遊びの環境と保育者の関わりについて理解する。	
第12回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育 子どもの育ちの連続性を支える保育者間の連携のあり方を理解する。	
第13回	乳児保育における様々な連携 子どもの育ちを支えるための様々な連携について理解する。	
第14回	乳児保育における計画・記録・評価とその意義 乳児保育の具体的な計画を作成する視点を理解する。	
第15回	一人一人を健やかに育んでいくために（総括） 一人一人の乳児を丁寧に保育をする重要性について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	グループワークを含めた授業への参加・貢献度，提出遅れ・受講態度も考慮し評価する。
レポート	10	授業振り返りレポート課題を踏まえ，その内容を共通理解できるように適宜授業内で解説する。
小テスト	20	確認テストを行い，授業内容の理解度を評価する。採点後に返却する。
定期試験	50	授業全般の内容について，理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	乳児保育の基本は，子どもも保育者も人間として向き合い学びあうことである。授業の取り組みも同様で，全員が主体者であり学びあいの場となるように取り組むこと。
授業外学修	学んだことを振り返り，保育の現場等での実践に重ね合わせて試みることで，学修の定着を図ること。授業において，乳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びに必要な環境作りを検討する。そのために休日や放課後等を利用した週2時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ乳児保育　第三版	志村聡子(編著)・塩崎美穂・藤枝充子・渡邉美智子・坂田知子・柳井郁子・小柳康子・宇都弘美(著者)	同文書院	978-4-8103-1515-8	2,310円
保育所保育指針解説	厚生労働省 (編集)	フレーベル館	978-4-577-81448-2	352円
使用テキスト：自由記載	その他，授業中に適宜資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省 (著)	フレーベル館	978-4-577-81449-9	264円
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府 (著)， 文部科学省 (著)， 厚生労働省 (著)	フレーベル館	978-4-577-81447-5	385円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士（15年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	保育士の経験（15年）を活かして，具体的な事例を交えながら，3歳未満児の発育・発達を踏まえ保育について解説し，保育実践するための専門的知識や実践する能力を身につけられるように授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．乳児の発達についての理解	乳児の成長や発達についてよく理解して発言や記述ができる。	乳児の成長や発達について理解して発言や記述ができる。	乳児の成長や発達についておおむね理解して発言や記述ができる。	乳児の成長や発達についてあまり理解していないが、発言や記述はできる。	乳児の成長や発達について理解していないうえ、発言や記述もできない。
知識・理解	2．保育を計画し、チームで援助する方法への理解	年齢毎の保育のねらい、配慮、チーム保育についてよく理解して保育を計画できる。	年齢毎の保育のねらい、配慮、チーム保育について理解して保育を計画できる。	年齢毎の保育のねらい、配慮、チーム保育についておおむね理解して保育を計画できる。	年齢毎の保育のねらい、配慮、チーム保育をあまり理解していないが、保育の計画はできる。	年齢毎の保育のねらい、配慮、チーム保育を理解していないうえ、保育の計画もできない。
思考・問題解決能力	1．子ども一人一人の発達に応じた援助及び環境構成	子どもの発達を理解し、環境構成をしたり、適切な援助ができたりして、主体的に保育ができる。	子どもの発達を理解し、環境構成をしたり、適切な援助ができたりして、保育ができる。	子どもの発達を理解し、環境構成をしたり、適切な援助ができたりして、保育がおおむねできる。	子どもの発達を理解しているが、環境構成や適切な援助などの保育があまりできない。	子どもの発達を理解し、環境構成や適切な援助などの保育ができない。
思考・問題解決能力	2．目の前の子どもを理解し、一人一人にあった具体的な援助	乳児一人一人の発達を十分に理解し、他の保育者と連携する意味が分かったうえで適切な援助を行うことができる。	乳児一人一人の発達を理解し、他の保育者と連携する意味が分かったうえで適切な援助を行うことができる。	乳児の発達を理解し、他の保育者と連携する意味が分かったうえで適切な援助を行うことができる。	他の保育者と連携して保育する意味があまり分かっていないが、乳児の発達を理解したうえで、援助できる。	他の保育者と連携して保育する意味が分かっていないうえ、乳児の発達の理解もしていないため、適切な援助を行うことができない。
技能	1．日々の保育を計画したり、援助したりする保育実践力	乳児保育を十分に理解し、チームの一員として主体的に保育をするために、他の保育士と積極的に連携することが計画できる。	乳児保育を理解し、主体的に保育をするために、他の保育士と連携して保育することが計画できる。	乳児保育を理解し、他の保育士と連携して保育することが計画できる。	乳児保育を理解し、保育について計画ができる。	乳児保育が理解できておらず、保育について計画ができない。
態度	1．授業に対する態度	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に進んで参加できる。また、グループの中での発言が前向きであり、様々な提案ができる。	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に進んで参加できる。また、グループの中で提案ができる。	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に参加できる。また、グループの中で提案ができる。	授業に対する姿勢は前向きであり、グループワーク等に参加できる。グループ内での提案はできにくい。	授業に集中できていない。グループワーク等に参加することができるが、グループ内での提案はできにくい。

科目名	子どもの健康と安全 1クラス			授業番号	EE211A	サブタイトル			
教員	荒谷 友里恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	「保健活動の計画及び評価」「心身の健康に関する保健活動や環境」「体調不良等に対する適切な対応」「感染症対策」「衛生管理並びに安全管理」の各分野についての知識をどのように実践していくか，自分自身や仲間と考える課題や事例を通して実践力を身につける								
到達目標	１．子どもの健康の保持増進に関する保健活動を理解して，自分の意見を言える。 ２．子どもに起こりやすい病気の予防法と適切な対応方法，救急蘇生法を理解して，的確に演習できる。 ３．現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解して，自分の意見を言える。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 子どもの健康を守り，健全な発育，発達を支援する役割を担う保育者として子どもの保健の基礎知識と科学的根拠に基づいた技術を修得する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの健康と安全の必要性 本教科のすすめ方・目的・目標・内容・方法	
第2回	子どもの発育 正しい身体計測の方法と発育の評価の仕方を理解する	
第3回	子どもの健康状態 生理機能の発達を理解する	
第4回	子どもの養護 抱き方，寝かせ方，衣着脱，身体の清潔法などの実習	
第5回	子どもの生活習慣と心身の健康 生活習慣の基本となる生活リズムを理解する	
第6回	子どもの養護 食育について 食事の与え方などの実習	
第7回	子どもの養護 口腔内の衛生 歯みがきなどの実習	
第8回	子どもの病気 体調不良時の対応や看護の仕方を理解する	
第9回	子どもの事故と応急処置 事故・けがに対応する技能の習得 応急処置に習熟する実習	
第10回	衛生管理・安全教育と安全管理	
第11回	救命処置について理解する	
第12回	心肺蘇生法 心肺蘇生法の技能を習得	
第13回	健康教育の発表 作成した資料を使っての発表	
第14回	康教育の発表 作成した資料を使っての発表	
第15回	全体総括 授業のまとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	
レポート	15	レポートは提出期日が守れているか，内容が一致しているか，具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	到達目標１・２・３について，理解度・定着度を評価する。
その他	20	健康教育の発表

評価の方法：自由記載	
受講の心得	健康教育を実施する体験学習やグループワーク等を取り入れる グループ演習の際，メンバー同士で技術を高められるよう協力すること グループワークでは自分の意見をもち，積極的に発表すること
授業外学修	毎回，授業後は復習しておくこと 毎回の授業前までには，教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと 次回授業計画の範囲を予習し専門用語の意味を理解しておくこと 新聞等の保健情報をよく読んでおくこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもと社会の未来を拓く「子どもの健康と安全」	八木利津子他	青鞜社	978-4-902636-49-9	1900＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義中に提示する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師としての実務経験を有する。（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保健活動の理解	子どもに対する保健活動について正しい知識を十分もっている。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識を十分もっている。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義を十分理解し、具体的な事例を使った内容に、自分の意見が言える。	子どもに対する保健活動について正しい知識を十分もっている。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識を十分もっている。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義を理解し、具体的な事例を使った内容に、自分の意見を言おうと努力する。	子どもに対する保健活動について正しい知識を大体もっている。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識を大体もっている。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義は理解できるが、具体的な事例を使った内容について、自分の意見が言えない。	子どもに対する保健活動についての知識が乏しい。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識が乏しい。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義や、具体的な事例を使った内容について、積極的に考えない。	子どもに対する保健活動についての知識をもとうと努力しない。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識をもとうと努力しない。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義や、具体的な事例を使った内容を理解しようと努力しない。
知識・理解	2．病気と怪我の対応の理解	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法をすべて正しく理解できる。また、その科学的根拠についてすべて正確な知識がある。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法をほとんど正しく理解できる。また、その科学的根拠についてほとんど正確な知識がある。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法を半分以上正しく理解できる。また、その科学的根拠について半分以上正確な知識がある。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法を半分以上正確な知識がある。しかし、その科学的根拠について考えられていない。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法と災害時と緊急時の対応方法について正確な知識を得ようとしない。また、その科学的根拠について考えようとしない。
知識・理解	3．心の健康問題・地域の保健活動の理解	心の健康問題・地域の保健活動について、すべて正しい知識がある。それについて、自分の意見が言える。	心の健康問題・地域の保健活動について、ほとんど正しい知識がある。それについて、自分の意見が言える。	心の健康問題・地域の保健活動について、半分以上正しい知識がある。	心の健康問題・地域の保健活動について、部分的に正しい知識がある。	心の健康問題・地域の保健活動について、正しい知識が全くない。
思考・問題解決能力	1．事例検討	すべてのグループ討議に積極的に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を的確に理解し、それぞれ適切な対応について自分の意見を率先して言える。	すべてのグループ討議に積極的に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を的確に理解し、それぞれ適切な対応について自分の意見を言える。	ほとんどのグループ討議に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を理解し、それぞれ適切な対応について自分の意見を言える。	ほとんどのグループ討議に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を理解できず、それぞれ適切な対応についてグループメンバーの意見を聞くことはできるが言うことに消極的である。	グループ討議に欠席して、事例検討に参加しない。
技能	1．病気と怪我の対処法の技術習得	すべての演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。すべての演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	ほとんどの演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。ほとんどの演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得しようと努力する。演習で、グループメンバーの技術について観察し、アドバイスをしようと努力する。	演習で、グループメンバーからアドバイスをもらって技術を習得しようと努力する。グループメンバーにアドバイスすることはほとんどない。	演習の欠席が重なり、出席しても説明や演習に集中できず、正しい手順の習得ができない。
技能	2．救急蘇生法の技術習得（テスト）	幼児の救急蘇生法の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に迅速に行うことができる。	幼児の救急蘇生法の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に行うことができる。	幼児の救急蘇生法の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に行うことができる。蘇生の効果を高めるために一部改善すべき手順がある。	幼児の救急蘇生法をひととおり行うが、危険な行為があり早急に改善すべき手順がある。	練習不足で時間内に乳児の救急蘇生法・幼児の救急蘇生法をひととおり行うことができない。
態度	1．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組み、グループでリーダーシップがとれる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組むことができる。	意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。ほとんどの演習に集中して取り組むことができる。	テーマに沿った内容で意見・感想を述べることができる。また、やや知識の定着が見られる。演習に集中して取り組めていないことがある。	意欲的な態度が見られず、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができない。また、知識の定着も見られない。演習の取り組みが消極的で、集中できていない。
態度	2．服装身だしなみ	演習の授業で毎回、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業でほとんど、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で半分以上、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみを心がけるが、完璧にはできないことが多い。	演習の授業に普段着で参加することが1回以上ある。

科目名	子どもの健康と安全 2クラス			授業番号	EE211B	サブタイトル			
教員	荒谷 友里恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	「保健活動の計画及び評価」「心身の健康に関する保健活動や環境」「体調不良等に対する適切な対応」「感染症対策」「衛生管理並びに安全管理」の各分野についての知識をどのように実践していくか，自分自身や仲間と考える課題や事例を通して実践力を身につける								
到達目標	１．子どもの健康の保持増進に関する保健活動を理解して，自分の意見を言える。 ２．子どもに起こりやすい病気の予防法と適切な対応方法，救急蘇生法を理解して，的確に演習できる。 ３．現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解して，自分の意見を言える。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 子どもの健康を守り，健全な発育，発達を支援する役割を担う保育者として子どもの保健の基礎知識と科学的根拠に基づいた技術を修得する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの健康と安全の必要性 本教科のすすめ方・目的・目標・内容・方法	
第2回	子どもの発育 正しい身体計測の方法と発育の評価の仕方を理解する	
第3回	子どもの健康状態 生理機能の発達を理解する	
第4回	子どもの養護 抱き方，寝かせ方，衣着脱，身体の清潔法などの実習	
第5回	子どもの生活習慣と心身の健康 生活習慣の基本となる生活リズムを理解する	
第6回	子どもの養護 食育について 食事の与え方などの実習	
第7回	子どもの養護 口腔内の衛生 歯みがきなどの実習	
第8回	子どもの病気 体調不良時の対応や看護の仕方を理解する	
第9回	子どもの事故と応急処置 事故・けがに対応する技能の習得 応急処置に習熟する実習	
第10回	衛生管理・安全教育と安全管理	
第11回	救命処置について理解する	
第12回	心肺蘇生法 心肺蘇生法の技能を習得	
第13回	健康教育の発表 作成した資料を使っての発表	
第14回	康教育の発表 作成した資料を使っての発表	
第15回	全体総括 授業のまとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	
レポート	15	レポートは提出期日が守れているか，内容が一致しているか，具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	到達目標１・２・３について，理解度・定着度を評価する。
その他	20	健康教育の発表

評価の方法：自由記載	
受講の心得	健康教育を実施する体験学習やグループワーク等を取り入れる グループ演習の際，メンバー同士で技術を高められるよう協力すること グループワークでは自分の意見をもち，積極的に発表すること
授業外学修	毎回，授業後は復習しておくこと 毎回の授業前までには，教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと 次回授業計画の範囲を予習し専門用語の意味を理解しておくこと 新聞等の保健情報をよく読んでおくこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもと社会の未来を拓く「子どもの健康と安全」	八木利津子他	青鞜社	978-4-902636-49-9	1900＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義中に提示する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師としての実務経験を有する。（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保健活動の理解	子どもに対する保健活動について正しい知識を十分もっている。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識を十分もっている。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義を十分理解し、具体的な事例を使った内容に、自分の意見が言える。	子どもに対する保健活動について正しい知識を十分もっている。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識を十分もっている。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義を理解し、具体的な事例を使った内容に、自分の意見を言おうと努力する。	子どもに対する保健活動について正しい知識を大体もっている。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識を大体もっている。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義は理解できるが、具体的な事例を使った内容について、自分の意見が言えない。	子どもに対する保健活動についての知識が乏しい。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識が乏しい。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義や、具体的な事例を使った内容について、積極的に考えない。	子どもに対する保健活動についての知識をもとうと努力しない。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動についての知識をもとうと努力しない。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義や、具体的な事例を使った内容を理解しようと努力しない。
知識・理解	2．病気と怪我の対応の理解	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法をすべて正しく理解できる。また、その科学的根拠についてすべて正確な知識がある。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法をほとんど正しく理解できる。また、その科学的根拠についてほとんど正確な知識がある。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法を半分以上正しく理解できる。また、その科学的根拠について半分以上正確な知識がある。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法を半分以上正確な知識がある。しかし、その科学的根拠について考えられていない。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法と災害時と緊急時の対応方法について正確な知識を得ようとしない。また、その科学的根拠について考えようとしない。
知識・理解	3．心の健康問題・地域の保健活動の理解	心の健康問題・地域の保健活動について、すべて正しい知識がある。それについて、自分の意見が言える。	心の健康問題・地域の保健活動について、ほとんど正しい知識がある。それについて、自分の意見が言える。	心の健康問題・地域の保健活動について、半分以上正しい知識がある。	心の健康問題・地域の保健活動について、部分的に正しい知識がある。	心の健康問題・地域の保健活動について、正しい知識が全くない。
思考・問題解決能力	1．事例検討	すべてのグループ討議に積極的に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を的確に理解し、それぞれ適切な対応について自分の意見を率先して言える。	すべてのグループ討議に積極的に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を的確に理解し、それぞれ適切な対応について自分の意見を言える。	ほとんどのグループ討議に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を理解し、それぞれ適切な対応について自分の意見を言える。	ほとんどのグループ討議に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を理解できず、それぞれ適切な対応についてグループメンバーの意見を聞くことはできるが言うことに消極的である。	グループ討議に欠席して、事例検討に参加しない。
技能	1．病気と怪我の対処法の技術習得	すべての演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。すべての演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	ほとんどの演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。ほとんどの演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得しようと努力する。演習で、グループメンバーの技術について観察し、アドバイスをしようと努力する。	演習で、グループメンバーからアドバイスをもらって技術を習得しようと努力する。グループメンバーにアドバイスすることはほとんどない。	演習の欠席が重なり、出席しても説明や演習に集中できず、正しい手順の習得ができない。
技能	2．救急蘇生法の技術習得（テスト）	幼児の救急蘇生法の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に迅速に行うことができる。	幼児の救急蘇生法の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に行うことができる。	幼児の救急蘇生法の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に行うことができる。蘇生の効果を高めるために一部改善すべき手順がある。	幼児の救急蘇生法をひととおり行うが、危険な行為があり早急に改善すべき手順がある。	練習不足で時間内に乳児の救急蘇生法・幼児の救急蘇生法をひととおり行うことができない。
態度	1．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組み、グループでリーダーシップがとれる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組むことができる。	意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。ほとんどの演習に集中して取り組むことができる。	テーマに沿った内容で意見・感想を述べることができる。また、やや知識の定着が見られる。演習に集中して取り組めていないことがある。	意欲的な態度が見られず、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができない。また、知識の定着も見られない。演習の取り組みが消極的で、集中できていない。
態度	2．服装身だしなみ	演習の授業で毎回、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業でほとんど、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で半分以上、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみを心がけるが、完璧にはできないことが多い。	演習の授業に普段着で参加することが1回以上ある。

科目名	特別支援教育入門 1クラス			授業番号	EE212A	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	特別支援教育を支える理念に関して理解を深めるとともに，教育・保育をする上で必要な様々な障害について知り，個別の教育的ニーズを把握，他の教員や関係機関と連携等の技術を習得することを目的とする。								
到達目標	・障害等，特別な支援を要する事柄についての知識を獲得する。 ・特別な支援を要する子どもへの教育や保育，支援の方法を知り，実際に支援する際の方策を提示し，実施することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	特別支援教育とは 「特別支援教育」の意義と目的について理解する。	
第2回	障がいの意味と理解，特別支援教育の歴史的変遷 「障がい」について我が国と国際的な捉えを理解し，特別支援教育の歴史的変遷について知る。	
第3回	身体障がい児への理解と支援 身体障がいの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。	
第4回	知的障がいの理解 知的障がいの定義と具体的な特徴を知る。	
第5回	知的障がい児への支援 知的障がい児に対する支援方法を具体的に理解する。	
第6回	発達障害の理解，ASDの理解 発達障がいとASDの定義と具体的な特徴を知る。	
第7回	ASD児への支援 ASD児に対する支援方法を具体的に理解する。	
第8回	ADHDの理解，ADHD児への支援 ADHDの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。	
第9回	LDの理解，LD児への支援 LDの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。	
第10回	指導計画の作成と記録および評価 指導計画の作成や，記録及び評価のポイントを理解する。	
第11回	子どもの発達をうながす生活や遊びの環境 障がいを持つ子どもの発達をうながす環境の作り方を理解する。	
第12回	地域の専門機関や小学校との連携 多職種との連携について知る。	
第13回	保護者や家族に対する理解と支援 保護者や家族の障がいの受容プロセスや支援方法について理解する。	
第14回	特別な配慮を必要とする様々な子ども 貧困児や母国語の異なる子どもなど，特別な配慮を必要とする様々な子どもの現状について理解する。	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	5	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート		
小テスト	35	講義内容の理解度，定着度を評価する。
定期試験	35	全講義終了後，障害児保育における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。
その他	25	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回） 課題については、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。 2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 3．教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践事例を通して，具体的なかかわりを学ぶ保育現場における特別支援	松井 剛太・七木田 敦 編著	教育情報出版	978-4-909378-49-1	2200
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年），スクールカウンセラー（12年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	施設職員の経験（3年）を活かし，各障がいに対して具体的な事例を交えながら教示する。 カウンセリング経験（12年）から，様々な困難感を抱え，特別な支援を必要としている子どもや，特別な支援を必要をする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について，具体的な事例を通して考えることで，実践力を養う.			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．特別支援に関する知識	特別支援に関する具体的な知識を深く習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識の習得が不十分である。	特別支援に関する知識が習得できていない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し、特別支援の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。特別支援の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	特別支援教育入門 2クラス			授業番号	EE212B	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	特別支援教育を支える理念に関して理解を深めるとともに，教育・保育をする上で必要な様々な障害について知り，個別の教育的ニーズを把握，他の教員や関係機関と連携等の技術を習得することを目的とする。								
到達目標	・障害等，特別な支援を要する事柄についての知識を獲得する。 ・特別な支援を要する子どもへの教育や保育，支援の方法を知り，実際に支援する際の方策を提示し，実施することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	特別支援教育とは 「特別支援教育」の意義と目的について理解する。	
第2回	障がいの意味と理解，特別支援教育の歴史的変遷 「障がい」について我が国と国際的な捉えを理解し，特別支援教育の歴史的変遷について知る。	
第3回	身体障がい児への理解と支援 身体障がいの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。	
第4回	知的障がいの理解 知的障がいの定義と具体的な特徴を知る。	
第5回	知的障がい児への支援 知的障がい児に対する支援方法を具体的に理解する。	
第6回	発達障害の理解，ASDの理解 発達障がいとASDの定義と具体的な特徴を知る。	
第7回	ASD児への支援 ASD児に対する支援方法を具体的に理解する。	
第8回	ADHDの理解，ADHD児への支援 ADHDの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。	
第9回	LDの理解，LD児への支援 LDの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。	
第10回	指導計画の作成と記録および評価 指導計画の作成や，記録及び評価のポイントを理解する。	
第11回	子どもの発達をうながす生活や遊びの環境 障がいを持つ子どもの発達をうながす環境の作り方を理解する。	
第12回	地域の専門機関や小学校との連携 多職種との連携について知る。	
第13回	保護者や家族に対する理解と支援 保護者や家族の障がいの受容プロセスや支援方法について理解する。	
第14回	特別な配慮を必要とする様々な子ども 貧困児や母国語の異なる子どもなど，特別な配慮を必要とする様々な子どもの現状について理解する。	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	5	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート		
小テスト	35	講義内容の理解度，定着度を評価する。
定期試験	35	全講義終了後，障害児保育における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。
その他	25	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回） 課題については、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。 2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 3．教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践事例を通して，具体的なかかわりを学ぶ保育現場における特別支援	松井 剛太・七木田 敦 編著	教育情報出版	978-4-909378-49-1	2200
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年），スクールカウンセラー（12年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	施設職員の経験（3年）を活かし，各障がいに対して具体的な事例を交えながら教示する。 カウンセリング経験（12年）から，様々な困難感を抱え，特別な支援を必要としている子どもや，特別な支援を必要をする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について，具体的な事例を通して考えることで，実践力を養う.			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．特別支援に関する知識	特別支援に関する具体的な知識を深く習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識の習得が不十分である。	特別支援に関する知識が習得できていない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し、特別支援の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。特別支援の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	社会的養護Ⅱ 1クラス			授業番号	EE213A	サブタイトル			
教員	津嶋 悟								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育士は児童福祉施設において援助者（直接処遇職員・ケアワーカー）としての大切な役割を担っており，その支援のあり方によって子どもたちの人生が左右されてしまうと言っても過言ではない。 この「社会的養護II」は，児童福祉施設で社会的養護を必要とする子どもやその保護者に対して日々実践されている養育や支援のあり方について，現状を広く理解し考察を深めていくものである。 なお授業は，主に講義とグループワークをもってすすめられる。								
到達目標	講義においては，施設において展開されている子どもたちの日々の生活の実際，養育のあり方や援助者の支援方法について理解し，子どもの心身の成長や発達を保障するために必要な知識や技能を習得し，適切な子ども観や養育観を獲得する。 またグループワークにおいては，相手に伝える力（文をまとめる，適切な言葉選び，相手の視点に立った話の仕方）と，傾聴（相手の話を聞く態度，相手が話しやすい雰囲気）等，社会人として必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「児童養護施設におけるこどもたちの暮らし」	
第2回	「児童養護施設におけるこどもたちの暮らし」をもっと理解する	
第3回	「社会的養護の理解とそこで働くひとたち」	
第4回	「社会的養護の源流をたどる」	
第5回	「受け継がれる先人の魂と児童養護施設の現状」	
第6回	「社会的養護を必要とするこどもの理解①」	
第7回	「社会的養護を必要とするこどもの理解②」	
第8回	「社会的養護施設と関係機関の理解①」	
第9回	「社会的養護施設と関係機関の理解②」	
第10回	「こどもたちへの支援①」～基本的な心がまえ～	
第11回	「こどもたちへの支援②」～日常生活（衣食住）の大切さ～	
第12回	「こどもたちへの支援③」～効果的な支援方法の基礎と実際～	
第13回	「こどもたちへの支援④」～家族支援・アフターケア・その他関連すること～	
第14回	「こどもの権利擁護について理解する」～こどもの安全・安心をまもるために～	
第15回	「最後に伝えたいこと」～まとめと施設実習に向けて～	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	毎授業時に提出するコメントペーパーや意欲的な授業態度により評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	40	15回の講義を通しての理解度と主体性の伸びを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義中は頭と心の両方を使うよう意識すること。 社会情勢や自分自身の日常生活にリンクさせて物事を捉え考えること。 講義後にコメント（感想や気づき）を記入することにより，感じたことや気持ちを文章で表現できるようになること。 学習したことを活かし，「社会の一員として自分にできることは何か」を探し行動しようと努力すること。
授業外学修	1．テキストや授業で配布した資料を，発展学習として読んで理解を深める。 2．講義で学んだ事柄の中から，実習に生かせる部分を取り出し，２月に行われる施設実習の現場での実践に活かす。 3．グループワークにおけるコミュニケーションについての学びを，日常生活の中で意識的に実行していく。 4．講義での学びから，社会の中における自身の役割に気づき，自分にできることから行動を起こそうと努める。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	児童養護施設［施設長］
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	児童養護施設で出会った子どもたちの具体的な事例を紹介することにより，社会的養護を必要とする子どもの現状や児童虐待などへの理解を深める。 また管理職（施設長）としての経験を活かし，施設実習におけるポイントや注意点を伝え，講義での学びを総合的に現場実践につなげていく。 人材育成の観点から，グループワークを目的をもって積極的に行う姿勢を獲得できるよう支援し，他者と対話し連携することの大切さを体得させ成長の実感を掴む。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会的養護の基礎的な内容を理解している。	学習した社会的養護に関する知識について、的確に理解し述べることができる。	学習した社会的養護に関する知識について、的確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した社会的養護に関する知識について、大体述べることができる。	学習した社会的養護に関する知識について、的確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した社会的養護に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	2．児童養護施設の現状と課題についての基礎的な内容を理解している。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、的確に理解し述べることができる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、的確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、大体述べることができる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、的確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	3．児童虐待の現状についての基礎的な内容を理解している。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、的確に理解し述べることができる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、的確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、大体述べることができる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、的確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1．社会的養護を必要とするこどもたちへの支援のあり方について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	2．社会的養護を必要とするこどもたちに対する社会のあり方について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	3．児童虐待を含む社会問題に対し自分自身に出来ることを考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	1．社会的養護の分野において活かせる自らのスキルを理解する。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルを十分に理解している。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルをほぼ理解している。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルを大体理解している。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルについて理解が十分でない。	自らの活かせるスキルについて全く理解していない。
態度	1．演習に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、演習内容を理解したうえで、適切なコメントペーパーを提出している。	演習に前向きに取り組む姿勢が見受けられ、演習内容を理解したうえで、コメントペーパーを提出している。	演習に出席し、演習の内容を理解したうえでコメントペーパーを提出している。	演習に出席し、コメントペーパーを提出しているが、理解が十分ではない。	演習に出席しているが、コメントペーパーの提出をしていない。

科目名	社会的養護Ⅱ 2クラス			授業番号	EE213B	サブタイトル			
教員	津嶋 悟								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育士は児童福祉施設において援助者（直接処遇職員・ケアワーカー）としての大切な役割を担っており，その支援のあり方によって子どもたちの人生が左右されてしまうと言っても過言ではない。 この「社会的養護II」は，児童福祉施設で社会的養護を必要とする子どもやその保護者に対して日々実践されている養育や支援のあり方について，現状を広く理解し考察を深めていくものである。 なお授業は，主に講義とグループワークをもってすすめられる。								
到達目標	講義においては，施設において展開されている子どもたちの日々の生活の実際，養育のあり方や援助者の支援方法について理解し，子どもの心身の成長や発達を保障するために必要な知識や技能を習得し，適切な子ども観や養育観を獲得する。 またグループワークにおいては，相手に伝える力（文をまとめる，適切な言葉選び，相手の視点に立った話の仕方）と，傾聴（相手の話を聞く態度，相手が話しやすい雰囲気）等，社会人として必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「児童養護施設におけるこどもたちの暮らし」	
第2回	「児童養護施設におけるこどもたちの暮らし」をもっと理解する	
第3回	「社会的養護の理解とそこで働くひとたち」	
第4回	「社会的養護の源流をたどる」	
第5回	「受け継がれる先人の魂と児童養護施設の現状」	
第6回	「社会的養護を必要とするこどもの理解①」	
第7回	「社会的養護を必要とするこどもの理解②」	
第8回	「社会的養護施設と関係機関の理解①」	
第9回	「社会的養護施設と関係機関の理解②」	
第10回	「こどもたちへの支援①」～基本的な心がまえ～	
第11回	「こどもたちへの支援②」～日常生活（衣食住）の大切さ～	
第12回	「こどもたちへの支援③」～効果的な支援方法の基礎と実際～	
第13回	「こどもたちへの支援④」～家族支援・アフターケア・その他関連すること～	
第14回	「こどもの権利擁護について理解する」～こどもの安全・安心をまもるために～	
第15回	「最後に伝えたいこと」～まとめと施設実習に向けて～	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	毎授業時に提出するコメントペーパーや意欲的な授業態度により評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	40	15回の講義を通しての理解度と主体性の伸びを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義中は頭と心の両方を使うよう意識すること。 社会情勢や自分自身の日常生活にリンクさせて物事を捉え考えること。 講義後にコメント（感想や気づき）を記入することにより，感じたことや気持ちを文章で表現できるようになること。 学習したことを活かし，「社会の一員として自分にできることは何か」を探し行動しようと努力すること。
授業外学修	1．テキストや授業で配布した資料を，発展学習として読んで理解を深める。 2．講義で学んだ事柄の中から，実習に生かせる部分を取り出し，２月に行われる施設実習の現場での実践に活かす。 3．グループワークにおけるコミュニケーションについての学びを，日常生活の中で意識的に実行していく。 4．講義での学びから，社会の中における自身の役割に気づき，自分にできることから行動を起こそうと努める。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	児童養護施設［施設長］
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	児童養護施設で出会った子どもたちの具体的な事例を紹介することにより，社会的養護を必要とする子どもの現状や児童虐待などへの理解を深める。 また管理職（施設長）としての経験を活かし，施設実習におけるポイントや注意点を伝え，講義での学びを総合的に現場実践につなげていく。 人材育成の観点から，グループワークを目的をもって積極的に行う姿勢を獲得できるよう支援し，他者と対話し連携することの大切さを体得させ成長の実感を掴む。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会的養護の基礎的な内容を理解している。	学習した社会的養護に関する知識について、的確に理解し述べることができる。	学習した社会的養護に関する知識について、的確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した社会的養護に関する知識について、大体述べることができる。	学習した社会的養護に関する知識について、的確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した社会的養護に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	2．児童養護施設の現状と課題についての基礎的な内容を理解している。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、的確に理解し述べることができる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、的確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、大体述べることができる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、的確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	3．児童虐待の現状についての基礎的な内容を理解している。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、的確に理解し述べることができる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、的確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、大体述べることができる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、的確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1．社会的養護を必要とするこどもたちへの支援のあり方について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	2．社会的養護を必要とするこどもたちに対する社会のあり方について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	3．児童虐待を含む社会問題に対し自分自身に出来ることを考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	1．社会的養護の分野において活かせる自らのスキルを理解する。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルを十分に理解している。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルをほぼ理解している。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルを大体理解している。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルについて理解が十分でない。	自らの活かせるスキルについて全く理解していない。
態度	1．演習に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、演習内容を理解したうえで、適切なコメントペーパーを提出している。	演習に前向きに取り組む姿勢が見受けられ、演習内容を理解したうえで、コメントペーパーを提出している。	演習に出席し、演習の内容を理解したうえでコメントペーパーを提出している。	演習に出席し、コメントペーパーを提出しているが、理解が十分ではない。	演習に出席しているが、コメントペーパーの提出をしていない。

科目名	子育て支援 1クラス			授業番号	EE214A	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談，助言，情報提供，行動見本の提示等の支援（子育て支援）の意義や基本について学び，保育士の専門性を生かした支援とは何かを考える。また，保育現場や児童福祉施設での支援の実際を通して，保育士として保護者を支援するために必要な視点について学ぶ。								
到達目標	・子育て支援について，その特性と展開を具体的に理解できる。 ・保育士の行う子育て支援について，様々な立場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，実践事例等を通して具体的に理解し修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育士の行う子育て支援の特性 保育士の行う子育て支援について理解することができる。	
第2回	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 保育士の業務を通した、子育て支援について知ることができる。	
第3回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 保護者や家庭の多様なニーズを知り、困難感に理解を深めることができる	
第4回	子育て支援の方法と技術 実際の子育て支援の方法と技術について知り身につけることができる。	
第5回	子ども及び保護者の状況・状態の把握 実際のアセスメント方法について知り、子どもや保護者の状況・状態を把握することができる。	
第6回	支援の計画と環境の構成 支援計画の方法や環境構成の方法について知ることができる。	
第7回	支援の実践・記録・評価・カンファレンス 記録や評価、カンファレンス方法の実際と実施方法を知ることができる。	
第8回	職員間の連携・協働 連携と協働について理解し、重要性を理解することができる。	
第9回	地域資源・関係機関の種類と機能と，関係機関との連携・協力 地域資源や関係機関の種類と機能、関係機関との連携・協力について知ることができる。	
第10回	保育所における保育士の行う子育て支援とその実際 実際の事例を通して、子育て支援の実際を知ることができる。	
第11回	地域の子育て対する支援とその実際 実際の事例を通して、地域の子育てに対する支援について知る。	
第12回	障害のある子ども及びその家庭等に対する支援とその実際 障害のある子どもや家庭に対する支援とその実際について知ることができる。	
第13回	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援とその実際 特別な配慮を要する子どもや家庭に対する支援と実際について知ることができる。	
第14回	子ども虐待の予防と対応，要保護児童等の家庭に対する支援とその実際 子ども虐待の予防と対応，要保護児童等の家庭に対する支援とその実際について知ることができる	
第15回	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 その他の多様なニーズについて知り、子育て支援の重要性について考えることができる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	70	毎講義内で実施する事例について，子育て支援で学修した内容を踏まえながら，様々な視点で支援方法を具体的に提案することができる。課題やレポートついてはコメントと併せて返却する。（５%×14回）
定期試験	20	全講義終了後，保育相談支援における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。
その他	10	事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，子育て支援に関わる基礎理論を復習すること。 2．毎授業内で事例検討を行うため，事例について読み深めること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	スクールカウンセラー（12年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	カウンセリング経験（12年）から得られた，様々な困難感を抱える保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について教示し，保育士における子育て支援の重要性について，実践的に考える。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．子育て支援に関する知識	子育て支援に関する具体的な知識を深く習得している。	子育て支援に関する具体的な知識を習得している。	子育て支援に関する知識を習得している。	子育て支援に関する知識の習得が不十分である。	子育て支援に関する知識が習得できていない。
技能	1．相談支援の技術	子育て支援の知識を踏まえながら、具体的に行動にうつすことができる。子育て支援の知識に即しながら、自分なりの新たな取組を提案/実践することができる。	子育て支援の知識を踏まえながら、具体的に行動にうつすことができる。	子育て支援の知識を踏まえながら、行動にうつすことができる。	子育て支援の知識を踏まえずに、行動にうつしている。	子育て支援の行動に移すことができない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し、子育て支援の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。子育て支援の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	子育て支援 2クラス			授業番号	EE214B	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談，助言，情報提供，行動見本の提示等の支援（子育て支援）の意義や基本について学び，保育士の専門性を生かした支援とは何かを考える。また，保育現場や児童福祉施設での支援の実際を通して，保育士として保護者を支援するために必要な視点について学ぶ。								
到達目標	・子育て支援について，その特性と展開を具体的に理解できる。 ・保育士の行う子育て支援について，様々な立場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，実践事例等を通して具体的に理解し修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育士の行う子育て支援の特性 保育士の行う子育て支援について理解することができる。	
第2回	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 保育士の業務を通した、子育て支援について知ることができる。	
第3回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 保護者や家庭の多様なニーズを知り、困難感に理解を深めることができる	
第4回	子育て支援の方法と技術 実際の子育て支援の方法と技術について知り身につけることができる。	
第5回	子ども及び保護者の状況・状態の把握 実際のアセスメント方法について知り、子どもや保護者の状況・状態を把握することができる。	
第6回	支援の計画と環境の構成 支援計画の方法や環境構成の方法について知ることができる。	
第7回	支援の実践・記録・評価・カンファレンス 記録や評価、カンファレンス方法の実際と実施方法を知ることができる。	
第8回	職員間の連携・協働 連携と協働について理解し、重要性を理解することができる。	
第9回	地域資源・関係機関の種類と機能と，関係機関との連携・協力 地域資源や関係機関の種類と機能、関係機関との連携・協力について知ることができる。	
第10回	保育所における保育士の行う子育て支援とその実際 実際の事例を通して、子育て支援の実際を知ることができる。	
第11回	地域の子育て対する支援とその実際 実際の事例を通して、地域の子育てに対する支援について知る。	
第12回	障害のある子ども及びその家庭等に対する支援とその実際 障害のある子どもや家庭に対する支援とその実際について知ることができる。	
第13回	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援とその実際 特別な配慮を要する子どもや家庭に対する支援と実際について知ることができる。	
第14回	子ども虐待の予防と対応，要保護児童等の家庭に対する支援とその実際 子ども虐待の予防と対応，要保護児童等の家庭に対する支援とその実際について知ることができる	
第15回	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 その他の多様なニーズについて知り、子育て支援の重要性について考えることができる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	70	毎講義内で実施する事例について，子育て支援で学修した内容を踏まえながら，様々な視点で支援方法を具体的に提案することができる。課題やレポートついてはコメントと併せて返却する。（５%×14回）
定期試験	20	全講義終了後，保育相談支援における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。
その他	10	事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，子育て支援に関わる基礎理論を復習すること。 2．毎授業内で事例検討を行うため，事例について読み深めること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	スクールカウンセラー（12年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	カウンセリング経験（12年）から得られた，様々な困難感を抱える保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について教示し，保育士における子育て支援の重要性について，実践的に考える。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．子育て支援に関する知識	子育て支援に関する具体的な知識を深く習得している。	子育て支援に関する具体的な知識を習得している。	子育て支援に関する知識を習得している。	子育て支援に関する知識の習得が不十分である。	子育て支援に関する知識が習得できていない。
技能	1．相談支援の技術	子育て支援の知識を踏まえながら、具体的に行動にうつすことができる。子育て支援の知識に即しながら、自分なりの新たな取組を提案/実践することができる。	子育て支援の知識を踏まえながら、具体的に行動にうつすことができる。	子育て支援の知識を踏まえながら、行動にうつすことができる。	子育て支援の知識を踏まえずに、行動にうつしている。	子育て支援の行動に移すことができない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し、子育て支援の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。子育て支援の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	健康の指導法 1クラス			授業番号	EE215A	サブタイトル			
教員	荒谷 友里恵								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼児の心身の健康と安全，遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め，グループワークなどで意見交換を積極的に行う。								
到達目標	幼児の発達や学びの過程を理解し，日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の発達や学びの過程を理解し，生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の発達や学びの過程を理解し，発達を促し安全に配慮した遊びの指導法正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の興味を引き出し指導の効果をより高くするため，様々なツールを用いた指導法を計画できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「食事・食育に関する指導法について」 乳幼児にとって食事をすることの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第2回	「着脱に関する指導法について」 幼児が自分で着脱することの意味について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第3回	「清潔に関する指導法について」 乳幼児のからだや生活周辺を清潔に保つことの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第4回	「排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第5回	「排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし，指導案を作成発表する。	
第6回	「生活面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって生活面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第7回	「交通面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって交通面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第8回	「災害面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって災害面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第9回	「運動遊びに関する指導法について」 乳幼児にとって運動遊びの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第10回	「平衡性を高める運動遊びに関する指導法について」 平衡性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第11回	「移動性を高める運動遊びに関する指導法について」 移動性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第12回	「操作性を高める運動遊びに関する指導法について」 操作性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第13回	「表現遊びに関する指導法について」 乳幼児期における身体表現活動の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第14回	「幼児の遊びと生活の場面で動きを引き出す環境構成について」 乳幼児の生活場面で体を動かしたくなる環境構成について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第15回	「小学校との接続を考慮した指導法について」 小学校との接続を考慮し，幼児期に身につけておく必要のある力ついて考え，指導法をまとめる。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかをノートの作成状況から評価する
レポート	20	課題のテーマに沿い，幼児にあった指導法が具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	到達目標について，知識・理解の到達度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	授業計画に応じて予習・復習し，1回の授業で4時間の学修を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの姿からはじめる領域・健康	秋田喜代美ほか	株）みらい	978-4-86015-528-5	2530

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本（平成29年6月チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師としての実務経験を有する。（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日常生活習慣に関する指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	2．生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解でし、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	3．発達を促し安全に配慮した遊びの指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
思考・問題解決能力	1．幼児の興味を引きだし効果を高めるツールを使った指導法の計画	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集、十分な比較検討をした上でツールを決めることができる。また、発達に応じた的確な指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集・比較検討した上でツールを決めることができる。また、発達に応じた指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数を比較検討した上でツールを決め、指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数を比較検討した上でツールを決めたが、的確な指導法の考察が十分ではない。	目的を十分理解しておらず、ツールを比較検討しないまま指導法を考察するため、的確な指導法を作成できない。
態度	1．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。	意欲が十分とはいえないが、グループワークなどで少しはテーマに沿った内容で意見・感想を述べることがある。また、知識の定着が少ない。	意欲的な態度が見られず、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることが全くできない。また、知識の定着も見られない。

科目名	健康の指導法 2クラス			授業番号	EE215B	サブタイトル			
教員	荒谷 友里恵								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼児の心身の健康と安全，遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め，グループワークなどで意見交換を積極的に行う。								
到達目標	幼児の発達や学びの過程を理解し，日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の発達や学びの過程を理解し，生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の発達や学びの過程を理解し，発達を促し安全に配慮した遊びの指導法正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の興味を引き出し指導の効果をより高くするため，様々なツールを用いた指導法を計画できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「食事・食育に関する指導法について」 乳幼児にとって食事をすることの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第2回	「着脱に関する指導法について」 幼児が自分で着脱することの意味について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第3回	「清潔に関する指導法について」 乳幼児のからだや生活周辺を清潔に保つことの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第4回	「排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第5回	「排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし，指導案を作成発表する。	
第6回	「生活面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって生活面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第7回	「交通面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって交通面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第8回	「災害面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって災害面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第9回	「運動遊びに関する指導法について」 乳幼児にとって運動遊びの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第10回	「平衡性を高める運動遊びに関する指導法について」 平衡性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第11回	「移動性を高める運動遊びに関する指導法について」 移動性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第12回	「操作性を高める運動遊びに関する指導法について」 操作性を高める運動遊びの方法について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第13回	「表現遊びに関する指導法について」 乳幼児期における身体表現活動の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第14回	「幼児の遊びと生活の場面で動きを引き出す環境構成について」 乳幼児の生活場面で体を動かしたくなる環境構成について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	
第15回	「小学校との接続を考慮した指導法について」 小学校との接続を考慮し，幼児期に身につけておく必要のある力ついて考え，指導法をまとめる。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかをノートの作成状況から評価する
レポート	20	課題のテーマに沿い，幼児にあった指導法が具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	到達目標について，知識・理解の到達度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	授業計画に応じて予習・復習し，1回の授業で4時間の学修を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの姿からはじめる領域・健康	秋田喜代美ほか	株）みらい	978-4-86015-528-5	2530

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本（平成29年6月チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師としての実務経験を有する。（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日常生活習慣に関する指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	2．生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解でし、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	3．発達を促し安全に配慮した遊びの指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
思考・問題解決能力	1．幼児の興味を引きだし効果を高めるツールを使った指導法の計画	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集、十分な比較検討をした上でツールを決めることができる。また、発達に応じた的確な指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集・比較検討した上でツールを決めることができる。また、発達に応じた指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数を比較検討した上でツールを決め、指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数を比較検討した上でツールを決めたが、的確な指導法の考察が十分ではない。	目的を十分理解しておらず、ツールを比較検討しないまま指導法を考察するため、的確な指導法を作成できない。
態度	1．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。	意欲が十分とはいえないが、グループワークなどで少しはテーマに沿った内容で意見・感想を述べることがある。また、知識の定着が少ない。	意欲的な態度が見られず、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることが全くできない。また、知識の定着も見られない。

科目名	人間関係の指導法			授業番号	EE216	サブタイトル			
教員	岡本 美幸								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもが他者と親しみ支え合って生活するために，領域「人間関係」のねらい及び内容について，子どもの姿と保育実践とを関連させて理解を理解を深めることを目指す。そのうえで，自立心を育てるとともに，道徳心や規範意識の芽生えを育み，他者とかかわり，協力して物事に取り組んでいく力の育ちにふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育の具体的な知識および指導法を学習する。								
到達目標	・領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえて，子どもが人と関わる力を養うために必要な，子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。 ・子どもの発達や遊びの過程を理解し，領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身につける。 ・グループワーク，事例検討等の演習の実践およびその振り返りを通して，具体的な指導案の作成や保育を改善する視点を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ 指針や教育要領を確認し，「人間関係」のねらいと内容について理解する。	
第2回	遊びの中での人とのかかわり 遊びや生活を通して他者を理解し調整する力を環境を通して培うことを理解する。	
第3回	乳幼児期における人とのかかわりの発達 人とのかかわりの重要性とそのために重要な乳幼児期の発達について理解する。	
第4回	人とのかかわりの発達 いざこざから生み出される人とかかわる力について，個と集団の育ちについて理解する。	
第5回	保育者の様々な役割 人とかかわる力を育む保育者の役割について理解する。	
第6回	家族や地域とのかかわりと育ち 家族を取り巻く現状を踏まえ，様々な人とのかかわりの中で育まれることを理解する。	
第7回	0歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助 0歳児の人とのかかわりに重要となる，人的環境について理解する。	
第8回	1，2歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助 1，2歳児における人間関係の意義と，その発達を支える保育者の援助について理解する。	
第9回	3，4，5歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助 各歳児の特徴を踏まえながら，人間関係の発達を育む保育者の援助について理解する。	
第10回	人とのかかわりが難しい子どもへの支援 障がいのある子どもや外国籍の子ども等，多様性を尊重した保育のあり方や支援の工夫を理解する。	
第11回	発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育 子どもの発達や学びの連続性を踏まえた，乳児期，幼児期，学童期への連携・接続について理解する。	
第12回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」 乳幼児教育の重要性を育みたい姿をもとに，領域「人間関係」の位置づけを理解する。	
第13回	子どもの人間関係の発達を支える保育者の同僚性 保育の相互理解を促すためにどのように，言語化・可視化を行うか，保育を読み取る視点について理解する。	
第14回	子ども理解から保育をつくる 子ども理解から始まる保育について改めて考え，その視点を踏まえた指導案の作成方法を理解する。	
第15回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ 子どもを取り巻く人間関係の状況と現代に求められる保育内容「人間関係」について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	グループワークを含めた授業への参加・貢献度，提出遅れ・受講態度も考慮し評価する。
レポート	20	授業振り返りレポート課題を踏まえ，その内容を共通理解できるように適宜授業内で解説する。
小テスト	50	授業内容についての小テストを行い，理解度を評価する。採点後に返却する。
定期試験		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・グループワーク等に積極的に参加し，自身も円滑な人間関係を築けるように主体的に授業に取り組むこと。 ・日ごろから乳幼児や子育てに関わるニュースや新聞記事等に目を通す習慣をつけ，人間関係のあり方について探究し，想像力を広げるようにすること。
授業外学修	・毎回，授業終了時に本授業における学びを確認するための，振り返りレポートを課す。 ・事前・事後学習として，テキストや配布資料の指定範囲を週あたり2時間以上の予習・復習すること。 ・課題提出は必ず行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
領域「人間関係」乳幼児期にふさわしい生活で育む	河合優子(編著)・大澤洋美(編著)・佐々木 晃(編著)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09605-3	2，420円
保育所保育指針解説	厚生労働省 (編集)	フレーベル館	978-4-577-81448-2	352円
使用テキスト：自由記載	その他，授業中に適宜資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府 (著)， 文部科学省 (著)， 厚生労働省 (著)	フレーベル館	978-4-577-81449-9	385円
幼稚園教育要領解説	文部科学省 (著)	フレーベル館	978-4-577-81447-5	264円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士（15年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育士の経験（１５年）を活かして，具体的な事例を交えながら，保育者として身につけておくべき領域「人間関係」関する知識と指導法，基礎的な技能を習得できるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.領域「人間関係」の理解	領域「人間関係」のねらい及び内容が十分理解でき、幼児の姿と保育実践を関連づけて考えたことを明確に論述できる。	領域「人間関係」のねらい及び内容が理解でき、幼児の姿と保育実践を関連づけて考えたことを明確に論述できる。	領域「人間関係」のねらい及び内容が理解でき、幼児の姿と保育実践を関連づけて考えたことを論述できる。	領域「人間関係」のねらい及び内容が理解できてはいるが、幼児の姿と保育実践を関連づけて考えたことを論述することは不十分である。	領域「人間関係」のねらい及び内容が理解できにくく、幼児の姿と保育実践を関連して考えることができないため、考えを論述することもできない。
知識・理解	2.保育現場での「人間関係」の理解	保育所実習や幼稚園教育実習での「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性が考察できる。また、幼児の発達にふさわしい対応を考えることができる。	保育所実習や幼稚園教育実習での「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性が考察できる。	保育所実習や幼稚園教育実習での「人間関係」を振り返り、その時の状況から関係性が考察できる。	保育所実習や幼稚園教育実習での「人間関係」を振り返り、その時の状況から関係性が考察できるがあまり具体的ではない。	保育所実習や幼稚園教育実習での「人間関係」を振り返り、その時の状況から関係性が考察があまりできない。
技能	1.保育技術に関する理解	授業におけるグループワークや事例検討等の演習課題により、幼児の「人間関係」を理解し、幼児に対する適切な対応が十分できる。また、授業で学習した対応が実習においても、十分に発揮できる。	授業のグループワークや事例検討等の演習課題により、幼児の「人間関係」を理解し、幼児に対する適切な対応が十分できる。また、授業で学習した対応が実習においても、十分に発揮できる。	授業のグループワークや事例検討等の演習課題により、幼児の「人間関係」を理解し、幼児に対する適切な対応ができる。また、授業で学習した対応が実習においても、発揮できる。	授業のグループワークや事例検討等の演習課題により、幼児の「人間関係」を理解し、幼児に対する適切な対応ができる。	授業のグループワークや事例検討等の演習課題により、幼児の「人間関係」があまり理解できず、幼児に対する適切な対応ができない。
態度	1.授業に対する態度	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に進んで参加できる。また、グループの中での発言が前向きであり、様々な提案ができる。	授業に対する姿勢が積極的であり、グループワーク等に進んで参加できる。また、グループの中で提案ができる。	授業に対する姿勢が積極的でありグループワーク等に参加できる。また、グループの中で提案ができる。	授業に対する姿勢は前向きであり、グループワーク等に参加できる。グループ内での提案はできにくい。	授業に集中できていない。グループワーク等に参加することができるが、グループ内での提案はできにくい。

科目名	環境の指導法 1クラス			授業番号	EE217A	サブタイトル			
教員	清水 憲志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた，具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたて，子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。								
到達目標	・環境についての知識や技術について理解し，修得することができる。 ・具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたてることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性 …環境が持つ意味を捉え，指導法を考える。	
第2回	発達にふさわしい人的・物的環境 …発達を促すための環境を理解する。	
第3回	植物や生き物に触れる中で学び …どんぐりやまつぼっくりなど秋の自然物の理解を深めよう。	
第4回	自然物を使った保育指導案の作成 …自然物を活用できる指導案を作成しよう。	
第5回	自然物を使った保育の実践 …自然物を使って作品を作ろう。	
第6回	乳児の保育環境について …乳児の環境について知識を深めよう。	
第7回	幼児の保育環境について …幼児の環境について知識を深めよう。	
第8回	秋の自然物に触れ，深めよう（どんぐりゴマづくり） …ツリーやドングリゴマを作ろう。	
第9回	自然環境と子どもの育ち …自然について理解し，子どもの育ちに与える影響を理解する。	
第10回	遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために …生活を通して，文字や数量を理解しよう。	
第11回	気になる子どもへの環境について …子どもの特性を知り，生活しやすい環境を考えよう。	
第12回	ドキュメンテーションの作品鑑賞会 …それぞれの作品を見て，感性を高めよう。	
第13回	保護者に向けた情報発信のツールとしての活用 …様々なツールについて理解し，よりよい在り方を考えよう。	
第14回	多国籍な子どもと共生する保育環境について …外国のルーツを持つ子どもについて理解し，対応を考えよう。	
第15回	幼児期の心を育てる保育環境について …子どもの最善の利益を守るための保育について考えよう。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかを評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	知識・理解の到達度を評価する。
その他	30	ドキュメンテーション作成

評価の方法：自由記載	ドキュメンテーションの評価の観点 ・A4の紙2枚分（A３・１枚）に写真を用いて，記録が見られるものをつくろう。(1点) ・写真は活動の軌跡が見られるだけの枚数。(1点) ・裏に学籍番号・名前・テーマを書く(1点) ・写真についてのコメント・見出し・イラスト等があること(1点) ・１つの文章が短いこと。（.までが３０文字）(1点) （※補足のイラストなどで，誰が見ても同じ理解ができるなら，説明文を入れる必要はありません。） ・子どもがみてわかりやすいこと，変化に気付けること（5点） ・自分なりの工夫がされていること（5点） ・誰が見ても変化（経過）していることが分かること（5点） ・見出し等に工夫がされていること（5点） ・前期でした「フォトブック」の経験が生かされていること（5点） ※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。
受講の心得	・日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 ・地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。 ・絵画や写真などを見たり，音楽を聞いたり，友人や家族と話したりしながら日々感性を磨くこと。
授業外学修	1. 復習として，ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「面白い」「やってみたい」と心弾ませる子どもを目指して	住野好久 , 清水悪志,福澤俘也	ASOBI書房	979-8392113552	
使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針解説（平成30年３月 厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年３月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 （平成30年３月 内閣府，文部科学省，厚生労働省）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立保育園保育士（8年），幼稚園教諭（1年）,ネイチャーゲームリーダー（1年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	実務経験（公立保育園保育士（8年），幼稚園教諭（1年）,ネイチャーゲームリーダー（1年））を生かして環境の領域と他領域との関係を理解し，総合的に指導ができるよう具体的な活動を通して，ねらい，内容，指導案，保育実践など指導する。また、自然への興味関心を高めるためネイチャーゲーム【ネイチャーゲームリーダー（1年）】を行い,自然を身近なものとして捉えられるようにする。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．発達段階に基づいた、環境構成	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成しようとする。	発達の連続性を意識して、環境を構成できる。	年齢に応じた環境が構成できる。	年齢に応じた環境があまり構成できる。	年齢に応じた環境が構成しにくい。
知識・理解	２．人的環境としての意味を理解し、動勉かつ主体的に行動	人的環境として、協働性や主体的な学びを意識して行動できる。	人的環境として、子ども一人一人に応じて行動できる。	人的環境として、意識して行動できる。	人的環境として、あまり意識して行動できない。	人的環境として、意識して行動できない。
知識・理解	3．植物の特性を知り、食育が持つ意味への理解力	野菜や植物の特性や育てる季節を理解し、積極的に保育に取り入れようとする。	野菜や植物の特性を理解し、保育に取り入れる。	野菜や植物の名前を理解している。	野菜や植物の名前をあまり知らない。	野菜や植物の名前をほぼ知らない。
思考・問題解決能力	１．子ども一人一人やクラスの課題を意識し、環境を構成できる。	子ども一人一人の特性やクラスで共に育ち合って生活することを十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性をあまり理解できず、適切な援助がしにくい。	子ども一人一人の特性を理解できず、適切な援助ができない。
思考・問題解決能力	２．生活の中で季節感に親しみ、良さを感じて計画しようとする。	四季の特徴を十分に意識して保育の年間計画を立案できる。	四季の特徴を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画があまり立案できない。	四季を意識して保育の年間計画を立案できない。

科目名	環境の指導法 2クラス			授業番号	EE217B	サブタイトル			
教員	清水　憲志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた，具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたて，子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。								
到達目標	・環境についての知識や技術について理解し，修得することができる。 ・具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたてることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性 …環境が持つ意味を捉え，指導法を考える。	
第2回	発達にふさわしい人的・物的環境 …発達を促すための環境を理解する。	
第3回	植物や生き物に触れる中で学び …どんぐりやまつぼっくりなど秋の自然物の理解を深めよう。	
第4回	自然物を使った保育指導案の作成 …自然物を活用できる指導案を作成しよう。	
第5回	自然物を使った保育の実践 …自然物を使って作品を作ろう。	
第6回	乳児の保育環境について …乳児の環境について知識を深めよう。	
第7回	幼児の保育環境について …幼児の環境について知識を深めよう。	
第8回	秋の自然物に触れ，深めよう（どんぐりゴマづくり） …ツリーやドングリゴマを作ろう。	
第9回	自然環境と子どもの育ち …自然について理解し，子どもの育ちに与える影響を理解する。	
第10回	遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために …生活を通して，文字や数量を理解しよう。	
第11回	気になる子どもへの環境について …子どもの特性を知り，生活しやすい環境を考えよう。	
第12回	ドキュメンテーションの作品鑑賞会 …それぞれの作品を見て，感性を高めよう。	
第13回	保護者に向けた情報発信のツールとしての活用 …様々なツールについて理解し，よりよい在り方を考えよう。	
第14回	多国籍な子どもと共生する保育環境について …外国のルーツを持つ子どもについて理解し，対応を考えよう。	
第15回	幼児期の心を育てる保育環境について …子どもの最善の利益を守るための保育について考えよう。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかを評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	知識・理解の到達度を評価する。
その他	30	ドキュメンテーション作成

評価の方法：自由記載	ドキュメンテーションの評価の観点 ・A4の紙2枚分（A３・１枚）に写真を用いて，記録が見られるものをつくろう。(1点) ・写真は活動の軌跡が見られるだけの枚数。(1点) ・裏に学籍番号・名前・テーマを書く(1点) ・写真についてのコメント・見出し・イラスト等があること(1点) ・１つの文章が短いこと。（.までが３０文字）(1点) （※補足のイラストなどで，誰が見ても同じ理解ができるなら，説明文を入れる必要はありません。） ・子どもがみてわかりやすいこと，変化に気付けること（5点） ・自分なりの工夫がされていること（5点） ・誰が見ても変化（経過）していることが分かること（5点） ・見出し等に工夫がされていること（5点） ・前期でした「フォトブック」の経験が生かされていること（5点） ※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。
受講の心得	・日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 ・地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。 ・絵画や写真などを見たり，音楽を聞いたり，友人や家族と話したりしながら日々感性を磨くこと。
授業外学修	1. 復習として，ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「面白い」「やってみたい」と心弾ませる子どもを目指して	住野好久 , 清水恵志,福澤俘也	ASOBI書房	979-8392113552	
使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針解説（平成30年３月 厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年３月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 （平成30年３月 内閣府，文部科学省，厚生労働省）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立保育園保育士（8年），幼稚園教諭（1年）,ネイチャーゲームリーダー（1年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	実務経験（公立保育園保育士（8年），幼稚園教諭（1年）,ネイチャーゲームリーダー（1年））を生かして環境の領域と他領域との関係を理解し，総合的に指導ができるよう具体的な活動を通して，ねらい，内容，指導案，保育実践など指導する。また、自然への興味関心を高めるためネイチャーゲーム【ネイチャーゲームリーダー（1年）】を行い,自然を身近なものとして捉えられるようにする。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．発達段階に基づいた、環境構成	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成しようとする。	発達の連続性を意識して、環境を構成できる。	年齢に応じた環境が構成できる。	年齢に応じた環境があまり構成できる。	年齢に応じた環境が構成しにくい。
知識・理解	２．人的環境としての意味を理解し、動勉かつ主体的に行動	人的環境として、協働性や主体的な学びを意識して行動できる。	人的環境として、子ども一人一人に応じて行動できる。	人的環境として、意識して行動できる。	人的環境として、あまり意識して行動できない。	人的環境として、意識して行動できない。
知識・理解	3．植物の特性を知り、食育が持つ意味への理解力	野菜や植物の特性や育てる季節を理解し、積極的に保育に取り入れようとする。	野菜や植物の特性を理解し、保育に取り入れる。	野菜や植物の名前を理解している。	野菜や植物の名前をあまり知らない。	野菜や植物の名前をほぼ知らない。
思考・問題解決能力	１．子ども一人一人やクラスの課題を意識し、環境を構成できる。	子ども一人一人の特性やクラスで共に育ち合って生活することを十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性をあまり理解できず、適切な援助がしにくい。	子ども一人一人の特性を理解できず、適切な援助ができない。
思考・問題解決能力	２．生活の中で季節感に親しみ、良さを感じて計画しようとする。	四季の特徴を十分に意識して保育の年間計画を立案できる。	四季の特徴を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画があまり立案できない。	四季を意識して保育の年間計画を立案できない。

科目名	言葉の指導法			授業番号	EE218	サブタイトル			
教員	福澤 惇也								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で，幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し，保育を構想し実践する力を身に付ける。								
到達目標	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で，幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育における「言葉」の意義	
第2回	子どもの言葉の発達過程（１）－発達の道筋－	
第3回	子どもの言葉の発達過程（２）－小学校への接続－	
第4回	言葉を育む環境構成と援助（１）－話したい，聞きたい意欲－	
第5回	言葉を育む環境構成と援助（２）－生活に必要な言葉の習得－	
第6回	言葉を育む環境構成と援助（３）－すれ違い等のもどかしさへの援助－	
第7回	言葉を豊かにする環境構成と援助－言葉による伝え合い－	
第8回	言葉を豊かにする環境構成と援助－文字などで伝える楽しさ－	
第9回	子どもの言葉を豊かにする教材（絵本・物語・紙芝居・ICTを活用して）	
第10回	言葉に対する感覚を豊かにする実践（情報機器を活用した言葉遊び）	
第11回	子どもの言葉を育む保育の実際（情報機器を活用した教材研究）	
第12回	子どもの言葉を育む保育の構想（指導案作成）	
第13回	子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育の実践）	
第14回	子どもの言葉を育む保育の評価と改善（振り返り）	
第15回	「言葉」をめぐる現代的課題と特別に配慮が必要な子どもに対する配慮	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。
レポート	10	講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。
小テスト		
定期試験	80	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！保育士エクササイズ11 子どもの文化演習ブック	松本峰雄ほか	ミネルヴァ書房	978-4-623-09277-2	2，750円

参考書：自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （平成29年６月 チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年３月 文部科学省）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児期の言葉の発達を理解できている	幼児期の言葉の発達に関して高度な知識を有し、言葉の指導法における保育計画を具体的に考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関して高度な知識を有し、言葉の指導法における保育計画を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関して知識を有し、言葉の指導法における保育計画を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関して知識を有してはいるが、言葉の指導法における保育計画を考えるまでには至らない場合がある。	幼児期の言葉の発達に関して知識を有してはいるが、言葉の指導法における保育計画を考えるまでには至らない。
知識・理解	２．幼児の言葉の発達を促す援助の方法を理解できている	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して高度な知識を有し、言葉の指導法における保育計画を具体的に考えることができる。	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して高度な知識を有し、言葉の指導法における保育計画を考えることができる。	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して知識を有し、言葉の指導法における保育計画を考えることができる。	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して知識を有してはいるが、言葉の指導法における保育計画を考えるまでには至らない場合がある。	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して知識を有してはいるが、言葉の指導法における保育計画を考えるまでには至らない。
知識・理解	３．幼児期の言葉の発達に関する課題について理解できている	幼児期の言葉の発達に関する課題について高度な知識を有し、保育の中での具体的な援助法を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関する課題について高度な知識を有し、保育における援助法を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関する課題について知識を有し、保育における援助法を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関する課題について知識を有してはいるが、保育における援助法を考えるまでには至らない場合がある。	幼児期の言葉の発達に関する課題について知識を有してはいるが、保育における援助法を考えるまでには至らない。
知識・理解	４．幼児を取り巻く児童文化について理解できている	幼児を取り巻く児童文化に関して高度な知識を有し、児童文化を扱う保育計画を具体的に考えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に関して高度な知識を有し、児童文化を扱う保育計画を考えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に関して知識を有し、児童文化を扱う保育計画を考えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に関して知識を有してはいるが、児童文化を扱う保育計画を考えるまでには至らない場合がある。	幼児を取り巻く児童文化に関して知識を有してはいるが、児童文化を扱う保育計画を考えるまでには至らない。
知識・理解	５．就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法について理解できている	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して高度な知識を有し、保育計画を具体的に考えることができる。	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して高度な知識を有し、保育計画を考えることができる。	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して知識を有し、保育計画を考えることができる。	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して知識を有してはいるが、保育計画を考えるまでには至らない場合がある。	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して知識を有してはいるが、保育計画を考えるまでには至らない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して具体的な保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
技能	１．指導案が立案できる	幼児期の言葉の発達を十分理解した上で、子どもの姿に即した指導案の立案ができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、子どもの姿に即した指導案の立案ができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、指導案の立案ができる。	幼児期の言葉の発達を理解してはいるが、指導案の立案は難しい。	幼児期の言葉の発達に関する理解が不十分であり、指導案の立案が難しい。
技能	２．幼児の言葉の発達を促す援助ができる	幼児期の言葉の発達を十分理解した上で、子どもの成長や日々の姿に即した適切な援助とかかわり方ができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、子どもの成長や日々の姿に即した適切な援助とかかわり方ができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、幼児に適切な援助を行い、かかわることができる。	幼児期の言葉の発達を理解してはいるが、幼児への適切な援助を行うことが難しい。	幼児期の言葉の発達に関する理解が不十分であり、幼児への適切な援助を行うことが難しい。
技能	３．言葉の指導における保育環境の構成ができる	幼児期の言葉の発達を十分理解した上で、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を具体的に構成することができる。	幼児期の言葉の発達を十分理解した上で、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を構成することができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を構成することができる。	幼児期の言葉の発達を理解してはいるが、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を構成することが難しい。	幼児期の言葉の発達に関する理解が不十分であり、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を構成することが難しい。

科目名	表現の指導法			授業番号	EE219	サブタイトル			
教員	松井 みさ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領に基づき，「表現」のねらい及び内容について実践的に学び，指導計画を作成する能力を身に付ける。								
到達目標	幼児の発達や学びの過程を理解し，領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	領域「表現」のねらい及び内容について（１） ー子どもにとっての表現とはー	
第2回	領域「表現」のねらい及び内容について（２） ー造形・身体表現についてー	
第3回	領域「表現」のねらい及び内容について（３） ー音楽表現についてー	
第4回	幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿について ーサウンドスケープを通してー	
第5回	小学校の教科内容との関連，情報機器及び教材の活用について ーサウンドスケープの活用ー	
第6回	乳幼児の生活と表現について ー童謡の世界ー	
第7回	情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（１） ー絵本に音をつけてみようー	
第8回	情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（２） ー絵本に音をつけてみよう２ー	
第9回	情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（３） ー絵本に音をつけてみよう３ー	
第10回	幼稚園・こども園での表現活動について ー表現の変遷ー	
第11回	年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（1） ー合奏譜の作成１ー	
第12回	年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（2） ー合奏譜の作成２ー	
第13回	発表会を企画する（1）全体の流れを把握する	
第14回	発表会を企画する（2）個々の表現活動を考える	
第15回	表現活動の様々な取り組みについて	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業に積極的に参加し，グループワークにおいては意見や疑問を積極的に発言できるかを評価する。
レポート	50	授業時に数回行う小レポートと，授業最終時のまとめのレポートを課す。授業内容を理解し，自分の考えを的確に表現できているかを評価する。小レポートはコメントをつけて次回授業時に返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	20	授業内で作成する指導案や企画などについて，具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法が作成できているか評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	授業計画に応じて予習・復習し，1回の授業で4時間の学習を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他必要があれば授業中に適宜資料を配布する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ミュージックスクール講師（６年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．「表現」のねらい及び内容について	幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について深く学び、理解して、十分論じることができる。	幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について学び、理解して論じることができる。	幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について学び、ほぼ理解して論じることができる。	幼稚園教育要領に基づいた「表現」のねらいや内容についてほぼ理解することができるが、論じるまでには至らない。	幼稚園教育要領に基づいた「表現」のねらいや内容について理解することができないため、論じることもできない。
知識・理解	２．「表現」の指導について	年齢に応じた「表現」の指導法を明確に理解して十分実践することができる。	年齢に応じた「表現」の指導法を理解して実践することができる。	年齢に応じた「表現」の指導法をだいたい理解して実践することができる。	「表現」の指導法をだいたい理解して、多少は実践することができる。	「表現」の指導法について理解できておらず、実践することができない。
思考・問題解決能力	１．子どもの発達と表現について	幼児の発達や、領域「表現」に関する学びの過程を正しく理解して、言語表現、造形表現、身体表現、音や音楽表現等すべてについて十分説明できる。	幼児の発達や、領域「表現」に関する学びの過程を理解して、言語表現、造形表現、身体表現、音や音楽表現等のうち、3つについて十分説明できる。	幼児の発達や、領域「表現」に関する学びの過程をだいたい理解して言語表現、造形表現、身体表現、音や音楽表現等のうち2つについて十分説明できる。	領域「表現」に関する学びの過程をだいたい理解して、その概要を説明できる。	領域「表現」に関する学びの過程を理解しておらず、説明もできない。
思考・問題解決能力	２．保育を構想する方法について	保育を構想する方法を正しく身に付けており、領域「表現」に関わる様々な指導場面を具体的かつ詳細に想定することができる。	保育を構想する方法を正しく身に付けており、領域「表現」に関わる指導場面を具体的かつ詳細に想定することができる。	保育を構想する方法を正しく身に付けており、領域「表現」に関わる指導場面を具体的に想定することができる。	保育を構想する方法を正しく身に付けており、領域「表現」に関わる指導場面を想定することができる。	保育を構想する方法を身に付けておらず、領域「表現」に関わる指導場面を想定することができない。
思考・問題解決能力	３．指導計画の作成能力	幼稚園での子どもの生活を見据え、年齢に適切に応じた表現活動の指導計画を立てることができる。	幼稚園での子どもの生活を見据え、年齢に応じた表現活動の指導計画を立てることができる。	幼稚園での子どもの生活を見据え、年齢に応じた表現活動の指導計画を立てることができる。	幼稚園での子どもの生活を見据えた表現活動の指導計画を立てることができる。	幼稚園での子どもの生活を見据えた表現活動の指導計画を立てることができない。

科目名	教育・保育技術論 1クラス			授業番号	EE220A	サブタイトル			
教員	扇越　亜矢								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	取り扱う内容は担当教員の専門性に基づいた造形表現活動を中心とするが，活動を考える方法，活動を評価する（ほめる・振り返る）視点や方法のほか，保育における直接的，間接的コミュニケーションなどについて講義する。また，1年次の学習に基づいた保育内容のドキュメンテーションづくりやその発表などを通じ，主体的で対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。								
到達目標	子どもの特性を考慮して，子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育内容の計画や，その実施を目指す基礎的な方法を獲得する。また，ICTを活用して保育内容のドキュメンテーションを中心とした保育情報の作成と提供ができるようになる。								
授業計画　備考	ドキュメンテーションの内容は，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを活用する。 ドキュメンテーションはパワーポイント等のデジタルデータとする。 補講の回は1・2組で合同行うが，それ以外の回はクラス別に行う。								

回	概要	担当
第1回	教育・保育におけるエビデンス／ドキュメンテーションの内容紹介 5Cの力と幼児期の終わりまでに沿ってほしい10の姿との関係性を理解するため，実際に保育現場で5Cの力を視点活用した事例を知り，教育・保育におけるエビデンスの重要性を理解する。また，最終課題のドキュメンテーションについて説明を受け，概要を理解する。	
第2回	保育内容を考える方法①ものとの出会いと行為から保育内容を考える～〇で　□を／□に　△する～ "もの"と出会い，子どもが好奇心いっぱいに"！？♡"なことが起きる五感を駆使する行為や，そのような行為が起きる安全・安心な環境，生活に内在する保育内容の芽について考える。	
第3回	保育内容を考える法②同じ活動の意味を考える 「たっぷり」「のびのび」「何度でも」をキーワードにして，同じ活動でも年齢や姿勢，場所，画材，道具，基底材などによって生じる変容や，活動の持つ意味について考える。	
第4回	保育内容を考える方法③課題と題材（発達に応じた行為を表現に活かす） 発達上の課題とそれに適した保育内容の題材を考えるため，1年次の「保育内容の理解と方法A」で配布した資料に基づき、発達に応じた行為を表現活動に活かすことや育ちの上での表現活動の意味を考え，理解する。	
第5回	教育・保育の技術①導入・展開・評価における思考・意欲・行動を引き出す仕掛け 子どもの思考・意欲・行動を引き出す仕掛けを情報と位置づけ，動機付けになる情報とは何か，また情報を提供するタイミングが保育環境・環境構成・導入・展開・評価などのそれぞれの保育場面にあることを理解する。	
第6回	教育・保育の技術②様々な子どもに対応する活動とは：結果やプロセスの多様性 自分が実習する園にいてほしい子どもの特徴とその反対の特徴を短い言葉で表し，多様な子どもがいることを意識する。また，画一的な活動としてのスモールステップと多様な子どもに応じるためのスモールステップについて考える。	
第7回	教育・保育の技術③伝わる言葉・伝わらない言葉　幼児編 子どもに言いがちな仲良くする・ちゃんとする（きちんとする）・しっかりするなどの言葉は実はとても抽象的である。保育者の意図が子どもに届く表現について，事例を通じて理解する。その中で保育行為におけるオノマトペについても触れる。	
第8回	教育・保育の技術④伝わる言葉・伝わらない言葉　保護者編 保護者に対する保育者の言葉は時として保護者を不安にさせたり，担任や園に対する不信感につながったりすることを理解する。事実を伝えるだけでなくそこに子どもの気持ちを添えることや，指導より提案のかたちをとること，伝えたその後のフォローをすることにより，保護者ともに子どもをはぐくむ保育姿勢や関係性の構築につながることを理解する。	
第9回	教育・保育の技術⑤保育の評価：振り返り　振り返るために必要なものが「ねらい」であることを理解する。また，保育者の「褒める」言葉がもたらす結果について考え，何をどう褒めることが子どもの育ちにつながるのかを理解する。その際，1年次の「保育内容の理解と方法A/B」のスケッチブックに行った課題作品を褒め合う体験をする。これらを通じ，上手下手で捉えない保育姿勢について学ぶ。	
第10回	保育現場におけるICTの活用－研修と保護者に向けた保育ドキュメンテーション 保育者の業務内容におけるICT機器やシステムの活用について知る。また，具体的な事例を通して園内・園外研修のほか，保護者への情報提供とそれを通じた信頼関係構築に寄与するといった，ICTの活用を含めた保育ドキュメンテーションの持つ意味について理解する。	
第11回	保育ドキュメンテーション作成に向けて グループ作りと取り上げる保育内容の選定を行う。グループ数は偶数で最大8グループとする。保育対象は０歳児から５歳児までがそろうようにする。取り上げる保育内容は1年次の「保育内容の理解と方法A/B」もしくは「（保育内容）表現」で取り上げた内容とし，様々な子どもに対応した活動や援助を行うように考える。	
第12回	ドキュメンテーションの作成 グループごとに保育内容の追体験を行うなどしてドキュメンテーションのプレゼンテーションに用いる素材を集める。取り上げた保育内容をするにあたり、５Cの力の発揮や子どもが好奇心いっぱいに"！？♡"なことが起きる五感を駆使する行為がどこでどんな風に見ることができるのかということや，そのような行為が起きる安全・安心な環境や援助についても考える。	
第13回	ドキュメンテーションの作成・プレゼンテーションの練習 12回目と同様。進度に応じてプレゼンテーション内容の整理や練習をする。プレゼンテーションの順番を決める。13回目の週のうちにプレゼンテーションデータをクラスルームに投稿する。	
第14回	プレゼンテーションとその講評　前半グループ パワーポイントを用いて作成したドキュメンテーションを発表する。その際、他グループとの質疑応答を行う。また、その質疑応答を踏まえて発表について講評する。	
第15回	プレゼンテーションとその講評　後半グループ 14回目と同様。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	1年次の学習内容を振り返りつつ活動に主体的に取り組んでいる様子を評価する。授業中のワークへの参加や発言についても加点評価の対象とする。
レポート・提出課題	70	ドキュメンテーションの割合：40ドキュメンテーションの内容をSDGｓの普遍的目標とSTEAM教育の観点，5Cの力，幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）との具体的な関連性があるなど，保育のエビデンスとなる知識を獲得して活用していることを加点評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。 ドキュメンテーションに関する内容の時には，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを持参すること。
授業外学修	保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には，時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。1年次の授業科目の学習記録を読み込むこと。以上のことを時間外学修として毎週４時間程度行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	ワークシートで学ぶ子どもの造形表現　第2版　（1年次の授業で購入済み）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	新版　遊びの指導　入・幼児編（1年次の授業で購入済み） 幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社 保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社
その他	
備考	令和4年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県教育センター及び，幼稚園・保育園における研修講師（13年），岡山県保育協議会保育会研究紀要の指導助言者（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	岡山県保育協議会保育会研究紀要における指導助および保育者研修等で，大人にも子どもにも備わっている非認知能力である「5C」の力，すなわち「感知する」Catch，「創造する」Create，「コントロールする」Control ，「コミュニケーションする」Communicate ，「理解する」Comprehendを意識した保育をすることにより，幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に自然とつながっていくことを講演している。実際にその視点を活用することにより，子どもの活動が豊かに展開し，噛みつきやひっかきが減少した保育園があるので，エビデンスのある教育を行うことを目的として，そうした成果や園が作成したドキュメンテーションを学生に紹介する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．1年次の授業内容の振り返りにおける保育のエビデンスとなる知識の活用の様子	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動に多くのSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動にSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と法A/B」の内容を振り返ることができる。また、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と法A/B」の内容を振り返ることができる。また、教師の助言によってSTEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	1年次に学習した５Cの力のことをほとんど覚えておらず、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を５Cの力の発揮という視点で振り返ることができない。教師の助言があっても、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができない。
知識・理解	２．保育内容のドキュメンテーションにおいて子どもの特性や多様性の考慮や、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育方法が示されていること	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る柔軟性のある具体的な保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る具体的な保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	ドキュメンテーションの内容が子どもの特性や多様な子どもがいることに触れられていないうえ、実践的なドキュメンテーションを作ることができない。
思考・問題解決能力	１．問題点とその解決方法を見出す過程における他者との共同や知識・情報・手段の活用	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して様々な情報を集め、他者と共同して情報を検証したうえで、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すこと、または、共同で課題解決に当たることが難しい。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すことや共同で課題解決に当たることができない。
技能	１．授業中のICT活用	GoogleスライドやJamboardを使いこなし、多くの意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやJamboardを使いこなし、意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやJamboardを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドまたはJamboardのどちらかを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドやJamboardのどちらも使うことができないうえ、意見や考えを表明できない。
技能	２．グループで協力して作るプレゼンテーション資料とその発表及び質疑応答	グループで協力し、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションして時間内に発表を終えるほか、質疑に十分応答することができる。	グループで協力し、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションして時間内に発表を終えるほか、質疑に応答することができる。	グループで協力し、分かりやすい視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる上、質疑に応答することができる。	グループで協力して視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる。また、質疑にはかろうじて応答することができる。	グループ内で協力して発表する様子が見られない。また、時間内に発表を終えることができないうえ、質疑にも応答できない。

科目名	教育・保育技術論 2クラス			授業番号	EE220B	サブタイトル			
教員	扇越　亜矢								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	取り扱う内容は担当教員の専門性に基づいた造形表現活動を中心とするが，活動を考える方法，活動を評価する（ほめる・振り返る）視点や方法のほか，保育における直接的，間接的コミュニケーションなどについて講義する。また，1年次の学習に基づいた保育内容のドキュメンテーションづくりやその発表などを通じ，主体的で対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。								
到達目標	子どもの特性を考慮して，子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育内容の計画や，その実施を目指す基礎的な方法を獲得する。また，ICTを活用して保育内容のドキュメンテーションを中心とした保育情報の作成と提供ができるようになる。								
授業計画　備考	ドキュメンテーションの内容は，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを活用する。 ドキュメンテーションはパワーポイント等のデジタルデータとする。 補講の回は1・2組で合同行うが，それ以外の回はクラス別に行う。								

回	概要	担当
第1回	教育・保育におけるエビデンス／ドキュメンテーションの内容紹介 5Cの力と幼児期の終わりまでに沿ってほしい10の姿との関係性を理解するため，実際に保育現場で5Cの力を視点活用した事例を知り，教育・保育におけるエビデンスの重要性を理解する。また，最終課題のドキュメンテーションについて説明を受け，概要を理解する。	
第2回	保育内容を考える方法①ものとの出会いと行為から保育内容を考える～〇で　□を／□に　△する～ "もの"と出会い，子どもが好奇心いっぱいに"！？♡"なことが起きる五感を駆使する行為や，そのような行為が起きる安全・安心な環境，生活に内在する保育内容の芽について考える。	
第3回	保育内容を考える法②同じ活動の意味を考える 「たっぷり」「のびのび」「何度でも」をキーワードにして，同じ活動でも年齢や姿勢，場所，画材，道具，基底材などによって生じる変容や，活動の持つ意味について考える。	
第4回	保育内容を考える方法③課題と題材（発達に応じた行為を表現に活かす） 発達上の課題とそれに適した保育内容の題材を考えるため，1年次の「保育内容の理解と方法A」で配布した資料に基づき、発達に応じた行為を表現活動に活かすことや育ちの上での表現活動の意味を考え，理解する。	
第5回	教育・保育の技術①導入・展開・評価における思考・意欲・行動を引き出す仕掛け 子どもの思考・意欲・行動を引き出す仕掛けを情報と位置づけ，動機付けになる情報とは何か，また情報を提供するタイミングが保育環境・環境構成・導入・展開・評価などのそれぞれの保育場面にあることを理解する。	
第6回	教育・保育の技術②様々な子どもに対応する活動とは：結果やプロセスの多様性 自分が実習する園にいてほしい子どもの特徴とその反対の特徴を短い言葉で表し，多様な子どもがいることを意識する。また，画一的な活動としてのスモールステップと多様な子どもに応じるためのスモールステップについて考える。	
第7回	教育・保育の技術③伝わる言葉・伝わらない言葉　幼児編 子どもに言いがちな仲良くする・ちゃんとする（きちんとする）・しっかりするなどの言葉は実はとても抽象的である。保育者の意図が子どもに届く表現について，事例を通じて理解する。その中で保育行為におけるオノマトペについても触れる。	
第8回	教育・保育の技術④伝わる言葉・伝わらない言葉　保護者編 保護者に対する保育者の言葉は時として保護者を不安にさせたり，担任や園に対する不信感につながったりすることを理解する。事実を伝えるだけでなくそこに子どもの気持ちを添えることや，指導より提案のかたちをとること，伝えたその後のフォローをすることにより，保護者ともに子どもをはぐくむ保育姿勢や関係性の構築につながることを理解する。	
第9回	教育・保育の技術⑤保育の評価：振り返り　振り返るために必要なものが「ねらい」であることを理解する。また，保育者の「褒める」言葉がもたらす結果について考え，何をどう褒めることが子どもの育ちにつながるのかを理解する。その際，1年次の「保育内容の理解と方法A/B」のスケッチブックに行った課題作品を褒め合う体験をする。これらを通じ，上手下手で捉えない保育姿勢について学ぶ。	
第10回	保育現場におけるICTの活用－研修と保護者に向けた保育ドキュメンテーション 保育者の業務内容におけるICT機器やシステムの活用について知る。また，具体的な事例を通して園内・園外研修のほか，保護者への情報提供とそれを通じた信頼関係構築に寄与するといった，ICTの活用を含めた保育ドキュメンテーションの持つ意味について理解する。	
第11回	保育ドキュメンテーション作成に向けて グループ作りと取り上げる保育内容の選定を行う。グループ数は偶数で最大8グループとする。保育対象は０歳児から５歳児までがそろうようにする。取り上げる保育内容は1年次の「保育内容の理解と方法A/B」もしくは「（保育内容）表現」で取り上げた内容とし，様々な子どもに対応した活動や援助を行うように考える。	
第12回	ドキュメンテーションの作成 グループごとに保育内容の追体験を行うなどしてドキュメンテーションのプレゼンテーションに用いる素材を集める。取り上げた保育内容をするにあたり、５Cの力の発揮や子どもが好奇心いっぱいに"！？♡"なことが起きる五感を駆使する行為がどこでどんな風に見ることができるのかということや，そのような行為が起きる安全・安心な環境や援助についても考える。	
第13回	ドキュメンテーションの作成・プレゼンテーションの練習 12回目と同様。進度に応じてプレゼンテーション内容の整理や練習をする。プレゼンテーションの順番を決める。13回目の週のうちにプレゼンテーションデータをクラスルームに投稿する。	
第14回	プレゼンテーションとその講評　前半グループ パワーポイントを用いて作成したドキュメンテーションを発表する。その際、他グループとの質疑応答を行う。また、その質疑応答を踏まえて発表について講評する。	
第15回	プレゼンテーションとその講評　後半グループ 14回目と同様。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	1年次の学習内容を振り返りつつ活動に主体的に取り組んでいる様子を評価する。授業中のワークへの参加や発言についても加点評価の対象とする。
レポート・提出課題	70	ドキュメンテーションの割合：40ドキュメンテーションの内容をSDGｓの普遍的目標とSTEAM教育の観点，5Cの力，幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）との具体的な関連性があるなど，保育のエビデンスとなる知識を獲得して活用していることを加点評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。 ドキュメンテーションに関する内容の時には，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを持参すること。
授業外学修	保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には，時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。1年次の授業科目の学習記録を読み込むこと。以上のことを時間外学修として毎週４時間程度行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	ワークシートで学ぶ子どもの造形表現　第2版　（1年次の授業で購入済み）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	新版　遊びの指導　入・幼児編（1年次の授業で購入済み） 幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社 保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社
その他	
備考	令和4年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県教育センター及び，幼稚園・保育園における研修講師（13年），岡山県保育協議会保育会研究紀要の指導助言者（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	岡山県保育協議会保育会研究紀要における指導助および保育者研修等で，大人にも子どもにも備わっている非認知能力である「5C」の力，すなわち「感知する」Catch，「創造する」Create，「コントロールする」Control ，「コミュニケーションする」Communicate ，「理解する」Comprehendを意識した保育をすることにより，幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に自然とつながっていくことを講演している。実際にその視点を活用することにより，子どもの活動が豊かに展開し，噛みつきやひっかきが減少した保育園があるので，エビデンスのある教育を行うことを目的として，そうした成果や園が作成したドキュメンテーションを学生に紹介する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．1年次の授業内容の振り返りにおける保育のエビデンスとなる知識の活用の様子	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動に多くのSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動にSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と法A/B」の内容を振り返ることができる。また、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と法A/B」の内容を振り返ることができる。また、教師の助言によってSTEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	1年次に学習した５Cの力のことをほとんど覚えておらず、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を５Cの力の発揮という視点で振り返ることができない。教師の助言があっても、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができない。
知識・理解	２．保育内容のドキュメンテーションにおいて子どもの特性や多様性の考慮や、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育方法が示されていること	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る柔軟性のある具体的な保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る具体的な保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	ドキュメンテーションの内容が子どもの特性や多様な子どもがいることに触れられていないうえ、実践的なドキュメンテーションを作ることができない。
思考・問題解決能力	１．問題点とその解決方法を見出す過程における他者との共同や知識・情報・手段の活用	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して様々な情報を集め、他者と共同して情報を検証したうえで、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すこと、または、共同で課題解決に当たることが難しい。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すことや共同で課題解決に当たることができない。
技能	１．授業中のICT活用	GoogleスライドやJamboardを使いこなし、多くの意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやJamboardを使いこなし、意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやJamboardを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドまたはJamboardのどちらかを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドやJamboardのどちらも使うことができないうえ、意見や考えを表明できない。
技能	２．グループで協力して作るプレゼンテーション資料とその発表及び質疑応答	グループで協力し、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションして時間内に発表を終えるほか、質疑に十分応答することができる。	グループで協力し、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションして時間内に発表を終えるほか、質疑に応答することができる。	グループで協力し、分かりやすい視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる上、質疑に応答することができる。	グループで協力して視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる。また、質疑にはかろうじて応答することができる。	グループ内で協力して発表する様子が見られない。また、時間内に発表を終えることができないうえ、質疑にも応答できない。

科目名	音楽基礎演習Ａ 1クラス			授業番号	EE221A	サブタイトル			
教員	渡辺 ユリナ、松井 みさ、河田 健二、青木 彩絵子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ピアノ基礎技法を学ぶとともに，ML教室，７２０５教室を用いて，音楽の基礎的な知識を習得する。								
到達目標	個人のレベルにあったピアノ技術を学ぶとともに，楽譜を読むために必要な基本的な知識を身につけ，童謡のレパートリーを増やすことを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ピアノ基礎技術確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第2回	簡単な両手の譜読み 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第3回	基本コード3種の確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第4回	基本コードを使用して両手の譜読み 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第5回	小テスト 基本コードの伴奏付けによる演奏課題 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第6回	ピアノ曲の個別課題選曲 マーチメドレー曲選曲２曲 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第7回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 音の確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第8回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 指使いの確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第9回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 両手の確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第10回	小テスト マーチメドレー曲の１曲を通して演奏 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第11回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 両手で通す練習確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第12回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 部分練習の仕方 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第13回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 マーチ２曲を通す練習 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第14回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 マーチ２曲の速さの確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第15回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 マーチ２曲の仕上げ 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	60	技術習得のための練習方法を身に付けられるように，努力しているか， 予習復習の積み上げの状況，意欲的な態度によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	20	最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。
その他	20	個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。 きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。
授業外学修	授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2～4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	ミュージックスクール講師（松井みさ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を生かして技術の指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．基本的な楽典の理解	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	楽典の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．楽典	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	音楽基礎演習Ａ 2クラス			授業番号	EE221B	サブタイトル			
教員	渡辺 ユリナ、松井 みさ、河田 健二、青木 彩絵子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ピアノ基礎技法を学ぶとともに，ML教室，７２０５教室を用いて，音楽の基礎的な知識を習得する。								
到達目標	個人のレベルにあったピアノ技術を学ぶとともに，楽譜を読むために必要な基本的な知識を身につけ，童謡のレパートリーを増やすことを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ピアノ基礎技術確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第2回	簡単な両手の譜読み 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第3回	基本コード3種の確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第4回	基本コードを使用して両手の譜読み 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第5回	小テスト 基本コードの伴奏付けによる演奏課題 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第6回	ピアノ曲の個別課題選曲 マーチメドレー曲選曲２曲 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第7回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 音の確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第8回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 指使いの確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第9回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 両手の確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第10回	小テスト マーチメドレー曲の１曲を通して演奏 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第11回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 両手で通す練習確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第12回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 部分練習の仕方 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第13回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 マーチ２曲を通す練習 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第14回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 マーチ２曲の速さの確認 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第15回	ピアノ曲の個別課題・マーチメドレー曲の譜読み指導 マーチ２曲の仕上げ 楽典・歌唱指導	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	60	技術習得のための練習方法を身に付けられるように，努力しているか， 予習復習の積み上げの状況，意欲的な態度によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	20	最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。
その他	20	個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。 きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。
授業外学修	授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2～4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	ミュージックスクール講師（松井みさ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を生かして技術の指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．基本的な楽典の理解	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	楽典の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．楽典	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	音楽基礎演習Ｂ 1クラス			授業番号	EE222A	サブタイトル			
教員	松井 みさ、渡辺 ユリナ、河田 健二、青木 彩絵子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	音楽基礎演習Ａを発展させたピアノ基礎技法を習得する。さらに，ML教室，７２０５室を用いて，保育の現場で必要なコード奏や弾き歌いについても，個人のレベルにあった技術を習得する。								
到達目標	よりよい音楽表現を行うための基本的な技術や，保育の現場で必要な弾き歌いの技術が身につくことを目的とする。なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ピアノ曲１曲の右手の譜読み確認　３種のコードの復習 コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第2回	ピアノ曲１曲の左手の譜読み確認　３種のコードを付ける音について コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第3回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（前半）３種のコードを左手指使いに注意して伴奏 コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第4回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（前半の表現）基本的なメロディーに３種のコードを考えて伴奏　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第5回	小テスト　３種のコード奏 コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第6回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（後半）弾き歌いメロディーの右手指使い６度音程まで コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第7回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（後半の表現）弾き歌いメロディーの右手指使い８度音程まで　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第8回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（全体）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け（右手６度音程まで）　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第9回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（全体の表現）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け（右手８度音程まで）　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第10回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（通す練習）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け復習　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第11回	小テスト ピアノ曲１曲全部の譜読みを通して演奏 コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第12回	ピアノ曲１曲を両手で通す練習（強弱表現） コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第13回	ピアノ曲１曲を両手で通す練習（感情表現） コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第14回	ピアノ曲１曲を両手で通す練習（適度な速度） コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第15回	ピアノ曲１曲を両手で通す演奏確認（完成度の確認） コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	技術習得のための努力の姿勢，意欲的な態度によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	20	最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。
その他	20	個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。 きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。
授業外学修	授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2～4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ミュージックスクール講師（6年　松井みさ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を生かして技術の指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．コードネームとコード進行の理解	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．コードネームとコード進行	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着けることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	音楽基礎演習Ｂ 2クラス			授業番号	EE222B	サブタイトル			
教員	松井 みさ、渡辺 ユリナ、河田 健二、青木 彩絵子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	音楽基礎演習Ａを発展させたピアノ基礎技法を習得する。さらに，ML教室，７２０５室を用いて，保育の現場で必要なコード奏や弾き歌いについても，個人のレベルにあった技術を習得する。								
到達目標	よりよい音楽表現を行うための基本的な技術や，保育の現場で必要な弾き歌いの技術が身につくことを目的とする。なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ピアノ曲１曲の右手の譜読み確認　３種のコードの復習 コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第2回	ピアノ曲１曲の左手の譜読み確認　３種のコードを付ける音について コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第3回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（前半）３種のコードを左手指使いに注意して伴奏 コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第4回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（前半の表現）基本的なメロディーに３種のコードを考えて伴奏　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第5回	小テスト　３種のコード奏 コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第6回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（後半）弾き歌いメロディーの右手指使い６度音程まで コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第7回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（後半の表現）弾き歌いメロディーの右手指使い８度音程まで　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第8回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（全体）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け（右手６度音程まで）　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第9回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（全体の表現）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け（右手８度音程まで）　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第10回	ピアノ曲１曲の両手の譜読み確認（通す練習）　弾き歌いメロディーに３種のコード奏付け復習　コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第11回	小テスト ピアノ曲１曲全部の譜読みを通して演奏 コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第12回	ピアノ曲１曲を両手で通す練習（強弱表現） コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第13回	ピアノ曲１曲を両手で通す練習（感情表現） コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第14回	ピアノ曲１曲を両手で通す練習（適度な速度） コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
第15回	ピアノ曲１曲を両手で通す演奏確認（完成度の確認） コードの理解と弾き歌い	渡辺 ユリナ　松井 みさ　河田 健二　青木 彩絵子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	技術習得のための努力の姿勢，意欲的な態度によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	20	最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。
その他	20	個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。 きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。
授業外学修	授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2～4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ミュージックスクール講師（6年 松井みさ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を生かして技術の指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．コードネームとコード進行の理解	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．コードネームとコード進行	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着けることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	保育内容の理解と方法C 1クラス			授業番号	EE301A	サブタイトル			
教員	土田　豊、松井　みさ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	こどもの心身の発達やこどもを取り巻く環境等を踏まえて，こどもの生活と遊びにおける体験と保育の環境を捉え，他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識および技術を学び，表現活動を行なう。								
到達目標	生活や，遊びの中で，音楽環境作りの技術を身につけたり，こどもの心身の発達を踏まえた身体運動や集団活動の援助に関わる技術を身につけることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	学習効果を期待できる人数で授業を進めていくため，１クラス２クラスを前半後半にグループ分けを行なう。								

回	概要	担当
第1回	クラス分け（１クラス・２クラス）表現活動の導入	土`田 豊 松井みさ
第2回	１クラス　音楽環境作りの基礎 ２クラス　リズムに合わせた身体表現	松井みさ 土`田 豊
第3回	１クラス　音楽環境作りの企画 ２クラス「歩く」動きを中心とした表現	松井みさ 土`田 豊
第4回	１クラス　音楽環境作りの制作　１ ２クラス　動物の動きを取り入れた表現	松井みさ 土`田 豊
第5回	１クラス　音楽環境作りの制作　２ ２クラス　動作中心の物語表現体験	松井みさ 土`田 豊
第6回	１クラス　音楽素材の活用と表現 ２クラス　バルーンダンス表現（１）	松井みさ 土`田 豊
第7回	１クラス　楽器の活用と表現 ２クラス　バルーンダンス表現（２）	松井みさ 土`田 豊
第8回	１クラス　合奏の表現 ２クラス　バルーンダンス発表会・まとめ	松井みさ 土`田 豊
第9回	１クラス　リズムに合わせた身体表現 ２クラス　音楽環境作りの基礎	土`田 豊 松井みさ
第10回	１クラス「歩く」動きを中心とした表現 ２クラス　音楽環境作りの企画	土`田 豊 松井みさ
第11回	１クラス　動物の動きを取り入れた表現 ２クラス　音楽環境作りの制作　１	土`田 豊 松井みさ
第12回	１クラス　動作中心の物語表現体験 ２クラス　音楽環境作りの制作　２	土`田 豊 松井みさ
第13回	１クラス　バルーンダンス表現（１） ２クラス　音楽素材の活用と表現	土`田 豊 松井みさ
第14回	１クラス　バルーンダンス表現（２） ２クラス　楽器の活用と表現	土`田 豊 松井みさ
第15回	１クラス　バルーンダンス発表会・まとめ ２クラス　合奏の表現	土`田 豊 松井みさ
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，あらたな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法A・Bと同様に，「面白い」をとらえる５つの力「５Cの力」に基づいている。
レポート	20	課題を明確に把握できているか提出内容によって評価する。毎回授業後に振り返りやほかのグループの表現を見ての感想等をまとめるレポートを課し，記述内容に応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで、学習のフィードバックとする。
小テスト	20	表現としての伝達力を実技テストによって評価する。最終課題のバルーンダンスの表現方法や構成を，子ども目線で考えることができているかや，グループの一体感が得られているか，観客を意識した表現が盛り込まれているか等を評価の観点として得点化する。
定期試験		
その他	20	準備段階の段取り力や，製作の完成度，また，五感を刺激する意識，創造性があるかによって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	授業で学んだ成果を元に，週あたり２時間～４時間は予習復習すること。 予習で授業内容に関連した情報収集を行い，表現のイメージ，知識を広げたりしてより良い表現ができるように内容を準備しておくこと。 また，復習では発表の改善点，気づきなどをまとめておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土`田 豊 10年）、ミュージックスクール講師（松井みさ 6年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を生かした技術指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達特性に応じた身体表現活動	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた身体表現活動を具体的に考えることができる。	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた身体表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解して、身体表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解しているが、それに応じた身体表現活動を考えるに至らない場合がある。	幼児の発達特性の理解が浅く、それに応じた身体表現活動を考えるに至らない。
知識・理解	２．視覚的・聴覚的情報を活用した音楽表現活動	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力に長けており、それらを効果的に活用して、新たな表現の創造ができる。	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、新たな表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力はあるが、表現においては他者を模倣することが多い。	視覚的・聴覚的情報をうまく活用できず、表現に結びつかない。
思考・問題解決能力	１．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	１．身体運動における感じたことの表現	身体運動において幼児の発達を考慮した上で、効果的にいろいろな方法で表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮した上で、いろいろな方法で表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮した上で表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮した上で、ほぼ表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮できず、表現することができない。
技能	２．音楽的要素を取り入れた製作	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮した上で、効果的にいろいろな方法で製作や表現ができる。	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮した上で、いろいろな方法で製作や表現ができる。	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮した上で、製作や表現ができる。	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮した上で、ほぼ製作や表現ができる。	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮できず、製作や表現ができない。
態度	１．課題への向き合い方	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や深く考えた意見をほぼ毎回発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、毎回ではないが、自分なりの知見や深く考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図の理解はできているが、自分なりの知見や考えた意見を発表したり、記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できない。
態度	２．グループ活動での行動	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分発揮できている状態。グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していない。グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮していない。そのうえ、グループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	保育内容の理解と方法C 2クラス			授業番号	EE301B	サブタイトル			
教員	土田　豊、松井　みさ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	こどもの心身の発達やこどもを取り巻く環境等を踏まえて，こどもの生活と遊びにおける体験と保育の環境を捉え，他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識および技術を学び，表現活動を行なう。								
到達目標	生活や，遊びの中で，音楽環境作りの技術を身につけたり，こどもの心身の発達を踏まえた身体運動や集団活動の援助に関わる技術を身につけることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	学習効果を期待できる人数で授業を進めていくため，１クラス２クラスを前半後半にグループ分けを行なう。								

回	概要	担当
第1回	クラス分け（１クラス・２クラス）表現活動の導入	土`田 豊 松井みさ
第2回	１クラス　音楽環境作りの基礎 ２クラス　リズムに合わせた身体表現	松井みさ 土`田 豊
第3回	１クラス　音楽環境作りの企画 ２クラス「歩く」動きを中心とした表現	松井みさ 土`田 豊
第4回	１クラス　音楽環境作りの制作　１ ２クラス　動物の動きを取り入れた表現	松井みさ 土`田 豊
第5回	１クラス　音楽環境作りの制作　２ ２クラス　動作中心の物語表現体験	松井みさ 土`田 豊
第6回	１クラス　音楽素材の活用と表現 ２クラス　バルーンダンス表現（１）	松井みさ 土`田 豊
第7回	１クラス　楽器の活用と表現 ２クラス　バルーンダンス表現（２）	松井みさ 土`田 豊
第8回	１クラス　合奏の表現 ２クラス　バルーンダンス発表会・まとめ	松井みさ 土`田 豊
第9回	１クラス　リズムに合わせた身体表現 ２クラス　音楽環境作りの基礎	土`田 豊 松井みさ
第10回	１クラス「歩く」動きを中心とした表現 ２クラス　音楽環境作りの企画	土`田 豊 松井みさ
第11回	１クラス　動物の動きを取り入れた表現 ２クラス　音楽環境作りの制作　１	土`田 豊 松井みさ
第12回	１クラス　動作中心の物語表現体験 ２クラス　音楽環境作りの制作　２	土`田 豊 松井みさ
第13回	１クラス　バルーンダンス表現（１） ２クラス　音楽素材の活用と表現	土`田 豊 松井みさ
第14回	１クラス　バルーンダンス表現（２） ２クラス　楽器の活用と表現	土`田 豊 松井みさ
第15回	１クラス　バルーンダンス発表会・まとめ ２クラス　合奏の表現	土`田 豊 松井みさ
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，あらたな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法A・Bと同様に，「面白い」をとらえる５つの力「５Cの力」に基づいている。
レポート	20	課題を明確に把握できているか提出内容によって評価する。毎回授業後に振り返りやほかのグループの表現を見ての感想等をまとめるレポートを課し，記述内容に応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで、学習のフィードバックとする。
小テスト	20	表現としての伝達力を実技テストによって評価する。最終課題のバルーンダンスの表現方法や構成を，子ども目線で考えることができているかや，グループの一体感が得られているか，観客を意識した表現が盛り込まれているか等を評価の観点として得点化する。
定期試験		
その他	20	準備段階の段取り力や，製作の完成度，また，五感を刺激する意識，創造性があるかによって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	授業で学んだ成果を元に，週あたり２時間～４時間は予習復習すること。 予習で授業内容に関連した情報収集を行い，表現のイメージ，知識を広げたりしてより良い表現ができるように内容を準備しておくこと。 また，復習では発表の改善点，気づきなどをまとめておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土`田 豊 10年）、ミュージックスクール講師（松井みさ 6年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を生かした技術指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達特性に応じた身体表現活動	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた身体表現活動を具体的に考えることができる。	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた身体表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解して、身体表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解しているが、それに応じた身体表現活動を考えるに至らない場合がある。	幼児の発達特性の理解が浅く、それに応じた身体表現活動を考えるに至らない。
知識・理解	２．視覚的・聴覚的情報を活用した音楽表現活動	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力に長けており、それらを効果的に活用して、新たな表現の創造ができる。	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、新たな表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力はあるが、表現においては他者を模倣することが多い。	視覚的・聴覚的情報をうまく活用できず、表現に結びつかない。
思考・問題解決能力	１．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	１．身体運動における感じたことの表現	身体運動において幼児の発達を考慮した上で、効果的にいろいろな方法で表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮した上で、いろいろな方法で表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮した上で表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮した上で、ほぼ表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮できず、表現することができない。
技能	２．音楽的要素を取り入れた製作	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮した上で、効果的にいろいろな方法で製作や表現ができる。	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮した上で、いろいろな方法で製作や表現ができる。	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮した上で、製作や表現ができる。	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮した上で、ほぼ製作や表現ができる。	音楽的要素を取り入れ、幼児の発達を考慮できず、製作や表現ができない。
態度	１．課題への向き合い方	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や深く考えた意見をほぼ毎回発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、毎回ではないが、自分なりの知見や深く考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図の理解はできているが、自分なりの知見や考えた意見を発表したり、記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できない。
態度	２．グループ活動での行動	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分発揮できている状態。グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していない。グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮していない。そのうえ、グループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	乳児保育Ⅱ 1クラス			授業番号	EE302A	サブタイトル			
教員	荒谷 友里恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	現在保育所，こども園の現場において乳児保育の必要性が高まっている。その原因は何かを理解することを一つの目的としている。また，それに伴い保育士や保育教諭が担う適切な保育を実施することの意義や課題について学習する。また，保育現場において十分な乳児保育ができるよう，繰り返し実践的な演習をすることにより保育技術を身につける。								
到達目標	乳児の発達段階に合わせた環境・保育について理解する。 乳児の一日の生活を理解し，演習により適切な援助ができるようにする。 繰り返し演習をすることにより，乳児の扱い方が理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	乳児保育に適した服装見出しなみについて考える 乳児の実態を理解し，どのような身だしなみが適切か発表し，共有する。	
第2回	乳児に応じた抱っこやおんぶについて 乳児人形を使用して，実際に抱っこやおんぶをすることにより理解する。	
第3回	発達に応じた調乳と授乳 実際に調乳，授乳を経験して適度な温度や授乳の仕方を理解する。	
第4回	発達に応じた離乳食・幼児食 離乳食の大きさや与え方などを理解する。	
第5回	発達に応じたおむつのあて方・かえ方 基本的なおむつのあて方・かえ方を理解し，実際にする。	
第6回	おむつからトイレへの自立 おむつからの移行期について理解する。	
第7回	手洗いについて 正しい手洗いについて理解し，保育現場において子どもに指導できるようにする。	
第8回	乳児のあそびについて考える 乳児の興味・関心を知り，おもちゃを考える。	
第9回	乳児のあそびの計画を立てる あそびの立案をする。	
第10回	乳児のおもちゃ作り 乳児に与えるおもちゃを作り，発表する。	
第11回	おもちゃについての評価 乳児にとっておもちゃが適切かどうか考える。	
第12回	乳児の発達に応じた清潔（爪切り・歯みがき・鼻かみ・手洗い）について 実際に保育現場でどのような清潔への配慮が行われていたか発表することにより，理解する。	
第13回	乳児の発達に応じた遊びについて 保育現場でどのようなあそびをしていたのか発表することにより，理解する。	
第14回	乳児保育の1日の流れを知り，保育士の配慮すべきことについて考える 配慮事項を再確認することにより，乳児の安全を理解する。	
第15回	乳児保育のまとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	演習時は衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加できる。毎回の授業に意欲的に取り組める。
レポート	20	テーマレポートは提出期日が守れているか、内容が一致しているか、具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	到達目標１・２・３について理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加すること。
授業外学修	授業毎1時間以上かけて手順とその根拠を考えてノートにまとめること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
乳児保育	CHS子育て文化研究所 編	萌文書林	9784893470683	1800＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	１年次の子どもの保健で使用したテキストとノートを資料として使用するので，毎回持参する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	看護師としての実務経験を有する。（10年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．1日の過ごし方、養護のあり方	0・1・2歳児の発達の特徴について、1年次のレディネスが十分あり、発達による一日の流れの違いについて十分理解し、理論的に説明できる。	0・1・2歳児の発達の特徴について、1年次のレディネスが十分あり、発達による一日の流れの違いについて理解し、ほぼ理論的に説明できる。	0・1・2歳児の発達の特徴について、1年次のレディネスがあり、発達による一日の流れの違いについて理解しているが、理論的に説明することはできない。	0・1・2歳児の発達の特徴について、1年次のレディネスが十分ではないが、発達による一日の流れの違いについて部分的に理解して具体的に言える。	0・1・2歳児の発達の特徴と一日の流れの違いについて、学ぼうとしない。
思考・問題解決能力	１．テーマ別調査	担当するテーマについて情報収集・グループワーク・発表まで、グループの中核となり責任をもって活動できる。グループの中で、乳児保育のポイントを的確におさえた考察ができる。	担当するテーマについて情報収集・グループワーク・発表まで、自分の役割を責任をもって活動できる。グループの中で、乳児保育のポイントを意識した考察ができる。	担当するテーマについて情報収集・グループワーク・発表まで、自分の役割を認識して活動できる。グループワークでは、メンバーの意見を聞き、考察しようと努力する。	担当するテーマについて他人任せで、メンバーが指示した内容を担当するが、メンバーの意見をほとんど聞いたり、考察する努力が乏しい。	担当するテーマについてメンバーと協力することができない。
技能	１．養護の技術	すべての演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。すべての演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	ほとんどの演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。ほとんどの演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得しようと努力する。演習で、グループメンバーの技術について観察し、アドバイスをしようと努力する。	演習で、グループメンバーからアドバイスをもらって技術を習得しようと努力する。グループメンバーにアドバイスすることはほとんどない。	演習の欠席が重なり、出席しても説明や演習に集中できず、正しい手順の習得ができない。
技能	２．技術テスト	おむつ替えが素早く正しくできる。科学的根拠を十分理解しているので、腹式呼吸や尿路感染、足の動きを妨げないように確実な配慮ができる。	おむつ替えが素早く正しくできる。科学的根拠を理解しているので、腹式呼吸や尿路感染、足の動きを妨げないように確実な配慮ができる。	おむつ替えが時間内に正しくできる。科学的根拠を理解しているので、腹式呼吸や尿路感染、足の動きを妨げないように努力している。	おむつ替えが時間内にできない。腹式呼吸や尿路感染、足の動きを妨げないようにする努力が欠けることがある。	明らかな練習不足で、おむつ替えが時間内にできない。手順も配慮も努力に欠ける。
態度	１．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組み、グループでリーダーシップがとれる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組むことができる。	意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。ほとんどの演習に集中して取り組むことができる。	テーマに沿った内容で意見・感想を述べることができる。また、やや知識の定着が見られる。演習に集中して取り組めていないことがある。	意欲的な態度が見られず、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができない。また、知識の定着も見られない。演習の取り組みが消極的で、集中できていない。
態度	２．服装身だしなみ	演習の授業で毎回、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業でほとんど、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で半分以上、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみを心がけるが、完璧にはできないことが多い。	演習の授業に普段着で参加することが1回以上ある。

科目名	乳児保育Ⅱ 2クラス			授業番号	EE302B	サブタイトル			
教員	荒谷 友里恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	現在保育所，こども園の現場において乳児保育の必要性が高まっている。その原因は何かを理解することを一つの目的としている。また，それに伴い保育士や保育教諭が担う適切な保育を実施することの意義や課題について学習する。また，保育現場において十分な乳児保育ができるよう，繰り返し実践的な演習をすることにより保育技術を身につける。								
到達目標	乳児の発達段階に合わせた環境・保育について理解する。 乳児の一日の生活を理解し，演習により適切な援助ができるようにする。 繰り返し演習をすることにより，乳児の扱い方が理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	乳児保育に適した服装見出しなみについて考える 乳児の実態を理解し，どのような身だしなみが適切か発表し，共有する。	
第2回	乳児に応じた抱っこやおんぶについて 乳児人形を使用して，実際に抱っこやおんぶをすることにより理解する。	
第3回	発達に応じた調乳と授乳 実際に調乳，授乳を経験して適度な温度や授乳の仕方を理解する。	
第4回	発達に応じた離乳食・幼児食 離乳食の大きさや与え方などを理解する。	
第5回	発達に応じたおむつのあて方・かえ方 基本的なおむつのあて方・かえ方を理解し，実際にする。	
第6回	おむつからトイレへの自立 おむつからの移行期について理解する。	
第7回	手洗いについて 正しい手洗いについて理解し，保育現場において子どもに指導できるようにする。	
第8回	乳児のあそびについて考える 乳児の興味・関心を知り，おもちゃを考える。	
第9回	乳児のあそびの計画を立てる あそびの立案をする。	
第10回	乳児のおもちゃ作り 乳児に与えるおもちゃを作り，発表する。	
第11回	おもちゃについての評価 乳児にとっておもちゃが適切かどうか考える。	
第12回	乳児の発達に応じた清潔（爪切り・歯みがき・鼻かみ・手洗い）について 実際に保育現場でどのような清潔への配慮が行われていたか発表することにより，理解する。	
第13回	乳児の発達に応じた遊びについて 保育現場でどのようなあそびをしていたのか発表することにより，理解する。	
第14回	乳児保育の1日の流れを知り，保育士の配慮すべきことについて考える 配慮事項を再確認することにより，乳児の安全を理解する。	
第15回	乳児保育のまとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	演習時は衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加できる。毎回の授業に意欲的に取り組める。
レポート	20	テーマレポートは提出期日が守れているか、内容が一致しているか、具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	到達目標１・２・３について理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加すること。
授業外学修	授業毎1時間以上かけて手順とその根拠を考えてノートにまとめること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
乳児保育	CHS子育て文化研究所 編	萌文書林	9784893470683	1800＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	１年次の子どもの保健で使用したテキストとノートを資料として使用するので，毎回持参する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師としての実務経験を有する。（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．1日の過ごし方、養護のあり方	0・1・2歳児の発達の特徴について、1年次のレディネスが十分あり、発達による一日の流れの違いについて十分理解し、理論的に説明できる。	0・1・2歳児の発達の特徴について、1年次のレディネスが十分あり、発達による一日の流れの違いについて理解し、ほぼ理論的に説明できる。	0・1・2歳児の発達の特徴について、1年次のレディネスがあり、発達による一日の流れの違いについて理解しているが、理論的に説明することはできない。	0・1・2歳児の発達の特徴について、1年次のレディネスが十分ではないが、発達による一日の流れの違いについて部分的に理解して具体的に言える。	0・1・2歳児の発達の特徴と一日の流れの違いについて、学ぼうとしない。
思考・問題解決能力	１．テーマ別調査	担当するテーマについて情報収集・グループワーク・発表まで、グループの中核となり責任をもって活動できる。グループの中で、乳児保育のポイントを的確におさえた考察ができる。	担当するテーマについて情報収集・グループワーク・発表まで、自分の役割を責任をもって活動できる。グループの中で、乳児保育のポイントを意識した考察ができる。	担当するテーマについて情報収集・グループワーク・発表まで、自分の役割を認識して活動できる。グループワークでは、メンバーの意見を聞き、考察しようと努力する。	担当するテーマについて他人任せで、メンバーが指示した内容を担当するが、メンバーの意見をほとんど聞いたり、考察する努力が乏しい。	担当するテーマについてメンバーと協力することができない。
技能	１．養護の技術	すべての演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。すべての演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	ほとんどの演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。ほとんどの演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得しようと努力する。演習で、グループメンバーの技術について観察し、アドバイスをしようと努力する。	演習で、グループメンバーからアドバイスをもらって技術を習得しようと努力する。グループメンバーにアドバイスすることはほとんどない。	演習の欠席が重なり、出席しても説明や演習に集中できず、正しい手順の習得ができない。
技能	２．技術テスト	おむつ替えが素早く正しくできる。科学的根拠を十分理解しているので、腹式呼吸や尿路感染、足の動きを妨げないように確実な配慮ができる。	おむつ替えが素早く正しくできる。科学的根拠を理解しているので、腹式呼吸や尿路感染、足の動きを妨げないように確実な配慮ができる。	おむつ替えが時間内に正しくできる。科学的根拠を理解しているので、腹式呼吸や尿路感染、足の動きを妨げないように努力している。	おむつ替えが時間内にできない。腹式呼吸や尿路感染、足の動きを妨げないようにする努力が欠けることがある。	明らかな練習不足で、おむつ替えが時間内にできない。手順も配慮も努力に欠ける。
態度	１．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組み、グループでリーダーシップがとれる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組むことができる。	意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。ほとんどの演習に集中して取り組むことができる。	テーマに沿った内容で意見・感想を述べることができる。また、やや知識の定着が見られる。演習に集中して取り組めていないことがある。	意欲的な態度が見られず、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができない。また、知識の定着も見られない。演習の取り組みが消極的で、集中できていない。
態度	２．服装身だしなみ	演習の授業で毎回、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業でほとんど、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で半分以上、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみを心がけるが、完璧にはできないことが多い。	演習の授業に普段着で参加することが1回以上ある。

科目名	親子ふれあい演習 A			授業番号	EE303	サブタイトル			
教員	土田　豊、清水　憲志、福澤　惇也、渡辺　ユリナ								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育施設には，地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること，どのような支援活動が求められているのかということなどを理解し，実際に子育て支援活動を企画，運営，振り返りをしながら実践的に学ぶ。								
到達目標	子育て支援活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方，留意点などを計画書にまとめ，実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加してくださる親子との信頼関係を，子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	様々な子育て支援活動を知る 岡山市で実践されている子育て支援活動を参考に，子育て支援活動の実際を学びます。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第2回	活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ 企画を立てる際のねらい設定の仕方や配慮する点等について講義を受け実際に企画を立てます。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第3回	11月の企画共有 11月担当グループの企画を全体で共有し，みんなで検討します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第4回	11月の企画の事前準備とリハーサル 11月企画の内容に合わせて活動グループごとで準備を進め，リハーサルを行います。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第5回	11月の子育て支援活動の実施1 地域の乳幼児とその保護者を招き，11月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第6回	11月の子育て支援活動の実施2 地域の乳幼児とその保護者を招き，11月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第7回	11月の活動の振り返り・12月の企画共有 PDCAサイクルに従って，11月の企画について振り返り，発表します。その後，12月の企画を全体で共有し，みんなで検討します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第8回	12月の企画の事前準備とリハーサル 12月企画の内容に合わせて活動グループごとで準備を進め，リハーサルを行います。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第9回	12月の子育て支援活動の実施1 地域の乳幼児とその保護者を招き，12月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第10回	12月の子育て支援活動の実施2 地域の乳幼児とその保護者を招き，12月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第11回	12月の活動の振り返り・1月の企画共有 PDCAサイクルに従って，12月の企画について振り返り，発表します。その後，1月の企画を全体で共有し，みんなで検討します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第12回	1月の企画の事前準備とリハーサル 1月企画の内容に合わせて活動グループごとで準備を進め，リハーサルを行います。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第13回	1月の子育て支援活動の実施1 地域の乳幼児とその保護者を招き，1月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第14回	1月の子育て支援活動の実施2 地域の乳幼児とその保護者を招き，1月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
第15回	1月の活動の振り返り及び全体の振り返り PDCAサイクルに従って，12月の企画について振り返り，発表します。その後，この授業での学びについてまとめます。	土田豊、清水憲志、福澤惇也、渡辺ユリナ
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況を評価する。グループ内で企画の提案や企画を具現化する提案等ができれば加点対象とする。
レポート	50	子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子育て支援活動中は，節度ある行動をすること。 一人ひとりが役割を自覚し，意欲的に取り組むこと。
授業外学修	1．子育て支援活動に参加してくださる親子にとって快適で，思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え，計画的に準備を進めること。 2．実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え，実践する。 3．自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ，自分たちの活動に反映すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時プリントを配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田豊　10年），保育士（清水憲志　8年），幼稚園教諭（福澤惇也　1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	それぞれの各方面での実務経験を生かした技術指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.子育て支援活動の必要性に対する理解	子育てに関する問題に興味・関心を持ち、それらの問題を踏まえて、どんな子育て支援が必要かを具体的に考え、活動に生かすことができている。	子育てに関する問題に興味・関心を持ち、それらの問題を踏まえて、どんな子育て支援が必要かを考え、活動に生かすことができている。	子育て支援活動の必要性をある程度理解し、自分なりの解決方法を考え、活動できている。	子育て支援活動の必要性はある程度理解できているが、解決策について考えて活動することはできていない。	子育て支援活動の必要性に対する理解ができず、活動することもできていない。
思考・問題解決能力	1.活動のねらいに沿った活動計画の立案	子育て支援の現状を踏まえつつ、自分で考えた解決策を友だちと共有しながら活動に反映し、計画書を作成することができている。	子育て支援の現状を踏まえつつ、自分の意見も反映した活動計画を立てることができている。	子育て支援の現状を踏まえつつ、活動計画を立てることができている。	子育て支援の現状を踏まえることはできているが、活動計画を立てることができていない。	子育て支援の現状を踏まえた、活動計画書を作成することができない。
思考・問題解決能力	2.参加者の実態に合わせた活動プログラムづくり	子どもの発達段階と発達段階に合わせたねらいを理解し、活動プログラムを具体的に考え、実践することができている。	子どもの発達段階と発達段階に合わせたねらいを理解し、活動プログラムを組み立てることができている。	子どもの発達段階に合わせた活動プログラムを、組み立てることができている。	子どもの発達段階に合わせた活動プログラムを考えることはできているが、プログラムを考えることができていない。	子どもの発達段階にたいする理解が浅く、活動プログラムも考えることもできていない。
技能	1.計画に基づいた保育スキルの活用	参加者の実態を想像し、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルを活用し、参加者の反応を見ながら活動内容を工夫できる。	参加者の実態を想像し、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルを活用し、活動内容を工夫できる。	参加者の実態を想像し、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルを活用した活動ができる。	参加者の実態を想像することはできているが、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルの活用が十分できない。	参加者の実態を想像することができず、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルの活用もできない。
態度	1.グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	2.参加者への配慮	参加してくれた親子と積極的にコミュニケーションを図り、楽しく有意義な時間になるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図り、楽しく有意義な時間になるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図り、戸惑うことなく活動できるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図ることはできているが、配慮が十分できていない。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図ることはできず、活動に対する配慮ができていない。

科目名	親子ふれあい演習Ｂ			授業番号	EE304	サブタイトル			
教員	土田　豊、山本　房子、藤井　裕士、福澤　俘也								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育施設には，地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること，どのような支援活動が求められるのかということなどを理解し，実際に子育て支援活動を企画，運営，振り返りをしながら実践的に学ぶ。また，保育実習等での経験を子育て支援活動の場に反映しながら学びを深める。								
到達目標	保育現場や各自治体で実施されている子育て支援活動を把握し，活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方，留意点などを計画書にまとめ，実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加してくださる親子との信頼関係を，子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自治体で行われている子育て支援活動について学ぶ	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第2回	子育て環境に潜むリスクについて学ぶ	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第3回	活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第4回	活動グループづくりと企画検討会	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第5回	6月の企画共有と事前準備	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第6回	6月の企画の事前準備とリハーサル	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第7回	6月の子育て支援活動の実施1	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第8回	6月の子育て支援活動の実施2	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第9回	6月の活動の振り返り・7月の企画共有	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第10回	7月の企画の事前準備	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第11回	7月の企画のリハーサル	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第12回	7月の子育て支援活動の実施1	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第13回	7月の子育て支援活動の実施2	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第14回	7月の活動の振り返り	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
第15回	子育て支援活動を全体の振り返り	土田豊、山本房子、藤井裕士、福澤俘也
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況を評価する。グループ内で企画の提案や企画を具現化する提案等ができれば加点対象とする。
レポート	50	子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子育て支援活動中は，節度ある行動をすること。 一人ひとりが役割を自覚し，意欲的に取り組むこと。
授業外学修	1．子育て支援活動に参加してくださる親子にとって快適で，思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え，計画的に準備を進めること。 2．実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え，実践する。 3．自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ，自分たちの活動に反映すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時プリントを配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田豊　10年），幼稚園教諭（山本房子　19年），特別支援学校（藤井裕士　17年），幼稚園教諭（福澤惇也　1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	それぞれの各方面での実務経験を生かした技術指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.子育て支援活動の必要性に対する理解	子育てに関する問題に興味・関心を持ち、それらの問題を踏まえて、どんな子育て支援が必要かを具体的に考え、活動できている。	子育てに関する問題に興味・関心を持ち、それらの問題を踏まえて、どんな子育て支援が必要かを考え、活動できている。	子育て支援活動の必要性をある程度理解し、自分なりの解決方法を考え、活動できている。	子育て支援活動の必要性はある程度理解できているが、解決策について考え、活動することができていない。	子育て支援活動の必要性に対する理解ができず、活動することもできない。
思考・問題解決能力	1.活動のねらいに沿った活動計画の立案	子育て支援の現状や実習での経験も踏まえつつ、自分で考えた解決策を友だちと共有しながら活動に反映し、計画書を作成することができている。	子育て支援の現状や実習での経験も踏まえつつ、自分の意見も反映した活動計画を立てることができている。	子育て支援の現状を踏まえつつ、活動計画を立てることができている。	子育て支援の現状を踏まえることはできているが、活動計画を立てることができていない。	子育て支援の現状を踏まえた、活動計画書を作成することができない。
思考・問題解決能力	2.参加者の実態に合わせた活動プログラムづくり	子どもの発達段階と発達段階に合わせたねらいを理解し、実習の反省も生かしながら活動プログラムを具体的に考え、実践することができている。	子どもの発達段階と発達段階に合わせたねらいを理解し、活動プログラムを組み立てることができている。	子どもの発達段階に合わせた活動プログラムを、組み立てることができている。	子どもの発達段階に合わせた活動プログラムを考えることはできているが、プログラムを考えることができていない。	子どもの発達段階にたいする理解が浅く、活動プログラムも考えることもできていない。
技能	1.計画に基づいた保育スキルの活用	参加者の実態を想像し、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルを活用し、参加者の反応を見ながら活動内容を工夫できる。	参加者の実態を想像し、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルを活用し、活動内容を工夫できる。	参加者の実態を想像し、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルを活用した活動ができる。	参加者の実態を想像することはできているが、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルの活用が十分できない。	参加者の実態を想像することができず、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルの活用もできない。
態度	1.グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	2.参加者への配慮	参加してくれた親子と積極的にコミュニケーションを図り、楽しく有意義な時間になるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図り、楽しく有意義な時間になるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図り、戸惑うことなく活動できるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図ることはできているが、配慮が十分できていない。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図ることはできず、活動に対する配慮ができていない。

科目名	音楽実践演習Ａ 1クラス			授業番号	EE305A	サブタイトル			
教員	松井 みさ、渡辺 ユリナ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	音楽基礎演習Ａ・Ｂで学んだ内容を発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，ピアノレッスン室を用いて，個人の能力別に音楽に関する保育教材の内容研究の指導法を習得する。								
到達目標	基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第2回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第3回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第4回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第5回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第6回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第7回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第8回	中間のまとめ	松井みさ 渡辺 ユリナ
第9回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第10回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第11回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第12回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第13回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第14回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第15回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	40	童謡の弾き歌いを行うことにより，個人のレベルに合わせた歌唱技術や演奏技術が習得できているかを評価する。
その他	40	ピアノ教則本を練習することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。 きちんとした身だしなみで授業を受講すること。
授業外学修	毎日15分以上ピアノ教則本及び弾き歌いの練習をしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ミュージックスクール講師（６年　松井みさ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	２．コードネームとコード進行の理解	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	１．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	１．コードネームとコード進行	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	２．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着けることができず、実践できない。
技能	３．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	１．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	音楽実践演習A 2クラス			授業番号	EE305B	サブタイトル			
教員	松井 みさ、渡辺 ユリナ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	音楽基礎演習A・Bで学んだ内容を発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，ピアノレッスン室を用いて，個人の能力別に音楽に関する保育教材の内容研究の指導法を習得する。								
到達目標	基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第2回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第3回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第4回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第5回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第6回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第7回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第8回	中間のまとめ	松井みさ 渡辺 ユリナ
第9回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第10回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第11回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第12回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第13回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第14回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第15回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	40	童謡の弾き歌いを行うことにより，個人のレベルに合わせた歌唱技術や演奏技術が習得できているかを評価する。
その他	40	ピアノ教則本を練習することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。 きちんとした身だしなみで授業を受講すること。
授業外学修	毎日15分以上ピアノ教則本及び弾き歌いの練習をしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ミュージックスクール講師（６年　松井みさ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	２．コードネームとコード進行の理解	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	１．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	１．コードネームとコード進行	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	２．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着けることができず、実践できない。
技能	３．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	１．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	音楽実践演習 B 1クラス			授業番号	EE306A	サブタイトル			
教員	松井 みさ、渡辺 ユリナ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	音楽実践演習 A で学んだ内容をさらに発展させ，現場で応用できる。ピアノレッスン室やML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，音楽に関する保育教材の内容研究や指導法についての技術を習得し，保育の現場で役立てる。								
到達目標	基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法の応用力をつけること，また音楽表現について現場で実践する力をつけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第2回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第3回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第4回	コードネームの理解とコード奏	松井みさ 渡辺 ユリナ
第5回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第6回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第7回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第8回	ボディパーカッションについて	松井みさ 渡辺 ユリナ
第9回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第10回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第11回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第12回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第13回	ミュージックベルを用いたアンサンブル	松井みさ 渡辺 ユリナ
第14回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第15回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	40	ピアノ教則本を演奏することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。
その他	40	童謡の弾き歌いを練習することにより，現場で通用する歌唱技術やコードネームを用いた演奏技術が習得できているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。 きちんとした身だしなみで授業を受講すること。
授業外学修	毎日15分以上ピアノ及び弾き歌いの練習をしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ミュージックスクール講師（6年　松井みさ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．コードネームとコード進行の理解	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．コードネームとコード進行	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着けることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	音楽実践演習 B 2クラス			授業番号	EE306B	サブタイトル			
教員	松井 みさ、渡辺 ユリナ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	音楽実践演習 A で学んだ内容をさらに発展させ，現場で応用できる。ピアノレッスン室やML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，音楽に関する保育教材の内容研究や指導法についての技術を習得し，保育の現場で役立てる。								
到達目標	基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法の応用力をつけること，また音楽表現について現場で実践する力をつけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第2回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第3回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第4回	コードネームの理解とコード奏	松井みさ 渡辺 ユリナ
第5回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第6回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第7回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第8回	ボディパーカッションについて	松井みさ 渡辺 ユリナ
第9回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第10回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第11回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第12回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第13回	ミュージックベルを用いたアンサンブル	松井みさ 渡辺 ユリナ
第14回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
第15回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	松井みさ 渡辺 ユリナ
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	40	ピアノ教則本を演奏することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。
その他	40	童謡の弾き歌いを練習することにより，現場で通用する歌唱技術やコードネームを用いた演奏技術が習得できているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。 きちんとした身だしなみで授業を受講すること。
授業外学修	毎日15分以上ピアノ及び弾き歌いの練習をしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ミュージックスクール講師（6年　松井みさ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．コードネームとコード進行の理解	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．コードネームとコード進行	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着けることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	保育者対話実践演習			授業番号	EE307	サブタイトル			
教員	藤井 裕士								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育現場において遭遇するであろう，正解のない問題（課題，トラブルなど）について，学生同士が対話し，具体的な対応について検討する。保育者の参加する会議という設定のもと，保育者同士での対話による合意形成を想定したグループ演習を行う。グループで協議し決定した具体的な対応を，保護者や子ども，同僚に実際に伝えるような形で発表する。								
到達目標	対話のルールや方法を理解し，問題に対する対話による合意形成能力を高める。また，参加者の多様な価値観に触れる中で，「子どもの立場」「保護者の立場」「同僚の立場」など多角的な視点をもつと共に，他者の立場に立って考える力，自他を尊重し思いやる態度を養う。なお，本科目は，カリキュラムポリシーにおける「子どもの世界や保護者の気持ちに深くアプローチすることができる演習科目」として位置づけられる。また，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育者同士の対話の方法保育者同士の対話のルールや方法、ワークシートの利用方法について理解する。	
第2回	子ども同士のトラブル① 子ども同士のトラブルに関する対話を通して，子どもの立場に立って対応を考える。	
第3回	子ども同士のトラブル② 子ども同士のトラブルに関する対話を通して，子どもの立場に立って対応を考える。	
第4回	保護者の子どもへの気になるかかわり①保護者が行う子どもへの気になるかかわりに関する対話を通して，保護者や子どもの立場に立って対応を考える。	
第5回	保護者の子どもへの気になるかかわり②保護者が行う子どもへの気になるかかわりに関する対話を通して，保護者や子どもの立場に立って対応を考える。	
第6回	同僚の子どもへの気になるかかわり①同僚が行う子どもへの気になるかかわりに関する対話を通して，同僚や保護者や子どもの立場に立って対応を考える。	
第7回	同僚の子どもへの気になるかかわり②同僚が行う子どもへの気になるかかわりに関する対話を通して，同僚や保護者や子どもの立場に立って対応を考える。	
第8回	演習を通した学びの振り返りこれまでの演習を振り返り，自身の課題や今後の目標を明確化する。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況によって評価する。
その他	40	毎回の授業の終盤に，授業の振り返りシートを記入し，提出を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後に参考文献を読むこと。 2　発表や討議に積極的に取り組むこと。 3　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，保育にまつわるニュースなどの情報を集め，自身の考えを整理する。 2　復習として，ノート，資料を読み直す。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．対話を通じた問題解決の基本原則や技法についての理解できる。	対話を通じた問題解決の理論と技法を深く理解し,多様なシナリオに適応させることができる。	基本的な原則と技法を正しく理解し,標準的な状況下で適用できる。	理論と方法の基礎を把握しているが,応用に若干の困難がある。	基本的な理解はあるが,適切な方法の適用に不安がある。	理論や方法についての基本的な理解が不足している。
技能	１．子ども,保護者,同僚の立場から問題を多角的に分析し,実践的な提案ができる。	子ども,保護者,同僚の視点から問題を深く分析し,実践的かつ創造的な提案ができる。	様々な視点を考慮に入れた問題分析を行い,適切な提案ができる。	基本的な多角的分析は可能だが,提案の質にバラつきがある。	限られた視点からの分析しかできず,提案が一般的であるか,非実践的である。	問題分析や提案を行う能力が不足しており,多角的視点を取り入れることができない。
技能	２．実際の保育現場で遭遇する問題に対し,対話を通じて合意形成を図ることができる	効果的な対話を通じて,複雑な問題に対しても合意形成を図ることができる。	一般的な問題に対して対話を用いて合意形成を達成できる。	基本的な問題に対する合意形成は可能だが,より複雑な状況では課題がある。	合意形成の過程において,適切な対話の実施に苦労する。	対話による合意形成の基本的なスキルが欠けている。

科目名	保育教材および表現の研究			授業番号	EE308	サブタイトル			
教員	扇越　亜矢								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育内容の理解と方法A/Bで取り扱う内容をさらに探究し，身近な素材や道具，技法の特性と子どもの造形表現行為とを関係づけながら保育教材や表現活動の研究を行う。なお，表現活動の一部は2年生後期開講の授業科目「保育内容の理解と方法D」として学ぶストーリーの舞台表現に繋がる基礎的な内容とする。その際，体育館を使用するが体育館の使用状況によっては授業の順番を変更して実施する。履修人数は40名を上限とする。								
到達目標	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養う。さらに，表現活動に繋がる行為や身近な素材や道具，技法について探究し，その特性を理解した表現活動を行えるようになる。また，それらの活用を0歳児から5歳児の表現活動の保育実践として具体的かつ実践的に考えることができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	つくる活動における行為の探究（切る・くっつける）：素材と戯れ表現する 「切る」行為とその前段階における，分ける・折る・破く・割くといった行為や，「くっつける」活動における，持つ・置く・並べる・積む・組み合わせるといった行為を意識してどんな活動ができるか探究する。その過程で自分なりに課題（やりたいこと）や，自分が気に入る表現や素材を見つけたり，子どもに適した素材や子どもの行為や表現，子どもの育ちにおける意味について考えたりする。	
第2回	「かく」表現とその行為の探究 落とす・散らす・たらす・転がす・こする・並べるといった行為だけではなく，そこに何かを加えてみたり，何をどうするかによって生まれる様々な表現を探究する。その過程や結果を語り合うことにより，表現としての効果や，子どもの育ちにおける意味を考えるとともに，描かなくても面白い平面的な表現活動を見つけたり，表現の活用の場を考えたりする。	
第3回	お話の世界の具現化①　表現方法とストーリー展開・演出と脚本　「あるところに1本の木がありました。そこに○○がやってきました。すると・・・」から始まる短く単純なお話を作り，表現方法や表現媒体によるストーリー展開や，話の膨らませ方，場面イメージを具体化するために必要な脚本と演出について理解する。	
第4回	お話の世界の具現化②　大道具（木）の造形・○○（キャラクター）の造形 これまでの授業経験を活かして段ボールなどの紙素材を様々な方法で加工・着色し，表現イメージに合致した大道具づくりの体験をする。また，登場するキャラクターの性格や風貌，癖などを考えることによって状況表現が豊かになることを理解する。	
第5回	お話の世界の具現化③　場面の表現や転換にふさわしい舞台の使い方や音響効果を考える　　舞台の上手や下手について理解して場面表現を考えるとともに，場面にふさわしい音楽や切れ目のない場面転換を行うための音響効果について理解する。	
第6回	お話の世界の具現化④　場面の表現や転換にふさわしい照明効果と音響効果を試す 製作した大道具を持ち込んで舞台に設置し，体育館の放送室にある照明装置を操作して，色々な表現効果があることを理解するとともに，場面転換のタイミングに合わせた音楽を流すなどして音響効果を試す。	
第7回	お話の世界の具現化⑤　絵コンテと脚本づくり 脚本は舞台完成の直前まで変更することが前提であるので，音響効果や照明効果を盛り込んだ演出メモを加筆したて脚本と絵コンテを修正する。	
第8回	お話の世界の具現化⑥　絵コンテと脚本に基づいた舞台表現の実践 修正した脚本に基づいて舞台表現をしてみる。	
第9回	お話の世界の具現化⑦　実践の結果を反映した脚本づくり 第12回目の実践から明らかになった課題を解消するようグループでアイデアを出し合い，さらに脚本に修正を加える。	
第10回	紙素材を用いた立体表現 基本的なPOP UPカードの仕組みを系統的に理解する。また，理解した仕組みと造形イメージを組み合わせて子どもが喜ぶPOP UPカードを作る。	
第11回	「うつす」表現の探究１：フィンガーペインティング・モノプリント・デカルコマニー0歳児からできるフィンガーペインティングは手指の動きや感触を味わうだけでなく，モノプリントという版画表現で残せることを理解する。2色以上使う場合には混色が起きることを想定し，色彩に興味を持つ展開が起きることを理解する。また，紙で行うことが通常のデカルコマニー（合わせ絵）に透明な下敷きやフィルムを使うことで，デカルコマニーの最中に絵具がどのように動いているのかを見て楽しめる点が新たな造形表現の面白さとして付加することを理解する。	
第12回	「うつす」表現の探究２：マーブリング 転写版画の一種であるマーブリングは通常3歳児以上の造形活動として行われることが多いが，3歳未満児でも楽しめるようにするにはどうすればよいかを考えて素材や方法を探究する。	
第13回	同じ技法でできる様々な表現の探究：ステンシル 型を使い，内側りと外刷り，何を使ってステンシルすると面白い効果が得られるか，また子どもにとって使いやすい道具や方法は何かなどを明らかにするために教材研究する。	
第14回	同じ素材でできる様々な技法遊びの探究：紐であれこれ 保育内容の理解と方法Aで経験する紐と紐の具を用いた技法やそれとは異なる技法遊びを体験し，紐の材質や長さ，紐の具の状態や道具の配置などについていろいろと試すことにより，その技法や活動に最適な環境構成や活動のあり方を見つける。	
第15回	素材の用途や機能，扱い方を問い直す造形表現活動の探究：幼児と素材～紐や釘を中心に～ 素材の特徴を踏まえつつ，意外な遊び方や使い方を探究する。例えば紐や釘を中心にして，用途や機能，扱い方を改めて見直して様々に試行して幼児でも楽しめる活動を探究する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的かつ主体的な行動および意見交換への参加や発言を評価する。
フォーム	10	回答の事実を評価するとともに，その内容については活動における課題が発見されていること，その課題解決に向けたプロセスにおいて取得知識やアイデアの活用がなることを評価する。実践のまとめと課題における意見交換中にコメントすることにより，回答内容に対するフィードバックを行う。
発表や提出物などの成果物	70	発表の事実や提出物があることを評価する。 提出物の内容については、以下の点を評価する。①保育教材の研究における視点を有した活動や成果物（視点の例：５Cの力の発揮、子どもの発達と道具や技法との関係性など）であること。②表現技法や活動環境・素材の効果に関する探究の様子が確認できること。③活動目的や意味と合致した表現活動であること。 発表の内容については、以下の点を評価する。①単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための活動における課題を発見していること。 ②その課題解決に向けたプロセスにおいて取得知識やアイデアの活用が見られること。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。 前期開講の保育内容の理解と方法A／Bで使用している「なんでもボックス」持参すること。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示するが詳細は授業中に説明する。
授業外学修	予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの造形表現　第3版	北沢昌代　畠山智宏　中村光絵	開成出版	978-4-87603-553-3	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県教育センターにおける研修講師（４年） 幼稚園・保育園における研修講師（13年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	保育教材の研究における視点の一つである5Cの力については，岡山県教育センターにおける研修講師（４年）や幼稚園・保育園における研修講師（13年）において取り上げてきた内容であり，令和3年度4年度岡山県保育協議会保育会　表現保育研究部における研究の視点としても活用されている。これらの経験を活かし，学生が視点を持った保育実践ができるよう授業を展開する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育教材の研究における視点を有した活動や成果物（視点の例：５Cの力の発揮、子どもの発達と道具や技法との関係性など）	教材研究の視点を獲得し、表現活動で発揮される子どもの５Cの力のことや、子どもの発達と道具や技法との関係について、具体的に詳述することができる。また、それに基づいた充実した成果物を作ることができる。	教材研究の視点を獲得し、表現活動で発揮される子どもの５Cの力のことや、子どもの発達と道具道具や技法との関係について、具体的に述べることができる。また、それに基づいて成果物を作ることができる。	教材研究の視点を意識し、表現活動で発揮される子どもの５Cの力を理解している言動や成果物を作ることができる。また子どもの発達と道具や技法との関係について理解した言動ができ、成果物を作ることができる。	表現活動で発揮される子どもの５Cの力を理解している言動ができ、成果物を作ることができる。もしくは子どもの発達と道具や技法との関係について理解した言動ができ、成果物を作ることができる。	５Cの力の発揮、子どもの発達と道具や技法との関係性などといった保育教材の研究の視点を全く意識することができない。
思考・問題解決能力	１．単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための活動における課題発見と、その課題解決に向けたプロセスにおける取得知識やアイデアの活用	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができる。その解決のプロセスにおいて、修得した数多くの知識やアイデアを活用し、独創的で面白い表現活動ができる。	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができる。その解決のプロセスにおいて、修得した知識やアイデアを活用し、面白い表現活動ができる。	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができる。その解決のプロセスにおいて、修得した知識やアイデアを活用した表現活動ができる。	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができる。しかし、その解決のプロセスにおいて、修得した知識やアイデアを活用しようと試みることはできる。	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができず、表現活動もできない。
技能	１表現技法や活動環境・素材の効果に関する探究と、活動目的や意味と合致した表現活動	表現技法や活動環境・素材の効果について探求し、その効果を存分に活用して活動の目的や意味と合致した、独創的で豊かな造形表現活動をすることができる。	表現技法や活動環境・素材の効果について探求し、その効果を意識しつつ、活動目的や意味と合致した造形表現活動をすることができる。	表現技法や活動環境・素材の効果について探求し、その効果を意識して造形表現活動を実践することができている。目的や意味と表現との合致については多少なりとも意識することができる。	表現技法や活動環境・素材の探究はすることはできる。しかし、活動目的と表現の関係を意識した造形表現活動はできない。	表現技法や活動環境・素材の効果の探究ができないうえ、造形表現活動もできない。

科目名	保育内容の理解と方法D			授業番号	EE401	サブタイトル			
教員	松井 みさ、土田 豊、鳥越 亜矢、岡本 美幸、渡辺 ユリナ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育内容の理解と方法A・B・Cで学んだことを元にして，子供の生活と遊びを豊かに実践するために必要な知識や技術，保育の環境の構成および具体的展開のための技術を総合的に習得する。								
到達目標	子供の生活と遊びを実践するために必要な知識や技術，保育の環境の構成および具体的展開のための技術を習得し，実践できる力を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	児童文化等の内容を含んだテーマの設定(1)	(担当：全教員)
第2回	児童文化等の内容を含んだテーマの設定(2)	(担当：全教員)
第3回	テーマ別討論(1)	(担当：全教員)
第4回	テーマ別討論(2)	(担当：全教員)
第5回	テーマ別討論(3)	(担当：全教員)
第6回	テーマ別に環境構成を行う(1)	(担当：全教員)
第7回	テーマ別に環境構成を行う(2)	(担当：全教員)
第8回	テーマ別に環境構成を行う(3)	(担当：全教員)
第9回	テーマに沿った保育技術の習得(1)	(担当：全教員)
第10回	テーマに沿った保育技術の習得(2)	(担当：全教員)
第11回	テーマに沿った保育技術の習得(3)	(担当：全教員)
第12回	テーマに沿った保育技術の習得(4)	(担当：全教員)
第13回	テーマに沿った保育技術の習得(5)	(担当：全教員)
第14回	テーマ別発表(1)	(担当：全教員)
第15回	テーマ別発表(2)	(担当：全教員)
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は「面白い」をとらえる
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	80	グループ内で活動を行うにあたって，毎時間ごとの活動やまとめの発表を通し，意欲的で創造的な表現活動が達成できたかどうかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テーマの途中変更を認めない。グループのメンバー間で，自分の役割を果たすこと。 課題についてグループで積極的に討議すること。 発表に向けて意欲的に参加すること。
授業外学修	早期にテーマを決め討議を始めること。 積極的に参加すること。 グループ内でコミュニケーションをしっかりとること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じて各テーマ別にプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田豊）10年 ミュージックスクール講師（松井みさ）4年 保育士（岡本美幸）15年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	各教員の勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育者に必要な表現の総合的な知識とその活用	表現活動を総合的にとらえ、年齢、発達に応じた知識をもって、子どもの生活と遊びを十分理解し、充実した保育実践をすることができる。	表現活動を総合的にとらえ、年齢、発達に応じた知識をもって、子どもの生活と遊びを十分理解し、保育実践をすることができる。	表現活動を総合的にとらえ、年齢、発達に応じて、子どもの生活と遊びを概ね理解し、保育実践をすることができる。	表現活動を総合的にとらえ、年齢、発達に応じて、子どもの生活と遊びの理解にやや欠けるところがあるものの、保育実践をすることができる。	表現活動を総合的にとらえ、年齢、発達に応じて、子どもの生活と遊びを理解することができないうえ、保育実践することができない。
思考・問題解決能力	１．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	１．保育技術の習得	子どもの生活と遊びを豊かに実践するために必要な技術、保育の環境の構成および具体的展開のための技術を適切に身に付け、活動することができる。	子どもの生活と遊びを豊かに実践するために必要な技術、保育の環境の構成および具体的展開のための技術を身に付け、活動することができる。	子どもの生活と遊びを豊かに実践するために必要な技術、保育の環境の構成および具体的展開のための技術を身に付けることができる。	子どもの生活と遊びを豊かに実践するために必要な技術、保育の環境の構成および具体的展開のための技術をほぼ身に付けることができる。	子どもの生活と遊びを豊かに実践するために必要な技術、保育の環境の構成および具体的展開のための技術を身に付けることができない。
態度	１．課題への向き合い方	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や深く考えた意見をほぼ毎回発表、または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、毎回ではないが、自分なりの知見や深く考えた意見を発表、または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表、または記述できる。	課題意図の理解はできているが、自分なりの知見や考えた意見を発表したり、記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表、または記述できない。
態度	２．グループ活動での行動	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分発揮できている状態。グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していない。グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮していない。そのうえ、グループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	保育実習指導Ａ 1クラス			授業番号	EF301A	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育士資格の取得に必要な乳児院，児童養護施設や知的障害児・者施設などでの実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。 実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法についても学び。実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこない，保育所保育実習につながることを目的とする。								
到達目標	・児童福祉施設ついて，基礎的な知識を獲得する。 ・具体的な目標設定の仕方を修得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。 ・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	施設実習の意義と目標１ 施設実習の意義と目標について理解する。	
第2回	施設実習の意義と目標２ 施設実習の意義と目標について理解する。	
第3回	施設実習準備：事前学習と実習課題 施設実習に望むために必要な事前学習と，実習中に取り組む実習課題について理解する。	
第4回	施設実習の心得，人権教育 施設実習に望むために必要な心構えについて理解する。	
第5回	実習先施設調べ発表１：乳児院・児童養護施設 施設実習先である，乳児院と児童養護施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。	
第6回	実習先施設調べ発表２：児童心理治療施設・児童自立支援施設 施設実習先である児童心理治療施設と児童自立支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。	
第7回	実習先施設調べ発表３：児童発達支援センター・障害児入所施設・障害者支援施設 施設実習先である，児童発達支援センター，障害児入所施設，障害者支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。	
第8回	実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点１ 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。	
第9回	実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点２ 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。	
第10回	先輩による事前指導 現役の施設職員から施設や支援の現状について聞き，理解する。	
第11回	お楽しみ会企画・立案・実施 施設の利用児/者を対象にしたお楽しみ会を企画・立案し，実施していく中でお楽しみ会運営のポイントを理解する。	
第12回	食事介助体験・車いす体験 食事介助や車いす介助体験を通して，支援のポイントを理解する。	
第13回	施設実習直前まとめ	
第14回	施設実習のまとめ	
第15回	施設実習報告会 実習先以外の施設について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート	30	実習終了後，実習自己課題について具体的な事例を踏まえながら考察し，総合的に論じることができる。
講義内課題	30	講義内容の理解度，定着度を評価する。 課題については、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験		
その他	20	事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。 これらについては、授業内で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・施設実習の意義をよく理解すること。 ・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので，積極的に取り組むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。 2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 3．実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 4．学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年），スクールカウンセラー（12年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	施設職員経験（3年）から，施設の実際を伝えるとともに，利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．児童福祉施設に関する知識	児童福祉施設に関する具体的な知識を深く習得している。	児童福祉施設に関する具体的な知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識の習得が不十分である。	児童福祉施設に関する知識が習得できていない。
知識・理解	2．施設実習に関する知識	施設実習に関する具体的な知識を深く習得している。	施設実習に関する具体的な知識を習得している。	施設実習に関する知識を習得している。	施設実習に関する知識の習得が不十分である。	施設実習に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3．自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
思考・問題解決能力	1．課題への対処	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。施設実習中の課題について、具体的かつ適切な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。施設実習中の課題について、具体的な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することが、不十分である。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができない。
技能	1．施設実習に関する技術	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。施設実習に関する知識に即しながら、自分なりの新たな行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえずに、行動/関わりを考えている。	利用児/者に対して行動/関わりを考えることができない。
技能	2．自己評価	実習での自己評価を、他者の評価と照らし合わせながら、自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し、他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができが不十分である。	実習を振り返り、内容を整理して記入できない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し、児童福祉施設/施設実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。児童福祉施設/施設実習の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。
態度	3．主体的な取り組み	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当職員の指示があっても、実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	保育実習指導Ａ 2クラス			授業番号	EF301B	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育士資格の取得に必要な乳児院，児童養護施設や知的障害児・者施設などでの実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。 実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法についても学び。実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこない，保育所保育実習につながることを目的とする。								
到達目標	・児童福祉施設ついて，基礎的な知識を獲得する。 ・具体的な目標設定の仕方を修得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。 ・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	施設実習の意義と目標１ 施設実習の意義と目標について理解する。	
第2回	施設実習の意義と目標２ 施設実習の意義と目標について理解する。	
第3回	施設実習準備：事前学習と実習課題 施設実習に望むために必要な事前学習と，実習中に取り組む実習課題について理解する。	
第4回	施設実習の心得，人権教育 施設実習に望むために必要な心構えについて理解する。	
第5回	実習先施設調べ発表１：乳児院・児童養護施設 施設実習先である，乳児院と児童養護施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。	
第6回	実習先施設調べ発表２：児童心理治療施設・児童自立支援施設 施設実習先である児童心理治療施設と児童自立支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。	
第7回	実習先施設調べ発表３：児童発達支援センター・障害児入所施設・障害者支援施設 施設実習先である，児童発達支援センター，障害児入所施設，障害者支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。	
第8回	実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点１ 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。	
第9回	実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点２ 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。	
第10回	先輩による事前指導 現役の施設職員から施設や支援の現状について聞き，理解する。	
第11回	お楽しみ会企画・立案・実施 施設の利用児/者を対象にしたお楽しみ会を企画・立案し，実施していく中でお楽しみ会運営のポイントを理解する。	
第12回	食事介助体験・車いす体験 食事介助や車いす介助体験を通して，支援のポイントを理解する。	
第13回	施設実習直前まとめ	
第14回	施設実習のまとめ	
第15回	施設実習報告会 実習先以外の施設について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート	30	実習終了後，実習自己課題について具体的な事例を踏まえながら考察し，総合的に論じることができる。
講義内課題	30	講義内容の理解度，定着度を評価する。 課題については、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験		
その他	20	事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。 これらについては、授業内で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・施設実習の意義をよく理解すること。 ・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので，積極的に取り組むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。 2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 3．実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 4．学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年），スクールカウンセラー（12年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	施設職員経験（3年）から，施設の実際を伝えるとともに，利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．児童福祉施設に関する知識	児童福祉施設に関する具体的な知識を深く習得している。	児童福祉施設に関する具体的な知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識の習得が不十分である。	児童福祉施設に関する知識が習得できていない。
知識・理解	2．施設実習に関する知識	施設実習に関する具体的な知識を深く習得している。	施設実習に関する具体的な知識を習得している。	施設実習に関する知識を習得している。	施設実習に関する知識の習得が不十分である。	施設実習に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3．自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
思考・問題解決能力	1．課題への対処	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。施設実習中の課題について、具体的かつ適切な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。施設実習中の課題について、具体的な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することが、不十分である。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができない。
技能	1．施設実習に関する技術	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。施設実習に関する知識に即しながら、自分なりの新たな行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえずに、行動/関わりを考えている。	利用児/者に対して行動/関わりを考えることができない。
技能	2．自己評価	実習での自己評価を、他者の評価と照らし合わせながら、自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し、他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができが不十分である。	実習を振り返り、内容を整理して記入できない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し、児童福祉施設/施設実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。児童福祉施設/施設実習の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。
態度	3．主体的な取り組み	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当職員の指示があっても、実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	保育実習指導Ｂ 1クラス			授業番号	EF302A	サブタイトル			
教員	清水　憲志								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育所実習について，実習生としての好ましい姿勢や態度について学習し，実習の意義，目的，内容や実習の進め方について学習する。また，乳幼児の理解と共に実際に使用する指導案や実習日誌の書き方について学習する。								
到達目標	保育実習についての好ましい姿勢や態度，保育実習の意義，目的を理解する。 乳幼児を理解したうえでの指導案，実習日誌の書き方を習得する。 なお，本学科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習の意義と目的 保育実習の意義と目的について，テキスト等により理解する。	
第2回	保育所実習での自己紹介を考える① 子どもとの出会い場面をイメージし、どのように行うべきか理解する。	
第3回	実習生としての心得 保育所実習に参加するという自覚を持つ。	
第4回	DVD視聴と討議 「保育所の1日」のDVDを視聴し1日の流れを理解するとともに，ディスカッションをする。	
第5回	実習日誌を理解する 実習日誌の意味を理解し,日々省察を行えるようにする。	
第6回	乳幼児の理解（3歳未満児） 0歳～2歳児の発達の理解をし,援助の観点を考える。	
第7回	乳幼児の理解（3歳以上児） 3歳～就学前幼児の発達の理解をし,援助の観点を考える。	
第8回	指導計画と指導案の関係性 指導計画の中にある，実習日誌，指導案との関連を理解する。	
第9回	観察記録の取り方と活用のしかた DVD視聴をし，実際にメモの取り方を理解する。	
第10回	実際の観察記録 観察記録をもとに，実際に日誌を記入し理解する。	
第11回	指導案の書き方（3歳未満児） 実際に3歳未満児の指導案を立てて，書き方を理解する。	
第12回	指導案の書き方（3歳以上児） 実際に3歳以上児の指導案を立てて，書き方を理解する。	
第13回	援助・配慮の意味 指導案から援助配慮を取り出し,実際に行い,理解する。	
第14回	保育所実習での自己紹介を考える② 各自で自己紹介を考え発表する。評価し合うことにより最適なものは何かを理解する。	
第15回	保育所実習についてのまとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	毎回の提出物により評価する。
レポート	30	レポートの課題に合った書き方が出来ているか，誤字脱字，表現方法，提出期限が守れているかによって評価する ※採点後,成績を個別に開示し,授業内で振り返りを行う。
小テスト（発表）	20	評価の観点 ・意図が明確であるか ・適切な声の大きさ及び抑揚があるか ・表情や仕草は内容と合っているか ・年齢に合った内容であるか ※授業内で振り返りを行う。
定期試験		
その他	20	指導案，日誌についての理解ができているかにより評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教科書を十分読んで，疑問点を明らかにすること。 提出物の期限を厳守すること。
授業外学修	1.予習として，教科書の授業内容該当の部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，ノートの整理を行う。 3.授業内で紹介した参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
これからの時代の保育者養成・実習ガイド: 学生・養成校・実習園がともに学ぶ	大豆生田 啓友	中央法規出版	4805882220	
使用テキスト：自由記載	『保育実習の手引』，岡山県保育士養成協議会 授業内で指定した本を読む			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所保育士8年、幼稚園教諭（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育所の現場経験から（公立保育所保育士8年）実際の保育所で使用している書類の記入や計画の立案方法等を教授する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育所の子どもに関する知識	保育所にはどのような子どもが入所しているのか十分理解し、適切な対応の仕方を明確に論述できる。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解し、適切な対応の仕方を明確に論述できる。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解し、対応の仕方を論述できる。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解しているが、適切な対応の仕方までは論述できない。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解できにくく、適切な対応の仕方まではわからず、論述できない。
知識・理解	2．保育所実習の意義・目的	保育所実習の意義・目的が十分に理解でき、実習にむけて意識を高くもつことができ、それらを論述できる。	保育所実習の意義・目的が理解でき、実習にむけて意識を高くもつことができ、それらを論述できる。	保育所実習の意義・目的が理解でき、実習にむけて意識を表明することができる。	保育所実習の意義・目的が理解でき、実習にむけて意識をもつことができるがその表明が不十分である。	保育所実習の意義・目的が理解できておらず、実習にむけて意識をもつことができないので、意識の表明もできない。
技能	1．保育実習に関する技術	園の特徴、子どもの特性や状況を踏まえながら、具体的な関わりを提案することができる。保育所実習に関する知識に即しながら、自分なりの新たな関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状況を踏まえながら、具体的な関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状況を踏まえながら、関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状況を踏まえずに、関わりを考えた提案をする。	子どもに対して関わりを考えることができないので、提案もできない。
技能	2．日誌・指導案の作成	日誌・指導案の記入する箇所に何をどのように記入するかがわかり、丁寧に間違いなく記入することができる。また、場面を想像することができ、適切な表現を使用して記入することができる。	日誌・指導案の記入する箇所に記入方法がわかり、間違いなく記入することができる。また、場面を想像することができ、適切な表現を使用して記入することができる。	日誌・指導案の記入する箇所に間違いなく記入することができる。また、場面を想像することができ、適切な表現を使用して記入することができる。	日誌・指導案の記入する箇所に間違いなく記入することができる。また、場面を想像することができにくく、誤った表現を記入する。	日誌・指導案の記入する箇所を間違い、場面を想像することができにくく、誤った表現を記入する。

科目名	保育実習指導Ｂ 2クラス			授業番号	EF302B	サブタイトル			
教員	清水　憲志								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育所実習について，実習生としての好ましい姿勢や態度について学習し，実習の意義，目的，内容や実習の進め方について学習する。また，乳幼児の理解と共に実際に使用する指導案や実習日誌の書き方について学習する。								
到達目標	保育実習についての好ましい姿勢や態度，保育実習の意義，目的を理解する。 乳幼児を理解したうえでの指導案，実習日誌の書き方を習得する。 なお，本学科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習の意義と目的 保育実習の意義と目的について，テキスト等により理解する。	
第2回	保育所実習での自己紹介を考える① 子どもとの出会い場面をイメージし、どのように行うべきか理解する。	
第3回	実習生としての心得 保育所実習に参加するという自覚を持つ。	
第4回	DVD視聴と討議 「保育所の1日」のDVDを視聴し1日の流れを理解するとともに，ディスカッションをする。	
第5回	実習日誌を理解する 実習日誌の意味を理解し,日々省察を行えるようにする。	
第6回	乳幼児の理解（3歳未満児） 0歳～2歳児の発達の理解をし,援助の観点を考える。	
第7回	乳幼児の理解（3歳以上児） 3歳～就学前幼児の発達の理解をし,援助の観点を考える。	
第8回	指導計画と指導案の関係性 指導計画の中にある，実習日誌，指導案との関連を理解する。	
第9回	観察記録の取り方と活用のしかた DVD視聴をし，実際にメモの取り方を理解する。	
第10回	実際の観察記録 観察記録をもとに，実際に日誌を記入し理解する。	
第11回	指導案の書き方（3歳未満児） 実際に3歳未満児の指導案を立てて，書き方を理解する。	
第12回	指導案の書き方（3歳以上児） 実際に3歳以上児の指導案を立てて，書き方を理解する。	
第13回	援助・配慮の意味 指導案から援助配慮を取り出し,実際に行い,理解する。	
第14回	保育所実習での自己紹介を考える② 各自で自己紹介を考え発表する。評価し合うことにより最適なものは何かを理解する。	
第15回	保育所実習についてのまとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	毎回の提出物により評価する。
レポート	30	レポートの課題に合った書き方が出来ているか，誤字脱字，表現方法，提出期限が守れているかによって評価する ※採点後,成績を個別に開示し,授業内で振り返りを行う。
小テスト（発表）	20	評価の観点 ・意図が明確であるか ・適切な声の大きさ及び抑揚があるか ・表情や仕草は内容と合っているか ・年齢に合った内容であるか ※授業内で振り返りを行う。
定期試験		
その他	20	指導案，日誌についての理解ができているかにより評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教科書を十分読んで，疑問点を明らかにすること。 提出物の期限を厳守すること。
授業外学修	1.予習として，教科書の授業内容該当の部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，ノートの整理を行う。 3.授業内で紹介した参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
これからの時代の保育者養成・実習ガイド: 学生・養成校・実習園がともに学ぶ	大豆生田 啓友	中央法規出版	4805882220	
使用テキスト：自由記載	『保育実習の手引』，岡山県保育士養成協議会 授業内で指定した本を読む			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所保育士8年、幼稚園教諭（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育所の現場経験から（公立保育所保育士8年）実際の保育所で使用している書類の記入や計画の立案方法等を教授する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育所の子どもに関する知識	保育所にはどのような子どもが入所しているのか十分理解し、適切な対応の仕方を明確に論述できる。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解し、適切な対応の仕方を明確に論述できる。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解し、対応の仕方を論述できる。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解しているが、適切な対応の仕方までは論述できない。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解できにくく、適切な対応の仕方まではわからず、論述できない。
知識・理解	2．保育所実習の意義・目的	保育所実習の意義・目的が十分に理解でき、実習にむけて意識を高くもつことができ、それらを論述できる。	保育所実習の意義・目的が理解でき、実習にむけて意識を高くもつことができ、それらを論述できる。	保育所実習の意義・目的が理解でき、実習にむけて意識を表明することができる。	保育所実習の意義・目的が理解でき、実習にむけて意識をもつことができるがその表明が不十分である。	保育所実習の意義・目的が理解できておらず、実習にむけて意識をもつことができないので、意識の表明もできない。
技能	1．保育実習に関する技術	園の特徴、子どもの特性や状況を踏まえながら、具体的な関わりを提案することができる。保育所実習に関する知識に即しながら、自分なりの新たな関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状況を踏まえながら、具体的な関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状況を踏まえながら、関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状況を踏まえずに、関わりを考えた提案をする。	子どもに対して関わりを考えることができないので、提案もできない。
技能	2．日誌・指導案の作成	日誌・指導案の記入する箇所に何をどのように記入するかがわかり、丁寧に間違いなく記入することができる。また、場面を想像することができ、適切な表現を使用して記入することができる。	日誌・指導案の記入する箇所に記入方法がわかり、間違いなく記入することができる。また、場面を想像することができ、適切な表現を使用して記入することができる。	日誌・指導案の記入する箇所に間違いなく記入することができる。また、場面を想像することができ、適切な表現を使用して記入することができる。	日誌・指導案の記入する箇所に間違いなく記入することができる。また、場面を想像することができにくく、誤った表現を記入する。	日誌・指導案の記入する箇所を間違い、場面を想像することができにくく、誤った表現を記入する。

科目名	保育実習指導C 1クラス			授業番号	EF303A	サブタイトル			
教員	清水 憲志								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育実習指導Bで学習したことをふまえ，保育実習指導Cについての意義，目的について学習する。また，実践的な実習日誌や指導案については，実際に立案し保育所実習が困難にならないよう学習する。実習事後においてはグループ討議や反省会で振り返りを行い，今後の課題や解決法について学習する。								
到達目標	保育実習の意義，目的を理解し保育者としての意識や態度を身につける。 実習で使用する指導案，実習日誌の書き方を習得し，実際に立案することができる。 実習後はテーマレポートの作成を行い，自己課題に対する振り返りや今後の課題を明確にすることができる。 なお，本学科はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習IIの意義と目的 実習の手引を用いて再度確認，理解する。	
第2回	実習日誌の理解 用語の説明を聞きながら、実際に記入にする。	
第3回	実習日誌の実際 実際に日誌を書き，理解する。	
第4回	指導案に関する理解 ねらいや援助について具体例を用いながら,自ら作成することで理解する。	
第5回	指導案の書き方(1) 実際に指導案を記入することで理解する。	
第6回	指導案の書き方(2) 実際に指導案を記入することで理解する。	
第7回	保育現場の先輩による事前指導 実際の保育現場で働いている保育士から話を聞き，保育現場を理解する。	
第8回	実習に対する自己課題 様々な場面を想定して，自己課題を立てる。	
第9回	年齢に応じた保育 自分が担当する年齢の子どもを理解する。	
第10回	援助の意味を考える 子どもの成長に応じた援助がいかに大切かを理解する。	
第11回	子どもの状況に応じた適切なかかわり 常に子どもの状況を把握しておくことの大切さを理解する。	
第12回	自己課題に対する振り返り 自己課題が適切であったかを自分なりに評価する。	
第13回	グループ討議(1) 実習であった出来事等を話し合うことにより，子ども理解をする。	
第14回	グループ討議(2) 実習であった出来事等を話し合うことにより，子ども理解をする。	
第15回	保育所実習のまとめ（反省会） 保育実習の省察を行い,他者の体験を聞きながら学びを深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	必要書類を整えているか，期限に間に合うよう提出できるかにより評価する。
レポート	70	レポートは提出が期限内に提出できなければ，評価はしない。 内容については，下記参照のこと。 ○体裁10点 ・具体的に実習課題を挙げているか 5点 ・所定の形式（フォント大きさや見出し・文量等について）であるか 5点 ○内容50点 ・テーマに基づいた仮説であるか 10点 ・テーマに基づいた事例であるか 10点 ・事例に基づいた考察ができているか 20点 ・仮説の更新及び次回の課題が明確になっているか 10点 ○誤字脱字の有無 10点 （※誤字脱字一つに付き、1点。最大10点まで減点）
小テスト		
定期試験		
その他	20	・指導案，日誌の整理について10点 ・指導案に基づいた実践について10点

評価の方法：自由記載	
受講の心得	意欲的な態度で参加すること。提出物の期限厳守。必要書類の確認を十分に行うこと。
授業外学修	子どもの発達過程を十分把握し，年齢に合わせた遊びが準備できるようにしておくこと。 レポート，指導案の書き方を理解しておく。 実習に必要なものを準備しておく。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
遊びが広がる保育内容のアイディア	西海聡子	萌文書林	9784893473745	

使用テキスト：自由記載	『保育実習の手引』，岡山県保育士養成協議会 保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	岡山県保育士養成協議会作成の「実習の手引」，「実習日誌」を使用する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所保育士（8年）・幼稚園教諭（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育所の現場経験から（公立保育所保育士8年）実際の保育所で使用している書類の記入や計画の立案方法等を教授する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育所/こども園に関する知識	保育所/こども園に関する具体的な知識を深く習得し、授業や試験に対応できる。	保育所/子ども園に関する具体的な知識を習得し授業や試験に対応できる。	保育所/子ども園に関する知識を習得し授業や試験に対応できる。	保育所/子ども園に関する知識の習得が不十分であり、授業や試験で力が発揮できにくい。	保育所/子ども園に関する知識が習得できていないため、授業や試験で力が発揮できない。
知識・理解	2．保育所実習日誌及び指導案に関する知識	保育所実習日誌及び指導案に関する具体的な知識を深く習得し、記述し、遂行できる。	保育所実習日誌及び指導案に関する具体的な知識を習得し、記述し、遂行できる。	保育所実習日誌及び指導案に関する具体的な知識を習得し、記述できる。	保育所実習日誌及び指導案に関する知識の習得が不十分である。	保育所実習日誌及び指導案に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3．自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できる。	自己課題を設定しているが抽象的である。	自己課題を設定できているが、著しく具体性が乏しい。
知識・理解	4．レポートの作成	実習での課題について、事例をわかりやすく示し、考察に自分の考えを根拠を示しながら論理的に書くことができる。	実習での課題について、事例をわかりやすく示している。考察に自分の考えを根拠を示しながら十分書くことができる。	実習での課題について、事例をわかりやすく示している。考察に自分の考えが書ける。	実習での課題について、事例を示すことができるが、考察において自分の考えの述べ方が不十分である。	レポートの体裁が整っておらず、内容も不十分である。
技能	1．保育実習に関する技術	園の特徴、子どもの特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。保育所実習に関する知識に即しながら、自分なりの新たな行動/関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状態像を踏まえながら、行動/関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状態像を踏まえないままであるが、行動/関わりを考えて示すことができる。	幼児に対して行動/関わりを考えることができないため、その提案もできない。
技能	2．自己評価	実習での自己評価を、他者の評価と照らし合わせながら、自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し、他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができが不十分である。	実習を振り返、内容を整理して記入できない。

科目名	保育実習指導Ｃ 2クラス			授業番号	EF303B	サブタイトル			
教員	清水　憲志								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	保育実習指導Bで学習したことをふまえ，保育実習指導Cについての意義，目的について学習する。また，実践的な実習日誌や指導案については，実際に立案し保育所実習が困難にならないよう学習する。実習事後においてはグループ討議や反省会で振り返りを行い，今後の課題や解決法について学習する。								
到達目標	保育実習の意義，目的を理解し保育者としての意識や態度を身につける。 実習で使用する指導案，実習日誌の書き方を習得し，実際に立案することができる。 実習後はテーマレポートの作成を行い，自己課題に対する振り返りや今後の課題を明確にすることができる。 なお，本学科はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習IIの意義と目的 実習の手引を用いて再度確認，理解する。	
第2回	実習日誌の理解 用語の説明を聞きながら、実際に記入にする。	
第3回	実習日誌の実際 実際に日誌を書き，理解する。	
第4回	指導案に関する理解 ねらいや援助について具体例を用いながら,自ら作成することで理解する。	
第5回	指導案の書き方(1) 実際に指導案を記入することで理解する。	
第6回	指導案の書き方(2) 実際に指導案を記入することで理解する。	
第7回	保育現場の先輩による事前指導 実際の保育現場で働いている保育士から話を聞き，保育現場を理解する。	
第8回	実習に対する自己課題 様々な場面を想定して，自己課題を立てる。	
第9回	年齢に応じた保育 自分が担当する年齢の子どもを理解する。	
第10回	援助の意味を考える 子どもの成長に応じた援助がいかに大切かを理解する。	
第11回	子どもの状況に応じた適切なかかわり 常に子どもの状況を把握しておくことの大切さを理解する。	
第12回	自己課題に対する振り返り 自己課題が適切であったかを自分なりに評価する。	
第13回	グループ討議(1) 実習であった出来事等を話し合うことにより，子ども理解をする。	
第14回	グループ討議(2) 実習であった出来事等を話し合うことにより，子ども理解をする。	
第15回	保育所実習のまとめ（反省会） 保育実習の省察を行い,他者の体験を聞きながら学びを深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	必要書類を整えているか，期限に間に合うよう提出できるかにより評価する。
レポート	70	レポートは提出が期限内に提出できなければ，評価はしない。 内容については，下記参照のこと。 ○体裁10点 ・具体的に実習課題を挙げているか　5点 ・所定の形式（フォント大きさや見出し・文量等について）であるか　5点 ○内容50点 ・テーマに基づいた仮説であるか　10点 ・テーマに基づいた事例であるか　10点 ・事例に基づいた考察ができているか　20点 ・仮説の更新及び次回の課題が明確になっているか　10点 ○誤字脱字の有無　10点 （※誤字脱字一つに付き、1点。最大10点まで減点）
小テスト		
定期試験		
その他	20	・指導案，日誌の整理について10点 ・指導案に基づいた実践について10点

評価の方法：自由記載	
受講の心得	意欲的な態度で参加すること。提出物の期限厳守。必要書類の確認を十分に行うこと。
授業外学修	子どもの発達過程を十分把握し，年齢に合わせた遊びが準備できるようにしておくこと。 レポート，指導案の書き方を理解しておく。 実習に必要なものを準備しておく。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
遊びが広がる保育内容のアイディア	西海聡子	萌文書林	9784893473745	

使用テキスト：自由記載	『保育実習の手引』，岡山県保育士養成協議会 保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	岡山県保育士養成協議会作成の「実習の手引」，「実習日誌」を使用する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所保育士（8年）・幼稚園教諭（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育所の現場経験から（公立保育所保育士8年）実際の保育所で使用している書類の記入や計画の立案方法等を教授する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育所/こども園に関する知識	保育所/こども園に関する具体的な知識を深く習得し、授業や試験に対応できる。	保育所/子ども園に関する具体的な知識を習得し授業や試験に対応できる。	保育所/子ども園に関する知識を習得し授業や試験に対応できる。	保育所/子ども園に関する知識の習得が不十分であり、授業や試験で力が発揮できにくい。	保育所/子ども園に関する知識が習得できていないため、授業や試験で力が発揮できない。
知識・理解	2．保育所実習日誌及び指導案に関する知識	保育所実習日誌及び指導案に関する具体的な知識を深く習得し、記述し、遂行できる。	保育所実習日誌及び指導案に関する具体的な知識を習得し、記述し、遂行できる。	保育所実習日誌及び指導案に関する具体的な知識を習得し、記述できる。	保育所実習日誌及び指導案に関する知識の習得が不十分である。	保育所実習日誌及び指導案に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3．自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できる。	自己課題を設定しているが抽象的である。	自己課題を設定できているが、著しく具体性が乏しい。
知識・理解	4．レポートの作成	実習での課題について、事例をわかりやすく示し、考察に自分の考えを根拠を示しながら論理的に書くことができる。	実習での課題について、事例をわかりやすく示している。考察に自分の考えを根拠を示しながら十分書くことができる。	実習での課題について、事例をわかりやすく示している。考察に自分の考えが書ける。	実習での課題について、事例を示すことができるが、考察において自分の考えの述べ方が不十分である。	レポートの体裁が整っておらず、内容も不十分である。
技能	1．保育実習に関する技術	園の特徴、子どもの特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。保育所実習に関する知識に即しながら、自分なりの新たな行動/関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状態像を踏まえながら、行動/関わりを提案することができる。	園の特徴、子どもの特性や状態像を踏まえないままであるが、行動/関わりを考えて示すことができる。	幼児に対して行動/関わりを考えることができないため、その提案もできない。
技能	2．自己評価	実習での自己評価を、他者の評価と照らし合わせながら、自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し、他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができが不十分である。	実習を振り返、内容を整理して記入できない。

科目名	保育実習指導D			授業番号	EF304	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	施設での実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。 実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法について学ぶ。 利用児・者に対して個々に合った支援を実施するために，個別支援計画の意義や立案・作成の方法を学ぶ。 実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこなう。								
到達目標	・児童福祉施設ついて，発展的な知識を獲得する。 ・具体的な目標設定の仕方を習得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。 ・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。 ・個別支援計画を立案・作成することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	施設実習の目的と意義	
第2回	施設実習先種別の理解	
第3回	専門職の役割と援助	
第4回	実習日誌の書き方，実習に対する課題作成1	
第5回	実習日誌の書き方，実習に対する課題作成2	
第6回	個別支援計画の意義	
第7回	個別支援計画の立案・作成	
第8回	施設職員，先輩による事前指導	
第9回	事例研究1	
第10回	事例研究2	
第11回	施設研究1	
第12回	施設研究2	
第13回	施設研究3	
第14回	実習のまとめ	
第15回	実習反省会	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート	30	事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し，具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。
小テスト		
定期試験		
その他	50	事前学習の内容を精査し，日誌にまとめて記入することができる（20%）事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる（30%）

評価の方法：自由記載	実習内容を60%，報告書レポート等を40%の割合で評価する。
受講の心得	・施設実習の意義をよく理解すること。 ・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので，積極的に取り組むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。 2．実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 3．学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。 4．実際の利用児・者を想定しながら，個別支援計画を作成すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業内容によって，随時プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で必要に応じて，紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年），スクールカウンセラー（12年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	施設経験（3年）から，施設の実際を伝えるとともに，利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.児童福祉施設に関する知識	児童福祉施設に関する具体的な知識を深く習得している。	児童福祉施設に関する具体的な知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識の習得が不十分である。	児童福祉施設に関する知識が習得できていない。
知識・理解	2.施設実習に関する知識	施設実習に関する具体的な知識を深く習得している。	施設実習に関する具体的な知識を習得している。	施設実習に関する知識を習得している。	施設実習に関する知識の習得が不十分である。	施設実習に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3.自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。 自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
知識・理解	4.課題への取り組み	課題の意図を理解し、児童福祉施設/施設実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。 児童福祉施設/施設実習の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。 もしくは 課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。 自分の意見が記述できてない。
知識・理解	5.グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。 グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。
技能	1.施設実習に関する技術	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。施設実習に関する知識に即しながら、自分なりの新たな行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえずに、行動/関わりを考えている。	利用児/者に対して行動/関わりを考えることができない。
技能	2.　自己評価	実習での自己評価を、他者の評価と照らし合わせながら、自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し、他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができが不十分である。	実習を振り返り、内容を整理して記入できない。
技能	3.課題への対処	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。施設実習中の課題について、具体的かつ適切な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。施設実習中の課題について、具体的な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することが、不十分である。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができない。
技能	4.主体的な取り組み	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当職員の指示があっても、実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	保育実習A			授業番号	EF305	サブタイトル			
教員	平尾　太晃、荒谷　友里恵								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	保育所以外の児童福祉施設や障害児・者施設などにおいて，諸教科で学んだ理論や技術がいかに具体化・統合化されているかを実地で学習する。 そして，実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することを目的とする。								
到達目標	・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。 ・児童福祉施設などで生活する利用児・者を理解する。 ・施設実習を通して，保育者としての知見を得る。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	実習生といえども，社会人及び保育士としての自覚を持って実習に臨むこと。また，実習に先立ち児童福祉施設や障害児・者に関する本を数冊読んでおくこと。 １）利用児・者への理解 ・利用児・者との生活を通しての理解をする。 ・利用児・者のとらえ方を深める。 ２）養護活動と養護技術への理解 ・各施設の目標に沿った養護の実際を理解する。 ・保育士の職務内容，役割について理解する。 ・技術を学ぶ。 ３）施設への理解 ・施設の役割と機能について理解する。 ・体験的理解と施設観の変革・再編成をする。 ４）自己啓発と福祉観の深化 ・実習での体験や学びをもとに自己啓発を進める ・福祉の現場に触れることにより，福祉観・援助観を深化させる。 通常特定の施設に10日間宿泊してその施設の処遇を見学したり，援助活動に参加させてもらい基礎的な内容を学習する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	20	報告書の施設概要を詳細に記載し，学んだことについて具体的かつ考察を踏まえながら記述することができる。
小テスト		
定期試験		
その他	80	実習先施設による評価（50%）と実習日誌（30%）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・実習の目標を把握しておくこと。 ・施設ごとに方針が異なるため，実習施設のプログラムに従うこと。 ・課題設定をし，目標を達成できるようにする。
授業外学修	1．利用児・者の活動と施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。 2．利用児・者とのかかわりを通して考えたことについて，具体的にエピソードを記入し，それらを考察しながら記述する。 3．その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り，次の日の実習課題を検討する。 4．1日の流れを振り返り，施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし，獲得できるようにする。 以上の内容を，毎日２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	『施設実習日誌』『施設実習の手引き』岡山県保育士養成協議会			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学生が保育士に必要な能力を身につけるため，実習指導者の指導の下，利用児・者を理解し支援ができる技能を修得させる。 実習訪問時に，課題や記録について指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.実習の流れの理解	生活リズムや日課、1日の流れを理解できており、流れに合わせた支援を積極的に実施することができる。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できており、流れに合わせた支援を実施することができる。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できている。	生活リズムや日課、1日の流れは理解できているが不十分である。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できていない。
知識・理解	2.利用児/者の特性やニーズの理解	利用児/者の特性やニーズを深く理解することができる。	利用児/者の特性やニーズを理解することができる。	利用児/者の特性やニーズが、職員のサポートがあれば理解することができる。	利用児/者の特性やニーズが理解が不十分である。	利用児/者の特性やニーズが理解できていない。
知識・理解	3.生活環境整備や安全への配慮	生活空間における配慮を理解し、安全に配慮した生活空間の構成を検討/提案することができる。	生活空間における配慮を理解し、安全に配慮した生活空間の構成を考えることができる。	生活空間における配慮が理解できている。	生活空間における配慮の理解が不十分である。	生活空間における配慮を理解できていない。
知識・理解	4.職員の役割や連携の理解	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について深く理解し、実践することができる。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について深く理解している。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について理解できている。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携の理解が不十分である。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について理解できていない。
思考・問題解決能力	1.客観的な観察にもとづく実習記録と省察	客観的な観察にもとづき実習記録を記述し内容を省察し、翌日の実習に課題として反映することができる。	客観的な観察にもとづき実習記録を記述し、内容を省察することができる。	客観的な観察にもとづき実習記録を記述することができる。	客観的な観察にもとづく実習記録と省察の記述が不十分である。	客観的な観察にもとづく実習記録と省察が記述できない。
知識・理解	2.具体的な課題設定と実践	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。 自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
技能	1.利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わり	利用児/者の特性やニーズに応じた適切な支援や関わりができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援が、職員のサポートがあれば実施することができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりが不十分である。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりができない。
技能	2.利用児/者との人間関係形成	利用児/者に対して、共感的対応や公平かつ温和な態度で接し、多様なコミュニケーションを活用しながら人間関係を形成することができる。	利用児/者に対して、公平かつ温和な態度で接し人間関係を形成することができる。	利用児/者との人間関係の形成ができる	利用児/者との人間関係の形成が不十分である。	利用児/者との人間関係の形成ができない。
技能	3.職員との関係形成	報告、連絡相談や質問、意見の交換を通して職員との関係を形成することができる。	報告、連絡相談や質問を通して職員との関係を形成することができる。	報告、連絡相談や質問をすることができる。	報告、連絡相談や質問をすることができない。	職員との関係を形成することができない。
態度	1.実習生としてのマナーやモラル	職員から留意された事項を遵守、利用児/者への配慮など、実習意義や実習生としての立場を十分理解し、責任をもって実習をすることができる。	職員から留意された事項を遵守し実習に取り組むことができる。 守秘義務や利用児/者の尊重など、利用児/者に配慮した実習ができる。	実習生として、適切な言葉遣いや身だしなみ等、職員の指示に沿って実習に取り組むことができる。	実習生としてのマナーやモラルが不十分である。	実習生としてのマナーやモラルがない。

科目名	保育実習B			授業番号	EF306	サブタイトル			
教員	清水　恵志、岡本　美幸								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	実際に保育所で今まで学習したことを駆使し10日間の実習を行い，総合的な学習を行う。								
到達目標	実際の保育現場で観察や子どもとのかかわりを通し，子どもへの理解を深めるとともに既習の教科の内容を踏まえ保育の方法や保護者への支援について総合的に理解する。 保育の計画，観察，記録及び自己評価等について具体的に理解する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	保育所の生活と1日の流れを理解する 保育所保育指針の理解と保育の展開を理解する 子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解をする 子どもへの援助やかかわりを実際に行い，理解する 保育の計画に基づく保育内容を理解し，実際に立案し実施する 子どもの発達過程に応じた保育内容を理解し，実際に実施する 子どもの生活やあそびと保育環境を理解し，保育をする 子どもの健康と安全に留意し，理解を深める 保育課程と指導計画の理解と活用 記録に基づく省察・自己評価をする 保育士の業務内容を理解する 職員間の役割分担や連携を理解する 保育士の役割と職業倫理を理解する 以上のような内容を総合的に実習の間に，保育の現場から学ぶ								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	90	実習園からの評価により評価する。
レポート	10	巡回指導時の様子や実習園への提出物等により評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習に積極的，意欲的に参加する。子どもたちと十分にコミュニケーションをとる。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会「実習のてびき」「実習日誌」

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所保育士（８年）,幼稚園教諭（１年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	保育現場の保育士等
実務経験をいかした教育内容	実際の保育現場（公立保育所保育士（８年）,幼稚園教諭（１年）での実習方法等を教授する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.保育所の流れの理解	保育所/こども園の1日の流れを十分理解できており、流れに合わせた援助を積極的に実施することができる。	保育所/こども園の1日の流れを十分理解できており、流れに合わせた援助を実施することができる。	保育所/こども園の1日の流れが理解できているが、援助の実施は不十分である。	保育所/こども園の1日の流れを理解して行動できる。	保育所/こども園の1日の流れが理解できていないため、適切な行動ができない。
知識・理解	2.保育士の役割の理解	保育士の役割を十分に理解し、その一員として保育に参加することができる。また、友好な人間関係が構築できる。	保育士の役割が理解でき、その一員として保育に参加することができる。また、友好な人間関係が構築できる。	保育士の役割が理解でき、その一員として保育に参加することができる。また、保育上の人間関係が構築できる。	保育士の役割が理解でき、保育に参加することができる。	保育士の役割が理解できない。また、保育に参加することができない。
知識・理解	3.保育内容の理解	保育内容を十分理解したうえで、指導案を書くことができ、保育の実践ができる。その後省察をすることで、次に生かすことができる。	保育内容を理解したうえで指導案を書くことができ、保育の実践ができる。その後省察をすることで、次に生かすことができる。	保育内容を理解し、指導案を書くことができる。保育の実践ができる。その後省察をすることができる。	保育内容がやや理解でき、指導案を書くことができるが十分ではない。保育の実践がなんとかできる。	保育内容が理解できておらず、指導案を書くことが難しい。保育の実践が難しい。
思考・問題解決能力	1.観察に基づく日誌・指導案	子どもの観察を行い、丁寧に日誌に記録ができ、自らの保育を省察でき、次の日の保育に反映することができる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができる。自らの保育を省察でき、次の日の保育に反映することができる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができる。また、自らの保育を省察することができる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができるが、不十分である。また、訂正された箇所の直しが不十分である。	子どもの観察を行い日誌に記録ができるが、不十分である。また、訂正された箇所の直しが理解できていない。
思考・問題解決能力	2.具体的な課題設定と実践	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。 自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
技能	1.子どもへの関わりと理解	子どもの特性や状態を踏まえながら、具体的な関わりが積極的にできる。	子どもの特性や状態を踏まえながら、具体的な関わりができる。	子どもの状態を踏まえながら、具体的な関わりができる。	子どもの状態を踏まえながら、関わりができる。	子どもの特性や状態を踏まえながら、具体的な関わりができない。
技能	2.保育技術に関する理解	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれかにおいて、十分に指導することができ、子どもと楽しんで活動できる。また、今後に向けて十分な省察ができる。	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれかにおいて指導することができ、子どもと楽しんで活動できる。また、今後に向けて十分な省察ができる。	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれかにおいてある程度、指導することができ、子どもと活動できる。また、今後に向けて省察ができる。	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれかにおいてある程度、指導することができ、子どもと活動できるが不十分である。	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれにおいてもなかなか指導することができない。子どもと活動するが不十分である。
態度	1.実習に対する態度	実習園から伝えられた事項が遵守でき、子どもに対する配慮など、実習の意義や実習生としての立場を十分理解し、責任をもって実習をすることができる。	実習園から伝えられた事項が遵守でき、子どもに対する配慮など、実習の意義や実習生としての立場を理解し、責任をもって実習をすることができる。	実習園から伝えられた事項が遵守でき、子どもに対する配慮など実習生としての立場を理解し、責任をもって実習をすることができる。	子どもに対する配慮など実習の意義や実習生としての立場を理解し、もって実習をすることができる。	子どもに対する配慮など実習の意義が理解できておらず、実習内容が乏しい。

科目名	保育実習C			授業番号	EF307	サブタイトル			
教員	清水　恵志、岡本　美幸								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	実際に保育所で今まで学習したことを駆使し10日間の実習を行い，総合的な学習を行う。								
到達目標	実際の保育現場で観察や子どもとのかかわりを通し，子どもへの理解を深めるとともに既習の教科の内容を踏まえ保育の方法や保護者への支援について総合的に理解する。 保育の計画，観察，記録及び自己評価等について具体的に理解する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	保育所の生活と1日の流れを理解する 保育所保育指針の理解と保育の展開を理解する 子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解をする 子どもへの援助やかかわりを実際に行い，理解する 保育の計画に基づく保育内容を理解し，実際に立案し実施する 子どもの発達過程に応じた保育内容を理解し，実際に実施する 子どもの生活やあそびと保育環境を理解し，保育をする 子どもの健康と安全に留意し，理解を深める 保育課程と指導計画の理解と活用 記録に基づく省察・自己評価をする 保育士の業務内容を理解する 職員間の役割分担や連携を理解する 保育士の役割と職業倫理を理解する 以上のような内容を総合的に実習の間に，保育の現場から学ぶ								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	90	実習園からの評価により評価する。
レポート	10	巡回指導時の様子や実習園への提出物等により評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習に積極的，意欲的に参加する。子どもたちと十分にコミュニケーションをとる。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会「実習のてびき」「実習日誌」

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所保育士（８年）,幼稚園教諭（１年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	保育現場の保育士等
実務経験をいかした教育内容	実際の保育現場（公立保育所保育士（８年）,幼稚園教諭（１年）での実習方法等を教授する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.保育士の役割や機能の理解	保育士の役割や機能を十分に理解し、その一員として保育に参加することができる。また、保育所保育の実際が理解でき実習ができる。	保育士の役割や機能が理解でき、その一員として保育に参加することができる。また、保育所保育の実際が理解でき実習ができる。	保育士の役割や機能が理解でき、その一員として保育に参加することができる。また、保育所保育の実際が理解でき実習ができる。	保育士の役割や機能が理解でき、保育に参加することができる。	保育士の役割や機能が理解できない。また、保育に参加することができない。
知識・理解	2.保育内容の理解	保育内容を十分理解したうえで、指導案を書くことができ、保育の実践ができる。その後省察をすることで、次に生かすことができる。	保育内容を理解したうえで指導案を書くことができ、保育の実践ができる。その後省察をすることで、次に生かすことができる。	保育内容を理解し、指導案を書くことができる。保育の実践ができる。その後省察をすることができる。	保育内容がやや理解でき、指導案を書くことができるが十分ではない。保育の実践がなんとかできる。	保育内容が理解できておらず、指導案を書くことが難しい。保育の実践が難しい。
思考・問題解決能力	1.保育計画・保育記録	子どもの観察を行い、丁寧に日誌に記録ができ、自らの保育を省察でき、次の日の保育に反映することができる。また、保育方法や環境設定についても工夫できる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができる。自らの保育を省察でき、次の日の保育に反映することができる。また、保育方法や環境設定についても工夫できる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができる。また、自らの保育を省察することができる。また、保育方法や環境設定についても工夫できる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができるが、不十分である。また、訂正された箇所の直しが不十分である。	子どもの観察を行い日誌に記録ができるが、不十分である。また、訂正された箇所の直しが理解できていない。
知識・理解	2.具体的な課題設定と実践	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。 自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
技能	1.子どもへの関わりと理解	子どもたちの遊びや活動に積極的にかかわり、子どもの心や発達の特性についての理解を深めることができる。	子どもたちの遊びや活動にかかわり、子どもの心や発達の特性についての理解を深めることができる。	子どもたちの遊びや活動にかかわり、子どもの発達の特性についての理解を深めることができる。	子どもたちの遊びや活動にかかわりにくく、子どもの発達の特性についての理解が難しい。	子どもたちの遊びや活動にかかわれず、子どもの発達の特性についての理解が乏しい。
知識・理解	2.保育技術に関する理解	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれかにおいて、十分に指導することができ、子どもと楽しんで活動できる。また、今後に向けて十分な省察ができる。	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれかにおいて指導することができ、子どもと楽しんで活動できる。また、今後に向けて十分な省察ができる。	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれかにおいてある程度、指導することができ、子どもと活動できる。また、今後に向けて省察ができる。	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれかにおいてある程度、指導することができ、子どもと活動できるが不十分である。	造形活動、体育活動、音楽活動のいずれにおいてもなかなか指導することができない。子どもと活動するが不十分である。
態度	1.実習に対する意欲・学びの態度	実習園から伝えられた事項が遵守でき、子どもに対する配慮など、実習の意義や実習生としての立場を十分理解し、責任をもって実習をすることができる。	実習園から伝えられた事項が遵守でき、子どもに対する配慮など、実習の意義や実習生としての立場を理解し、責任をもって実習をすることができる。	実習園から伝えられた事項が遵守でき、子どもに対する配慮など実習生としての立場を理解し、責任をもって実習をすることができる。	子どもに対する配慮など実習の意義や実習生としての立場を理解し、もって実習をすることができる。	子どもに対する配慮など実習の意義が理解できておらず、実習内容が乏しい。

科目名	保育実習D			授業番号	EF308	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	保育所以外の児童福祉施設や，知的障害児・者施設で施設実習での参加観察実習でそれぞれの段階を積み上げた仕上げの実習である。利用児・者の機能，保育士の役割，指導計画など支援の内容をより詳細に体験する。								
到達目標	・実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することができる。 ・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。 ・児童福祉施設などで生活する利用児・者の姿を理解する。 ・施設実習を通して，保育者としての知見を得る。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	基礎的な実習を終えた後，次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施，関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題を持つこと。 １）援助計画の理解 ・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。 ・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画，日常的支援，専門的支援を理解する。 ２）援助プログラムの立案 ・日常的支援の時間配分や生活，教育，訓練，治療，矯正などの重点のお き方から援助プログラムへの生かし方を理解する。 ・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し，その助言を受けて立案する。 ３）援助プログラムによる援助実践 ・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。 ・実習指導担当者の助言，実習場面の立会い，事後の批評等を受ける。 ４）保育士の態度と技術の習得 ・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。 ・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。 ・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。 ５）多様性と共通性の理解 ・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。 ・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを，施設で実践することで学習する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	30	事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し，具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。
小テスト		
定期試験		
その他	70	実習先施設による評価（40%）と実習日誌（30%）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・実習の目標を把握しておくこと。 ・施設ごとに方針が異なるため，実習施設のプログラムに従うこと。 ・課題設定をし，目標を達成できるようにする。
授業外学修	1．利用児・者の活動と施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。 2．利用児・者とのかかわりを通して考えたことについて，具体的にエピソードを記入し，それらを考察しながら記述する。 3．その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り，次の日の実習課題を検討する。 4．1日の流れを振り返り，施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし，獲得できるようにする。 以上の内容を，毎日２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	『施設実習日誌』『施設実習の手引き』，岡山県保育士養成協議会			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学生が保育士に必要な能力を身につけるため，実習指導者の指導の下，利用児・者を理解し支援ができる技能を修得させる。 実習訪問時に，課題や記録について指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.実習の流れの理解	生活リズムや日課、1日の流れを理解できており、流れに合わせた支援を積極的に実施することができる。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できており、流れに合わせた支援を実施することができる。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できている。	生活リズムや日課、1日の流れは理解できているが不十分である。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できていない。
知識・理解	2.利用児/者の特性やニーズの理解	利用児/者の特性やニーズを深く理解することができる。	利用児/者の特性やニーズを理解することができる。	利用児/者の特性やニーズが、職員のサポートがあれば理解することができる。	利用児/者の特性やニーズが理解が不十分である。	利用児/者の特性やニーズが理解できていない。
知識・理解	3.生活環境整備や安全への配慮	生活空間における配慮を理解し、安全に配慮した生活空間の構成を検討/提案することができる。	生活空間における配慮を理解し、安全に配慮した生活空間の構成を考えることができる。	生活空間における配慮が理解できている。	生活空間における配慮の理解が不十分である。	生活空間における配慮を理解できていない。
知識・理解	4.職員の役割や連携の理解	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について深く理解し、実践することができる。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について深く理解している。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について理解できている。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携の理解が不十分である。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について理解できていない。
思考・問題解決能力	1.客観的な観察にもとづく実習記録と省察	客観的な観察にもとづき実習記録を記述し内容を省察し、翌日の実習に課題として反映することができる。	客観的な観察にもとづき実習記録を記述し、内容を省察することができる。	客観的な観察にもとづき実習記録を記述することができる。	客観的な観察にもとづく実習記録と省察の記述が不十分である。	客観的な観察にもとづく実習記録と省察が記述できない。
知識・理解	2.具体的な課題設定と実践	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。 自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
技能	1.利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わり	利用児/者の特性やニーズに応じた適切な支援や関わりができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援が、職員のサポートがあれば実施することができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりが不十分である。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりができない。
技能	2.利用児/者との人間関係形成	利用児/者に対して、共感的対応や公平かつ温和な態度で接し、多様なコミュニケーションを活用しながら人間関係を形成することができる。	利用児/者に対して、公平かつ温和な態度で接し人間関係を形成することができる。	利用児/者との人間関係の形成ができる	利用児/者との人間関係の形成が不十分である。	利用児/者との人間関係の形成ができない。
技能	3.職員との関係形成	報告、連絡相談や質問、意見の交換を通して職員との関係を形成することができる。	報告、連絡相談や質問を通して職員との関係を形成することができる。	報告、連絡相談や質問をすることができる。	報告、連絡相談や質問をすることができない。	職員との関係を形成することができない。
態度	1.実習生としてのマナーやモラル	職員から留意された事項を遵守、利用児/者への配慮など、実習意義や実習生としての立場を十分理解し、責任をもって実習をすることができる。	職員から留意された事項を遵守し実習に取り組むことができる。 守秘義務や利用児/者の尊重など、利用児/者に配慮した実習ができる。	実習生として、適切な言葉遣いや身だしなみ等、職員の指示に沿って実習に取り組むことができる。	実習生としてのマナーやモラルが不十分である。	実習生としてのマナーやモラルがない。

科目名	教育実習			授業番号	EF309	サブタイトル			
教員	山本 房子、福澤 惇也								
単位数	4単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育の現場で４週間の実習経験をする。								
到達目標	幼児とその教育を正しく理解する力，幼児を受容しかつ指導する力，事務的な事柄を処理する能力等を身につける。 優しさや思いやりある保育者の姿に触れ，信頼される保育者に必要な豊かな人間性について知り，実践出来る力を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	観察・参加・指導実習（部分・連続・１日実習）とおよそ３段階で進められる。 第１週　観察実習 ・幼稚園教育実践の場を実際に観察し，幼児の実態や指導に対する理解を深める。 ・幼稚園教育環境のおおよそを理解する。 第２週　参加実習 ・教育実習担当教諭の計画に基づき，保育指導の展開と方法を体験的に学ぶ。 ・幼児に親しみ，その接し方に慣れる。 第３～４週　指導実習 ・部分実習 幼児の生活全体を把握し，１日のうちの１部を担当し，幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自らが立案した指導計画により指導を行い，保育指導の基礎的実践を経験する。一人一人の幼児の行動観察をすることにより幼児理解を深める。 ・連続実習 ・１日実習 最終段階の実習である。幼児の生活全体を把握し，１日の保育を実践する。 部分実習と同様，幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自ら立案した指導計画により指導を行い保育指導の応用的実践を経験する。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	教育実習園からの評価（大学が示した評価項目，実習への意欲・責任感・研究的態度・協調性・指導計画立案・指導技術・事務処理）に基づいて評価する。実習後面談の中で，園からの評価をフィードバックし，自己評価とのすりあわせを行う。
実習日誌	30	教育実習園での実習日誌・指導案等の提出物について，記述内容や提出期限をふまえて評価する。実習後面談で個別にフィードバックを行うとともに，日誌にはコメントを添付して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	体調管理に努め実習の課題をもち，積極的に実習に参加すること。社会人，保育者としての生活態度を自覚すること。実習の心得を守って行動すること。実習日誌等の取り扱い，提出物の期限に留意すること。
授業外学修	1．幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の動きを日誌に記入する。 2．その日の実習のねらいについて一日を振り返り，実習日誌に記入する。 3．指導案等の実習指導計画を作成する。 以上の内容を，毎日2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
詳説　幼稚園教育実習	森元 眞紀子･小野 順子 編著	ふくろう出版	978-4-86186-761-3	2090円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	264円
参考書：自由記載				
その他				
備考	令和4年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年）としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼稚園教諭としての実務経験を有する。			
実務経験をいかした教育内容	幼稚園での実務経験（19年）をもつ教員を中心に，実習の巡回指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー･学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識･理解	1．幼児理解	保育現場での課題等を踏まえながら,幼児を理解することの意義と重要性について適切に述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について,自分の考えも取り入れて述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について具体的に述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について述べることができない。
知識･理解	2．幼児教育･保育に対する理解	保育現場での課題等も踏まえながら,幼児教育･保育の意義と重要性について保育現場での課題等も踏まえながら適切に述べることができる。	幼児教育･保育の意義と重要性について,自分の考えも取り入れて述べることができる。	幼児教育･保育の意義と重要性について具体的に述べることができる。	幼児教育･保育の意義と重要性について述べることができる。	幼児教育･保育の意義と重要性について述べることができない。
知識･理解	3．実習日誌･指導案等の記述	実習日誌,指導案等に,担当教員の指導を踏まえた上で,発展的に記述できている。	実習日誌,指導案等に,担当教員の指導を取り入れ,適切に記述できている。	実習日誌,指導案等に,担当教員の指導も取り入れて記述できている。	実習園での実習日誌,指導案等を丁寧に記述している。	実習園での実習日誌,指導案等の記述が不十分である。
思考･問題解決能力	1．指導の計画	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で,環境構成や援助について具体的的かつ適切に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で,環境構成や援助について具体的に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で,環境構成や援助を記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で,指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえて指導計画を立案することができにくい。
技能	1．指導の技術	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した適切な援助ができる。	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した適切な援助をしようとする。	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した援助をしようとする。	担当教員の指示のもと,幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した援助をしようとする。	担当教員の指示があっても,環境構成や配慮,援助をしようとしない。
技能	2．事務処理	日誌等を期限を守って提出するなど,事務的な事柄を的確かつ迅速に処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出するなど,事務的な事柄を迅速に処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出するなど,事務的な事柄を処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出することができる。	日誌等を期限を守って提出することができない。
態度	1．実習態度	実習意義や実習生としての立場を十分理解し,責任をもって実習をすることができる。	実習意義や実習生としての立場を理解し,責任をもって実習をすることができる。	守秘義務等,実習生として留意する事項を遵守して実習をすることができる。	担当教員の指示を受けて,守秘義務等,実習生として留意する事項を遵守して実習をすることができる。	守秘義務等,実習生として留意する事項を遵守できない。

科目名	教育実習指導 1クラス			授業番号	EF310A	サブタイトル			
教員	山本 房子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	現場で行う幼稚園教育実習を有意義かつ充実した実習とするため，事前に学習への意欲を高め，これまでに学修した知識・技術を現場での指導に活用できる実践力について説明する。 実習終了後は自分の実習の振り返りやグループ討議，反省会等を行い，幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする。								
到達目標	実習前には実習生としての態度や心構え，指導案や日誌の書き方，教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。 実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに，実習での学習の成果のまとめと発表をし，自己課題を明確にできる。 以上のことを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育実習の目標と意義を理解し，教育実習に向けての計画と準備を行う	
第2回	幼稚園教育，教師の役割，子どもの実態について理解する	
第3回	実習に対する課題を作成する	
第4回	園長先生・先輩による事前指導（先輩講演）を受ける	
第5回	教育実習日誌について 日誌の種類を知るとともに，日誌を書くことの目的を理解する 目標の立て方，一日の流れ，反省・考察の記入の方法を知る	
第6回	指導案について① 指導案を作成する意味を理解する 絵本の読み聞かせ・昼食場面の部分指導案を作成する	
第7回	指導案について② 全日指導案の書き方を知る	
第8回	特別に支援を要する幼児への指導について学ぶ	
第9回	実習の実際について 園での実習生としての生活の流れ，出勤から退勤までの流れを知る	
第10回	教育実習直前オリエンテーションを受け，実習への意欲を高める	
第11回	実習を振り返る① 幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営について理解する	
第12回	実習を振り返る② 幼稚園教諭の役割と援助について理解する	
第13回	実習を振り返る③ 反省及び自己評価を行う	
第14回	実習を振り返る④ 実習での学びや課題をもとにテーマレポートを作成する	
第15回	教育実習のまとめ 実習報告会を行う	
授業計画 備考2	注）第２～１０回の授業のうち，時間の関係で授業時間以外の時間で授業をする回もある	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，協力する態度，授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。
レポート	80	実習での学びに関する課題を，決められた様式に従い分かりやすく述べていること。提出期限を守っていること。 実習後面談の中でレポートの評価等についてはフィードバックする。

評価の方法：自由記載	テーマレポートの評価を80%，授業態度を20%の割合で評価する。
受講の心得	実習に取り組むに当たっての課題を決定し，その準備をする。 提出物が多いので，提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。
授業外学修	教科書の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 授業後は教科書や配布された資料をよく読み，知識を整理すること。 弾きうたい，幼児への関わり方や指導案作成等，保育技術の向上に努力すること。 保育教材等，実習に必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
詳説　幼稚園教育実習	森元 眞紀子･小野 順子 編著	ふくろう出版	978-4-86186-761-3	2090円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	264円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年）としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭としての実務経験及び実習生を指導した経験（16年）を生かし，教育実習に向けての心構えや準備，日誌の書き方等について実践的かつ具体的な指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー･学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識･理解	1．幼児教育施設（幼稚園･幼保連携型認定こども園）に関する知識	幼児教育施設に関する具体的な知識を深く習得している。	幼児教育施設に関する具体的な知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識の習得が不十分である。	幼児教育施設に関する知識が習得できていない。
知識･理解	2．教育実習に関する知識	教育実習に関する具体的な知識を深く習得している。	教育実習に関する具体的な知識を習得している。	教育実習に関する知識を習得している。	教育実習に関する知識の習得が不十分である。	教育実習に関する知識が習得できていない。
知識･理解	3．自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し,自己課題を通して得られた今後の課題について,具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し,自己課題を通して得られた今後の課題について,具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について,省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが,具体性が乏しい。
思考･問題解決能力	1．課題への対処	教育実習中の課題について,幼児の特性や状態像を踏まえながら,背景を論述することができる。教育実習中の課題について,具体的かつ適切な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について,幼児の特性や状態像を踏まえながら,背景を論述することができる。教育実習中の課題について,具体的な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について背景を推察し,解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について背景を推察し,解決策を提案することが,不十分である。	教育実習中の課題について背景を推察し,解決策を提案することができない。
技能	1．レポートの作成･提出	提出期限を守り,決められた様式に従い論理的なレポートを作成するとともに,他者に分かりやすく発表することができる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを論理的に作成できる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを作成することができる。	レポートを作成し期限を守って提出しているが,誤字脱字が見られたり,決められた様式と異なった様式で作成している。	提出期限を守ることができない。
技能	2．自己評価	実習での自己評価を,他者の評価と照らし合わせながら,自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し,他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り,内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り,内容を整理して記入することができるが不十分である。	実習を振り返り,内容を整理して記入できない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し,幼児教育施設/教育実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。幼児教育施設/教育実習の知識に即しながら,自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し,具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し,自分の意見を述べられるが,具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは,課題の意図は理解できていないが,自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し,目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら,目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し,目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら,目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し,目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが,消極的である。	グループ活動に参加していない。
態度	3．主体的な取り組み	実習園や担当教員の指示だけでなく,実習に向けて問題意識をもち,様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示だけでなく,実習に向けて問題意識をもち,実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当教員の指示があっても,実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	教育実習指導 2クラス			授業番号	EF310B	サブタイトル			
教員	山本 房子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	現場で行う幼稚園教育実習を有意義かつ充実した実習とするため，事前に学習への意欲を高め，これまでに学修した知識・技術を現場での指導に活用できる実践力について説明する。 実習終了後は自分の実習の振り返りやグループ討議，反省会等を行い，幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする。								
到達目標	実習前には実習生としての態度や心構え，指導案や日誌の書き方，教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。 実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに，実習での学習の成果のまとめと発表をし，自己課題を明確にできる。 以上のことを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育実習の目標と意義を理解し，教育実習に向けての計画と準備を行う	
第2回	幼稚園教育，教師の役割，子どもの実態について理解する	
第3回	実習に対する課題を作成する	
第4回	園長先生・先輩による事前指導（先輩講演）を受ける	
第5回	教育実習日誌について 日誌の種類を知るとともに，日誌を書くことの目的を理解する 目標の立て方，一日の流れ，反省・考察の記入の方法を知る	
第6回	指導案について① 指導案を作成する意味を理解する 絵本の読み聞かせ・昼食場面の部分指導案を作成する	
第7回	指導案について② 全日指導案の書き方を知る	
第8回	特別に支援を要する幼児への指導について学ぶ	
第9回	実習の実際について 園での実習生としての生活の流れ，出勤から退勤までの流れを知る	
第10回	教育実習直前オリエンテーションを受け，実習への意欲を高める	
第11回	実習を振り返る① 幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営について理解する	
第12回	実習を振り返る② 幼稚園教諭の役割と援助について理解する	
第13回	実習を振り返る③ 反省及び自己評価を行う	
第14回	実習を振り返る④ 実習での学びや課題をもとにテーマレポートを作成する	
第15回	教育実習のまとめ 実習報告会を行う	
授業計画 備考2	注）第２～１０回の授業のうち，時間の関係で授業時間以外の時間で授業をする回もある	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，協力する態度，授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。
レポート	80	実習での学びに関する課題を，決められた様式に従い分かりやすく述べていること。提出期限を守っていること。 実習後面談の中でレポートの評価等についてはフィードバックする。

評価の方法：自由記載	テーマレポートの評価を80%，授業態度を20%の割合で評価する。
受講の心得	実習に取り組むに当たっての課題を決定し，その準備をする。 提出物が多いので，提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。
授業外学修	教科書の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 授業後は教科書や配布された資料をよく読み，知識を整理すること。 弾きうたい，幼児への関わり方や指導案作成等，保育技術の向上に努力すること。 保育教材等，実習に必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
詳説　幼稚園教育実習	森元 眞紀子･小野 順子 編著	ふくろう出版	978-4-86186-761-3	2090円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	264円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年）としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭としての実務経験及び実習生を指導した経験（16年）を生かし，教育実習に向けての心構えや準備，日誌の書き方等について実践的かつ具体的な指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー･学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識･理解	1．幼児教育施設（幼稚園･幼保連携型認定こども園）に関する知識	幼児教育施設に関する具体的な知識を深く習得している。	幼児教育施設に関する具体的な知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識の習得が不十分である。	幼児教育施設に関する知識が習得できていない。
知識･理解	2．教育実習に関する知識	教育実習に関する具体的な知識を深く習得している。	教育実習に関する具体的な知識を習得している。	教育実習に関する知識を習得している。	教育実習に関する知識の習得が不十分である。	教育実習に関する知識が習得できていない。
知識･理解	3．自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し,自己課題を通して得られた今後の課題について,具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し,自己課題を通して得られた今後の課題について,具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について,省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが,具体性が乏しい。
思考･問題解決能力	1．課題への対処	教育実習中の課題について,幼児の特性や状態像を踏まえながら,背景を論述することができる。教育実習中の課題について,具体的かつ適切な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について,幼児の特性や状態像を踏まえながら,背景を論述することができる。教育実習中の課題について,具体的な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について背景を推察し,解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について背景を推察し,解決策を提案することが,不十分である。	教育実習中の課題について背景を推察し,解決策を提案することができない。
技能	1．レポートの作成･提出	提出期限を守り,決められた様式に従い論理的なレポートを作成するとともに,他者に分かりやすく発表することができる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを論理的に作成できる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを作成することができる。	レポートを作成し期限を守って提出しているが,誤字脱字が見られたり,決められた様式と異なった様式で作成している。	提出期限を守ることができない。
技能	2．自己評価	実習での自己評価を,他者の評価と照らし合わせながら,自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し,他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り,内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り,内容を整理して記入することができるが不十分である。	実習を振り返り,内容を整理して記入できない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し,幼児教育施設/教育実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。幼児教育施設/教育実習の知識に即しながら,自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し,具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し,自分の意見を述べられるが,具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは,課題の意図は理解できていないが,自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し,目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら,目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し,目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら,目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し,目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが,消極的である。	グループ活動に参加していない。
態度	3．主体的な取り組み	実習園や担当教員の指示だけでなく,実習に向けて問題意識をもち,様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示だけでなく,実習に向けて問題意識をもち,実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当教員の指示があっても,実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園） 1クラス			授業番号	EG401A	サブタイトル			
教員	福澤 惇也、藤井 裕士、荒谷 友里恵								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	２年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して，学生が修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに，不足している知識・技能を補完・向上させ，保育・教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。								
到達目標	1　保育者としての使命感や責任感をもつことができる。 2　保育者に必要な専門的知識をもつことができる。 3　保育を取り巻く環境の変化について理解し，実践的に保育に生かすことができる。 4　仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し，実行できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する （履修カルテ自己評価表を基に自分に欠けていることの確認）	福澤 惇也　　藤井 裕士
第2回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(1)	荒谷 友里恵
第3回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(2)	荒谷 友里恵
第4回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(3)	荒谷 友里恵
第5回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(4)	荒谷 友里恵
第6回	地域連携のあり方を考える(1)	福澤 惇也
第7回	地域連携のあり方を考える(2)	福澤 惇也
第8回	保護者支援のあり方を考える(1)	福澤 惇也
第9回	保護者支援のあり方を考える(2)	福澤 惇也
第10回	教諭としてのあり方を考える（1）	藤井 裕士
第11回	教諭としてのあり方を考える（2）	藤井 裕士
第12回	教諭としてのあり方を考える（3）	藤井 裕士
第13回	教諭としてのあり方を考える（4）	藤井 裕士
第14回	小学校への連携について考える（1）	福澤 惇也　　藤井 裕士
第15回	小学校への連携について考える(2) 今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する（履修カルテ自己評価表を基に自分に卒業後の自分の課題の確認）	福澤 惇也　　藤井 裕士
授業計画　備考2	実践演習全体の反省・評価・第１回目にもった課題の達成度を振り返る　　担当：福澤惇也　　藤井 裕士　　荒谷 友里恵	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	グループ討議には意欲的に参加し，友人と協力しようとする態度で授業に参加している。
レポート	50	授業ごとに学びをまとめ，時間内に提出できる。レポートは担当教員が読み返却する。15回目の授業で，すべての授業の資料とレポートを専用のファイルに綴じて提出できる。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は演習形式で行われるので，学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し，保育士・幼稚園教諭として求められる諸資質について，グループ討論・ロールプレイ等を通して，自ら主体的に考えていくようにする。受講前には，履習カルテ(2)を必ず記入しておくこと。
授業外学修	授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 授業後は配布された資料をよく読み，知識を整理すること。 演習について必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜，参考資料をプリントし，配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『幼稚園教育要領』，文部科学省，平成29年度版 『保育所保育指針』，厚生労働省，平成29年度版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（福澤俘也）　特別支援学校教諭（藤井裕士）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	小学校教諭
実務経験をいかした教育内容	保育所・幼稚園と小学校の連携に関して，学生の疑問に答え指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育場面における災害時の対応について理解できている。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について具体的に考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有してはいるが、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない場合がある。	保育場面における災害時の対応に関して十分な知識を有しておらず、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない。
知識・理解	２．現代における保育者の役割について理解できている。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について具体的に考えることができる。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有してはいるが、子どもへの援助法について考えるに至らない場合がある。	現代における保育者の役割に関して十分な知識を有しておらず、子どもへの援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	３．保護者支援のあり方について理解できている。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について具体的に考えることができる。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有してはいるが、個別性に配慮した応対策についてまで考えるには至らない場合がある。	保護者支援に活用できる知識を十分に有しておらず、個別性に配慮した応対策について考えが及ばない。
知識・理解	４．地域との連携の仕方について理解できている。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について具体的に考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有してはいるが、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して十分な知識を有しておらず、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。
知識・理解	５．就学後教育（小学校）への接続と連携について理解できている。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について具体的に考えることができる。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して知識を有してはいるが、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない場合がある。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して十分な知識を有しておらず、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	１．災害対策の環境構成ができる。	災害時の対策において、豊富な知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示してはいるが、適切な環境構成が困難な場合がある。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示しておらず、適切な環境構成を行うには至らない。
技能	２．対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と意思の疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。
技能	３．子どもの成長に関して就学後を見据えた長期的な計画を立案できる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を具体的に立てることができる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有し、就学後までを長期的に見据えてはいるが、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない場合がある。	子どもの成長や発達に関して十分な知識を有しておらず、就学後までを長期的に見据えることが困難である。そのため、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない。
態度	１．授業や課題に対して真摯に向き合うことができる。	授業内容や課題の意図を十分理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが、自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず、自分なりの意見もない。
態度	２．グループ活動の中で自身の役割を全うできる。	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していないが、目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮しておらず、目標や目的に向かって取り組むこともできていない。

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園） 2クラス			授業番号	EG401B	サブタイトル			
教員	福澤 惇也、藤井 裕士、荒谷 友里恵								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	２年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して，学生が修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに，不足している知識・技能を補完・向上させ，保育・教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。								
到達目標	1　保育者としての使命感や責任感をもつことができる。 2　保育者に必要な専門的知識をもつことができる。 3　保育を取り巻く環境の変化について理解し，実践的に保育に生かすことができる。 4　仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し，実行できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する （履修カルテ自己評価表を基に自分に欠けていることの確認）	福澤 惇也　　藤井 裕士
第2回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(1)	荒谷 友里恵
第3回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(2)	荒谷 友里恵
第4回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(3)	荒谷 友里恵
第5回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(4)	荒谷 友里恵
第6回	地域連携のあり方を考える(1)	福澤 惇也
第7回	地域連携のあり方を考える(2)	福澤 惇也
第8回	保護者支援のあり方を考える(1)	福澤 惇也
第9回	保護者支援のあり方を考える(2)	福澤 惇也
第10回	教諭としてのあり方を考える（1）	藤井 裕士
第11回	教諭としてのあり方を考える（2）	藤井 裕士
第12回	教諭としてのあり方を考える（3）	藤井 裕士
第13回	教諭としてのあり方を考える（4）	藤井 裕士
第14回	小学校への連携について考える（1）	福澤 惇也　　藤井 裕士
第15回	小学校への連携について考える(2) 今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する（履修カルテ自己評価表を基に自分に卒業後の自分の課題の確認）	福澤 惇也　　藤井 裕士
授業計画　備考2	実践演習全体の反省・評価・第１回目にもった課題の達成度を振り返る　　担当：福澤惇也　　藤井 裕士　　荒谷 友里恵	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	グループ討議には意欲的に参加し，友人と協力しようとする態度で授業に参加している。
レポート	50	授業ごとに学びをまとめ，時間内に提出できる。レポートは担当教員が読み返却する。15回目の授業で，すべての授業の資料とレポートを専用のファイルに綴じて提出できる。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は演習形式で行われるので，学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し，保育士・幼稚園教諭として求められる諸資質について，グループ討論・ロールプレイ等を通して，自ら主体的に考えていくようにする。受講前には，履習カルテ(2)を必ず記入しておくこと。
授業外学修	授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 授業後は配布された資料をよく読み，知識を整理すること。 演習について必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜，参考資料をプリントし，配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『幼稚園教育要領』，文部科学省，平成29年度版 『保育所保育指針』，厚生労働省，平成29年度版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（福澤俘也）　特別支援学校教諭（藤井裕士）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	小学校教諭
実務経験をいかした教育内容	保育所・幼稚園と小学校の連携に関して，学生の疑問に答え指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育場面における災害時の対応について理解できている。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について具体的に考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有してはいるが、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない場合がある。	保育場面における災害時の対応に関して十分な知識を有しておらず、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない。
知識・理解	２．現代における保育者の役割について理解できている。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について具体的に考えることができる。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有してはいるが、子どもへの援助法について考えるに至らない場合がある。	現代における保育者の役割に関して十分な知識を有しておらず、子どもへの援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	３．保護者支援のあり方について理解できている。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について具体的に考えることができる。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有してはいるが、個別性に配慮した応対策についてまで考えるには至らない場合がある。	保護者支援に活用できる知識を十分に有しておらず、個別性に配慮した応対策について考えが及ばない。
知識・理解	４．地域との連携の仕方について理解できている。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について具体的に考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有してはいるが、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して十分な知識を有しておらず、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。
知識・理解	５．就学後教育（小学校）への接続と連携について理解できている。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について具体的に考えることができる。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して知識を有してはいるが、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない場合がある。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して十分な知識を有しておらず、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	１．災害対策の環境構成ができる。	災害時の対策において、豊富な知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示してはいるが、適切な環境構成が困難な場合がある。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示しておらず、適切な環境構成を行うには至らない。
技能	２．対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と意思の疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。
技能	３．子どもの成長に関して就学後を見据えた長期的な計画を立案できる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を具体的に立てることができる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有し、就学後までを長期的に見据えてはいるが、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない場合がある。	子どもの成長や発達に関して十分な知識を有しておらず、就学後までを長期的に見据えることが困難である。そのため、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない。
態度	１．授業や課題に対して真摯に向き合うことができる。	授業内容や課題の意図を十分理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが、自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず、自分なりの意見もない。
態度	２．グループ活動の中で自身の役割を全うできる。	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していないが、目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮しておらず、目標や目的に向かって取り組むこともできていない。

中国短期大学　情報ビジネス学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
フレッシャーズセミナー	河田　健二／古谷　俊爾／板野　敬吾／平井　安久／五百竹　宏明／倉田　致知／脇坂　基徳 ・・・・・・・	1
韓国語	宋　娘沃 ・・・・・・・	3
中国語	畑木　亦梅 ・・・・・・・	5
日本語表現	太田　憲孝 ・・・・・・・	7
芸術	河田　健二 ・・・・・・・	9
法学概論	藤原　健補　他 ・・・・・・・	11
経済学	板野　敬吾 ・・・・・・・	13
社会福祉概論	松井　圭三 ・・・・・・・	15
時事問題	板野　敬吾 ・・・・・・・	17
遊びの中の数学	平井　安久 ・・・・・・・	19
体育実技	梶谷　信之 ・・・・・・・	21
英語A	藤代　昇丈 ・・・・・・・	23
秘書学	仁宮　崇 ・・・・・・・	25
プレゼンテーション概論	板野　敬吾 ・・・・・・・	27
ビジネス実務A	倉田　致知 ・・・・・・・	29
ビジネス実務B	倉田　致知 ・・・・・・・	31
実践学修の学び方	倉田　致知 ・・・・・・・	33
インターンシップ	板野　敬吾 ・・・・・・・	35
キャリアプランニング	河田　健二／古谷　俊爾／板野　敬吾／平井　安久／五百竹　宏明／倉田　致知／脇坂　基徳 ・・・・・・・	37
プレゼンテーション演習A	板野　敬吾 ・・・・・・・	39
医療管理事務総論	仁宮　崇 ・・・・・・・	41
発達と老化の理解	中野　ひとみ ・・・・・・・	43
診療報酬請求事務Ⅰ	仁宮　崇 ・・・・・・・	45
診療報酬請求事務演習Ⅰ	仁宮　崇 ・・・・・・・	47
地域創生学	倉田　致知 ・・・・・・・	49
プレゼンテーション演習B	板野　敬吾 ・・・・・・・	51
情報処理論	古谷　俊爾 ・・・・・・・	53
情報処理演習	古谷　俊爾 ・・・・・・・	55
文書処理	板野　敬吾 ・・・・・・・	57
ビジネスコンピューティングA	平井　安久 ・・・・・・・	59
プログラミング概論	古谷　俊爾 ・・・・・・・	61
通信ネットワーク論	古谷　俊爾 ・・・・・・・	63
コンピュータ科学	古谷　俊爾 ・・・・・・・	65
ITパスポート特別講義	板野　敬吾 ・・・・・・・	67
ITパスポート特別演習	古谷　俊爾 ・・・・・・・	69
ビジネスコンピューティングB	平井　安久 ・・・・・・・	71
データベース	古谷　俊爾 ・・・・・・・	73
プログラミング演習	古谷　俊爾 ・・・・・・・	75
アルゴリズムとデータ構造	古谷　俊爾 ・・・・・・・	77
データサイエンスA	平井　安久 ・・・・・・・	79
データサイエンスB	平井　安久 ・・・・・・・	81
データサイエンスC	平井　安久 ・・・・・・・	83
社会調査論	平井　安久 ・・・・・・・	85
社会調査演習	平井　安久 ・・・・・・・	87
マルチメディア	脇坂　基徳 ・・・・・・・	89
音響メディア論	河田　健二 ・・・・・・・	91
ウェブデザインA	脇坂　基徳 ・・・・・・・	93
デジタルフォト	非常勤C ・・・・・・・	95
コンピュータグラフィックス	脇坂　基徳 ・・・・・・・	97
映像制作	脇坂　基徳 ・・・・・・・	99
コンピュータミュージック	河田　健二 ・・・・・・・	101
ウェブデザインB	脇坂　基徳 ・・・・・・・	103
情報メディア論	脇坂　基徳 ・・・・・・・	105
ソーシャルメディア	脇坂　基徳 ・・・・・・・	107
クロスリアリティ	古谷　俊爾 ・・・・・・・	109
ウェブデザイン演習	脇坂　基徳 ・・・・・・・	111
ウェブアプリ開発	古谷　俊爾 ・・・・・・・	113
経営学概論	倉田　致知 ・・・・・・・	115
基礎簿記A	五百竹　宏明 ・・・・・・・	117
基礎簿記演習A	五百竹　宏明 ・・・・・・・	119
現代企業論	倉田　致知 ・・・・・・・	121
マーケティング	倉田　致知 ・・・・・・・	123
基礎簿記B	五百竹　宏明 ・・・・・・・	125

基礎簿記演習B	五百竹　宏明 ……	127
簿記特別演習	五百竹　宏明 ……	129
ファイナンシャルプラン	五百竹　宏明 ……	131
ファイナンシャルプラン演習	五百竹　宏明 ……	133
経営戦略論	倉田　致知 ……	135
簿記論A	五百竹　宏明 ……	137
簿記演習A	五百竹　宏明 ……	139
簿記論B	五百竹　宏明 ……	141
簿記演習B	五百竹　宏明 ……	143
コンピュータ会計	五百竹　宏明 ……	145
対人関係の心理学	福森　護 ……	147
経済の心理学	板野　敬吾 ……	149
心の健康の心理学	虫明　修 ……	151
産業・ビジネスの心理学	倉田　致知 ……	153
ゼミナールA シラバス用	河田　健二／古谷　俊爾／板野　敬吾／平井　安久／五百竹　宏明／倉田　致知／脇坂　基徳 ……	155
ゼミナールB シラバス用	河田　健二／古谷　俊爾／板野　敬吾／平井　安久／五百竹　宏明／倉田　致知／脇坂　基徳 ……	157

科目名	フレッシャーズセミナー			授業番号	SA151	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明、河田　健二、平井　安久、倉田　致知、板野　敬吾、古谷　俊爾、脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	導入教育を目的として開講された科目であり，入学直後の学生生活の環境に慣れて，今後の大学生活を有意義なものにするために，大学生活において必要な知識や心構えについて学ぶ。また，各種オリエンテーションや研修，イベントなど，様々な活動を通じて，教職員と学生，学生相互のコミュニケーションも図る。								
到達目標	大学生活について理解を深め，スムーズに大学生活を過ごせるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	大学の魅力を知る 本学の理念，歴史，学科の目標，地域社会での役割などを知る	
第2回	大学のしくみを知る 履修の仕方，講義の受け方，レポートの書き方について	
第3回	大学のしくみを知る これからの学生生活をよりよく楽しく過ごすために	
第4回	大学の施設を知る 知の宝庫，図書館の利用について	
第5回	大学の施設を知る 情報処理センターの利用について（演習室の使い方など）	
第6回	協働の喜びを知る 学科行事，大学行事などを通じて他の人と協働することを学ぶ	
第7回	自己アピール 他の人に自分を知ってもらえるような，アピールの方法について	
第8回	外部講師による特別講義 学科との縁のある外部の方をお招きし，講義していただく	
第9回	先生方を知る それぞれの専門分野や意外な側面も知れるかも	
第10回	環境を考える 現代社会において欠くことのできない環境問題について学ぶ	
第11回	危機管理を考える 自分の身を守るために，様々な危機について学び，その対処法について考える	
第12回	健康管理について やりたいことも健康あってこそ	
第13回	働くことの意味 単にお金儲け，ではなく自分の存在価値を見出す	
第14回	人権について 基本的人権やLGBTなどについて考える	
第15回	大学で学ぶことの意義 学ぶとはどういうことか，それを大学でとは問う言う意味であるか考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。
レポート	50	期末にレポート課題を課す。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本科目の性質上，時間を変更して行う場合もあるので，各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。
授業外学修	毎回の授業で得た知識を学生生活において意識し，可能な限り活用する。 以上のことに，毎週４時間以上の授業外学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし 入学当初のガイダンスには，【学生便覧・授業概要】を持参すること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	大学生として学ぶ姿勢を身につけているかどうか	卒業後の進路までを考慮に入れて能動的に学ぶ姿勢を身につけている	卒業後の進路までを考慮に入れて学ぶ姿勢を身につけている	大学生として学ぶ姿勢を身につけている	大学生として学ぶ姿勢を身につけているが受身的である	大学生としての学ぶ姿勢が身についていない

科目名	韓国語			授業番号	SA181	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		
教員	宋 娘沃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を置い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，韓国の大学生活，エンターテインメント，社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。 ・簡単な韓国語の読み書きができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作られたのかをハングルの由来，歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学習する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学習する。	
第4回	激音と濃音，パッチム 基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。	
第5回	韓国語の助詞・動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞の仕組みについて学習する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在，過去，みらいはどのように表現されているのかを学習する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて学習する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 指示代名詞を事例の文章から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形や尊敬語 韓国語の丁寧形や尊敬語を具体例から学び，理解する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みをから短い表現を理解する。	
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を学習する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学との近い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活・食文化や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の音楽と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，予習をやって来ること。 ・課題を充実に行うこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	978-4-8163-5558-5	1,600円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している	韓国語の必要性をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している	韓国語は理解しているが、具体的な知識が十分でない	あまり外国語に対して興味を持たない
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	韓国語の文字体系を理解しようとしていない	外国語や他の国のことを理解していない
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない	韓国のこと、韓国語にあまり関心が少ない
思考・問題解決能力	1．今日のグローバル社会において外国語を通じて他文化が理解できる	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	韓国の社会や経済に関心があり、韓国語の基礎が十分にできている	韓国語の会話や発音の体系が理解できている	他の国のことはあまり興味が少なく、語学にも理解度をあまり持っていない	外国語や他の国のことを理解していない
思考・問題解決能力	2．外国語を学んでグローバルな視野が広げられる	他の文化に対する理解力を培うことができる	韓国語だけではなく、韓国の社会問題にも興味を持っている	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解し、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
思考・問題解決能力	3．言葉の違いがあっても、他国の人々と共同社会を模索できる姿勢を持つことができる	韓国のことを言葉を通じてまず修得している	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	なぜ語学を勉強する意味があるのが認識できていない	他の国と日本との関わりに関心がなく、語学の必要性が理解できていない
技能	1．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる	韓国語の基礎が出来ており、自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が出来ている	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
技能	2．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる	韓国語の基礎知識は十分に備え、自ら進んで韓国の文化を勉強している	韓国語の基礎知識を備えられ、その国のことまで把握できる	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	外国語を修得し、1つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない
技能	3．外国語や海外の人や文化を通じて自国のことや自分のことを再考すること	韓国語の学習が十分にでき、今日のグローバル社会が理解できる	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる	韓国語の基礎知識が勉強でき、他の語学にも興味を持つことが可能になる	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し、勉強しようかという認識ができていない
態度	1．韓国語を学ぶ本来の意味は何かを考えられる	語学を学ぶ目的は何かを考えられる	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が十分に理解でき、その国のことに関心が高まっている出来ている	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない側面がある	韓国語の発音の体系や会話の基礎が理解できていない
態度	2．日本と韓国の両方を比較し、長所、短所が発見できる	語学勉強を通じて他の国に対する認識が変化している	韓国語の学習を通して、日本と韓国の差異や共通点が発見できている	韓国語の基礎知識を通じて、日本と韓国の共通点が把握できる	語学を学ぶ目的が明確ではなく、外国に関する関心度もあまり見られない	外国の文化や言葉に興味が少なく、韓国語の基礎を理解していない
態度	3．最も近くの国である韓国語の勉強を通じて韓国への再認識ができる	韓国語を学ぶ意味は何かが考えられ、韓国社会を再認識することができている	韓国語の会話や発音体系が理解できて、韓国の社会に関しても勉強しようとしている	韓国語だけではなく、韓国の大学や文化にも興味を持っている	現在、外国語の学習や韓国語の学習がなぜ必要なのかがあまり理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない

科目名	中国語			授業番号	SA183	サブタイトル	(発音記号，基本文型，会話，短文)		
教員	畑木 亦梅								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また，外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい，一緒に探し当てていく。								
到達目標	既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	テキスト第一課 発音(1) 単母音，声調，子音，軽声，特殊母音 (課題提出 テキスト第一課分P9-10)，	
第2回	テキスト第二課 発音(2) 重母音，鼻母音，声調の記号のつけ方	
第3回	発音の復習，知っておいて便利な言葉 (課題提出 テキスト第二課分P13-14)	
第4回	テキスト第三課 名詞文「…是…(…は…です)」について(肯定文，否定文，疑問文)；副詞「也，都(も)」について，強化トレーニング (課題提出 テキスト第三課分P19-20)	
第5回	テキスト第四課 指示代名詞，存在文「有…(…あります/います)」について，「ちょっと…する」の言い方，強化トレーニング (課題提出 テキスト第四課分P25-27)	
第6回	テキスト第五課 動詞文，動作の継起，願望文「想…(…したい)」について，強化トレーニング (課題提出 テキスト第五課分P33-34)	
第7回	テキスト第六課 動作・行為の完了，形容詞文について，比較，起点などの表し方，強化トレーニング (課題提出 テキスト第六課分P39-40)	
第8回	テキスト第七課 動作の進行，いろいろな「在」の使い方，数字・日付の言い方，強化トレーニング (課題提出 テキスト第七課分P45-46)	
第9回	テキスト第八課 過去の経験の表しかた，東京ディズニーランドに行ったことがありますか？ 強化トレーニング (課題提出 テキスト第八課分P51-52)	
第10回	テキスト第九課 皆さんはお元気ですか 強化トレーニング (課題提出 テキスト第九課分P57-58)	
第11回	テキスト第十課 休みの日はどのように過ごしますか？ 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十課分P63-64)	
第12回	テキスト第十一課 納豆は食べますか？ 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十一課分P69-70)	
第13回	テキスト第十二課 私について(1) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十二課分P75-77)	
第14回	テキスト第十三課 私について(2) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十三課分P81-82)	
第15回	復習，おさらい，定期試験に向けて	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
筆記試験	100	発音記号、語彙、文法の定着を確認するため、それぞれの区分から約6・2・2の点数配分で出題

評価の方法：自由記載	授業への取り組みの姿勢／態度／課題の完成度が評価対象になります。
受講の心得	予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。 毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており，遅刻せず声を出して練習すること。
授業外学修	1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。 2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認すること。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストについては教務課より別途指示

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	プリント配布，学習内容に合わせて中国事情を紹介。 プリントを入れる為のA4サイズのポケット式ファイル(20ポケットほど)を用意すること。 初回からプリントの配布があり，その後の授業にも使う予定。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高等学校での中国語授業
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通訳，翻訳の経験を活かし，学生自身の母国語の日本語について考えてもらい，より言語に関心を持ってもらうよう指導する。また，中国語授業の経験を活かし，学生と共に各々にあっての言語の修得方法を指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．語彙の使用法	幅広い語彙を会話の中で正確かつ効果的に活用できる	語彙の使用の多様性を示しすが、時折不正確である	基本的な語彙は概ね理解しているが、表現の種類は限られている	語彙の範囲が狭く、単語の選択に苦労する	最小限の語彙しか使用せず、コミュニケーション効果を妨げている
知識・理解	2．文法	文法規則をしっかりと理解し、それらをスピーチなどで正確に適用している	一般的に正しい文法を使用し、理解を妨げない程度の軽微な誤りがある	文法の誤りが目立ち、文の構造と明瞭さにかける	基本的な文法の概念に苦労し、比較的ミスが多い	文法規則の理解が乏しい
思考・問題解決能力	1．異文化理解	会話で中国文化の知識と理解を示す	文化的なニュアンスを意識し、文化的要素を適切に取り入れる	文化的な側面について思考しているが、精度は限られている	中国文化の知識がほとんどなく、文化的参照が不足している	中国の文化的側面に対する理解や配慮を示さない
技能	1．言語能力	正確な発音と基本的な言語構造の理解により、完全な文章で話すことができる	発音に多少の誤りはあるが、基本的な考え方を効果的に伝えることができる	基本的な語彙やフレーズを使って話そうとするが、発音の間違いが目立つ	まとまりのある文章を作るのに苦労し、語彙の使用が限られ、発音の間違いが頻繁にある	断片的に話し、発音が悪く、基本的な言語概念の理解が最小限である
技能	2．コミュニケーションスキル	趣味や興味に関する基本的な会話ができ、中国語で効果的なコミュニケーションがとれる	中国語の簡単なアイデアや興味をサポート付きで伝えることができる	基本的な会話を試みるが、アイデアを明確に表現するのに苦労することがある	会話への参加が最小限で、語彙の使用が限られており、コミュニケーションが不明瞭である	会話ができず、語彙力やコミュニケーション能力が不足している
態度	1．態度とエンゲージメント	発音練習に積極的に取り組み、中国語学習に熱意を示す	発音練習に参加し、中国語学習に興味を示す	発音の練習にやや熱心で、中国語の学習に対して中立的な態度を示す	発音の練習に消極的で、中国語学習への関心が限られている	発音練習や中国語学習に興味や努力を示さない
態度	2．ピアコラボレーション	言語の練習で仲間と積極的に参加し、他の人の学習をサポートしている	言語活動で仲間と協力し、支援する意欲を示している	グループワークには参加するが、仲間との積極的な関わりに欠けている	仲間とのコラボレーションに消極的であり、グループ活動への貢献は最小限である	孤立して働き、語学練習で仲間と関わらない

科目名	日本語表現			授業番号	SA211	サブタイトル	(音声言語と文章表現)		
教員	太田 憲孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，「文章表現」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	身の周りにある様々な日本語表現 「身の周りにある日本語表現を探したり分類したりすることを通して、日本語表現に対して関心をもつ」	
第2回	乳幼児の日本語獲得（１） 「満１歳頃までに行われる「クーイング」「視線」「指さし」などの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」	
第3回	乳幼児の日本語獲得（２） 「意味を伴う音声による表現の獲得に向けて、その過程や特徴等について理解する。」	
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ（１） 「絵本を取り上げ、乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」	
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ（２） 「読み聞かせの場面を取り上げ、「絵本モンタージュ」の仕組みや「母親の語り掛け」の働きについて理解する。」	
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し、「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」	
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し、読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」	
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し、作者の想を表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」	
第9回	身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 「身の周りにある広告の表現を分析し、読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第10回	身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 「身の周りにある「取り扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し、読者を説得しようとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」	
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し、読者にイメージをもたらす文学的表現の工夫を理解する。」	
第13回	言葉を味わう詩的表現 詩を読み味わい、「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」	
第14回	読者の「予測」を利用した読み物（１） 怪談の表現や仕掛けを分析し、「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」	
第15回	読者の予測を利用した読み物（２） ショート・ショート等の表現や仕掛けを分析し、「予測→タメ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」	
授業計画 備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，話し合い活動への参加を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し、学習の深まりを確認できるようにする。
小テスト	50	学習内容のまとまりごとにその定着度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配付資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	1．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。 2．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭、中学校教諭、教育委員会主任指導主事、岐阜大学教育学部附属中学校文部教官
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	絵本，物語や説明的文章等の表現分析

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文章のジャンルにあわせて、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、多様な視点から日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を見つけることはできるが、そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を見つけることが難しい。
知識・理解	2．様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について、 日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
思考・問題解決能力	1．日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している	・日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に関心をもって追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における様々な特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することが難しい。
技能	1．文章のジャンルに合せて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえ、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけること不十分である。

科目名	芸術			授業番号	SA212	サブタイトル	(音楽)		
教員	河田 健二								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	音楽の様々な要素を取り出し，紹介する。音楽とは切っても切り離せないキリスト教との関わり合いや，器楽・声楽の各分野について学修する。また，実際に声を出して歌唱をする。								
到達目標	音楽について深く理解し，また人前で堂々と歌唱できるようになることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	キリスト教と音楽１ キリスト教音楽成立以前の音楽	
第2回	キリスト教と音楽２ キリスト教成立～中世の音楽	
第3回	キリスト教と音楽３ 宗教改革～古典派の時代	
第4回	キリスト教と音楽４ ロマン派から近・現代	
第5回	歌曲について１（発声法を含む） 大きな声を出してみよう	
第6回	歌曲について２（歌唱の方法について） 音の高低のコントロールと響きについて	
第7回	オペラへの誘い１ オペラの成立と発展について	
第8回	オペラへの誘い２ 他の舞台芸術とオペラとの比較	
第9回	オペラへの誘い３ 実際の作品の鑑賞と解説	
第10回	器楽の魅力１ 弦楽器について，独奏曲とアンサンブル	
第11回	器楽の魅力２ 独奏楽器としてのピアノ・オルガン	
第12回	器楽の魅力３ オーケストラの成立と発展	
第13回	器楽の魅力４ 電子の力・電気の力による音楽について	
第14回	音楽の現在，そしてこれから 現在音楽というものがどのような立ち位置にあるのか，また今後について考える	
第15回	歌唱発表会 各受講者の選んだ楽曲を歌唱する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への積極的な参加，熱心な受講態度を評価する。
レポート	50	与えられたテーマに対して自分の考えを表現できていることを評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	40	上手下手ではなく，歌唱に対する真剣な取り組み方について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	幅広く音楽に興味を持つこと。決してある特定の分野のみに偏らないよう注意すること。
授業外学修	予習は必ずしも必要ではないが，学習した内容が定着するように各回の内容を自分の言葉で再定義すること。また，歌曲の回については実際に声を出すので，要領をつかめるまで各自で反復練習をすること。また，最終回では受講生全員の前で歌っていただくので，そのための準備を怠らないこと。以上の内容を週４時間程度行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しないが，必要な文献については各回プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．キリスト教と音楽の関わりについての理解	キリスト教と音楽の関わりについて完全に理解している	キリスト教と音楽の関わりについてほぼ理解している	キリスト教と音楽の関わりについて大まかにに理解している	キリスト教と音楽の関わりについてあまり理解していない	キリスト教と音楽の関わりについてほぼ理解していない
知識・理解	２．各分野の音楽についての理解	各分野の音楽について完全に理解している	各分野の音楽についてほぼ理解している	各分野の音楽について大まかに理解している	各分野の音楽についてあまり理解していない	各分野の音楽についてほぼ理解していない
知識・理解	３．発声・歌唱についての理解	発声・歌唱について完全に理解している	発声・歌唱についてほぼ理解している	発声・歌唱について大まかに理解している	発声・歌唱についてあまり理解していない	発声・歌唱についてほぼ理解していない

科目名	法学概論			授業番号	SA221	サブタイトル	(学生のための法律)		
教員	藤原 健補 他								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	弁護士による学生のための法律の授業である。身近な問題を通じて、法によって権利・義務が発生することを理解し、法を使うことのできる社会人となってもらうために行う。授業の中で、裁判手続きを深めるために、実際に裁判を傍聴してもらう予定である（その関係で授業計画が変更することがあるが、その場合は事前に知らせるものとする）。								
到達目標	受講により、大学生の身の回りで起こる問題について、法的問題として深く考える法的思考を養成し、社会人となったときにも役立つ法的知識を修得している。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	法学の総論。法律とは何か、なぜ法律を学ぶのかについて考える。	馬場 幸三 弁護士
第2回	日常生活で発生しうるお金のトラブルを知り、日常生活の中での気をつけるべき点を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ１	谷口 怜司 弁護士
第3回	日常生活において特に身近な事象（インターネットの利用や居室の賃借等）に関する諸問題を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ２及び３	馬場 幸三 弁護士
第4回	交通事故に遭遇した場合の3つの責任（民事責任・刑事責任・行政責任）等について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ６	谷口 怜司 弁護士
第5回	旅行トラブルと就職活動でのトラブルに対する対処法について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ５，ＵＮＩＴⅡ ＳＴＡＧＥ２	山本 愛子 弁護士
第6回	働くとはなにか。アルバイトや正社員などの労働契約の成立から終了までを学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅡ ＳＴＡＧＥ１	山本 愛子 弁護士
第7回	交際相手等とのトラブルについての知識，対処法を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴＩ ＳＴＡＧＥ４	髙瀬 鈴香 弁護士
第8回	大学・授業でのトラブルとサークルでのトラブルについて、気をつけるべき点を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅢ ＳＴＡＧＥ１及び２	福田 力希斗 弁護士
第9回	刑事裁判手続き（裁判員裁判、被害者参加を含む）の流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅣ	玉井 康太郎 弁護士
第10回	裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅣ	福田 力希斗 弁護士 玉井 康太郎 弁護士
第11回	裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅣ	福田 力希斗 弁護士 玉井 康太郎 弁護士
第12回	民事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。【裁判傍聴予備日】	福田 力希斗 弁護士
第13回	刑事裁判における検察及び弁護士の役割及びその理念、目標を学ぶ。 テキスト ＵＮＩＴⅣ	藤原 健補 弁護士
第14回	我が国の民法における家族関係の規律のなかから、親子、相続について学ぶ。	髙瀬 鈴香 弁護士
第15回	我が国の民法における家族関係の規律のなかから、夫婦（婚姻、離婚）について学ぶ。	玉井 康太郎 弁護士
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加等によって評価する。
レポート	50	レポート内容、提出期限・最低字数の厳守等によって評価する。 レポートについては、課題提出後の授業で全体的な傾向等についてコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業時の携帯電話等の使用は禁止する。
授業外学修	(1)予習として、テキストの内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにしておくこと。 (2)予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。 (3)日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。 以上(1)～(3)を、週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
学生のための法律ハンドブック	近江幸治・広中俊一郎　編著	成文堂	978-4-7923-0631-1	1800円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	弁護士(藤原健補33年),弁護士(馬場幸三15年),弁護士(谷口怜司13年),弁護士(山本愛子13年),弁護士(髙瀬鈴香3年),弁護士(福田力希斗1年),弁護士(玉井康太郎1年未満)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	法律事務所に勤務する弁護士が、実際の事例や相談内容を踏まえた講義を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	各授業のテーマに関わる法律の基本的な内容を理解している。	学習した法律に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した法律に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる	学習した法律に関する知識について、概ね述べることができる。	学習した法律に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した法律に関する知識について、理解が乏しく自分の言葉で表現することができない。
態度	授業に積極的に参加できる。	自ら発言し、疑問を解決するなど授業に積極的に臨む姿勢が見受けられる。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられる。	授業に出席し、授業内容を理解しようとしている。	授業に出席しているが、授業内容を理解しようとする態度が不十分である。	授業に出席しているが、授業内容を理解しようとする意欲が感じられない。

科目名	経済学			授業番号	SA222	サブタイトル	(経済の見方)		
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	テレビのニュースや新聞では貿易や為替などの状況が頻繁に取り上げられている。このような報道は，一見私たちの普段の生活に無縁なものと思われがちである。しかしながら，これらの動きは物価や賃金に影響を及ぼし，私たちの生活に密着した経済現象として考えることができる。 また，経済活動の重要な役割を担う企業及び家計は，その活動が経済全体に大きな影響を及ぼすものであり，社会生活においても重要なアクターとしてとらえることができる。この点，企業や家計の活動をコントロールする経済政策は私たちにとって身近な問題として捉える必要がある。 本講義では，基本的な経済理論を学びつつ，消費者行動，企業活動及び経済政策が私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考えることとする。								
到達目標	テレビや新聞のニュース等の経済動向が理解できるようになるだけでなく，経済現象は様々な要因で現れるということを理解したうえで，実生活において経済学的な思考ができるようになるようにする。 本講義は上級ビジネス実務士資格取得のための選択科目であり，特に企業活動・経済政策と経済現象の関連を理解し，新聞・ニュース等の経済情勢の影響等を自ら判断できるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	経済学とは 経済学とは，何を対象とし，どのような分析等をする分野であるか，理解する。	
第2回	ミクロ経済学の考え方 経済学は大きく二つの分野に分かれ，その一つがミクロ経済学であり，何を対象とし，どのように分析するのかを理解する。	
第3回	家計の行動 本分野での主な役割を担う家計について，その活動を理解する。	
第4回	企業の行動 本分野での一方の役割を担う企業活動について理解する。	
第5回	政府の役割 ミクロ経済学では主要な役割は持たないが，富の分配に不均衡が生じるとき政府が是正するということを学ぶ。	
第6回	需要と供給 家計の行動と企業の活動の相違を理解し，価格が決定するメカニズムを理解する。	
第7回	不完全競争市場（独占・寡占） 政府が富の分配を正すという内容を理解する。	
第8回	不完全競争下での企業の行動 企業活動を説明するゲーム理論について理解する。	
第9回	マクロ経済学の考え方 マクロ経済学の対象とするものと分析について概要を学ぶ。	
第10回	国民所得 マクロ経済学における主要な分析方法について学ぶ。	
第11回	貨幣の役割 マクロ経済学における主要な分析方法について学ぶ。	
第12回	国民所得のコントロール GDPの考え方について学ぶ。	
第13回	長期の経済とは マクロ経済学とミクロ経済学の考え方の違いを学ぶ。	
第14回	失業 本分野の主要な指標である失業率について学ぶ。	
第15回	経済政策と企業活動 政策と企業活動について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，復習の状況により判断する。
レポート		
小テスト	20	単元ごとの理解度を評価する。 出題目的に即した解答内容であることが求められ，小テストの都度全体的な傾向等についてコメントをする。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。 出題目的に即した解答内容であることが求められ，最終課題提出後，全体的な傾向等についてコメントをする。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習は特に必要ない。事後学習（復習）については必ず行い，講義で得た知識を実際の経済現象に照らし考えてみるという姿勢を実践すること。
授業外学修	授業において説明する経済学の基本的考え方は経済理論の基礎となるものである。また，経済理論はそれだけにとどまらずさらに発展的に展開し，別の理論とも深く関わる。従って，必ず復習し理解したうえで，後の講義を受講するよう心がけること。 講義で得た知識をもとに，新聞・テレビ等で経済に関するニュース等を閲覧し，その経済現象はどのような経済理論が適用できるか考えること。 週当たりの授業外学習時間（予習・復習等）4時間

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配布し，使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	978-4-04-601168-8	1500
図解大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	978-4-04-601754-3	925
大学4年間の経済学がマンガでざっと学べる	井堀利宏，カツヤマケイコ	KADOKAWA	978-4-04-601720-8	1200

参考書：自由記載	参考図書については，必要の都度講義中に周知する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	国際通信経済研究所（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ミクロ経済学の理論を理解できている	ミクロ経済学の発展的な考え方が十分理解できる	ミクロ経済学の発展的な考え方が理解できる	ミクロ経済学の基本的な考え方は理解できている	基本的な経済理論の考え方の理解が不十分である	基本的なミクロ経済学の考え方が理解できていない
知識・理解	2．マクロ経済学の理論を理解できている	マクロ経済学の発展的な考え方が十分理解できる	マクロ経済学の発展的な考え方が理解できる	マクロ経済学の基本的な考え方は理解できている	基本的な経済理論の考え方の理解が不十分である	基本的なマクロ経済学の考え方が理解できていない
知識・理解	3．ミクロ経済学とマクロ経済学の相違点を理解できている	両分野の相違点が十分理解できる	両分野の相違点が理解できる	両分野の基本的な相違点が理解できる	両分野の基本的な相違点が十分に理解できていない	両分野の基本的な相違点が理解できていない
思考・問題解決能力	1．経済現象を理解できている	経済政策を評価することができる	経済ニュース等を十分理解できる	経済ニュース等を理解できる	経済ニュース等を十分に理解できていない	経済ニュース等を理解できていない
態度	1．授業に積極的に参加できる	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	社会福祉概論			授業番号	SA223	サブタイトル	広義の社会福祉とは何かについて明らかにする。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	社会福祉は，私たちの生活問題を対象としているのでその概念は広い。そのため，社会福祉の本質を理解しようと思えば，歴史的変遷や思想，制度，政策を見ていく必要がある。加えて，社会福祉は実践学問であるので自然科学や人文科学・社会科学との関連についても学習をすることが肝要である。また，対人援助技術が現場では問われるのでソーシャルワークの概念についても言及しなければならない。 本講義では，福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックスをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。授業形式としては，講義，ビデオ視聴を主とする。また，最近の新聞等を教材にディスカッションできる機会を設定したいと考えている。								
到達目標	・社会福祉実践能力を修得し説明できる。 ・社会福祉の幅広い知識と教養を修得し，説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会福祉とは（社会福祉の本質を中心に）のポイントを抑える。 社会福祉の概念、理念について学ぶ。	
第2回	社会福祉の視点（社会福祉の役割を中心に）のポイントを抑える。 現在の少子高齢化と社会福祉の関係を学ぶ。	
第3回	社会福祉の動向（1980年代から今日までの福祉政策を中心に）のポイント 1980年代から現在までの社会福祉の動向を概観する。を抑える。	
第4回	社会福祉の発展（英国，日本の社会福祉の歴史を中心に）のポイントを抑える。 イギリスの社会福祉の沿革、わが国の社会福祉の沿革について学ぶ。	
第5回	社会福祉の法制と機構（厚生労働省，地方自治体の社会福祉行政を中心に）のポイントを抑える。 社会福祉の行政、財政の現状と課題について学ぶ。	
第6回	社会福祉従事者（福祉マンパワーの課題を中心に）のポイントを抑える。 社会福祉専門職の資格の特徴と課題について学ぶ。	
第7回	社会福祉施設（社会福祉施設の概要と課題を中心に）のポイントを抑える。 社会福祉施設の概要と課題について学ぶ。	
第8回	低所得福祉（生活保護制度の意義，種類を中心に）のポイントを抑える。 「生活保護法」、「生活困窮者自立支援法」の概要と課題について学ぶ。	
第9回	高齢者福祉（高齢者に関する福祉サービスを中心に）のポイントを抑える。 年金、医療、介護の制度の概要と課題について学ぶ。	
第10回	障害者福祉（障害の概念と障害者の実態を中心に）のポイントを抑える。 障害の概念と「障害者総合支援法」の概要と課題について学ぶ。	
第11回	児童家庭福祉（児童福祉の歴史と理念，制度を中心に）のポイントを抑える。 「児童福祉法」、「児童福祉関連法」の概要と課題について学ぶ。	
第12回	医療福祉（医療，保健，福祉の連携を中心に）のポイントを抑える。 医療、保健、福祉の連携と課題について概観する。	
第13回	地域福祉（地域を支える機関や人々を中心に）のポイントを抑える。 地域福祉の概念、理念、現状と課題について学ぶ。	
第14回	社会福祉援助技術（対人援助技術を中心に）のポイントを抑える。 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等の社会福祉の方法について学ぶ。	
第15回	社会福祉の展望と課題のポイントを抑える。 社会福祉のこれからとこれまで学んだ社会福祉の総括を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めます。 ・予習と授業中の積極的参加を求めます。 ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 本講義では，週4時間程度の授業外学習が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新編社会福祉概論	今井慶宗他	大学教育出版	978-4-86692-190-7	2200円
NIE社会福祉演習	今井慶宗ほか	大学教育出版	978-4-86692-247-8	2400円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において，随時紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を「高齢者福祉」，「障害者福祉」に活かす。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会福祉制度を理解する。	社会福祉制度をすべて理解できる。	社会福祉制度を概ね理解できる。	社会福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	1．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。

科目名	時事問題			授業番号	SA224	サブタイトル	(現代日本及び世界を取り巻く諸問題)		
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	日々流れるニュースの中で，地球温暖化，大気・水等の汚染，森林減少，砂漠化などの問題が多く取り上げられている。これら現代の多くの環境問題は，私たち現代の人間がその原因をつくり，最終的に私たちの生活に影響を及ぼしているものである。これら諸問題は容易に解決するものではなく，後世のために，現在の環境問題を少しでも改善していく必要性がある。また，現代においては，環境問題は一国における問題というよりも，現在においては経済のグローバル化により，地球規模での影響が問題となっている。本講義ではこれらの環境問題，現代日本と取り巻く諸問題について，最新のデータ等をもとに，その現状を説明し，改善のためにとるべき対策について受講者と共に考える。また，重要な事件などが発生した場合は，本授業計画にないものであっても講義の対象として学生の皆さんと考えてみたい。								
到達目標	様々な環境問題，日本の現状について，基礎知識を修得し，理解することができるようになること。また，環境問題・日本の抱える諸問題に関する時事ニュースについて関心を持ち，自分の考えを言えるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	環境問題とは 現在における環境問題は，単純に特定の地域だけにとどまらず，地球規模的な範囲となっていることを理解する。	
第2回	人間と環境 人類の起源から現代までの環境の変化をとらえ，人間の活動が環境に与える影響を理解する。	
第3回	地球温暖化 地球温暖化の原因と時系列的変化を学ぶ。	
第4回	温暖化と対策 地球温暖化の対策と現状について理解する。。	
第5回	原子力発電 原子力発電のメカニズムとその歴史を理解し，合わせて原子力発電と地球温暖化の関係を考える。	
第6回	空気の汚染 空気の汚染とその原因を学び，人体に及ぼす影響を考える。また，その対策を考える。	
第7回	水と汚染 川や湖沼の水の汚染とその原因を学び，その対策を考える。	
第8回	土壌と地下水の汚染 土壌と地下水の汚染の状況を学ぶ。また，土壌の役割を理解する。	
第9回	森と生物多様性 森林，特に熱帯林における生物多様性を学ぶ。	
第10回	森林減少と砂漠化 砂漠化は森林減少と同時に語られることが多い。本講義では，森林減少と日本の木材消費の関係を学び，生物多様性を日本の関係を理解する。	
第11回	ゴミと資源 世界中で破棄されているゴミが地球に及ぼす影響を理解し，またゴミの減量とリサイクルについて考える。	
第12回	食品と安全性 日本の食料自給率と食料資源の状況を学ぶ。また，食品添加物と人体に及ぼす影響についても考察する。	
第13回	アレルギーとその原因 アレルギー患者の増加とアレルゲンについて学び，その対策を考える。	
第14回	紛争と戦争 世界中で発生している紛争・戦争は環境破壊の原因である。本講義では，紛争等による環境への影響を理解する。	
第15回	地球にやさしい社会 環境問題に対する日本での法的・行政での取り組みの概要と私たちの活動について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度，予習，復習の状態によって評価する。
レポート	20	単元毎に小レポートを実施し理解度を評価する。
小テスト		
定期試験	65	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	項目ごとの評価の割合は変更することがある。
受講の心得	1．日頃より環境問題，政治・経済に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。 2．授業態度は，礼儀正しい態度で臨むこと。
授業外学修	1．予習として，授業ごとに該当する項目を熟読し，疑問点を明らかにしておく。 2．復習として，授業で学んだことを教科書を見て再度学修しておく。 3．授業で紹介した事例を新聞・インターネット等で確認する。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
地球環境問題がよくわかる本 改訂版	浦野紘平・浦野真弥	オーム社	978-4-274-23001-1	1800
使用テキスト：自由記載	必要に応じ，授業に際しプリントを配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
地球環境の教科書	九里徳泰，左巻健男，平山明彦	東京書籍	9784487808311	2100
参考書：自由記載	必要の都度，随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日本における環境問題を理解できる	日本の環境問題の対策を十分理解できる	日本の環境問題の因果関係を理解できる	日本の環境問題の基本的なことを理解できる	日本の環境問題の基本的なことを十分に理解できでいない	日本の環境問題の基本的なことを理解できでいない
知識・理解	2．世界における環境問題を理解できる	世界の環境問題の対策を十分理解できる	世界の環境問題の因果関係を理解できる	世界の環境問題の基本的なことを理解できる	世界の環境問題の基本的なことを十分に理解できでいない	世界の環境問題の基本的なことを理解できでいない
思考・問題解決能力	1．日本の環境対策を評価できる	日本の評価することができる	日本の環境問題に関するニュース等を十分理解できる	日本の環境問題に関するニュース等を理解できる	日本の環境問題に関するニュース等を十分に理解できていない	日本の環境問題に関するニュース等を理解できていない
思考・問題解決能力	2．世界の環境対策を評価できる	世界の評価することができる	世界の環境問題に関するニュース等を十分理解できる	世界の環境問題に関するニュース等を理解できる	世界の環境問題に関するニュース等を十分に理解できていない	世界の環境問題に関するニュース等を理解できていない
態度	1．授業に積極的に参加できる	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	遊びの中の数学			授業番号	SA231	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	数学を抽象的なレベルでの理解のみでなく，具体的な事象や操作から数学的な規則を理解使用とすることも重要である．本授業では，遊びやゲームとして世の中で確立している話題を用いて，操作的活動を通じて数学の規則や概念を学習する．								
到達目標	１）遊びやゲーム等の具体的な話題の中に潜む数学的な考え方や規則を理解する． ２）問題解決の方法がもつ意外性について評価する． ３）手作業を含めた操作的活動により解決方法の理解を深める． なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	玉は何回跳ね返るか "ビリヤード"の台をモデルとした碁盤目状の長方形で，球を４５度の角度で打ち出して，跳ね返りながらスミの穴に落ちるまでの跳ね返る回数を考える．シンプルな最終解が出るまでの理論的な説明の流れのおもしろさを解説する．	
第2回	２枚の正方形：くるくるピタッ！ ２枚の正方形の紙をずらした状態で重ねて，どこか１点にピンをたてて回転させると２枚がぴったり重なる方法を考える．解法の各ステップを理論的に考えることで，興味ある特徴が見えてくることを解説する．	
第3回	・サイコロの不思議 碁盤目状の枠にはまるサイズのサイコロを，前後左右に倒しながら，指定した位置に指定した番号の目を出す方法を考える．単純な最終解へ到達するまでの解決過程を議論する． ・一本道をつくろう マトリックス状に並んだブロックをあるルールに沿って"一筆書き"的な動きを試みる．すべてのブロックを通過できるか否かを決める要因は何かを考察し，そこから見えてくる一般的な性質を説明する．	
第4回	本当はいくら 連立方程式の応用問題として，ガソリンと軽油の本当の値段を未知数として，数人の購入者のデータをもとにガソリンと軽油の本当の値段を調べようとする話題に取り組む．解法を考える中で，連立方程式と１次関数のグラフとの対応を考えて，本当の値に近づく工夫とは何かを解説する．	
第5回	正方形を集めて正方形を作ろう 大小さまざまな正方形を敷き詰めていきながら全体として１つの正方形となるようにする方法を考える．正攻法的な方法・根拠を理論的に解説した上で，特殊な方法による結果等と比較する．	
第6回	倍数を裏返しにしていくと何が見えるかな １から３０までの数を書いたカードを並べ，２の倍数を裏返し，次に３の倍数を裏返し，・・・と続けることで最終的にどの番号カードが表向き(裏向き)になるかを実際に確かめる．結果を確認した上で，そのようになる理由を理論的に解説する．	
第7回	正方形から長方形へ作り替えよう 方眼紙上で作られた正方形をあるルールでタテ・ヨコ・斜めに切断して並べ替えて長方形を組み立てる試みをする．わずかな隙間が生じるが，そのことをいろいろなサイズの正方形で考えると，「フィボナッチ数」が見えてくるという話を解説する．	
第8回	円のスキマに円を ２つの同じ大きさの円のスキマに小さい円をはめる，さらにその時生じたスキマに小さい円をはめる，という仕事を繰り返すことで作られた大小の円の水平位置はどのようになるかという課題を考える．結果的に得られたシンプルな関係式のおもしろさを説明する．	
第9回	分数は美しい？ 方眼紙上で作られた長方形からあるルールで正方形を切り取っていくという仕事が「連分数」表現と対応することを解説する．さらに無理数を連分数表現すると極めて特殊な特徴が見られることを説明する．	
第10回	あなたの知らない因数分解 中学校・高校レベルの通常教育では学習しないスタイルの因数分解の方法を紹介する．各ステップのおもしろさを見せるとともに，２次多項式を２次関数とみなしてグラフ表示してみるとその特徴に関係性が見えてくることも解説する．	
第11回	長方形から正方形を取り出そう 方眼紙上で作られた長方形からあるルールで正方形を切り取っていく．各ステップで同じ大きさが何個切り取られるかの情報が「ユークリッドの互除法」と対応することを解説する．	
第12回	油分け算 目盛りのない容器３つを用いて，容器内の油から指定した数値の量を取り出す（古典的な）話題に取り組む．複雑な手順を図的表現で容易に解決する方法を紹介してその根拠を解説する．	
第13回	一人消えた トリックの分野で有名な，紙を動かす（円盤を回転させる）と「人が１人消えて見える」話題である．このトリックが上手くできる図の配置を考えることで，数学的な規則が見えてくることを解説する．	
第14回	トリックカード 第７回の「正方形から長方形へ作り替えよう」と本質は共通する話題であるが，こちらは，長方形の切断位置が異なっていて，その結果"単位正方形"１個分が余ってしまう現象を生み出すことを示す．最終的に，そのような現象をうまくつくるためには切断の際の長さをどうするかが重要であることを解説する．	
第15回	モエッスナーの数 １から順に整数を並べ，その中から２の倍数を除外する．残った整数の値を累加していくと何が見えてくるかを具体的操作で確認する．次に３の倍数を除外するとどうなるか等を順に操作で確認することで見えてくる法則性を解説する．	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する
レポート	60	レポート課題への取り組み状況を評価する
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	遊びレベルの活動の中にも数学的内容が見えることを知ってもらいたい.
授業外学修	1）特定の予習は必要としないが，授業で用いた用語や概念については必要に応じて復習する. 2）必要に応じて課題に取り組むこと.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特定のテキストは使用しない．必要に応じてプリントを配布する.

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．数式と具体的場面の対応付けができるか	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
知識・理解	2．帰納的・演繹的な考え方ができるか	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
知識・理解	3．計算領域・図形領域の基礎的知識があるか	十分ある	かなりある	平均的にある	部分的にある	不十分である
思考・問題解決能力	1．教師から提示される解法を理解できる	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	2．解法手順の見通しをもつことができる	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
思考・問題解決能力	3．問題内容がもつ法則に気づくことができる	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
技能	1．各問題に特有な計算技能があるか	十分ある	かなりある	平均的にある	部分的にある	不十分である
技能	2．基本的な図形の作図ができるか	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
技能	3．計算と図形の双方が関係する話題を理解できるか	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
態度	1．未知の解法に対して興味をもつことができるか	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
態度	2．複合領域的な課題に柔軟に取り組むことができるか	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
態度	3．数学の楽しさ・おもしろさを感じようとすることができるか	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない

科目名	体育実技			授業番号	SA241	サブタイトル	(スポーツに親しもう)		
教員	梶谷 信之								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第2回	バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第3回	バスケットボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第4回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第5回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第6回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第8回	バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） ペアを組み，リーグ戦方式でゲームをします。	
第10回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第11回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第12回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第13回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第14回	卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを行います。	
第15回	卓球III（ゲームの展開） ペアを組み，リーグ戦方式でゲームをします。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは，その時その場で行う。
レポート		
小テスト	40	各競技ごとに試合を実施する。 フィードバックは，その時その場で行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。
授業外学修	・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ルールを細かく理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ほぼ基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解しているが、基本的なルールの理解が十分ではない。	運動の大切さや、ルールを理解できていない。
技能	１．運動技能が優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身についていない。

科目名	英語A			授業番号	SA282	サブタイトル	(英語で岡山を楽しみながら学ぼう)		
教員	藤代 昇丈								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	1-1-1 New Year's Day 英語の５文型の確認及び疑問文、進行形について理解する。 大晦日から新年を迎える際の会話表現やことわざを理解する。 吉備津神社への初詣について知る。	
第2回	1-1-2 Welcome to Okayama 過去時制の確認及び不定詞について理解する。 空港で留学生を出迎える際の会話表現を理解する。 岡山空港や海外との時差について知る。	
第3回	1-1-3 Okayama City 現在完了形の使い方について理解する。 「～してはどうか」と提案する際の会話表現を理解する。 貸出自転車「ももちゃり」について知る。	
第4回	1-1-4 At Korakuen 付加疑問文の作り方について理解する。 one, the other, some, others, the othersの用法と目的語に動名詞しかとらない動詞を理解する。 岡山市内の貸出自転車「ももちゃり」について知る。	
第5回	1-2-1 Hofukuji and Sesshu 能動態と受動態の確認と使い方について理解する。 付帯状況with＋目的語＋～ingの用法を理解する。 宝福寺の雪舟の物語について知る。	
第6回	1-2-2 Kibiji District 他人を案内する際の指し示し方について理解する。 think of A as Bの意味と用法を理解する。 吉備路と国分寺について知る。	
第7回	1-2-3 At Shin-Kurashiki Station 助動詞mustと関係副詞の非制限用法について理解する。 否定の疑問文とその受け答え方を理解する。 吉備路と国分寺について知る。	
第8回	1-2-4 Ohara Museum of Art 過去の受動態と感嘆文の作り方について理解する。 第５文型の受動態を理解する。 倉敷美観地区と大原美術館について知る。	
第9回	1-3-1 Hiruzen Heights及び到達度テスト 関係代名詞の使い方について理解する。 as far as ～canの表現と用法を理解する。 蒜山高原について知る。	
第10回	1-3-2 A Trip to Inujima asの使い方について理解する。 「～しましょう」と誘う際の表現を理解する。 瀬戸内海の犬島と精錬所の歴史について知る。	
第11回	1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine may have 過去分詞の使い方について理解する。 Can you do me a favor?という表現を理解する。 瀬戸内海の犬島と精錬所の歴史について知る。	
第12回	1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum 関係副詞whereと付帯のwithの使い方について理解する。 「～時代」についての表現を理解する。 竹久夢二と夢二郷土美術館について知る。	
第13回	1-3-5 Yunogo Hot Springs 動名詞や仮主語と真主語について理解する。 Howを用いた簡単表現を理解する。 湯郷温泉について知る。	
第14回	2-1-1 At Suzuki's House 1 過去分詞の前方照応について理解する。 日本文化を紹介する際の表現を理解する。 日本と海外の文化の違いについて知る。	
第15回	2-1-2 At Suzuki's House 2 及び到達度テスト how to～を用いた表現について理解する。 日本文化を紹介する際の表現を理解する。 日本と海外の文化の違いについて知る。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂新版 岡山から“ハロー”	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	978-4881977590	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)・県総合教育センター(４年)・県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。	テキストでテーマとなっている岡山の文化や観光名所について理解し，自ら調べ，英文で紹介したり，発表することができる。	テキストでテーマとなっている岡山の文化や観光名所について理解し，まとめることができる。	テキストでテーマとなっている岡山の文化や観光名所について，講義を通して関心をもって議論することができる。	テキストの英文の内容の理解にとどまり，テーマとなっている岡山の文化や観光名所について自ら知ろうとしない。	テキストの英文内容のみならず，テーマとなっている岡山の文化や観光名所について，全く関心を持たない。

科目名	秘書学			授業番号	SB111	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	秘書という職種に限らず，上司を補佐することは社会人の重要な仕事の一つである。秘書業務を通して社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能について学ぶ。テキストやDVD教材を用いて接遇の視覚的な学修にも重点を置く。2年生後期の「接遇演習」を履修する学生は，本科目の単位取得と成績が履修条件になる。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。 ・医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎知識を理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ビジネスマナーの基礎（1）：社会人としての服装，身だしなみ，挨拶，言葉づかいについて理解する。	
第2回	ビジネスマナーの基礎（2）：社会人としての電話，社内，訪問先，接客におけるマナーについて理解する。	
第3回	秘書業務の基本：秘書業務に携わる時の心構え，秘書業務の内容と進め方について理解する。	
第4回	秘書に必要とされる資質（1）：後輩の指導，秘書の仕事の限界，秘書の高度な判断力，企業機密，秘書のパーソナリティー，秘書業務に携わる時の心構えについて理解する。	
第5回	秘書に必要とされる資質（2）：上司の指示の受け方，秘書の身だしなみ，業務の引き継ぎ，心遣い，必要な能力と資質について理解する。	
第6回	職務知識：補佐機能の本質，上司の出張，不意の客の対応，予約のある客の対応について理解する。	
第7回	接遇表現，話し方・電話応対の実際：好感を与える話し方，信頼される電話応対，尊敬語，謙譲語，言葉づかいについて理解する。	
第8回	秘書のマナー・接遇：席次，来客応対，弔辞のマナーと上書き，慶事などの上書きと贈答マナーについて理解する。	
第9回	秘書の技能（1）：宛名，書類の分類方法，弔事，敬称，時候の挨拶，ビジネス文書の慣用句，年齢について秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第10回	秘書の技能（2）：社交文書，尊敬語と謙譲語，表書きについて秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第11回	秘書の技能（3）：敬語，接遇，社内文書，慣用句，上書き，社外文書，グラフ作成について秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第12回	医療機関を事例にした接遇（1）：あいさつ，表情，態度，身だしなみ，言葉づかいの事例を見て接遇について理解する。	
第13回	医療機関を事例にした接遇（2）：電話応対，受付応対等の事例を見て接遇について理解する。	
第14回	医療機関を事例にした接遇（3）：感じの良い態度や表情，心配りを示す言葉づかいの事例を見て接遇について理解する。	
第15回	医療機関を事例にした接遇（4）：クレームへの対応等の事例を見て接遇について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	試験は持込不可である。
受講の心得	仕事をする上でのビジネスマナー，接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶，行動を心がけること。一般事務，営業・販売，サービス，医療事務等で就職を考えている学生は，参考になる事例が多い。秘書検定に関心のある学生は，6月，11月，2月に行われる秘書検定3級，2級の試験対策でもあることを意識する。すでに秘書検定2級に合格している学生は，知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず，就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。
授業外学修	1. テキスト，講義資料を読み，問題を復習する。 2. 会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白いほど受かる本	佐藤 一明	KADOKAWA/中経出版	978-4046041029	1，400 + 税
使用テキスト：自由記載	講義資料			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	秘書検定2級実問題集（実務技能検定協会） 秘書検定準1級実問題集（実務技能検定協会） マンガでわかる秘書検定2級直前対策（トレンドプロ） 秘書業務入門（DVD：日本経済新聞出版社） 秘書検定準1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会） 秘書検定1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会） 病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21） 医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関での患者・来客応対，電話応対等の接遇経験，上司や医師から指示を受けて業務をしてきた経験をもとに、社会人としてのビジネスマナーを理解できるように授業を展開する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において大変よく知識が身に付けている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において十分な知識が身に付いている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識が身に付いている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識が不十分である。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識がない。
知識・理解	2. 医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎知識を理解する。	来客応対，電話応対の基礎知識を大変よく理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識においてだいたいの流れは十分理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識において，理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識において，理解が不十分である。	来客応対，電話応対の基礎知識において，応対の流れを理解できていない。

科目名	プレゼンテーション概論			授業番号	SB121	サブタイトル			
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	昨今，商談，会議等の場において自ら主張を行い，効果的かつ効率的に相手を説得することが求められている。 このような場面において，効果的かつ効率的なプレゼンスを行うための技法として，プレゼンテーションの技術が着目されているところである。 本講義では，まずプレゼンテーションの目的を明らかにし，その活用の場を紹介する。さらに，プレゼンテーションの多様な技法を紹介し，その基本的考え方や技法の使い方を学んでいく。また，必要に応じて簡単なプレゼンテーションを実践することで，知識の定着を図る。								
到達目標	講義全体を通して，プレゼンテーションの意義，目的，手法等プレゼンテーションの基本的な考え方を理解する。また，プレゼンテーションのシチュエーションに応じた効果的な方法を選択・実践するための基本的な知識を身につけることを目標とする。 また，本科目はプレゼンテーション実務士の資格認定を受けるための必修科目であり，実務的レベルの知識を習得するものとする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	プレゼンテーションの重要性 プレゼンテーションはなぜ注目されているか，その理由を理解する。また，プレゼンテーションの技術を活用した事例を理解する。	
第2回	プレゼンテーションの計画 プレゼンテーションを実施する前に何を健闘するべきであるかを学ぶ。	
第3回	プレゼンテーションの構成 プレゼンテーションは効果的に説得する技術であり，そのために内容を選択する重要性を学ぶ。	
第4回	プレゼンテーションの内容と展開 取捨選択した内容をどのような順番で展開するのが効果的であるかを学ぶ。	
第5回	準備 プレゼンテーションを実施する前にすべき，プレゼンテーションの相手の情報収集，会場の状況を調査すること等の重要性を学ぶ。	
第6回	リハーサルとリスクマネジメント 主にリハーサルに関する重要性を学ぶ。また，思わぬアクシデント等のリスクに対する心構え等を学ぶ。	
第7回	プレゼンターの役割 プレゼンテーションの成否は，内容，技術，及びプレゼンターである。 本講義では，プレゼンターの重要性について学ぶ。	
第8回	プレゼンターの説得力とは プレゼンターの重要性を理解したうえで，説得力のあるプレゼンターとはどのような人物であり，スキルを備えたものであるかを理解する。	
第9回	視覚化と効果 プレゼンテーションの重要な要素である内容に関し，訴求効果の大きい視覚化とはどのようなものであり，その効果を理解する。	
第10回	視覚化の方法 視覚化はスライドだけでなく，多様な方法があり，それぞれ効果が特徴があることを理解する。	
第11回	視覚化と文字情報 視覚化に関しては，図表をイメージすることが多いが，文字についても視覚化の要素が必要であることを理解する。	
第12回	話す技術 本講義では，プレゼンターの話す技術に関し，多様な方法があることとそれぞれの内容について理解する。	
第13回	専門性と専門用語 プレゼンテーションにおける説得力は，専門性に裏付けされる。一方，専門性はその専門分野に関与していない人にとってみれば難解なものとなる。このような相反する問題に関し，どのように対応するのかを学ぶ。	
第14回	聞き手に対する配慮 プレゼンテーションの対象となる人は興味の範囲や理解度が異なる。また，時間経過とともに注意力が散漫になることがある。このような場合，聞き手に対してどのような対応をするのか，その方法を学ぶ。	
第15回	ツールの利用 プレゼンテーションにおいてはスライド以外に多様なツールを活用することでより効果を高めることができる。本講義では，いろいろなツールとその特徴を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	質問や授業参加による意欲的な受講態度により判断する。
レポート	30	基本的に，講義ごとにその日の学んだ内容の報告を提出する。
定期試験	40	プレゼンテーションに関する総合的な理解度を評価する。 出題目的に即した提出内容であることが求められ，課題提出後全体的な傾向等についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	不明点等があれば積極的に質問し，理解を深めるような態度で授業に臨むこと。
授業外学修	事前学習については特に要しない。ただし，各回の講義に関し，それぞれ関連性があることが多いことから，講義終了後学んだ知識を確認し，十分な事後学習を行い，次回以降の講義に備えておくこと。 週当たりの授業外学習時間は(予習・復習等)4時間以上とする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に定めず，適宜資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
プレゼンテーションの教科書	脇山真治	日経BP	978-4-8222-6496-3	2800

参考書：自由記載	参考図書については，必要の都度，講義中に周知する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	情報通信業
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	顧客対応，企画提案等の経験をフィードバックし，授業内容の理解を深める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．プレゼンテーションの目的について理解している	プレゼンテーションの目的を十分に理解している	プレゼンテーションの目的の基本的な部分を十分に理解している	プレゼンテーションの目的の基本的な部分を理解している	プレゼンテーションの目的の基本的な部分を十分に理解していない	プレゼンテーションの目的の基本的な部分を理解していない
知識・理解	2．プレゼンテーションを形成する要素について理解している	プレゼンテーションの要素を十分に理解している	プレゼンテーションの基本的な要素を十分に理解している	プレゼンテーションの基本的な要素を理解している	プレゼンテーションの基本的な要素を十分に理解していない	プレゼンテーションの基本的な要素を理解していない
知識・理解	3．プレゼンテーションの技法について理解している	多様なプレゼンテーションの技術を理解している	プレゼンテーションの技術を十分に理解している	プレゼンテーションの技術を理解している	プレゼンテーションの技術を十分に理解していない	プレゼンテーションの技術を理解していない
思考・問題解決能力	1．プレゼンテーションを計画できる	プレゼンテーションの計画が十分にできる	基本的なプレゼンテーションの計画が十分にできる	基本的なプレゼンテーションの計画ができる	基本的なプレゼンテーションの計画が十分にできない	基本的なプレゼンテーションの計画ができない
思考・問題解決能力	2．プレゼンテーションの技術を場面に応じて考えられる	多様な場面に応じたプレゼンテーションの技術を考えられる	基本的な場面でのプレゼンテーションの技術を十分に考えられる	基本的な場面でのプレゼンテーションの技術を考えられる	基本的な場面でのプレゼンテーションの技術を十分に考えられない	基本的な場面でのプレゼンテーションの技術を考えられない
態度	1．授業に積極的に参加できる	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	ビジネス実務A			授業番号	SB211	サブタイトル			
教員	倉田 致知								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	挨拶，ビジネス文章，などを含みビジネスの基本は本当に幅広い。社会人・職業人として必要な知識と問題解決力を理解しつつ，即戦力となれるよう本講義では実務において必要な知識と問題解決力を身につける。								
到達目標	「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義において、受講者は下記の修得が目指される。 ＊用語を正しく理解した上で、ビジネス文章におけるポイントを適切に説明できる。 ＊データを、適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を適切に読み取り、解説できる。 ＊企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	キャリアとキャリア開発、仕事の基本となる8つの意識、ビジネス文書の種類(社外文書,社内文書,社交文書など）、メールの書き方、文の成分と書き方、話し言葉と書き言葉の相違、など。	
第2回	社外文章①：構成（前付け、本文、後付け）ならびに前文、主文、末文、別記事項、追伸における書き方と頻繁に使用される語句、など。	
第3回	社外文章②：構成（前付け、本文、後付け）ならびに前文、主文、末文、別記事項、追伸における書き方と頻繁に使用される語句、など。	
第4回	見積書、納品書、請求書、領収書、インボイス、収入印紙、目論見書、督促状と催促状、内容証明郵便、などの用途と仕様。①	
第5回	見積書、納品書、請求書、領収書、インボイス、収入印紙、目論見書、督促状と催促状、内容証明郵便、などの用途と仕様。②	
第6回	社内文章：種類、レイアウト、宛先、稟議書、などにおける用途と仕様。ならびに社交文書：慶弔状、お礼状、感謝状、挨拶状、などの書き方と頻繁に使用される語句。①	
第7回	社内文章：種類、レイアウト、宛先、稟議書、などにおける用途と仕様。ならびに社交文書：慶弔状、お礼状、感謝状、挨拶状、などの書き方と頻繁に使用される語句。②	
第8回	葉書、往復葉書、封書(和封筒、洋封筒）封緘、封蝋、などの用途、書き方、語句。親展と信書の意味。①	
第9回	葉書、往復葉書、封書(和封筒、洋封筒）封緘、封蝋、などの用途、書き方、語句。親展と信書の意味。②	
第10回	経済・経営における「略記」と「カタカナ」の氾濫①：国際連合絡みの略記、経済圏,連携,協力,協定,などに関する略記、景気,経済状況,指標,基準,標準に関する略記、などの意味と英語表記。ならびに新聞やビジネス誌などで登場する「カタカナ」の専門用語と英語表記。	
第11回	経済・経営における「略記」と「カタカナ」の氾濫②：国際連合絡みの略記、経済圏,連携,協力,協定,などに関する略記、景気,経済状況,指標,基準,標準に関する略記、などの意味と英語表記。ならびに新聞やビジネス誌などで登場する「カタカナ」の専門用語と英語表記。	
第12回	経済・経営における「略記」と「カタカナ」の氾濫③：国際連合絡みの略記、経済圏,連携,協力,協定,などに関する略記、景気,経済状況,指標,基準,標準に関する略記、などの意味と英語表記。ならびに新聞やビジネス誌などで登場する「カタカナ」の専門用語と英語表記。	
第13回	ビジネスにおいて必要とされる「可視化」と「見える化」、図表の見方、資料の読み取り、など。①	
第14回	ビジネスにおいて必要とされる「可視化」と「見える化」、図表の見方、資料の読み取り、など。②	
第15回	就職活動において求められる企業研究、プレエントリー、筆記試験、履歴書、エントリーシート、面接、内定後の対応、などにおける注意点。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
レポート		
小テスト	40	単元ごとに小テストを行い，主要なポイントの理解を評価する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）教科書を読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて教科書のどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団監修『2023年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター, 2023年。 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団監修『2023年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式試験問題集』日本能率協会マネジメントセンター,2023年。 日本能率協会マネジメントセンター (編集)『やさしい・かんたん ビジネス文書』日本能率協会マネジメントセンター,2023年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．用語を正しく理解した上で、ビジネス文章におけるポイントを適切に説明できる。	用語を正しく理解した上で、ビジネス文章におけるポイントを適切に説明できる。	用語を正しく理解した上で、ビジネス文章におけるポイントを概ね適切に説明できる。	用語の理解度は高くはないが、ビジネス文章におけるポイントを概ね適切に説明できる。	用語の理解度は高くはないが、ビジネス文章における必要最低限のポイントを概ね適切に説明できる。	用語が読めない、理解できていない。
知識・理解	２．データを、適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を適切に読み取り、解説できる。	データを、適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を適切に読み取り、解説できる。	データを、適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を概ね適切に読み取り、解説できる。	データを、概ね適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を概ね適切に読み取り、解説できる。	他者に聞きながらならば、データを、概ね適切に立式化したり、計算したりすることがで、ならびに図表や資料を概ね適切に読み取り、解説できる。	立式化や計算ができない。あるいは図表や資料の読み取りが全くできない。
知識・理解	３．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	１．企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に問題点や解決を語っている。
態度	1．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	ビジネス実務B			授業番号	SB212	サブタイトル			
教員	倉田 致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	企業の役割や責任と権限などを理解するとともに、効率的な業務の進め方、問題解決のための基本的なコミュニケーション、情報活用の実践知識 、などを学ぶ。								
到達目標	＊専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。 ＊データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。 ＊企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	成員の構成と多様な働き方①：正規社員と非正規社員、裁量労働制、派遣、ダイバーシティー、裁量労働制、これからの時代のキャリアマネジメント、など。	
第2回	成員の構成と多様な働き方②：正規社員と非正規社員、裁量労働制、派遣、ダイバーシティー、裁量労働制、これからの時代のキャリアマネジメント、など。	
第3回	重視される指標・意識や仕事の流れ①：8つの意識、5S、QCD、PQCDSME、ＺＤ運動、ECRS、PDCA、コンプライアンス、など。	
第4回	重視される指標・意識や仕事の流れ②：8つの意識、5S、QCD、PQCDSME、ＺＤ運動、ECRS、PDCA、コンプライアンス、など。	
第5回	消費者や顧客への対応①：顧客の創造、顧客満足、リピーター、アクティブリスニング、グッドマンの法則、応酬話法、コンサルティングセールスあるいは提案営業、など。	
第6回	消費者や顧客への対応②：顧客の創造、顧客満足、リピーター、アクティブリスニング、グッドマンの法則、応酬話法、コンサルティングセールスあるいは提案営業、など。	
第7回	着想とそのモデル化あるいは形式知化①：暗黙知と形式知の相違、アンケートの手法、仮説構築の重要性、ブレインストーミング、マインドマップ、マンダラート発想法、スキャンパー法、など。	
第8回	着想とそのモデル化あるいは形式知化②：暗黙知と形式知の相違、アンケートの手法、仮説構築の重要性、ブレインストーミング、マインドマップ、マンダラート発想法、スキャンパー法、など。	
第9回	データの分析と可視化や見える化①：平均値、最頻値、中央値、グラフの見方、QC７つ道具、新QC7つ道具、相関分析、回帰分析、因子分析、など。	
第10回	データの分析と可視化や見える化②：平均値、最頻値、中央値、グラフの見方、QC７つ道具、新QC7つ道具、相関分析、回帰分析、因子分析、など。	
第11回	データの分析と可視化や見える化③：平均値、最頻値、中央値、グラフの見方、QC７つ道具、新QC7つ道具、相関分析、回帰分析、因子分析、など。	
第12回	チームワークと人のネットワーク①：小集団における社会構造の発現,維持,影響,変動のプロセス、協業、フリーライダー、コンフリクト、内部監視、インフォーマル組織、コミュニケーションと階層構造、など。	
第13回	チームワークと人のネットワーク②：小集団における社会構造の発現,維持,影響,変動のプロセス、協業、フリーライダー、コンフリクト、内部監視、インフォーマル組織、コミュニケーションと階層構造、など。	
第14回	ビジネスと法律①：法定労働時間、法定休日、法定外休日、36協定、法定時間外労働、健康保険、介護保険、厚生年金保険、労災保険、雇用保険、所得税、住民税、など。	
第15回	ビジネスと法律②：法定労働時間、法定休日、法定外休日、36協定、法定時間外労働、健康保険、介護保険、厚生年金保険、労災保険、雇用保険、所得税、住民税、など。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
レポート	30	構成，内容の妥当性や価憑性、書き方、誤字脱字の度合、データ収集力、などの観点から評価する。なお、レポートへの評価はユニバから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。講義内容の正しい把握ができているかを確認する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 (監修)「キャリア教育財団ビジネス能力検定ジョブパス２級公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター,2024年。 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 (監修)「ビジネス能力検定ジョブパス２級公式試験問題集」日本能率協会マネジメントセンター,2023年。 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 (監修)「改訂版 ビジネス能力検定ジョブパス1級公式試験問題集」日本能率協会マネジメントセンター,2022年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。	専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。	専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を概ね適切に作成できる。	用語の理解度は高くはないが、企画書や報告書を概ね適切に作成できる。	用語の理解度は高くはないが、企画書や報告書を概ね適切に作成できる。	用語が読めない、理解できていない。企画書や報告書を作成しない。
知識・理解	２．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	１．企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に問題点や解決を語っている。
技能	１．データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。	データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。	データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を概ね適切に説明できる。	分析結果を適切に説明しているとは言えないが、データ分析と可視化はできている。	分析結果を適切に説明しているとは言えないが、データ分析と可視化は他者に聞きながらではあるができている。	データ分析や可視化を行っていない。
態度	１．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	実践学修の学び方			授業番号	SB213	サブタイトル			
教員	倉田 致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	学んだ知識・技術等を活かして社会に参画したり、直面する様々な課題を主体的に解決したりすることが求められる。本授業では、学んだ知識・技術等を活かしつつ、またさらに身につけつつ、問題解決力や問題発見力を伸ばす課題解決型学習が行われる。								
到達目標	＊専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。 ＊組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。 ＊基礎的なPCのアプリケーションを手順書無しで使用できるだけでなく、操作等が分からない人へも教えることができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	実践学修とは教室や書籍で学べる「形式知」と，今はまだうまくは伝えられないがあなたが知っている「暗黙知」、の違いと両者の重要性を理解する。また、基礎的なPCのアプリケーションの操作を復習する。①	
第2回	実践学修とは教室や書籍で学べる「形式知」と，今はまだうまくは伝えられないがあなたが知っている「暗黙知」、の違いと両者の重要性を理解する。また、基礎的なPCのアプリケーションの操作を復習する。②	
第3回	課題・問題発見の重要性とその仕方①：多面的かつ論理的にポイントを整理する。ならびに問題あるいは解決について仮説を立てる。	
第4回	課題・問題発見の重要性とその仕方②：多面的かつ論理的にポイントを整理する。ならびに問題あるいは解決について仮説を立てる。	
第5回	課題・問題発見の重要性とその仕方③：多面的かつ論理的にポイントを整理する。ならびに問題あるいは解決について仮説を立てる。	
第6回	データや情報の収集の仕方①：必要なデータ、ならびにどうやって収集するかを考える。比較や対照の仕方、相互関係や因果関係の捉え方や説明の仕方を理解する。	
第7回	データや情報の収集の仕方②：必要なデータ、ならびにどうやって収集するかを考える。比較や対照の仕方、相互関係や因果関係の捉え方や説明の仕方を理解する。	
第8回	データ分析と可視化の仕方①： 分析し、その結果を確認する。見方や用語の意味を理解する。	
第9回	データ分析と可視化の仕方②： 分析し、その結果を確認する。見方や用語の意味を理解する。	
第10回	データ分析と可視化の仕方③： 分析し、その結果を確認する。見方や用語の意味を理解する。	
第11回	報告書、企画書、提案書の作成の仕方①：書き方や仕様を覚え、分析結果や限界について文章で表す。	
第12回	報告書、企画書、提案書の作成の仕方②：書き方や仕様を覚え、分析結果や限界について文章で表す。	
第13回	報告書、企画書、提案書の作成の仕方③：書き方や仕様を覚え、分析結果や限界について文章で表す。	
第14回	評価と修正①：他者からの指摘を参考にして修正を行う。	
第15回	評価と修正②：他者からの指摘を参考にして修正を行う。ならびに学外の公募やコンテストについて紹介する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
レポート	30	構成，内容の妥当性や信憑性、書き方、誤字脱字の度合、データ収集力、などの観点から評価する。 評価においては、他の学生による評価も含める場合がある。なお、レポートへの評価はユニバから確認できる。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実践学習の現場では，与えられたことを与えられた通りにするだけでは気づきを得られない。教員は学生をサポートするが，学びを深めていくのは学生自身の能動的な行動に委ねられる。本授業は実践の場あるいは社会に出る前段階の学びであるが，学生たち自身が自分たちで準備し，考えて行動することを期待する。
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）「課題研究による提案」においては，情報収集・資料作成など必要な準備を行う。 4）発展として，自ら課題を見つけてスキルを向上させる。 以上の内容に対して，毎週4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配布する。教科書の指定はないが，実践学修に関する内容について自主的に知見を広めてほしい。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。	専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。	専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を概ね適切に作成できる。	用語の理解度は高くはないが、企画書や報告書を概ね適切に作成できる。	用語の理解度は高くはないが、企画書や報告書を概ね適切に作成できる。	用語が読めない、理解できていない。企画書や報告書を作成しない。
思考・問題解決能力	1．組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	組織において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に問題点や解決を語っている。
技能	1．データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。	データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。	データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を概ね適切に説明できる。	分析結果を適切に説明しているとは言えないが、データ分析と可視化はできている。	分析結果を適切に説明しているとは言えないが、データ分析と可視化は他者に聞きながらではあるができている。	データ分析や可視化を行っていない。
技能	2．基礎的なPCのアプリケーションを手順書無しで使用できるだけでなく、操作等が分からない人へも教えることができる。	基礎的なPCのアプリケーションを手順書無しで使用できるだけでなく、操作等が分からない人へも教えることができる。	操作等が分からない人へ助言することは無いが、基礎的なPCのアプリケーションを手順書無しで使用できる。	手順書を時折見ながらならば、基礎的なPCのアプリケーションを使用できる。	手順書を見ながら、且つ他者へ確認しながらならば、基礎的なPCのアプリケーションを何とか使用できる。	手順書を見ることもなく、誰かに聞いてばかりいる。あるいは、操作を覚えようと姿勢が欠けている。
態度	1．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	インターンシップ			授業番号	SB215	サブタイトル			
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	就業体験を通して，社会人としての心構え，社会常識，ビジネスマナーなどを身に付け，現代社会における経済活動や企業の仕組みについての理解を深める。								
到達目標	約40時間の就業体験を実施し，その体験を通して，職業人意識の向上や企業への理解を深めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第１回　インターンシップの考え方 第２回　ビジネスマナー１ 第３回　ビジネスマナー２ 第４回　職業心理 第５回　企業研究 第６回～25回　職業体験実習 第26回　プレゼンテーションの方法 第27回　実習報告１（グループまたは個別に相互報告・プレゼンテーションを行う） 第28回　実習報告２ 第29回　仕事の意味と目的 第30回　まとめ								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。
レポート	70	インターンシップ報告書の提出を行う。 インターンシップの目的に即した提出内容であり，提出の都度当該活動等についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	提出された報告書ならびに本科目履修者参加の報告会における発表をもって最終的に評価を行う。
受講の心得	
授業外学修	インターンシップにより体験した内容を，日々の生活や就職活動に活用し，実践する。 以上の内容に，毎週1時間以上の授業外学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは指定しない。授業の中で適宜資料を配布する。 また，参考図書については授業の中で紹介する予定である。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公務員(労働局）（5年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会人と学生との違いを理解している	社会人として生きる意味を理解している	社会人として生きる意味を凡そ理解している	社会人として生きる意味を基本的な部分では理解している	社会人として生きる意味をあまり理解していない	社会人として生きる意味を理解していない
知識・理解	2．ビジネスマナーの知識がある	ビジネスマナーを理解している	ビジネスマナーをほぼ理解している	基本的なビジネスマナーを理解している	基本的なビジネスマナーを理解が十分ではない	基本的なビジネスマナーを理解していない
思考・問題解決能力	1．企業活動の意味を理解できる	企業活動の意味を理解している	企業活動の意味をほぼ理解している	企業活動の意味を基本的な部分では理解している	企業活動の意味の理解が不十分である	企業活動の意味が理解できていない
思考・問題解決能力	2．自分に合った仕事・企業を探すことができる	自分の適性を考慮して仕事・企業を探すことができる	自分の適性を考慮して仕事・企業をほぼ探すことができる	自分の従事したい仕事・企業の条件を理解している	自分の従事したい仕事・企業と自分の能力・適性を適合させるのが困難である	自分の従事したい仕事・企業と自分の能力・適性を適合させるのができない
技能	1．他者とのコミュニケーションが取れる	他者とコミュニケーションをとることができる	ほぼ他者とコミュニケーションをとることができる	基本的な部分では他者とコミュニケーションをとることができる	他者とコミュニケーションを十分にとることができない	基本的な部分でも他者とコミュニケーションをとることができない
態度	1．授業に積極的に参加できる	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	キャリアプランニング			授業番号	SB216	サブタイトル			
教員	河田　健二、平井　安久、五百竹　宏明、倉田　致知、板野　敬吾、古谷　俊爾、脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	就職活動のスタート時期に合わせ，情報提供と共に具体的な準備と行動について学ぶ。また本講座では，社会人として必要な常識やマナー，また人生設計を行う上で必要とされる基礎知識や能力の習得も目標とし，自分にあったキャリアプランニングができるように支援する。								
到達目標	「なりたい自分」に向け，目標を設定し，トライ＆エラーの実践から「力」をつける。 就活スイッチを入れ，「自立」と「挑戦」の気持ちを持って，行動に移す。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	キャリアプランニングの考え方 　就活スタートに向けて，就活サイトの活用とセミナー利用法	全教員
第2回	一般常識力のアップ	全教員
第3回	就職活動サイト 　主な就職活動サイト，エントリーシート記入のポイント	全教員
第4回	ハローワークの活用	全教員，外部講師
第5回	履歴書・自己紹介書	全教員
第6回	キャリア形成とは 　（1）キャリアの理論（2）自分の適性・志向を考えることの意味（3）自分の過去を振り返る	全教員
第7回	大学生活とキャリア 　（1）キャリアデザインの意味（2）キャリア形成の事例	全教員
第8回	社会性とは 　（1）なぜ社会性が必要か（2）自分に社会性はあるか（3）事例から学ぶ	全教員
第9回	コミュニケーション 　（1）社会から求められる能力（2）コミュニケーションの重要性（3）事例から学ぶ	全教員
第10回	企業が求める能力 　（1）社会人基礎力（2）仕事のやりがいの意味（3）企業でのキャリア形成	全教員
第11回	人生とキャリア 　（1）自分の強みと志向（2）自分にとってのキャリアプラン（3）学生時代の過ごし方	全教員
第12回	企業分析データの見方	全教員
第13回	働き方について考える	全教員，外部講師
第14回	面接パワーアップ(1)（個人面接）	全教員
第15回	面接パワーアップ(2)（グループ面接，グループディスカッション）	全教員
授業計画　備考2	外部講師の都合により順不同です。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，授業外学修の状況によって評価する。
レポート	60	授業で学んだ内容が理解できているか。自己のキャリアプランを真剣に考えているか。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	授業の予復習・発展学習として，以下のことを週4時間以上行うこと。 ・毎回の授業で得た知識を就職活動に活用し，実践する。 ・履歴書・就職活動サイトのエントリーシートを作成する。 ・就職支援センター主催の就職ガイダンスに参加する。 ・就職支援センターで自己分析や企業研究を行う。 ・就職活動サイト等が主催する就職活動セミナーに参加する。 ・「インターンシップ」授業とは別にインターンシップに参加する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	古谷：システムエンジニア，板野：公務員（労働局）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	ハローワーク職員他
実務経験をいかした教育内容	各々の実務経験を生かして，IT業界でのキャリアプラン，就職実務，求人情報の理解，労働者の為の法規，仕事の探し方，外部機関の活用などの内容について指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.キャリア・就職活動に関する知識を身につける。	キャリア・就職活動に関して、調査、計画を立て、自ら行動することができる。	キャリア・就職活動に関して、調査し、将来計画を立てることができる。	キャリア・就職活動に関する知識を持つことができる。	キャリア・就職活動に関して興味を持つことができる。	キャリア・就職活動に関して興味を持てない。
思考・問題解決能力	1. 課題の発見と問題解決、および成果を文書化できる。	主体的に課題の発見や解決を行え、その成果を論理的な構成で適切に文書化できる。	主体的に課題の発見や解決を行え、その成果を文書化できる。	他者からの助言・指導により課題の発見や問題解決が行え、その成果を文書化できる。	他者からの助言・指導により問題解決が行え、不十分ながらもその成果を文書化できる。	問題解決の成果を文書化することができない。
技能	1.社会の変化を感知し、学びを継続して自分のライフキャリアを考え続けることができる。	社会の変化を将来的な観点から理解し、学びを継続する課題を具体的に明確にし、自分のライフキャリアを築いていくかレポートにまとめることができる。	社会の変化を理解し、学びを継続する課題を明確にし、自分のライフキャリアを築いていくかレポートにまとめることができる。	社会の変化を理解し、学びを継続する必要性を理解し、自分のライフキャリアの方向性についてレポートにまとめることができる。	自分のライフキャリアの観点から学びを継続する必要性を説明できる。	自分のライフキャリアの観点から学びを継続する必要性を説明できない。
態度	1.他者と議論・協力・協調できる。	他者と活発に議論し、リーダーとして協力・協調しながら物事を発展させることができる。	他者と議論し、協力・協調しながら物事を発展させることができる。	他者と議論し、協力・協調しながら物事を進行することができる。	他者と協力・協調して物事を進行することができる。	他者と協力・協調して物事を進行することができない。

科目名	プレゼンテーション演習A			授業番号	SB222	サブタイトル			
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	Microsoft社製プレゼンテーションソフトPowerPointの基本操作から実務で役立つ活用法を中心に演習を行う。またプレゼンテーションを行う際の特性と留意点，魅せる資料作り等についても学習する。								
到達目標	コンピュータなどの情報機器が持つ特性を利用し，いかに効果的なプレゼンテーションを行うか，その考え方や技法の習得をめざすこととする。また，より高度で実践的な情報リテラシーの習得をめざす。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	プレゼンテーションにおけるPowerPoint プレゼンテーションを行う場合の視覚資料の重要性とその活用方法ができる。	
第2回	PowerPointの基本操作とスライドの作成 スライドのサイズの変更，ファイルの基本的なプロパティの設定，印刷設定等ができる。	
第3回	スライドショーと配布資料 スライドショーのリハーサル機能の利用，オプションの設定等ができる。 スライドの設定，配布資料の設定の変更ができる。	
第4回	スライドの挿入と変更 スライドを挿入したり，複製あるいは変更することができる。 また，スライドの順番を変更することができる。	
第5回	テキストの設定・図形の挿入 テキストの書式設定，リンクの挿入ができる。また，図形・画像を挿入し，書式の設定ができる。	
第6回	SmartArt，メディアの挿入 表・グラフを作成し，挿入することができる。また，表を加工することができる。 また，SmartArtを挿入し・書式設定ができる。	
第7回	特殊効果の設定 3Dモデルを挿入し，変更することができる。	
第8回	画面切り替え 画面切り替えを適用し，また，その効果を設定することができる。	
第9回	アニメーションの設定 アニメーションと画面切り替えのタイミングを設定することができる。	
第10回	他人の作ったプレゼンを読み解き，学ぶ テキスト等にあるサンプルに関して，これまで修得したスキルの面から評価を加えることができる。	
第11回	プレゼンテーション課題(事前調査・構成案) PowerPointによるスライド作成に際して，どのようなポイントで作成していくのか，実践を通じて身につける。	
第12回	プレゼンテーション課題(作成) 設定された課題に関して，一連のストーリーを持たせた内容をPowerPointによりスライドを作成していく。	
第13回	プレゼンテーション課題(リハーサル) 作成したプレゼンテーション資料を利用して，実際にプレゼンテーションを行う。実施結果を勘案してプレゼンテーション内容に修正を加える。	
第14回	課題発表(1) これまで作成してきたPowerPointを利用したプレゼンテーションを発表し，受講生間で相互に評価する。	
第15回	課題発表(2)とまとめ これまでの知識・スキルを活用したプレゼンテーションを実施し，受講生間で知識を共有し，まとめていく。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況
授業ごとの課題，レポートの提出	60	授業のテーマ毎及び期末に課題を課す。 出題目的に即した提出内容であることが求められ，その都度全体的な傾向等についてコメントをする。
課題の提出		
定期試験		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	情報機器の活用法を中心に扱うため，「プレゼンテーション概論」を履修していることが望ましい。また演習科目であるため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し自習しておくこと。さらに授業のみでの習得は難しいことから，授業後の復習が非常に重要である。
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
PowerPoint 365対策テキスト＆問題集		FOM出版		2，530 円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『よくわかる自信がつくプレゼンテーション』，FOM出版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．スライドの技法を活用できる	あらゆる場面に応じ適切なスライドの技術を応用できる	基本的な場面では適切なスライドの技術を十分に応用できる	基本的な場面では適切なスライドの技術を応用できる	基本的な場面では適切なスライドの技術を十分に応用できない	基本的な場面では適切なスライドの技術を応用できない
技能	1．スライドによる資料作成ができる	場面に応じた効果的なスライドの作成ができる	場面に応じたスライドの作成ができる	基本的なスライドの作成ができる	基本的なスライドの作成が十分にはできない	基本的なスライドの作成ができない
技能	2．発表の技術が修得できている	多様な場面で発表することができる	基本的な場面で発表することができる	限られた場面で発表することができる	限られた場面でうまく発表することができない	限られた場面で発表することができない
態度	1．授業に積極的に参加できる	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	医療管理事務総論			授業番号	SB231	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	医療機関の特徴，医療機関で働く職員の職種とその業務内容，医療の法律，診療報酬制度について学ぶ。現在の医療費の社会問題についても言及する。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・医療機関の特徴，医療職種と業務内容が理解できる。 ・医師法，医療法といった医療に関係する法律を理解できる。 ・医療保険制度について理解できる。 ・診療報酬制度の基礎について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医療の歴史，健康管理：医療の歴史を通して健康管理，疾病予防の基礎知識を理解する。	
第2回	病院の組織と医療スタッフ（1）：医師，看護師，コメディカルといった医療従事者の種類，業務内容を理解する。	
第3回	病院の組織と医療スタッフ（2）：医療事務，医療機関における様々な事務職員の業務内容を理解する。	
第4回	医療機関の種類：病院と診療所について，かかりつけ医制度について理解する。	
第5回	多職種連携と地域包括ケアシステム：在宅医療を例に紹介した医療職種の連携，地域包括ケアシステムについて理解する。	
第6回	医療保険制度（1）：被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった保険の種類について理解する。	
第7回	医療保険制度（2）：被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった各保険の特徴について理解する。	
第8回	公費負担医療制度：生活保護法，感染症法，精神保健福祉法，労働者災害補償保険法といった法について理解する。	
第9回	保健医療機関と保険医：保健医療を行う保健医療機関と医師，指定や登録，施設基準について理解する。	
第10回	療養担当規則：保険診療の方針と診療録作成，保健医療機関の責務について理解する。	
第11回	診療報酬請求と審査制度（1）：保険診療のしくみ，診療報酬請求と審査制度について理解する。	
第12回	診療報酬請求と審査制度（2）：診療報酬の審査制度について理解する。	
第13回	医療関連法規：医療法，医師法，保健師助産師看護師法，介護保険法について理解する。	
第14回	診療報酬制度（1）：我が国の診療報酬改定の流れ，初診料と再診料の定義について理解する。	
第15回	診療報酬制度（2）：我が国の診療報酬改定の流れ，初診料と再診料の算定の流れについて理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	医療事務職員として就職したい学生にとっては必須の知識が多い。資格試験のみならず，医療機関の就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，講義資料にある問題を復習する。 3. 医療に関わる新聞記事を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保険診療　基本法令テキストブック　医科　令和6年度版　医療保険制度の概要と関係法令	社会保険研究所	社会保険研究所	978-4-7894-0906-3	2，600円 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	マンガでわかる!医療制度・病院のしくみに学ぶ「患者トラブル」防止法(日本医療企画)　よくわかる 図解 病院の学習書（ロギカ書房）　マンガでやさしくわかる病院と医療のしくみ（日本能率協会マネジメントセンター）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.1（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.2（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.3（SCICUS）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，事務職員の役割，医療保険制度，多職種との連携することの大切さを理解できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 医療機関の特徴，医療職種と業務内容が理解できる。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容を大変よく理解している。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容を十分理解している。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容を理解している。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容の理解が不十分である。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容において理解していない。
知識・理解	2. 医師法，医療法といった医療に関係する法律を理解できる。	医師法、医療法といった医療に関係する法律を大変よく理解している。	医師法、医療法といった医療に関係する法律を十分理解している。	医師法、医療法といった医療に関係する法律を理解している。	医師法、医療法といった医療に関係する法律の理解が不十分である。	医師法、医療法といった医療に関係する法律を理解していない。
知識・理解	3. 医療保険制度について理解できる。	医療保険制度について大変よく理解している。	医療保険制度について十分理解している。	医療保険制度について理解している。	医療保険制度について理解が不十分である。	医療保険制度について理解していない。
知識・理解	4. 診療報酬制度の基礎について理解できる。	診療報酬制度の基礎について大変よく理解している。	診療報酬制度の基礎について十分理解している。	診療報酬制度の基礎について理解している。	診療報酬制度の基礎について理解が不十分である。	診療報酬制度の基礎について理解していない。

科目名	発達と老化の理解			授業番号	SB232	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，人間の発達段階に応じたこころとからだのしくみを理解する。 特に発達の観点から，人間が老化することによって起きる身機能の変化と特徴，成人期以降に発症しやすい生活習慣病をはじめとする代表的な疾患に関する医学的基礎的知識を修得する。								
到達目標	(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常生活及び高齢者の健康，医療との連携について説明できる。 (2)人間の発達の観点から成長と発達について基礎的理解を持ち，説明できる。 (3)老年期の発達課題や心理を理解し，対象者に応じた医療や介護の場で応用実践できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。 本科目は医療機関や福祉施設での就職を希望する学生への対応科目である。専門的医学知識を学び，患者や利用者の健康とQOL向上を目指すための科目だと心得てほしい。 また，本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。								

回	概要	担当
第1回	人間の成長と発達・ライフサイクルを理解する。 各期の発達課題について理解する。	
第2回	老化に伴う心理的・身体的・知的機能の変化と日常生活を理解する。 記憶・知能の変化について理解する。	
第3回	高齢期に多い症状・訴えとその留意点(1) 生理的・身体的機能の低下を理解する。	
第4回	高齢期に多い症状・訴えとその留意点(2) エイジング・慢性疾患を理解する。	
第5回	成人期に多い病気とその日常生活の留意点(1) 生活習慣病(糖尿病）の病態を理解する。	
第6回	成人期に多い病気とその日常生活の留意点(2) 生活習慣病(高血圧・脂質異常症）の病態を理解する。	
第7回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(3) 骨・関節系の病気，歯・口腔の病気を理解する。	
第8回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(4) 眼の病気，耳の病気を理解する。	
第9回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(5) 皮膚の病気，呼吸器の病気を理解する。	
第10回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(6) 腎・泌尿器の病気を理解する。	
第11回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(7) 消化器系疾患，循環器系疾患を理解する。	
第12回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(8) 神経疾患，感染症を理解する。	
第13回	第3回～12回までの各疾患に対する総合的なまとめを行う。	
第14回	保健医療チームとの連携(1) 保健医療職との連携のポイントについて理解する。	
第15回	保健医療チームとの連携(2) 保健医療職との連携のポイントについて理解・まとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式を中心として進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・高齢者問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。 ・難解な医療専門用語が講義中に多く出てきます。テキストには必ず眼を通しておいてください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解	秋山昌江ほか	中央法規出版	978-4-8058-5772-4	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 自分自身の将来のため，目的意識を持って受講するように努めてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員業務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．老化に伴うこころの変化を理解できている。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解し質問に的確に答え支援方法まで考えることができている。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解し質問に答えることができている。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解し質問に答えることができるが回答が不十分である。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を少し理解できているが、質問には答えられない。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解ができていない。
知識・理解	２．老化に伴うからだの変化を理解できている。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解し質問に的確に答え支援方法まで考えることができている。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解し質問に的確に答えることができている。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解し質問に答えることができるが回答が不十分である。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を少し理解できているが、質問には答えられない。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解ができていない。
知識・理解	３．高齢者の健康保持・促進と医療との連携について理解できている。	社会における高齢者の問題を問題意識として捉え、解決方法を考えることができ的確に述べることができている。	社会における高齢者の問題を問題意識として捉えることができ述べることができている。	社会における高齢者の問題に興味・関心を持つことができ課題を答えることができている。	社会における高齢者の問題に少しだけ興味・関心を持つことができているが明確に答えられない。	社会における高齢者の問題を全く理解できていない。
知識・理解	４．老年期の発達課題を理解することができている。	老年期の発達課題や心理を理解し，対象者に応じた個別支援内容まで明確に述べることができる。	老年期の発達課題に興味・関心を持つことができ課題や心理状態を少しだけ答えることができるが、個別支援内容までは浮かばない。	老年期の発達課題に興味・関心を持つことができ課題や心理状態を少しだけ答えることができている。	老年期の発達課題に少し興味・関心をもつことが出来ているが明確に答えられない。	老年期の発達課題が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	１．人間の成長発達の課題を見出し、説明することができている。	人間の成長発達段階、ライフステージごとの課題を理解し、その段階ごとの問題点を的確に捉えることができ、回答も明確である。	人間の成長発達段階、ライフステージごとの課題を理解し、その段階ごとの問題点をいくつか捉えることができ答えることもできているが不十分である。	人間の成長発達段階、ライフステージの意味を理解することができているが問題点の答えに答える努力をしているが不十分である。	人間の成長発達段階やライフステージの意味を理解出きていないが、曖昧だか問題点が浮かぶが答えられない。	人間の成長発達段階やライフステージの意味が全く理解できない。
思考・問題解決能力	２．老年期にある対象者に応じた介護実践を考えることができている。	老年期における対象者の状況及び出現しやすい症状や身体の変化に応じた支援内容を個別性まで考慮でき考えることができている。	老年期における対象者の状況及び出現しやすい症状や身体の変化に応じた支援内容を不十分であるが考えることができている。	老年期における対象者の状況及び出現しやすい症状や身体の変化は理解できているが支援方法までは考えつかない。	老年期における対象者の状況の理解は乏しいが出現しやすい症状や身体の変化を少しだけ理解できている。	老年期における対象者の状況や出現しやすい症状や身体の変化が全くイメージすることができていない。
態度	１．医療・福祉に関わるものとして疾患を持つ人や高齢者への対応を理解できている。	医療・福祉に関わるものとして疾患を持つ人や高齢者やその家族にも関わることができそうで、専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	医療・福祉に関わるものとして疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうであり、専門的な知識・技術をもって対応できると考えうる。	医療・福祉に関わるものとして疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうだが、専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが、一部不十分でなところもある。	医療・福祉に関わるものとし疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうではあるが、専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	医療・福祉に関わるものとして専門性を持って疾患を持つ人や高齢者への対応ができそうもない。
態度	２．介護福祉士として疾患を持つ人や高齢者への対応を理解できている。	介護福祉士として疾患を持つ人や高齢者やその家族にも関わることができそうで、専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	介護福祉士として疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうであり、専門的な知識・技術をもって対応できると考えうる。	介護福祉士として疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうだが、専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが、一部不十分でなところもある。	介護福祉士とし疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうではあるが、専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉士として専門性を持って疾患を持つ人や高齢者への対応ができそうもない。

科目名	診療報酬請求事務Ⅰ			授業番号	SB233	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務Ⅰ」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習Ⅰ」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習Ⅰ」も履修すること。								
到達目標	・診療報酬制度の仕組みが理解できる。 ・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	初診料，再診料：前期に学んだ初診料と再診料の算定方法をさらに深めて理解する。	
第2回	医学管理料，在宅医療料：医学管理と在宅医療の算定方法について理解する。	
第3回	投薬料：内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について理解する。	
第4回	注射料：筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について理解する。	
第5回	外来レセプト作成説明（1）：初診再診から注射までの診療行為のレセプト作成方法について理解する。	
第6回	検査料（1）検体検査（尿，血液）：検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について理解する。	
第7回	検査料（2）検体検査（生化学，免疫学），生体検査：生化学的検査と免疫学的検査の検体検査，心電図と超音波検査の生体検査の算定方法について理解する。	
第8回	画像診断料（1）：X-Pの画像診断の算定方法について理解する。	
第9回	画像診断料（2）：CT，MRIの画像診断の算定方法について理解する。	
第10回	外来レセプト作成説明（2）：検査，画像診断の診療行為を加えたレセプト作成方法について理解する。	
第11回	処置料，手術料：処置と手術の算定方法について理解する。	
第12回	院外処方せん：院外処方せん，一般名処方加算，特定疾患処方管理加算の算定方法ついて理解する。	
第13回	外来レセプト作成説明（3）：これまで学んだ全ての診療行為のレセプト作成方法について理解する。	
第14回	外来レセプト作成説明（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について理解する。	
第15回	外来レセプト作成説明（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
診療報酬・完全攻略マニュアル 2024-25年版	青山 美智子	医学通信社	978-4-87058-939-1	2，800円 + 税
診療報酬・完全マスタードリル 2024-25年版	内芝 修子	医学通信社	978-4-87058-942-1	1，400円 + 税
使用テキスト：自由記載	講義資料			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	診療点数早見表(医学通信社)			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬制度の仕組みが理解できる。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分で大変よく理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてだいたいの診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいて一部の診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてほとんどの診療行為区分で理解が不十分である。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分の理解ができていない。
技能	1. 診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を全診療行為区分において大変よく身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能をだいたいの診療行為区分において十分に身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を一部の診療行為区分において身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能がほとんどの診療行為区分において身に付きが不十分である。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能が全診療行為区で身に付いていない。

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅰ			授業番号	SB234	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務Ⅰ」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習Ⅰ」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務Ⅰ」も履修すること。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・診療報酬制度の仕組みが理解できる。 ・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	初診料，再診料：前期に学んだ初診料と再診料の算定方法について演習問題を解きながらさらに深めて理解する。	
第2回	医学管理料，在宅医療料：医学管理と在宅医療の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第3回	投薬料：内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について演習問題を解きながら理解する。	
第4回	注射料：筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第5回	外来レセプト作成演習（1）：初診再診から注射までの診療行為のレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
第6回	検査料（1）検体検査（尿，血液）：検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第7回	検査料（2）検体検査（生化学，免疫学），生体検査：生化学的検査と免疫学的検査の検体検査，心電図と超音波検査の生体検査の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第8回	画像診断料（1）：X-Pの画像診断の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第9回	画像診断料（2）：CT，MRIの画像診断の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第10回	外来レセプト作成演習（2）：検査，画像診断の診療行為を加えたレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
第11回	処置料，手術料：処置と手術の算定方法について演習問題を解きながら理解する。	
第12回	院外処方せん：院外処方せん，一般名処方加算，特定疾患処方管理加算の算定方法ついて演習問題を解きながら理解する。	
第13回	外来レセプト作成演習（3）：これまで学んだ全ての診療行為を加えたレセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
第14回	外来レセプト作成演習（4）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
第15回	外来レセプト作成演習（5）：診療報酬請求事務能力認定試験の外来レセプト作成方法について演習問題を解きながら理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
診療報酬・完全攻略マニュアル 2024-25年版	青山 美智子	医学通信社	978-4-87058-939-1	2，800円 + 税
診療報酬・完全マスタードリル 2024-25年版	内芝 修子	医学通信社	978-4-87058-942-1	1，400円 + 税
使用テキスト：自由記載	講義資料			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	診療点数早見表(医学通信社)			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬制度の仕組みが理解できる。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分で大変よく理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてだいたいの診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいて一部の診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてほとんどの診療行為区分で理解が不十分である。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分の理解ができていない。
技能	1. 診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を全診療行為区分において大変よく身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能をだいたいの診療行為区分において十分に身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を一部の診療行為区分において身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能がほとんどの診療行為区分において身に付きが不十分である。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能が全診療行為区で身に付いていない。

科目名	地域創生学			授業番号	SB314	サブタイトル			
教員	倉田 致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	日本は世界においても類を見ない速さで少子高齢化が進み、超少子高齢社会となった。東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした様々な地域創生への取り組みについて、その政策や具体的な事例をまじえながら，且つ地域の現状を客観的に把握しながら、地域の現状と課題について多面的に捉える。								
到達目標	＊地域創造に関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景を適切に説明できる。 ＊地域創造に関する法や政策について、そのポイント、ならびにそれらの背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊地域あるいは都市が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「地域」が意味するところ(1)：「都市」と「地域」の比較で用いられる場合の問題点や「地域」間の比較で指摘される問題点の整理、地域の「活性化」や地域「創生」に向けての話が展開されてきた背景。	
第2回	「地域」が意味するところ(2)：「都市」と「地域」の比較で用いられる場合の問題点や「地域」間の比較で指摘される問題点の整理、地域の「活性化」や地域「創生」に向けての話が展開されてきた背景。	
第3回	地方財政の把握(1)：歳入の内訳とその意味［地方税(うち法人二税)、地方譲与税(譲与金）、地方交付税(交付金)、国庫支出金、使用料・手数料、地方債、地方消費税、など］、『歳出』の内訳とその意味[義務的経費(人件費、扶助費、公債費）、投資的経費(普通建設事業費、災害復旧事業費、災害復旧事業費）、など]、収支の現状、一般会計、特別会計、など。	
第4回	地方財政の把握(2)：歳入の内訳とその意味［地方税(うち法人二税)、地方譲与税(譲与金）、地方交付税(交付金)、国庫支出金、使用料・手数料、地方債、地方消費税、など］、『歳出』の内訳とその意味[義務的経費(人件費、扶助費、公債費）、投資的経費(普通建設事業費、災害復旧事業費、災害復旧事業費）、など]、一般会計、特別会計、など。	
第5回	地方財政における収支と債務の把握(1)：実質単年度収支、債務水準、1人あたりの実質債務、財政破綻危険度、財政破綻になるとどうなるのか、アメリカにおける「地域格差」、など。	
第6回	地方財政における収支と債務の把握(2)：実質単年度収支、債務水準、1人あたりの実質債務、財政破綻危険度、財政破綻になるとどうなるのか、アメリカにおける「地域格差」、など。	
第7回	「過疎」の範疇と過疎地域に関する法(1)：持続的発展法、過疎市町村,一部過疎地域および一部過疎地域を有する一部過疎市町村,みなし過疎市町村,の相違、過疎地域における人口と年齢階層別人口構成、無医地区との関係、財政力指数、限界集落、など。	
第8回	「過疎」の範疇と過疎地域に関する法(2)：持続的発展法、過疎市町村,一部過疎地域および一部過疎地域を有する一部過疎市町村,みなし過疎市町村,の相違、過疎地域における人口と年齢階層別人口構成、無医地区との関係、財政力指数、限界集落、など。	
第9回	東京一極集中の現状(1)：ドーナツ化現象？、出稼ぎ？、東京圏の転入超過(性別・世代別）、各都道府県の転出・転入状況、東京圏における産業別の雇用者数（就業者数）の推移、他の都道府県における産業別の雇用者数（就業者数）の推移、都市の集積効果、など。	
第10回	東京一極集中の現状(2)：ドーナツ化現象？、出稼ぎ？、東京圏の転入超過(性別・世代別）、各都道府県の転出・転入状況、東京圏における産業別の雇用者数（就業者数）の推移、他の都道府県における産業別の雇用者数（就業者数）の推移、都市の集積効果、など。	
第11回	東京圏からの流出(1)：地域おこし協力隊、移住ならびに定住者数と今後の可能性、産業と都市（「産業が都市を育てる」のか、「都市が産業を育てる」のか）、Uターン・Jターン・Iターン、地方創生移住支援事業、デジタル田園都市国家構想交付金、など。	
第12回	東京圏からの流出(2)：地域おこし協力隊、移住ならびに定住者数と今後の可能性、産業と都市（「産業が都市を育てる」のか、「都市が産業を育てる」のか）、Uターン・Jターン・Iターン、地方創生移住支援事業、デジタル田園都市国家構想交付金、など。	
第13回	地域と世界、ならびに地域における起業の現状と課題(1)：地域未来投資促進法、新市場創造型標準化制度、日本政策金融公庫による支援制度、行政による支援制度、事業(創業）計画書の仕組み、地域発世界へ、など。	
第14回	地域と世界、ならびに地域における起業の現状と課題(2)：地域未来投資促進法、新市場創造型標準化制度、日本政策金融公庫による支援制度、行政による支援制度、事業(創業）計画書の仕組み、地域発世界へ、など。	
第15回	超少子社会：普通出生率、合計特殊出生率、人口ピラミッドを用いた各都道県の人口構成、少子の背景や理由、対策はあるのか？	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
レポート	30	構成，内容の妥当性や偏悪性，書き方，誤字脱字の度合，データ収集力，などの観点から評価する。なお、レポートへの評価はユニバから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	授業中に紹介する用語，概念についてインターネットから利用できる関連情報および参考文献などを参照して，理解を深める。授業中に紹介する次回の授業で取り上げる主なトピックスについて，事前に調べておく。以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業のなかで適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．地域創造に関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景を適切に説明できる。	地域創造に関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景を適切に説明できる。	地域創造に関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景を概ね適切に説明できる。	地域創造に関する学説や研究の背景については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	地域創造に関する学説や研究の背景については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	地域創造に関する学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	２．地域創造に関する法や政策について、そのポイント、ならびにそれらの背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	地域創造に関する法や政策について、そのポイント、ならびにそれらの背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	地域創造に関する法や政策について、そのポイント、ならびにそれらの背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	地域創造に関する法や政策の背景や影響あるいは限界については若干認識不足であるが、法や政策のポイントは概ね適切に説明できる。	地域創造に関する法や政策の背景や影響あるいは限界についてはほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	地域創造に関する法や政策のポイントを全く説明できない。
知識・理解	３．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	１．地域あるいは都市が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	地域あるいは都市が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	地域あるいは都市が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、地域あるいは都市が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、地域あるいは都市が直面している（直面した）問題を概ね客観的に説明できる。	地域あるいは都市において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に問題点や解決を語っている。
態度	１．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	プレゼンテーション演習B			授業番号	SB322	サブタイトル			
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	プレゼンテーション概論で学んだ理論・知識を基本とし，課題を実践することにより，修得した知識を具体的な技術として定着させる。 講義の中では，ストーリー展開やビジュアル化の方法について，プレゼンテーションを必要とする場面ごとに適切な方法を考え，効率的な伝達方法を検討してみる。また，数値データについては簡単な加工を行い，さらに分析を行うことで効果的な訴求方法を試みる。 プレゼンテーション資料の作成に関し，シチュエーションに即した表現方法・視覚化・文字表現等を踏まえ，効果的なレイアウトについても考える。 基本的な授業の進め方としては，課題ごとにプレゼンテーション資料の作成を行い，その作業の中で知識と技法を確認しながら課題を完成することで，プレゼンテーションの技術を定着させることとする。 なお，本講義は原則として，プレゼンテーション概論を履修したものを対象者とする。								
到達目標	情報伝達が必要となる様々な場面を想定し，それぞれの場面において適切かつ効果的なプレゼンテーションの技法を習得する。日常生活を含め，様々な場面に応じた適切なプレゼンテーションの技法を活用できるようになることを目標とする。 本科目はプレゼンテーション実務士資格の選択必修科目であり，最終的にビジネスの実務において基本的なコミュニケーションが図れようにすることが目標である。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	プレゼンテーションとは何か プレゼンテーションという技術を活用するとはどのようなことかを考え，その目的を理解することができる。	
第2回	自己の棚卸（タナオロシ）と自己アピールの方法 プレゼンテーションの実施前に行うことのひとつにデータ収集がある。本講義では，学生自身についての情報を集め，グループ分けする作業を行う。 このような作業を通じて，必要なデータとそれを測んするデータがあることを理解する。	
第3回	口頭による説明とそのポイント 視覚資料によらない説明方法の難しさとそのポイントを理解する。	
第4回	文字データの表現方法 文字に関する情報を視覚的に表現する方法を実践し，理解する。	
第5回	メールによるコミュニケーション方法 ビジネスではメールを利用したコミュニケーションは必須であるが，メールによる方法のポイントを理解する。	
第6回	レジュメの作成 プレゼンテーションにおいて必要な情報とは何か，取捨選択するという考え方を理解する。	
第7回	議事録の作成 会議を設定し，多くの情報の中でシンプルに情報をまとめるという作業を通じて，必要な情報とはなんであるかを学ぶ。	
第8回	報告の作成とそのポイント 多様な場面で必要となる報告に関し，相手が必要とする情報とは何であるかを学び，理解する。	
第9回	表（数値データの扱い方） プレゼンテーションにおいて視覚的資料は効果的であり，また説得力の面で数字による説明は重要である。 本講義では，表の使い方を学び，その効果を理解する。	
第10回	数値データの加工 数値に関しては，生データを提示するより加工して提示する方がより説得効果が生まれることがある。 本講義においては，数値を加工することによる説得力を理解する。	
第11回	数値の分析とビジュアル化の基礎 第11回講義で修得した数値データの加工により，数値のより深い理解を進めていく。また，ビジュアルとしてのグラフについてグラフの種類ごとに特徴を捉える。	
第12回	客観的データとプレゼンターの主観 数値は不変の客観的なものであるが，それを主観的なものとして捉えることができること理解する。	
第13回	ビジュアルを含んだ報告の作成 表やグラフというビジュアル的要素を入れた資料を作成し，より効果的なものをすることができるようになる。	
第14回	企画・提案の内容と具体例 企画・提案について，どのようなものであるかを理解し，課題・問題点を企画・提案という形にすることを学ぶ。	
第15回	パワーポイントによる表現 企画・提案をPowerPointで作成するとどのような形式になるのかを実践を通じて理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	質問や授業参加による意欲的な受講態度により判断する。
課題・レポート	60	課題を作成する場合は，説明内容に即して的確に完成していること。 出題目的に即した提出内容であることが求められ，その都度全体的な傾向等についてコメントをする。
期末課題	20	最終課題の完成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に書籍等でプレゼンテーションの概要及びその技法について確認しておくこと。事後学習（復習）については必ず行い，授業で得た知識や技術を身につけるよう心がけること。
授業外学修	プレゼンテーション概論履修者は，あらかじめ概論で学んだ内容を確認しておくこと。また，適宜プレゼンテーションに関する書籍等を講読し，知識の維持及び修得を図っておくこと。 週当たりの授業外学習時間は(予習・復習等)4時間以上をする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は使用しない。 授業においては，適宜資料を配布し使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる 自信がつくビジネス文書		FOM出版	9784893118738	1700
よくわかる 自信がつくプレゼンテーション		FOM出版	9784865103427	1800

参考書：自由記載	授業中に適宜発表する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	情報通信業，公務員(労働局)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	顧客対応，企画提案等の経験をフィードバックすることにより，授業内容の理解を深めるとともに実践的知識を習得していく。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．プレゼンテーションの技法を活用できる	あらゆる場面に応じ適切なプレゼンテーションの技術を応用できる	基本的な場面では適切なプレゼンテーションの技術を十分に応用できる	基本的な場面では適切なプレゼンテーションの技術を応用できる	基本的な場面では適切なプレゼンテーションの技術を十分に応用できない	基本的な場面では適切なプレゼンテーションの技術を応用できない
技能	1．日本語ワープロソフトによる資料作成ができる	自力で定型的な文書資料の作成ができる	自力で簡易な文書資料の作成ができる	簡易な文書資料の作成ができる	簡易な文書資料の作成が十分にはできない	簡易な文書資料の作成ができない
技能	2．スライドによる資料作成ができる	場面に応じた効果的なスライドの作成ができる	場面に応じたスライドの作成ができる	基本的なスライドの作成ができる	基本的なスライドの作成が十分にはできない	基本的なスライドの作成ができない
技能	3．発表の技術が修得できている	多様な場面で発表することができる	基本的な場面で発表することができる	限られた場面で発表することができる	限られた場面でうまく発表することができない	限られた場面で発表することができない
態度	1．授業に積極的に参加できる	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	情報処理論			授業番号	SC111	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，パソコンのハードウェア，ソフトウェアの基礎知識，ならびにそれらの適切な利用（ネットワーク・マルチメディア・情報セキュリティ関連）に関する基礎知識について説明する。更に当該分野の情報処理技術者試験における過去問題により知識を深める。 ITパスポート試験の「テクノロジ系」分野を念頭において授業を進める。もちろん基本情報技術者試験にも深く関わる内容である。								
到達目標	1. コンピュータ技術の基礎理論を身につける。 2. アルゴリズムとプログラミングの基礎知識を身につける。 3. コンピュータ構成要素の基礎知識を身につける。 4. システム構成要素の基礎知識を身につける。 5. ソフトウェアとその適切な利用に関する基礎知識を身につける。 6. ハードウェアとその適切な利用に関する基礎知識を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	数と表現 コンピュータで扱う数値の（基数による）表現を，2進数を中心に8，16進数についても理解する。	
第2回	基数変換 基数を変換する方法を理解する。 2進数，8進数，10進数，16進数を相互に変換する方法を理解する。	
第3回	符号付き2進数，2進数の加減算，集合 負の2進数の表現方法，2進数の加算や減算，表現可能な数値の範囲を理解する。 集合と論理演算の関係を理解する。	
第4回	応用数学 確率の基本（順列，組み合わせ，確率）を理解する。 統計（データの代表値，データの散布度，正規分布）の基本的な考え方を理解する。	
第5回	情報量の単位とデジタル化，AI 情報量の表し方（ビットとバイト，情報量の単位，処理速度の単位）を理解する。 デジタル化の考え方や文字の表現について理解する。 AI技術（機械学習，ディープラーニング）を知る。	
第6回	プログラミングとデータ構造 プログラミングの目的，データ構造（変数，フィールドタイプ，配列，リスト，スタックとキュー，木構造）の基本的な考え方を理解する。	
第7回	アルゴリズムとプログラム言語 流れ図（フローチャート）による表現方法を理解する。 アルゴリズム（合計，探索，併合，整列）の基本的な考え方と，プログラミング言語の種類・特徴を理解する。	
第8回	ハードウェアの仕組み１（CPU，メモリ，記録媒体） コンピュータを構成する基本的な構成要素を理解する。プロセッサの基本的な仕組み，機能及び性能の考え方を理解する。メモリの種類と特徴を理解する。記録媒体の種類と特徴を理解する。	
第9回	ハードウェアの仕組み２（入出力インタフェース） 入出力インタフェースの種類（有線，無線）の特徴を理解する。 データ転送方式（シリアル，パラレル）の特徴を理解する。	
第10回	ハードウェアの仕組み３（IoT，デバイスドライバ），システムの構成 IoTシステムにおけるIoTデバイスの役割や構成要素，特徴を理解する。デバイスドライバとプラグアンドプレイの機能を理解する。システム構成の基本的な特徴を理解する。	
第11回	システムの評価指標 システムの性能，信頼性，経済性を測るための評価指標（レスポンス，ターンアラウンドタイム，稼働率，TCO）について理解する。	
第12回	ソフトウェアの仕組み1 オペレーティングシステム(OS)の必要性，機能，種類を理解する。ファイル管理の考え方を理解する。バックアップの基本的な考え方を理解する。	
第13回	ソフトウェアの仕組み2，ハードウェア オフィスツールなどのソフトウェアパッケージの特徴と基本操作を理解する。オープンソースソフトウェアの特徴を理解する。 コンピュータの種類と特徴を理解する。入出力装置の種類と特徴を理解する。	
第14回	マルチメディアとインターネット コンピュータ上で文字，音声，画像などの情報を統合的に扱えることを理解する。インターネット上で利用される様々なサービスの特徴と利用に関する留意点を理解する。	
第15回	セキュリティ，モバイルデバイスの普及，著作権 脅威と脆弱性，サイバー犯罪の事例，著作権，BYOD，公衆無線LANについて理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講姿勢，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	80	テキスト・過去問題の内容が正しく理解できているかによって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 情報関連の授業の基礎となる重要な授業であるため，興味を持って受講していただきたい。 2. ITパスポート試験は全ての社会人向けの「ITを利活用するための共通的基礎知識」を問う資格であり，近年では就職活動の為に学生が取得するケースも増えている。本講義をきっかけに資格取得を目指してもらいたい。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	予習は，授業計画に記述した内容について教科書の該当する部分を熟読し，必要に応じてインターネットの情報も調べること。 復習は毎回の授業内容に対応するテキスト・過去問題の問題演習を行うとともに他人に説明できるまで理解を深めておくこと。 予習・復習をあわせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター　令和6-7年度版 ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-070-4	2420円
使用テキスト：自由記載	このテキストは，2年間にわたって複数の授業(「通信ネットワーク論」，「コンピュータ科学」，「ITパスポート特別○○」など)で使用する予定なので，この授業が終わっても保管しておくこと。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	Webサイト：「ITパスポート試験」情報処理推進機構(IPA)（ https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/ ） Webサイト：「ITパスポート試験ドットコム」（ https://www.itpassportsiken.com/ ）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に基づいたコンピュータ，情報システムおよび情報通信技術の仕組み・活用・留意点を指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. コンピュータ技術の基礎理論を身につける。	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関する授業内容を十分理解している。	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関して授業内容をおおむね理解している。	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関して最低限の内容は理解している	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. アルゴリズムとプログラミングの基礎知識を身につける。	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関する授業内容を十分理解している。	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関して授業内容をおおむね理解している。	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関して最低限の内容は理解している	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. コンピュータ構成要素の基礎知識を身につける。	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関する授業内容を十分理解している。	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関して授業内容をおおむね理解している。	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関して最低限の内容は理解している	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	4. システム構成要素の基礎知識を身につける。	システムの構成・システムの評価指標に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	システムの構成・システムの評価指標に関する授業内容を十分理解している。	システムの構成・システムの評価指標に関して授業内容をおおむね理解している。	システムの構成・システムの評価指標に関して最低限の内容は理解している	システムの構成・システムの評価指標に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	5. ソフトウェアの基礎知識を身につける。	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関する授業内容を十分理解している。	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関して授業内容をおおむね理解している。	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関して最低限の内容は理解している	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	6. ハードウェアの基礎知識を身につける。	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関する授業内容を十分理解している。	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関して授業内容をおおむね理解している。	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関して最低限の内容は理解している	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	情報処理演習			授業番号	SC112	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，本学科で2年間の授業で必要なパソコン利用技術の基礎演習を行う。 具体的には，Windows（入力・ファイル操作ほか），Webブラウジング，学務情報システム，Webビジネスアプリとコラボレーションツール(オフィスソフト，電子メール，LMS，CMSなど)の演習により，データの収集・作成・共有・発信技術を正しく活用できるよう学ぶ。								
到達目標	Windows OS，学務情報システム，Webビジネスアプリとコラボレーションツールの利用技術を修得し，それらを正しくかつ有効に活用できるようになる。 具体的には次の項目である。 1. 情報処理演習室の使い方と注意点を理解している。 2. Windowsの機能(タイピング・ファイル操作・マルチメディアの利用)を活用できる。 3. UNIPAの機能を活用できる。 4. Google Workspaceの機能を活用できる。 5. Microsoft365の機能を活用できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	情報処理演習室の利用 情報処理演習室の利用方法について，ファイルの保存に関する留意点，印刷するときの留意点，特にインターネット利用におけるセキュリティ上の留意点を理解する。	
第2回	Windowsの基本操作 タッチタイプ（キーボードを見ないで入力する打ち方）をフリーソフトMIKATYPEを使用して演習する。その他，Windowsの操作の基本を演習する。	
第3回	Windowsのプレインストールソフトの利用 Windowsにはじめからインストールされているソフトウェア（電卓・ペイントなど）の便利さを理解し，Windowsソフトの操作方法を会得する。	
第4回	Windowsのファイル操作 Windowsファイルシステムを理解し，ファイルのコピー・移動・削除の演習を行う。ファイルやフォルダを圧縮および展開する演習を行う。	
第5回	Google Workspaceの基本操作1 Gmailにより，宛先指定の違い(To，CC，BCC)，署名，添付ファイルなど，基本的な電子メールの仕組みと使い方を学ぶ。Chat，Spacesサービスを理解する。	
第6回	Google Workspaceの基本操作2 Classroomの基本操作を理解し，ロールプレイングによりストリームの相互コミュニケーション機能や課題提出の方法を学ぶ。	
第7回	Google Workspaceの基本操作3 GoogleDriveの基本操作を学ぶ，Googleドキュメント・スプレッドシート・スライドといったオフィスツールの基本操作を学ぶ。	
第8回	Google Workspaceの基本操作4 Googleフォームの基本機能を理解し，フォームを作成して情報を取得できるようになる。	
第9回	Google Workspaceの基本操作5 Googleサイトの基本機能を理解し，自身で部品を配置して実際にWebページを作成する演習を行う。	
第10回	Microsoft365，Office365(1) Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。	
第11回	Microsoft365，Office365(2) Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。	
第12回	Microsoft365，Office365(3) Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。	
第13回	UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）1 コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。	
第14回	UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）2 コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。	
第15回	UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）3 コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	40	作品，自作マニュアルなどの出来栄えにより評価する。授業内で総評することによりフィードバックする。更に細かなフィードバックを希望する場合は個別に担当教員へ問い合わせる。
小テスト	30	タッチタイピング，ファイル操作などが速やかに正しく行えるかにより評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 本授業内容の習熟は，短大で授業を受ける期間すべてに影響を与えるので，しっかりと利用技術を身につけるべく学修に励んでもらいたい。 2. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習が必要な際には，事前に指示する（本授業では，予習よりも復習を大切に考えている）。 2. 復習として，学んだ内容の整理を行い理解を深める。また，繰り返し復習することにより学んだことの定着をはかる。 3. 発展として，自ら課題を見つけてスキルを向上させる。 以上の内容に対して，毎週１時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用せず，必要に応じて資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，システム設計，ソフトウェア開発の経験を活かして分かりやすくしくみや使い方を解説する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 情報処理演習室の使い方と注意点を理解している。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
技能	1. Windowsの機能(タイピング・ファイル操作・マルチメディアの利用)を活用できる。	MIKATYPEのローマ字単語練習で200文字/分以上で，他の評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	MIKATYPEのローマ字単語練習で160文字/分以上で，他の評価の観点に関して適切に行うことができる。	MIKATYPEのローマ字単語練習で120文字/分以上で，他の評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	MIKATYPEのローマ字単語練習で80文字/分以上で，他の評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。
技能	2. UNIPAの機能を活用できる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。
技能	3. Google Workspaceの機能を活用できる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。
技能	4. Microsoft365の機能を活用できる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。

科目名	文書処理			授業番号	SC121	サブタイトル			
教員	板野　敬吾								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	広く普及している文書処理ソフト「Microsoft Word 」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使用する演習を通して実践的なスキルを身に付け，実務に応用できる技能を習得する。本講義ではMicrosoft Office Specialist合格を目標とする。								
到達目標	文書処理ソフト「Microsoft Word 365」活用のためのスキルを身に付けることを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	文書の管理 文字列検索・移動，書式設定を習得する	
第2回	文書の保存 異なるファイル形式による保存，プロパティの変更等を習得する	
第3回	文字列と段落 記号・特殊文字，文字列検索・置換などを習得する	
第4回	文字列・段落の書式設定 行間・インデント等の設定，書式コピー・貼り付け，セクション区切り等を習得する	
第5回	表の作成 行・列を指定した表作成を習得する	
第6回	表の変更 表のデータの並び替え，表の設定等を習得する	
第7回	リストの作成 箇条書き，段落番号の設定やリストのレベル変更等を習得する	
第8回	参照の要素 脚注の挿入，引用文献の挿入等を習得する	
第9回	参照のための一覧作成 目次の挿入と管理について習得する	
第10回	図の挿入 図・テキストボックス・SmartArt等の挿入等を習得する	
第11回	図・テキストボックスの書式設定 図・グラフィック要素，SmartArt等の書式設定を習得する	
第12回	グラフィック要素とテキスト テキストボックス，図形等へのテキスト追加等を習得する	
第13回	グラフィック要素の変更 オブジェクトのの配置，代替テキストの追加等を習得する	
第14回	コメントの活用 コメントの追加・閲覧・返答等を習得する	
第15回	コメントの管理 コメントの変更履歴の記録・閲覧・設定等を習得する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	60	授業内容の理解度により評価し，小テスト後の授業で全体的な傾向等についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	Microsoft Office Specialist Word合格者は成績評価の対象とする。
受講の心得	ビジネス実務必須分野であるため実技・知識ともに理解できるまで学習すること。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。 3 正しい指使いでタッチタイピングの練習を行う。目標は１０分間に１０００タッチとする。 4 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
MOS Word 365 対策テキスト＆問題集 (よくわかるマスター)		FOM出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で適宜紹介する。
その他	
備考	就職活動に際し，MOS資格取得は企業側の評価の対象となることがあるので，履修者は講義以外の時間においても研鑽すること。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．PCの知識を身につけている	一般的なPCの操作に関する知識を身につけている	一般的なPCの操作に関する常識的な知識を身につけている	一般的なPCの操作に関する基本的な知識を身につけている	一般的なPCの操作に関する基本的な知識を十分には身につけていない	一般的なPCの操作に関する基本的な知識を身につけていない
知識・理解	２．文書処理ソフトの知識を身につけている	文書処理ソフトの操作に関する十分な理解がある	文書処理ソフトの操作に関する理解がある	文書処理ソフトの操作に関する基本的な理解がある	文書処理ソフトの操作に関する理解が十分ではない	文書処理ソフトの操作に関する理解がない
技能	１．文書処理ソフトの操作ができる	文書処理ソフトの応用操作ができる	文書処理ソフトの操作ができる	基本的な文書処理ソフトの操作ができる	基本的な文書処理ソフトの操作が十分にできない	基本的な文書処理ソフトの操作ができない
態度	１．授業に積極的に参加できる	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	ビジネスコンピューティングA			授業番号	SC122	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	広く普及している表計算ソフト「Microsoft Office 365(Excel)」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習としてMOS Excel 365 模擬試験用の問題に取り組む。 なお，本科目は「上級情報処理士」（全国大学実務教育教会認定資格）の必修科目である。								
到達目標	表計算ソフト「Microsoft Office 365(Excel)」による基本的な情報処理のスキルを身に付けることを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ワークシートやブックの管理(1) ブックにデータをインポートする，ブック内を移動する	
第2回	ワークシートやブックの管理(2) ワークシートやブックの書式を設定する，オプションと表示をカスタマイズする，共同作業と配布のためにブックを準備する.	
第3回	セルやセル範囲のデータの管理(1) シートのデータを操作する，セルやセル範囲の書式を設定する	
第4回	セルやセル範囲のデータの管理(2) 名前付き範囲を定義する，参照する，データを視覚的にまとめる	
第5回	テーブルとテーブルのデータの管理(1) テーブルを作成する，書式設定する テーブルを変更する	
第6回	テーブルとテーブルのデータの管理(2) テーブルのデータをフィルターする，並べ替える	
第7回	数式や関数を使用した演算の実行(1) 参照を追加する，データを計算する・加工する	
第8回	数式や関数を使用した演算の実行(2) 文字列を変更する，書式設定する	
第9回	グラフの管理(1) グラフを作成する，グラフを変更する	
第10回	グラフの管理(2) グラフを書式設定する	
第11回	総合演習 1 （模擬試験）	
第12回	総合演習 2 （模擬試験）	
第13回	総合演習 3 （模擬試験）	
第14回	総合演習 4 （模擬試験）	
第15回	総合演習 5 （模擬試験）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	60	毎週課題が出される
その他		

評価の方法：自由記載	MOS Excel合格者は評価に加える。
受講の心得	情報フィールド（オフィス利用技術）の導入にあたる科目であるので今後の為にしっかり理解できるまで学習すること。 また，情報フィールド（データ分析ユニット）および経営／ビジネスフィールド（医療事務ユニット）にも関係している。また複数の資格にも関連していることも頭に入れておくこと。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。 3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 対策テキスト＆問題集	富士通エフオーエム株式会社	FOM	978-4-86775-056-8	2100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．データの入力方法についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	2．レイアウトの設定の意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	3．テーブルの作成・扱いの意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	4．グラフ表示についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	5．数式・関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
思考・問題解決能力	1．ビジネスにおけるエクセルの適用可能な内容を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
思考・問題解決能力	2．データ分析におけるエクセルの適用可能な内容を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
技能	1．WordやPowerPoint等の役割・有用性についての関連を理解している.	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
態度	1．作業の継続・蓄積の重要性を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない

科目名	プログラミング概論			授業番号	SC131	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	プログラミングは，現代の社会で必要なスキルである「アイデアを形にする能力」や「複雑な問題に立ち向かう方策を自分で考え，それを実際に試して期待どおりの結果にならなければ何度でもやり直して問題を解決する能力」を身につけることができる為，将来の職業と関係無く学ぶことが推奨されている。本科目はプログラミング入門と位置づけプログラミングの概念を講義と演習をとおして明らかにする。 ビジュアルプログラミング言語（命令ブロックをドラッグ&ドロップといった簡単な操作でプログラミングが可能な言語）であるGoogle BlocklyとMIT Scratchを使用してゲーム制作も題材に取り入れながら学んだ後，本格的な開発言語であるPythonに触れる。								
到達目標	プログラミングの概念の根幹である「実現したいことを処理のステップに分けること」が可能になり，自分のアイデアをプログラミングで実現できるようになる。具体的には基本的な次のことを身につける。 1.ビジュアルプログラミングにおける知識 2.テキストプログラミングにおける知識 3.プログラムの作成能力 4.プログラムによるアイデアの実現能力なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	プログラミング概説 ビジュアルプログラミング言語(Blockly Games)で，はじめてのプログラミングを体験する。 迷路をスタート地点からゴール地点まで，どのような処理の手順でたどり着けるかを学ぶ。 予習：Blockly Gamesについて様々なWebサイト記事を参照，復習：Blockly Games	
第2回	Scratch(1) 更に高度なことができるMITが開発したビジュアルプログラミング言語環境「Scratch」を紹介する。 シューティングゲームの作成例をもとに，キーボード操作・アニメーション・繰り返し・条件分岐・音に関するプログラミング技術を学ぶ。	
第3回	Scratch(2) シューティングゲームの作成例をもとに，変数・乱数・マルチスレッド・メッセージ・イベントに関するプログラミング技術を学ぶ。	
第4回	Scratch(3) アルゴリズムとデータ構造の概略について理解する。 目的を実現するフローチャートを考えプログラムを作成する。	
第5回	Scratch(4) 線形探索アルゴリズムを題材に，配列データ構造を学びフローチャートからプログラム作成の実践を行う。	
第6回	Scratch(5) 自ら学ぶ為に必要なこと（他人のコードを読み解き利用する）を学ぶ。 オリジナル作品制作課題について説明する。	
第7回	Python:概要を理解する プログラムとは，プログラミング言語とは，プログラムを開発する流れを理解する。 Pythonとは，様々な利用シーンについて理解する。	
第8回	Python:開発環境の理解 Pythonプログラムの開発に必要なものを理解する。 Python言語開発環境(Visual Studio Code)を準備する。	
第9回	Python:記述規約とデータの保持 Pythonの書き方，プログラムを読みやすくするための規則を理解する。 変数とは，関数の呼び出しとデータ入力について理解する。	
第10回	Python:データをまとめて扱う リストと多次元リストについて理解する。 タプル，辞書，集合というリストに似た構造を理解する。	
第11回	Python:演算子 演算子とは何か，どのような種類があるのかを理解する。 算術演算子，累算代入演算子，文字列を連結する演算子，比較演算子，論理演算子をそれぞれ理解する。	
第12回	Python:制御構造(1) 制御構造が3種類ありどのようなものか理解する。 条件分岐の制御構造と基本文法を理解する。	
第13回	Python:制御構造(2) 繰返し(for文，while文)の制御構造と基本文法を理解する。 繰返し処理の制御を理解する。	
第14回	Python:関数 関数とは何かを理解する。 関数の定義(関数名，戻り値，仮引数)するための基本文法を理解する。	
第15回	Python:例外処理 例外処理とは何かを理解する。 例外処理を実装するための基本文法を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講姿勢，予・復習の状況によって評価する。
レポート	40	Scratch作品制作（学んだ内容が十分に活かせているか，作品のドキュメントがきちんと整備されているか） 課題提出後に全体的な傾向についてコメントをする。個々の詳細なコメントを希望する学生は研究室にお越しいただきたい。
小テスト		
定期試験	30	指示した処理を制限時間内に実現できるかによって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 情報フィールド（プログラミング）の入門レベル科目であるが，当然ながら十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。 2. プログラミングに関わる授業全般に言えるが，解答を待つ・写すでは得るものはほとんど無く受講する意味が無い。自らアイデアを練り自ら問題に立ち向かう姿勢が要求される。 3. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として授業にかかわる内容（資料が必要な場合は事前に配布する）をプログラミング環境で実際にさわってみて疑問点を明らかにする。 2. 復習として授業で扱った内容を参考資料を見ずにプログラミングできるようにする。 3. 発展学修として，インターネット上の公開されている作品・チュートリアルを参照して技法を学び，それらを活用して自分のアイデアでプログラムを作る。 4. オリジナル作品の制作時期は予・復習をその制作にあてる。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるPython入門	FOM出版	FOM出版	978-4-938927-99-8	2,100円
使用テキスト：自由記載	Google BlocklyとMIT Scratchについては，適宜資料配布やWebサイト紹介を行う。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に基づいたプログラミング的思考およびソフトウェア制作の指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ビジュアルプログラミングにおける知識	ビジュアルプログラミング言語に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ビジュアルプログラミング言語に関する授業内容を十分理解している。	ビジュアルプログラミング言語に関して授業内容をおおむね理解している。	ビジュアルプログラミング言語に関して最低限の内容は理解している	ビジュアルプログラミング言語に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. テキストプログラミングにおける知識	テキストプログラミング言語に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	テキストプログラミング言語に関する授業内容を十分理解している。	テキストプログラミング言語に関して授業内容をおおむね理解している。	テキストプログラミング言語に関して最低限の内容は理解している	テキストプログラミング言語に関して最低限の内容の理解が認められない。
思考・問題解決能力	1. プログラムの作成能力	Pythonプログラムを作成・修正でき，エラーやバグの原因を特定し，解決するプロセスを導くことができる。	Pythonプログラムを作成・修正できる。	簡単なPythonプログラムを作成・修正できる。	簡単なPythonプログラムを作成できる。	簡単なPythonプログラムを作成できない。
思考・問題解決能力	2. プログラムによるアイデアの実現能力	自分のアイデアをScratchの高度な技術や特徴を活かして実現・説明できる。	自分のアイデアをScratchの特徴を活かして実現・説明できる。	自分のアイデアをScratchの特徴を活かして実現できる。	自分のアイデアをScratchで表現できる。	自分のアイデアをScratchで実現できない。

科目名	通信ネットワーク論			授業番号	SC213	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	通信ネットワークに関わる，ヒューマンインタフェースの特徴やマルチメディア技術の特徴，データベース設計やネットワークの知識，セキュリティ対策などについて解説します。 ITパスポート試験の技術要素分野を念頭に置いて，問題演習も取り入れながら授業を進める。								
到達目標	1. 情報デザインの知識を身につける。 2. 情報メディアの知識を身につける。 3. データベースの知識を身につける。 4. ネットワークの知識を身につける。 5. セキュリティの知識を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	情報デザイン 情報を可視化し，構造化して，構成する要素間の関係を分かりやすく整理する考え方（Webデザイン，ユニバーサルデザイン）を理解する。 ヒューマンインタフェース，インタフェース設計を理解する。	
第2回	情報メディア マルチメディアのファイル形式，情報の圧縮と伸張について理解する。 グラフィックス処理，マルチメディア技術の応用例(VR，ARなど)を理解する。	
第3回	データベース1：データベースの基本 データベースの特徴・モデル，データベース管理システム，データベース設計（データの分析，データの設計，コードの設計）を理解する。	
第4回	データベース2：正規化 データベース設計のうち，正規化をとりあげ理解する。 E-R図による設計も紹介する。	
第5回	データベース3：データ操作・トランザクション処理 データ操作の関係演算と集合演算について理解する。 同時実行制御（排他制御），バックアップ，障害回復の方法を理解する。	
第6回	ネットワーク1：ネットワーク方式 ネットワークの形態（LAN，WAN，インターネット），ネットワークの構成要素（機器・規格・中継装置）について理解する。	
第7回	ネットワーク2：IoTネットワーク，通信プロトコル1 IoTネットワークの構成要素，用途に応じた通信手段の使い分けを理解する。 通信プロトコル(TCP/IP)の概要について理解する。	
第8回	ネットワーク3：通信プロトコル2 IPプロトコルについて，特にIPアドレスを中心にIPv4とIPv6の違いやアドレッシングの仕組みについて理解を進める。	
第9回	ネットワーク4：インターネットの仕組みとサービス IPアドレス，ドメイン名，DNSとその関係を理解する。 WWW，電子メール，ファイル転送のサービスを理解する。	
第10回	ネットワーク5：通信サービス データ通信サービスの種類，モバイル通信について，また課金方式の種類と伝送時間の計算方法を理解する。	
第11回	セキュリティ1：情報セキュリティ 情報セキュリティの目的，情報資産，脅威と脆弱性，不正行為が発生するメカニズムのそれぞれについて理解する。	
第12回	セキュリティ2：管理 リスクマネジメント，情報セキュリティの要素，ISMS，情報セキュリティポリシ，個人情報保護，情報セキュリティ組織・機関のそれぞれを理解する。	
第13回	セキュリティ3：対策と実装技術1 人的セキュリティ対策の種類，技術的セキュリティ対策の種類，物理的セキュリティ対策の種類，利用者認証技術のそれぞれを理解する。	
第14回	セキュリティ4：対策と実装技術2 暗号技術（共通鍵暗号方式，公開鍵暗号方式），認証技術（ディジタル署名ほか），IoTのセキュリティについて理解する。	
第15回	表計算 表計算ソフトの機能，ワークシートの基本構成，算術演算子とセル参照，関数の使い方・種類のそれぞれを理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	80	当該分野の内容が正しく理解できているかを，主にITパスポート試験の過去問題を利用して評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 情報フィールド（情報処理）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 授業では，当該分野の重点部分を解説する。授業外学修にて必ず当該分野を網羅する必要がある。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	予習は，授業計画に記述した内容について教科書の該当する部分を熟読し，必要に応じてインターネットの情報も調べること。 復習は毎回の授業内容に対応するテキスト・過去問題の問題演習を行うとともに他人に説明できるまで理解を深めておくこと。 予習・復習をあわせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター　令和6-7年度版 ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-070-4	2420円
使用テキスト：自由記載	必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『ITパスポート試験ドットコム』（https://www.itpassportsiken.com/） 『情報通信白書 for Kids』（http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/），総務省 『初歩からのネットワーク』，森川　恵　著，実教出版 『絶対わかる！新・ネットワーク超入門』，日経ネットワーク，日経BP			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に基づいたネットワーク構築，サーバ構築，セキュリティ対策およびシステム開発に基づく通信ネットワークの知識・技術を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 情報デザインの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. 情報メディアの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. データベースの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	4. ネットワークの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	5. セキュリティの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	コンピュータ科学			授業番号	SC214	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	システム開発技術（システム開発のプロセスやテスト手法，ソフトウェア開発のプロセスや開発手法），プロジェクトマネジメント，サービスマネジメントおよびシステム監査について解説する。 ITパスポート試験「マネジメント系」分野が授業の中心になる。もちろん基本情報技術者試験にも関わる内容である。								
到達目標	次の項目を理解することを目的とする。 システム開発のプロセスの基本的な流れと見積りの考え方 代表的なソフトウェア開発手法に関する概要と意義及び目的 プロジェクトマネジメントの意義，目的及び考え方，プロセスの基本的な流れ サービスマネジメントの意義・目的・考え方，サービスマネジメントシステムの概要やサービスデスクなどの関連項目，システム環境整備に関する考え方 システム監査の意義・目的・考え方・対象や基本的な流れ，企業などにおける内部統制やIT ガバナンスの目的・考え方なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	システム開発のプロセス (1) システム開発における基本的な流れとプロセスの種類を今回と次回の2回にわたり解説する。 （システム要件定義・ソフトウェア要件定義 ， 設計 ）	
第2回	システム開発のプロセス (2) システム開発におけるプロセスの種類を解説する。 （プログラミング・単体テスト，統合・テスト ， 導入・受入れ ， 保守）	
第3回	ソフトウェアの見積り 開発規模，開発環境などに基づいて，開発工数，開発期間などの見積りを行うときの基本的な考え方を解説する。	
第4回	ソフトウェア開発プロセス・手法(1) 代表的なソフトウェア開発手法の特徴，代表的なソフトウェア開発モデルの特徴について解説する。	
第5回	ソフトウェア開発プロセス・手法(2) 迅速かつ適応的にソフトウェア開発を行う軽量な開発手法であるアジャイルの特徴と基本的な用語，開発プロセスに関する代表的なフレームワークの特徴について解説する。	
第6回	開発技術の問題演習 教科書の予想問題と過去問題から代表的な問題を取り上げ解説する。	
第7回	プロジェクトマネジメント(1) システム開発プロジェクトを円滑に推進するために，プロジェクトマネジメント全般 の基本的な知識を今回と次回の2回にわたり解説する。	
第8回	プロジェクトマネジメント(2) プロジェクトを立ち上げ，計画に基づいてプロジェクトを進め，レビューなどを通じて 進捗，コスト，品質及び資源を管理し，目標を達成する流れを解説する。	
第9回	プロジェクトマネジメントの問題演習 教科書の予想問題と過去問題から代表的な問題を取り上げ解説する。	
第10回	サービスマネジメント 価値を提供するため，サービスの計画立案，設計，移行，提供及び改善のための組織の活動及び資源を，指揮し，管理する，一連の能力及びプロセスとしてサービスマネジメントがあることを解説する。	
第11回	サービスマネジメントシステム サービスマネジメントシステムの概要とサービスデスク（ヘルプデスク）の基本的な役割と概要を解説する。	
第12回	ファシリティマネジメント 企業などがシステム環境を最善の状態に保つための考え方として，ファシリティマネ ジメントがあることを解説する。	
第13回	システム監査 企業などにおける監査業務について目的と主な種類を，情報システムを対象に実施するシステム監査について意義・目的・基本的な流れを解説する。	
第14回	内部統制 企業などの健全な運営を実現するために，内部統制や IT ガバナンスがあることを知り，その目的と考え方を解説する。	
第15回	サービスマネジメントの問題演習 教科書の予想問題と過去問題から代表的な問題を取り上げ解説する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講姿勢，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	80	テキスト・過去問題の内容が正しく理解できているかによって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 情報フィールド（情報処理）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，教科書の問題演習や情報処理技術者試験の過去問の確認を行う。 3. 発展学修として，情報処理技術者試験の対策を行う。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集	FOM出版	FOM出版	978-4-938927-42-4	2200

使用テキスト：自由記載	必須科目「情報処理論」で使用したテキストと同一である。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	ITパスポート試験ドットコム(https://www.itpassportsiken.com/)
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に基づいたシステムの企画・開発・運用・保守の考え方について指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. システム開発のプロセスの基本的な流れと見積りの考え方を理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. 代表的なソフトウェア開発手法に関する概要と意義及び目的を理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. プロジェクトマネジメントの意義，目的及び考え方，プロセスの基本的な流れを理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	4. サービスマネジメントの意義・目的・考え方，サービスマネジメントシステムの概要やサービスデスクなどの関連項目，システム環境整備に関する考え方を理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	5. システム監査の意義・目的・考え方・対象や基本的な流れ，企業などにおける内部統制やIT ガバナンスの目的・考え方を理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	ITパスポート特別講義			授業番号	SC215	サブタイトル			
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代では，ITは私たちの社会の隅々まで深く浸透し，どのようなビジネスにおいてもITなくして成立しえないという状況にある。 すなわち，どのような業種・職種でも，ITと経営全般に関する総合的知識が不可欠となっている。それは，事務系・技術系，文系・理系を問わず，ITの基礎知識を持ち合わせていなければ，企業の戦力にはなりえないともいえる。 今後，グローバル化，ITの高度化はますます加速し，「IT力」を持った人材を企業は求めること考えられる。 以上から，ITリテラシーを具体的に証明することのできるITパスポート試験が着目されている。 本講義では，企業と法務，業務分析・データ活用，及びシステム戦略の面からITを理解していくこととする。 最終的な目標として，ITパスポート試験の合格を目指し，これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識を証明できることとする。								
到達目標	ITパスポート特別演習科目と合わせ，ITパスポート試験に合格することを目標とする。 本講義においては，企業を取り巻く環境を理解することを前提に，さらに経営戦略を学ぶ。経営基盤として現代では情報システムは不可欠のものであり，深く理解することを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	はじめに 情報処理技術の高度化と普及について	
第2回	経営と組織 企業活動におけるデータ	
第3回	業務分析・データ利活用 業務分析の方法	
第4回	会計・財務 会計データの利用	
第5回	企業法務 知的財産権・セキュリティ保護・労働関連法等，企業活動にかかわる法令	
第6回	倫理と標準化 企業活動の倫理とISO	
第7回	企業と法務に関する内容の演習 これまでの復習として演習を実施	
第8回	経営戦略 経営戦略と企業活動	
第9回	ビジネス戦略 経営戦略とビジネス上の戦略との関連	
第10回	技術戦略マネジメント 経営戦略と技術戦略との関連	
第11回	ビジネスインダストリ ビジネスにおける多様なシステム	
第12回	経営戦略のまとめと経営戦略に関する内容の演習 これまでの学修の復習として演習を実施	
第13回	システム戦略 情報システム戦略とプロセス	
第14回	システム企画 システム化に関する計画から実施	
第15回	まとめとシステム戦略に関する内容の演習	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業参加の程度
レポート		
小テスト	50	随時行う小テストの点数による。 実施の都度全体の評価を行う。
定期試験	30	期末テスト
その他		

評価の方法：自由記載	評価については，授業への取り組みの姿勢/態度，小テスト及び定期試験の結果を総合的に評価する。
受講の心得	わからない点は積極的に質問等をすることにより解消すること。 本講義はITパスポート試験の合格を目的としていることから，予習は必ず行うことで授業に備え，講義内容を十分理解し修得するように心がけること。
授業外学修	予習及び復習は必ず行うこと。 週当たり予習・復習に際しては，予習・復習を合わせて4時間学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター　令和4・5年度版ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集		FOM出版	9784938927424	2420円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	通信会社及び労働局にて営業・労働関係の業務に従事。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	組織，会計，法務の講義内容に関し，実務的な面からの講義することにより知識の修得に資するものとする。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．企業活動と法務に関する知識を理解している。	企業活動と法務に関する内容を十分理解している。	企業活動と法務に関する内容をほぼ理解している。	企業活動と法務に関する基本的な内容を理解している。	企業活動と法務に関する基本的な内容の理解が不十分である。	企業活動と法務に関する基本的な内容の理解ができていない。
知識・理解	2．経営戦略の知識を理解している。	経営戦略に関する内容を十分理解している。	経営戦略に関する内容をほぼ理解している。	経営戦略に関する基本的な内容を理解している。	経営戦略に関する基本的な内容の理解が不十分である。	経営戦略に関する基本的な内容の理解ができていない。
知識・理解	3．システム戦略に関する知識を理解している。	システム戦略に関する内容を十分理解している。	システム戦略に関する内容をほぼ理解している。	システム戦略に関する基本的な内容を理解している。	システム戦略に関する基本的な内容の理解が不十分である。	システム戦略に関する基本的な内容の理解ができていない。
思考・問題解決能力	1．企業活動と法務に関する知識を応用することができる。	企業活動と法務に関する内容を応用することができる。	企業活動と法務に関する内容をほぼ応用することができる。	企業活動と法務に関する基本的な内容をあまり応用することができない。	企業活動と法務に関する基本的な内容を応用することができる。	企業活動と法務に関する基本的な内容を応用することができない。
思考・問題解決能力	2．経営戦略の知識を応用することができる。	経営戦略に関する内容を応用することができる。	経営戦略に関する内容をほぼ応用することができる。	経営戦略に関する基本的な内容をあまり応用することができない。	経営戦略に関する基本的な内容を応用することができる。	経営戦略に関する基本的な内容を応用することができない。
思考・問題解決能力	3．システム戦略に関する知識を応用することができる。	システム戦略に関する内容を応用することができる。	システム戦略に関する内容をほぼ応用することができる。	システム戦略に関する基本的な内容をあまり応用することができない。	システム戦略に関する基本的な内容を応用することができる。	システム戦略に関する基本的な内容を応用することができない。

科目名	ITパスポート特別演習			授業番号	SC216	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ITを利活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき，ITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である。本授業は集中講義で実施し，ITパスポート試験3分野のうち，1年前後期に学んだテクノロジ系（IT技術）の問題演習を徹底的に行う。テクノロジ系は試験で約45%の出題数を占める(※R3～R5調べ)重点分野である。								
到達目標	大分類「基礎理論」分野を理解し正しく解答できるようになる。 大分類「コンピュータシステム」分野を理解し正しく解答できるようになる。 大分類「技術要素」分野を理解し正しく解答できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	大分類：基礎理論(1) 基礎理論(中分類)における「離散数学」・「応用数学」・「情報に関する理論」の過去問題演習	
第2回	大分類：基礎理論(2) アルゴリズムとプログラミング(中分類)における「データ構造」・「アルゴリズムとプログラミング」・「プログラム言語」・「その他の言語」の過去問題演習	
第3回	大分類：基礎理論(3) 大分類(基礎理論)全般の過去問題演習	
第4回	大分類：コンピュータシステム(1) コンピュータ構成要素(中分類)における「プロセッサ」・「メモリ」・「入出力デバイス」の過去問題演習	
第5回	大分類：コンピュータシステム(2) システム構成要素(中分類)における「システムの構成」・「システムの評価指標」の過去問題演習	
第6回	大分類：コンピュータシステム(3) ソフトウェア(中分類)における「オペレーティングシステム 」・「ファイルシステム 」・「オフィスツール」・「オープンソースソフトウェア」の過去問題演習	
第7回	大分類：コンピュータシステム(4) ハードウェア(中分類)における「ハードウェア（コンピュータ・入出力装置） 」の過去問題演習	
第8回	大分類：コンピュータシステム(5) 大分類(コンピュータシステム)全般の過去問題演習	
第9回	大分類：技術要素(1) 情報デザイン(中分類)における「情報デザイン」・「インタフェース設計 」の過去問題演習 情報メディア(中分類)における「マルチメディア技術」・「マルチメディア応用」の過去問題演習	
第10回	大分類：技術要素(2) データベース(中分類)における「データベース方式」・「データベース設計」・「データ操作」・「トランザクション処理」の過去問題演習	
第11回	大分類：技術要素(3) ネットワーク(中分類)における「ネットワーク方式」・「通信プロトコル」の過去問題演習	
第12回	大分類：技術要素(4) ネットワーク(中分類)における「ネットワーク応用」の過去問題演習	
第13回	大分類：技術要素(5) セキュリティ(中分類)における「情報セキュリティ」・「情報セキュリティ管理」の過去問題演習	
第14回	大分類：技術要素(6) セキュリティ(中分類)における「情報セキュリティ対策・実装技術」の過去問題演習	
第15回	大分類：技術要素(7) 大分類(技術要素)全般の過去問題演習	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	過去問題が正しく解答出来るかにより評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1.「情報処理論」「ITパスポート特別講義」「通信ネットワーク」の単位取得ができているか，同等程度の理解がある事を前提に授業を進める。 2. 授業では，予習により要望のあった過去問題を解説するが，要望が無ければ問題演習を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1.予習として，該当範囲の過去問題を行い，理解できていない過去問題を明らかにしておく。 2.復習として，授業で行った内容を元に再度過去問題を復習し，理解を深める。 以上を，1回の授業あたり1時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター　令和6-7年度版 ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-070-4	2420円
使用テキスト：自由記載	必須科目「情報処理論」等で使用した上記テキストを使用する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアとしてシステム設計・ソフトウェア開発を行った職務経験(7年)をもとに，実践に基づいたITの利活用を伝える。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 大分類「基礎理論」分野を理解し正しく解答できるようになる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. 大分類「コンピュータシステム」分野を理解し正しく解答できるようになる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. 大分類「技術要素」分野を理解し正しく解答できるようになる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	ビジネスコンピューティングB			授業番号	SC222	サブタイトル			
教員	平井 安久								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	広く普及している表計算ソフト「Microsoft Office 365(Excel)」の活用法を学習する。ビジネスコンピューティングAで習得したスキルを基礎知識に，さらにより深く実践的なスキルを身に付ける。データベースや統計処理などの関数の使用して実践的なビジネス（事務・営業）やデータサイエンスに役立つ技術を習得する。総合演習として，サーティファイExcel表計算処理技能認定試験1級やMOS Excel 2019模擬試験用の問題にも取り組む。								
到達目標	広く普及している表計算ソフト「Microsoft Office 365(Excel)」のビジネスで活用できる実践的なスキルを習得することを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞・＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	関数の活用（請求書） 請求書の内容の確認，事例と処理の流れを確認，参照用の表を準備，ユーザー定義の表示形式を設定，連番を自動入力，参照用の表からデータを検索，総額を計算，請求金額と支払い期日を表示.	
第2回	関数の活用（売上データの集計） 事例と処理の流れを確認，外部データを取り込む，商品別の売上集計を作成，商品カテゴリー別の売上集計表を作成，商品カテゴリー・カラー別の売上集計表を作成.	
第3回	関数の活用（住所録） 事例と処理の流れを確認する，顧客名の表記を整える，郵便番号・電話番号の表記を整える，担当者名の表記を整える.	
第4回	関数の活用（顧客住所録） 住所を分割する，重複データを削除する，新しい顧客住所録を作成する，ブックにパスワードを設定する.	
第5回	関数の活用（賃金計算書） 賃金計算書を確認する，事例と処理の流れを確認する，日付を自動的に入力する，実働時間を計算する，実働時間を合計する，給与を計算する，シートを保護する.	
第6回	関数の活用（社員情報の統計） 事例と処理の流れを確認する，日付を計算する，人数をカウントする，平均年齢・平均勤続年月を計算する，年代別の基本給の最大値・最小値・平均を求める.	
第7回	関数の活用（出張旅費伝票） 出張旅費伝票を確認する，事例と処理の流れを確認する，出張期間を入力する，出張手当を表示する，精算金額を合計する.	
第8回	関数の活用（様々な関数の利用） Excelの新しい関数で集計する，金種表を作成する，年齢の頻度分布を求める，偏差値を求める，毎月の返済金額を求める，預金満期金額を求める.	
第9回	総合問題１	
第10回	総合問題２	
第11回	総合問題３	
第12回	応用問題１	
第13回	応用問題２	
第14回	応用問題３	
第15回	応用問題４	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	60	毎回課題が出される

評価の方法：自由記載	MOS Excel合格者は評価に加える。
受講の心得	情報フィールド（オフィス利用技術）の科目であり，1年前期科目である「文書処理演習」と「ビジネスコンピューティングA」の内容が理解できていることを前提に授業を行う。 また，情報フィールド（データ分析）にも関係しており，資格にも関連していることも頭に入れておくこと。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。 3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる Excel関数テクニック	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM	978-4-86775-033-9	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無
実務経験をいかした教育内容	無

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．数学関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	2．文字列関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	3．統計関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	4．財務関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	5．ピボットテーブルについての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
思考・問題解決能力	1．ビジネスにおけるエクセルの適用可能な内容を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
思考・問題解決能力	2．データ分析におけるエクセルの適用可能な内容を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
技能	1．WordやPowerPoint等の役割・有用性についての関連を理解している.	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
態度	1．作業の継続・蓄積の重要性を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない

科目名	データベース			授業番号	SC223	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	データベースソフトウェアは，大量のデータを蓄積し必要に応じてデータを抽出したり集計したりできる機能を有しており，企業活動におけるデータ管理の中核的役割を果たしている。 本科目では，データベースソフトウェア初心者を対象として，企業におけるリレーショナルデータベース活用例をもとに，テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップ機能の演習を行う。データベースソフトウェアはリレーショナルデータベースのMicrosoft Accessを使用する。								
到達目標	リレーショナルデータベースについて理解し，自らの設計をAccessデータベースで実現し説明できるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，「知識・理解」および「技能」の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Accessの基礎知識 データベースとデータベースソフト，リレーショナルデータベース，Accessの基本操作・データベースオブジェクトを理解する。 予・復習：第1章	
第2回	データベースの設計と作成 データベース構築の流れ，データベースの設計，テーブルの設計，新規データベース（ファイル）の作成方法を理解する。 予・復習：第2章	
第3回	テーブルの作成とデータの格納１（商品マスター） テーブルの概要，用語（レコード・フィールド・主キー・外部キー），テーブルの設計，デザインビューによるテーブルの作成方法，データの入力方法を理解する。 予・復習：第3章Step3まで	
第4回	テーブルの作成とデータの格納２（得意先マスター，売上データ） 前回の知識をもとに，他の必要なテーブルを作成する。データをインポートする方法を理解する。 予・復習：第3章	
第5回	リレーションシップ 主キーと外部キーの関係，参照整合性，テーブル間のリレーションシップの作成方法を理解・実践する。 予・復習：第4章	
第6回	クエリによるデータの加工１ クエリで何が出来るかを理解する。フィールドの加工を行うクエリ（射影・結合・演算）を理解する。 予・復習：第5章	
第7回	クエリによるデータの加工２（問題演習） 前回の知識をもとに，フィールドの加工を行うクエリの作成方法を理解・実践する。 予・復習：第5章	
第8回	フォームによるデータ入力１（商品マスター，得意先マスター） フォームで何が出来るかを理解する。フォームウィザードでフォームを作成する。フォームを構成するコントロールの調整ができる。 予・復習：第6章Step4まで	
第9回	フォームによるデータ入力２（売上データ，担当者マスター） 前回の知識をもとに，より複雑なフォームの作成を引き続き行う。簡易的なフォーム作成方法についても理解する。 予・復習：第6章	
第10回	クエリによるデータの抽出と集計１ レコードの加工を行うクエリを理解する。レコードを選択する条件の設定方法を理解する。集計クエリの作成方法を理解する。 予・復習：第7章	
第11回	クエリによるデータの抽出と集計２（問題演習） 前回の知識をもとに，演習をおこないより理解を深める。 予・復習：第7章	
第12回	レポートによるデータの印刷１（商品マスター，得意先マスター） レポートで何が出来るかを理解する。レポートウィザードでレポートを作成する。レポートを構成するコントロールの調整ができる。 予・復習：第8章Step4まで	
第13回	レポートによるデータの印刷２（宛名ラベル，売上一覧表） 前回の知識をもとに，より複雑なレポートを作成する。宛名ラベル印刷するレポートの作成方法を理解する。 予・復習：第8章	
第14回	ナビゲーションフォーム，オブジェクトの依存関係，テンプレートの利用 知っておくとより便利になる機能について，メニューとなるナビゲーションフォームや，オブジェクトの依存関係を表示する機能などを理解する。 予・復習：第9章	
第15回	問題演習 今までの全ての知識をもとに，総合的な問題演習を行い理解を深める。 予・復習：総合問題	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講姿勢，予・復習の状況によって評価する。
レポート	70	オリジナルデータベース制作により主要オブジェクト(テーブル，クエリ，フォーム，レポート)を正しく理解・活用し，ドキュメントも整備できるかによって評価する。 課題提出後に全体的な傾向についてコメントをする。個別に質問があれば，個々についてより詳細にコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 対象はAccess初心者を想定している。 2. 情報フィールド（オフィス利用技術）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 3. 演習に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWebページ参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行うので注意すること。 4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として次回の授業内容にあたるテキストを読んでおくこと。 2. 授業で行った演習内容を復習し理解を深めておくこと。 3. 最終課題としてオリジナルデータベースおよびドキュメントを提出してもらう。 以上の内容に必要な時間の目安は，各人の理解度によるが週当たり1時間である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる Microsoft Access 2021基礎	FOM	FOM出版	978-4-86775-028-5	2100
使用テキスト：自由記載	進捗状況により，情報処理論で使用した「よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」テキストも活用するが使用時は授業で指示する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に対応できるデータベース設計・構築の知識と技能を身につけられるよう授業を展開する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. リレーショナルデータベースに関する用語・設計の知識を身につけ説明することができる。	自身が設計・制作したデータベースを専門的知識にもとづいて十分に説明・考察することができる。	自身が設計・制作したデータベースを適切にわかりやすく十分に説明することができる。	自身が設計・制作したデータベースを説明することができる。	自身が設計・制作したデータベースの最低限の説明をすることができる。	自身が設計・制作したデータベースの最低限の説明をすることができない。
技能	1. 基本的なデータベースを自身で設計でき，その実現のためにAccessのテーブル・リレーションシップを活用することができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作が適切に行われ，授業内容を超えて応用することができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作が適切に行うことができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作がおおむね適切に行うことができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作を行うことができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作を最低限の内容まで行うことができない。
技能	2. 自身が設計したデータベースの実現のために，Accessのクエリ機能を適切に活用することができる。	クエリ機能を適切に活用でき，授業内容を超えて応用することができる。	クエリ機能を適切に活用できる。	クエリ機能をおおむね適切に活用できる。	クエリ機能を活用できる。	クエリ機能を最低限の活用ができない。
技能	3. 自身が設計したデータベースの実現のために，Accessのフォーム機能を適切に活用することができる。	フォーム機能を適切に活用でき，授業内容を超えて応用することができる。	フォーム機能を適切に活用できる。	フォーム機能をおおむね適切に活用できる。	フォーム機能を活用できる。	フォーム機能を最低限の活用ができない。
技能	4. 自身が設計したデータベースの実現のために，Accessのレポート機能を適切に活用することができる。	レポート機能を適切に活用でき，授業内容を超えて応用することができる。	レポート機能を適切に活用できる。	レポート機能をおおむね適切に活用できる。	レポート機能を活用できる。	レポート機能を最低限の活用ができない。

科目名	プログラミング演習			授業番号	SC232	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	Python言語は，Webアプリケーションをはじめデスクトップアプリケーションやゲーム，人工知能，ビッグデータ解析など様々な分野で活用されており，最も注目を集めているプログラミング言語のひとつである。また，シンプルな言語であるが故にコードが読みやすく，プログラミング初心者にもおすすめな言語とされている。 本科目では，プログラミング概論を学んだ学生を対象に，Python言語を用いてプログラミングに必要な考え方を身に付ける。								
到達目標	Python言語を使用して簡単な文字ベースのプログラムを自ら作成できるようになることを目的とする。具体的には次のことを身につける。 1.プログラムの作成能力 2.コーディング技能 3.テスト技能 4.デバッグ技能なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	プログラムの構造の復習1 プログラムの構造の順次実行・条件分岐・繰り返しを，問題演習により復習する。	
第2回	プログラムの構造の復習2 プログラムの構造の順次実行・条件分岐・繰り返しを，問題演習により復習する。	
第3回	外部プログラムの呼び出し方(1) ライブラリとは何か，ライブラリの管理ツールを理解する。 モジュール関数の呼び出し方法，標準ライブラリモジュールの利用方法を理解する。	
第4回	外部プログラムの呼び出し方(2) 標準ライブラリ以外のモジュールを利用する方法を理解する。	
第5回	ファイルの入出力(1) アプリケーションとやりとりするデータの形式(JSON，XML，CSV)を理解する。 テキストファイルの読み書きを理解する。	
第6回	ファイルの入出力(2) JSONの読み書きを理解する。 XMLの読み書きを理解する。 CSVの読み書きを理解する。	
第7回	オブジェクト指向プログラミング(1) オブジェクトとクラスの概要を理解する。 クラスの生成方法，オブジェクトの生成方法を理解する。	
第8回	オブジェクト指向プログラミング(2) オブジェクト指向の継承を理解する。 オブジェクト指向のアクセス制御を理解する。	
第9回	PythonによるExcelの操作(1) Excel操作のために必要な外部ライブラリを理解する。 Excelシートのセルに対する値の読み書きを理解する。	
第10回	PythonによるExcelの操作(2) Excelを操作する演習問題により理解を深める。 マクロ(VBA)の存在を理解する。	
第11回	総合問題演習(1) プログラミング概論と本演習で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。	
第12回	総合問題演習(2) プログラミング概論と本演習で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。	
第13回	プログラミングスキルチェックサイトの利用(1) Webサイトpaizaでプログラミングスキルチェックを実施する方法を学び，自身でプログラミング技術の向上・確認ができるようになる。	
第14回	プログラミングスキルチェックサイトの利用(2) Webサイトpaizaで，可能な限り多くの問題に挑戦する。また，ランクについても可能な限り上げる。	
第15回	プログラミングスキルチェックサイトの利用(3) Webサイトpaizaで，可能な限り多くの問題に挑戦する。また，ランクについても可能な限り上げる。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講姿勢，予復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	50	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするプログラムを作成できること。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 授業計画に示した内容をネットで調べ，疑問点を明らかにしておくこと。 2. 授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・演習問題を何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと。 3. 発展学修として，paizaサイトを利用してスキルを高めること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるPython入門	FOM出版	FOM出版	978-4-938927-99-8	2,100円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，Python言語によるプログラミングを通して，実践的なプログラミング技能とプログラミング的思考を身につけさせる。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. プログラムの作成能力	仕様を満たしユーザのことを考えた，効率的なプログラムを作成できる。	仕様を満たしユーザのことを考えた，プログラムを作成できる。	仕様を満たすプログラムを作成できる。	仕様の最低限は動作するプログラムが作成できる。	仕様の最低限の動作が確認できない。
技能	1. コーディング技能	統合環境を設定し，効率的に可読性の高いコーディングができ，それを実行できる。	統合環境を設定し，効率的にコーディングでき，それを実行できる。	設定された統合環境で，効率的にコーディング・実行できる。	コーディング・実行できる。	コーディング・実行の少なくとも一方ができない。
技能	2. テスト技能	特別な条件で発生するバグを発見できる。	境界値を考慮してバグを発見できる。	正常系のバグを発見できる。	正常系・異常系それぞれのデータを区別できる。	実行結果が正しいか判断できない。
技能	3. デバッグ技能	アルゴリズムのバグを修正できる。	境界値のバグを修正できる。	統合開発環境が指摘する文法のバグを修正できる。	統合開発環境が指摘する文法のバグを発見できる。	バグを発見・修正できない。

科目名	アルゴリズムとデータ構造			授業番号	SC333	サブタイトル			
教員	吉谷 俊雨								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本科目はプログラミングに必要とされる代表的なアルゴリズムとデータ構造を説明する。アルゴリズムおよびデータ構造の重要性を認識すると共に，しくみを理解し効率のよいプログラム設計ができるよう演習も交え授業を進める。プログラム言語はPythonを使用するので，Python言語の習熟にもつながる。								
到達目標	1.代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いを理解できる。 2.問題解決のために思考し，既知のアルゴリズム適用を検討できる。 3.既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。 4.代表的なアルゴリズムとデータ構造をPython言語により実装することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	フローチャート（流れ図） 目的の動作を実現するためのフローチャートを作成して処理の流れを考える。 予・復習 フローチャートの記号とその意味を理解する	
第2回	データ構造と配列1 複数のデータをまとめて扱うことができるリスト・タプルその活用方法。 予・復習 リストとタプルのあつかい，最大・最小・合計値・平均値・素数の求め方を理解する	
第3回	データ構造と配列2 リストを活用して基数変換のプログラムに挑戦する。 予・復習 基数変換のアルゴリズムを理解する	
第4回	線形探索と2分探索，計算量 主要な探索方法のアルゴリズムと計算量の違いを確かめる。 予・復習 線形探索と2分探索，sortメソッドの使い方を理解する	
第5回	探索までの問題演習・計算量 学んだデータ構造・アルゴリズムを活用でき，効率も考えられるようになるよう問題演習を行う。 復習 問題演習で扱った内容	
第6回	スタックとキュー スタック構造とは何か，キュー構造とは何か，それらの構造に該当する事例は何か。 予・復習 スタックとキューの考え方を理解する	
第7回	スタックとキューの実現 スタックとキューを実現するプログラムを作成する。 予・復習 スタックとキューの実現方法を理解する	
第8回	スタックとキューの問題演習 学んだデータ構造・アルゴリズムを活用でき，効率も考えられるようになるよう問題演習を行う。 復習 問題演習で扱った内容	
第9回	再帰 再帰の考え方・仕組みを理解し，それによりプログラムが単純化できることを知る。 予・復習 再帰アルゴリズムを理解する。	
第10回	再帰（ハノイの塔） 有名なパズル「ハノイの塔」を解く為に再帰アルゴリズムを利用する。 予・復習 再帰アルゴリズムでパズル「ハノイの塔」を解く	
第11回	再帰の問題演習 学んだデータ構造・アルゴリズムを活用でき，効率も考えられるようになるよう問題演習を行う。 復習 問題演習で扱った内容	
第12回	バブルソート ソートプログラムの中でも単純なバブルソートを理解し実現する。 予・復習 バブルソートを理解する	
第13回	クイックソート クイックソートを理解し実現する。バブルソートとの計算量の違いを理解する。　予・復習 クイックソートを理解する	
第14回	ソートの問題演習 学んだデータ構造・アルゴリズムを活用でき，効率も考えられるようになるよう問題演習を行う。 復習 問題演習で扱った内容	
第15回	線形リスト 線形リストのデータ構造を理解し実現する。データの挿入・削除方法を理解する。 復習 線形リストを理解する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講姿勢，授業外学修の状況によって評価する。
レポート	40	アルゴリズムを実装でき理解しているかによって評価する。総評は授業等で伝えるが，個別に改善点等が知りたい場合は問い合わせにより回答する。
小テスト		
定期試験	40	アルゴリズムとデータ構造の理解の程度によって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 応用レベルの科目であるので，自発的な学修活動が必要である。当然であるが十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。 2. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 3. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 授業計画の予習で示した内容をWebで検索し，概要を理解する。 2. 授業計画の復習で示した授業で扱ったプログラムを何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと。 3. レポート（主に授業で説明したアルゴリズム・データ構造をPythonで実装・説明する）を完成・提出する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造	柴田望洋	SBクリエイティブ(株)	978-4-8156-0319-9	2400円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，Python言語による実際のプログラミングを通して，実践的なデータ構造およびアルゴリズムの知識・思考ならびにそれらを活用したプログラミング技能を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いを理解できる。	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関する授業内容を十分理解している。	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関して授業内容をおおむね理解している。	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関して最低限の内容は理解している	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関して最低限の内容の理解が認められない。
思考・問題解決能力	1. 問題解決のために思考し，既知のアルゴリズム適用を検討できる。	自分で解決のための課題を発見・考察して，より効率的な方法を工夫できる。また，その方法を説明できる。	自分で既知のアルゴリズムを適用し問題を解決できる。また，効率など問題点を指摘できる。	自分で既知のアルゴリズムを適用し問題を解決できる。効率など問題点は把握しきれない。	完全ではないが主要なケースにおいて問題解決できる。	問題解決の糸口が見つけられない。
思考・問題解決能力	2. 既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。	既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。また，改善点と理由を専門的知識にもとづいて説明できる。	既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。また，改善点を指摘できる。	既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。	既存のプログラムをトレースし結果を推測できる	既存のプログラムをほぼトレースできない。
技能	1. 代表的なアルゴリズムとデータ構造を実装することができる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造を自分でPython言語により正しく実装できる。変数や制御部についてコメント文をつけ，専門的知識にもとづいて説明することができる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造を自分でPython言語により実装できる。十分なテストケースによりプログラムの正しさを示すことができる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造を自分でPython言語により実装できる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造のいくつかを自分でPython言語により実装できる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造をPython言語で最低限の実装ができない。

科目名	データサイエンスA			授業番号	SD111	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	本講義は，データサイエンスの入門として，データの意味，データから得られる情報の大切さについて学ぶ。 また，調査，実験，観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について学ぶ。 なお，統計手法を適用する際に，統計ソフトも使用する。								
到達目標	1）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。 2）データサイエンス入門として，データの基本統計量，分布，統計的検定の考え方を理解する。 3）具体的な分析方法についてパソコンで結果を算出し，その結果をみて考察を行う。 以上を到達目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	データサイエンスとは 統計学の有用性や誤用についての具体例を示す．日常生活におけるデータサイエンスの重要さについての全体的な解説をする．	
第2回	データの解釈 人口動態のようにわれわれをとりまく日常世界のデータをどのように見て解釈すべきかについて知られているいくつかの指数を解説する．	
第3回	データと地域 都道府県間の地域差などをどのような指標で表現するとわかりやすいかを説明する．	
第4回	分布とヒストグラム(1)度数分布 ヒストグラムでデータを表現することで，平均値や中央値などの代表値の役割を確認する．さらに，偏差値がどのように役立つのかも解説する．	
第5回	分布とヒストグラム(2)ローレンツ曲線とジニ係数 経済統計の分野でよく用いられるローレンツ曲線とジニ係数について解説する．実際にローレンツ曲線でグラフィカルに表現することで，ジニ係数の示す意味が明らかになる．	
第6回	平均値，期待値 平均値がもつ統計的な意味を解説する．さらにいくつかの確率分布について期待値という概念についても解説する．	
第7回	相関係数 相関係数の作られた経緯，予測の役割などを具体データに基づいて解説する．	
第8回	質的変数，クロス表 名義尺度で用いられるクロス表表現でどのような傾向がつかめるのかを解説する．	
第9回	順位データ(1) データの順位に着目することで，地域データなどの特徴を把握する．別の事例として，用いられる語彙の違いを順位データの考え方で表現することを解説する．	
第10回	順位データ(2) 平均，分散，標準偏差などの代表値の役割を整理し，データを偏差値で表現することの利点を説明する．	
第11回	平均の統計分析，検定 平均値の検定としてｔ検定の概念およびｔ検定が用いられる場面について解説する．信頼区間についても説明する．	
第12回	回帰と予測(1) 最小二乗法を含めて回帰分析の数理的構造および回帰直線，回帰係数などを解説する．	
第13回	回帰と予測(2) 単回帰と重回帰について具体的データをもとに分析結果や予測方法を解説する．	
第14回	カテゴリカルデータ(1) 想定される確率分布にデータが当てはまるかを調べる適合度検定を解説する．カイ２乗検定の概念も説明する．	
第15回	カテゴリカルデータ(2) クロス表の二つの要因の関連を調べるために，独立性のカイ２乗検定について解説する．	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	30	課題は毎回出される．
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する．

評価の方法：自由記載	
受講の心得	いろいろな現実のデータについての見方・考え方を理解し，得られた結果に対して自分なりの解釈をおこなうことを重要さを知っていただきたい．
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，分析の適用を行い，考察を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
身につく統計学 第１版第３刷	伊藤公紀・伊藤裕康	森北出版	978-4-627-08211-3	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	参考書は授業の中で適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．記述統計に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．確率分布の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．推測統計に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	１．具体的事例で問題点に気づいている	十分気づいている	かなり気づいている	平均的に気づいている	部分的に気づいている	不十分な気づきである
思考・問題解決能力	２．議論すべき点を理解できる	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	１．ヒストグラム，箱ひげ図等を表現できる	十分表現できる	かなり表現できる	基本的な形で表現できる	補助があれば表現できる	表現できない
技能	２．統計プログラムを適切に使うことができる	十分使用できる	かなり使用できる	基本的な形で使用できる	補助があれば使用できる	使用できない
技能	３．推定・検定の具体的処理ができる	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
態度	１．身近な問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
態度	２．調査の段階の行動の仕方を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
態度	３．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない

科目名	データサイエンスB			授業番号	SD212	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	日常生活に関係するデータは見かけ上は種々の形をしている．具体的なデータを用いて分析と結果解釈をおこない，典型的な分析スタイルを理解する．								
到達目標	本授業の到達目標は次の通りである。 1．統計分析の具体的な考え方を理解する。 2．Pythonプログラムを用いて，実際のデータに適用し，結果を正しく解釈することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	データの活用 クロスセクションデータ，時系列データ，クロスセクションと時系列，クロス表と多重クロス表，量的データと質的データ，ビッグデータと機械学習	
第2回	グラフをえがく 棒グラフ，円グラフ，折線グラフ，レーダーチャート：全体を比較できる－，相関図：データの花吹雪から統計学事始め，度数分布とヒストグラム，箱ひげ図，幹葉表示小，中学生でもできる，相関グラフ，立体表示，複合した表示	
第3回	データ計算の基礎(1) 四則，平方，平方根，対数 割合，百分比(百分率）：日常の算数の約束 指数(Index)	
第4回	データ計算の基礎(2) 比例関係(プロポーション，propotion) 単利と複利：指数関数 線形計算：シンプルさがメリット	
第5回	統計で日本を読む ローレンツ曲線とジニ係数：貧富の格差を測る，順位の研究：人口規模順位規則，合計特殊出生率:TFR，エンケル係数	
第6回	データ分析と予測(1)対称な分布，非対称な分布 平均値の意味と分布の形，集中と散らばり	
第7回	データ分析と予測(2)偏差値 偏差値とは，標準化の役割，効果的や使用法	
第8回	データ分析と予測(3)回帰分析 回帰分析とは，数理的構造，予測のための用法	
第9回	統計による決め方の論理(1)p値	
第10回	統計による決め方の論理(2)カイ２乗値 カイ２乗とは，用法	
第11回	社会調査とマーケティング(1)バイアス	
第12回	社会調査とマーケティング(2)サンプリング サンプル数の決め方と信頼の幅	
第13回	社会調査とマーケティング(3)ビッグデータとは	
第14回	社会と統計の役割 無意識か意図的か，「べからず」集，公平な質問文を	
第15回	データサイエンスの心がまえ データは語るのか：その言い方はあぶない，分野知識の重要性，統計と実感，統計の倫理とマーケティング	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	30	毎時間課題が出される
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する.

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常生活に関係するデータを扱いながら分析と結果解釈をおこなうことで，データサイエンスの重要さを具体的に理解してほしい．
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，分析の適用を行い，考察を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わかりやすい統計学 データサイエンス基礎	松原望・森本栄一	丸善出版	978-4-621-30653-6	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	参考書は授業の中で適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．記述統計に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	2．種々の確率分布を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	3．予測に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	1．具体的事例で問題点に気づいている	十分気づいている	かなり気づいている	平均的に気づいている	部分的に気づいている	不十分な気づきである
思考・問題解決能力	2．議論すべき点を理解できる	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	3．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	1．回帰分析を具体的に適用できる	十分適用できる	かなり適用できる	基本的な形で適用できる	補助があれば適用できる	適用できない
技能	2．統計プログラムを適切に使うことができる	十分使用できる	かなり使用できる	基本的な形で使用できる	補助があれば使用できる	使用できない
技能	3．推定・検定の具体的処理ができる	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	部分的にできる	不十分である
態度	1．社会調査に関する問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
態度	2．国内の種々のデータを読み取る姿勢がある	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
態度	3．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない

科目名	データサイエンスC			授業番号	SD213	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	文理問わずすべての大学生が初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得するという政府発表の目標を掲げた。この講義では，プログラミング，データサイエンス（社会調査）・AI，データベース（表計算）などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。特に，多変量解析の理論に必要な線形代数や解析学といった数学的な知識について学習する。								
到達目標	情報分野を学ぶ上で必要とされる数学的記号の理解と基礎的な計算力を習得することを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	多変量データと行列表現(1)行列，行列式の値 行列とは，行列式の値，事例での演習	
第2回	多変量データと行列表現(2)行列の和と積 行列の和と積，数値例での演習	
第3回	多変量データと行列表現(3)逆行列 逆行列の役割，数値例での演習	
第4回	多変量データと行列表現(4)代表値の行列表現 各変量の平均値・分散の行列表現，多変量間の相関係数の行列表現	
第5回	関数の最大値・最小値(1)微分，偏微分	
第6回	関数の最大値・最小値(2)微分の行列表現	
第7回	重回帰分析と行列表現(1) 重回帰分析の定式化，重回帰分析の行列表現	
第8回	重回帰分析と行列表現(2) 重回帰分析の結果の解釈	
第9回	２次形式と行列表現 相関係数行列の２次型式表現	
第10回	行列の固有値・固有ベクトル(1) 対称行列・２次型式表現，対称行列の固有値・固有ベクトル	
第11回	行列の固有値・固有ベクトル(2) 数値例での演習	
第12回	主成分分析と行列表現(1) 主成分分析の定式化，主成分分析での固有値・固有ベクトルの意味と解釈	
第13回	主成分分析と行列表現(2) 個体得点の導出，具体的データの分析と解釈	
第14回	三角関数 三角関数の基本性質，三角関数の適用場面	
第15回	指数関数 指数関数とは，指数関数で表現される確率密度関数	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	30	課題は毎回出される.
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する.
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積み重ねが重要なので復習を十分行い，分からないところは放置しておかないようにする。
授業外学修	毎週４時間以上，予習・復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ 数理・データサイエンス・AI	富士通ラーニングメディア	富士通エフオーエム株式会社	978-4-86775-081-0	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．行列演算の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．関数の増減等の性質を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．多変量データの行列表現の知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	１．回帰分析を適用する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	２．主成分分析を適用する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	１．行列演算の計算ができる	十分計算できる	かなり計算できる	基本的な形で計算できる	補助があれば計算できる	計算できない
技能	２．関数の最大値・最小値の計算ができる	十分計算できる	かなり計算できる	基本的な形で計算できる	補助があれば計算できる	計算できない
技能	３．固有値計算ができる	十分計算できる	かなり計算できる	基本的な形で計算できる	補助があれば計算できる	計算できない
態度	１．社会調査に関する問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
態度	２．国内の種々のデータを読み取る姿勢がある	十分ある	かなりある	基本的にある	部分的にある	姿勢が不十分である
態度	３．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない

科目名	社会調査論			授業番号	SD214	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	情報化社会としての現代社会は，おびただしい数の社会調査の行われる社会である。変動の激しい，多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ，生起するさまざまな社会問題への対応と解決を図っていくうえで，社会調査は不可欠の方法である。 本講義では，歴史的背景や事例について踏まえつつ，社会調査の一連の進め方について学習する。具体的には，調査内容・対象の決定，調査の実施方法，結果の分析法とまとめ方について学習する。学習を通して，社会を見通すスキルとしての社会調査に関わる基礎的な知識の習得を目指す。								
到達目標	１）社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を習得する。 ２）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。 以上を到達目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	アンケート調査とは アメリカ大統領選挙の番狂わせ，原因となった調査方法とは. アンケート調査の種類，電話調査とはどのような調査か.	
第2回	アンケート調査は社会調査の１つ 社会事象を理解するための社会調査，なぜ社会調査を行うのか，社会調査は何を対象としているか，社会科学としての社会調査，社会調査のルーツ，社会調査と実証主義との関係，日本の社会調査史をひもとく，社会調査にはどのような背景があるか	
第3回	社会調査としてのアンケート調査 社会調査やアンケート調査についてなぜ知らなければならないか，社会調査にはどのような種類があるか，どのような調査方法があるか，量的調査と質的調査の違い，パネル調査と継続調査の違い，全数調査とサンプリング調査の違い，新しい調査方法	
第4回	アンケート調査のアプローチ データには定量データと定性データがある，結果を導く帰納と演繹，アンケート調査の対象をどうとらえるか，アンケート調査では倫理を守ろう	
第5回	アンケート調査の方法 アンケート調査を定義する，アンケート調査の方法，回答者に配慮しよう，アンケートを依頼し回収する方法	
第6回	参与観察の事例 参与観察とは：事例１.和歌山県田辺市の田辺祭，事例２.千葉市稲毛町の「夜灯し」祭り	
第7回	アンケート調査の種類 アンケート調査にはどのような種類があるか，面接調査とはどのような調査か，留置き調査とはどのような調査か，郵送調査とはどのような調査か，電話調査とはどのような調査か，インターネット調査とはどのような調査か，集合調査とはどのような調査か，簡易調査とはどのような調査か，そのほかの調査にはどのようなものがあるか	
第8回	調査情報を発掘する アンケート調査の設計前の発掘調査，図書館で発掘調査する，インターネットで発掘調査する，先行研究にアクセスしてみる，統計情報にアクセスしてみる，「政府統計の総合窓口」を利用してみる.	
第9回	国勢調査 国勢調査とは，調査時期，調査書類，調査項目，調査結果	
第10回	アンケートの質問文を作るために 質問をつくるときのワーディングの問題：１.あいまいな表現・むつかしい用語，２.ステレオタイプ，３.ダブルバーレル質問，４.パーソナル質問とインパーソナル質問，５.キャリーオーバー効果，６.バイアス質問	
第11回	サンプリングのための標本数 全数調査とサンプリング調査，サンプリングにはどのような方法があるか,無作為抽出法の種類,そのほかのサンプリングの方法,標本の数はどのようにして決めるか.	
第12回	インタビュー調査 インタビュー調査での重要なポイント：１.どのようなインタビューを行うか，２.事前準備や下調べが大切，３.依頼状を作成する/アポイントを取る，４.インタビューの実際，５.インタビューが終わった後	
第13回	調査における問題点を考える １.調査主体による相違：【事例１】内閣の支持率，２.前提が不明瞭な調査：【事例２】人気の大統領，【事例３】携帯電話会社の人口カバー率，３.バイアスがある調査：【事例４】調査員による質問内容，【事例５】アンケート調査での質問文の内容	
第14回	写真観察法 ビジュアル調査法とは，集合的写真観察法	
第15回	データ解析 データ解析するための基本的な知識，データの整理と簡約化：[1]ヒストグラム，[2] 代表値 散布度，[3] 箱ひげ図	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	60	毎回レポート課題を課す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容を整理し，理解する。 3）発展として，自ら課題を見つけて，理解を深める。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 第３版	安藤明之	日本評論社	978-4-535-58760-1	2，600円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会調査の必要性を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．調査の形態や特徴を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．調査結果を分析・解釈する方法の知識がある	どのような調査でも高度なデータ分析をすることができる	調査の種類によっては高度なデータ分析ができる	基本的な分析が正しくできる.	調査の種類によっては正しい分析方法が使える	分析方法の判断ができない
思考・問題解決能力	１．現実世界での問題点に気づいている	十分気づいている	部分的に気づいている	指摘された問題点を理解できる	限定された話題について理解できる	問題点を認識できない
思考・問題解決能力	２．問題ある状況を理解できる	問題点の本質に気づくことができる	一部の話題の問題点の本質に気づくことができる	指摘されると理解できる	指摘されると部分的に理解できる	状況に気づくことができない
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	洞察力をもって解決のためのプロセスが見通せる	おおむね解決のためのプロセスが見通せる	話題によっては解決のためのプロセスが見通せる	解決へのプロセスを部分的に考えられる	解決へのプロセスが考えられない
技能	１．調査項目を構成できる	十分構成できる	かなり構成できる	基本的な形で構成できる	補助があれば構成できる	構成できない
技能	２．調査時に必要な行動を整理している	詳細に整理できている	ほぼ整理できている	基本的に整理できている	部分的に整理できている	整理できていない
技能	３．調査結果の分析の手順を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
態度	１．身近な問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
態度	２．調査の段階の行動の仕方を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
態度	３．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない

科目名	社会調査演習			授業番号	SD315	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	２年前期開講の『社会調査論』で学習した内容を踏まえて，アンケート調査等のデータを分析するいろいろな手法および適用場面について学習する。								
到達目標	１）社会調査の基本的な考えを理解し，実践することができる。 ２）量的・質的データを統計手法を適用し，得られた結果の考察を行うことができる。 ３）パソコンの統計ソフトウェアを活用して結果を算出することができる。 以上を到達目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。 考・問題解決能力＞＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調査データとは 調査データの特徴，横断データと縦断データ，調査データの仮想例，個票データと集計データ	
第2回	記述統計と推測統計 記述統計学，母集団と標本，統計的推測と調査誤差，標本誤差と標本調査法	
第3回	パーセント，比，比率の利用 並び替え，パーセント・比・比率の表示と利用，数値の変換，幹葉図	
第4回	ローレンツ曲線・ジニ係数 質的データの場合の図の作成，量的データの場合の図の作成，ローレンツ曲線の表示，ローレンツ曲線の限界とジニ係数	
第5回	分布とは 平均値の性質，加重平均・幾何平均・調査平均，中央値と最頻値，代表値のまとめ	
第6回	箱ひげ図 中央値の考え方の拡張，四分位点，箱ひげ図の基本，Excelによる箱ひげ図の作成	
第7回	いろいろな代表値 分散と標準偏差，変動係数，標準化と偏差値，平均差とジニ係数	
第8回	クロス表とは クロス表の基本，Excelによるクロス表の作成，相対度数と百分率の表示，縦に読むか横に読むか	
第9回	クロス表の視覚化 同時度数分布と立体的な表示	
第10回	クロス表とモザイク図 棒グラフの工夫，モザイク図	
第11回	回帰分析とは 最小二乗法，回帰係数と切片，Excelにおける回帰分析の方法と回帰直線の描画	
第12回	回帰分析の利用 逆回帰，平均への回帰，残差の性質，回帰分析の説明力	
第13回	２変数データ：相関係数とは ピアソンの積率相関係数，共変動の性質，共分散，相関係数	
第14回	２変数データ：相関係数の特徴	
第15回	２変数データ：カイ２乗値	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	60	毎時間課題が出ます

評価の方法：自由記載	
受講の心得	『社会調査論』・『社会調査演習』を通して，社会調査の手法を身に付ける演習であるため，２年前期開講の『社会調査論』を履修しておくこと。 授業の最中に内容を理解できるように努める。
授業外学修	１）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 ２）復習として，学んだ内容を整理し，理解する。 ３）データの分析方法や解釈の方法が中心的な仕事となる. 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelではじめる社会調査データ分析	松原 望・松本 渉	丸善出版	978-4-621-08165-5	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 第３版	安藤明之	日本評論社	978-4-535-58760-1	
参考書：自由記載	参考書は前期の「社会調査論」で使用した本である.			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無			
実務経験をいかした教育内容	無			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会調査の必要性を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．調査の形態や特徴を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．調査結果を分析・解釈する方法の知識がある	どのような調査でも高度なデータ分析をすることができる	調査の種類によっては高度なデータ分析ができる	基本的な分析が正しくできる.	調査の種類によっては正しい分析方法が使える	分析方法の判断ができない
思考・問題解決能力	１．現実世界での問題点に気づいている	十分気づいている	部分的に気づいている	指摘された問題点を理解できる	限定された話題について理解できる	問題点を認識できない
思考・問題解決能力	２．問題ある状況を理解できる	問題点の本質に気づくことができる	一部の話題の問題点の本質に気づくことができる	指摘されると理解できる	指摘されると部分的に理解できる	状況に気づくことができない
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	洞察力をもって解決のためのプロセスが見通せる	おおむね解決のためのプロセスが見通せる	話題によっては解決のためのプロセスが見通せる	解決へのプロセスを部分的に考えられる	解決へのプロセスが考えられない
技能	１．調査項目を構成できる	十分構成できる	かなり構成できる	基本的な形で構成できる	補助があれば構成できる	構成できない
技能	２．調査時に必要な行動を整理している	詳細に整理できている	ほぼ整理できている	基本的に整理できている	部分的に整理できている	整理できていない
技能	３．調査結果の分析の手順を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
態度	１．身近な問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
態度	２．調査の段階の行動の仕方を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
態度	３．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない

科目名	マルチメディア			授業番号	SG111	サブタイトル			
教員	脇坂 基徳								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，Adobe Photoshopを使用し，デジタル画像の加工技術，アニメーション制作，3Dグラフィックスなどの基礎技術について演習を行う。								
到達目標	デジタル画像，アニメーション，3Dグラフィックスなどの演習を通して，マルチメディア技法に関するスキルアップはもとより，マルチメディア技術への理解を深めることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科目のオリエンテーション ／「マルチメディア」の解説	
第2回	Pinterestを使ってみる	
第3回	feedlyを使ってみる	
第4回	Photoshopの基本操作を身に付けよう	
第5回	レイヤーを操作しよう	
第6回	色や明るさを調整しよう 前編	
第7回	色や明るさを調整しよう 後編 ／ 多種多様な加工	
第8回	選択範囲を使いこなそう	
第9回	レタッチできれいにしよう	
第10回	画像合成で作品に仕上げよう 前編	
第11回	画像合成で作品に仕上げよう 後編	
第12回	フィルターとレイヤースタイルを上手に使おう	
第13回	ペイント機能を使いこなそう	
第14回	シェイプとパスを使おう 前編	
第15回	シェイプとパスを使おう ／ 後編科目の総括	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	Photoshopでの画像加工技術や用途は多岐にわたっており，知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって様々なイラストの制作手法を検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
今すぐ使えるかんたん Photoshop やさしい入門	まきの ゆみ	技術評論社	978-4297131203	
使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEB CRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	Webデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を、授業内容を超えて主体的に考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、十分に達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、おおよそ達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限の達成が確認できない。
思考・問題解決能力	2. 作品制作において、思い通りの効果が得られない事象の解決や、より高い完成度にするために、工夫を施すことができる。	授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	十分に工夫を施すことができる。	おおよそ工夫を施すことができる。	助言を得ながら工夫を施すことができる。	工夫を施すことができない。
技能	1. フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュの技能	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関して授業内容を超えてPhotoshopの機能を活用できる。	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関して十分にPhotoshopの機能を活用できる。	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関しておおむねPhotoshopの機能を活用できる。	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関して最低限の基本的なPhotoshopの機能を活用できる。	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関して最低限の基本的なPhotoshopの機能も活用できない。
技能	2. カード・ステーショナリー制作の技能	カード・ステーショナリー制作に関して授業内容を超えてPhotoshopの機能を活用できる。	カード・ステーショナリー制作に関して十分にPhotoshopの機能を活用できる。	カード・ステーショナリー制作に関しておおむねPhotoshopの機能を活用できる。	カード・ステーショナリー制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能を活用できる。	カード・ステーショナリー制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能も活用できない。
技能	3. Webサイト制作に活用する技能	Webサイト制作に関して授業内容を超えてPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して十分にPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関しておおむねPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能も活用できない。

科目名	音響メディア論			授業番号	SG121	サブタイトル			
教員	河田 健二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	音を記録・保存する技術は近年高度な発達を見せている。この授業ではそのような記録・保存媒体としてのディジタル機器やその周辺機器について解説する。また，広い意味では楽器や声も音響メディアと言える。最近のディジタル楽器だけでなく，その発展過程の様々な機器や，楽器も含めて，その魅力や特徴について解説する。								
到達目標	音響機器・楽器について幅広く知識を持ってもらうことを到達目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，（知識・理解）の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	音と音響について 音現象をどのように捉えるのかを物理的な視野から見る	
第2回	各種メディアについての概要 音響に関する機器について大まかな概要を説明する	
第3回	記録・保存媒体としての機器・メディア１ 過去のメディア（アナログ機器）について	
第4回	記録・保存媒体としての機器・メディア２ ディジタルということについて	
第5回	記録・保存媒体としての機器・メディア３ CD・LD・DVDについて	
第6回	記録・保存媒体としての機器・メディア４ 圧縮・ハイレゾについて	
第7回	PAについて１ 入力のためのマイクロフォンについて	
第8回	PAについて２ 音の出口スピーカーシステムについて	
第9回	PAについて３ 聞こえる音圧を出力するためのアンプリファイアについて	
第10回	PAについて４ ミキシング・配線について	
第11回	楽器について１ 主として弦の振動を使用するもの	
第12回	楽器について２ 主として管を使用するもの	
第13回	楽器について３ その他の楽器について	
第14回	声・声楽について 他の楽器には真似のできない言語を表現できる声について	
第15回	その他，音響に関することと全体のまとめ 14回の授業で説明しきれなかったことの補足とまとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	熱心な受講態度。
レポート	50	レポートのテーマに対して調べた内容を自分の言葉で表現できていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	40	それぞれの分野毎に理解度を確認する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	扱うジャンルの幅が広いので，思考を柔軟にして受講すること。
授業外学修	新しい知識が多いと思うので，授業内で解説したことが定着するように復習することが大切である。以上の内容について週４時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて授業内で紹介する。また，必要に応じて資料を配布する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．記録・保存媒体の機器に ついての理解	記録・保存媒体の機器について完全に理解している	記録・保存媒体の機器についてほぼ理解している	記録・保存媒体の機器について大まかにに理解している	記録・保存媒体の機器についてあまり理解していない	記録・保存媒体の機器についてほぼ理解していない
知識・理解	２．PAについての理解	PAについて完全に理解している	PAについてほぼ理解している	PAについて大まかに理解している	PAについてあまり理解していない	PAについてほぼ理解していない
知識・理解	３．楽器・声についての理解	楽器・声について完全に理解している	楽器・声についてほぼ理解している	楽器・声について大まかに理解している	楽器・声についてあまり理解していない	楽器・声についてほぼ理解していない

科目名	ウェブデザインA			授業番号	SG131	サブタイトル			
教員	脇坂 基徳								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ウェブサイト制作のために必須であるHTML・CSSコーディングの実践を行う。中でもマークアップ言語として実用的なHTML5・CSS3の知識を学び，実際にウェブサイトの構築を行う。なお，本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため，「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。								
到達目標	HTML・CSSのコーディングを実務レベルで習得することを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科目のオリエンテーション ／ ウェブデザインの基礎知識の解説	
第2回	ウェブサイトが表示される仕組み，各言語の役割，デザインにおいてのルールなどの解説	
第3回	テキストエディタ，HTMLタグを使う意味，使用頻度の高いHTMLタグの解説	
第4回	「内側・外側」「囲う」の意味，HTMLファイルの基本的な構成の解説	
第5回	CSSの基本的な考え方と記述方法の習得，CSSリセットの記述	
第6回	HTMLでそれぞれのブロックに使う各要素の説明，＜header＞ ＜/header＞ から＜footer＞ ＜/footer＞ の役割について解説	
第7回	「ブラウザ幅とコンテンツ幅」「インライン要素」「ブロック要素」について解説 ／ 基礎コーディングの演習開始	
第8回	HTMLタグの名前（識別子）である「id・class」「ブロック」と「入れ子」の解説，また「margin」と「padding」の重点解説 ／ 基礎コーディングの演習	
第9回	フレックスボックスの重点解説 ／ 基礎コーディングの演習	
第10回	基礎コーディングの完成までの演習	
第11回	モバイル端末への表示最適化の手法「レスポンシブウェブデザイン」についての重点解説 ／ スマホ対応・スライドショー実装コーディングの演習開始	
第12回	Adobe Photoshopの画像アセット機能の解説 ／ スマホ対応・スライドショー実装コーディングの完成までの演習	
第13回	ウェブフォントの重点解説 ／ ウェブ動画実装コーディングの完成までの演習	
第14回	スクロールアニメーション実装のコーディングの演習開始	
第15回	スクロールアニメーション実装のコーディングの完成および応用の演習 ／ 科目の総括	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	HTML･CSSは記述方法などの知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとってHTMLタグのまとめサイトを閲覧し，ウェブサイトコーディングの予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「ウェブ CRE8TOR」（https://ウェブcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ウェブデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ウェブデザイン実務の理解	ウェブデザイン実務に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ウェブデザイン実務に関する授業内容を十分理解している。	ウェブデザイン実務に関して授業内容をおおむね理解している。	ウェブデザイン実務に関して最低限の内容は理解している	ウェブデザイン実務に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. HTML･CSSの知識	HTML･CSSの知識に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	HTML･CSSの知識に関する授業内容を十分理解している。	HTML･CSSの知識に関して授業内容をおおむね理解している。	HTML･CSSの知識に関して最低限の内容は理解している	HTML･CSSの知識に関して最低限の内容の理解が認められない。
技能	1. ウェブサイト構築の技能	HTML･CSSを適切に活用でき、授業内容を超えて応用することができる。	HTML･CSSを適切に活用できる。	HTML･CSSをおおむね適切に活用できる。	HTMLを最低限活用できる。	HTMLの最低限の活用ができない。
技能	2. 構築したウェブサイトの説明技能	専門的知識にもとづいて十分に説明・考察することができる。	適切にわかりやすく且つ十分に説明することができる。	おおむね適切に説明することができる。	最低限の説明をすることができる。	最低限の説明をすることができない。

科目名	デジタルフォト			授業番号	SG212	サブタイトル			
教員	非常勤C								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，デジタルカメラのメカニズムや撮影テクニック，写真の加工技術などの基礎について学習する。具体的には，露出・構図・ホワイトバランス・ISO感度などの基礎知識，及び，デジタル写真の補正技術について学習する。								
到達目標	デジタルカメラの基礎知識の習得，また高度な写真撮影のスキルを取得することを到達目標とする。また，デジタル写真を通して，個々の持つ個性や感性を磨く。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	デジタル写真の基礎知識１（デジタルカメラのしくみ，レンズのメカニズム）	
第2回	デジタル写真の基礎知識２（絞り・シャッタースピード・露出）	
第3回	デジタル写真の基礎知識３（ホワイトバランス・ISO感度・測光方式）	
第4回	デジタル写真の基礎知識４（構図のテクニック）	
第5回	場面別の撮影技術（風景，ポートレート，スナップ，商品，接写など）	
第6回	写真撮影の実践１（静止している被写体を撮影する：絞り優先オートの撮影技術）	
第7回	写真撮影の実践２（動いている被写体を撮影する：シャッタースピード優先オートの撮影技術）	
第8回	写真撮影の実践３（ドローン，ジンバルを使用して撮影する）	
第9回	撮影した写真の講評１	
第10回	撮影した写真の講評２	
第11回	Lightroomによる写真補正１（基本操作）	
第12回	Lightroomによる写真補正２（写真補正の基礎）	
第13回	Lightroomによる写真補正３（写真補正の応用）	
第14回	Lightroomによる写真補正４（撮影データの補正１）	
第15回	Lightroomによる写真補正５（撮影データの補正２）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	毎回の授業中の課題により評価を行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	フォト作品の出来栄えにより評価を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	写真に関する特別な知識や技術は必要ないが，本授業を通して少しでもデジタルカメラに対して興味を持ってもらえればと思っている。また本授業は講義科目ではあるが，写真撮影の演習も取り入れて授業を進めていく予定である。
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）最終的な作品制作のために撮影の実践を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業の中で別途指示する。また必要に応じてWEBで教材を提供する予定である。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている

科目名	コンピュータグラフィックス			授業番号	SG213	サブタイトル			
教員	脇坂 基徳								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	グラフィックデザイン制作で最も使用されるツールであるAdobe Illustratorの基礎技術習得および実践を行う。具体的にはイラスト制作や画像のパーツ制作，さらに印刷物などデジタル画像を表現するテクニックについて習得する。								
到達目標	イラスト制作・画像のパーツ制作，さらに印刷物制作などのコンピュータグラフィックス技術を実務レベルで習得することを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科目のオリエンテーション ／ Illustratorができるコト・作るモノ・就くシゴト	
第2回	レイヤーについて ／ 人物イラストを描いてみよう	
第3回	Illustratorの基本操作を身に付けよう	
第4回	オブジェクトを操作しよう	
第5回	オブジェクトを描画しよう	
第6回	名刺の表面を作ってみよう	
第7回	名刺表面の調整と裏面を作ってみよう	
第8回	オブジェクトに配色や線の設定をしよう前編	
第9回	オブジェクトに配色や線の設定をしよう 後編	
第10回	オブジェクトを変形しよう	
第11回	ペンツールでオブジェクトを描画しよう	
第12回	レイヤーを使おう	
第13回	文字を入力・編集しよう	
第14回	セールスタグを作ってみよう	
第15回	Illustratorで作品づくり ／ 科目の総括	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	Illustratorでの制作用途は多岐にわたており，知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって様々なイラストの制作手法を検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
今すぐ使えるかんたん Illustrator やさしい入門	まきの ゆみ	技術評論社	978-4297131241	
使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEB CRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	Webデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を、授業内容を超えて主体的に考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、十分に達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、おおよそ達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限の達成が確認できない。
知識・理解	2. 作品制作において、思い通りの効果が得られない事象の解決や、より高い完成度にするために、工夫を施すことができる。	授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	十分に工夫を施すことができる。	おおよそ工夫を施すことができる。	助言を得ながら工夫を施すことができる。	工夫を施すことができない。
技能	1. イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインの技能	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関して授業内容を超えてIllustratorの機能を活用できる。	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関して十分にIllustratorの機能を活用できる。	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関しておおむねIllustratorの機能を活用できる。	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関して最低限の基本的なIllustratorの機能を活用できる。	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関して最低限の基本的なIllustratorの機能も活用できない。
技能	2. 印刷物制作の技能	印刷物制作に関して授業内容を超えてIllustratorの機能を活用できる。	印刷物制作に関して十分にIllustratorの機能を活用できる。	印刷物制作に関しておおむねIllustratorの機能を活用できる。	印刷物制作に関して最低限の基本的なIllustratorの機能を活用できる。	印刷物制作に関して最低限の基本的なIllustratorの機能も活用できない。
技能	3. Webサイト制作に活用する技能	Webサイト制作に関して授業内容を超えてIllustratorの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して十分にIllustratorの機能を活用できる。	Webサイト制作に関しておおむねIllustratorの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なIllustratorの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なIllustratorの機能も活用できない。

科目名	映像制作			授業番号	SG214	サブタイトル			
教員	脇坂 基徳								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	Adobe Premiere Proを用いて映像編集の演習を行ない，企画，構成，撮影，編集，サウンドなど映像制作に必要な知識・技術について学修する。								
到達目標	Adobe Premiere Proを用いて，動画編集の基本的なスキルおよび企画・構成やシナリオ作成の知識を修得する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科目のオリエンテーション	
第2回	Premiere Proの基本操作を身に付けよう	
第3回	動画素材をカット編集しよう その1	
第4回	動画素材をカット編集しよう その2	
第5回	動画素材をカット編集しよう その3	
第6回	トランジションやエフェクトでクリップを演出しよう	
第7回	テロップを完成しよう	
第8回	音声やBGMを追加／編集しよう	
第9回	ステップアップした編集テクニックを利用しよう その1	
第10回	ステップアップした編集テクニックを利用しよう その2	
第11回	編集した動画を出力しよう	
第12回	After Effectsとの連携 ／ 映像作品作り その1	
第13回	映像作品作り その2	
第14回	映像作品作り その3	
第15回	映像作品作り その4 ／ 科目の総括	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。2）復習として，学んだ内容の整理を行い，作品課題の制作を行う。3）発展として，自ら課題を見つけて，作品の制作スキルを向上させる。以上の内容に対して，毎週１時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
今すぐ使えるかんたん Premiere Pro やさしい入門	阿部 信行	技術評論社	978-4297135478	
使用テキスト：自由記載	講師のブログ「ウェブ CRE8TOR」（https://ウェブcre8tor.com/）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 映像作品を制作するための手順・機能活用を考察し、達成することができる。	映像作品の制作に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	映像作品の制作に関する授業内容を十分理解している。	映像作品の制作に関して授業内容をおおむね理解している。	映像作品の制作に関して最低限の内容は理解している	映像作品の制作に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. 映像作品の制作で必要なAdobe Premiere Proの知識を活用し目的の作品を実現することができる。	Adobe Premiere Proの知識に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	Adobe Premiere Proの知識に関する授業内容を十分理解している。	Adobe Premiere Proの知識に関して授業内容をおおむね理解している。	Adobe Premiere Proの知識に関して最低限の内容は理解している	Adobe Premiere Proの知識に関して最低限の内容の理解が認められない。
技能	1. Adobe Premiere Proを活用した映像制作の技能	Adobe Premiere Proを適切に活用でき、授業内容を超えて応用することができる。	Adobe Premiere Proを適切に活用できる。	Adobe Premiere Proをおおむね適切に活用できる。	Adobe Premiere Proを最低限活用できる。	Adobe Premiere Proの最低限の活用ができない。
技能	2. 制作した映像作品の説明技能	専門的知識にもとづいて十分に説明・考察することができる。	適切にわかりやすく且つ十分に説明することができる。	おおむね適切に説明することができる。	最低限の説明をすることができる。	最低限の説明をすることができない。

科目名	コンピュータミュージック			授業番号	SG222	サブタイトル			
教員	河田 健二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	かつて曲を作ることは限られた一部の人だけのものであった。現在ではコンピュータを使用することで，誰でも気軽に曲を作り楽しむことが出来るようになった。この授業ではコンピュータ上で音楽を作成することを学習する。具体的にはSinger song writerおよびボーカロイドの２種類のソフトウエアを使用し音楽を作成する。とは言え必要最小限の音楽的知識は必要であるので，音楽の知識（音楽理論）についても毎回少しずつ解説する。								
到達目標	自分の力で何らかの楽曲を作成出来ることを到達目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，（技能）の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	音（音楽）と楽譜の関係・楽譜の基礎知識 物理的な音を視覚的にとらえる様々な方法について	
第2回	使用するソフトウエアについての基礎知識 授業で使用するSinger song writerとボーカロイドの概要について	
第3回	Singer song writerを使用した音楽作成１・音楽理論の解説１ とにかく入力してみよう（簡単な単旋律）	
第4回	Singer song writerを使用した音楽作成２・音楽理論の解説２ 少し複雑な単旋律の入力	
第5回	Singer song writerを使用した音楽作成３・音楽理論の解説３ 複数パートの入力	
第6回	Singer song writerを使用した音楽作成４・音楽理論の解説４ 音楽表現のための様々な機能について	
第7回	Singer song writerを使用した音楽作成５・音楽理論の解説５ アレンジデータ機能を使った伴奏入力	
第8回	Singer song writerを使用した音楽作成６・音楽理論の解説６ オーディオデータの取り扱いについて	
第9回	ボーカロイドを使用した音楽作成１・音楽理論の解説７ 簡単な楽曲の入力	
第10回	ボーカロイドを使用した音楽作成２・音楽理論の解説８ 少し複雑な楽曲の入力	
第11回	ボーカロイドを使用した音楽作成３・音楽理論の解説９ 複数パートの処理について	
第12回	ボーカロイドを使用した音楽作成４・音楽理論の解説10 音楽表現のための様々な機能について	
第13回	Singer song writerとボーカロイドのデータ連結１ これまでに作成したデータを結合する（1回目）	
第14回	Singer song writerとボーカロイドのデータ連結２ これまでに作成したデータを結合する（２回目）	
第15回	完成した作品の試演会 完成した楽曲を受講生同士で聞きあう	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	50	音楽理論の理解度を評価する。
その他	50	作品提出とし，提出された作品の完成度について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の積み重ねで演習を行うため遅刻・欠席をしないよう気をつけること。やむを得ず遅刻・欠席をした場合は担当教員に聞くなどし，抜けている個所がないよう努力すること。
授業外学修	授業で配布する楽曲を，指定する範囲までを次回の授業までに完了させること。また，自由課題については授業外での学習（入力・編集作業）が多くなるため多くの時間を必要とする。以上の内容について週４時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて授業内で紹介する。また，打ち込みの素材となる楽曲を配布する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．シンガーソングライターを使用した楽曲を作成できる	細かな所まで音楽のニュアンスを再現した楽曲を作成できる	音楽のニュアンス等を含めた楽曲を作成できる	正しい楽曲を作成できる	ソフトは扱えるが正しい楽曲が作成できない	楽曲が作成できない
技能	２．ボーカロイドを使用した楽曲を作成できる	細かな所まで音楽のニュアンスを再現した楽曲を作成できる	音楽のニュアンス等を含めた楽曲を作成できる	正しい楽曲を作成できる	ソフトは扱えるが正しい楽曲が作成できない	楽曲が作成できない
技能	３．シンガーソングライターで作成したデータとボーカロイドで作成したデータを連動して一つの楽曲にまとめることができる	自分の力でシンガーソングライターとボーカロイドのデータを連動できる	自分の力でシンガーソングライターとボーカロイドのデータを連動できる	教員や友人に聞きながらシンガーソングライターとボーカロイドのデータを連動できる	シンガーソングライターとボーカロイドのデータを連動できない	該当なし

科目名	ウェブデザインB			授業番号	SG232	サブタイトル			
教員	脇坂 基徳								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ウェブデザインの現場における，企画からデザインまでの流れを明らかにする。その際，Photoshop・Illustratorを使用し，ウェブサイトのデザイン制作を効率よく進めるための実践を行う。なお，本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため，「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。								
到達目標	ウェブデザインの現場における，企画からデザインまでの流れを理解し，実践できるようになる。またPhotoshop・Illustratorを使ったウェブサイトデザインの際に各々がクオリティの高いデザインを作るための効率の向上を目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科目のオリエンテーション ／ 基礎知識「Photoshop」「Illustrator」について，およびWebサイト制作向けのPhotoshopの各設定の解説	
第2回	デザインとアートの違いの解説 ／ ウェブデザインですべきことや流れの重点解説	
第3回	サイト・ページタイプ別ウェブデザインの解説	
第4回	デザインラフの制作 ① 3つのポイントと手書きデザインラフ	
第5回	デザインラフの制作 ② デザインラフのチェックポイント	
第6回	ウェブデザインの構築「レイアウト」の解説	
第7回	ウェブデザインの構築「配色」の解説	
第8回	UIデザイン・UXデザイン・ユーザビリティの解説	
第9回	ワイヤーフレームの制作 ①	
第10回	ワイヤーフレームの制作 ②	
第11回	ページデザインのテイスト別の特徴の解説	
第12回	ページデザインの制作 ①デザインの準備 ②全体のデザイン ③ブロック・ディテールのデザイン	
第13回	ウェブページデザインの制作演習 ①	
第14回	ウェブページデザインの制作演習 ②	
第15回	ウェブページデザインの制作演習 ③ ／ 科目の総括	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	デザインは知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとってウェブデザインのアーカイブサイトを閲覧し，ウェブサイトデザインの予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEB CRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	Webデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ウェブページをデザイン制作するための手順・機能活用を考察し、達成することができる。	ウェブページのデザイン制作に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ウェブページのデザイン制作に関する授業内容を十分理解している。	ウェブページのデザイン制作に関して授業内容をおおむね理解している。	ウェブページのデザイン制作に関して最低限の内容は理解している	ウェブページのデザイン制作に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. ウェブデザイン実務上で必要なPhotoshopの実務的知識を活用し目的のデザインを実現することができる。	ウェブデザイン実務上で必要なPhotoshopの知識に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ウェブデザイン実務上で必要なPhotoshopの知識に関する授業内容を十分理解している。	ウェブデザイン実務上で必要なPhotoshopの知識に関する授業内容をおおむね理解している。	ウェブデザイン実務上で必要なPhotoshopの知識に関して最低限の内容は理解している	ウェブデザイン実務上で必要なPhotoshopの知識に関して最低限の内容の理解が認められない。
技能	1. Webサイト制作に活用する技能	Webサイト制作に関して授業内容を超えてPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して十分にPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関しておおむねPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能も活用できない。
技能	2. 構築したウェブサイトの説明技能	専門的知識にもとづいて十分に説明・考察することができる。	適切にわかりやすく且つ十分に説明することができる。	おおむね適切に説明することができる。	最低限の説明をすることができる。	最低限の説明をすることができない。

科目名	情報メディア論			授業番号	SG315	サブタイトル			
教員	脇坂 基徳								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	本授業は，「情報」や「メディア」に関して正しい知識も用いて常にシーン・ケースにふさわしい「読み取り」や「発信」ができるようなメディアリテラシーの育成を目的とし，「インターネット」「ＳＮＳ」「ロボット」「人工知能」「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」についても解説していく。								
到達目標	「情報」や「メディア」に関して正しい知識を得ることで，便利なものを活用する知識や危険なものから身を守るため，自分のみならず他人にも伝えられるリテラシーを身に付けてほしい。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科目のオリエンテーション ／「情報とは」の解説	
第2回	「メディアとは」の解説	
第3回	「メディアリテラシーとは」「第1章 まだわからないよね？」の解説	
第4回	「第2章 意見・印象じゃないかな？」「第3章 他の見方もないかな？」の解説	
第5回	「第4章 隠れているものはないかな？」「メディアリテラシーまとめ」の解説	
第6回	「検索について～インフォデミックへの対応～」の解説	
第7回	「検索について～検索の仕方～」の解説	
第8回	「知っておきたいビジネス用語・カタカナ語」の解説	
第9回	「知的財産権について」の解説	
第10回	「個人情報について」の解説	
第11回	「サイバー犯罪について」の解説	
第12回	「マルウェアについて」の解説	
第13回	「コミュニケーションの歴史 － 手段と多様化とSNS」の解説	
第14回	「情報の整理ツール マインドマップ」の解説	
第15回	「情報技術の発展」の解説 ／ 科目の総括	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび定期試験	70	複数回の小テストと定期試験よって授業での解説を正しく理解できているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は講師が作成したマインドマップツールを使用して進めていく。豊富かつ多岐にわたる内容であるため，専用のノートを用意し受講する必要がある。
授業外学修	情報メディアに関する内容を理解するため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって「インターネット」「ＳＮＳ」「ロボット」「人工知能」「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」のカテゴリのニュース記事などを検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して正しい知識を用いて常にシーン・ケースにふさわしい「読み取り」や「発信」をすることができる。	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して授業内容を十分理解している。	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して授業内容をおおむね理解している。	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して最低限の内容は理解している	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2.「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目について正しく理解している。	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して授業内容を十分理解している。	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して授業内容をおおむね理解している。	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して最低限の内容は理解している	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	ソーシャルメディア			授業番号	SG316	サブタイトル			
教員	脇坂 基徳								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	Adobe After Effectsの体系的な知識・操作を身に付けることを目的とし，全15回の授業の前半では基礎・応用的な内容の理解を深め，動画制作の基本を身に付ける。後半ではオリジナル作品の制作を行い，Youtube等のソーシャルメディアのチャンネル作成や，主にアップロード動画の管理・運営などを行う。								
到達目標	モーショングラフィックスなどのやや高度な応用的な技術の習得を目標とする。また作品制作を通して，実践的なスキルアップを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科目のオリエンテーション ／ AfterEffectでできること・Premiere Proとの違い	
第2回	After Effectsを使う前の準備	
第3回	背景を作ろう	
第4回	タイトルを作ろう	
第5回	テロップを作ろう	
第6回	場面転換を作ろう	
第7回	グリーンバックのキーアウト（透明化）とSaberによる合成	
第8回	立体的なアニメーションを作ろう	
第9回	動画を書き出そう	
第10回	ロトブラシで動く被写体との背景合成動画	
第11回	簡単なホログラムエフェクト	
第12回	動画のテキストマスク ／ フリッカーテキストアニメーション	
第13回	Youtubeへのログインとチャンネルのリンク、アップする準備 ／ 作品作り	
第14回	Youtubeへのログインとチャンネルのリンク、アップする準備 ／ 作品作り	
第15回	Youtubeへのログインとチャンネルのリンク、アップする準備 ／ 作品作り ／ 科目の総括	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	After Effectsはモーション・グラフィックス，タイトル制作などを得意としたツールであるため、参考となる作品はYoutubeをはじめとした動画アーカイブサイトに多数存在している。そのため授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって様々な動画制作手法を検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
デザインの学校 これからはじめる After Effectsの本 [改訂2版]	マウンテンスタジオ 佐藤太郎・中薗洸太 (著), ロケナワークショップ (監修)	技術評論社	978-4297124151	
使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEB CRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 目的の動画作品を完成するための手順・機能活用を考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を、授業内容を超えて主体的に考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、十分に達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、おおよそ達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限の達成が確認できない。
思考・問題解決能力	2. 動画作品制作において、思い通りの効果が得られない事象の解決や、より高い完成度にするために、工夫を施すことができる。	授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	十分に工夫を施すことができる。	おおよそ工夫を施すことができる。	助言を得ながら工夫を施すことができる。	工夫を施すことができない。
思考・問題解決能力	3. Youtubeチャンネルの管理・運営において、動画メディア等の有効な活用方法の考察や工夫を施すことができる。	授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	十分に工夫を施すことができる。	おおよそ工夫を施すことができる。	助言を得ながら工夫を施すことができる。	工夫を施すことができない。
技能	1. Adobe After Effectsを活用した動画制作の技能	動画作品の制作に関して授業内容を超えてAdobe After Effectsの機能を活用できる。	動画作品の制作に関して十分にAdobe After Effectsの機能を活用できる。	動画作品の制作に関しておおむねAdobe After Effectsの機能を活用できる。	動画作品の制作に関して最低限の基本的なAdobe After Effectsの機能を活用できる。	動画作品の制作に関して最低限の基本的なAdobe After Effectsの機能も活用できない。

科目名	クロスリアリティ			授業番号	SG317	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	近年，XR（クロスリアリティ）という言葉を耳にする機会が増えてきた。 XRは，VR(仮想現実)・AR(拡張現実)・MR(複合現実)・SR(代替現実)など，現実世界と仮想世界を融合して新しい体験を作り出す技術の総称である。 本授業では，XRを構成する各々の技術を知り，HMD(ヘッドマウントディスプレイ)の活用やメタバースを体験する。この体験にはグループ学修が含まれる。								
到達目標	XRを構成する各々の技術の区別ができる。 XRを構成する各々の技術の事例が挙げられる。 HMDとメタバースがどういうもので現在何ができるのかを理解する。 HMDを自身で利用できるようになる。 メタバースが制作できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	XR（クロスリアリティ）とは VR(仮想現実)・AR(拡張現実)・MR(複合現実)・SR(代替現実)それぞれの違いを理解する。	
第2回	XR（クロスリアリティ）の事例 VR(仮想現実)・AR(拡張現実)・MR(複合現実)・SR(代替現実)それぞれの事例を調べる。	
第3回	HMD(ヘッドマウントディスプレイ)を知る HMDにどのような製品がありどのように活用できるのかを調べる。 グループ学修のチームを結成する。	
第4回	HMDに触れる 各チームでHMDを装着し，VR(仮想現実)技術を体験する。具体的にはCGや360度カメラによって作成された映像を体験する。	
第5回	HMD体験(1) 各チームでHMDコンテンツを調査し，実際に体験してみる。 体験内容は資料にまとめる。	
第6回	HMD体験(2) 各チームでHMDコンテンツを調査し，実際に体験してみる。 体験内容は資料にまとめる。	
第7回	HMD体験(3) 各チームでHMDコンテンツを調査し，実際に体験してみる。 体験内容は資料にまとめる。	
第8回	HMD体験発表 チームごとにHMD体験について発表する。 他チームでの体験を理解する。	
第9回	HMD体験(チーム間交流) 他チームとの交流により，自チームで体験しなかった様々なコンテンツを体験する。	
第10回	メタバースで交流 チームでメタバース参加の準備を行い，HMVとPCそれぞれで実体験してみる。 他チームとメタバース空間で交流してみる。	
第11回	メタバースの作り方 メタバースの作り方を学び試行錯誤してみる。 チーム内で教え合うことを期待する。	
第12回	メタバースの設計 各自でメタバースの設計を行う。 設計できた学生から作成を始める。	
第13回	メタバースの作成(1) 各自でメタバースの作成を行う。 チーム内外で教え合うことを期待する。	
第14回	メタバースの作成(2) 各自でメタバースの作成を行う。 チーム内外で教え合うことを期待する。	
第15回	メタバース展示会 各自のメタバースに招待して展示会を行う。 メタバース内で感想を作者に伝えるなど交流する。	
授業計画 備考2	メタバースはCluster(クラスター)を想定しているが，変更もありうる。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講姿勢，発表・討議への参加，予復習の状況によって評価する。
レポート	30	XRを構成する各技術の違いと事例が具体的に述べられていること。授業で全体的な傾向についてコメントをする。個々の詳細なコメントを希望する学生は研究室にお越しいただきたい。
小テスト		
定期試験		
その他	40	発表，作品により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. チームによりデバイスを共有し学修を進める。自分勝手な行動やチーム活動へ消極的な態度は厳に慎むこと。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として授業にかかわる内容をインターネットで調べ疑問点を明らかにする。 2. 復習として授業で扱った内容を振り返るほかインターネット等で調べ更に知識を深める。 3. レポートを作成する。 4. メタバース作品課題を作る。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	参考となるWebサイト等を授業で紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. XRを構成する各々の技術の区別ができる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. XRを構成する各々の技術の事例が挙げられる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. HMDとメタバースがどういうもので現在何ができるのかを理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
技能	1. HMDを自身で利用できるようになる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。
技能	2. メタバースが制作できるようになる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。

科目名	ウェブデザイン演習			授業番号	SG333	サブタイトル			
教員	脇坂 基徳								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	学修したウェブデザインの専門知識・スキルを発揮し，より具体的に実現するため，Photoshop・Illustratorを使用したデザインをトレースする技術・知識の習得を行う。また習得したトレース技術をウェブデザイン制作に活用し作品の企画・制作を行う。なお本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため，「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。								
到達目標	実践の場面で，身につけてきた専門知識・スキルを発揮し，より具体的にウェブデザイン作品制作を実現し，Photoshop・Illustratorを用いてトレースおよびデザイン制作を行うことができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	科目のオリエンテーション ／ デザイントレースの基礎知識	
第2回	トレース実践 その1	
第3回	トレース実践 その2	
第4回	ウェブデザイン作品制作 vol.1	
第5回	ウェブデザイン作品制作 vol.2	
第6回	トレース実践 その3	
第7回	トレース実践 その4	
第8回	ウェブデザイン作品制作 vol.3	
第9回	ウェブデザイン作品制作 vol.4	
第10回	トレース実践 その5	
第11回	トレース実践 その6	
第12回	ウェブデザイン作品制作 vol.5	
第13回	ウェブデザイン作品制作 vol.6	
第14回	ウェブデザイン作品制作 vol.7	
第15回	ウェブデザイン作品制作 vol.8 ／ 科目の総括	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術は日々アップデートされ続けているため，トライ&エラーを繰り返すことで自らの知識・手段を増やすことができる。そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって自らテーマとなるウェブサイトを探しトレース作業を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
トレース&模写で学ぶ デザインのドリル	Power Design Inc. (著)	ソシム	978-4802612579	
使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEB CRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	Webデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. Photoshop・Illustratorを使用したデザインをトレースする知識。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する授業内容を十分理解している。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する授業内容をおおむね理解している。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する最低限の内容は理解している	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. Webデザイン作品制作において、思い通りの効果が得られない事象の解決や、より高い完成度にするために、工夫を施すことができる。	授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	十分に工夫を施すことができる。	おおよそ工夫を施すことができる。	助言を得ながら工夫を施すことができる。	工夫を施すことができない。
技能	1. Photoshop・Illustratorを使用したデザインをトレースする技術の習得。	Photoshop・Illustratorを使用した非常に高度なトレース技術を習得し、クオリティの高いデザインをトレースできる。	Photoshop・Illustratorを使用したより高度なトレース技術を習得し、クオリティの高いデザインをトレースできる。	Photoshop・Illustratorを使用した高度なトレース技術を習得し、クオリティの高いデザインをトレースできる。	Photoshop・Illustratorを使用してデザインをトレースできる。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術を理解しているが、実践的なスキルには至っていない。
技能	2. 習得したトレース技術によってWebページのデザインを制作実現する技能。	習得したトレース技術を授業内容を超えてWebデザイン制作に活用できる。	習得したトレース技術を十分にWebデザイン制作に活用できる。	習得したトレース技術をおおむねWebデザイン制作に活用できる。	習得したトレース技術を最低限のWebデザイン制作に活用できる。	習得したトレース技術を最低限のWebデザイン制作にも活用できない。

科目名	ウェブアプリ開発			授業番号	SG334	サブタイトル			
教員	吉谷 俊爾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ウェブ技術を活用した，動的表現（インタラクティブ性）をもつアプリケーションの実現方法を学ぶ。フロントエンド（クライアントサイド）とバックエンド（サーバサイド）の両方のプログラミング技術を，事例演習により説明し課題演習によりスキルを高める。使用言語は，Webの基本であるHTML・CSSに加えJavaScript・Pythonを使用する。								
到達目標	1.アプリケーションに必要な機能および実現方法を考察することができる。 2.機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスを踏むことができる。 3.ウェブサイトにおいて，動的表現のためのフロントエンド技術を活用できる。 4.ウェブサイトにおいて，動的表現のためのバックエンドの技術を活用できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ウェブサイトにおける動的表現 動的表現（インタラクティブ性）で実現されている事例を理解する。 フロントエンド（クライアントサイド）技術とバックエンド（サーバサイド）技術の違いを理解する。	
第2回	フロントエンド：ライブラリ・プラグインの活用 jQueryライブラリ，JQueryプラグイン(slickなど)を活用して，少ないコーディングでスライドショー・ハンバーガーボタン・アコーディオンメニューが実現できることを理解する。	
第3回	フロントエンド：HTML(フォーム) INPUT要素など，フォーム部品の種類と利用方法を理解する。	
第4回	フロントエンド：JavaScriptによるフォーム入力値の利用 JavaScript言語でフォーム部品に入力された値を利用する方法を理解する(DOMの理解)。計算アプリなどの作成。	
第5回	フロントエンド：JavaScriptによるタイマーの利用 JavaScript言語のタイマー機能の活用方法を理解する。アニメーションアプリなどの作成。	
第6回	フロントエンド：JavaScriptによるデータ保存(WebStorage)の利用 JavaScript言語によるWebStorageへのデータ保存機能の活用方法を理解する。LocalStorageとSessionStorageの違いを理解する。 メモアプリの作成。	
第7回	バックエンド：開発環境の構築 Visual Studio CodeとPython言語による開発環境の構築を行う。また，PythonのWebアプリケーションフレームワーク「Flask」（フラスク）を利用可能にする。	
第8回	バックエンド：Flaskの基本 Flaskを利用するための最低限のPythonコーディングを理解する。ルーティングの設定，Webサーバの起動方法，Webブラウザでの確認方法を理解する。	
第9回	バックエンド：テンプレートと静的ファイル Flaskにおけるtemplatesフォルダとstaticフォルダの意味，テンプレートの活用方法を理解する。	
第10回	バックエンド：フォームデータの取得 フォームデータを取得し，別ページに表示したりファイルに保存したり出来ることを理解する。	
第11回	バックエンド：新着情報ページの作成 新着情報を投稿しWebページに表示できるアプリを作成する。	
第12回	バックエンド：データベースの活用1 SQLAlchemy，SQLiteの基本的な使い方を理解する。	
第13回	バックエンド：データベースの活用2 新着情報ページのデータベース化を行う。	
第14回	バックエンド：Webチャットアプリの作成 各自でWebチャットアプリを設計・作成する。	
第15回	総合：更に学ぶ為の材料 フロントエンドフレームワーク「Bootstrap」，Webアプリケーションフレームワーク「Django」など，更に学ぶ際に必要となる情報を知る。	
授業計画 備考2	変化がはやい分野なので必要に応じてライブラリやフレームワークを変更する。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講姿勢，予復習の状況によって評価する。
レポート	70	提示した問題に対して意図した動作をするWebページを作成しレポートにまとめられること。総評は授業で伝えるが，個別に改善点が知りたい場合は問い合わせにより回答する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. メディアフィールド（ウェブデザイン）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として，授業計画で示した内容をWebで事前に調べておくこと。余力があれば，「入門」「チュートリアル」などのキーワードとともに検索し実際にコーディングしてみることをお勧めする。個人差はあるが予習の目安は各回につき2時間である。 2. 復習として，授業で行った内容を再度自分で作成すること。余力があれば，改良を施したり設計から行ってみることをお勧めする。個人差はあるが復習の目安は各回につき2時間である。 3. 複数回のレポート課す。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて授業で示す。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に対応できるインタラクティブなウェブページを実現するプログラミング技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. アプリケーションに必要な機能および実現方法を考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法を，授業内容を超えて主体的に考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法を，十分に考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法を，考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法に関して，最低限は考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法に関して，最低限の考察が認められない。
思考・問題解決能力	2. 機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスを踏むことができる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスにより主体的に目的の機能を達成できる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスにより十分に目的の機能を達成できる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスによりおおよそ目的の機能を達成できる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するというプロセスを助言を得ながら踏むことができる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するというプロセスを踏むことができない。
技能	1. ウェブサイトにおいて，動的表現のためのフロントエンド技術を活用できる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容の活用が十分認められる。	評価の観点に関して授業内容の活用がおおむね認められる。	評価の観点に関して最低限の内容の活用は認められる。	評価の観点に関して最低限の内容の活用が認められない。
技能	2. ウェブサイトにおいて，動的表現のためのバックエンドの技術を活用できる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容の活用が十分認められる。	評価の観点に関して授業内容の活用がおおむね認められる。	評価の観点に関して最低限の内容の活用は認められる。	評価の観点に関して最低限の内容の活用が認められない。

科目名	経営学概論			授業番号	SM111	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	経営学の基礎を学ぶ。経営に必要な諸資源は，ヒト，モノ，カネ，情報，であると言われるように，これらの諸資源をどう活用するかが成功の鍵となる。本講義では，この点の基礎を学びつつ，企業がいかなる問題に直面してきたかを，またそれに向けてどう取り組んできたかを学ぶ。また，基礎的な知識の修得のみならず多面的に捉えることの重要性やその醍醐味を理解することができる。								
到達目標	＊専門用語の意味を正しく理解した上で、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を適切に説明できる。 ＊学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響を適切に説明できる。 ＊企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	法人の分類と会社の形態，株式と株式会社(1)：営利法人、株、無限責任と有限責任の相違、損益計算書、貸借対照表の基本、など。	
第2回	法人の分類と会社の形態，株式と株式会社(2)：営利法人、株、無限責任と有限責任の相違、損益計算書、貸借対照表の基本、など。	
第3回	会社法における機関設計(1)：株主総会、取締役会、監査役会、株主、取締役、監査役、などの役割や関係。	
第4回	会社法における機関設計(2)：株主総会、取締役会、監査役会、株主、取締役、監査役、などの役割や関係。	
第5回	組織(1)：フォーマル組織とインフォーマル組織、官僚制組織、近代組織論，ライン組織機能別組織、ライン･アンド･スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織、タスクフォース、など。	
第6回	組織(2)：フォーマル組織とインフォーマル組織、官僚制組織、近代組織論，ライン組織機能別組織、ライン･アンド･スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織、タスクフォース、など。	
第7回	大量生産とその仕事 (1)：テイラーの科学的管理、フォードとT型自動車とベルトコンベア，執行(現業)と計画の分離、動作・時間研究、課業、細分化・標準化・専門化、など。	
第8回	大量生産とその仕事 (2)：テイラーの科学的管理、フォードとT型自動車とベルトコンベア，執行(現業)と計画の分離、動作・時間研究、課業、細分化・標準化・専門化、など。	
第9回	人と仕事(1)：人事労務管理・人的資源管理、労働三法と労働三権、コース制、職能資格(給)制度、職能給と職務給の相違、昇格、昇進、昇給、ベア、出向、転籍、など。	
第10回	人と仕事(2)：人事労務管理・人的資源管理、労働三法と労働三権、コース制、職能資格(給)制度、職能給と職務給の相違、昇格、昇進、昇給、ベア、出向、転籍、など。	
第11回	経営戦略(1)：戦略の概念（経営理念、ミッション、ビジョン、戦術、方針、計画との相違）、全社戦略、機能戦略、事業戦略、多角化戦略、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、など。	
第12回	経営戦略(2)：戦略の概念（経営理念、ミッション、ビジョン、戦術、方針、計画との相違）、全社戦略、機能戦略、事業戦略、多角化戦略、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、など。	
第13回	マーケティング(1)：顧客志向、社会志向、プロダクト(製品)・ライフサイクル、マーケティング・ミックス(4つのCと４つのP)、流通の仕組み、サービスマーケティング(7つのP)、プロモーションの種類とその効果、など。	
第14回	マーケティング(2)：顧客志向、社会志向、プロダクト(製品)・ライフサイクル、マーケティング・ミックス(4つのCと４つのP)、流通の仕組み、サービスマーケティング(7つのP)、プロモーションの種類とその効果、など。	
第15回	情報管理・経営情報： 情報資源の範疇、基本的な用語と意味(英語表記の略記と発音を表記したカタカナの氾濫への対応)、Society 5.0、デジタルトランスフォーメーション、情報業界とその職種、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数，などにおける状況。
レポート		
小テスト	40	単元毎に行う。単元毎の主要なポイントやキーワードの理解度を評価する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・上林憲雄，他編『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス，2018年。 ・「よくわかる現代経営」編集委員会，編『よくわかる現代経営[第6版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)』ミネルヴァ書房，2021年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門用語の意味を正しく理解した上で、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度は高くはないが、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度はまだまだ低いが、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性をなんとか説明できる。	基礎的な概念や用語の意味を全く説明できない。あるいは、経営諸資源の重要性を主観的または直観的に説明している。
知識・理解	２．学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響を適切に説明できる。	学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響を適切に説明できる。	学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響を概ね適切に説明できる。	学説や研究の背景や影響については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	学説や研究の背景についてはほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	３．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	１．企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に企業組織の問題点を語っている。
態度	１．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	基礎簿記A			授業番号	SM121	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。 本科目と「基礎簿記演習A」とのセットで日商簿記検定3級の「仕訳」に関連する出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【商業の発達と簿記会計】 簿記会計と株式会社の起源について理解する。	
第2回	【簿記会計の基礎】 簿記会計の目的，役割を理解する。	
第3回	【仕訳の基本】 取引の記録法である仕訳のルールを理解する。	
第4回	【商品売買】 三分法，掛取引，返品・値引き，諸掛かりなどの会計処理について理解する。	
第5回	【現金】 現金，現金過不足，小切手などの会計処理について理解する。	
第6回	【預金】 各種預金，当座借越などの会計処理について理解する。	
第7回	【小口現金】 小口現金の役割と会計処理について理解する。	
第8回	【手形と電子記録債権債務】 手形と電子記録債権・債務の会計処理について理解する。	
第9回	【小テスト（１）】 これまでに学修した内容についての小テストを行う。	
第10回	【貸付金・借入金，手形貸付金・手形借入金】 金銭貸借の会計処理について理解する。	
第11回	【有価証券】 株式，公社債などの有価証券についての会計処理を理解する。	
第12回	【その他の債権債務（１）】 前払金・前受金，仮払金・仮受金についての会計処理を理解する。	
第13回	【その他の債権債務（２）】 立替金，預り金，給料の支払いについての会計処理を理解する。	
第14回	【その他の債権債務（３）】 商品券，保証金などの会計処理について理解する。	
第15回	【小テスト（２）】 これまでに学修した内容についての小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト（50点×2回）	100	小テスト（１）：仕訳ルールの理解度について評価する。 小テスト（２）：通常取引の会計処理方法の理解度について評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記演習A」を同時に履修登録すること。 これまでに簿記を学修したことがあっても「日商簿記３級」を取得していなければ、この授業を履修登録することが望ましい。
授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの問題を確認する。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記3級	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110010	1,210円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．簿記の目的，種類を理解している	簿記の目的と種類を情報利用者との関連で理解している	簿記の目的を簿記の種類ごとに理解している	簿記の目的と種類の基本を理解している	簿記の目的は理解しているが種類を理解していない	簿記の目的と種類を理解してない
知識・理解	２．財務諸表と簿記の5要素を理解している	財務諸表と簿記の5要素の増減関係を理解している	財務諸表と簿記の5要素の関連性を理解している	財務諸表と簿記の5要素の基本を理解している	財務諸表は理解しているが簿記の5要素を理解していない	財務諸表と簿記の5要素を理解していない
技能	１．取引の仕訳と勘定への転記ができる	高度に複雑な取引の仕訳と転記ができる	複雑な取引の仕訳と転記ができる	基本的な取引の仕訳と転記ができる	基本的な取引の仕訳はできるが転記ができない	取引の仕訳と転記ができない
技能	２．仕訳と勘定から取引を類推できる	高度に複雑な取引であっても仕訳と勘定から類推できる	複雑な取引であっても仕訳と勘定から類推できる	基本的な取引であれば仕訳と勘定から類推できる	仕訳から取引を類推できるが勘定からはできない	仕訳と勘定から取引を類推できない

科目名	基礎簿記演習 A			授業番号	SM122	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。 本科目と「基礎簿記A」とのセットで日商簿記検定3級の「仕訳」に関連する出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【商業の発達と簿記会計】 簿記会計と株式会社の起源について理解する。 上記の内容について，ワークおよびディスカッションをして理解を深める。	
第2回	【簿記会計の基礎】 簿記会計の目的，役割を理解する。 上記の内容について，ワークおよびディスカッションをして理解を深める。	
第3回	【仕訳の基本】 取引の記録法である仕訳のルールを理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第4回	【商品売買】 三分法，掛取引，返品・値引き，諸掛かりなどの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第5回	【現金】 現金，現金過不足，小切手などの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第6回	【預金】 各種預金，当座借越などの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第7回	【小口現金】 小口現金の役割と会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第8回	【手形と電子記録債権債務】 手形と電子記録債権・債務の会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第9回	【小テスト（１）の解答解説】 「基礎簿記A」で行った小テスト（１）の解答解説を行い，これまでの学修内容の理解を深める。	
第10回	【貸付金・借入金，手形貸付金・手形借入金】 金銭貸借の会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第11回	【有価証券】 株式、公社債などの有価証券についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第12回	【その他の債権債務（１）】 前払金・前受金，仮払金・仮受金についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第13回	【その他の債権債務（２）】 立替金，預り金，給料の支払いについての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第14回	【その他の債権債務（３）】 商品券，保証金などの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第15回	【小テスト（２）の解答解説】 「基礎簿記A」で行った小テスト（２）の解答解説を行い，これまでの学修内容の理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト（50点×2回）	100	小テスト（１）：仕訳ルールの理解度について評価する。 小テスト（２）：通常取引の会計処理方法の理解度について評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記A」を同時に履修登録すること。 これまでに簿記を学修したことがあっても「日商簿記３級」を取得していなければ、この授業を履修登録することが望ましい。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容に関わる部分を読み疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの問題を確認する。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記3級	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110010	1,210円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．簿記の目的，種類を理解している	簿記の目的と種類を情報利用者との関連で理解している	簿記の目的を簿記の種類ごとに理解している	簿記の目的と種類の基本を理解している	簿記の目的は理解しているが種類を理解していない	簿記の目的と種類を理解してない
知識・理解	２．財務諸表と簿記の5要素を理解している	財務諸表と簿記の5要素の増減関係を理解している	財務諸表と簿記の5要素の関連性を理解している	財務諸表と簿記の5要素の基本を理解している	財務諸表は理解しているが簿記の5要素を理解していない	財務諸表と簿記の5要素を理解していない
技能	１．取引の仕訳と勘定への転記ができる	高度に複雑な取引の仕訳と転記ができる	複雑な取引の仕訳と転記ができる	基本的な取引の仕訳と転記ができる	基本的な取引の仕訳はできるが転記ができない	取引の仕訳と転記ができない
技能	２．仕訳と勘定から取引を類推できる	高度に複雑な取引であっても仕訳と勘定から類推できる	複雑な取引であっても仕訳と勘定から類推できる	基本的な取引であれば仕訳と勘定から類推できる	仕訳から取引を類推できるが勘定からはできない	仕訳と勘定から取引を類推できない

科目名	現代企業論			授業番号	SM212	サブタイトル			
教員	倉田 致知								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	「株式会社とは何か」 極めて多くの人が株式会社に雇用され，生計の糧を得ている。また，ほぼ全ての人がそこで生み出された財やサービスを使っている。言い換えると，株式会社の経営の良し悪しが多くの人々の暮らしに影響を与えている。本講義は、受講者が現代企業の仕組みと影響を法的または学術的に捉えつつ、ならびにそれらと実態を比較しつつ，受講者が株式会社を多面的に説明できることを目的としている。								
到達目標	＊専門用語の意味を正しく理解した上で、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを適切に説明できる。 ＊アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	法人の分類と会社の形態、株式・株式会社とは(1)：営利法人、有限責任社員と無限責任社員の相違、議決権、証券取引所、プライム、スタンダード、グロース、TPM、非上場株式会社、など。	
第2回	法人の分類と会社の形態、株式・株式会社とは(2)：営利法人、有限責任社員と無限責任社員の相違、議決権、証券取引所、プライム、スタンダード、グロース、TPM、非上場株式会社、など。	
第3回	会社法における機関設計(1)：株主、株主総会、取締役、取締役会、監査役、監査役会、などの役割と関係。	
第4回	会社法における機関設計(2)：株主、株主総会、取締役、取締役会、監査役、監査役会、などの役割と関係。	
第5回	会社は誰のものか？(1)：株主、株主総会、取締役、取締役会、監査役、監査役会、の関係における過去と現在。	
第6回	会社は誰のものか？(2)：株主、株主総会、取締役、取締役会、監査役、監査役会、の関係における過去と現在。	
第7回	会社は誰のものか？(3)：就業者数、利害関係者、海外直接投資、企業経営の目的、社会的責任、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals：SDGs）、他国のコーポレートガバナンスの特徴、などの観点から。	
第8回	会社は誰のものか？(4)：就業者数、利害関係者、海外直接投資、企業経営の目的、社会的責任、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals：SDGs）、他国のコーポレートガバナンスの特徴、などの観点から。	
第9回	企業規模と開業・起業の現状(1)：大・中・小企業の定義や相違，ベンチャー、ユニコーン、開業率、廃業率、倒産件数、起業意識、など。	
第10回	企業規模と開業・起業の現状(2)：大・中・小企業の定義や相違，ベンチャー、ユニコーン、開業率、廃業率、倒産件数、起業意識、など。	
第11回	多様な結びつき(1)：アライアンス、M&A、子会社、親会社、関連会社、関係会社、系列(ケイレツ)、グループ、下請け、純粋持株会社、事業持株会社、など。	
第12回	多様な結びつき(2)：アライアンス、M&A、子会社、親会社、関連会社、関係会社、系列(ケイレツ)、グループ、下請け、純粋持株会社、事業持株会社、など。	
第13回	業界事情研究(1)：メーカー、商社、卸、小売、金融、サービス、インフラ、ソフトウエア、通信、広告、出版、マスコミ、など。	
第14回	業界事情研究(2)：メーカー、商社、卸、小売、金融、サービス、インフラ、ソフトウエア、通信、広告、出版、マスコミ、など。	
第15回	業界事情研究(3)：メーカー、商社、卸、小売、金融、サービス、インフラ、ソフトウエア、通信、広告、出版、マスコミ、など。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
レポート	30	構成，内容の妥当性や価憑性、書き方、誤字脱字の度合、データ収集力、などの観点から評価する。なお、レポートへの評価はユニバから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。また，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・坂本恒夫，大坂良宏，鳥居陽介『テキスト 現代企業論(第4版)』同文舘出版。 ・三戸浩，池内秀己勝部伸夫，『企業論 第4版』有斐閣アルマ，2018年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門用語の意味を正しく理解した上で、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度は高くはないが、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度はまだまだ低いが、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みをなんとか説明できる。	基礎的な概念や用語の意味を全く説明できない。あるいは、会社の仕組みを主観的または直観的に説明している。
知識・理解	２．アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究の背景や影響あるいは限界については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究の背景や影響あるいは限界についてはほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	３．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	1．企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業組織が直面している（直面した）問題を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に企業組織の問題点を語っている。
態度	1．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	マーケティング			授業番号	SM213	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	マーケティングの定義は時代とともに変遷し，その指す領域や次元は極めて広い．マーケティングの重要性を論理的に説明でき，且つ特定の問題に対してマーケティングの手法を適用できるように，マーケティングの学説のみならず企業で行われているマーケティングの実際を学ぶ。								
到達目標	＊専門用語の意味を正しく理解した上で、マーケティングの重要性や手法を適切に説明できる。 ＊マーケティングの学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	マーケティングの概念,志向の変遷(プロダクト志向,シーズ志向,セリング志向,顧客志向,顧客の創造,社会志向）、マーケティング・ミックス(４つのPと4つのC）、サービス・マーケティング、7つのP、STP(セグメンテーション，ターゲティング，ポジショニング）、など。	
第2回	プロダクト・ライフ・サイクル説(1)：プロダクト・ライフ・サイクル説、リーダー,チャレンジャー,ニッチャー,フォロワーの相違、ならびにイノベーター,アーリーアダプター,アーリーマジョリティ,レイトマジョリティ,ラガードの相違、キャズム、など。	
第3回	プロダクト・ライフ・サイクル説(2)：プロダクト・ライフ・サイクル説、リーダー,チャレンジャー,ニッチャー,フォロワーの相違、ならびにイノベーター,アーリーアダプター,アーリーマジョリティ,レイトマジョリティ,ラガードの相違、キャズム、など。	
第4回	精緻化見込みモデル（情報処理の動機,情報処理の能力,中心的(処理)ルート,周辺的(処理)ルート）、アサエルの購買行動類型(複雑な情報処理型,バラエティ・シーキング型,認知的不協和低減型,慣性型）、など。（1）	
第5回	精緻化見込みモデル（情報処理の動機,情報処理の能力,中心的(処理)ルート,周辺的(処理)ルート）、アサエルの購買行動類型(複雑な情報処理型,バラエティ・シーキング型,認知的不協和低減型,慣性型）、など。（2）	
第6回	消費者の購買意思決定プロセス(1）：AIDA，AIDMA，DAGMARあるいはコミュニケーション・スペクトラム，AISAS，SIPS、など。	
第7回	消費者の購買意思決定プロセス(2）：AIDA，AIDMA，DAGMARあるいはコミュニケーション・スペクトラム，AISAS，SIPS、など。	
第8回	プロモーション(1)：広告業界、広告の種類、効果測定の方法、CPM(Cost Per Mile)，CPC(Cost Per Click)，CPV(Cost Per View)、広告予算設定方法、リスティング広告、パブリック・リレーションズ、IR（インベスター・リレーションズ）、など。	
第9回	プロモーション(2)：広告業界、広告の種類、効果測定の方法、CPM(Cost Per Mile)，CPC(Cost Per Click)，CPV(Cost Per View)、広告予算設定方法、リスティング広告、パブリック・リレーションズ、IR（インベスター・リレーションズ）、など。	
第10回	ブランド(1)：コトラーのブランド戦略、ブランドエクイティ,ブランドロイヤルティ,プライベートブランド,ナショナルブランド,グループブランド,コーポレート・ブランド,ファミリー・ブランド,の相違と各特徴、など。	
第11回	ブランド(2)：コトラーのブランド戦略、ブランドエクイティ,ブランドロイヤルティ,プライベートブランド,ナショナルブランド,グループブランド,コーポレート・ブランド,ファミリー・ブランド,の相違と各特徴、など。	
第12回	流通・チャネルや立地の吸引力(1)：卸,小売の関係、商社とは、チャネル、フランチャイズ、Pos(販売時点情報管理）とその進展、SCM(サプライチェーンマネジメント)、ハフモデル(修正ハフモデル含む)、商圏の次元、商圏商業力指数、ライリーの法則、ライリー&コンバースの法則、コンバースの法則、など。	
第13回	流通・チャネルや立地の吸引力(2)：卸,小売の関係、商社とは、チャネル、フランチャイズ、Pos(販売時点情報管理）とその進展、SCM(サプライチェーンマネジメント)、ハフモデル(修正ハフモデル含む)、商圏の次元、商圏商業力指数、ライリーの法則、ライリー&コンバースの法則、コンバースの法則、など。	
第14回	価格(1)：コストプラス法、固定費と変動費、損益分岐点、端数価格あるいは大台割れの価格、市場価格追随法、段階価格、ドロシーレーンの法則、ＰＳＭ(価格感応度調査)、ダイナミックプライシング、など。	
第15回	価格(2)：コストプラス法、固定費と変動費、損益分岐点、端数価格あるいは大台割れの価格、市場価格追随法、段階価格、ドロシーレーンの法則、ＰＳＭ(価格感応度調査)、ダイナミックプライシング、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数，などにおける状況。
レポート	30	構成，内容の妥当性や価憑性，書き方，誤字脱字の度合，データ収集力，などの観点から評価する。なお、レポートへの評価はユニバから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・廣田章光・石井淳蔵，編『１からのマーケティング』中央経済社，2004年。 ・伊藤宗彦，編『1からのサービス経営』中央経済社，2010年。 ・(公社)日本マーケティング協会 (監修)『ベーシック・マーケティング(第2版)』同文舘出版，2019年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門用語の意味を正しく理解した上で、マーケティングの重要性や手法を適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、マーケティングの重要性や手法を適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、マーケティングの重要性や手法を概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度は高くはないが、マーケティングの重要性や手法を概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度はまだまだ低いが、マーケティングの重要性や手法を概ね適切に説明できる。	基礎的な概念や用語の意味を全く説明できない。あるいは、マーケティングの重要性や手法を主観的または直観的に説明している。
知識・理解	２．マーケティングの学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	マーケティングの学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	マーケティングの学説や研究のポイント、ならびにそれら研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	マーケティングの学説や研究の背景や影響あるいは限界については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	マーケティングの学説や研究の背景や影響あるいは限界についてはほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	マーケティングの学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	３．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	１．企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業組織が直面している（直面した）問題を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業組織が直面している（直面した）問題を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に企業組織の問題点を語っている。
態度	１．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	基礎簿記B			授業番号	SM221	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。 内容としては，本科目と「基礎簿記演習B」とのセットで日商簿記検定3級の「決算手続」に関連する出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【「基礎簿記A」の復習と訂正仕訳】 「基礎簿記A」で学修したことを復習する。 また，誤った仕訳の訂正方法について理解する。	
第2回	【その他の費用】 消耗品，租税公課，福利厚生費などの会計処理について理解する。	
第3回	【貸倒れと貸倒引当】 貸倒れと貸倒引当金についての会計処理を理解する。	
第4回	【有形固定資産と減価償却】 固定資産の購入と減価償却についての会計処理を理解する。	
第5回	【株式の発行，剰余金の配当と処分】 株式会社設立，剰余金の処分などについての会計処理を理解する。	
第6回	【法人税等と消費税】 法人税等と消費税についての会計処理を理解する。	
第7回	【経過勘定（１）】 費用・収益の前払い，前受けについての会計処理を理解する。	
第8回	【経過勘定（２）】 費用・収益の未払，未収についての会計処理を理解する。	
第9回	【帳簿への記入】 主要簿，補助簿への記入法について理解する。	
第10回	【試算表】 三種類の試算表について理解する。	
第11回	【伝票と証ひょう】 伝票および証ひょうをもとにした会計処理について理解する。	
第12回	【精算表】 決算整理事項の精算表での会計処理について理解する。	
第13回	【財務諸表】 決算整理事項の会計処理をもとに財務諸表の作成方法を理解する。	
第14回	【帳簿の締め切りと期首の再振替仕訳】 帳簿の締め切り法と再振替仕訳の会計処理について理解する。	
第15回	【小テスト】 決算手続きについての小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記3級の検定試験に準ずる決算手続きの問題をもとに，理解度を評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記演習B」を同時に履修登録すること。 また，「基礎簿記A」「基礎簿記演習A」を履修済みであること。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記3級	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110010	1,210円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．簿記システムによって作成される財務諸表の種類を理解している	財務諸表の種類とそれぞれのステートメントの関係性を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の関係を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書について理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の存在・名前は知っている	財務諸表の意味を理解していない
知識・理解	2．財務諸表の種類と情報内容を理解している	財務諸表の種類とそれぞれのステートメントの情報内容を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を部分的に理解している	財務諸表の情報内容を全く理解していない
技能	1．決算整理事項の仕訳ができる	高度に複雑な決算整理事項でも仕訳ができる	複雑な決算整理事項でも仕訳ができる	基本的な決算整理事項の仕訳ができる	単純な決算整理事項の仕訳はできる	決算整理事項の仕訳ができない
技能	2．決算の会計処理ができる	決算整理後の試算表，外部報告用の財務諸表，精算表のすべての会計処理ができる	外部報告用の財務諸表，精算表の会計処理ができる	精算表の会計処理ができる	修正記入への会計処理ができる	決算整理の会計処理ができない

科目名	基礎簿記演習 B			授業番号	SM222	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。 内容としては，本科目と「基礎簿記B」とのセットで日商簿記検定3級の「決算手続」に関連する出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【「基礎簿記A」の復習と訂正仕訳】 「基礎簿記A」で学修したことを復習する。また，誤った仕訳の訂正方法について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第2回	【その他の費用】 消耗品，租税公課，福利厚生費などの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第3回	【貸倒れと貸倒引当金】 貸倒れと貸倒引当金についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第4回	【有形固定資産と減価償却】 固定資産の購入と減価償却についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第5回	【株式の発行，剰余金の配当と処分】 株式会社設立，剰余金の処分などについての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第6回	【法人税等と消費税】 法人税等と消費税についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第7回	【経過勘定（１）】 費用・収益の前払い，前受けについての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第8回	【経過勘定（２）】 費用・収益の未払，未収についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第9回	【帳簿への記入】 主要簿，補助簿への記入法について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第10回	【試算表】 三種類の試算表について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第11回	【伝票と証ひょう】 伝票および証ひょうをもとにした会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第12回	【精算表】 決算整理事項の精算表での会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第13回	【財務諸表】 決算整理事項の会計処理をもとに財務諸表の作成方法を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第14回	【帳簿の締め切りと期首の再振替仕訳】 帳簿の締め切り法と再振替仕訳の会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第15回	【小テストの解答解説】 「基礎簿記B」で行った小テストの解答解説を行い，これまでの学修内容の理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記3級の検定試験に準ずる決算手続きの問題をもとに，理解度を評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記B」を同時に履修登録すること。 また，「基礎簿記A」「基礎簿記演習A」を履修済みであること。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記3級	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110010	1,210円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．簿記システムによって作成される財務諸表の種類を理解している	財務諸表の種類とそれぞれのステートメントの関係性を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の関係を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書について理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の存在・名前は知っている	財務諸表の意味を理解していない
知識・理解	2．財務諸表の種類と情報内容を理解している	財務諸表の種類とそれぞれのステートメントの情報内容を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を部分的に理解している	財務諸表の情報内容を全く理解していない
技能	1．決算整理事項の仕訳ができる	高度に複雑な決算整理事項でも仕訳ができる	複雑な決算整理事項でも仕訳ができる	基本的な決算整理事項の仕訳ができる	単純な決算整理事項の仕訳はできる	決算整理事項の仕訳ができない
技能	2．決算の会計処理ができる	決算整理後の試算表，外部報告用の財務諸表，精算表のすべての会計処理ができる	外部報告用の財務諸表，精算表の会計処理ができる	精算表の会計処理ができる	修正記入への会計処理ができる	決算整理の会計処理ができない

科目名	簿記特別演習			授業番号	SM223	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	日商簿記検定3級の合格に必要となる知識とhow toを説明する。								
到達目標	日商簿記検定3級に準じた演習問題に取り組むことにより，実際の試験に対応するための応用力を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【日商簿記検定試験とは】 日商簿記検定試験について理解する。	
第2回	【第１問対策（１）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第3回	【第１問対策（２）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第4回	【第１問対策（３）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第5回	【第１問対策（４）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第6回	【第１問対策（５）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第7回	【第３問対策（１）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第8回	【第３問対策（２）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第9回	【第３問対策（３）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第10回	【第３問対策（４）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第11回	【第３問対策（５）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第12回	【第３問対策（６）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第13回	【第２問対策（１）】 第２問のアラカルト問題に解答するための会計処理を理解する。	
第14回	【第２問対策（２）】 第２問のアラカルト問題に解答するための会計処理を理解する。	
第15回	【小テスト（総合問題）】 検定試験に準じた小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	検定試験に準じた問題を出題し、理解度を評価する。 フィードバックとして、授業時間に解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記Ａ」「基礎簿記演習Ａ」，「基礎簿記Ｂ」「基礎簿記演習Ｂ」を履修済みであること。
授業外学修	予習として，テキストのうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題と配布プリントの演習問題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回，演習問題のプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				2200

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	１．日商簿記3級の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	ファイナンシャルプラン			授業番号	SM231	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	ファイナンシャルプランとは，人生設計（ライフプラン）の経済的側面を計画することであるといえる。 本科目では，年金，保険，ローン，金融資産，不動産，税金，相続等，ファイナンシャルプランに関連する基礎的な知識を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，ファイナンシャルプランに関する基本的な知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【ライフプランニングと資金計画（１）】 FPについての概要を理解する。	
第2回	【ライフプランニングと資金（２）】 人生の三大資金について理解する。医療保険制度について理解する。	
第3回	【ライフプランニングと資金（３）】 医療保険制度について理解する。	
第4回	【ライフプランニングと資金（４）】 公的年金制度について理解する。企業年金制度について理解する。	
第5回	【ライフプランニングと資金（５）】 企業年金などについて理解する。	
第6回	【リスクマネジメント（１）】 保険の基本を理解する。	
第7回	【リスクマネジメント（２）】 生命保険について理解する。	
第8回	【リスクマネジメント（３）】 損害保険について理解する。	
第9回	【リスクマネジメント（４）】 第三分野の保険について理解する。	
第10回	【リスクマネジメント（５）】 保険に関連する税金について理解する。	
第11回	【金融資産運用（１）】 金融・経済の基本について理解する。	
第12回	【金融資産運用（２）】 金融商品（預貯金、債券，株式など）について理解する。	
第13回	【金融資産運用（３）】 投資理論の基礎を理解する。	
第14回	【金融資産運用（４）】 金融商品に関連する税金について理解する。	
第15回	【小テスト】 これまでに学修した内容について小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	小テストでFP技能士3級検定と同程度の問題を出題し、理解度を評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの指定した問題を解く。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
FP合格へのはじめの一歩（最新バージョン）	滝澤ななみ	TAC出版	9784300105160	1,430円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．人生の3大資金について理解している	ライフプランと関連させて教育資金，住宅取得取得資金，老後資金の制度を正確に理解している	教育資金，住宅取得取得資金，老後資金の制度を正確に理解している	教育資金，住宅取得取得資金，老後資金の基本を理解している	教育資金，住宅取得取得資金，老後資金について一部を理解している	教育資金，住宅取得取得資金，老後資金について理解していない
知識・理解	2．リスクマネジメントについて理解している	ライフプランと関連させて生命保険，損害保険、第三の保険の制度を正確に理解している	生命保険，損害保険、第三の保険の制度を正確に理解している	生命保険，損害保険、第三の保険の基本を理解している	生命保険，損害保険、第三の保険の一部を理解している	生命保険，損害保険、第三の保険について理解していない
技能	1．資金計画に必要な6つの係数を用いて計算できる	終価係数・年金終価係数と現価係数・年金現価係数，減債基金係数，資本回収係数を理解して正確な計算できる	終価係数・年金終価係数と現価係数・年金現価係数を理解して正確な計算できる	終価係数と現価係数を理解して正確な計算できる	終価係数と現価係数を理解しているが正確な計算ができない	終価係数と現価係数の意味を理解していない
技能	2．金融資産運用の技法を理解している	景気を判断する経済指標，金融商品の種類，ポートフォリオ理論について理解している	金融商品の種類とポートフォリオ理論について理解している	金融商品の種類について理解している	金融商品の一部について理解している	金融商品について理解していない

科目名	ファイナンシャルプラン演習			授業番号	SM232	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	ファイナンシャルプランとは，人生設計（ライフプラン）の経済的側面を計画することであるといえる。 本科目では，年金，保険，ローン，金融資産，不動産，税金，相続等，ファイナンシャルプランに関連する基礎的な知識を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，ファイナンシャルプランに関する基本的な知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【タックスプランニング（１）】 所得税の基本を理解する。	
第2回	【タックスプランニング（２）】 所得税の申告と納付について理解する。	
第3回	【タックスプランニング（３）】 所得金額と所得控除について理解する。	
第4回	【タックスプランニング（４）】 年末調整と源泉徴収票について理解する。	
第5回	【タックスプランニング（５）】 青色申告制度について理解する。	
第6回	【不動産（１）】 不動産の基本を理解する。	
第7回	【不動産（２）】 不動産取引と登記について理解する。	
第8回	【不動産（３）】 不動産に関する法律（借地借家法，区分所有法）を理解する。	
第9回	【不動産（４）】 不動産に関する法律（都市計画法，建築基準法など）を理解する。	
第10回	【不動産（５）】 不動産に関連する税金について理解する。	
第11回	【相続・事業継承（１）】 相続の基本を理解する。	
第12回	【相続・事業継承（２）】 相続人，相続の承認と放棄，遺言などについて理解する。	
第13回	【相続・事業継承（３）】 相続税について理解する。	
第14回	【相続・事業継承（４）】 贈与税について理解する。	
第15回	【小テスト】 これまでに学修した内容について小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	小テストでFP技能士3級検定と同程度の問題を出題し、理解度を評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの指定した問題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
FP技能士3級テキスト＋問題集	白鳥光良	TAC出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「ファイナンシャルプラン」のテキストを継続して使用する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．不動産に関する法律と税金について理解している	不動産に関する法律と税金を正確に理解し，不動産取引についてアドバイスができる	不動産に関する法律と税金を正確に理解している	不動産に関する法律と税金の基本を理解している	不動産に関する法律と税金の一部を理解している	不動産に関する法律と税金を理解していない
知識・理解	２．相続・事業承継について理解している	相続・事業承継について財産の評価や税額の計算法も理解している	相続・事業承継についての税金の基本も理解している	相続・事業承継の基本を理解している	相続・事業承継の一部を理解している	相続・事業承継を理解していない
技能	１．所得税について理解している	10種類の所得を理解し，納付税額の計算と青色申告ができる	10種類の所得を理解し，納付税額の計算ができる	所得税の基本を理解している	所得税の一部を理解している	所得税について理解していない
技能	２．タックスプランニングについて理解している	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金を理解し，タックスプランについてアドバイスができる	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金を理解し，税額計算ができる	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金の基本を理解している	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金の一部を理解している	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金を理解していない

科目名	経営戦略論			授業番号	SM314	サブタイトル			
教員	倉田 致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	「戦略とは何か。」経営に関する会話，記事，文献，などにおいて見ない，聞かない日が無いほど，この言葉は浸透している。競争優位の獲得あるいは持続のために使用されているが，ところが使用する人によって意味合いが異なり，かなり多様化している。ビジョンや計画と何が違うのかが曖昧の場合もある。本講義では，経営戦略の研究の変遷とその事例を通して，「戦略」の重要性と現実世界におけるモデルや学説の適用可能性の検討を行う。								
到達目標	＊環境と組織の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊経営戦略論の学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊企業組織が直面している（直面した）問題．ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成．ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	戦略論への注目(1)：オープン・システム論,「環境」と「組織」の狭間。コンティンジェンシー論，ポストコンティンジェンシー論，SWOT分析，など。	
第2回	戦略論への注目(2)：オープン・システム論,「環境」と「組織」の狭間。コンティンジェンシー論，ポストコンティンジェンシー論，SWOT分析，など。	
第3回	戦略論への注目(3)：オープン・システム論,「環境」と「組織」の狭間。コンティンジェンシー論，ポストコンティンジェンシー論，SWOT分析，など。	
第4回	チャンドラー，アンゾフ，ポーターによる戦略論(1)：ビジョン・計画・戦略の相違，戦略と戦術の相違，戦略的意思決定，業務的意思決定，「組織構造は戦略に従う」と「戦略は組織構造に従う」，5フォース，コストリーダーシップ戦略，集中戦略，差別化戦略，価値連鎖，多角化戦略と多角化された事業の評価の仕方(ROI,BCGのPPMなど），など。	
第5回	チャンドラー，アンゾフ，ポーターによる戦略論(2)：ビジョン・計画・戦略の相違，戦略と戦術の相違，戦略的意思決定，業務的意思決定，「組織構造は戦略に従う」と「戦略は組織構造に従う」，5フォース，コストリーダーシップ戦略，集中戦略，差別化戦略，価値連鎖，多角化戦略と多角化された事業の評価の仕方(ROI,BCGのPPMなど），など。	
第6回	チャンドラー，アンゾフ，ポーターによる戦略論(3)：ビジョン・計画・戦略の相違，戦略と戦術の相違，戦略的意思決定，業務的意思決定，「組織構造は戦略に従う」と「戦略は組織構造に従う」，5フォース，コストリーダーシップ戦略，集中戦略，差別化戦略，価値連鎖，多角化戦略と多角化された事業の評価の仕方(ROI,BCGのPPMなど），など。	
第7回	バーニーによる資源ベースの戦略論，VRIOフレームワーク．ハメル＆プラハラードのコア・コンピタンス，ポジショニングの戦略論との相違，ケイパビリティ，ダイナミック・ケイパビリティ，コンピテンシー，など。(1)	
第8回	バーニーによる資源ベースの戦略論，VRIOフレームワーク．ハメル＆プラハラードのコア・コンピタンス，ポジショニングの戦略論との相違，ケイパビリティ，ダイナミック・ケイパビリティ，コンピテンシー，など。(2)	
第9回	ミンツバーグによる戦略に対しての見解，知識社会の中での経営戦略，シュンペーターのイノベーション，プロダクト・イノベーション，プロセス・イノベーション，クリステンセンのイノベーションのジレンマ，オープン・イノベーション，など。(1)	
第10回	ミンツバーグによる戦略に対しての見解，知識社会の中での経営戦略，シュンペーターのイノベーション，プロダクト・イノベーション，プロセス・イノベーション，クリステンセンのイノベーションのジレンマ，オープン・イノベーション，など。(2)	
第11回	戦略と組織と人的資源管理 (1)：戦略の策定と実行の主体や過程，HRサイクル，戦略的人的資源管理，制度や実践間の関係，人的資源開発，アウトソーシング，人材派遣，オフショアリング ，など。	
第12回	戦略と組織と人的資源管理 (2)：戦略の策定と実行の主体や過程，HRサイクル，戦略的人的資源管理，制度や実践間の関係，人的資源開発，アウトソーシング，人材派遣，オフショアリング ，など。	
第13回	多国籍企業の展開とその組織の特長(1)：海外直接投資の動向， 異質性による負債， 非市場戦略，OLI理論 ，グローバル型，インターナショナル型，マルチナショナル型，トランスナショナル型，メタナショナル型，の観点から。	
第14回	多国籍企業の展開とその組織の特長(2)：海外直接投資の動向， 異質性による負債， 非市場戦略，OLI理論 ，グローバル型，インターナショナル型，マルチナショナル型，トランスナショナル型，メタナショナル型，の観点から。	
第15回	多国籍企業の展開とその組織の特長(3)：海外直接投資の動向， 異質性による負債， 非市場戦略，OLI理論 ，グローバル型，インターナショナル型，マルチナショナル型，トランスナショナル型，メタナショナル型，の観点から。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数，などにおける状況。
レポート	30	構成，内容の妥当性や偏悪性，書き方，誤字脱字の度合，データ収集力，などの観点から評価する。なお、レポートへの評価はユニバから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を確認する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語はしない，などの受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・福沢康弘『テキスト 経営戦略論』中央経済社， 2021年。 ・三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン，2013年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．環境と組織の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	環境と組織の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	環境と組織の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	環境と組織の関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界は若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	環境と組織の関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界はほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	環境と組織の関係についての学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	２．経営戦略論の学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	経営戦略論の学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	経営戦略論の学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	経営戦略論の学説や研究の影響あるいは限界は若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	経営戦略論の学説や研究の影響あるいは限界はほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	経営戦略論の学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	3．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	１．企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業組織が直面している（直面した）問題を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に企業組織の問題点や解決を語っている。
態度	１．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	簿記論 A			授業番号	SM321	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	中規模程度以上の株式会社において行われる，複雑で高度な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を講義する。 内容としては，本科目と「簿記演習A」とのセットで日商簿記検定2級（商業簿記）の出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，中規模程度以上の株式会社の会計実務を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定2級（商業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【株式の発行、剰余金の配当と処分】 株式会社（中規模程度以上）の株式発行と剰余金の配当・処分についての会計処理を理解する。	
第2回	【合併と無形固定資産，法人税等と消費税】 株式会社（中規模程度以上）の合併と無形固定資産，法人税等と消費税についての会計処理を理解する。	
第3回	【商品売買等，手形と電子記録債権・債務，その他の債権譲渡】 株式会社（中規模程度以上）の商品売買等，手形と電子記録債権・債務，その他の債権譲渡についての会計処理を理解する。	
第4回	【銀行勘定調整表， 固定資産】 株式会社（中規模程度以上）の銀行勘定調整表， 固定資産についての会計処理を理解する。	
第5回	【リース取引，研究開発費とソフトウェア】 株式会社（中規模程度以上）のリース取引，研究開発費とソフトウェアについての会計処理を理解する。	
第6回	【引当金，外貨換算会計】 株式会社（中規模程度以上）の引当金，外貨換算会計についての会計処理を理解する。	
第7回	【税効果会計】 株式会社（中規模程度以上）の税効果会計についての会計処理を理解する。	
第8回	【収益認識の基準】 株式会社（中規模程度以上）の収益認識の基準についての会計処理を理解する。	
第9回	【本支店会計】 株式会社（中規模程度以上）の本支店会計についての会計処理を理解する。	
第10回	【連結会計（１）連結財務諸表とは】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。	
第11回	【連結会計（２）連結財務諸表の開始仕訳と2年目以降の連結会計】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。	
第12回	【連結会計（３）内部取引高と債権債務の相殺消去】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。	
第13回	【連結会計（４）未実現利益の消去】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。	
第14回	【製造業会計】 株式会社（中規模程度以上）の製造業会計についての会計処理を理解する。	
第15回	【小テスト】 これまでに学修した内容についての小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に準ずる問題をもとに，理解度を評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「簿記演習A」を同時に履修登録すること。 日商簿記3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として授業を進める。 日商簿記2級（商業簿記）の検定試験は難易度が高く，合格レベルに達するにはかなりの勉強量（350～500時間程度）が必要となる。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記2級商業簿記	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110027	1,650円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	1．日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	簿記演習A			授業番号	SM322	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	中規模程度以上の株式会社において行われる，複雑で高度な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を講義する。 内容としては，本科目と「簿記論A」とのセットで日商簿記検定2級（商業簿記）の出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，中規模程度以上の株式会社の会計実務を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定2級（商業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【株式の発行，剰余金の配当と処分】 株式会社（中規模程度以上）の株式発行と剰余金の配当・処分についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第2回	【合併と無形固定資産，法人税等と消費税】 株式会社（中規模程度以上）の合併と無形固定資産，法人税等と消費税についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第3回	【商品売買等，手形と電子記録債権・債務，その他の債権譲渡】 株式会社（中規模程度以上）の商品売買等，手形と電子記録債権・債務，その他の債権譲渡についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第4回	【銀行勘定調整表，固定資産】 株式会社（中規模程度以上）の銀行勘定調整表，固定資産についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第5回	【リース取引，研究開発費とソフトウェア】 株式会社（中規模程度以上）のリース取引，研究開発費とソフトウェアについての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第6回	【引当金，外貨換算会計】 株式会社（中規模程度以上）の引当金，外貨換算会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第7回	【税効果会計】 株式会社（中規模程度以上）の税効果会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第8回	【収益認識の基準】 株式会社（中規模程度以上）の収益認識の基準についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第9回	【本支店会計】 株式会社（中規模程度以上）の本支店会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第10回	【連結会計（１）連結財務諸表とは】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第11回	【連結会計（２）連結財務諸表の開始仕訳と2年目以降の連結会計】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第12回	【連結会計（３）内部取引高と債権債務の相殺消去】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第13回	【連結会計（４）未実現利益の消去】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第14回	【製造業会計】 株式会社（中規模程度以上）の製造業会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第15回	【小テストの解答解説】 「簿記論A」で行った小テストの解答解説を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に準ずる問題をもとに，理解度を評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「簿記論A」を同時に履修登録すること。 日商簿記3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として授業を進める。 日商簿記2級（商業簿記）の検定試験は難易度が高く，合格レベルに達するにはかなりの勉強量（350～500時間程度）が必要となる。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記2級商業簿記	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110027	1,650円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	1．日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	簿記論 B			授業番号	SM323	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	製造業における製品原価を計算するための一連の簿記手続きを講義する。 内容としては，本科目「簿記演習B」とのセットで日商簿記検定2級（工業簿記）の出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，製品の原価計算の仕組みと，原価を計算するための簿記手続きを理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定2級（工業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【工業簿記の基礎】 工業簿記（原価計算）の流れを理解する。	
第2回	【材料費】 材料費の分類と購入・消費についての会計処理を理解する。	
第3回	【労務費】 労務費の分類と賃金・給料についての会計処理を理解する。	
第4回	【経費】 経費の内訳と消費についての会計処理を理解する。	
第5回	【個別原価計算】 個別原価計算における製造直接費と製造間接費についての会計処理を理解する。	
第6回	【部門別個別原価計算】 製造間接費の部門配賦についての会計処理を理解する。	
第7回	【総合原価計算（１）】 総合原価計算における仕掛品についての会計処理を理解する。	
第8回	【総合原価計算（２）】 工程別・組別・等級別総合原価計算についての会計処理を理解する。	
第9回	【総合原価計算（３）】 総合原価計算における仕損と減損についての会計処理を理解する。	
第10回	【工業簿記における財務諸表】 工業簿記における損益計算書，貸借対照表，製造原価報告書の作成法を理解する。	
第11回	【本社工場会計】 本社と工場間の取引についての会計処理を理解する。	
第12回	【標準原価計算（１）】 標準原価計算による会計処理を理解する。	
第13回	【標準原価計算（２）】 標準原価計算における原価差異の会計処理を理解する。	
第14回	【直接原価計算】 損益分岐点分析について理解する。	
第15回	【小テスト】 これまで学修した内容についての小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に準ずる問題をもとに，理解度を評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「簿記演習B」を同時に履修登録すること。 日商簿記3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として授業を進める。 日商簿記2級（工業簿記）の検定試験は難易度が高く，合格レベルに達するにはかなりの勉強量（350～500時間程度）が必要となる。
授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記２級工業簿記	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110034	1,650円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	１．日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	簿記演習B			授業番号	SM324	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	製造業における製品原価を計算するための一連の簿記手続きを講義する。 内容としては，本科目「簿記演習B」とのセットで日商簿記検定2級（工業簿記）の出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，製品の原価計算の仕組みと，原価を計算するための簿記手続きを理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定2級（工業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【工業簿記の基礎】 工業簿記（原価計算）の流れを理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第2回	【材料費】 材料費の分類と購入・消費についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第3回	【労務費】 労務費の分類と賃金・給料についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第4回	【経費】 経費の内訳と消費についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第5回	【個別原価計算】 個別原価計算における製造直接費と製造間接費についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第6回	【部門別個別原価計算】 製造間接費の部門配賦についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第7回	【総合原価計算（１）】 総合原価計算における仕掛品についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第8回	【総合原価計算（２）】 工程別・組別・等級別総合原価計算についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第9回	【総合原価計算（３）】 総合原価計算における仕損と減損についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第10回	【工業簿記における財務諸表】 工業簿記における損益計算書，貸借対照表，製造原価報告書の作成法を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第11回	【本社工場会計】 本社と工場間の取引についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第12回	【標準原価計算（１）】 標準原価計算による会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第13回	【標準原価計算（２）】 標準原価計算における原価差異の会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第14回	【直接原価計算】 損益分岐点分析について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第15回	【小テストの解答解説】 「簿記論B」で行った小テストの解答解説を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に準ずる問題をもとに，理解度を評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「簿記論B」を同時に履修登録すること。 日商簿記3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として授業を進める。 日商簿記2級（工業簿記）の検定試験は難易度が高く，合格レベルに達するにはかなりの勉強量（350～500時間程度）が必要となる。
授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記２級工業簿記	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110034	1,650円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	１．日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	コンピュータ会計			授業番号	SM325	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	会計ソフト「弥生会計24」を使用して、企業経営における会計処理業務を模擬体験する。並行して、経済社会や組織運営における会計情報の役割について説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，企業経営における会計情報および経理部門の役割の理解がより深くなる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【会計業務とコンピュータ】 会計実務におけるコンピュータ利用の実態を理解する。	
第2回	【経済社会及び組織における会計の役割】 受託責任会計，意思決定会計，利害調整会計の視点から会計の役割・機能を理解する。	
第3回	【ディスクロージャー制度】 会計に関する法的規制の基礎を理解する。	
第4回	【有価証券報告書・アニュアルレポート・統合報告書など】 企業が開示している会計情報について，読み方の基礎を理解する。	
第5回	【小テスト（１）】 これまでの授業内容をもとに，わが国の会計制度についての小テストを行う。	
第6回	【複式簿記の基礎】 取引 → 仕訳 → 転記 → 試算表 → 精算表 → 財務諸表という，簿記の一連な流れを理解（復習）する。	
第7回	【初期設定（１）】 入力環境，事業所データ，消費税の情報などについて設定を行う。	
第8回	【初期設定（２）】 基本画面の使い方，勘定科目と補助科目などの設定を行う。	
第9回	【初期設定（３）】 部門，開始残高などの設定を行う。 また，設定環境の変更，不要データの削除方法などについて理解する。	
第10回	【入力作業（１）】 仕訳入力について，帳簿から入力する基本操作を理解する。	
第11回	【入力作業（２）】 仕訳入力について，伝票から入力する基本操作を理解する。	
第12回	【入力作業（３）】 仕訳入力について，伝票から入力する基本操作を理解する。	
第13回	【決算準備】 決算整理仕訳の入力方法を理解する。	
第14回	【決算作業】 決算書の作成と会計データの繰越処理について理解する。	
第15回	【小テスト（２）】 会計ソフト関する知識の小テストを口頭で行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト（50点×2回）	100	小テスト（１）：わが国の会計制度の理解度について50点満点で評価する。 小テスト（２）：会計ソフト操作の理解度を50点満点で評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日商簿記検定3級に合格しているか，同程度の知識があることが望ましい。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容にかかわる部分を読む。 週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて使う弥生会計 24	著者：嶋田知子／監修：前原東二	C&R研究所	9784863544260	2,574 円 (税込)
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．経済社会や企業における会計情報の役割を理解している	経済社会や企業における会計情報の役割を情報利用者との関係で理解し，追加的に必要な情報内容を提言できる	経済社会や企業における会計情報の役割を情報利用者との関係で理解している	経済社会や企業における会計情報の役割の基本的な事項を理解している	経済社会や企業における会計情報の役割の一部を理解している	経済社会や企業における会計情報の役割を理解していない
技能	1．弥生会計を用いて会計処理ができる	高度に複雑な取引の会計処理と決算手続ができる	複雑な取引の会計処理と決算手続ができる	基本的な取引の会計処理と決算手続ができる	基本的な取引の会計処理と決算手続が部分的にできる	基本的な取引の会計処理と決算手続ができない

科目名	対人関係の心理学			授業番号	SP111	サブタイトル			
教員	福森　麓								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	社会で生きていくためには，人との関わりを避けることはできない。職場では，上司・同僚との関わりは大切であり，場合によっては大きなストレスを引き起こすこともある。また，友人・恋人・家族などの対人関係を円滑に保つことも大切なことであり，できるだけトラブルは避けたいものである。本講義では，心理学の理論的な視点から，さまざまな対人関係について考察する。さらに，心理学的な考え方が実社会でどのように応用されているかについて解説する。								
到達目標	対人関係の社会心理学的な諸問題について心理学の理論に沿って正しく理解できるようになることを到達目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	心理学の種類とその内容について紹介する。また，心理学における「対人関係の心理学」の位置づけについて説明する。	
第2回	無意識の口癖やなだめ行動の必須であるしぐさについて心理学的に解説する。	
第3回	自己意識及び対人認知について解説する。	
第4回	対人魅力及び恋愛の心理について解説する。	
第5回	ある現象がなぜ起こったのか，その原因は何なのかという帰属過程について解説する。	
第6回	さまざまな態度の問題と態度変容のプロセスやテクニックについて解説する。	
第7回	集団の心理学及び援助行動について解説する。	
第8回	ストレスとサポートについて社会心理学的な視点で解説する。	
第9回	リーダーシップと社会的勢力，シャイネスと社会的スキルについて解説する。	
第10回	ファッションや化粧について心理学的視点で解説する。	
第11回	魅力的なキャッチコピーについて心理学的視点で解説する。	
第12回	営業や販売などビジネスにおける心理学の応用について解説する。	
第13回	コミュニケーションの心理，クレーマーの心理について解説する。	
第14回	夢について心理学的視点から解説する。	
第15回	アメリカを中心に近年注目されているポジティブ心理学（幸せな人生を過ごすための心理学）について解説する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80	期末にレポート課題を課す。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用せず，パワーポイントにより授業を進める。また，必要に応じて適宜プリントを配布する。なお，UNIPAにより，授業で使用した資料を配信する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．内容を正しく理解している。	内容に関して疑問や自分の意見を持っている。	内容を十分に理解できている。	内容をほぼ理解できている。	十分とは言えないが、ある程度は内容を理解できている。	全く理解できていない、または誤った理解をしている
知識・理解	2．知識を発展・応用することができる。	学んだ知識を発展させ、実場面で応用することができる。	実場面のさまざまな現象を心理学的に解釈し、説明できる。	実場面のさまざまな現象を心理学的視点でとらえることができる。	実場面のさまざまな現象を心理学的視点で把握できない。	心理学的な視点を理解していない、または心理学的視点を持たない。
態度	1．毎回の授業の復習レポートが正しく記述できている。	根拠を示して 論理的に展開し、ポイントを図表などでわかりやすく示している。	ポイントをおさえて正しく説明できている。	正しく説明できているが、問いに対する結論の根拠が不明瞭である。	理解できていない、または理解に誤りがある。	レポートしての体裁が整っていない、または提出できていない。

科目名	経済の心理学			授業番号	SP212	サブタイトル			
教員	板野　敬吾								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現代の経済学の主流である「伝統的経済学」では，消費者や企業は「自己の利益の最大化」を目指し，そのために「最も合理的な」選択をするという行動を前提として基本的な理論を構成している。経済政策は，このような伝統的経済学の理論をもとに私たちの経済活動を分析し，立案されている。 しかしながら，人は必ずしも「合理的な」行動をするとは限らない。また，人は常に自己の利益のためだけに行動するとは限らない。従って，伝統的経済理論は現実にある経済現象をすべて説明できるとは言えないとの批判があった。 ここで，近年，心理学と融合した新しい経済学，すなわち行動経済学が注目されることとなった。 本講義においては，伝統的経済理論では説明できない経済現象を対象として，新しい経済学の分野として注目されている行動経済学の考え方を紹介していく。 授業内容の内容としては，理論的な内容ではなく私たちの日常生活で経験する事例を中心にその内容を検証するものとする。								
到達目標	伝統的経済学ではこれまで説明できなかった経済現象を，人間心理の面等，新たな考え方により理解できるようになることを目標とする。 また，私たちの日常生活において，「合理的」でない活動をする理由を理解できるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	行動経済学とは 伝統的経済学と行動経済学	
第2回	無意識のシステムと意識下のシステム（１） 無意識な行動と考えた行動	
第3回	無意識のシステムと意識下のシステム（２） 無意識な行動と考えた行動の特徴	
第4回	お金がたまらないのはなぜか（１） 本能による行動による結果	
第5回	お金がたまらないのはなぜか（２） 損失と利得の受け止め方	
第6回	目先の誘惑に勝てないのはなぜか（１） 時間の長短による行動の違い	
第7回	目先の誘惑に勝てないのはなぜか（２） 頭の中にある家計簿	
第8回	なぜ成功できないのか（１） 確率と確率の認識の違い	
第9回	なぜ成功できないのか（２） 特長で判断するメリット・デメリット	
第10回	賢い選択ができないのはなぜか（１） 視野が狭いことの弊害	
第11回	賢い選択ができないのはなぜか（２） 長期的に見る意識	
第12回	ゲーム理論 個々の利得と全体の利得を判断する理論	
第13回	ゲーム理論と行動経済学 利他的行動と利己的行動	
第14回	行動経済学を生かす 行動経済学で分かった人間像	
第15回	行動経済学と政策 行動経済学とこれまでの政策	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	質問や授業参加等意欲的な態度を評価する。
レポート		
小テスト	30	単元毎に小テストを実施し，理解度を評価する。 次回の講義で結果の講評を述べる。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習として講義に先立ち該当する部分を読んでおくこと。 事後学修を必ず行い，理解の定着を図ること。
授業外学修	予習として週当たり2時間以上，復習として週当たり2時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
知識ゼロからの行動経済学入門	川西諭	幻冬舎	978-4-344-90312-8	1300
使用テキスト：自由記載	授業中，必要に応じプリントを配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
行動経済学入門	筒井義郎，佐々木俊一郎，山根承子，ｹﾞﾚｯｸ･ﾏﾙﾀﾞｳ	東洋経済新報社	978-4-492-31497-5	2400

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．人間の行動の原理を理解できている	多くの理論を十分理解できる	基本的な理論を十分理解できる	基本的な理論を理解できる	基本的な理論を十分に理解できない	基本的な理論を理解できない
知識・理解	２．伝統的経済学との違いを理解している	合理的行動と不合理行動の違いと理論的背景を十分理解している	合理的行動と不合理行動の違いを十分理解している	合理的行動と不合理行動違いを理解している	合理的行動と不合理行動違いを十分に理解していない	合理的行動と不合理行動違いを理解していない
思考・問題解決能力	１．不合理な人間行動を日常生活の中で理解できる	日常生活の中の多くの場面で不合理な人間行動を十分に説明できる	日常生活の中の場面で不合理な人間行動を十分に説明できる	日常生活の中の場面で不合理な人間行動を十分に説明できる	日常生活の中の場面で不合理な人間行動を十分に説明できない	日常生活の中の場面で不合理な人間行動を説明できない
思考・問題解決能力	２．理論を企業活動等に当てはめて理解することができる	理論を企業活動・政策に当てはめて説明することができる	理論を企業活動・政策に当てはめてある程度説明することができる	理論を一部の企業活動・政策に当てはめて説明することができる	理論を企業活動・政策に当てはめてあまり説明することができない	理論を企業活動・政策に当てはめて説明することができない
態度	１．授業に積極的に参加できる	質問等積極的に行い，疑問を解決し授業内容を理解している。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ，授業内容を理解している。	授業に出席し，授業内容を理解している。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解が十分ではないと認められる。	授業に出席し，課題等の提出はあるが，理解ができていないと認められる。

科目名	心の健康の心理学			授業番号	SP213	サブタイトル			
教員	虫明 修								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，心の健康について，さまざまな場面やライフサイクルにおけるストレスやそのマネジメント，心の不調や精神障害，心理療法などの心理学的側面から取り上げる。心の健康に関する基本的知識だけではなく，受講者自身が自己理解を深め，ストレスの対処能力を身に付ける機会とする。								
到達目標	１．心の健康に関する基本的な知識を修得する。 ２．自分自身の心の状態の理解とストレス対処能力を向上させる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	メンタルヘルスとは 「メンタルヘルス，心が健康であるとはどういうことか」「心の働き，精神現象」について理解する	
第2回	様々なストレスと危機 「ストレスとは何か，ストレスのメカニズムと各要因」「ストレスマネジメント」について理解する	
第3回	学校におけるストレス 「子どものストレスとその現れ方はどのようなものがあるか」「教育の義務と権利」「学校適応と適応課題，不登校/いじめ」「自己肯定感と自己効力感」について理解する	
第4回	職場におけるストレス 「職場・職業におけるストレスにはどのようなものがあるか」「ストレスチェック，過重労働とハラスメント」について理解する	
第5回	家庭におけるストレス 「価値観の広がり（個人，夫婦，家族）とストレスの関連」「育児ストレス研ぐ薬袋」について理解する	
第6回	精神症状，摂食障害 「代表的な精神症状にはどのようなものがあるか」「ボディイメージとやせ願望」「ダイエットと飢餓状態」「摂食障害」について理解する	
第7回	睡眠障害 「睡眠障害とは何か」「睡眠と病気」「眠気と睡眠のメカニズム」について理解する	
第8回	気分障害 「気分障害（うつ病）の主な症状はどのようなものがあるか」「気分障害の治療と休養」「考え方のクセを知る」「周囲の関わり方」について理解する	
第9回	不安障害 「強い不安の現れ方にはどのようなものがあるか」「不安障害に対する治療や心理的アプローチ」について理解する	
第10回	強迫性障害，ストレス障害 「強迫性障害とはどのようなものか，強迫観念と強迫行為」「心的外傷後ストレス障害（PTSD)と急性ストレス障害」「トラウマ」について理解する	
第11回	統合失調症 動画の視聴を通じて統合失調症を知り，「統合失調症の主な症状と治療，リハビリテーションと社会復帰・社会参加」について理解する	
第12回	依存症 動画視聴を通じて依存症の実態を知り，「様々な依存症とその弊害」「周囲の理解と関わり方」について理解する	
第13回	発達障害 「発達障害とは何か，“発達障害”と“発達”の捉え方」「社会的障壁としての“障害”と“合理的配慮”」「ユニバーサルデザイン」について理解する	
第14回	心理療法・カウンセリング((1) 「心理療法・カウンセリングとは何か」「精神分析の基本的概念を知り，精神分析視点からの自己理解」「来談者中心療法の基本概念」について理解する	
第15回	心理療法・カウンセリング（2）と全体のまとめ 「認知行動療法の基本概念と，認知行動療法を通じた自己理解」を理解する 全体のまとめとしてメンタルヘルス，こころの健康とは何か，こころの健康を維持，向上させていくために大切なことは何かを振り返る	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	40	各授業終了後（授業時間内）に小レポートの提出を求めます．授業を通じて感じたこと，自分なりに考えたこと，疑問や質問を小レポートにまとめます．小レポートについては次の授業で全体的な傾向にコメントし，質問や疑問が寄せられた場合にはそれらに回答します．
定期試験	60	授業で取り上げた内容について問います．評価の基準は，「授業の内容に沿っていること」とそれに対して「自分自身はどう考えるか」を記述できているかどうかで判断します．
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「心の健康」は全ての人に関わる大切な問題です．この授業では，「心の健康」に関する様々なテーマを取り上げますが，それらを通じて，「自分自身（わたし）のこころの健康を維持，向上させるにはどのようなことができるか」を一緒に考えていきましょう．
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用せず，プリントを配布し，授業を進める。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和3年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公認心理師，臨床心理士 精神科単科病院・心療内科（21年），スクールカウンセラー（23年），企業内メンタルヘルス部門勤務（7年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校や医療機関，企業等における心理臨床経験をもとに，幼児期から思春期，成人における様々な心の健康と諸問題について指導する。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	こころの健康に関する基本的な知識を修得する	学修した心の健康について，正確に理解し，述べることができる	学修した心の健康について，正確ではないが，ほぼ理解し，述べることができる	学修した心の健康について，大体述べることができる	学修した心の健康について，正確に述べることはできないが，自分の言葉で表現できる	学修した心の健康について表現することができない
思考・問題解決能力	自分自身の心の状態の理解とストレス対処能力を向上させる	自身の心の状態に目を向け、ストレス対処能力の向上に向けて，考察できる	自身の心の状態・ストレス状態とその対処方法について考察できる	自身の心の状態について考察できる	自身のストレス状態について考察できる	自身の心の状態やストレス対処方法について考察できない
態度	授業に積極的に参加できる	授業に出席し，小レポートに，授業の感想や質問などを，積極的に記述できる	授業に出席し，小レポートに授業の感想などを記述できる	授業に出席し，小レポートに授業の内容について記述できる	授業に出席し，小レポートを提出するが，理解が十分でない	授業に出席しているが，小レポートを提出していない

科目名	産業・ビジネスの心理学			授業番号	SP214	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	経営(学)と心理学はかなり緊密な関係にある。人はなぜ働くのか，働く意欲はいかにして引き出されるのか、良い職場環境を作るために何をしたらよいのか，優れたリーダーとはどんな特性を持っているのか，あるいは消費者や市場における動きが活発になるのはいかなるときか、などについての研究においては心理学が援用されることは少なくない。受講者は、本講義を通して学説の系譜やポイント、ならびに経営(学)と心理学の関係について多面的に説明できるようになるだけでなく、自身の行動や態度を振り返ることができる。								
到達目標	＊上司や同僚との関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊仕事と人の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊労働や製品・サービス市場において生じている（生じた）問題，ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成，ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	産業・ビジネスの心理学とは…経営(学)において心理学が重視されるようになった背景：成り行き的管理、官僚制組織、テイラー、フォード、科学的管理、現業(執行)と計画の分離、マニュアル、動作・時間研究、職務の細分化・専門化・標準化、など。	
第2回	ホーソン実験と人間関係論①：照明実験、継電器組立作業実験 、面接実験、バンク配線作業観察実験、帰属欲求の充足、メイヨー、レスリスバーガー、非公式組織、人間関係論の限界、など。	
第3回	ホーソン実験と人間関係論②：照明実験、継電器組立作業実験 、面接実験、バンク配線作業観察実験、帰属欲求の充足、メイヨー、レスリスバーガー、非公式組織、人間関係論の限界、など。	
第4回	モチベーション研究における内容説①：内容説、マズローの欲求階層説、X理論とY理論、二要因理論、職務充実論、未成熟・成熟理論、システム4、職務拡大と参加的リーダーシップ、など。	
第5回	モチベーション研究における内容説②：内容説、マズローの欲求階層説、X理論とY理論、二要因理論、職務充実論、未成熟・成熟理論、システム4、職務拡大と参加的リーダーシップ、など。	
第6回	モチベーション研究における過程説①：公平理論、ブルームの期待理論、ポーター＆ローラーの期待理論、職務再設計論、モチベーション×能力、など。	
第7回	モチベーション研究における過程説②：公平理論、ブルームの期待理論、ポーター＆ローラーの期待理論、職務再設計論、モチベーション×能力、など。	
第8回	組織開発論の系譜と展開①：レヴィンの場の理論、組織開発と人材開発の違い、ベッカード 、シャイン の定義、組織文化との関係、人事との関係、診断型と対話型など。	
第9回	組織開発論の系譜と展開②：レヴィンの場の理論、組織開発と人材開発の違い、ベッカード 、シャイン の定義、組織文化との関係、人事との関係、診断型と対話型、など。	
第10回	リーダーシップ研究①：特性理論、行動理論、条件適合理論、リーダーシップ交換・交流理論、 変革型リーダーシップ理論、 倫理型リーダーシップ理論、など。	
第11回	リーダーシップ研究②：特性理論、行動理論、条件適合理論、リーダーシップ交換・交流理論、 変革型リーダーシップ理論、 倫理型リーダーシップ理論、など。	
第12回	組織と健康①：労働負荷、ストレス、ストレッサー、過労、疲労、労働災害、会社人間、ワーク・ライフ・バランス、組織の論理と個人の論理の関係、など。	
第13回	組織と健康②：労働負荷、ストレス、ストレッサー、過労、疲労、労働災害、会社人間、ワーク・ライフ・バランス、組織の論理と個人の論理の関係、など。	
第14回	市場と心理①：レシプロシティー、アンカリング、ピグマリオン効果、意思決定と心理、恐怖指数（VIX指数）、など。	
第15回	市場と心理②：レシプロシティー、アンカリング、ピグマリオン効果、意思決定と心理学、恐怖指数（VIX指数）、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
レポート	30	構成，内容の妥当性や価憑性、書き方、誤字脱字の度合、データ収集力，などの観点から評価する。レポートへの評価はユニバから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。単元毎の主要なポイントの理解を評価する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語はしない，などの受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜プリントを配布する。テキストは使用せず，プリントや板書等により授業を進める。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	山口 裕幸, 髙橋 潔, 芳賀 繁, 竹村 和久 (著)『経営とワークライフに生かそう! 産業・組織心理学 改訂版 』有斐閣アルマ,2020年。 幸田 達郎 (著)『基礎から学ぶ産業・組織心理学』勁草書房,2020年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．上司や同僚との関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界は若干認識不足であるが、上司や同僚との関係についての学説や研究を概ね適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界はほとんど言及されていないが、上司や同僚との関係についての学説や研究を概ね適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	2．仕事と人の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界は若干認識不足であるが、仕事と人の関係についての学説や研究を概ね適切に説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界はほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	3．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	1．労働や製品・サービス市場において生じている（生じた）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	労働や製品・サービス市場において生じている（生じた）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	労働や製品・サービス市場において生じている（生じた）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、労働や製品・サービス市場において生じている（生じた）問題を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、労働や製品・サービス市場において生じている（生じた）問題を概ね客観的に説明できる。	労働や製品・サービス市場において生じている（生じた）問題を全く説明できない。あるいは労働や製品・サービス市場において生じている（生じた）問題点や解決を主観的または直観的に語っている。
態度	1．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	ゼミナールA シラバス用			授業番号	SS411	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明、河田　健二、平井　安久、倉田　致知、板野　敬吾、古谷　俊爾、脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	ゼミナールは，教員の専門領域を参考に，学生自身が教員を選び，所属した教員のもとで指導を受けながら研究を行うものである。１年次の後期にゼミのしおりを配布し，希望調査を行う。 ゼミの内容は教員によって異なるため，ゼミ決定までに十分に希望教員とコミュニケーションをとり，納得した上で，ゼミナールを選択することが望ましい。 ゼミナールを通して，専門的な学修はもちろん，個別の指導や助言を受けることで，社会に貢献できる人材となるべく知・情・意の全てにおいて成長することを目的とする。								
到達目標	大学の基礎教育や専門分野で学んだ学修成果を総合的実践の場で活用することができるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞・＜思考・問題解決能力＞・＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	【授業計画 自由記載】 第1回　各ゼミでのオリエンテーション 第2回～13回　ゼミ担当教員の指導による学修・研究 第14回～15回　研究成果報告会								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	卒業研究または作品により評価を行う。

評価の方法：自由記載	評価の方法は担当教員によって異なる。 卒業研究の成果は，論文形式だけではなく，作品でも良いこととする。
受講の心得	
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）最終的な卒業研究として，自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜指示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	古谷：システムエンジニア，板野：岡山労働局
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	経験をいかしたソフトウェア開発ほか。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．記述統計に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	2．種々の確率分布を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	3．予測に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	1．具体的事例で問題点に気づいている	十分気づいている	かなり気づいている	平均的に気づいている	部分的に気づいている	不十分な気づきである
思考・問題解決能力	2．議論すべき点を理解できる	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	3．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	1．回帰分析を具体的に適用できる	十分適用できる	かなり適用できる	基本的な形で適用できる	補助があれば適用できる	適用できない
技能	2．統計プログラムを適切に使うことができる	十分使用できる	かなり使用できる	基本的な形で使用できる	補助があれば使用できる	使用できない
技能	3．推定・検定の具体的処理ができる	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	部分的にできる	不十分である
態度	1．日常のデータを分析する姿勢ができている	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	部分的にできる	不十分である

科目名	ゼミナールB シラバス用			授業番号	SS412	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明、河田　健二、平井　安久、倉田　致知、板野　敬吾、古谷　俊雨、脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	ゼミナールAに引き続き，同一ゼミ担当教員のもとで，さらに研究を深める。 原則として，ゼミナールAと同一の担当教員とするが，特別な事情がある場合は，十分に相談をしたうえで，変更をみとめる場合がある。								
到達目標	自ら課題を設定し，専門的な学修を通して，課題解決を行うことができること，また，課題解決のプロセスにおいて，自分の能力の問題に気づき，能力を高める行動ができることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞・＜思考・問題解決能力＞・＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	【授業計画 自由記載】 第1回～第13回　各ゼミの担当教員の指導のもとでの学修・研究 第14回～第15回　ゼミナールの研究成果発表会								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	卒業研究または作品により評価を行う。

評価の方法：自由記載	評価の方法は担当教員によって異なる。 卒業研究の成果は，論文形式だけではなく，作品でも良いこととする。
受講の心得	
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）最終的な卒業研究として，自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜指示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	古谷：システムエンジニア，板野：岡山労働局
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	経験をいかしたソフトウェア開発ほか。

ルーブリック

評価の基準 （ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．記述統計に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	2．種々の確率分布を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	3．予測に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	1．具体的事例で問題点に気づいている	十分気づいている	かなり気づいている	平均的に気づいている	部分的に気づいている	不十分な気づきである
思考・問題解決能力	2．議論すべき点を理解できる	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	3．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	1．クロス表の検定を具体的に適用できる	十分適用できる	かなり適用できる	基本的な形で適用できる	補助があれば適用できる	適用できない
技能	2．多変量解析を具体的に使うことができる	十分使用できる	かなり使用できる	基本的な形で使用できる	補助があれば使用できる	使用できない
技能	3．推定・検定の具体的処理ができる	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	部分的にできる	不十分である
態度	1．社会調査に関する問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない